

# 履修ガイド2018

履修の手引き・シラバス

文学部



藤女子大学

# 目 次

※科目ページは  
・文学部学科科目…51 P～  
・課程科目…705 P～  
の教育課程表の中に目次があります

はじめに ～文学部のカリキュラムについて～	3
英語文化学科 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	4
日本語・日本文学科 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	6
文化総合学科 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	8
<b>I. 文学部 学科科目</b>	
・文学部学科課程履修要項	11
《2018 年度》	
・履修の手引き	27
1 大学共通科目	29
2 外国語科目	29
3 他学科からの選択必修〈2017 年度以前入学生〉	30
4 英語文化学科専門科目	30
5 日本語・日本文学科専門科目	35
6 文化総合学科専門科目	40
・教育課程表	51
大学共通科目	53
教養科目	53
外国語科目	55
文学部オープン科目	58
英語文化学科専門科目	59
日本語・日本文学科専門科目	66
文化総合学科専門科目	70
・シラバス	97
大学教養科目	99
外国語科目	139
留学生対象科目	223
英語文化学科専門科目	229
日本語・日本文学科専門科目	267
文化総合学科専門科目	291

## 《2017 年度》

・履修の手引き	329
1 大学共通科目	331
2 外国語科目	331
3 他学科からの選択必修	332
4 英語文化学科専門科目	332
5 日本語・日本文学科専門科目	338
6 文化総合学科専門科目	342
・教育課程表	75
大学共通科目	77
外国語科目	78
英語文化学科専門科目	81
日本語・日本文学科専門科目	86
文化総合学科専門科目	90
・シラバス	347
大学共通科目	347
大学共通科目読替表	348
外国語科目	355
外国語科目読替表	356
英語文化学科専門科目	389
英語文化学科専門読替表	390
日本語・日本文学科専門科目	491
日本語・日本文学科専門科目読替表	492
文化総合学科専門科目	569
文化総合学科専門科目読替表	570

## II. 課程科目

・履修の手引き	681
教職課程	683
図書館情報学課程	697
日本語教員養成課程	701
・教育課程表	705
・シラバス	719
教職課程（教職に関する科目など）	721
図書館情報学課程（司書・司書教諭に関する科目）	743
日本語教員養成課程（日本語教員養成課程に関する科目）	759

## はじめに ～文学部のカリキュラムについて～

文学部では、2018年度より新しいカリキュラムを導入し、より専門性を高めた教育をスタートさせることになりました。ついては、しばらくの間、2017年度までに入学した学生向けと2018年度以降に入学した学生向けの2種類のカリキュラムが並行して実施されることとなります。したがって、本ガイドにも「2018年度入学生」「2017年度以前入学生」の両方の説明が入っています。対象となる学年等をよく確認のうえで活用していただくようお願いします。

〈2017年度以前入学生向け〉(2017年度『履修ガイド』より)

文学部のカリキュラムは、英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科とも、学科必修単位数がかなり低く設定されています。それは、各学科に所属する学生が出来るだけ他学科の科目も履修することで、学問的にあまり閉鎖的にならないように、幅広く、相対的な視野を獲得出来るように、との考えからです(オープン・カリキュラム制)。どの学科に所属していても、3学科の科目は一部を除き原則としてどれも履修可能となっています。時間割と相談して、意欲的に他学科科目に挑戦してみてください。

〈2018年度入学生向け〉

「教養科目」を充実させ、幅広い分野の全学的基盤教育を実施することで、「藤の学生」としてふさわしい教養を身につける、という大学全体の方針のもと、文学部では、学科の学びをより専門的に追究できるよう、「専修」を軸にした新しいカリキュラムを導入します。

まず1年次に幅広い教養を身につけ、2年次以降は主として「専修」の枠組みを通して、本格的な専門教育へと導き、段階的に学問探究を積み上げ、卒業後も見据えて、広汎に活用できる思考力・表現力・コミュニケーション力の養成の支援に努めます。

上記のカリキュラム改正に伴って、以下のような変更があります。(2017年度以前入学生には、今回の改正に関わらず従来のカリキュラムが適用されます。)

- ・一人ひとりの学生が自分の目的にかなった学びの道筋を見つけやすくするために、体系化された学びの専門領域を学科内の6専修と学部内オープンの1専修の計7専修としたカリキュラムに再構築します。
- ・また、各専修の枠を越えていろいろな科目を学びながら、徐々に興味のある専修や専門に絞っていけるようなカリキュラムになっています。
- ・これらのカリキュラムの一連の変更に伴い、従来のクラスター制は廃止して新たな制度の下での教育をスタートします。



## 英語文化学科 ディプロマ・ポリシー

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 英語圏の言語文化の社会的・歴史的な諸相について知見を深め、それを母語への関心へと繋げるとともに、広く言語文化の基層にある問題を多角的、分析的に捉え、考えることができる。(知識・理解 分析的思考)
2. 国際的なコミュニケーション手段としての英語運用能力を身につけ、多元化する世界や自国の諸問題に他と協働して対処していくことができる。(コミュニケーション力 社会性)
3. 人文科学の文脈における普遍的問題についての理解に基づき、各専修において獲得した専門的知識を応用して、現実社会において自らが取り組むべき課題を発見、分析し、その見解を批判的、論理的な手続きに沿って展開し、日英両言語において発信することができる。(問題の発見 批判的思考 表現力)
4. 文学・文化専修においては、英語圏の文学と文化についての関心に基づく独自の研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)
5. 言語・コミュニケーション専修においては、英語圏を中心に言語とコミュニケーションについての関心に基づく独自の研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)

## 英語文化学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー（以下 DP という。）を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系的および順次性)
  - ・ 1年次に大学共通の教養科目、1・2年次に学科基礎科目、第二外国語科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
  - ・ 1・2年次に英語力を集中的に身につける基礎科目を開設し、併せて2年次からは実践科目を配置することにより、1年次から4年次を通して英語力の向上を図る。
  - ・ 1年次から講義形式と演習形式の専門科目を段階性をもって体系的に配置する。
  - ・ 4年次の卒業研究（論文）を必修とし、学修の総合的成果として位置付ける。
2. (教養・外国語教育)
  - ・ DP 各項目の基盤形成に資するために、1年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
  - ・ 英語以外の外国語科目を1・2年次に配し、英語文化以外の言語文化への関心を促す。
3. (専門教育)
  - ・ 「文学・文化」「言語・コミュニケーション」の2専修を設け、それぞれの分野の授業を通して専門性を高める。
  - ・ 4年間を通して演習形式の科目を段階的に設置し、専門性を高めると同時に、自ら分析的・論理的に探求し、論文を仕上げるプロセスを学ぶ。
  - ・ 講義科目は1年次から、講読科目は2年次から段階的に配置し、自己の関心や知識の深まりに応じた履修を促し、一連の演習科目を通して培う思考力、批判力、表現力にさらなる広がりを実効性を与える。
4. (キャリア教育)
  - ・ 卒業後を見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1年次からキャリア教育科目を必修とする。
  - ・ 英語通訳・翻訳技術、プレゼンテーション力を身につける授業や児童英語プログラムなど、キャリアへとつながる科目群を1・2年次から開設する。
5. (学修の方法と評価)
  - ・ DP の達成に資するべく、講義・演習の別に関わらず能動的学修の要素を取り入れた授業を提供し、完成段階の卒業研究（論文）へと効果的に導く。
  - ・ 卒業研究（論文）の評価基準を設け、厳正にこれを適用して評価することにより、総合的学修成果の指標とする。

カリキュラム・マップ（略）

〈2017 年度以前入学生〉

## 英語文化学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 実践的英語力を身につけ、英語を生かして相互のコミュニケーションを円滑にし、事実上世界のコミュニケーション言語（Lingua Franca）になった英語のスペシャリストとして、様々な分野で活躍できる。  
.....(コミュニケーション能力)
2. 本学科のモットーである“English for academic purposes”の理念に基づき、英語を使って、文学、言語学など専門分野への知識を豊かにし、国際的な視点で専門的な知識を追求する力を身につけ、幅広い分野で活躍できる。.....(知識・理解)
3. 英語力・専門的知識を生かして、世界の地域、民族、文化の理解を深め、世界・日本の課題を創造的に発見し、追求できる。さらに、課題や解決法を分析的手法と論理的思考によって表現し、外の世界に発信できる主体性と能力を身につける。.....(問題発見・解決能力、思考・表現力)

## 英語文化学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. 英語力を集中的に身につける少人数制英語教育プログラムである「学科基礎科目」を1、2年生に必修として開設するとともに、多彩な英語科目を「実践英語科目」として提供し、4年間英語力を伸ばし続けることを可能にする。
2. 「文学」、「総合」、「英語学」、「コミュニケーション」の4つの系の学問分野を学ぶために多種多様な講義・講読科目を段階的に配置し、英語圏を中心に、言語・文化・社会・歴史に関わる広範な知識を身につけ、探究することができるようにする。
3. 1、2年生対象の「基礎演習」、3、4年生対象の「演習」、4年生対象の「卒業研究演習」を設置し、文献を講読し、分野特有の研究手法に学びながら、各自が課題を見つけ、分析的、論理的に探究し、論文として仕上げるプロセスを学ぶことができる。また、自分の考えを口頭で表現する発表の機会を通して、コミュニケーション能力を養成する。
4. 英語で書かれた専門書をテキストとする授業や、英語で行う専門授業を提供することにより、英語学習が専門教育と有機的につながり、専門授業が英語学習の動機付けとなるとともに、身につけた英語力がさらに高度な専門分野の研究へと道を開くという相乗効果を生むように、科目を配置する。
5. 専門分野の知識と各自の課題の探究の集大成として、4年生全員に5000語以上の英語卒業研究論文を書くことを義務づける。1年生から3年生向けに毎年英語で書くことを学ぶ授業を必修科目として開設し、4年生には卒論の英語の個別指導の授業を提供する。また演習、特に「卒業研究演習」の個別指導を通して、各自が自分の研究テーマを理論的に展開し、論文を完成できるようにする。
6. 「実践英語科目」の中に TOEFL や TOEIC 対策授業や、通訳・翻訳技術を学べる授業、児童英語に関する授業などを置き、留学や将来のキャリアのための実践的英語能力を身につける科目も提供し、幅広い学生の関心に応える。
7. 中学英語、高校英語の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員の育成に寄与する。

〈2018 年度入学生〉

## 日本語・日本文学科 ディプロマ・ポリシー

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 日本の言語・文学・思想・文化に関する学びを通して、情報を収集し、読解・分析する力を身に付けることができる。(情報リテラシー)
2. 情報リテラシーを基盤に、広く日本の文化・社会の歴史的かつ現在の諸問題に取り組むことを通して、論理的かつ柔軟な思考と問題発見・解決力を身に付けることができる。(思考力)
3. 学修成果を日本語によつて的確に論述することを通して、広く他に自己の見解を説得力をもって主張する力を身に付けることができる。(表現力・コミュニケーション力)
4. 日本語・日本文学専修においては、日本語と日本文学に関する独自の関心に応じた研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)
5. 日本文化専修においては、日本文化に関する独自の関心に応じた研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)

## 日本語・日本文学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー（以下 DP という。）を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系的および順次性)
  - ・ 1 年次に大学共通の教養科目・外国語科目および学科の基礎科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
  - ・ 2 年次以降には講義形式と演習形式の専門科目を段階性をもって体系的に配置する。
  - ・ 4 年次の卒業研究（論文）を必修とし、学科における学修の総合的成果として位置付ける。
2. (教養・外国語教育)
  - ・ DP 各項目の基盤形成に資するために、1 年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
  - ・ 異文化理解の一環として外国語科目を主として 1・2 年次に配し、個々の関心に応じた柔軟な履修を促す。
3. (専門教育)
  - ・ 1 年次の講義形式の基礎科目を基盤にして、2 年次以降は、日本語・日本文学と日本文化の 2 専修を設け、それぞれの時代・分野を網羅した授業を通して専門性を高める。
  - ・ 2 年時以降の各学年に配置する演習形式の科目を学科の学びの根幹として、DP 各項目を基礎段階から発展段階へと高める。
  - ・ 2 年次以降の講義形式の科目は、自己の関心・知識の深まりに応じた履修を促し、根幹の学修に対する補完とする。
4. (キャリア教育)
  - ・ 卒業後をも見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1 年次からキャリア教育科目を必修とする。
  - ・ DP 各項目の汎用性を高めるために、教員養成、資格支援、専門研究、キャリア・リテラシーに関する科目群を 3 年次から開設する。
5. (学修の方法と評価)
  - ・ DP の達成に資するべく、講義・演習の別に関わらず能動的学修の要素を取り入れた授業を提供し、完成段階の卒業研究（論文）へと効果的に導く。
  - ・ 卒業研究（論文）の評価基準を設け、厳正にこれを適用して評価することにより、総合的学修成果の指標とする。

カリキュラム・マップ（略）

〈2017 年度以前入学生〉

## 日本語・日本文学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

母語としての日本語を用いながら、日本語、日本文学、および歴史・文化を対象化し、情報化社会の諸問題をみずから発見し解決してゆくために、以下の汎用的能力を身につける。

1. 日本語学・日本文学・思想、および漢文学に関する文献・資料を正確に読みこなす能力を得る。また、それぞれの研究分野における先端的知識を調査・収集し、理解することができる。…(情報リテラシー)
2. 日本語学・日本文学・思想、および漢文学の学習で得た読解力と知識をもとに、広く日本の文化・社会の歴史的かつ現在の諸問題に取り組み、批評することができる。  
.....(思考力)
3. 学習成果を日本語によって論理的かつ柔軟な思考に基づき論述することができる。また、自己の見解を、日本の文化・社会の諸問題との関連において正確に理解把握し、広く他に主張することができる。  
.....(表現力)

## 日本語・日本文学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. 古代から現代に至るすべての時代を網羅して学ぶことができるよう科目をきめ細やかに多数開設するとともに、かつ全体的な視野を獲得するための概論や、歴史的な流れを把握することを可能にする文学史の授業を設け、学びの機会を十分に提供する。
2. 初年次教育として、大学における学びや研究の基本的姿勢、日本語学・日本文学・漢文学の基礎的知識を身に付けるための授業を「講義Ⅰ」として多数 Semester 開講する。また一定の分野に偏ることのない履修を促すよう、ゆるやかな選択必修枠を設ける。さらに、古典の基礎や日本語の文章指導に関する授業を設ける。
3. 個々の学生の興味・関心に応じて研究を繰り広げ深めていけるよう、専門的内容について学ぶ講義科目（「講義Ⅱ」および「日本文化論」）については、受講対象学年の制限を極力なくし、自由な学習環境を整える。
4. 4年次必修の「卒業研究」に向けて段階的に取り組んでいけるよう、2年次から学年進行ごとに学科専門に関わる全専任教員担当による演習（ゼミ）形式の少人数授業を必修として配置し、あわせてコミュニケーション力やプレゼンテーション力等の汎用的能力や実践力の養成につとめる。
5. 各学科専門科目において、日本語で書かれた種々のテキストと向き合うことを通じて、正確な読解力、論理的かつ柔軟な思考力、的確な表現力の向上をめざし、あわせて「日本」を対象化する能力を養成する。その総合的成果として、卒業研究（論文）を必修として課す。
6. 国語科・書道科の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員の育成に寄与する。



〈2018 年度入学生〉

## 文化総合学科 ディプロマ・ポリシー

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 人びととの交流・協働において、多様な言語・文化を深く理解し、情報を的確に受容し、発信することができる。(コミュニケーション力)
2. 専門的な知識と研究方法を身につけ、領域横断的な課題を自ら発見し、情報や知識を論理的に分析し、総合することができる。(総合的理解力)
3. 多種多様な人間社会の在りようを研究する現代社会専修と、その背景の理解をめざす歴史・思想専修を2つの柱として、多角的な視野のもとで問題解決に必要な道筋を創造的に構想することができる。(創造的思考力)
4. 現代社会専修においては、現代の多様な社会と文化について、法学・心理学・文化人類学・国際関係論・異文化コミュニケーション論などの諸研究を通して多面的に学び、独自の関心に応じた研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)
5. 歴史・思想専修においては、現代の社会と文化をその成り立ちから理解するために、背景や基盤となっている歴史や思想について学び、独自の関心に応じた研究を推進し成果をまとめることができる。(専門性)

## 文化総合学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシー（以下 DP という。）を実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. (カリキュラムの体系的および順次性)
  - ・ 1年次に大学共通の教養科目・外国語科目および学科の基礎演習と入門科目を通して大学における学修の基盤形成を図る。
  - ・ 2年次以降には専門科目（特講科目および演習科目）を段階性をもって体系的に配置する。
  - ・ 4年次の卒業研究（論文）を必修とし、学科における学修の総合的成果として位置付ける。
2. (教養・外国語教育)
  - ・ DP 各項目の基盤形成に資するために、1年次に全学的な幅広い教養科目を偏りなく履修することにより広い視野や多角的な視点の獲得を促す。
  - ・ 異文化理解の一環として外国語科目を主として1・2年次に配し、個々の関心に応じた柔軟な履修を促す。
3. (専門教育)
  - ・ 1年次の基礎演習と入門科目を基盤にして、2年次以降は、現代社会と歴史・思想の2専修を設け、これらを意識させながら、自分の関心の中心を明確にさせる。
  - ・ 3年次以降は、各自の関心にあわせて学問分野と研究テーマを絞らせ、卒業研究（論文）執筆の準備を進めさせる。
  - ・ 4年次は、資料・史料の分析および教員との対話を繰り返しながら、卒業研究（論文）を完成させる。
4. (キャリア教育)
  - ・ 卒業後を見据え、学科の学びとキャリア形成との関わりを認識するために、1年次からキャリア教育科目を必修とする。
  - ・ 1年次からの演習を通して、フィールドワーク・アンケート調査や情報の収集・分析とその報告など、社会人に必要な実践的対応力を身につけさせる。
5. (学修の方法と評価)
  - ・ 講義・演習の別に拘わらず、双方向的な学修を通じて人格的涵養を図り、専門知識と研究に対する真摯な態度を身につけさせる。
  - ・ 卒業研究（論文）は複数教員による面接試問を含む厳正な評価を行い、優秀論文については『文化総合学科卒業研究論文・要旨集』に全文を掲載する。

カリキュラム・マップ（略）

〈2017 年度以前入学生〉

## 文化総合学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学科の教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 人々との交流・協働において、多様な言語・文化を深く理解し、情報を的確に受容し、発信することができる。  
.....(コミュニケーション力)
2. 異文化コミュニケーション、社会と制度、歴史、思想系列などを主要な柱として多角的な視野のもとで問題解決に必要な道筋を創造的に構想することができる。  
.....(創造的思考力)
3. 専門的な知識と研究方法を身につけ、領域横断的な課題を自ら発見し、情報や知識を論理的に分析し、総合することができる。  
.....(総合的理解力)

## 文化総合学科 カリキュラム・ポリシー

本学科の教育目的に基づきディプロマ・ポリシーを実現するために、次の通りカリキュラム・ポリシーを定め、その教育課程の編成をカリキュラム・マップによって示す。

1. 現代社会で求められる、人々と交流し協働する力の習得を可能とするため、「異文化コミュニケーション」、「社会と制度」、「歴史」、「思想」の4系列を置き、異文化理解、欧米やアジア諸国の文化、国際関係論、憲法・民法、心理学、西洋史、日本史、東洋史、哲学、倫理学、諸宗教の文化や神話など、多様なテーマに関する科目を配置する。
2. 各系列の講義科目を、「入門科目」と「特講科目」によって構成し、基礎から専門へと段階的に知識を習得できるよう配慮する。また、選択科目制をとることで、それぞれの領域における専門知識の習得だけでなく、各領域の横断的な学習・研究を可能にする。
3. 1年次対象の「基礎演習」、2・3年次対象の「演習」、4年次対象の「卒業研究演習」といった1年次から4年次までの専任教員の担当する演習の履修を義務づけることで、論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力を段階的に習得させる。
4. 初年次教育としての「基礎演習」では、大学での学習・研究にかかわる基礎的知識の習得を可能とする。また、様々な研究領域にふれられるよう、前期と後期において異なる「基礎演習」の履修を義務づける。
5. 2・3年次対象の「演習」については、領域横断的な学習・研究への考慮から、複数の「演習」の同時履修を可能にする。
6. 4年次対象の「卒業研究演習」は、質の高い卒業論文の執筆に特化した演習であり、4年間にわたる学習・研究の集大成と、さらに大学院進学に耐えうる研究能力の養成を目的とする。
7. 中学社会、高校地歴および公民の教員免許の取得に関する授業科目を配置し、中学校・高等学校の教員養成に寄与する。



# 文学部学科課程履修要項





# 授業科目の履修要項

## 1 卒業の要件

本学では学生が卒業の認定を受けるためには、下記の条件を満たす必要がある。

### (1) 所定単位の修得

#### 英語文化学科

#### 〈2018年度入学生に適用〉

英語文化学科の学生は、以下の表に示すとおり単位を修得しなければならない。

授業科目 区分 単位区分	大学共通科目		英語文化学科 専門科目	日本語・日本文学科 専門科目	文化総合学科 専門科目	文学部 オープン科目
	教養科目	外国語科目				
必修単位	3単位		28単位 <sup>(*)1</sup>			
選択必修単位	8単位以上	8単位以上	32単位以上 <sup>(*)2</sup>			
選択単位	11単位以上					
自由選択単位	34単位以上					
卒業必要単位 数合計	124単位以上					

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

・外国語科目は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。

(\*)1 英語文化学科の必修科目は、区分「学科基礎科目」の18単位、区分「卒業研究関連科目」の「Academic Writing I」「Academic Writing II」の各1単位及び「卒業研究演習」「卒業研究」の各4単位。「卒業研究演習」「卒業研究」については、キリスト教学専修を選択した場合は、文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位で充当可。

(\*)2 英語文化学科の選択必修科目は、区分「専門講読科目」のうち選択する専修の2単位を含む4単位以上、区分「基礎演習科目」のうち文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ2単位以上、区分「講義科目」のうち選択する専修から8単位、それ以外の専修から4単位以上および共通から2単位以上、区分「実践英語科目・イングリッシュ・スキルズ」のうち「English Discussion & Presentation c~I」の中から2単位以上、区分「演習科目」のうち、選択する専修から8単位以上。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「専門講読科目」から4単位以上、区分「基礎演習科目」のうち文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ2単位以上、区分「講義科目」については文学・文化専修と言語・コミュニケーション専修からそれぞれ4単位以上、共通から2単位以上、区分「実践英語科目・イングリッシュ・スキルズ」のうち「English Discussion & Presentation c~I」の中から2単位以上、区分「演習科目」から4単位以上、合計24単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

※協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

## 〈2015～2017年度入学生に適用〉

英語文化学科の学生は、大学共通科目必修5単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、英語文化学科専門科目の中から必修26単位、選択必修26単位を含む52単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分	大学共通科目	外国語科目	英語文化学科専門科目	日本語・日本文 学科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	5単位		26単位		
選択必修単位		* 8単位 以上	26単位以上 (文学系、総合研究系を専攻する場合、 これに6単位が加わる。) (英語学系、コミュニケーション系 を専攻する場合、これに4単位が加 わる。)	* 4単位以上	
選択単位					
自由選択単位	55単位以上				
卒業必要 単位数合計	124単位以上				

\*ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。

\*他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充当すること。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

※協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

## 日本語・日本文学科

## 〈2018年度入学生に適用〉

日本語・日本文学科の学生は、以下の表に示すとおり単位を修得しなければならない。

授業科目 区分	大学共通科目		日本語・日本文 学科専門科目	英語文化学科 専門科目	文化総合学 科専門科目	文学部 オープン科目
	教養科目	外国語科目				
必修単位	3単位		8単位 <sup>(*)1</sup>			
選択必修単位	8単位以上	8単位以上	32単位以上 <sup>(*)2</sup>			
選択単位	11単位以上		8単位以上			
自由選択単位	46単位以上					
卒業必要単位 数合計	124単位以上					

・教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」「社会と文化」「歴史・思想」から2単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から2単位以上選択必修。

・外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の中から2外国語各4単位、合計8単位以上選択必修。

・外国語（英語）の場合は、英語文化学科「講読科目」で充当可。

(\*1) 日本語・日本文学科の必修科目は、「卒業研究ゼミⅡ」「卒業研究」の各4単位。キリスト教学専修を選択した場合は、文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位で充当可。

(\*2) 日本語・日本文学科専門科目の選択必修科目は、区分「共通」から12単位以上、選択した専修から16単位以上、選択しない専修の講義科目から4単位以上。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「共通」から8単位以上、日本語・日本文学専修と日本文化専修の講義科目からそれぞれ4単位以上、合計16単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

※区分「学科共通プログラム科目」は6単位まで自由選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。

## 〈2015～2017 年度入学生に適用〉

日本語・日本文学科の学生は、大学共通科目必修5単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、日本語・日本文学科専門科目の中から必修8単位、選択必修18単位、選択20単位（書道Ⅰ～Ⅳを除く）を含む46単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分 単位区分	大学共通科目	外国語科目	日本語・日本文 学科専門科目	英語文化学 科専門科目	文化総合学 科専門科目
必修単位	5単位		8単位		
選択必修単位		* 8単位以上	18単位以上	* 4単位以上	
選択単位			20単位以上		
自由選択単位			61単位以上		
卒業必要 単位数合計			124単位以上		

\* 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の中から2外国語各4単位、合計8単位以上選択必修。

\* 外国語（英語）の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」（英語エキスパートプログラム学生対象）、「講読科目」で充た可。

\* 他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充たすること。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合せて12単位まで自由選択単位として算入できる。

## 文化総合学科

## 〈2018 年度入学生に適用〉

文化総合学科の学生は、以下の表に示すとおり単位を修得しなければならない。

授業科目 区分 単位区分	大学共通科目		文化総合学科 専門科目	英語文化学 科専門科目	日本語・日本文 学科専門科目	文学部 オープン科目
	教養科目	外国語科目				
必修単位	3単位					
選択必修単位	16単位以上	8単位以上	40単位以上 <sup>(*)</sup>			
選択単位	3単位以上		12単位以上			
自由選択単位	42単位以上					
卒業必要単位 数合計	124単位以上					

・ 教養科目は、区分「人間と宗教」から2単位以上、区分「人間形成」のうち、「国際理解」から2単位以上、「社会と文化」から2単位以上、「歴史・思想」から4単位以上、「自然・科学」「健康」から2単位以上、区分「リテラシー」から4単位以上選択必修。

・ 外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。

・ 外国語（英語）の場合は、英語文化学科「講読科目」で充た可。

(\*) 文化総合学科の選択必修科目は、区分「文化総合学科基礎演習」から4単位、区分「講義科目」のうち、「異文化コミュニケーション論入門」「文化人類学入門」から2単位以上、「基礎法学A（憲法）」「国際関係論入門」及び「心理学入門」から2単位以上、「西洋史入門」「日本史入門」から2単位以上、「哲学入門」「倫理学入門」から2単位以上、区分「演習」のうち卒業研究指導教員の演習を4単位以上、区分「講義科目」のうち卒業研究指導教員の特講科目を4単位以上、それ以外の同一専任教員の特講科目を4単位のほか、選択した専修の特講科目のうち卒業研究指導教員以外の担当科目を8単位以上。区分「卒業研究関連科目」のうち選択した専修の卒業研究演習及び卒業研究を各4単位。

ただし、キリスト教学専修を選択した場合は、区分「文化総合学科基礎演習」から4単位、区分「講義科目」のうち「異文化コミュニケーション論入門」「文化人類学入門」から2単位以上、「基礎法学A（憲法）」「国際関係論入門」及び「心理学入門」から2単位以上「西洋史入門」「日本史入門」から2単位以上、「哲学入門」「倫理学入門」から2単位以上、区分「演習」のうち同一専任教員の特講科目を4単位以上、区分「講義科目」のうち区分「演習」で履修した教員の特講科目を4単位以上、卒業研究演習及び卒業研究には文学部オープン科目の「卒業研究演習」「卒業研究」各4単位を充た、合計26単位以上。

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

- ※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。  
 ※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。  
 ※協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

### 〈2015～2017年度入学生に適用〉

文化総合学科の学生は、大学共通科目必修5単位、外国語科目の中から選択必修8単位以上、文化総合学科専門科目の中から必修8単位、選択必修28単位を含む36単位以上、他学科科目の中から選択必修4単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

授業科目 区分 単位区分	大学共通科目	外国語科目	文化総合学 科専門科目	英語文化学 科専門科目	日本語・日本文 学専門科目
必修単位	5単位		8単位		
選択必修単位		* 8単位以上	28単位以上	* 4単位以上	
選択単位					
自由選択単位			71単位以上		
卒業必要 単位数合計	124単位以上				

- \*英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修。  
 \*外国語（英語）の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」（英語エキスパートプログラム学生対象）、「講読科目」で充当可。  
 \*他学科からの選択必修4単位はクラスター基礎科目で充当すること。  
 ※教職に関する科目は、指定された科目のうち8単位まで自由選択単位として算入できる。  
 ※他学部学科専門科目は、12単位まで自由選択単位として算入できる。  
 ※協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、12単位まで自由選択単位として算入できる。

## (2) 修業年限

4年以上在学すること。ただし8年を超えてはならない（休学期間は在学年数には含まれない）。

## 2 授業科目及び履修方法

文学部の授業科目は、大学共通科目、外国語科目、学科専門科目及び教職に関する科目に区分されている。

### (1) 大学共通科目

a. 〈2018年度入学生〉大学共通科目の教養科目の中で「キリスト教概論」と「女性とキャリアⅠ」は必修科目である。

〈2017年度以前入学生〉大学共通科目の中で、「キリスト教学」と「聖書学」、「女性とキャリア」（2012年度以降入学生に適用）は必修科目である。

b. 〈2017年度以前入学生〉大学共通科目の「テーマ研究」は、文学部の複数の教員が協力しあって共同開講する科目である。

### (2) 外国語科目

#### 英語文化学科

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。

#### 日本語・日本文学

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または2外国語各4単位以上、合計8単位以上を修得しなければならない。尚、英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」（2012～2017年度入学生は英語エキスパートプログラム学生対象）、「講読科目」で充当可。

#### 文化総合学科

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語（2014年度以前入学生はコリア語）のうち1外国語8単位以上を修得しなければならない。なお、英語の場合は、英語文化学科「学科基礎科目」（2012～2017年度入学生は英語エキスパートプログラム学生対象）、「講読科目」で充当可。

各学科とも、外国語科目は、8単位を越えて修得した単位は卒業要件の自由選択単位として算入され

る。

(3) 学科専門科目

所属学科の学科専門科目は、各学科の「教育課程表」及び履修ガイドにしたがって定められた単位を修得しなければならない。

(4) 他学科専門科目

a. 〈2017年度以前入学生〉他学科の専門科目（クラスター基礎科目）を4単位以上選択必修として修得しなければならない。4単位を越えて修得した単位は自由選択単位として卒業要件に含めることができる。

b. 他学科専門科目として履修できる科目については、各学科の「教育課程表」を参照すること。

(5) 他学部専門科目

人間生活学部の学科専門科目を履修し単位を修得した場合は、12単位まで自由選択単位として卒業要件に算入できる。

履修についての詳細は、人間生活学部の教育課程表及び履修ガイドを教務課で閲覧、確認すること。

(6) 教職に関する科目

a. 教職に関する科目は、教育職員免許状取得のために開設している科目であるが、指定された科目の内8単位まで、卒業要件の自由選択単位に含むことができる。詳しくは、p.137（2018年度入学生）、p.158（2017年度以前入学生）の教育課程表を確認すること。

b. 教育職員免許状の資格取得を希望する場合は、教職課程履修要項に従って免許状取得に必要な単位を履修しなければならない。

### 3 学 期

学期は前期（4月～9月）と後期（9月～3月）の2学期とし、各学期は、15週を原則とする。

### 4 授 業 時 間

授業は次の時間割によって行われる。

講 時	時 間	時 限	時 間
I	9：00～10：30	1	9：00～ 9：45
		2	9：45～10：30
II	10：40～12：10	3	10：40～11：25
		4	11：25～12：10
III	13：00～14：30	5	13：00～13：45
		6	13：45～14：30
IV	14：40～16：10	7	14：40～15：25
		8	15：25～16：10
V	16：20～17：50	9	16：20～17：05
		10	17：05～17：50

### 5 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とし、科目によってその基準は異なる。

(2) 実験、実習、実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とし、科目によってその基準は異なる。

(3) 卒業論文及び卒業研究の授業科目については、学修の成果を評価し所定の単位を授与する。



## 6 単位修得の要件

- (1) 所定の履修登録を完了すること。
- (2) 欠席時（回）数が総授業時（回）数の 1/3 を超えていないこと。
- (3) 試験またはレポート等による成績が合格点（60 点以上）であること。

## 7 既修得単位の認定

- (1) 既修得単位の認定の申請ができる者は、本学または他の大学を卒業または中途退学し、新たに 1 年目に入学者に限られる。
- (2) 本学が教育上有益と認めるときは、学則第 19 条の 4 第 1 項及び第 2 項の定めるところにより、既に修得した単位について、60 単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (3) 既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の申請書に卒業証明書および成績証明書を添えて、新年度の履修登録期限前に申請することができる。教職課程の科目について既修得単位の認定を受けようとする者は、さらに「学力に関する証明書」も添えること。

## 8 協定校における修得単位の認定

協定校とは、本学と協定を結んだ海外留学協定校、国内の学生交流協定校及び札幌圏大学・短期大学間単位互換協定校のことをいう。

協定校及び認定方法については、次の通りである。

### (1) 協定校一覧

#### 【海外留学協定校】

アメリカ：セント・エリザベス大学、ベネディクティン大学、マリアン大学

イギリス：ケント大学、リーズ大学、ニューカッスル大学、

ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ

オーストラリア：オーストラリア カトリック大学、グリフィス大学

カナダ：カルガリー大学、マキュワン大学

韓国：韓国カトリック大学、明知大学

台湾：輔仁大学

中国：上海外国語大学

#### 【学生交流協定校（国内留学）】

上智大学

#### 【札幌圏大学・短期大学単位互換協定校】

文学部はなし

### (2) 認定方法

協定校で修得した科目の成績は、「認定」と表示される。

なお、留学等により単位認定された科目は、卒業に必要な単位として認められても、免許・資格に関わる科目の単位としては認められない。

免許・資格に関わる科目の単位の認定については、次の表のとおりである。

免許・資格の種類		卒業必要単位	免許・資格取得の単位
教育職員免許状	教科に関する科目	認定可	教職課程のない他大学で修得した科目から本学の「教科に関する科目」へ読替認定した場合は可
	教職に関する科目	卒業要件に含めることが出来る科目のみ認定可	不可
司書となる資格（必修科目及び選択科目の「図書館に関する科目」）		認定不可	不可
司書教諭		認定不可	不可
日本語教員（「*課程」と表示している科目）		認定不可	不可

### ① 「読み替え」による認定

協定校で修得した科目は、本学で開講されている科目と内容を照らし合わせた上で、読み替え可能であると判断された場合に、その該当する本学の授業科目として認定される。

### ② 外国語科目「海外語学研修」への認定

協定校留学時の語学科目や短期語学研修は、外国語科目の「海外語学研修」として認定することがある。その際は、卒業要件区分の「外国語科目」とはみなされず、「自由選択単位」に算入される。

- ・協定校留学時の語学科目……前述①の読み替えにより認定できない場合（当該外国語科目が修得済になっていたり、本学に設けられていない外国語科目の場合など）に、「海外語学研修」として認定する。なお、英語文化学科の学生は、協定校において修得した「英語」科目を外国語科目として認定する場合は、すべて「海外語学研修」となる。  
「海外語学研修C」は、2013年度以前入学生は英語文化学科のみに適用される。
- ・短期語学研修……認定科目は「海外語学研修」とするが、本学の外国語科目の中の当該言語の科目（既修得・履修中を除く）で認定することもできる。

### ③ 「協定校修得科目」としての認定

上記の認定①②が不可能である場合、協定校で修得した科目名のまま本学の卒業要件として認定することがあり、これを協定校修得科目という。

ただし、認められる単位数の上限は、学科によって異なる。

協定校修得科目の認定可能上限単位数

- ・英語文化学科……12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ・日本語・日本文学科……他学部科目（共通（2014年度以前入学生のみ）、学科専門）と合わせて12単位まで自由選択単位として算入できる。
- ・文化総合学科……12単位まで自由選択単位として算入できる。

## (3) 単位認定の上限

単位認定は、留学年度に在籍している本学での学科・学年の履修登録上限単位数を限度とする。

ただし、短期語学研修と札幌圏大学・短期大学等单位互換での単位認定は、認定年度の履修登録上限単位数には含まれない。

## 9 履修登録

入学年度の教育課程表および履修ガイドを参考に卒業までの履修計画をたて、その年度に履修するすべての授業科目について履修登録をしなければならない。



## (1) 履修登録についての注意事項

- ① 教育課程表により配当されている所定年次（学科・クラス指定のある科目は指定クラス）の授業科目を履修しなければならない。
- ② 履修登録した科目でなければ履修することはできない。
- ③ すでに単位を修得・認定された授業科目の履修登録は認められない。
- ④ 同一時限に2科目以上の履修登録は認められない。

## (2) 履修登録単位数の上限

履修登録をした授業科目の履修にあたっては、単位修得にむけて最善の努力をしなければならない。

自学自習の時間を考慮し、卒業要件を年次配分し無理なく履修計画を立てた場合、年間40単位前後の履修で、3年次までに卒業要件の総単位数（124単位）を修得することが出来るが、再履修等を考慮し年間登録単位数の上限を次のとおり定めている。無計画な履修登録をし、過重負担にならないよう心がけること。

## 履修上限単位

	英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科
1年次	44	48	48
2年次	48	48	48
3年次	48	48	48
4年次	48	48	48

※文学部各学科の上記の上限単位の中に、大学共通科目「女性とキャリア」、教職課程科目、図書館情報学課程科目、日本語教員養成課程科目、短期語学研修科目を含まない。

## (3) 履修登録の期間

前期開講科目、通年開講科目及び集中講義については4月11日(水)～19日(木)の指定された期間に登録できる。

後期開講科目については9月20日(木)～9月25日(火)の指定された期間に登録できる。

## 10 試 験

定期試験 (1) 定期試験は、前期および後期の授業終了後、定められた期間に行う試験である。

(2) 定期試験は、平常の授業時間割と異なる時間割で行われる。

試験の時間割は、各定期試験開始の1週間前に掲示により発表されるので、掲示には十分注意すること。

(3) 定期試験に代わる期間外実施試験、レポート・作品等の提出も定期試験に準ずる。

追 試 験 (1) 追試験は、下記の理由で定期試験もしくはそれに準ずるものについて欠席した者が、「追試験願」を提出して、受験が認められた場合に行う試験である。

(2) 追試験を願い出る者は、定められた期日までに下記証明書等を添えて「追試験願」を教務課に提出しなければならない。

(3) 追試験の受験資格と提出書類及び受験料は以下のとおりである。

	理由	提出書類	受験料 (1科目につき)	備考	
1	就職試験	受験票写 本学指定の就職試験 応募証明書	500円		
2	公共交通機関 の遅延	該当交通機関の発行 する遅延証明書			
3	病気・けが	医師の診断書、また はこれに準ずるもの			
4	交通事故	事故証明書			
5	公認欠席	公認欠席届*	免除	〈Ⅲ 諸願・ 届〉の「5. 欠席届 B 公認欠席 届」の項 (p.378～ 379)を参 照	
6	特別欠席	公認欠席届(特別欠 席)*			忌引き(二親等まで)
7	出席停止	公認欠席届(出席停 止)*			学校保健安全法施行規則 第18条第一種～第三種 による学校感染症
8	その他やむを 得ない理由	その事由を証明する もの	500円		

\* 公認欠席、特別欠席、出席停止の場合は、所定の手続きを行った上で「追試験願」を教務課に提出すること。

※	上記の理由以外について追試験を認めることがある。	1,500円	合格した時の試験の点数は60点とする。
---	--------------------------	--------	---------------------

(4) 追試験を願い出た科目の再試験は受験することはできない。

(5) 前期追試験はおおむね8月、後期追試験はおおむね2月に日時を定めて行う。

- 再試験
- (1) 再試験は、成績の結果が不合格になった者に対して行う試験であり、1回に限り行うことがある。
  - (2) 再試験を実施する科目は、事前に発表する。
  - (3) 再試験を願い出る者は、定められた期日までに「再試験願」を教務課に提出しなければならない。
  - (4) 再試験の受験料は1科目1,500円とする。
  - (5) 再試験に合格した場合の最終成績は、全て60点とする。
  - (6) 前期再試験はおおむね8月、後期再試験はおおむね2月に、日時を定めて行う。
  - (7) 再試験の追試験は行わない。

#### 試験に関する注意事項

試験受験の際には学生証が必要です。学生証が無ければ試験は受験できません。

(期間外試験も同様です。)

学生証を忘れた場合は仮受験票を発行しますので教務課へ来てください。

1. 受験にあたっては、監督者の指示に従うこと。
2. 遅刻者の入室は、試験開始後25分以内とする。
3. 試験場からの退場は、試験開始後30分以降とする。
4. 試験期間中は長机(3人掛け)の真ん中の席は使用しないこと。
5. 特別に持ち込みを許可されたもの以外は、机の上においてはならない。
6. 不正行為は絶対行わないこと。不正行為を行った者は、
  1. 該当科目を不認定とする。

2. 学則及び懲戒に関する規程による懲戒処分対象となり学籍原簿への記載がなされ永久に記録される。
3. 処分内容は、保証人へも通知される。

## 11 成績

1. 成績の評価及び基準は次のとおりである。

### 評価基準

	点数	評価		基準
		2016年度以降入学生	2015年度以前入学生	
合格	100～91	A+	優	授業の到達目標を完全に満たしているかまたは超えている
	90～80	A		授業の到達目標を十分に満たしている
	79～70	B	良	授業の到達目標を満たしている
	69～60	C	可	授業の到達目標を最低限度満たしている
	—	認定	認定	点数による評価を行わず単位認定のみとするもの
不合格	59～0	F	不可	授業の到達目標を満たしていない
	—	不認定	不認定	単位認定の基準を満たしていない。(点数による評価を行わない科目)
放棄	—	放棄	放棄	試験を欠席(レポートを未提出)し、追試験の願い出がない。 欠席が1/3を越えている。

※ 2018年度入学生においては、大学共通科目「女性とキャリア」、保育学科専門科目「教育実習(幼稚園)」「教育実習(特別支援)」「児童館実習」「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(保育所)」「保育実習Ⅱ(福祉施設)」「保育実習Ⅱ(児童館)」、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 2015～2017年度入学生においては、大学共通科目・共通科目「女性とキャリア」、保育学科専門科目「幼稚園実習Ⅰ」「幼稚園実習Ⅱ」「保育所実習Ⅰ」「保育所実習Ⅱ」「福祉施設実習Ⅰ」「福祉施設実習Ⅱ」「障害児教育実習」、協定校留学終了者及び短期語学研修の単位認定科目、編入生及び既修得単位の単位認定科目の成績は点数での成績評価は行わず「認定」とする。

※ 不合格、放棄の成績は、成績証明書には表記しない。

2. 履修科目の成績は、前期及び後期の所定の日によりポータルサイト「F-Station」を通じて各自に通知する。

### 成績発表

前期	9月14日(金)	全学年
後期	3月1日(金)	全学年

在学生の保証人(親・学費負担者)に、前年度成績及び当年度履修科目を5月中旬に、前期成績及び後期履修科目を10月上旬までに通知する。

3. GPAについて(2016年度入学生から適用)

GPAとは、Grade Point Averageの略で、授業科目ごとの成績評価を段階で評価し、それぞれの評価に対応するようにグレード・ポイント(GP)を付与して1単位あたりの平均値を算出したものをいう。学修成果を客観的に評価することができる。

GPAは、ポータルサイト「F-Station」を通じて通知するほか、成績通知書、成績証明書にも記載される。

履修登録した科目の履修を途中でやめると「放棄」となり、GPAの計算に含まれてしまうので、履修登録のときにシラバスをよく参照するなど熟慮すること。

## (1) 計算方法

それぞれの科目の成績評価を右表に示す GP に置き換え、単位数を掛けた数の合計を履修登録総単位数で割る。

再履修した科目は、初めに履修したときの成績も含め、全ての成績評価と単位数が対象となる。

成績評価	GP
A +	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
F、放棄	0

①成績評価が「認定」の科目は対象外とする。

②卒業要件に含まない科目は対象外とする。

(計算式)

$$\frac{(4.0 \times A + \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{履修登録総単位数 (不合格・放棄の単位数を含む)}}$$

## (2) GPA の活用方法

GPA は、教員が客観的に履修指導するための参考資料とする。

- ・ 学期ごとに 1.0 未満の学生は、クラス担任等の履修指導を受けなければならない。
- ・ 2 学期以上続けて 1.0 未満の場合は、学科主任の履修指導を受けなければならない。また、保証人にも履修指導について報告する。
- ・ 3 学期連続で 1.0 未満の学生については、学生及び保証人に対して学部長が退学勧告も視野に指導を行う。

このほか、奨学金や協定校留学等の選考基準、就職活動の学校推薦等の選考基準にも利用する。

## 12 進級に必要な単位数

〈2017 年度以前入学生に適用〉

	文 学 部		
	英語文化学科	日本語・日本文学科	文化総合学科
卒業必要単位	2 年次終了までに 1 年次に開講されている学科基礎科目 (必修) 10 単位を含み*、30 単位以上を取得しておかなければならない。  *転部、転科した学生には適用しない。	2 年次終了までに 56 単位以上を取得しておかなければならない。  なお、講義 I は日本語分野から 2 単位以上、古典文学分野から 2 単位以上、近現代文学分野から 2 単位以上、計 6 単位以上を取得しておかなければならない。	2 年次終了までに 40 単位以上を取得しておかなければならない。

※国内・海外留学協定校に留学した (もしくは留学中の) 学生には適用しない。

## 13 文学部クラスター履修要項 〈2017 年度以前入学生に適用〉

## 1. クラスター制の趣旨

文学部のオープン・カリキュラムを有効に運用するために、3 学科を横断する形でクラスター制を設ける。

クラスター制とは、文学部の授業科目をジャンル別に新たに編成し直し、クラスターとして複数の科目群に分け、卒業研究まで導くことを目的とするものである。

## 2. クラスター (科目群) の種類

クラスターには以下の 6 種類がある。科目の詳細については別に定める。

- ・ 日本文化研究 I (近世まで)

- ・日本文化研究Ⅱ（近現代）
- ・アジア研究（東アジア）
- ・言語コミュニケーション
- ・異文化研究Ⅰ（19世紀まで）
- ・異文化研究Ⅱ（20世紀以降）

### 3. クラスタ履修要件

以下の要件を充たして卒業する者にはクラスタ認定証を授与する。

- (1) 選択したクラスタから20単位、「卒業研究演習」または「卒業研究ゼミⅡ」4単位および卒業研究4単位を修得すること。
- (2) 上記20単位には、3年次演習科目4単位（他学科開設演習の場合は「学科特殊演習」となる）、および他学科開設科目4単位を含めること。
- (3) 3年次終了までに、選択する予定のクラスタから12単位以上修得することを卒業研究履修の条件とする\*。その条件を充たした者は、4年次4月に、選択したクラスタの卒業研究の履修登録が認められる。  
\*ただし協定校留学をした学生については、クラスタ制運営委員会の協議を経て、この単位数以下でもクラスタ卒業研究の履修が認められることがある。

### 4. クラスタ卒業研究（論文）規程

クラスタ卒業研究（論文）規程については別に定める。

## 14 文学部英語エキスパートプログラムについて〈2017年度以前入学生に適用〉

### 英語エキスパートプログラムの趣旨

英語エキスパートプログラムは、英語を集中的に学習することで高度な英語力を身につけることを希望する学生を対象にしている。この「高度な英語力」とは、様々な場面に対応できる英語力、専門分野の勉強ができる英語力、さらには在学中あるいは卒業後に英語圏の大学や大学院に留学するのに必要な英語力のことを言う。

このプログラムはそのような英語力を養うことを目的とし、学科を問わず、広く文学部の学生に提供されるものである。

### 英語エキスパートの認定について

1年次、または2年次の履修登録時に英語エキスパートプログラムに登録し、以下の要件を充たして卒業する者には英語エキスパート認定証を授与する。

1. 英語エキスパートプログラム基礎科目（計16単位）を必修科目として修得する。
2. 英語エキスパートプログラム発展科目20単位以上を選択必修科目として修得する。  
なお、海外協定校修得科目8単位までを、文学部クラスタ制運営委員会の承認を得て、算入することができる。
3. 4年次2月末までに以下のいずれかのスコアを取る。  
TOEFL® PBT（またはTOEFL® ITP）で520点以上  
TOEFL® iBT 68点以上  
TOEIC® 700点以上  
IELTS 5.5以上

\*英語エキスパートプログラム登録以前に修得したプログラムの科目も、英語エキスパートプログラムの必修、選択必修科目として認められる。

## 15 キリスト教学専修履修要項〈2018年度入学生以降に適用〉

キリスト教学専修を選択して卒業研究を履修し卒業要件を充足しようとする場合は、所属学科が定める要件の他に、以下の要件を充足しなくてはならない。

- (1) 3年次終了までに以下に掲げるキリスト教学専修が指定する科目から、指定の方法により24単位以上を修得する。これをキリスト教学専修卒業研究履修の要件とする。
- (2) キリスト教学専修担当教員の「卒業研究演習」および「卒業研究」各4単位を修得する。

科目所属	区分	科目名	単位数		開講学年	必要な位数と修得方法	
			必修	選択			
教養科目	人間と宗教	キリスト教概論	2		1年		
		キリスト教人間学A	2		1年		
		キリスト教人間学B	2		1年		
		聖書概論A	2		1年		
		聖書概論B	2		1年		
	歴史・思想	西洋史	2		1年		
		哲学	2		1年		
倫理学		2		1年			
文学部オープン科目	講義科目	キリスト教学特殊講義a	2		2~4年	4単位以上選択必修	文学部オープン科目、文化総合学科専門科目から8単位以上選択必修
		キリスト教学特殊講義b	2		2~4年		
		キリスト教学特殊講義c	2		2~4年		
		キリスト教学特殊講義d	2		2~4年		
	演習科目	キリスト教学演習a	2		2~3年	4単位以上選択必修	
		キリスト教学演習b	2		2~3年		
		キリスト教学演習c	2		2~3年		
		キリスト教学演習d	2		2~3年		
文化総合学科専門科目	講義科目	西洋史入門	2		1年	2~3年開講の講義科目から4単位以上選択必修	
		哲学入門	2		1年		
		倫理学入門	2		1年		
		ラテン語Ⅰ-a	2		1年		
		ラテン語Ⅰ-b	2		1年		
		古代・中世哲学史	2		1年		
		近世・近代哲学史	2		2年		
		現代哲学史	2		2年		
		ラテン語Ⅱ-a	2		2年		
		ラテン語Ⅱ-b	2		2年		
		古典ギリシア語a	2		2年		
		古典ギリシア語b	2		2年		
		西洋史特講A-a	2		2~3年		
		西洋史特講A-b	2		2~3年		
		西洋史特講A-c	2		2~3年		
		西洋史特講B-a	2		2~3年		
		西洋史特講B-b	2		2~3年		
		西洋史特講C-a	2		2~3年		
		西洋史特講C-b	2		2~3年		
		西洋史特講D-a	2		2~3年		
		西洋史特講D-b	2		2~3年		
		西洋史文献講読a	2		2~3年		
		西洋史文献講読b	2		2~3年		
		西洋史文献講読c	2		2~3年		
		西洋史文献講読d	2		2~3年		
		キリスト教文化論a	2		2~3年		
		キリスト教文化論b	2		2~3年		
		歴史資料論A	2		2~3年		
哲学特講A-a	2		2~3年				



科目所属	区分	科目名	単位数		開講学年	必要な位数と修得方法	
			必修	選択			
文化総合学科専門科目	講義科目	哲学特講 A - b		2	2~3年		
		哲学特講 A - c		2	2~3年		
		哲学特講 A - d		2	2~3年		
		哲学特講 B - a		2	2~3年		
		哲学特講 B - b		2	2~3年		
		哲学特講 B - c		2	2~3年		
		哲学特講 B - d		2	2~3年		
		倫理学特講 A - a		2	2~3年		
		倫理学特講 A - b		2	2~3年		
		倫理学特講 A - c		2	2~3年		
		倫理学特講 A - d		2	2~3年		
		倫理学特講 B - a		2	2~3年		
		倫理学特講 B - b		2	2~3年		
		倫理学特講 B - c		2	2~3年		
		倫理学特講 B - d		2	2~3年		
計						24 単位以上	
オープン科目 文学部	卒業研究 関連科目	卒業研究演習	4		4年		
		卒業研究	4		4年		
合計						32 単位以上	

## 16 藤 ACE プログラムについて 〈2018 年度以降入学生に適用〉

藤 ACE プログラムの履修については、別冊の「藤 ACE プログラム学生ハンドブック」を参照すること。

# 履修の手引き





## 1. 大学共通科目

大学共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

2018年度以降入学生		2017年度以前入学生	
科目名	単位数	科目名	単位数
キリスト教概論	2単位	キリスト教学	2単位
女性とキャリア I	1単位	聖書学	2単位
合計 2科目	3単位	女性とキャリア	1単位
		合計 3科目	5単位

## 2. 外国語科目

〈2015年度以降入学生〉

外国語科目

- ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語は、各外国語の初級 AI・AII・BI・BII の4科目を履修しなければその中級を履修することはできない。
- 英語の場合は、科目を自由に組み合わせてよい。ただし、プレイスメントテストを受けて、Academic Communication A または Academic Communication B を履修することが望ましい。
- 受講者が多い場合は、人数制限をすることがある。その場合には、調整結果を掲示により連絡するので、確認してから履修登録をすること。

### 英語文化学科

初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	このうち1外国語8単位以上選択必修
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

### 日本語・日本文学科

Academic Communication A・B (2018年度以降入学生)、Academic Communication AI・AII・BI・BII (2017年度以前入学生)、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち1外国語8単位以上または2外国語各4単位以上合計8単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

※2外国語を卒業要件として履修する場合、英語以外の外国語の組み合わせは、原則として初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、初級フランス語 AI・AII・BI・BII、初級中国語 AI・AII・BI・BII、初級韓国語 AI・AII・BI・BII の、いずれかで履修しなければならない。

## 文化総合学科

Academic Communication A・B (2018年度以降入学生)、Academic Communication AI・AII・BI・BII (2017年度以前入学生)、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち1外国語8単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

- ◇ 3学科とも、上記の卒業要件以上に外国語を修得した場合は、自由選択単位として算入される。
- ◇ 教職免許状を取得する場合は、卒業要件を満たすと同時に、教職課程履修要項で外国語コミュニケーションの科目として指定されている科目の中から、2単位を履修しなければならない。

### 3. 他学科からの選択必修 (2017年度以前入学生)

3学科とも所属学科以外に開かれている科目(クラスター基礎科目)を4単位以上選択必修として履修しなければならない。クラスター基礎科目については『クラスター履修ガイド』を参照すること。尚、この4単位は1・2年次までに履修することが望ましい。

## 4. 英語文化学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

英語文化学科のカリキュラムは、「学科基礎科目」と「卒業研究関連科目」は必修科目ですが、それ以外の科目は選択必修科目あるいは選択科目です。ですから自分の興味を引きそうな科目ばかりを履修することもできますし、さらに他学科の科目も含めて異なる領域の科目をいくつも履修して、自分の関心の幅を広げることも可能です。ただし、このカリキュラムは4年次の卒業研究(卒業論文)に最終的に結実することを目標として編成されていますから、なるべく早い時期に自分の関心がどの専門領域に向かっているかを見極めることが大事なというまでもありません。

そのために「文学・文化専修」と「言語・コミュニケーション専修」という二つの「専修」が用意されています。「専修」は「コース」とは違って、強い拘束力をもつものではありません。「コース」のように入り口によって進む道が違ってくるというのではなく、入り口はひとつですが、ゴールがふたつ用意されているものと考えてください。これは、皆さんが卒業研究に向けて4年間勉強してゆくための道標のようなものです。最終的にどの専修で卒業論文を書くかによって、どの専修を修了するかが決まります。

なお、学科が用意している2専修とは別に、文学部が用意している専修として、「キリスト教専修」

を選択することもできます。「キリスト教学専修」を選択する場合でも、英語文化学科を卒業すること  
に変わりはありませんから、学科が指定する必修科目や選択必修科目を履修して、学科卒業要件を充  
たさなければなりません（「学生便覧」の179ページ参照）。

## 2 専修の紹介

### 「文学・文化専修」

地域の言語文化に最も深く根ざした営みとしての文学を中心として、英語圏の文化、社会、歴史、  
思想などの諸領域を幅広く学びたいと思う人のための専修です。同時に、特定の地域の枠を越えて、  
世界を結ぶ国際言語としての英語の文化の諸相について学び、国際社会にたいする認識を深めてゆき  
ます。また、言語文化の基層にある価値観、宗教観、倫理感などを探りながら、ジェンダー、人種、  
移民問題などについて考察の幅を広げてゆきます。

### 「言語・コミュニケーション専修」

単なる語学学習を超え、英語はもちろんのこと、母語である日本語を含め世界で話されている言語  
そのものに興味を抱いて、もっと深く研究したい、あるいは言語・非言語情報の伝達を通して行なわ  
れるコミュニケーションのメカニズムについて学びたいと思う人のための専修です。言語の歴史や音  
声現象、単語・文の構造、会話の仕組みなど、言語をさまざまなレベルにおいて学び、社会・文化と  
いった「ことば」を取り巻く環境にも目を向けることによって、言語コミュニケーション活動の本質  
を探究します。

## 3 科目の区分と履修上の注意

英語文化学科のカリキュラムはいくつかの区分に分類されています。そして区分ごとに必修単位や  
選択必修単位が設定されています。以下、それぞれの区分について簡単に説明しながら、履修上大切  
なポイントを挙げてゆきます。

### (1) 学科基礎科目

本学科で研究してゆくための基礎的な英語力を養う科目群です。すべて1、2年次に開設され、少  
人数クラスの科目が主体となります。どれも必修科目ですので、取りこぼしのないように気をつけて  
下さい。3年次に進級するためには、1年次の学科基礎科目10単位をすべて取得していることが条  
件となります。学科基礎科目にひとつでも履修漏れがあると、3、4年次に再履修しなければなりま  
せん。その際、3、4年次開設科目と時間割上ぶつかってしまい、受講したい科目を自由に受講でき  
ないばかりか、場合によっては4年間で卒業できないという事態も生じますので十分に注意してくだ  
さい。

学科基礎科目は90分の授業を二分割したり、多くの科目をネイティブの教員が担当するなど、開講  
形態に工夫を凝らして、科目間で互いに連動した総合的な授業が展開されます。詳しくはオリエン  
テーションで説明されますが、そのときに配布される資料や時間割をよく参照して、間違いのないよ  
うに受講して下さい。

### (2) 専門講読科目

英語文化の研究は基本的に読むことを通して行ないます。このことから、「学科基礎科目」の

「Reading I～IV」に加えて、「専門講読科目」を用意しています。専修ごとに「文学・文化講読」科目と「言語・コミュニケーション講読」科目が複数開設され、さらに「共通」の区分には「時事英語講読」と「Advanced Reading」が置かれています。自分が選択しようと考えている専修の科目からは2科目2単位以上を選択履修しなければなりませんし、専門講読科目全体から4科目4単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

### (3) 基礎演習科目

1年次用の演習科目ですが、2、3年次の本格的な演習に入る前の、演習入門的な性格をもつ科目です。「文学・文化基礎演習」から1科目2単位以上、「言語・コミュニケーション基礎演習」から1科目2単位以上を、必ず選択履修しなければなりません。いろいろな領域や教員との交わりを作るという意味でも、全体から3科目6単位程度を履修してみるのがよいかもしれません。

### (4) 講義科目

専修ごとに複数の講義科目が開設されており、「共通」の区分には複数の「国際教養講義」と「特殊講義（集中講義）」が用意されています。

1年次に開講している概論の科目は、前期と後期の両科目を続けて履修することが効果的です。

自分が選ぶことになる専修の講義科目からは多めに選択履修しなければなりませんから、十分な注意が必要です。1、2年次には両方の「専修」と「共通」の区分から学科選択必修分を履修して（3区分を合わせて5科目10単位、もちろんそれ以上履修することが望ましい）、どの専修を選ぶかが定まった3、4年次には自分が選んだ専修の講義科目をさらに上乘せして履修する（専修ごとに設定された選択必修単位を充足させる）というのがよい履修方法でしょう。

### (5) 実践英語科目

実践英語科目には、学科基礎科目で培った英語力をさらに発展させるために効果的な科目が用意されています。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの4技能を向上させたり、さらには翻訳や通訳の技能を学んだりすることができます。

英語文化学科の学生は、「イングリッシュ・スキルズ」の区分から2科目2単位以上を必ず選択履修しなければなりません。

### (6) 演習科目

卒業研究につながる重要な、そして本格的な演習科目です。自分が選ぼうと考えている専修の区分から、4科目8単位以上を必ず選択履修しなければなりません。2年次と3年次に開講されますから、2年次、3年次とも、それぞれ2科目4単位は必ず履修するようにしてください。また2年次では、選択する専修が定まっていない場合も少なくありません。各自の事情に応じて、2年次では、専修の異なる演習科目を履修したり、複数の教員の演習科目を履修して、選択する専修が定まった3年次には、自分が選択した専修の演習科目を重ねて履修するという方法を採用することもできます。

### (7) 卒業研究関連科目

「Academic Writing I」と「Academic Writing II」は3年次の必修科目です。4年次で卒業論文を書くための準備として欠かすことのできない大切な授業です。「卒業研究演習」は4年次必修の演習科目ですが、自分が選んだ卒業研究のテーマに関連する内容の演習となります。また、「Advanced Writing」は選択科目の扱いとなっていますが、英語で卒論を書くための実践的な支援を主旨としてい

る科目ですから、実質的に、すべての学生が受講することになります。

#### 4 卒業研究について

英語文化学科を卒業するためには、「文学・文化専修」か「言語・コミュニケーション専修」のいずれかを選んで、4年次に「卒業研究」を修得する必要があります。「卒業研究」は最終的に卒業論文という形で提出します。

卒業論文は、5,000語以上の長さの英文で書かなければなりません。自分の考えを、論旨を組み立てて正確に表現する力はもちろんのこと、かなり高度な英作文の力も求められます。

提出期限は4年次の12月15日正午（時間厳守）です。詳しくは『学生便覧』の「英語文化学科卒業規程」を参照して下さい。

#### 5 英語文化学科の教員と専門分野

井筒美津子	准教授	言語学（語用論、談話分析、認知言語学、社会言語学）
大桃 陶子	准教授	イギリス文学、イギリス文化
岡本 晃幸	講師	アメリカ文学、アメリカ文化
木村 信一	教授	アメリカ文学、アメリカ文化
工藤 雅之	准教授	英語教育、教育学、応用言語学
對馬 康博	講師	認知言語学（認知文法、構文文法）、英語学
英 美由紀	准教授	イギリス文学、イギリス文化
Mueller, Charles	准教授	第二言語習得、英語教育
山木戸浩子	准教授	言語学（特に形態論、役割語研究）
Redlich, Jeremy	准教授	ドイツ文学、イギリス文学



6 英語文化学科 4年間の履修の一例

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
一年	キリスト教概論 (2) 外国語 (4) Grammar I, II (1) Writing I, II (1) Oral English I, II (4) Reading I, II (2) Voice & Articulation I, II (1) Vocabulary Building I, II (1) 女性とキャリア I (1) (計 17 単位)	教養科目 (8) 基礎演習 (4 - 6 程度) 講義科目 (4 - 8 程度) (計 16 - 22 単位)	TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 他学科開講科目 など	基礎演習科目の履修について：3科目6単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
二年	外国語 (4) Grammar III, IV (1) The Art of Writing I, II (2) Oral English III, IV (2) Reading III, IV (2) Strategies for Listening I, II (1) (計 12 単位)	専門講読科目 (4 程度) 両専修の講義科目 (8 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (8 程度) (計 23 単位程度)	女性とキャリア II (1) TOEFL, TOEIC 関連科目 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：2年次には8単位程度、3年次には4単位を目安に履修することが望ましい。
	計 32 単位以上			
三年	Academic Writing I, II (2)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (12 程度) 国際教養講義 (2) Advanced Reading (1) 演習科目 (4) English Discussion & Presentation (2)	通訳ワークショップ 児童英語関連科目 特殊講義 他学科開講科目 など	演習科目の履修について：どの専修で、どの教員の指導のもとで卒論を書くかを決めて、選択予定の専修の演習を4単位、必ず履修する。 実践英語科目の履修について：イングリッシュ・スキルズを2科目2単位、必ず履修する。
	計 32 単位以上			
四年	卒業研究演習 (4) 卒業研究 (4)	専門講読科目 (2 程度) 専修講義科目 (4 程度) 実践英語科目の中で選択必修となっている科目 (2 以上)	Advanced Writing 特殊講義 他学科開講科目 など	履修登録に当たって：卒業に必要な修得単位数の諸条件をチェックし、4年次終了時点で卒業要件が間違いなくクリアされることを確認する。
	計 28 単位以上			
4年間で計 124 単位以上				

各学年の単位数はあくまで目安の数字です。実際には与えられた数字よりも多めに履修するように心がけて下さい。

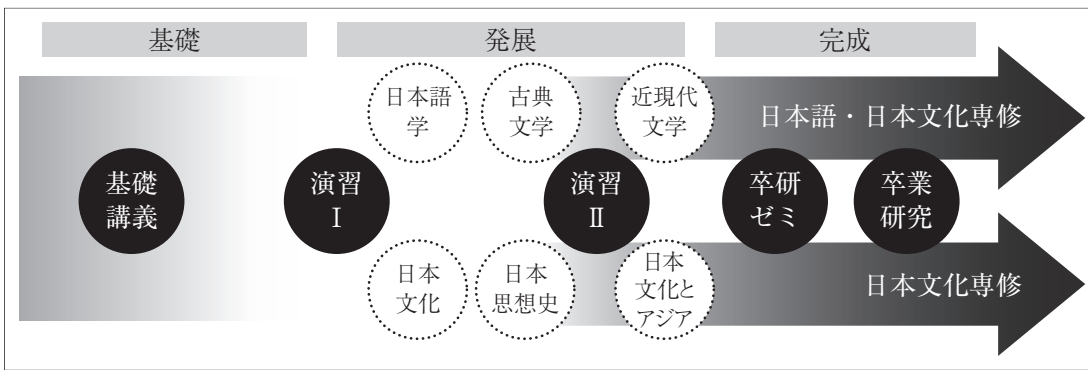
## 5. 日本語・日本文学科専門科目

【表1】日本語・日本文学科カリキュラム

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次	備考	
共通	基礎講義Ⅰ	日本語学	選択必修	選択必修		4分野各2単位（計8単位）選択必修。 3年次進級要件に含まれる。	
		古典文学					
		近現代文学					
		日本文化					
		漢文学					
	基礎講義Ⅱ	選択	選択				
	特殊講義		選択	選択	選択		
	演習Ⅰ		選択必修			2年次に2コマを履修すること。 専任教員全員で担当。	
日本語・日本文学専修	日本語学研究		選択	選択	選択		
	古典文学研究		選択	選択	選択		
	近現代文学研究		選択	選択	選択		
	演習Ⅱ			選択必修	選択		
日本文化専修	日本思想史		選択	選択	選択		
	日本文化論		選択	選択	選択		
	日本文化とアジア		選択	選択	選択		
	日本文化と女性		選択	選択	選択		
	書道	書道Ⅰ	書道Ⅰ	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	
		書道史		書道史 書論・鑑賞	書論・鑑賞		
	演習Ⅱ			選択必修	選択		
共通卒業研究関連科目	卒業研究ゼミⅠ			選択		一学年1コマ。 専任教員全員で担当。	
	卒業研究ゼミⅡ				必修	一学年1コマ。 専任教員全員で担当。	
	卒業研究				必修		
学科共通プログラム科目				選択		いずれか一つ以上のプログラムを履修すること。	



【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念



日本語・日本文学科では、ディプロマポリシー（学位授与の方針）として、1「情報を収集し、読解・分析する力」、2「論理的かつ柔軟な思考力」、3「広く他に自己の見解を説得力をもって主張する力」、4「日本語と日本文学に関する専門性、日本文化に関する専門性」を掲げています。つまり、卒業の段階でこれらの力や素養を十分に身に付けてもらうことができるように、学科のカリキュラムを組み立てています。

■カリキュラムの柱——ディプロマポリシーの各能力を磨く科目群——

ディプロマポリシー各項目に関わる力を育てる基本的なプロセスは、表1の網掛けの科目群、および図1の黒丸で記した科目の流れに示されています。

この科目群には「基礎講義科目Ⅰ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の5種類の科目が含まれます。「基礎講義科目Ⅰ」は、本学科における各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、やや専門的で具体的な課題に取り組みながら、「基礎講義科目Ⅰ」で学んだ基礎を発展させて「研究」に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して「発表」する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力・コミュニケーション力の鍛錬を行う場ともなるはずですが、研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な「技術」を研鑽する場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

■基礎段階——大学での学修の基盤づくり——

藤女子大学では、主に1年生を対象に「教養科目」を設け、ここで大学生としての基礎となる力や、社会に出て自己を実現してゆくための基盤となる素養を身につけてもらうことを目指していますが、本学科では、こうした学科の枠組みにとらわれない幅広い「教養科目」と、学科の学びの基礎を身につける「基礎講義科目」とを、大学における学修の基盤形成の場として位置付けています。

「基礎講義科目Ⅰ」は、このような基盤形成の意味を持つと同時に、「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆくという目的も持っています。自分自身の関心領域については、できれば1・2年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。1・2年次中に「基礎講義科目Ⅰ」4分野各2単位（計8単位）を、2年次に「演習Ⅰ」4単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。

1・2年次に4分野（日本語学・古典文学・近現代文学・日本文化）の「基礎講義科目Ⅰ」を選択履修することは、自分の可能性と興味関心の対象を見極めるチャンスになるはずです。（早い学年のうちになるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう。）そして2年次にはひとまず「演習Ⅰ」を二つ選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してみしてほしいのです。（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの2年間で十分可能なはずです。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います。）

#### ■発展段階 — 専門性を深める専修科目 —

日本語・日本文学科では、専門性を効果的に深めるための道筋として「日本語・日本文学」と「日本文化」の2専修を設けており、2年次から、自分がどの分野・領域で研究を進めてゆくか、希望する専修を絞り込んで行くこととなります。

2年次の「演習Ⅰ」は専修ごとに分かれてはいませんが、科目名称に専修との関連性が示されているので、自分が進む専修をある程度意識して選択するようにしてください。

専修は、最終的には3年次末の「卒業研究」仮題目届提出時に確定することになりますが、あらかじめ3年次の初めに、いずれかの専修を選択します（それに従って「演習Ⅱ」「卒業研究ゼミⅠ」を選択し履修することとなります）。

専修科目は、講義科目（日本文化専修は「書道科目」を含む）と「演習Ⅱ」からなり、講義科目は、担当教員による研究成果を含むそれぞれの分野の先端知識が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心となります。この専修科目を通じて、自分が選択する分野・領域に関する知識や問題意識、方法論などを学び取ることにより、より高度な専門性が身につけられるでしょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて選択履修できる体勢を整えました（一部、条件を満たさないと履修できない科目等もあります）。これは「教養科目」とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の方法論を傾けた講義内容を吸収することができます。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて他分野の専門性にもふれ、広い視野や様々な問題意識を身につけてください。

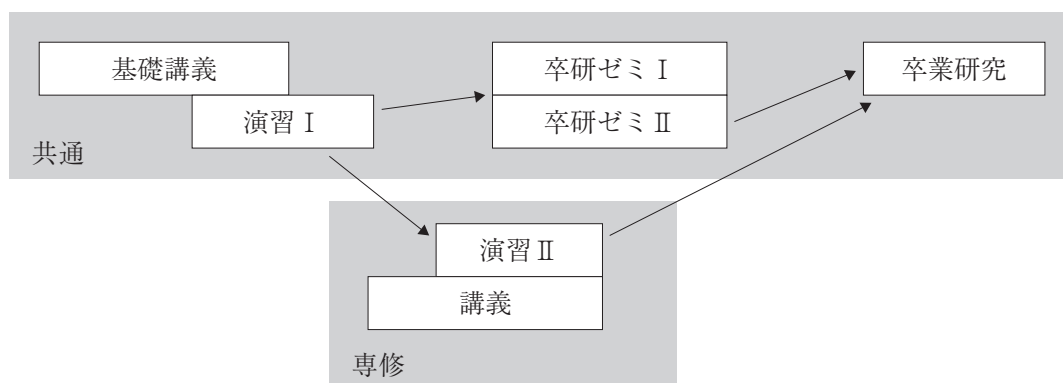
#### ■完成段階 — 卒業研究関連科目 —

「卒研ゼミ」は3年次から受講できますが（3年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「演習Ⅰ」1科目（4単位）をあらかじめ

め単位取得しておかなくてはなりません。3年次終了時にいずれかの「演習Ⅰ」を修得していない場合には、4年次必修の「卒研ゼミⅡ」が受講できないことになります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるので(図2参照)、この点は十分に注意してください。この条件を満たした上で、4年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」を選択し、「卒業研究」をまとめることになります。

「卒業研究」は専修での学びを通じた専門教育の成果という性格をもつものではありませんが、本学科では、これをあえて専修科目に含めず、「共通」の枠組みに入れています。これは、高度な専門性を極める中で、広く応用できる汎用的能力を育てるといふ学科の考え方に基づくものです。一つの専門分野を追求する経験を通じて、職業の場など、生涯の中で出会う様々な専門分野の知識や技能への「アプローチの仕方」、情報社会においてみずから問題を発見し解決してゆくための汎用的能力を鍛え、しっかりと自分のものにしてもらいたいと考えています。

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念



### ■キャリアを見据えた支援 — 学科共通プログラム科目 —

本学科では、専門性を高めたカリキュラムのほかに、将来を見据えたキャリア形成を支援するプログラム—「教員養成プログラム」「資格支援プログラム」「専門研究支援プログラム」「キャリア・リテラシー支援プログラム」—を開設しています。

これは、一般企業への就職を希望する人のみならず、資格取得を目指す人や、大学院進学などを目指す人のために、学科の専門性を活かしながら、進路に応じた力や知識、スキルが身につけられるよう、学科の専任教員が担当して展開する科目群です。卒業要件とはなっていませんが、3年次にこの科目群の中から少なくとも一つのプログラムを選択履修することが義務づけられています。これは、皆さんにキャリア形成への意識を持って学修を進めてもらいたいという狙いがあるためです。

具体的な科目としては、「国語教材研究」「国語科教員採用試験研究」「実用書道」(教員養成プログラム)、「アジアと日本」「文献資料論」(資格支援プログラム)、「論文読解」(専門研究支援)、「実践日本語表現」「コミュニケーションとプレゼンテーション a・b」(キャリア・リテラシー支援)が用意されています。

## ■卒業単位構成

以上の説明をもとに一人ひとりが独自のカリキュラムを設計してください。それによって取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていけばよいのです。

学科専門科目	基礎講義科目 I	日本語学	2 単位以上	計 8 単位以上
		古典文学	2 単位以上	
		近現代文学	2 単位以上	
		日本文化 (漢文学を含む)	2 単位以上	
	演習 I		4 単位以上	
	演習 II		4 単位以上	
	卒業研究ゼミ II		4 単位	
	卒業研究		4 単位	
	選択した専修から		12 単位以上	
選択しない専修から		4 単位以上		
そのほか		8 単位以上		
大学共通科目	教養科目	キリスト教概論	2 単位	計 22 単位以上
		女性とキャリア I	1 単位	
		各区分から	各 2 単位以上 計 8 単位以上	
		そのほか	11 単位以上	
	外国語科目		8 単位以上	
自由選択		46 単位以上		
合計		124 単位以上		

※大学共通科目のうち教養科目は、必修・選択必修・選択単位を含め、32 単位を超えて卒業必要単位に算入することはできない。

※区分「学科共通プログラム科目」は 6 単位まで自由選択単位として算入できる。

※教職に関する科目は、指定された科目のうち 8 単位まで自由選択単位として算入できる。

※他学部学科専門科目及び協定校修得科目（本学教育課程表外の科目）は、合わせて 12 単位まで自由選択単位として算入できる。

## 6. 文化総合学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

文化総合学科のカリキュラムは、「現代社会」と「歴史・思想」の2つの専修からなっています。「現代社会」専修の学問領域は、異文化コミュニケーション、文化人類学、国際関係論、法学、心理学などから構成されています。また、「歴史・思想」専修は、西洋史、日本史、哲学、倫理学、思想史などから構成されています。

これらの専修や学問領域は「コース」ではないので、これらの専修や学問領域にまたがって、自分の履修したい科目を選ぶことができます。文化総合学科では、社会の事象や課題を分析する人文社会科学（高校での「社会科系科目」をイメージして下さい）を数多く配置しており、その中でみなさんが好きなテーマをみつけていけるように設定されているのです。

テーマをみつけ深めていって卒業論文を仕上げるために、さまざまな科目を履修していく過程で自らが研究したいテーマをなるべく早くみつける必要があります。そのために、1年次から基礎的な学問を勉強し、学問の「積み上げ」をしていかなければなりません。

### 2 2つの専修について

#### I 「現代社会」専修

現代の社会と文化について、その制度や心理を含めて多面的に研究します。また、現代社会における異文化間のコミュニケーションのあり方についても研究します。

現代の社会は制度（＝システム）として構成されており、まず、それを研究対象とします。高校でいう「政治・経済」の内容にあたる政治学・法学・経済学・社会学・心理学などの社会科学系の分野がそれに該当します。

異文化コミュニケーションを研究するためには、相応の語学力が必要となりますから、語学学習もしっかりとこないます。またこの研究の性質のため、特定の言語の習得とその言語を用いる国や民族の文化研究をセットにした履修が奨められます。このほか、言語以外の表現（芸術表現や映像による表現など）も研究対象となります。

#### II 「歴史・思想」専修

現代社会と文化をその成り立ちから理解するために、背景や基盤となっている歴史や思想について研究します。

歴史は、高校の「世界史」「日本史」に対応する「西洋史」「日本史」「東洋史」などの科目からなっています。歴史に興味のある人はこの分野を重点的に勉強することになります。しかし、日本史を研究する際にも世界のさまざまな国の歴史を知る必要があります。なお、ここには文化史や宗教史など、特定の事柄を中心とした科目もあります。

思想は、高校の「倫理」の内容に当たる「思想」「宗教」に関する科目から構成されています。具体的には、西洋の哲学、倫理学、思想、宗教を中心として、日本・中国の哲学、思想、宗教を含む古今東西の思想についての科目も用意されています。思想や宗教について深く研究したい人はこの分野を



重点的に勉強することになります。他の学問分野を扱いたいと考えている人も、思想や宗教はそれらの学問分野の基本的部分に関わってくる人が多いですから、必要に応じて選択する場合もあるでしょう。

### 3 科目の区分と履修の心構え

文化総合学科の科目は授業の形態やレベルに応じて、以下のように区分されます。

#### (1) 入門科目

入門科目は各専門分野の入門的な内容を扱う講義形式の授業で、各専門分野に入るに当たって必要な知識や考え方について学びます。これらの科目はどのような専門分野に進むにしても基礎として役に立ちます。その多くは1、2年次に開講されているので、何を研究するかが決まっていなかった人や迷っている人はなるべく多くの入門科目を履修してみるとよいでしょう。

また入門科目を履修するためには、共通科目に配置されている該当の科目を履修することが必要です。(たとえば文化総合学科専門科目で入門科目である「文化人類学入門」を履修するためには、共通科目である「文化人類学」を履修していなければなりません。)

#### (2) 特講科目

特講科目は、一般的で基礎的な入門科目に比べて、より専門的で特殊化された内容を扱います。したがって入門科目をある程度履修して自分の研究したいテーマが少しずつ絞られてきたら、そのテーマに関連した特講科目を履修することになります。これらの科目の多くは、2、3年次に開講されています。

また、特講科目を履修するためには、該当する入門科目を履修することが必要です。

#### (3) 基礎演習

基礎演習は文化総合学科1年生を対象とした科目です。この科目は大学における学問研究の入り口として、どのように研究テーマを選んでいけばよいのか、どのように学んでいけばよいのかを身につけることを目的とします。必要な資料や文献の探し方、レポート作成や研究報告の仕方を、担当教員が具体的、個別的に指導します。教材は、原則として各担当教員の専門分野に関連したものが用いられます。

#### (4) 演習科目

演習科目は2、3年次に開講されている科目です。基礎演習と異なって、各専門分野担当教員の指導のもと、より専門的な内容が扱われます。卒業研究へとつながるテーマを見つけるためには2年次と3年次で連続して同じ専門分野の演習を履修することが望ましいです。しかし、自分の研究テーマが絞りきれない人は、2年次に他の専門分野の演習も履修することは可能です。

#### (5) 卒研演習

卒研演習は自分がこれまで学んできた成果を卒業論文にまとめるための科目です。指導を受けたい教員の卒研演習を履修するためには、少なくとも3年次にその教員の演習を履修しておく必要があります。



#### (6) 卒業論文

卒業研究は研究の成果を論文にまとめ上げることを指します。指導教員と学科の評価を受けて単位が認められます。

#### (7) 他学科の科目

文学部では、原則として所属学科以外の学科専門科目を履修することができます。ただし、なかには受け入れが予定されていない科目や担当教員の許可が必要な科目もありますので、シラバスや当該学科の履修の手引きを参照して下さい。

### 4 科目の区分と構成・履修の流れ

以下、履修に当たっての留意点をまとめておきます。

- ① 基礎演習は文化総合学科1年生の必修科目です。前期・後期の半期科目で、それぞれの担当教員ごとに「基礎演習(A)」(前期)と「基礎演習(B)」(後期)があります。自分の関心にあわせて前期と後期で別々の教員の科目を履修することになります。
- ② 演習科目は2、3年次に開講されており、それぞれの内容は異なるように構成されています。継続して履修すれば、その専門分野についてより深く学べるようになっていきます。専門分野によっては2年次の演習を履修していることが3年次の演習を履修するための条件とされる場合があります。3年次の演習はどの卒研演習を履修するか(どの教員のもとで卒業論文を書くのか)に関わってくるので、そのような場合には2年次演習を選択する際には、ある程度、卒業研究のテーマを想定しておく必要があります。ただし、教員によっては3年次演習のみの履修であっても、卒研演習の履修を認める場合があります。必ず2年次の演習選択時にシラバスなどで確認して下さい。
- ③ 学科が定める卒業のために必要な単位については、文学部の授業科目履修要項で確認して下さい。

### 5 文化総合学科の専任教員

文化総合学科所属の専任教員は以下のとおりです。

石井佑可子	准教授	社会心理学(対人距離化、メタ認知)
石田 晴男	教授	室町・戦国時代の政治社会史の研究
伊藤 明美	教授	異文化コミュニケーション論、英語教育論
上原 賢司	講師	現代の政治理論、グローバル正義論
大矢 一人	教授	占領期の地方教育改革史研究
勝西 良典	講師	近代哲学における諸研究
中田 貢	教授	社会科教育法
野手 修	教授	文化人類学、南アジアの社会変動
平井 孝典	講師	図書館情報学、19世紀フィンランドにおける情報アクセス環境構築の実務
松村 良祐	准教授	中世哲学(トマス・アクィナス、ボナヴェントゥラ)、キリスト教思想
松本あづさ	准教授	近世松前・蝦夷地に関する研究
真鶴 俊喜	教授	立憲主義をめぐる現代日本の諸問題
渡邊 浩	教授	ヨーロッパ中世史、キリスト教史

## 6 4年間の履修モデル

以下、卒論につながる専門分野（学科専任教員が担当する分野）について、大まかな履修モデルを示します。（☆以下の表の科目の履修のみで進級・卒業要件が満たされるわけではありません。進級・卒業要件については、該当項目をしっかりと確認して下さい。）

### 「現代社会」専修

#### 異文化コミュニケーションの履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				異文化コミュニケーション特講 d Eng.for GC d	異文化コミュニケーション演習 d	
	前期				異文化コミュニケーション特講 c Eng.for GC d	異文化コミュニケーション演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にする こと）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		異文化コミュ特講 b 英（米仏）文化論または中韓文化論 b の中から一つ	異文化コミュニケーション演習 b	
	前期				異文化コミュニケーション特講 a 英（米仏）文化史または中韓文化論 a の中から一つ 女性論・映像表現論・造形美術論の中から一つ	異文化コミュニケーション演習 a	
1年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	Eng.for GC b 異文化コミュニケーション論入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	異文化コミュニケーション論		Eng.for GC a		「現代社会」基礎演習 A	

#### 文化人類学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				文化人類学特講 A-d	文化人類学演習 d	
	前期				文化人類学特講 A-c 文化史*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化史のうちどれか一つ）	文化人類学演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にする こと）	外国語科目		文化人類学特講 A-b [身体表現論 造形美術論 韓国文化論 a または b]	文化人類学演習 b	
	前期				文化人類学特講 A-a [映像表現論 音楽社会学 a] 文化論*（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ文化論、中国文化論 a または b のうちどれか一つ 1）	文化人類学演習 a	
1年	後期		外国語科目	文化人類学入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期	文化人類学				「現代社会」基礎演習 B	

## 心理学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				心理学特講 A-d 心理学特講 B-b	心理学演習 d	
	前期				心理学特講 A-c 心理学文献講読 b (女性論 b)	心理学演習 c	
2年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目	統計学入門 (※1年開講科目だが、2年履修を推奨)	心理学特講 A-b 心理学特講 B-a	心理学演習 b	
	前期				心理学特講 A-a 心理学文献講読 a (女性論 a)	心理学演習 a	
1年	後期	心理学 (社会学)	外国語科目	心理学入門 (社会学入門)		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 E	

## 国際関係論の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				国際関係論特講 A-d	国際関係論演習 d	
	前期				国際関係論特講 A-c [音楽社会学 b]	国際関係論演習 c	
2年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		国際関係論特講 A-b、国際関係論特講 B-a [身体表現論 造形美術論]	国際関係論演習 b	
	前期				国際関係論特講 A-a、国際関係論特講 B-a [映像表現論 音楽社会学 a]	国際関係論演習 a	
1年	後期	国際関係論	外国語科目	国際関係論入門		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 D	

## 法学の履修モデル

		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				法学特講 A-b	法学演習 d	
	前期				法学特講 B-b [音楽社会学 b]	法学演習 c	
2年	後期	教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目		法学特講 A-a、法学特講 C-b [身体表現論 造形美術論]	法学演習 b	
	前期				法学特講 B-a 法学特講 C-a [映像表現論 音楽社会学 a]	法学演習 a	
1年	後期	日本国憲法	外国語科目	基礎法学 A、B、C		学科の他の教員の基礎演習	
	前期					「現代社会」基礎演習 C	

# 「歴史・思想」専修

## 日本史の履修モデル

中世		共通科目		入門	講義	演習	その他	
		教養科目	外国語科目					
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究	
	前期							
3年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d		
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c		
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b	日本史演習 B-a 日本史演習 B-b		
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 D	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a		
1年	後期		外国語科目		日本史入門 A 日本史入門 B		学科の他の教員の基 礎演習（ただし、「歴 史・思想」基礎演習 Cが望ましい）	
	前期			日本史 A 日本史 B			「歴史・思想」基礎演 習 B	

近世		共通科目		入門	講義	演習	その他	
		教養科目	外国語科目					
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究	
	前期							
3年	後期				歴史資料論 B 歴史資料論 D	日本史演習 A-d 日本史演習 B-d		
	前期				日本史特講 A-c 日本史特講 B-c	日本史演習 A-c 日本史演習 B-c		
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		日本史特講 A-b 日本史特講 B-b 日本史特講 C-b 歴史・思想専任教員 特講	日本史演習 A-b 日本史演習 B-b		
	前期				日本史特講 A-a 日本史特講 B-a 日本史特講 C-a 歴史・思想専任教員 特講	日本史演習 A-a 日本史演習 B-a		
1年	後期		外国語科目		日本史入門 A 日本史入門 B 旧異文化入門 旧社会と制度入門 旧思想入門		学科の他の教員の基 礎演習（ただし、「歴 史・思想」基礎演習 Bが望ましい）	
	前期			日本史 A 日本史 B			「歴史・思想」基礎演 習 C	

西洋史の履修モデル

前近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				歴史資料論 A、西洋史文献講読 d、法学特講 B-b、古典ギリシア語 b	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 B-b、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 c、古典ギリシア語 a	西洋史演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史文献講読 b、東洋史特講 b、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論、キリスト教文化論 b、ラテン語Ⅱ-a	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 B-a、西洋史特講 C-a、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史、文総特殊講義 b（西洋史）、法学特講 B-a、キリスト教文化論 a、ラテン語Ⅱ-a	西洋史演習 a	
1年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	ラテン語Ⅰ -b、古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	西洋史			ラテン語Ⅰ -a	「歴史・思想」基礎演習 A	

近代		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				歴史資料論 A、西洋史特講 D-b、西洋史文献講読 d、2 [国際関係論特講 A-d、法学特講 B-b]	西洋史演習 d	
	前期				西洋史特講 A-c、西洋史特講 C-b、西洋史文献講読 c、4 [国際関係論特講 A-c、音楽社会学 b、法学特講 A-a]	西洋史演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科所定の履修要件を参考にすること）	外国語科目（英、仏、独が望ましい）		西洋史特講 A-b、西洋史特講 D-a、西洋史文献講読 b、6 [アメリカ文化論、イギリス文化論、フランス文化論、ドイツ文化論]、6 [東洋史特講 a、東洋史特講 b、キリスト教文化論 b、国際関係論特講 A-b、法学特講 A-b、法学特講 C-b、女性論 b]	西洋史演習 b	
	前期				西洋史特講 A-a、西洋史特講 C-a、西洋史文献講読 a、6 [アメリカ文化史、イギリス文化史、フランス文化史、ドイツ文化史]、文総特殊講義 b (西洋史)、6 [キリスト教文化論 a、音楽社会学 a、国際関係論特講 A-a、法学特講 B-a、法学特講 C-a、女性論 a、近世・近代哲学史]	西洋史演習 a	
1年	後期		外国語科目（英、仏、独が望ましい）	西洋史入門、東洋史入門 a、東洋史入門 b	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基礎演習	
	前期	西洋史				「歴史・思想」基礎演習 A	



思想の履修モデル

哲学 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d	哲学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫理学特講 A-b (B-b) 現代哲学史 [身体表現論 造形 美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫理学特講 A-a (B-a) 近世・近代哲学史[映 像表現論 音楽社会 学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基 礎演習	
	前期	哲学 倫理学					「歴史・思想」基礎演 習 D か E

倫理学		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	倫理学演習 d	
	前期				倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c	倫理学演習 c	
2年	後期	その他教養科目（文化総合学科 所定の履修要件を参考にするこ と）	外国語科目		哲学特講 A-b (B-b) 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期				哲学特講 A-a (B-a) 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	学科の他の教員の基 礎演習	
	前期	哲学 倫理学					「歴史・思想」基礎演 習 D か E

思想 [美学]		共通科目		入門	講義	演習	その他
		教養科目	外国語科目				
4年	後期					卒業研究演習	卒業研究
	前期						
3年	後期				哲学特講 A-d 哲学特講 B-d 倫理学特講 A-d 倫理学特講 B-d	哲学演習 d 倫理学演習 d	
	前期				哲学特講 A-c 哲学特講 B-c 倫理学特講 A-c 倫理学特講 B-c [音楽社会学 b]	哲学演習 c 倫理学演習 c	
2年	後期	その他教養科目 (文化総合学科所定の履修要件を参考にすること)			哲学特講 A-b 哲学特講 B-b 倫理学特講 A-b 倫理学特講 B-b 現代哲学史 [身体表現論 造形美術論]	哲学演習 b 倫理学演習 b	
	前期		外国語科目		哲学特講 A-a 哲学特講 B-a 倫理学特講 A-a 倫理学特講 B-a 近世・近代哲学史 [映像表現論 音楽社会学 a]	哲学演習 a 倫理学演習 a	
1年	後期		外国語科目	哲学入門 倫理学入門	古代・中世哲学史	「歴史・思想」基礎演習 E	
	前期	哲学 倫理学	外国語科目			「歴史・思想」基礎演習 D	



# 教育課程表



<2018年度入学生に適用>

大学共通科目

教養科目

区分	科目 No.	授業科目	単位	必修	開講学年・週時数								学科	担当者	シラバス ページ	備考	
					1年前	1年後	2年前	2年後	3年前	3年後	4年前	4年後					
人間と宗教	00901	キリスト教概論	2		2								英	木村 晶子	101	} (夏季集中講義あり) 6科目の中から1科目以上選択必修	
	00902				2								日	松村 良祐	102		
	00903				2								文	阿部 包	103		
	00911	キリスト教と藤女子大学	2	○	2									藤本・下田・阿部・木村・渡邊・川村	104		
	00921	キリスト教人間学A	2	2										木村 晶子	105		
	00931	キリスト教人間学B	2	2										本年度休講			
	00941	聖書概論A	2	2										阿部 包	106		
	00951	聖書概論B	2	2										松村 良祐	107		
	00961	宗教と文化	2	2										本年度休講			
キャリア形成	08281	女性とキャリアⅠ	1		2								英	英 美由紀	108		
	08282				2								日	菅本 康之	109		
	08283				2								文	松村 良祐	110		
	08291	女性とキャリアⅡ	1		2								未定				
	08371	女性と労働	2	2										金 仁子	111		
	08381	女性と法律	2	2										李 妍淑	111		
	08391	ジェンダー論	2	2										木脇奈智子	112		
人間形成	国際理解	02411	文化人類学	2	2									野手 修	113		
		02421	異文化コミュニケーション	2	2									伊藤 明美	114		
		02431	国際関係論	2	2									上原 賢司	115		
		02441	国際理解教育	2	2									池見 真由	116		
	社会	02111	経済学	2	2										神山 義治		
		02121	社会学	2	2										櫻井 義秀		
		02131	日本国憲法	2	2										真鶴 俊喜		116
		02132		2	2										本年度休講		
		02141	心理学	2	2										加藤 弘通		117
		02142		2	2										本年度休講		
		02211	音楽	2	2										相原 啓寿		117
		02221	美術論	2	2										杉浦 篤子		118
	文化	02311	日本語文学	2	2										菅本 康之		119
		02321	英語圏文学	2	2										木村 信一		120
		02331	アジア圏文学	2	2										名畑 嘉則		120
		02341	言語学	2	2										新井 良夫		121
		02351	子ども学	2	2										駒形・新海・今野・小川・高橋・青木		121
	歴史・思想	02611	西洋史	2	2										渡邊 浩		122
		02711	日本史A	2	2										石田 晴男		122
02721		日本史B	2	2										松本あづさ	123		
02811		東洋史	2	2										宮崎 聖明	124		
02851		哲学	2	2										松村 良祐	125		
02861		倫理学	2	2										勝西 良典	126		
03021		環境科学	2	2										江口 久登	127		
人間形成	自然・科学	03031	自然と化学	2	2										本年度休講		
		03041	生命科学	2	2										園山 慶	128	
		03051	数科学	2	2										本年度休講		
		03061	物理学	2	2										木村 信行	129	
		07001	ライフステージ栄養学	2	2										三田村・隈元・池田・村田・菊地	130	
	健康	07011	健康の科学	2	2										藤井 義博	130	
		07021	運動の科学	2	2										蔵満 保幸	131	
		08261			2										中川 喜直	132	
		08262	運動の実践A	1	2										中川 喜直	132	
		08263			2										中川 喜直	132	
		08271			2										中川 喜直	132	
		08272	運動の実践B	1	2										中川 喜直	132	
		08273			2										中川 喜直	132	



区分	科目 No.	授業科目	単位 必修	開講学年・週時数				学科	担当者	シベ ラバ スジ	備考			
				1年 前	1年 後	2年 前	2年 後					3年 前	3年 後	4年 前
リ テ	07501	文章表現	2		2						田代早矢人	133		
	07502				2							田代早矢人		133
	07503				2							高木 維		133
	07504				2							高木 維		133
	07505					2						田代早矢人		134
	07506					2						田代早矢人		134
	07507					2						高木 維		134
	07508					2						高木 維		134
ラ	07801	統計学	2		2						原林 滋子	135		
シ l	07901	情報処理の基礎	1	2							中山理智恵	136		
	08021	情報リテラシーA	2		2						平井 孝典	136		
	08022				2						平井 孝典	136		
	08023				2						谷川 靖郎	136		
	08024				2						谷川 靖郎	136		
	08025			2						平井 孝典	137			
	08026			2						谷川 靖郎	137			
	08051	情報リテラシーB	2		2						平井 孝典	137		
08052				2						谷川 靖郎	137			
08053					2						平井 孝典			
08054					2						谷川 靖郎			
		計	3	88										

外国語科目

<2018年度入学生に適用>

区分	科目 No.	授業科目	単位 必修	開講学年・週時数				学科	A C E	担当者	シベ ラ バ ジ	備考
				1年 前	1年 後	2年 前	2年 後					
英 語	06041	Academic Communication I	1	2					日・文	○ M. J. Murphy	141	*英語文化学科は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修 *日本語・日本文学科は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または2外国語各4単位、8単位以上選択必修 *文化総合学科は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修
	06042			2					日・文	平田 洋子	142	
	06043			2					日・文	平田 洋子	143	
	06044			2					日・文	工藤 雅之	144	
	06051	Academic Communication II	1	2					日・文	○ M. J. Murphy	145	
	06052			2					日・文	平田 洋子	146	
	06053			2					日・文	平田 洋子	147	
	06054			2					日・文	工藤 雅之	148	
	06061	Essential Vocabulary & Grammar	1	2					日・文	工藤 雅之	149	
	06062			2					日・文	工藤 雅之	149	
	06141	Interactive English A	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	150	
	06142			2	2	2	2	2	日・文	P. Reemst	151	
	06143			2	2	2	2	2	日・文	H. E. Creagen	152	
	06151	Interactive English B	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	153	
	06152			2	2	2	2	2	日・文	P. Reemst	154	
	06153			2	2	2	2	2	日・文	H. E. Creagen	155	
	06181	Academic Reading I	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	156	
	06182			2	2	2	2	2	日・文	大木 七帆	157	
	06191	Academic Reading II	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	158	
	06192			2	2	2	2	2	日・文	大木 七帆	159	
	06211	Academic Speaking & Discussion	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	160	
	06212			2	2	2	2	2	日・文	工藤 雅之	161	
	06201	Academic Listening & Note-taking	1	2	2	2	2	2	日・文	○ M. J. Murphy	162	
	06202			2	2	2	2	2	日・文	工藤 雅之	163	
	06341	Academic Vocabulary Development I	1	2	2	2	2	2	日・文	○ 高橋 博	164	
	06351	Academic Vocabulary Development II	1	2	2	2	2	2	日・文	○ 高橋 博	165	
	06361	Grammar for Communication	1	2	2	2	2	2	日・文	○ 高橋 博	166	
	06371	Pronunciation for Communication	1	2	2	2	2	2	日・文	○ 工藤 雅之	167	
	06372			2	2	2	2	2	日・文	本年度休講		
	06381	Academic Skills & Strategies	1		2	2	2	2	英・日・文	○ 未定		
06281	CLIL English A	1	2	2	2	2	2	英・日・文	M. J. Murphy	168		
06291	CLIL English B	1	2	2	2	2	2	英・日・文	工藤 雅之	169		
06301	CLIL English C	1				2	2	英・日・文	未定			
06311	CLIL English D	1				2	2	英・日・文	未定			
06901	Skills for the TOEFL I	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 中津川雅宣	170		
06902			2	2	2	2	2	英・日・文	中津川雅宣	170		
06911	Skills for the TOEFL II	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 中津川雅宣	171		
06912			2	2	2	2	2	英・日・文	中津川雅宣	171		
06921	Skills for IELTS I	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 高橋 博	172		
06931	Skills for IELTS II	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 高橋 博	173		
	留学事前セミナー	1			○			英・日・文	○ 未定			
	留学事後セミナー	1				○		英・日・文	○ 未定			
英 語	06101	Practical English A	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ M. J. Murphy	174	
	06102			2	2	2	2	2	英・日・文	R. G. Potter	175	
	06111	Practical English B	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ M. J. Murphy	176	
	06112			2	2	2	2	2	英・日・文	R. G. Potter	177	
	06121	Practical English C	1	2	2	2	2	2	英・日・文	P. Reemst	178	
	06122			2	2	2	2	2	英・日・文	D. W. Quinn	179	
	06131	Practical English D	1	2	2	2	2	2	英・日・文	P. Reemst	180	
	06132			2	2	2	2	2	英・日・文	D. W. Quinn	181	
	06941	TOEIC Starter A	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 柳澤 将志	182	
	06951	TOEIC Starter B	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 柳澤 将志	183	
	06961	TOEIC Intermediate A	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 柳澤 将志	184	
	06971	TOEIC Intermediate B	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 柳澤 将志	185	
	06981	TOEIC Advanced A	1		2	2	2	2	英・日・文	○ 未定		
	06991	TOEIC Advanced B	1		2	2	2	2	英・日・文	○ 未定		
	06261	English for Global Communication A	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ 工藤 雅之	186	
	06271	English for Global Communication B	1	2	2	2	2	2	英・日・文	○ M. J. Murphy	187	
	06321	English for Global Communication C	1			2	2	2	英・日・文	○ 未定		
	06331	English for Global Communication D	1				2	2	英・日・文	○ 未定		
06391	Writing for Career Success	1				2	2	英・日・文	○ 未定			

区分	科目 No.	授業科目	単位 必修 選択	開講学年・週時数				学科	A C E	担当者	シ ラ バ ス ジ	備 考
				1年 後 前	2年 後 前	3年 後 前	4年 後 前					
ドイツ語	06401	初級ドイツ語 A I	1	2				英・日・文	岡崎 朝美	187		
	06402			2				英・日・文	清水 誠	188		
	06411	初級ドイツ語 A II	1	2				英・日・文	岡崎 朝美	188		
	06412			2				英・日・文	清水 誠	189		
	06421	初級ドイツ語 B I	1	2				英・日・文	荻原 達夫	190		
	06422			2				英・日・文	瀬川 修二	191		
	06431	初級ドイツ語 B II	1	2				英・日・文	荻原 達夫	191		
	06432			2				英・日・文	瀬川 修二	192		
	06441	中級ドイツ語 A I	1		2			英・日・文	岡崎 朝美			
	06451	中級ドイツ語 A II	1			2		英・日・文	岡崎 朝美			
	06461	中級ドイツ語 B I	1		2			英・日・文	荻原 達夫			
	06471	中級ドイツ語 B II	1			2		英・日・文	荻原 達夫			
06481	上級ドイツ語 I	1				2	2	英・日・文	清水 誠			
06491	上級ドイツ語 II	1					2	2	英・日・文	清水 誠		
フランス語	06501	初級フランス語 A I	1	2				英・日・文	小澤 卓哉	193		
	06502			2				英・日・文	尾形 弘人	194		
	06511	初級フランス語 A II	1	2				英・日・文	小澤 卓哉	195		
	06512			2				英・日・文	尾形 弘人	196		
	06521	初級フランス語 B I	1	2				英・日・文	三浦なつみ	197		
	06522			2				英・日・文	竹内 修一	198		
	06531	初級フランス語 B II	1	2				英・日・文	三浦なつみ	199		
	06532			2				英・日・文	竹内 修一	200		
	06541	中級フランス語 A I	1		2			英・日・文	尾形 弘人			
	06551	中級フランス語 A II	1			2		英・日・文	尾形 弘人			
	06561	中級フランス語 B I	1		2			英・日・文	竹内 修一			
	06571	中級フランス語 B II	1			2		英・日・文	竹内 修一			
06581	上級フランス語 I	1				2	2	英・日・文	小澤 卓哉			
06591	上級フランス語 II	1					2	2	英・日・文	小澤 卓哉		
中国語	06601	初級中国語 A I	1	2				英・日・文	邢 玉芝	200		
	06602			2				英・日・文	云 肖梅	201		
	06603			2				英・日・文	森若 裕子	202		
	06604			2				英・日・文	邢 玉芝	203		
	06611	初級中国語 A II	1	2				英・日・文	邢 玉芝	203		
	06612			2				英・日・文	云 肖梅	204		
	06613			2				英・日・文	森若 裕子	205		
	06614			2				英・日・文	邢 玉芝	206		
	06621	初級中国語 B I	1	2				英・日・文	胡 耀光	206		
	06622			2				英・日・文	大沼 尚子	207		
	06623			2				英・日・文	趙 萌	208		
	06624			2				英・日・文	趙 萌	208		
	06631	初級中国語 B II	1	2				英・日・文	胡 耀光	209		
	06632			2				英・日・文	大沼 尚子	210		
	06633			2				英・日・文	趙 萌	211		
	06634			2				英・日・文	趙 萌	211		
	06641	中級中国語 A I	1		2				英・日・文	森若 裕子		
	06642				2				英・日・文	云 肖梅		
	06651	中級中国語 A II	1			2			英・日・文	森若 裕子		
	06652					2			英・日・文	云 肖梅		
	06661	中級中国語 B I	1		2				英・日・文	胡 耀光		
	06662				2				英・日・文	大沼 尚子		
	06671	中級中国語 B II	1			2			英・日・文	胡 耀光		
	06672					2			英・日・文	大沼 尚子		
	06681	上級中国語 I	1				2		英・日・文	胡 慧君		
	06691	上級中国語 II	1					2	英・日・文	胡 慧君		
	06701	中国語実践演習 A	2		2	2	2		英・日・文	森若 裕子		
06711	中国語実践演習 B	2			2	2	2	英・日・文	森若 裕子			
06721	中国語文献読解演習 A	2		2	2	2		英・日・文	胡 慧君			
06731	中国語文献読解演習 B	2			2	2	2	英・日・文	胡 慧君			

区分	科目 No.	授業科目	単位 必修 選択	開講学年・週時数				学科	A C E	担当者	シ ベ ラ バ ス ジ	備 考
				1年 前 後	2年 前 後	3年 前 後	4年 前 後					
韓国語	06741	初級韓国語 A I	1	2				英・日・文	鄭 斗鎬	212		
	06742			2				英・日・文	鄭 斗鎬	212		
	06743			2				英・日・文	芳賀 恵	213		
	06751	初級韓国語 A II	1	2				英・日・文	鄭 斗鎬	214		
	06752			2				英・日・文	鄭 斗鎬	214		
	06753			2				英・日・文	芳賀 恵	215		
	06761	初級韓国語 B I	1	2				英・日・文	金 昌九	216		
	06762			2				英・日・文	金 昌九	217		
	06763			2				英・日・文	金 京愛	218		
	06771	初級韓国語 B II	1	2				英・日・文	金 昌九	219		
	06772			2				英・日・文	金 昌九	220		
	06773			2				英・日・文	金 京愛	221		
	06781	中級韓国語 A I	1		2			英・日・文	芳賀 恵			
	06782				2			英・日・文	金 昌九			
	06791	中級韓国語 A II	1			2		英・日・文	芳賀 恵			
	06792					2		英・日・文	金 昌九			
	06801	中級韓国語 B I	1		2			英・日・文	金 昌九			
	06802				2			英・日・文	金 京愛			
06811	中級韓国語 B II	1			2		英・日・文	金 昌九				
06812					2		英・日・文	金 京愛				
韓国語	06821	上級韓国語 I	1			2		英・日・文	金 昌九			
	06831	上級韓国語 II	1				2	英・日・文	金 昌九			
	06841	韓国語実践演習 A	2		2	2	2	英・日・文	宋 美蘭			
	06851	韓国語実践演習 B	2		2	2	2	英・日・文	宋 美蘭			
	06861	韓国語文献読解演習 A	2		2	2	2	英・日・文	宋 美蘭			
	06871	韓国語文献読解演習 B	2		2	2	2	英・日・文	宋 美蘭			
海外語学研修	01001	海外語学研修 A	2	○	○	○	○	英・日・文				
	01011	海外語学研修 B	2	○	○	○	○	英・日・文				
	01021	海外語学研修 C	2	○	○	○	○	英・日・文				
	01051	海外語学研修 D	1	○	○	○	○	英・日・文				
	01061	海外語学研修 E	1	○	○	○	○	英・日・文				
	01071	海外語学研修 F	1	○	○	○	○	英・日・文				
留学生日本語科目	R0111	日本語（口頭表現Ⅰ）	2	4					富田麻知子	225	留学生対象	
	R0121	日本語（口頭表現Ⅱ）	2	4					富田麻知子	225		
	R0021	日本語（読解）	1	2					和田 衣世	226		
	R0131	日本語（文章表現Ⅰ）	1	2					平塚 真理	226		
	R0141	日本語（文章表現Ⅱ）	1	2					和田 衣世	227		
	R0151	日本語（総合 A）	1	2					延与由美子	227		
	R0161	日本語（総合 B）	1	2					副田恵理子	228		
	計		117									

※協定校・指定校短期語学研修は1～3年生対象

学科・英＝英語文化学科  
 ・日＝日本語・日本文学科  
 ・文＝文化総合学科

文学部オープン科目

区分	科目 No.	授 業 科 目	単 位 必 修	開講学年・週時数				担当者	シ ラ バ ス	備 考
				1年 前	2年 前	3年 後	4年 後			
キ リ ス ト 教 学 専 修	講 義 科 目	キリスト教学特殊講義 a	2		2	2			* a・b、c・dは隔年開講。 *キリスト教学専修を選択して卒業研究を履修する場合は4単位以上選択必修。	
		キリスト教学特殊講義 b	2			2	2			
		キリスト教学特殊講義 c	2		2	2				
		キリスト教学特殊講義 d	2			2	2			
	演 習 科 目	キリスト教学演習 a	2		2	2			* a・b、c・dは隔年開講。 *キリスト教学専修を選択して卒業研究を履修する場合は4単位以上選択必修。	
		キリスト教学演習 b	2			2	2			
		キリスト教学演習 c	2		2	2				
		キリスト教学演習 d	2			2	2			
卒 業 研 究 演 習 関 連 科 目	卒 業 研 究 演 習	4					2	2		
	卒 業 研 究	4						○		
		計	8	16						

英語文化学科専門科目

専修	区分	他受 学入 部 れ	他受 学入 科 れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開 講 学 年 ・ 週 時 数								シ ベ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー				備 考				
						必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年			ク ラ ス	担 当 者	1	2		3	4		
								前	後	前	後	前	後	前	後										
共 通 目	学 科	×	×	18011 18012	Grammar I	0.5		1							A	山木戸浩子	231	○	○						
								1								B	山木戸浩子								
		×	×	18021 18022	Grammar II	0.5			1							A	山木戸浩子	232	○	○					
									1							B	山木戸浩子								
		×	×	11051 11052	Grammar III	0.5				1															
										1															
		×	×	11061 11062	Grammar IV	0.5					1														
											1														
		×	×	18031 18032 18033 18034	Writing I	0.5			1							A I・II A III・IV	C. Mueller H. Creagen	233		○					
									1							B I・II B III・IV	C. Mueller H. Creagen								
		×	×	18041 18042 18043 18044	Writing II	0.5				1						A I・II A III・IV B I・II B III・IV	C. Mueller H. Creagen C. Mueller H. Creagen	233		○					
											1														
	×	×	15001 15002 15003 15004	The Art of Writing I	1					2															
										2															
	×	×	15011 15012 15013 15014	The Art of Writing II	1						2														
											2														
	×	×	11131 11132 11133 11134 11135 11136 11137 11138	Oral English I a	1										A I A II A III A IV	S. A. Greig J. Redlich D. Hampton G. Potter	234		○				45分授業週 2回		
															B I B II B III B IV	S. A. Greig J. Redlich D. Hampton G. Potter									
	×	×	11141 11142 11143 11144 11145 11146 11147 11148	Oral English I b	1										A I A II A III A IV	C. Mueller S. A. Greig A. Mallock Y. Eddine	235		○				45分授業週 2回		
															B I B II B III B IV	C. Mueller S. A. Greig A. Mallock Y. Eddine									
	×	×	11151 11152 11153 11154 11155 11156 11157 11158	Oral English II a	1										A I A II A III A IV	S. A. Greig J. Redlich D. Hampton G. Potter	236		○				45分授業週 2回		
															B I B II B III B IV	S. A. Greig J. Redlich D. Hampton G. Potter									
	×	×	11161 11162 11163 11164 11165 11166 11167 11168	Oral English II b	1										A I A II A III A IV	C. Mueller S. A. Greig A. Mallock Y. Eddine	237		○				45分授業週 2回		
															B I B II B III B IV	C. Mueller S. A. Greig A. Mallock Y. Eddine									
×	×	15021 15022 15023 15024 15025 15026 15027 15028	Oral English III	1																					

2018年度入学生  
教育課程表



専修	区分	他受 取入 部	他受 取入 科	科目No.	授 業 科 目	単 位		開 講 学 年 ・ 週 時 数								シラ バス	ディプロマ・ポリシー				備 考																															
						必修	選択	1年		2年		3年		4年			クラス	担当者	1	2		3	4																													
								前	後	前	後	前	後	前	後																																					
共 通 基 礎 科 目	学 科	×	×	15031	Oral EnglishⅣ	1					2																																									
				15032							2																																									
				15033							2																																									
				15034							2																																									
				15035							2																																									
				15036							2																																									
				15037							2																																									
	15038			2																																																
		科	×	×	15041	Reading I	1			2						A	木村 信一 岡本 晃幸 大桃 陶子 三浦 順子	238	○	○																																
	15042				2									B																																						
	15043				2									C																																						
	15044				2									D																																						
		基	×	×	15051	Reading II	1				2					A	木村 信一 岡本 晃幸 大桃 陶子 三浦 順子	239	○	○																																
	15052				2									B																																						
	15053				2									C																																						
	15054				2									D																																						
		礎	×	×	15061	ReadingⅢ	1					2																																								
	15062										2																																									
	15063										2																																									
	15064										2																																									
		科	×	×	15071	ReadingⅣ	1						2																																							
15072										2																																										
15073										2																																										
15074										2																																										
	目	×	×	18161	Voice & Articulation I	0.5			1						A	新井 良夫 新井 良夫	240	○																																		
18162				1									B																																							
		目	×	×	18171	Voice & Articulation II	0.5				1					A	新井 良夫 新井 良夫	240	○																																	
18172					1									B																																						
	目	×	×	11251	Vocabulary Building I	0.5			1						A	井筒美津子 井筒美津子	241	○																																		
11252				1									B																																							
	目	×	×	11261	Vocabulary Building II	0.5				1					A	井筒美津子 井筒美津子	241	○																																		
11262				1									B																																							
	目	×	×	11271	Strategies for Listening I	0.5					1																																									
11272										1																																										
	目	×	×	11281	Strategies for Listening II	0.5						1																																								
11282										1																																										
文 学 ・ 文 化 専 修	専 門 講 読 科 目	△	○	11331	文学・文化講読 A - a	1					2	2																																								
				11341							2	2																																								
				11351							2	2																																								
				11361							2	2																																								
				11371							2	2																																								
				11381							2	2																																								
				11391							2	2																																								
				11401							2	2																																								
				11731							2	2																																								
				11741							2	2																																								
				11751							2	2																																								
				11761							2	2																																								
共 通 目	目	△	○	11771	言語・コミュニケーション講読 C - a	1					2	2																																								
				11781							2	2																																								
				11791							2	2																																								
				11801							2	2																																								
				11911							2	2																																								
				11921							2	2																																								
				11931							2	2																																								
				11941							2	2																																								
				11951							2	2																																								
				11961							2	2																																								
文 学 ・ 文 化 専 修	基 礎 演 習 科 目	△	△	12121	文学・文化基礎演習 A	2			2							大桃 陶子 大桃 陶子 岡本 晃幸 岡本 晃幸 木村 信一 木村 信一	242 243 244 245 246	○	○	○	○																															
				12122							2																																									
				12131							2																																									
				12132							2																																									
				12141							2																																									
12142			2																																																	

4科目4単位選  
択必修  
(うち、文学・文  
化専修は文学・言  
語・コミュニケー  
ション専修は言  
語・コミュニケー  
ション区分から、  
それぞれ、2科目  
2単位選択必修)

\* Advanced  
Reading A、B、  
C、Dは、それ  
ぞれ、国際教養  
講義A、B、C、  
Dと組み合わ  
せて履修する  
ことが望まし  
い。

1科目2単  
位以上  
選択必修

専修	区分	他受 入部	他受 入学 科	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								シラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー				備 考	
						必修	選択	1年		2年		3年		4年			1	2	3	4		
								前	後	前	後	前	後	前	後							知識・ 理解
文学・文化専修	基礎演習科目	△	△	12151 12152	文学・文化基礎演習 D	2		2								英 美由紀 英 美由紀	247	○	○	○	○	1科目2単 位以上 選択必修
		△	△	12161 12162	文学・文化基礎演習 E	2		2								J. Redlich J. Redlich	248 249	○	○	○	○	
		△	△	12231 12232	言語・コミュニケーション基礎演習 A	2		2								井筒美津子 井筒美津子	250	○	○	○	○	
		△	△	12241 12242	言語・コミュニケーション基礎演習 B	2		2								對馬 康博 對馬 康博	251 252	○	○	○	○	
		△	△	12251 12252	言語・コミュニケーション基礎演習 C	2		2								C. Mueller C. Mueller	253 254	○	○	○	○	
		△	△	12261 12262	言語・コミュニケーション基礎演習 D	2		2								山本戸浩子 山本戸浩子	255 256	○	○	○	○	
		△	△	12271 12272	言語・コミュニケーション基礎演習 E	2		2								本年度休講 本年度休講						
		文学・文化専修	講義	△	○	12351	英語圏文学概論 a	2	2		2		2				大桃 陶子	257	○		○	
△	○			12361	英語圏文学概論 b	2		2		2					岡本 晃幸	258	○		○	○		
△	○			12371	英 文 学 史 a	2			2		2											
△	○			12381	英 文 学 史 b	2				2		2										
△	○			12391	米 文 学 史 a	2				2		2										
△	○			12401	米 文 学 史 b	2					2	2										
△	○			12421	英語圏文学研究 a	2				2		2										
△	○			12431	英語圏文学研究 b	2					2	2										
△	○			12471	英語圏文学講義 A	2					2	2										
△	○			12481	英語圏文学講義 B	2						2										
△	○			12491	英語圏文学講義 C	2						2										
△	○			12531	英語圏文化概論 a	2	2			2						宮下 雅年	259	○		○	○	
△	○			12541	英語圏文化概論 b	2		2			2					宮下 雅年	260	○		○	○	
△	○			12551	英語圏文化研究 a	2				2		2										
△	○			12561	英語圏文化研究 b	2					2	2										
△	○			12581	英語圏文化講義 A	2					2	2										
△	○	12591	英語圏文化講義 B	2						2												
△	○	12601	英語圏文化講義 C	2						2												
言語・コミュニケーション専修	科目	△	○	15951	英語学概論 a	2	2		2						對馬 康博	261	○		○	○	文学・文化専修 は2科目4 単位選択必修 言語・コミュニ ケーション専 修は4科目8 単位選択必修	
		△	○	15961	英語学概論 b	2		2		2					對馬 康博	262	○		○	○		
		△	○	15971	言語学概論 a	2	2			2						山本戸浩子	263	○		○		○
		△	○	15981	言語学概論 b	2		2		2						山本戸浩子	263	○		○		○
		△	○	15991	英語史 a	2					2	2										
		△	○	16001	英語史 b	2						2	2									
		△	○	12601	英語学研究 a	2				2		2										
		△	○	12611	英語学研究 b	2					2	2										
		△	○	12621	コミュニケーション概論 a	2	2			2		2				井筒美津子	264	○		○		○
		△	○	12631	コミュニケーション概論 b	2		2		2		2				井筒美津子	264	○		○		○
		△	○	12641	コミュニケーション研究 a	2				2		2										
		△	○	12651	コミュニケーション研究 b	2					2	2										
		△	○	16071	英語学講義 A	2				2		2										
		△	○	16081	英語学講義 B	2					2	2										
		△	○	16101	言語学講義 A	2					2	2										
		△	○	16111	言語学講義 B	2						2										
共通	目	△	○	12701	国際教養講義 A	2				2		2									1科目2単位選択必修 *国際教養講義 A、B、 C、Dは、それぞれ、 Advanced Reading A、B、C、Dと組み 合わせて履修するこ とが望ましい	
		△	○	12711	国際教養講義 B	2					2		2									
		△	○	12721	国際教養講義 C	2						2		2								
		△	○	12731	国際教養講義 D	2							2	2								
		△	○	12741	国際教養講義 E	2								2	2							
		△	○	12751	国際教養講義 F	2									2	2						
		△	○	16151	特殊講義 a	2																
		△	○	16161	特殊講義 b	2																
共通	実践英語科目	△	○	12801	翻訳ワークショップA-a	1					2		2								隔年開講 2019年度は Bを開講	
		△	○	12811	翻訳ワークショップA-b	1						2		2								
		△	○	12821	翻訳ワークショップB-a	1						2		2								
		△	○	12831	翻訳ワークショップB-b	1							2	2								
		△	○	12841	通訳ワークショップA-a	1							2	2								
		△	○	12851	通訳ワークショップA-b	1								2	2							
		△	○	12861	通訳ワークショップB-a	1									2	2						
		△	○	12871	通訳ワークショップB-b	1										2	2					

専修	区分	他受 学入 部れ	他受 学入 科れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								シラ バ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー				備 考													
						必修	選択	1年		2年		3年		4年			1	2	3	4														
								前	後	前	後	前	後	前	後																			
共 英 語	実践 英 語	×	×	12901	児童英語入門	2		2		2								山本戸浩子	265	○	○													
		×	×	16731	児童英語 a	1				○		○		○																集中講義 隔年開講 2019年度はbを開講				
		×	×	16741	児童英語 b	1					○		○		○																			
		×	×	12911	児童英語活動 I	1			2		2		2							柴野しおり	265	○	○											
		×	×	12921	児童英語活動 II	1				2		2		2																「児童英語活動 I」を履修した 学生のみ受講可				
		×	×	12931	児童英語実習 a	1					2		2		2																			
	通 科 目	イン グ リ ッ シ ュ ・ ス キ ル ズ	△	○	14311	English Discussion & Presentation a	1			2																								
			△	○	14321	English Discussion & Presentation b	1				2																							
			△	○	14331	English Discussion & Presentation c	1					2		2																				
			△	○	14341	English Discussion & Presentation d	1						2		2																			
			△	○	14351	English Discussion & Presentation e	1							2		2																		
			△	○	14361	English Discussion & Presentation f	1								2		2																	
			△	○	14371	English Discussion & Presentation g	1								2		2																	
			△	○	14381	English Discussion & Presentation h	1									2		2																
			△	○	14391	English Discussion & Presentation i	1										2		2															
△			○	14411	English Discussion & Presentation j	1											2		2															
△			○	14421	English Discussion & Presentation k	1												2		2														
△			○	14431	English Discussion & Presentation l	1													2		2													
文 学 ・ 文 化 専 修			演 習	△	△	14601	文学・文化演習 A - a	2				2		2																				
				△	△	14611	文学・文化演習 A - b	2					2		2																			
				△	△	14621	文学・文化演習 A - c	2					2		2																			
	△	△		14631	文学・文化演習 A - d	2						2		2																				
	△	△		14641	文学・文化演習 B - a	2					2		2																					
	△	△		14651	文学・文化演習 B - b	2						2		2																				
	△	△		14661	文学・文化演習 B - c	2					2		2																					
	△	△		14671	文学・文化演習 B - d	2						2		2																				
	△	△		14681	文学・文化演習 C - a	2					2		2																					
	△	△		14691	文学・文化演習 C - b	2						2		2																				
	△	△		14701	文学・文化演習 C - c	2						2		2																				
	△	△		14711	文学・文化演習 C - d	2							2		2																			
	△	△		14721	文学・文化演習 D - a	2					2		2																					
	△	△		14731	文学・文化演習 D - b	2						2		2																				
	言 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 専 修	科 目		△	△	14741	文学・文化演習 D - c	2					2		2																			
△			△	14751	文学・文化演習 D - d	2						2		2																				
△			△	14761	文学・文化演習 E - a	2					2		2																					
△			△	14771	文学・文化演習 E - b	2						2		2																				
△			△	14781	文学・文化演習 E - c	2						2		2																				
△			△	14791	文学・文化演習 E - d	2							2		2																			
△			△	14801	言語・コミュニケーション演習 A - a	2					2		2																					
△			△	14811	言語・コミュニケーション演習 A - b	2						2		2																				
△			△	14821	言語・コミュニケーション演習 A - c	2							2		2																			
△			△	14831	言語・コミュニケーション演習 A - d	2								2		2																		
△			△	14841	言語・コミュニケーション演習 B - a	2							2		2																			
△			△	14851	言語・コミュニケーション演習 B - b	2								2		2																		
△			△	14861	言語・コミュニケーション演習 B - c	2								2		2																		
△			△	14871	言語・コミュニケーション演習 B - d	2									2		2																	
△			△	14881	言語・コミュニケーション演習 C - a	2									2		2																	
△	△	14891	言語・コミュニケーション演習 C - b	2										2		2																		
△	△	14901	言語・コミュニケーション演習 C - c	2											2		2																	
△	△	14911	言語・コミュニケーション演習 C - d	2												2		2																
△	△	14921	言語・コミュニケーション演習 D - a	2												2		2																
△	△	14931	言語・コミュニケーション演習 D - b	2													2		2															
△	△	14941	言語・コミュニケーション演習 D - c	2														2		2														
△	△	14951	言語・コミュニケーション演習 D - d	2															2		2													
△	△	14961	言語・コミュニケーション演習 E - a	2																2		2												
△	△	14971	言語・コミュニケーション演習 E - b	2																	2		2											
△	△	14981	言語・コミュニケーション演習 E - c	2																		2		2										
△	△	14991	言語・コミュニケーション演習 E - d	2																			2		2									

2科目2単位選択必修

隔年開講

文学・文化演習A～Eは「言語・コミュニケーション演習」を、それぞれ4科目8単位選択必修  
キリスト教専修は、「演習科目」の区分から2科目4単位選択必修

専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								シラバス	ディプロマ・ポリシー				備考				
						必修	選択	1年		2年		3年		4年			クラス	担当者	1 知識・理解	2 分析的思考 コミュニケーション 能力		3 社会的 表現力 問題の 発見	4 専門性		
								前	後	前	後	前	後	前	後										
卒業 研究 関連 科目	×	×	17161	Academic Writing I	1						2														
			17162								2														
			17163											2											
			17164												2										
			17165													2									
	×	×	17171	Academic Writing II	1							2													
			17172									2													
			17173											2											
			17174												2										
			17175													2									
	×	×	15361	Advanced Writing a	1									2											
			15362											2											
			15363													2									
			15364														2								
			15365															2							
			15366																2						
			15367																	2					
	15368																2								
	×	×	15371	Advanced Writing b	1										2										
			15372														2								
15373																		2							
15374																			2						
15375																				2					
15376																					2				
15377																						2			
15378																			2						
×	×	14031	卒業研究演習	4								2	2												
		14032										2	2												
		14033											2	2											
		14034												2	2										
		14035													2	2									
		14036														2	2								
		14037															2	2							
		14038																2	2						
14039															2	2									
×	×	17201	卒業研究	4																					
計						28	258																		

\*他学部、他学科受入 → ○印は受講可  
 ×印は受講不可  
 △印は担当者の承諾が必要

# 児童英語プログラム

## 「児童英語プログラム」開設科目

〈2018年度入学生に適用〉

2018年度入学生  
教育課程表

小学校英語指導者認定協議会共通カリキュラムでの表示		資格必修	本学における開講科目	単位数	備考
「児童英語プログラム」必修科目	・言語習得の理解 ・小学校英語（活動型）の指導法 ・小学校英語（活動型・教科型）の指導技術	◎	児童英語入門	2	
	・小学校英語（教科型）の指導法 ・小学校英語（活動型・教科型）の指導技術	◎	児童英語 a	1	集中講義 （隔年開講）
	「児童英語 a」に同じ	◎	児童英語 b	1	集中講義 （隔年開講）
	・小学校英語（活動型・教科型）の目的と意義 ・小学校英語（活動型）の指導法 ・小学校英語（教科型）の指導法 ・小学校英語（活動型・教科型）の指導技術	◎	児童英語活動 I	2	
	・小学校英語（活動型・教科型）の授業計画 ・小学校英語（活動型・教科型）の指導技術 ・小学校英語（活動型・教科型）における評価の観点と評価基準	◎	児童英語活動 II	2	
		◎	Grammar I	0.5	
		◎	Grammar II	0.5	
		◎	Grammar III	0.5	
		◎	Grammar IV	0.5	
		◎	Writing I	0.5	
		◎	Writing II	0.5	
		◎	The Art of Writing I	1	
		◎	The Art of Writing II	1	
		◎	Oral English I a	1	
		◎	Oral English I b	1	
		◎	Oral English II a	1	
		◎	Oral English II b	1	
		◎	Oral English III	1	
		◎	Oral English IV	1	
		◎	Reading I	1	
		◎	Reading II	1	
		◎	Reading III	1	
		◎	Reading IV	1	
	◎	Voice & Articulation I	0.5		
	◎	Voice & Articulation II	0.5		
	◎	Vocabulary Building I	0.5		
	◎	Vocabulary Building II	0.5		
	◎	Strategies for Listening I	0.5		
	◎	Strategies for Listening II	0.5		
選択科目			児童英語実習 a	1	変則開講（2年置き） 2019年度 a、b 2020年度 c、d 2021年度 e、f  実習指導（週1コマ分） を含めて1単位とする。
			児童英語実習 b	1	
			児童英語実習 c	1	
			児童英語実習 d	1	
			児童英語実習 e	1	
			児童英語実習 f	1	
資格取得のための最低単位数				26	

◎印 「小学校英語準認定指導者」資格必修

※「小学校英語指導者」は J-SHINE（小学校英語指導者認定協議会）認定資格。

〈2015～2017 年度入学生に適用〉

小学校英語指導者認定協議会共通カリキュラムでの表示		資格 必修	本学における開講科目	単位数	備 考
「児童英語プログラム」必修科目	・小学校外国語（英語）活動の指導法 ・教室運営 ・小学校外国語（英語）活動の具体案作成 ・小学校外国語（英語）活動の指導技術	◎	児童英語 a	1	集中講義 (隔年開講)
	・小学校外国語（英語）活動の指導法 ・教室運営 ・小学校外国語（英語）活動の具体案作成 ・小学校外国語（英語）活動の指導技術	◎	児童英語 b	1	集中講義 (隔年開講)
	・小学校外国語（英語）活動の指導法 ・小学校外国語（英語）活動の具体案作成 ・小学校外国語（英語）活動の指導技術	◎	児童英語活動 I	2	
	・小学校外国語（英語）活動の目的と意義 ・小学校外国語（英語）活動の指導法 ・教室運営 ・小学校外国語（英語）活動の具体案作成 ・外国語（英語）活動における評価の観点と評価基準 ・小学校外国語（英語）活動の指導技術	◎	児童英語活動 II	2	
		◎	Grammar I	0.5	
		◎	Grammar II	0.5	
		◎	Writing I	0.5	
		◎	Writing II	0.5	
		◎	The Art of Writing I	1	
		◎	The Art of Writing II	1	
		◎	Oral English I	2	
		◎	Oral English II	2	
		◎	Oral English III	1	
		◎	Oral English IV	1	
		◎	Reading I	1	
		◎	Reading II	1	
		◎	Reading III	1	
		◎	Reading IV	1	
		◎	Voice & Articulation I	0.5	
		◎	Voice & Articulation II	0.5	
	◎	Listening I	0.5		
	◎	Listening II	0.5		
選択科目			コミュニケーション概論 a	2	
	国際理解の視点	◎	コミュニケーション概論 b	2	
			英語学概論 a	2	
	言語獲得の基礎	◎	英語学概論 b	2	
			言語学概論 a	2	
			言語学概論 b	2	
			英語学研究 a	2	
			英語学研究 b	2	
資格取得のための最低単位数				26	

◎印 「小学校英語指導者」資格必修

※「小学校英語指導者」は J-SHINE（小学校英語指導者認定協議会）認定資格。

日本語・日本文学科専門科目

専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位 必修	選択	開講学年・週時数								担当者	シ ペ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー					備 考
								1年		2年		3年		4年				1	2	3	4	5	
								前	後	前	後	前	後	前	後			情報リテ1	思考力	表現力	コミュニケーション	専門性	
共 義 科 目 I	基	△	○	24461	日本語学 A - a	2	2	2						漆崎 正人	269	○				○	* 2年次終了の時点で、日本語学、古典文学、近現代文学、日本文化（漢文学を含む）の4分野から各2単位以上、計8単位以上を履修しておかなければならない。（選択必修）  * 基礎講義科目 I は原則として前期・後期のいずれかしか履修できないが、日本語学 A は a・b 継続履修が望ましい。  * 3・4年次で履修する場合は担当教員の承諾を必要とする。  * 漢文学は国語科教免必修。国語科教免履修者は a・b 履修が必要。		
			○	24471	日本語学 A - b	2	2	2						漆崎 正人	270	○				○			
			○	24481 24482	日本語学 B	2	2	2							揚妻 祐樹 揚妻 祐樹	271	○					○	
			○	24491 24492	日本語学 C	2	2	2							阿部 二郎 阿部 二郎	272	○					○	
			○	24501 24502	古典文学 A	2	2	2							本年度休講 小山 清文	273	○					○	
	○	24511 24512	古典文学 B	2	2	2							本年度休講 平田 英夫	273	○				○				
	○	24521 24522	古典文学 C	2	2	2							本年度休講 本年度休講		○				○				
	○	24531 24532	近現代文学 A	2	2	2							本年度休講 本年度休講	274	○				○				
	○	24541 24542	近現代文学 B	2	2	2							種田和加子 種田和加子	275 276	○				○				
	○	24551 24552	近現代文学 C	2	2	2							宮崎 靖士 本年度休講	277	○				○				
	○	24561 24562	日本文化 A	2	2	2							本年度休講 水口 幹記	278	○				○				
	○	24571 24572	日本文化 B	2	2	2							菅本 康之 本年度休講	279	○				○				
	○	24581 24582	日本文化 C	2	2	2							諸岡 卓真 諸岡 卓真	280	○				○				
	○	24591	日本文化 D	2	2	2							本年度休講										
	○	24601	日本文化 E	2	2	2							本年度休講										
	○	24611	漢文学 a	2	2	2							名畑 嘉則	281									
	○	24621	漢文学 b	2	2	2							名畑 嘉則	282									
	基 礎 講 義 科 目 II	×		×	23361	日本語表現法 A - a	2	2						山本 貴昭	283	○		○		○		* 日本語表現法 A は国語科教免専用。国語科教免履修者は a・b 履修が必要。 * 日本語表現法 B は国語科教免履修以外の人専用。	
				×	23371	日本語表現法 A - b	2	2						山本 貴昭	283	○		○		○			
				○	23381	日本語表現法 B - a	2	2							井上 貴翔	284	○		○				○
○				23391	日本語表現法 B - b	2	2							井上 貴翔	284	○		○		○			
△			○	24631	日本語学概論 a	2	2	2						吉見 孝夫	285	○				○	* 日本語学概論は国語科教免必修。国語科教免履修者は a・b 履修が必要。  * a は古代～近世の文学および文学史の概観。b は近現代の文学および文学史の概観。国語科教免必修。国語科教免履修者は a・b 履修が必要。		
			○	24641	日本語学概論 b	2	2	2						吉見 孝夫	285	○				○			
			○	24651	日本文学概論 a	2	2	2						水口 幹記	286	○				○			
○	24661	日本文学概論 b	2	2	2						関谷 博	286	○				○						
○	23401	古文読解	2	2	2							小山 清文	287	○					○				

2018年度入学生  
教育課程表



専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								担当者	シラバス	ディプロマ・ポリシー					備考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 情報リテ ラシー	2 思考力	3 表現力	4 コミュニケーション	5 専門性	
								前	後	前	後	前	後	前	後								
日 本 語 講 義 専 修					日本語学研究A-a	2			2		2			2		未定		○	○			○	* 4 単位以上選択必修。
					日本語学研究A-b	2			2		2			2		未定		○	○			○	
					日本語学研究B-a	2			2		2			2		揚妻 祐樹		○	○			○	
					日本語学研究B-b	2			2		2			2		揚妻 祐樹		○	○			○	
					日本語学研究C-a	2			2		2			2				○	○			○	
					日本語学研究C-b	2			2		2			2				○	○			○	
					日本語学研究D-a	2			2		2			2				○	○			○	
					日本語学研究D-b	2			2		2			2				○	○			○	
					日本語学研究E-a	2			2		2			2				○	○			○	
					日本語学研究E-b	2			2		2			2				○	○			○	
					古典学研究A-a	2			2		2			2		小山 清文		○	○			○	
					古典学研究A-b	2			2		2			2		小山 清文		○	○			○	
					古典学研究B-a	2			2		2			2		平田 英夫		○	○			○	
					古典学研究B-b	2			2		2			2		平田 英夫		○	○			○	
					古典学研究C-a	2			2		2			2		山本 綏子		○	○			○	
					古典学研究C-b	2			2		2			2		山本 綏子		○	○			○	
					古典学研究D-a	2			2		2			2				○	○			○	
					古典学研究D-b	2			2		2			2				○	○			○	
					古典学研究E-a	2			2		2			2				○	○			○	
					古典学研究E-b	2			2		2			2				○	○			○	
					近現代学研究A-a	2			2		2			2		関谷 博		○	○			○	
					近現代学研究A-b	2			2		2			2		関谷 博		○	○			○	
					近現代学研究B-a	2			2		2			2		種田和加子		○	○			○	
					近現代学研究B-b	2			2		2			2		種田和加子		○	○			○	
				近現代学研究C-a	2			2		2			2				○	○			○		
				近現代学研究C-b	2			2		2			2				○	○			○		
				近現代学研究D-a	2			2		2			2				○	○			○		
				近現代学研究D-b	2			2		2			2				○	○			○		
日 本 文 化 専 修					日本思想史Ⅰ	2			2		2		2		本年度休講		○	○			○	* 4 単位以上選択必修。	
					日本思想史Ⅱ	2			2		2		2		菅本 康之		○	○			○		
					日本文化論A-a	2			2		2		2		水口 幹記		○	○			○		
					日本文化論A-b	2			2		2		2		水口 幹記		○	○			○		
					日本文化論B-a	2			2		2		2		菅本 康之		○	○			○		
					日本文化論B-b	2			2		2		2		本年度休講		○	○			○		
					日本文化論C-a	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論C-b	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論D-a	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論D-b	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論E-a	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論E-b	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論F-a	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化論F-b	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化とアジアA-a	2			2		2		2		名畑 嘉則		○	○			○		
					日本文化とアジアA-b	2			2		2		2		名畑 嘉則		○	○			○		
					日本文化とアジアB-a	2			2		2		2				○	○			○		
					日本文化とアジアB-b	2			2		2		2				○	○			○		
				日本文化とアジアC-a	2			2		2		2				○	○			○			
				日本文化とアジアC-b	2			2		2		2				○	○			○			
				日本文化とアジアD-a	2			2		2		2				○	○			○			
				日本文化とアジアD-b	2			2		2		2				○	○			○			
				日本文化と女性A	2			2		2		2		未定		○	○			○			
				日本文化と女性B	2			2		2		2		未定		○	○			○			
共 通					特殊講義 a	2			○								○	○			○	* 集中講義	
					特殊講義 b	2					○						○	○			○		
					特殊講義 c	2							○				○	○			○		

専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	シ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー					備 考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 情 報 リ テ ィ	2 思 考 力	3 表 現 力	4 シ ン ジ ン グ イ ン テ リ ビ リ テ ィ	5 専 門 性	
								前	後	前	後	前	後	前	後								
日本文化専修	書道科目 △			20901	書 道 I	2	2	2	2	2					押上万希子	288			○	○	* 書道 I～IV は書道科教免必修。		
					書 道 II	2			2	2	2								○	○			
					書 道 III	2					2	2	2	2		押上万希子				○		○	
					書 道 IV	2						2	2			押上万希子				○		○	
					25261	書 道 史 a	2	2		2						矢野 敏文	289	○	○			* 書道史は書道科教免必修。書道科教免履修者は a・b 履修が必要。 * 書論・鑑賞は書道科教免必修。書道科教免履修者は a・b 履修が必要。	
					25271	書 道 史 b	2		2							矢野 敏文	289	○	○				
						書 論 ・ 鑑 賞 a	2			2						押上万希子		○	○				
					書 論 ・ 鑑 賞 b	2			2	2				押上万希子		○	○						
共通演					日本語学演習 I A	4		2	2					漆崎 正人		○	○	○	○	* いずれか 4 単位選択必修、12 単位 (3 コマ) まで履修可。 * 2 年次に 8 単位 (2 コマ) を履修すること。			
					日本語学演習 I B	4		2	2					揚妻 祐樹		○	○	○	○				
					古典文学演習 I A	4		2	2					小山 清文		○	○	○	○				
					古典文学演習 I B	4		2	2					平田 英夫		○	○	○	○				
					古典文学演習 I C	4		2	2					山本 綏子		○	○	○	○				
					近現代文学演習 I A	4		2	2					関谷 博		○	○	○	○				
					近現代文学演習 I B	4		2	2					種田和加子		○	○	○	○				
					日本文化論演習 I A	4		2	2					水口 幹記		○	○	○	○				
					日本文化論演習 I B	4		2	2					菅本 康之		○	○	○	○				
				日本文化論演習 I C	4		2	2					名畑 嘉則		○	○	○	○					
日本語・日本文学専修					日本語学演習 II A - a	4				2	2	2	2	漆崎 正人		○	○	○	○	* 4 単位選択必修。 * a、b は隔年開講。			
					日本語学演習 II A - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					日本語学演習 II B - a	4				2	2	2	2	揚妻 祐樹		○	○	○	○				
					日本語学演習 II B - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					古典文学演習 II A - a	4				2	2	2	2	小山 清文		○	○	○	○				
					古典文学演習 II A - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					古典文学演習 II B - a	4				2	2	2	2	平田 英夫		○	○	○	○				
					古典文学演習 II B - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					古典文学演習 II C - a	4				2	2	2	2	山本 綏子		○	○	○	○				
					古典文学演習 II C - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					近現代文学演習 II A - a	4				2	2	2	2	関谷 博		○	○	○	○				
					近現代文学演習 II A - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
日本文化専修					近現代文学演習 II B - a	4				2	2	2	2	種田和加子		○	○	○	○				
					近現代文学演習 II B - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II A - a	4				2	2	2	2	水口 幹記		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II A - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II B - a	4				2	2	2	2	菅本 康之		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II B - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II C - a	4				2	2	2	2	名畑 嘉則		○	○	○	○				
					日本文化論演習 II C - b	4				2	2	2	2	本年度休講		○	○	○	○				

※日本語・日本文学専修または日本文化専修は、選択した専修から 16 単位以上選択必修。

専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								担当者	シラバス	ディプロマ・ポリシー					備考							
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				情報リテ1	2 思考力	3 表現力	4 コミュニケーション	5 専門性								
								前	後	前	後	前	後	前	後															
共通	業				卒業研究ゼミⅠ	4						2	2		漆崎 正人 揚妻 祐樹 小山 清文 平田 英夫 山本 綏子 関谷 博 種田和加子 水口 幹記 菅本 康之 名畑 嘉則	シラバス						* 1学年に4単位(1コマ)のみ履修可。 * IとIIは同時開講。 * 受講者数の上限を20人とする。  * 演習Ⅰ(4単位)をあらかじめ修得済であること								
		研究				卒業研究ゼミⅡ	4						2	2		漆崎 正人 揚妻 祐樹 小山 清文 平田 英夫 山本 綏子 関谷 博 種田和加子 水口 幹記 菅本 康之 名畑 嘉則	シラバス						* 1学年に4単位(1コマ)のみ履修可。 * IとIIは同時開講。 * 受講者数の上限を20人とする。  * 演習Ⅰ(4単位)をあらかじめ修得済であること							
	科目				卒業研究	4									漆崎 正人 揚妻 祐樹 小山 清文 平田 英夫 山本 綏子 関谷 博 種田和加子 水口 幹記 菅本 康之 名畑 嘉則	シラバス						* 1学年に4単位(1コマ)のみ履修可。 * IとIIは同時開講。 * 受講者数の上限を20人とする。  * 演習Ⅰ(4単位)をあらかじめ修得済であること								

専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								担当者	シラバス	ディプロマ・ポリシー					備考					
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				情報リテ1	2 思考力	3 表現力	4 コミュニケーション	5 専門性						
								前	後	前	後	前	後	前	後													
学科	共通				国語教材研究	2							2			未定	シラバス						* 国語教材研究・国語科教員採用試験研究は国語科教免志望者用。  * 実用書道は書道科教免・国語科教免志望者用。  * アジアと日本は日本語教員養成課程受講者用。文献資料論は図書館情報学課程受講者用。					
					国語科教員採用試験研究	2							2															
					実用書道	1							2															
					アジアと日本	2							2															
					文献資料論	2							2															
					論文読解	2							2															
					実践日本語表現	2							2															
					コミュニケーションプレゼンテーションa	2							2															
			コミュニケーションプレゼンテーションb	2							2																	

\* 他学部、他学科受入 → ○印は受講可  
×印は受講不可  
△印は担当者の承諾が必要

文化総合学科専門科目

専修	区分	他受 学入 部礼	他受 学入 科礼	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	○入門 ★特講 △演習	シラ バ ス バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー				備 考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	4	
								前	後	前	後	前	後	前	後				シ ン シ ョ ン ケ イ	総 理 合 解 的 力	創 思 考 的 力	専 門 性	
現代 文 化 社 会 学	文	×	×	35201	「現代社会」基礎演習 A	2		2							伊藤 明美	△	293	○	○	○	○		
		×	×	35202					2									伊藤 明美	△	○	○		○
	化	×	×	35211	「現代社会」基礎演習 B	2		2							野手 修	△	294	○	○	○	○		
		×	×	35212					2							野手 修		△	○	○	○		○
	社	×	×	35221	「現代社会」基礎演習 C	2		2							真鶴 俊喜	△	295	○	○	○	○		
		×	×	35222					2							真鶴 俊喜		△	296	○	○		○
	会	×	×	35231	「現代社会」基礎演習 D	2		2							上原 賢司	△	297	○	○	○	○		
		×	×	35232					2							上原 賢司		△	298	○	○		○
	学	×	×	35241	「現代社会」基礎演習 E	2		2							本年度休講	△							
		×	×	35242					2							本年度休講		△					
	歴 史 ・ 思 想	基	×	×	35251	「歴史・思想」基礎演習 A	2		2						渡邊 浩	△	299	○	○	○	○		
			×	×	35252					2								渡邊 浩	△				
		礎	×	×	35261	「歴史・思想」基礎演習 B	2		2						石田 晴男	△	300	○	○	○	○		
			×	×	35262					2								石田 晴男	△				
演		×	×	35271	「歴史・思想」基礎演習 C	2		2						松本あづさ	△	301	○	○	○	○			
		×	×	35272					2								松本あづさ	△					
習		×	×	35281	「歴史・思想」基礎演習 D	2		2						松村 良祐	△	302	○	○	○	○			
		×	×	35282					2								松村 良祐	△	303	○	○	○	○
想		×	×	35291	「歴史・思想」基礎演習 E	2		2						勝西 良典	△	304	○	○	○	○			
		×	×	35292					2								勝西 良典	△	305	○	○	○	○
現 講 代 義 社 科 会 目	講	△	△	35401	文化人類学入門	2		2						野手 修	○	306		○	○				
		△	△	35411	異文化コミュニケーション論入門	2		2							伊藤 明美	○	307		○				
		△	△	32601	政治学（国際政治学）入門	2	2								上原 賢司	○	308		○	○			
		△	△	32611	国際関係論入門	2		2							上原 賢司	○	309		○	○			
		△	△	35421	基礎法学 A（憲法）	2		2							真鶴 俊喜	○	310		○	○			
		△	△	32721	基礎法学 B - a（民法）	2	2								上机 美穂	○	310		○	○			
		△	△	32731	基礎法学 B - b（民法）	2		2							未定	○			○	○			
		△	△	32741	基礎法学 C - a（国際関係法）	2	2								小林 友彦	○	311		○	○			
		△	△	32751	基礎法学 C - b（国際関係法）	2		2							未定	○			○	○			
		△	△	35431	経済学入門（国際経済学を含む）	2		2							神山 義治	○	312		○				
		△	△	35441	社会学入門	2		2							櫻井 義秀	○	313		○				
		△	△	35451	心理学入門	2		2							水野 君平	○	314		○				
		△	○	35461	統計学入門（確率論を含む）	2	2								小糸健太郎	○	315		○	○			
		△	△	35471	イギリス文化論	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35481	アメリカ文化論	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35491	フランス文化論	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35501	ドイツ文化論	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35511	中国文化論 a	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35521	中国文化論 b	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35531	韓国文化論 a	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35541	韓国文化論 b	2				2		2			未定	★			○	○	○		
		△	△	35551	文化人類学特講 a	2				2		2			野手 修	★			○	○	○		
		△	△	35561	文化人類学特講 b	2				2		2			野手 修	★			○	○	○		
		△	△	35571	文化人類学特講 c	2				2		2			野手 修	★		○	○	○	○		
		△	△	35581	文化人類学特講 d	2				2		2			野手 修	★		○	○	○	○		
		△	△	35591	異文化コミュニケーション論特講 a	2				2		2			伊藤 明美	★		○	○	○	○		
△	△	35601	異文化コミュニケーション論特講 b	2				2		2			伊藤 明美	★		○	○	○	○				
△	△	35611	異文化コミュニケーション論特講 c	2				2		2			伊藤 明美	★		○	○	○	○				
△	△	35621	異文化コミュニケーション論特講 d	2				2		2			伊藤 明美	★		○	○	○	○				
△	○	35631	English for Global Competency a	2	2								M.T. 松根	★	316	○	○	○	○				
△	○	35641	English for Global Competency b	2		2							M.T. 松根	★	317	○	○	○	○				

2018年度入学生  
教育課程表

専修	区分	他受 入部 科	他受 入部 科	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	○入門 ★特講 △演習	シラ バス	ディプロマ・ポリシー				備 考			
						必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 シ ョ ン カ ケ	2 総 理 合 解 的 力	3 創 思 考 的 力	4 専 門 性				
								前	後	前	後	前	後	前	後											
現 講	代 義	△	△	35651	English for Global Competency c	2					2					未定	★		○	○	○	○				
		△	△	35661	English for Global Competency d	2						2					未定	★			○	○		○		
		△	△	32621	国際関係論特講 A - a	2			2	2						上原 賢司	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	32631	国際関係論特講 A - b	2				2	2					上原 賢司	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	32641	国際関係論特講 A - c	2			2	2						上原 賢司	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		△	△	32651	国際関係論特講 A - d	2				2	2					上原 賢司	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		△	△	32661	国際関係論特講 B - a	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	32671	国際関係論特講 B - b	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		△	△	32761	法学特講A-a (コミュニケーションと法)	2			2	2						真鶴 俊喜	★				○	○		○		
		△	△	32771	法学特講A-b (コミュニケーションと法)	2				2	2					真鶴 俊喜	★				○	○		○		
		△	△	32781	法学特講B-a (比較政治制度)	2			2	2						真鶴 俊喜	★				○	○		○		
		△	△	32791	法学特講B-b (比較政治制度)	2				2	2					真鶴 俊喜	★				○	○		○		
		△	△	32801	法学特講C-a (法女性学)	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	32811	法学特講C-b (法女性学)	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		△	△	35671	女性論 a	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	35681	女性論 b	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		△	△	35691	音楽社会学 a	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2019年開講)	
		△	△	35701	音楽社会学 b	2			2	2						未定	★				○	○		○	隔年 (2020年開講)	
		社 科	会 目	△	△	33011	心理学特講 A - a	2			2	2					石井佑可子	★				○		○	○	隔年 (2019年開講)
				△	△	33021	心理学特講 A - b	2				2	2				石井佑可子	★				○		○	○	隔年 (2019年開講)
△	△			33031	心理学特講 A - c	2			2	2					石井佑可子	★				○	○	○	隔年 (2020年開講)			
△	△			33041	心理学特講 A - d	2				2	2				石井佑可子	★				○	○	○	隔年 (2020年開講)			
△	△			33051	心理学特講 B - a	2				2	2					未定	★		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
△	△			33061	心理学特講 B - b	2				2	2					未定	★		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
△	△			35711	心理学文献講読 a	2			2	2						未定	★				○	○	○	隔年 (2019年開講)		
△	△			35721	心理学文献講読 b	2			2	2						未定	★				○	○	○	隔年 (2020年開講)		
史 義	科 目			△	△	35731	西洋史入門	2	2								本間 俊行	○	318		○					
				△	△	35741	日本史入門 A (概論)	2	2								石田 晴男	○	318		○					
				△	△	35751	日本史入門 B (概論)	2	2								松本あづさ	○	319		○					
				△	△	33581	東洋史入門 a	2	2								宮崎 聖明	○	320		○					
		△	△	33591	東洋史入門 b	2	2								川口 琢司	○	319		○							
		△	○	30821	地理学基礎論 (自然地理学を含む)	2	2	2							上野 莉紗	○	321		○	○						
		△	○	30831	人文地理学	2	2	2							上野 莉紗	○	321		○	○						
		△	○	30841	地誌学	2	2	2	2						上野 莉紗	○	322		○	○						
		△	△	35761	哲学入門	2	2								松村 良祐	○	323		○	○						
		△	△	35771	倫理学入門	2	2								勝西 良典	○	324		○	○						
		△	○	35781	ラテン語 I - a	2	2								小原 琢	○	325		○	○						
		△	△	35791	ラテン語 I - b	2	2								小原 琢	○	326		○	○						
		△	△	33171	西洋史特講 A - a	2			2	2					渡邊 浩	★				○		○	隔年 (2019年開講)			
		△	△	33181	西洋史特講 A - b	2				2	2				渡邊 浩	★				○		○	隔年 (2019年開講)			
		△	△	33191	西洋史特講 A - c	2			2	2					渡邊 浩	★				○		○	隔年 (2020年開講)			
		△	△	35801	西洋史特講 B - a	2			2	2					未定	★				○		○	隔年 (2019年開講)			
		△	△	35811	西洋史特講 B - b	2			2	2					未定	★				○		○	隔年 (2020年開講)			
		△	△	35821	西洋史特講 C - a	2			2	2					未定	★				○		○	隔年 (2019年開講)			
		△	△	35831	西洋史特講 C - b	2			2	2					未定	★				○		○	隔年 (2020年開講)			
		△	△	35841	西洋史特講 D - a	2				2	2					未定	★				○		○	隔年 (2019年開講)		
△	△	35851	西洋史特講 D - b	2				2	2					未定	★				○		○	隔年 (2020年開講)				
△	△	33301	西洋史文献講読 a	2			2	2						未定	★				○		○	隔年 (2019年開講)				
△	△	33311	西洋史文献講読 b	2				2	2					渡邊 浩	★				○		○	隔年 (2019年開講)				
△	△	33321	西洋史文献講読 c	2			2	2						未定	★				○		○	隔年 (2020年開講)				
△	△	33331	西洋史文献講読 d	2				2	2					渡邊 浩	★				○		○	隔年 (2020年開講)				



専修	区分	他受 入 学 部 科	他受 入 学 科	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	○入 門 特 講 演 習 ★	シ ラ バ ス ペ ー ジ	ディプロマ・ポリシー				備 考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 シ ン ク レ ン ト イ カ	2 総 理 合 解 的 力	3 創 思 考 的 力	4 専 門 性	
								前	後	前	後	前	後	前	後								
歴 史 義 理 学 科 目	△	△	35861	イギリス文化史	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	35871	アメリカ文化史	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	35881	フランス文化史	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	35891	ドイツ文化史	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	35901	キリスト教文化論 a	2			2	2					未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	35911	キリスト教文化論 b	2			2	2					未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	35921	考古学	2			2	2					未定	★		○	○	○	○			
	△	△	35931	日本史特講 A - a (学説史)	2			2	2					未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	35941	日本史特講 A - b	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	35951	日本史特講 A - c	2			2	2					未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	35961	日本史特講 B - a (学説史)	2			2	2					松本あづさ	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	35971	日本史特講 B - b	2				2	2				松本あづさ	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	35981	日本史特講 B - c	2			2	2					松本あづさ	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	35991	日本史特講 C - a	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	36001	日本史特講 C - b	2				2	2				未定	★			○	○	○			
	△	△	36011	日本史特講 D	2			2	2					未定	★			○	○	○			
	△	△	36021	歴史資料論 A	2				2	2				渡邊 浩	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36031	歴史資料論 B	2				2	2				松本あづさ	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36041	歴史資料論 C	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36051	歴史資料論 D	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33601	東洋史特講 a	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33611	東洋史特講 b	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36061	古代・中世哲学史	2		2							三浦 洋	★	327		○	○	○			
	△	△	36071	近世・近代哲学史	2				2					未定	★			○	○	○			
	△	△	36081	現代哲学史	2				2					未定	★			○	○	○			
	△	△	33871	哲学特講 A - a	2				2	2				松村 良祐	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33881	哲学特講 A - b	2					2	2			松村 良祐	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33891	哲学特講 A - c	2				2	2				松村 良祐	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	33901	哲学特講 A - d	2					2	2			松村 良祐	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	33911	哲学特講 B - a	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33921	哲学特講 B - b	2					2	2			未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	33931	哲学特講 B - c	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	33941	哲学特講 B - d	2					2	2			未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36091	倫理学特講 A - a	2				2	2				勝西 良典	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36101	倫理学特講 A - b	2					2	2			勝西 良典	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36111	倫理学特講 A - c	2					2	2			勝西 良典	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36121	倫理学特講 A - d	2					2	2			勝西 良典	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36131	倫理学特講 B - a	2				2	2				未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36141	倫理学特講 B - b	2					2	2			未定	★			○	○	○	隔年 (2019年開講)		
	△	△	36151	倫理学特講 B - c	2					2	2			未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36161	倫理学特講 B - d	2						2	2		未定	★			○	○	○	隔年 (2020年開講)		
	△	△	36171	ラテン語 II - a	2				2					未定	★			○	○	○			
	△	△	36181	ラテン語 II - b	2					2				未定	★			○	○	○			
	△	○	36191	古典ギリシア語 a	2				2					未定	★			○	○	○			
	△	△	36201	古典ギリシア語 b	2					2				未定	★			○	○	○			
△	△	36211	身体表現論	2					2				未定	★			○	○	○				
△	△	36221	造形美術論	2					2				未定	★			○	○	○				
△	△	36231	映像表現論	2				2					未定	★			○	○	○				
△	△	34251	文総特殊講義 a	2						○			平藤喜久子	★	327		○	○	○				
△	△	34261	文総特殊講義 b	2						○			未定	★									
△	△	34271	文総特殊講義 c	2						○			未定	★						集中講義			
△	△	34281	文総特殊講義 d	2						○			未定	★									

専修	区分	他受 学入 部礼	他受 学入 科礼	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	○入門 ★特講 △演習	シラバ ス	ディプロマ・ポリシー				備 考	
						必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 シ ン ホ ン ケ イ	2 総 理 合 解 的 力	3 創 思 考 的 力	4 専 門 性		
								前	後	前	後	前	後	前	後									
現 代 社 会 演 習		△	△	36241	異文化コミュニケーション論演習 a	2			2	2				伊藤 明美	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36251	異文化コミュニケーション論演習 b	2			2	2				伊藤 明美	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36261	異文化コミュニケーション論演習 c	2			2	2				伊藤 明美	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36271	異文化コミュニケーション論演習 d	2			2	2				伊藤 明美	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36281	文化人類学演習 a	2			2	2				野手 修	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36291	文化人類学演習 b	2			2	2				野手 修	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36301	文化人類学演習 c	2			2	2				野手 修	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36311	文化人類学演習 d	2			2	2				野手 修	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36321	国際関係論演習 a	2			2	2				上原 賢司	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36331	国際関係論演習 b	2			2	2				上原 賢司	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36341	国際関係論演習 c	2			2	2				上原 賢司	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36351	国際関係論演習 d	2			2	2				上原 賢司	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36361	法学演習 a	2			2	2				真鶴 俊喜	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36371	法学演習 b	2			2	2				真鶴 俊喜	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36381	法学演習 c	2			2	2				真鶴 俊喜	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36391	法学演習 d	2			2	2				真鶴 俊喜	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36401	心理学演習 a	2			2	2				石井佑可子	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)			
				36411	心理学演習 b	2			2	2				石井佑可子	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36421	心理学演習 c	2			2	2				石井佑可子	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				36431	心理学演習 d	2			2	2				石井佑可子	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)			
				歴 史 演 習 ・ 思 想		△	△	36441	西洋史演習 a	2			2	2			渡邊 浩	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)
								36451	西洋史演習 b	2			2	2			渡邊 浩	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)
								36461	西洋史演習 c	2			2	2			渡邊 浩	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)
								36471	西洋史演習 d	2			2	2			渡邊 浩	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)
36481	日本史演習 A - a	2							2	2			未定	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36491	日本史演習 A - b	2							2	2			未定	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36501	日本史演習 A - c	2							2	2			未定	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36511	日本史演習 A - d	2							2	2			未定	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36521	日本史演習 B - a	2							2	2			松本あづさ	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36531	日本史演習 B - b	2							2	2			松本あづさ	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36541	日本史演習 B - c	2							2	2			松本あづさ	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36551	日本史演習 B - d	2							2	2			松本あづさ	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36561	哲学演習 a	2							2	2			松村 良祐	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36571	哲学演習 b	2							2	2			松村 良祐	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36581	哲学演習 c	2							2	2			松村 良祐	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36591	哲学演習 d	2							2	2			松村 良祐	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36601	倫理学演習 a	2							2	2			勝西 良典	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36611	倫理学演習 b	2							2	2			勝西 良典	△		○	○	○	○	隔年 (2019年開講)				
36621	倫理学演習 c	2							2	2			勝西 良典	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
36631	倫理学演習 d	2							2	2			勝西 良典	△		○	○	○	○	隔年 (2020年開講)				
現 代 社 会 専 修 歴 史 ・ 思 想 専 修	卒業 研究 関 連 科 目	×	×					36701	「現代社会」卒業研究演習	4							伊藤 明美	△		○	○	○	○	1科目4単位を 選択必修
								36702									野手 修							
								36703									上原 賢司							
								36704									真鶴 俊喜							
				36705	石井佑可子																			
				36711	「歴史・思想」卒業研究演習	4						渡邊 浩	△		○	○	○	○						
				36712								未定												
				36713								松本あづさ												
36714	松村 良祐																							
36715	勝西 良典																							



専修	区分	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	○入門 ★特講 △演習	シラバス ページ	ディプロマ・ポリシー				備 考																
						必修	選択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	4																	
								前	後	前	後	前	後	前	後				コミュニケーション力	総理 合解 的力	創思 造考 的力	専 門 性																	
現代社会専修	卒業研究 関連科目	×	×		「現代社会」卒業研究		4											△		○	○	○	○	1科目4単位を 選択必修															
歴史・思想専修	卒業研究 関連科目				「歴史・思想」卒業研究		4											△		○	○	○	○																
計							384																																

\* 他学部、他学科受入 → ○印は受講可  
 ×印は受講不可  
 △印は履修条件を満たす必要あり

# 教育課程表



<2017年度以前入学生に適用>

大学共通科目

※は読み替え科目一覧で確認してください。

◎北16条キャンパスにて開講

区分	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数				学科	担当者	シベラバジ	ディプロマ・ポリシー						備考		
			必修	選択	1年	2年	3年	4年				1	2	3	4	5	6			
					前	後	前	後				前	後	知識理解	思考方法	コミュニケーション	志向性		態度	国際意識・人間力
全学開講科目	00011	キリスト教的世界観	2		2					英	※									
	00012			キリスト教的世界観		2						日								
	00013			キリスト教的世界観		2						文								
	キャリア形成	08251	女性とキャリア	1		2					英	※								
		08252			女性とキャリア		2						日							
		08253			女性とキャリア		2						文							
	情報	08041	情報処理	2		2														
		08042			情報処理		2													
		08043			情報処理		2													
		08044			情報処理		2													
		08045			情報処理		2													
		08046			情報処理		2													
	運動	08261	運動の実践A	1		2						349								
		08262			運動の実践A		2													
		08263			運動の実践A		2													
		08271	運動の実践B	1		2						349								
08272		運動の実践B				2														
08273		運動の実践B				2														
自然・科学	08121	生物科学A	2	2																
	08131	生物科学B	2	2																
	08141	環境科学A	2	2							※									
	08151	環境科学B	2	2																
キリスト教的世界観	00021	聖書学	2		2					英	※									
	00022			聖書学		2						日								
	00023			聖書学		2						文								
	身体・生命科学	08161	生命科学A	2	2							※								
08171		生命科学B	2	2																
08201		身体科学A (健康の科学)	2	2							※									
08211		身体科学B (運動の科学)	2	2							※									
文学部開講科目	07501	文章表現	2		2						350									
	07502			文章表現		2														
	07503			文章表現		2														
	07504			文章表現		2														
	07505			文章表現		2														
	07506			文章表現		2														
	07507			文章表現		2														
	07508			文章表現		2														
	情報・コミュニケーション	08021	情報リテラシーA	2		2	2				平井 孝典	352								
		08022			情報リテラシーA		2	2					平井 孝典							
		08023			情報リテラシーA		2	2					谷川 靖郎							
		08024			情報リテラシーA		2	2					谷川 靖郎							
		08025			情報リテラシーA		2													
		08026			情報リテラシーA		2													
	情報・コミュニケーション	08031	情報リテラシーB	2				2			平井 孝典	353								
		08032			情報リテラシーB				2				谷川 靖郎							
テーマ研究	08311	テーマ研究A-a	2	2	2	2	2			本年度休講										
	08321	テーマ研究A-b	2	2	2	2	2			名畑・水口	353									
	08331	テーマ研究A-c	2	2	2	2	2			本年度休講										
	08341	テーマ研究B-a	2	2	2	2	2			本年度休講										
	08351	テーマ研究B-b	2	2	2	2	2			大橋・伊藤・野手	354									
	08361	テーマ研究B-c	2	2	2	2	2			本年度休講										
		計	3	40																

2017年度以前入学生  
教育課程表

外国語科目

科目No.	授 業 科 目	単位数		開講学年・週時数								学 科	担当者	シベ ラバ スジ	ディプロマ・ポリシー					
		必修	選択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後				知識理解	問題発見力	コミュニケーション力	情報リテラシー	社会性	
06001	Academic Communication A I	1	2									※						* 英語文化学科は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上選択必修		
06002			2																	
06011	Academic Communication A II	1	2									※								
06012			2																	
06021	Academic Communication B I	1	2									※								
06022			2																	
06031	Academic Communication B II	1	2									※								
06032			2																	
06061	Essential Vocabulary & Grammar	1	2																* 日本語・日本文学科は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、または2外国語各4単位、8単位以上選択必修	
06101	Practical English A	1	2																	
06102			2																	
06111	Practical English B	1	2																	
06112			2																	
06121	Practical English C	1	2																	
06122			2																	
06131	Practical English D	1	2																	
06132			2																	
06141	Interactive English A	1	2															* 文化総合学科は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のうち1外国語8単位以上、選択必修		
06151	Interactive English B	1	2																	
06161	Interactive English C	1	2																	
06162			2																	
06171	Interactive English D	1	2																	
06172			2																	
06201	Academic Listening & Note-taking	1	2																	
06211	Academic Speaking & Discussion	1	2																	
06221	Academic Reading A I	1	2																	
06231	Academic Reading A II	1	2																	
06241	Academic Reading B I	1	2																	
06251	Academic Reading B II	1	2																	
06261	English for Global Communication A	1	2																	
06271	English for Global Communication B	1	2																	
06401	初級ドイツ語 A I	1	2								英・日・文									
06402			2										英・日・文							
06411	初級ドイツ語 A II	1	2								英・日・文									
06412			2										英・日・文							
06421	初級ドイツ語 B I	1	2								英・日・文									
06422			2										英・日・文							
06431	初級ドイツ語 B II	1	2								英・日・文									
06432			2										英・日・文							
06441	中級ドイツ語 A I	1			2						英・日・文	岡崎 朝美	357							
06451	中級ドイツ語 A II	1				2					英・日・文	岡崎 朝美	357							
06461	中級ドイツ語 B I	1				2					英・日・文	荻原 達夫	358							
06471	中級ドイツ語 B II	1					2				英・日・文	荻原 達夫	359							
06481	上級ドイツ語 I	1						2		2	英・日・文	清水 誠	360							
06491	上級ドイツ語 II	1							2	2	英・日・文	清水 誠	360							
06501	初級フランス語 A I	1	2								英・日・文									
06502			2										英・日・文							
06511	初級フランス語 A II	1	2								英・日・文									
06512			2										英・日・文							
06521	初級フランス語 B I	1	2								英・日・文									
06522			2										英・日・文							
06531	初級フランス語 B II	1	2								英・日・文									
06532			2										英・日・文							
06541	中級フランス語 A I	1				2					英・日・文	尾形 弘人	361							
06551	中級フランス語 A II	1					2				英・日・文	尾形 弘人	362							
06561	中級フランス語 B I	1					2				英・日・文	竹内 修一	363							
06571	中級フランス語 B II	1						2			英・日・文	竹内 修一	363							
06581	上級フランス語 I	1							2	2	英・日・文	小澤 卓哉	364							
06591	上級フランス語 II	1								2	英・日・文	小澤 卓哉	365							

2017年度以前入学生  
教育課程表

科目No.	授 業 科 目	単位数		開講学年・週時数								学 科	担 当 者	シラバ ス	ディプロマ・ポリシー						
		必修	選択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	4	5		
				前	後	前	後	前	後	前	後				知識・理解	問題発見力	コミュニケーション	情報リテラシー	社会性		
06601	初級中国語 A I		1	2								英・日・文									
06602			1	2								英・日・文									
06603			1	2								英・日・文									
06604			1	2								英・日・文									
06611	初級中国語 A II		1	2								英・日・文									
06612			1	2								英・日・文									
06613			1	2								英・日・文									
06614			1	2								英・日・文									
06621	初級中国語 B I		1	2								英・日・文									
06622			1	2								英・日・文									
06623			1	2								英・日・文									
06624			1	2								英・日・文									
06631	初級中国語 B II		1	2								英・日・文									
06632			1	2								英・日・文									
06633			1	2								英・日・文									
06634			1	2								英・日・文									
06641	中級中国語 A I		1		2							英・日・文	森若 裕子	366							
06642			1		2							英・日・文	云 肖梅								
06643			1		2							英・日・文	邢 玉芝		367						
06644			1		2							英・日・文	楊 志剛								
06651	中級中国語 A II		1			2						英・日・文	森若 裕子	368							
06652			1			2						英・日・文	云 肖梅								
06653			1			2						英・日・文	邢 玉芝		369						
06654			1			2						英・日・文	楊 志剛								
06661	中級中国語 B I		1			2						英・日・文	胡 耀光	370							
06662			1			2						英・日・文	大沼 尚子								
06663			1			2						英・日・文	胡 耀光		371						
06664			1			2						英・日・文	楊 志剛								
06671	中級中国語 B II		1			2						英・日・文	胡 耀光	372							
06672			1			2						英・日・文	大沼 尚子								
06673			1			2						英・日・文	胡 耀光		373						
06674			1			2						英・日・文	楊 志剛								
06681	上級中国語 I		1				2					英・日・文	胡 慧君	374							
06691	上級中国語 II		1					2				英・日・文	胡 慧君	374							
06701	中国語実践演習 A		2			2		2		2		英・日・文	森若 裕子	375							
06711	中国語実践演習 B		2			2		2		2		英・日・文	森若 裕子	376							
06721	中国語文献読解演習 A		2			2		2		2		英・日・文	胡 慧君	377							
06731	中国語文献読解演習 B		2			2		2		2		英・日・文	胡 慧君	377							
06741	初級韓国語 A I		1	2								英・日・文									
06742			1	2								英・日・文									
06743			1	2								英・日・文									
06751	初級韓国語 A II		1	2								英・日・文									
06752			1	2								英・日・文									
06753			1	2								英・日・文									
06761	初級韓国語 B I		1	2								英・日・文									
06762			1	2								英・日・文									
06763			1	2								英・日・文									
06771	初級韓国語 B II		1	2								英・日・文									
06772			1	2								英・日・文									
06773			1	2								英・日・文									
06781	中級韓国語 A I		1		2							英・日・文	芳賀 恵	378							
06782			1		2							英・日・文	金 昌九	379							
06791	中級韓国語 A II		1			2						英・日・文	芳賀 恵	380							
06792			1			2						英・日・文	金 昌九	381							
06801	中級韓国語 B I		1			2						英・日・文	金 昌九	382							
06802			1			2						英・日・文	金 京愛	383							
06811	中級韓国語 B II		1			2						英・日・文	金 昌九	384							
06812			1			2						英・日・文	金 京愛	385							
06821	上級韓国語 I		1				2					英・日・文	金 昌九	386							

科目No.	授 業 科 目	単位数		開講学年・週時数								学 科	担 当 者	シペ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー					
		必 修	選 択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	4	5	
				前	後	前	後	前	後	前	後				知識理解	問題解決力	コミュニケーション力	情報リテラシー	社会性	
06831	上 級 韓 国 語 II		1							2			英・日・文	金 昌九	386					
06841	韓 国 語 実 践 演 習 A		2			2		2		2			英・日・文	宋 美蘭	387					
06851	韓 国 語 実 践 演 習 B		2				2		2		2		英・日・文	宋 美蘭	387					
06861	韓 国 語 文 献 読 解 演 習 A		2			2		2		2			英・日・文	宋 美蘭	388					
06871	韓 国 語 文 献 読 解 演 習 B		2				2		2		2		英・日・文	宋 美蘭	388					
01001	海 外 語 学 研 修 A		2	○		○		○		○			英・日・文							
01011	海 外 語 学 研 修 B		2	○		○		○		○			英・日・文							
01021	海 外 語 学 研 修 C		2	○		○		○		○			英・日・文							
			83																	

※協定校・指定校短期語学研修は1～3年生対象

学科・英 = 英語文化学科  
 ・日 = 日本語・日本文学科  
 ・文 = 文化総合学科



英語文化学科専門科目

※は学科専門科目読み替え科目一覧で確認してください。

※学科基礎科目の他学科受け入れは、英語エキスパートプログラム受講学生対象。

区分	他学科 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								クラス	担当者	シベ ラバ スジ	ディプロマ・ポリシー			備 考
					必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 コミュニケーション 能力	2 知識・理解	3 観念・発 達・努力	
							前	後	前	後	前	後	前	後							
学 科	×		18011	Grammar I	0.5		1							A I							
			18012				1							A II							
			18013				1							B I							
			18014				1							B II							
	×			18021	Grammar II	0.5			1						A I						
				18022					1						A II						
				18023					1						B I						
				18024					1						B II						
	×			18031	Writing I	0.5		1							A I						
				18032				1							A II						
				18033				1							B I						
				18034				1							B II						
	×			18041	Writing II	0.5			1						A I						
				18042					1						A II						
				18043					1						B I						
				18044					1						B II						
	科	×		15001	The Art of Writing I	1				2					A I	C. Simons	391				
				15002						2					A II	D. Flenner	391				
				15003						2					B I	K. Litton	391				
				15004						2					B II	未定	391				
基	×	※	15011	The Art of Writing II	1				2					A I	C. Simons	391					
			15012						2					A II	D. Flenner	391					
			15013						2					B I	K. Litton	391					
			15014						2					B II	未定	391					
礎	×		13031	Oral English I	2		4							A I		※					
			13032				4							A II		※					
			13033				4							B I		※					
			13034				4							B II		※					
科	×		13041	Oral English II	2			4						A I		※					
			13042					4						A II		※					
			13043					4						B I		※					
			13044					4						B II		※					
目	×		15021	Oral English III	1				2					A I	C. Simons	392					
			15022						2					A II	M. A. Bamai	392					
			15023						2					B I	S. A. Greig	392					
			15024						2					B II	J. Redlich	392					
×			15031	Oral English IV	1				2					A I	C. Simons	392					
			15032						2					A II	M. A. Bamai	392					
			15033						2					B I	S. A. Greig	392					
			15034						2					B II	J. Redlich	392					
×			15041	Reading I	1		2							A I							
			15042				2							A II							
			15043				2							B I							
			15044				2							B II							
×			15051	Reading II	1			2						A I							
			15052					2						A II							
			15053					2						B I							
			15054					2						B II							

区分	他学部 他学科 他課程	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								クラス	担当者	シペ ラバ スジ	ディプロマ・ポリシー			備考
				必修	選択	1年		2年		3年		4年					1	2	3	
						前	後	前	後	前	後	前	後							
学 科 基 礎 科 目	×	15061	Reading III	1				2					A I	C. Simons	393					
		15062					2				A II	D. Flenner	393							
		15063					2				B I	K. Litton	393							
		15064					2				B II	未定	393							
	×	15071	Reading IV	1				2					A I	C. Simons	393					
		15072					2				A II	D. Flenner	393							
		15073					2				B I	K. Litton	393							
		15074					2				B II	未定	393							
	×	18161	Voice & Articulation I	0.5		1							A							
		18162				1					B									
	×	18171	Voice & Articulation II	0.5			1						A							
		18172				1					B									
×	18181	Listening I	0.5		1	1							新井 良夫	394						
	18182				1						本年度休講									
×	18191	Listening II	0.5			1	1						新井 良夫	394						
	18192				1						本年度休講									
講 読 科 目	基礎講読科目	△ ○ 15101	基礎講読A - a	1	2	2							沢辺 裕子	395						
		△ ○ 15111	基礎講読A - b	1	2	2							沢辺 裕子	395						
		△ ○ 15121	基礎講読B - a	1	2	2							宮下 雅年	396						
		△ ○ 15131	基礎講読B - b	1	2	2							宮下 雅年	396						
		△ ○ 15141	基礎講読C - a	1	2	2							本年度休講							
		△ ○ 15151	基礎講読C - b	1	2	2							本年度休講							
		△ ○ 15161	基礎講読D - a	1	2	2							本年度休講							
		△ ○ 15171	基礎講読D - b	1	2	2							本年度休講							
	専門講読科目	△ ○ 15201	小説講読A - a	1		2	2							鎌田 禎子	397					
		△ ○ 15211	小説講読A - b	1		2	2							鎌田 禎子	398					
		△ ○ 15221	小説講読B - a	1		2	2							皆川 治恵	399					
		△ ○ 15231	小説講読B - b	1		2	2							皆川 治恵	399					
		△ ○ 15241	詩講読 a	1		2	2							本堂 知彦	400					
		△ ○ 15251	詩講読 b	1		2	2							本堂 知彦	400					
		△ ○ 15261	批評講読 a	1		2	2							本堂 知彦	401					
		△ ○ 15271	批評講読 b	1		2	2							本堂 知彦	401					
基 礎 演 習 科 目	△ ○ 15281	時事英語講読A - a	1		2	2							皆川 治恵	402						
	△ ○ 15291	時事英語講読A - b	1		2	2							皆川 治恵	402						
	△ ○ 15301	時事英語講読B - a	1		2	2							宮下 雅年	403						
	△ ○ 15311	時事英語講読B - b	1		2	2							宮下 雅年	403						
	△ ○ 15321	英語学講読 a	1		2	2							大野 公裕	404						
	△ ○ 15331	英語学講読 b	1		2	2							大野 公裕	404						
	△ ○ 15341	コミュニケーション講読 a	1		2	2							高橋 博	405						
	△ ○ 15351	コミュニケーション講読 b	1		2	2							新井 良夫	406						
	△ △ 15401	文学基礎演習A - a	2	2	2									岡本 晃幸	407					
	△ △ 15411	文学基礎演習A - b	2	2	2									岡本 晃幸	408					
	△ △ 15421	文学基礎演習B - a	2	2	2									本年度休講						
	△ △ 15431	文学基礎演習B - b	2	2	2									本年度休講						
△ △ 15441	文学基礎演習C - a	2	2	2									木村 信一	409						
△ △ 15451	文学基礎演習C - b	2	2	2									木村 信一	409						
△ △ 15601	文学基礎演習D - a	2	2	2									J. Redlich	410						
△ △ 15611	文学基礎演習D - b	2	2	2									J. Redlich	411						
基 礎 演 習 科 目	△ △ 15461	英語学基礎演習A - a	2	2	2								對馬 康博	412						
	△ △ 15471	英語学基礎演習A - b	2	2	2								對馬 康博	413						
	△ △ 15481	英語学基礎演習B - a	2	2	2								本年度休講							
	△ △ 15491	英語学基礎演習B - b	2	2	2								本年度休講							
	△ △ 15501	言語学基礎演習 a	2	2	2								山木戸浩子	414						
△ △ 15511	言語学基礎演習 b	2	2	2								山木戸浩子	415							

区分	他受 学入 部れ	他受 学入 科れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								クラス	担当者	シペ ラバ スジ	ディプロマ・ポリシー			備 考
					必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 コミュニケーション能力	2 知識理解	3 独立思考力	
							前	後	前	後	前	後	前	後							
基礎演習科目	△	△	15521	コミュニケーション基礎演習A-a	2	2	2								C. Mueller	416					
	△	△	15531	コミュニケーション基礎演習A-b	2	2	2								C. Mueller	417					
	△	△	15541	コミュニケーション基礎演習B-a	2	2	2								井筒美津子	418					
	△	△	15551	コミュニケーション基礎演習B-b	2	2	2								井筒美津子	418					
	△	△	15561	地域文化基礎演習A-a	2	2	2								大桃 陶子	419					
	△	△	15571	地域文化基礎演習A-b	2	2	2								大桃 陶子	420					
	△	△	15581	地域文化基礎演習B-a	2	2	2								英 美由紀	421					
	△	△	15591	地域文化基礎演習B-b	2	2	2								英 美由紀	421					
講義科目	文学系	△	○	15651	英文学史 a	2	2	2							大桃 陶子	422					
		△	○	15661	英文学史 b	2	2	2							大桃 陶子	422					
		△	○	15671	米文学史 a	2	2	2							岡本 晃幸	423					
		△	○	15681	米文学史 b	2	2	2							岡本 晃幸	424					
		△	○	15691	英米文学概論 a	2		2	2						大桃 陶子	425					2 単位選択必修 (文学系は 8 単位選択必修)
		△	○	15701	英米文学概論 b	2		2	2						岡本 晃幸	425					
		△	○	15731	文学講義 A	2		2	2	2					英 美由紀	426					
		△	○	15741	文学講義 B	2		2	2	2					沢辺 裕子	427					
		△	○	15751	文学講義 C	2		2	2	2					鎌田 禎子	428					
		△	○	15761	文学講義 D	2		2	2	2					本年度休講						
		△	○	15771	文学講義 E	2		2	2	2					本年度休講						
	△	○	15801	英国史 a	2	2	2								本年度休講						
	△	○	15811	英国史 b	2	2	2								本年度休講						
	△	○	15821	米国史 a	2	2	2								本年度休講						
	総合研究系	△	○	15831	米国史 b	2	2	2							本年度休講						
		△	○	15841	英米文化論 a	2		2	2	2					宮下 雅年	429					
		△	○	15851	英米文化論 b	2		2	2	2					宮下 雅年	430					2 単位選択必修 (総合研究系は 8 単位選択必修)
		△	○	15861	英米文化研究 a	2		2	2	2					大森 一輝	431					
		△	○	15871	英米文化研究 b	2		2	2	2					大森 一輝	431					
		△	○	15881	地域文化講義 A	2		2	2	2					木村 信一	432					
		△	○	15891	地域文化講義 B	2		2	2	2					英 美由紀	432					
		△	○	15901	地域文化講義 C	2		2	2	2					浜井祐三子	433					
		△	○	15911	地域文化講義 D	2		2	2	2					本年度休講						
		△	○	15921	地域文化講義 E	2		2	2	2					本年度休講						
		△	○	15931	Global English a	2			2	2					本年度休講					Global English a, b は隔年開講	
	△	○	15941	Global English b	2			2	2					本年度休講							
	英語学系・コミュニケーション系	△	○	15951	英語学概論 a	2	2	2	2						對馬 康博	434					
△		○	15961	英語学概論 b	2	2	2	2						對馬 康博	435						
△		○	15971	言語学概論 a	2	2	2	2						山木戸浩子	436						
△		○	15981	言語学概論 b	2	2	2	2						山木戸浩子	436						
△		○	15991	英語史 a	2			2	2					上野 誠治	437						
△		○	16001	英語史 b	2				2	2				上野 誠治	437						
△		○	16011	英語学研究 a	2				2	2				對馬 康博	438						
△		○	16021	英語学研究 b	2				2	2				對馬 康博	439						
△		○	16031	コミュニケーション概論 a	2	2	2	2						井筒美津子	440						
△		○	16041	コミュニケーション概論 b	2	2	2	2						井筒美津子	440						
△		○	16051	コミュニケーション研究 a	2				2	2				M. Holst	441						
△		○	16061	コミュニケーション研究 b	2				2	2				M. Holst	442						
△		○	16071	英語学講義 A	2			2	2	2				野村 益寛	442						
△		○	16081	英語学講義 B	2		2	2	2					上田 雅信	443						
△		○	16091	英語学講義 C	2		2	2	2					本年度休講							
×	×	16131	英語学講義 D	2			2	2	2				本年度休講								
△	○	16101	言語学講義 A	2			2	2	2				上田 雅信	444							
△	○	16111	言語学講義 B	2			2	2	2				大野 公裕	445							
△	○	16121	コミュニケーション講義	2			2	2	2				本年度休講								
講義科目 特講	△	○	16151	特殊講義 a	2			○						田代 尚路	445						
	△	○	16161	特殊講義 b	2				○					田代 尚路	445				集中講義		
	△	○	16171	特殊講義 c	2					○				田代 尚路	445						

区分	他学 部 入 学 部 れ	他学 科 入 学 科 れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開 講 学 年 ・ 週 時 数								クラス	担 当 者	シ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			備 考			
					必修	選択	1年		2年		3年		4年					1 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力	2 知 識 理 解	3 思 考 力 の 発 達				
							前	後	前	後	前	後	前	後										
実 踐 英 語 科 目	△	○	16201	翻訳ワークショップ a		2			2	2	2	2				本年度休講					隔年開講 2018年度はbを開講			
	△	○	16211	翻訳ワークショップ b		2			2	2	2	2				本年度休講								
	△	○	16221	通訳ワークショップ a		2					2	2	2	2		加藤 和代	446				隔年開講 2018年度はaを開講			
	△	○	16231	通訳ワークショップ b		2					2	2	2	2		本年度休講								
	×	×	16731	児童英語 a		1				○		○		○		石谷・柴野	447					隔年開講 2018年度はaを開講 集中講義		
	×	×	16741	児童英語 b		1				○		○		○		本年度休講								
	×	×	16711	児童英語活動 I		2			2	2	2	2				山木戸・柴野	448							
	×	×	16721	児童英語活動 II		2					2	2	2	2		石谷 佳子	449					「児童英語活動1」を履修した学生のみ受講可		
	△	○	16241	English Discussion I - a		1			2		2					G. Potter	450					◎印のついた科目を2科目2単位以上3、4年次選択必修		
	△	○	16251	English Discussion I - b		1				2		2				G. Potter	450							
	△	○	16261	English Discussion I - c		1				2		2				A. Bossaer	451							
	△	○	16271	English Discussion I - d		1				2		2				A. Bossaer	452							
	△	○	16281	English Discussion II - a		1					2		2			S. A. Greig	453							
	△	○	16291	English Discussion II - b		1						2		2		S. A. Greig	453							
	△	○	16301	English Discussion II - c		1					2		2			D. Flenner	454							
	△	○	16311	English Discussion II - d		1						2		2		D. Flenner	454							
	△	○	16501	Public Speaking a		1					2		2			A. Mallock	455							
	△	○	16511	Public Speaking b		1						2		2		A. Mallock	455							
	△	○	16521	Public Speaking c		1					2		2			D. Hampton	456							
	△	○	16531	Public Speaking d		1						2		2		D. Hampton	456							
	△	○	16621	Writing Workshop a		1			2		2					H. Fortunato	457							
	△	○	16631	Writing Workshop b		1				2		2				H. Fortunato	458							
	△	○	16541	Advanced Writing a		1					2		2			D. Hampton	459							
	△	○	16542			1						2		2			D. Flenner	459						
	△	○	16543			1						2		2			C. Simons	459						
	△	○	16544			1						2		2			K. Litton	459						
	△	○	16551	Advanced Writing b		1						2		2			D. Hampton	460						
	△	○	16552			1							2		2			D. Flenner	460					
	△	○	16553			1							2		2			C. Simons	460					
	△	○	16554			1							2		2			K. Litton	460					
△	○	16561	Advanced Writing c		1					2		2				M. A. Bamai	461							
△	○	16562			1						2		2				L. Kudo	461						
△	○	16563			1						2		2				A. Mallock	461						
△	○	16564			1						2		2				M. Holst	461						
△	○	16571	Advanced Writing d		1						2		2				M. A. Bamai	462						
△	○	16572			1							2		2				L. Kudo	462					
△	○	16573			1						2		2					A. Mallock	462					
△	○	16574			1						2		2					M. Holst	462					
△	○	16581	Advanced Reading a		1					2		2					A. Bossaer	463						
△	○	16591	Advanced Reading b		1						2		2				A. Bossaer	464						
△	○	16601	Advanced Reading c		1					2		2				本年度休講								
△	○	16611	Advanced Reading d		1						2		2			本年度休講								
実 践 英 語 科 目	△	○	16321	Skills for the TOEFL a		1	2		2		2					本年度休講					変則開講 (2年費) 2019年度 開講	同学期に Skills for the TOEFL と Skills for the TOEIC を講ずるべき		
	△	○	16331	Skills for the TOEFL b		1		2		2		2				本年度休講								
	△	○	16341	Skills for the TOEFL c		1	2		2		2					本年度休講					変則開講 (2年費) 開講せず			
	△	○	16351	Skills for the TOEFL d		1		2		2		2				本年度休講								
	△	○	16361	Skills for the TOEFL e		1	2		2		2					中津川雅宣	465						変則開講 (2年費) 2018年度 開講	
	△	○	16371	Skills for the TOEFL f		1		2		2		2				中津川雅宣	465							
	△	○	16381	Skills for the TOEIC a		1	2		2		2					本年度休講							変則開講 (2年費) 2019年度 開講	
	△	○	16391	Skills for the TOEIC b		1		2		2		2				本年度休講								
	△	○	16401	Skills for the TOEIC c		1	2		2		2					本年度休講							変則開講 (2年費) 開講せず	
	△	○	16411	Skills for the TOEIC d		1		2		2		2				本年度休講								
	△	○	16421	Skills for the TOEIC e		1	2		2		2					柳澤 将志	466						変則開講 (2年費) 2018年度 開講	
	△	○	16431	Skills for the TOEIC f		1		2		2		2				柳澤 将志	467							

区分	他学部 他学科 受入れ	他学部 他学科 受入れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								シペ ラバ スジ	ディプロマ・ポリシー			備 考					
					必修	選択	1年		2年		3年		4年			クラス	担当者	1		2	3			
							前	後	前	後	前	後	前	後										
演習科目	文学系	△	△	13851	文学演習A-a		4					2	2	2	2		英 美由紀	468				8単位選択必修 (文学系、英語 コミュニケーション 演習科目から8 単位選択必修) (総合研究系は 総合研究演習A または総合研 究演習Bを含 む8単位選 択必修)  隔年開講 2018年度はa を開講		
		△	△	13861	文学演習A-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	13871	文学演習B-a		4					2	2	2	2		木村 信一	469						
		△	△	13881	文学演習B-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	13891	文学演習C-a		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	13901	文学演習C-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	13911	文学演習D-a		4					2	2	2	2		岡本 晃幸	470						
		△	△	13921	文学演習D-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
	英語学系	△	△	14051	英語学演習A-a		4					2	2	2	2		對馬 康博	471						
		△	△	14061	英語学演習A-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	14071	英語学演習B-a		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	14081	英語学演習B-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		△	△	14091	言語学演習a		4					2	2	2	2		山木戸浩子	473						
		△	△	14101	言語学演習b		4					2	2	2	2		本年度休講							
		コミュニケーション系	△	△	16901	コミュニケーション演習A-a		4					2	2	2	2		C. Mueller	474					
			△	△	16911	コミュニケーション演習A-b		4					2	2	2	2		本年度休講						
			△	△	16921	コミュニケーション演習B-a		4					2	2	2	2		井筒美津子	475					
			△	△	16931	コミュニケーション演習B-b		4					2	2	2	2		本年度休講						
	総合研究系		△	△	16961	総合研究演習A-a		4					2	2	2	2		J. Redlich	476					
			△	△	16971	総合研究演習A-b		4					2	2	2	2		本年度休講						
△			△	16981	総合研究演習B-a		4					2	2	2	2		大桃 陶子	477						
△			△	16991	総合研究演習B-b		4					2	2	2	2		本年度休講							
			c9011	キリスト教学演習		4					2	2			松村 良祐	478					☆			
				学科特殊演習		4					2	2												
卒業研究関連科目	×	○	17161	Academic Writing I	1									A	D. Hampton	479								
	×	○	17162													B	M. A. Bamai	479						
	×	○	17163													C	J. Redlich	479						
	×	○	17164													D	英 美由紀	479						
	×	○	17165													E	J. E. Bull	479						
	×	○	17171	Academic Writing II	1								2		A	D. Hampton	480							
	×	○	17172												2	B	M. A. Bamai	480						
	×	○	17173												2	C	J. Redlich	480						
	×	○	17174												2	D	英 美由紀	480						
	×	○	17175												2	E	J. E. Bull	480						
卒業研究関連科目	×	○	14301	卒業研究演習	4								2	2	岡本 晃幸	481								
	×	○	14302												2	2	英 美由紀	482						
	×	○	14303												2	2	木村 信一	482						
	×	○	14304												2	2	大桃 陶子	483						
	×	○	14305												2	2	山木戸浩子	484						
	×	○	14307												2	2	對馬 康博	485						
	×	○	14308												2	2	J. Redlich	486						
	×	○	14309												2	2	C. Mueller	487						
	×	○	1430a												2	2	井筒美津子	488						
			c9111												2	2	松村 良祐	489						☆
													2	2	他学科教員									
	×	○		卒業研究	4									○		岡本 晃幸								
	×	○														○		英 美由紀						
	×	○														○		木村 信一						
	×	○														○		大桃 陶子						
	×	○														○		山木戸浩子						
	×	○	17201													○		對馬 康博						
	×	○														○		J. Redlich						
×	○														○		C. Mueller							
×	○														○		井筒美津子							
×	○														○		松村 良祐						☆	
													○		他学科教員									
計					26	320																		

\*他学部、他学科受入 → ○印は受講可  
 ×印は受講不可  
 △印は担当者の承諾が必要

注意  
 ☆ 異文化研究Iクラスター選択者のみ履修可、かつ所属学科の科目のみ選択可。

日本語・日本文学科専門科目

【基礎】

※は学科専門科目読み替え科目一覧で確認してください。

2017年度以前入学生  
教育課程表

他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担 当 者	シ ベ ラ バ ジ	ディプロマ・ポリシー			単 位 区 分	備 考
				必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 精 報 リ テ	2 思 考 力	3 表 現 力		
						前	後	前	後	前	後	前	後							
△		23001	日本語学講義 I A - a	2	2									漆崎 正人	※			選択 必修	* 2年次終了の時点で、日本語学分野から2単位以上、古典文学分野から2単位以上、近現代文学分野から2単位以上、計6単位以上履修しておかなければならない。(選択必修各分野に該当する科目は以下の通り) (日本語学) 日本語学講義 I A~C (古典文学) 日本文学講義 I A~D・I、漢文学講義 I (近現代文学) 日本文学講義 I E~H (ただし、2010年度に履修した日本文学講義 I は近現代文学) * 講義 I は原則として前期・後期のいずれかしか履修できないが、日本語学講義 I A は a・b 履修履修が望ましい。 * 3・4年次で履修する場合は担当教員の承諾を必要とする。	
		23011	日本語学講義 I A - b	2	2									漆崎 正人	※					
		23021	日本語学講義 I B	2	2										揚妻 祐樹	※				
		23022		2	2										揚妻 祐樹	※				
		23031	日本語学講義 I C	2	2										阿部 二郎	※				
		23032		2	2										阿部 二郎	※				
○		23041	日本文学講義 I A	2	2										本年度休講	※				
		23042		2	2										水口 幹記	※				
		23051	日本文学講義 I B	2	2										本年度休講	※	○			
		23052		2	2										小山 清文	※	○			
		23061	日本文学講義 I C	2	2										本年度休講	※	○			
		23062		2	2										平田 英夫	※	○			
		23071	日本文学講義 I D	2	2										本年度休講	※	○			
		23072		2	2										本年度休講	※	○			
		23081	日本文学講義 I E	2	2										関谷 博	※	○			
		23082		2	2										本年度休講	※	○			
		23091	日本文学講義 I F	2	2										種田和加子	※	○			
		23092		2	2										種田和加子	※	○			
		23101	日本文学講義 I G	2	2										菅本 康之	※	○			
		23102		2	2										本年度休講	※	○			
		23111	日本文学講義 I H	2	2										諸岡 卓真	※	○			
		23112		2	2										諸岡 卓真	※	○			
		23121	日本文学講義 I I	2	2										本年度休講	※	○			
		23122		2	2										本年度休講	※	○			
	23131	漢文学講義 I - a	2	2										名畑 嘉則	※	○				
	23141	漢文学講義 I - b	2	2										名畑 嘉則	※	○				
○		23301	日本文学史 A	2	2	2								平田 英夫	493	○		選択 必修	* A・Bは古代~近世、C・Dは近現代。 * AからDのうち計4単位以上、選択必修。	
		23311	日本文学史 B	2	2	2								平田 英夫	493	○				
		23321	日本文学史 C	2	2	2								宮崎 靖士	494	○				
		23331	日本文学史 D	2	2	2								本年度休講	※	○				
×	×	23361	日本語表現法 A - a	2	2									山本 貴昭	※	○		選択	* 日本語表現法 A は国語科教免専用。国語科教免履修者は a・b 履修が必要。 * 日本語表現法 B は国語科教免履修以外の人専用。	
		23371	日本語表現法 A - b	2	2									山本 貴昭	※	○				
	○	23381	日本語表現法 B - a	2	2										井上 貴翔	※	○			
		23391	日本語表現法 B - b	2	2										井上 貴翔	※	○			
△		23401	古文読解	2	2	2								小山 清文	495	※	○		選択	

- \* 講義 I の選択必修6単位は1年次に修得しておくことが望ましい。
- \* 講義 I は各分野から4単位以上、計12単位以上の履修が望ましい。
- \* なお教育免許状を取得する場合は学生便覧の「教職課程」の関連箇所をよく読むこと。



【講義】

他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開 講 学 年 ・ 週 時 数								担 当 者	シベ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			単 位 区 分	備 考
				必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				1 情 報 リ テ ィ	2 思 考 力	3 表 現 力		
						前	後	前	後	前	後	前	後							
△	○	23451	日 本 語 学 概 論 a	2			2		2		2		吉見 孝夫	495				選択	*日本語学概論は国語科教免必修。国語科教免履修者はa・b履修が必要。 *日本文学概論は国語科教免必修。国語科教免履修者はa・b履修が必要。	
		23461	日 本 語 学 概 論 b	2			2		2		2		吉見 孝夫	496						
		23471	日 本 文 学 概 論 a	2			2		2		2		水口 幹記	496						
		23481	日 本 文 学 概 論 b	2			2		2		2		関谷 博	497						
		23501	日本語学講義ⅡA-a	2			2		2		2		漆崎 正人	497						
		23511	日本語学講義ⅡA-b	2			2		2		2		漆崎 正人	498						
		23521	日本語学講義ⅡB-a	2			2		2		2		揚妻 祐樹	498						
		23531	日本語学講義ⅡB-b	2			2		2		2		揚妻 祐樹	499						
		23541	日本語学講義ⅡC-a	2			2		2		2		吉見 孝夫	499						
		23551	日本語学講義ⅡC-b	2			2		2		2		吉見 孝夫	500						
		23561	日本語学講義ⅡD-a	2			2		2		2		池田 証壽	501						
		23571	日本語学講義ⅡD-b	2			2		2		2		池田 証壽	502						
		23581	日本語学講義ⅡE-a	2			2		2		2		菅 泰雄	503						
		23591	日本語学講義ⅡE-b	2			2		2		2		菅 泰雄	504						
		23601	日本文学講義ⅡA-a	2			2		2		2		水口 幹記	504						
		23611	日本文学講義ⅡA-b	2			2		2		2		水口 幹記	505						
		23621	日本文学講義ⅡB-a	2			2		2		2		本年度休講							
		23631	日本文学講義ⅡB-b	2			2		2		2		本年度休講							
		23641	日本文学講義ⅡC-a	2			2		2		2		平田 英夫	505						
		23651	日本文学講義ⅡC-b	2			2		2		2		平田 英夫	506						
		23661	日本文学講義ⅡD-a	2			2		2		2		本年度休講							
		23671	日本文学講義ⅡD-b	2			2		2		2		本年度休講							
		23681	日本文学講義ⅡE-a	2			2		2		2		関谷 博	507						
		23691	日本文学講義ⅡE-b	2			2		2		2		関谷 博	507						
		23701	日本文学講義ⅡF-a	2			2		2		2		種田和加子	508						
		23711	日本文学講義ⅡF-b	2			2		2		2		種田和加子	509						
		23721	日本文学講義ⅡG-a	2			2		2		2		本年度休講							
		23731	日本文学講義ⅡG-b	2			2		2		2		菅本 康之	510						
		23741	日本文学講義ⅡH-a	2			2		2		2		押野 武志	511						
		23751	日本文学講義ⅡH-b	2			2		2		2		押野 武志	511						
		23761	日本文学講義ⅡI-a	2			2		2		2		後藤 康文	512						
		23771	日本文学講義ⅡI-b	2			2		2		2		後藤 康文	512						
		23781	日本文学講義ⅡJ-a	2			2		2		2		野本 東生	513						
		23791	日本文学講義ⅡJ-b	2			2		2		2		野本 東生	513						
23801	日本文学講義ⅡK-a	2			2		2		2		阿部 嘉昭	514								
23811	日本文学講義ⅡK-b	2			2		2		2		阿部 嘉昭	514								
23821	漢文学講義Ⅱ-a	2			2		2		2		福田 忍	515								
23831	漢文学講義Ⅱ-b	2			2		2		2		福田 忍	515								
23861	日 本 思 想 史 I	2			2		2		2		菅本 康之	516								
23871	日 本 思 想 史 II	2			2		2		2		本年度休講									
△	○	23901	日本文化論 A-a	2	2		2		2		2		乾 淑子	516			選択	*日本文化論F(書道史)は書道科教免必修。書道科教免履修者はa・b履修が必要。 *日本文化論G(書論・鑑賞)は書道科教免必修。書道科教免履修者はa・b履修が必要。		
		23911	日本文化論 A-b	2		2		2		2		2		乾 淑子	517					
		23921	日本文化論 B-a	2	2		2		2		2		本年度休講							
		23931	日本文化論 B-b	2		2		2		2		2		本年度休講						
		23941	日本文化論 C-a	2	2		2		2		2		奥田 統己	518						
		23951	日本文化論 C-b	2		2		2		2		2		奥田 統己	519					
		23961	日本文化論 D-a	2	2		2		2		2		武田 雅哉	520						
		23971	日本文化論 D-b	2		2		2		2		2		武田 雅哉	521					
		23981	日本文化論 E-a	2	2		2		2		2		高橋 靖以	522						
		23991	日本文化論 E-b	2		2		2		2		2		高橋 靖以	522					
		24001	日本文化論 F-a	2	2		2		2		2		矢野 敏文	523						
24011	日本文化論 F-b	2		2		2		2		2		矢野 敏文	523							
24021	日本文化論 G-a	2	2		2		2		2		押上万希子	524								
24031	日本文化論 G-b	2		2		2		2		2		押上万希子	524							
×	○	24041	特 殊 講 義	6			○		○		○		井上 泰至	525			選択	*集中講義、3度(6単位)まで履修可。		

\*概論・講義Ⅱ・日本思想史・日本文化論はそれぞれa、bともに履修することができる。



【演習】

他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担 当 者	シベ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			単 位 区 分	備 考
				必修	選択	1年		2年		3年		4年				1	2	3		
						前	後	前	後	前	後	前	後			情報リテ	思考力	表現力		
△	○	24101	日本語学演習 I A	8			2	2	2	2			漆崎 正人	526				2年 選択 必修	*いずれか4単位選択必修、12単位(3コマ)まで履修可。 *2年次に8単位(2コマ)を履修すること。 *同一科目を複数年度にわたって8単位(2コマ)まで履修可。	
		24111	日本語学演習 I B	8			2	2	2	2			揚妻 祐樹	527						
		24121	日本文学演習 I A	8			2	2	2	2			水口 幹記	528						
				24131	日本文学演習 I B	8			2	2	2	2			小山 清文	529				
				24141	日本文学演習 I C	8			2	2	2	2			平田 英夫	530				
				24151	日本文学演習 I D	8			2	2	2	2			本年度休講					
				24161	日本文学演習 I E	8			2	2	2	2			関谷 博	531				
				24171	日本文学演習 I F	8			2	2	2	2			種田和加子	532				
				24181	日本文学演習 I G	8			2	2	2	2			菅本 康之	533				
		24191	漢文学演習 I	8			2	2	2	2			名畑 嘉則	534						
△	△	24251	日本語学演習 II A	8					2	2	2	2	漆崎 正人	535				3年 選択 必修	*4単位選択必修。 *各学年に8単位(2コマ)まで履修可。 *同一科目を複数年度にわたって8単位(2コマ)まで履修可。	
		24261	日本語学演習 II B	8					2	2	2	2	揚妻 祐樹	536						
		24271	日本文学演習 II A	8					2	2	2	2	水口 幹記	537						
×	○	24281	日本文学演習 II B	8					2	2	2	2	小山 清文	538				4年 選択	*同一科目を複数年度にわたって8単位(2コマ)まで履修可。	
		24291	日本文学演習 II C	8					2	2	2	2	平田 英夫	539						
		24301	日本文学演習 II D	8					2	2	2	2	本年度休講							
		24311	日本文学演習 II E	8					2	2	2	2	関谷 博	540						
		24321	日本文学演習 II F	8					2	2	2	2	種田和加子	541						
		24331	日本文学演習 II G	8					2	2	2	2	菅本 康之	542						
△	○	24341	漢文学演習 II	8					2	2	2	2	名畑 嘉則	543						
		c9011	キリスト教学演習	4					2	2			松村 良祐	544			☆			
			学科特殊演習	4					2	2			他学科教員							

【卒業研究】

他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担 当 者	シベ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			単 位 区 分	備 考					
				必修	選択	1年		2年		3年		4年				1	2	3							
						前	後	前	後	前	後	前	後			情報リテ	思考力	表現力							
×	△	24400	卒 業 研 究 ゼ ミ I	4							2	2			漆崎 正人	545			選択	*1学年に4単位(1コマ)のみ履修可。 *IとIIは同時開講。 *受講者数の上限を20人とする。 *講義I(6単位)および演習I(4単位)をあらかじめ修得済であること					
		24401										2	2			揚妻 祐樹	546								
		24402												2	2			水口 幹記			547				
		24403													2	2					小山 清文	548			
		24404													2	2					平田 英夫	549			
		24405														2	2					本年度休講			
		24406														2	2					関谷 博	550		
		24407														2	2					種田和加子	551		
		24408														2	2					菅本 康之	552		
		24409														2	2					名畑 嘉則	553		
		24410	卒 業 研 究 ゼ ミ II	4									2	2			漆崎 正人	554				必修			
		24411													2	2					揚妻 祐樹		555		
		24412														2	2						水口 幹記	556	
		24413														2	2						小山 清文	557	
		24414														2	2						平田 英夫	558	
		24415															2	2						本年度休講	
		24416															2	2						関谷 博	559
		24417															2	2						種田和加子	560
		24418															2	2						菅本 康之	561
24419															2	2			名畑 嘉則	562					
c9111													2	2			松村 良祐	563							
													2	2			他学科教員								
×	△	24450	卒 業 研 究	4											漆崎 正人				必修	☆					
														揚妻 祐樹											
															水口 幹記										
															小山 清文										
															平田 英夫										
															本年度休講										
															関谷 博										
															種田和加子										
															菅本 康之										
															名畑 嘉則										
															松村 良祐										
											他学科教員														

【その他】

他学部 受け 入れ	他学科 受け 入れ	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担 当 者	シ ベ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			単 位 区 分	備 考
				必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				1	2	3		
						前	後	前	後	前	後	前	後			情報リテ	思考力	表現力		
△	○	20901	書 道 I	2		2	2	2	2					押上万希子	564				*2016年度以降入学生は、書道I～IVは書道科 教免必修。 2015年度以前入学生は、書道Iは書道科教免 必修。書道科教免履修者はI～IVのすべてを 履修することが望ましい。 *書道Iは中一種国語科教免必修。	
		20911	書 道 II	2		2	2	2	2					矢野 敏文	565					
		20921	書 道 III	2				2	2	2	2				押上万希子	566				
		20931	書 道 IV	2						2	2	2	2		押上万希子	567				

☆異文化研究 I クラスター選択者のみ履修可、かつ所属学科の科目のみ選択可。

\*他学部、他学科受入→○印は受講可

×印は受講不可

△印は担当者の承諾が必要

文化総合学科専門科目

※は学科専門科目読み替え科目一覧で確認してください。

2017年度以前入学生  
教育課程表

領域	系列	他学部 受入れ	他学科 受入れ	科目No.	授業科目	単位	開講学年・週時数								担当者	シベ ラバ ス	ディプロマポリシー			○入門 ★特講 △演習	備考		
							必修	選択	1年		2年		3年				4年		1			2	3
									前	後	前	後	前	後			前	後	シ ョ ン テ ィ カ			創 造 考 的 力	総 理 合 解 的 力
文化総合学科基礎演習	×	×	32001	「異文化コミュニケーション」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32002	「異文化コミュニケーション」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32011	「社会と制度」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32012	「社会と制度」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32013	「社会と制度」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32021	「歴史」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32022	「歴史」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32023	「歴史」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32031	「思想」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32032	「思想」基礎演習A	2	2																	
	×	×	32061	「異文化コミュニケーション」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32062	「異文化コミュニケーション」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32071	「社会と制度」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32072	「社会と制度」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32073	「社会と制度」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32081	「歴史」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32082	「歴史」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32083	「歴史」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32091	「思想」基礎演習B	2	2																	
	×	×	32092	「思想」基礎演習B	2	2																	
現代文化の交流と社会	△	○	32151	文化人類学 a	2	2								野手 修	※				○				
	△	○	32161	文化人類学 b	2	2								野手 修	※				○				
	△	○	32171	異文化コミュニケーション論a	2	2								伊藤 明美	※				○				
	△	○	32181	異文化コミュニケーション論b	2	2								伊藤 明美	※				○				
	△	○	30021	イギリス文化論 I	2	2		2						田村 理	571				○				
	△	○	30031	イギリス文化論 II	2	2		2		2				D. Flenner	572				○				
	△	○	30041	アメリカ文化論 I	2	2		2						村田 勝幸	573				○				
	△	○	30051	アメリカ文化論 II	2	○		○						村田 勝幸	573				○				
	△	○	32211	英語特講 I	2					2				M.T. 松根	574				★				
	△	○	32221	英語特講 II	2						2			M.T. 松根	575				★				
	△	△	32231	英語特講 III	2							2		M.T. 松根	576				★				
	△	△	32241	英語特講 IV	2								2	M.T. 松根	577				★				
	△	○	30081	フランス文化論 I	2			2						江口 修	578				○				
	△	○	30091	フランス文化論 II	2				2					江口 修	578				○				
	△	○	32251	フランス語特講 I	2					2				江口 修	579				★				
	△	○	32261	フランス語特講 II	2						2			江口 修	580				★				
	△	○	30111	ドイツ文化論 I	2			2						梅津 真	581				○				
	△	○	30121	ドイツ文化論 II	2				2					梅津 真	581				○				
	△	○	32271	ドイツ語特講 I	2					2				梅津 真	582				★				
	△	○	32281	ドイツ語特講 II	2						2			梅津 真	582				★				
	△	○	30141	中国文化論 I	2			2						武田 雅哉	583				○				
	△	○	30151	中国文化論 II	2				2					武田 雅哉	583				○				
	△	○	32411	中国語特講 I	2					2				倉 雅晨	584				★				
	△	○	32421	中国語特講 II	2						2			倉 雅晨	584				★				
	△	○	30171	韓国文化論 I	2			2						辻 弘範	585				○				
△	○	30181	韓国文化論 II	2				2					辻 弘範	585				○					
△	○	32431	コリア語特講 I	2					2				辻 弘範	586				★					
△	○	32441	コリア語特講 II	2						2			辻 弘範	586				★					

領域	系列	他学部 受入れ	他学科 受入れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当者	シラバス ページ	ディプロマ・ポリシー			○入門 ★特講 △演習	備 考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 シ ン ポ ジ ョ ン イ カ	2 創 思 考 的 力	3 総 理 合 解 的 力		
								前	後	前	後	前	後	前	後							
現代文化の交流と社会	異文化コミュニケーション	△	○	32311	異文化コミュニケーション特講A-a	2			2						野手 修				★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	32321	異文化コミュニケーション特講A-b	2			2		2				野手 修				★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	32331	異文化コミュニケーション特講A-c	2			2		2				野手 修	587			★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	32341	異文化コミュニケーション特講A-d	2			2		2				野手 修	587			★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	32351	異文化コミュニケーション特講B-a	2			2		2				伊藤 明美	588			★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	32361	異文化コミュニケーション特講B-b	2			2		2				伊藤 明美	589			★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	32371	異文化コミュニケーション特講B-c	2			2		2				伊藤 明美				★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	32381	異文化コミュニケーション特講B-d	2			2		2				伊藤 明美				★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	30441	情報文化論	2	2		2		2		2		谷川 靖郎	589			○			
		△	○	30451	身体表現論	2	2		2						井上 淳生	590			○			
		△	○	30461	造形美術論	2	2		2						小林 大	591			○			
		△	○	30471	映像表現論	2	2		2						久保 俊哉	592			○			
現代文化の交流と社会	社会学	△	○	32601	政治学(国際政治学)入門	2	2							上原 賢司	593			○				
		△	○	32611	国際関係論入門	2	2							上原 賢司	594			○				
		△	○	32621	国際関係論特講A-a	2			2		2			上原 賢司				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32631	国際関係論特講A-b	2			2		2			上原 賢司				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32641	国際関係論特講A-c	2			2		2			上原 賢司	595			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32651	国際関係論特講A-d	2			2		2			上原 賢司	596			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32661	国際関係論特講B-a	2			2		2			大場 崇代				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32671	国際関係論特講B-b	2			2		2			大場 崇代				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32681	国際関係論特講B-c	2			2		2			大場 崇代	597			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32691	国際関係論特講B-d	2			2		2			大場 崇代	597			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32701	基礎法学A-a(憲法)	2	2							真鶴 俊喜	※			○				
		△	○	32711	基礎法学A-b(憲法)	2	2							真鶴 俊喜	※			○				
		△	○	32721	基礎法学B-a(民法)	2	2							上机 美穂	598			○				
		△	○	32731	基礎法学B-b(民法)	2	2							上机 美穂	598			○				
		△	○	32741	基礎法学C-a(国際関係法)	2	2							小林 友彦	599			○				
		△	○	32751	基礎法学C-b(国際関係法)	2	2							小林 友彦	600			○				
		△	○	32761	法学特講A-a(コミュニケーションと法)	2			2		2			真鶴 俊喜	601			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32771	法学特講A-b(コミュニケーションと法)	2			2		2			真鶴 俊喜				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32781	法学特講B-a(比較政治制度)	2			2		2			真鶴 俊喜				★	隔年(2019年度開講)			
		△	○	32791	法学特講B-b(比較政治制度)	2			2		2			真鶴 俊喜	601			★	隔年(2018年度開講)			
		△	○	32801	法学特講C-a(法女性学)	2			2		2			尾崎 一郎	602			★				
		△	○	32811	法学特講C-b(法女性学)	2			2		2			尾崎 一郎	603			★				
		△	○	30681	現代法特講	2					○				本年度休講				★			
		△	○	32821	女性論 a	2	2		2					李 妍淑	604			○				
		△	○	32831	女性論 b	2	2		2					李 妍淑	604			○				
		△	○	32841	経済学入門 a	2	2							神山 義治	605			○				
		△	○	32851	経済学入門 b(国際経済学)	2	2							神山 義治	605			○				
		△	○	32861	経済学特講 a	2			2		2			成田 泰子	606			★				
		△	○	32871	経済学特講 b	2			2		2			成田 泰子	606			★				
		△	○	32881	社会学入門 a	2	2							櫻井 義秀	607			○				
		△	○	32891	社会学入門 b	2	2							櫻井 義秀	608			○				
		△	○	32901	社会学特講 a	2			2		2			櫻井 義秀				★	隔年(2019年度開講)			
△	○	32911	社会学特講 b	2			2		2			櫻井 義秀				★	隔年(2019年度開講)					
△	○	32921	社会学特講 c	2			2		2			櫻井 義秀	609			★	隔年(2018年度開講)					
△	○	32931	社会学特講 d	2			2		2			櫻井 義秀	609			★	隔年(2018年度開講)					
△	○	32941	音楽社会学 I-a	2	2		2					小林美貴子	610			○						
△	○	32951	音楽社会学 I-b	2	2		2					小林美貴子	610			○						

領域	系列	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担当 者	シラバ スバジ	ディプロマ・ポリシー			○入門 ★特講 △演習	備 考
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 シ ン ホ ン ケ イ カ	2 創 思 考 的 力	3 総 理 合 解 的 力		
								前	後	前	後	前	後	前	後							
現代文化の交流と社会	社 会 と 制 度	△	○	32961	音楽社会学Ⅱ-a	2		2							岩澤 孝子	611				○		
		△	○	32971	音楽社会学Ⅱ-b	2			2						岩澤 孝子	611				○		
		△	○	30821	地理学基礎論(自然地理学を含む)	2	2	2							上野 莉紗	612				○		
		△	○	30831	人文地理学	2	2	2							上野 莉紗	612				○		
		△	○	30841	地 誌 学	2	2	2	2						上野 莉紗	613				○		
		△	○	32991	心理学入門 a	2	2								加藤 弘通	※				○		
		△	○	33001	心理学入門 b	2	2								水野 君平	※				○		
		△	○	33011	心理学特講 A-a	2		2	2						石井佑可子					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33021	心理学特講 A-b	2			2	2					石井佑可子					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33031	心理学特講 A-c	2		2	2						川田 学	614				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33041	心理学特講 A-d	2			2	2					加藤 弘通	615				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33051	心理学特講 B-a	2		2	2						実平 奈美					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33061	心理学特講 B-b	2			2	2					実平 奈美					★	隔年(2020年度開講)	
		△	○	33071	心理学特講 B-c	2		2	2						実平 奈美	616				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33081	心理学特講 B-d	2			2	2					実平 奈美	617				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33091	統計学(確率論を含む)	2	2								小糸健太郎	※				○		
		現代社会の文化の基層	現 代 社 会 の 文 化 の 基 層	△	○	33151	西洋史入門 a	2	2							渡邊 浩	※				○	
△	○			33161	西洋史入門 b	2	2							本間 俊行	※				○			
△	○			33171	西洋史特講 A-a	2		2	2					渡邊 浩					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33181	西洋史特講 A-b	2			2	2				渡邊 浩					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33191	西洋史特講 A-c	2		2	2					渡邊 浩	618				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33201	西洋史特講 A-d	2			2	2				渡邊 浩	619				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33211	西洋史特講 B-a	2		2	2					本間 俊行					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33221	西洋史特講 B-b	2			2	2				本間 俊行					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33231	西洋史特講 B-c	2		2	2					山本 文彦	620				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33241	西洋史特講 B-d	2			2	2				山本 文彦	620				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33251	西洋史特講 C-a	2		2	2					田村 理					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33261	西洋史特講 C-b	2			2	2				田村 理					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33271	西洋史特講 C-c	2		2	2					田村 理	621				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33281	西洋史特講 C-d	2			2	2				田村 理	621				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33291	西洋史特講 D	2				○				本年度休講					★	集中変則開講(2年置) 2019年度開講		
△	○			33301	西洋史文献講読 a	2		2	2					本間 俊行					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33311	西洋史文献講読 b	2			2	2				渡邊 浩					★	隔年(2019年度開講)		
△	○			33321	西洋史文献講読 c	2		2	2					本間 俊行	622				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33331	西洋史文献講読 d	2			2	2				渡邊 浩	622				★	隔年(2018年度開講)		
△	○			33341	考古学 a	2		2	2					小野 裕子	623				○			
△	○			33351	考古学 b	2			2	2				小野 裕子	624				○			
△	○			33361	日本史入門 A-a(概説)	2	2							石田 晴男	※				○			
△	○			33371	日本史入門 A-b(概説)	2	2							石田 晴男	※				○			
△	○			33381	日本史入門 B-a(学説史)	2	2							松本あづさ	※				○			
△	○			33391	日本史入門 B-b(学説史)	2	2							松本あづさ	※				○			
△	○			33401	日本史入門 C-a	2	2	2	2	2	2			竹野 学	625				○			
△	○			33411	日本史入門 C-b	2	2	2	2	2	2			竹野 学	626				○			
△	○	33421	日本史特講 A-a	2		2	2					石田 晴男					★	隔年(2019年度開講)				
△	○	33431	日本史特講 A-b	2			2	2				石田 晴男					★	隔年(2019年度開講)				
△	○	33441	日本史特講 A-c	2		2	2					石田 晴男	627				★	隔年(2018年度開講)				
△	○	33451	日本史特講 A-d	2			2	2				石田 晴男	627				★	隔年(2018年度開講)				
△	○	33461	日本史特講 B-a	2		2	2					松本あづさ					★	隔年(2019年度開講)				
△	○	33471	日本史特講 B-b	2		2	2					松本あづさ					★	隔年(2019年度開講)				

領域	系列	他 学 部 受 け 入 れ	他 学 科 受 け 入 れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開 講 学 年 ・ 週 時 数								担 当 者	シ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			○入門 ★特講 △演習	備 考	
						必 修	選 択	1 年		2 年		3 年		4 年				1 シ ョ ウ コ ン テ ン ト	2 創 意 考 察 的 力	3 総 理 合 解 的 力			
								前	後	前	後	前	後	前	後								
現代 社会の 文化の 基層	史	△	○	33481	日本史特講B-c	2			2		2					松本あづさ	628				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33491	日本史特講B-d	2				2		2				松本あづさ	629				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33501	日本史特講C-a	2			2		2					一瀬 啓恵					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33511	日本史特講C-b	2				2		2				一瀬 啓恵					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33521	日本史特講C-c	2				2		2				一瀬 啓恵	630				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33531	日本史特講C-d	2					2		2			一瀬 啓恵	631				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33541	日本史特講D-a	2				2		2				小倉真紀子					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33551	日本史特講D-b	2					2		2			小倉真紀子					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33561	日本史特講D-c	2				2		2				小倉真紀子	632				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33571	日本史特講D-d	2						2		2		小倉真紀子	632				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33581	東洋史入門a	2	2									宮崎 聖明	633				○		
		△	○	33591	東洋史入門b	2	2									川口 琢司	634				○		
		△	○	33601	東洋史特講a	2				2		2				川口 琢司					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33611	東洋史特講b	2					2		2			宮崎 聖明					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33621	東洋史特講c	2				2		2				川口 琢司	634				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33631	東洋史特講d	2					2		2			宮崎 聖明	635				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33641	東洋史文献講読a	2				2		2				川口 琢司					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33651	東洋史文献講読b	2					2		2			宮崎 聖明					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33661	東洋史文献講読c	2				2		2				川口 琢司	636				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33671	東洋史文献講読d	2					2		2			宮崎 聖明	637				★	隔年(2018年度開講)	
現代 社会の 文化の 基層	思	△	○	33711	インド思想史a	2	2		2		2		2	細田 典明	638				○				
		△	○	33721	インド思想史b	2	2			2		2		2	細田 典明	639				○			
		△	○	33731	日本思想史a	2	2			2		2			2	追塩 千尋	640				○		
		△	○	33741	日本思想史b	2	2			2		2			2	追塩 千尋	640				○		
		△	○	33751	中国思想史a	2	2			2		2				福田 忍	641				○		
		△	○	33761	中国思想史b	2	2			2		2				福田 忍	641				○		
		△	○	33771	西洋思想史A-a	2	2									三浦 洋	642				○		
		△	○	33781	西洋思想史A-b	2	2			2		2				三浦 洋	642				○		
		△	○	33791	西洋思想史B-a	2	2			2						宮野晃一郎	643				○		
		△	○	33801	西洋思想史B-b	2	2			2						宮野晃一郎	644				○		
		△	○	33811	西洋思想史B-c	2	2			2						本年度休講					○		※2016年度以前入学生のみ受講可
		△	○	33821	西洋思想史B-d	2	2			2						本年度休講					○		※2016年度以前入学生のみ受講可
		△	○	33831	西洋思想史C-a	2				2						杉内 峰彦	645				○		
		△	○	33841	西洋思想史C-b	2					2					杉内 峰彦	645				○		
		△	○	33851	哲学入門a	2	2									松村 良祐	※				○		
		△	○	33861	哲学入門b	2	2									松村 良祐	※				○		
		△	○	33871	哲学特講A-a	2				2		2				松村 良祐					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33881	哲学特講A-b	2					2		2			松村 良祐					★	隔年(2019年度開講)	
		△	○	33891	哲学特講A-c	2				2		2				杉内 峰彦	646				★	隔年(2018年度開講)	
		△	○	33901	哲学特講A-d	2					2		2			杉内 峰彦	646				★	隔年(2018年度開講)	
△	○	33911	哲学特講B-a	2				2		2				三浦 洋					★	隔年(2019年度開講)			
△	○	33921	哲学特講B-b	2					2		2			三浦 洋					★	隔年(2019年度開講)			
△	○	33931	哲学特講B-c	2				2		2				三浦 洋	647				★	隔年(2018年度開講)			
△	○	33941	哲学特講B-d	2					2		2			三浦 洋	647				★	隔年(2018年度開講)			
△	○	33951	哲学特講C-a	2				2		2				杉内 峰彦					★	隔年(2019年度開講)			
△	○	33961	哲学特講C-b	2					2		2			杉内 峰彦					★	隔年(2019年度開講)			
△	○	33971	哲学特講C-c	2					2		2			多田 圭介	648				★	隔年(2018年度開講)			
△	○	33981	哲学特講C-d	2					2		2			多田 圭介	648				★	隔年(2018年度開講)			



領域	系列	他学部 受け入れ	他学科 受け入れ	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								担当者	シラバス ページ	ディプロマ・ポリシー			○入門 ★特講 △演習	備考	
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1 シ ョ ン テ ィ カ	2 創 思 考 的 力	3 総 理 合 解 的 力			
								前	後	前	後	前	後	前	後								
現代社会の文化の基層	思	△	○	33991	倫理学入門 a	2	2								勝西 良典	※				○			
		△	○	34001	倫理学入門 b	2	2								勝西 良典	※				○			
		△	○	34011	倫理学特講 a	2		2		2					勝西 良典					★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	34021	倫理学特講 b	2			2		2				勝西 良典					★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	34031	倫理学特講 c	2			2		2				勝西 良典	649				★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	34041	倫理学特講 d	2				2		2			勝西 良典	650				★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	34051	倫理学文献講読 a	2			2		2				増渕 隆史					★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	34061	倫理学文献講読 b	2				2		2			増渕 隆史					★	隔年(2019年度開講)		
		△	○	34071	倫理学文献講読 c	2			2		2				増渕 隆史	651				★	隔年(2018年度開講)		
		△	○	34081	倫理学文献講読 d	2				2		2			多田 圭介	652				★	隔年(2018年度開講)		
	△	○	34091	古典語 A - I	4	2	2							小原 琢	※					★			
	△	○	34101	古典語 A - II	4			2	2					小原 琢	653					★	※古典語 A - I 修得済みの学生のみ履修可		
	△	○	34111	古典語 B	4			2	2	2	2			三浦 洋	654					★			
	△	○	34121	神話論 a	2									今年度休講						○	隔年(2019年度開講)		
	△	○	34131	神話論 b	2									平藤喜久子	655					○	隔年(2018年度のみ)		
	△	○	34141	キリスト教文化論 a	2	2		2						山我 哲雄	656					★			
	△	○	34151	キリスト教文化論 b	2		2		2					山我 哲雄	657					★			
	△	○	34161	宗教文化論 a	2			2		2				今年度休講						○			
	△	○	34171	宗教文化論 b	2				2		2			今年度休講						○			
	△	○	34181	イスラム文化論 a	2			2		2				山我 哲雄	658					○			
△	○	34191	イスラム文化論 b	2				2		2			川口 琢司	659					○				
全領域	△	○	34251	文総特殊講義 a	2								今年度休講										
	△	○	34261	文総特殊講義 b	2								今年度休講										
	△	○	34271	文総特殊講義 c	2								今年度休講										
	△	○	34281	文総特殊講義 d	2								今年度休講										
演習	△	○	30331	異文化コミュニケーション演習A-a	4			2	2	2	2			伊藤 明美					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	30341	異文化コミュニケーション演習A-b	4			2	2	2	2			伊藤 明美	660				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	30351	異文化コミュニケーション演習B-a	4			2	2	2	2			野手 修					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	30361	異文化コミュニケーション演習B-b	4			2	2	2	2			野手 修	661				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	30551	国際関係論演習 a	4			2	2	2	2			上原 賢司					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	30561	国際関係論演習 b	4			2	2	2	2			上原 賢司	662				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	30711	法学演習 a	4			2	2	2	2			真鶴 俊喜					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	30721	法学演習 b	4			2	2	2	2			真鶴 俊喜	663				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	34381	心理学演習 a	4			2	2	2	2			石井佑可子					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	34391	心理学演習 b	4			2	2	2	2			実平 奈美	664				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	34421	西洋史演習 a	4			2	2	2	2			渡邊 浩					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	34431	西洋史演習 b	4			2	2	2	2			渡邊 浩	665				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	31311	日本史演習 A - a	4			2	2	2	2			石田 晴男					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	31321	日本史演習 A - b	4			2	2	2	2			石田 晴男	666				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	31331	日本史演習 B - a	4			2	2	2	2			松本あづさ					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	31341	日本史演習 B - b	4			2	2	2	2			松本あづさ	667				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	31611	哲学演習 A - a	4			2	2	2	2			松村 良祐					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	31621	哲学演習 A - b	4			2	2	2	2			杉内 峰彦	668				△	隔年(2018年度開講)			
	△	○	31631	哲学演習 B - a	4			2	2	2	2			勝西 良典					△	隔年(2019年度開講)			
	△	○	31641	哲学演習 B - b	4			2	2	2	2			勝西 良典	669				△	隔年(2018年度開講)			
△	○	c9011	キリスト教演習	4						2	2		松村 良祐	670				△	2012年度以降入学生に適用				
△	○		学科特殊演習	4						2	2								△				
卒業研究演習	×	×	35100	卒業研究演習	4									伊藤 明美	671					△			
			35101													野手 修	672						
			35102													上原 賢司	673						
			35103													真鶴 俊喜	674						
			35104													渡邊 浩	674						
			35105													石田 晴男	675						
			35106													松本あづさ	676						
			35107													杉内 峰彦	677						
			35108													勝西 良典	678						
			35109													実平 奈美	679						
		c9111											松村 良祐	680									
													他学科教員										



領域	系列	他学部 受入れ	他学科 受入れ	科目No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								担 当 者	シ ペ ラ バ ス ジ	ディプロマ・ポリシー			○入門 ★特講 △演習	備 考																		
						必修	選択	1年		2年		3年		4年				1	2	3																				
								前	後	前	後	前	後	前	後			コミュニケーション	創造的力	総合的力																				
卒業研究	×	×	31905	卒 業 研 究	4																			伊藤 明美																
																								野手 修																
																								上原 賢司																
																								真鶴 俊喜																
																								渡邊 浩																
																								石田 晴男																
																								松本あづさ																
																								杉内 峰彦																
																								勝西 良典																
																								実平 奈美																
																								松村 良祐																
																								他学科教員																
計						8	508																																	

\* 他学部、他学科受入 → ○印は受講可  
 ×印は受講不可  
 △印は担当者の承認が必要

- 注意 1 特講科目(★)と演習科目(△)を除く各系列の選択科目(○)からそれぞれ4単位以上、計16単位選択必修  
 2 基礎演習4単位選択必修  
 3 卒業研究演習科目の履修については、指定された特講科目と演習科目のうちから各4単位以上、計8単位選択必修  
 ☆ 異文化研究Iクラスター選択者のみ履修可、かつ所属学科の科目のみ選択可。



# シラバス

[2018 年度入学生]



# 大学教養科目



00901

## キリスト教概論

担当教員：木村 晶子

2単位 前期

## 授業のねらい

この授業においては、キリスト教の基礎知識を学び、西欧文化の根底に流れている世界観をよりよく理解することを目的とする。それによって西欧の芸術や文学、言語、生活習慣等を東洋の文化と比較し、東西の根本的な相違を理解する。

さらに、宗教と日常生活とのかかわりについてあらためて考える時間としたい。

## 到達目標

1. キリスト教に限らず、人間本性と宗教とのかかわりを自分なりに考察できる。
2. 宗教に対する偏見を持たず、文化の多様性を考慮できるようになる。

## 授業方法

講義の終わりに次回の内容を知らせ、事前に関係個所に目を通しておくように指示する。

聖書や関連する映像・絵画等を通して、キリスト教の世界観を具体的に紹介する。

各回、学生の要望を聞き、質問を受けるようにする。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 キリスト教の歴史(1) キリスト教の成立
- 第3回 キリスト教の歴史(2) 東方教会と西方教会
- 第4回 キリスト教の歴史(3) カトリックとプロテスタント
- 第5回 キリスト教の歴史(4) 世界への宣教 修道会の役割 (フランシスコ会・イエズス会・トラピスト会等)
- 第6回 現代のキリスト教 全世界におけるキリスト教の状況
- 第7回 旧約と新約の意味
- 第8回 天地創造について (被造物の意義・原罪)
- 第9回 回勅『ラウダート・シ』から学ぶ
- 第10回 新約 (イエスの教え) の中心思想 (神の愛・アガペー)
- 第11回 新約 (イエスの教え) の中心思想 許し (放蕩息子のたとえ、罪をおかした女の例など)
- 第12回 キリスト教文化と生活
- 第13回 キリスト教美術
- 第14回 キリスト教音楽
- 第15回 総括 Q & A 各自の振り返り

## 成績評価の方法

最終試験 (60%)、小テスト (20%)、受講態度 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

基本的に講義形式であるが、質問する、あるいは異なった意見でも発言するなどの学生の積極的な態度が求められる。宗教・文化の多様性を意識して、いろいろな考え方を聴く姿勢を養ってほしい。

私語を慎むこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教員が作成したプリント等を必要に応じて使用する。

## 参考書

マイケル・コリンズ『キリスト教の歴史』(BL 出版、2001、ISBN: 4892387835)

『聖書』(日本聖書協会)

## 参考ホームページ

カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp/>(カトリックについて理解するために役立つ)



00902

## キリスト教概論

担当教員：松村 良祐

2 単位 前期

### 授業のねらい

遠くパレスチナの地に生まれたキリスト教は、16世紀に日本に到来して以来、今や我々の生活に深く浸透している身近な存在であると言える。クリスマスやバレンタインといった文化的習慣のみならず、「豚に真珠」や「目から鱗」などの慣用語も遡ればキリスト教にその起源がある。こうしたキリスト教について学ぶことは、それを母体とする西洋文化について学ぶことにほぼ等しい。そして、キリスト教が日本を含めた多くの国々に到来している現状を踏まえるのであれば、キリスト教について学ぶことは、この世界全体を読み解く上で必要不可欠な作業のひとつだとも言えるだろう。

この授業は、世界や人間、倫理などの様々なトピックに関するキリスト教の基本的な立場を順次確認していくことで、キリスト教に関する基本的な知識の涵養を目指す。

### 到達目標

- ・人間と宗教の関わりについての基本的知識を身に付け、広く宗教文化についての自身の視野を養うこと。
- ・世界観や人間観、倫理観、死生観に関するキリスト教の考えを理解し、その標準的な説明を行うことができる。

### 授業方法

- ・この授業では、まず人間がキリスト教をはじめとする宗教一般に対して持つ関係を確認する。次いで、キリスト教の重要なトピック（世界観や人間観など）を順次取り上げる。そして、個々の事例を手掛かりとして、それらが現代世界との関わりの中でどのように生かされているのかを検討してみたい。
- ・各回ごとに配布するプリントをもとに講義内容を復習すること。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：宗教を持つヒトという動物
- 第2回 キリスト教とはどのような宗教か：歴史・教義・教派
- 第3回 キリスト教と日本人：イエズス会の海外布教と『沈黙』
- 第4回 キリスト教の聖典：旧約聖書と新約聖書
- 第5回 キリスト教の神観：神・天使・悪魔・人間
- 第6回 キリスト教の世界観(1)：六日間の創造の業
- 第7回 キリスト教の世界観(2)：悪はなぜ存在するのか？
- 第8回 キリスト教の人間観(1)：アダムとエバの楽園追放
- 第9回 キリスト教の人間観(2)：砂漠の修道士と欲望の克服
- 第10回 キリスト教の倫理観(1)：アガペーとエロース
- 第11回 キリスト教の倫理観(2)：復讐と赦し
- 第12回 キリスト教の死生観：交錯する現世と来世
- 第13回 キリスト教の教会観：大聖堂とゴシック建築
- 第14回 キリスト教の美術観：読み物としてのキリスト教絵画
- 第15回 授業全体の概括：現代に生きるキリスト教

### 成績評価の方法

授業への積極的参加（30%）、試験（70%）などを総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

- ・教科書（聖書）を必ず持参して受講すること。
- ・授業前に聖書を実際にかき、その内容に親しんでおくことが望ましい。

### 教科書

共同訳聖書実行委員会（監訳）『聖書 新共同訳－旧約聖書続編つき－』（日本聖書協会、2013年、ISBN：978-4-8202-1202-7）

### 参考書

- 山我哲雄『キリスト教入門』（岩波書店、2014年、ISBN：4-005-00792-9）
- 山我哲雄（編）『図解 これだけは知っておきたいキリスト教』（洋泉社、2011年、ISBN：4-862-48680-0）
- R. ボウカム『イエス入門』（新教出版社、2013年、ISBN：978-4-400-52071-9）

### 参考ホームページ

日本聖書協会 HP <http://www.bible.or.jp/main.html>（聖書本文の検索や翻訳の歴史など）

00903

## キリスト教概論

担当教員：阿部 包

2単位 前期

## 授業のねらい

伝統的な社会においては、地域や民族・部族ごとに宗教も異なっていました。しかし、文明の誕生によって、人々は地域や民族・部族の相違を超えてより普遍的な宗教を求めるようになりました。この授業では、そのような普遍的な宗教の具体例としてキリスト教を取り上げ、その特徴について他の諸宗教との共通点や相違点の比較をとおして説明し、その普遍的な価値と限界を含めてキリスト教の基礎的知識を身に着けることを目的とします。

## 到達目標

- ・キリスト教と他の諸宗教との共通点と相違点を理解し、寛容な姿勢を養うこと。
- ・キリスト教的思考の特徴、キリスト教の教えの特徴を概略的に説明できること。
- ・キリスト教の世界観・人間観を学ぶことをとおして、自分の考えを広げ深めること。

## 授業方法

この授業では、人間がそもそも宗教的動物であるという事実の確認から始まり、諸宗教におけるキリスト教の位置づけ、そして、キリスト教を特徴づけている世界観や人間観などを、聖書やキリスト教の歴史を参照しながら検討し、現代におけるこれらの普遍的な意味を考えます。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：人間はどのような動物か
- 第2回 キリスト教はどのような宗教か：諸宗教との比較を参考に
- 第3回 聖書はどのような書物か
- 第4回 分派から独立へ：ユダヤ教、イエス、キリスト教
- 第5回 創造という思考：科学的世界観は創世神話の世界観を撃破したか
- 第6回 被造物という思考：アダムと楽園追放の神話
- 第7回 愛という思考：エロースとアガペー、隣人愛
- 第8回 神の国という思考：神の国から天の国、そして天国へ
- 第9回 キリスト教の教え：キリスト教徒は何を信じているのか～信条と祈りについて
- 第10回 キリスト教の教え：「世の終わり」、天国と地獄、そして煉獄の誕生
- 第11回 キリスト教の教え：罪のゆるし、体の復活、永遠の命
- 第12回 キリスト教の教派：東西分裂、東方教会と西方教会
- 第13回 イエス・キリストとキリスト教の聖人たち：アシジのフランチェスコ、マザー・テレサほか
- 第14回 キリスト教徒の宗教生活：教会暦、秘跡ほか
- 第15回 全体の総括と展望

## 成績評価の方法

授業への積極的な参加（40%）、レポート課題（60%）によって総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

教科書（聖書）を必ず持参して受講すること。

## 教科書

『聖書 新共同訳―旧約聖書続編つき』（日本聖書協会、1987～、ISBN：978-4-8202-1202-7）

## 教科書・参考書に関する備考

必要な参考文献については授業中に紹介する。

## 参考書

山我哲雄[編]『図解 これだけは知っておきたいキリスト教』（洋泉社、2011、ISBN：978-4-422-24084-6）  
宇都宮輝雄・阿部包[共著]『面白いほどよくわかるキリスト教』（日本文芸社、2008、ISBN：978-4-537-25602-4）

## 参考ホームページ

日本聖書協会 <http://www.bible.or.jp>  
Laudate <http://www.pauline.or.jp>（女子パウロ会ホームページ）

00911

## キリスト教と藤女子大学

担当教員：漆崎 正人・松本 あづさ・  
下田 尊久・阿部 包・木村 晶子・  
渡邊 浩・川村 信三

2単位 通年

### 授業のねらい

1961年に開設された藤女子大学、その淵源はどこに由来するのか。その前身は、「北海道の未来は女子教育にある」と確信したドイツ人ヴェンセスラウス・キノルド司教が母国ドイツから女子教育の真の担い手になる殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会の三人の修道女を招聘し、1925年(大正14年)に創設された「札幌 藤高等女学校」である。しかし、それ以上に壮大で壮絶な人類歴史の展開の中で醸成され誕生し得た背景がある。その背景を探るため歴史を辿り、藤のルーツを求める。

### 到達目標

人類の歴史に深く根差したキリスト教の潮流のなかに、「藤」が誕生したことの理解を深め、また、人類の永遠の課題である「愛」とは何かを極め・実践することが人に課せられた大切な使命であることを弁えること。

### 授業方法

授業は、下記の通り、7名の教員により、それぞれのテーマのもとに3回づつ、貴重な資料での解説や、パワーポイントでの説明等による講義形式で行われる。

### 授業計画

- 第1回 テーマ：日本キリシタンの歴史(川村信三)  
大航海時代以降のキリスト教の広がり
- 第2回 テーマ：日本キリシタンの歴史(川村信三)  
キリシタンの誕生・発展・殉教・潜伏キリシタンの生活・信仰伝承
- 第3回 テーマ：日本キリシタンの歴史(川村信三)  
潜伏キリシタンの発見
- 第4回 テーマ：日本とキリスト教との出会い(漆崎正人)  
宣教師の布教活動-愛の精神の伝達
- 第5回 テーマ：日本とキリスト教との出会い(漆崎正人)  
宣教師の日本研究とキリシタン文化の開花
- 第6回 テーマ：日本とキリスト教との出会い(漆崎正人)  
キリスト教の禁教へ-受難のはじまり-
- 第7回 テーマ：近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教(松本あづさ)  
江戸時代の北海道とキリスト教
- 第8回 テーマ：近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教(下田尊久)  
北海道と聖公会
- 第9回 テーマ：近世から近代初頭の北海道におけるキリスト教(阿部包)  
北海道とカトリック
- 第10回 テーマ：キリスト教における聖人(渡邊浩)  
キリスト教における聖人
- 第11回 テーマ：キリスト教における聖人(渡邊浩)  
聖ヴェンセスラウスと藤学園
- 第12回 テーマ：キリスト教における聖人(渡邊浩)  
アッシジの聖フランシスコ
- 第13回 テーマ：藤に脈打つ精神(木村晶子)  
殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会の誕生と世界での活躍
- 第14回 テーマ：藤に脈打つ精神(木村晶子)  
藤学園の歩み：高等学校・中高等学校・専修学校・短期大学・大学
- 第15回 テーマ：藤に脈打つ精神(木村晶子)  
時空を超えて大切にされ、将来も伝えるべきこと

### 成績評価の方法

各講義担当者が最後の授業後半で、レポート(reaction paper)を課し、出席数等を勘案して点数で評価する。各学生の科

目成績は、各担当者が採点した点数をコーディネーターが総計し、その平均点としてあらわされる。

### 履修にあたっての注意

基本的には講義形式であるが、積極的に参加し、質問・発言等もするようにしてほしい。各回のリアクションペーパーは、きちんとまとめ、自分の意見なども書くようにする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

各回とも担当教員が資料を用意する。

### 参考書

必要に応じて推薦する

00921

## キリスト教人間学 A

担当教員：木村 晶子

2単位 前期

## 授業のねらい

この授業では、キリスト教的人間観を中心として、人間の内面性や命の問題等について考察してゆき、特に、

現代の様々な社会問題を通して、家族関係のあり方や人と人との関わりを各自が見直し、人間らしく生きること、真の幸福、平和についてなどについて考えてゆく。

## 到達目標

1. 生きる目的をしっかりと持ち、社会の一員としてその役割を果たしてゆく意識を持つようにする。
2. 自分の能力を他者や自分の地域のために役立てることを学ぶ。
3. 価値観の構築や自立した人間になってゆく過程を意識し、自分らしさを追及する。

## 授業方法

講義の終わりに次回の内容を知らせ、事前に関係個所に目を通しておくように指示する。

また終了時に、その日の内容について確認する。

1回につき一つのテーマで講義を行う。そのテーマに関するビデオ・DVD等の資料やプリントを使い、進めてゆく。

## 授業計画

- 第1回 序論
- 第2回 人間関係について：映画などを使用して具体的に良い人間関係について考察する
- 第3回 人間関係について：自分について再考察することによって自分の傾向を知る
- 第4回 人間関係について：なぜ人間関係がうまくゆかないのか
- 第5回 人生を肯定的に生きるとは：絶望しないためには
- 第6回 カルトについて
- 第7回 愛について：愛の本質とは何か
- 第8回 自己を高めるためには
- 第9回 命の尊厳について
- 第10回 幸福とは何か
- 第11回 戦争問題について：アウシュビッツについて
- 第12回 戦争問題について：日本とアジアの諸外国との関係について
- 第13回 差別の問題について：ハンセン病患者の問題など
- 第14回 平和について考える：紛争の原因を探る 多様性について考える
- 第15回 まとめおよび Q & A  
レポート提出

## 成績評価の方法

レポート (60%)、授業への参加状況 (40%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業に対して積極的に臨んでほしい。各自が問題意識を持ち、意見を述べること。

私語を慎むこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教員が作成したプリント等を使用する

## 参考書

ミッチ・アルボム『モリ―先生との火曜日』(NHK 出版、2004、ISBN : 4140810076)

V. E. フランクル『それでも人生にイエスと言う』(春秋社、1993、ISBN : 4393363604)

エーリッヒ・フロム『愛するということ』(紀伊國屋書店、1991、ISBN : 4314005580)

エーリッヒ・ショイルマン・岡崎照男訳『パパラギ』(立風書房、1981、ISBN : 4651930077)

## 参考ホームページ

なし

00941

**聖書概論 A**

担当教員：阿部 包

2 単位 前期

**授業のねらい**

聖書は、アジアの西端の地域で生まれた書物ですが、それは後にギリシア思想と共にヨーロッパの文化・文明の形成に不可欠な役割を果たしました。また、聖書が描く世界観・人間観は、一神教と総称される宗教（例えば、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の根幹をなしています。

この授業は、このような聖書が描き出す世界観・人間観を理解するための基礎的知識を提供します。

**到達目標**

- ・旧約聖書の基本的な考え方を概略的に説明できる。
- ・新約聖書の基本的な考え方を概略的に説明できる。
- ・旧約聖書と新約聖書の関係を概略的に説明できる。
- ・イエスの思想と活動の特徴を概略的に説明できる。

**授業方法**

この授業では、(1)聖書という書物の特徴（構成、成立、聖書とユダヤ教・キリスト教徒の関係など）をまず確認し、次に(2)旧約聖書の中心的内容を抽出しながら、そこに示された世界観・人間観を理解する。そして、それを基にして(3)新約聖書が伝えるイエスの思想と活動および彼が目指したものを歴史的文脈の中に位置づけて理解する。聖書箇所が指示されている回はその箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

**授業計画**

- 第1回 イントロダクション：聖書とユダヤ教・キリスト教、ヘブライ・イスラエル・ユダヤの関係を含めて
- 第2回 聖書の成立と構造およびそれらが書かれた言語と地域
- 第3回 創世記が描く神・世界・人間（創世記1～11章）
- 第4回 神は名もない者を選ばれる：アブラハム物語～信仰と契約（創世記12～22章）
- 第5回 イスラエルの民の起源と苦難（創世記25～50章）
- 第6回 民の解放体験と律法（出エジプト記）
- 第7回 定住を目指して（ヨシヤ記、士師記）
- 第8回 王国の成立と分裂（サムエル記、列王記）
- 第9回 捕囚体験と預言者の思想、ユダヤ教の萌芽
- 第10回 イエス誕生前夜のユダヤ社会：政治的なメシア待望、抑圧と抵抗運動、多様な活動
- 第11回 イエスの思想と活動①：貧しい人々と共に歩む人
- 第12回 イエスの思想と活動②：譬え話から（ぶどう園の労働者、善いサマリア人ほか）
- 第13回 イエスの最後の歩み（最後の晩餐・裁判）と死および弟子たちの復活体験
- 第14回 イエス亡き後：イエスをめぐる伝承の成立と残された者たちの活動（パウロを含めて）
- 第15回 授業全体の総括と展望：聖書から受け止めたこと

**成績評価の方法**

授業への積極的参加（質問など：40%）、レポート課題（60%）により総合的に評価する。

**履修にあたっての注意**

教科書（聖書）は、授業に当たって必ず持参し、教員が指示する箇所を確認すること。

**教科書**

『聖書 新共同訳—旧約聖書続編つき』（日本聖書協会、1987年～、ISBN：978-4-8202-1202-7）

**教科書・参考書に関する備考**

「参考書」欄に記載されたもの以外は授業中に適宜紹介する。

**参考書**

阿部包[監修]『5分ですっきり読める聖書物語<旧約篇>』（成美堂出版、2011、ISBN：2011、978-4-415-40162-1）

**参考ホームページ**

日本聖書協会 <http://www.bible.or.jp>

Laudate <http://www.pauline.or.jp>（女子パウロ会ホームページ）



00951

## 聖書概論 B

担当教員：松村 良祐

2単位 後期

## 授業のねらい

聖書という一冊の書物が我々の手に今日あるような形で成立したのは、紀元後3世紀頃のことであったと言われている。それ以来、このキリスト教の聖典である聖書は「Bible (本)」という名に相応しく、世界中の幾多の言語に翻訳され、その地域に浸透していった。

この授業では、そうした聖書の中から主に新約聖書を取り上げ、その中心に位置するナザレのイエスに焦点を合わせる。イエスの教えがその母体となるユダヤ教から切り離され、その後、どのようにして「キリスト教」という新たな宗教として成立していったのかを見ていくことがこの授業の狙いである。その際、イエスの思想を浮かび上がらせるに当たって、旧約聖書やその他関連する当時の文献を用い、イエスが生まれるに至るまでのユダヤ人の歴史やユダヤ社会の様子も併せて見ていく。

## 到達目標

1. 紀元前後のユダヤ社会におけるイエスの思想の意義を理解すること。
2. イエスの思想がユダヤ教の枠組みを離れ、キリスト教という新しい宗教の内に位置づけられる歴史的プロセスを理解すること。

## 授業方法

この授業では、まず聖書という一冊の書物の持つ特性とその底流を流れる思想や歴史を確認する。次いで、新約聖書の記述を頼りに、イエスの生涯と思想を明らかにする。そして、最後に、イエスの弟子たちがイエスからどのような思想を受け継ぎ、発展させていったのかを見ていきたい。

各回ごとに配布するプリントをもとに講義内容を復習すること。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：聖書とはどのような書物か？
- 第2回 聖書の中の新約聖書：基本構成と成立過程
- 第3回 イスラエルの自然風土と歴史的概観
- 第4回 イエス誕生前夜のユダヤ社会とメシア待望論
- 第5回 イエスの生涯(1)：イエスは実在したか？
- 第6回 イエスの生涯(2)：神はイエスを見捨てたか？
- 第7回 譬えを語るイエス：放蕩息子の譬えと長者窮子
- 第8回 奇跡を行うイエス：ユダヤ社会における病気と癒し
- 第9回 論争するイエス：ユダヤ教のディレンマと律法
- 第10回 これまでの授業の概括と今後の展望
- 第11回 神の子はなぜ死んだのか：喪の作業と贖罪死
- 第12回 ユダヤ教ナザレ派の葛藤：ヘブライストとヘレニスト
- 第13回 パウロの生涯とその思想：ユダヤ教ナザレ派からキリスト教へ
- 第14回 危機に瀕する教会と終末への希望：偽名書簡と『ヨハネの黙示録』
- 第15回 授業全体の概括

## 成績評価の方法

授業への積極的参加(30%)、試験(70%)などを総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・教科書(聖書)を必ず持参して受講すること。
- ・授業前に聖書を実際にかき、その内容に親しんでおくことが望ましい。

## 教科書

共同訳聖書実行委員会(監訳)『聖書 新共同訳-旧約聖書続編つき』(日本聖書協会、2013年、ISBN:978-4-8202-1202-7)

## 参考書

- R. ボウカム『イエス入門』(新教出版社、2013年、ISBN:978-4-400-52071-9)
- 山口雅弘『よくわかる新約聖書の世界と歴史』(日本キリスト教団出版局、2005年、ISBN:4-8184-0585-X)
- E. トロクメ『キリスト教の揺籃期』(新教出版社、1998年、ISBN:978-4-400-32442-3)
- 青野太潮『パウロ-十字架の使徒-』(岩波新書、2016年、ISBN:978-4-00-431635-0)

## 参考ホームページ

日本聖書協会 HP <http://www.bible.or.jp/main.html> (聖書本文の検索や翻訳の歴史など)

08281

## 女性とキャリア I

担当教員：英 美由紀

1単位 後期

### 授業のねらい

卒業後を見据え、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度等を確実に身に付けていくための意識形成をめざす。

独立した女性としての意識を明確に持ち、社会、特に職場の構成員として、他者との協調を図れる人材を育成する。

### 到達目標

以下の意識を形成することができる。

- ・卒業後も視野に入れたキャリアデザインの視点から、みずからの大学生活を位置付ける。
- ・学士号取得までの自分なりの目標に向けて、どう取り組んでいくか考える。
- ・キャリアをただの仕事探しに終わらせず、アカデミックな環境に身を置くことで、自己の適性を発見し、それを磨くことにとりくむ。
- ・英語というコミュニケーション手段を学ぶことで、進学、就職いずれの場合でも、様々な局面に対応する能力を身に付ける。

### 授業方法

担当教員が毎回コーディネーターとなって進行する。

8～13の回は、講師を招いて授業を行う。

3～13の回は、順番が変更になることがある。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：この授業の趣旨、到達目標、学科の四系列の説明の後、4年の学科生活の展望とシナリオを考える。(英)
- 第2回 アカデミック・アドバイザー指導Ⅰ：アカデミック・アドバイザー面談Ⅰ(学科専任教員)
- 第3回 アカデミック・アドバイザー指導Ⅱ：大学生活や進路について、先輩(在学生)の話聞くⅠ(学科専任教員)
- 第4回 ゲストスピーカーのお話Ⅰ：ゲストスピーカーに将来の就職活動を見すえた大学生活について語ってもらう。(英)  
藤田善紀(藤女子大学 キャリア支援課長)
- 第5回 ゲストスピーカーのお話Ⅱ：ゲストスピーカーに自分のキャリアについて語ってもらう。(英)
- 第6回 ゲストスピーカーのお話Ⅲ：ゲストスピーカーに自分のキャリアについて語ってもらう。(英)
- 第7回 アカデミック・アドバイザー指導Ⅲ：大学生活や進路について、先輩(在学生)の話聞くⅡ(学科専任教員)
- 第8回 「はたらく」を考える(1)：労働やアルバイトに関わる法律等を考える。
- 第9回 「はたらく」を考える(2)：キャリアを考えるにあたり、社会にどのような仕事があるのかを知る。
- 第10回 「はたらく」を考える(3)：職業意識に関する適性検査(エゴグラム)等を実施し、卒業後のキャリアを考える。
- 第11回 コミュニケーションについて(1)：コミュニケーションとは何か。  
日常生活・大学生活の中でのコミュニケーション。
- 第12回 コミュニケーションについて(2)：社会で必要とされるコミュニケーション。  
社会に出るまでに身に付けておきたいこと。
- 第13回 社会と女性：女子大の意義。  
社会における女性の役割。
- 第14回 アカデミック・アドバイザー指導Ⅳ：アカデミック・アドバイザー面談Ⅱ(学科専任教員)
- 第15回 大学生活と将来の進路：最終レポート作成。(英)

### 成績評価の方法

授業への参加状況と最終レポート提出により単位認定する。

### 履修にあたっての注意

講師等の都合により、時間割が変更する可能性があるので注意すること。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：必要に応じて授業の時に指示する。



08282

## 女性とキャリア I

担当教員：菅本 康之

1単位 後期

## 授業のねらい

卒業後を見据え、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度等を確実に身に付けていくための意識形成をめざす。

## 到達目標

以下の意識を形成することができる。

- ・卒業後も視野に入れたキャリアデザインの視点から、みずからの大学生活を位置付ける。
- ・学士号取得までの自分なりの目標に向けて、どう取り組んでいくか考える。

## 授業方法

担当教員が毎回コーディネーターとなって進行する。

8～13の回は、講師を招いて授業を行う。

3～13の回は、順番が変更になることがある。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（日本語・日本文学科で何を学ぶか）：カリキュラム・マップについて（名畑）
- 第2回 大学生活とキャリアデザイン：藤田善紀（藤女子大学キャリア支援課長）（未定）
- 第3回 学問と社会(1)（揚妻）
- 第4回 学問と社会(2)（漆崎）
- 第5回 学問と社会(3)（関谷）
- 第6回 学問と社会(4)（平田）
- 第7回 私の学生生活：ゲストスピーカーに自分のキャリアについて語ってもらう（未定）
- 第8回 「はたらく」を考える(1)：労働やアルバイトに関わる法律等を考える。
- 第9回 「はたらく」を考える(2)：キャリアを考えるにあたり、社会にどのような仕事があるのかを知る。
- 第10回 「はたらく」を考える(3)：職業意識に関する適性検査（エゴグラム）等を実施し、卒業後のキャリアを考える。
- 第11回 コミュニケーションについて(1)：コミュニケーションとは何か。  
日常生活・大学生活の中でのコミュニケーション。
- 第12回 コミュニケーションについて(2)：社会で必要とされるコミュニケーション。  
社会に出るまでに身に付けておきたいこと。
- 第13回 社会と女性：女子大の意義。  
社会における女性の役割。
- 第14回 本授業を振り返って：レポート作成に向けて（未定）
- 第15回 大学生活と将来の進路：最終レポート作成。（未定）

## 成績評価の方法

授業への参加状況と最終レポート提出により単位認定する。

## 履修にあたっての注意

講師等の都合により、時間割が変更する可能性があるので注意すること。

## 教科書・参考書に関する備考

参考書：必要に応じて授業の時に指示する。

08283

## 女性とキャリア I

担当教員：松村 良祐

1単位 後期

### 授業のねらい

卒業後を見据え、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度等を確実に身に付けていくための意識形成をめざす。

### 到達目標

以下の意識を形成することができる。

- ・卒業後も視野に入れたキャリアデザインの視点から、みずからの大学生活を位置付ける。
- ・学士号取得までの自分なりの目標に向けて、どう取り組んでいくか考える。

### 授業方法

担当教員が毎回コーディネーターとなって進行する。

8～13の回は、講師を招いて授業を行う。

3～13の回は、順番が変更になることがある。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：大学生活を通じて築くキャリアデザインの基盤  
～授業の趣旨、キャリアとは何か、人生の夢、将来ビジョン（様々な進路）（松村）
- 第2回 大学で学ぶということ：大学で学ぶ意義（何を、どのように学ぶのか）  
学問と女性（建学の理念を理解する）  
文化総合学科で学べること（松村）
- 第3回 学問と社会(1)～現代社会専修①：文化人類学と社会（野手）
- 第4回 学問と社会(2)～現代社会専修②：国際関係論と社会（上原）
- 第5回 学問と社会(3)～歴史・思想専修①：歴史学と社会（石田）
- 第6回 学問と社会(4)～歴史・思想専修②：哲学と社会（松村）
- 第7回 文化総合学科での学びと将来：文化総合学科での学びの集大成＝卒業論文  
文化総合学科卒業生の進路（学科専任教員）
- 第8回 「はたらく」を考える(1)：労働やアルバイトに関わる法律等を考える。
- 第9回 「はたらく」を考える(2)：キャリアを考えるにあたり、社会にどのような仕事があるのかを知る。
- 第10回 「はたらく」を考える(3)：職業意識に関する適性検査（エゴグラム）等を実施し、卒業後のキャリアを考える。
- 第11回 コミュニケーションについて(1)：コミュニケーションとは何か。  
日常生活・大学生活の中でのコミュニケーション。
- 第12回 コミュニケーションについて(2)：社会で必要とされるコミュニケーション。  
社会に出るまでに身に付けておきたいこと。
- 第13回 社会と女性：女子大の意義。  
社会における女性の役割。
- 第14回 講義の総括へ向けて：学科独自の内容から学んだこと  
→自分はどの専修に進むのか  
共通内容から学んだこと→将来の進路と現在（松村）
- 第15回 大学生活と将来の進路（松村）

### 成績評価の方法

授業への参加状況と最終レポート提出により単位認定する。

### 履修にあたっての注意

講師等の都合により、時間割が変更する可能性があるので注意すること。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：必要に応じて授業の時に指示する。

08371

## 女性と労働

担当教員：金 仁子

2単位 前期

## 授業のねらい

この講義は、女性と労働に関するさまざまな事柄を社会科学の視点からの見方を学ぶと共に、女性労働の現状について理解し、考察することを目的とする。

## 到達目標

労働に関する知識を基礎として、女性労働の現状を踏まえ、自身の将来や職業について考え、デザインするための基礎が身に付く。

## 授業方法

講義とディスカッションの形式をとる。また、働く女性を取り巻く現状について理解するために、授業計画の前後を関連させていく自宅学習を行っていくために新聞・雑誌等の記事を利用する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ジェンダーの視点から見た労働：概念整理
- 第3回 ジェンダーの視点から見た労働市場：基礎理論
- 第4回 「労働力の女性化」を学ぶ
- 第5回 グループディスカッション(1)ケア・ワークについて考える
- 第6回 サービス経済化と女性の職場進出
- 第7回 女性雇用と企業
- 第8回 女性雇用とその形態
- 第9回 女性雇用と社会政策
- 第10回 ワーク・ライフ・バランス政策とジェンダーエクイティ
- 第11回 グループディスカッション(2):「女性の管理職」について考える
- 第12回 ライフスタイルと労働(1): 男女の格差の実状を知る
- 第13回 ライフスタイルと労働(2): 女性が働きやすい職場とは
- 第14回 グループディスカッション(3):「働くこと」の意味を考える
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

授業への取り組み方(30%)、グループ・ディスカッションへの取り組み方(30%)、複数回の小テスト(20%)、レポート(20%)によって到達目標を測定して評価します。

## 履修にあたっての注意

復習は、授業内容を振り返り、更に関心のある事柄について調べることでより知識を深めてほしい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

講義に際し、講師作成のプリントを配布する予定。参考書については、この他にも講義の折、適宜指示する。

## 参考書

竹中恵美子(編)『労働とジェンダー』(明石書店、2001)  
海老原嗣生『女子のキャリア』(筑摩書房、2012)  
竹信三恵子『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』(岩波書店、2013)  
原伸子『ジェンダーの政治経済学－福祉国家・市場・家族』(有斐閣、2016)

08381

## 女性と法律

担当教員：李 妍淑

2単位 前期

## 授業のねらい

ジェンダー概念が法学および社会科学全体にもたらした意義を確認するとともに、ジェンダー視点から法学そのものを捉え直し、ジェンダー平等の社会のあり方について考えます。

## 到達目標

ジェンダーに関する概念や理論の展開について習得・理解することによって、社会の様々な分野で起きている現象についてジェンダー・センシティブに考えることができます。また、判例や関連事例を用いて法の世界にみられるジェンダー問題を検討することを通じて、法学におけるジェンダー視点の導入が「個人」である我々にとっていかに重要であるかを再確認することができます。

## 授業方法

原則的に講義形式で行いますが、履修者人数等に応じてゼミ形式に変更することも考えられます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび概説①(私たちの暮らしの中のジェンダー)
- 第2回 概説② フェミニズム法学の展開
- 第3回 概説③ 近現代日本の法体制にみられる性差別
- 第4回 教育とジェンダー
- 第5回 家族と平等
- 第6回 家族と自由
- 第7回 不法行為・契約－失われたものの「値段」の男女差
- 第8回 労働とジェンダー
- 第9回 社会保障とジェンダー
- 第10回 ドメスティック・バイオレンス
- 第11回 セクシュアル・ハラスメント
- 第12回 性暴力
- 第13回 リプロダクション・セクシュアリティ
- 第14回 政治参加とポジティブ・アクション
- 第15回 司法とジェンダー

## 成績評価の方法

平常点(50%)、学期末定期試験またはレポート(50%)で評価します。

## 履修にあたっての注意

- ・無断欠席については、単位を認めません。
- ・授業には初回から出席すること。
- ・授業中の私語および他の履修者に迷惑になる行為は一切禁止します。

## 教科書

なし

## 参考書

授業中に指示します

08391

## ジェンダー論

担当教員：木脇 奈智子

2単位 後期

## 授業のねらい

女子大学に教養科目を学ぶ学生として、原題社会におけるジェンダーとはなにかを理解する。

そして、現代の日本社会にはどのような社会的文化的性別役割が存在し、そのなかで女性としてどのように主体的に生きていくか考えることをねらいとする。

## 到達目標

- ・ジェンダーとは何かを説明することができる。
- ・現代日本社会における選抜役割分業の在り方の問題点を考察することができる。
- ・諸外国におけるジェンダーの在り方を理解することができる。

## 授業方法

- ・講義を中心とするが、時にはワークショップをして受講生同士話し合ったり、意見を発表する場を設ける。
- ・また、ちかいをふかめるために映像の教材を用いることもある。

## 授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の進め方  
①ジェンダーとはなにか：身体的性と社会文化的性
- 第2回 ②ジェンダーとは何か：  
家制度の家族から、市川房江さんを中心に
- 第3回 ③ジェンダーとはなにか：  
VTR「みんなで考えよう女と男のイイ関係」を
- 第4回 ④乳幼児期におけるジェンダー：  
「ベビー X の実験」「女の子はおてんばではだめ？」「男の子は泣いてはだめ」という思い込み
- 第5回 ⑤学校におけるジェンダー：  
「生徒会長は男の子？」「先生は男子をよくあてる」のは本当か？
- 第6回 ⑥教育とジェンダー：女子教育の歩み：  
女子大学が実現するまで。男女の進学率の変化。分野のすみわけ
- 第7回 ⑦現憲法における男女平等：  
B.ゴードン「私は憲法に男女平等を書いた」をみて
- 第8回 ⑧職業とジェンダー：  
男女の所得格差。日本は世界何位？職場における採用や昇格は？
- 第9回 ⑨政治とジェンダー：  
日本の女性国家議員はなぜ少ないのか。
- 第10回 ⑩子育てとジェンダー：  
「ワンオペ」をしていますか？なぜ母親だけが子育てをするの。北欧における子育てとジェンダー
- 第11回 ⑪男性問題Ⅰ：  
男性の自殺率が多いのはなぜだろう。デュルケムの論考と平成の論考
- 第12回 ⑫男性問題Ⅱ：  
男性が「つらい」といえないのはなぜだろう。男らしさの神話について考える。
- 第13回 ⑬再び「女性らしさ」について：  
主婦という生き方が可能だった時代。白馬の王子さまはいるのか？
- 第14回 ⑭まとめ「日本の女性60年」を見て
- 第15回 ⑮まとめ：授業を振り返「これからの女性の生き方」

## 成績評価の方法

授業中に提出する小レポートおよびコメント、学期末に課す中レポートにより判定します。

## 履修にあたっての注意

担当者の専門は社会学・家族関係学であるが、教養科目として役に立つような幅広い題材を取り上げることとする。

## 教科書

天童陸子／著『女性・人権・生きること 過去を知り未来をひらく』（学文社、ISBN：978-4-7620-2712-3）

## 教科書・参考書に関する備考

授業中に紹介する。必要なプリントは配布する。

02411

## 文化人類学

担当教員：野手 修

2単位 前期

## 授業のねらい

西洋社会が直面した異文化理解における諸問題を中心に、文化人類学に関する基礎的な導入を目的とする。社会人類学及び文化人類学にまたがる領域をカバーし、具体的な事例をふまえて、社会科学としての文化人類学が取り組む課題について理解をめざす。

## 到達目標

文化にかかわる学術領域としての文化人類学がたどってきた系譜を論理的に説明できる。

## 授業方法

機能主義の形成を中心に文化人類学が新たな学問領域として形成された経緯を概説します。

## 授業計画

- 第1回 人類学：その歴史と問題点
- 第2回 マリノフスキーとフィールドワーク1
- 第3回 マリノフスキーとフィールドワーク2
- 第4回 マリノフスキーとフィールドワーク3
- 第5回 マリノフスキーとフィールドワーク4
- 第6回 ビデオ・贈与交換と社会
- 第7回 デュルケームの宗教理論1
- 第8回 デュルケームの宗教理論2
- 第9回 ビデオ：オーストリアのアボリジニー
- 第10回 構造機能主義
- 第11回 ヌアの社会構造
- 第12回 ヌアの政治制度
- 第13回 ビデオ：ヌア
- 第14回 ヌアの宗教
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポートと試験による。評価の点数配分は、授業への参加状況25%、期末テスト75%とする。

## 履修にあたっての注意

視覚教材等を多用するので、欠席は出来るだけ控えること。下記のアカウントにアクセスし、各週のレジメをダウンロードし事前に授業内容を確認しておくこと。質問等はアカウントに書き入れること。

## 教科書

なし

## 参考書

マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』（講談社学術文庫、2010）  
デュルケーム『自殺論』（中公文庫、2004）  
エヴァンス=プリッチャード『ヌア一族』（平凡社、1997）  
アダム・クーパー『人類学の歴史』（明石書店、1996）

## 参考ホームページ

<http://aporetic.dyndns.org/moodle>

02421

# 異文化コミュニケーション

担当教員：伊藤 明美

2単位 前期

## 授業のねらい

＜海外生活（留学）や日本国内で生じる異文化・異民族間のコミュニケーションへの理解を深める＞

- ・異文化コミュニケーション学の入門的理解
- ・異文化集団間に生じるコミュニケーション問題（特に日本人が行う異文化コミュニケーションの課題）に対する気づきを高める

## 到達目標

1. 文化とコミュニケーションに関わる重要な概念と理論を説明できる
2. 自文化に対する理解を深める
3. 異文化コミュニケーション学の知識を実際のコミュニケーションスキルとして応用できる

## 授業方法

- ・テーマに関わる資料を講義の前後に読み、内容理解を深めることを期待する。
- ・講義主体だが、ペアや小グループでの話し合いも含まれる。
- ・授業前半（15分～20分程度）はリアクションペーパーを利用して前回講義の復習をする。
- ・参考文献等を活用して、授業前後に予習と復習をおこなうこと（予習・復習あわせて90分程度）。
- ・毎回の授業後に、授業内容に関わる感想や質問を提出してもらう。感想や質問に対するフィードバックは次回の授業冒頭におこなう。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アメリカにおける異文化コミュニケーション学誕生の背景と発展の軌跡
- 第3回 「文化」と「コミュニケーション」の関係を理解する
- 第4回 「対人コミュニケーション」に「文化」が与える影響を理解する
- 第5回 非言語コミュニケーション その1：身体動作、接触、対人距離など
- 第6回 非言語コミュニケーション その2：時間、沈黙、空間利用など
- 第7回 コトバと文化の関係を理解する
- 第8回 異文化コミュニケーションにおける「コンテキスト／文脈」の捉え方
- 第9回 異文化コミュニケーションにおける日本人の課題 その1：コミュニケーションスタイルを中心に
- 第10回 異文化コミュニケーションにおける日本人の課題 その2：日本語を中心に
- 第11回 異文化コミュニケーションにおける日本人の課題 その3：日本人の自我を中心に
- 第12回 「価値観」と「信念」を理解する
- 第13回 異文化コミュニケーショントレーニング その1：理論
- 第14回 異文化コミュニケーショントレーニング その2：実践
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

定期試験 70%、授業への参加状況 30%（リアクションペーパーの内容から判断する）

## 履修にあたっての注意

- ・文化総合学科の学生は、後期の異文化コミュニケーション入門とセットで履修することが望ましい。
- ・学科を問わず ACE プログラム受講者は、1年次に履修することが望ましい。

・欠席あるいはそれと同等の授業中の行為は1回につき総合点から3点を減点する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

資料（有料）を配布

## 参考書

古田暁 監修『異文化コミュニケーション』（有斐閣）  
 J. コンドン『異文化間コミュニケーション』（サイマル出版会）  
 K. S. シタラム『異文化間コミュニケーション』（東京創元社）  
 ホフステード『多文化世界』（有斐閣）  
 E. ホール『沈黙のことば』（南雲堂）  
 E. ホール『文化を超えて』（TBSブリタニカ）  
 南雅彦『言語と文化』（くろしお出版）  
 石井、久米他『異文化コミュニケーション事典』（春風社）



02431

## 国際関係論

担当教員：上原 賢司

2単位 後期

## 授業のねらい

本授業では、国際政治をテーマとする二つの代表的な著書——ハンス・モーゲンソウの『国際政治』とジョン・ローレンズの『万民の法』——の講義を通じて、国際政治の理想と現実とを考察していく。特に、国際社会において現実を重視するのか、それとも理想を重視するのかといった、単純な二者択一の見解を反省的に捉えることを本授業の狙いとした。

あらためて述べるまでもなく、国際関係(政治)の事象は日々変化し、この学問領域における様々な経験的・規範的研究も絶えることなく進展している。しかしながら、私たちが世界を、理想や現実といった視座から眺める構図は不変なものである。これらを踏まえて、現今の研究の問題意識を十分に理解するために、また、そうした研究を批判的に捉えなおすためにも、学問領域の基盤にあたる古典的な著作に親しむことは極めて有益である。加えて、容易に色あせることのない主要な学術書の知見を学ぶことは、生涯にわたる教養としても意義深いものとなるだろう。

## 到達目標

- (1)国際政治を論じた代表的な著作の内容や意義についての知識を獲得できる。
- (2)国際政治を題材とした、理想と現実との関係についての思考力を養うことができる。
- (3)専門的な著書や論文の知見を活用して、先行研究を批判的に捉える力を身につける。

## 授業方法

授業は講義形式にて行う。内容理解の確認や疑問点のフォローアップとして、定期的にリアクションペーパーを提出してもらい、次回講義時にそれへのリプライを行う。期末レポートとして、取り上げた二つの著作いずれかを取り上げてもらい(あるいは双方の比較をしてもらい)、関連する著書や論文を参照しながら、該当著作の批判や擁護をもらう(分量4000字程度)。

予習：各回で取り上げる範囲について簡単に目を通しておくこと。また、関連するキーワードについて現在どのように論じられているのか、参考書や時事ニュースを参照して確認しておくこと(目安1時間)。

復習：授業で扱った範囲について、実際に精読してみる。自分の気になった点について、参考書や文献検索を手がかりとして、専門的な著書や論文についても読み進めてみる(目安3時間)。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——二人の理論家に着目しその著作を読み進める意義
- 第2回 『国際政治』(1)——リアリズムという視座
- 第3回 『国際政治』(2)——パワー・ポリティクス
- 第4回 『国際政治』(3)——「国力」とは何だろうか
- 第5回 『国際政治』(4)——バランスオブパワー
- 第6回 『国際政治』(5)——法や道徳による制約
- 第7回 『国際政治』(6)——諸国家による平和と世界国家による平和
- 第8回 『国際政治』(7)——外交と目的としての平和
- 第9回 理論から現実を眺める(1)——国益の衝突と国際社会
- 第10回 『万民の法』(1)——現実主義的ユートピア
- 第11回 『万民の法』(2)——「各国民衆」の諸原理
- 第12回 『万民の法』(3)——リベラルでない「諸国民衆」との共存
- 第13回 『万民の法』(4)——不都合な現実とどう向き合うのか
- 第14回 理論から現実を眺める(2)——リベラルな理想と国際社会
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定として、リアクションペーパーの記述(20%)。到達目標(2)と(3)の測定として、期末レポート(80%)。

## 履修にあたっての注意

「政治学(国際政治学)入門」を履修していることが望ましい。また、「国際関係論入門」の内容を前提に講義を進めるので、同科目も同時に履修してほしい(履修ができない場合は、事前学修として、各自で国際関係論の標準的な教科書の関連項目を精読しておくこと)。なお、本授業の履修は、「国際関係論特講A」の各講義の理解にとっても有用となる。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業は毎回配布のプリントに沿って行う。ただし、『国際政治』と『万民の法』のいずれか一つは必ず手元に用意しておき、授業と並行して読み進めておくこと(可能な限り両方とも揃えておくこと。いずれも極めて重要な著作であるので、国際関係論をより深く学びたいのであれば、両方を購入しても決して損とはならないはずである)。

その他の参考書は、取り上げる著作の理解にとって有益であり、また、批判的に捉えなおしていく上でも手助けとなるだろう。

## 参考書

モーゲンソウ『国際政治(上)』(岩波書店、2013、ISBN：978-4003402818)

モーゲンソウ『国際政治(中)』(岩波書店、2013、ISBN：978-4003402825)

モーゲンソウ『国際政治(下)』(岩波書店、2013、ISBN：978-4003402832)

ジョン・ローレンズ『万民の法』(岩波書店、2006、ISBN：978-4000244336)

中西寛他(編)『国際政治学』(有斐閣、2013、ISBN：978-4641053786)

小田川大典他(編)『国際政治哲学』(ナカニシヤ出版、2011、ISBN：978-4779505607)

押村高『国際政治思想——生存・秩序・正義』(勁草書房、2010、ISBN：978-4326351527)



02441

国際理解教育

担当教員：池見 真由

2単位 後期

授業のねらい

国際社会の色々な問題について知識を習得し、幅広い視点から考える力を養う。知識の習得とは、単に歴史的事実を暗記することではなく、なぜそのような問題が起こったのか、構造を知り、その見方や分析が立場によって様々であることを理解する。

到達目標

国際社会の問題を様々な側面から把握し、国際理解を深める。そして授業中に討論を行いながら、自分の考え方の正当性や論理性、欠点や矛盾などを認識し、国際問題に関する自分の考察をレポートでまとめ、皆の前で発表することを目標とする。

授業方法

授業テーマは4つに設定する。各テーマは、講義解説、映像や書・資料による内容理解、そして討論で構成される。中間成果報告と最終成果報告では、国際理解教育および授業テーマに関連する内容のレポート作成とプレゼンテーションを実施する。

授業計画

- 第1回 概要説明：目的、方法、問題意識
- 第2回 テーマ1：「現代の国際社会問題」講義解説
- 第3回 テーマ1の映像鑑賞と討論
- 第4回 テーマ1の文献発表と討論
- 第5回 テーマ2：「武器と暴力の歴史」講義解説
- 第6回 テーマ2の映像鑑賞と討論
- 第7回 テーマ2の文献発表と討論
- 第8回 中間成果報告
- 第9回 テーマ3：「民族問題とジェノサイド」講義解説
- 第10回 テーマ3の映像鑑賞と討論
- 第11回 テーマ3の文献発表と討論
- 第12回 テーマ4：「人間としての生活」講義解説
- 第13回 テーマ4の映像鑑賞と討論
- 第14回 テーマ4の文献発表と討論
- 第15回 最終成果報告

成績評価の方法

授業への参加状況：30%、討論での発表：20%、中間成果報告および最終成果報告：50%

履修にあたっての注意

専門的な知識を要求する授業ではないが、国際社会で起こる問題について真剣に考え、様々な疑問や意見を投げかけてほしい。討論については、時間配分や議題によって、クラス全員による自由討論またはグループディスカッションを適宜行う。国際社会への理解に強い関心があり、授業中活発に討論に参加する意志がある学生の受講を望む。

教科書

なし

02131

日本国憲法

担当教員：真鶴 俊喜

2単位 前期

授業のねらい

国家の法体系の頂点に位置する憲法について、歴史的、普遍的意義を探るとともに、日本国憲法が直面している問題を拾い上げ、考える。本講義では、憲法の基本概念や基本価値、これらから導かれる具体的な諸問題に対する考え方や意見を明らかにすることを主たる内容とする。

到達目標

憲法の存在意義やそれを具体化した諸概念を理解し、それらに関係する現在の社会の諸問題を考察できるようになる。

授業方法

当授業は講義形式で進める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 憲法の意味と概念(1)－「憲法」とは？
- 第3回 憲法の意味と概念(2)－憲法の分類
- 第4回 立憲主義と現代の諸問題(1)
- 第5回 立憲主義と現代の諸問題(2)
- 第6回 憲法改正問題
- 第7回 人権とは
- 第8回 人権の種類
- 第9回 人権の制約
- 第10回 人権の享有主体
- 第11回 人権の私人間効力(1)－総論
- 第12回 人権の私人間効力(2)－判例研究
- 第13回 人権の本質と新しい人権(1)－総論
- 第14回 人権の本質と新しい人権(2)－判例研究
- 第15回 まとめ

成績評価の方法

授業の内容や進度に応じて、適宜課題を課すことがある。この課題は、授業で学んだ基礎知識の理解度を問う、いわゆる「小テスト」形式のものや、授業で扱う諸問題やテーマについての各自の意見や感想を問う形式のものなどを予定している。これらの課題を平常点(20%程度)とし、期末に行う考査の成績(80%程度)に加味して総合的に評価する。

履修にあたっての注意

講義形式であるが、受け身で臨まないこと。法学に関しては初学者の人が多いと思うが、必要以上に難しく考える姿勢を廃し、まず、講義内容を素直に聞き取ることを心がけるとよい。その上での批判や質問は歓迎する。

教科書

葛生栄二郎ほか『平和と人権の憲法学』(法律文化社、2011年)

参考書

なし。

参考ホームページ

なし。

02141

## 心理学

担当教員：加藤 弘通

2単位 前期

## 授業のねらい

本講義のねらいは、人間が子どもから大人へととなっていく発達プロセスについて、基本的な知識を得るとともに、人間の心理についての理解を深めることである。

## 到達目標

1. 人間の発達プロセスについての基本的な知識を習得すること
2. 発達という視点から子どもに起きる問題を理解できるようになること

## 授業方法

基本的には講義形式であるが、事例や視聴覚教材を通して、周囲の者と議論すること、また議論したことについて発表することを求める。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：発達とはなにか？  
 第2回 乳児期の発達と問題：0～1歳の発達  
 第3回 幼児期の発達と問題Ⅰ：2歳前後の発達  
 第4回 幼児期の発達と問題Ⅱ：3歳前後の発達  
 第5回 幼児期の発達と問題Ⅲ：4歳前後の発達  
 第6回 幼児期の発達と問題Ⅳ：5歳前後の発達  
 第7回 児童期の発達と問題Ⅰ：6歳前後の発達  
 第8回 児童期の発達と問題Ⅱ：小学校低学年の発達  
 第9回 児童期の発達と問題Ⅲ：小学校中学年の発達  
 第10回 思春期の発達と問題Ⅰ：小学校高学年の発達  
 第11回 思春期の発達と問題Ⅱ：中学生の発達  
 第12回 思春期の発達と問題Ⅲ：高校生の発達  
 第13回 青年期の発達と問題Ⅰ：大学生の発達  
 第14回 青年期の発達と問題Ⅱ：おとなになること  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

毎回の授業で課す小レポート（30%）と学期末に行う到達目標である発達に関する基本的な知識を問う試験（70%）で評価する

## 教科書

なし

02211

## 音楽

担当教員：相原 啓寿

2単位 後期

## 授業のねらい

なぜ楽譜は5本線で記されているのか？ どうして「ト音記号」と呼ぶの？ ドレミファソラシド・・・はどここの国の言葉？ など、普段から何気なく使用されている音楽に関する疑問や一般常識を、わかりやすく検証・考察することで、音楽への興味や考えをより深く豊かなものにした。

## 到達目標

音楽についての基礎知識を身につけ、＜クラシック音楽＞に興味を持って、率先して聴けるようになる。

## 授業方法

講義形式で行う。前半（第7回まで）では音楽に関する基礎知識について、後半（第8回以降）では音楽史の流れを紹介すると共に、普段あまり観ることのない「オペラ」について鑑賞しながら考察する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 楽譜についての考察(1)：楽譜に関する基礎知識  
 第3回 楽譜についての考察(2)：需要や記譜法の変化  
 第4回 楽譜についての考察(3)：エディション研究  
 第5回 楽器の進歩とオリジナル演奏について(1)：楽器の紹介と演奏形態について  
 第6回 楽器の進歩とオリジナル演奏について(2)：楽器の進歩と改良  
 第7回 楽器の進歩とオリジナル演奏について(3)：オリジナル演奏について  
 第8回 オペラについて：オペラとはどんなもの？  
 第9回 バロック音楽について(1)：バッハ、ヴィヴァルディとその時代について  
 第10回 バロック音楽について(2)：オペラ誕生とバロック・オペラ  
 第11回 古典派音楽について(1)：ベートーヴェンとソナタの時代  
 第12回 古典派音楽について(2)：モーツァルトのオペラ  
 第13回 ロマン派音楽について(1)：ロマン派音楽の特徴と聴取スタイルの変化  
 第14回 ロマン派音楽について(2)：グランド・オペラと国民オペラ  
 第15回 近・現代の音楽とオペラ：19世紀後半から現代へ

## 成績評価の方法

目標を測定するレポートを70%、授業への参加状況を30%、により評価する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：なし。プリント資料を配布する。  
 参考書：なし。

02221

## 美術論

担当教員：杉浦 篤子

2単位 前期

## 授業のねらい

『ルネッサンスから現代アートまで』

イタリアで興ったルネッサンスは世界の芸術の基盤となり、現代のアートを創りだした。私たちの身の回りには世界的なアートが案外気づかれず存在し、また生活と密着したアートも多く存在している。知らなければ何も見えない、少し関心を持つだけで、素晴らしいものが見えてくることに関心が持てるようになる事。

## 到達目標

美術館やいろいろな展示、生活に密着した美などに気づき、楽しめるようになることを目指す。  
札幌市にある美術館のいずれかに必ずでかつること、またそれに関連する文献などを読んでみることを、目標とする。

## 授業方法

講義：毎回資料を配布、テーマに添った説明、解説をする。必ず映像資料を使用し、より理解しやすいように配慮しながら進める。テーマによっては予習として外部の下調べをすることもある。事前にシラバスを確認し、下調べをしておくで理解が深まる。(30分程度)

## 授業計画

- 第1回 美術を楽しむ  
美術を楽しむために ルーブル美術館の取り組み
- 第2回 パブリックアート  
身近にあるアート 札幌駅・ステラプレイス探検
- 第3回 地球を彫刻する  
イサム ノグチ モエレ沼公園とは？
- 第4回 アートを演出する  
キュレーターという仕事
- 第5回 誰もがカメラマンの時代  
時代を写す カメラマンの仕事
- 第6回 ファッションにおけるアート性  
日本人ファッションデザイナーが築いたもの
- 第7回 絵本は小さな美術館 I  
絵本の中の美術 色彩の仕組みから見る絵本
- 第8回 絵本は小さな美術館 II  
多様化する絵本表現 絵本が伝えるもの
- 第9回 爆発をアートする  
プロジェクト化するアート
- 第10回 美の基準を変えた男  
ピカソを知る
- 第11回 祈りの形（教会建築）  
サグラダ・ファミリア教会 日本にもある祈りの形
- 第12回 受胎告知と聖母子像  
ルネッサンス 3大巨匠の果たした役割
- 第13回 ディズニーと宮崎  
白雪姫、千と千尋を例に
- 第14回 Is this art?  
アートって何？ 生活に結びつくアート
- 第15回 まとめ  
試験としてのレポート作成

## 成績評価の方法

毎回のレポート、授業への取り組み 50%と最終レポート 50%  
15回目は、14回の中からアートについてのテーマを出題、その場でレポートを作成する。

## 履修にあたっての注意

1回、1テーマ、アートを自分のものと感じてみることの積み重ねをしますので考え方、感じ方を重視する。  
一回ごとに小レポートを書き提出、後の資料となるので、留意して書くこと。  
時には美術館へ、街中へ行ってもらうこともある。

## 教科書

なし

02311

## 日本語文学

担当教員：菅本 康之

2単位 後期

## 授業のねらい

「日本語文学」とは何か？それは、簡単な問いのようで実はとてもむずかしい。

たとえば、「万葉集」は、万葉仮名という漢字で書かれているし、長らく支配のエリートの読む/書く文献は、訓読漢文であった。

こうした歴史的現状に立ち、本講義では、翻訳文学も「日本語文学」ととらえることで、「世界文学」とは何かを考えていきたい。とくにドストエフスキーが日本文学へ与えた影響も考察する。

## 到達目標

- ・ひとりで孤独に本を読むのではなく、グループワークを通しての読書体験で、「世界文学」とは何かについて自分の考えを持つことができる。
- ・翻訳の違いによって同じ作品のイメージが異なることを知ることができる。
- ・「世界文学」とは何かをある程度理解することができる。

## 授業方法

基本的には、レジュメを配布し、PowerPointを使った講義形式をとるが、毎時間必ずグループ・ワークをしてもらう。

ひとりで孤独に本を読むのではなく、グループワークを通しての読書体験でいろいろな読みがありうることを知る。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
・履修予定者は、必ず出席のこと。
- 第2回 「日本語文学」から「世界文学」へ、あるいはその逆。
- 第3回 J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて/キャッチ・イン・ザ・ライ』  
二つの邦訳の間で。その1
- 第4回 J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて/キャッチ・イン・ザ・ライ』  
二つの邦訳の間で。その2
- 第5回 J.D.サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて/キャッチ・イン・ザ・ライ』  
二つの邦訳の間で。まとめ。
- 第6回 『長い別れ/ロング・グットバイ』  
二つの邦訳の間で。その1
- 第7回 『長い別れ/ロング・グットバイ』  
二つの邦訳の間で。その2
- 第8回 『長い別れ/ロング・グットバイ』  
二つの邦訳の間で。まとめ。
- 第9回 川端康成『雪国』日本の「ノーベル賞作家」を読む。
- 第10回 大江健三郎『洪水は我が魂に及び』その1 日本の「ノーベル賞作家」を読む。
- 第11回 大江健三郎『洪水は我が魂に及び』その2 日本の「ノーベル賞作家」を読む。
- 第12回 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』その1「永遠のノーベル文学賞候補作家」を読む。
- 第13回 村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』その2「永遠のノーベル文学賞候補作家」を読む。
- 第14回 ドストエフスキーと日本文学 その1
- 第15回 ドストエフスキーと日本文学 その2

## 成績評価の方法

レポート（60%）、グループ・ワーク（30%）、講義への関わり（10%）

## 履修にあたっての注意

1年生向けの「教養科目」だが、たくさんの本を読むので、読書の苦手な学生はこの講義を通じて苦手意識を克服すること。

## 教科書

J. D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて/キャッチ・イン・ザ・ライ』（白水社、1984、2006、ISBN：978-4978-4560070512、560090008）

レイモンド・チャンドラー『長い別れ/ロング・グットバイ』（ハヤカワミステリー文庫、1976、2010、ISBN：978-4150704513、978-4150704612）

川端康成『雪国』（新潮文庫ほか）

大江健三郎『洪水は我が魂に及び 上・下』（新潮文庫、1983、ISBN：978-410112、978-41011261356128）

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド 上・下』（新潮文庫、2010、ISBN：978-4101001579、978-4101001586）

## 教科書・参考書に関する備考

絶版の本もあるので、古本市場をうまく使い、安価に教科書を購入すること。（たとえば、Amazonのマーケットプレイス）

## 参考書

デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何は？』（国書刊行会、2011、ISBN：978-4-336-05362-6）

フランコ・モレッティ『遠読』（みすず書房、2016、ISBN：978-4-622-07972-9）



02321

英語圏文学

担当教員：木村 信一

2単位 後期

授業のねらい

F.O.マシーセンによってアメリカン・ルネサンスと名づけられた19世紀前半(1830年代から南北戦争が勃発する1861年まで)のアメリカの文学思潮について講義します。共和制社会における個人の確立、表出というテーマが、作家たちのテキストのなかでどのように扱われているのか、また、過去との関係をどう創出するかというテーマが、作家たちによってどのように扱われているのか、検証します。

到達目標

- 1 アメリカ革命から南北戦争までのアメリカ文学の動向とその時代背景についての基本的な知識を得ることができる。
- 2 個人主義をはじめとして、この時代の言語文化の基層にある価値観、宗教観、倫理感、社会観についての理解を深めることができる。

授業方法

講義のコンテキストを見失うことがないように、毎回講義メモを配布しますが、毎週、受講する前に、必ず、講義メモや自筆のノートを頼りに、前回の講義内容を復習しておくことが求められます。

必要に応じ、リアクションペーパーを配布・回収し、次週にレスポンスします。

授業計画

- 第1回 はじめに—講義計画について(研究倫理についての指導を含む)
- 第2回 アメリカン・ルネサンスの時代概観 1
- 第3回 アメリカン・ルネサンスの時代概観 2
- 第4回 アメリカン・ルネサンスの時代概観 3
- 第5回 ロマン主義
- 第6回 個人主義(トクヴィル)
- 第7回 個人主義(エマソン、ソロー) 1
- 第8回 個人主義(エマソン、ソロー) 2
- 第9回 エマソンの「自然論」 1
- 第10回 エマソンの「自然論」 2
- 第11回 エマソンの「自然論」 3
- 第12回 ホーソーン 1
- 第13回 ホーソーン 2
- 第14回 ホーソーン 3
- 第15回 まとめ

成績評価の方法

「定期試験(100%)」の成績によって評価する。

履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。

教科書

なし

教科書・参考書に関する備考

毎回の授業時に講義メモと資料を配布する。

参考書

F.O.マシーセン『アメリカン・ルネサンス上』(上智大学出版、2011、ISBN:978-4-324-09214-9)

F.O.マシーセン『アメリカン・ルネサンス下』(上智大学出版、2011、ISBN:978-4-324-09215-6)

02331

アジア圏文学

担当教員：名畑 嘉則

2単位 前期

授業のねらい

漢詩の世界を知ろう—東アジア共通の教養基盤として—  
古代中国で誕生した漢字とそれによって記述される言語としての漢文は、しだいに周辺地域へと浸透し、古くから中国を中心とした文明圏における共通の文化基盤としての役割を果たしてきた。これに伴い、漢字を用い漢文の語法によって綴られる文学形式である「漢詩」もまた、中国においてのみならず、日本を含む東アジア圏においても、伝統的にそれを自ら作り読み解くことが教養人たる必須条件とされてきた。この授業では、このような東アジア圏共通の教養の源泉とも言える漢詩の世界を知ることを通じて、中国および東アジア圏の伝統的な感性のあり方を理解することをめざす。

到達目標

1. 漢詩の作法および関連する基礎知識を身につける。
2. 東アジア圏共通の感性に基づいて漢詩の表現を理解することができる。
3. 漢詩の知識および東アジア圏共通の感性に基づいて自己の表現を生み出すことができる。

授業方法

取り上げる一つのテーマ・トピックごとに授業を行い、具体的作品を示しながら、基本的には講義形式で説明を加えて行く。授業での古典詩作品についての解説の他に、詩に対する理解を深めるための各自の取り組みとして、次回扱う作品の語句に関する調査やそれに基づく考察、自分自身で詩句を創作することなどにも挑戦してもらうこととし、毎回の課題として提出を求める(所要時間45~60分)。なお、作業の取りまとめ等の際にはグループワークを取り入れる場合もある。

授業計画

- 第1回 ガイダンス—漢字と漢文について知ろう
- 第2回 漢詩の歴史と広がり—何が詠われるのか?誰が詠うのか?
- 第3回 漢詩の作法と形式—平仄・押韻、絶句・律詩
- 第4回 漢詩とそのテーマ(1)—歳時・その1
- 第5回 漢詩とそのテーマ(2)—歳時・その2
- 第6回 漢詩とそのテーマ(3)—自然・田園
- 第7回 漢詩とそのテーマ(4)—別離
- 第8回 漢詩とそのテーマ(5)—行旅
- 第9回 漢詩とそのテーマ(6)—詠史・懐古
- 第10回 漢詩とそのテーマ(7)—辺塞
- 第11回 漢詩とそのテーマ(8)—閨怨
- 第12回 漢詩とそのテーマ(9)—遊仙・閑適
- 第13回 漢詩とそのテーマ(10)—遊宴
- 第14回 漢詩とそのテーマ(11)—感傷・挽歌
- 第15回 まとめと確認

成績評価の方法

毎回の授業で課する小課題—到達目標1・3—(40%)、および、学期末に行うレポート—到達目標1・2—(60%)により評価する。

教科書

なし

教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せずプリントを配布する。  
参考書は授業時に随時指示する。他に、各自漢和辞典を1冊用意すること。(手持ちの電子辞書に漢和辞典が搭載されている場合はそれで可。)持っていない人は購入することが望ましい。新規購入については文法事項の解説にすぐれる「三省堂・全訳漢辞海」を推薦する。この辞書はスマホアプリ版も発売されており、携帯に便利である。

02341

## 言語学

担当教員：新井 良夫

2単位 後期

## 授業のねらい

サブタイトル：ことばの科学的研究

ことばは人間と同じように生きていて、時間の経過とともに変化もします。また地球上には多くのことばがありますが共通点もあります。人間は誰でもことばを使っていますが、あまり意識することはありません。こうしたことばを客観的に研究するのが言語学です。

## 到達目標

言語（ことば）の構造を、音声・形態・統語・意味・語用・文体の面から理解するだけでなく、コミュニケーションのあり方、あるいはことばと人間の脳や心との関わり、また英語と社会や文化との係わり、などを理解します。

## 授業方法

教科書からテーマを取り上げて、講義形式で進めます。毎回の事前学習は教科書を1時間以上かけて読み込んでください。また事後学習として、関連する参考書などにあたり1時間以上かけてまとめて整理してください。

## 授業計画

第1回	Introduction
第2回	人間の言語
第3回	母語の習得
第4回	外国語の習得
第5回	言語の構造
第6回	言語の音声
第7回	談話の構造
第8回	談話と文化・社会
第9回	方言
第10回	世代方言
第11回	言語と社会
第12回	バイリンガリズム
第13回	言語の系統
第14回	「世界語としての英語」
第15回	Review

## 成績評価の方法

試験・レポート（70%）、授業への参加状況（30%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

多人数の場合は人数制限をすることがあります。初回の授業で説明をするので、十分検討してから履修を決めてください。

## 教科書

田中春美ほか『入門ことばの科学』（大修館書店、1996、ISBN：4-469-21187-7）

## 教科書・参考書に関する備考

随時指示します。

02351

## 子ども学

担当教員：駒形 武志・新海 節・今野 邦彦・  
小川 恭子・高橋 真由美・青木 直子  
2単位 後期

## 授業のねらい

この講義では子ども理解というテーマのもと(1)心理学的・現代社会論的視点からのアプローチ、(2)保育教育実践的視点からのアプローチ、(3)歴史的・文化的視点からのアプローチ、を通して今日の子どもの現状と、その社会文化的背景を考えます。その上で、どのようにしたら相互に成熟し合えるような「子ども～大人」関係を築くことができるかを考えます。

## 到達目標

1. 子どもたちの現状を様々な視点から説明することができる。
2. 子どもたちの現状に対して様々な視点から自分の意見を述べるすることができる。
3. 今日の子どもの現状を自分の問題として考えることができる。

## 授業方法

本講義は子ども理解に関わる内容を、保育学科の6名の教員が協力して進めることになります。アプローチは3つの視点から行われますが、授業は一方的な講義だけでなく、グループ内の討議や発表、様々な活動を通して「問題解決型の学び」「参加型の学び」「協働・共創・共同学習」を目指します。また、講義をより深く理解するために、子どもに関する文献や資料等を多数紹介します。なお、講義の終わりには、感想や意見をシートに書いてもらう活動（小レポート）を行います。

なお、事前・事後の予備学習には、30～60分程度の時間をかけることを推奨します。

## 授業計画

第1回	本講義のねらいと課題について「子ども」とは何か（駒形）
第2回	子どもの「遊び」の歴史について考える（駒形）
第3回	「伝承遊び」とコンピュータゲームについて考える（駒形）
第4回	子どもとは何か・発達するとは何かを考える（青木）
第5回	心理学の研究から子どもについて考える（青木）
第6回	子どもの歴史について考える（小川）
第7回	子どもと家庭を取り巻く現状について考える（小川）
第8回	障害のある子どもについて考える（今野）
第9回	特別支援教育について考える（今野）
第10回	子どもの発達過程と音楽（聴く活動、うたう活動）（新海）
第11回	子どものうたの変遷（新海）
第12回	保育施設における子どもの生活（高橋）
第13回	保育施設における子どもの遊びと学び（高橋）
第14回	保幼小連携と子どもの学び（高橋）
第15回	本講義のまとめ 子どもたちに付けなければならない「真の力」とは何か、そのために自分自身の「関わり方」はどうあるべきか。（駒形）

## 成績評価の方法

各担当教員が課す小レポート（各教員が15%ずつ）、全講義が終了した後に課す全体レポート（10%）とする。

## 履修にあたっての注意

授業は教員と学生との基本的な信頼関係に基づいた相互交流の中で作られていくものであることを理解していただきたいと思っています。また、子どもに関わる文献等を多数紹介します。講義の理解をより深いものにするためにも事前・事後の予備学習の中で進んで活用していただきたいと思っています。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、必要に応じて適宜資料等を配布します。

02611

## 西洋史

担当教員：渡邊 浩

2単位 前期

## 授業のねらい

古代から現代にいたるヨーロッパの歴史を、時代を追いながら概説的に学ぶ。より発展的な学習を念頭に、随時基礎的な文献の紹介も行う。

## 到達目標

現代世界の成り立ちにヨーロッパ世界の歴史が果たした役割を理解できる。

## 授業方法

- ・レジュメを配布し、講義形式で進める。
- ・指摘された参考文献を読むために、毎回1から2時間程度の予習あるいは復習を要する。
- ・小テストやリアクションペーパーにより、授業内容の理解を助ける。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古代オリエント世界
- 第3回 地中海世界の形成
- 第4回 地中海世界の三世界への分裂
- 第5回 西ヨーロッパ世界の成立と展開
- 第6回 キリスト教世界としてのヨーロッパ
- 第7回 ヨーロッパ世界の膨張
- 第8回 近代文化の誕生
- 第9回 主権国家の成立
- 第10回 二重革命の時代
- 第11回 革命後のフランスとウィーン体制
- 第12回 アメリカ合衆国の発展
- 第13回 帝国主義と第一次世界大戦
- 第14回 ヴェルサイユ体制と第二次世界大戦
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

授業への取り組み（30%）、試験あるいはレポート（70%）

## 履修にあたっての注意

授業を3分の1以上欠席した者は、放棄したものと見なす。

## 教科書

なし

## 参考書

「世界の歴史」編集委員会『新 もう一度読む 山川世界史』（山川出版社、2017年、ISBN：978-4-634-64090-0）  
『世界史リブレットシリーズ』（山川出版社）

02711

## 日本史 A

担当教員：石田 晴男

2単位 前期

## 授業のねらい

日本史における古代から中世までの事件・人物像の相違から歴史的な見かたについて学ぶ。

## 到達目標

日本古代史、中世から歴史的な見方を学ぶ。

## 授業方法

講義を主として行う。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス ～日本史・東洋史・西洋史～
- 第2回 歴史のある文明、歴史のない文明
- 第3回 「歴史」の語義と『史記』の記述
- 第4回 『魏志』と邪馬台国
- 第5回 倭の五王
- 第6回 遣隋使・聖徳太子像について
- 第7回 大化の改新
- 第8回 壬申の乱
- 第9回 墾田永年私財法と律令体制
- 第10回 平安京
- 第11回 遣唐使
- 第12回 王朝国家論
- 第13回 摂関政治
- 第14回 武士像と歴史観
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート（20%）、試験（80%）

## 履修にあたっての注意

日本史は暗記すれば点が取れるから、あとでノートを見れば楽勝と思っている人は後悔します。

## 教科書

佐藤信『大学の日本史1』（東京大学出版会、2016）  
五味 文彦『大学の日本史2』（東京大学出版会、2016）



02721

## 日本史 B

担当教員：松本 あづさ

2 単位 前期

## 授業のねらい

江戸時代から明治維新後の政治と対外関係の概要について理解を深めることを目的とします。260年余り続いた近世国家と明治維新後に新たに成立した近代国家による国内政治および対外関係の変遷について概観します。また、同時代の蝦夷地（北海道）の動向も見ること、広い視野のなかで近世および近代国家について考えていきます。

全体を通じて、出来るだけ多くの史料に触れながら、暗記科目とは異なる日本史研究の世界に慣れ親しんでいくことを目指します。

## 到達目標

1. 近世から近代初頭の政治と対外関係の展開に関わる主要事項を理解する。
2. 日本の近世国家と近代国家の特質に理解を深める。
3. 史料をもとに考える日本史研究の世界に慣れ親しむ。

## 授業方法

- ・配付資料とパワーポイントをもとに、講義形式で進めます。
- ・受講者からの質問・コメントについては、次週の配付資料で回答します。
- ・授業後、取り扱った分野に関する文献をもとに復習することが求められます（30分程度）。文献は配付資料に掲示し、授業でも指示します。

## 授業計画

- 第1回 「近世」という時代区分
- 第2回 江戸幕府の成立
- 第3回 江戸幕府と朝廷
- 第4回 江戸幕府による武家統制
- 第5回 東アジア世界の変動と江戸時代初期の外交
- 第6回 キリシタン政策の展開と「鎖国」体制
- 第7回 近世日本の「四つの口」
- 第8回 対外関係の安定と17世紀後半の政治
- 第9回 18世紀における幕府の財政改革
- 第10回 ロシアの接近と蝦夷地問題
- 第11回 ペリー来航と日米和親条約
- 第12回 日米修好通商条約と幕末の政争
- 第13回 江戸幕府の終焉と近代国家の成立
- 第14回 近代国家の国境問題
- 第15回 近代日本と北海道

## 成績評価の方法

学期末の試験(50%)、小テスト(20%)、授業への参加状況(30%)により評価します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献については、毎回の配付資料にも記載します。

## 参考書

深谷克己『江戸時代』（岩波書店、2000、ISBN：9784005003365）  
藤井譲治・伊藤之雄編著『日本の歴史 近世・近現代編』（ミネルヴァ書房、2010、ISBN：9784623055913）  
井上勝生『幕末・維新』（岩波書店、2006、ISBN：9784004310426）  
杉森哲也編『大学の日本史3 近世』（山川出版社、2016、ISBN：9784623055913）  
小風秀雄編『大学の日本史4 近代』（山川出版社、2016、ISBN：9784634600348）

02811

**東洋史**

担当教員：宮崎 聖明

2単位 後期

**授業のねらい**

アジア諸文化圏の形成と展開を、先史時代から近代まで包括的に扱う。各地域の王朝の興亡、文化の発展、社会の変化に関する基礎的かつ重要な事項について理解することを目指す。また、各時代における諸地域間の交流やヨーロッパとの接触を扱い、これらが各文化圏に及ぼした影響について考える。

**到達目標**

- (1) アジア諸地域の文化・社会の歴史的展開と、アジア諸地域間およびヨーロッパとの交流の歴史に関する基本的な知識を得ること。
- (2) 上記の知識をもとに、アジア諸地域の文化の特質について、各受講生が自分の考えを交えて理解すること。

**授業方法**

アジア諸地域の歴史を通時的に扱う。各地域・時代の政治・社会・文化の展開について、講義形式で授業を行う。

参考文献を活用し、事前に基礎事項に関する知識を得たうえで授業に臨むとともに、関連事項について授業後に復習を行うこと（予習・復習あわせて1時間程度）。また、毎回の授業後に、授業内容についての感想・質問を提出してもらう。感想・質問については、次回の講義冒頭において回答・コメントを行う。期末試験の評価については、本学ポータルサイトの「講義連絡」等を通じて問い合わせに応じる。

**授業計画**

- 第1回 ガイダンス—東洋史の地域区分・アジアの地理と風土
- 第2回 アジア文化の誕生と諸文化圏の形成
- 第3回 オリент・インド文化圏の成立
- 第4回 中国文化圏の成立
- 第5回 イスラームの登場
- 第6回 中国の分裂と民族の流動
- 第7回 アジア東西の交渉・交流
- 第8回 東アジアにおける諸民族の興隆と対立
- 第9回 モンゴルのユーラシア支配とその影響
- 第10回 明清時代の中国
- 第11回 ヨーロッパのアジア進出
- 第12回 アジア諸地域の「近代化」
- 第13回 帝国主義とアジア
- 第14回 第一次世界大戦とアジア民族運動
- 第15回 第二次世界大戦におけるアジア諸地域

**成績評価の方法**

到達目標(1)(2)を測定する期末試験（60%）と、授業への参加状況（40%）により評価する。授業への参加状況は、毎回提出する感想・質問により判断する。なお、講義出席回数が講義回数の3分の2以上に達しない者は試験の受験を認めない。

**履修にあたっての注意**

高校世界史の教科書に目を通し、アジア史に関する基礎知識を確認した上で出席することが望ましい。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書は使用しない。講義中に配布する資料に基づき講義を行う。参考書は、全体に関するものは下記「参考書」の項目を参照のこと。加えて専門的内容に関するものについては授業時に適宜指示する。

**参考書**

歴史学研究会 編『世界史年表（第3版）』（岩波書店、2017、ISBN：9784000612265）  
尾形勇・岸本美緒 編『中国史（新版世界各国史3）』（山川出版社、1998、ISBN：9784634413306）  
小松久男 編『中央ユーラシア史（新版世界各国史4）』（山川出版社、2000、ISBN：9784634413405）  
辛島昇 編『南アジア史（新版世界各国史7）』（山川出版社、2004、ISBN：9784634413702）  
佐藤次高 編『西アジア史Ⅰ（新版世界各国史8）』（山川出版社、2002、ISBN：9784634413801）  
永田雄三 編『西アジア史Ⅱ（新版世界各国史9）』（山川出版社、2002、ISBN：9784634413900）

02851

## 哲学

担当教員：松村 良祐

2単位 前期

## 授業のねらい

哲学は人間や世界に関して人々が感じる根本的な疑問を発端とする知的な営みである。哲学者は、自分や他人の心、言葉や社会の起源、認識の確実性、情念と理性の然るべき関係、人生の意味など、誰もが感じるであろう疑問について、古代ギリシアの時代から様々な考察を行ってきた。こうした哲学という知的な営みは、物事に対する我々の考え方や見方を養うものであると共に、自己反省や他者との対話といった私たちの実生活の上でも十分に役立つものである。

ところで、こうした哲学という営みは単に思弁的なものに留まるだけでなく、炭鉱でその声を響き渡らせるカナリアのように自身の生きる時代に対する警鐘を鳴らす役割を持ったものでもあった(K. ヴォネガット「アメリカ物理学協会への講演」1969年)。この授業では、西洋思想史上における哲学の主要なトピックに関する古代から現代に至るまでの哲学者たちの考えを紹介していくが、その際、そうした哲学者の生きた時代的コンテクストに注目し、彼らの考えがその時代においてどのような意義や役割、先見性を持つものであったのかも併せて見ていく。

## 到達目標

- ・哲学という学問の概略と意義を説明できる。
- ・哲学の基本問題を把握した上で、西洋哲学においてその問題を取り扱った哲学者の標準的な議論を説明できる。
- ・論理的・批判的思考法を身に付けることで、自己反省・他者との対話などの実践的場面に、より堅実かつ柔軟な態度で臨めるようになる。

## 授業方法

- ・この授業では、西洋思想史上における哲学の主要なトピックに関する古代から現代に至るまでの哲学者たちの考えを紹介していく。
- ・個々の哲学者の生きた時代的コンテクストに注目し、彼らの考えがその時代においてどのような意義や役割、先見性を持つものであったのかも併せて見ていく。

## 授業計画

- 第1回 はじめに：哲学という言葉の意味とその歴史、効用
- 第2回 人生の意味と幸福：アリストテレス、ホッブズ
- 第3回 認識と虚構：プラトンとイデアの想起
- 第4回 相対主義と問題点：プロタゴラスとニーチェ
- 第5回 情念と理性：ストア派における賢者の理想とデカルト、トマス・アクィナス
- 第6回 愛：恋愛小説としてのプラトンとフィチーナ
- 第7回 恐怖：ホラー映画とアリストテレス、ヒューム
- 第8回 徳・功利主義・義務：プラトン、ミル、カント
- 第9回 時間と歴史：アウグスティヌスとニーチェ
- 第10回 社会契約：ホッブズ、ロック、ルソー
- 第11回 言葉の起源：プラトン、ルソー、ヘルダー
- 第12回 自然：アリストテレス、デカルト、エマソン
- 第13回 動物と植物の権利：シンガーとレーガン
- 第14回 人間の生と死：ハイデガーとサルトル
- 第15回 授業全体の概括と今後の課題：西洋思想の特徴と問題点

## 成績評価の方法

授業への積極的参加(50%)、レポート試験(50%)を総合的に評価する。

## 教科書・参考書に関する備考

本講義において使用するテキストは、コピーやプリントを配布する。

## 参考書

伊勢田哲司『哲学思考トレーニング』(ちくま新書、2005年、ISBN:978-4480062451)

菅野一徳『はじめての哲学思考』(ちくまプリマー、2017年、ISBN:978-4480689818)

02861

## 倫理学

担当教員：勝西 良典

2単位 前期

## 授業のねらい

西洋の倫理思想史を概観することにより、現代社会や今の日本、延いては個人をも規定している人間観・社会観・世界観・宗教観及びその多様性と欠落を理解するための基盤を築く。

## 到達目標

1. 倫理的な思考に慣れる。
2. 西洋の主な思想家の倫理思想について歴史の変遷も含めて理解する。
3. 講義で学んだ内容を現代の諸問題に関連づけることができるようになる。

## 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】(60～90分)

- ・事前に配布するプリントの該当箇所を読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。

【事後学習】(90～120分) [以下の学習がそのまま期末試験対策になる。]

- ・授業で紹介した専門用語の意味を正確に理解する。
- ・授業で紹介した思想家の倫理思想の特徴をまとめる。
- ・同じテーマに関する思想家による見解の相違をまとめる。
- ・授業で紹介した考え方を現代の問題にどう活かせるか考える。

【フィードバック】: 前回授業のリアクションペーパーへの回答、講義連絡を用いた模範解答の周知、ないし希望者に対する面談等によって行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング：倫理とは何か
- 第2回 古代の倫理思想(1)：ソフィストとソクラテス
- 第3回 古代の倫理思想(2)：プラトン
- 第4回 古代の倫理思想(3)：アリストテレス
- 第5回 古代の倫理思想(4)：ヘレニズム期の思想
- 第6回 中世の倫理思想
- 第7回 近世・近代の倫理思想(1)：ルネサンス期の人間観
- 第8回 近世・近代の倫理思想(2)：近代の幸福主義と社会契約思想
- 第9回 近世・近代の倫理思想(3)：カント
- 第10回 近世・近代の倫理思想(4)：功利主義
- 第11回 近世・近代の倫理思想(5)：ヘーゲル
- 第12回 現代の倫理思想(1)：実存主義
- 第13回 現代の倫理思想(2)：プラグマティズム
- 第14回 現代の倫理思想(3)：現代の論争状況と課題
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

期末試験(70%)、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー(30%)

## 履修にあたっての注意

文化総合学科の専門科目として後期に開講されている「倫理学入門」を履修する者は、本科目を受講すること(「倫理学入門」は本科目の知識を前提とする)。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

テキストに代わるものとして、授業用のプリントを配布する。下記以外の参考書については、初回にある程度まとまった量を、その後は適宜紹介する。

## 参考書

- A. マッキンタイアー『西洋倫理思想史(上)』(九州大学出版会、1985、ISBN：978-4873781204)
- A. マッキンタイアー『西洋倫理思想史(下)』(九州大学出版会、1986、ISBN：978-4873781266)

03021

## 環境科学

担当教員：江口 久登

## 2 単位 前期

## 授業のねらい

私達は、大気圏、水圏、地圏という環境に囲まれているが、人類活動により大気汚染、水質汚濁、土壌汚染といった公害問題や地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨といった地球環境問題が生じている。また外来生物や野生生物の保護といった生物圏の問題もある。このような種々の環境問題の現状と問題点を講義し、環境保全、自然保護についての知識を養う。

また、環境保全の取り組み、環境に配慮した生活を学び、社会の一員としての責任を自覚させる。

## 到達目標

- 1 人類活動による公害の歴史や現状及び対策について、実例をあげて論ずることができる。
- 2 地球環境問題についての現状や対策について、実例をあげて論ずることができる。
- 3 環境に配慮した生活、環境にやさしい暮らしを实践できるとともに地域のリーダーとして活躍することができる。

## 授業方法

毎回、資料を配布してその内容についてスライドや板書を使って講義する。ビデオ等の映像を利用する場合がある。授業計画の欄に「 」のキーワードを記す。新聞記事を利用した最新の環境に関する話題も取り入れるので、シラバスに多少の変更の可能性はある。小テストの実施により、時間の配分を変更することができる。

事前学習：「 」に記したキーワードについて、書籍などにより言葉の意味を調べて欲しい。

事後学習：授業の最後に課題を出す場合は、次回に提出してもらいます。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション（環境にやさしい暮らし）  
「環境」とは、「環境科学とは」「公害（典型7公害）」とは、「地球環境問題」とは
- 第2回 大気圏（空気）  
「空気の組成」、「大気の構造」、「空気の重さ」、濃度の単位（「ppm」と「公害浦島視機関（筒井義隆）」
- 第3回 「大気環境（きれいな空気と大気汚染）」  
「一酸化炭素」、「二酸化硫黄」、「二酸化窒素」、「PM2.5」、「ダイオキシン類」、  
「煤煙（森田草平）」、世界で大気汚染の都市は？
- 第4回 水圏（水質汚濁）  
「足尾鉍毒事件」、「水俣病」と「苦海浄土（石牟礼道子）」
- 第5回 水圏（飲み水と生活排水処理）  
浄水処理と下水処理、「水道水質基準、硬水と軟水」、「おいしい水」、食品の「pH」、「イタイイタイ病」
- 第6回 生活の中の化学物質  
「洗剤」、「食品添加物」、「殺虫剤」、「化学繊維」、「農薬」
- 第7回 騒音・振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下  
幼稚園は騒音？ 「音の単位 dB」、「悪臭物質」、「土壌汚染物質」
- 第8回 食品の汚染  
「カネミ油症事件（PCB）」、「ヒ素ミルク事件」（東南アジアの井戸では・・・）と「三四郎」（夏目漱石）
- 第9回 地球環境問題(1)  
地球温暖化、砂漠化  
「温室効果ガス」、「気候変動枠組み条約」、「京都議定書」、「パリ協定」
- 第10回 地球環境問題(2)  
オゾン層の破壊、酸性雨  
「ウィーン条約」、「モントリオール議定書」
- 第11回 自然環境(1)  
美しい自然「自然公園」、嫌われる動植物「外来生物」と大切にされる動植物「絶滅危惧種」、鳥獣保護
- 第12回 自然環境(2)

- 「生物多様性とは、海外旅行時に持ち込めないおみやげ「ワシントン条約」、貴重な湿地「ラムサール条約」
- 第13回 エネルギー問題  
電気の由来、「新エネルギー」（太陽光発電、風力発電、地熱発電、水素など）
  - 第14回 廃棄物、ごみ問題（分ければ資源、混ぜればゴミ）  
「廃棄物」、「各種リサイクル（自動車、家電、容器包装、食品など）、環境ラベル」、「SDGs」
  - 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

授業の取り組み方（30%）、到達目標1及び2並びに講義キーワードに関する小テスト（40%）、到達目標3に関連するレポート（30%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

第1回目の講義には必ず出席して下さい。  
受講者自らが家庭生活、学校生活、地域社会の中で、どのような環境問題があるか興味をもってほしい。  
新聞、テレビ、雑誌などによる環境関連ニュースなど環境情報に興味をもってほしい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回プリントを配布します。

## 参考書

富永 健『地球が汚されている』（日本放送出版協会）  
都留重人『世界の公害地図』（岩波新書）  
星野道夫『旅をする木』（文庫文庫）

## 参考ホームページ

環境省ホームページ



03041

## 生命科学

担当教員：園山 慶

2単位 前期

## 授業のねらい

生命科学－Life Science－とは、生物学・化学・物理学のような複数の学問分野を融合し、「生命」とは何かを明らかにしようとする学問です。21世紀は生命科学－Life Science－の時代といわれます。それは、生命科学が「生命とは何か」という根源的な問いに答えようとしているのに加え、「健康で豊かに暮らしたい」という我々の望みと密接に関連しているからです。この授業では、生命科学がどのようにして生まれ、どのように進展しているのか、また、我々が健康で豊かに暮らすことに生命科学がどのように関わっていくのか、を概説します。この授業のねらいは、高校時代の生物・化学・物理を復習したり、あるいはそれらの発展としての新しい具体的知識を教示したりすることではなく、生命科学の歴史と現状を概説することによって教養としての科学リテラシーを向上させることにあります。

## 到達目標

1. 生命科学の目的および成り立ちをおおまかに説明することができるとともに、今後の進展についての自分のアイデアを表現することができる。
2. 「生命とは何か」という根源的な問いに対して、自分のアイデアを表現することができる。
3. 我々の健康に対して生命科学が果たす役割についておおまかに説明することができるとともに、今後の進展についての自分のアイデアを表現することができる。

## 授業方法

この授業では、まず、生命科学の目的・成り立ち・生命科学と我々の健康に関する知識や情報を、スライドとそのハンドアウトを用いて教示し（「知識」）、次いで、それらに関わるさまざまな問いかけを行います（「問いかけ」）。受講生はその問いかけに対する自らのアイデアを説明し（「アイデアと表現」）、その講評を行います。より具体的には、受講生はあらかじめ配布されるハンドアウトについて予習（1時間程度）を行った上で授業に参加した後、毎回の授業で課される簡単なレポートを自宅学習により作成して電子メール添付で提出し、次回の授業においてそのレポートに基づいてディスカッションと講評を行います。

## 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス（授業のねらい、到達目標、授業方法および成績評価等の説明）、生命科学の目的
- 第2回 生命はどのようにして地球上に出現したのか？～知識と問いかけ
- 第3回 生命はどのようにして地球上に出現したのか？～アイデアと表現
- 第4回 生命科学の成り立ち－細胞の発見～知識と問いかけ
- 第5回 生命科学の成り立ち－細胞の発見～アイデアと表現
- 第6回 生命科学の成り立ち－遺伝子の発見～知識と問いかけ
- 第7回 生命科学の成り立ち－遺伝子の発見～アイデアと表現
- 第8回 生命科学の成り立ち－ポストゲノム～知識と問いかけ
- 第9回 生命科学の成り立ち－ポストゲノム～アイデアと表現
- 第10回 生命科学に関わる諸問題－ヒト、健康、社会～知識と問いかけ
- 第11回 生命科学に関わる諸問題－ヒト、健康、社会～アイデアと表現
- 第12回 健康に生きる－共生微生物～知識と問いかけ
- 第13回 健康に生きる－共生微生物～アイデアと表現
- 第14回 健康に生きる－アレルギー～知識と問いかけ
- 第15回 健康に生きる－アレルギー～アイデアと表現

## 成績評価の方法

到達目標1、2および3を測定するレポートの作成と授業におけるその発表（各30%）、ならびに授業におけるディスカッションへの参加状況（10%）により評価します。中間・期末試験は実施しません。

## 履修にあたっての注意

授業で行うディスカッションには、正解が準備されていません。受講生自身の経験や知識に基づいたアイデア・意見を表現し、積極的にディスカッションに参加しましょう。

## 教科書

なし

03061

## 物理学

担当教員：木村 信行

2単位 後期

## 授業のねらい

乗り物や家庭電化製品を扱う際には、物理学的な視点を持っていることが重要です。物事を物理学的に正しく理解していなければ身の危険にさらされることさえあります。この授業は、日常生活で出会う様々な物理現象に対して、それらが物理学のどのような法則や原理と関係しているのか、そのカラクリを理解することにより、具体的な問題に対して物理的に正しく対応出来るようになることを目的とします。

文科系の学生でも常識として知っておくべき事柄を精選し、数学的な取り扱いがごく簡単なものに限って解説します。簡単な実験・実演や映像も交えながら、分かり易い説明を心がけます。

## 到達目標

1. 日常的に、各種の力学的あるいは熱的物理現象を物理学の基本法則を用いて、定性的にかつ適切に説明することが出来るようになる。
2. 色々な力学的・熱力学的な量を正しく取り扱い、かつ定量的な計算を正確に実行できるようになる。
3. エネルギーの換算、アルキメデスの原理、ドップラー効果、オームの法則などごく簡単な法則については定量的に応用することが出来るようになる。
4. 日常レベルではあまり目にしない（見ることが出来ない）が不思議に思える物理現象についても、興味を持ち、関係する物理法則を理解し親しむことが出来る。

## 授業方法

主として、PCの画面をプロジェクターに投影して解説する講義形式により行います。

毎回、物理学の基本事項や具体例の解説や例題の解法の解説をし、授業の最後の20分程度は、演習課題に取り組む演習時間とします。演習課題への取り組み結果は成績評価に使われます。次回の講義の初めに演習問題の解答解説をし、その解答資料も配布します。その他、復習用演習課題（所要時間45-90分）も出されるのでやっておくこと。復習問題の模範解答資料は次回の講義の初めに配布します。

前半のまとめ小テストの答えは採点后に返却し、解答解説資料を配付しますが、後半のまとめ小テストについては試験終了後に解答解説資料を配付します。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス、物理学の守備範囲と科学の発展の歴史概観（ギリシャ哲学から現代のITロボット技術まで）           |
| 第2回  | 測定と単位（エラトステネス地球の半径を測る、mの定義、振り子の等時性、secの定義、g、kgの定義、基本量と誘導量） |
| 第3回  | 運動（等速度運動、等加速度運動、自由落下、万有引力、惑星や人工衛星の運動）                      |
| 第4回  | 運動の法則（慣性、力、作用反作用の法則と運動量保存の法則、ロケットの推進力、力積と自動車のエアバッグの原理）     |
| 第5回  | 仕事とエネルギー（仕事、運動エネルギーと位置エネルギー、エネルギー保存法則、エネルギーの形態とエネルギー源）     |
| 第6回  | 温度と熱（摂氏温度と絶対温度、比熱と潜熱、圧力鍋、熱伝導、断熱材）                          |
| 第7回  | 熱力学（エントロピー、気体分子の運動、ランダムウォーク、ボイル-シャルルの法則）                   |
| 第8回  | 前半のまとめと補足説明、小テスト   |
| 第9回  | 流体（水圧と浮力、アルキメデスの原理、パスカルの原理、色々な物体の比重測定実験）                   |
| 第10回 | 波（波動の性質、音波、定常波と共鳴、電磁波、ドップラー効果、宇宙の膨張〔ビッグバン〕）                |
| 第11回 | 波動現象と光学（反射と屈折、プリズムと虹、分散、回折と干渉、偏光、液晶ディスプレイ）                 |

- |      |  |
|------|--|
| 第12回 | 電気（電荷と電流、電圧と電力、直流回路、オームの法則、超伝導）          |
| 第13回 | 電気と磁気（磁石、強磁性体、磁場、電磁誘導、発動機〔モーター〕と発電機、変圧器） |
| 第14回 | 原子物理（光の二重性、量子物理学、レーザー光、電子レンジ、元素の周期表）     |
| 第15回 | 後半のまとめと補足説明、小テスト                         |

## 成績評価の方法

毎回の演習課題への取り組み結果（12回分60%）、主として到達目標1と2を測定する前半の小テスト（20%）、主として到達目標3と4を測定する後半の小テスト（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

高校までの物理学の履修履歴に強く影響を受けないように、これまで物理が苦手だった（履修していなかった）人にも興味の持てる内容にしたいと思います。

成績評価では毎回の演習課題を重要視するので、欠席をしないように。休んだ場合は、次の回に前回の授業資料と演習問題を受け取り、後日演習の答案を提出すること。なお、欠席は3回を超えると失格となります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使わず、毎回授業資料を配布します。

以下の参考書は、授業の構成を考えると参考にしたものです。良くまとまっているので興味があれば読んでみてください。

## 参考書

J. T. シップマン『増補改訂版、シップマン自然科学入門「新物理学」』（学術図書出版、2002、ISBN：9784873619309）  
原 康夫『第3版、物理学入門』（学術図書出版、2015、ISBN：9784780605006）



07001

## ライフステージ栄養学

担当教員：三田村 理恵子・隈元 晴子・池田 隆幸・村田 まり子・菊地 和美  
2単位 後期

### 授業のねらい

女性にとって必要な一般的な食に関する知識から学び、心身共に健康な食生活を送ることができる正しい情報を身につけ、氾濫する食情報から自分に必要な情報を判断できる。

### 到達目標

1. 食生活における基本的な知識を身につけることができる。
2. 健康を維持するための食生活に関心を持ち、実践することができる。

### 授業方法

講義とグループワーク、調理実習

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：自分の食生活をみつめる（隈元）
- 第2回 わたしたちの食生活「むかし」と「いま」：日本食の歴史と疾病の変遷（隈元）
- 第3回 毎日の食生活と健康：栄養の基礎知識（5大栄養素）（三田村）
- 第4回 からだを育む食生活：女性のライフステージ栄養学（三田村）
- 第5回 いのちを育む食生活：次世代の健康と栄養（隈元）
- 第6回 こころを育む食生活：ストレスと栄養（隈元）
- 第7回 こころを育む食生活：睡眠・休息・運動と栄養（隈元）
- 第8回 食生活と安全：食品の調理・加工と栄養（菊地）
- 第9回 食生活と安全：食品衛生と食中毒（池田）
- 第10回 食生活と安全：食品の機能性と表示（池田）
- 第11回 食生活の実践：毎日の献立と栄養（村田）
- 第12回 食生活と情報：SNSやメディアの活用と栄養（隈元）
- 第13回 食生活と情報：中食・外食の活用と栄養（村田）
- 第14回 昼食会（朝食会）：調理実習とふりかえり(1)（村田・隈元）
- 第15回 昼食会（朝食会）：調理実習とふりかえり(2)（村田・隈元）※14と15回目は2コマ連続で実施

### 成績評価の方法

参加状況（10%）とレポート（90%）

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

毎回プリントを配布します。

07011

## 健康の科学

担当教員：藤井 義博

2単位 前期

### 授業のねらい

主体的な健康構築法について講義する。とくに日常生活（精神生活、身体活動、食事、睡眠等）の諸原則を提示し解説する。人間は、環境および身体臓器のコミュニケーションの中でその主体性を発揮している。病気や障害は、これらのコミュニケーション不足に由来することから、コミュニケーションの改善により成長して主体性を発揮するきっかけにもなる。このように成長して主体性を発揮する人間のための健康長寿の諸原則を提示する。

### 到達目標

主体的な健康構築法、日常生活の諸原則、病気や障害の理解とともに、成長して主体性を発揮する人間になる方法を身につける。

### 授業方法

パワーポイントを用いて進める。パワーポイントの内容はプリントとしても配布する。質問は随時受け付けて回答する。リアクションペーパーに記載された質問については授業開始時に回答する。

### 授業計画

- 第1回 宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の生活法を教材とした健康教育1：「アメリモマケズ」の日本人に与えた影響
- 第2回 宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の生活法を教材とした健康教育2：栄養学的評価、白米と玄米の差異
- 第3回 宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の生活法を教材とした健康教育3：生活習慣病予防
- 第4回 宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の生活法を教材とした健康教育4：がん予防
- 第5回 曲がったものを伸ばす直接法と間接法：西洋医学と東洋医学
- 第6回 自律神経系の働き1：社会の変化と疾病
- 第7回 自律神経系の働き2：立ちくらみ、熱中症、脱水症と予防法
- 第8回 自律神経系の働き3：低体温症
- 第9回 自律神経系の働き4：冷え症の種類
- 第10回 自律神経系の働き5：冷え性の原因
- 第11回 自律神経系の働き6：冷え症の対処法
- 第12回 アレルギー疾患、食物アレルギー
- 第13回 摂食障害：症例検討、原因と対処法
- 第14回 ひきこもりと引きこもり親和群：その実態と解決方法について
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

成績評価は、毎回の授業にて提出するリアクションペーパーの評価（50%）および学期末レポートの評価（50%）により行う。

### 履修にあたっての注意

受講者には、自身の健康度を向上させたいという思い、食事や育児への関心、他者の健康への思いやりがあることが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

資料を配布する。

07021

## 運動の科学

担当教員：蔵満 保幸

2単位 後期

## 授業のねらい

人の健康と身体活動（運動）との関わりを理解するために、身体活動（運動）が人のからだにどのような影響を及ぼすのかを学習し、その影響と人の健康との関連について理解します。生涯に渡って、元気で健康な生活を過ごすために、自分のからだや生活、食を見つめ直し、健康の大切さについても学んでいきます。

## 到達目標

1. 自分の心身の現状を客観的に把握することができる。
2. 自分の心身の健康を維持・増進するための課題を見つけることができる。
3. トレーニングや身体の代謝の基礎的な理論を理解し、健康を維持増進することができる。
4. 健康生活を営むための知識を理解し、実践することにより、生涯に渡る健康生活の基礎を築くことができる。
5. 「健康」「からだ」「こころ」をキーワードにTV、新聞、雑誌などから情報を収集することができる。

## 授業方法

ワークシート、パワーポイント、資料などを用いながら解説します。簡単なコミュニケーションゲームなども実施します。睡眠や食事等の記録を課題とし、自分自身の生活習慣を把握する資料とします。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：自分の誕生から現在まで、遊びや食べ物などを話題にしながら振り返ります。
- 第2回 北海道民の健康の現状：北海道に住む私たちの体格や体力・運動能力、学力などについてその現状と課題について
- 第3回 健康とライフスタイル(1)：身体活動（遊び、スポーツ）を中心に、健康との関連について
- 第4回 健康とライフスタイル(2)：生活リズム、とくに睡眠を中心に、健康との関連について
- 第5回 健康とライフスタイル(3)：食物（食生活）を中心に、健康との関連について
- 第6回 理解度確認試験：第1回～第5回までの講義の理解度確認試験を実施
- 第7回 肥満と身体活動：肥満の定義、肥満しやすい体質、肥満になりにくい体質、肥満と生活など肥満に関連する事柄について
- 第8回 身体組成と身体機能：貴女は短距離選手向き、長距離選手向き、それとも？自分の身体組成について考えてみます
- 第9回 スポーツのスキルと身体活動：運動神経が良い、悪いってどういう事？自分はどちら？
- 第10回 トレーニングの基礎理論：筋力アップ、持久力アップのための理論とトレーニング法
- 第11回 簡単にできるトレーニング法：スタイルアップ、脳力、気力アップの簡単トレーニング法を紹介
- 第12回 理解度確認試験：第7回～第11回までの講義の理解度確認試験を実施
- 第13回 ストレスと身体活動(1)：現代人の大敵、ストレスへの対処法について
- 第14回 ストレスと身体活動(2)：最新のストレスへの対処法を紹介し、自分なりの最適な対処法を見つけます。
- 第15回 まとめの試験とミニレポート

## 成績評価の方法

- ・確認試験 50% 授業での理解度をチェックします
- ・授業での提出物 30% 自分の生活習慣を客観的に把握するための資料とします。
- ・まとめの試験 20% 生涯に渡る健康生活の基礎力を確認

します。

## 履修にあたっての注意

- ・健康、遊び、スポーツなどに関するTV、新聞、雑誌などに関心を持ちみて下さい。
- ・毎日の食事、睡眠、活動状況など記録をとってみましょう。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、独自に作成した資料を配布します。ファイリングして持参して下さい。

08261～08263

**運動の実践 A**

担当教員：中川 喜直

1 単位 前期

**授業のねらい**

長寿社会において生涯に亘って「心の健康」と「体の健康」を保持増進することは、極めて重要である。また、心と体のバランスを維持することは活力のある人生を過ごすためにも大切であり、それらの保持増進は人間に関わる生活と健康に多大な影響を与えることが疫学的研究によって明らかになっている。

運動の実践では適度な運動習慣を身につけ、生涯に亘り心身の健康保持増進ができるように運動と健康スポーツを理解し、生活に必要な知識を修得することを目的とする。

**到達目標**

心と体の健康を理解し、正しい運動習慣を身につけ生涯スポーツとして適度な運動を楽しみながら生活に取り入れることを目標とする。

**授業方法**

体育館等において実技授業を実施する。毎回、怪我予防のために準備運動と体ほぐしの健康体操を取り入れる。

**授業計画**

- 第1回 ガイダンス：授業内容の説明、運動の基本：ウォーキング・ノルディックウォーキングと健康の保持増進の理解と実践、軽スポーツを実施する
- 第2回 運動に慣れる：軽スポーツ（ソフトバレーボール）
- 第3回 バドミントン1：基礎知識、基本的なストローク(1)ハイクリア・ドライブ
- 第4回 バドミントン2：基本ストローク(2)スマッシュ・サーブ・ルールの理解
- 第5回 バドミントン3：基本ストローク(3)ヘアピン・ドロップ・ハーフコートゲーム
- 第6回 バドミントン4：基本ストローク(4)審判・ミニゲーム
- 第7回 バドミントン5：ダブルスリーグ戦(1)
- 第8回 バドミントン6：ダブルスリーグ戦(2)
- 第9回 バドミントン7：シングルスリーグ戦
- 第10回 ゴルフ1：基礎知識、服装、マナー、基本スイング、グリップ、ショット練習：クォーター・ハーフショット
- 第11回 ゴルフ2：ショット練習：ショートアイアン、ミドルアイアン・アプローチ、フルショット、パター練習
- 第12回 ゴルフ3：ロングアイアン・バンカーショット、ユーティリティ、ウッド・目標を狙う
- 第13回 バスケットボール：パス、ドリブル、シュート、ゲーム
- 第14回 ドッジボール：キャッチボール、ボール体操、ゲーム
- 第15回 軽スポーツ：各種スポーツを選択し、レジャースポーツとして継続できる運動を実践する

**成績評価の方法**

授業への参加状況（50%）、学習意欲（20%）、技術習得（20%）、試験（10%）

**履修にあたっての注意**

運動に相応しい服装（ジャージ）、スポーツシューズを持参

**教科書**

必要に応じ各種スポーツに関する資料を配布する

**教科書・参考書に関する備考**

特になし

**参考書**

岡野五郎『体を動かすと心が変わる』（ストーク、2015）  
ウィリアム・ジェイムズ『心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる』

08271～08273

**運動の実践 B**

担当教員：中川 喜直

1 単位 後期

**授業のねらい**

長寿社会において生涯に亘って「心の健康」と「体の健康」を保持増進することは、極めて重要である。また、心と体のバランスを維持することは活力のある人生を過ごすためにも大切であり、それらの保持増進は人間に関わる生活と健康に多大な影響を与えることが疫学的研究によって明らかになっている。

運動の実践では適度な運動習慣を身につけ、生涯に亘り心身の健康保持増進ができるように運動と健康スポーツを理解し、生活に必要な知識を修得することを目的とする。

**到達目標**

心と体の健康を理解し、正しい運動習慣を身につけ生涯スポーツとして適度な運動を楽しみながら生活に取り入れることを目標とする。

**授業方法**

体育館等において実技授業を実施する。毎回、怪我予防のために準備運動と体ほぐしの健康体操を取り入れる。

**授業計画**

- 第1回 運動の基本：冬のウォーキング・ストックウォーキングと健康保持増進
- 第2回 ソフトバレーボール：パス、スパイク、レシーブ、サーブ、ゲーム
- 第3回 バレーボール1（6人制）：基礎知識、基本練習(1)オーバーハンドパス、アンダーハンドパス
- 第4回 バレーボール2：基本練習(2)スパイク、レシーブ
- 第5回 バレーボール3：基本練習(3)審判、リーグ戦(1)
- 第6回 バレーボール4：基本練習(4)リーグ戦(2)
- 第7回 卓球1：基礎知識、基本練習(1)シェークハンド・ペンホルダー
- 第8回 卓球2：基本練習(2)フォアハンド、バックハンド、ドライブ、つつつき（カット）
- 第9回 卓球3：基本練習(3)サーブ、審判、ルール、ミニゲーム、ダブルスリーグ戦
- 第10回 卓球4：基本練習(4)サーブ、審判、ルールシングルスリーグ戦
- 第11回 フットサル1：基礎知識、基本練習(1)パス、シュート、ドリブル
- 第12回 フットサル2：基本練習(2)戦術、ミニゲーム
- 第13回 フットサル3：基本練習(3)戦術、ミニゲーム、リーグ戦(1)
- 第14回 フットサル4：基本練習(4)戦術、ミニゲーム、リーグ戦(2)
- 第15回 軽スポーツ：各種スポーツを選択し、レジャースポーツとして継続できる運動を実践する

**成績評価の方法**

授業への参加状況（50%）、学習意欲（20%）、技術習得（20%）、試験（10%）

**履修にあたっての注意**

運動に相応しい服装（ジャージ）、スポーツシューズを持参

**教科書**

必要に応じ各種スポーツに関する資料を配布する

**参考書**

岡野五郎『体を動かすと心が変わる』（ストーク、2015）  
ウィリアム・ジェイムズ『心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる』

07501・07502

## 文章表現

担当教員：田代 早矢人

2単位 前期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていく。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていく。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができる。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる。
2. 論理的な文章を要約することができる。

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開する。原則として、講義に加え演習の時間を設ける。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明 |
| 第2回  | 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法   |
| 第3回  | レポート・論文の文章表現①         |
| 第4回  | レポート・論文の文章表現②         |
| 第5回  | パラグラフの作り方             |
| 第6回  | 文章構成の基本               |
| 第7回  | レポートの構成               |
| 第8回  | 事実と意見、引用のルール          |
| 第9回  | 文献検索の方法、出典の示し方        |
| 第10回 | 要約の基本：要約とは何か          |
| 第11回 | 要約の実践                 |
| 第12回 | 批判的読解とテーマの決定          |
| 第13回 | アウトラインの作り方            |
| 第14回 | 推敲と校正                 |
| 第15回 | 総まとめ                  |

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価する。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とする。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでほしい。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業で配布するプリントで対応する。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN:9784766409697)

07503・07504

## 文章表現

担当教員：高木 維

2単位 前期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていきます。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていきます。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができます。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる
2. 論理的な文章を要約することができる

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開します。原則として、講義に加え演習の時間を設けます。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明 |
| 第2回  | 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法   |
| 第3回  | レポート・論文の文章表現①         |
| 第4回  | レポート・論文の文章表現②         |
| 第5回  | パラグラフの作り方             |
| 第6回  | 文章構成の基本               |
| 第7回  | レポートの構成               |
| 第8回  | 事実と意見、引用のルール          |
| 第9回  | 文献検索の方法、出典の示し方        |
| 第10回 | 要約の基本：要約とは何か          |
| 第11回 | 要約の実践                 |
| 第12回 | 批判的読解とテーマの決定          |
| 第13回 | アウトラインの作り方            |
| 第14回 | 推敲と校正                 |
| 第15回 | 総まとめ                  |

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価します。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とします。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでください。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがあります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

なし。授業で配布するプリントで対応します。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会、2002)



07505・07506

## 文章表現

担当教員：田代 早矢人

2単位 後期

### 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていく。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていく。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができる。

### 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる。
2. 論理的な文章を要約することができる。

### 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開する。原則として、講義に加え演習の時間を設ける。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明
- 第2回 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法
- 第3回 レポート・論文の文章表現①
- 第4回 レポート・論文の文章表現②
- 第5回 パラグラフの作り方
- 第6回 文章構成の基本
- 第7回 レポートの構成
- 第8回 事実と意見、引用のルール
- 第9回 文献検索の方法、出典の示し方
- 第10回 要約の基本：要約とは何か
- 第11回 要約の実践
- 第12回 批判的読解とテーマの決定
- 第13回 アウトラインの作り方
- 第14回 推敲と校正
- 第15回 総まとめ

### 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価する。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とする。

### 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでほしい。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがある。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業で配布するプリントで対応する。

### 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN:9784766409697)

07507・07508

## 文章表現

担当教員：高木 維

2単位 後期

### 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていきます。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていきます。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができます。

### 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる
2. 論理的な文章を要約することができる

### 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開します。原則として、講義に加え演習の時間を設けます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明
- 第2回 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法
- 第3回 レポート・論文の文章表現①
- 第4回 レポート・論文の文章表現②
- 第5回 パラグラフの作り方
- 第6回 文章構成の基本
- 第7回 レポートの構成
- 第8回 事実と意見、引用のルール
- 第9回 文献検索の方法、出典の示し方
- 第10回 要約の基本：要約とは何か
- 第11回 要約の実践
- 第12回 批判的読解とテーマの決定
- 第13回 アウトラインの作り方
- 第14回 推敲と校正
- 第15回 総まとめ

### 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価します。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とします。

### 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでください。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがあります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

なし。授業で配布するプリントで対応します。

### 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会、2002)

07801

## 統計学

担当教員：原林 滋子

2単位 後期

## 授業のねらい

統計学は、

- ・取得したデータに基づいて集団の特徴や傾向を数値化する
- ・少数のデータからその背後にある膨大なデータを確率に基づき推測する学問である。

たとえばスーパーで売られている野菜を高い・安いと判断する、天気予報を見て傘を持つかどうか考えるなど、私たちは日常的に統計に基づいた判断をしながら生活している。まずは統計が身近なものであり、種々の選択や決定に重要な役割を果たすことを理解してほしい。

統計は実験・研究分野はもちろんのこと、品質管理、生産管理、売上管理、成績管理などあらゆる実務分野で用いられる。また、ビッグデータブームの影響もあり、データ分析のできる人材への養成が高まっている。

しかし、統計学で扱われる複雑な数式は学生にとって興味を持ちにくく、時に学習意欲を減退させる。このため本講義では数学的な解説よりも、解析の目的を理解すること、結果の解釈ができることに重点を置く。統計計算については自習しやすいように Excel を利用する。

## 到達目標

1. 統計について理解し、Excel を用いて基本的な統計処理ができる
2. 統計結果の基本的な解釈ができる
3. 解析結果について適切な言葉や図で人に伝えることができる

## 授業方法

座学と、PC を用いた実習を並行して行う。

Excel 操作を行うので、入力、セルのコピーや移動などの基本操作、四則演算や基本的な関数計算（平均、最大値、最小値の算出）はできるようにしておくことが望ましい。

操作に時間がかかる場合は自宅での復習を推奨する。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
授業の進め方、アセスメントチェック、統計学とは
- 第2回 データを見やすくまとめる  
～度数分布表とヒストグラム
- 第3回 代表値とばらつき  
～アベレージ、メジアン、モード、範囲、分散、標準偏差
- 第4回 Excel 操作  
アベレージ、分散、標準偏差の計算
- 第5回 相関と回帰(1)  
～多変量データとは、相関とは、相関係数と求め方、意味
- 第6回 相関と回帰(2)  
～回帰直線とその意味、Excel でのデータ解析
- 第7回 確率・確率変数・確率分布
- 第8回 正規分布(1)  
～正規分布の特徴と意味、標準化
- 第9回 正規分布(2)  
～標準正規分布からわかること
- 第10回 ここまでの復習
- 第11回 母集団と標本集団  
区間推定
- 第12回 t 検定(1)  
～母平均・母比率の検定
- 第13回 t 検定(2)  
～対応のある t 検定・対応のない t 検定
- 第14回 総復習と発表準備  
～プレゼン準備
- 第15回 プレゼン発表会

## 成績評価の方法

到達目標 1、2 を測定する試験 (50%)、到達目標 3 を測定するプレゼンテーション (25%)、授業への主体的参加状況 (25%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

休まずに出席してください。

授業中、Excel 操作でわからないところは遠慮なく質問してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は、独自に作製したプリントを使用。授業時に（もしくは本学ポータルサイトの「講義連絡」等を通して PDF 形式で）配布する。

参考書については必ずしも入手する必要はないが、興味があれば手にとっていただきたい。

## 参考書

景山 三平『事例でわかる統計シリーズ 教養のための統計入門』（実教出版、2016、ISBN：978-4-407-33284-1）

高橋 信『マンガでわかる統計学』（オーム社、2004、ISBN：978-4274065705）

西岡 康夫『単位がとれる統計ノート』（講談社サイエンティフィック、2004、ISBN：978-4-06-154457-4）

## 参考ホームページ

ハンバーガーショップで学ぶ楽しい統計学 <http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/>



07901

## 情報処理の基礎

担当教員：中山 理智恵

1単位 前期

### 授業のねらい

現代社会に於いて、コンピューターはあらゆる場面で使われており、もはや必要不可欠な社会基盤である。

この授業では、情報処理の基礎知識として、コンピューターの基本構成やオフィスツールの操作方法について学び、完成度の高いドキュメントを作成するテクニックと活用する能力を身に付けることを目指します。

### 到達目標

1. レポート作成や卒論など大学で必要となるコンピューターを駆使したドキュメント作成の基本的知識を修得する。
2. 基礎知識をしっかりとマスターし、様々な例題に応じたドキュメントを独力で作成するための判断力と思考力を身に付ける。

### 授業方法

アプリケーションごとに操作技法を説明し、各回で説明した内容に対応した演習問題と指定課題を出題して、修得状況を確認していきます。修得状況によっては、その後の授業内容を工夫しながら進めると共に、アプリケーションごとに作成した操作ガイドを参考資料として授業内で配布し、課題作成時などに活用してもらいます。また、わかりやすい講義を心がけて進行し、情報処理に対する理解を深めてもらいます。

### 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス：授業の進め方、情報リテラシーについて                   |
| 第2回  | Wordによる文書作成(1)：文字書式、段落書式、罫線作成              |
| 第3回  | Wordによる文書作成(2)：インデント・タブ設定、段組み設定            |
| 第4回  | Wordによる文書作成(3)：コメント設定、図表番号の設定、目次作成、ページ番号設定 |
| 第5回  | Wordによる文書作成(4)：Word演習                      |
| 第6回  | Wordによる文書作成(5)：Word演習                      |
| 第7回  | Excelによるデータ処理(1)：効率的なデータ入力と表作成             |
| 第8回  | Excelによるデータ処理(2)：関数を利用した計算と四則演算            |
| 第9回  | Excelによるデータ処理(3)：グラフの作成、条件付き書式の設定          |
| 第10回 | Excelによるデータ処理(4)：Excel演習                   |
| 第11回 | Excelによるデータ処理(5)：Excel演習                   |
| 第12回 | PowerPointによるプレゼンテーション資料作成(1)：基本操作         |
| 第13回 | PowerPointによるプレゼンテーション資料作成(2)：応用作成技法       |
| 第14回 | PowerPointによるプレゼンテーション資料作成(3)：プレゼンテーション技法  |
| 第15回 | 総括：Word・Excel・PowerPointの横断的な活用方法、総合演習     |

### 成績評価の方法

到達目標1としてWord・Excel操作に関する指定課題(70%)  
到達目標2として授業への参加状況(30%)

### 履修にあたっての注意

指定課題は、成績評価と修得状況を把握する上で重視するので提出期日を守り忘れずに提出のこと。

### 教科書

なし

08021～08024

## 情報リテラシー A

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 前期

### 授業のねらい

情報を的確に選択し利用するための情報アクセス能力を高めることがねらいです。そのために、①情報検索の考え方を学び実習します。②情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学び実習します。③各自のテーマでプレゼンテーションとレポート作成をすることで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎を身につけていきましょう。コンピュータについては全くの初心者であることを想定しています。

### 到達目標

- ・各自のテーマに対する情報の探索や収集の能力を高めること
- ・レポート作成において情報の活用能力を高めること
- ・プログラム言語の一つは用いてプレゼンテーションデータを作成できるようになること。

### 授業方法

授業は各自テーマを設定し、以下の授業計画をもとに作業を進めます。習得した技術を活用しプレゼンテーションを行い、レポートも提出します。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。

### 授業計画

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 情報活用のための基礎(1)：メールやストレージの使い方 フォルダーの作成 |
| 第2回  | 情報活用のための基礎(2)：htmlで自己紹介文 ネットワークの利用   |
| 第3回  | インターネット法と無体財産権                       |
| 第4回  | 情報アクセス 検索エンジンの利用方法                   |
| 第5回  | 情報アクセス 主題別分類による情報整理の考え方と図書などの利用方法    |
| 第6回  | 情報アクセス 出所別分類による情報整理の考え方と貴重資料などの利用方法  |
| 第7回  | 情報アクセス インターネット上の情報活用の練習              |
| 第8回  | レポート作成法(1)Excelなどによる情報表現(表計算とグラフ作成)  |
| 第9回  | レポート作成法(2)文章作成の基本                    |
| 第10回 | プレゼンテーション準備(1)                       |
| 第11回 | プレゼンテーション準備(2)                       |
| 第12回 | プレゼンテーション準備(3)                       |
| 第13回 | プレゼンテーション(1)                         |
| 第14回 | プレゼンテーション(2)                         |
| 第15回 | プレゼンテーション(3)                         |

### 成績評価の方法

授業参加状況(30%)を重視します。加えて、授業時に行う演習課題(30%)とレポート及びプレゼンデータ・報告(40%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。学んだことを図書館の書籍などあらゆる情報アクセスのツールを用い、積極的に活用してください。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

### 教科書

なし

08025・08026

## 情報リテラシー A

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 後期

## 授業のねらい

情報を的確に選択し利用するための情報アクセス能力を高めることがねらいです。そのために、①情報検索の考え方を学び実習します。②情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学び実習します。③各自のテーマでプレゼンテーションとレポート作成をすることで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎を身につけていきましょう。コンピュータについては全くの初心者であることを想定しています。

## 到達目標

- ・各自のテーマに対する情報の探索や収集の能力を高めること
- ・レポート作成において情報の活用能力を高めること
- ・プログラム言語の一つは用いてプレゼンテーションデータを作成できるようになること。

## 授業方法

授業は各自テーマを設定し、以下の授業計画をもとに作業を進めます。習得した技術を活用しプレゼンテーションを行い、レポートも提出します。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。

## 授業計画

- 第1回 情報活用のための基礎(1)：メールやストレージの使い方 フォルダの作成  
第2回 情報活用のための基礎(2)：html で自己紹介文 ネットワークの利用  
第3回 インターネット法と無体財産権  
第4回 情報アクセス 検索エンジンの利用方法  
第5回 情報アクセス 主題別分類による情報整理の考え方と図書などの利用方法  
第6回 情報アクセス 出所別分類による情報整理の考え方と貴重資料などの利用方法  
第7回 情報アクセス インターネット上の情報活用の練習  
第8回 レポート作成法(1)Excel などによる情報表現（表計算とグラフ作成）  
第9回 レポート作成法(2)文章作成の基本  
第10回 プレゼンテーション準備(1)  
第11回 プレゼンテーション準備(2)  
第12回 プレゼンテーション準備(3)  
第13回 プレゼンテーション(1)  
第14回 プレゼンテーション(2)  
第15回 プレゼンテーション(3)

## 成績評価の方法

授業参加状況（30％）を重視します。加えて、授業時に行う演習課題（30％）とレポート及びプレゼンデータ・報告（40％）により評価します。

## 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。学んだことを図書館の書籍などあらゆる情報アクセスのツールを用い、積極的に活用してください。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

## 教科書

なし

08051・08052

## 情報リテラシー B

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 後期

## 授業のねらい

情報リテラシー A 受講済みの学生を対象とした科目です。住所録のような簡易なデータベースを実際に作成することで、データベースの仕組みを学びます。コンピュータについては、全くの初心者であることを想定しています。情報を的確に選択し効果的に利用するための情報アクセス能力を高めることを目標とします。そのために、①プロトコルの使い方などネットワークの活用を練習します。②MySQL（図書館・会社でよく使用されているSQL）を用いた検索の仕組みを学びます。③PHP 言語も加え検索を作成します。受講者の状況によっては④統計ソフトRなど他のプログラムとの組み合わせ方法も勉強します。授業の最後には⑤受講者の作成した検索を相互に評価しあいます。情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学ぶことで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎をさらに身につけていきましょう。

## 到達目標

各自の情報の整理能力や活用能力を高めることです

## 授業方法

リレーショナルデータベースをゼロから学んでいきます。最終的には各自でデータベースを作成しそれを評価の対象とします。担当教員が各自の状況に応じ個別に指導していきます。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。出席することで勉強をしていくことが可能です。積極的に受講してください。

## 授業計画

- 第1回 クラウド引用管理ソフトウェアの活用  
第2回 学術情報データベースの利用  
第3回 プロトコルと「送信可能化権」  
第4回 メタデータ  
第5回 MySQL を用いての SQL 構文の理解と体験①  
第6回 MySQL を用いての SQL 構文の理解と体験②  
第7回 one source multi use とデータの変換活用  
第8回 文書を記述するための軽量マークアップ言語の利用  
第9回 データベースの設計  
第10回 データベースの作成(1)  
第11回 データベースの作成(2)  
第12回 データベースの作成(3)  
第13回 データベースの作成(4)  
第14回 データベースの作成(5)  
第15回 成果発表と相互評価

## 成績評価の方法

授業参加状況（30％）を重視します。加えて、授業時に行う演習課題（30％）とレポート及びプレゼンデータ・報告（40％）により評価します。

## 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

## 教科書

なし



# 外国語科目



06041

**Academic Communication I**

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 前期

**授業のねらい**

The main goal of this course is to improve speaking, reading, listening and writing skills – all necessary to communication. This is a basic skills class. However, rather than repeat what was learned in high school this course will focus on using it in real conversation.

The ultimate goal is to improve English by using it.

**到達目標**

In past years, students studying with me have finished the course with more confidence to hold a conversation, the type of conversation one might have overseas in an English-speaking country. Students are noticeably able to speak more smoothly and think on their feet in English.

**授業方法**

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Form their own opinions and write essays. (I will check the essays weekly and offer advice on how to improve writing and how to craft a strong essay overall.)
3. If the writing practice is done properly, students are prepared to speak in class with classmates – all in English.

Again, the ultimate goal is to improve English by using it.

**授業計画**

- 第1回 Orientation; course introduction
- 第2回 Topic 1: Food (fast food vs. healthy living)
- 第3回 Topic 2: Work (time vs. money)
- 第4回 Topic 3: Learning foreign languages
- 第5回 Review, speaking test practice
- 第6回 1st Speaking and Writing Test
- 第7回 Topic 4: Education problems
- 第8回 Topic 5: Entrance exams
- 第9回 Topic 6: Families Issues
- 第10回 Review, speaking test practice
- 第11回 2nd Speaking and Writing Test
- 第12回 Topic 7: Truth or lies
- 第13回 Topic 8: Gender issues in society
- 第14回 Final speaking review
- 第15回 3rd Speaking Test

**成績評価の方法**

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

秀: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express ones own ideas in class discussions.

優: A good understanding. . .

良: A fair comprehension and positive effort. . .

可: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

**履修にあたっての注意**

\*\*Most of the speaking practice is done in-class. There are no notes you can copy from classmates. Therefore, attendance is vital to improving English and doing well in the class.

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

There is no textbook for this course. The instructor will provide all materials.



06042

# Academic Communication I

担当教員：平田 洋子

1 単位 前期

## 授業のねらい

The aim of this course is to develop your verbal communication skills through fluency-based activities and maximize the use of your own learning strategies to achieve their own goals. Without relying on translating English to your native language this course will help you acquire the basic knowledge of lexical and grammatical phrases used in everyday life. However, the instructor will not draw attention to your every single error or mistake because it is important for you to make an effort to speak as much as possible, potentially at the expense of accuracy. Therefore, perfect memorization of words and phrases is of secondary importance. Since teaching verbal communication skills will be the core instruction, the instructor will teach English exclusively in English.

## 到達目標

1. You will improve your verbal communication skills enabling you to more confidently express your thoughts and feelings in English. You will also build upon your lexical knowledge (e.g. collocations and fixed expressions) and practice it in various conversational situations. Furthermore you will be encouraged to raise linguistic and cultural awareness by comparing and contrasting the language and social behaviors in Japan with those in English speaking countries.
2. You will be required to give several solo presentations in order to demonstrate your progress and ability to use what you have learned. Through these presentations you will also gain strong confidence in speaking English in front of other students.

## 授業方法

You will be required to read your textbook and materials and do your homework in advance. It will take approximately two or three hours for you to complete them. Since the purpose of this course is to encourage you to communicate in English fluently you will also be required in each lesson to ask and answer questions in English about personal topics using basic phrases and familiar expressions. Furthermore throughout the course you will be required to give solo presentations using the phrases and expressions you have learned. You will understand specific features of spoken English through various types of practice and tasks. The instructor will collect your comments and opinions on various aspects of your learning activities through discussions.

## 授業計画

- 第1回 Course Introduction  
Brief assessment reviewing secondary school English
- 第2回 Everyday verbs: "take" and "bring"
- 第3回 Common adjectives
- 第4回 Common phrasal verbs: "get", "take", "turn" and "go"
- 第5回 Things you do every day
- 第6回 Review of the words and expressions
- 第7回 Public speaking and presentations
- 第8回 Presentations: describing yourself
- 第9回 Everyday verbs: "get"
- 第10回 Everyday verbs: "make"
- 第11回 Various expressions including common verbs
- 第12回 Time expressions
- 第13回 Conjunctions and connecting words
- 第14回 Organizational structure of presentations
- 第15回 Presentations: description of your university

## 成績評価の方法

Evaluation will be based on 1. engagement in language activities in classes and classroom tasks (50%) and 2. tests (50%).

## 履修にあたっての注意

Before each lesson you will be required to read an assigned unit and do the exercises in your textbook. Details will be explained in the first class.

## 教科書

Michael McCarthy (著), Felicity O'Dell (著), *English Vocabulary in Use Elementary Edition without answers* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 978-0521136198)

**授業のねらい**

The aim of this course is to develop your verbal communication skills through fluency-based activities and maximize the use of your own learning strategies to achieve their own goals. Without relying on translating English to your native language this course will help you acquire the basic knowledge of lexical and grammatical phrases used in everyday life. However, the instructor will not draw attention to your every single error or mistake because it is important for you to make an effort to speak as much as possible, potentially at the expense of accuracy. Therefore, perfect memorization of words and phrases is of secondary importance. Since teaching verbal communication skills will be the core instruction, the instructor will teach English exclusively in English.

**到達目標**

1. You will improve your verbal communication skills enabling you to more confidently express your thoughts and feelings in English. You will also build upon your lexical knowledge (e.g. collocations and fixed expressions) and practice it in various conversational situations. Furthermore you will be encouraged to raise linguistic and cultural awareness by comparing and contrasting the language and social behaviors in Japan with those in English speaking countries.
2. You will be required to give several solo presentations in order to demonstrate your progress and ability to use what you have learned. Through these presentations you will also gain strong confidence in speaking English in front of other students.

**授業方法**

You will be required to read your textbook and materials and do your homework in advance. It will take approximately two or three hours for you to complete them. Since the purpose of this course is to encourage you to communicate in English fluently you will also be required in each lesson to ask and answer questions in English about personal topics using basic phrases and familiar expressions. Furthermore throughout the course you will be required to give solo presentations using the phrases and expressions you have learned. You will understand specific features of spoken English through various types of practice and tasks. The instructor will collect your comments and opinions on various aspects of your learning activities through discussions.

**授業計画**

- 第1回 Course Introduction  
Brief assessment reviewing secondary school English
- 第2回 Everyday verbs: "take" and "bring"
- 第3回 Common adjectives
- 第4回 Common phrasal verbs: "get", "take", "turn" and "go"
- 第5回 Things you do every day
- 第6回 Review of the words and expressions
- 第7回 Public speaking and presentations
- 第8回 Presentations: describing yourself
- 第9回 Everyday verbs: "get"
- 第10回 Everyday verbs: "make"
- 第11回 Various expressions including common verbs
- 第12回 Time expressions
- 第13回 Conjunctions and connecting words
- 第14回 Organizational structure of presentations
- 第15回 Presentations: description of your university

**成績評価の方法**

Evaluation will be based on 1. engagement in language activities in classes and classroom tasks (50%) and 2. tests (50%).

**履修にあたっての注意**

Before each lesson you will be required to read an assigned unit and do the exercises in your textbook. Details will be explained in the first class.

**教科書**

Michael McCarthy (著), Felicity O'Dell (著), *English Vocabulary in Use Elementary Edition without answers* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 978-0521136198)

06044

# Academic Communication I

担当教員：工藤 雅之

1 単位 前期

## 授業のねらい

In this course, students will work on the four skills (speaking, listening, reading, writing) necessary for college-level studies. More specifically, they will learn the basics of pronunciation and listening skills, study basic vocabulary and grammar, and work on critical thinking through various engaging tasks and activities designed to facilitate their learning.

大学レベルの学術的なコミュニケーションに必要な4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の基礎力を総合的に養成する。Academic Communication I では、発音・リスニングの基礎、コミュニケーションのための基本的語彙・文法項目の習熟、キャンパス等のアカデミックなシーンで必要となるコミュニケーションの基礎スキル、大学での学びにおいて大きな意味を持つクリティカル・シンキングの基本などを扱う。

## 到達目標

- speak intelligibly about familiar topics
  - understand short talks and lectures given in simple language
  - understand main ideas in basic readings as well as basic structures of academic texts
  - understand the basics of paragraph writing and write short reports
  - think critically about issues that are of interest to them
- 学期終了までに、以下のスキル・能力の獲得を目指します。
- 知っているトピックについて、他者に伝わるように話すことが出来る
  - 複雑ではない短いトークや講義を理解することが出来る
  - 基本的な内容のリーディングの主旨を把握したり、学術的な文章の基本構造について理解出来る
  - パラグラフ・ライティングの基本を理解し、短いレポートを書くことが出来る
  - 興味のある問題について批判的に思考できる

## 授業方法

Students will engage in various pair/group/classwide activities as well as tasks focused on particular areas, such as pronunciation and vocabulary. Authentic materials will be provided wherever possible to help students think about the issues at hand in real-world contexts.

- ペア、グループ、全体での様々なアクティビティを行い、同時に発音や語彙などの特定の分野についてのタスクをこなします。可能な限り学習者用に加工されたものではないオーセンティックな教材を使い、実社会の文脈で諸問題を現実的に考えることが出来る工夫をします。
- 事前課題としてトピックについての主に英語でのリサーチ (少なくとも1時間程度) をして授業に望み、クラスでのディスカッションを経て、事後課題として感想を簡単な英文 (1~3パラグラフ) で提出してもらいます。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Growing up (1) - About your family
- 第3回 Growing up (2) - Kinship and the family tree
- 第4回 Growing up (3) - School and our society
- 第5回 Growing up (4) - School and our society -- School life 1
- 第6回 Growing up (5) - School and our society -- School life 2
- 第7回 Small group presentations on the topics of "growing up" part 1
- 第8回 Small group presentations on the topics of "growing up" part 2
- 第9回 Finding your identity (1) - Who are you?

- 第10回 Finding your identity (2) - You like it or not?
- 第11回 Finding your identity (3) - School
- 第12回 Finding your identity (4) - Friends
- 第13回 Small group presentations FWU (1)
- 第14回 Small group presentations FWU (2)
- 第15回 Small group presentations FWU (3)

## 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度 (20%)、小課題・クイズ (30%)、プレゼンテーション (30%)、期末課題 (20%)

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリント等を配布します。

06051

## Academic Communication II

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 後期

### 授業のねらい

This is the second semester of Academic Communication, a course which aims to improve speaking, reading, listening and writing skills – all necessary to communication. Again, this is a basic skills class which rather than repeating what was learned in high school this course will focus on using it in real conversation.

The ultimate goal is to improve English by using it.

### 到達目標

In past years, students studying with me have finished the course with more confidence to hold a conversation, the type of conversation one might have overseas in an English-speaking country. Students are noticeably able to speak more smoothly and think on their feet in English.

### 授業方法

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Form their own opinions and write essays. (I will check the essays weekly and offer advice on how to improve writing and how to craft a strong essay overall.)
3. If the writing practice is done properly, students are prepared to speak in class with classmates – all in English. Again, the ultimate goal is to improve English by using it.

### 授業計画

- 第1回 Orientation / Topic 1: Politics & political apathy -- "Why vote?"
- 第2回 Politics & political apathy -- "Why vote?" (part 2)
- 第3回 Topic 2: The Internet & technology and communication
- 第4回 Review and test practice
- 第5回 1st Speaking and Writing Test
- 第6回 Topic 3: The Death Penalty (part 1)
- 第7回 The Death Penalty (part 2)
- 第8回 Topic 4: Animal Rights
- 第9回 Review, speaking test practice
- 第10回 2nd Speaking and Writing Test
- 第11回 Topic 5: Taxes
- 第12回 Topic 6: Globalization and Trade (Free trade, TTP, etc.)
- 第13回 Topic 7: (To Be Announced)
- 第14回 Final speaking review
- 第15回 3rd Speaking Test and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express ones own ideas in class discussions.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

\*\*Most of the speaking practice is done in-class. There are no

notes you can copy from classmates. Therefore, attendance is vital to improving English and doing well in the class.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no textbook for this course. The instructor will provide all materials.

06052

## Academic Communication II

担当教員：平田 洋子

1単位 後期

### 授業のねらい

The aim of this course is to develop your verbal communication skills through fluency-based activities and maximize the use of your own learning strategies to achieve their own goals. Without relying on translating English to your native language this course will help you acquire the basic knowledge of lexical and grammatical phrases used in everyday life. However, the instructor will not draw attention to your every single error or mistake because it is important for you to make an effort to speak as much as possible, potentially at the expense of accuracy. Therefore, perfect memorization of words and phrases is of secondary importance. Since teaching verbal communication skills will be the core instruction, the instructor will teach English exclusively in English.

### 到達目標

1. You will improve your verbal communication skills enabling you to more confidently express your thoughts and feelings in English. You will also build upon your lexical knowledge (e. g. collocations and fixed expressions) and practice it in various conversational situations. Furthermore you will be encouraged to raise linguistic and cultural awareness by comparing and contrasting the language and social behaviors in Japan with those in English speaking countries.
2. You will be required to give several solo presentations in order to demonstrate your progress and ability to use what you have learned. Through these presentations you will also gain strong confidence in speaking English in front of other students.

### 授業方法

You will be required to read your textbook and materials and do your homework in advance. It will take approximately two or three hours for you to complete them. Since the purpose of this course is to encourage you to communicate in English fluently you will also be required in each lesson to ask and answer questions in English about personal topics using basic phrases and familiar expressions. Furthermore throughout the course you will be required to give solo presentations using the phrases and expressions you have learned. You will understand specific features of spoken English through various types of practice and tasks. The instructor will collect your comments and opinions on various aspects of your learning activities through discussions.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class  
Brief assessment reviewing Course I English
- 第2回 Giving and asking for directions: in the town
- 第3回 Places: useful words and expressions
- 第4回 Everyday verbs: important uses of "come"
- 第5回 Review of the words and expressions
- 第6回 Public speaking and presentations
- 第7回 Brainstorming session
- 第8回 Presentations: explaining important/interesting places
- 第9回 Similar or related meanings
- 第10回 Travelling and leisure activities
- 第11回 Everyday verbs: important uses of "go"
- 第12回 Adjectives and adverbs describing manner
- 第13回 Social issues: English at work
- 第14回 Organizational structure of presentations
- 第15回 Presentations: arranging travel itineraries

### 成績評価の方法

Evaluation will be based on 1. classroom participation and tasks (50%) and 2. tests (50%).

### 履修にあたっての注意

Before each lesson you will be required to read an assigned unit and do the exercises in your textbook. Details will be explained in the first class.

### 教科書

Michael McCarthy (著), Felicity O'Dell (著), *English Vocabulary in Use Elementary Edition without answers* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 978-0521136198)

06053

## Academic Communication II

担当教員：平田 洋子

1 単位 後期

### 授業のねらい

The aim of this course is to develop your verbal communication skills through fluency-based activities and maximize the use of your own learning strategies to achieve their own goals. Without relying on translating English to your native language this course will help you acquire the basic knowledge of lexical and grammatical phrases used in everyday life. However, the instructor will not draw attention to your every single error or mistake because it is important for you to make an effort to speak as much as possible, potentially at the expense of accuracy. Therefore, perfect memorization of words and phrases is of secondary importance. Since teaching verbal communication skills will be the core instruction, the instructor will teach English exclusively in English.

### 到達目標

1. You will improve your verbal communication skills enabling you to more confidently express your thoughts and feelings in English. You will also build upon your lexical knowledge (e. g. collocations and fixed expressions) and practice it in various conversational situations. Furthermore you will be encouraged to raise linguistic and cultural awareness by comparing and contrasting the language and social behaviors in Japan with those in English speaking countries.
2. You will be required to give several solo presentations in order to demonstrate your progress and ability to use what you have learned. Through these presentations you will also gain strong confidence in speaking English in front of other students.

### 授業方法

You will be required to read your textbook and materials and do your homework in advance. It will take approximately two or three hours for you to complete them. Since the purpose of this course is to encourage you to communicate in English fluently you will also be required in each lesson to ask and answer questions in English about personal topics using basic phrases and familiar expressions. Furthermore throughout the course you will be required to give solo presentations using the phrases and expressions you have learned. You will understand specific features of spoken English through various types of practice and tasks. The instructor will collect your comments and opinions on various aspects of your learning activities through discussions.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class  
Brief assessment reviewing Course I English
- 第2回 Giving and asking for directions: in the town
- 第3回 Places: useful words and expressions
- 第4回 Everyday verbs: important uses of "come"
- 第5回 Review of the words and expressions
- 第6回 Public speaking and presentations
- 第7回 Brainstorming session
- 第8回 Presentations: explaining important/interesting places
- 第9回 Similar or related meanings
- 第10回 Travelling and leisure activities
- 第11回 Everyday verbs: important uses of "go"
- 第12回 Adjectives and adverbs describing manner
- 第13回 Social issues: English at work
- 第14回 Organizational structure of presentations
- 第15回 Presentations: arranging travel itineraries

### 成績評価の方法

Evaluation will be based on 1. classroom participation and tasks (50%) and 2. tests (50%).

### 履修にあたっての注意

Before each lesson you will be required to read an assigned unit and do the exercises in your textbook. Details will be explained in the first class.

### 教科書

Michael McCarthy (著), Felicity O'Dell (著), *English Vocabulary in Use Elementary Edition without answers* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 978-0521136198)



06054

## Academic Communication II

担当教員：工藤 雅之

1単位 後期

### 授業のねらい

In this course, students will work on the four skills (speaking, listening, reading, writing) necessary for college-level studies. Academic Communication II is intended to be theme-based, and it aims to expose students to authentic materials. This course will be structured to promote project-based learning.

大学レベルの学術的なコミュニケーションに必要な4技能 (Speaking, Listening, Reading, Writing) の基礎力を総合的に養成する。Academic Communication II では、特定のテーマにもとづいて (theme-based)、オーセンティックな素材 (authentic materials: 学習者用に作られた人工的な教材ではなく、実際に社会で発表・活用されている素材) を多用しながら、グループで協力してリサーチしたり、調べた内容をポスターやプレゼンテーションにして発表したり、その結果を簡単なレポートにまとめたりといったプロジェクト型学習 (project-based learning) を目指す。

### 到達目標

- At the end of the term, students should be able to:
- do basic research about academic topics
  - discuss important topics in simple language
  - give effective presentations based on their research
  - write short reports in line with basic academic conventions
  - analyze issues and situations critically to help find solutions to problems
- 学期終了までに、以下のスキル・能力の獲得を目指します。
- 学術的なトピックについて基本的なリサーチをすることが出来る
  - 重要なトピックについて簡単な言葉を使って議論することが出来る
  - リサーチに基づいて効果的なプレゼンテーションを行うことが出来る
  - 基本的な学術論文の決まりに則って短いレポートを書くことが出来る
  - 問題への解決策を見出すために、様々な課題や状況について批判的に分析することが出来る

### 授業方法

Students will be given ample opportunities to engage in pair/group/classwide activities and give presentations on what they have researched about. Most activities and tasks will be student-centered, so active participation is required of each student.

- ペア、グループ、全体での様々なアクティビティを行ったり、調べたことに関するプレゼンテーションをしたりする機会をふんだんに設ける。ほとんどが学生中心 (student-centered) のアクティビティやタスクであるため、ひとりひとりの積極的な参加が求められる。
- 事前課題としてトピックについての主に英語でのリサーチ (少なくとも1時間程度) をして授業に望み、クラスでのディスカッションを経て、事後課題として感想を簡単な英文 (1~3パラグラフ) で提出してもらいます。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Intercultural communication (1) Cultures
- 第3回 Intercultural communication (2) Japanese Culture Part 1
- 第4回 Intercultural communication (3) Japanese Culture Part 2
- 第5回 Intercultural communication (4) Various cultures & religions Part 1
- 第6回 Intercultural communication (5) Various cultures & religions Part 2

- 第7回 Small group presentations on intercultural communication (1)
- 第8回 Small group presentations on intercultural communication (2)
- 第9回 Pursuit of happiness (1) Happiness
- 第10回 Pursuit of happiness (2) Work / Life balance Part 1
- 第11回 Pursuit of happiness (2) Work / Life balance Part 2
- 第12回 Pursuit of happiness (4) Economical freedom and happiness Part 1
- 第13回 Pursuit of happiness (4) Economical freedom and happiness Part 2
- 第14回 Small group presentations on happiness (1)
- 第15回 Small group presentations on happiness (2) / Final review

### 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度 (20%)、小課題・クイズ (30%)、プレゼンテーション (30%)、期末課題 (20%)

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリント等を配布します。

06061

## Essential Vocabulary & Grammar

担当教員：工藤 雅之

1単位 前期

### 授業のねらい

中学・高校で習った文法を復習する授業です。基礎の復習の授業ですので、中級レベルの方は、受講をお控え下さい。

「英語が使える」とは、単に英語をペラペラしゃべることだけではありません。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランス良く身につけることで、「英語が使って役に立つ」と言えます。この4技能は繰り返し練習することで身につきます。練習を繰り返すことで英語力は向上します。

英語力を確実につけるには、「文法」をきちんと把握しておくことが必要です。また、音読・シャドーイングを習慣化するまで練習することが重要です。さらに、訳読ではなく直読で英文を読めるようにすることが必要です。

### 到達目標

英語の基礎的な語彙力と文法力を確実に習得するのが目標です。

中学・高校で学習した文法に自信を取り戻すための練習をします。しっかりした文法体系を身につけることで、「英語が使える」という意識を持てるようになることを目指します。

### 授業方法

講義形式+アクティブラーニングの形式を取るため、受講者の主体的な参加が必要です。各自が講義前に講義内容について情報収集(予習)を能動的に行っていることを前提に講義を展開します。また主体的な学習を促進するためにディスカッションを行いそれぞれのまなびを共有します。従って、クラスメートとのコミュニケーションを十分に深めることを期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 英語の文法について
- 第2回 品詞 名詞と形容詞
- 第3回 品詞 動詞と副詞
- 第4回 主語動詞/時制  
S+V+O
- 第5回 助動詞  
S+V+C
- 第6回 冠詞/代名詞/形容詞  
S+V+O+O
- 第7回 不定詞/原型不定詞  
S+V+O+C
- 第8回 現在分詞/過去分詞接/続詞  
省略/挿入/倒置/反語  
S+V
- 第9回 that節/関係詞節
- 第10回 疑問詞節
- 第11回 比較/受動態
- 第12回 仮定法/時制の一致
- 第13回 英作文実践
- 第14回 英作文実践
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度(30%)、小課題・クイズ(30%)、小グループディスカッション(20%)、期末課題(20%)

### 履修にあたっての注意

講義主体で行いますが、受講生には主体的な参加態度を求めます。自ら講義に参加する態度を期待します。

### 教科書

なし

06062

## Essential Vocabulary & Grammar

担当教員：工藤 雅之

1単位 後期

### 授業のねらい

中学・高校で習った文法を復習する授業です。

「英語が使える」とは、単に英語をペラペラしゃべることだけではありません。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能をバランス良く身につけることで、「英語が使って役に立つ」と言えます。この4技能は繰り返し練習することで身につきます。練習を繰り返すことで英語力は必ず向上します。

英語力を確実につけるには、「文法」をきちんと把握しておくことが必要です。また、音読・シャドーイングを習慣化するまで練習することが重要です。さらに、訳読ではなく直読で英文を読めるようにすることが必要です。

### 到達目標

英語の基礎的な語彙力と文法力を確実に習得するのが目標です。

中学・高校で学習した文法に自信を取り戻すための練習をします。しっかりした文法体系を身につけることで、「英語が使える」という意識を持てるようになることを目指します。

### 授業方法

講義形式+アクティブラーニングの形式を取るため、受講者の主体的な参加が必要です。各自が講義前に講義内容について情報収集(予習)を能動的に行っていることを前提に講義を展開します。また主体的な学習を促進するためにディスカッションを行いそれぞれのまなびを共有します。従って、クラスメートとのコミュニケーションを十分に深めることを期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 英語の文法について
- 第2回 品詞 名詞と形容詞
- 第3回 品詞 動詞と副詞
- 第4回 主語動詞/時制  
S+V+O
- 第5回 助動詞  
S+V+C
- 第6回 冠詞/代名詞/形容詞  
S+V+O+O
- 第7回 不定詞/原型不定詞  
S+V+O+C
- 第8回 現在分詞/過去分詞接/続詞  
省略/挿入/倒置/反語  
S+V
- 第9回 that節/関係詞節
- 第10回 疑問詞節
- 第11回 比較/受動態
- 第12回 仮定法/時制の一致
- 第13回 英作文実践
- 第14回 英作文実践
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度(30%)、小課題・クイズ(30%)、小グループディスカッション(20%)、期末課題(20%)

### 履修にあたっての注意

講義主体で行いますが、受講生には主体的な参加態度を求めます。自ら講義に参加する態度を期待します。

### 教科書

なし

06141

## Interactive English A

担当教員：Martin Joseph Murphy

1 単位 前期

### 授業のねらい

The main goal of this course is to improve discussion skills. Language is for communication, and where English education in Japan focuses on passing tests, this class aims to heighten motivation for language learning by using it for communicative purpose.

### 到達目標

Using the knowledge gained in junior and senior high school, students studying in this class set up have finished the course with more confidence to hold a conversation, the type of conversation one might have in the world outside Japan or when encountering foreigners who bring the world to Japan.

Students are noticeably able to speak more smoothly and think on their feet in English.

### 授業方法

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Form their own opinions and write essays. (I will check the essays weekly and offer advice on how to improve writing and how to craft a strong essay overall.)
3. If the writing practice is done properly, students are prepared to speak in class with classmates - all in English. The ultimate goal is to improve English by using it.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction
- 第2回 Topic 1: Smartphone addiction
- 第3回 Topic 2: Video & online games
- 第4回 Topic 3: Social networks and fake news
- 第5回 Review, speaking test practice
- 第6回 1st Speaking and Writing Test
- 第7回 Topic 4: Education problems
- 第8回 Topic 5: Why study the humanities?
- 第9回 Topic 6: Are Tests fair?
- 第10回 Review, speaking test practice
- 第11回 2nd Speaking and Writing Test
- 第12回 Topic 7: Free time and travel
- 第13回 Topic 8: [To be announced]
- 第14回 Final speaking review
- 第15回 3rd Speaking Test and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express one's own ideas in class discussions.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

\*\*Most of the speaking practice is done in-class. There are no notes you can copy from classmates. Therefore, attendance is vital to improving English and doing well in the class.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no textbook for this class. All materials will be provided by the instructor.

**授業のねらい**

The purpose of this course is to provide extensive practice in interactive communication in the medium of the English language.

**到達目標**

The aim is to augment students' conversational and communicative skills and their powers of expression, and to provide them with the tools which will enable them to discuss topics of interest, and to interact confidently and effectively with one another in English across a range of topics.

**授業方法**

The weekly classes will consist of activities designed to nurture the confidence and ability of students to interact and communicate with one another in a variety of contexts. Listening carefully to others and reacting to what they say will be very important in this class. Students will be encouraged to openly express their thoughts and opinions across a range of topics. Pair work, and especially group discussions, will be used extensively in order to promote this. Most of the topics for discussion will be decided by the students themselves in consultation with the instructor. From time to time, students will also be called upon to summarize their group discussions. There will also be class presentations based on topics similar to those used in the discussions. Activities designed to build vocabulary and expression will also feature in this course.

**授業計画**

- 第1回 Introductions
- 第2回 Warm-up activities and ice-breakers
- 第3回 Words that go together; social expressions; asking for and exchanging information; pair work
- 第4回 Talking about your hobbies and interests; talking about your friends; pair work and group work
- 第5回 Describing things; exchanging information; checking facts and asking for details;
- 第6回 The purpose of group discussions; thinking of possible topics for discussion
- 第7回 Development and practice of discussion ideas
- 第8回 In-depth group discussions
- 第9回 Feedback on discussions; vocabulary building; how to give a basic presentation
- 第10回 Developing and practicing presentations
- 第11回 Presentations
- 第12回 Feedback on presentations; questions and answers; vocabulary building
- 第13回 Values; society and the world; developing more discussion topics
- 第14回 Revision of conversational strategies and techniques; discussion practice
- 第15回 Short discussions; preparation for exam

**成績評価の方法**

Evaluation will be based on participation (40%), speaking tests (30%), presentations (20%), and other in-class assignments (10%).

**履修にあたっての注意**

Students are strongly recommended to prepare for classes and to review the contents of classes in their own time. Especially, conscientious effort in preparing ideas to be used in discussions is essential. In classes, a willingness to positively interact with other students is of vital importance.

**教科書**

N/A

06143

## Interactive English A

担当教員：Harry E Creagen

1 単位 前期

### 授業のねらい

・ English Communication / Media Studies

This is a course in communicative English. It is student-centered and taught in English. Media studies will be the framework for the language study, and projects will form the main theme of the class. All communication skills; speaking, listening, reading, writing, gesturing and seeing, will be important.

### 到達目標

The students will learn to function in an all-English, western culture classroom.

The students will participate in projects generated from their own ideas and interests.

The students will improve their analytical skills.

The students will raise their awareness of media and the impact of media on their lives.

The students will improve their creative, discussion, negotiation and decision making skills.

The students will learn to learn on their own, gradually assuming more responsibility for their own learning.

The students will experience a class which is about themselves, not the teacher or a textbook.

### 授業方法

This class will be taught by a student centred instructional methodology.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to the class. Being polite. Class atmosphere.
- 第2回 Defining media
- 第3回 How to analyze media
- 第4回 Student / Teacher generated Media Project # 1(1)
- 第5回 Student / Teacher generated Media Project # 1(2)
- 第6回 Student / Teacher generated Media Project # 1(3)
- 第7回 Student / Teacher generated Media Project # 2(1)
- 第8回 Student / Teacher generated Media Project # 2(2)
- 第9回 Student / Teacher generated Media Project # 2(3)
- 第10回 Student / Teacher generated Media Project # 2(4)
- 第11回 Student / Teacher generated Media Project # 3(1)
- 第12回 Student / Teacher generated Media Project # 3(2)
- 第13回 Student / Teacher generated Media Project # 3(3)
- 第14回 Student / Teacher generated Media Project # 3(4)
- 第15回 Student Evaluation

### 成績評価の方法

Objective Evaluation: Homework, Assignments, Projects, Reports, Presentations and any other work: 50%

Subjective Evaluation: Attitude, Participation: 50%

It is important for students to attend and do the work.

### 履修にあたっての注意

This may be the first time for many students to experience this type of student-centered class, so it is natural to be nervous, but they should learn to relax and try their best.

Students can learn skills transferable to other aspects of their lives.

Students of any level are welcome.

Bring a positive attitude to class.

Remember that mistakes are an expected part of the language learning process.

### 教科書・参考書に関する備考

Reference material will be provided, as needed, by the instructor and through the library.

### 参考ホームページ

REFERENCE HOMEPAGE FOR CLASS: Face-to-face communication during class time is a priority.

06151

## Interactive English B

担当教員：Martin Joseph Murphy

1 単位 後期

### 授業のねらい

The same as the first semester Interactive English A, the main goal of this course is to improve discussion skills. Language is for communication, and where English education in Japan focuses on passing tests, this class aims to heighten motivation for language learning by using it for communicative purpose.

### 到達目標

Using the knowledge gained in junior and senior high school, students studying in this class set up have finished the course with more confidence to hold a conversation, the type of conversation one might have in the world outside Japan or when encountering foreigners who bring the world to Japan. Students are noticeably able to speak more smoothly and think on their feet in English.

### 授業方法

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Form their own opinions and write essays. (I will check the essays weekly and offer advice on how to improve writing and how to craft a strong essay overall.)
3. If the writing practice is done properly, students are prepared to speak in class with classmates - all in English. The ultimate goal is to improve English by using it.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; Topic 1: "UFOs and Little Green Men -- what is real?"
- 第2回 Topic 1 (part 2): What is real or fake?
- 第3回 Topic 2: "Love and money"
- 第4回 Topic 3: Gender problems
- 第5回 Review, speaking test practice
- 第6回 1st Speaking and Writing Test
- 第7回 Topic 4: Energy problems
- 第8回 Topic 5: Shopping and Consumption
- 第9回 Review, speaking test practice
- 第10回 2nd Speaking and Writing Test
- 第11回 Topic 6: The Group and the individual
- 第12回 Topic 7: The convenience trap
- 第13回 Topic 8: [To be announced]
- 第14回 Final speaking review
- 第15回 3rd Speaking Test and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express one's own ideas in class discussions.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

\*\*Most of the speaking practice is done in-class. There are no notes you can copy from classmates. Therefore, attendance is

vital to improving English and doing well in the class.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no textbook for this class. All materials will be provided by the instructor.



06152

## Interactive English B

担当教員：P. Reemst

1単位 後期

### 授業のねらい

The purpose of this course is to provide extensive practice in interactive communication in the medium of the English language.

### 到達目標

The aim is to augment students' conversational and communicative skills and their powers of expression, and to provide them with the tools which will enable them to discuss topics of interest, and to interact confidently and effectively with one another in English across a range of topics.

### 授業方法

The weekly classes will consist of activities designed to nurture the confidence and ability of students to interact and communicate with one another in a variety of contexts. Listening carefully to others and reacting to what they say will be very important in this class. Students will be encouraged to openly express their thoughts and opinions across a range of topics. Group discussions will be used extensively in order to promote this. Most of the topics for discussion will be decided by the students themselves in consultation with the instructor. From time to time, students will also be called upon to summarize their group discussions. There will also be class presentations based on topics similar to those used in the discussions. Activities designed to build vocabulary and expression will also feature in this course.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to new semester; group activity – sharing and comparing recent news stories of interest
- 第2回 Thinking deeply about recent news stories in the media: What are our reactions to the news? What are the implications for us and our society? How can we discuss and present the news in an effective way?
- 第3回 Preparation and practice of presentations based on recent topical news stories
- 第4回 Presentations of the news
- 第5回 Presentation feedback; enlivening our descriptive powers with adjectives and adverbs, and similes and metaphors
- 第6回 Pair work; selecting new discussion topics
- 第7回 Preparation and practice of discussion topics
- 第8回 In-depth group discussions based on themes selected by students
- 第9回 Feedback; vocabulary building; describing feelings;
- 第10回 Talking about your experiences; talking about your hopes for the future; short discussion
- 第11回 Vocabulary building; how to do team presentations; new presentation topics;
- 第12回 Development and practice of presentations
- 第13回 Team presentations
- 第14回 Feedback; recapping of rhetorical strategies; discussion ideas arising out of presentations
- 第15回 Short discussions; preparation for exam

### 成績評価の方法

Evaluation will be based on participation (40%), speaking tests (30%), presentations (20%), and other in-class assignments (10%).

### 履修にあたっての注意

Students are strongly recommended to prepare for classes and

to review the contents of classes in their own time. Especially, conscientious effort in preparing ideas to be used in discussions is essential. In classes, a willingness to positively interact with other students is of vital importance.

### 教科書

N/A

06153

## Interactive English B

担当教員：Harry E Creagen

1 単位 後期

### 授業のねらい

English Communication / Media Studies

This is a course in communicative English. It is student-centered and taught in English. Media studies will be the framework for the language study, and projects will form the main theme of the class. All communication skills; speaking, listening, reading, writing, gesturing and seeing, will be important.

### 到達目標

The students will learn to function in an all-English, western culture classroom.

The students will participate in projects generated from their own ideas and interests.

The students will improve their analytical skills.

The students will raise their awareness of media and the impact of media on their lives.

The students will improve their creative, discussion, negotiation and decision making skills.

The students will learn to learn on their own, gradually assuming more responsibility for their own learning.

The students will experience a class which is about themselves, not the teacher or a textbook.

### 授業方法

This class will be taught by a student centred instructional methodology.

### 授業計画

- 第1回 Re-Introduction to the class. Being polite. Class atmosphere.
- 第2回 Student / Teacher generated Media Project # 4-1
- 第3回 Student / Teacher generated Media Project # 4-2
- 第4回 Student / Teacher generated Media Project # 4-3
- 第5回 Student / Teacher generated Media Project # 4-4
- 第6回 Student / Teacher generated Media Project # 5-1
- 第7回 Student / Teacher generated Media Project # 5-2
- 第8回 Student / Teacher generated Media Project # 5-3
- 第9回 Student / Teacher generated Media Project # 5-4
- 第10回 Student / Teacher generated Media Project # 6-1
- 第11回 Student / Teacher generated Media Project # 6-2)
- 第12回 Student / Teacher generated Media Project # 6-3
- 第13回 Student / Teacher generated Media Project # 6-4
- 第14回 Review
- 第15回 Student Evaluation

### 成績評価の方法

Objective Evaluation: Homework, Assignments, Projects, Reports, Presentations and any other work: 50%

Subjective Evaluation: Attitude, Participation: 50%

It is important for students to attend and do the work.

### 履修にあたっての注意

This may be the first time for many students to experience this type of student-centered class, so it is natural to be nervous, but they should learn to relax and try their best.

This is a continuation of Interactive English C.

- ・ Students can learn skills transferable to other aspects of their lives.
- ・ Students of any level are welcome.
- ・ Bring a positive attitude to class.
- ・ Remember that mistakes are an expected part of the language learning process.

### 教科書・参考書に関する備考

Reference material will be provided, as needed, by the instructor and through the library.

### 参考ホームページ

REFERENCE HOMEPAGE FOR CLASS: Face-to-face communication during class time is a priority.

06181

## Academic Reading I

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 前期

### 授業のねらい

The main goal of the class is to further develop reading skills and strategies for navigating academic texts. The course seeks to boost vocabulary and understand words in context.

### 到達目標

By the end of the course students will have become familiar with academic texts and will have learned how to identify main ideas and the writers' conclusions. Students will sharpen their scanning skills - the ability to quickly find important information and to understand the overall meaning of a text or article. In addition, they will learn how to summarize such findings in their own words.

### 授業方法

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Study key vocabulary.
3. Think critically about what is written.

The ultimate goal is to improve English by not just solitary study, but by cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction
- 第2回 Reading 1
- 第3回 Reading 2
- 第4回 Reading 3
- 第5回 Reading 4
- 第6回 Reading 5
- 第7回 Preliminary test 1
- 第8回 Reading 6
- 第9回 Reading 7
- 第10回 Reading 8
- 第11回 Preliminary test 2
- 第12回 Reading 9
- 第13回 Reading 10
- 第14回 Reading 11
- 第15回 Final Test and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

### 履修にあたっての注意

\*There is no textbook for this course. The instructor will select authentic readings suitable to the level of the students.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

The instructor will provide articles and book excerpts for the class.

## 授業のねらい

総合的な英語運用能力の向上を目指し、学術的な英文読解力の養成と語彙・文法知識の習得に重点を置く。さらに、学術的プレゼンテーションの視聴（及びそれに基づく学術的な英文購読）を通し、自らそれぞれの題材に関する自分の考えをまとめ、クラス内でのディスカッション、さらにはライティングでの相互評価を通して、リーディングのみならずその他の技能（リスニング、スピーキング、ライティング）を含む総合的な運用能力の養成を目的とする。

## 到達目標

- (1) 英語で書かれた文章を読み、英文レベルに応じて要旨や細部を理解できる。
- (2) コロケーションを含む語彙力を向上させるとともに、文法に関わる理解を深める。
- (3) パラグラフの構成や文章をつなぐ言葉を理解し、理解したことに基づいて自分の意見を伝える（書く）ことができる。
- (4) 英文読解を基盤とする言語活動を通して、他技能の運用能力も身につける。
- (5) プレゼンテーションを通して、スピーキング力をつける。

## 授業方法

教科書・プリントの英文読解をはじめとして、それぞれの題材に関する自分の考えをまとめ、英語の言葉や文章にして第三者に伝えることを毎回の授業課題とする。これに加えて、「読む」「聞く」「書く」「話す」、英語の4技能向上を目標に、重要英単語・文章の聞き取りや暗唱、応用につながる英語の基本的文体の反復活動も授業活動の一部とする。事前・事後学習は指示された箇所（Pre-Reading, Explore more）の購読、及びそれぞれの内容に基づくライティング活動を行うこと。（所要時間45～90分程度）

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス/授業課題1
- 第2回 Unit 1 (Interdisciplinary) Lesson A/授業課題2
- 第3回 Unit 1 (Interdisciplinary) Lesson B “Try Something New for 30 Days” /授業課題3
- 第4回 Unit 2 (Business/Leadership) Lesson A/授業課題4
- 第5回 Unit 2 (Business/Leadership) Lesson B “Build a Tower, Build a Team” /授業課題5
- 第6回 Unit 3 (Life Science) Lesson A/授業課題6
- 第7回 Unit 3 (Life Science) Lesson B “Underwater Astonishments” /授業課題7
- 第8回 Unit 4 (Sociology/Fashion) Lesson A/授業課題8
- 第9回 Unit 4 (Sociology/Fashion) Lesson B “Wearing Nothing New” /授業課題9
- 第10回 Unit 5 (Psychology/History) Lesson A/授業課題10
- 第11回 Unit 5 (Psychology/History) Lesson B “One Second Every Day” /授業課題11
- 第12回 プレゼンテーション準備/授業課題12
- 第13回 プレゼンテーション発表(1)/授業課題13
- 第14回 プレゼンテーション発表(2)/授業課題14
- 第15回 到達度チェック

## 成績評価の方法

- (1) 授業活動（40%）、課題（30%）、到達度チェック（30%）の合計が60%以上を可（合格）とする。  
（各項目・総合点ともに60%以上で単位認定）
- (2) 到達度チェックは筆記試験（リスニングを含む）とする。
- (3) 4回以上の欠席で到達度チェックの受験資格を失う。
- (4) 授業活動・課題の結果については授業内でコメントする。

## 履修にあたっての注意

- (1) テキストの購読、読解力を深めるとともに、よく使われている単語や文章を、限られた時間の中で一つでも多く覚えること。教科書、プリントを中心に毎回課題に取り組む。プレゼンテーションについては、初回授業内で詳しく説明する。  
（尚、授業の進捗状況によっては、各週該当チャプターが前後することがあります。）
- (2) 初回授業に必ず出席すること。

## 教科書

Robin Longshaw 『21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks -レベル1』（CENGAGE Learning、2014、ISBN：1305264592）

06191

## Academic Reading II

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 後期

### 授業のねらい

As in the first semester Academic Reading I, the main goal of the course is to further develop reading skills and strategies for navigating academic texts. The course seeks to boost vocabulary and understand words in context.

### 到達目標

By the end of the course students will have become familiar with academic texts and will have learned how to identify main ideas and the writers' conclusions. Students will sharpen their scanning skills - the ability to quickly find important information and to understand the overall meaning of a text or article. In addition, they will learn how to summarize such findings in their own words.

### 授業方法

Except for test and review lessons, every week the instructor will expect students to:

1. Read articles in English.
2. Study key vocabulary.
3. Think critically about what is written.

The ultimate goal is to improve English by not just solitary study, but by cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction
- 第2回 Reading 1
- 第3回 Reading 2
- 第4回 Reading 3
- 第5回 Reading 4
- 第6回 Reading 5
- 第7回 Preliminary test 1
- 第8回 Reading 6
- 第9回 Reading 7
- 第10回 Reading 8
- 第11回 Preliminary test 2
- 第12回 Reading 9
- 第13回 Reading 10
- 第14回 Reading 11
- 第15回 Final Test and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

### 履修にあたっての注意

\*There is no textbook for this course. The instructor will select authentic readings suitable to the level of the students.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

The instructor will provide articles and book excerpts for the class.

## 授業のねらい

総合的な英語運用能力の向上を目指し、学術的な英文読解力の養成と語彙・文法知識の習得に重点を置く。さらに、学術的プレゼンテーションの視聴（及びそれに基づく学術的な英文購読）を通し、自らそれぞれの題材に関する自分の考えをまとめ、クラス内でのディスカッション、さらにはライティングでの相互評価を通して、4技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）の総合的な養成を目的とする。

## 到達目標

- (1) 英語で書かれた学術書を読み、英文レベルに応じて要旨や細部を理解できる。
- (2) コロケーションを含む語彙力を向上させるとともに、文法に関わる理解を深める。
- (3) パラグラフの構成や文章をつなぐ言葉を理解し、理解したことに基づいて自分の意見を伝える（書く）ことができる。
- (4) 英文読解を基盤とする言語活動を通して、他技能の運用能力も身につける。
- (5) プレゼンテーションを通して、スピーキング力をつける。

## 授業方法

教科書・プリントの英文読解をはじめとして、それぞれの題材に関する自分の考えをまとめ、英語の言葉や文章にして第三者に伝えることを毎回の授業課題とする。これに加えて、「読む」「聞く」「書く」「話す」、英語の4技能向上を目標に、重要英単語・文章の聞き取りや暗唱、応用につながる英語の基本的文体の反復活動も授業活動の一部とする。事前・事後学習は指示された箇所（Pre-Reading, Explore more）の購読、及びそれぞれの内容に基づくライティング活動を行うこと。（所要時間45～90分程度）

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス/授業課題1
- 第2回 Unit 6 (Architecture) Lesson A/授業課題2
- 第3回 Unit 6 (Architecture) Lesson B “Ingenious Homes in Unexpected Places” /授業課題3
- 第4回 Unit 7 (Communication/Sociology) Lesson A/授業課題4
- 第5回 Unit 7 (Communication/Sociology) Lesson B “Why Videos Go Viral” /授業課題5
- 第6回 Unit 8 (Conservation/Engineering) Lesson A/授業課題6
- 第7回 Unit 8 (Conservation/Engineering) Lesson B “My Invention that Made Peace with Lions” /授業課題7
- 第8回 Unit 9 (Visual Arts/Sociology) Lesson A/授業課題8
- 第9回 Unit 9 (Visual Arts/Sociology) Lesson B “Before I Die, I Want To...” /授業課題9
- 第10回 Unit 10 (Technology/Robotics) Lesson A/授業課題10
- 第11回 Unit 10 (Technology/Robotics) Lesson B “The Rise of Personal Robots” /授業課題11
- 第12回 プレゼンテーション準備/授業課題12
- 第13回 プレゼンテーション発表(1)/授業課題13
- 第14回 プレゼンテーション発表(2)/授業課題14
- 第15回 到達度チェック

## 成績評価の方法

- (1) 授業活動（40%）、課題（30%）、到達度チェック（30%）の合計が60%以上を可（合格）とする。  
（各項目・総合点ともに60%以上で単位認定）
- (2) 到達度チェックは筆記試験（リスニングを含む）とする。
- (3) 4回以上の欠席で到達度チェックの受験資格を失う。
- (4) 授業活動・課題の結果については授業内でコメントする。

## 履修にあたっての注意

- (1) テキストの購読、読解力を深めるとともに、よく使われている単語や文章を、限られた時間の中で一つでも多く覚えること。教科書、プリントを中心に毎回課題に取り組む。プレゼンテーションについては、初回授業内で詳しく説明する。  
（尚、授業の進捗状況によっては、各週該当チャプターが前後することがあります。）
- (2) 初回授業に必ず出席すること。

## 教科書

Robin Longshaw 『21st Century Reading Creative Thinking and Reading with TED Talks -レベル1』（CENGAGE Learning、2014、ISBN：1305264592）



06211

## Academic Speaking & Discussion

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 後期

### 授業のねらい

In seminar classes, future workplaces and even a PTA meeting, effective speech and discussion skill enhances one's confidence and power of persuasion. With that in mind, the main goal of the class is to improve students speaking and discussing skills. Not only will students improve intuitively, but they will study various skills necessary to convince others in a discussion. That is to say, students will be self-aware of the techniques necessary to craft a logical and effective speech.

### 到達目標

Students will learn the art of rhetoric down through the ages from Aristotle of ancient Greece to the great speakers of today. They will apply that knowledge in in-class speech and discussion with classmates.

### 授業方法

In class, the instructor will expect students to:

1. Listen to spoken or written texts in English.
2. Acquire key vocabulary.
3. Think critically and develop their own stance and position.
4. Present their own ideas in presentations and in-class discussion.

The ultimate goal is to improve English not only by listening home alone, but by cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction, and speaking activities
- 第2回 Speech basics; the rhetoricians toolbox
- 第3回 Practice making a political speech.
- 第4回 Basic logic and critical thinking skills; discussion.
- 第5回 In-class conversation activities and discussion 1
- 第6回 In-class conversation activities and discussion 2
- 第7回 In-class conversation activities and discussion 3
- 第8回 Free discussion practice
- 第9回 Practice making a convincing speech.
- 第10回 A convincing speech (part 2)
- 第11回 In-class conversation activities and discussion 4
- 第12回 In-class conversation activities and discussion 5
- 第13回 [To be announced]
- 第14回 Presentations
- 第15回 Final exam and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express one's own ideas in class discussions.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

This class provides another chance to practice English, do not waste your opportunities to practice, practice, practice. Attendance is important.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no textbook, all materials will be provided by the teacher.

06212

## Academic Speaking & Discussion

担当教員：工藤 雅之

1単位 後期

### 授業のねらい

This course is designed to help students become confident and effective speakers in academic situations. The specific focus is on group discussion skills and presentation skills essential for successful communication and meaningful interactions at college.

### 到達目標

At the end of the course, students should have developed skills in the following areas:

- Impromptu speaking: Making utterances without concrete plannings prior to speaking
- Group discussion skills: Learning how to formulate and give an opinion, showing agreement and disagreement, summarizing others' opinions, leading a discussion, reporting on a discussion
- Presentation skills: Choosing a topic, organizing a presentation (introduction, body, conclusion), questioning a speaker, giving feedback to peers, self-reflection and self-assessment
- Strategy use and self-awareness: becoming aware of own use of discussion and presentation strategies

### 授業方法

In each class meeting, students will learn new skills and then actually try them out in discussing familiar and gradually more challenging topics as well as in preparing and giving small group presentations. Students will be given ample opportunities to practice what they have learned in pair and group activities.

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Speaking practice 1 A New Album  
P.R.E.P. for persuasion
- 第3回 Speaking practice 2 Leaving the Company  
Future planning
- 第4回 Speaking practice 3 The Train Ride  
Job hunting
- 第5回 Speaking practice 4 Perfect Recipes  
Diet and nutrition
- 第6回 Speaking practice personal presentation 1  
B.Y.O.T. presentation 1
- 第7回 Speaking practice personal presentation 2  
B.Y.O.T. presentation 2
- 第8回 Critical thinking Part 1  
Small discussion 1
- 第9回 Critical thinking Part 2  
Small discussion 2
- 第10回 Critical thinking Part 3  
Small discussion 3
- 第11回 Preparation for the final work (1)  
Choose your topic
- 第12回 Preparation for the final work (2)  
Personal guidance
- 第13回 Final discussion (1)
- 第14回 Final discussion (2)
- 第15回 Final discussion (3)

### 成績評価の方法

Active class participation (20%), Group discussion reports (30%), Small group presentation (30%), Self-assessment (20%)

### 履修にあたっての注意

Students are expected to come on time, have done the assignments, and be ready to participate in class discussions and presentations.

### 教科書

なし

06201

## Academic Listening & Note-taking

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 前期

### 授業のねらい

The main goal of the class is to help students become efficient listeners and note-takers by providing practice opportunities to use strategies for listening to academic talks and lectures while taking effective notes.

### 到達目標

Students will enhance their listening comprehension and develop listening strategies; they will be able to predict lecture content and organization, recognize cues, understand main points vs. details, and evaluate information.

Also, they will learn note-taking skills through weekly practice. While listening, they will learn how to decide what to take notes on and what to skip. They will learn symbols and abbreviations to save time as well as reorganizing notes for later use.

### 授業方法

In class, the instructor will expect students to:

1. Listen to spoken texts in English.
2. Acquire key vocabulary.
3. Think critically about what is spoken.

The ultimate goal is to improve English by listening home alone, but by cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction, and listening activities
- 第2回 Listening 1
- 第3回 Listening 2
- 第4回 Listening 3
- 第5回 Listening 4
- 第6回 Presentation and listening activity
- 第7回 Listening 5
- 第8回 Listening 6
- 第9回 Listening 7
- 第10回 Listening 8
- 第11回 Presentation and listening activity
- 第12回 Listening 9
- 第13回 Listening 10
- 第14回 Listening 11
- 第15回 Final exam and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 50% Weekly quizzes
- 20% Final test

A+: A high degree of listening ability and note-taking skill. Strong ability to communicate what is heard. An especially strong effort to think critically and express one's own.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English listening skills.

### 履修にあたっての注意

Good attendance is the key to university success, this course is no exception.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no text for this course. The instructor will rely on online speeches and provide transcripts -- students can accustom themselves to free online study . . . and save some money.

## 授業のねらい

この講義は、英語での講義や大学での会話などをリスニングするのに必要な演習を行うことで、受講者が効率的なリスニング能力とノートテイクができるようになることが目的です。充分な意味のあるインプットを受け、リスニング能力を伸張させるようデザインされています。その際に、聴解力をサポートするための音声理論を織り交ぜ、英語音声の特徴を理解します。

## 到達目標

本講義終了までに、以下の修得を目指します。

- リスニング：講義内容、構成、主旨、細かいポイントなどのさまざまな内容を予測しながら、リスニングを行うことができる
- ノートテイク：リスニングをしながら、どのタイミングで何をノートして書き写すか、何を書き残さないかを決め、記号や短縮語などを上手く使って意味の理解できるノートを取ることができる
- 方略の利用と認識：ノートテイクには個別の方略が必要で、自らその方略を認知し、意図して利用することができる

## 授業方法

この講義はリスニング教材を用い、講義+アクティブ・ラーニング形式で行います。リスニング能力とノートテイクのスキルについては、教科書をベースに海外生活にまつわるトピックスを教科書付属のCDや講師の生の発音を聞きながら、バランスよく両方のスキルをユニットに沿って学習します。基本はリスニングですが、受講者がより主体的になれるようノートの取り方や聞き方の方略、そして発信技術にも視点を持ちながら、アクティブに講義を進めます。

## 授業計画

- 第1回 Orientation  
Class rules, contribution and expectations
- 第2回 Unit 1 Going through Immigration and Customs  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第3回 Unit 1 Going through Immigration and Customs  
Comprehension exercises & group activities
- 第4回 Unit 2 Getting around  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第5回 Unit 2 Getting around  
Comprehension exercises & group activities
- 第6回 Unit 5 Mailing  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第7回 Unit 5 Mailing  
Comprehension exercises & group activities
- 第8回 Unit 7 Exchanging money  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第9回 Unit 7 Exchanging money  
Comprehension exercises & group activities
- 第10回 Unit 11 Geography  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第11回 Unit 11 Geography  
Comprehension exercises & group activities
- 第12回 Unit 15 Language and Literature  
Listening experience & Vocabularies and pronunciations
- 第13回 Unit 15 Language and Literature  
Comprehension exercises & group activities
- 第14回 Comprehensive Listening & Speaking activity (1)
- 第15回 Comprehensive Listening & Speaking activity (2)

## 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度 (30%)、小課題・クイズ (30%)、ディスカッション (20%)、期末課題 (20%)

## 履修にあたっての注意

講義形式の授業ではありますが、受け身ではなく、自分の学びに対して責任を持つ姿勢を高く評価します。ただ聞く能力が深まれば良いのではなく、聴く態度も極めて重要です。聴くことに対する姿勢についても参加態度として重要視します。

## 教科書

Atusko Tsuda, *Primary Listening* (金星堂, 2016, ISBN : 978-4-7647-3769-3)

## 授業のねらい

日常生活でのやり取りから大学レベルでのコミュニケーションに至るまで、英語の4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）全ての基盤になるのが語彙力です。聞いたたり読んだりしたときに意味を把握できる「受容語彙 (receptive vocabulary)」だけでなく、自らの考えを話したり書いたりするときに実際に使うことができる「産出語彙 (productive vocabulary)」を増やしていくことが、英語でのコミュニケーションを円滑にする重要なカギになります。特に、教養ある語彙力 (educated vocabulary) を持つことは、他者との意思疎通や意見交換、学術論文の読解や分析、研究成果の発表や評価といったアカデミックな目的を遂行するには必須であるといえます。

本コースでは、重要性和汎用性の高い単語・成句を中心にアカデミックなコンテキストで使われる頻度の高い語彙を多く取り上げ、文脈に沿って意味を理解するだけでなく、実際にアクティブに使えることを目標として、語彙力の大幅な増強を目指します。

併せて、IELTS や TOEFL といった、英語圏の大学への留学に必要な各種外部試験のスコア・アップにも（結果として）つながる授業展開を念頭に置いています。

## 到達目標

学期終了までに、以下のスキル・能力の獲得を目指します。

- 一般的なアカデミック語彙 (general academic vocabulary) の特徴や役割を理解し、最も多く使われる最頻出の基本単語・成句の意味を把握し、効果的に使うことが出来る
- 単語と単語のつながり（連語関係、collocations）や自然な組み合わせについて理解し、基本的なものについては自分で自然な表現を使うことができる
- 大学生活や学術研究に関連する基本的語彙を身につけ、スピーキングやライティングで活用することができる
- 単語の語源や接頭辞・接尾辞についての知識を用いて、未知の単語の意味をある程度正確に予想することができる
- 単語の派生語や類語・同義語・反意語などを意味のネットワークによって関連付けて理解し、比較的単純な内容については自らの考えを多様な表現であらわすことができる

## 授業方法

- 基本的にテキストの2ユニット分（計4ページ）を1回の授業でカバーします。
  - 次のクラスで扱うユニットを必ず予習してから授業に臨むこと。
  - 授業では、学習する語彙を実際に使った文章を読んだり、自分でその語彙を使って文を作ったり、単語ゲームや連想ゲームで語彙の定着を図ったりといった実践的な演習が主体となります。
  - 授業後には、理解が不十分であると思われる単語・成句についておさらいすること。
  - 毎回の授業の最初に前回の授業で学んだ語彙についてのクイズを実施し、知識の点検と活性化を図ります。
  - 自分の単語ノートを作成し（形式は自由）、学んだ単語の派生語や類語・同義語・反意語や例文などを書き入れて、自分だけの「My 単語帳」を作り、学期中に2～3回提出してもらいます。
- <課題へのフィードバック>
- クイズ・小課題については、授業内での自己採点と確認が主になります。
  - 「My 単語帳」等の提出物に対しては、提出後2～3週間以内にコメントを添えて返却します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 (1) What is special about academic English?  
 第3回 (2) Key nouns

- (3) Key verbs  
 (4) Key adjectives  
 (5) Key adverbs  
 第4回 (6) Phrasal verbs in academic English  
 (7) Key quantifying expressions  
 第5回 (8) Words with several meanings  
 (9) Metaphors and idioms  
 第6回 (10) Nouns and the words they combine with  
 (11) Adjective and noun combinations  
 第7回 (12) Verbs and the words they combine with  
 (13) Propositional phrases  
 第8回 (14) Verbs and prepositions  
 (15) Nouns and prepositions  
 第9回 (16) Chunks: useful phrases  
 (17) Abbreviations and affixes  
 第10回 (18) Applications and application forms  
 (19) The social and academic environment  
 第11回 (20) Academic courses  
 (21) E-learning  
 第12回 (22) Study habits and skills  
 (23) Money and education  
 第13回 (24) Identifying goals  
 (25) Planning a piece of work  
 第14回 Final review  
 第15回

## 成績評価の方法

アクティブティへの参加態度（10%）、クイズ・小課題（70%）、期末課題（20%）

## 履修にあたっての注意

- 原則として、「Academic Vocabulary I」と「Academic Vocabulary II」の両方をセットで履修すること。
- 藤 ACE プログラムの「スペシャリスト・コース」に登録して長期留学を目指す人は、本コースを必ず受講すること。

## 教科書

Michael McCarthy & Felicity O'Dell, *Academic Vocabulary in Use* (Cambridge University Press, 2016, ISBN : 978-1107591660)

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。



## 授業のねらい

日常生活でのやり取りから大学レベルでのコミュニケーションに至るまで、英語の4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）全ての基盤になるのが語彙力です。聞いたり読んだりしたときに意味を把握できる「受容語彙（receptive vocabulary）」だけでなく、自らの考えを話したり書いたりするときに実際に使うことができる「産出語彙（productive vocabulary）」を増やしていくことが、英語でのコミュニケーションを円滑にする重要なカギになります。特に、教養ある語彙力（educated vocabulary）を持つことは、他者との意思疎通や意見交換、学術論文の読解や分析、研究成果の発表や評価といったアカデミックな目的を遂行するには必須であるといえます。

本コースでは、重要性和汎用性の高い単語・成句を中心にアカデミックなコンテキストで使われる頻度の高い語彙を多く取り上げ、文脈に沿って意味を理解するだけでなく、実際にアクティブに使えることを目標として、語彙力の大幅な増強を目指します。

併せて、IELTS や TOEFL といった、英語圏の大学への留学に必要な各種外部試験のスコア・アップにも（結果として）つながる授業展開を念頭に置いています。

## 到達目標

学期終了までに、以下のスキル・能力の獲得を目指します。

- 一般的なアカデミック語彙（general academic vocabulary）の特徴や役割を理解し、最も多く使われる最頻出の単語・成句でより高度なものの意味を把握し、効果的に使うことが出来る
- 単語と単語のつながり（連語関係、collocations）や自然な組み合わせについて理解し、より高度なものについても自分で自然な表現を使うことができる
- 大学生活や学術研究に関連するより高度な語彙を身につけ、スピーキングやライティングで活用することができる
- 単語の語源や接頭辞・接尾辞についての知識を用いて、未知の単語の意味をある程度正確に予想することができる
- 単語の派生語や類語・同義語・反意語などを意味のネットワークによって関連付けて理解し、より複雑な内容についても自らの考えを多様な表現であらわすことができる

## 授業方法

- 基本的にテキストの2ユニット分（計4ページ）を1回の授業でカバーします。
  - 次のクラスで扱うユニットを必ず予習してから授業に臨むこと。
  - 授業では、学習する語彙を実際に使った文章を読んだり、自分でその語彙を使って文を作ったり、単語ゲームや連想ゲームで語彙の定着を図ったりといった実践的な演習が主体となります。
  - 授業後には、理解が不十分であると思われる単語・成句についておさらいすること。
  - 毎回の授業の最初に前回の授業で学んだ語彙についてのクイズを実施し、知識の点検と活性化を図ります。
  - 自分の単語ノートを作成し（形式は自由）、学んだ単語の派生語や類語・同義語・反意語や例文などを書き入れて、自分だけの「My 単語帳」を作り、学期中に2～3回提出してもらいます。
- <課題へのフィードバック>
- クイズ・小課題については、授業内での自己採点と確認が主になります。
  - 「My 単語帳」等の提出物に対しては、提出後2～3週間以内にコメントを添えて返却します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
(26) Describing methods

- 第2回 (27) Using sources  
(28) Analyzing data
- 第3回 (29) Talking about ideas  
(30) Reporting what others say
- 第4回 (31) Talking about meaning  
(32) Talking about points of view
- 第5回 (33) Numbers  
(34) Statistics
- 第6回 (35) Graphs and diagrams  
(36) Time
- 第7回 (37) Cause and effect  
(38) Classifying
- 第8回 (39) Structuring an argument  
(40) Organizing your writing
- 第9回 (41) Processes and procedures  
(42) Facts, evidence and data
- 第10回 (43) Making connections  
(44) Describing problems
- 第11回 (45) Describing situations  
(46) Comparing and contrasting
- 第12回 (47) Evaluation and emphasis  
(48) Describing change
- 第13回 (49) Summarizing and concluding
- 第14回 (50) Making a presentation
- 第15回 Final review

## 成績評価の方法

アクティブティへの参加態度（10%）、クイズ・小課題（70%）、期末課題（20%）

## 履修にあたっての注意

- 原則として、「Academic Vocabulary I」と「Academic Vocabulary II」の両方をセットで履修すること。
- 藤 ACE プログラムの「スペシャリスト・コース」に登録して長期留学を目指す人は、本コースを必ず受講すること。

## 教科書

Michael McCarthy & Felicity O'Dell, *Academic Vocabulary in Use* (Cambridge University Press, 2016, ISBN : 978-1107591660)

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。



## 授業のねらい

文法を苦手だと思いませんか？もしそうだとしたら、それは文法を「守らなければならない規則の集まり」と思い込んでいるからかもしれません。実は、文法は人類の最も偉大な発明の一つとも言えるものなのです。それは一体どういうことなのか？

文法を単純な「規則」の集まりと見なすのではなく、人間が長い歴史と文化の中で思考や意味把握のパターンとして抽出してきた「スキーマ」と捉えることで、文法はもっと鮮やかで躍動感のある存在として立ち上がってきます。そうすることで、文法が実は意味や概念化と強く結びついていることが分かり、より自然で直観的な理解ができるようになるのです。

本コースは、このような新しい観点で文法を捉え直すことで、無味乾燥だと思っていた「文法」を、意味内容を生き生きと伝えるための Grammar for Communication として再発見し、実際のコミュニケーションに生かしていくことを主たる目的としています。そして、理解して納得するレベルに留まるのではなく、身につけた知識を現実のコミュニケーションの文脈で活用・応用し、プラクティスを通じて自在に動員できる状態を目指します。

## 到達目標

学期終了までに、以下のスキル・能力の獲得を目指します。

- 名詞句表現のしくみを理解し、モノやコトについてある程度複雑な内容を表現することができる
- 動詞句表現のしくみを理解し、動作やプロセス、出来事などについてある程度複雑な内容を表現することができる
- 時制のしくみを理解し、文脈に応じて過去・現在・未来の状況について適切な表現をしたり、時間表現以外で時制がどのような意味に関わるのかを説明することができる
- 助動詞や副詞節が伝える多彩な意味を理解し、話し手や書き手の態度やトーン、スタンスをある程度正確に理解し、自分でもそうしたニュアンスを適切に表現することができる
- 文の情報構造や焦点について理解し、効果的な意味の伝え方を意識しながらある程度複雑な文を組み立てることができる

## 授業方法

基本的な授業の流れは以下の通りです。

- 授業前にテキストの指定された箇所を読み込み、理解出来たところと出来なかったところを区別してから授業に臨みます。
  - 授業では、テキスト該当部分の理解を助けるような演習問題やアクティビティ（ペアワーク、グループワークを含む）を多く行い、実践的なプラクティスもふんだんに取り入れます。
  - 英語表現をチャンク（かたまり）で覚え、それを知識として理解するだけでなく、すぐに口をついて出てくるまで練習を繰り返します。その際には、しっかりと意味の伝わる明瞭で正しい発音にも重点が置かれます。
  - 授業後には、授業内で学んだことを振り返りながら知識の定着を図るための宿題が出されます。自分の理解のチェックにもなるので、必ず取り組むようにしてください。
- <課題へのフィードバック>
- クイズ・小課題については、授業内での自己採点と確認が主になります。
  - レポート等の提出物に対しては、提出後2～3週間以内にコメントを添えて返却します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（シラバス、内容等の説明）、Ice-breaking activities、その他
- 第2回 名詞句表現について（1）英語での世界の切り取り方とコミュニケーションの方法
- 第3回 名詞句表現について（2）英語での詳細情報の伝え方
- 第4回 名詞句表現について（3）主語と世界の見え方・捉え方
- 第5回 動詞句表現について（1）出来事と動詞それぞれのふる

まい

- 第6回 動詞句表現について（2）時制のしくみ
- 第7回 動詞句表現について（3）受身の役割
- 第8回 動詞句表現について（4）未来表現の使い分け
- 第9回 動詞句表現について（5）助動詞が伝える意味の諸相
- 第10回 副詞句表現について（1）状況、態度、評価、程度、その他
- 第11回 副詞句表現について（2）副詞節の多彩な役割
- 第12回 前置詞の表す様々なイメージ
- 第13回 文の情報構造について（1）新情報・旧情報、語順と強調
- 第14回 文の情報構造について（2）文を超えて
- 第15回 Final Review

## 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度（10%）、クイズ・小課題（70%）、期末課題（20%）

## 教科書

田中茂範『チャンク英文法一文ではなくてチャンクで話せ！もっと自由に英語が使える』（コスモピア、2003、ISBN：978-4902091069）

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。

**授業のねらい**

本講義は、円滑なコミュニケーションを図るのに必要な発音について学びます。特に日本人が英語を学ぶ際に難しいとされている子音の音素や子音の連鎖における調音などに焦点を当て、日本人が陥りやすい発音のクセを修正できるよう講義を構成します。日本語と英語との違いで言えば、母音にも大きな違いがあることから、その性質を理解し、自らのコミュニケーションに活かすことを目的とします。

**到達目標**

/l/, /r/, /th/ などの日本語に無い音素を中心に学び、自ら発音できるようになる。その際には、有・無声音の違いなどを理解し、英語の音素のパラエティを理解できるようになる。また、一般の会話においてもスーブラセグメンタルを意識して、コミュニケーションを円滑にするための発音の術を体得する。

**授業方法**

講義形式＋アクティブラーニングの形式を取るため、受講者の主体的な参加が必要です。各自が講義前に講義内容について情報収集（予習）を能動的に行っていることを前提に講義を展開します。また主体的な学習を促進するためにディスカッションを行いそれぞれのまなびを共有します。従って、クラスメートとのコミュニケーションを十分に深めることを期待します。

**授業計画**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発音の良し悪しとコミュニケーション
- 第3回 /l/ と /r/ 有声音 vs 無声音
- 第4回 /th/ 有声音 vs 無声音
- 第5回 /t/ と /d/ 子音の調音の場所 1
- 第6回 /p/ と /b/ と /m/ 子音の調音の場所 2
- 第7回 /m/ と /f/ と /v/ 子音の調音の場所 3
- 第8回 /k/ と /g/ と /ng/ 鼻濁音
- 第9回 /s/ と /z/, /sh/ と /zh/ 有声音 vs 無声音
- 第10回 /ch/ と /j/ 有声音 vs 無声音
- 第11回 音節とイントネーション
- 第12回 文章における発音 1
- 第13回 文章における発音 2
- 第14回 文章における発音 3
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

アクティビティへの参加態度 (30%)、小課題・クイズ (20%)、小グループディスカッション (20%)、期末課題 (30%)

**教科書**

なし

06281

## CLIL English A

担当教員：Martin Joseph Murphy

1 単位 前期

### 授業のねらい

This is a lecture course in a people's history - American history. The course aims to give students a chance to understand the beginnings of the land which is now the United States. Students will be able to understand the principles upon which the country was founded and the various groups that play a part in the making of the nation: slaves, labor unions, soldiers, women, immigrants - as well as the notable presidents and leaders.

In addition to the English lecture will be opportunities for students to discuss lecture topics and main themes in small groups. The education goal is to immerse students in an all-English class and give support to students of slightly less confidence so that they can keep up and follow the flow of the historical narrative.

### 到達目標

Students will learn the heart of the largest native English-speaking nation and understand from where Americans come. They will learn key historical events and terms. Also, from short periods of group discussion and critical thinking students will learn how to digest what is spoken in class. By the end of the course students will have become familiar with historical texts identify main themes in American history.

### 授業方法

Students in groups will do their own reading and research into a topic of interest and write a medium length academic paper of their own. This will include:

1. Reading short articles.
2. In-class listening and taking notes.
3. Discussion of key ideas.
4. Writing essays as reflection.

The ultimate goal is to improve English comprehension by participating in an all-English lecture, and cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation / America before the Europeans
- 第2回 Columbus and the first settlements
- 第3回 Colonial days and revolution
- 第4回 Slavery
- 第5回 Civil war and Lincoln
- 第6回 [Poster presentations]
- 第7回 Mid-term test
- 第8回 Go West! Railways and robber barons
- 第9回 The union movements
- 第10回 The woman's suffrage movement
- 第11回 Hard times and the New Deal
- 第12回 The "good war" and the "greatest generation."
- 第13回 Vietnam and The CIA
- 第14回 Poster presentations
- 第15回 Final review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes and tests
- 50% Mid-term and Final test

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

All materials will be provided by the instructor.

## 授業のねらい

このコースは、学習科学の入り口となるような内容を英語で学びながら知識を身につけ、同時に、その内容について説明・議論する英語力を養成することをねらいとしています。すなわち、内容（専門分野の基礎知識）と言語（英語を使うスキルや能力）の両方を主眼に据えた（dual-focused）学習を目指します。従って、単純に英語でのコミュニケーションスキルを身につけるのではなく、英語学習や教育方法学に転ずることのできるテーマやトピックについて体系的に学びながら、ディスカッションや対話を通じて、自分自身の英語学習について、英語を媒介にして reflective に広げていくプロセスを最重要視します。

## 到達目標

- コース終了までに、以下のスキル・能力の向上を目指します。
- 言語学習や教育心理学の専門的情報を主に英語で理解し、その知識を個々のケースへ応用する力
- 既に持っている知識、技能、態度、興味、経験を英語を使って応用する力
- 言語学習や教育心理学での具体的な伝達機能を果たすために必要な英語の言語形式と語彙についての知識を獲得し応用する力
- 言語学習や教育心理学の分野の英語で書かれた文章を読んでまとめたり、それについて議論する力
- 言語学習や教育心理学の分野で、自分と考えの異なる他者と協働的に議論や課題に取り組み、円滑な意思疎通をはかり、相互理解を深めることのできる総合的コミュニケーション力

## 授業方法

テーマ主導型の授業（theme-based class）であるため、こちらで設定した主要テーマについて、各自が情報収集とリサーチを能動的に行い、その結果に基づいたディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、最後に自分の考えを文章にまとめる、という一連のプロセスが基本です。

学期後半からは、さらに履修者が自分自身のテーマやトピックを決め、それがなぜ重要な問題なのか、どのような議論がこれまでなされてきたのか、それについて自分がどう評価し、自分自身として訴えたい点は何か、といった内容をプレゼンテーションとして発表し、互いに意見交換し合う機会も設けます。

事前学習（所要時間1～2時間程度）としてトピックに関する主に英語によるリサーチを行い、それに対する自分の意見がある程度まとめた上で授業に参加し、クラスでグループ・ディスカッションを通じて意見交換をし様々な観点や見方に触れた後、事後学習（1～2時間程度）としてディスカッションの振り返りやトピックの再まとめなどを行います。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、授業の進め方の説明、自己紹介、アイスブレイク(打ち解け合うためのアクティビティ)
- 第2回 Instruction vs learning 1: Lecture on Learning theories
- 第3回 Instruction vs learning 2: Understanding others' views, synthesizing and evaluating ideas
- 第4回 Instruction vs learning 3: Small group presentations and discussions
- 第5回 Motivation for language learning 1: How people can be motivated?
- 第6回 Motivation for language learning 2: What are the sources of motivation?
- 第7回 Motivation for language learning 3: How are we motivate the learners?
- 第8回 Human memory system and learning strategies 1: Sharing your research, discussing your findings
- 第9回 Human memory system and learning strategies 2: Understanding others' views, synthesizing and evalu-

- ating ideas
- 第10回 Human memory system and learning strategies 3: Small group presentations and discussions
- 第11回 Instructional design and educational technology 1: Sharing your research, discussing your findings
- 第12回 Instructional design and educational technology 2: Understanding others' views, synthesizing and evaluating ideas
- 第13回 Instructional design and educational technology 3: Small group presentations and discussions
- 第14回 Micro teaching plan (create your own lesson) 1
- 第15回 Micro teaching plan (create your own lesson) 2

## 成績評価の方法

テーマに関する情報収集・リサーチ（15%）、テーマに関するまとめ（15%）、アクティビティやディスカッションへの参加態度（30%）、プレゼンテーション（20%）、Short essay（20%）

## 履修にあたっての注意

学生主体の授業（student-centered class）なので、受け身の姿勢ではなく、自分の学びに対して能動的に取り組む姿勢を高く評価します。授業で使う主たる言語（main classroom language）は英語ですが、日本語の使用を禁止する訳ではなく、必要に応じて使い分け、学習の最適化を図ります。その意味では、上級の授業であることを理解して下さい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布します。

06901

## Skills for the TOEFL I

担当教員：中津川 雅宣

1単位 前期

### 授業のねらい

本講義では、基礎的な文法、語彙、リーディング、リスニングを日常の科学的な事象を通して学ぶことを目的とする。また、本講義では、TOEFL のスコアを上げるためだけでなく、あらゆる日常の科学を通し、大学の学修に必要な批判的な思考力を養う。

### 到達目標

本講義を通し、基本的な科学関係の読み物を英語で読めることができる。

TOEFL の基礎を学び、文法、読解、リスニングのスコアを高めることができる。

### 授業方法

講義一方的な講義形式と異なり、グループで学修を行うことを中心とする。毎回の授業では、文法や語彙のインターネット上で簡単な小テストを実施する。そのための予習を必ず行うこと。(所要時間 30 分程度) また、5 回の宿題を予定している。(所要時間 60 分程度) 毎回の小テストは、自動採点にて点数を各自公表し、宿題は朱書きで訂正し、返却する予定である。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス－ TOEFL 試験について
- 第2回 Why do people have eyelashes?
- 第3回 Why does pepper make you sneeze?
- 第4回 Why do we fall in love?
- 第5回 Why can't we cure a cold?
- 第6回 Why does our hair turn gray?
- 第7回 Why is the sea salty
- 第8回 中間試験・まとめ
- 第9回 Why do women live longer than men?
- 第10回 Why do some species become extinct?
- 第11回 Why does the wind blow?
- 第12回 Why are spider webs so strong?
- 第13回 Why do we cry when we cut an onion?
- 第14回 Why Do Bugs Fly into Lights?
- 第15回 Why Is the Sky Blue?

### 成績評価の方法

毎回の授業での活動の様子 (30%)、授業の始めに課すクイズ (30%)、宿題 (20%)、試験 (20%) により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業は日本語と英語を併用する。積極的な授業参加が必須である。

### 教科書

Clankie, S., & 中津川 雅宣, *Asking Why?: The Science of Everyday Life*. (金星堂, 2011, ISBN : 978-4-7647-3945-1)

06902

## Skills for the TOEFL I

担当教員：中津川 雅宣

1単位 前期

### 授業のねらい

本講義では、基礎的な文法、語彙、リーディング、リスニングを日常の科学的な事象を通して学ぶことを目的とする。また、本講義では、TOEFL のスコアを上げるためだけでなく、あらゆる日常の科学を通し、大学の学修に必要な批判的な思考力を養う。

### 到達目標

本講義を通し、基本的な科学関係の読み物を英語で読めることができる。

TOEFL の基礎を学び、文法、読解、リスニングのスコアを高めることができる。

### 授業方法

講義一方的な講義形式と異なり、グループで学修を行うことを中心とする。毎回の授業では、文法や語彙のインターネット上で簡単な小テストを実施する。そのための予習を必ず行うこと。(所要時間 30 分程度) また、5 回の宿題を予定している。(所要時間 60 分程度) 毎回の小テストは、自動採点にて点数を各自公表し、宿題は朱書きで訂正し、返却する予定である。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス－ TOEFL 試験について
- 第2回 Why do people have eyelashes?
- 第3回 Why does pepper make you sneeze?
- 第4回 Why do we fall in love?
- 第5回 Why can't we cure a cold?
- 第6回 Why does our hair turn gray?
- 第7回 Why is the sea salty
- 第8回 中間試験・まとめ
- 第9回 Why do women live longer than men?
- 第10回 Why do some species become extinct?
- 第11回 Why does the wind blow?
- 第12回 Why are spider webs so strong?
- 第13回 Why do we cry when we cut an onion?
- 第14回 Why Do Bugs Fly into Lights?
- 第15回 Why Is the Sky Blue?

### 成績評価の方法

毎回の授業での活動の様子 (30%)、授業の始めに課すクイズ (30%)、宿題 (20%)、試験 (20%) により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業は日本語と英語を併用する。積極的な授業参加が必須である。

### 教科書

Clankie, S., & 中津川 雅宣, *Asking Why?: The Science of Everyday Life*. (金星堂, 2011, ISBN : 978-4-7647-3945-1)



06911・06912

## Skills for the TOEFL II

担当教員：中津川 雅宣

1単位 後期

## 授業のねらい

本講義では、TOEFLiBTに必要な語彙、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングを学んでいくことを目的とする。

## 到達目標

本講義を通し、TOEFLに必要な、語彙、読解、リスニングの能力を高めることができる。

英語で様々な講義を聞き、英語でそのまとめを書いたり、話したりすることができる。

## 授業方法

講義一方的な講義形式と異なり、グループで学修を行うことを中心とする。毎回の授業では、インターネット上で語彙の簡単な小テストを実施する。そのための予習を必ず行うこと。(所要時間 30分程度) また、5回の宿題を予定している。(所要時間 60分程度) 毎回の小テストは、自動採点にて点数を各自公表し、宿題は朱書きで訂正し、返却する予定である。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンスー TOEFL 試験について
- 第2回 Reading 1
- 第3回 Listening 1
- 第4回 Reading 2
- 第5回 Listening 2
- 第6回 Writing 1
- 第7回 Speaking
- 第8回 中間試験・まとめ
- 第9回 Listening-Speaking 1
- 第10回 Reading-Writing 1
- 第11回 Listening-Speaking 2
- 第12回 Reading-Writing 2
- 第13回 Listening-Speaking 3
- 第14回 Reading-Writing 3
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

毎回の授業での活動の様子 (30%)、授業の始めに課すクイズ (30%)、宿題 (20%)、試験 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業は日本語と英語を併用する。積極的な授業参加が必須である。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教材は、独自で作成したプリントを使用する。授業時に配布するので、紛失しないよう専用のファイルを準備すること。



## 授業のねらい

IELTS とは、International English Language Testing System の略で、コミュニケーションが主に英語で行われている地域への海外留学や海外研修等に必要となる英語力を測るための国際的な英語運用能力試験です。本学からの協定校への留学に際しても受け入れ基準として採用されており、英語運用能力を測る国際基準としてもますます注目されています。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能を総合的に測定し、試験そのものは筆記試験（リスニング、リーディング、ライティング）と1対1の面接試験（スピーキング）によって行われます。

本コースでは、IELTS の問題構成や出題内容だけではなく、それぞれのスキルについての採点・評価基準についても理解を深め、効率的で効果的な受験準備のサポートを提供することを主な目的としています。授業での演習や授業後の課題等を通じて、学習者が学期終了後も自学自習によってスキル向上に引き続き取り組んでゆけるための強固な基盤作りを目指します。また、単に IELTS のスコアを上げるテクニックを学ぶのではなく、EAP (English for Academic Purposes: 学術目的の英語) の基礎力を身につけることを主眼としています。

## 到達目標

- Vocabulary：アカデミック・ボキャブラリー（学術上必要な語彙力）を大幅に増強する
- Reading：文章全体のトピックやスタイル（ジャンル）を把握し、main ideas（主な論点）や supporting details（論点を補強する例証）を理解し、アカデミックな英文のパラグラフ構造や論理構成についての知識を新しい文章を読む際に応用できる
- Listening：日常生活や教育現場での会話の内容・状況を理解・推測したり、ある程度まとまった長さの講義やディスカッションをノートを取りながら聞き、要点や論理の流れを理解・推測することができる
- Speaking：自分自身について簡潔で的を射た説明をしたり、図式・グラフ等を描写・説明したり、特定の問題について自分の立場を簡潔に論理立てて説明したり、相手の意見や簡単な講義内容を自分の言葉で要約することができる
- Writing：グラフや表、調査結果などから得られる情報の要点を自分の言葉で説明できる、また、特定のトピックや問題に対して自らの立場を明確に示し、持論を展開し、筋道を立てて説明することができる
- IELTS Score：前期の到達目標として、Overall で5.5を取れる実力を目指します。

## 授業方法

- IELTS（アカデミック・モジュール）は英語圏大学で学習する準備が出来ているかどうかを測るテストですので、アカデミック（学術的）な内容に対応できる高度な英語運用能力を試されます。そのための基礎としてまず語彙力を徹底的に鍛え、それと並行してリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を段階的に高めるための実践的なエクササイズをふんだんに行います。
- 授業時間は限られているため、授業外での自主学習にどれだけ真剣に取り組めるかが目標達成の重要な鍵となります。クラスサイトの設置や個別指導を通じて、そのためのサポートを充実させます。
- 基本的な流れは、毎回の授業の前に与えられた課題（所要時間1時間程度）を完成させた上で授業に参加し、クラスでペア・グループワークを通じて理解を確認しあい、授業後に復習と振り返りをする事で次週の小クイズに備える、という形になります。週によってはリスニングの課題を出す場合もあります。

<課題へのフィードバック>

- クイズ・小課題については、授業内での自己採点と質疑応答が主となります。
- ライティングやミニ・レポート等の課題については、2～3

週間以内にコメントを付けて返却します。

- プラクティス・テスト（模擬試験）形式の課題については、採点結果と共に詳細な解答を付けて返却します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（シラバスの説明、ice-breaking activities）  
IELTS とは？構成と内容の理解、スコアの意味、必要となるスキル  
Diagnostic Practice Test
- 第2回 Vocabulary 1: Growing up  
Listening Skills 1: 日常生活における会話
- 第3回 Vocabulary 2: Mental and physical development  
Listening Skills 2: 日常生活におけるモノローグ
- 第4回 Vocabulary 3: Keeping fit  
Listening Skills 3: 教育現場における会話
- 第5回 Vocabulary 4: Lifestyles  
Reading Skills 1: 全体のトピックと主要な論点の把握
- 第6回 Vocabulary 5: Student life  
Reading Skills 2: 細部の把握と拾い読み
- 第7回 Vocabulary 6: Effective communication  
Reading Skills 3: 論理的展開の理解
- 第8回 Mid-term Review & Practice Test (Listening & Reading)
- 第9回 Vocabulary 7: Tourism and travel  
Speaking Skills 1: 自己紹介、日常生活に関する質問への受け答え
- 第10回 Vocabulary 8: Time and history  
Speaking Skills 2: 特定のトピックについての短いスピーチ (1)
- 第11回 Vocabulary 9: The natural world  
Speaking Skills 3: 特定のトピックについての短いスピーチ (2)
- 第12回 Vocabulary 10: Space and the planets  
Writing Skills 1: エッセイの基本的構成、イントロダクションの書き方
- 第13回 Vocabulary 11: Building and engineering  
Writing Skills 2: 概要と主な特徴の書き方
- 第14回 Vocabulary 12: Information technology  
Writing Skills 3: サポート・ディテールの書き方
- 第15回 Final Review & Practice Test (Speaking & Writing)

## 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度（10%）、クイズ・小課題（40%）、Practice Tests（30%）、期末課題（20%）

## 履修にあたっての注意

- 原則として、「Skills for IELTS I」と「Skills for IELTS II」の両方をセットで履修すること。
- 藤 ACE プログラムの「スペシャリスト・コース」に登録して長期留学を目指す人は、本コースを必ず受講すること。

## 教科書

ケビン・ダン『スコアに直結！IELTS 徹底対策テキスト&問題集』（ナツメ社、2015、ISBN：978-4816358685）

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。

## 授業のねらい

IELTS とは、International English Language Testing System の略で、コミュニケーションが主に英語で行われている地域への海外留学や海外研修等に必要となる英語力を測るための国際的な英語運用能力試験です。本学からの協定校への留学に際しても受け入れ基準として採用されており、英語運用能力を測る国際基準としてもますます注目されています。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能を総合的に測定し、試験そのものは筆記試験（リスニング、リーディング、ライティング）と1対1の面接試験（スピーキング）によって行われます。

本コースでは、IELTS の問題構成や出題内容だけではなく、それぞれのスキルについての採点・評価基準についても理解を深め、効率的で効果的な受験準備のサポートを提供することを主な目的としています。授業での演習や授業後の課題等を通じて、学習者が学期終了後も自学自習によってスキル向上に引き続き取り組んでゆけるための強固な基盤作りを目指します。また、単に IELTS のスコアを上げるテクニックを学ぶのではなく、EAP (English for Academic Purposes: 学術目的の英語) の基礎力を身につけることを主眼としています。

## 到達目標

- Vocabulary: アカデミック・ボキャブラリー（学術上必要な語彙力）を大幅に増強する
- Reading: 文章全体のトピックやスタイル（ジャンル）を把握し、main ideas（主な論点）や supporting details（論点を補強する例証）を理解し、アカデミックな英文のパラグラフ構造や論理構成についての知識を新しい文章を読む際に応用できる
- Listening: 日常生活や教育現場での会話の内容・状況を理解・推測したり、ある程度まとまった長さの講義やディスカッションをノートを取りながら聞き、要点や論理の流れを理解・推測することができる
- Speaking: 自分自身について簡潔で的を射た説明をしたり、図式・グラフ等を描写・説明したり、特定の問題について自分の立場を簡潔に論理立てて説明したり、相手の意見や簡単な講義内容を自分の言葉で要約することができる
- Writing: グラフや表、調査結果などから得られる情報の要点を自分の言葉で説明できる、また、特定のトピックや問題に対して自らの立場を明確に示し、持論を展開し、筋道を立てて説明することができる
- IELTS Score: 後期の到達目標として、Overall で 6.0~6.5 を取れる実力を目指します。

## 授業方法

- IELTS (アカデミック・モジュール) は英語圏大学で学習する準備が出来ているかどうかを測るテストですので、アカデミック (学術的) な内容に対応できる高度な英語運用能力を試されます。そのための基礎としてまず語彙力を徹底的に鍛え、それと並行してリスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を段階的に高めるための実践的なエクササイズをふんだんに行います。
- 授業時間は限られているため、授業外での自主学習にどれだけ真剣に取り組めるかが目標達成の重要な鍵となります。クラスサイトの設置や個別指導を通じて、そのためのサポートを充実させます。
- 基本的な流れは、毎回の授業の前に与えられた課題 (所要時間 1 時間程度) を完成させた上で授業に参加し、クラスでペア・グループワークを通じて理解を確認しあい、授業後に復習と振り返りを行うことで次週の小クイズに備える、という形になります。週によってはリスニングの課題を出す場合もあります。

<課題へのフィードバック>

- クイズ・小課題については、授業内での自己採点と質疑応答が主となります。
- ライティングやミニ・レポート等の課題については、2~3

週間以内にコメントを付けて返却します。

- プラクティス・テスト (模擬試験) 形式の課題については、採点結果と共に詳細な解答を付けて返却します。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション (シラバスの説明、前期の振り返り)<br>Diagnostic Practice Test                                  |
| 第2回  | Vocabulary 13: The modern world<br>Listening Skills 1: 教育現場における会話 (応用編)                  |
| 第3回  | Vocabulary 14: Urbanisation<br>Listening Skills 2: 学術的なテーマに関する講義 (1)                     |
| 第4回  | Vocabulary 15: The green revolution<br>Listening Skills 3: 学術的なテーマに関する講義 (2)             |
| 第5回  | Vocabulary 16: The energy crisis<br>Reading Skills 1: 情報を識別する                            |
| 第6回  | Vocabulary 17: Talking business<br>Reading Skills 2: 筆者の意見や態度を読み取る (1)                   |
| 第7回  | Vocabulary 18: The law<br>Reading Skills 3: 筆者の意見や態度を読み取る (2)                            |
| 第8回  | Mid-term Review & Practice Test (Listening & Reading)                                    |
| 第9回  | Vocabulary 19: The media<br>Speaking Skills 1: 特定のトピックについての短いスピーチ (復習)                   |
| 第10回 | Vocabulary 20: The arts<br>Speaking Skills 2: 特定のトピックに関する一般的・抽象的な質問への受け答え (1)            |
| 第11回 | Vocabulary 21: Language building 1<br>Speaking Skills 3: 特定のトピックに関する一般的・抽象的な質問への受け答え (1) |
| 第12回 | Vocabulary 22: Language building 2<br>Writing Skills 1: 賛成・反対の立場を説明する                    |
| 第13回 | Vocabulary 23: Academic Writing Task 1<br>Writing Skills 2: 利点と欠点を比較し自分の判断を説明する          |
| 第14回 | Vocabulary 24: Academic Writing Task 2<br>Writing Skills 3: 問題・原因と解決策を述べる、               |
| 第15回 | Final Review & Practice Test (Speaking & Writing)  |

## 成績評価の方法

アクティビティへの参加態度 (10%)、クイズ・小課題 (40%)、Practice Tests (30%)、期末課題 (20%)

## 履修にあたっての注意

- 原則として、「Skills for IELTS I」と「Skills for IELTS II」の両方をセットで履修すること。
- 藤 ACE プログラムの「スペシャリスト・コース」に登録して長期留学を目指す人は、本コースを必ず受講すること。

## 教科書

ケビン・ダン『スコアに直結！IELTS 徹底対策テキスト&問題集』(ナツメ社、2015、ISBN: 978-4816358685)

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。

06101

## Practical English A

担当教員：Martin Joseph Murphy

1 単位 前期

### 授業のねらい

Critical Thinking is demanded in today's society - not only in the workplace, but in society at large to make a better future for Japan and the world. This class will introduce challenging problems to students who will work together to consider possible solutions.

### 到達目標

This class will focus on four skills - reading, writing, listening and speaking. As much as possible, the course contents will reflect the interests of the students. The instructor will select topics covering important social, political, or environmental issues. Students will not only pick up new ideas, but learn in writing and speech how to use specialized vocabulary in context. They will present original ideas in small groups and to the class. The ultimate goal is to increase confidence in using English, the type of conversation one might have with native English speakers or in a global context.

### 授業方法

In class, the instructor will introduce TED Talks, and students will be expected to form their own opinions and write essays.

In the following class, students will exchange ideas and do in-class speaking and presentation exercises.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction (\*This is a new course, so the schedule is tentative and subject to change)
- 第2回 Topic 1 "Do schools kill creativity?"
- 第3回 Topic 1 (part 2)
- 第4回 Topic 2: "Environmental challenges and the future on planet Earth"
- 第5回 Topic 2 (part 2)
- 第6回 Topic 3: "AI and the future of work"
- 第7回 Topic 3 (part 2)
- 第8回 Mid-term exam (scheduled)
- 第9回 Topic 4: [To be announced]
- 第10回 Topic 4 (part 2)
- 第11回 Topic 5: [To be announced]
- 第12回 Topic 5 (part 2)
- 第13回 Topic 6: [To be announced]
- 第14回 Topic 6 (part 2)
- 第15回 Final exam and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 30% Preliminary tests
- 20% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express one's own ideas in class discussions.

A: A good understanding...

B: A fair comprehension and positive effort...

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

Attendance is vital for success in this class and for improving English. The best way to learn English is by using it with

others, that is, with the teacher and classmates.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no text for this class, the materials will be provided by the instructor.

**授業のねらい**

The purpose of this course is to teach Japanese who are working in Japan to deal with business situations involving foreigners in business encounters. All these conversations are based on typical formal and informal situations international business communication in English. While each conversation should prove useful to you in a business environment, such conversations should also improve your general speaking and listening skills in English.

**到達目標**

The goals of this course are for students to develop skills for dealing with foreigners in business situations in Japan.

**授業方法**

Through the textbook we will study and practice many business situations Japanese workers might experience with foreigners visiting or working in Japan presented in the textbook. These classes will require that you prepare before class by listening to the CD and studying and practicing the textbook.

**授業計画**

- 第1回 Self introductions in business encounters.  
Unit 1 Welcome to the Office
- 第2回 Unit 2 What Time Do You Close?
- 第3回 Unit 3 I'd Like to Change an Order
- 第4回 Unit 4 May I Take a Message?
- 第5回 Unit 5 Shall I Ring That Up for You?
- 第6回 Unit 6 This Way, Please
- 第7回 Unit 7 I'd Like to Make a Complaint
- 第8回 Unit 8 Could You Fill Out This Form?
- 第9回 Unit 9 Welcome to Japan!
- 第10回 Unit 10 What's Your Background?
- 第11回 Unit 11 Here's Your Schedule
- 第12回 Unit 12 I'll See You Tomorrow
- 第13回 Unit 13 Welcome to the Presentation
- 第14回 Unit 14 Would You Use This Product?
- 第15回 Unit 15I Think People Will Love This!  
Achievement Test

**成績評価の方法**

Speaking and hearing ability (50%) Analytical ability to formulate an opinion about the article (50%)

**履修にあたっての注意**

It is important to be able to absorb the content of each article and be able to use the content of each article in the situation presented in each unit.

**教科書**

Michael P. Critchley, *Business Encounters* (南雲堂, 2016, ISBN : 978-4-523-17715-9 C0082)

**教科書・参考書に関する備考**

It's very Important to listen to the CD while you study each unit.



06111

## Practical English B

担当教員：Martin Joseph Murphy

1 単位 後期

### 授業のねらい

Critical Thinking is demanded in today's society – not only in the workplace, but in society at large to make a better future for Japan and the world. This class will introduce challenging problems to students who will work together to consider possible solutions.

### 到達目標

The same as the first semester Practical English A, this class will focus on four skills – reading, writing, listening and speaking. As much as possible, the course contents will reflect the interests of the students. The instructor will select topics covering important social, political, or environmental issues. Students will not only pick up new ideas, but learn in writing and speech how to use specialized vocabulary in context. They will present original ideas in small groups and to the class. The ultimate goal is to increase confidence in using English, the type of conversation one might have with native English speakers or in a global context.

### 授業方法

In class, the instructor will introduce TED Talks, and students will be expected to form their own opinions and write essays.

In the following class, students will exchange ideas and do in-class speaking and presentation exercises.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction (\*This is a new course, so the schedule is tentative and subject to change)
- 第2回 Topic 1 [To be announced]
- 第3回 Topic 1 (part 2)
- 第4回 Topic 2: [To be announced]
- 第5回 Topic 2 (part 2)
- 第6回 Topic 3: [To be announced]
- 第7回 Topic 3 (part 2)
- 第8回 Mid-term exam (scheduled)
- 第9回 Topic 4: [To be announced]
- 第10回 Topic 4 (part 2)
- 第11回 Topic 5: [To be announced]
- 第12回 Topic 5 (part 2)
- 第13回 Topic 6: [To be announced]
- 第14回 Topic 6 (part 2)
- 第15回 Final exam and Review

### 成績評価の方法

- 30% Written homework
- 20% Quizzes
- 20% Preliminary tests
- 30% Final test

A+: A high degree of oral communication fluency. Strong ability to communicate in appropriate everyday situations. An especially strong effort to think critically and express one's own ideas in class discussions.

A: A good understanding. . .

B: A fair comprehension and positive effort. . .

C: Passable, but low level and poor effort to improve English communication skills.

### 履修にあたっての注意

Attendance is vital for success in this class and for improving English. The best way to learn English is by using it with

others, that is, with the teacher and classmates.

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

There is no text for this class, the materials will be provided by the instructor.

06112

## Practical English B

担当教員：Richard G Potter

1 単位 後期

### 授業のねらい

The Purpose of this course is to present students with topics and conversations they will encounter in Japan or abroad.

The book used in the second semester will cover four basic areas for practice and study. These are Part 1 - Informal Business Communication, Part 2 - Office Conversation, Part 3 Business Negotiation, and Part 4, Jobs and Employment, for searching for a job position in a foreign firm.

### 到達目標

The goal of this course is to develop the ability of students to handle a variety of business situations. All these conversations are based on typical formal and informal situations in business communication in English. These exercises should improve your general speaking and listening skills in English.

### 授業方法

Since each unit is short we will do two units in each class.

### 授業計画

- 第1回 Unit 1 Making an Appointment for a Meeting  
Unit 2 Making a Hotel Reservation
- 第2回 Unit 3 Meeting a Client at the Airport Unit 4 Hotel Check-in  
Unit 4 Hotel Check-in
- 第3回 Unit 5 Business Lunch  
Unit 6 Invitation to an Opening Ceremony
- 第4回 Unit 7 Presentation Request  
Unit 8 Introduction at a Reception
- 第5回 Unit 9 Change of Address  
Unit 10 Celebrating a Promotion
- 第6回 Unit 11 Meeting Announcement  
Unit 12 Sales Report
- 第7回 Unit 13 Exhibition Proposal  
Unit 14 Project Mid-term Report
- 第8回 Unit 15 Introducing New Staff Members  
Unit 16 Ordering Office Supplies
- 第9回 Unit 17 Taking a vacation  
Unit 18 Request for a Catalog
- 第10回 Unit 19 Inquiry Regarding a New Product  
Unit 20 Presentation (1)
- 第11回 Unit 21 Presentation (2)  
Unit 22 Negotiating a Discount
- 第12回 Unit 23 Placing an Order  
Unit 24 Recommending a Substitute Item
- 第13回 Unit 25 Payment Reminder  
Unit 26 Inquiry about Non-delivery
- 第14回 Unit 27 Return of a Product  
Unit 28 Appointment of an Agent
- 第15回 Unit 29 Job Query  
Achievement test

### 成績評価の方法

Speaking and hearing (50%) Analytical ability to formulate an opinion about the article (50%)

### 履修にあたっての注意

It's important to listen to the CD before class and study the text.

### 教科書

Janusz Buda, *Transaction: Real Business Conversation* (南雲

堂, 2015, ISBN : 978-4-523-17673-2 C0082)

### 教科書・参考書に関する備考

It's important to listen to the CD before class and study the textbook.



06121

## Practical English C

担当教員：P. Reemst

1 単位 前期

### 授業のねらい

This course focuses on the skills and strategies needed for effective communication in English in a variety of real-life situations.

### 到達目標

The aim is to build up students' English vocabulary, language skills and conversational strategies, and to promote their ability to communicate confidently and effectively in English a variety of real-life situations.

### 授業方法

The weekly classes will consist of various speaking, listening and reading exercises with an emphasis on building practical conversational skills and rhetorical strategies. Learning approaches will include pair work, role-plays, group projects and presentations.

### 授業計画

- 第1回 Introduction and explanation of course aims and methodology
- 第2回 Quick review of essential language and expressions - explanation and practice
- 第3回 Everyday expressions; conversational strategies
- 第4回 Developing speaking skills through role-plays
- 第5回 Planning a trip: at a travel agent - learning useful language and preparing role-plays
- 第6回 Travel role-plays continued
- 第7回 Review and feedback on role-plays; conversational strategies and vocabulary to use in specific situations
- 第8回 Telephone manners and conversations; new role-plays: telephone conversations
- 第9回 Telephone role-plays continued
- 第10回 Short group discussions (following up role-plays); introducing presentations
- 第11回 How to do team presentations; selecting themes for presentations
- 第12回 Team presentations
- 第13回 Vocabulary building, and review of useful language and conversational strategies; planning and designing your own role-play
- 第14回 Role-play practice and role-plays
- 第15回 Role-plays concluded; revision and exam preparation

### 成績評価の方法

Evaluation will be based on participation (30%), role-plays (40%), presentations (20%), and other in-class assignments (10%).

### 教科書

N/A

06122

## Practical English C

担当教員：D.W.Quinn

1 単位 前期

### 授業のねらい

This course is designed to help students develop their skills in speaking and listening via a combination of teacher-led practical discussions and student pair and group activities. The activities are designed to promote the confidence to speak freely in English and the freedom to make mistakes. Two classes are devoted to each unit of the textbook Units 1 - 6 which focusses on a particular theme and grammar point and complimented by a range of grammar, speaking, and listening activities.

### 到達目標

The students will be able to perform functional conversations.

The students will be able to listen to and understand simple real-world listening passages.

The students will be able to conduct discussions on everyday topics.

The students will be able to create and perform a short presentation.

### 授業方法

The aim of this course is to create a student-centered learning environment. Students will help to direct the class by discussing topics that interest them. Additionally, DVDs and listening passages will be used to facilitate topic based discussions and role-plays. There will also be a presentation component to the course where the students work in small groups or pairs to make a two collaborative presentations.

### 授業計画

- 第1回 Introduction and course explanation
- 第2回 Meeting new people. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第3回 Describing people. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第4回 What are you doing? Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第5回 Feelings. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第6回 Groceries. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第7回 Shopping. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities. Presentation preparation.
- 第8回 Verbal Presentation 1 or Role Play 1 in pairs of groups.
- 第9回 Weather. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第10回 Travelling. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第11回 Amazing people. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第12回 Heroes. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第13回 Memories. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第14回 Final Presentation or Role-Play Preparation.
- 第15回 Verbal Presentation 2 or Role Play Presentation 2 in pairs or groups.

### 成績評価の方法

Students will be graded on classroom Attendance and in-class Participation (30%), Presentation 1 (30%) and Presentation 2 (40%).

### 教科書

Susan Stempleski; James R. Morgan; Nancy Douglas, *World Link 1* (Heinle, 2011, ISBN : 978-1-4240-5501-2)

### 教科書・参考書に関する備考

Students should have a dictionary and an A 4 notebook for all classes.

06131

## Practical English D

担当教員：P. Reemst

1 単位 後期

### 授業のねらい

This course focuses on the skills and strategies needed for effective communication in English in a variety of real-life situations.

### 到達目標

The aim is to build up students' English vocabulary, language skills and conversational strategies, and to promote their ability to communicate confidently and effectively in English a variety of real-life situations.

### 授業方法

The weekly classes will consist of various speaking, listening and reading exercises with an emphasis on building practical conversational skills and rhetorical strategies. Learning approaches will include pair work, role-plays, group projects and presentations.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to new semester
- 第2回 Talking about your summer vacation in pairs and small groups - sharing ideas
- 第3回 Short presentation: My Summer Vacation
- 第4回 Talking about yourself, your interests and your plans for the future; adverbs of frequency
- 第5回 Group project: helping to solve a serious world problem (focus on useful language to use in this type of scenario)
- 第6回 Group project continued: development and practice of role-play of a specific world problem (students choose the problem)
- 第7回 Role-playing of scenarios in which students attempt to solve serious world problems
- 第8回 Talking about careers; language associated with the workplace
- 第9回 Role-plays: practicing interview skills
- 第10回 Role-plays: practicing interview skills continued
- 第11回 Words that go together; vocabulary building; review and reinforcement
- 第12回 Designing our own role-plays: students work on language, ideas and scenarios for their original role-plays
- 第13回 Role-play development and practice
- 第14回 Performance of students' original role-plays
- 第15回 Follow-up, review and reinforcement; exam preparation

### 成績評価の方法

Evaluation will be based on participation (30%), role-plays (40%), presentations (20%) and other in-class assignments (10%).

### 教科書

N/A

06132

## Practical English D

担当教員：D.W.Quinn

1単位 後期

### 授業のねらい

This course is designed to help students develop their skills in speaking and listening via a combination of teacher-led practical discussions and student pair and group activities. The activities are designed to promote the confidence to speak freely in English and the freedom to make mistakes. Two classes are devoted to each unit of the textbook Units 7-12 which focusses on a particular theme and grammar point and complimented by a range of grammar, speaking, and listening activities.

### 到達目標

The students will be able to perform functional conversations.

The students will be able to listen to and understand simple real-world listening passages.

The students will be able to conduct discussions on everyday topics.

The students will be able to create and perform a short presentation.

### 授業方法

The aim of this course is to create a student-centered learning environment. Students will help to direct the class by discussing topics that interest them. Additionally, DVDs and listening passages will be used to facilitate topic based discussions and role-plays. There will also be a presentation component to the course where the students work in small groups or pairs to make a two collaborative presentations.

### 授業計画

- 第1回 Introduction and course explanation
- 第2回 Neighbourhood. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第3回 Describing Places. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第4回 Sports and Activities. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第5回 Describing People. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第6回 Life Changes. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第7回 Dreams and plans. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities. Presentation preparation.
- 第8回 Verbal Presentation 1 or Role Play 1 in pairs of groups.
- 第9回 The Body. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第10回 Energy and Stress. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第11回 Talents and Skills. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第12回 Achievement and Risk. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第13回 Movies 1. Teacher-led instruction, group and pair speaking activities, CD listening activities.
- 第14回 Movies 2. PLUS Final Presentation or Role-Play Preparation.
- 第15回 Verbal Presentation 2 or Role Play Presentation 2 in pairs or groups.

### 成績評価の方法

Students will be graded on classroom Attendance and in-class Participation (30%), Presentation 1 (30%) and Presentation 2 (40%).

### 教科書

Susan Stempleski; James R. Morgan; Nancy Douglas, *World Link 1* (Heinle, 2011, ISBN : 978-1-4240-5501-2)

### 教科書・参考書に関する備考

Students should have a dictionary and an A 4 notebook for all classes.

06941

# TOEIC Starter A

担当教員：柳澤 将志

1 単位 前期

## 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 600 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

## 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）  
英語の構造（文型）
- 第2回 英語の構造(1) - 品詞と修飾
- 第3回 英語の構造(2) - 受身
- 第4回 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞
- 第5回 英語の構造(4) - 節の見極め
- 第6回 英語の構造(5) - 関係代名詞
- 第7回 英語の構造(6) - 準動詞の見極め
- 第8回 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第9回 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について
- 第10回 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第11回 リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析
- 第12回 リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）
- 第13回 リスニング(3) - 意図問題
- 第14回 ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説
- 第15回 ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説

## 成績評価の方法

- 到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 600 点（60%）
- 毎回の授業で課する小テスト（15%）
- 宿題の提出（15%）
- 授業への参加状況（10%）
- により評価する

## 履修にあたっての注意

授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループワークも行い、発表してもらうこともある。

復習をしっかりとやる事。

参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。

## 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）

TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

## 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。

授業時に配布する。

参考書については、必要に応じて随時指示する。

他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

## 参考書

ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM付】TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）

06951

## TOEIC Starter B

担当教員：柳澤 将志

1 単位 後期

### 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

### 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 600 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

### 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）  
英語の構造（文型）
- 第2回 英語の構造(1) - 品詞と修飾
- 第3回 英語の構造(2) - 受身
- 第4回 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞
- 第5回 英語の構造(4) - 節の見極め
- 第6回 英語の構造(5) - 関係代名詞
- 第7回 英語の構造(6) - 準動詞の見極め
- 第8回 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第9回 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について
- 第10回 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第11回 リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析
- 第12回 リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）
- 第13回 リスニング(3) - 意図問題
- 第14回 ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説
- 第15回 ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説

### 成績評価の方法

- 到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 600 点（60%）
- 毎回の授業で課する小テスト（15%）
- 宿題の提出（15%）
- 授業への参加状況（10%）
- により評価する

### 履修にあたっての注意

授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループワークも行い、発表してもらうこともある。

復習をしっかりとやる事。

参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。

### 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）

TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

### 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。

授業時に配布する。

参考書については、必要に応じて随時指示する。

他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

### 参考書

ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM付】TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）



06961

## TOEIC Intermediate A

担当教員：柳澤 将志

1 単位 前期

## 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 730 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

## 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）<br>英語の構造（文型）     |
| 第2回  | 英語の構造(1) - 品詞と修飾  |
| 第3回  | 英語の構造(2) - 受身と第1～3回までのまとめ                                   |
| 第4回  | 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞、接続副詞                                     |
| 第5回  | 英語の構造(4) - 節の見極め  |
| 第6回  | 英語の構造(5) - 関係代名詞・隠れた関係代名詞（関係代名詞と分詞の変換）                      |
| 第7回  | 英語の構造(6) - 準動詞の見極め  |
| 第8回  | 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか               |
| 第9回  | 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について                               |
| 第10回 | 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか               |
| 第11回 | リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析                                 |
| 第12回 | リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）                                   |
| 第13回 | リスニング(3) - 総まとめ   |
| 第14回 | ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説・時制問題・ロジックの循環性 |
| 第15回 | ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説                                 |

## 成績評価の方法

到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 730 点 (60%)  
毎回の授業で課する小テスト (15%)  
宿題の提出 (15%)  
授業への参加状況 (10%)  
により評価する

## 履修にあたっての注意

ある程度基礎ができていることが前提となる（英検2級・準2級程度）。

授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループ

ワークも行い、発表してもらうこともある。  
復習をしっかりやる事。  
Starter コースよりも問題を解く量が増える。

## 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）  
TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

## 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。  
授業時に配布する。  
参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

## 参考書

祥伝社『TOEIC LISTENING AND READING TEST 千本ノック! 新形式対策 難問・ひっかけ・トリック問題編』（祥伝社、2016、ISBN：978-4396317041）  
ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM 付】TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）

06971

## TOEIC Intermediate B

担当教員：柳澤 将志

1 単位 後期

## 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 730 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

## 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）<br>英語の構造（文型）     |
| 第2回  | 英語の構造(1) - 品詞と修飾  |
| 第3回  | 英語の構造(2) - 受身と第1～3回までのまとめ                                   |
| 第4回  | 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞、接続副詞                                     |
| 第5回  | 英語の構造(4) - 節の見極め  |
| 第6回  | 英語の構造(5) - 関係代名詞・隠れた関係代名詞（関係代名詞と分詞の変換）                      |
| 第7回  | 英語の構造(6) - 準動詞の見極め  |
| 第8回  | 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか               |
| 第9回  | 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について                               |
| 第10回 | 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか               |
| 第11回 | リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析                                 |
| 第12回 | リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）                                   |
| 第13回 | リスニング(3) - 総まとめ   |
| 第14回 | ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説・時制問題・ロジックの循環性 |
| 第15回 | ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説                                 |

## 成績評価の方法

到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 730 点 (60%)  
毎回の授業で課する小テスト (15%)  
宿題の提出 (15%)  
授業への参加状況 (10%)  
により評価する

## 履修にあたっての注意

ある程度基礎ができていることが前提となる（英検2級・準2級程度）。

授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループ

ワークも行い、発表してもらうこともある。復習をしっかりとやる事。

Starter コースよりも問題を解く量が増える。

## 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）

TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

## 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。

授業時に配布する。

参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

## 参考書

祥伝社『TOEIC LISTENING AND READING TEST 千本ノック! 新形式対策 難問・ひっかけ・トリック問題編』（祥伝社、2016、ISBN：978-4396317041）

ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM 付】TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）

**授業のねらい**

このコースは、グローバル化が進む世界で国際社会の一員として、地球規模で重要な意味を持つ諸問題について客観的かつ論理的に思考し、自分自身の言葉で意見を述べ、文化・社会的背景や考えの異なる人々と意義のある対話をするための英語力と批判的思考スキル (critical thinking skills) のしっかりとした基盤を作ることを目的としています。従って、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」あるいは英語「を通して」、日常生活に影響を及ぼす諸問題について学び、考察し、議論し、提案し、評価する、一連のプロセスを最重要視します。

**到達目標**

- コース終了までに、以下のスキル・能力の向上を目指します。
- 与えられたテーマあるいは自分で重要だと考えるテーマについて、必要な情報収集とリサーチを主に英語で行い、専門家の視点や考察を正確に理解した上で批判的に吟味し評価する力 (リーディング力、リスニング力の涵養を含む)
- 適切なリサーチに基づき自分自身の意見や考えを構築し、それを英語で他者に効果的に伝わるように対話、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどで発信するスピーキング力
- リサーチに基づいたディスカッションや対話を踏まえて、特定のテーマに関する議論の内容を整理・要約したり、それについての自分の意見を簡潔にまとめたり、具体的なトピックについて短い academic essay を書いたりするライティング力
- 自分と考えの異なる他者と協同的に議論や課題に取り組み、円滑な意思疎通をはかり、相互理解を深めることのできる総合的コミュニケーション力

**授業方法**

テーマ主導型の授業 (theme-based class) であるため、こちらで設定した主要テーマについて、各自が情報収集とリサーチを能動的に行い、その結果に基づいたディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、最後に自分の考えを文章にまとめる、という一連のプロセスが基本です。学期後半からは、さらに履修者が自分自身のテーマやトピックを決め、それがなぜ重要な問題なのか、どのような議論がこれまでなされてきたのか、それについて自分がどう評価し、自分自身として訴えたい点は何か、といった内容をプレゼンテーションとして発表し、互いに意見交換し合う機会も設けます。

**授業計画**

- 第1回 オリエンテーション、授業の進め方の説明、自己紹介、アイスブレイク (打ち解け合うためのアクティビティ)
- 第2回 Communication Theory - SMCR  
Small group presentations and discussions
- 第3回 Trying to communicate in English.  
The importance of mediation in the global communication
- 第4回 Conveying what you want to tell.  
Understanding other views, synthesizing and evaluating foreign ideas  
What medication can contribute to the global communication
- 第5回 Why we learn foreign languages 1: Sharing your research, discussing your findings
- 第6回 Why we learn foreign languages 2: Understanding others' views, synthesizing and evaluating ideas
- 第7回 Why we learn foreign languages 3: Small group presentations and discussions
- 第8回 Know the world (1) Bring in the people around the world.
- 第9回 Informal discussion session 1
- 第10回 Know the world (2) Bring in the people around the

world.

- 第11回 Informal discussion session 2
- 第12回 Know the world (3) Bring in the people around the world.
- 第13回 Informal discussion session 3
- 第14回 Know the world (4) Bring in the people around the world.
- 第15回 Summary of the course  
Own inquiries for the final paper from the international students

**成績評価の方法**

テーマに関する情報収集・リサーチ (15%)、テーマに関するまとめ (15%)、アクティビティやディスカッションへの参加態度 (30%)、プレゼンテーション (20%)、Short essay (20%)

**履修にあたっての注意**

学生主体の授業 (student-centered class) なので、受け身の姿勢ではなく、自分の学びに対して能動的に取り組む姿勢を高く評価します。授業で使う主たる言語 (main classroom language) は英語ですが、日本語の使用を禁止する訳ではなく、必要に応じて使い分け、学習の最適化を図ります。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

適宜プリントなどを配布します。

06271

## English for Global Communication B

担当教員：Martin Joseph Murphy

1単位 後期

### 授業のねらい

This course aims to give students a chance to research and discuss academic topics in an area of general interests and goals of the students. The goal is for students to write an academic paper. Along the way they will research, analyze and discuss various viewpoints of experts in the field.

In addition to English study, the education goal is to enhance speech and discussion skills in order to improve confidence and power of persuasion.

### 到達目標

From group discussion and critical thinking students will learn how to logically develop an academic paper. By the end of the course students will have become familiar with academic texts and will have learned how to identify main ideas and the writers' conclusions. Students will sharpen their scanning skills - the ability to quickly find important information and to understand the overall meaning of a text or article. In addition, they will learn how to summarize such findings in their own words.

### 授業方法

Students in groups will do their own reading and research into a topic of interest and write a medium length academic paper of their own. This will include:

1. Research
2. Discussion of key ideas.
3. Writing an academic paper.
4. Present their own ideas in presentations and in-class discussion.

The ultimate goal is to improve English by cooperating with other students to clarify the meaning - all in English.

### 授業計画

- 第1回 Orientation; course introduction
- 第2回 Academic writing basics
- 第3回 Stylish writing.
- 第4回 Smart sentencing.
- 第5回 The "hook" and "tempting titles."
- 第6回 The Story net
- 第7回 "Show and tell"
- 第8回 Jargon
- 第9回 Referencing
- 第10回 The creative touch
- 第11回 Writing / critical thinking review
- 第12回 [To be announced]
- 第13回 [To be announced]
- 第14回 Presentations
- 第15回 Presentations / Final test

### 成績評価の方法

- 30% Written homework  
20% Quizzes and tests  
50% Final paper

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

Any necessary materials will be provided by the instructor.

06401

## 初級ドイツ語 A I

担当教員：岡崎 朝美

1単位 前期

### 授業のねらい

ドイツ語という言語をとらえて、自分について、そして、その自分を取り巻く環境について、新たな気づきや発見の多い授業を目標にしています。ドイツ語資格、短期語学留学を目指す場合に役立つ表現、旅に関連した表現を練習します。

### 到達目標

基礎文法をもとに、ドイツ語で比較的詳しい自己紹介ができる。ドイツ語圏の文化についての知識が増え、視野が広がる。

### 授業方法

発音練習、文法問題、作文、小さな会話練習、CDヒアリング、(数回は)音楽・映像鑑賞をとらえて、表現の幅を広げていく授業です。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス・発音
- 第2回 Lektion 1 挨拶の表現/動詞の変化・数字
- 第3回 Lektion 1 自己紹介の表現/sein と haben
- 第4回 Lektion 2 国と言語/動詞と名詞
- 第5回 Lektion 3 食べ物や飲み物/名詞
- 第6回 Lektion 3 ドイツの朝食/不定冠詞・定冠詞
- 第7回 Lektion 4 趣味/さまざまな動詞
- 第8回 中間テスト/復習/スイスの風景(映像)
- 第9回 Lektion 4 余暇/話法の助動詞
- 第10回 Lektion 5 家族/不定冠詞・定冠詞
- 第11回 Lektion 5 職業/無冠詞の場合
- 第12回 Lektion 6 持ち物/疑問文と否定文
- 第13回 Lektion 6 買い物/形容詞
- 第14回 復習(自分を表現するドイツ語)
- 第15回 文法復習/ドイツ語の歌(ウィーン少年合唱団)

### 成績評価の方法

授業での発音練習や作文などへの取り組み(40%)・定期試験(40%)・中間テスト(20%)

### 履修にあたっての注意

独和辞典を持参してください。(授業で紹介します。)

### 教科書

佐藤・下田・岡崎・Oldehaver・Arnold・Heinemann『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 heute aktuell』(三修社、2017、ISBN: 978-4-384-12292-3)



06402

## 初級ドイツ語 A I

担当教員：清水 誠

1 単位 前期

### 授業のねらい

この授業では初めてドイツ語を学ぶ人のために、現代ドイツ語の基礎知識を習得する訓練を行います。

下記の教材は週1回の授業時間で、1年間をかけて終了するために編まれた音声資料付きの教科書です。これを使用して、半年間でできるだけ進みたいと思います。

### 到達目標

基本的な文法事項と語彙力を習得するのがねらいです。あわせて、ドイツ語圏の文化にも親しみます。

### 授業方法

下記のことがらを順番に学びます。各テーマに2～3回ほど時間をかける予定です。

この授業では、前回に学んだ内容について、毎回、簡単なテストを行い、知識の定着をはかります。

また、本文のテキストの部分を中心に、ドイツ語の和訳などについて、受講者にたずねます。

本文の説明、単語や文の発音、練習問題については、あらかじめ音声資料と辞書を活用して、調べておいてください。

授業でも家庭学習でも、付属の音声資料を利用してください。予習と復習を欠かさないでください。外国語の授業は、ピアノやヴァイオリンのレッスンと同様に、1週間の各自の勉強の成果をチェックする機会とご理解ください。教師はおもにペースメーカーとしての役目を果たします。

授業には辞書をかならず持参してください。辞書についての紹介は最初の時間にします。

### 授業計画

- 第1回 導入、辞書紹介等
- 第2回 文字、発音(1)
- 第3回 文字、発音(2)
- 第4回 規則変化動詞(1)
- 第5回 規則変化動詞(2)
- 第6回 冠詞と名詞の格変化
- 第7回 名詞の複数形
- 第8回 不規則変化動詞
- 第9回 命令形
- 第10回 冠詞類(1)
- 第11回 冠詞類(2)
- 第12回 人称代名詞
- 第13回 前置詞
- 第14回 話法の助動詞
- 第15回 未来形

### 成績評価の方法

毎回の小テスト、予習の有無・受講態度、期末試験によって総合的に評価します。各項目の目安はそれぞれ40%、20%、40%です。このように、日頃から多角的な成績評価をしますので、追試等はありません。

### 履修にあたっての注意

予習と復習を欠かさないでください。とくに予習は重要です。これは外国語の授業一般に共通です。家庭学習は欠かさないようにならねばなりません。なお、出席回数等は自分でチェックしてください。

### 教科書

高橋亮介 他『アプライゼ 伝え合うドイツ語』(朝日出版社、2018、ISBN：9784255254067)

06411

## 初級ドイツ語 A II

担当教員：岡崎 朝美

1 単位 後期

### 授業のねらい

ドイツ語という言語をとらえて、自分について、そして、その自分を取り巻く環境について、新たな気づきや発見の多い授業を目標にしています。ドイツ語資格、短期語学留学を目指す場合に役立つ表現、旅に関連した表現を練習します。

### 到達目標

基礎文法をもとに、自分の考えをドイツ語で口頭で伝えることができる。ドイツ語でメールや手紙が書けるようになる。ドイツ語圏の文化についての知識が増え、視野が広がる。

### 授業方法

発音練習、文法問題、作文、小さな会話練習、CDヒアリング、音楽・映像鑑賞をとおして、表現の幅を広げていく授業です。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス・発音
- 第2回 Lektion 7 休暇の後で/現在完了形の作り方
- 第3回 Lektion 7 出来事/現在完了形の文
- 第4回 Lektion 8 住まい/さまざまな名詞
- 第5回 Lektion 8 暮らし/疑問詞・前置詞
- 第6回 Lektion 9 時間/時刻の言い方
- 第7回 Lektion 9 曜日・月名・日付の言い方
- 第8回 中間テスト・復習・ドイツ語圏の都市(映像)
- 第9回 Lektion10 街/道のきき方
- 第10回 Lektion10 大学生活/プレゼンテーション文
- 第11回 Lektion11 休暇の前に・ドイツのクリスマス/前置詞
- 第12回 Lektion11 休暇の予定/話法の助動詞
- 第13回 文法復習・ドイツ語圏の鉄道の旅(映像)
- 第14回 Lektion12 どこへ行ったか/過去形
- 第15回 復習・イラストの場面におけるドイツ語

### 成績評価の方法

授業での発音練習や作文などへの取り組み(40%)・定期試験(40%)・中間テスト(20%)

### 履修にあたっての注意

独和辞典を持参してください。

### 教科書

佐藤・下田・岡崎・Oldehaver・Arnold・Heinemann『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 heute aktuell』(三修社、2017、ISBN：978-4-384-12292-3)

06412

## 初級ドイツ語 A II

担当教員：清水 誠

1 単位 後期

### 授業のねらい

この授業では半年間、ドイツ語を学んだ人のために、さらに現代ドイツ語の基礎知識を習得する訓練を行います。

下記の教材は週1回の授業時間で、1年間をかけて終了するために編まれた音声資料付きの教科書です。これを使用して、半年間でできるだけ進みたいと思います。

### 到達目標

基本的な文法事項と語彙力を習得するのがねらいです。あわせて、ドイツ語圏の文化にも親しみます。

### 授業方法

下記のことがらを順番に学びます。各テーマに2～3回ほど時間をかける予定です。

この授業では、前回到学んだ内容について、毎回、簡単なテストを行い、知識の定着をはかります。

また、本文のテキストの部分を中心に、ドイツ語の和訳などについて、受講者にたずねます。

本文の説明、単語や文の発音、練習問題については、あらかじめ音声資料と辞書を活用して、調べておいてください。

授業でも家庭学習でも、付属の音声資料を利用してください。予習と復習を欠かさないでください。外国語の授業は、ピアノやヴァイオリンのレッスンと同様に、1週間の各自の勉強の成果をチェックする機会とご理解ください。教師はおもにペースメーカーとしての役目を果たします。

授業には辞書をかならず持参してください。

### 授業計画

- 第1回 導入、分離動詞
- 第2回 再帰動詞
- 第3回 従属接続詞
- 第4回 形容詞の変化
- 第5回 非人称動詞
- 第6回 動詞の3基本形
- 第7回 過去人称変化
- 第8回 完了形
- 第9回 比較
- 第10回 現在分詞
- 第11回 zu-不定詞
- 第12回 関係代名詞
- 第13回 受動態
- 第14回 接続法(1)
- 第15回 接続法(2)

### 成績評価の方法

毎回の小テスト、予習の有無・受講態度、期末試験によって総合的に評価します。各項目の目安はそれぞれ40%、20%、40%です。このように、日頃から多角的な成績評価をしますので、追試等はありません。

### 履修にあたっての注意

予習と復習を欠かさないでください。とくに予習は重要です。これは外国語の授業一般に共通です。家庭学習は欠かさないようにしましょう。なお、出席回数等は自分でチェックしてください。

### 教科書

高橋亮介 他『アプライゼ 伝え合うドイツ語』（朝日出版社、2018、ISBN：9784255254067）

### 教科書・参考書に関する備考

再履修等でこの授業のみを履修する学生は、授業開始時までに上記の教科書を購入しておいてください。市内の書店では売っていませんので、教務課とご相談ください。



06421

## 初級ドイツ語 B I

担当教員：荻原 達夫

1 単位 前期

### 授業のねらい

ドイツ語の初歩的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための基礎づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定(独検) 5～4級程度の文法知識をカバーする予定です。おりにふれてドイツの文化や風俗についても紹介します。

### 到達目標

初歩的な文法を習得し、応用することができる。  
独検5～4級程度の文法知識を身につける。  
ドイツ語圏の文化について知見を広める。

### 授業方法

まず、学習する内容についてできるだけわかりやすく、ゆっくりと説明します。それから練習問題をやってもらい、理解できたかどうかを確認します。授業中に何度も当てて確認しますので、おいてきぼりになることはないでしょう。なお、授業の冒頭には必ず前回までのおさらいをします。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
ドイツ語のアルファベット、ウムラウトとエスツェット
- 第2回 発音の原則、母音の読み方、子音の読み方  
人称代名詞  
動詞の現在人称変化
- 第3回 子音の読み方  
語順
- 第4回 子音の読み方  
動詞の現在人称変化、arbeiten型、reisen型
- 第5回 子音の読み方、あいさつ、曜日  
名詞の性と冠詞  
定冠詞の格変化
- 第6回 発音のまとめ、月、四季  
不定冠詞の格変化
- 第7回 発音チェック  
2格の位置
- 第8回 複数形の作り方  
複数形の格変化
- 第9回 数詞(0～99)  
男性弱変化名詞  
既習事項のまとめ
- 第10回 数詞(100～1000)、年齢、電話番号、通貨  
発音・文法チェック  
不規則動詞、fahren型
- 第11回 不規則動詞、sprechen型、sehen型  
seinとhaben  
werdenとwissen
- 第12回 命令形、人称代名詞の3格・4格
- 第13回 人称代名詞の語順  
前置詞(2格～4格支配)
- 第14回 前置詞(3・4格支配)  
前置詞と定冠詞の融合
- 第15回 前置詞と人称代名詞の融合形  
既習事項のまとめ

### 成績評価の方法

中間テスト(30%)、期末テスト(50%)、授業への取り組み方(20%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

教科書および辞書(独和辞典)は毎回持参してください。

### 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010、ISBN: 978-4-384-11271-9)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』(同学社)など。

### 参考書

根本道也ほか『アポロン独和辞典』(同学社、2010、ISBN: 978-4-8102-0006-5)

06422

## 初級ドイツ語 B I

担当教員：瀬川 修二

1 単位 前期

## 授業のねらい

ドイツ語の初歩的文法の習得

## 到達目標

ドイツ語の発音、主語、規則動詞の人称変化、名詞の性と格、定冠詞、不定冠詞、定冠詞類、不定冠詞類、命令形、疑問詞などを理解し、習得する。

## 授業方法

毎回、文法事項を説明した後各自に練習問題を当て、あるいは自習的に時間を与えて解いてもらい、黒板に答えを書いてもらう形で授業を進める。

## 授業計画

- 第1回 ドイツ語のアルファベット
- 第2回 ドイツ語の発音規則、母音
- 第3回 ドイツ語の発音規則、子音
- 第4回 発音練習問題
- 第5回 主語、規則動詞の人称変化
- 第6回 規則動詞の人称変化練習問題
- 第7回 名詞の性と格
- 第8回 定冠詞、不定冠詞
- 第9回 定冠詞、不定冠詞練習問題
- 第10回 不規則動詞の人称変化
- 第11回 不規則動詞の練習問題、命令形
- 第12回 定冠詞類、不定冠詞類
- 第13回 疑問詞
- 第14回 総合復習問題(1)
- 第15回 総合復習問題(2)

## 成績評価の方法

小テスト (20%)、定期試験 (80%) で評価する

## 履修にあたっての注意

正当な理由でない限り、きちんと出席すること

## 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010年、ISBN: 978-4-384-11272-9C1084)

06431

## 初級ドイツ語 B II

担当教員：荻原 達夫

1 単位 後期

## 授業のねらい

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、日常的なコミュニケーションのための下地づくりをします。最終的にはドイツ語技能検定(独検) 4~3級程度の文法知識をカバーする予定です。おりにふれてドイツの文化や風俗についても紹介します。

## 到達目標

基礎的な文法を習得し、応用することができる。  
独検 4~3級程度の文法知識を身につける。  
ドイツ語圏の文化について知見を広める。

## 授業方法

まず、学習する内容についてできるだけわかりやすく、ゆっくりと説明します。それから練習問題をやってもらい、理解できたかどうかを確認します。授業中に何度も当てて確認しますので、おいてきぼりになることはないでしょう。なお、授業の冒頭には必ず前回までのおさらいをします。

## 授業計画

- 第1回 既習事項のおさらい  
定冠詞類
- 第2回 所有冠詞  
否定冠詞
- 第3回 疑問代名詞
- 第4回 分離動詞
- 第5回 非分離動詞  
定動詞と不定詞  
zu 不定詞
- 第6回 um zu, haben zu, sein zu
- 第7回 副文  
既習事項のまとめ
- 第8回 文法チェック  
話法の助動詞
- 第9回 moechte  
使役動詞、知覚動詞  
未来形
- 第10回 動詞の3基本形(規則動詞、不規則動詞)
- 第11回 動詞の3基本形(sein/haben/werden、分離動詞、過去分詞のge-がつかない動詞)
- 第12回 過去人称変化
- 第13回 現在完了形
- 第14回 現在完了形(sein支配)
- 第15回 過去完了形、分詞

## 成績評価の方法

中間テスト(30%)、期末テスト(50%)、授業への取り組み方(20%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

教科書および辞書(独和辞典)は毎回持参してください。

## 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010年、ISBN: 978-4-384-11271-9)

## 教科書・参考書に関する備考

辞書はある程度の語彙数をもつもののほうが使いやすいでしょう。たとえば『アポロン独和辞典』(同学社)など。

## 参考書

根本道也ほか『アポロン独和辞典』(同学社、2010年、ISBN: 978-4-8102-0006-5)

06432

## 初級ドイツ語 B II

担当教員：瀬川 修二

1 単位 後期

### 授業のねらい

ドイツ語の基本的文法の習得

### 到達目標

規則動詞、不規則動詞の人称変化、定冠詞(類)、不定冠詞(類)、人称代名詞、前置詞、話法の助動詞、分離動詞、形容詞の格変化の習得

### 授業方法

文法事項の説明の後、教科書、プリントの練習問題を解き、文法事項を確実なものにする。繰り返し多くの練習問題を解くことによってドイツ語文法、簡単なドイツ語会話を身につける。

### 授業計画

- 第1回 前期の復習(1)、動詞
- 第2回 前期の復習(2)、冠詞
- 第3回 前置詞(1)、2, 3, 4 格支配
- 第4回 前置詞(2)、3, 4 格支配、定冠詞との融合
- 第5回 人称代名詞
- 第6回 話法の助動詞
- 第7回 復習総合問題(1)
- 第8回 復習総合問題(2)
- 第9回 分離動詞
- 第10回 形容詞の格変化、比較級
- 第11回 動詞の3基本形
- 第12回 従属接続詞
- 第13回 復習総合問題(3)
- 第14回 zu 不定詞
- 第15回 復習総合問題(4)

### 成績評価の方法

小テスト (20%)、定期試験 (80%) によって評価する

### 履修にあたっての注意

正当な理由がない限り、かならず出席すること

### 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010年、ISBN: 978-4-384-11271-9C1084)

06501

## 初級フランス語 A I

担当教員：小澤 卓哉

## 1 単位 前期

## 授業のねらい

フランス語に初めてふれるみなさんが、コミュニケーションに必要な表現や基本的なことばのしくみを、できるだけスムーズに楽しく学ぶための教科書を使って、フランス語の基本的なコミュニケーション力が身につくことをめざします。

フランス語の基礎をコツコツ学んでいくことが、フランス語が話されている世界へ道（シュマン）をひらくキッカケになれば幸いです。

## 到達目標

教科書前半について、

1. 各課のスケッチを、実際に会話をしているように、すらすらと言える。
2. 各課のアクティヴィテの表現を覚え、話す・聞く練習がスムーズにできる。
3. 各課で学ぶ動詞の活用（発音とつづり）をしっかりと覚えて、書いたり話したりできる。
4. 各課で学ぶ表現や文法事項を理解し、練習問題を自力で解くことができる。

以上は、「仏検」（実用フランス語技能検定試験）でいえば5級の前半終了程度が目安になります。

## 授業方法

教科書は各課4ページ構成で、前半2ページは日常生活のさまざまな場面を描いた自然なスケッチ、聞く・話すに主眼をおいたシンプルなアクティヴィテ、後半2ページは文法事項の解説、練習問題などからなります。スケッチとアクティヴィテの話す練習では、ペアまたは少人数のグループでのロールプレイもおこないます。練習問題は基本的に宿題とし、次の回に答え合わせをします。前期は6課までの各課を2回程度の授業で進めていく予定ですが、受講生の理解度と反応をみて調整します。1課ぶんが終了した次の回にプティ・テスト（小テスト）をおこなって、こまめに理解度をチェックします。プティ・テストは採点后、次の回に返却し必要に応じて解説を加えます。予習・復習（当面は復習を重視してください）は合計で60～90分程度が目安となるでしょう。詳細は授業の中で説明します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス、導入(1)：アルファベ、出会いのあいさつなど
- 第2回 導入(2)：フランス語の音、つづり字と発音など
- 第3回 1課(1)：注文・依頼する
- 第4回 1課(2)：名詞の性・数、不定冠詞
- 第5回 2課(1)：「誰か」・「何か」を尋ねる/言う
- 第6回 2課(2)：定冠詞、指示形容詞
- 第7回 3課(1)：職業や身分を尋ねる/言う
- 第8回 3課(2)：主語人称代名詞、動詞 être 現在形、所有形容詞
- 第9回 4課(1)：好き嫌いを尋ねる/言う
- 第10回 4課(2)：第1群規則動詞現在形、人称代名詞強勢形、形容詞(1)
- 第11回 5課(1)：持っているものやあるものと言う
- 第12回 5課(2)：動詞 avoir 現在形、部分冠詞、形容詞(2)
- 第13回 6課(1)：行き先を尋ねる/言う
- 第14回 6課(2)：動詞 aller/venir/faire などの現在形、à/de と定冠詞の縮約
- 第15回 まとめ、補足など

## 成績評価の方法

定期試験 65%、プティ・テスト 15%、平常点（授業への参加状況・課題提出状況など）20%を目安に総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

授業で使用する音声は教科書付属のCDに収録されています。定期試験では収録音声を利用した聞き取り問題も出題されますので、予習・復習にCDをフル活用してください。欠席回数は各自で把握しておくように。

## 教科書

大塚 陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社、2017、ISBN：9784560061244）

## 教科書・参考書に関する備考

教科書と仏和辞典（電子辞書または有料アプリ可）は必ず用意して毎回持参してください。詳細は初回ガイダンスで案内します。

教科書付属CDと同じ内容を、白水社ホームページからダウンロードすることができます。

参考書は授業の中で適宜紹介します。

## 参考ホームページ

『プティ・シュマン（改訂版）』音声ダウンロード <http://www.hakusuisha.co.jp/news/n17005.html>

06502

# 初級フランス語 A I

担当教員：尾形 弘人

## 1 単位 前期

### 授業のねらい

フランス語での初歩的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

初めて学ぶ言葉ですから間違えるのは当たり前。自信がないからといってモジモジしないで、大きな声で堂々と間違ってください。気楽に、しかしポイントでは目、耳、口、手を総動員して、フランス語を楽しんでください。

皆さんの頑張りや、2年次の「中級フランス語」の履修につながることを、期待します。

### 到達目標

基本的な文法を理解し、簡単なフランス語を「聞き、話し、読み、書く」ことができる。

フランス語検定試験5級の8割以上が正答できるレベルを目指す。

### 授業方法

教科書は「文法の説明」、「文法問題」、「会話」、「聞き取り問題」、「復習問題」からなります。各課のテーマと文法事項は以下の通りで、各課を2回程度の授業で消化していく予定です。また、教科書には予習・復習用の「オリジナル・ノート」が付属していますので、大いに役立ててください。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション とりあえず、「ボンジュール」と言ってみよう。  
日本語になったフランス語を探してみよう。
- 第2回 第1課：こんにちは、はじめまして（あいさつ）(1)  
アルファベット、発音の規則
- 第3回 第1課：こんにちは、はじめまして（あいさつ）(2)  
アルファベット、発音の規則
- 第4回 第2課：すみません。郵便局はどこですか？（互いの名前を言う）(1)  
不定冠詞、定冠詞
- 第5回 第2課：すみません。郵便局はどこですか？（互いの名前を言う）(2)  
不定冠詞、定冠詞
- 第6回 第3課：学生ですか？ はい、学生です。（職業、身分を言う）(1)  
動詞 être (= 英語の be)
- 第7回 第3課：学生ですか？ はい、学生です。（職業、身分を言う）(2)  
動詞 être (= 英語の be)
- 第8回 復習
- 第9回 第4課：お腹が空きました。（昼食にさそう）(1)  
動詞 avoir (= have)、部分冠詞、否定文
- 第10回 第4課：お腹が空きました。（昼食にさそう）(2)  
動詞 avoir (= have)、部分冠詞、否定文
- 第11回 第5課：ステーキを食べます。（メニューを選ぶ）(1)  
er型動詞（規則動詞）、疑問文
- 第12回 第5課：ステーキを食べます。（メニューを選ぶ）(2)  
er型動詞（規則動詞）、疑問文
- 第13回 第6課：彼女はピンクのTシャツを着ています。（噂話をする）(1)  
命令文、形容詞の形
- 第14回 第6課：彼女はピンクのTシャツを着ています。（噂話をする）(2)  
命令文、形容詞の形復習(1)
- 第15回 復習

### 成績評価の方法

語学は平時の積み重ねが大切ですので、「予習、出席、復習」という、当たり前のことを重視します。

したがって、平常点（出席、遅刻、予習状況、小テスト、課題

等）6割、定期試験4割を目安に評価します。

### 履修にあたっての注意

フランス語は発音できなければ楽しくありません。少しくらい間違ってもかまわないので、授業ではとにかく声を出しましょう。また、予習、復習の際には、教科書付属のCDをよく聞いて真似しましょう。それが上達の早道です。

### 教科書

太原孝英他『新ケンとジュリー 1』（駿河台出版社、2016、ISBN：978-4-411-00381-2）

### 教科書・参考書に関する備考

辞書その他については追って指示します。



06511

## 初級フランス語 A II

担当教員：小澤 卓哉

1 単位 後期

### 授業のねらい

前期（初級フランス語 A I）と同じ初級教科書を使って、コミュニケーションに必要な表現や基本的なことばのしくみを学びながら、フランス語の基本的なコミュニケーション力が身につくことをめざします。

この授業でフランス語の基礎をしっかりと学んだことによって、次年度の中級フランス語の履修へスムーズに道（シュマン）をつなげることができれば幸いです。

### 到達目標

教科書後半について、

1. 各課のスケッチを、実際に会話をしているように、すらすらと言える。
2. 各課のアクティヴィテの表現を覚え、話す・聞く練習がスムーズにできる。
3. 各課で学ぶ動詞の活用（発音とつづり）をしっかりと覚えて、書いたり話したりできる。
4. 各課で学ぶ表現や文法事項を理解し、練習問題を自力で解くことができる。

以上は、「仏検」でいえば5級の後半終了～4級の入口程度が目安になります。

### 授業方法

前期にひきつづき、教科書の各課について、スケッチとアクティヴィテの話す練習ではペアまたは少人数のグループでのロールプレイもおこないます。練習問題は基本的に宿題とし、次の回に答え合わせをします。後期は7課からの各課を2回程度の授業で進めていく予定ですが、受講生の理解度と反応をみて調整します（前期の予定が終わらなかった場合は、そのつづきから始めます）。1課ぶんが終了した次の回にプティ・テスト（小テスト）をおこなって、こまめに理解度をチェックします。プティ・テストは採点後の次の回に返却し、必要に応じて解説を加えます。前期と同様の復習（練習問題の宿題、プティ・テスト対策を含む）だけでなく、後期は可能な範囲で予習（音声聞いて発音を確認し単語の意味を調べておくなど）にも自主的・積極的に取り組んでください。これらは合計で60～90分程度が目安となるでしょう。詳細は授業の中で説明します。

### 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ミニ・ガイダンス、前期の復習など                       |
| 第2回  | 7課(1):「いつ?」、月、曜日など                     |
| 第3回  | 7課(2): 動詞 prendre 現在形、国名と前置詞、命令法、非人称構文 |
| 第4回  | 8課(1): 意志を尋ねる、天気表現                     |
| 第5回  | 8課(2): 動詞 vouloir/pouvoir などの現在形、数量表現  |
| 第6回  | 9課(1): 時刻を尋ねる/言う、年齢を言う                 |
| 第7回  | 9課(2): 第2群規則動詞現在形、疑問形容詞、比較級            |
| 第8回  | 10課(1): 「どのように?」、さまざまな否定(1)            |
| 第9回  | 10課(2): 動詞 voir/mettre 現在形、目的語人称代名詞    |
| 第10回 | 11課(1): 会う約束をする                        |
| 第11回 | 11課(2): 代名動詞現在形、中性代名詞 (y と en)         |
| 第12回 | 12課(1): したことを尋ねる/言う                    |
| 第13回 | 12課(2): 過去分詞、複合過去形                     |
| 第14回 | 13課: 理由を尋ねる/言う、さまざまな否定(2)、位置を示す表現など    |
| 第15回 | まとめ、補足など                               |

### 成績評価の方法

定期試験 65%、プティ・テスト 15%、平常点（授業への参加状況・課題提出状況など）20%を目安に総合的に評価します。2018年度秋季（11月中旬）の仏検合格者には、その得点に応じて最終的な成績評価の際に加点します。

### 履修にあたっての注意

定期試験では付属 CD の音声を利用した聞き取り問題も出題されますので、予習・復習に CD をフル活用してください。仏検合格者の加点に関しては初回ミニ・ガイダンスで説明します。遅刻（特に厳冬期）に伴いプティ・テストの未受験が重ならないよう気をつけましょう。欠席回数は各自で把握しておくように。

### 教科書

大塚 陽子『プティ・シュマン（改訂版）』（白水社、2017、ISBN：9784560061244）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書と仏和辞典（電子辞書または有料アプリ可）は毎回持参してください。参考書は授業の中で適宜紹介します。

### 参考ホームページ

『プティ・シュマン（改訂版）』音声ダウンロード <http://www.hakusuisha.co.jp/news/n17005.html>



06512

## 初級フランス語 A II

担当教員：尾形 弘人

1 単位 後期

### 授業のねらい

初級フランス語 A I に引き続き、フランス語での初歩的なコミュニケーション能力の習得を目指します。

前期同様、間違えるのは当たり前。自信がないからといってモジモジしないで、大きな声で堂々と間違ってください。気楽に、しかしポイントでは目、耳、口、手を総動員して、フランス語を楽しんでください。

皆さんの頑張り、2年次の「中級フランス語」の履修につながることを、期待します。

### 到達目標

基本的な文法を理解し、簡単なフランス語を「聞き、話し、読み、書く」ことができる。

フランス語検定試験5級の8割が正答できるレベルを目指す。

### 授業方法

教科書は「文法の説明」、「文法問題」、「会話」、「聞き取り問題」、「復習問題」からなります。各課のテーマと文法事項は以下の通りで、各課を2回程度の授業で消化していく予定です。また、教科書には予習・復習用の「オリジナル・ノート」が付属していますので、大いに役立ててください。

### 授業計画

- 第1回 既習事項の復習
- 第2回 第7課：シャルル・ドゴール空港に到着です。(スーツケースと取りに行く) (1)  
「私の、君の・・・」、vouloir (= want)、pouvoir (= can)、prendre (= take)
- 第3回 第7課：シャルル・ドゴール空港に到着です。(スーツケースと取りに行く) (2)  
「私の、君の・・・」、vouloir (= want)、pouvoir (= can)、prendre (= take)
- 第4回 第8課：パリの外にも行きたい。(観光スポットについて話す) (1)  
aller (= go)、venir (= come)、「どこに、いつ、どうやって・・・」
- 第5回 第8課：パリの外にも行きたい。(観光スポットについて話す) (2)  
aller (= go)、venir (= come)、「どこに、いつ、どうやって・・・」
- 第6回 第9課：明日は何をするの？(旅行の計画を立てる) (1)  
「これから～する」、「～したばかりだ」、「誰が、何が、誰を、何を」
- 第7回 第9課：明日は何をするの？(旅行の計画を立てる) (2)  
「これから～する」、「～したばかりだ」、「誰が、何が、誰を、何を」
- 第8回 復習
- 第9回 第10課：朝早く出発しなければならない。(時刻の言い方) (1)  
形式主語、devoir (= must)、connaitre (= know)
- 第10回 第10課：朝早く出発しなければならない。(時刻の言い方) (2)  
形式主語、devoir (= must)、connaitre (= know)
- 第11回 第11課：ケンが私を初詣につれて行ってくれます。(待ち合わせをする) (1)  
「私を、君を、彼を・・・」、「私に、君に、彼に・・・」、代名動詞
- 第12回 第11課：ケンが私を初詣につれて行ってくれます。(待ち合わせをする) (2)  
「私を、君を、彼を・・・」、「私に、君に、彼に・・・」、代名動詞
- 第13回 第12課：荷造りはもう済んだの？(過去の話をする)

- (1)  
過去形の作り方

第14回 第12課：荷造りはもう済んだの？(過去の話をする)

- (2)  
過去形の作り方

第15回 復習

### 成績評価の方法

語学は平時の積み重ねが大切ですので、「予習、出席、復習」という、当たり前のことを重視します。したがって、平常点(出席、予習状況、遅刻、小テスト、課題等)6割、定期試験4割を目安に評価します。

### 履修にあたっての注意

フランス語は発音できなければ楽しくありません。少しくらい間違ってもかまわないので、授業ではとにかく声を出しましょう。また、予習、復習の際には、教科書付属のCDをよく聞いて真似しましょう。それが上達の早道です。

### 教科書

太原孝英他『新ケンとジュリー1』(駿河台出版社、2010、ISBN: 978-4-411-00826-8/978-4-411-008)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書その他については追って指示します。

## 授業のねらい

初級フランス語 B I では、フランス語で「コミュニケーションできる」ようになるために、フランス語の土台となる正しい発音と基礎的な文法を学ぶことで、「使えるフランス語」を身につけることを目的としています。

教科書と並行して、フランス時事問題やサブカルチャーなどを含めた社会的・文化的背景の理解も合わせながら、さまざまな方面からフランス語に親しんでいきます。

## 到達目標

1. 初級フランス語 B I では、フランス語を音として再現することとともに、最初歩のフランス語文法を学ぶところからスタートします。その上で、自分のことを簡単なフランス語で表現できるようになることを目標とします。そうした中で、さらに上のレベルのフランス語コミュニケーションへの確実な足がかりをつけていきます。
2. 後期開講の初級フランス語 B II 終了時には、実用フランス語検定 5 級合格レベルの文法力習得を目指します。

## 授業方法

初級フランス語 B I では、はじめはしっかりとフランス語の発音を練習します。そして教科書とともに、アルファベから文法をいちから身に付けていきます。その中で教科書内の会話文やアクティビティを通じて、徐々に自分のことをフランス語で表現する方法を学習し、それを授業内で実践していきます。授業での発音練習やペア作業などにしっかりと取り組む姿勢が必要とされます。定期的に宿題プリントが課されます。宿題プリントや提出物は添削して返却し、授業内にて解説します。また、教科書各課終了後には小テストを実施し、学習内容の定着を目指します。

毎回の授業終了時に次回の学習箇所を指示します。予習として教科書に目を通し（所要時間目安 30 分ほど）、復習は当日の学習箇所を教科書・ノート等にて確認すること（所要時間目安 45～60 分ほど）、予復習については初回授業時に具体的に説明します。

## 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション、アルファベ、つづり字の読み方  
 第 2 回 ・ 1 課(1)「自己紹介する」 名前・国籍・出身地を言う  
 ・ フランス文化：世界の中のフランス語  
 第 3 回 ・ 1 課(2)文法：主語人称代名詞、国籍を表す形容詞、動詞 *être*、1～10 までの数字  
 ・ 自己紹介をしてみよう(1)  
 第 4 回 ・ 2 課(1)「人について語る」 職業・住んでいる場所・話せる言語を言う  
 ・ フランス文化：フランスのクール・ジャパン  
 第 5 回 ・ 2 課(2)文法：-er 動詞、職業名、女性形の作り方、否定文、11～20 までの数字  
 ・ 数字でゲームをしよう  
 第 6 回 ・ 3 課(1)「持ち物についてたずねる」 年齢の言い方、名詞の性・数  
 ・ フランス文化：パリのカルティエ  
 第 7 回 ・ 3 課(2)文法：動詞 *avoir*、不定冠詞、疑問文の作り方、否定の *de*、人称代名詞の強勢形  
 ・ 自己紹介をしよう(2)  
 第 8 回 中間テスト、DVD 鑑賞  
 第 9 回 ・ 4 課(1)「好き嫌いを言う」 定冠詞、好き嫌いの度合い  
 ・ フランス文化：フランスのマルシェ  
 第 10 回 ・ 4 課(2)文法：動詞 *faire*, *sortir*、形容詞の性・数、21～59 までの数字  
 ・ 好き嫌いについて話してみよう  
 第 11 回 ・ 5 課(1)「行き先を言う」 動詞 *aller*, *venir*、前置詞と定冠詞の縮約  
 ・ フランス文化：フランスの交通事情・パリの鉄道の

駅

- 第 12 回 ・ 5 課(2)文法：中性代名詞 *y*、さまざまな交通手段、60～99 までの数字  
 ・ よく行く場所と交通手段について話してみよう  
 第 13 回 ・ 6 課(1)「家族を紹介する」 家族の言い方、所有形容詞  
 ・ フランス文化：フランスの世界遺産  
 第 14 回 6 課(2)文法：動詞 *connaître*, *voir*、直接目的補語人称代名詞、100～999 までの数字  
 ・ 家族を説明してみよう  
 第 15 回 前期のまとめ、DVD 鑑賞

## 成績評価の方法

以下の基準で成績を評価します。  
 宿題・プリントなどの提出物、小テスト、発音練習やペア・グループ作業などの授業への参加態度：25%  
 中間テスト・期末テスト（主に文法力・読解力・聞き取り力を測定する筆記によるテスト形式）：75%

## 履修にあたっての注意

出席と、授業への参加態度を重視します。「一緒に」頑張りましょう。  
 外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかりと行うよう心がけてください。

## 教科書

北村 亜矢子、他『新・オン プラティック！—使える・発音せるフランス語—』（朝日出版社、2017 年、ISBN：978-4-255-35274-9）

## 教科書・参考書に関する備考

辞書や参考書については授業にて紹介します。

06522

## 初級フランス語 B I

担当教員：竹内 修一

1 単位 前期

### 授業のねらい

◎フランス語の基礎を学ぶ  
フランス語の文法事項だけの知識を習得しても、数年語には忘れ去ってしまうでしょう。  
そうではなくて、学生の皆さんには、フランス語のみならず、フランス文化一般に興味をもっていただきたい。  
その意味で、教科書は文法事項だけが羅列してあるものではなく、映像を使用したものを採用します。

### 到達目標

一年間で、教科書を終えることを目標とします。

### 授業方法

教科書の各章では、平易な会話表現をもとに、文法事項を学ぶという体裁になっています。  
各章ごとの進め方は次のとおりです。まず全員でDVDを見た後、教師が文法事項の説明を行います。  
そのあとフランス語で書かれた対話部分を学生の皆さんが読みあげ、和訳します。  
最後に練習問題を解いてもらいます。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：日本語の中のフランス語
- 第2回 Leçon 0 + Leçon 1 自己紹介する  
主語人称代名詞、動詞 être の活用、国籍を表す形容詞
- 第3回 Leçon 0 + Leçon 1 自己紹介する（続き）  
主語人称代名詞、動詞 être の活用、国籍を表す形容詞
- 第4回 Leçon 2 物を指し示す  
名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce、形容詞の性・数の一致と位置
- 第5回 Leçon 2 物を指し示す（続き）  
名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce、形容詞の性・数の一致と位置
- 第6回 Leçon 3 尋ねる  
規則動詞 (-er) 動詞の活用、定冠詞、疑問文
- 第7回 Leçon 3 尋ねる（続き）  
規則動詞 (-er) 動詞の活用、定冠詞、疑問文
- 第8回 Leçon 4 買い物をする  
指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用、否定文
- 第9回 Leçon 4 買い物をする（続き）  
指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用、否定文
- 第10回 Leçon 5 物や人について尋ねる  
動詞 aller と近接未来、疑問代名詞 que, qui、不規則動詞 faire, partir
- 第11回 Leçon 5 物や人について尋ねる（続き）  
動詞 aller と近接未来、疑問代名詞 que, qui、不規則動詞 faire, partir
- 第12回 Leçon 6 場所を尋ねる  
所有形容詞、疑問形容詞
- 第13回 Leçon 6 場所を尋ねる（続き）  
所有形容詞、疑問形容詞
- 第14回 Leçon 7 ～したいと言う  
人称代名詞の強勢形、指示代名詞 celui, il y a と je voudrais の表現
- 第15回 Leçon 7 ～したいと言う（続き）  
人称代名詞の強勢形、指示代名詞 celui, il y a と je voudrais の表現

### 成績評価の方法

試験（70%）、授業への参加状況（30%）により評価する。  
余りに欠席が多い場合は、成績評価の対象としない。

### 履修にあたっての注意

はじめてフランス語を学ぶのであれば、まず最初が肝心です。  
初期の授業で行う、発音の説明や、辞書の紹介等はとくに注意して聞いてください。

### 教科書

藤田裕二『パリ-ボルドー』（朝日出版社）

### 教科書・参考書に関する備考

辞書等については授業中に指示する

## 授業のねらい

初級フランス語 B II では、前期同様に基礎的な文法学習とともに、「聞く」「話す」「読む」「書く」のさまざまなタイプの練習をバランスよく行うことによって、さらに上のレベルのフランス語コミュニケーション力を取得することを目指します。特に後半では、過去時制の学習に重点を置き、フランス語運用力の幅を広げることをねらいとしています。

## 到達目標

1. 初級フランス語 B II では、前期で学んだ最初歩の文法とともに、さらに進んだフランス語コミュニケーション力習得を目指していきます。多様なシチュエーションに対応できる基礎力をしっかりと身につけていくことで、自分自身のフランス語運用能力を高めていきます。
2. 初級フランス語 B II 終了時には、実用フランス語検定 5 級合格レベル以上の文法力を習得することを目指しています。

## 授業方法

初級フランス語 B II では、前期で身につけたフランス語をさらにレベルアップしていきます。後期では基礎的な文法学習はもちろんのこと、教科書の会話文やアクティビティを通じて、さらに実践的なフランス語を学習していきます。前期同様、授業での発音練習やペア・グループ作業などにしっかりと取り組む姿勢が必要とされます。定期的に宿題プリントが課されます。宿題プリントや提出物は添削して返却し、授業内に解説します。また、教科書各課終了後には小テストを実施し、学習内容の定着を目指します。

毎回の授業終了時に次回の学習箇所を指示します。予習として教科書に目を通し（所要時間目安 30 分ほど）、復習は当日の学習箇所を教科書・ノート等にて確認すること（所要時間目安 45～60 分ほど）；予復習については初回授業時に具体的に説明します。

## 授業計画

- 第 1 回 ・前期の復習：「日付を言う」～祝日、誕生日を言ってみよう  
・フランス文化：フランスの暦
- 第 2 回 ・7 課(1)「食べ物・飲み物などをすすめる」 部分冠詞、動詞 prendre, vouloir, boire  
・フランス文化：フランス人の好きな食べ物、フランスのマルシェ
- 第 3 回 ・7 課(2)文法：中性代名詞 en, il y a ～、1000 以上の数字  
・レストランで注文しよう
- 第 4 回 ・8 課(1)「位置関係を示す」 場所を表す前置詞、前置詞と定冠詞の縮約(2)、色を表す形容詞  
・フランス文化：フランス人の好きなスイーツ
- 第 5 回 ・8 課(2)文法：動詞 mettre, savoir、命令文  
・命令文を使って家具を配置してみよう
- 第 6 回 ・9 課(1)「贈り物の相談をする」 動詞 offrir, croire、指示形容詞  
・フランス文化：フランスの地方都市
- 第 7 回 ・9 課(2)文法：間接目的補語人称代名詞、主語 on  
・誕生日プレゼントの相談をしよう
- 第 8 回 中間テスト、DVD 鑑賞
- 第 9 回 ・10 課(1)「過去の行為、出来事を語る 1」 助動詞 avoir を用いた複合過去  
・曜日、時を表す表現  
・スケジュール帳を埋めてみよう
- 第 10 回 ・10 課(2) 助動詞 avoir を用いた複合過去～昨日したことを言ってみよう  
・フランス文化：マンガでフランス語
- 第 11 回 ・11 課(1)「過去の行為、出来事を語る 2」 助動詞 être を用いた複合過去

- ・時刻の表現
  - ・昨日したことを時間ごとに言ってみよう
- 第 12 回 ・11 課(2) 助動詞 être を用いた複合過去～先週何をしましたか？  
・フランス文化：フランスの音楽
- 第 13 回 ・12 課(1)「過去の状態や習慣、感想を述べる」 半過去  
・天候の表現  
・さまざまな感想を言ってみよう
- 第 14 回 ・12 課(2) 複合過去と半過去の使い分け  
・過去時制のまとめ、テスト対策
- 第 15 回 前期のまとめ、DVD 鑑賞

## 成績評価の方法

以下の基準で成績を評価します。  
宿題・プリントなどの提出物、小テスト、発音練習やペア・グループ作業などの授業への参加態度：25%  
中間テスト、期末テスト（主に文法力・読解力・聞き取り力を測定する筆記によるテスト形式）：75%

## 履修にあたっての注意

履修者は、この授業の内容が前期の初級フランス語 B 1 の後継授業となっていることに注意してください。外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかり行うよう心がけてください。

## 教科書

北村 亜矢子、他『新・オン プラティック！—使える・発音せる フランス語—』（朝日出版社、2017 年、ISBN：978-4-255-35274-9）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書等については授業内で随時紹介します。



06532

初級フランス語 B II

担当教員：竹内 修一

1 単位 後期

授業のねらい

◎フランス語の基礎を学ぶ  
フランス語の文法事項だけの知識を習得しても、数年語には忘れ去ってしまうでしょう。  
そうではなくて、学生の皆さんには、フランス語のみならず、フランス文化一般に興味をもっていただきたい。  
その意味で、教科書は文法事項だけが羅列してあるものではなく、映像を使用したものを採用します。

到達目標

一年間で、教科書を終わることを目標とします。

授業方法

教科書の各章では、平易な会話表現をもとに、文法事項を学ぶという体裁になっています。  
各章ごとの進め方は次のとおりです。まず全員でDVDを見た後、教師が文法事項の説明を行います。  
そのあとフランス語で書かれた対話部分を学生の皆さんが読みあげ、和訳します。  
最後に練習問題を解いてもらいます。

授業計画

- 第1回 Leçon 8 興味を述べる  
定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 第2回 Leçon 8 興味を述べる (続き)  
定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 第3回 Leçon 9 誘う  
代名動詞、中性代名詞 y、動詞 vouloir
- 第4回 Leçon 9 誘う (続き)  
代名動詞、中性代名詞 y、動詞 vouloir
- 第5回 Leçon 10 天候と時刻を言う  
非人称構文、命令法、感嘆文
- 第6回 Leçon 10 天候と時刻を言う (続き)  
非人称構文、命令法、感嘆文
- 第7回 Leçon 11 数量を表す  
部分冠詞、中性代名詞 en、数量の表現
- 第8回 Leçon 11 数量を表す (続き)  
部分冠詞、中性代名詞 en、数量の表現
- 第9回 Leçon 12 比較する  
比較級、単純未来
- 第10回 Leçon 12 比較する (続き)  
比較級、単純未来
- 第11回 Leçon 13 過去のことを話す  
複合過去、半過去
- 第12回 Leçon 13 過去のことを話す (続き)  
複合過去、半過去
- 第13回 Leçon 14 仮定する  
条件法現在、接続法現在
- 第14回 Leçon 14 仮定する (続き)  
条件法現在、接続法現在
- 第15回 試験・まとめ

成績評価の方法

試験 (70%)、授業への参加状況 (30%) により評価する。  
余りに欠席が多い場合は、成績評価の対象としない。

履修にあたっての注意

はじめてフランス語を学ぶのであれば、まず最初が肝心です。  
初期の授業で行う、発音の説明や、辞書の紹介等とはくに注意して聞いてください。

教科書

藤田裕二『パリ-ボルドー』(朝日出版社)

教科書・参考書に関する備考

辞書等については授業中に指示する

06601

初級中国語 A I

担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 前期

授業のねらい

本講義では中国語の基礎を身につけることを目的として  
(1)基本文型によって基本的な文法事項を学ぶ。  
(2)音読を最大限に行ない、正確で自然な発音を習得する。  
(3)実践的な会話練習を多くして、中国語で話すことに慣れる。

到達目標

前期はとにかく発音表記のピンインに慣れる。正しく読める同時に、発音を聞いてピンインで書ける。

授業方法

原則として、1 課につき 2 回で学ぶ。1 回目は文法事項と新出単語を説明してから、本文を繰り返して暗記できるほど音読する。2 回目はサイコロを用いたゲーム形式で会話の応用練習をするほか、リスニング問題も解く。  
ほぼ毎回の授業の最初に 10 分間ほどの小テストがありますので、指定された範囲を必ず復習してください。

授業計画

- 第1回 発音編 1 声調  
第1課「お元気ですか」 形容詞述語文 1
- 第2回 発音編 2 母音  
第1課「お元気ですか」 形容詞述語文 2
- 第3回 発音編 3 子音  
第2課「どこへ行きますか」・「どこにいますか」動詞述語文 (一) 1
- 第4回 第2課「どこへ行きますか」「どこにいますか」動詞述語文 (一) 2
- 第5回 第3課「ご飯を食べましょう」 動詞述語文 (二) 選択疑問文  
本文
- 第6回 第3課「ご飯を食べましょう」 動詞述語文 (二) 選択疑問文  
練習
- 第7回 復習
- 第8回 中間試験
- 第9回 第4課「こちらはどなたですか」「是」動詞述語文 (三)
- 第10回 第4課「こちらはどなたですか」「是」動詞述語文 (三) 練習
- 第11回 第5課「部屋には何がありますか」「有」動詞述語文 (四) 本文
- 第12回 第5課「部屋には何がありますか」「有」動詞述語文 (四) 練習
- 第13回 第6課「パンを2つください」数詞と量詞  
本文
- 第14回 第6課「パンを2つください」数詞と量詞  
練習
- 第15回 音読試験

成績評価の方法

平常点 (小テスト) 50% 中間試験 25% 期末試験 25%

履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発言すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

教科書

ケイ玉芝『ほあんいん中国語 (会話篇) 改訂版』(郁文堂、2017、ISBN : 978-4-261-01879-0)

06602

## 初級中国語 A I

担当教員：云 肖梅

## 1 単位 前期

## 授業のねらい

この授業は、中国語の発音や文法を基礎から学び、漢字に偏って目で「分かる」中国語ではなく、声調や発音を重視する「話せる」実践的な中国語の習得を目指すものです。日常生活場面を提示し、会話の形で基本文型を理解させ、基礎的な語彙や文法表現を身につけた上で、さらに繰り返して練習することによって応用能力を高めます。

## 到達目標

1. 中国語の発音表記を正確に読めます。
2. 中国語の基本文型や基本表現ができます。

## 授業方法

原則として、テキストの一課につき、授業二回にわたって進行します。一回目は基本文型を習得し、二回目は応用会話や練習問題を取り組みます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス 発音篇一 四声と轻声  
 第2回 発音篇二 韻母と声母  
 第3回 発音のまとめ  
 第4回 第1課 お元気ですか？ 人称代名詞 形容詞述語文  
 基本文型  
 第5回 基本文型 応用練習  
 第6回 第2課 どこにいますか？どこに行きますか？ 動詞  
 述語文（一） 疑問文のいろいろ  
 基本文型  
 第7回 応用会話 応用練習  
 第8回 中間テスト  
 第3課 ご飯を食べましょう。 動詞述語文（二） 選  
 択疑問文 連動文  
 基本文型  
 第9回 応用会話 応用練習  
 第10回 第4課 この方はどなたですか？ これは何ですか  
 動詞述語文（三） 名詞述語文  
 基本文型  
 第11回 応用会話 応用練習  
 第12回 第5課 部屋の中に何がありますか？ 動詞述語文  
 （四） 存現文 方位詞  
 基本文型  
 第13回 応用会話 応用練習  
 第14回 第6課 私はパンを二つ買います。 数詞 金額の言  
 い方 量詞  
 基本文型  
 第15回 応用会話 応用練習

## 成績評価の方法

中間テスト（40%）、期末試験（40%）、授業への参加（20%）、により評価する。

「授業への参加状況」とは、単なる出席状況ではなく、発音や会話練習への参加状況をも加味します。なお、中国文化や情勢に関心を持つことをも評価する。

## 履修にあたっての注意

授業に出席することが重視される。授業中積極的に発音練習することが望ましい。

## 教科書

ケイ玉芝『ほあんいん！中国語〈会話篇〉』（郁文堂、2017年、ISBN：978-4-261-01879-0）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書などの資料は随時配布。



06603

## 初級中国語 A I

担当教員：森若 裕子

1 単位 前期

### 授業のねらい

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。  
「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。  
場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。

### 到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようになる。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 場面に即した基本的な会話文を話せるようにする。

### 授業方法

原則として教科書の1課を2回の授業で学ぶ。1回目の授業は新出単語と文法の学習を中心に行い、2回目の授業では単語と会話文がしっかり定着するようにクイックレスポンスを行う。さらに練習問題を解き、応用力を身につける。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：中国語の特徴（簡体字と繁体字、声調、ピンインと音節）、中国語圏における言語環境  
教科書第1課：発音（母音）
- 第2回 教科書第1課：発音（声調、母音、単母音、複母音、鼻母音）
- 第3回 教科書第2課：発音（子音）
- 第4回 教科書第2課：発音（子音、発音の変化、ピンインのルール）
- 第5回 教科書第2課：発音  
数字、挨拶言葉
- 第6回 教科書第3課：テーマ「中国人留学生」との出会い  
動詞「是」、名前の聞き方と答え方、年齢
- 第7回 教科書第3課：応用練習
- 第8回 教科書第4課：テーマ「コンビニ」で買物  
存在を表す動詞「在」、動詞「来（来る）」「去（行く）」、何を買う
- 第9回 教科書第4課：応用練習
- 第10回 教科書第5課：テーマ「学食」でメニューを選ぶ  
形容詞、どうですか、省略疑問文
- 第11回 教科書第5課：応用練習
- 第12回 教科書第6課：テーマ「午後の予定」について話す  
日付・曜日・時刻、存在と所有を表す「有」、量詞
- 第13回 教科書第6課：応用練習
- 第14回 教科書第7課：テーマ「小説それとも漫画？」本屋での会話  
反復疑問文、選択疑問文、理由の聞き方と答え方
- 第15回 教科書第7課：応用練習

### 成績評価の方法

到達目標1「基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようになる」の達成度を測定する期末テスト（60%）、到達目標2「ピンインの読み書きをマスターする」の達成度を測定する小テスト（20%）、授業への参加状況（20%）から到達目標3「場面に即した基本的な会話文を話せるようにする」の達成度を測定することにより評価する。

### 履修にあたっての注意

定期的に小テストを行うので、どのくらい理解できているかを自分自身で確認し、弱点を克服する学習を意識的に行うこと。事前、事後学習として、毎日10分以上を目安に本文のシャドウイングを行い、最終的に暗記すること。

### 教科書

佐藤醇・工藤真理子『ここから中国語』（白帝社、2017、ISBN：9784863982598）

### 参考書

札幌中国語工房『中国語でPERAPER 北海道』（北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528）

06604

## 初級中国語 A I

担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 前期

## 授業のねらい

- 本講義では中国語の基礎を身につけることを目的として
- (1)基本文型によって基本的な文法事項を学ぶ。
  - (2)音読を最大限に行ない、正確で自然な発音を習得する。
  - (3)実践的な会話練習を多くして、中国語で話すことに慣れる。

## 到達目標

前期はとにかく発音表記のピンインに慣れる。正しく読める同時に、発音を聞いてピンインで書ける。

## 授業方法

原則として、1 課につき 2 回で学ぶ。1 回目は文法事項と新出単語を説明してから、本文を繰り返して暗記できるほど音読する。2 回目はサイコロを用いたゲーム形式で会話の応用練習をするほか、リスニング問題も解く。

ほぼ毎回の授業の最初に 10 分間ほどの小テストがありますので、指定された範囲を必ず復習してください。

## 授業計画

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | 発音編 1 声調<br>第 1 課「お元気ですか」 形容詞述語文 1                |
| 第 2 回  | 発音編 2 母音<br>第 1 課「お元気ですか」 形容詞述語文 2                |
| 第 3 回  | 発音編 3 子音<br>第 2 課「どこへ行きますか」・「どこにいますか」 動詞述語文 (一) 1 |
| 第 4 回  | 第 2 課「どこへ行きますか」 「どこにいますか」 動詞述語文 (一) 2             |
| 第 5 回  | 第 3 課「ご飯を食べましょう」 動詞述語文 (二) 選択疑問文<br>本文            |
| 第 6 回  | 第 3 課「ご飯を食べましょう」 動詞述語文 (二) 選択疑問文<br>練習            |
| 第 7 回  | 復習  |
| 第 8 回  | 中間試験  |
| 第 9 回  | 第 4 課「こちらはどなたですか」「是」 動詞述語文 (三)                    |
| 第 10 回 | 第 4 課「こちらはどなたですか」「是」 動詞述語文 (三)<br>練習              |
| 第 11 回 | 第 5 課「部屋には何がありますか」「有」 動詞述語文 (四)<br>本文             |
| 第 12 回 | 第 5 課「部屋には何がありますか」「有」 動詞述語文 (四)<br>練習             |
| 第 13 回 | 第 6 課「パンを 2 つください」 数詞と量詞<br>本文                    |
| 第 14 回 | 第 6 課「パンを 2 つください」 数詞と量詞<br>練習                    |
| 第 15 回 | 音読試験・まとめ  |

## 成績評価の方法

平常点 (小テスト) 50% 中間試験 25% 期末試験 25%

## 履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発言すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

## 教科書

ケイ玉芝『ほあんいん中国語 (会話篇) 改訂版』(郁文堂、2017、ISBN : 978-4-261-01879-0)

06611

## 初級中国語 A II

担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 後期

## 授業のねらい

- 本講義では中国語の基礎を身につけることを目的として
- (1)基本文型によって基本的な文法事項を学ぶ。
  - (2)音読を最大限に行ない、正確で自然な発音を習得する。
  - (3)実践的な会話練習を多くして、中国語で話すことに慣れる。

## 到達目標

基本的な文法を理解したうえ、日常生活に於いて出番の多い語彙 (300 個前後) を応用して会話することができる。

## 授業方法

原則として、一課につき 2 回で学ぶ。1 回目は文法事項と新出単語を説明してから、本文を繰り返して暗記できるほど音読する。2 回目はサイコロを用いたゲーム形式で会話の応用練習をするほか、リスニング問題も解く。ほぼ毎回の授業の最初に 10 分間ほどの小テストがありますので、指定された範囲を必ず復習してください。

## 授業計画

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 回  | 第 7 課「私は 11 時に寝る。4 時間寝る」 時点と時量<br>補語<br>本文        |
| 第 2 回  | 第 7 課「私は 11 時に寝る。4 時間寝る」 時点と時量<br>補語<br>練習        |
| 第 3 回  | 第 8 課「私は 4 回音読をした」 時態助詞「了」と語気<br>助詞「了」と動量補語<br>本文 |
| 第 4 回  | 第 8 課「私は 4 回音読をした」 時態助詞「了」と語気<br>助詞「了」と動量補語<br>練習 |
| 第 5 回  | 第 9 課「私は運転できる」 助動詞「会」と様態補語<br>本文                  |
| 第 6 回  | 第 9 課「私は運転できる」 助動詞「会」と様態補語<br>練習                  |
| 第 7 回  | 音読テスト   |
| 第 8 回  | 中間試験  |
| 第 9 回  | 第 10 課「私は新幹線に乗ったことある」時態助詞「過」<br>と結果補語<br>本文       |
| 第 10 回 | 第 10 課「私は新幹線に乗ったことある」時態助詞「過」<br>と結果補語<br>練習       |
| 第 11 回 | 第 11 課「重くて運べない」 方向補語と可能補語<br>本文                   |
| 第 12 回 | 第 11 課「重くて運べない」 方向補語と可能補語<br>練習                   |
| 第 13 回 | 第 12 課「自転車で行ったのだ」 “是・・・的” 構文<br>本文                |
| 第 14 回 | 第 12 課「自転車で行ったのだ」 “是・・・的” 構文<br>練習                |
| 第 15 回 | 音読テスト・まとめ   |

## 成績評価の方法

平常点 (小テスト) 50% 中間試験 25% 期末試験 25%

## 履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発言すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

## 教科書

ケイ玉芝『ほあんいん中国語 (会話篇) 改訂版』(郁文堂、2017、ISBN : 978-4-261-01879-0)

06612

## 初級中国語 A II

担当教員：云 肖梅

1 単位 後期

### 授業のねらい

この授業は、中国語の発音や文法を基礎から学び、漢字に偏って目で「分かる」中国語ではなく、声調や発音を重視する「話せる」実践的な中国語の習得を目指すものです。日常生活場面を提示し、会話の形で基本文型を理解させ、基礎的な語彙や文法表現を身につけた上で、さらに繰り返して練習することによって応用能力を高めます。

### 到達目標

1. 中国語の発音表記を正確に読めます。
2. 中国語の基本文型や基本表現ができます。

### 授業方法

原則として、テキストの一课につき、授業二回にわたって進行します。一回目は基本文型を習得し、二回目は応用会話や練習問題を取り組みます。

### 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第7課 私は11時に寝ます。 時点を表すことば 時間を表すことば 時量  
基本文型
- 第3回 応用会話 応用練習
- 第4回 第8課 私はテキストを四回読みました。 時態助詞の「了」 動量補語  
基本文型
- 第5回 応用会話 応用練習
- 第6回 第9課 私は運転できる。 助動詞「会」「能」「要」  
様態補語  
基本文型
- 第7回 応用会話 応用練習
- 第8回 中間テスト
- 第9回 第10課 私は新幹線に乗ったことがあります。 助動詞「想」 結果補語  
基本文型
- 第10回 応用練習
- 第11回 第11課 私は読み取れません。 可能補語 方向補語  
動詞の重ね型  
基本文型
- 第12回 応用会話 応用練習
- 第13回 第12課 彼は昨日行ったのです。「是…的」構文  
基本文型
- 第14回 応用会話 応用練習
- 第15回 復習

### 成績評価の方法

中間テスト (40%)、期末試験 (40%)、授業への参加 (20%)、により評価する。  
「授業への参加状況」とは、単なる出席状況ではなく、発音や会話練習への参加状況をも加味します。なお、中国文化や情勢に関心を持つことをも評価する。

### 履修にあたっての注意

授業に出席することが重視される。授業中積極的に発音練習することが望ましい。

### 教科書

ケイ玉芝『ほあんいん！中国語〈会話篇〉』（郁文堂、2017年、ISBN：978-4-261-01879-0）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書などの資料は随時配布。

06613

## 初級中国語 A II

担当教員：森若 裕子

1 単位 後期

### 授業のねらい

中国語の特徴を理解し、全体像をつかめるようにする。  
 「聞く、話す、読む、書く」能力を同時に身につけることで、中国語学習の基礎を築く。  
 場面に即して簡単な受け答えをできるようにすることで、中華圏の人とのコミュニケーション能力を養う。

### 到達目標

1. 基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようになる。
2. 発音を一通り学び、ピンインの読み書きをマスターする。
3. 場面に即した基本的な会話文を話せるようにする。

### 授業方法

原則として教科書の1課を2回の授業で学ぶ。ただし14課と15課は合わせて3回で学ぶ。1回目の授業は新出単語と文法の学習を中心にを行い、2回目の授業では単語と会話文がしっかり定着するようにクイックレスポンスを行う。さらに練習問題を解き、応用力を身につける。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、前期の復習  
教科書第8課：テーマ「サッカーの試合」に誘う  
連動文、副詞「都」「也」
- 第2回 教科書第8課：応用練習
- 第3回 教科書第9課：テーマ「テレビゲーム」をしている最中の会話  
現在進行していることを表す副詞「在」、副詞「再」、動詞の重ね型
- 第4回 教科書第9課：応用練習
- 第5回 教科書第10課：テーマ「アルバイト」について尋ねる  
介詞「在」(~で…する)、介詞「离」、~から…まで
- 第6回 教科書第10課：応用練習
- 第7回 教科書第11課：テーマ「水泳」についての能力  
助動詞「会」(~できる)、比較、助動詞「能」(~できる)
- 第8回 教科書第11課：応用練習
- 第9回 教科書第12課：テーマ「王先生の家」への行き方を尋ねる  
「怎么+動詞」(どのように~するか)、介詞「给」(~に)、二重目的語
- 第10回 教科書第12課：応用練習
- 第11回 教科書第13課：テーマ「中国行き」の話題  
文末助詞「了」(~になった)、助動詞「想」(~したい)、アスペクト助詞「过」(~したことがある)
- 第12回 教科書第13課：応用練習
- 第13回 教科書第14課：テーマ「買い物」  
お金の表現、商品の値段、値引きを求める表現
- 第14回 教科書第14課：応用練習  
教科書第15課：テーマ「自己紹介」  
時間量補語、誕生日、居住地・出身地
- 第15回 教科書第15課：応用練習

### 成績評価の方法

到達目標1「基本文型を理解し、聞き取り、読み書きができるようになる」の達成度を測定する期末テスト(60%)、到達目標2「ピンインの読み書きをマスターする」の達成度を測定する小テスト(20%)、授業への参加状況(20%)から到達目標3「場面に即した基本的な会話文を話せるようにする」の達成度を測定することにより評価する。

### 履修にあたっての注意

定期的に小テストを行うので、どのくらい理解できているかを

自分自身で確認し、弱点を克服する学習を意識的に行うこと。  
事前、事後学習として、毎日10分以上を目安に本文のシャドウイングを行い、最終的に暗記すること。

### 教科書

佐藤醇・工藤真理子『ここから中国語』(白帝社、2017、ISBN：9784863982598)

### 参考書

札幌中国語工房『中国語でPERAPERA 北海道』(北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528)



06614

初級中国語 A II

担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 後期

授業のねらい

- 本講義では中国語の基礎を身につけることを目的として  
 (1)基本文型によって基本的な文法事項を学ぶ。  
 (2)音読を最大限に行ない、正確で自然な発音を習得する。  
 (3)実践的な会話練習を多くして、中国語で話すことに慣れる。

到達目標

基本的な文法を理解したうえ、日常生活に於いて出番の多い語彙(300個前後)を応用して会話することができる。

授業方法

原則として、一課につき2回で学ぶ。1回目は文法事項と新出単語を説明してから、本文を繰り返して暗記できるほど音読する。2回目はサイコロを用いたゲーム形式で会話の応用練習をするほか、リスニング問題も解く。ほぼ毎回の授業の最初に10分間ほどの小テストがありますので、指定された範囲を必ず復習してください。

授業計画

- 第1回 第7課「私は11時に寝る。4時間寝る」時点と時量補語  
本文
- 第2回 第7課「私は11時に寝る。4時間寝る」時点と時量補語  
練習
- 第3回 第8課「私は4回音読をした」時態助詞「了」と語気助詞「了」と動量補語  
本文
- 第4回 第8課「私は4回音読をした」時態助詞「了」と語気助詞「了」と動量補語  
練習
- 第5回 第9課「私は運転できる」助動詞「会」と様態補語  
本文
- 第6回 第9課「私は運転できる」助動詞「会」と様態補語  
練習
- 第7回 音読テスト
- 第8回 中間試験
- 第9回 第10課「私は新幹線に乗ったことがある」時態助詞「過」と結果補語  
本文
- 第10回 第10課「私は新幹線に乗ったことがある」時態助詞「過」と結果補語  
練習
- 第11回 第11課「重くて運べない」方向補語と可能補語  
本文
- 第12回 第11課「重くて運べない」方向補語と可能補語  
練習
- 第13回 第12課「自転車で行ったのだ」“是・・・的”構文  
本文
- 第14回 第12課「自転車で行ったのだ」“是・・・的”構文  
練習
- 第15回 音読テスト・まとめ

成績評価の方法

平常点(小テスト)50% 中間試験25% 期末試験25%

履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発言すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

教科書

ケイ玉芝『はあんいん中国語(会話篇)改訂版』(郁文堂、2017、ISBN:978-4-261-01879-0)

06621

初級中国語 B I

担当教員：胡 耀光

1 単位 前期

授業のねらい

初心者を対象とする講座です。  
 中国語特有の難しい発音のポイント(コツ)と文法を学べ、基本的な語彙と文型を覚え、簡単な日常会話と読み書きができるように丁寧に指導を行い、いろいろな練習をしながら中国語の基礎を取得することを目指します。

到達目標

1. 中国語発音の特徴、基本的な文法を理解し、身に付ける。
2. 中国語でご挨拶、自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになること。
3. 中国語検定4級レベルに達すること。

授業方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき二回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習をする。
- ・講義やDVDなどを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発音(一):(1)声調 (2)単母音
- 第3回 発音(二):(1)複母音 (2)子音
- 第4回 発音(三):(1)鼻母音 (2)声調変化
- 第5回 発音(四):復習と応用練習(数字の数え方など) 発音単元テスト
- 第6回 第一課:校門で (1)人称代名詞 (2)「是」の判断文
- 第7回 校門で トレーニング1
- 第8回 第二課:廊下で (1)動詞述語文 (2)疑問詞疑問文
- 第9回 廊下で トレーニング2
- 第10回 第三課:キャンパスで (1)指示代名1 (2)形容詞述語文 (3)語気助詞など
- 第11回 キャンパスで トレーニング3
- 第12回 第四課:携帯を見ながら (1)所有を表す“有” (2)反復疑問文 (3)数詞
- 第13回 携帯を見ながら トレーニング4
- 第14回 第五課:学生食堂で (1)指示代名詞2 (2)所有を表す“有” (3)副詞“也”と“都”など
- 第15回 学生食堂でトレーニング5  
DVDで中国文化の紹介

成績評価の方法

- ・平常点:10%(出席状況+学習態度)
- ・小テスト:20%
- ・発音単元テスト:10%
- ・期末テスト:60%

履修にあたっての注意

- ・出席を重視すること。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

教科書

喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして中国語』(白水社、2008、ISBN:978-4-560-06921-9)

参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社、1996、ISBN:4-8102-0034-5)

06622

## 初級中国語 B I

担当教員：大沼 尚子

## 1 単位 前期

## 授業のねらい

本授業では中国語の基礎語彙・文法を学び、初歩的な中国語でコミュニケーションができるようになることを目的とします。

この授業を選択するみなさんは“中国語を学ぶのは初めて”という人がほとんどではないかと思います。日ごろから漢字に接している日本人にとって、中国語は、眺めていると何となく意味がわかることもあり、なじみやすい言語かもしれません。ただし同じ漢字でも日本とは発音が異なり、中には日本語にはない発音もあります。また、“四声”とよばれる四種類の抑揚のある声調もあります。漢字だけではその文字のもつ音はわかりませんので、発音はピンインとよばれるローマ字で表記されます。中国語の学習はまずピンインとそれで表される発音を学ぶことから始まります。ピンインと発音を正しく習得することが本授業の目標のひとつでもあります。

テキストは会話を中心としたテキストで、課ごとに基本文法を学んでいきます。その上で、テキストに出てきた単語と文型を運用して中国語で表現ができるように、読む・書く・聞く・話す練習をします。

## 到達目標

1. ピンイン・発音の習得、基本語彙・文法の習得。
2. 基本的な中国語の運用ができる。

## 授業方法

前期のテーマ：[正確な発音＋一定量の語彙＋基本文型]の習得 初めの発音編では、正確な発音を目指して反復練習します。次に、発音と同時に、イントネーションやリズムを先生にまねて何度も口にし、まずは発音としての中国語になじみます。

ピンイン・発音の習得、第9課までに出てくる基本語彙・文法の習得。

それらを基礎とした運用（作文、読解、コミュニケーション）ができるようになること。

まず初めの数時間でピンイン・発音を学びます。その後、会話を中心としたテキストで、基礎語彙と文法を学んでいきます。テキスト第8課まで進む予定です。授業の最終日に試験を行います。

読解力と同時に会話力を身につけるためには、文字による理解に頼るだけでなく、音声による練習－耳で聞き、口で発音する練習が欠かせません。暗記、聞き取り、会話練習など、授業では音声による練習を行います。また、文法・単語の定着を図るため適宜小テストを行います。

## 授業計画

第1回	第1課	中国語とは・発音1	声調と単母音
第2回	第2課	発音2	子音
第3回	第3課	発音3	複母音
第4回	第4課	発音4	鼻母音
第5回	第5課	発音上のルール	
第6回		発音の総復習	
第7回	第6課	自己紹介	人称代詞、判断文、動詞述語文、名前の言い方
第8回	第6課	実践練習	会話文の練習
第9回	第7課	星座	星座と年齢、月日と曜日、指示代詞、連体修飾語“的”
第10回	第7課	実践練習	会話文の練習
第11回	第8課	家族構成	動詞“有”、量詞、家族の人数と構成、形容詞述語文
第12回	第8課	実践練習	会話文の練習
第13回	第9課	通学	動詞“在”、介詞“离”、連動文、疑問詞
第14回	第9課	実践練習	

会話文の練習

第15回 第6課～第9課の総復習

## 成績評価の方法

試験 70% 小テスト 10% 成果発表 10% その他 10% 合計 100%

## 履修にあたっての注意

予習：テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。復習：その日の授業で習ったところの意味をよく考えながら音読しよう。ノートを見直そう。また、先生に積極的に質問していこう。小テストや定期考査前には、再度、復習する必要があるので取り組もう。

## 教科書

宮本大輔／温琳『中国語 Hop・Step・Jump』～三段式で学習する初級中国語～』（KINSEIDO、2016、ISBN：9784764707009）

## 参考書

相茂・石原田知子・戸沼市子『why?にこたえる初めての中国語の文法書』（同学社）



06623

## 初級中国語 B I

担当教員：趙 萌

1 単位 前期

### 授業のねらい

役に立つ中国語の基礎知識を身に付けることを目指す。

### 到達目標

中国語を学習する第一歩として、正しい中国語の発音を習得し、中国語の表音するローマ字（拼音）とアクセント（四声）を使いこなせるようになる。日常の挨拶が話せるようになる。

### 授業方法

テキストに沿って授業を進める。  
文法の基礎知識を教えると同時に中国語が話せることの楽しさを味わわせるため、特に会話の練習に力を注ぐ。

### 授業計画

- 第1回 発音入門(1) 母音（単母音、複母音、鼻母音）と中国語の挨拶
- 第2回 発音入門(2) 声母（有気音、無気音、そり舌音）と中国語の挨拶
- 第3回 発音入門(3) 声調（四声）、軽声、“r”化音と中国語の日常会話練習
- 第4回 “是”の述語文(1)と人称代名詞
- 第5回 “是”の述語文(2)と指示代名詞(1)
- 第6回 復習と中間テスト
- 第7回 行為動詞の述語文と指示代名詞(2)
- 第8回 形容詞の述語文（前半）と指示代名詞(3)
- 第9回 形容詞の述語文（後半）と疑問文のまとめ
- 第10回 数の数え方と時刻、年月日、曜日の表現
- 第11回 “是”を使わない名詞述語文と中間テスト
- 第12回 “有”の述語文（前半）と助数詞
- 第13回 “有”の述語文（後半）と“二、两”の区別
- 第14回 中国語の日常会話のまとめ
- 第15回 前期の総合復習

### 成績評価の方法

定期試験（80%）、授業への参加状況（10%）、宿題と小テスト（10%）を合わせて評価する。

### 履修にあたっての注意

連続性がある講義なので、とりわけ出席を重視する。それにほぼ毎回の講義ではプリントの練習を行い、宿題も課する。教科書についている会話編とコラムには、日本語のほかに英語も付き、中国語を勉強しながら英語にも触れることができる。

### 教科書

趙 萌 尾野 麻紀子『中国語でトライリンガルにチャレンジ』（白帝社）

### 参考書

『精選日中・中日辞典』（東方書店）

06624

## 初級中国語 B I

担当教員：趙 萌

1 単位 前期

### 授業のねらい

役に立つ中国語の基礎知識を身に付けることを目指す。

### 到達目標

中国語を学習する第一歩として、正しい中国語の発音を習得し、中国語の表音するローマ字（拼音）とアクセント（四声）を使いこなせるようになる。日常の挨拶が話せるようになる。

### 授業方法

テキストに沿って授業を進める。  
文法の基礎知識を教えると同時に中国語が話せることの楽しさを味わわせるため、特に会話の練習に力を注ぐ。

### 授業計画

- 第1回 発音入門(1) 母音（単母音、複母音、鼻母音）と中国語の挨拶
- 第2回 発音入門(2) 声母（有気音、無気音、そり舌音）と中国語の挨拶
- 第3回 発音入門(3) 声調（四声）、軽声、“r”化音と中国語の日常会話練習
- 第4回 “是”の述語文(1)と人称代名詞
- 第5回 “是”の述語文(2)と指示代名詞(1)
- 第6回 復習と中間テスト
- 第7回 行為動詞の述語文と指示代名詞(2)
- 第8回 形容詞の述語文（前半）と指示代名詞(3)
- 第9回 形容詞の述語文（後半）と疑問文のまとめ
- 第10回 数の数え方と時刻、年月日、曜日の表現
- 第11回 “是”を使わない名詞述語文と中間テスト
- 第12回 “有”の述語文（前半）と助数詞
- 第13回 “有”の述語文（後半）と“二、两”の区別
- 第14回 中国語の日常会話のまとめ
- 第15回 前期の総合復習

### 成績評価の方法

定期試験（80%）、授業への参加状況（10%）、宿題と小テスト（10%）を合わせて評価する。

### 履修にあたっての注意

連続性がある講義なので、とりわけ出席を重視する。それにほぼ毎回の講義ではプリントの練習を行い、宿題も課する。教科書についている会話編とコラムには、日本語のほかに英語も付き、中国語を勉強しながら英語にも触れることができる。

### 教科書

趙 萌 尾野 麻紀子『中国語でトライリンガルにチャレンジ』（白帝社）

### 参考書

『精選日中・中日辞典』（東方書店）

06631

## 初級中国語 B II

担当教員：胡 耀光

1 単位 後期

## 授業のねらい

「初級中国語 B I」の引き続き、中国語特有の難しい発音のポイント（コツ）と文法を学べ、基本的な語彙と文型を覚え、簡単な日常会話と読み書きができるように丁寧に指導を行い、いろいろな練習をしながら中国語の基礎を取得することを目指します。

## 到達目標

1. 中国語発音の特徴、基本的な文法を理解し、身に付ける。
2. 中国語でご挨拶、自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになること。
3. 中国語検定4級レベルに達すること。

## 授業方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき二回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習する。
- ・講義やDVDなどを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

## 授業計画

- 第1回 前学期の復習  
 第2回 第六課：王先生の研究室で (1)動詞“在” (2)動詞の重ね型 (3)時を表す語の位置  
 第3回 王先生の研究室でトレーニング6  
 第4回 第七課：コンビニで (1)量詞 (2)実現・完了を表す“了” (3)助動詞“想”  
 第5回 コンビニで トレーニング7  
 第6回 第八課：バス停で (1)連動文 (2)前置詞“在” (3)時刻の言い方など  
 第7回 バス停で トレーニング8  
 第8回 中間テスト  
 第9回 第九課：放課後に (1)助動詞“会”“能”“可以” (2)前置詞“給”など  
 第10回 放課後に トレーニング9  
 第11回 第十課：卓球の中継を見ながら (1)様態補語 (2)経験を表す表現 (3)比較を表す“比”など  
 第12回 卓球の中継を見ながら トレーニング10  
 第13回 第十一課：ディズニーランドで待ち合わせ (1)進行を表す“在” (2)方向補語 (3)選択疑問文  
 第14回 ディズニーランドで待ち合わせ トレーニング11  
 第15回 DVDで中国文化の紹介

## 成績評価の方法

- ・平常点：20%（出席状況＋学習態度＋小テスト）
- ・中間テスト：40%
- ・期末テスト：40%

## 履修にあたっての注意

- ・出席を重視すること
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと

## 教科書

喜多山幸子・鄭幸枝『はじめまして中国語』（白水社、2008、ISBN：978-4-560-06921-9）

## 参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社、1996、ISBN：4-8102-0034-5）

06632

## 初級中国語 B II

担当教員：大沼 尚子

## 1 単位 後期

## 授業のねらい

本授業では中国語の基礎語彙・文法を学び、初歩的な中国語でコミュニケーションができるようになることを目的とします。

この授業を選択するみなさんは“中国語を学ぶのは初めて”という人がほとんどではないかと思えます。日ごろから漢字に接している日本人にとって、中国語は、眺めていると何となく意味がわかることもあり、なじみやすい言語かもしれません。ただし同じ漢字でも日本とは発音が異なり、中には日本語にはない発音もあります。また、“四声”とよばれる四種類の抑揚のある声調もあります。漢字だけではその文字のもつ音はわかりませんので、発音はピンインとよばれるローマ字で表記されます。中国語の学習はまずピンインとそれで表される発音を学ぶことから始まります。ピンインと発音を正しく習得することが本授業の目標のひとつでもあります。

テキストは会話を中心としたテキストで、課ごとに基本文法を学んでいきます。その上で、テキストに出てきた単語と文型を運用して中国語で表現ができるように、読む・書く・聞く・話す練習をします。

## 到達目標

ピンイン・発音の習得、基本語彙・文法の習得。  
基本的な中国語の運用ができる。

## 授業方法

後期のテーマ：[一定量の語彙と基本文型のさらなる補強] 基本的に前期の学習方法を継続します。しかし、前期よりさらに発展させ、絵を見ながら、その状況を自ら中国語で言ってみる回数を多くしていきます。

前期のピンイン・発音・語彙・文法などを復習しながら、第9課までに出てくる基本語彙・文法の習得。

それらを基礎とした運用(作文、読解、コミュニケーション)ができるようになること。

会話を中心としたテキストで、基礎語彙と文法を学んでいきます。テキスト最後の15課まで進む予定です。授業の最終日に試験を行います。

読解力と同時に会話力を身につけるためには、文字による理解に頼るだけでなく、音声による練習—耳で聞き、口で発音する練習が欠かせません。暗記、聞き取り、会話練習など、授業では音声による練習を行います。また、文法・単語の定着を図るため適宜小テストを行います。

間違いを気にすることなく、ともかく中国語をお互いに積極的に言ってみる、それを楽しめるような授業展開をしていきます。

## 授業計画

- 第1回 前期に習った内容の復習
- 第2回 第10課 アルバイト  
介詞“在”、数量補語、介詞“比”、時間詞
- 第3回 第10課 実践練習  
会話文の練習
- 第4回 第11課 ファッション  
動態助詞“了”、“是……的”構文、副詞“在”、動詞の重ね型
- 第5回 第11課 実践練習  
会話文の練習
- 第6回 第12課 約束  
時刻、助動詞“要”・“想”、動態助詞“過”、助動詞“会”
- 第7回 第12課 実践練習  
会話文の練習
- 第8回 第10課～第12課の復習
- 第9回 第13課 空港  
助動詞“能”、選択疑問文、空港チェックインで使われる表現など
- 第10回 第13課 実践練習

- 第11回 会話文の練習  
第14課 銀行  
結果補語1、介詞“給”、銀行でよく使われる表現など
- 第12回 第14課 実践練習  
会話文の練習
- 第13回 第15課 ホテル  
結果補語2、助動詞“可以”、ホテルでよく使われる表現など
- 第14回 第15課 実践練習  
会話文の練習
- 第15回 総復習

## 成績評価の方法

試験 70% 小テスト 10% 成果発表 10% その他 10% 合計 100%

## 履修にあたっての注意

予習：テキスト付属のCDを聞いてくる。教科書を読んでみてわからない単語を調べていく。説明が載っている文法の部分を読んでいく。復習：その日の授業で習ったところを意味をよく考えながら音読しよう。ノートを見直そう。また、先生に積極的に質問していこう。小テストや定期考査前には、再度、復習する必要があるので取り組もう。

## 教科書

宮本大輔／温琳『中国語 Hop・Step・Jump』～三段式で学習する初級中国語～』(KINSEIDO、2016、ISBN：9784764707009)

## 参考書

相茂・石原田知子・戸沼市子『why?にこたえる初めての中国語の文法書』(同学社、2003/5/1)

06633

## 初級中国語 B II

担当教員：趙 萌

1 単位 後期

## 授業のねらい

役に立つ中国語の基礎知識を身に付けることを目指す。

## 到達目標

中国語のアスペクトを勉強し、ネイティブがよく使う慣用表現を習い、中国語で簡単なコミュニケーションができるようになる。

それらと同時に、『中国語検定試験準4級～4級』にチャレンジしたい学生には具体的に指導する。

## 授業方法

テキストに沿って授業を進める。

前期に引き続き中国語の基礎文法を教えると同時に中国語が話せることの楽しさを味わわせるため、更に会話の練習に力を注ぐ。

## 授業計画

- 第1回 前期試験の結果発表と復習
- 第2回 “在”の使い方(1)
- 第3回 “有”と“在”の使い方の区別
- 第4回 “在”の使い方(2)と中国語のアスペクト“進行形”
- 第5回 “在”の使い方(3)と中国語のアクベスト“進行形”
- 第6回 中国のアスペクト“過去形”の表現(1)
- 第7回 中国のアクベスト“過去形”の表現(2)
- 第8回 復習と中間テスト
- 第9回 助動詞“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第10回 “一下儿、一点儿、一会儿”の使い方
- 第11回 比較する表現と因果関係の表現
- 第12回 “要”の用法まとめ
- 第13回 前置詞の用法まとめ
- 第14回 方位詞の用法まとめ
- 第15回 後期の総合復習

## 成績評価の方法

定期試験(80%)、授業への参加状況(10%)、宿題と小テスト(10%)を合わせて評価する。

## 履修にあたっての注意

連続性がある講義なので、とりわけ出席を重視する。それにほぼ毎回の講義ではプリントの練習を行い、宿題も課する。教科書についている会話編とコラムには、日本語のほかに英語も付き、中国語を勉強しながら英語にも触れることができる。

## 教科書

趙 萌 尾野 麻紀子『中国語でトライリングにチャレンジ』(白帝社)

## 参考書

『精選日中・中日辞典』(東方書店)

06634

## 初級中国語 B II

担当教員：趙 萌

1 単位 後期

## 授業のねらい

役に立つ中国語の基礎知識を身に付けることを目指す。

## 到達目標

中国語のアスペクトを勉強し、ネイティブがよく使う慣用表現を習い、中国語で簡単なコミュニケーションができるようになる。

それらと同時に、『中国語検定試験準4級～4級』にチャレンジしたい学生には具体的に指導する。

## 授業方法

テキストに沿って授業を進める。

前期に引き続き中国語の基礎文法を教えると同時に中国語が話せることの楽しさを味わわせるため、更に会話の練習に力を注ぐ。

## 授業計画

- 第1回 前期試験の結果発表と復習
- 第2回 “在”の使い方(1)
- 第3回 “有”と“在”の使い方の区別
- 第4回 “在”の使い方(2)と中国語のアスペクト“進行形”
- 第5回 “在”の使い方(3)と中国語のアクベスト“進行形”
- 第6回 中国のアスペクト“過去形”の表現(1)
- 第7回 中国のアクベスト“過去形”の表現(2)
- 第8回 復習と中間テスト
- 第9回 助動詞“会”、“能”、“可以”の使い方
- 第10回 “一下儿、一点儿、一会儿”の使い方
- 第11回 比較する表現と因果関係の表現
- 第12回 “要”の用法まとめ
- 第13回 前置詞の用法まとめ
- 第14回 方位詞の用法まとめ
- 第15回 後期の総合復習

## 成績評価の方法

定期試験(80%)、授業への参加状況(10%)、宿題と小テスト(10%)を合わせて評価する。

## 履修にあたっての注意

連続性がある講義なので、とりわけ出席を重視する。それにほぼ毎回の講義ではプリントの練習を行い、宿題も課する。教科書についている会話編とコラムには、日本語のほかに英語も付き、中国語を勉強しながら英語にも触れることができる。

## 教科書

趙 萌 尾野 麻紀子『中国語でトライリングにチャレンジ』(白帝社)

## 参考書

『精選日中・中日辞典』(東方書店)

06741

## 初級韓国語 A I

担当教員：鄭 斗鎬

1 単位 前期

### 授業のねらい

近年、韓国映画やドラマ、K.pop などが日本に大変多く紹介されるようになり、今では、韓国と韓国語に対する関心がより身近な存在となってきた。より語学を学ぶ楽しさへと導き、ハングルの読み書きを確かなものとするを、この授業のねらいとする。

### 到達目標

ハングル文字を読む・書く能力を身につけ、簡単な自己紹介やあいさつが話せるようになること。

### 授業方法

この講義は、第一歩としてハングル文字のしくみと発音を習得して、次は簡単なあいさつ言葉など会話の要素もくわえて授業を進めていく。

### 授業計画

- 第1回 本講義の概要。韓国語と日本語の類似点、相違点などについて、また韓国語の特色や文字の成立について、紹介する。そして文字と発音練習（母音、子音）を学習する。(1)
- 第2回 まず、第一歩として、基本母音字母の十個の母音を覚えていただく。
- 第3回 合成母音字母その1、しばらくは文字の習得に重点をおいて授業を進めていく。
- 第4回 基本子音字母、14の子音（平音、激音）、カナダラ表、子音字母の原理について学習する。
- 第5回 その他の子音字母（濃音）
- 第6回 合成母音字母その2
- 第7回 日本語のハングル表記、自分の名前をハングル表記で書いてもらう。なおかつ日本語の文をハングルで書く練習。
- 第8回 パッチム（終声）、響くパッチムと消えるパッチムについて
- 第9回 映画鑑賞
- 第10回 発音上手になるためのコツ、発音変化についてその1
- 第11回 発音上手になるためのコツ、発音変化についてその2
- 第12回 二つの字母のパッチム、辞書の引き方、教室でよく使う言葉。
- 第13回 第五課、「私は～です」小テスト。主題を表す助詞について。
- 第14回 第五課、「私は～です」小テスト。否定文について。
- 第15回 第五課、復習及び「です・ます体」の作り方の練習。

### 成績評価の方法

小テストの成績（20%）、授業への参加状況（20%） 学期末定期試験成績（60%）により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

特にないが、できれば、韓日辞典・日韓辞典があったほうがぞましい。

### 教科書

金順玉、阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』（白水社、2014、ISBN：978-4-560-01789-0）

06742

## 初級韓国語 A I

担当教員：鄭 斗鎬

1 単位 前期

### 授業のねらい

近年、韓国映画やドラマ、K.pop などが日本に大変多く紹介されるようになり、今では、韓国と韓国語に対する関心がより身近な存在となってきた。より語学を学ぶ楽しさへと導き、ハングルの読み書きを確かなものとするを、この授業のねらいとする。

### 到達目標

ハングル文字を読む・書く能力を身につけ、簡単な自己紹介やあいさつが話せるようになること。

### 授業方法

この講義は、第一歩としてハングル文字のしくみと発音を習得して、次は簡単なあいさつ言葉など会話の要素もくわえて授業を進めていく。

### 授業計画

- 第1回 本講義の概要。韓国語と日本語の類似点、相違点などについて、また韓国語の特色や文字の成立について、紹介する。そして文字と発音練習（母音、子音）を学習する。(1)
- 第2回 まず、第一歩として、基本母音字母の十個の母音を覚えていただく。
- 第3回 合成母音字母その1、しばらくは文字の習得に重点をおいて授業を進めていく。
- 第4回 基本子音字母、14の子音（平音、激音）、カナダラ表、子音字母の原理について学習する。
- 第5回 その他の子音字母（濃音）
- 第6回 合成母音字母その2
- 第7回 日本語のハングル表記、自分の名前をハングル表記で書いてもらう。なおかつ日本語の文をハングルで書く練習。
- 第8回 パッチム（終声）、響くパッチムと消えるパッチムについて
- 第9回 映画鑑賞
- 第10回 発音上手になるためのコツ、発音変化についてその1
- 第11回 発音上手になるためのコツ、発音変化についてその2
- 第12回 二つの字母のパッチム、辞書の引き方、教室でよく使う言葉。
- 第13回 第五課、「私は～です」小テスト。主題を表す助詞について。
- 第14回 第五課、「私は～です」小テスト。否定文について。
- 第15回 第五課、復習及び「です・ます体」の作り方の練習。

### 成績評価の方法

小テストの成績（20%）、授業への参加状況（20%） 学期末定期試験成績（60%）により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

特にないが、できれば、韓日辞典・日韓辞典があったほうがぞましい。

### 教科書

金順玉、阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』（白水社、2014、ISBN：978-4-560-01789-0）



## 授業のねらい

韓国語の初心者向けの授業。ハングル文字の書き方と発音からスタートし、基本的な文法を学びながら、あいさつの表現や簡単な会話表現を身につける。目標は簡単な文章が読み書きできること、韓国語で自己紹介ができること。副読本や新聞・テレビのニュース記事、映画などの映像資料を通じ、韓国社会や文化についての理解も深める。

## 到達目標

1. ハングル文字の読み書きが不自由なくできる。単語の意味はわからなくても、文字がすらすら読める。
2. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。
3. 韓国の社会・文化に関する知識を深める。

## 授業方法

教科書に沿って進める。前半は文法説明、後半は学んだ文法を用いた会話練習などを行うことを基本とする。

ひとつの課が終了した次の授業で、初めに10分ほど時間を取り、理解度を確認する小テスト（筆記または口頭）を行う。小テストは次の授業内で答え合わせをする。

授業では韓国社会・文化への理解を深めるため、随時、新聞記事やテレビニュース、映画や歌、写真などを活用する。授業中の会話練習やアクティビティには積極的な参加を求める。

韓国語は日本語と語順や語彙において似たところが多い言語であるが、序盤のハングル文字の習得がおろそかになると後半の学習に支障をきたす。このため、授業後には復習と次回の授業範囲の予習をあわせて1～2時間程度の学習が必要である。

なお、シラバスの学習順序と進度は、状況に応じて変更することがある。

期末試験の結果は採点後に答案を正答表とともに返却する。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス<br>第1課－韓国語と文字                                    |
| 第2回  | 第2課－基本母音字  |
| 第3回  | 第2課の小テスト<br>第3課－基本子音字(1)                               |
| 第4回  | 第3課の小テスト<br>第4課－基本子音字(2)                               |
| 第5回  | 第4課の小テスト<br>第5課－基本子音字(3)                               |
| 第6回  | 第6課－合成子音字<br>第5・6課の小テスト                                |
| 第7回  | 第7課－合成母音字<br>第7課の小テスト                                  |
| 第8回  | 第8課－終声子音字（パッチム）<br>第9課－連音化<br>第9課の小テスト                 |
| 第9回  | 第1課～第9課のまとめと復習<br>第10課－「私は学生です」(1)                     |
| 第10回 | 第10課－「私は学生です」(2)<br>第10課の小テスト                          |
| 第11回 | 第11課－「これは何ですか」(1)<br>第11課－「これは何ですか」(2)                 |
| 第12回 | 漢数詞<br>第11課の小テスト                                       |
| 第13回 | 第12課－「この人はだれですか」(1)<br>第12課－「この人はだれですか」(2)             |
| 第14回 | 曜日<br>第12課の小テスト  |
| 第15回 | 第14課－「教室に何がありますか」(1)<br>第14課－「教室に何がありますか」(2)<br>全体のまとめ |

## 成績評価の方法

授業への参加状況（25%）、小テスト・発表・課題（25%）、期末試験（50%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

外国語の上達のポイントは「継続」と「反復」です。特に文字を学習する初期段階の欠席は致命的です。欠席は極力しないようにしてください。言葉は口に出してみなければ、楽しさも難しさもわかりません。授業中は間違えることを気にせず、どんどん話してみましょう。

## 教科書

李昌圭『韓国語へ旅しよう（初級）』（朝日出版社、2016、ISBN：978-4-255-55622-2 C1087）

## 教科書・参考書に関する備考

辞書はほかの韓日・日韓辞書、または電子辞書でも構いません。辞書に関しては、ガイダンスの際に詳しく説明します。

## 参考書

油谷幸利ほか（編）『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』（小学館、2013、ISBN：9784095061429）



06751

## 初級韓国語 A II

担当教員：鄭 斗鎬

1 単位 後期

### 授業のねらい

ハングルで読んだり、書いたりする、また、聞いて理解したりすることを学ぶ「韓国語Ⅰ」に続いて、「韓国語Ⅱ」では、簡単な会話を何度も繰り返し練習することによって、聞くだけでなく、朝鮮語を話せるようになることに重点を置く。この授業のねらいとする。

### 到達目標

前期の続きです。したがって、少なくともハングル文字が読めなくてはならない。まず、この講義では、ハングル文字が読めるようになること。使えるような挨拶言葉と会話の言葉から見えてくる文化をも理解を深めてもらう。韓国語が身近な存在として楽しめるようになる。

### 授業方法

この講義は、会話だけではなく、簡単な文法規則を使って、平易な作文を作ることができるようになり、ハングルを使って、それらの会話をしたり、書いたりすることができるようにして、『書く』『読む』『話す』『聞き取る』をバランスよく維持しながら、授業を進めていく。

### 授業計画

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第六課、「時間ありますか」、助詞の練習、存在の有無を表す言葉
- 第3回 第六課、「時間ありますか」、位置を表す言葉
- 第4回 第七課、「それは何ですか」「こそあど」「趣味は何ですか」「家はどこですか」
- 第5回 第七課、「それは何ですか」助詞と疑問詞のまとめ
- 第6回 第八課、「今、何時ですか」、うちとけた「です・ます体」の作り方
- 第7回 第八課、「今、何時ですか」漢数詞の練習、電話番号や買い物、年月日
- 第8回 第八課、「今、何時ですか」固有数詞の練習、物を数える場合など
- 第9回 映画鑑賞
- 第10回 第九課、テスト。「何が好きですか」「ヘヨ体」の練習と用言の否定文について。
- 第11回 第九課、「何が好きですか」目的の表現「～が好きです」
- 第12回 第九課、「何が好きですか」目的の表現「～が好きです」
- 第13回 第十課、「週末に何をしましたか」過去形の練習
- 第14回 第十課、「週末に何をしましたか」過去形の練習
- 第15回 まとめと復習

### 成績評価の方法

小テストの成績（20%）、授業への参加状況（20%） 学期末定期試験成績（60%）により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

特にないが、できれば、韓日辞典・日韓辞典があったほうがよい。

### 教科書

金順玉、阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』（白水社、2014、ISBN：978-4-560-01789-0）

06752

## 初級韓国語 A II

担当教員：鄭 斗鎬

1 単位 後期

### 授業のねらい

ハングルで読んだり、書いたりする、また、聞いて理解したりすることを学ぶ「韓国語Ⅰ」に続いて、「韓国語Ⅱ」では、簡単な会話を何度も繰り返し練習することによって、聞くだけでなく、朝鮮語を話せるようになることに重点を置く。この授業のねらいとする。

### 到達目標

前期の続きです。したがって、少なくともハングル文字が読めなくてはならない。まず、この講義では、ハングル文字が読めるようになること。使えるような挨拶言葉と会話の言葉から見えてくる文化をも理解を深めてもらう。韓国語が身近な存在として楽しめるようになる。

### 授業方法

この講義は、会話だけではなく、簡単な文法規則を使って、平易な作文を作ることができるようになり、ハングルを使って、それらの会話をしたり、書いたりすることができるようにして、『書く』『読む』『話す』『聞き取る』をバランスよく維持しながら、授業を進めていく。

### 授業計画

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第六課、「時間ありますか」、助詞の練習、存在の有無を表す言葉
- 第3回 第六課、「時間ありますか」、位置を表す言葉
- 第4回 第七課、「それは何ですか」「こそあど」「趣味は何ですか」「家はどこですか」
- 第5回 第七課、「それは何ですか」助詞と疑問詞のまとめ
- 第6回 第八課、「今、何時ですか」、うちとけた「です・ます体」の作り方
- 第7回 第八課、「今、何時ですか」漢数詞の練習、電話番号や買い物、年月日
- 第8回 第八課、「今、何時ですか」固有数詞の練習、物を数える場合など
- 第9回 映画鑑賞
- 第10回 第九課、テスト。「何が好きですか」「ヘヨ体」の練習と用言の否定文について。
- 第11回 第九課、「何が好きですか」目的の表現「～が好きです」(1)
- 第12回 第九課、「何が好きですか」目的の表現「～が好きです」(2)
- 第13回 第十課、「週末に何をしましたか」過去形の練習 (1)
- 第14回 第十課、「週末に何をしましたか」過去形の練習(2)
- 第15回 まとめと復習

### 成績評価の方法

小テストの成績（20%）、授業への参加状況（20%） 学期末定期試験成績（60%）により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

特にないが、できれば、韓日辞典・日韓辞典があったほうがよい。

### 教科書

金順玉、阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』（白水社、2014、ISBN：978-4-560-01789-0）

06753

## 初級韓国語 A II

担当教員：芳賀 恵

1 単位 後期

### 授業のねらい

韓国語の基礎を学んだ学生向けの授業。コミュニケーションに役立つ実用的な表現を聞き話すことを目指すとともに、教科書レベルの文章の読み書きが不自由なくできることを目標にする。また、韓国社会や文化への理解をさらに深める。

### 到達目標

1. 教科書レベルの文章の読み書きが不自由なくできる。
2. 自分や家族について話すことができ、相手と簡単な会話ができる。
3. 韓国の社会・文化への理解を深める。

### 授業方法

教科書に沿って進める。前半は文法説明、後半は学んだ文法を用いた会話練習などを行うことを基本とする。会話練習やアクティビティには積極的な参加を求める。

ひとつの課が終了した次の授業内で理解度を確認する小テストを行う。小テストは次の授業内で答え合わせをする。復習と次の授業範囲の予習をあわせ1～2時間程度の学習が必要である。

授業では韓国社会・文化への理解を深めるため、新聞記事やテレビニュース、映画や歌、写真などを活用する。

なお授業の進度は、状況に応じて変更することがある。

期末試験の結果は採点后に答案を正答表とともに返却する。

### 授業計画

- |      |                      |
|------|----------------------|
| 第1回  | ガイダンス                |
|      | 第14課までの復習            |
| 第2回  | 第15課－「何をしますか」(1)     |
| 第3回  | 第15課－「何をしますか」(2)     |
| 第4回  | 第15課の小テスト            |
|      | 第16課－「どこへ行かれますか」(1)  |
| 第5回  | 第16課－「どこへ行かれますか」(2)  |
| 第6回  | 第16課の小テスト            |
|      | 第19課－「試験はいつですか」(1)   |
|      | 漢数詞                  |
| 第7回  | 第19課－「試験はいつですか」(2)   |
| 第8回  | 第19課の小テスト            |
|      | 第20課－「いま何時ですか」(1)    |
|      | 固有数詞                 |
| 第9回  | 第20課－「いま何時ですか」(2)    |
| 第10回 | 第20課の小テスト            |
|      | 第22課－「いくらですか」(1)     |
| 第11回 | 第22課－「いくらですか」(2)     |
| 第12回 | 第18課－「きのう何をしましたか」(1) |
| 第13回 | 第18課－「きのう何をしましたか」(2) |
| 第14回 | 第18課の小テスト            |
|      | 韓国映画(1)－聞き取り練習       |
| 第15回 | 全体のまとめと復習            |
|      | 韓国映画(2)－聞き取り練習       |

### 成績評価の方法

授業への参加状況 (25%)、小テスト・発表・課題 (25%)、期末試験 (50%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

韓国語は日本語と語順や語彙において類似点が多い言語です。しかし発音や文法には日本語話者にとって覚えにくいものも多いため、繰り返し話し、練習することが必要です。授業中は受け身にならず、積極的に声を出してください。

### 教科書

李昌圭『韓国語へ旅しよう (初級)』(朝日出版社、2016、ISBN : 978-4-255-55622-2 C1087)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はほかの韓日・日韓辞典、または電子辞書でも構いません。

### 参考書

油谷幸利ほか(編)『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』(小学館、2013、ISBN : 9784095061429)

06761

## 初級韓国語 B I

担当教員：金 昌九

1 単位 前期

## 授業のねらい

初めて韓国語を学ぶ学生を対象としたクラスです。これからの韓国語学習に必要な基礎的知識を身につけることを目標とします。具体的には、韓国語の文字の読み書きに始まり、基本的な行為に必要な、日常生活でもよく使われる文法事項、語彙・表現を学びます。この授業では特に「話す」「聞く」「読む」力を養うことに重点を置きます。

## 到達目標

1. 韓国語の文字（ハングル）を習得し、韓国語の読み書きができる。
2. 身近なものを表す単語や、短い文の意味が読んでわかる。
3. 自分に関する基本情報（名前、趣味、好き嫌い等）を尋ねる質問に答えることができる。簡単な語句を用いてそれらを伝えることができる。
4. 韓国の社会・文化についての基本的な知識を持っている。

## 授業方法

教科書に沿って進めます。基本的な文法・語彙は Web（10分）で各自で事前学習してもらいます。授業では、事前学習で学んだ文法や表現を定着させるためのパターンドリルをはじめ、その日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。

## 授業計画

- 第1回 ①オリエンテーション（授業の概要・自己紹介）  
②韓国語の文字（＝ハングル）の紹介  
③母音1（ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習  
④挨拶表現1
- 第2回 ①小テスト1  
①母音1の復習  
②子音1（ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習  
③挨拶表現2
- 第3回 ①小テスト2  
②子音1の復習  
③母音2（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習  
④子音2（ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習
- 第4回 ①小テスト3  
②母音2・子音2の復習  
③子音3（ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習  
④母音3（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習
- 第5回 ①小テスト4  
②母音3・子音3の復習  
③母音4（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習
- 第6回 ①小テスト5  
②母音3・4の復習  
③終声子音（＝パッチム）の練習
- 第7回 ①文字の確認テスト  
②終声子音の復習
- 第8回 ▶ Unit 1. 自己紹介①  
・語彙：自己紹介関連（国・言語等）  
・文法・文型：「～は～です（か）」
- 第9回 ▶ Unit 1. 自己紹介②
- 第10回 ▶ Unit 1. 自己紹介③  
▶ Unit 2. 職業①  
・語彙：職業名・職場  
・文法・文型：「～ではありません」「～も」
- 第11回 ・小テスト6（Unit 1の語彙・文法等）  
▶ Unit 2. 職業②
- 第12回 ▶ Unit 2. 職業③
- 第13回 ・小テスト7（Unit 2の語彙・文法等）  
▶ Unit 3. 家族①  
・語彙：家族の名称、固有数詞1（1-5）  
・文法・文型：「～がいます」「～いません」「～も」

第14回 ▶ Unit 3. 家族②

第15回 期末テスト・まとめ

## 成績評価の方法

「到達目標」の1～3の達成度を測る試験の結果（50%）、小テストの結果（40%）、授業への参加状況（10%）、により評価します。

#ここで言う「小テスト」とは、①事前学習内容に関するテスト、②単元テストの事です。

## 履修にあたっての注意

①授業は主に韓国語で行います（一部日本語）

②会話が中心となる授業なので、積極的な授業参加が求められます。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』（駿河台出版、2018、ISBN：978-4-411-03117-4）

## 参考書

イ・ヒジャ『韓国語文法語尾・助詞辞典』（スリーエー、2010、ISBN：978-4-88319-519-0）

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>（語彙練習サイト）

ハングル学び舎 <http://learning.hangeul.go.kr/letters>（ハングル学習サイト）

## 授業のねらい

初めて韓国語を学ぶ学生を対象としたクラスです。これからの韓国語学習に必要な基礎的知識を身につけることを目標とします。具体的には、韓国語の文字の読み書きに始まり、基本的な行為に必要な、日常生活でもよく使われる文法事項、語彙・表現を学びます。この授業では特に「話す」「聞く」「読む」力を養うことに重点を置きます。

## 到達目標

1. 韓国語の文字（ハングル）を習得し、韓国語の読み書きができる。
2. 身近なものを表す単語や、短い文の意味が読んでわかる。
3. 自分に関する基本情報（名前、趣味、好き嫌い等）を尋ねる質問に答えることができる。簡単な語句を用いてそれらを伝えることができる。
4. 韓国の社会・文化についての基本的な知識を持っている。

## 授業方法

教科書に沿って進めます。基本的な文法・語彙は Web（10分）で各自で事前学習してもらいます。授業では、事前学習で学んだ文法や表現を定着させるためのパターンドリルをはじめ、その日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。

## 授業計画

- 第1回 ①オリエンテーション（授業の概要・自己紹介）  
②韓国語の文字（＝ハングル）の紹介  
③母音1（ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習  
④挨拶表現1
- 第2回 ①小テスト1  
①母音1の復習  
②子音1（ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習  
③挨拶表現2
- 第3回 ①小テスト2  
②子音1の復習  
③母音2（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習  
④子音2（ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習
- 第4回 ①小テスト3  
②母音2・子音2の復習  
③子音3（ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ）の練習  
④母音3（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習
- 第5回 ①小テスト4  
②母音3・子音3の復習  
③母音4（ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ）の練習
- 第6回 ①小テスト5  
②母音3・4の復習  
③終声子音（＝パッチム）の練習
- 第7回 ①文字の確認テスト  
②終声子音の復習
- 第8回 ▶ Unit 1. 自己紹介①  
・語彙：自己紹介関連（国・言語等）  
・文法・文型：「～は～です（か）」
- 第9回 ▶ Unit 1. 自己紹介②
- 第10回 ▶ Unit 1. 自己紹介③  
▶ Unit 2. 職業①  
・語彙：職業名・職場  
・文法・文型：「～ではありません」「～も」
- 第11回 ・小テスト6（Unit 1の語彙・文法等）  
▶ Unit 2. 職業②
- 第12回 ▶ Unit 2. 職業③
- 第13回 ・小テスト7（Unit 2の語彙・文法等）  
▶ Unit 3. 家族①  
・語彙：家族の名称、固有数詞1（1-5）  
・文法・文型：「～がいます」「～いません」「～も」

- 第14回 ▶ Unit 3. 家族②  
第15回 ①学習内容のまとめ  
②期末テスト

## 成績評価の方法

「到達目標」の1～3の達成度を測る試験の結果（50%）、小テストの結果（40%）、授業への参加状況（10%）、により評価します。  
#ここで言う「小テスト」とは、①事前学習内容に関するテスト、②単元テストのことです。

## 履修にあたっての注意

- ①授業は主に韓国語で行います（一部日本語）
- ②会話が中心となる授業なので、積極的な授業参加が求められます。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』（駿河台出版、2018、ISBN：978-4-411-03117-4）

## 参考書

イ・ヒジャ『韓国語文法語彙・助詞辞典』（スリーエー、2010、ISBN：978-4-88319-519-0）

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>（語彙練習サイト）  
ハングル学び舎 <http://learning.hangeul.go.kr/letters>（ハングル学習サイト）



06763

# 初級韓国語 B I

担当教員：金 京愛

1 単位 前期

## 授業のねらい

この授業では、前半に簡単な会話練習を通じて、特に韓国語の発音およびハングル文字を修得してもらいます。たくさん口と手を動かすと同時に、韓国の文化・社会・歴史に関するトピックも紹介していく予定です。特に韓国の現代若者文化についても、時間をかけてお話ししたいと思っていますので、新たな韓国を知る機会になると思います。

## 到達目標

- ・ハングルのしくみを理解し、文字を覚える。
- ・正しい発音練習を通じて、相手に通じる韓国語を身につける。
- ・韓国語の仕組みを理解するとともに、韓国文化についての知識を深める。

## 授業方法

この授業は、1年かけてしっかり韓国語の基礎を身につけるという時間したいと思います。そのため、前期では文字を修得しつつ、正しい発音ができるよう、ひとつひとつ丁寧に説明していきます。また、その週に学習した内容はその週に覚えるようにしたいと思いますので、毎回練習用のプリントを配り、授業の最後または宿題として翌週に提出してもらいます。

## 授業計画

- 第1回 ・ オリエンテーション：韓国語の概略をつかむ  
・ 基本母音（10個）およびハングルについて
- 第2回 ・ 子音について：平音・激音・濃音について説明および発音の練習をします。  
・ 基本母音と子音との組み合わせ(1)
- 第3回 ・ パッチムについて：韓国語の文字と音について、特に初声と終声にくる文字の発音の違いについて説明します。
- 第4回 ・ パッチムについて：発音の練習  
・ 基本母音と子音との組み合わせ(2)
- 第5回 ・ 合成母音（11個）について  
・ 文字の組み合わせ、単語の発音  
到達目標：「ハングルの文字を覚える」、「韓国語の音の仕組みを理解し、正しくきれいな発音を修得する」
- 第6回 ・ 発音の規則（その1）：有声音化<1>  
・ 日本語のハングル表記について
- 第7回 ・ 辞書の引き方：辞書を用いて実際に韓国語の単語の意味を調べます。  
・ 既習項目のまとめ  
到達目標：「韓国語の意味を辞書で調べることができる」、「自分の名前および日本の地名をハングルで書くことができる」
- 第8回 ・ 中間試験  
・ 韓国の文化・社会・歴史、またはK-popに関するトピックを取り上げ紹介します。
- 第9回 ・ 第1課 アンニョンハセヨ。  
・ 発音の規則（その2）：連音化  
到達目標：「韓国語で自己紹介ができる」
- 第10回 ・ 用言について：動詞・形容詞・指定詞・存在詞の説明  
・ 指定詞の活用：肯定・否定の練習  
・ 第2課：指定詞の応用
- 第11回 ・ 発音の規則（その3）：有声音化<2>  
・ 存在詞の活用：肯定・否定の練習  
・ 第3課：存在詞の応用  
到達目標：「韓国語の用言について理解し、日本語の用言との差異がわかる」
- 第12回 ・ 第4課 略待上称形(1)  
・ 陽母音と陰母音の説明  
・ 動詞の活用について（語幹のパッチムがある場合とない場合、縮約パターン1）
- 第13回 ・ 第5課 略待上称形(2)

・ 動詞の活用について（縮約パターン2）  
到達目標：「動詞の活用ができるようになる」

第14回

- ・ 発音の規則（その4）：激音化
- ・ 助詞のまとめ

第15回

- ・ 既習文法の整理・まとめ  
到達目標：「辞書を引きながら、韓国語で簡単な作文ができる」、「用言の活用ができる」など

## 成績評価の方法

中間試験・期末試験（60%）、平常点（授業参加度・課題提出・小テストなど）（40%）を基準に総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

興味をもって積極的に取り込む姿勢がもっとも大事だと思います。一度忘れても、何度も何度も覚えなおせばいいのですから、諦めず、焦らないで、楽しく学んでいってください。40人を目途に履修者の調整を行う場合があります。外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかり行うよう心がけてください。

## 教科書

金菊熙・李順蓮・安蕙蓮・李旼映『いよいよ韓国語』（朝日出版社、2018、ISBN：978-4-255-55656-7）

## 教科書・参考書に関する備考

辞書は、指定のものでなくてもかまいませんが、韓日・日韓が両方ひけるような辞書を用意してください。なお、辞書は第5回目以降の授業から必要になりますが、指定のものを購入するつもりの方は早めに購入するのがいいでしょう。またテストの時には辞書を持ち込み可とするので、なるべく購入することをお勧めします。

## 参考書

油谷幸利ほか（編）『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版』（小学館、2013、ISBN：978-4095061429）

06771

## 初級韓国語 B II

担当教員：金 昌九

1 単位 後期

## 授業のねらい

『初級韓国語 B I』を学んだ学生を対象としたクラスです。『初級韓国語 B I』で学んだ基礎的知識を発展させ、様々なコミュニケーションの場で用いられる、より多様な表現を身につけることを目標とします。この授業では特に「話す」「聞く」「読む」力を養うことに重点を置きます。

## 到達目標

1. 身近な話題について平易な韓国語で書かれたテキストを読み、理解することができる。
2. ごく身近な話題であれば、基本的な表現を使って質疑応答することができる。
3. 自分に関する基本情報（名前、趣味、好き嫌いなど）について、簡単な文句を使った文章を書くことができる。
4. 韓国の社会・文化についての基本的な知識を持っている。

## 授業方法

教科書に沿って進めます。基本的な文法・語彙は Web 動画（10～20 分）で各自で事前学習してもらいます。授業では、事前学習で学んだ文法や表現を定着させるためのパターンドリルをはじめ、その日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心にを行います。授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。

## 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス  
・前期の復習
- 第2回 Unit 4. 家①  
・語彙：「家周辺の場所名」「位置名詞1」  
・文法・文型：「家はどこですか」「～にいます・あります」  
・文化：「オンドル」
- 第3回 Unit 4. 家②
- 第4回 Unit 4. 家③  
Unit 5. 部屋①  
・語彙：「家・部屋の中にある物」「位置2」「固有数詞2（6-10）」  
・文法・文型：「いくつ」「～と」  
・文化：「韓国の「部屋」文化」
- 第5回 ・小テスト1（Unit 4の文法・語彙など）  
Unit 5. 部屋②
- 第6回 Unit 5. 部屋③
- 第7回 ・小テスト2（Unit 5の文法・語彙など）  
Unit 6. 誕生日①  
・語彙：「各種行事」「行事にすること」「漢数詞1（1-30）」  
・文法・文型：「～がいつですか」「～です・ます1」  
・文化：「行事に関するクイズ」
- 第8回 Unit 6. 誕生日②
- 第9回 Unit 6. 誕生日③  
Unit 7. 日課①  
・語彙：「日課」「時間（固有数詞3（1-12）」  
・文法・文型：「～です・ます2」「～に行く・来る」  
・文化：「韓国人大学生の日課」
- 第10回 ・小テスト3（Unit 6の語彙・文法など）  
Unit 7. 日課②
- 第11回 Unit 7. 日課③
- 第12回 ・小テスト4（Unit 7の語彙・文法など）  
Unit 8. 趣味①  
・語彙：「趣味活動」「頻度」  
・文法・文型：「～が好きです」「～が上手です・下手です」  
・文化：「韓国人が楽しむ趣味ベスト5」
- 第13回 Unit 8. 趣味②
- 第14回 Unit 8. 趣味③

・小テスト5（Unit 8の語彙・文法など）  
第15回 期末テスト・まとめ

## 成績評価の方法

「到達目標」の1～3の達成度を測る試験の結果（40%）、小テストの結果（40%）、授業への参加（10%）、課題・出席（10%）、により評価します。

## 履修にあたっての注意

- ・授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。
- ・会話が中心の授業なので、積極的な授業参加が求められます。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』（駿河台出版、2018、ISBN：978-4-411-03117-4）

## 参考書

イ・ヒジャ『韓国語文法語尾・助詞辞典』（スリーエー、2010、ISBN：978-4-88319-519-0）

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>（語彙練習サイト）



06772

## 初級韓国語 B II

担当教員：金 昌九

## 1 単位 後期

## 授業のねらい

『初級韓国語1』を学んだ学生を対象としたクラスです。『初級韓国語』で学んだ基礎的知識を発展させ、様々なコミュニケーションの場で用いられる、より多様な表現を身につけることを目標とします。この授業では特に「話す」「聞く」「読む」力を養うことに重点を置きます。

## 到達目標

1. 身近な話題について平易な韓国語で書かれたテキストを読み、理解することができる。
2. ごく身近な話題であれば、基本的な表現を使って質疑応答することができる。
3. 自分に関する基本情報（名前、趣味、好き嫌いなど）について、簡単な文句を使った文章を書くことができる。
4. 韓国の社会・文化についての基本的な知識を持っている。

## 授業方法

教科書に沿って進めます。基本的な文法・語彙は Web 動画（10分）で各自で事前学習してもらいます。授業では、事前学習で学んだ文法や表現を定着させるためのパターンドリルをはじめ、その日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。

## 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス  
・前期の復習
- 第2回 Unit 4. 家①  
・語彙：「家周辺の場所名」「位置名詞1」  
・文法・文型：「家はどこですか」「～にいます・あります」  
・文化：「オンドル」
- 第3回 Unit 4. 家②
- 第4回 Unit 4. 家③  
Unit 5. 部屋①  
・語彙：「家・部屋の中にある物」「位置2」「固有数詞2（6-10）」  
・文法・文型：「いくつ」「～と」  
・文化：「韓国の「部屋」文化」
- 第5回 ・小テスト1（Unit 4の文法・語彙など）  
Unit 5. 部屋②
- 第6回 Unit 5. 部屋③
- 第7回 ・小テスト2（Unit 5の文法・語彙など）  
Unit 6. 誕生日①  
・語彙：「各種行事」「行事にすること」「漢数詞1（1-30）」  
・文法・文型：「～がいつですか」「～です・ます1」  
・文化：「行事に関するクイズ」
- 第8回 Unit 6. 誕生日②
- 第9回 Unit 6. 誕生日③  
Unit 7. 日課①  
・語彙：「日課」「時間（固有数詞3（1-12）」  
・文法・文型：「～です・ます2」「～に行く・来る」  
・文化：「韓国人大学生の日課」
- 第10回 ・小テスト3（Unit 6の語彙・文法など）  
Unit 7. 日課②
- 第11回 Unit 7. 日課③
- 第12回 ・小テスト4（Unit 7の語彙・文法など）  
Unit 8. 趣味①  
・語彙：「趣味活動」「頻度」  
・文法・文型：「～が好きです」「～が上手です・下手です」  
・文化：「韓国人が楽しむ趣味ベスト5」
- 第13回 Unit 8. 趣味②
- 第14回 Unit 8. 趣味③

・小テスト5（Unit 8の語彙・文法など）  
第15回 期末テスト・まとめ

## 成績評価の方法

「到達目標」の1～3の達成度を測る試験の結果（40%）、小テストの結果（40%）、授業への参加（10%）、課題・出席（10%）、により評価します。

## 履修にあたっての注意

- ・授業は主に韓国語で行います（一部日本語）。
- ・会話が中心の授業なので、積極的な授業参加が求められます。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』（駿河台出版、2018、ISBN：978-4-411-03117-4）

## 参考書

イ・ヒジャ『韓国語文法語尾・助詞辞典』（スリーエー、2010、ISBN：978-4-88319-519-0）

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>（語彙練習サイト）

## 授業のねらい

この授業では、前期（初級韓国語 I）で修得したハングルを利用し、前期同様簡単な作文や会話の練習を行うとともに、文法が日本語とほとんど同じであることを生かしてどんどん文法にチャレンジしてもらい、全 15 回の授業でできるだけ多く韓国語の文法を身につけてもらうことを目標とします。

## 到達目標

- ・動詞の活用などの文法事項を修得し、韓国語の仕組みについて理解する。
- ・会話練習および作文の時間をできるだけ多く設け、自然な韓国語に近づけることを目指す。

## 授業方法

後期でもたくさん口と手を動かすと同時に、ただ覚えるのではなくその仕組みを理解し、修得した文法事項をまた新たな文法にどんどん生かしていくようにしてください。また、前期と同様にその週に学習した内容に関して毎回練習用のプリントを配り、授業の最後または翌週に提出してもらいます。

## 授業計画

- 第 1 回 ・前期（初級韓国語 I）の復習  
・疑問詞のまとめと練習  
到達目標：「疑問詞を用いて簡単な質問ができ、その質問に答えられる」
- 第 2 回 ・第 5 課 略待上称形 (3)  
・動詞の活用について（辞書を使い基本形に戻す練習）
- 第 3 回 ・第 5 課 上称形  
・「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の説明  
・動詞および形容詞の活用について  
・「ハムニダ体」を基本形に戻す練習
- 第 4 回 ・発音の規則（その 5）：鼻音化  
・口音と鼻音について  
・漢字語数詞と固有語数詞について  
・第 6 課 数詞（漢字語）
- 第 5 回 ・第 6 課 略待上称形 (4)  
・形容詞の活用について  
到達目標：「辞書を使い「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の文の韓日／日韓翻訳ができる」
- 第 6 回 ・個別の口頭試験（ハングル読み試験）を行う。  
・発音の規則（その 6）：濃音化  
・既習文型の整理、および確認練習
- 第 7 回 ・中間試験  
・韓国の文化や社会事情に触れることができる映像などを見る。
- 第 8 回 ・第 7 課 否定表現 (1)  
・否定形 + 動詞および形容詞  
・指定詞、存在詞の否定形（復習）  
到達目標：「用言により異なる否定形を修得し、否定文を作ることができる」
- 第 9 回 ・第 8 課 数詞（固有語）  
・否定表現 (2)  
・動詞および形容詞 + 否定形
- 第 10 回 ・第 8 課 過去形 (1)  
・縮約パターンの説明
- 第 11 回 ・第 8 課 過去形 (2)  
・過去形を基本形に戻す練習
- 第 12 回 過去形を用いた文型の練習  
・過去形の否定表現  
・「ハムニダ体」と「ヘヨ体」への活用練習  
到達目標：「辞書を引きながら、韓国語で過去形を用いた文の韓日／日韓翻訳ができる」など
- 第 13 回 ・発音の規則（その 7）：h の弱化について  
・h の発音について整理（激音化、弱化または消失する場合）

- 第 14 回 ・発音の規則（その 8）：流音化  
・韓国の映画を鑑賞する。  
・個別の口頭試験（ハングル読み試験）を行う。
- 第 15 回 ・発音規則のまとめ  
・既習文法の整理・まとめ

## 成績評価の方法

中間試験・期末試験（60 %）、平常点（口頭試験・授業参加度・課題提出・小テストなど）（40 %）を基準に総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

興味をもって積極的に取り込む姿勢がもっとも大事だと思います。一度忘れても、何度も何度も覚えなおせばいいのですから、諦めず、焦らないで、楽しく学んでいってください。40 人を目的に履修者の調整を行う場合があります。外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかりと行うよう心がけてください。

## 教科書

金菊熙・李順蓮・安蕙蓮・李旼映『いよいよ韓国語』（朝日出版社、2018、ISBN：978-4-255-55656-7）

## 教科書・参考書に関する備考

辞書は、指定のものでなくてかまいませんが、韓日・日韓が両方ひけるような辞書を用意してください（初級韓国語 I で使用したものを引き続き使用できます）。なお、辞書は指定のものを購入するつもりの方は早めに購入するのがいいでしょう。またテストの時には辞書を持ち込み可とするのでなるべく購入することをお勧めします。

## 参考書

油谷幸利ほか（編）『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版』（小学館、2013、ISBN：9784095061429）



# 留学生对象科目



R0111

## 日本語（口頭表現Ⅰ）

担当教員：富田 麻知子

2単位 前期

### 授業のねらい

話し言葉を中心に、日本での留学生活において大学内外で必要となる日本語を身につけます。

日本での留学生活で出会う可能性の高い場面や状況を取り上げ、それぞれの場面や状況にあった適切なコミュニケーションが取れるように練習します。

### 到達目標

- ・大学内外の様々な場面や状況で、スムーズにコミュニケーションが取れるようになる。
- ・様々なスタイルの話し方を身につけ、場面や状況に応じて適切に使い分けられるようになる。

### 授業方法

口頭での表現を学ぶために聞き取り、会話練習を行います。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介のための表現
- 第2回 大学内のフォーマルな場面①
- 第3回 大学内のフォーマルな場面②
- 第4回 大学内のフォーマルな場面③
- 第5回 前置き表現
- 第6回 情報を得る①
- 第7回 誘い①
- 第8回 誘い②
- 第9回 依頼・断り①
- 第10回 依頼・断り②
- 第11回 勧める①
- 第12回 勧める②
- 第13回 感想を述べる①
- 第14回 感想を述べる②
- 第15回 話を切り出す①
- 第16回 話を切り出す②
- 第17回 情報を提供する①
- 第18回 情報を提供する②
- 第19回 能力を述べる①
- 第20回 能力を述べる②
- 第21回 トラブルへの対処①
- 第22回 トラブルへの対処②
- 第23回 情報を得る②
- 第24回 情報を得る③
- 第25回 日本人家庭を訪問した際に使う表現①
- 第26回 日本人家庭を訪問した際に使う表現②
- 第27回 抱負を述べる①
- 第28回 抱負を述べる②
- 第29回 まとめ
- 第30回 テスト

### 成績評価の方法

授業への参加状況（10%） クイズ（20%） 課題（40%）、期末テスト（30%）

### 履修にあたっての注意

授業への積極的な参加が求められます。

### 教科書

姫野昌子(監修)『コロケーションが身につく日本語表現練習帳』(研究社、2012、ISBN：978-4-327-38463-0)

### 教科書・参考書に関する備考

教科書の他に配布プリントを使用します。  
参考書は授業内で紹介します。

R0121

## 日本語（口頭表現Ⅱ）

担当教員：富田 麻知子

2単位 後期

### 授業のねらい

話し言葉を中心に、日本での留学生活において必要となる日本語を身につけます。

発表などアカデミックな場面で自分の意見を論理的に伝えられるよう練習します。

### 到達目標

- ・発表の場で、根拠を示しながら自分の意見を適切に伝えられるようになる。
- ・様々な場面や状況で、スムーズにコミュニケーションが取れるようになる。

### 授業方法

発表に必要な表現を学ぶために、発表の聞き取り、文章作成などの課題に取り組みます。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 メモを取る練習
- 第3回 <基本練習>発表全体の流れを知る
- 第4回 <基本練習>発表のための基本的な表現
- 第5回 <基本練習>序論で使う表現①
- 第6回 <基本練習>序論で使う表現②
- 第7回 <基本練習>序論で使う表現③
- 第8回 <基本練習>序論で使う表現④
- 第9回 <基本練習>本論で使う表現①
- 第10回 <基本練習>本論で使う表現②
- 第11回 <基本練習>本論で使う表現③
- 第12回 <基本練習>本論で使う表現④
- 第13回 <基本練習>結論で使う表現①
- 第14回 <基本練習>結論で使う表現②
- 第15回 中間発表①準備
- 第16回 中間発表②準備
- 第17回 中間発表③発表練習
- 第18回 中間発表④発表
- 第19回 <応用練習>序論の構成
- 第20回 <応用練習>質疑応答①
- 第21回 <応用練習>本論の構成①
- 第22回 <応用練習>質疑応答②
- 第23回 <応用練習>本論の構成②
- 第24回 <応用練習>質疑応答③
- 第25回 <応用練習>結論の構成
- 第26回 <応用練習>質疑応答④
- 第27回 最終発表①準備
- 第28回 最終発表②準備
- 第29回 最終発表③発表練習
- 第30回 最終発表④発表

### 成績評価の方法

授業への参加状況（10%） クイズ（20%） 課題（20%） 発表（50%）

### 履修にあたっての注意

授業への積極的な参加が求められます。

### 教科書

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』(スリーエーネットワーク、2007、ISBN：978-4-88319-426-1)  
姫野昌子(監修)『コロケーションが身につく日本語表現練習帳』(研究社、2012、ISBN：978-4-327-38463-0)

### 教科書・参考書に関する備考

教科書の他に配布プリントを使用します。  
参考書は授業内で紹介します。



R0021

## 日本語（読解）

担当教員：和田 衣世

1単位 前期

## 授業のねらい

様々なジャンルの文章を読みこなすために必要となる読解ストラテジー（文のつながりを理解する方法、文章の展開を理解する方法、知識を使って理解する方法など）を学びます。さらに、練習を通して、必要な情報を読み取る力を養成します。

## 到達目標

あらゆるジャンルの学術的文献に対応できる読解ストラテジーを身につけ、文献が正確に理解できるようになる。

## 授業方法

基本的に指定教科書に沿って授業を行います。ときおり教科書以外の生教材（雑誌や新聞の記事等）を読みながらディスカッションなども交えて授業を進めていきます。

## 授業計画

- 第1回 語のまとまりをとらえる
- 第2回 主語と述語の対応を理解する
- 第3回 文の構造をとらえる
- 第4回 複文における前件と後件の関係をつかむ
- 第5回 指示詞の示すものを理解する
- 第6回 省略されているものを考える
- 第7回 キーワードを探す
- 第8回 文末表現から筆者の意見をとらえる
- 第9回 筆者の立場を見分ける
- 第10回 大切なことを伝えるサインをつかむ
- 第11回 目印を使って内容を整理する
- 第12回 内容を素早く理解する
- 第13回 文章の話題をとらえる
- 第14回 ストーリーを読みこなす
- 第15回 読み間違いに気づき対応する

## 成績評価の方法

授業への参加状況 30%、試験 70%

## 履修にあたっての注意

20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。遅刻・欠席には厳しく対処します。

## 教科書

石黒圭ほか『留学生のための読解トレーニング 読む力がアップする15のポイント』（凡人社、2011、ISBN：978-4-89358-780-0C3081）

R0131

## 日本語（文章表現Ⅰ）

担当教員：平塚 真理

1単位 前期

## 授業のねらい

レポート形式の文章を書くために必要な表現・文体・書式を学びます。そして、構成を意識しながら論理的な文章が書けるように練習します。

## 到達目標

- ・レポートにふさわしい文体・表現で書けるようになる。
- ・わかりやすい構成でレポートが書けるようになる。
- ・論理的な文章が書けるようになる。

## 授業方法

レポートに必要な項目を学習し、実際に文章を書いて練習していきます。

提出した文章は添削を受けて修正します。

## 授業計画

- 第1回 メールの書き方
- 第2回 レポート・論文の文体(1)
- 第3回 レポート・論文の文体(2)
- 第4回 接続詞(1)
- 第5回 接続詞(2)
- 第6回 名詞化(1)
- 第7回 名詞化(2)
- 第8回 文頭と文末の呼応  
意見を述べる  
引用する
- 第9回 レポートの構成(1)
- 第10回 レポートの構成(2)
- 第11回 「序論」の書き方(1)
- 第12回 「序論」の書き方(2)
- 第13回 「結論」の書き方(1)
- 第14回 「結論」の書き方(2)
- 第15回 数値・データの説明

## 成績評価の方法

授業への参加状況 20%、課題 30%、試験 50%

## 履修にあたっての注意

- ・授業には辞書を持ってきてください。
- ・毎回プリントを配布しますので、A4の2穴ファイルを準備してください。
- ・授業への積極的な参加が求められます。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布します。

**R0141****日本語（文章表現Ⅱ）**

担当教員：和田 衣世

1 単位 後期

**授業のねらい**

専門科目のレポートや卒業論文を書く際に必要とされる、客観的な事実と信頼できる情報に基づいた論理展開をする文章力を身につける。

**到達目標**

論証型のレポートを作成する過程を実際に学び、段落から全体の文章作成、グループ内口頭発表で仕上げていく。

**授業方法**

基本的に講師が準備したハンドアウトによって授業を行います。ときおり参考教科書などを読みながら、ディスカッションなどのピア活動を交えて授業を進めていきます。

**授業計画**

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方）
- 第2回 論証型レポートを知る
- 第3回 レポートの構想を立てる
- 第4回 レポートのテーマを決定し、目標を立てる
- 第5回 文章の組み立て(1)
- 第6回 文章の組み立て(2)
- 第7回 組み立てを再検討する(1)
- 第8回 組み立てを再検討する(2)
- 第9回 パラグラフ(1)
- 第10回 パラグラフ(2)
- 第11回 本文(1)
- 第12回 引用
- 第13回 本文(2)
- 第14回 表現・文章・形式の点検
- 第15回 振りかえり

**成績評価の方法**

授業への参加状況 30%、宿題 20%、レポート 50%

**履修にあたっての注意**

20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。遅刻・欠席には厳しく対処します。

**教科書**

なし

**参考書**

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版』（ひつじ書房、2014、ISBN：978-4-89476-709-6）

**R0151****日本語（総合A）**

担当教員：延与 由美子

1 単位 前期

**授業のねらい**

日本の大学生生活において必要となる日本語力（アカデミックスキル）を身につける。特に、情報を聞いたり読んだりして理解するスキルを伸ばしていく。具体的には

- ・履修ガイドや掲示板などの情報の読み取りスキル
- ・コンピュータや図書館などを利用した情報収集スキル
- ・講義理解に必要な聴解スキル

を身につける。

**到達目標**

1. 大学生生活で必要となる情報を適切に読み取れる・聞き取れるようになる。
2. コンピュータや図書館などを利用して授業に関連する情報を収集できるようになる。
3. 講義内容を適切に理解できるようになる。
4. 講義内容についての感想や意見をまとめられるようになる。

**授業方法**

授業は主にコンピュータを使って行う。90分の授業の前半は各回のテーマに基づいた課題を行うことで、情報収集や講義の聞き取りのために必要なスキルを身につける。後半は講義や発表などを聞き取る練習をする。

毎回、事後課題を課す（所要時間 60分程度）。提出された課題はコメントを書き込み返却する。中間試験・期末試験は評価・コメントを書き込み返却する。

**授業計画**

- 第1回 ポータルサイト・掲示板から情報を得る
- 第2回 シラバスをもとに授業内容を把握する
- 第3回 授業内容について、情報を集め予習する
- 第4回 講義を聴く1：話の構成を知る
- 第5回 講義を聴く2：キーワードを聞き取る
- 第6回 講義を聴く3：言いたいことは何か？
- 第7回 ノートをとる1：重要なポイントを箇条書きする
- 第8回 ノートをとる2：配布プリントにメモを取る
- 第9回 中間試験
- 第10回 レポート課題のための資料を集める
- 第11回 講義内容をまとめる1
- 第12回 講義内容をまとめる2
- 第13回 講義内容について感想をまとめる
- 第14回 講義内容について意見をまとめる
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

到達目標1～4を測定する事後課題 40%、中間テスト 30%、期末テスト 30%、により評価する。

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：配布プリントを使用

R0161

## 日本語（総合B）

担当教員：副田 恵理子

1 単位 前期

### 授業のねらい

この授業では日本の社会・文化について学ぶと同時に総合的な日本語力を身につけることを目指します。具体的には、日本、また、北海道の社会・文化・歴史をテーマとして扱い、講義や体験を通して理解を深めます。さらに、それぞれのテーマについて自ら調べ、日本語でディスカッションをしたりプレゼンテーションをしたりすることで、日本の大学生活において必要となる日本語力（アカデミックスキル）を伸ばしていきます。

### 到達目標

1. 講義や体験、また自ら情報を集めることで、日本の歴史・文化・教育・経済についての知識を拡げる。
2. 日本語を使って各国の文化を比較したり、説明したりできるようになる。
3. ディスカッションにおいて相手の意見を踏まえて自分の意見を述べることにより、より活発なやり取りができるようになる。
4. 発表やレポートなどで適切な構成・表現を使って、自分の意見を論理的に伝えられるようになる。

### 授業方法

授業方法：ディスカッションやタスクを中心に授業を進めます。また、学習した内容に関するタスクを課し、次週その内容を発表してもらいます。

事前事後学習：授業前に教科書の学習する課の読み物、資料を読んできてもらいます。また授業後には、情報収集等のタスクを課します。学期末にはレポート課題を課します。

フィードバックの方法：発表に対しては買うて王でフィードバックを行います。また期末レポートについては評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。

### 授業計画

- 第1回 日本・北海道ってどんなところ？
- 第2回 都市の暮らし・地方の暮らし
- 第3回 季節を楽しむ年中行事
- 第4回 知っておきたい日本の歴史
- 第5回 知っておきたい北海道の歴史
- 第6回 スポーツの楽しみ方
- 第7回 伝統文化体験 茶道（担当：齊藤）
- 第8回 現代文化とポップカルチャー
- 第9回 日本の食文化（担当：隈元）
- 第10回 前進を続ける科学技術
- 第11回 地球のためにできること
- 第12回 教育と子供たち
- 第13回 産業構造と経済
- 第14回 政治と憲法
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標 1～4 を測定する発表 50%、期末レポート 50%、により評価する。

（3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。）

### 教科書

佐々木瑞枝『クローズアップ日本事情 15 - 日本語で学ぶ社会と文化』（The Japan Times、2017、ISBN：978-4-7890-1653-7）

# 英語文化学科 専門科目



## 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

1年次の「学科基礎科目」:

「Writing I」「Writing II」「Grammar I」「Grammar II」「Oral English I a」「Oral English I b」「Oral English II a」「Oral English II b」「Reading I」「Reading II」「Voice & Articulation I」「Voice & Articulation II」「Vocabulary Building I」「Vocabulary Building II」

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Grammar III」「Grammar IV」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」「Strategies for Listening I」「Strategies for Listening II」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を複数のクラスに分けて、担当教員が同じ時間帯に同時展開する。「Oral English」「Writing」「The Art of Writing」の科目は、ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっていく。使用するテキストと授業の進度は全クラスでほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

## 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標とする。

## 授業方法

英文法の重要な項目を理解し、正確な英文を作ることができるように、徹底集中して練習する。受講者の理解度を確認するため、学期中に Quiz を3回行う。受講者は、それぞれの回の授業で学んだ内容について、次回の授業までに指定された練習問題を解いてくること(事前事後準備時間1時間半から2時間程度)。

Quiz や練習問題などの課題については、採点後に必要に応じて授業で解説する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス；現在進行形、単純現在形 (Unit 3, 4)
- 第2回 過去進行形、現在完了形 (Unit 6, 7, 8)
- 第3回 現在完了進行形 (Unit 9, 10, 11)
- 第4回 現在完了形 vs. 過去形 (Unit 12, 13, 14)
- 第5回 Quiz (1)；過去完了形、未来を表す現在進行形と単純現在形 (Unit 15, 19)
- 第6回 未来を表す現在進行形、will (Unit 20, 21, 22)
- 第7回 will, 未来進行形、未来完了形；when 節と if 節 (Unit 23, 24, 25)
- 第8回 could, must, can't, may, might (Unit 27, 28, 29)
- 第9回 Quiz (2)；may, might, have to, must (Unit 30, 31)
- 第10回 must, mustn't, needn't, should (Unit 32, 33, 34)
- 第11回 had better, It's time . . . , would, 依頼・申し出・許可・勧誘の表現 (Unit 35, 36, 37)
- 第12回 仮定法 (Unit 38, 39, 40)
- 第13回 Quiz (3)；wish, 受け身(1) (Unit 41, 43)
- 第14回 受け身(2) (Unit 44, 45, 46)
- 第15回 Make-up Week

## 成績評価の方法

定期試験の評価 (70%)、授業中の活動・参加 (小テスト、宿題を含む) に対する評価 (30%)

## 教科書

Murphy, Raymond, *English Grammar in Use (4th ed.)* (Cambridge University Press, 2012, ISBN : 978-0-521-18906-4)



18021・18022

## Grammar II

担当教員：山木戸 浩子

0.5 単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

1年次の「学科基礎科目」:

「Writing I」「Writing II」「Grammar I」「Grammar II」「Oral English I a」「Oral English I b」「Oral English II a」「Oral English II b」「Reading I」「Reading II」「Voice & Articulation I」「Voice & Articulation II」「Vocabulary Building I」「Vocabulary Building II」

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Grammar III」「Grammar IV」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」「Strategies for Listening I」「Strategies for Listening II」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を複数のクラスに分けて、担当教員が同じ時間帯に同時展開する。「Oral English」「Writing」「The Art of Writing」の科目は、ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっていく。使用するテキストと授業の進度は全クラスでほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

(「Grammar I」の続きである。) 英文法の重要な項目を理解し、正確な英文を作ることができるように、徹底集中して練習する。受講者の理解度を確認するため、学期中に小テストを3回行う(小テストの所要時間10分程度)。受講者は、それぞれの回の授業で学んだ内容について、次回の授業までに指定された練習問題を解いてくること(事前事後準備時間1時間半から2時間程度)。

小テストや練習問題などの課題については、採点後に必要に応じて授業で解説する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス；直接話法・間接話法 (Unit 47, 48)
- 第2回 疑問文、助動詞 (Unit 49, 50, 51)
- 第3回 付加疑問文；V + -ing, V to ... (Unit 52, 53, 54)
- 第4回 Quiz 1；V 目的語 + to ... , V + -ing / to ... (1) (Unit, 55, 56)
- 第5回 V + -ing / to ... (2)；prefer, would rather ... (Unit 57, 58, 59)
- 第6回 前置詞 -ing, V + 前置詞 -ing, 分詞構文 (Unit 60, 62, 68)
- 第7回 可算・不可算名詞、可算名詞 + a/an, some (Unit 69, 70, 71)
- 第8回 Quiz 2；a/an, the (Unit 72, 73)
- 第9回 the (Unit 74, 75, 76)
- 第10回 再帰代名詞、所有代名詞；There ... , it ... (Unit 82, 83, 84)
- 第11回 some / any；much / many, little / few；each / every (Unit 85, 87, 91)
- 第12回 Quiz 3；関係節(1) (Unit 92, 93)
- 第13回 関係節(2) (Unit 94, 95, 96)
- 第14回 -ing vs. -ed；although, in spite of；unless, as long as (Unit 97, 113, 115)
- 第15回 Make-up Week

### 成績評価の方法

定期試験の評価(70%)、授業中の活動・参加(小テスト、宿題を含む)に対する評価(30%)

### 教科書

Murphy, Raymond, *English Grammar in Use (4th ed.)* (Cambridge University Press, 2012, ISBN : 978-0-521-18906-4)

18031~18034

## Writing I

担当教員：Charles Mueller, Harry Creagen  
0.5単位 前期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を複数のクラスに分けて、担当教員が同じ時間帯に同時展開する。「Oral English」「Writing」「The Art of Writing」の科目は、ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は全クラスではほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

Reading I のテキスト discussion topics などをエッセイのトピックにしたりする。ライティングの課題を自宅を書いて、授業で指導を受ける。テキストの中の英文を参考にしつつ、英語で考えてそのまま英語で書く練習である。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class and discussion of paragraph structure related to topic sentences
- 第2回 Discussion of supporting statements in paragraphs
- 第3回 Brainstorming exercises on cultural conceptions of time as preparation for first writing assignment
- 第4回 Exercises on transitions in paragraphs
- 第5回 Brainstorming exercise on national diets as preparation for second writing assignment
- 第6回 Exercise on sentence fragments
- 第7回 Brainstorming session on technology's effect on social interaction as preparation for third writing assignment
- 第8回 Discussion of use of consistent first, second, or third person perspectives in writing
- 第9回 Brainstorming session on issues related to deaf children as preparation for fourth writing assignment
- 第10回 Exercises on writing skills and review of student essay assignments from previous class
- 第11回 Brainstorming session on loneliness as preparation for fifth writing assignment
- 第12回 Exercises on writing skills and review of student essay assignments from previous class
- 第13回 Brainstorming session on role of grandparents as preparation for sixth writing assignment
- 第14回 Exercises on revision skills and review of student essay assignments from previous class
- 第15回 In-class writing assignment.

### 成績評価の方法

課題として出されるエッセイに対する評価 (100%)  
但し、授業への参加状況が最終成績に影響することがある。

### 教科書

なし

18041~18044

## Writing II

担当教員：Charles Mueller, Harry Creagen  
0.5単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を複数のクラスに分けて、担当教員が同じ時間帯に同時展開する。「Oral English」「Writing」「The Art of Writing」の科目は、ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は全クラスではほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

Reading I のテキスト discussion topics などをエッセイのトピックにしたりする。ライティングの課題を自宅を書いて、授業で指導を受ける。テキストの中の英文を参考にしつつ、英語で考えてそのまま英語で書く練習である。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class and in-class writing
- 第2回 Discussion of eyewitness memory as preparation for the first writing assignment
- 第3回 Exercise on links within and between paragraphs
- 第4回 Discussion of the criminal justice system as preparation for the second writing assignment
- 第5回 Exercise on connecting sentences and subordination
- 第6回 Discussion of law enforcement as preparation for the third writing assignment
- 第7回 Exercises on academic vocabulary
- 第8回 Discussion of differences between stone age and modern culture as preparation for fourth writing assignment
- 第9回 Exercises on direct and indirect quotations
- 第10回 Discussion of modern medicine as preparation for the fifth writing assignment
- 第11回 Exercises on summary
- 第12回 Discussion of implications of finding extra-terrestrial life as preparation for sixth writing assignment
- 第13回 Feedback on papers and tips for revision
- 第14回 Submission of revised papers
- 第15回 Exercises on use of sources

### 成績評価の方法

課題として出されるエッセイに対する評価 (100%)  
但し、授業への参加状況が最終成績に影響することがある。

### 教科書

なし

11131~11138

## Oral English I a

担当教員：Oral English I a 担当者

1 単位 前期

### 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

### 到達目標

By the end of the course, students should be able to generally follow topics in typical discussions which are conducted in a slow and clear manner. They should be able to exchange relevant information and give opinions on practical problems when asked directly.

### 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete writing exercises as well as speaking exercise targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will complete speaking tasks in pairs or groups.

### 授業計画

- 第1回 Overview of course. Unit 1 (Review of tenses)
- 第2回 Unit 1 (Understanding and asking about basic personal information)
- 第3回 Unit 1 (Review of auxiliary do in questions)
- 第4回 Unit 1 (Reading and listening exercise about dating and seeking a suitable match)
- 第5回 Unit 1 (Adjective-noun collocations, prepositions, and basic social expressions)
- 第6回 Unit 3 (Review of simple past and continuous)
- 第7回 Unit 3 (Reading and listening about the Amazon)
- 第8回 Unit 3 (Talking about recent activities)
- 第9回 Unit 3 (Reading and discussing simple news events)
- 第10回 Unit 3 (Using adverbs and talking about dates of key events)
- 第11回 Unit 5 (Review of expressions of doubt and certainty)
- 第12回 Unit 5 (Talking and listening about future plans)
- 第13回 Unit 5 (Talking about plans and listening about men and women in their 20s)
- 第14回 Unit 5 (Reading about Chernobyl nuclear accident)
- 第15回 Unit 5 (Using phrasal verbs with literal and figurative meanings)
- 第16回 Unit 7 (Review of present perfect and use of ever and never)
- 第17回 Unit 7 (Use of for and since)
- 第18回 Unit 7 (Reading and listening about archaeologist)
- 第19回 Unit 7 (Reading about a large wealthy estate)
- 第20回 Unit 7 (Listening to a family history, and using tag questions in replies)
- 第21回 Unit 9 (Review of the past perfect and listening to a narrative text)
- 第22回 Unit 9 (Joining sentences in a narrative)
- 第23回 Unit 9 (Reading about Dr. Jekyll and Mr. Hyde)
- 第24回 Unit 9 (Using adjectives to describe feelings)
- 第25回 Unit 11 (Review of the present perfect continuous, and reading about a music teacher)
- 第26回 Unit 11 (Talking about reasons why something happened)
- 第27回 Unit 11 (Making a conversation about reuniting with

an old friend or acquaintance)

第28回 Unit 11 (Reading about the Getty family and discussing birth, marriage, and death)

第29回 Student interviews (end-of-semester evaluations)

第30回 Student interviews (end-of-semester evaluations)

### 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end-of-semester evaluation (20%).

### 教科書

Soars and Soars, *American Headway: Level 2 Student Book (3rd ed.)* (Oxford University, ISBN : 978-019-472588-0)

## 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

## 到達目標

Students will be able to deal with a number of typical situations related to school, typical service interactions, and interactions involving family and friends. They will also be able to talk about their opinions and aspirations.

## 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete writing exercises as well as speaking exercise targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will complete speaking tasks in pairs or groups.

## 授業計画

- 第1回 Introduction to course and discussion of strategies for maintaining a conversation
- 第2回 Unit 2 (Maintaining a conversation, present tenses, and short responses)
- 第3回 Unit 2 (Reading and listening about a small business)
- 第4回 Unit 2 (Listening and talking about possessions and hobbies)
- 第5回 Unit 2 (Listening and talking to classmates and teachers)
- 第6回 Unit 4 (Review of articles and writing about one's typical diet)
- 第7回 Unit 4 (Reading and discussing healthy life styles)
- 第8回 Unit 4 (Reading and listening about long life)
- 第9回 Unit 4 (Reading and listening about interesting places to visit)
- 第10回 Unit 4 (Listening and speaking about quantities, language related to food shopping)
- 第11回 Unit 6 (Review of comparatives and superlatives)
- 第12回 Unit 6 (Listening and describing a person's appearance and personality)
- 第13回 Unit 6 (Listening and talking about people's jobs and personality)
- 第14回 Unit 6 (Reading about emigrant experiences)
- 第15回 Unit 6 (Using synonyms and antonyms)
- 第16回 Unit 8 (Review of modals expressing obligation)
- 第17回 Unit 8 (Understanding and giving advice)
- 第18回 Unit 8 (Reading and listening to description of family life and siblings)
- 第19回 Unit 8 (Talking about clothes)
- 第20回 Unit 8 (Describing ailments to a doctor)
- 第21回 Unit 10 (Review of passives and reading about the history of the cell phone)
- 第22回 Unit 10 (Talking about inventions throughout history)
- 第23回 Unit 10 (Reading about the internet)
- 第24回 Unit 10 (Listening and talking about stressful situations)
- 第25回 Unit 10 (Understanding and making typical phone conversations)
- 第26回 Unit 12 (Using conditionals)
- 第27回 Unit 12 (Describing dreams and aspirations and

talking about the universe)

第28回 Unit 12 (Typical conversations when parting with someone and use of prepositions)

第29回 End of semester evaluation (interviews)

第30回 End of semester evaluation (interviews)

## 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end of semester evaluation (20%).

## 教科書

Soars and Soars, *American Headway: Level 2 Student Book (3rd ed.)* (Oxford University, ISBN : 978-019-472588-0)

11151~11158

## Oral English II a

担当教員：Oral English II a 担当者

1 単位 後期

### 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

### 到達目標

Students will be able to follow much of what is said that is related familiar topics provided that the speaker avoids very idiomatic usage and speaks clearly. They will be able to put forth their point of view clearly and will be able to take part in routine formal discussions on familiar subjects. They will be able to exchange factual information and discuss solutions to practical problems.

### 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete writing exercises as well as speaking exercise targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will complete speaking tasks in pairs or groups.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class and discussion of how to develop speaking skills
- 第2回 Unit 1 (Review of tenses and auxiliary verbs, answering and answering factual questions.)
- 第3回 Unit 1 (Short answers and conducting a simple survey)
- 第4回 Unit 1 (Reading and listening about extended families)
- 第5回 Unit 1 (Collocations, word-building, and language used at the airport)
- 第6回 Unit 3 (Review of simple past, past continuous, and simple past passive)
- 第7回 Unit 3 (Listening to reports of past events, reading about a crime, and homonyms)
- 第8回 Unit 3 (Reading, listening, and speaking activities about Romeo and Juliet)
- 第9回 Unit 3 (Casual conversations and tag questions)
- 第10回 Unit 3 (Adverb use and writing exercises about personal opinions)
- 第11回 Unit 5 (Review of modals used to express a lack of certainty)
- 第12回 Unit 5 (Listening and talking about future predictions)
- 第13回 Unit 5 (Listening and talking about extreme weather events)
- 第14回 Unit 5 (Reading about space exploration and predictions of the future)
- 第15回 Unit 5 (Prefixes and suffixes, listening, writing, and speaking about one's schedule)
- 第16回 Unit 7 (Review of present perfect, continuous, and passive, reading a biographical text)
- 第17回 Unit 7 (Listening and speaking exercises about a famous author's biography)
- 第18回 Unit 7 (Reading and listening exercise on a famous designer's biography)
- 第19回 Unit 7 (Reporting biographical information, present perfect, and tag questions)

- 第20回 Unit 7 (Reading about sports, discussing one's passion, and reacting to others' statements)
- 第21回 Unit 9 (Overview of conditionals, listening to a narrative and talking about hypotheticals)
- 第22回 Unit 9 (Reading and writing about a crime focusing on what could have happened)
- 第23回 Unit 9 (Reading, speaking, and writing exercises on social conscience)
- 第24回 Unit 9 (Listening and writing exercise about common interactions at restaurants and hotels)
- 第25回 Unit 9 (Review of anaphoric pronouns and discussion of credit and currency exchange rates)
- 第26回 Unit 11 (Review of modals of probability and epistemic use of must)
- 第27回 Unit 11 (Listening and speaking exercises dealing with inferences and discussion about Sherlock Holmes)
- 第28回 Unit 11 (Expressing attitudes and using phrasal verbs)
- 第29回 Final assessment (interviews)
- 第30回 Final assessment (interviews)

### 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end of semester evaluation (20%).

### 教科書

Soars and Soars, *American Headway: Level 3 Student Book (3rd ed.)* (Oxford University, ISBN : 978-019472611-5)



## 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

## 到達目標

Students will be able to interact with speakers and maintain the flow of a conversation. They will be able to put forth their point of view regarding their daily routines and will be able to take part in formal discussions about personal values, recent news events, and unexpected occurrences. They will be able to ask for and provide advice, discuss personal matters, and discuss common topics such as travel, living arrangements, and everyday technologies.

## 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete writing exercises as well as speaking exercise targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will complete speaking tasks in pairs or groups.

## 授業計画

- 第1回 Overview of course. Unit 2 (Review of passive voice).
- 第2回 Unit 2 (Discussing work and describing routines)
- 第3回 Unit 2 (Listening and talking about office jobs)
- 第4回 Unit 2 (Listening and talking about money and statistics and reading about routines)
- 第5回 Unit 2 (Talking and listening about free time activities and writing emails)
- 第6回 Unit 4 (Review of modals and phrasal verbs)
- 第7回 Unit 4 (Reading about personal problems and giving others advice)
- 第8回 Unit 4 (Reading about laws and listening and talking about life values)
- 第9回 Unit 4 (Reading about internet addiction and group discussion of the issue)
- 第10回 Unit 4 (Using phrasal verbs and idiomatic language and making polite requests)
- 第11回 Unit 6 (Review of adjective and adverbs and understanding information questions)
- 第12回 Unit 6 (Use of adjectives formed with -ing or -ed and choosing adverbs)
- 第13回 Unit 6 (Reading interviews about home life)
- 第14回 Unit 6 (Listening and speaking about close relatives)
- 第15回 Unit 6 (Understanding and using language related to department store shopping)
- 第16回 Unit 8 (Overview of using numbers and language related to bodily actions)
- 第17回 Unit 8 (Reading, listening, and describing vacation risks and mishaps)
- 第18回 Unit 8 (Review of verbal patterns such as verb + infinitive and verb + -ing)
- 第19回 Unit 8 (Listening and making calls and talking about fears)
- 第20回 Unit 8 (Reading about major military campaigns and using language about travel)
- 第21回 Unit 10 (Review of compound nouns, reading about

- modern computer technology)
- 第22回 Unit 10 (Use of articles)
- 第23回 Unit 10 (Use of possessive pronouns and listening to talk of online activities)
- 第24回 Unit 10 (Reading about Singapore, using superlatives, and talking about city living)
- 第25回 Unit 10 (Listening, speaking, and writing exercises about describing objects)
- 第26回 Unit 12 (Review of reported speech and listening about online purchase)
- 第27回 Unit 12 (Asking and answering questions about a news event and choosing verbs for reporting what others say)
- 第28回 Unit 12 (Listening and discussing news stories and understanding clichés)
- 第29回 Final assessment (interviews)
- 第30回 Final assessment (interviews)

## 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end of semester evaluation (20%).

## 教科書

Soars and Soars, *American Headway: Level 3 Student Book (3rd ed.)* (Oxford University, ISBN : 978-019472611-5)



15041～15044

## Reading I

担当教員：Reading I 担当者

1 単位 前期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

受講者は4つのクラスに分かれ、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。使用するテキストと授業の進度は全クラスでほぼ同じで、試験は一部共通問題で実施される。

### 到達目標

- 1) 文脈にあった単語の意味を理解できる。
- 2) 高校までに習った文法や構文などを意識し、文の意味を正確に読解することができる。
- 3) パラグラフ、パッセージのメインアイデアを理解することができる。
- 4) メインアイデアとディテールを区別することができる。
- 5) パラグラフ、パッセージの構造を把握することができる。
- 6) 英語の音声の規則に従って音読することができる。
- 7) ある程度の長さの英文を理解し、その内容などを説明することができる。
- 8) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。

### 授業方法

毎回授業の最初に構文の小テストを行い、その後教科書の内容に沿って授業を進める。進度等を考慮しクラスごとに違った課題を与える場合がある。学期の途中で中間試験を行い、学期末には試験を行う。

### 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 1
- 第4回 Chapter 2
- 第5回 Chapter 2
- 第6回 Chapter 3
- 第7回 Chapter 3
- 第8回 中間テスト、Chapter 4
- 第9回 Chapter 4
- 第10回 Chapter 5
- 第11回 Chapter 5
- 第12回 Chapter 6
- 第13回 Chapter 6
- 第14回 Chapter 6 までのまとめ
- 第15回 学期のまとめと試験

### 成績評価の方法

- 1) 到達目標1～8を計測するための平常評価 40%
- 2) 到達目標1～8を計測するための試験 60%

### 履修にあたっての注意

- ・ 毎回小テストを課すので必ず準備すること。
- ・ 指定された範囲の予習を必ず行うこと。予習の時間はおおよそ1～2時間程度を予定している。
- ・ 単位取得のためには一定回数以上出席すること。
- ・ 授業に出席しても予習が不十分であったり、授業態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・ 毎回の授業には辞書を持参すること。

### 教科書

Miwako Yamashina 他, *Reading Choice: Skills for Academic Success* (Cengage Learning, 2013, ISBN : 9781285197494)

吉ゆうそう『大学生のための最重要英語構文 540 Touchdown』(南雲堂、2015、ISBN : 9784523177975)

### 参考ホームページ

VOA Learning English  
<https://learningenglish.voanews.com/>  
BBC Learning English  
<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>  
Japan Times ST  
<http://st.japantimes.co.jp/>

15051～15054

## Reading II

担当教員：Reading II 担当者

1 単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

受講者を4つのクラスに分かれ、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。使用するテキストと授業の進度は全クラスでほぼ同じで、試験は一部共通問題で実施される。

### 到達目標

- 1) 文脈にあった単語の意味を理解できる。
- 2) 高校までに習った文法や構文などを意識し、文の意味を正確に読解することができる。
- 3) パラグラフ、パッセージのメインアイデアを理解することができる。
- 4) メインアイデアとディテールを区別することができる。
- 5) パラグラフ、パッセージの構造を把握することができる。
- 6) 英語の音声の規則に従って音読することができる。
- 7) ある程度の長さの英文を理解し、その内容などを説明することができる。
- 8) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。

### 授業方法

毎回授業の最初に構文の小テストを行い、その後教科書の内容に沿って授業を進める。進度等を考慮しクラスごとに違った課題を与える場合がある。学期の途中で中間試験を行い、学期末には試験を行う。

### 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Chapter 7
- 第3回 Chapter 7
- 第4回 Chapter 8
- 第5回 Chapter 8
- 第6回 Chapter 9
- 第7回 Chapter 9
- 第8回 中間テスト、Chapter 10
- 第9回 Chapter 10
- 第10回 Chapter 11
- 第11回 Chapter 11
- 第12回 Chapter 12
- 第13回 Chapter 12
- 第14回 Chapter 12 までのまとめ
- 第15回 学期のまとめと試験

### 成績評価の方法

- 1) 到達目標1～8を計測するための平常評価 40%
- 2) 到達目標1～8を計測するための試験 60%

### 履修にあたっての注意

- ・ 毎回小テストを課すので必ず準備すること。
- ・ 指定された範囲の予習を必ず行うこと。予習の時間はおおよそ1～2時間程度を予定している。
- ・ 単位取得のためには一定回数以上出席すること。
- ・ 授業に出席しても予習が不十分であったり、授業態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・ 毎回の授業には辞書を持参すること。

### 教科書

Miwako Yamashina 他, *Reading Choice: Skills for Academic Success* (Cengage Learning, 2013, ISBN : 9781285197494)

吉ゆうそう『大学生のための最重要英語構文 540 Touchdown』(南雲堂、2015、ISBN : 9784523177975)

### 参考ホームページ

VOA Learning English

<https://learningenglish.voanews.com/>

BBC Learning English

<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

Japan Times ST <http://st.japantimes.co.jp/>

18161・18162

## Voice & Articulation I

担当教員：新井 良夫

0.5単位 前期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 到達目標

この授業は、英語の音の構造を理解して、さらに、正確に英語の音を出し、自然なリズムとイントネーションで発音できるようになることである。

前期のこの授業は、「音声識別訓練」を中心に展開される。

### 授業方法

「ネイティブのような発音」を身につけるのが目的である。そのプロセスは、音声の微妙な違いを聴き分けられるようになること、そしてその微妙な違いを口に出せるようになることである。それは日本語と英語の音声の違いを「感覚」として体得する訓練である。

前期のこの授業は、発音器官の構造、母音と子音の「音声識別訓練」をする。

### 授業計画

- 第1回 日本語音声・英語音声
- 第2回 発音器官
- 第3回 母音・子音
- 第4回 前舌母音
- 第5回 後舌母音
- 第6回 中舌母音
- 第7回 二重母音
- 第8回 /əɪ/ を含んだ二重母音
- 第9回 閉鎖音
- 第10回 鼻音
- 第11回 摩擦音
- 第12回 破擦音
- 第13回 側音
- 第14回 半母音
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

音声実技 (70%)、授業への参加状況 (30%) により評価する。

### 教科書

今井由美子ほか, *Sounds Make Perfect* (英宝社, 2010, ISBN : 978-4-269-63013-0)

### 教科書・参考書に関する備考

適宜指示する

18171・18172

## Voice & Articulation II

担当教員：新井 良夫

0.5単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 到達目標

この授業は、英語の音の構造を理解して、さらに、正確に英語の音を出し、自然なリズムとイントネーションで発音できるようになることである。

後期のこの授業は、前期で学んだ「音声識別訓練」を土台にして、リズムとイントネーションの訓練を中心に展開される。

### 授業方法

「ネイティブのような発音」を身につけるのが目的である。そのプロセスは、音声の微妙な違いを聴き分けられるようになること、そしてその微妙な違いを口に出せるようになることである。それは日本語と英語の音声の違いを「感覚」として体得する訓練である。

後期のこの授業は、音の「連結」、「脱落」、「同化」など音声現象、語強勢・文強勢、を理解してから、英語のリズム、イントネーションの聞き分け、発音を訓練する。

### 授業計画

- 第1回 音の連結
- 第2回 音の脱落
- 第3回 音の同化
- 第4回 音節と拍
- 第5回 語強勢
- 第6回 文強勢
- 第7回 ポーズ
- 第8回 ピッチとイントネーション
- 第9回 イントネーション
- 第10回 弱形
- 第11回 強形
- 第12回 日本語のリズム
- 第13回 英語のリズム
- 第14回 日本語のイントネーション
- 第15回 英語のイントネーション

### 成績評価の方法

音声実技 (70%)、授業への参加状況 (30%) により評価する。

### 教科書

今井由美子ほか, *Sounds Make Perfect* (英宝社, 2010, ISBN : 978-4-269-63013-0)

### 教科書・参考書に関する備考

適宜指示する

11251・11252

## Vocabulary Building I

担当教員：井筒 美津子

0.5単位 前期

### 授業のねらい

英語を用いて自然なインタラクションを図ることが出来るよう、コンテキストから切り離された単語レベルの学習ではなく、日常会話で使用されるような発話文を用いて、様々な場面における柔軟なコミュニケーションに対応し得る英語語いの獲得を目的とする。

### 到達目標

円滑なコミュニケーションに必要な英語運用能力 (CEFR B2 レベル以上) の基礎となる語いの獲得を目指す。単なる文字としての英単語の習得ではなく、話す・聞く際に必要な語いを身に付けるために、四技能の要素を交えながら、ボキャブラリー・トレーニングを行う。

### 授業方法

毎週、リスニング・リーディング活動を通して、テキストの指定された箇所のインプットを行い、それを最終的にはライティング・スピーキングという形でアウトプット出来るようにする。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・DUO 1-20 (聞く・読む)
- 第2回 DUO 1-20 (書く・話す)・DUO 21-40 (聞く・読む)
- 第3回 DUO 21-40 (書く・話す)・DUO 41-60 (聞く・読む)
- 第4回 DUO 41-60 (書く・話す)・DUO 61-80 (聞く・読む)
- 第5回 DUO 61-80 (書く・話す)・DUO 81-100 (聞く・読む)
- 第6回 DUO 81-100 (書く・話す)・DUO 101-120 (聞く・読む)
- 第7回 DUO 101-120 (書く・話す)・DUO 121-140 (聞く・読む)
- 第8回 中間テスト・DUO 141-160 (聞く・読む)
- 第9回 DUO 141-160 (書く・話す)・DUO 161-180 (聞く・読む)
- 第10回 DUO 161-180 (書く・話す)・DUO 181-200 (聞く・読む)
- 第11回 DUO 181-200 (書く・話す)・DUO 201-220 (聞く・読む)
- 第12回 DUO 201-220 (書く・話す)・DUO 221-240 (聞く・読む)
- 第13回 DUO 221-240 (書く・話す)・DUO 241-260 (聞く・読む)
- 第14回 DUO 241-260 (書く・話す)・DUO 261-280 (聞く・読む)
- 第15回 DUO 261-280 (書く・話す)

### 成績評価の方法

到達目標の達成度は毎回の小テスト (40%)、及び中間テスト (20%) と期末テスト (20%)、授業への参加状況 (20%) で測定する。

### 教科書

鈴木陽一, *DUO3.0* (アイシーピー, 2000, ISBN: 4-900790-05-2)

### 教科書・参考書に関する備考

テキストは Vocabulary Building II でも使用する。

11261・11262

## Vocabulary Building II

担当教員：井筒 美津子

0.5単位 後期

### 授業のねらい

英語を用いて自然なインタラクションを図ることが出来るよう、コンテキストから切り離された単語レベルの学習ではなく、日常会話で使用されるような発話文を用いて、様々な場面における柔軟なコミュニケーションに対応し得る英語語いの獲得を目的とする。

### 到達目標

前期の Vocabulary Building I で獲得した語彙力を土台として、円滑なコミュニケーションに必要な英語運用能力 (CEFR B2 レベル以上) の基礎となる語いの獲得を目指す。単なる文字としての英単語の習得ではなく、話す・聞く際に必要な語いを身に付けるために、四技能の要素を交えながら、ボキャブラリー・トレーニングを行う。

### 授業方法

毎週、リスニング・リーディング活動を通して、テキストの指定された箇所のインプットを行い、それを最終的にはライティング・スピーキングという形でアウトプット出来るようにする。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・DUO 281-300 (聞く・読む)
- 第2回 DUO 281-300 (書く・話す)・DUO 301-320 (聞く・読む)
- 第3回 DUO 301-320 (書く・話す)・DUO 321-340 (聞く・読む)
- 第4回 DUO 321-340 (書く・話す)・DUO 341-360 (聞く・読む)
- 第5回 DUO 341-360 (書く・話す)・DUO 361-380 (聞く・読む)
- 第6回 DUO 361-380 (書く・話す)・DUO 381-400 (聞く・読む)
- 第7回 DUO 381-400 (書く・話す)・DUO 401-420 (聞く・読む)
- 第8回 中間テスト・DUO 421-440 (聞く・読む)
- 第9回 DUO 421-440 (書く・話す)・DUO 441-460 (聞く・読む)
- 第10回 DUO 441-460 (書く・話す)・DUO 461-480 (聞く・読む)
- 第11回 DUO 461-480 (書く・話す)・DUO 481-500 (聞く・読む)
- 第12回 DUO 481-500 (書く・話す)・DUO 501-520 (聞く・読む)
- 第13回 DUO 501-520 (書く・話す)・DUO 521-540 (聞く・読む)
- 第14回 DUO 521-540 (書く・話す)・DUO 541-560 (聞く・読む)
- 第15回 DUO 541-560 (書く・話す)

### 成績評価の方法

到達目標の達成度は毎回の小テスト (40%)、及び中間テスト (20%) と期末テスト (20%)、授業への参加状況 (20%) で測定する。

### 教科書

鈴木陽一, *DUO3.0* (アイシーピー, 2000, ISBN: 4-900790-05-2)

### 教科書・参考書に関する備考

テキストは Vocabulary Building I でも使用する。

12121

## 文学・文化基礎演習 A

担当教員：大桃 陶子

2 単位 前期

## サブタイトル

「ダウントン・アビー」におけるイギリス階級社会の諸相

## 授業のねらい

1900年代のエドワード朝の英国では、家事奉公は最大規模の職業であり、たとえば女性労働者400万人のうち150万人は使用人であった。このように使用人が労働人口の大多数を占めていたにもかかわらず、彼らの記録はたいてい不明で、その暮らしが詳細に描写されることはほとんどなかった。この「見えない存在」としての使用人に注目し、彼らの姿に新たにスポットライトを当てた画期的作品が、2010年から2015年までイギリスをはじめ世界各国で放映され、注目を浴びたドラマ「ダウントン・アビー」である。このドラマでは、ヨークシャーのグランサム伯爵ロバート・クロウリーの邸宅ダウントン・アビーに住まう貴族（階上）の生活と、彼らに雇用されている使用人（階下）の生活とが決して分断されることなく、相互に絡み合いながら展開していく。本授業ではここに見られる英国独特の階級意識に焦点を当てるとともに、第一次世界大戦前夜の英国における社会状況にも注目していく。

## 到達目標

1. イギリスの階級社会についての知識を習得する
2. エドワード朝のイギリスの社会史的知識を習得する
3. ドラマのスク립トを原文で読み理解できる読解力を身につける

## 授業方法

ドラマ「ダウントン・アビー」の特にSeason 1を鑑賞する。重要と思われる事件や社会的な運動、思想に関しては資料を用意して解説する。脚本の中から一部を抜粋し、課題として配布するので訳読を行ってから授業にのぞむこと。授業参加のための準備にはおおよそ1時間半かかるとと思われる。最終レポートについては、採点後答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

## 授業計画

第1回	イントロダクション	
第2回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	使用人たち
第3回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	限嗣相続 同性愛
第4回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	ミドル・クラス
第5回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	狩猟
第6回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	職業婦人
第7回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	オリエンタリズム
第8回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	女性参政権運動
第9回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	新しい女
第10回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	結婚について
第11回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	再び使用人について
第12回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	女性の権利拡大運動
第13回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	第一次世界大戦にいたる過程①
第14回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	第一次世界大戦にいたる過程②
第15回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	まとめ

## 成績評価の方法

最終レポート（60%）、授業への参加状況（40%）で評価する。

## 教科書

なし

## 参考書

武藤浩史、川端康雄 遠藤不比人、大田信良、木下誠『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』（慶應義塾大学出版社、2007、ISBN：9784766413281）  
 セリーナ・トッド『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』（みすず書房、2016、ISBN：9784622085140）  
 新井潤美『執事とメイドの裏表：イギリス文化における使用人のイメージ』（白水社、2011、ISBN：9784560081792）  
 ルーシー・レスブリッジ『使用人が見た英国の二〇世紀』（原書房、2014、ISBN：9784562050864）  
 シャーン・エヴァンズ『メイドと執事の文化誌：英国家事使用人たちの日常：図説』（原書房、2012、ISBN：9784562048557）



## サブタイトル

「ダウントン・アビー」におけるイギリス階級社会の諸相

## 授業のねらい

1900年代のエドワード朝の英国では、家事奉公は最大規模の職業であり、たとえば女性労働者400万人のうち150万人は使用人であった。このように使用人が労働人口の大多数を占めていたにもかかわらず、彼らの記録はたいてい不明で、その暮らしが詳細に描写されることはほとんどなかった。この「見えない存在」としての使用人に注目し、彼らの姿に新たにスポットライトを当てた画期的作品が、2010年から2015年までイギリスをはじめ世界各国で放映され、注目を浴びたドラマ「ダウントン・アビー」である。このドラマでは、ヨークシャーのグランサム伯爵ロバート・クロウリーの邸宅ダウントン・アビーに住まう貴族（階上）の生活と、彼らに雇用されている使用人（階下）の生活とが決して分断されることなく、相互に絡み合いながら展開していく。本授業ではここに見られる英国独特の階級意識に焦点を当てるとともに、第一次世界大戦前夜の英国における社会状況にも注目していく。

## 到達目標

1. イギリスの階級社会についての知識を習得する
2. エドワード朝のイギリスの社会史的知識を習得する
3. ドラマのスク립トを原文で読み理解できる読解力を身につける

## 授業方法

ドラマ「ダウントン・アビー」の特にSeason 1を鑑賞する。重要と思われる事件や社会的な運動、思想に関しては資料を用意して解説する。脚本の中から一部を抜粋し、課題として配布するので訳読を行ってから授業にのぞむこと。授業参加のための準備にはおおよそ1時間半かかるとと思われる。最終レポートについては、採点後答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

## 授業計画

第1回	イントロダクション	
第2回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	使用人たち
第3回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	限嗣相続 同性愛
第4回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	ミドル・クラス
第5回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	狩猟
第6回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	職業婦人
第7回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	オリエンタリズム
第8回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	女性参政権運動
第9回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	新しい女
第10回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	結婚について
第11回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	再び使用人について
第12回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	女性の権利拡大運動
第13回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	第一次世界大戦にいたる過程①
第14回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	第一次世界大戦にいたる過程②
第15回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	まとめ

## 成績評価の方法

最終レポート（60%）、授業への参加状況（40%）で評価する。

## 教科書

なし

## 参考書

武藤浩史、川端康雄 遠藤不比人、大田信良、木下誠『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』（慶應義塾大学出版社、2007、ISBN：9784766413281）  
セリーナ・トッド『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』（みすず書房、2016、ISBN：9784622085140）  
新井潤美『執事とメイドの裏表：イギリス文化における使用人のイメージ』（白水社、2011、ISBN：9784560081792）  
ルーシー・レスブリッジ『使用人が見た英国の二〇世紀』（原書房、2014、ISBN：9784562050864）  
シャーン・エヴァンズ『メイドと執事の文化誌：英国家事使用人たちの日常：図説』（原書房、2012、ISBN：9784562048557）



12131

## 文学・文化基礎演習 B

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 前期

### サブタイトル

文学・文化研究を始めよう

### 授業のねらい

アメリカ文学の短編を読みながら、英語力を鍛え、文学と文化を研究するための基礎的な方法を学んでいきます。外国文学を読む以上、語学力の向上は必須ですが、さらにその国の文化や歴史を知る必要があります。でも知識は知っているだけではなく、どう使うかが大切です。ある知識があると物語の読み方がどう変わるのでしょうか？作品を取り巻く様々な歴史的文化的背景に目を向けながら作品を読んでいきましょう。また作品について積極的にディスカッションをすることで、人前でも緊張せずにしゃべる練習をしましょう。

### 到達目標

1. 英語で書かれた原書を読むことができる。
2. 文学・文化研究をするうえで基本的な方法を学び、理解し、実際に使うことができる。
3. 英語の注釈を参考にできる。
4. 自分の研究内容を言葉で表現し、他人と議論することができる。
5. 自分の読みにもとづいた解釈を、形式に従ってレポートにすることが出来る。

### 授業方法

授業前には必ず辞書を使いながら予定箇所を読んでおいてください。また自分で気になった箇所に関してはメモをとっておくこと。授業では予習をしているという前提で以下のように進めていきます。

1. 細かな意味を確認するため訳読で進めていきます。
2. 予習は1回の授業につき1～2時間程度かかることを想定していますが、人によってはそれ以上かかることも十分にあり得ます。
3. 英語の意味が確認できた後、議論します。
4. 文学・文化研究の基本的なアプローチなどを適時説明します。
5. 学期に読んだ作品に関するレポートを複数回提出してもらいます。レポートはコメントをつけて返却し、場合によってはリライトし再提出してもらいます。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション 授業の進め方、辞書の使い方
- 第2回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 1
- 第3回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 2
- 第4回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 3
- 第5回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 4
- 第6回 レポートの書き方、研究倫理
- 第7回 黒人奴隷制について、映画『それでも夜は明ける』 1
- 第8回 映画『それでも夜は明ける』 2
- 第9回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 1
- 第10回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 2
- 第11回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 3
- 第12回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 4
- 第13回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 5
- 第14回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 6
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

1. 到達目標1、2、3、4を測定する平常評価 30%
2. 到達目標5を測定するレポート 70%

### 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性があります。
- ・履修希望者は初回授業に出席してください。
- ・初回を含め毎回辞書を持参してください。
- ・英語は難しいかもしれませんが、必ず予定の範囲を読んで授業に出席してください。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合があります。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席を求めます。やむを得ず欠席する場合は事前事後に連絡すること。
- ・一回のレポートは日本語 1000～3000 字程度の予定です。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処します。

### 教科書

なし

12132

## 文学・文化基礎演習 B

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 後期

### サブタイトル

文学・文化研究を始めよう

### 授業のねらい

アメリカ文学の短編を読みながら、英語力を鍛え、文学と文化を研究するための基礎的な方法を学んでいきます。外国文学を読む以上、語学力の向上は必須ですが、さらにその国の文化や歴史を知る必要があります。でも知識は知っているだけではなく、どう使うかが大切です。ある知識があると物語の読み方がどう変わるのでしょうか？作品を取り巻く様々な歴史的文化的背景に目を向けながら作品を読んでいきましょう。また作品について積極的にディスカッションをすることで、人前でも緊張せずにしゃべる練習をしましょう。

### 到達目標

1. 英語で書かれた原書を読むことができる。
2. 文学・文化研究をするうえで基本的な方法を学び、理解し、実際に使うことができる。
3. 英語の注釈を参考にできる。
4. 自分の研究内容を言葉で表現し、他人と議論することができる。
5. 自分の読みにもとづいた解釈を、形式に従ってレポートにすることが出来る。

### 授業方法

授業前には必ず辞書を使いながら予定箇所を読んでおいてください。また自分で気になった箇所に関してはメモをとっておくこと。授業では予習をしているという前提で以下のように進めていきます。

1. 細かな意味を確認するため訳読で進めていきます。
2. 予習は1回の授業につき1～2時間程度かかることを想定していますが、人によってはそれ以上かかることも十分にあり得ます。
3. 英語の意味が確認できた後、議論します。
4. 文学・文化研究の基本的なアプローチなどを適時説明します。
5. 学期に読んだ作品に関するレポートを複数回提出してもらいます。レポートはコメントをつけて返却し、場合によってはリライトし再提出してもらいます。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション 授業の進め方、辞書の使い方
- 第2回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 1
- 第3回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 2
- 第4回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 3
- 第5回 Kate Chopin "The Story of an Hour" 4
- 第6回 レポートの書き方、研究倫理
- 第7回 黒人奴隷制について、映画『それでも夜は明ける』 1
- 第8回 映画『それでも夜は明ける』 2
- 第9回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 1
- 第10回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 2
- 第11回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 3
- 第12回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 4
- 第13回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 5
- 第14回 Kate Chopin "Desirée's Baby" 6
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

1. 到達目標1、2、3、4を測定する平常評価 30%
2. 到達目標5を測定するレポート 70%

### 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性があります。
- ・履修希望者は初回授業に出席してください。
- ・初回を含め毎回辞書を持参してください。
- ・英語は難しいかもしれませんが、必ず予定の範囲を読んで授業に出席してください。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合があります。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席を求めます。やむを得ず欠席する場合は事前事後に連絡すること。
- ・一回のレポートは日本語 1000～3000 字程度の予定です。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処します。

### 教科書

なし

12141

## 文学・文化基礎演習 C

担当教員：木村 信一

2 単位 前期

## サブタイトル

レイモンド・カーヴァーの「大聖堂」を中心に読む。

## 授業のねらい

1970年代、80年代のアメリカを代表する短編小説家であるレイモンド・カーヴァーの作品を、「大聖堂」を中心に読みます。村上春樹が全作品を翻訳して以来、日本でも読まれるようになりましたが、カーヴァーの日本における知名度は高くありません。中流の人びとの日常が淡々と描かれますが、生活のなかで起きるちょっとした出来事に関わって、個としてのあり方をめぐる倫理的な問いが等身大で語られてゆきます。

英文読解のスキルを身につけると同時に、小説にたいするアプローチの基本を学ぶ機会とします。

## 到達目標

- 1 構文理解、文脈把握の基本的なスキルを修得します。
- 2 小説技法についてのベーシックなスキルを身につけると同時に、小説の読み方、論じ方について考えます。

## 授業方法

カーヴァーの代表作である「大聖堂」を中心に読みます。「大聖堂」は、生まれて初めて盲人を自宅に迎え入れ、盲人と一晩を過ごすことになった語り手＝主人公の大いなる戸惑いから始まって、両者の間に意想外の交流が生まれる過程が、人とその人自身の身体との私的な関係に沿って、綿密に語られてゆきます。

演習の中間部では、テーマが関連するカーヴァーの他の短編のテキストを拾い読みしながら、ディスカッションをします。

訳読を中心に、その都度、疑問の点について意見交換を交えながら、進めます。

受講前には、必ず、英語テキストの該当箇所を読み込むことが求められます。

## 授業計画

- 第1回 はじめに—授業計画について（研究倫理についての指導を含む）
- 第2回 レイモンド・カーヴァーについて
- 第3回 「大聖堂」1
- 第4回 「大聖堂」2
- 第5回 「大聖堂」3
- 第6回 「大聖堂」4
- 第7回 「大聖堂」5
- 第8回 「大聖堂」6
- 第9回 「大聖堂」7
- 第10回 「大聖堂」8
- 第11回 ディスカッション（関連作品を読む）1
- 第12回 ディスカッション（関連作品を読む）2
- 第13回 ディスカッション（関連作品を読む）3
- 第14回 ディスカッション（関連作品を読む）4
- 第15回 まとめ（レポート課題）

## 成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を8割、ディスカッション等の授業への貢献度を2割で評価します。

## 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。

## 教科書

Raymond Carver, *Where I'm Calling From* (Vintage, 1989, ISBN: 0-679-75531-9)

12142

## 文学・文化基礎演習 C

担当教員：木村 信一

2 単位 後期

## サブタイトル

レイモンド・カーヴァーの「大聖堂」を中心に読む。

## 授業のねらい

1970年代、80年代のアメリカを代表する短編小説家であるレイモンド・カーヴァーの作品を、「大聖堂」を中心に読みます。村上春樹が全作品を翻訳して以来、日本でも読まれるようになりましたが、カーヴァーの日本における知名度は高くありません。中流の人びとの日常が淡々と描かれますが、生活のなかで起きるちょっとした出来事に関わって、個としてのあり方をめぐる倫理的な問いが等身大で語られてゆきます。

英文読解のスキルを身につけると同時に、小説にたいするアプローチの基本を学ぶ機会とします。

## 到達目標

- 1 構文理解、文脈把握の基本的なスキルを修得します。
- 2 小説技法についてのベーシックなスキルを身につけると同時に、小説の読み方、論じ方について考えます。

## 授業方法

カーヴァーの代表作である「大聖堂」を中心に読みます。「大聖堂」は、生まれて初めて盲人を自宅に迎え入れ、盲人と一晩を過ごすことになった語り手＝主人公の大いなる戸惑いから始まって、両者の間に意想外の交流が生まれる過程が、人とその人自身の身体との私的な関係に沿って、綿密に語られてゆきます。

演習の中間部では、テーマが関連するカーヴァーの他の短編のテキストを拾い読みしながら、ディスカッションをします。

訳読を中心に、その都度、疑問の点について意見交換を交えながら、進めます。

受講前には、必ず、英語テキストの該当箇所を読み込むことが求められます。

## 授業計画

- 第1回 はじめに—授業計画について（研究倫理についての指導を含む）
- 第2回 レイモンド・カーヴァーについて
- 第3回 「大聖堂」1
- 第4回 「大聖堂」2
- 第5回 「大聖堂」3
- 第6回 「大聖堂」4
- 第7回 「大聖堂」5
- 第8回 「大聖堂」6
- 第9回 「大聖堂」7
- 第10回 「大聖堂」8
- 第11回 ディスカッション（関連作品を読む）1
- 第12回 ディスカッション（関連作品を読む）2
- 第13回 ディスカッション（関連作品を読む）3
- 第14回 ディスカッション（関連作品を読む）4
- 第15回 まとめ（レポート課題）

## 成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を8割、ディスカッション等の授業への貢献度を2割で評価します。

## 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。

## 教科書

Raymond Carver, *Where I'm Calling From* (Vintage, 1989, ISBN: 0-679-75531-9)

12151

## 文学・文化基礎演習 D

担当教員：英 美由紀

2 単位 前期

## サブタイトル

映像化された英文学作品を観る・読む

## 授業のねらい

イギリスの小説、戯曲を原作とする映画を通し、様々な文学作品に触れる。また作品の一部を原文で読む。

## 到達目標

1. 文学テキストを精読し、その内容を正確に把握する読解力を身につける。その際、文化的な背景にも注意を払う。
2. 英文学に関連する基礎的な用語を学ぶ。
3. 関連資料の検索・利用方法を知り、レポート作成に役立てる。
4. グループ発表を行い、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学ぶ。

## 授業方法

テキストの講読とグループ発表を組み合わせることで進めていきます。

テキストについては授業時に理解度を確認しますので、入念に準備したうえで授業にのぞむようにしてください。事前事後学習に要する時間の目安は、週2時間程度です。グループ発表に際しては、あらかじめ内容の打ち合わせ等の準備が必要となりますので、4～5時間を予定してください。

授業時の疑問や小テスト等については、その都度フィードバックを行います。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション                                       |
| 第2回  | 1. Romeo and Juliet                             |
| 第3回  | 2. Gulliver's Travels                           |
| 第4回  | 3. Pride and Prejudice                          |
| 第5回  | 4. Jane Eyre                                    |
| 第6回  | 5. Wuthering Heights                            |
| 第7回  | 6. Great Expectations                           |
| 第8回  | 7. Tess of the d'Urbervilles                    |
| 第9回  | 8. "A Scandal in Bohemia"                       |
| 第10回 | 9. Pygmalion                                    |
| 第11回 | 10. Rain  |
| 第12回 | 11. A Passage to India                          |
| 第13回 | 12. Lady Chatterley's Lover                     |
| 第14回 | レポート作成についての説明、及び関連資料（和文）の検索・利用についての説明（図書館ガイダンス） |
| 第15回 | 小テスト、及びその解説                                     |

## 成績評価の方法

到達目標1、2については予習の有無を含む授業への取り組み（40%）と小テスト（40%）、3についてはレポート（10%）、4についてはグループによる発表とディスカッション（10%）により、総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

単位の修得には一定の出席率を要します。（欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします。）尚、履修者は一定数までとしますので、履修希望者は必ず初週の授業に出席するようにしてください。

## 教科書

行方昭夫、河島弘美『映画化された英米文学 24』（鶴見書店、2016、ISBN：978-4-7553-0376-0）

12152

## 文学・文化基礎演習 D

担当教員：英 美由紀

2 単位 後期

## サブタイトル

映像化された英文学作品を観る・読む

## 授業のねらい

イギリスの小説、戯曲を原作とする映画を通し、様々な文学作品に触れる。また作品の一部を原文で読む。

## 到達目標

1. 文学テキストを精読し、その内容を正確に把握する読解力を身につける。その際、文化的な背景にも注意を払う。
2. 英文学に関連する基礎的な用語を学ぶ。
3. 関連資料の検索・利用方法を知り、レポート作成に役立てる。
4. グループ発表を行い、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学ぶ。

## 授業方法

テキストの講読とグループ発表を組み合わせることで進めていきます。

テキストについては授業時に理解度を確認しますので、入念に準備したうえで授業にのぞむようにしてください。事前事後学習に要する時間の目安は、週2時間程度です。グループ発表に際しては、あらかじめ内容の打ち合わせ等の準備が必要となりますので、4～5時間を予定してください。

授業時の疑問や小テスト等については、その都度フィードバックを行います。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション                                       |
| 第2回  | 1. Romeo and Juliet                             |
| 第3回  | 2. Gulliver's Travels                           |
| 第4回  | 3. Pride and Prejudice                          |
| 第5回  | 4. Jane Eyre                                    |
| 第6回  | 5. Wuthering Heights                            |
| 第7回  | 6. Great Expectations                           |
| 第8回  | 7. Tess of the d'Urbervilles                    |
| 第9回  | 8. "A Scandal in Bohemia"                       |
| 第10回 | 9. Pygmalion                                    |
| 第11回 | 10. Rain  |
| 第12回 | 11. A Passage to India                          |
| 第13回 | 12. Lady Chatterley's Lover                     |
| 第14回 | レポート作成についての説明、及び関連資料（和文）の検索・利用についての説明（図書館ガイダンス） |
| 第15回 | 小テスト、及びその解説                                     |

## 成績評価の方法

到達目標1、2については予習の有無を含む授業への取り組み（40%）と小テスト（40%）、3についてはレポート（10%）、4についてはグループによる発表とディスカッション（10%）により、総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

単位の修得には一定の出席率を要します。（欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします。）尚、履修者は一定数までとしますので、履修希望者は必ず初週の授業に出席するようにしてください。

## 教科書

行方昭夫、河島弘美『映画化された英米文学 24』（鶴見書店、2016、ISBN：978-4-7553-0376-0）



12161

## 文学・文化基礎演習 E

担当教員：Redlich, Jeremy

2 単位 前期

### サブタイトル

Exploring survival and rescue during the holocaust

### 授業のねらい

This course will introduce students to key figures, historical contexts, and explanations of survival and rescue during the holocaust. Through representations in literature and film we will explore the development and rationale of Nazi Anti-Semitism, and the escalation of this racial policy into the attempted annihilation of European Jews, Gypsies, homosexuals and physically disabled. The main focus of the course though will be to investigate how survival was possible. Looking at survivors like Primo Levy and Elie Wiesel, and rescuers like the Japanese consul Chiune Sugihara, the German industrialist Oskar Schindler, and the Swedish diplomat Raoul Wallenberg, students will read, watch and discuss issues in class and outside class to gain a deeper understanding of the historical context and unique circumstances which made the actions of these three good men so extraordinary during a time when inaction and silence were the norm.

### 到達目標

By the end of the course, students will:

- (1) Understand issues of responsibility, culpability, (dis)obedience and humanity
- (2) Have a better understanding of the interplay between space and race with respect to Nazi ideology and the motivations of the holocaust.
- (3) Have read, watched and discussed materials that provide context for why the actions of Sugihara, Wallenberg and Schindler were so significant

### 授業方法

Each class will consist of (1) lecture, (2) pair/small group discussion of themes, readings and video, and (3) written reflections on issues discussed in class. This is an active learning class, where students are encouraged to communicate their thoughts, opinions and ideas with each other and with the instructor.

### 授業計画

- 第1回 Exploring “survival” and “rescue”
- 第2回 Historical background of 1930's Germany - Political and racial ideology of Nazi Party and Adolf Hitler - Escalation of the holocaust
- 第3回 Examining survival - Looking at Elie Wiesel and Auschwitz
- 第4回 Examining survival - Looking at Elie Wiesel and Primo Levi
- 第5回 Examining survival - Final discussion of Wiesel and Levi
- 第6回 The case of Chiune Sugihara - How a Japanese consul in Lithuania saved thousands of Jewish lives
- 第7回 Discussion of Chiune Sugihara text and video
- 第8回 The case of Oskar Schindler - How a Nazi industrialist war profiteer saved over a thousand Jewish lives from death in the camps.
- 第9回 Discussion of Schindler text and video
- 第10回 Discussion of Schindler text and video
- 第11回 The case of Raoul Wallenberg - How a Swedish special envoy in Budapest saved thousands of Hungarian Jews from murder at Auschwitz/Birkenau
- 第12回 Discussion of Wallenberg text and video
- 第13回 Discussion of Wallenberg text and video

- 第14回 Review of course themes and discussions
- 第15回 Final Review

### 成績評価の方法

Students will demonstrate their preparation and comprehension of the content by writing short reflections, participating in in-class discussions and by writing a mid-term and final exam. 20% short reflections; 25% class discussion and participation; 40% final exam; 15% mid-term examination

### 履修にあたっての注意

The language of discussion in class will be English, and students are encouraged to practice expressing themselves in pair and group discussions in English.

12162

## 文学・文化基礎演習 E

担当教員：Redlich, Jeremy

2 単位 後期

### サブタイトル

Exploring survival and rescue during the holocaust

### 授業のねらい

This course will introduce students to key figures, historical contexts, and explanations of survival and rescue during the holocaust. Through representations in literature and film we will explore the development and rationale of Nazi Anti-Semitism, and the escalation of this racial policy into the attempted annihilation of European Jews, Gypsies, homosexuals and physically disabled. The main focus of the course though will be to investigate how survival was possible. Looking at survivors like Primo Levy and Elie Wiesel, and rescuers like the Japanese consul Chiune Sugihara, the German industrialist Oskar Schindler, and the Swedish diplomat Raoul Wallenberg, students will read, watch and discuss issues in class and outside class to gain a deeper understanding of the historical context and unique circumstances which made the actions of these three good men so extraordinary during a time when inaction and silence were the norm.

### 到達目標

By the end of the course, students will:

- (1) Understand issues of responsibility, culpability, (dis)obedience and humanity
- (2) Have a better understanding of the interplay between space and race with respect to Nazi ideology and the motivations of the holocaust.
- (3) Have read, watched and discussed materials that provide context for why the actions of Sugihara, Wallenberg and Schindler were so significant

### 授業方法

Each class will consist of (1) lecture, (2) pair/small group discussion of themes, readings and video, and (3) written reflections on issues discussed in class. This is an active learning class, where students are encouraged to communicate their thoughts, opinions and ideas with each other and with the instructor.

### 授業計画

- 第1回 Exploring “survival” and “rescue”
- 第2回 Historical background of 1930's Germany - Political and racial ideology of Nazi Party and Adolf Hitler - Escalation of the holocaust
- 第3回 Examining survival - Looking at Elie Wiesel and Auschwitz
- 第4回 Examining survival - Looking at Elie Wiesel and Primo Levi
- 第5回 Examining survival - Final discussion of Wiesel and Levi
- 第6回 The case of Chiune Sugihara - How a Japanese consul in Lithuania saved thousands of Jewish lives
- 第7回 Discussion of Chiune Sugihara text and video
- 第8回 The case of Oskar Schindler - How a Nazi industrialist war profiteer saved over a thousand Jewish lives from death in the camps.
- 第9回 Discussion of Schindler text and video
- 第10回 Discussion of Schindler text and video
- 第11回 The case of Raoul Wallenberg - How a Swedish special envoy in Budapest saved thousands of Hungarian Jews from murder at Auschwitz/Birkenau
- 第12回 Discussion of Wallenberg text and video
- 第13回 Discussion of Wallenberg text and video

- 第14回 Review of course themes and discussions
- 第15回 Final Review

### 成績評価の方法

Students will demonstrate their preparation and comprehension of the content by writing short reflections, participating in in-class discussions and by writing a mid-term and final exam. 20% short reflections; 25% class discussion and participation; 40% final exam; 15% mid-term examination

### 履修にあたっての注意

The language of discussion in class will be English, and students are encouraged to practice expressing themselves in pair and group discussions in English.



12231

## 言語・コミュニケーション基礎演習 A

担当教員：井筒 美津子

2 単位 前期

## サブタイトル

語用論・会話分析の基本概念を学ぶ

## 授業のねらい

円滑なコミュニケーションはどのように行われているのだろうか。この授業では、我々は日常生活において伝達手段としての言語をどのように用いているのかについて考える語用論 (pragmatics)・会話分析 (conversation analysis) という言語学の分野について学ぶ。

また、授業で学ぶ基本概念について、発表者はあらかじめ書物を調べ、ハンドアウト作りを行うことを通して、図書館利用の仕方や資料のまとめ方なども併せて学ぶ。

## 到達目標

1. 語用論・会話分析に関する専門知識を身につける。
2. 適切に文献調査を行い、その内容をハンドアウトなどを用いて分かりやすく伝えることが出来る。
3. 言語学に関する専門的な英語のテキストを文法的に正しく読める。
4. 英語の構文に関する基本的な知識を身につける。

## 授業方法

原則として、2週毎に新しい概念を学ぶ。1週目は学生による発表、2週目はその内容についてのテキスト講読を行う。担当者は指定された基本概念について調べ、まとめたものをハンドアウトとして作成し、授業で発表する。英語テキストは、The Study of Language (George Yule) の 12 章・13 章、Discourse (Guy Cook) の 4 章を読む予定。授業の中で、英語テキストを読むのに必要な構文に関する小テストを実施する。

毎回の授業では、英語テキストの予習と構文テストの準備のため事前学習 (1時間程度) が必要である。また、これに加えて、発表の際にはさらに発表のための事前準備 (5~6時間程度) も必要である (各学期一人一回)。質問等には、授業内外問わず、随時応じます。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション (「語用論」とは?)                        |
| 第2回  | テキスト講読 (invisible meaning)                  |
| 第3回  | 発表 (コンテキスト、直示)                              |
| 第4回  | テキスト講読 (context, deixis)                    |
| 第5回  | 発表 (指示、照応)                                  |
| 第6回  | テキスト講読 (reference, anaphora)                |
| 第7回  | 発表 (言語行為)                                   |
| 第8回  | テキスト講読 (speech act)                         |
| 第9回  | 発表 (ポライトネス)                                 |
| 第10回 | テキスト講読 (politeness)                         |
| 第11回 | 発表 (協調の原理)                                  |
| 第12回 | テキスト講読 (the co-operative principle)         |
| 第13回 | 発表 (会話分析、話者交替)                              |
| 第14回 | テキスト講読 (Conversation analysis, Turn-taking) |
| 第15回 | まとめ   |

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する試験 (50%)、到達目標 2 と 3 を測定する発表点 (20%)、到達目標 4 を測定する小テスト (20%)、授業への参加度 (10%) により評価する。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

- ・事前学習を必ず行うこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

初回授業時に配布するハンドアウトを参照のこと。

12232

## 言語・コミュニケーション基礎演習 A

担当教員：井筒 美津子

2 単位 後期

## サブタイトル

語用論・会話分析の基本概念を学ぶ

## 授業のねらい

円滑なコミュニケーションはどのように行われているのだろうか。この授業では、我々は日常生活において伝達手段としての言語をどのように用いているのかについて考える語用論 (pragmatics)・会話分析 (conversation analysis) という言語学の分野について学ぶ。

また、授業で学ぶ基本概念について、発表者はあらかじめ書物を調べ、ハンドアウト作りを行うことを通して、図書館利用の仕方や資料のまとめ方なども併せて学ぶ。

## 到達目標

1. 語用論・会話分析に関する専門知識を身につける。
2. 適切に文献調査を行い、その内容をハンドアウトなどを用いて分かりやすく伝えることが出来る。
3. 言語学に関する専門的な英語のテキストを文法的に正しく読める。
4. 英語の構文に関する基本的な知識を身につける。

## 授業方法

原則として、2週毎に新しい概念を学ぶ。1週目は学生による発表、2週目はその内容についてのテキスト講読を行う。担当者は指定された基本概念について調べ、まとめたものをハンドアウトとして作成し、授業で発表する。英語テキストは、The Study of Language (George Yule) の 12 章・13 章、Discourse (Guy Cook) の 4 章を読む予定。授業の中で、英語テキストを読むのに必要な構文に関する小テストを実施する。

毎回の授業では、英語テキストの予習と構文テストの準備のため事前学習 (1時間程度) が必要である。また、これに加えて、発表の際にはさらに発表のための事前準備 (5~6時間程度) も必要である (各学期一人一回)。質問等には、授業内外問わず、随時応じます。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション (「語用論」とは?)                        |
| 第2回  | テキスト講読 (invisible meaning)                  |
| 第3回  | 発表 (コンテキスト、直示)                              |
| 第4回  | テキスト講読 (context, deixis)                    |
| 第5回  | 発表 (指示、照応)                                  |
| 第6回  | テキスト講読 (reference, anaphora)                |
| 第7回  | 発表 (言語行為)                                   |
| 第8回  | テキスト講読 (speech act)                         |
| 第9回  | 発表 (ポライトネス)                                 |
| 第10回 | テキスト講読 (politeness)                         |
| 第11回 | 発表 (協調の原理)                                  |
| 第12回 | テキスト講読 (the co-operative principle)         |
| 第13回 | 発表 (会話分析、話者交替)                              |
| 第14回 | テキスト講読 (Conversation analysis, Turn-taking) |
| 第15回 | まとめ   |

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する試験 (50%)、到達目標 2 と 3 を測定する発表点 (20%)、到達目標 4 を測定する小テスト (20%)、授業への参加度 (10%) により評価する。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

- ・事前学習を必ず行うこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

初回授業時に配布するハンドアウトを参照のこと。

## サブタイトル

認知言語学への招待 2018

## 授業のねらい

人間の知覚現象（認識）は人間が用いる言語現象（言葉）と深く結びついている。この授業では、こうした言語観を基本理念として掲げる「認知言語学（Cognitive Linguistics）」という言語理論のうち、「認知意味論（Cognitive Semantics）」という分野から、比喩（メタファー（隠喩）やメトニミー（換喩））に焦点を当てて、思考と言語の関係性について考察を深めていく。具体的な素材として、メタファーをテーマとして扱った古典的作品

Lakoff and Johnson. 1980. Metaphors We Live By.

の日本語訳付き版の中から数章を取り上げる。この作品では、メタファーは文学的レトリック（言葉の綾）のためだけに存在するのではなく、人間のあらゆる思考体系と結びついており、我々の日常生活で用いる言葉の中にあふれていることが示されている。

## 到達目標

1. 認知言語学（Cognitive Linguistics）の基本理念の理解。
2. 言語学の基本文献の解釈法（客観的読解 + 批判的思考）の習得。
3. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力の涵養。

## 授業方法

演習による。ただし、一部、講師の解説による。

受講者による主体的なプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションを中心とする。受講者には、クラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求される。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して1.5～2時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えようよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内で、もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

第1回 オリエンテーション

なお、第2回以降のChapterはテキストの章番号に対応する。

第2回 Chapter 1 Concepts We Live By (1)

第3回 Chapter 1 Concepts We Live By (2)

第4回 Chapter 2 The Systematicity of Metaphorical Concepts

第5回 Chapter 3 Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding

第6回 Chapter 4 Orientational Metaphors (1)

第7回 Chapter 4 Orientational Metaphors (2)

第8回 Chapter 4 Orientational Metaphors (3)

第9回 Chapter 6 Ontological Metaphors (1)

第10回 Chapter 6 Ontological Metaphors (2)

第11回 Chapter 6 Ontological Metaphors (3)

第12回 Chapter 7 Personification

第13回 Chapter 8 Metonymy (1)

第14回 Chapter 8 Metonymy (2)

第15回 Chapter 8 Metonymy (3)+レヴュー

## 成績評価の方法

- ・平常点（授業への参加状況）60%
- ・レポート40%

なお、提出された課題に剽窃（Plagiarism）が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。さらに、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。また、この授業では、受講者にクラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求されるので、受動的な参加者には単位が付与されない。

## 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・この授業の履修によって単位を取得した者は後期開講の同一科目名の「言語・コミュニケーション基礎演習 B」を履修することはできない。

## 教科書

Lakoff, George and Mark Johnson 『Metaphors We Live By（メタファに満ちた日常世界）』（松柏社、2013、ISBN：9784881986790）

## 教科書・参考書に関する備考

その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

辻幸夫（編）『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社、2013、ISBN：9784767434766）

佐藤信夫『レトリック感覚』（講談社、1992、ISBN：9784061590298）

佐藤信夫『レトリックの記号論』（講談社、1993、ISBN：9784061590984）

佐藤信夫『レトリック認識』（講談社、1992、ISBN：9784061590434）

佐藤信夫『レトリックの意味論—意味の弾性』（講談社、1996、ISBN：9784061592285）

瀬戸賢一『よくわかるメタファー』（筑摩書房、2017、ISBN：9784480098054）

瀬戸賢一『メタファー思考』（講談社、1995、ISBN：9784061492479）

瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知意味論』（大修館書店、2017、ISBN：9784469213638）

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』（ひつじ書房、2006、ISBN：9784894762824）

吉村公宏『はじめての認知言語学』（研究社、2004、ISBN：9784327421656）

12242

## 言語・コミュニケーション基礎演習 B

担当教員：對馬 康博

2 単位 後期

## サブタイトル

認知言語学への招待 2018

## 授業のねらい

人間の知覚現象（認識）は人間が用いる言語現象（言葉）と深く結びついている。この授業では、こうした言語観を基本理念として掲げる「認知言語学（Cognitive Linguistics）」という言語理論のうち、「認知意味論（Cognitive Semantics）」という分野から、比喩（メタファー（隠喩）やメトニミー（換喩））に焦点を当てて、思考と言語の関係性について考察を深めていく。具体的な素材として、メタファーをテーマとして扱った古典的作品

Lakoff and Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*.

の日本語訳付き版の中から数章を取り上げる。この作品では、メタファーは文学的レトリック（言葉の綾）のためだけに存在するのではなく、人間のあらゆる思考体系と結びついており、我々の日常生活で用いる言葉の中にあふれていることが示されている。

## 到達目標

1. 認知言語学（Cognitive Linguistics）の基本理念の理解。
2. 言語学の基本文献の解釈法（客観的読解 + 批判的思考）の習得。
3. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力の涵養。

## 授業方法

演習による。ただし、一部、講師の解説による。

受講者による主体的なプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションを中心とする。受講者には、クラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求される。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して1.5～2時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えようよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内で、もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

第1回 オリエンテーション

なお、第2回以降のChapterはテキストの章番号に対応する。

第2回 Chapter 1 Concepts We Live By (1)

第3回 Chapter 1 Concepts We Live By (2)

第4回 Chapter 2 The Systematicity of Metaphorical Concepts

第5回 Chapter 3 Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding

第6回 Chapter 4 Orientational Metaphors (1)

第7回 Chapter 4 Orientational Metaphors (2)

第8回 Chapter 4 Orientational Metaphors (3)

第9回 Chapter 6 Ontological Metaphors (1)

第10回 Chapter 6 Ontological Metaphors (2)

第11回 Chapter 6 Ontological Metaphors (3)

第12回 Chapter 7 Personification

第13回 Chapter 8 Metonymy (1)

第14回 Chapter 8 Metonymy (2)

第15回 Chapter 8 Metonymy (3)+レヴュー

## 成績評価の方法

- ・平常点（授業への参加状況）60%
- ・レポート40%

なお、提出された課題に剽窃（Plagiarism）が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。さらに、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。また、この授業では、受講者にクラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求されるので、受動的な参加者には単位が付与されない。

## 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・前期開講の同一科目名の「言語・コミュニケーション基礎演習 B」の履修によって単位を取得した者はこの授業を履修することはできない。

## 教科書

Lakoff, George and Mark Johnson 『Metaphors We Live By（メタファに満ちた日常世界）』（松柏社、2013、ISBN：9784881986790）

## 教科書・参考書に関する備考

その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

辻幸夫（編）『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社、2013、ISBN：9784767434766）

佐藤信夫『レトリック感覚』（講談社、1992、ISBN：9784061590298）

佐藤信夫『レトリックの記号論』（講談社、1993、ISBN：9784061590984）

佐藤信夫『レトリック認識』（講談社、1992、ISBN：9784061590434）

佐藤信夫『レトリックの意味論—意味の弾性』（講談社、1996、ISBN：9784061592285）

瀬戸賢一『よくわかるメタファー』（筑摩書房、2017、ISBN：9784480098054）

瀬戸賢一『メタファー思考』（講談社、1995、ISBN：9784061492479）

瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知意味論』（大修館書店、2017、ISBN：9784469213638）

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』（ひつじ書房、2006、ISBN：9784894762824）

吉村公宏『はじめての認知言語学』（研究社、2004、ISBN：9784327421656）



12251

## 言語・コミュニケーション基礎演習 C

担当教員：Charles Mueller

2単位 前期

### サブタイトル

第二言語習得論

### 授業のねらい

The course will introduce key concepts in SLA related to (1) the role of input, output, and interaction, (2) the typical sequences and character of second language learning, (3) key individual differences such as age and motivation, (4) key psychological mechanisms such as working memory and attention and pedagogical techniques (i. e., Focus on Form) designed to take advantage of these mechanisms, and (5) vocabulary learning.

### 到達目標

By the end of the course, students should understand the role of the four skills (reading, writing, listening and speaking) in second language learning and appreciate the unique contribution that interaction makes to learning. They should understand some key factors that make some language features more difficult to learn and be able to provide examples of acquisition sequences. They should be familiar with key individual differences that make some students more successful learners. They should also understand the role of working memory and attention, and understand some of the key pedagogical implications. Finally, they should be familiar with key issues related to lexical acquisition.

### 授業方法

Following lectures and discussion, students will work individually and in groups as they relate theoretical positions to actual learning and teaching situations. Students should study at least two hours outside of class in preparation for each classroom hour of instruction. Students will receive individual feedback on submitted assignments.

### 授業計画

- 第1回 Overview of SLA
- 第2回 Input
- 第3回 Output
- 第4回 Interaction
- 第5回 Natural orders in second language learning
- 第6回 The Accessibility Hierarchy
- 第7回 The Aspect Hypothesis
- 第8回 Interlanguage
- 第9回 Individual differences related to age
- 第10回 Individual differences related to motivation
- 第11回 Working memory
- 第12回 Attention
- 第13回 Implicit and explicit learning and knowledge
- 第14回 Learning words
- 第15回 Focus on form

### 成績評価の方法

Grading will be based on participation (10% of grade), weekly homework, quizzes, and short projects that target the five learning outcomes (40%), and the final test (50% of grade) covering all course topics. The final exam will assess students' ability to demonstrate the learning outcomes in terms of both theoretical knowledge and integrated and practical real-world problems.

### 教科書

村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館書店、2006、ISBN : 978-4-469-24513-4)

### 参考ホームページ

Course notes <http://secondlanguageacquisition.org/sla.pdf>  
(All lecture notes and explanation of course assignments will be available on the course website.)

12252

## 言語・コミュニケーション基礎演習 C

担当教員：Mueller, Charles

2 単位 後期

### サブタイトル

第二言語習得論

### 授業のねらい

The course will introduce key concepts in SLA related to (1) the role of input, output, and interaction, (2) the typical sequences and character of second language learning, (3) key individual differences such as age and motivation, (4) key psychological mechanisms such as working memory and attention and pedagogical techniques (i. e., Focus on Form) designed to take advantage of these mechanisms, and (5) vocabulary learning.

### 到達目標

By the end of the course, students should understand the role of the four skills (reading, writing, listening and speaking) in second language learning and appreciate the unique contribution that interaction makes to learning. They should understand some key factors that make some language features more difficult to learn and be able to provide examples of acquisition sequences. They should be familiar with key individual differences that make some students more successful learners. They should also understand the role of working memory and attention, and understand some of the key pedagogical implications. Finally, they should be familiar with key issues related to lexical acquisition.

### 授業方法

Following lectures and discussion, students will work individually and in groups as they relate theoretical positions to actual learning and teaching situations. Students should study at least two hours outside of class in preparation for each classroom hour of instruction. Students will receive individual feedback on submitted assignments.

### 授業計画

- 第1回 Overview of SLA
- 第2回 Input
- 第3回 Output
- 第4回 Interaction
- 第5回 Natural orders in second language learning
- 第6回 The Accessibility Hierarchy
- 第7回 The Aspect Hypothesis
- 第8回 Interlanguage
- 第9回 Individual differences related to age
- 第10回 Individual differences related to motivation
- 第11回 Working memory
- 第12回 Attention
- 第13回 Implicit and explicit learning and knowledge
- 第14回 Learning words
- 第15回 Focus on form

### 成績評価の方法

Grading will be based on participation (10% of grade), weekly homework, quizzes, and short projects that target the five learning outcomes (40%), and the final test (50% of grade) covering all course topics. The final exam will assess students' ability to demonstrate the learning outcomes in terms of both theoretical knowledge and integrated and practical real-world problems.

### 教科書

村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館書店、2006、ISBN : 978-4-469-24513-4)

### 参考ホームページ

Course notes <http://secondlanguageacquisition.org/sla.pdf>  
(All lecture notes and explanation of course assignments will be available on the course website.)

12261

## 言語・コミュニケーション基礎演習 D

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 前期

### サブタイトル

ことばについて考える

### 授業のねらい

ことばに関する様々な問題について皆で考え、話し合い、その答えを探っていきます。授業は学期を通して大きく三つの部分に分かれます。

- ・第一部：ことばに関する一般的な問題について考える（例：人間の赤ちゃんはどのようにことばを身につけるのか。人間のことばは動物の使う「ことば」とどのように違っているのか。外国語を学ぶとき、母語の知識がどのように影響を及ぼすのか。）
- ・第二部：語（word）の構造・形成について考える（世界の言語のデータ分析が中心）
- ・第三部：英語から日本語への翻訳について考える（翻訳の理論と実践の基礎について学ぶ）

### 到達目標

ことばについての関心を高める。ことばの面白い現象について説明ができるようになる。

### 授業方法

第一部では、ことばに関するトピックを扱った読み物についてディスカッションを行いながら、理解を深めていく。

第二部では、言語のデータ分析が中心となり、学生は授業内で発表を担当する予定。

第三部では、翻訳の理論の概要を学んだ後、アメリカの映画・テレビドラマから題材を1つ選び、受講者全員で日本語字幕について考える。

大学の授業でのノートの取り方や言語学のレポートの書き方について基本的な指導も行う。

毎回の授業を受けるにあたり、reading、データ分析の問題等の宿題が課される（事前事後準備時間 60 分程度）。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学の授業でのノートの取り方、身のまわりのことば
- 第3回 子どもの母語獲得、動物の「コミュニケーション」
- 第4回 日本語について考える、第二言語習得
- 第5回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(1)
- 第6回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(2)
- 第7回 世界の言語のデータ分析（初級）
- 第8回 世界の言語のデータ分析（中級）
- 第9回 翻訳理論について学ぶ
- 第10回 役割語(1)
- 第11回 役割語(2)
- 第12回 翻訳の実践(1)
- 第13回 翻訳の実践(2)
- 第14回 翻訳の実践(3)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、課題（40%）、期末試験（30%）

### 履修にあたっての注意

- (1) 全員が活発に参加できる少人数でのゼミを目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
- (2) 欠席は3回までとする。遅刻は2回につき1回の欠席とする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布予定

### 参考書

大津由紀雄『ことばに魅せられて 対話篇』（ひつじ書房、2008、ISBN：978-4894763777）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999、ISBN：978-4327376741）



12262

# 言語・コミュニケーション基礎演習 D

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 後期

## サブタイトル

ことばについて考える

## 授業のねらい

ことばに関する様々な問題について皆で考え、話し合い、その答えを探っていきます。授業は学期を通して大きく三つの部分に分かれます。

- ・第一部：ことばに関する一般的な問題について考える（例：人間の赤ちゃんはどのようにことばを身につけるのか。人間のことばは動物の使う「ことば」とどのように違っているのか。外国語を学ぶとき、母語の知識がどのように影響を及ぼすのか。）
- ・第二部：語（word）の構造・形成について考える（世界の言語のデータ分析が中心）
- ・第三部：英語から日本語への翻訳について考える（翻訳の理論と実践の基礎について学ぶ）

## 到達目標

ことばについての関心を高める。ことばの面白い現象について説明ができるようになる。

## 授業方法

第一部では、ことばに関するトピックを扱った読み物についてディスカッションを行いながら、理解を深めていく。

第二部では、言語のデータ分析が中心となり、学生は授業内で発表を担当する予定。

第三部では、翻訳の理論の概要を学んだ後、アメリカの映画・テレビドラマから題材を1つ選び、受講者全員で日本語字幕について考える。

大学の授業でのノートの取り方や言語学のレポートの書き方について基本的な指導も行う。

毎回の授業を受けるにあたり、reading、データ分析の問題等の宿題が課される（事前事後準備時間 60 分程度）。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学の授業でのノートの取り方、身のまわりのことば
- 第3回 子どもの母語獲得、動物の「コミュニケーション」
- 第4回 日本語について考える、第二言語習得
- 第5回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(1)
- 第6回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(2)
- 第7回 世界の言語のデータ分析（初級）
- 第8回 世界の言語のデータ分析（中級）
- 第9回 翻訳理論について学ぶ
- 第10回 役割語(1)
- 第11回 役割語(2)
- 第12回 翻訳の実践(1)
- 第13回 翻訳の実践(2)
- 第14回 翻訳の実践(3)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、課題（40%）、期末試験（30%）

## 履修にあたっての注意

- (1) 全員が活発に参加できる少人数でのゼミを目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
- (2) 欠席は3回までとする。遅刻は2回につき1回の欠席とする。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布予定

## 参考書

大津由紀雄『ことばに魅せられて 対話篇』（ひつじ書房、2008、ISBN：978-4894763777）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999、ISBN：978-4327376741）

12351

## 英語圏文学概論 a

担当教員：大桃 陶子

2 単位 前期

### サブタイトル

イギリスとその影響をうけた文化圏の文学に関する基礎的な知識を身につける

### 授業のねらい

前期の授業ではイギリスとその影響下にある英語圏文学について講義する。前半ではイギリスにおける主要なテーマとそれに関連する文学作品および文化的背景を紹介していく。後半はイギリスの植民地政策の文学・文化に対する影響関係に着目し、大英帝国が生んだ「英語圏文学」を宗主国イギリスの「正統な」英語文学を相対化する装置として捉えていく。最終的には英領インドで生まれた制度としての英語文学について考察し、全体のまとめとしたい。

### 到達目標

- 1) イギリスとその周辺の文学と文化の多様性を理解する。
- 2) イギリスとその周辺の代表的な作品を理解する。
- 3) 文学作品において使用される様々な英語表現を理解する。

### 授業方法

授業は講義形式によって行われる。必要によっては、英語で書かれたテキストを扱うため、受講者は辞書を携帯すること。訳読の課題が出された場合は、きちんと予習を行うこと。授業内容を整理するために、毎授業後一時間程度の復習を行うことが望ましい。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イギリス文学における演劇
- 第3回 イギリス文学における恋愛・結婚 1—19世紀
- 第4回 イギリス文学における恋愛・結婚 2—19世紀末以降
- 第5回 イギリス文学における階級 1—ヴィクトリア朝時代
- 第6回 イギリス文学における階級 2—20世紀
- 第7回 イギリス文学における児童文学
- 第8回 イギリス文学における地域性
- 第9回 イギリス文学における植民地
- 第10回 旧イギリス植民地における英語文学 1—インド
- 第11回 旧イギリス植民地における英語文学 2—アフリカ
- 第12回 旧イギリス植民地における英語文学 3—西インド諸島
- 第13回 旧イギリス植民地における英語文学 4—オーストラリア
- 第14回 「英語文学」という制度
- 第15回 まとめと試験

### 成績評価の方法

試験 70%、平常点 30%で評価する。

### 教科書

なし

### 参考書

石塚久郎編集『イギリス文学入門』（三修社、2014）  
ビル・アッシュクロフト／ガレス・グリフィス／ヘレン・ティフィン 木村公一編訳『ポストコロニアル事典』（南雲堂、2008）

12361

## 英語圏文学概論 b

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 後期

### サブタイトル

北米の英語圏文学

### 授業のねらい

前期に引き続き、後期は北米とその周辺の英語圏文学について講義する。主にアメリカ文学における主要な作品とテーマを概観した後、カナダの英語文学について講義し、隣接する英語圏の国家の文学においてどのような共通点と差異が見いだせるのかを考える。学期の最後には国家単位を超えた英語文学のテーマについて講義する。作品や作家の紹介だけでなく、ハンドアウトなどで多くの作品の原文を実際に読む時間を確保する予定である。

### 到達目標

- 1) 北米とその周辺の文学と文化の多様性を理解する。
- 2) 北米とその周辺の文学の代表的な作品とテーマを理解する。
- 3) 文学において使用される様々な英語表現を理解する。

### 授業方法

作品からの引用をのせたハンドアウトを配布し、講義形式で授業する。予習・復習をかした場合は必ずこなすこと。人数にもよるができるだけ口頭やペーパーなどで作品や授業内容についてコメントしてもらう予定である。コメントや質問にはできるだけ授業中にレスポンスする。また小テストやレポートをかす場合がある。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 アメリカ文学と宗教
- 第3回 アメリカ文学と自然 1——19 世紀
- 第4回 アメリカ文学と自然 2——20 世紀
- 第5回 アメリカ文学と夢 1——19 世紀
- 第6回 アメリカ文学と夢 2——20 世紀
- 第7回 アメリカ文学と人種 1——19 世紀
- 第8回 アメリカ文学と人種 2——20 世紀
- 第9回 アメリカ文学と性
- 第10回 アメリカ文学と自我
- 第11回 カナダの英語文学
- 第12回 カナダ文学と女性
- 第13回 国境を超える英語文学 1——環境
- 第14回 国境を超える英語文学 2——移民
- 第15回 まとめと試験

### 成績評価の方法

- 1) 到達目標 1～3 を測定するための平常点 30%
- 2) 到達目標 1～3 を測定するための試験 70%

### 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性がある。
- ・履修希望者は初回授業に出席すること。
- ・初回を含め毎回辞書を持参すること。
- ・予習・復習をかした場合必ずこなすこと。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席すること。
- ・授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処する。

### 教科書

なし

### 参考書

杉野健太郎 編集『アメリカ文化入門』（三修社、2010）  
諏訪部浩一 編集『アメリカ文学入門』（三修社、2013）  
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）  
別府恵子、渡辺和子 編著『新版 アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房、2000）  
コーラル・アン・ハウエルズ、エヴァ＝マリー・クローラー 編集『ケンブリッジ版 カナダ文学史』（彩流社、2016）

12531

## 英語圏文化概論 a

担当教員：宮下 雅年

2 単位 前期

## サブタイトル

名前のポリティクス

## 授業のねらい

他者とコミュニケーションを行なう力の養成は相手をよく知ることから始まる。知ること、仮にある点では鋭く対立していても、決裂を回避するいとぐちを発見できる。この授業ではアメリカ合衆国と他の英語圏社会を比べながら、その文化の基層にあると思われる特有の信条、価値観、宗教観、倫理観について考察する。特に、移民がどのように「文化的距離」を乗り越え、自己像を保持しつつ変容するかを「名前」という観点から考察する。さらに、他のマイノリティ集団との共通点と相違点を抽出することによって、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。

## 到達目標

履修生は、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科目の授業に資する知見を身に付けることができる。すなわち、個々の文化的事象を考察するに当たって、その背景となる大きな見取り図を描くことができると同時に、これを座標軸として事象の変化・変容を認識したり、時代の特異性を顧慮したり、文化の多様性を主体的に省察できる。

## 授業方法

各回、授業の開始時に理解度確認のクイズ（小テスト）を配布するので、履修生は講義を聞きながら解答し、終了時に提出する。履修生は指定されたテキストや映画作品を前もって読んだり観たりしてから出席することを求められる。

## 授業計画

- 第1回 移民と名前(1)―「アメリカ人になる」ということ；Louis Adamic, *What's Your Name?* (1942) の先見性
- 第2回 移民と名前(2)―英語を学ぶということ；Leonard Q. Ross, "Mr. K\*A\*P\*L\*A\*N and Vocabulary" (1937) を読む
- 第3回 移民と名前(3)―日系アメリカ人の経験 1；Alan Parker (dr.), *Come See the Paradise* (1991)
- 第4回 移民と名前(4)―日系アメリカ人の経験 2；Kayo Hatta (dr.), *Picture Bride* (1995)
- 第5回 名前のポリティクス―誰が誰を何と名付けるか？ 課題レポートに関する説明
- 第6回 女性と名前(1)―Ursula K. Le Guin, "She Unnames Them." (1985) を読む
- 第7回 女性と名前(2)―二人の Bertha 1；Charlotte Brontë, *Jane Eyre* (1847)
- 第8回 女性と名前(3)―二人の Bertha 2；Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (1966)
- 第9回 女性と名前(4)―Jane とは誰か？；Charlotte Perkins Gilman, "The Yellow Wall-Paper" (1892)
- 第10回 マイノリティと名前(1)―アフリカ系アメリカ人の経験；Angelica Gibbs, "The Test" (1940) を読む
- 第11回 マイノリティと名前(2)―Ralph Emerson と Ralph Ellison；Ralph Ellison, *Invisible Man* (1952)
- 第12回 マイノリティと名前(3)―Malcolm X あるいは<名無し>でいること
- 第13回 マイノリティと名前(4)―外国人労働者；William E. Barrett, "Señor Payroll" (1944) を読む
- 第14回 課題レポート講評：多様な文化的背景をもった人びととの交流あるいは文化の多様性及び異文化交流の意義について、特に名前の観点から履修生が体験をレポートする。(提出締め切り厳守のこと。) このレポートについて担当教員がコメントする。
- 第15回 総復習―名乗りあるいは改名の願望；変わるものと変わらぬもの

## 成績評価の方法

毎回の授業理解度確認クイズの成績 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。

## 履修にあたっての注意

各回の授業理解度確認クイズの提出は当の授業終了時のみとする。また課題レポートは第 12 回授業冒頭にのみ受付ける。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

下記以外の参考資料は担当教員がその都度用意する。

## 参考書

伊藤章『エトノスとトポスで読むアメリカ文学』（英宝社、2012、ISBN：978-4-269-74025-9）

12541

## 英語圏文化概論 b

担当教員：宮下 雅年

2 単位 後期

## サブタイトル

becoming への執着

## 授業のねらい

他者とコミュニケーションを行なう力の養成は相手をよく知ることから始まる。知ること、仮にある点では鋭く対立しようとも、決裂を回避するいとぐちを発見できる。この授業ではアメリカ合衆国と他の英語圏社会を比べながら、その文化の基層にあると思われる特有の信条、価値観、宗教観、倫理観について考察する。アメリカ社会に見られる信条、例えば、〈新しさ〉や〈若々しさ〉に執着したり、すでに何かくであるよりもこれから何かくになることを重視したりする、そのような社会の気風について、他の英語圏社会と比較しながら、その宗教的な基層（回心あるいは再生の願い）に立ち返って出どころを考察する。これによって、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について、その多様性を含めて基本的な内容を理解できる。

## 到達目標

履修生は、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科目の授業に資する知見を身に付けることができる。すなわち、個々の文化的事象を考察するに当たって、その背景となる大きな見取り図を描くことができ、これを座標軸として事象の変化・変容を認識したり、時代の特殊性を顧慮したり、文化の多様性を主体的に省察できる。

## 授業方法

各回、授業の開始時に理解度確認のクイズ（小テスト）を配布するので、履修生は講義を聞きながら解答し、終了時に提出する。

## 授業計画

- 第1回 聖書に基づく世界認識（予型論）：“Puritan”とは何者か？
- 第2回 “A rolling stone gathers no moss.” の意味合い
- 第3回 conversion narrative（我は如何にキリスト者となりしや？）
- 第4回 型への執着と臨機応変：Tom Sawyer と Huckleberry Finn
- 第5回 森の中で年齢を脱ぎ捨てる：Ralph Waldo Emerson の思想 1
- 第6回 奇形になる：Ralph Waldo Emerson の思想 2 課題レポートに関する説明
- 第7回 “becoming” の重視：完璧な身体の礼賛—Edgar Allan Poe, “The Man That Was Used Up” (1839)
- 第8回 “becoming” の重視：完璧な身体への憧憬—Nathaniel Hawthorne, “The Birthmark” (1843)
- 第9回 “becoming” へのためらい：身体の不安—Mary Shelley, Frankenstein; or, The Modern Prometheus (1818)
- 第10回 成功物語：身体美化—Horatio Alger, Ragged Dick (1867)
- 第11回 不成功物語：身体解体—Nathanael West, A Cool Million (1934)
- 第12回 美容整形の受容
- 第13回 課題レポート講評：多様な文化的背景をもった人びととの交流あるいは文化の多様性及び異文化交流の意義について、特に身体観から履修生が体験をレポートする。そのレポートについて担当教員がコメントする。
- 第14回 個人と共同体：帰郷物語 1—William Saroyan, “Going Home” (1936)
- 第15回 個人と共同体：帰郷物語 2—Ernest Hemingway, “Soldier's Home” (1925)

## 成績評価の方法

毎回の授業理解確認クイズの成績 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。

## 履修にあたっての注意

各回の授業理解度確認クイズの提出は当の授業終了時のみとする。また、課題レポートの提出は第 11 回授業の冒頭のみ受付ける。

## 教科書

なし

## 参考書

高木美也子『人間パズル』（かんき出版、2002、ISBN：4761260017）



15951

## 英語学概論 a

担当教員：對馬 康博

2 単位 前期

### サブタイトル

英語学概論 2018 前編

### 授業のねらい

この講義では、英語学 (English Linguistics) という学問領域の各分野について体系的な視点から概観することを目的とする。対象言語は英語とし、対照のために日本語を据える。なお、後期開講の「英語学概論 b」とセットで英語学の全分野を見渡すことになる。

### 到達目標

1. 英語学の各分野 (世界の中の英語・国際共通語としての英語、英語の歴史の変遷、音声学・音韻論 (音の仕組み)、形態論) に関して、自ら体系的に説明できるようになること。
2. 英語の現象について、日本語と比較して、自ら説明できるようになること。

### 授業方法

講師による講義による。また、以下の通り、授業外でもアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

テキストやハンドアウトの指定された範囲について綿密に予習・調査することが要求される。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関するフィードバックは、適宜、授業内で行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英語学とはどういう学問領域か?
- 第 3 回 世界の中の「英語 (Englishes)」・国際共通語としての英語
- 第 4 回 英語の歴史(1)  
英語外面史 - 古英語 → 中英語 -
- 第 5 回 英語の歴史(2)  
英語外面史 - 中英語 → 近代英語 -
- 第 6 回 英語の歴史(3)  
古英語
- 第 7 回 英語の歴史(4)  
中英語
- 第 8 回 英語の歴史(5)  
近代英語
- 第 9 回 音韻論・音声学(1)  
音韻論・音声学とは何か?・発声法
- 第 10 回 音韻論・音声学(2)  
母音と子音
- 第 11 回 音韻論・音声学(3)  
音素とその関連
- 第 12 回 形態論(1)  
形態論とは何か?・形態素
- 第 13 回 形態論(2)  
接辞
- 第 14 回 形態論(3)  
語形成
- 第 15 回 レビュー & 総合試験

### 成績評価の方法

- ・総合試験 80%
- ・平常点 (授業への参加状況) 20%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・後期開講「英語学概論 b」(對馬担当) を継続受講することを強く薦める。

### 教科書

對馬康博 (編著), *The Overview of English Linguistics Vol. 1*

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

### 参考書

René Dirven and Marjolijn Verspoor, *Cognitive Exploration of Language and Linguistics. (Second revised edition.)* (John Benjamins, 2004, ISBN : 9781588114860)

Ingo Plag et al., *Introduction to English Linguistics. (3rd revised edition)* (Mouton de Gruyter, 2015, ISBN : 9783110376180)

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language. (3rd edition)* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 9780521736503)

影山太郎 (他) 『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版、2003、ISBN : 9784874242773)



15961

## 英語学概論 b

担当教員：對馬 康博

2 単位 後期

### サブタイトル

英語学概論 2018 後編

### 授業のねらい

この講義では、英語学 (English Linguistics) という学問領域の各分野について体系的な視点から概観することを目的とする。対象言語は英語とし、対照のために日本語を据える。なお、前期開講の「英語学概論 a」とセットで英語学の全分野を見渡すことになる。

### 到達目標

1. 英語学の各分野 (英語の文法としての統語論・意味論・構文論、語用論、言語獲得論・言語習得論) に関して、自ら体系的に説明できるようになること。
2. 英語の現象について、日本語と比較して、自ら説明できるようになること。

### 授業方法

講師による講義による。また、以下の通り、授業外でもアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

テキストやハンドアウトの指定された範囲について綿密に予習・調査することが要求される。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関するフィードバックは、適宜、授業内で行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 統語論(1)  
統語論とは何か?・伝統文法の文の分析と (アメリカ) 構造主義言語学
- 第 3 回 統語論(2)  
変形生成文法 - 句構造規則と変形規則 -
- 第 4 回 統語論(3)  
生成文法 - 移動と X バー理論 -
- 第 5 回 統語論(4)  
生成文法 - ミニマリスト・プログラム -
- 第 6 回 意味論(1)  
言葉の意味とは何か?
- 第 7 回 意味論(2)  
古典的意味論
- 第 8 回 意味論(3)  
認知意味論
- 第 9 回 構文論(1)  
認知文法 - 文法関係 -
- 第 10 回 構文論(2)  
認知文法 - 認知構文論 -
- 第 11 回 構文論(3)  
構文文法
- 第 12 回 語用論(1)  
語用論とは何か?
- 第 13 回 語用論(2)  
古典的語用論
- 第 14 回 言語獲得論・言語習得論
- 第 15 回 レビュー & 総合試験

### 成績評価の方法

・総合試験 80%

・平常点 (授業への参加状況) 20%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・前期開講「英語学概論 a」(對馬担当) で学んだ概念を「前提」とするので、英語文化学科の学生は継続受講者を対象とする。

### 教科書

對馬康博 (編著), *The Overview of English Linguistics Vol. 2*

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

### 参考書

René Dirven and Marjolijn Verspoor, *Cognitive Exploration of Language and Linguistics. (Second revised edition.)* (John Benjamins, 2004, ISBN : 9781588114860)

Ingo Plag et al., *Introduction to English Linguistics. (3rd revised edition)* (Mouton de Gruyter, 2015, ISBN : 9783110376180)

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language. (3rd edition)* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 9780521736503)

影山太郎 (他) 『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版、2003、ISBN : 9784874242773)

15971

## 言語学概論 a

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 前期

## サブタイトル

世界の言語の音・語・文の構造を科学的に分析する基礎力を身に付ける

## 授業のねらい

日本語や英語にはどのような音が含まれているのか（子音・母音の種類など）、そして日本語や英語の単語一語一語はこれらの音のいくつかが結びついてできているが、その結びつきの際にはどのような規則があるのか、またこれらの単語はどのように形成されているのか、さらに、これらの語がまとまって文を形成する際にはどのような規則が関わっているのか—など、日本語や英語をはじめ、世界で話されている言語の音声や音韻・語・文の構造のパターンを理解する。

## 到達目標

1. 言語学の考え方が理解できる。
2. 言語学の基本的な知識や理論を使って、世界の言語のさまざまな音・語・文のデータが分析できる。

## 授業方法

講義形式である。原則として、約3～4回の授業で言語学の1分野について学ぶ。1分野終わるごとに、試験を行う。取り扱う分野は、音声学・音韻論、形態論、統語論である。基本的には教科書に沿って進めていくが、毎回プリントを配布し、日本語・英語を含む世界の言語のデータを分析するトレーニングを行う。毎回授業を受けるにあたり、reading や problem sets などの宿題が課される（事前事後準備時間1時間程度）。

problem sets の宿題や学期中に行われる試験については、採点後に返却し、授業内で解説を行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：「言語学」とは？
- 第2回 音声学(1)：日本語と英語の音の調音
- 第3回 音声学(2)：世界の言語の音の調音
- 第4回 音韻論(1)：音節とモーラ、アクセント
- 第5回 音韻論(2)：音素分析(1)
- 第6回 音韻論(3)：音素分析(2)、音韻過程
- 第7回 テスト1 (Ch. 1：音声学・音韻論)
- 第8回 形態論(1)：語、形態素
- 第9回 形態論(2)：語形成のタイプ
- 第10回 形態論(3)：形態素分析の練習問題
- 第11回 形態論(4)：複合語、形態の特徴から見た言語の類型
- 第12回 テスト2 (Ch. 2：形態論)
- 第13回 統語論(1)：文法性、統語範疇、樹形図
- 第14回 統語論(2)：文法範疇(1)
- 第15回 統語論(3)：文法範疇(2)

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測るためのテスト1、2 (25%×2 = 50%)、期末テスト (35%)、授業への参加状況 (宿題を含む) (15%)

## 履修にあたっての注意

1. 全員が参加できる比較的少人数での授業を目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
2. 遅刻は2回につき1回の欠席とする。
3. テストは学期中に2回、期末試験期間中に1回行う。それぞれのテストの追試は、教務課で公認欠席が認められた場合のみ受けられる。

## 教科書

齊藤純男『言語学入門』(三省堂、2010、ISBN：978-4-385-36421-6)

15981

## 言語学概論 b

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 後期

## サブタイトル

世界の言語の歴史、社会との関わり、文字体系等を考察する

## 授業のねらい

(「言語学概論 a」の続きである。) 第4回までは、言語における語・句・文の「意味」について学ぶ。残りの回では、言語が時代の流れと共にどのように変化してきたか、地域や社会の違いによって言語はどのように異なるのか、世界にはどのような文字体系があるのか、などについて学ぶ。

## 到達目標

1. 言語学の考え方が理解できる。
2. 授業で学んだ音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論の知識を総合的に使って、世界の言語のデータが分析できるようになる。

## 授業方法

原則として、2～4回の授業で言語学の1分野を学ぶ。1～3分野終わるごとに、試験を行う。取り扱う分野は、意味論・歴史言語学・比較言語学・言語地理学・社会言語学・文字論である。基本的には教科書に沿って進めていくが、毎回プリントを配布し、日本語・英語を含む世界の言語のデータを分析するトレーニングを行う。毎回授業を受けるにあたり、reading や problem sets などの宿題が課される（事前事後準備時間1時間程度）。

problem sets の宿題や学期中に行われる試験については、採点後に返却し、授業内で解説を行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：前期の復習
- 第2回 意味論(1)：言語の恣意性、語や句・文の意味構造
- 第3回 意味論(2)：意味役割、成分分析
- 第4回 意味論(3)：認知意味論
- 第5回 テスト1 (Ch. 5：意味論)
- 第6回 歴史言語学(1)：音変化
- 第7回 歴史言語学(2)：形態・統語・意味変化
- 第8回 比較言語学
- 第9回 言語地理学
- 第10回 テスト2 (Ch. 7, 8, 9：歴史言語学・比較言語学・言語地理学)
- 第11回 社会言語学(1)：方言
- 第12回 社会言語学(2)：使用域
- 第13回 文字論(1)：writing の役割；世界の文字のタイプ
- 第14回 文字論(2)：世界の文字の解読(1)
- 第15回 文字論(3)：世界の文字の解読(2)

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測るためのテスト1、2 (25%×2 = 50%)、期末テスト (35%)、授業への参加状況 (15%)

## 履修にあたっての注意

1. 前期の「言語学概論 a」を履修していること。(1回目の授業に必ず出席のこと。)
2. 遅刻は2回につき1回の欠席とする。
3. テストは学期中に2回、期末試験期間中に1回行う。それぞれのテストの追試は、教務課で公認欠席が認められた場合のみ受けられる。

## 教科書

齊藤純男『言語学入門』(三省堂、2010、ISBN：978-4-385-36421-6)

12621

## コミュニケーション概論 a

担当教員：井筒 美津子

2 単位 前期

## サブタイトル

語用論・談話分析入門

## 授業のねらい

この授業では、言語学の諸分野の中でも、特に語用論 (pragmatics)・談話分析 (discourse analysis) について概観する。語用論は、会話に携わる話し手や聞き手の立場から発話というものを考察し、発話を生み出す原理や動機を探索する分野である。談話分析は、話し手や書き手によって生み出された談話 (会話やテキスト) の構造や表現のあり方を考察する分野である。共に「文」の単位を超えた言語に関する様々な現象を扱うことから、二つの分野の区別はしばしば曖昧になることがあるが、本授業では、これら二つの言語学の分野を学ぶことを通して、コミュニケーションの一側面を探索していく。

## 到達目標

1. 言語学の視点からコミュニケーションを理解する。
2. 語用論・談話分析に関する基礎的な知識を身につける。

## 授業方法

講義形式により行うが、内容理解の確認や問題演習の際は発言や発表などが求められる。従って、積極的な授業への参加を期待する。毎回、授業で紹介される専門知識を理解するために必要な事前・事後学習 (30分程度) が必要である。

小テストのフィードバックを次の授業で行います。

## 授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 What is pragmatics? (語用論とは何か?)
- 第3回 Deixis and other referring expressions (直示とその他の指示表現) (1)
- 第4回 Deixis and other referring expressions (直示とその他の指示表現) (2)
- 第5回 Presuppositions and implicatures (前提と含意)
- 第6回 Speech Acts (言語行為) (1)
- 第7回 Speech Acts (発話行為) (2)
- 第8回 Politeness (ポライトネス) (1)
- 第9回 Politeness (ポライトネス) (2)
- 第10回 Conversational Analysis (会話分析) (1)
- 第11回 Conversational Analysis (会話分析) (2)
- 第12回 Cohesion (結束性) と Coherence (一貫性)
- 第13回 Informaion Structure (情報構造)
- 第14回 Critical Discourse Analysis (批判的談話分析)
- 第15回 Summary

## 成績評価の方法

到達目標 1 と 2 を測定するための定期試験 (50%) と毎回の小テスト (40%)、及び、授業への参加度 (10%) で評価する。

## 履修にあたっての注意

学生参加型の講義を予定しているため、人数が多い場合は人数制限をすることがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、ハンドアウトを配布する。参考文献はハンドアウトを参照のこと。

12631

## コミュニケーション概論 b

担当教員：井筒 美津子

2 単位 後期

## サブタイトル

「誤伝達 (miscommunication)」について考える

## 授業のねらい

我々は、普段のコミュニケーションがあまりに当たり前に行われているため、人とコミュニケーションを取ることが非常に簡単な行為であるかのように考えがちである。この一見、容易に見えるコミュニケーション行為が実はとても複雑で、問題が多いということに気付くのは、相手との「誤伝達」が生じたときである。

この授業では、日常生活で起こる「誤伝達」について言語学的に考えていく。「誤伝達」がどのような場合に起こるのか、そのメカニズムは何か、そしてどう克服したらよいかなどを学んでいきたい。

## 到達目標

1. 誤伝達に関わる言語学的な知識を身につける。
2. 普段の生活で何気なく起こっている「誤伝達」が起こる仕組みについて、言語学的に分析することが出来る。

## 授業方法

講義形式により行う。原則として、毎回授業の最後に、内容理解を確認するための小テストを行う。毎回、授業で紹介される専門知識を理解するために必要な事前・事後学習 (30分程度) が必要である。

小テストのフィードバックを次の授業で行います。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「誤伝達」とは何か
- 第3回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第4回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第5回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(3)
- 第6回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(4)
- 第7回 異方言間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第8回 異方言間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第9回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第10回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第11回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(3)
- 第12回 レポートテーマ発表・レポートの書き方について
- 第13回 異世代間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第14回 異世代間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第15回 「誤伝達」のメカニズム

## 成績評価の方法

到達目標 1 と 2 を測定する期末レポート (50%)、到達目標 1 を測定する毎回の小テスト (40%)、授業態度 (10%) により評価する。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

- ・前期の「コミュニケーション概論 a」を受講していることが望ましい。
- ・学生参加型の講義を予定しているため、人数が多い場合は人数制限をすることがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、ハンドアウトを配布します。参考文献はハンドアウトを参照のこと。



12901

## 児童英語入門

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 前期

### 授業のねらい

児童を対象にした英語教授法の基本的な理論と実践を学ぶ

### 到達目標

1. 子どものことばの学びについて理解する。
2. 児童を対象とした英語教授法の基本的な理論を理解する。
3. 児童を対象とした英語指導における基本的な活動の目的を理解し、また活動をいくつか体験的に学ぶ。

### 授業方法

前半（児童英語の理論）は講義形式である。

後半（児童英語の実践）は、受講生が実際に体験し、指導技術を身につけていく。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、子どものことばの学びについて①
- 第2回 子どものことばの学びについて②（第二言語習得理論の基礎）
- 第3回 子どものことばの学びについて③（発達心理学の基礎）
- 第4回 多重知能理論を活用する指導法
- 第5回 英語の音声の基本的な知識
- 第6回 英語の語彙・文法の基本的な知識
- 第7回 ことばへの気づきをもたらす指導法①
- 第8回 ことばへの気づきをもたらす指導法②
- 第9回 英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる指導法
- 第10回 歌、マザーグース、チャンツの指導①
- 第11回 歌、マザーグース、チャンツの指導②
- 第12回 絵本、読み聞かせの指導①
- 第13回 絵本、読み聞かせの指導②
- 第14回 アクティビティの紹介
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況（50%）、授業内でのテスト（25%）、レポート（25%）

### 履修にあたっての注意

- (1) 人数が多い場合は人数制限をする。その際、「児童英語プログラム」の「小学校英語指導者」資格の取得を希望する者を優先する。1回目の授業に必ず出席のこと。
- (2) 前半の授業における児童英語理論の理解をもとに、後半の実践に入る。欠席は極力避けること。特に後半は、グループ活動や体験を通しての授業が中心となるので、積極的に参加することが期待される。

### 教科書

大津由紀雄・窪園晴夫『ことばの力を育む』（慶應義塾大学出版会、2008、ISBN：978-4-7664-1471-4）

### 教科書・参考書に関する備考

その他、プリントを配布予定

12911

## 児童英語活動Ⅰ

担当教員：柴野 しおり

1 単位 後期

### 授業のねらい

実践的に児童英語指導の基本を習得する。

### 到達目標

児童英語教師になるための基本的な知識と指導技術を身につける。

学習した指導法に基づき、指導案を作成し、英語で授業を実施する。

### 授業方法

児童英語教育の理論と実践を学ぶ。受講生が児童役、先生役となり、模擬授業を行い、英語授業を体験する。

一つの題材について、幼児、小学校低学年、中学年、高学年それぞれの指導法の違いを学ぶ。

受講生同士が授業についてのアイデアを出し合い、授業を組み立て実施してみる。

### 授業計画

- 第1回 児童英語の目的と方法
- 第2回 小学校英語教育の変遷  
小中の連携と小学校の役割
- 第3回 異文化理解
- 第4回 コミュニケーションの目的と指導法①
- 第5回 コミュニケーションの目的と指導法②
- 第6回 コミュニケーションの目的と指導法③
- 第7回 TTによる指導の在り方①
- 第8回 TTによる指導の在り方②
- 第9回 TTによる指導の在り方③
- 第10回 活動型リスニング、スピーキングの指導①
- 第11回 活動型リスニング、スピーキングの指導②
- 第12回 Classroom English と Teacher Talk の指導
- 第13回 児童の発話の促し方①
- 第14回 児童の発話の促し方②
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標達成度を測定するレポート・演示により評価する。評価の割合は以下の通り。

授業への取り組み状況（60%）、授業内でのテスト（10%）、課題レポート（10%）、英語指導に必要な総合的な力（20%）

### 履修にあたっての注意

児童英語入門を履修済みであること。グループ活動、体験を通しての授業が中心となるので、積極的に参加し、協力し合って授業を作り上げていくこととなります。欠席は極力避けてください。

### 教科書

小川隆夫、東仁美『小学校英語はじめる教科書』（mpi、2017、ISBN：9784896435849）

中本幹子『実践家からの児童英語教育法解説編』（apricot、2003、ISBN：978-489991-0473）

中本幹子『実践家からの児童英語教育法 AB』（apricot、2003、ISBN：978-489991-0480）

### 参考書

松香洋子『子どもと英語』（mpi、2011、ISBN：9784896434248）



# 日本語・日本文学科 専門科目





24461

## 日本語学 A-a

担当教員：漆崎 正人

2 単位 前期

### サブタイトル

日本語史資料講読（基本編）

### 授業のねらい

日本語は今まで様々な文字、すなわち、漢字、万葉仮名、平仮名、片仮名、ローマ字等で表記されてきました。文学作品を含め、言語作品を理解する上で、それらを翻字・翻刻という、他人の解釈が施される前の段階の資料において、自分の力で読めることが望ましいのは言うまでもありません。既存の翻字・翻刻文献の表記解釈が誤っている場合が少なからずあるからです。この授業は、特に変体仮名や中世南欧のローマ字綴り字法で表記された日本語文献を、自分の力で読めるようにすることを目的としています。また、取り上げる資料の表記形態から、当時の日本語のありようの一端や歴史的な位置づけを考えてみます。

### 到達目標

1. 変体仮名や中世南欧のローマ字綴り字法で表記された日本語文献を、仮名字体表やローマ字字体表を活用しながらも、自分の力で読むことができる。
2. 変体仮名や中世南欧のローマ字綴り字法と当時の日本語の音韻との関係を理解することで、古語辞典を適切に使用できるようになり、表現を的確に読解することができる。

### 授業方法

取り上げる文献（予定）は、(1)『天草版伊曾保物語』（1593年刊）（『イソツブ物語』（ポルトガル式ローマ字）、(2)『土左日記』（935年頃成立）（古写本による）（平仮名、漢字）、(3)『源氏物語』（1001-14年頃成立）（古写本による）（平仮名、漢字）ですが、それぞれ最初に取り上げる文献の日本語史の視点からの解説をし、表記の具体的な読解のしかたを説明してから、受講学生に実際に当てて添削するという方法で進めます。事前にその日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。試験の答えは採点后、希望者には解答例を示して返却します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『天草版伊曾保物語』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第3回 『天草版伊曾保物語』の読解(1):「作り物語の抜き書き」から10～20行程度
- 第4回 『天草版伊曾保物語』の読解(2):「作り物語の抜き書き」から10～20行程度（\*1の続き）
- 第5回 『天草版伊曾保物語』の読解(3):「作り物語の抜き書き」から10～20行程度（\*2の続き）
- 第6回 『天草版伊曾保物語』の読解(4):「作り物語の抜き書き」から10～20行程度（\*3の続き）
- 第7回 『土左日記』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第8回 『土左日記』の読解(1): 1～2月の条から10～20行程度
- 第9回 『土左日記』の読解(2): 1～2月の条から10～20行程度（\*1の続き）
- 第10回 『土左日記』の読解(3): 1～2月の条から10～20行程度（\*2の続き）
- 第11回 『土左日記』の読解(4): 1～2月の条から10～20行程度（\*3の続き）
- 第12回 『源氏物語』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第13回 『源氏物語』の読解(1):「桐壺」から10～20行程度
- 第14回 『源氏物語』の読解(2):「桐壺」から10～20行程度（\*1の続き）
- 第15回 『源氏物語』の読解(3):「桐壺」から10～20行程度（\*2の続き）

### 成績評価の方法

評価は、試験（90%）と授業への参加状況（10%）とによります。欠席時（回）数が総授業時（回）数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

### 履修にあたっての注意

この講義は、日本語史研究のための入門となる授業なので、卒業研究で日本語の歴史的研究を扱う可能性のある人はできるだけ履修してください。また、この講義を履修する人は、後期開講の発展編の日本語学 A-b もできるだけ継続履修してください。資料は前もって配布するので、その日の分は予習して臨むこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：適宜配布します。  
参考書：適宜指示します。

24471

## 日本語学 A-b

担当教員：漆崎 正人

2 単位 後期

### サブタイトル

日本語史資料講読（発展編）

### 授業のねらい

日本語は今まで様々な文字、すなわち、漢字、万葉仮名、平仮名、片仮名、ローマ字等で表記されてきました。文学作品を含め、言語作品を理解する上で、それらを翻字・翻刻という、他人の解釈が施される前の段階の資料において、自分の力で読めることが望ましいのは言うまでもありません。既存の翻字・翻刻文献の表記解釈が誤っている場合が少なからずあるからです。この授業は、種類の文字（ローマ字を除く）で表記された日本語文献を、どんなものでも自分の力で読めるようにすることを目的としています。また、取り上げる資料の表記形態から、当時の日本語のありようの一端や歴史的な位置づけを考えてみます。

### 到達目標

1. 漢字、万葉仮名、平仮名、片仮名（及びヲコト点）で表記された日本語文献を、異体字表、仮名字体表、ヲコト点図を活用しながらも、自分の力で読むことができる。
2. 漢字、万葉仮名、平仮名、片仮名（及びヲコト点）と当時の日本語の音韻との関係を理解することで、古語辞典を適切に使用できるようになり、表現を的確に読解することができる。

### 授業方法

取り上げる文献（予定）は、(1)『今昔物語集』（1120年頃成立）（古写本による）（漢字、片仮名）、(2)『きのふはけふの物語』（1614-24年頃成立）（古活字本による）（平仮名、漢字）、(3)『万葉集』（8世紀後半成立）（古写本による）（万葉仮名<音仮名、訓仮名>、漢字）、(4)『前田本日本書紀』（本文は平安後期写、訓点は院政期）（漢字、万葉仮名、片仮名、ヲコト点）ですが、それぞれ最初に取り上げる文献の日本語史の視点からの解説をし、表記の具体的な読解のしかたを説明してから、受講学生に実際に当てて添削するという方法で進めます。事前にその日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。レポート（2種）は、採点後に希望者にはコメントを付して返却します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『今昔物語集』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第3回 『今昔物語集』の読解(1)：巻14から10～20行程度
- 第4回 『今昔物語集』の読解(2)：巻14から10～20行程度（\*1の続き）
- 第5回 『今昔物語集』の読解(3)：巻14から10～20行程度（\*2の続き）
- 第6回 『きのふはけふの物語』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第7回 『きのふはけふの物語』の読解(1)：上巻から20行程度
- 第8回 『きのふはけふの物語』の読解(2)：上巻から20行程度（\*1の続き）
- 第9回 『万葉集』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第10回 『万葉集』の読解(1)：巻1から10～20句
- 第11回 『万葉集』の読解(2)：巻1から10～20句（\*1の続き）
- 第12回 『万葉集』の読解(3)：巻1から10～20句（\*2の続き）
- 第13回 『前田本日本書紀』の資料解説と読解のしかたの説明
- 第14回 『前田本日本書紀』の読解(1)：巻14から10～20行程度
- 第15回 『前田本日本書紀』の(2)：巻14から10～20行程度（\*1の続き）

### 成績評価の方法

評価は、レポート（2種）（90%）と授業への参加状況（10%）とによります。欠席時（回）数が総授業時（回）数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

### 履修にあたっての注意

この講義は、日本語史研究のための入門となる授業なので、卒業研究で日本語の歴史的研究を扱う可能性のある人はできるだけ履修してください。また、前期開講の基本編の日本語学 A-a を受講していることが前提となっているので、日本語学 A-a を履修せずに、この講義を履修することはできません。資料は前もって配布するので、その日の分は予習して臨むこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：適宜配布します。  
参考書：適宜指示します。

24481

## 日本語学 B

担当教員：揚妻 祐樹

2 単位 前期

## サブタイトル

近・現代日本語研究法

## 授業のねらい

言語研究は、言語資料からデータを採集し、それを分類整理し、そこから読み取れるものを分析するという手順で行われる。この中で特に、言語資料の調査方法についての諸知識が必要になる。言語調査は大きく分けて、モノ（書かれた文献）を調べるものと、ヒトをしらべるもの（アンケート、面接調査、トランスクリプト）に分けられる。それぞれの言語調査方法の特徴、そして調査を通して具体的にどんな言語研究があり得るかといったことについて学び、近代から現代にかけての日本語研究の基礎を習得するのがこの授業のねらいである。

## 到達目標

1. モノやヒトの調査方法の習得。
2. モノ（文献資料）の知識の習得。
3. 近代から現代にかけての日本語研究に必要な言語学的知識や日本語の流れについての考察力。
4. テーマの設定、調査資料の選定、調査、分析という一連の言語研究ができるようになること。

## 授業方法

講義形式で行われるが、授業内でアンケート調査などが行われることがある（所要時間 75 分程度）。授業の最後に授業に対するコメントを書く時間を設ける（15 分程度）。受講者には言語調査についての宿題の提出を課す（60 分程度）。授業に対するコメントについては次の回にフィードバックする。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 待遇表現の変遷(1)呼称
- 第3回 待遇表現の変遷(2)尊敬語・謙譲語・丁寧語
- 第4回 性差から見た日本語の変遷
- 第5回 断定の助動詞の変遷
- 第6回 語彙から見た日本語の変遷(1)和語
- 第7回 語彙から見た日本語の変遷(2)漢語
- 第8回 語彙から見た日本語の変遷(3)外来語
- 第9回 ヒトの調査
- 第10回 現代日本語の待遇表現概観
- 第11回 商業敬語
- 第12回 敬語の簡素化
- 第13回 地域差から見た現代日本語(1)方言と標準語
- 第14回 地域差から見た現代日本語(2)語彙・文法・アクセント
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

主として到達目標 1、2 を測定する宿題（30%）、主として到達目標 3 を測定する授業へのコメント（10%）、主として到達目標 4 を測定する期末のレポート（70%）により評価する。

## 教科書

使いません

## 参考書

亀井孝他『日本語の歴史6 新しい国語への歩み』（平凡社、2007、ISBN：978-4-582-76623-3）

24482

## 日本語学 B

担当教員：揚妻 祐樹

2 単位 後期

## サブタイトル

近・現代日本語研究法

## 授業のねらい

言語研究は、言語資料からデータを採集し、それを分類整理し、そこから読み取れるものを分析するという手順で行われる。この中で特に、言語資料の調査方法についての諸知識が必要になる。言語調査は大きく分けて、モノ（書かれた文献）を調べるものと、ヒトをしらべるもの（アンケート、面接調査、トランスクリプト）に分けられる。それぞれの言語調査方法の特徴、そして調査を通して具体的にどんな言語研究があり得るかといったことについて学び、近代から現代にかけての日本語研究の基礎を習得するのがこの授業のねらいである。

## 到達目標

1. モノやヒトの調査方法の習得。
2. モノ（文献資料）の知識の習得。
3. 近代から現代にかけての日本語研究に必要な言語学的知識や日本語の流れについての考察力。
4. テーマの設定、調査資料の選定、調査、分析という一連の言語研究ができるようになること。

## 授業方法

講義形式で行われるが、授業内でアンケート調査などが行われることがある（所要時間 75 分程度）。授業の最後に授業に対するコメントを書く時間を設ける（15 分程度）。受講者には言語調査についての宿題の提出を課す（60 分程度）。授業に対するコメントについては次の回にフィードバックする。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 待遇表現の変遷(1)呼称
- 第3回 待遇表現の変遷(2)尊敬語・謙譲語・丁寧語
- 第4回 性差から見た日本語の変遷
- 第5回 断定の助動詞の変遷
- 第6回 語彙から見た日本語の変遷(1)和語
- 第7回 語彙から見た日本語の変遷(2)漢語
- 第8回 語彙から見た日本語の変遷(3)外来語
- 第9回 ヒトの調査
- 第10回 現代日本語の待遇表現概観
- 第11回 商業敬語
- 第12回 敬語の簡素化
- 第13回 地域差から見た現代日本語(1)方言と標準語
- 第14回 地域差から見た現代日本語(2)語彙・文法・アクセント
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

主として到達目標 1、2 を測定する宿題（30%）、主として到達目標 3 を測定する授業へのコメント（10%）、主として到達目標 4 を測定する期末のレポート（70%）により評価する。

## 教科書

使いません

## 参考書

亀井孝他『日本語の歴史6 新しい国語への歩み』（平凡社、2007、ISBN：978-4-582-76623-3）

24491

## 日本語学 C

担当教員：阿部 二郎

2 単位 前期

## サブタイトル

日本語を通して見る言語の性質

## 授業のねらい

この講義では、日本語を通して言語というものがどのようなものであるか「体験」することで、言語の持つ仕組みや性質に関する認識を深め、ことばに対する考え方の基礎を身につけることを目的とします。

なお、授業の主なねらいではありませんが、授業の中で日本語教育について折に触れ言及することもありますので、その分野に関心のある方に資する授業になる可能性もあります。

## 到達目標

授業で取り上げたテーマの内、少なくとも3つのトピックについては、自ら分析し、説明することができる。

## 授業方法

原則として、1回につき教科書の1課の内容とそれに関連することがらを取り上げ、講義形式で進めていきます。また、その課のテーマに関する様々な課題を「エクササイズ」として授業中に提示し、これに取り組んでいきます。作業結果は回収し、評価（授業への参加状況）の参考とします。

## 授業計画

- 第1回 ことばで表し得るもの
- 第2回 たとえと言ひ回し
- 第3回 名付け
- 第4回 意味と経験
- 第5回 主題と叙述
- 第6回 テキストのいろいろ
- 第7回 広告のことば
- 第8回 オノマトペ
- 第9回 ことばの意味と機能(1)
- 第10回 ことばの意味と機能(2)
- 第11回 数量のとらえ方
- 第12回 出来事の見方・とらえ方
- 第13回 ことばは過去をどのようにとらえるか
- 第14回 判断の表し方
- 第15回 ことばでことばを再現する

テキストにしたがって、上記の内容を予定しています。ただし、進度により省略したり順序を入れ替えたりすることもあります。

## 成績評価の方法

期末課題（60%）、授業への参加状況（40%）  
※無断欠席は減点の対象とします。

## 履修にあたっての注意

受講者は講義を聴くだけでなく、課題に積極的に取り組むことが望まれます。課題の評価に当たっては思考過程も重視しますので、課題に取り組む際は自分なりに考えて工夫することが求められます。

## 教科書

青木三郎『ことばのエクササイズ』（ひつじ書房、2001、ISBN：978-4894761506）

## 教科書・参考書に関する備考

授業中の課題や期末課題に取り組むためにも教科書が必要となります。教科書の無い方は原則として受講できませんので、受講が確定するまでに教科書を入手しておくようにしてください。

24492

## 日本語学 C

担当教員：阿部 二郎

2 単位 後期

## サブタイトル

日本語を通して見る言語の性質

## 授業のねらい

この講義では、日本語を通して言語というものがどのようなものであるか「体験」することで、言語の持つ仕組みや性質に関する認識を深め、ことばに対する考え方の基礎を身につけることを目的とします。

なお、授業の主なねらいではありませんが、授業の中で日本語教育について折に触れ言及することもありますので、その分野に関心のある方に資する授業になる可能性もあります。

## 到達目標

授業で取り上げたテーマの内、少なくとも3つのトピックについては、自ら分析し、説明することができる。

## 授業方法

原則として、1回につき教科書の1課の内容とそれに関連することがらを取り上げ、講義形式で進めていきます。また、その課のテーマに関する様々な課題を「エクササイズ」として授業中に提示し、これに取り組んでいきます。作業結果は回収し、評価（授業への参加状況）の参考とします。

## 授業計画

- 第1回 ことばで表し得るもの
- 第2回 たとえと言ひ回し
- 第3回 名付け
- 第4回 意味と経験
- 第5回 主題と叙述
- 第6回 テキストのいろいろ
- 第7回 広告のことば
- 第8回 オノマトペ
- 第9回 ことばの意味と機能(1)
- 第10回 ことばの意味と機能(2)
- 第11回 数量のとらえ方
- 第12回 出来事の見方・とらえ方
- 第13回 ことばは過去をどのようにとらえるか
- 第14回 判断の表し方
- 第15回 ことばでことばを再現する

テキストにしたがって、上記の内容を予定しています。ただし、進度により省略したり順序を入れ替えたりすることもあります。

## 成績評価の方法

期末課題（60%）、授業への参加状況（40%）  
※無断欠席は減点の対象とします。

## 履修にあたっての注意

受講者は講義を聴くだけでなく、課題に積極的に取り組むことが望まれます。課題の評価に当たっては思考過程も重視しますので、課題に取り組む際は自分なりに考えて工夫することが求められます。

## 教科書

青木三郎『ことばのエクササイズ』（ひつじ書房、2001、ISBN：978-4894761506）

## 教科書・参考書に関する備考

授業中の課題や期末課題に取り組むためにも教科書が必要となります。教科書の無い方は原則として受講できませんので、受講が確定するまでに教科書を入手しておくようにしてください。



24502

## 古典文学 A

担当教員：小山 清文

2 単位 後期

## サブタイトル

平安文学へのいざない

## 授業のねらい

この授業は、散文を中心に、平安時代の文学作品について、その内容や作品の文学史上における意義、問題点などについて、できるだけ様々な観点から取り上げ、平安文学に対して各自の新たな興味や問題意識を持つことができるようめざします。

## 到達目標

平安文学に対して各自の新たな興味や問題意識を持つことができるようにする。具体的には、最低限、授業で取り上げたうちの二つの作品もしくはテーマについて、明確に説明し、自分の考えを交えて論じることができる。

## 授業方法

- ・原則として、1回につき1作品を取り上げながら、講義形式により、源氏物語以前の物語文学、日記文学、源氏物語、源氏物語以後という展開で進めていきます。
- ・毎回の授業後には授業内容についてのレスポンスカードの提出を課し（所要時間15～30分程度か）、その次の授業で適宜コメントをします。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 竹取物語：物語文学の始まり
- 第3回 伊勢物語：結末をどう読むか
- 第4回 大和物語：伊勢物語との差異
- 第5回 平中の物語：伊勢物語との差異
- 第6回 うつほ物語：物語前史を読む
- 第7回 落窪物語：現実主義の独自性
- 第8回 土佐日記：女性仮託の世界
- 第9回 蜻蛉日記：〈よむ女〉から〈書く女〉へ
- 第10回 枕草子：歴史背景と作品世界
- 第11回 源氏物語：〈女の物語〉へ
- 第12回 紫式部日記：男たちの源氏物語享受
- 第13回 更級日記：女による源氏物語享受の一例
- 第14回 源氏物語以後：その指向性
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

到達目標を測定する期末レポート（70%）及び毎回の授業後のレスポンスカード（30%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

古文を読むための基礎知識については各自においてしっかり学習しておくこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回プリントを用意する予定。  
参考書：必要に応じて授業中に紹介・説明します。

24512

## 古典文学 B

担当教員：平田 英夫

2 単位 後期

## サブタイトル

中世文学の世界

## 授業のねらい

本講義は、白河上皇の院政期から室町時代あたりまでに記された文学作品、或いは諸文献資料についての概要や、その輪郭をつかむための入門的な話をしていく。話題は、巡礼や靈験、聖地観といった神仏にまつわる宗教的問題や、和歌文学といった日本の美意識や伝統といった事柄、そして武者や戦乱にまつわる文学など多岐にわたるが、入門的な位置付けなので、できるだけ理解しやすい講義の仕方を心がけたい。

## 到達目標

- ・「中世」といった時代に記された文学・文献資料についての初歩的な理解を得ることができる。
- ・中世期の雑多で多様性のある文学・文化の形態・諸相を理解し、2年次以降のカリキュラムに進むに及んで、柔軟な思想や価値観を獲得できる。

## 授業方法

- ・授業は講義形式により、テーマ（各2～3回ごと）ごとに話を進めていく。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 中世の思想・宗教と文学(1)―浄土思想の展開を軸に
  - 第3回 中世の思想・宗教と文学(2)―『熊野観心十界図絵』から
  - 第4回 中世の思想・宗教と文学(3)―西行の『聞書集』を読む
  - 第5回 参詣曼荼羅から読む中世文学
  - 第6回 『曾我物語』を読む(1)―その成立と基盤をめぐって
  - 第7回 『曾我物語』を読む(2)―序文の記述をめぐって
  - 第8回 『曾我物語』を読む(3)―巻十に見る女人宗教者の旅
  - 第9回 和歌を学ぶ(1)―『百人一首』の作品から
  - 第10回 和歌を学ぶ(2)―『百人一首』の作品から
  - 第11回 和歌を学ぶ(3)―中世和歌の思想の展開
  - 第12回 和歌を学ぶ(4)―「狂言綺語観」をめぐって
  - 第13回 室町期の文学(1)―『俵藤太物語』を読んでみよう（前半）
  - 第14回 室町期の文学(2)―『俵藤太物語』を読んでみよう（後半）
  - 第15回 まとめ
- 以上は予定であり、多少の変更があり得る。

## 成績評価の方法

受講態度・授業参加状況 20%  
試験 80%

## 履修にあたっての注意

1回目のガイダンスにて詳細を話すので出席すること

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

プリントを使用する。



24531

## 近現代文学 A

担当教員：関谷 博

2 単位 前期

### サブタイトル

〈都市〉空間の文学

### 授業のねらい

近代はモノを作り続けなければならない社会である。新しいモノを作るために、まだ使えるモノをたえず壊し続けなければならない——そして、この大量生産と大量消費の無限運動を持続させるために、近代〈都市〉が誕生する。そのような〈都市〉空間に投げ込まれた人間には、一体どのような運命が待ち構えているのだろうか？それらの痕跡として小説テキストを読んでゆきたい。

### 到達目標

1. 作品を精密に読み解くことができるようになる。
2. 作品のそれぞれにふさわしい読み方が理解できるようになる。
3. 作品とその背景となった時代の間接関係を探る手立てが身につくようになる。

### 授業方法

講義形式。

その日扱うテキストは事前に必ず読み、各自の見解を用意しておくこと。それを前提にした上で講義するので、読まずに出席してもまったく授業についてゆけない。

プリント読解（予習）に小1時間、講義ノートの整理（復習）に30分程度要する。テストはコメントをつけて返却する。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 近代とはなにかー産業社会の成立。
- 第3回 近代における〈都市〉
- 第4回 日本の近代ーその政治的特質
- 第5回 泉鏡花「夜行巡査」を読む
- 第6回 樋口一葉「十三夜」を読む
- 第7回 田山花袋「少女病」を読む
- 第8回 国木田独歩「窮死」を読む
- 第9回 谷崎潤一郎「秘密」を読む
- 第10回 梶井基次郎「檸檬」を読む
- 第11回 横光利一「街の底」を読む
- 第12回 織田作之助「木の都」を読む
- 第13回 堀辰雄「水族館」を読む
- 第14回 三島由紀夫「橋づくし」を読む
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

試験～問題選択で達成課題2を、記述式問題の解答内容で達成課題1および3を測定し、それに基づく評価をおこなう(80%)、授業への参加状況(20%)

### 教科書

東郷克美・他 編『〈都市〉文学を読む』（鼎書房、2016、ISBN：9784907282288）

24541

## 近現代文学 B

担当教員：種田 和加子

2 単位 前期

### サブタイトル

◎明治期の文学を読む 10

### 授業のねらい

近代小説の時代の到来をメディアや文体の形成からみていくとともに、書生、女学生、妻、娼妓の存在がいかに描かれたかを主な作品を通じて考察し、徴兵制、教育制度などあらたにたちあがるシステムに人々はいかに対応してきたか、近代はいかなる価値観を形成してきたかを考えることを本講義の問題意識とする。

### 到達目標

明治文学を読むことを通して、現代に生きる我々の考え方を相対化することができる。

「近代」とは何をなしえたかについて、「文学」を通じて理解することができる。また、女性作家の翻訳、作品を通して男性中心的な文学史を相対化する。

### 授業方法

基本的に講義形式で行うが、授業中テキストを朗読することや、内容に関して質問、応答の関係を重視する。新しい作品に入るごとに、その作品の背景と問題点を確認する。配布プリントやテキストをあらかじめ読んで疑問点も明確にし、授業にのぞむ。作品を読む速度は個人によって違うが、予習に2-3時間、復習に1時間程度必要。

### 授業計画

- 第1回 前提講義 この授業で行うことの確認。近代化と文学との関係について。  
今後レポートを書くにあたって必要となる研究倫理について。
- 第2回 近代小説の成立について。「当世書生気質」「浮雲」の意義
- 第3回 言文一致文体の試み
- 第4回 「舞姫」森鷗外（明治23年「国民之友」）を読む
- 第5回 テキストの精読①
- 第6回 テキストの精読②
- 第7回 「藪の鶯」三宅花圃、明治21年を読む 鹿鳴館時代から反動へ、女学生と「女学」
- 第8回 テキストの精読①
- 第9回 テキストの精読②
- 第10回 清水清琴「こわれ指輪」を読む 「女学雑誌」明治24年
- 第11回 テキストの精読①
- 第12回 テキストの精読②
- 第13回 若松賤子「サラ・クルウ」（原「小公女」）を読む 「少年園」明治26~27年
- 第14回 同精読①および、「小公女」の翻訳の変遷
- 第15回 補足、まとめ

### 成績評価の方法

レポート 80パーセント、授業への取り組み方（質問や、応答など）20パーセント  
試験は2000字程度のレポートとし、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

事前に配布するテキストやプリントをよく読んで授業にのぞむこと。

### 教科書

森鷗外『舞姫 うたかたの記』（岩波文庫）

### 教科書・参考書に関する備考

文庫本で手に入るものは一括して注文する。その他はプリントで行う。補助的なプリントなど使用

### 参考書

平岩典子『煩悶青年と女学生の文学誌』（新曜社、2012）  
黒岩比沙子『明治のお嬢さま』（角川選書、2008）  
亀井秀雄『明治文学史』（岩波書店、2000）

24542

## 近現代文学 B

担当教員：種田 和加子

2 単位 後期

### サブタイトル

◎明治期の文学を読む 10

### 授業のねらい

近代小説の時代の到来をメディアや文体の形成からみていくとともに、書生、女学生、妻、娼妓の存在がいかに描かれたかを主な作品を通じて考察し、徴兵制、教育制度などあらたにたちあがるシステムに人々はいかに対応してきたか、近代はいかなる価値観を形成してきたかを考えることを本講義の問題意識とする。

### 到達目標

明治文学を読むことを通して、現代に生きる我々の考え方を相対化することができる。

「近代」とは何をなしえたかについて、「文学」を通じて理解することができる。

### 授業方法

基本的に講義形式で行うが、授業中テキストを朗読することや、内容に関して質問、応答の関係を重視する。新しい作品に入るごとに、その作品の背景と問題点を確認する。配布プリントやテキストをあらかじめ読んで疑問点も明確にし、授業にのぞむ。作品を読む速度は個人によって違うが、予習に2-3時間、復習に1時間程度必要。

### 授業計画

- 第1回 前提講義 この授業で行うことの確認。近代化と文学との関係について。  
今後レポートを書くにあたって必要となる研究倫理について。
- 第2回 近代小説の成立について。「当世書生氣質」「浮雲」の意義
- 第3回 言文一致文体の試み
- 第4回 翻訳文学：若松賤子「セイラ・クルー」の話（「少年園」）  
明治26年～27年
- 第5回 テキストの精読①
- 第6回 テキストの精読②、および、「小公女」の翻訳の変遷
- 第7回 「舞姫」森鷗外（明治23年「国民之友」）を読む
- 第8回 テキストの精読①
- 第9回 テキストの精読②
- 第10回 「藪の鶯」三宅花圃、明治21年 鹿鳴館時代から反動へ、女学生と「女学」
- 第11回 テキストの精読
- 第12回 日清戦争後の文学についての概観、悲惨小説、観念小説、深刻小説
- 第13回 樋口一葉「にぎりえ」（明治28年9月文芸倶楽部）①  
芸倶楽部）について
- 第14回 同精読②
- 第15回 補足、まとめ

### 成績評価の方法

レポート 80パーセント、授業への取り組み方（質問や、応答など）20パーセント  
試験は2000字程度のレポートとし、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

事前に配布するテキストやプリントをよく読んで授業にのぞむこと。

### 教科書

森鷗外『舞姫 うたかたの記』（岩波文庫）  
樋口一葉『にぎりえ たけくらべ』（新潮文庫）

### 教科書・参考書に関する備考

文庫本で手に入るものは一括して注文する。その他はプリントで行う。補助的なプリントなど使用

### 参考書

平岩典子『煩悶青年と女学生の文学誌』（新曜社、2012）  
黒岩比沙子『明治のお嬢さま』（角川選書、2008）  
亀井秀雄『明治文学史』（岩波書店、2000）

24551

## 近現代文学 C

担当教員：宮崎 靖士

2 単位 前期

### サブタイトル

太宰治と「批評」としての文学

### 授業のねらい

この講義では、昭和のはじめから戦後直後にかけての「日本」で活動した小説家である、太宰治（1909～1948）に注目し、そのテキストのうち、代表的なものをいくつかとりあげる。そして、それらを「批評」の文学という観点から分析し、その意義を理解することを目的とする。ここでいう「批評」とは、テキストが発表された当時における社会状況をふまえ、それに対して小説の表現を通じて何らかの問題提起を行うことである。太宰治の小説は従来、作者が自らの思いを赤裸々に作品化した「告白」の文学として理解されることが多かったが、この講義では、そのような理解の背景にある文学観を改めて見直すことまでを目指している。

### 到達目標

以下の2点を到達目標とする。

1. 太宰治のテキストを「批評」の文学として評価するための着眼点と方法を修得すること。
2. 講義で扱ったもの以外の文学テキストを、時代状況との関連において捉え、評価する作業をできるようになること。

### 授業方法

講義形式で行う。上記の目標に従い、以下の4つのテキストの検討を行っていく。

- ・『道化の華』（1935年発表）
- ・『走れメロス』（1940年）
- ・『津軽』（1944年）
- ・『人間失格』（1948年）

これらのテキストを各2～3回程度の講義で扱い、テキストの分析、及びその成果と同時代状況との関わりを解説していく。なお、その合間には、太宰治に関する従来理解や社会的な評価を確認するために、もしくはテキストの表現としての特徴を効果的に理解することを目的とし、太宰治のテキストを素材とした映像作品も参照する予定である。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスと、太宰治に関する基礎事項の解説
- 第2回 太宰治のテキストを分析する上での基本的な方法や知識について
- 第3回 『道化の華』の分析
- 第4回 『道化の華』の狙いについて
- 第5回 『走れメロス』の分析
- 第6回 『走れメロス』の狙いについて
- 第7回 これまでの講義内容のま確認、及び中間テスト
- 第8回 太宰治のテキストと、その映像化をめぐる問題
- 第9回 『津軽』の分析
- 第10回 『津軽』の狙いについて
- 第11回 『津軽』に関するまとめと補足
- 第12回 『人間失格』の分析
- 第13回 『人間失格』の狙いについて
- 第14回 『人間失格』に関するまとめと補足
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

学期末のレポート（45％）と、授業期間内に実施する中間テスト（35％）、及び授業時間内に作成する小レポート等を含む授業参加度（20％）の合計で行う。

### 履修にあたっての注意

座席指定を行う予定。また、授業中の私語、途中退出、携帯電

話の使用、遅刻等に対しては厳しく対応する予定なので、そのつもりで受講すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業展開に応じ、上記の太宰治の小説（『道化の華』、『走れメロス』、『津軽』、『人間失格』）を読み、授業にのぞむこと。それ以外の太宰治のテキストも、可能な限り読んでおけると授業の理解度を深められる。

購入を義務付ける図書はないが、上記の太宰治の小説テキストについては、何らかの方法で入手しておくのが望ましい。どこの出版社の作品集、文庫本でも構わない。

24562

## 日本文化 A

担当教員：水口 幹記

2 単位 後期

### サブタイトル

古代日本文化・文学の世界

### 授業のねらい

歴史書でもあり文学作品でもある『日本書紀』と『古事記』、各地方の地理や風俗が記されている『風土記』、仏教を中心とした説話集『日本霊異記』、日本最初の歌集『万葉集』、日本最古の漢詩文集『懷風藻』を中心対象とし、古代日本の代表的な文化・文学作品の基礎的な情報を学ぶとともに、それらの序文や冒頭部分など記事の一部をみなさんと一緒に読むことにより、古代文化・文学の「おもしろさ」や「難しさ」を自ら感じてもらいたいと思っています。その際、特に留意したいのは、東アジア世界との関係です。古代の日本文化・文学が東アジア文化・文学抜きでは語れないということも知ってもらいたいと思います。

### 到達目標

1. 古代の日本文化・文学の基礎知識を得ることができる。
2. 古代の文化・文学の「おもしろさ」「奥深さ」を感じることができる。
3. 異文化としての古代文化・文学を知ることができる。

### 授業方法

講義形式で行います。また、数回授業中にリアクションペーパーを記入してもらうこともあります。

授業前に各テーマに関する基礎知識を辞書や書物等で調べておくこと。

毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること（所要時間 30 分～60 分程度）。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 東アジア世界の中の古代日本(1)—文字の始まり～秦—
- 第3回 東アジア世界の中の古代日本(2)—漢～唐—
- 第4回 『日本書紀』とは
- 第5回 『日本書紀』の記事を読んでみよう
- 第6回 『古事記』とは
- 第7回 『古事記』の記事を読んでみよう
- 第8回 『風土記』とは—『風土記』の記事を読んでみよう
- 第9回 『日本霊異記』とは
- 第10回 『日本霊異記』の記事を読んでみよう
- 第11回 『万葉集』と『懷風藻』
- 第12回 『万葉集』の歌を読んでみよう
- 第13回 『懷風藻』の詩を読んでみよう
- 第14回 平安初期の文学—氏文・勅撰漢詩集・和歌・僧伝
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標 1・2 を測定する期末試験 80%。到達目標 3 を測定する授業への参加状況（リアクションペーパーの内容など）20%。ただし、2/3 以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。

### 履修にあたっての注意

各自高校時代に習った文学史を復習しておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布します。また、読むべき本なども授業において紹介します。

24571

## 日本文化 B

担当教員：菅本 康之

2 単位 前期

### サブタイトル

批評理論で読む「文化テキスト」

### 授業のねらい

本講義は、「文学批評理論」の基礎を学びながら「文化」の読解へと進む。各自が「文化」分析の理論を理解し、現代に日本の文化をアクチュアルに問い直す契機とする。

### 到達目標

1968年パリで起こった5月「革命」、そして日本を含む「世界」の「学生叛乱」以降、さらにより明瞭なかたちでは70年代後半以降の「批評理論」のめざましい発展によって「文学」研究は「文化研究」へと大きく変動しつつある。

一見むずかしい「批評理論」を、可能な限り易しく解説し、文化テキストを読解していくので、講義で取り上げる「批評理論」を習得し、自分なりに「文化」を分析することができる。

### 授業方法

レジュメとPowerPointを使った講義形式によって、「文学批評理論」を紹介し、解説していく。「ロシア・フォルマリズム」、「構造主義」、「精神分析批評」によって日本の現代文化を読み解く。

教科書による予習を求める。(週1～2時間をめやすとする。)

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
履修予定者は、必ず出席のこと。
- 第2回 漱石の憂鬱と「文学」 その1  
・「文学論 序」について
- 第3回 漱石の憂鬱と「文学」 その2  
・「英文学」と「漢文学」の落差
- 第4回 漱石の憂鬱と「文学」 その3  
・文学の一般的な「定義」から「文化」の定義へ
- 第5回 「ロシア・フォルマリズム」 その1  
・歴史の変遷
- 第6回 「ロシア・フォルマリズム」 その2  
・理論的特長
- 第7回 「ロシア・フォルマリズム」 その3  
・セルゲイ・エイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』の鑑賞、新海誠『君の名は』の批評。(素材内容に変更の可能性あり)
- 第8回 「構造主義」 その1  
・フェルディナン・ド・ソシュールの「言語理論」その1
- 第9回 「構造主義」 その2  
・フェルディナン・ド・ソシュールの「言語理論」その2
- 第10回 「構造主義」 その3  
・「物語の構造分析」から「文化」分析へ その2 (三島由紀夫『潮騒』、映画『潮騒』の比較、テキストの素材にへこう可能性あり)
- 第11回 「精神分析批評」 その1  
・ジグムント・フロイト「無意識」の理論、エディプス・コンプレックス。
- 第12回 「精神分析批評」 その2  
・日本文化の「精神分析」
- 第13回 精神分析批評 その3  
・フェミニスト・セラピー、「ジェンダー理論」
- 第14回 「精神分析批評」 その4  
・文化読解のプラクティス(萩尾望都『イグアナの娘』)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

試験(80%)、授業時の小レポート(10%)、授業参加状況(10%)。なお、出席は、授業回数数の3分の2が単位取得最低条件である。試験後、採点基準を掲示する。

### 履修にあたっての注意

「人文学」「批評」とは、自分の「日常」を根本から見直すことだから、学ぶ意欲のない学生の履修は認めない。指定された文献は、必ず精読してくること。(週1～2時間を目安とする。)

### 教科書

大橋洋一編『現代批評理論のすべて』(新書館、2006、ISBN: 4-403-25087-4)

テリー・イーグルトン『文学とは何か 上』(岩波文庫、2014、ISBN: 978-4-00-372042-4)

テリー・イーグルトン『文学とは何か 下』(岩波文庫、2014、ISBN: 978-4-00-372042-4)

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は適宜紹介する。



24581

## 日本文化 C

担当教員：諸岡 卓真

2 単位 前期

## サブタイトル

ミステリを読む

## 授業のねらい

現代の文学・文化的状況を考える上で見逃すことのできない勢力となっている「ミステリ」について考える。映画、マンガ、ゲームなど、小説以外のメディアとも深く関連しながら変容を続けてきたミステリを分析することは、最終的にはミステリジャンルのみならず、現在の文学・文化状況全体を把握するうえでも有用な視点を与えてくれるだろう。

## 到達目標

1. ミステリを中心としたサブカルチャー領域について理解を深める。
2. 基礎的な文学理論を理解し、作品分析の手法を身につけることができる。

## 授業方法

講義形式でミステリに関連するテーマについて解説を行う。受講前に、講義で取り上げられる作品を読んでおくこと。受講後には配付資料・自筆ノート等を確認しながら、作品の理解を進めること。

## 授業計画

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：ミステリの現在                   |
| 第2回  | ミステリの歴史とルール(1)：ミステリ誕生           |
| 第3回  | ミステリの歴史とルール(2)：英米黄金期～ジャンルの確立    |
| 第4回  | ミステリの歴史とルール(3)：江戸川乱歩の活動～戦後のミステリ |
| 第5回  | 現代ミステリの起点：綾辻行人『十角館の殺人』          |
| 第6回  | ミステリと語り＝騙り：綾辻行人『十角館の殺人』         |
| 第7回  | ミステリと日常：北村薫『空飛ぶ馬』               |
| 第8回  | ミステリと学校：相沢沙呼『午前零時のサンドリヨン』       |
| 第9回  | 間テキスト性の利用：テレビドラマ「古畑任三郎」         |
| 第10回 | 探偵の不可能性：テレビドラマ「古畑任三郎」           |
| 第11回 | 謎解きと超能力：京極夏彦『姑獲鳥の夏』             |
| 第12回 | ミステリと記号論：深水黎一郎『ジークフリートの剣』       |
| 第13回 | ミステリとインターネット：城平京『虚構推理』          |
| 第14回 | ミステリと電子テキスト                     |
| 第15回 | 総まとめ：ミステリの最前線                   |

## 成績評価の方法

到達目標を測定する期末のレポート(50%)、講義中の小レポート(30%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

説明の都合上、ミステリ作品の犯人やトリックに言及します。できるだけ作品を読んでから講義に臨んでください。なお、受講希望者が多数の場合は、初回講義参加者を対象として抽選を行うことがあります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：なし。必要な資料はプリントなどで対応する。

## 参考書

笠井潔『探偵小説論Ⅱ』(東京創元社、1998)  
押野武志・諸岡卓真『日本探偵小説を読む』(北海道大学出版会、2013)

24582

## 日本文化 C

担当教員：諸岡 卓真

2 単位 後期

## サブタイトル

ミステリを読む

## 授業のねらい

現代の文学・文化的状況を考える上で見逃すことのできない勢力となっている「ミステリ」について考える。映画、マンガ、ゲームなど、小説以外のメディアとも深く関連しながら変容を続けてきたミステリを分析することは、最終的にはミステリジャンルのみならず、現在の文学・文化状況全体を把握するうえでも有用な視点を与えてくれるだろう。

## 到達目標

1. ミステリを中心としたサブカルチャー領域について理解を深める。
2. 基礎的な文学理論を理解し、作品分析の手法を身につけることができる。

## 授業方法

講義形式でミステリに関連するテーマについて解説を行う。受講前に、講義で取り上げられる作品を読んでおくこと。受講後には配付資料・自筆ノート等を確認しながら、作品の理解を進めること。

## 授業計画

- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：ミステリの現在                   |
| 第2回  | ミステリの歴史とルール(1)：ミステリ誕生           |
| 第3回  | ミステリの歴史とルール(2)：英米黄金期～ジャンルの確立    |
| 第4回  | ミステリの歴史とルール(3)：江戸川乱歩の活動～戦後のミステリ |
| 第5回  | 現代ミステリの起点：綾辻行人『十角館の殺人』          |
| 第6回  | ミステリと語り＝騙り：綾辻行人『十角館の殺人』         |
| 第7回  | ミステリと日常：北村薫『空飛ぶ馬』               |
| 第8回  | ミステリと学校：相沢沙呼『午前零時のサンドリヨン』       |
| 第9回  | 間テキスト性の利用：テレビドラマ「古畑任三郎」         |
| 第10回 | 探偵の不可能性：テレビドラマ「古畑任三郎」           |
| 第11回 | 謎解きと超能力：京極夏彦『姑獲鳥の夏』             |
| 第12回 | ミステリと記号論：深水黎一郎『ジークフリートの剣』       |
| 第13回 | ミステリとインターネット：城平京『虚構推理』          |
| 第14回 | ミステリと電子テキスト                     |
| 第15回 | 総まとめ：ミステリの最前線                   |

## 成績評価の方法

到達目標を測定する期末のレポート(50%)、講義中の小レポート(30%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

説明の都合上、ミステリ作品の犯人やトリックに言及します。できるだけ作品を読んでから講義に臨んでください。なお、受講希望者が多数の場合は、初回講義参加者を対象として抽選を行うことがあります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：なし。必要な資料はプリントなどで対応する。

## 参考書

笠井潔『探偵小説論Ⅱ』(東京創元社、1998)  
押野武志・諸岡卓真『日本探偵小説を読む』(北海道大学出版会、2013)

24611

## 漢文学 a

担当教員：名畑 嘉則

2 単位 前期

### サブタイトル

「漢文」へのアプローチ

### 授業のねらい

将来、漢文資料（日本漢文を含む）を扱って研究をしようと思う人、あるいは「国語教育」に携わりたいと希望する人を主たる対象として、漢文を「外国語」としてとらえた上で、文法の知識や、語句の意味の調べ方など、その理解のための基本となる初歩的な知識と技能を身につけることを目的とする。

### 到達目標

1. 中国語文法文法の基礎的知識を身につけ、それを応用して複雑な単文や複文の構造を理解することができる。
2. 辞書等の工具書や Web ツール等の利用法を身につけ、それらを活用してある程度の長さの物語文を自力で読解することができる。

### 授業方法

講義形式で行う。前半（第7回まで）は基礎的な文法事項の解説と練習問題、後半（第8回以降）は文法知識を文構造の把握や文章解釈に応用するやり方、工具書・Web ツールの使用法等の訓練に当てる。

毎回の授業では、受講者に文法事項等に関する事前・事後課題（所要時間 45～90 分程度）の提出を課する。

最終段階のレポートでは、受講者は各自、授業で学んだ知識をもとに、500～700 字程度の「白文」（物語文）の読解に取り組む。

毎回の課題については、事後の授業内で口頭で解説し、解説資料を配布する。期末レポート課題については、採点后に答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス—漢文のいろいろな形・「工具書」のいろいろ
- 第2回 文の構造—一文の構成要素と基本構造
- 第3回 述語と文の種類(1)—叙述文
- 第4回 述語と文の種類(2)—描写文・判断文
- 第5回 様々な文型(1)—存現文・使役文・受身文
- 第6回 様々な文型(2)—疑問文・反語文・比較文
- 第7回 複文の構成—様々な複文の構造とさまざまな関連語句
- 第8回 故事成語で知る文の構造—文法のまとめ
- 第9回 「復文」による文構造把握練習(1)—故事成語：やや複雑な単文・複文の構造把握
- 第10回 「復文」による文構造把握練習(2)—「民法」旧条文の漢文訳
- 第11回 漢文を読んでみよう(1)—150 字程度の短文を読んでみる（寓話）
- 第12回 漢文を読んでみよう(2)—150 字程度の短文を読んでみる（史伝）
- 第13回 漢文を読んでみよう(3)—150 字程度の短文を読んでみる（志怪）
- 第14回 漢文を読んでみよう(4)—500 字程度の長文に挑戦（前）
- 第15回 漢文を読んでみよう(5)—500 字程度の長文に挑戦（後）

### 成績評価の方法

毎回の授業で課する小課題—主に到達目標 1 を測定—（30%）、および、学期末に行うテスト形式のレポート—主に到達目標 2 を測定—（70%）により評価する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は、独自に作成したプリントを使用。授業時に（もしくはポータルサイト等を通じて PDF 形式で）配布する。

参考書については、必要に応じて随時指示する。他に、各自漢和辞典を 1 冊用意すること。（手持ちの電子辞書に漢和辞典が搭載されている場合はそれで可。）持っていない場合は購入することが望ましい。新規購入については文法事項の解説にすぐれる「三省堂・全訳漢辞海」を推薦する。この辞書はスマホアプリ版も発売されており携帯にも便利である。

24621

## 漢文学 b

担当教員：名畑 嘉則

2 単位 後期

### サブタイトル

「漢文」の世界に触れる

### 授業のねらい

多くの年代・ジャンル・形態にわたる漢文テキストを読解することを通じて、漢文の世界の広がりを実感するとともに、各ジャンルの作品の特徴を学び、合せて文法事項や文献調査法等についての知識の一層の定着を図ることを目的とする。

### 到達目標

1. 史書・志怪・伝奇等の物語文、および諸子・筆記・考証等の論説文について、それぞれの特性を理解し、その知識を文脈理解に応用することができる。
2. 索引・目録等の工具書やインターネット資源を利用した漢籍文献調査の方法を習得する。
3. 習得した漢文法の知識と文献調査の技法を駆使して、ある程度の長さの論説文（考証の文）を自力で解読し、論旨を把握することができる。

### 授業方法

基本的には講義形式で行う。毎回の授業で取り上げる文章に関しては、前もって語句調査等の事前学習課題（所要時間45～60分程度）用紙を配布し、受講者はそれに記入して次回の授業時に提出する。授業は、受講者がクラス全体でのテキスト読解作業に参加する形で進め、併せて作品の背景やジャンルの特徴等についても考察を加える。授業の中では、受講者に対して文章の読解等に関する意見の提出を随時求める。文章読解作業においてはグループワークを取り入れる場合もある。

最終段階のレポートでは、授業を通じて身につけた読解力や文献調査法の知識などを駆使して、400～600字程度の分量の論説文の解読に取り組む。

なお、毎回の課題については、事後の授業内で口頭で解説し、解説資料を配布する。期末レポート課題については、採点后に答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス—「史」の起源（「卜辞」から『春秋』へ）
- 第2回 「史」の伝統(1)—「伝」の文章を読んでみる(1)（『史記』列伝）
- 第3回 「史」の伝統(2)—「伝」の文章を読んでみる(2)（『史記』以降の史書から）
- 第4回 「史」の展開(1)—「志怪」の文章を読んでみる(1)（『捜神記』の奇妙な話）
- 第5回 「史」の展開(2)—「志怪」の文章を読んでみる(2)（『捜神記』の化物話）
- 第6回 「史」の展開(3)—「志怪」の文章を読んでみる(3)（六朝の志怪）
- 第7回 「史」の展開(4)—「志怪」の文章を読んでみる(4)（唐宋の志怪と「伝奇」）
- 第8回 「論」の文章(1)—「諸子」の文章を読んでみる
- 第9回 「論」の文章(2)—「論」の文章を読んでみる
- 第10回 「論」の文章(3)—「筆記」の文章を読んでみる
- 第11回 総合的文章(1)—総合的な文章を読んでみる(1)（引用記事の調査）
- 第12回 総合的文章(2)—総合的な文章を読んでみる(2)（注釈・考証の読解）
- 第13回 総合的文章(3)—総合的な文章を読んでみる(3)（百科全書的資料）
- 第14回 まとめ(1)—工具書利用法のおさらい
- 第15回 まとめ(2)—インターネットを利用した文献調査法のおさらい

### 成績評価の方法

毎回の授業で提出する小課題—主に到達目標1・2を測定する—（30%）、および、学期末に行うテスト形式のレポート—主に到達目標3を測定する—（70%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

「漢文学-a」を修得済みであるか、もしくは漢文法や中国語文法の基礎をある程度身に付けた上で履修することが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は、独自に作成したプリントを使用。授業時に（もしくはポータルサイトの連絡機能等を通じてPDF形式で）配布する。

参考書については、授業時に随時指示する。他に、各自漢和辞典を1冊用意すること。（手持ちの電子辞書に漢和辞典が搭載されている場合はそれで可。）持っていない人は購入することが望ましい。新規購入については文法事項の解説にすぐれる「三省堂・全訳漢辞海」を推薦する。この辞書はスマホアプリ版も発売されており、携帯にも便利である。

参考となるWebサイトについては、各サイトの利用法の解説を含めて「利用ガイド」を配布する。

23361

## 日本語表現法 A-a

担当教員：山本 貴昭

2 単位 前期

### サブタイトル

文章を作成するための基礎的能力の育成

### 授業のねらい

この授業では、文章に関する知識や適切な文章の作成方法を学びます。それらを用いて、自らの文章作成能力を高めたり、表現教育のための知識を蓄えたりすることを目的とします。教職課程にある皆さんは、レポートを書くのはもちろん、自分で表現の授業を構想することもあると考えます。その際に、この授業で学んだ知識が役立つと考えます。

### 到達目標

1. 文章の多様性を知り、それぞれの特徴に応じた適切な文章を作ることができる。
2. 正確な構造の文で構築された文章を作ることができる。
3. 文章に関する様々な知識を蓄え、それを正確に説明することができる。

### 授業方法

授業では、文章作成のための重要な概念を講義形式で説明します。授業の残り時間や自宅での時間を用いて、それを実践(文章作成)させます(所要時間 30~60 分程度)。作成した文章の提出を課します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表現の基礎知識(1): 文体
- 第3回 表現の基礎知識(2): 正確な文の構造
- 第4回 表現の基礎知識(3): 日本語の表記法
- 第5回 表現の基礎知識(4): 句切りの符号
- 第6回 決められた書式を守る: 履歴書の作成
- 第7回 正確な敬語の運用(1): 敬語の5分類
- 第8回 正確な敬語の運用(2): 敬語に関わる諸問題
- 第9回 儀礼的な文章の作成: はがきの書き方
- 第10回 多彩な表現に触れる: レトリック
- 第11回 分かりやすい文章の作成(1): 論理の飛躍
- 第12回 分かりやすい文章の作成(2): 結論の位置と文章の展開
- 第13回 相手に説明する文章の作成(1): 自己推薦書の構想
- 第14回 相手に説明する文章の作成(2): 自己推薦書の作成
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

授業への参加状況(20%)、課題(40%)、試験(40%)によって評価します。

### 履修にあたっての注意

課題の提出は厳守する態度で参加してください。文章を書く作業が中心となるので、必要に応じて、辞書・電子辞書を各自用意しておくことを勧めます。国語科教免履修者専用の科目です。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書: なし。特別に教科書は用意しません。毎回テーマに併せてプリントを配布します。  
参考書: 必要に応じて、授業中に紹介します。

23371

## 日本語表現法 A-b

担当教員：山本 貴昭

2 単位 後期

### サブタイトル

文章を論理的に展開する能力の育成

### 授業のねらい

この授業では、論述や指導案といった、複雑で大規模な文章を作成するトレーニングを主に行います。自分の意見を、相手にわかりやすく伝えるための技法を学びます。また、表現教育のための知識を蓄えることも目的とします。教職課程にある皆さんは、レポートを書くのはもちろん、自分で表現の授業を構想することもあると考えます。その際に、この授業で学んだ知識が役立つと考えます。

### 到達目標

1. 文章の多様性を知り、それぞれの特徴に応じた適切な文章を作ることができる。
2. 自分の意見を論理的に組み立て、それを文章として表現することができる。
3. 表現に関する授業を企画し、それを計画書として示すことが出来る。

### 授業方法

授業では、文章作成のための重要な概念を講義形式で説明します。授業の残り時間や自宅での時間を用いて、それを実践(文章作成)させます(所要時間 60 分程度)。作成した文章の提出を課します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 整った文章(1): パラグラフ
- 第3回 整った文章(2): 文章の展開
- 第4回 整った文章(3): 接続表現
- 第5回 情報を活用して文章を作成する(1): 資料の探し方
- 第6回 情報を活用して文章を作成する(2): 引用の示し方
- 第7回 自分の意見を文章で示す(1): 論述の基礎知識
- 第8回 自分の意見を文章で示す(2): 説得力を高める述べ方
- 第9回 自分の意見を文章で示す(3): 論述作成
- 第10回 相手に配慮した表現を用いる: 手紙の書き方
- 第11回 マナーを守って文章を作成する: メールの書き方
- 第12回 日本語の揺れ: ら抜き言葉、れ足す言葉
- 第13回 指導案の作成と発表(1) (1時間につき数グループが担当)
- 第14回 指導案の作成と発表(2) (1時間につき数グループが担当)
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

授業への取り組み方(20%)、課題(40%)、試験(40%)によって評価します。

### 履修にあたっての注意

課題の提出は厳守する態度で参加してください。文章を書く作業が中心となるので、必要に応じて、辞書・電子辞書を各自用意しておくことを勧めます。また、基礎的な事は修得済みという前提で授業を展開するので、日本語表現法 A-a と併せて履修することを勧めます。国語科教免履修者専用の科目です。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書: なし。特別に教科書は用意しません。毎回テーマに併せてプリントを配布します。  
参考書: 必要に応じて、授業中に説明します。



23381

## 日本語表現法 B-a

担当教員：井上 貴翔

2 単位 前期

## サブタイトル

文章読解からレポート作成の基本へ

## 授業のねらい

大学生には研究や調査の成果をまとめ、レポートや論文として、あるいは口頭で発表することが求められる。本講義は、主に日本語・日本文学科専攻者に対して、その基本的な力を養うことを目標とする。具体的には、日本近現代の文化や作品に関する文章を主な題材とし、論理的な文章を的確に読解する力(読解力)、相手の考えを的確にまとめる力(要約力)、それに対する自らの考えを適切に表現する力(論理的思考力、構成力、論述力)を身につけていく。また同時に、文化や作品を論じるための手法などについても紹介する。

## 到達目標

1. 論理的な文章の読み書きができる
2. 文化や作品を論じるための基本的な手法を理解し、身につける

## 授業方法

講義形式で行う。ただし講義内容毎に演習課題を課し、内容の定着を図る。

## 授業計画

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス／講義の目的と履修上の注意／日本語表記のルール          |
| 第2回  | 卒業研究に向けて／レポート課題①の作成                   |
| 第3回  | レポート作成の基本(1)：レポートの基本的な作成手順／レポート課題①の講評 |
| 第4回  | 文章読解の基本(1)：文章表現への注目                   |
| 第5回  | 文章読解の基本(2)：文章読解演習                     |
| 第6回  | 要約の方法(1)：要約の基本                        |
| 第7回  | 要約の方法(2)：要約課題演習                       |
| 第8回  | 文化や作品の読み方(1)：形式や表現への注目                |
| 第9回  | 引用・要約の提示方法／注・参考文献の示し方                 |
| 第10回 | 事実と意見／感情論と論理的文章                       |
| 第11回 | レポート作成の基本(2)：先行研究を踏まえたレポートの作成手順       |
| 第12回 | レポート作成の基本(3)：レポート課題②の作成               |
| 第13回 | 文化や作品の読み方(2)：メディア間の差異                 |
| 第14回 | レポート課題②の講評                            |
| 第15回 | 全体のまとめ                                |

## 成績評価の方法

演習課題(50%)と学期末レポート(50%)により評価する。また出席回数が、全授業回数の2/3に満たないものは不可とする。

## 履修にあたっての注意

実際に文章を読み書きする時間、課題を行う時間を設けるため、講義を聴くだけでなく、積極的に講義に参加し、全ての課題に取り組むこと。また本講義を履修する学生は、後期に開講する「日本語表現法 B-b」もあわせて履修することが望ましい。

## 教科書

なし

23391

## 日本語表現法 B-b

担当教員：井上 貴翔

2 単位 後期

## サブタイトル

研究テーマの設定から口頭発表へ

## 授業のねらい

大学生には研究や調査の成果をまとめ、レポートや論文として、あるいは口頭で発表することが求められる。本講義は「日本語表現法 B-a」の内容を踏まえ、より学術的な資料を読んだうえで、発表する力を養うことを目標とする。具体的には、自らの考えを研究テーマへとまとめていく方法、学術的な先行研究を調査・収集する力、それを適切に要約し紹介する力、以上を基に自分の考えをまとめ発表する力を、主に口頭発表の準備および実践を通して身につけていく。

## 到達目標

1. 学術的な資料を調査し、的確に要約することができる。
2. 上記を基に自らの考えを組み立てることができ、それをレジュメ化し口頭で発表できる。

## 授業方法

講義形式で行う。ただし講義内容毎に演習課題を課し、内容の定着を図る。

## 授業計画

- |      |                           |
|------|---------------------------|
| 第1回  | ガイダンス／講義の目的と履修上の注意        |
| 第2回  | 要約の基本から応用まで               |
| 第3回  | レポート作成の基本から応用まで           |
| 第4回  | 文化や作品の読み方(1)：歴史的な文脈を踏まえて  |
| 第5回  | 研究テーマの設定(問いとテーマおよびその絞り込み) |
| 第6回  | 学術的資料の種類とその特徴             |
| 第7回  | 学術的資料の検索／書誌情報の示し方         |
| 第8回  | 口頭発表の方法と注意点／口頭発表の例示       |
| 第9回  | 文化や作品の読み方(2)：現代の日本社会をめぐって |
| 第10回 | 口頭発表(1)                   |
| 第11回 | 口頭発表(2)                   |
| 第12回 | 口頭発表(3)                   |
| 第13回 | 口頭発表(4)                   |
| 第14回 | 口頭発表(5)                   |
| 第15回 | 全体のまとめ                    |

## 成績評価の方法

複数の演習課題(30%)と口頭発表(40%)と学期末レポート(30%)により評価する。また出席回数が、全授業回数の2/3に満たないものは不可とする。

## 履修にあたっての注意

「日本語表現法 B-a」と同様、実際に文章を読み書きする時間や課題を行う時間を設けるため、講義を聞くだけでなく、積極的に授業に参加し、全ての課題に取り組むこと。また本講義を履修する学生は、前期に開講する「日本語表現法 B-a」を履修していることが望ましい。

## 教科書

なし

24631

## 日本語学概論 a

担当教員：吉見 孝夫

2 単位 前期

### サブタイトル

日本語を考える方法

### 授業のねらい

日本語に関わるさまざまな問題を考える場合、主観的な印象論では説得力をもたない。考えるためには知識と方法への理解が必要である。この授業は、音声・音韻、語彙・意味、文字・表記、方言に関する基本的な知識、方法の習得を目的とする。

### 到達目標

1. 音声学・音韻論、語彙論・意味論、文字論、方言学に関する基本的な概念を理解できる。
2. 音声学・音韻論、語彙論・意味論、文字論、方言学に関する方法を理解し、応用することができる。

### 授業方法

原則として講義形式で行うが、1、2回調査レポートを課す。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 言語研究
- 第3回 音声学
- 第4回 音節・モーラ
- 第5回 音韻論
- 第6回 アクセント
- 第7回 漢字
- 第8回 仮名
- 第9回 現代の表記法
- 第10回 語彙
- 第11回 語種
- 第12回 意味
- 第13回 方言
- 第14回 方言研究の方法
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験(60%)、調査レポート(20%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

課題提出は必須。提出のない場合、単位は認定されない。

### 教科書

月本雅幸『日本語概説』(放送大学教育振興会、2015、ISBN: 9784595315411)

24641

## 日本語学概論 b

担当教員：吉見 孝夫

2 単位 後期

### サブタイトル

日本語はどのように移り変わってきたか

### 授業のねらい

私たちが日常使っている日本語は長い時間を経てここに至った歴史的産物である。だから現代の日本語の問題を考える場合、日本語史の知見を得ることによって、一層深い考察が可能となる。例えばいわゆる「ら抜き言葉」、あるいは仮名遣いをどうするかといった問題。自己の感情・感覚に頼って述べ立てるならば説得力を持たない。このとき、日本語がどう変化してきたのかを理解したならば、客観的、分析的な論を展開することができる。この段階にまで到達するのは難しいが、この授業は、日本語の諸問題を自分の頭で考える手がかりの一つとなることをめざす。

### 到達目標

1. 日本語がどのように変化してきたかを概括的に説明することができる。
2. 日本語史の方法、専門用語を理解することができる。

### 授業方法

基本的に講義形式で行うが、1、2回調査レポートを課す。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 言語の変化
- 第3回 時代区分
- 第4回 奈良時代以前の日本語(1)
- 第5回 奈良時代以前の日本語(2)
- 第6回 奈良時代以前の日本語(3)
- 第7回 平安時代の日本語(1)
- 第8回 平安時代の日本語(2)
- 第9回 鎌倉時代の日本語(1)
- 第10回 鎌倉時代の日本語(2)
- 第11回 室町時代の日本語(1)
- 第12回 室町時代の日本語(2)
- 第13回 江戸時代の日本語(1)
- 第14回 江戸時代の日本語(2)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験(60%)、調査レポート(20%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

日本史、古典文法を復習しておくこと。  
課題提出は必須。提出のない場合、単位は認定されない。

### 教科書

なし

### 参考書

- 沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』(ベレ出版、2010、ISBN: 9784860642556)
- 沖森卓也『日本語史概説』(朝倉書店、2010、ISBN: 9784254515220)
- 木田章義『国語史を学ぶ人のために』(世界思想社、2013、ISBN: 9784790715962)
- 大木一夫『ガイドブック日本語史』(ひつじ書房、2013、ISBN: 9784894766150)
- 今野真二『日本語の歴史』(河出書房新社、2015、ISBN: 9784309762371)
- 沖森卓也『日本語全史』(筑摩書房、2017、ISBN: 9784480069573)



24651

## 日本文学概論 a

担当教員：水口 幹記

2 単位 前期

## サブタイトル

文学生成の場

## 授業のねらい

本授業では、前近代に登場したいわゆる古典文学の作品を対象とします。ただし、単純に文学史をなぞることはせず、文学作品（説話・歌など）が生まれた背景や生成過程を、歴史や中国の文学作品との関わりなどを視野に入れて述べていきます。また、文学作品を支える工具類（類書や目録）にも注目し、その編纂過程や作品との関連についても述べ、広く「古典文学」について考えてみたいと思います。

## 到達目標

1. 「文学」とは何かを考えるきっかけを得ることができる。
2. 幅広い知識が身につく。
3. 日本文学が東アジア世界の中の「文学」であることを知ることができる。

## 授業方法

講義形式で行います。また、数回授業中にリアクションペーパーを記入してもらうこともあります。レポートについては、朱を入れ訂正後に返却致します。

毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること（所要時間 30 分～60 分程度）。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 紙以外に書く(1)―『論語』木簡から積奠詩へ
- 第3回 紙以外に書く(2)―歌木簡をめぐって
- 第4回 政治と文学の関係―柿本人麻呂の歌
- 第5回 類書の編纂(1)―類書の歴史
- 第6回 類書の編纂(2)―日本初の類書『秘府略』
- 第7回 目録の編纂(1)―四部分類の成立
- 第8回 目録の編纂(2)―『日本国見在書目録』
- 第9回 漢籍の影響(1)―『日本書紀』所載崇仏論争をめぐって
- 第10回 漢籍の影響(2)―白居易
- 第11回 漢籍の影響(3)―白蛇伝
- 第12回 日本紀竟宴和歌の世界―生みだされる神話
- 第13回 説話の形成―『日本霊異記』下巻第十九縁を例に
- 第14回 縁起の形成―『大雲寺縁起』を例に
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

最終レポート 80%。授業への参加状況 20%。

## 履修にあたっての注意

2/3 以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。くれぐれも注意してください。

## 教科書

なし

24661

## 日本文学概論 b

担当教員：関谷 博

2 単位 後期

## サブタイトル

「近世」から「近代」へ

## 授業のねらい

近代化のなかで「文学」はいかに位置づけられ変容したかを考える。

## 到達目標

1. 近世～近代において、文学の概念はどのような質的変遷を経験したかを知る。
2. 近代の日本文学の流れを展望したうえで、特定の個別の文学作品や文学的事象について、その意義や位置づけに関する自分の考えを述べるができる。

## 授業方法

講義形式。あらかじめ配布されたプリントの指定箇所をよく読んでおくこと。

プリント読解（予習）に小1時間、講義ノートの整理（復習）に30分程度要する。

テストはコメントをつけて返却する。

## 授業計画

- 第1回 文学概念について。
- 第2回 江戸時代とはなにか(1)
- 第3回 江戸時代とはなにか(2)
- 第4回 近代化とナショナリズム(1)―国語という考え方―
- 第5回 近代化とナショナリズム(2)―逍遙と二葉亭―
- 第6回 近代化とナショナリズム(3)―二葉亭と露伴―
- 第7回 知の制度化―人格概念について(1)
- 第8回 知の制度化―人格概念について(2)
- 第9回 西欧と日本―永井荷風(1)
- 第10回 西欧と日本―永井荷風(2)
- 第11回 西欧と日本―高村光太郎(1)
- 第12回 西欧と日本―高村光太郎(2)
- 第13回 西欧と日本―金子光晴(1)
- 第14回 西欧と日本―金子光晴(2)
- 第15回 現代と文学―総括―

## 成績評価の方法

試験～2題の設問のうち第1問で達成目標1を、第2問で達成目標2を測定し、それに基づき評価する（80%）、授業への参加状況（20%）

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要に応じてプリントを配布します。

23401

## 古文読解

担当教員：小山 清文

2単位 前期

### サブタイトル

古典文法を基礎から学び直す

### 授業のねらい

古典文学に興味はありながら、文語文法を十分に理解していないために、現代語訳に頼りきり、自力で古文そのものを読解することが苦手な人、もう一度高校の古典（文法）の授業を基礎から受け直したい、復習したいという人のための、古文読解上の基礎力を養うことを目的とする補習的な授業です。

### 到達目標

用言の活用や助動詞に関する基礎的知識をしっかりと身につけることができる。

### 授業方法

- ・プリントの例題や例文を用いて、用言や助動詞の基礎的事項を中心に学び直していきます。
  - ・基礎的な文法事項や宿題として課す練習問題等（30～60分程度）の解説を中心に授業を進めていきます。
- 時折実施する小テスト等の解答についても授業やプリント等を通して解説します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび動詞の活用について（四段活用と二段活用）
- 第2回 動詞の活用の学習(1)：活用形と活用の種類の見分け方
- 第3回 動詞の活用の学習(2)：活用表をつくる
- 第4回 形容詞・形容動詞の活用と係り結びの学習
- 第5回 用言の活用の復習および小テスト
- 第6回 助動詞の学習(1)：過去の助動詞
- 第7回 助動詞の学習(2)：完了の助動詞
- 第8回 助動詞の学習(3)：過去・完了の助動詞の復習
- 第9回 助動詞の学習(4)：推量の助動詞（む・らむ・けむ）
- 第10回 助動詞の学習(5)：推量の助動詞（べし）
- 第11回 助動詞の学習(6)：過去・完了・推量の助動詞の復習および小テスト
- 第12回 助動詞の学習(7)：その他の助動詞
- 第13回 助動詞および助詞の学習：さまざまな表現法
- 第14回 敬語法の学習(1)：尊敬語・謙譲語・丁寧語
- 第15回 敬語法の学習(2)：特殊な用法

### 成績評価の方法

理解度の測定と復習をかねて行なう複数回の小テスト（30%）、到達目標を測定する期末試験（70%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

基本的な文語文法の知識について理解している人は受講する必要はありません。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意します。

20901

## 書道 I

担当教員：押上 万希子

2 単位 通年

### サブタイトル

「かな」文字の美を求めて

### 授業のねらい

「書は人なり」という言葉を、あなたはどうか受けとめますか。近年の情報化社会、様々な機器の普及にともない、文字を用いた意志の伝達の方法も、大変革の時代を迎えています。千年来、文字を「書く」ということには、その人の人となりや写し出ると、多くの人が留意してきたことも、消えてゆくのでしょうか。書道 I では、日本の美しい文化の原点ともいえるわが国固有の「かな」文字を学習します。先人達が書芸術にまで高めていったその心映えを、今に生きる私達の目で、手で確認していきます。

### 到達目標

かな文字を正しく美しく「書く」技術を身につけることができる。

### 授業方法

例年教室いっぱいの方が受講をしています。教室の広さから完全な机間巡視や立ち歩いているの添削をすることが難しいため、「講義の後半に課題の説明、練習、提出」→「次講義までに教員による添削、評価」→「次講義の前半に添削を受けて清書」というのを基本的な流れとします。

清書した作品は、評価後、掲示し保管。第 30 回時に返却します。

事前事後には、配布したプリントの読み込みをすることで、変体仮名と連綿の理解に努めてください。

### 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス(1)
- 第 2 回 基本的な筆使い
- 第 3 回 かなへの変遷 (いろは歌) (1): い～を
- 第 4 回 かなへの変遷 (いろは歌) (2): わ～う
- 第 5 回 かなへの変遷 (いろは歌) (3): ん～あ
- 第 6 回 かなへの変遷 (いろは歌) (4): さ～す・ん
- 第 7 回 連綿の練習(1): ひらがなのみ
- 第 8 回 変体仮名の単体(1)
- 第 9 回 変体仮名の単体(2)
- 第 10 回 変体仮名の単体(3)
- 第 11 回 変体仮名の単体(4)
- 第 12 回 連綿の練習(2): 変体仮名を含む
- 第 13 回 短冊の書式(1): 古筆から学ぶ、練習
- 第 14 回 短冊の書式(2): 清書
- 第 15 回 古筆の臨書・蓬萊切
- 第 16 回 古筆の臨書・高野切第三種①
- 第 17 回 古筆の臨書・高野切第三種②原寸臨書することから墨継ぎを学ぶ
- 第 18 回 古筆の臨書・粘葉本和漢朗詠集
- 第 19 回 古筆の臨書・関戸本古今和歌集①
- 第 20 回 古筆の臨書・関戸本古今和歌集②原寸臨書することから行間を学ぶ
- 第 21 回 古筆の臨書・高野切第一種
- 第 22 回 古筆の臨書・伊勢集
- 第 23 回 古筆の臨書・中務集
- 第 24 回 古筆の臨書・十五番歌合せ
- 第 25 回 古筆の臨書・元永本古今和歌集
- 第 26 回 実用の書・年賀状①
- 第 27 回 実用の書・年賀状②
- 第 28 回 古筆の臨書・三色紙①練習
- 第 29 回 古筆の臨書・三色紙②清書
- 第 30 回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方 (20%) と課題提出 (30%) と提出課題の技術や表現 (50%) によって評価する。

教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、前期で 4 回以上の欠席は評価を不認定とします。また全期で 7 回以上の欠席も評価を不認定とします。

### 履修にあたっての注意

初回時に出席のこと。定員 40 名のため、受講者が多数の場合は抽選をします。

毎回の課題提出があります。真剣に取り組む学生の受講を望みます。

各自で用意してもらう道具について、初回時に説明をします。

### 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。随時プリントを配布します。

25261

## 書道史 a

担当教員：矢野 敏文

2 単位 前期

### サブタイトル

中国の書（文字資料）の書体や書美の変遷を探る

### 授業のねらい

中国の文字資料、および書について興味、関心を持ち、書体や書風の変遷、時代背景、人物、書法等を理解し、それぞれの価値を総合的に評価できることをめざします。書道史の専門性を高めるとともに、初めて書道にふれる人でも習得できる授業方法をします。

### 到達目標

1. 資料を読み、漢字の書体・書風の変遷、時代背景、人物、書法等の内容を理解できる。
2. 筆ペンなどの試書経験を通して、書法や書美の特徴を感受できる。
3. 理解、感受したことの価値判断を短文にまとめることができる。

### 授業方法

講義形式により、配布資料の説明をする。適宜、スライド、ビデオ等の鑑賞資料を用いる。毎時間、理解度の確認や感想を小レポートで提出（必須）する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス。殷時代の甲骨文字について。
- 第2回 甲骨文字の研究史、内容、書風等について。
- 第3回 甲骨文字と金文について。
- 第4回 秦時代の文字統一、石刻、竹簡について。
- 第5回 秦時代の文字統一、石刻、竹簡について。
- 第6回 前漢時代の木簡について。後漢時代の石碑と木簡について。
- 第7回 後漢時代の石碑と木簡について。
- 第8回 三国時代、晋時代の書跡について。東晋時代の書について。
- 第9回 東晋時代（王羲之ほか）の書について。
- 第10回 北魏時代の書について。
- 第11回 隋・唐時代の書について。
- 第12回 隋・唐時代の書について。
- 第13回 中唐時代について。
- 第14回 宋・元時代の書について。
- 第15回 明・清時代の書について。

### 成績評価の方法

到達目標1、2、3に対応して毎授業の小レポート（70%）、予習復習の課題（20%）、授業への取り組み状況（10%）

### 履修にあたっての注意

特に、予習に努めること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業資料を配付する。

### 参考書

随時紹介する

25271

## 書道史 b

担当教員：矢野 敏文

2 単位 後期

### サブタイトル

日本の書の歴史における、漢字の受容と日本の書美の成立を探る

### 授業のねらい

中国から漢字、および漢字の書の受容、また仮名成立の歴史等に興味、関心を持ち、文字資料や書の持つ時代背景、人物、書流等を理解し、それぞれの価値を総合的に評価できるようになる。書道の専門性を高めるとともに、初めて書道にふれる人でも習得可能な授業方法をします。

### 到達目標

1. 資料を読み、漢字の受容、仮名の成立、書流や書美等の内容を理解できる。
2. 筆ペンなどの試書を通して、漢字や仮名の書美の特徴を感受できる。
3. 理解、感受したことの価値判断を短文にまとめることができる。

### 授業方法

講義形式により、配布資料の説明をする。適宜、スライド、ビデオ等の鑑賞資料を用いる。毎時間、理解度の確認や感想を小レポート（必須）で提出する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス。漢字の伝来、大和時代について。
- 第2回 大和時代の文字資料について。
- 第3回 奈良時代の書（聖武天皇、光明皇后、写経）について。
- 第4回 奈良時代の書（聖武天皇、光明皇后、写経）について。
- 第5回 平安時代初期の書（三筆等）について。
- 第6回 平安時代初期の書（三筆等）について。平安時代中期の書（三蹟、仮名等）について。
- 第7回 平安時代中期の書（三蹟、仮名等）について。平安時代後期の書（仮名と料紙の美）について。
- 第8回 平安時代後期の書（仮名と料紙の美）について。
- 第9回 鎌倉時代の書（墨蹟等）について。
- 第10回 室町、安土桃山時代の書について。
- 第11回 平安時代後期の書（仮名と料紙の美）について。
- 第12回 江戸書期（寛永の三筆等）について。
- 第13回 江戸中期から後期の書（白隠、良寛、幕末の三筆等）について。
- 第14回 明示、大正、昭和初期の書について。
- 第15回 現代の文化と書について。

### 成績評価の方法

到達目標1、2、3に対応した毎授業の小レポート（70%）、予習・復習の課題（20%）、授業への取り組み状況（10%）

### 履修にあたっての注意

特に、予習に努める。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

随時、授業資料を配付する。

### 参考書

随時紹介する

2018年度入学生  
専ら  
日本語・日本文学  
科目  
目録



# 文化総合学科 専門科目





35201

## 「現代社会」基礎演習 A

担当教員：伊藤 明美

2 単位 前期

## サブタイトル

異文化コミュニケーションの基礎を学ぶ

## 授業のねらい

- ・異文化コミュニケーションという学問領域への理解と関心を高める。
- ・資料（レジュメ）の書き方、研究報告およびディスカッションへの参加方法、小論文の書き方を学ぶ。

## 到達目標

- ・研究発表（図書館利用、資料の整理、レジュメの書き方、発表方法など）のためのスキルを身につける。
- ・論文につながるレポートを書くことができる。
- ・クリティカルに考えることができる。
- ・発言力を高める。

## 授業方法

- ・「異文化コミュニケーション」で扱われたテーマについて、自分なりに情報を収集し、考えを整理しておくことを求める。
- ・前半の1/3程度はアカデミックスキル修得のための講義と演習、残りの時間は研究発表をおこなう。
- ・予習（30分程度）をしたうえで授業に臨むこと。関連事項について授業後に復習（30分程度）をすること。授業内容についての質問や感想については、次回の授業冒頭においてカバーする。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 セミナーハウスでの宿泊研修・特別授業  
 第3回 大学生のスタディ・スキル#1（文献の要約）  
 第4回 大学生のスタディ・スキル#2（パラグラフライティングの手法）  
 第5回 大学生のスタディ・スキル#3（図書館利用の方法）  
 第6回 大学生のスタディ・スキル#4（レジュメの書き方・研究発表の仕方）  
 第7回 学生による研究発表とディスカッション(1)  
 第8回 学生による研究発表とディスカッション(2)  
 第9回 学生による研究発表とディスカッション(3)  
 第10回 学生による研究発表とディスカッション(4)  
 第11回 学生による研究発表とディスカッション(5)  
 第12回 学生による研究発表とディスカッション(6)  
 第13回 学生による研究発表とディスカッション(7)  
 第14回 学生による研究発表とディスカッション(8)  
 第15回 総括

## 成績評価の方法

発表と小論文（それぞれ35%）  
 授業参加状況（30%）

## 履修にあたっての注意

- ・重要：「異文化コミュニケーション」を同時履修していること
  - ・1年次修了までに同一外国語を4単位（2科目）と English for Global Communication I を履修することが望ましい。（ACEプログラム登録者はプログラムの推奨する科目を履修のこと）
  - ・積極的に考え、発言するという態度が必要。
  - ・2回を越える欠席については、それ以降、最終評価から5点ずつ減点する。（正当な理由がある場合は連絡のこと）
- \*10人程度が望ましいので、受講登録者数が一定程度を超える場合がある時は、人数調整を行う。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

使用教材は授業中に配布します。

35202

## 「現代社会」基礎演習 A

担当教員：伊藤 明美

2 単位 後期

## サブタイトル

異文化コミュニケーションの基礎を学ぶ

## 授業のねらい

- ・異文化コミュニケーションという学問領域への理解と関心を高める。
- ・資料（レジュメ）の書き方、研究報告およびディスカッションへの参加方法、小論文の書き方を学ぶ。

## 到達目標

- ・研究発表（図書館利用、資料の整理、レジュメの書き方、発表方法など）のためのスキルを身につける。
- ・論文につながるレポートを書くことができる。
- ・クリティカルに考えることができる。
- ・発言力を高める。

## 授業方法

- ・「異文化コミュニケーション」で扱われたテーマについて、自分なりに情報を収集し、考えを整理しておくことを求める。
- ・前半の1/3程度はアカデミックスキル修得のための講義と演習、残りの時間は研究発表をおこなう。
- ・予習（30分程度）をしたうえで授業に臨むこと。関連事項について授業後に復習（30分程度）をすること。授業内容についての質問や感想については、次回の授業冒頭においてカバーする。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 大学生のスタディ・スキル#1（文献の要約）  
 第3回 大学生のスタディ・スキル#2（パラグラフライティングの手法）  
 第4回 大学生のスタディ・スキル#3（図書館利用の方法）  
 第5回 大学生のスタディ・スキル#4（レポートの書き方、推敲、校正の方法など）  
 第6回 大学生のスタディ・スキル#5（レジュメの書き方・研究発表の仕方）  
 第7回 学生による研究発表とディスカッション(1)  
 第8回 学生による研究発表とディスカッション(2)  
 第9回 学生による研究発表とディスカッション(3)  
 第10回 学生による研究発表とディスカッション(4)  
 第11回 学生による研究発表とディスカッション(5)  
 第12回 学生による研究発表とディスカッション(6)  
 第13回 学生による研究発表とディスカッション(7)  
 第14回 学生による研究発表とディスカッション(8)  
 第15回 総括

## 成績評価の方法

発表と小論文（それぞれ35%）  
 授業参加状況（30%）

## 履修にあたっての注意

- ・重要：「異文化コミュニケーション論入門」を同時履修していること
  - ・1年次修了までに同一外国語を4単位（2科目）と English for Global Communication I を履修することが望ましい。（ACEプログラム登録者はプログラムの推奨する科目を履修のこと）
  - ・積極的に考え、発言するという態度が必要。
  - ・2回を越える欠席については、それ以降、最終評価から5点ずつ減点する。（正当な理由がある場合は連絡のこと）
- \*10人程度が望ましいので、受講登録者数が一定程度を超える場合がある時は、人数調整を行う。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

使用教材は授業中に配布します。

35211

## 「現代社会」基礎演習 B

担当教員：野手 修

2 単位 前期

## サブタイトル

フィールドワークの理論と実践

## 授業のねらい

社会調査に関する入門書を講読し、人類学や社会学で用いられる調査方法の基礎を学ぶとともに、学術的なものの考え方、仮説の検証方法に触れる。

## 到達目標

個々人の関心あるテーマをえらび、それについていかにして調査・分析すべきかを議論し、調査を計画・実施できる。

## 授業方法

指定図書の内容にそう形で、まずフィールドワークの理論と実践を学ぶ。受講者それぞれが自らの興味あることがらについてプロジェクト組み、必要となる仮説を考え、それについての議論をおこなう。インタビューまたはアンケート調査を実施し、自分の仮説を実際の調査結果にてらし検証することにより、文化現象の調査の意味と手続きの基礎を学ぶ。

## 授業計画

- 第1回 フィールドワークとは？
- 第2回 フィールドワークの意義と必要性
- 第3回 理論について
- 第4回 仮説の組み立て方について
- 第5回 フィールドワークの実践
- 第6回 カルチャー・ショック
- 第7回 他者としての調査
- 第8回 アンケート調査とその限界
- 第9回 調査の心構え
- 第10回 プロジェクトの準備 1
- 第11回 プロジェクトの準備 2
- 第12回 プロジェクトの準備 3
- 第13回 調査結果の発表 1
- 第14回 調査結果の発表 2
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

授業での発表とレポート。インタビューまたはアンケート調査を実際におこなう。レポートの内容を重視（50%）するが、授業への参加状況、議論への参加をも加味（それぞれ 25%）する予定。

## 履修にあたっての注意

少人数指導を旨とするので、定員は 10 名程度とし、一定数を超える場合は人数制限を行う。

## 教科書

佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版：書をもって街へ出よう』（新曜社、2006、ISBN：978-4788510302）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書：適宜授業で指示

## 参考書

- ロン・フライ『アメリカ式読書法』（東京図書、1996、ISBN：978-4489005015）
- ロン・フライ『アメリカ式ノートのとり方』（東京図書、1996、ISBN：978-4489005039）

35212

## 「現代社会」基礎演習 B

担当教員：野手 修

2 単位 後期

## サブタイトル

フィールドワークの理論と実践

## 授業のねらい

社会調査に関する入門書を講読し、人類学や社会学で用いられる調査方法の基礎を学ぶとともに、学術的なものの考え方、仮説の検証方法に触れる。

## 到達目標

個々人の関心あるテーマをえらび、それについていかにして調査・分析すべきかを議論し、調査を計画・実施できる。

## 授業方法

指定図書の内容にそう形で、まずフィールドワークの理論と実践を学ぶ。受講者それぞれが自らの興味あることがらについてプロジェクト組み、必要となる仮説を考え、それについての議論をおこなう。インタビューまたはアンケート調査を実施し、自分の仮説を実際の調査結果にてらし検証することにより、文化現象の調査の意味と手続きの基礎を学ぶ。

## 授業計画

- 第1回 フィールドワークとは？
- 第2回 フィールドワークの意義と必要性
- 第3回 理論について
- 第4回 仮説の組み立て方について
- 第5回 フィールドワークの実践
- 第6回 カルチャー・ショック
- 第7回 他者としての調査
- 第8回 アンケート調査とその限界
- 第9回 調査の心構え
- 第10回 プロジェクトの準備 1
- 第11回 プロジェクトの準備 2
- 第12回 プロジェクトの準備 3
- 第13回 調査結果の発表 1
- 第14回 調査結果の発表 2
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

授業での発表とレポート。インタビューまたはアンケート調査を実際におこなう。レポートの内容を重視（50%）するが、授業への参加状況、議論への参加をも加味（それぞれ 25%）する予定。

## 履修にあたっての注意

少人数指導を旨とするので、定員は 10 名程度とし、一定数を超える場合は人数制限を行う。

## 教科書

佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版：書をもって街へ出よう』（新曜社、2006、ISBN：978-4788510302）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書：適宜授業で指示

## 参考書

- ロン・フライ『アメリカ式読書法』（東京図書、1996、ISBN：978-4489005015）
- ロン・フライ『アメリカ式ノートのとり方』（東京図書、東京図書 996、ISBN：978-4489005039）

35221

## 「現代社会」基礎演習 C

担当教員：真鶴 俊喜

2 単位 前期

### サブタイトル

大学での研究の仕方についての導入、その他文化総合学科での学生生活の入り口に当たってのケア

### 授業のねらい

大学および文化総合学科とは何をするとところか、何を学ぶか、どのように学ぶかについて1年次生対象に個別に指導する。

### 到達目標

学生は学問に対する動機づけを獲得し、主体的に学ぶ態度や方法を身につける。

### 授業方法

当授業は、学生レポーターの報告を中心としたゼミ形式で進める。

具体的な授業計画は以下のとおり。

- (1)大学とはどういったところか、大学における学問研究とは何か
- (2)学問としての法学とは何か、どのように学ぶべきか（担当教員の経験などもまじえる）
- (3)必要な情報や知識の検索・収集方法（図書館の利用法、資料や論文の見つけ方・探し方、整理の仕方など）  
※ここでは簡単なテーマを各自選び、実際に必要な資料等の検索・収集、整理をおこなう。
- (4)レポートの形式、書き方  
※実際に各自レポートを作成する。
- (5)研究発表や報告の方法  
※実際に各自自ら選んだテーマについて報告し、全員で討議する。
- (6)事後学習  
各回の報告されたテーマにつき、ポイントは何であったか確認し、理解できなかったことは何か、新たに生じた疑問点は何か、確認しておく（30～60分）

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション(1)  
メンバー確定、授業の内容説明
- 第2回 オリエンテーション(2)  
テーマの選び方、調査の仕方、報告の仕方などについての説明
- 第3回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(1)
- 第4回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(2)
- 第5回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(3)
- 第6回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(4)
- 第7回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(5)
- 第8回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(6)
- 第9回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(7)
- 第10回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(8)
- 第11回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(9)
- 第12回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(10)
- 第13回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(11)
- 第14回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(12)
- 第15回 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(13)

### 成績評価の方法

授業への参加の積極性・授業で目指した目標への到達度など、平素の授業活動をもとにした評価と、随時課される課題（報告、レポート等）に対する評価を90%、授業への参加状況を10%とすることを原則とする。

### 履修にあたっての注意

積極的に授業に参加すること。本授業では成果だけでなく、各

自がそこに至ろうとする過程も重視する。また、少人数指導を旨とするので、受講生は10人程度が望ましい。一定の人数を超えた場合には人数調整を行う。

### 教科書

なし。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：授業の展開によって必要に応じ、随時指示する。

### 参考ホームページ

なし。

35222

## 「現代社会」基礎演習 C

担当教員：真鶴 俊喜

2 単位 後期

### サブタイトル

大学での研究の仕方についての導入、その他文化総合学科での学生生活の入り口に当たってのケア

### 授業のねらい

大学および文化総合学科とは何をするとところか、何を学ぶか、どのように学ぶかについて1年次生対象に個別に指導する。

### 到達目標

学生は学問に対する動機づけを獲得し、主体的に学ぶ態度や方法を身につける。

### 授業方法

当授業は、学生レポーターの報告を中心としたゼミ形式で進める。

具体的な授業計画は以下のとおり。

- (1)大学とはどういったところか、大学における学問研究とは何か
- (2)学問としての法学とは何か、どのように学ぶべきか（担当教員の経験などもまじえる）
- (3)必要な情報や知識の検索・収集方法（図書館の利用法、資料や論文の見つけ方・探し方、整理の仕方など）  
※ここでは簡単なテーマを各自選び、実際に必要な資料等の検索・収集、整理をおこなう。
- (4)レポートの形式、書き方  
※実際に各自レポートを作成する。
- (5)研究発表や報告の方法  
※実際に各自自ら選んだテーマについて報告し、全員で討議する。
- (6)事後学習

各回の報告されたテーマにつき、ポイントは何であったか確認し、理解できなかったことは何か、新たに生じた疑問点は何か、確認しておく（30～60分）

### 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション(1)<br>メンバー確定、授業の内容説明               |
| 第2回  | オリエンテーション(2)<br>テーマの選び方、調査の仕方、報告の仕方などについての説明 |
| 第3回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(1)                    |
| 第4回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(2)                    |
| 第5回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(3)                    |
| 第6回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(4)                    |
| 第7回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(5)                    |
| 第8回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(6)                    |
| 第9回  | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(7)                    |
| 第10回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(8)                    |
| 第11回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(9)                    |
| 第12回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(10)                   |
| 第13回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(11)                   |
| 第14回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(12)                   |
| 第15回 | 各学生の選んだテーマを各自で報告、全員で討論(13)                   |

### 成績評価の方法

授業への参加の積極性・授業で目指した目標への到達度など、平素の授業活動をもとにした評価と、随時課される課題（報告、レポート等）に対する評価を90%、授業への参加状況を10%とすることを原則とする。

### 履修にあたっての注意

積極的に授業に参加すること。本授業では成果だけでなく、各

自がそこに至ろうとする過程も重視する。また、少人数指導を旨とするので、受講生は10人程度が望ましい。一定の人数を超えた場合には人数調整を行う。

### 教科書

なし。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：授業の展開によって必要に応じ、随時指示する。

### 参考ホームページ

なし。



35231

## 「現代社会」基礎演習 D

担当教員：上原 賢司

2 単位 前期

### サブタイトル

学問を通じて現代社会を理解する

### 授業のねらい

本演習では、現代社会に関連する題材を手がかりとして、大学生として学ぶための基礎的な力を身につけていくことを狙いとする。授業の前半では、現代政治理論と呼ばれる研究領域に属する著作の一つの読解を通じて、現代社会の諸問題がどのように考察されているのかを理解していく。後半では、学生の興味関心に沿った文献の選定や読解を通じて、学術文献収集のための基本的な手法を学ぶとともに、学術レポート作成のための基礎的な作法を学ぶ場を提供していきたい。

### 到達目標

- (1)学術的な新書等の内容を正確に把握するための基礎的な読解力が身につけられる。
- (2)演習での報告やレポート作成を通じて、文献の収集や文書作成に関する基礎的な作法を身につけることができる。
- (3)現代社会をテーマとして他者と議論をするための基礎的なコミュニケーション力を身につけられる。

### 授業方法

授業は、学生の報告とそれにもとづく議論を中心とした演習形式にて行う。前半では、講読文献を担当教員が指定し、その講読と要約の発表を中心に授業を進めていく。後半では、学生各自の興味関心をすり合わせ、何らかの学術的な文献を共に購読し、各回で要約を発表する形で授業を進めていく。中間に、文献収集のための基礎的な方法について学ぶ機会も設ける。なお、各回の報告者には、取り上げた文献についての疑問点を必ず提示できるよう、準備することを要求する。

予習：自らの担当回にあたっては、しっかりと文献を読み込んだ上で、発表資料作成のための準備が必要となる（目安 4 時間以上）。担当外の回でも、すでに講読箇所が指定されている際は目を通しておくこと（目安 1-2 時間）。

復習：担当回においては、自らの報告に向けられた疑問点やコメントについて振り返り、改善方法を模索してみる。また、自らの研究テーマを模索すべく、該当文献を再読したり、関連文献を収集したりすること（目安 2 時間）。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション——授業の進め方の説明と前半で読む文献の紹介
- 第2回 学術的な新書を読む(1)——『不平等を考える』第一部前半
- 第3回 学術的な新書を読む(2)——『不平等を考える』第一部後半
- 第4回 学術的な新書を読む(3)——『不平等を考える』第二部前半
- 第5回 学術的な新書を読む(4)——『不平等を考える』第二部後半
- 第6回 学術的な新書を読む(5)——『不平等を考える』第三部前半
- 第7回 学術的な新書を読む(6)——『不平等を考える』第三部後半
- 第8回 自分の興味のある文献を探してみる——図書館やインターネットの利用法
- 第9回 何をみんなで読み進めるかを考える——後半で読む文献の選定
- 第10回 講読文献の報告と議論(1)
- 第11回 講読文献の報告と議論(2)
- 第12回 講読文献の報告と議論(3)
- 第13回 講読文献の報告と議論(4)
- 第14回 レポートを作成する——レポート作成における注意点
- 第15回 授業のまとめと補足

### 成績評価の方法

到達目標(2)と(3)の測定として、報告担当回の発表内容と発言をはじめとする授業への積極的参加 (50%)。到達目標(1)と(2)の測定として、期末レポートの評価 (50%)。

### 履修にあたっての注意

演習形式の授業は、学生の主体的な参加があつてはじめて成立する。そのため、積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎する。

### 教科書

齋藤純一『不平等を考える——政治理論入門』(筑摩書房、2017、978-4480069498)

### 教科書・参考書に関する備考

前半は、指定した新書の講読を中心に進める。後半取り上げる文献については、適宜、購入を指示するか、場合によってはコピーを配布する。参考書は、演習での報告原稿やレポート作成において有用である。

### 参考書

石黒圭『論文・レポートの基本』(日本実業出版社、2012、ISBN: 978-4534049278)



**サブタイトル**

学問を通じて現代社会を理解する

**授業のねらい**

本演習では、現代社会に関連する題材を手がかりとして、大学生として学ぶための基礎的な力を身につけていくことを狙いとする。特に後期では、現代政治理論と呼ばれる研究領域に属する著作の一つの読解を通じて、現代社会の諸問題がどのように考察されているのかを理解していく。

**到達目標**

- (1) 学術的な新書等の内容を正確に把握するための基礎的な読解力が身につけられる。
- (2) 演習での報告やレポート作成を通じて、文献の収集や文書作成に関する基礎的な作法を身につけることができる。
- (3) 現代社会をテーマとして他者と議論をするための基礎的なコミュニケーション力を身につけられる。

**授業方法**

授業は、学生の報告とそれにもとづく議論を中心とした演習形式にて行う。前半では、講読文献を担当教員が指定し、その講読と要約の発表を中心に授業を進めていく。後半では、学生各自の興味関心をすり合わせ、何らかの学術的な文献を共に購読し、各回で要約を発表する形で授業を進めていく。中間に、文献収集のための基礎的な方法について学ぶ機会も設ける。  
 予習：自らの担当回にあたっては、しっかりと文献を読み込んだ上で、発表資料作成のための準備が必要となる（目安4時間以上）。担当外の回でも、指定された講読箇所を各自で読み進めておくこと（目安1-2時間）。  
 復習：担当回においては、自らの報告に向けられた疑問点やコメントについて振り返り、改善方法を模索してみる。また、自らの研究テーマを模索すべく、該当文献を再読したり、関連文献を収集したりすること（目安2時間）。

**授業計画**

- 第1回 イントロダクション——授業の進め方の説明と前半で読む文献の紹介
- 第2回 学術的な新書を読む(1)——『不平等を考える』第一部前半
- 第3回 学術的な新書を読む(2)——『不平等を考える』第一部後半
- 第4回 学術的な新書を読む(3)——『不平等を考える』第二部前半
- 第5回 学術的な新書を読む(4)——『不平等を考える』第二部後半
- 第6回 学術的な新書を読む(5)——『不平等を考える』第三部前半
- 第7回 学術的な新書を読む(6)——『不平等を考える』第三部後半
- 第8回 何をみんなで読み進めるかを考える——後半で読む文献の選定
- 第9回 講読文献の報告と議論(1)
- 第10回 講読文献の報告と議論(2)
- 第11回 講読文献の報告と議論(3)
- 第12回 講読文献の報告と議論(4)
- 第13回 講読文献の報告と議論(5)
- 第14回 講読文献の報告と議論(6)
- 第15回 授業のまとめと補足

**成績評価の方法**

到達目標(2)と(3)の測定として、報告担当回の発表内容と発言をはじめとする授業への積極的参加（50%）。到達目標(1)と(2)の測定として、期末レポートの評価（50%）。

**履修にあたっての注意**

演習形式の授業は、学生の主体的な参加があつてはじめて成立する。そのため、積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎する。

**教科書**

齋藤純一『不平等を考える——政治理論入門』（筑摩書房、2017、ISBN：978-4480069498）

**教科書・参考書に関する備考**

前半は、指定した新書の講読を中心に進める。後半取り上げる文献については、適宜、購入を指示するか、場合によってはコピーを配布する。参考書は、演習での報告原稿やレポート作成において有用である。

**参考書**

石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012、ISBN：978-4534049278）

35251

## 「歴史・思想」基礎演習 A

担当教員：渡邊 浩

2 単位 前期

## サブタイトル

西洋史を学びながら研究の初歩的スキルを身につける。

## 授業のねらい

- ・「歴史学」や「西洋史学」のテーマにふれながら、大学で学んで行く上で必要とされる初歩的スキルを身につける。
- ・外国語文献（英語文献）にふれる。

## 到達目標

1. 自分で研究テーマを探し、関係する文献のリストを作成することができる。
2. 自分でレジюмеを作成し、人前で発表することができる。
3. ブックレポートを書くことができる。

## 授業方法

- ・受講者は各自「世界史リブレット」シリーズ（山川出版社刊）から1冊を選び、発表を行なう。その過程で、レジюмеの作り方、発表の仕方、文献や資料の検索方法、レポートの作成方法などを学ぶ。
- ・受講者は、各回の発表者が選んだ文献を読んだ上で授業にのぞみ、毎回発言をしなければならない。
- ・各自が提出したブックレポートは、授業時間において、全員で目を通しながら修正する。
- ・報告のためのレジюмеの作成や、他の発表者の文献を読むのに、毎回2、3数時間の準備が必要である。
- ・英語文献の輪読については、発表の準備が整うまでの時間をあてる。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英語文献講読(1)
- 第3回 英語文献講読(2)
- 第4回 英語文献講読(3)
- 第5回 英語文献講読(4)
- 第6回 英語文献講読(5)
- 第7回 受講者による発表(1)
- 第8回 受講者による発表(2)
- 第9回 受講者による発表(3)
- 第10回 受講者による発表(4)
- 第11回 受講者による発表(5)
- 第12回 文献の探し方(1)
- 第13回 文献の探し方(2)
- 第14回 ブックレポートの修正(1)
- 第15回 ブックレポートの修正(2)

## 成績評価の方法

授業への参加状況（60％）とブックレポート・文献調査（40％）によって評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・発表者が選んだテキストについては、受講者全員が各自入手し、あらかじめ読んだ上で授業に参加しなければならない。テキストを読んでいない場合は、出席と認めない。
- ・毎回必ず発言しなければならない。

## 教科書

Justin Clegg, *The Medieval Church in Manuscripts* (Univ. of Toronto Press, 2003)  
『世界史リブレット』シリーズ（山川出版社）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書：適宜指摘する。

35252

## 「歴史・思想」基礎演習 A

担当教員：渡邊 浩

2 単位 後期

## サブタイトル

西洋史を学びながら研究の初歩的スキルを身につける。

## 授業のねらい

- ・「歴史学」や「西洋史学」のテーマにふれながら、大学で学んで行く上で必要とされる初歩的スキルを身につける。
- ・外国語文献（英語文献）にふれる。

## 到達目標

1. 自分で研究テーマを探し、関係する文献のリストを作成することができる。
2. 自分でレジюмеを作成し、人前で発表することができる。
3. ブックレポートを書くことができる。

## 授業方法

- ・受講者は各自「世界史リブレット」シリーズ（山川出版社刊）から1冊を選び、発表を行なう。その過程で、レジюмеの作り方、発表の仕方、文献や資料の検索方法、レポートの作成方法などを学ぶ。
- ・受講者は、各回の発表者が選んだ文献を読んだ上で授業にのぞみ、毎回発言をしなければならない。
- ・各自が提出したブックレポートは、授業時間において、全員で目を通しながら修正する。
- ・報告のためのレジюмеの作成や、他の発表者の文献を読むのに、毎回2、3時間の準備が必要である。
- ・英語文献の輪読については、発表の準備が整うまでの時間をあてる。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 英語文献講読(1)
- 第3回 英語文献講読(2)
- 第4回 英語文献講読(3)
- 第5回 英語文献講読(4)
- 第6回 英語文献講読(5)
- 第7回 受講者による発表(1)
- 第8回 受講者による発表(2)
- 第9回 受講者による発表(3)
- 第10回 受講者による発表(4)
- 第11回 受講者による発表(5)
- 第12回 文献の探し方(1)
- 第13回 文献の探し方(2)
- 第14回 ブックレポートの修正(1)
- 第15回 ブックレポートの修正(2)

## 成績評価の方法

授業への参加状況（60％）とブックレポート・文献調査（40％）によって評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・発表者が選んだテキストについては、受講者全員が各自入手し、あらかじめ読んだ上で授業に参加しなければならない。テキストを読んでいない場合は、出席と認めない。
- ・毎回必ず発言しなければならない。

## 教科書

Justin Clegg, *The Medieval Church in Manuscripts* (Univ. of Toronto Press, 2003)  
『世界史リブレット』シリーズ（山川出版社）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書：適宜指摘する。

35261

## 「歴史・思想」基礎演習 B

担当教員：石田 晴男

2 単位 前期

### サブタイトル

日本史の漢文史料を読む

### 授業のねらい

日本史の漢文史料の読み方を学び、御成敗式目を読む。

### 到達目標

日本史の漢文史料を読む基礎力をつける。

### 授業方法

漢文の読み方をテキストで学び、実際に御成敗式目の白文を書き下し文から学ぶ。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢文の読み方(1)
- 第3回 漢文の読み方(2)
- 第4回 漢文の読み方(3)
- 第5回 御成敗式目を読む(1)
- 第6回 御成敗式目を読む(2)
- 第7回 御成敗式目を読む(3)
- 第8回 御成敗式目を読む(4)
- 第9回 御成敗式目を読む(5)
- 第10回 ことばの文化史を読む(1)
- 第11回 ことばの文化史を読む(2)
- 第12回 ことばの文化史を読む(3)
- 第13回 ことばの文化史を読む(4)
- 第14回 ことばの文化史を読む(5)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

発表 40%、テスト 60%

### 履修にあたっての注意

日本史の史料の漢文は、高校の中国漢文より難しくないで、なれるのが一番です。アレルギーを治しましょう。

### 教科書

網野善彦他『ことばの文化史』（平凡社、1988）

35262

## 「歴史・思想」基礎演習 B

担当教員：石田 晴男

2 単位 後期

### サブタイトル

日本史の漢文史料を読む

### 授業のねらい

日本史の漢文史料の読み方を学び、御成敗式目を読む

### 到達目標

日本史の漢文史料を読む基礎力をつける。

### 授業方法

漢文の読み方をテキストで学び、御成敗式目の白文を書き下し文から学ぶ。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漢文の読み方(1)
- 第3回 漢文の読み方(2)
- 第4回 漢文の読み方(3)
- 第5回 御成敗式目を読む(1)
- 第6回 御成敗式目を読む(2)
- 第7回 御成敗式目を読む(3)
- 第8回 御成敗式目を読む(4)
- 第9回 御成敗式目を読む(5)
- 第10回 ことばの文化史を読む(1)
- 第11回 ことばの文化史を読む(2)
- 第12回 ことばの文化史を読む(3)
- 第13回 ことばの文化史を読む(4)
- 第14回 ことばの文化史を読む(5)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

発表 40%、テスト 60%

### 履修にあたっての注意

日本史の史料の漢文は、高校の中国漢文より難しくないで、なれるのが一番です。アレルギーを治しましょう。

### 教科書

網野善彦他『ことばの文化史』（平凡社、1988）

35271

## 「歴史・思想」基礎演習 C

担当教員：松本 あづさ

2 単位 前期

## サブタイトル

日本史の史料と研究の世界

## 授業のねらい

歴史学の基本である「史料をもとに考える」ということについて理解を深めることを目的とします。今年度は、『歴史をよむ』をテキストとして、多様な史料をもとに明らかにされる歴史像について学びます。

## 到達目標

1. 日本史研究における史料の重要性・多様性について理解を深める。
2. 高校までの日本史の学習と大学での日本史研究との違いに慣れ親しむ。
3. レジュメおよびレポート作成のために必要な作業を習得する。

## 授業方法

- ・受講者による発表をもとに進行しますが、最初の数回は講義形式で発表のために必要な知識や情報の共有をはかります。
- ・発表はテキスト所収の論考から、受講者各自が選択した1編にもとづいて行ないます。
- ・毎回の授業について、事前にテキストを読むこと（30分程度）、授業後に受講者の発表から得た知見について復習すること（30分程度）が求められます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 「日本史」という学問のはじまり  
 第3回 史料とは何か(1)：文字史料  
 第4回 史料とは何か(2)：非文字資料  
 第5回 日本史研究と時代区分論  
 第6回 図書館でのガイダンス（日本史関連の辞書・図書の確認、文献の検索方法）  
 第7回 受講者による発表(1)  
 第8回 受講者による発表(2)  
 第9回 受講者による発表(3)  
 第10回 受講者による発表(4)  
 第11回 受講者による発表(5)  
 第12回 受講者による発表(6)  
 第13回 受講者による発表(7)  
 第14回 受講者による発表(8)  
 第15回 レポート作成の基礎

## 成績評価の方法

授業時の発表内容（40%）、期末レポート（30%）、授業への参加状況（30%）により評価します。

## 教科書

歴史科学協議会『歴史を読む』（東京大学出版会、2004、ISBN：978-4585221821）

## 教科書・参考書に関する備考

授業で使用する箇所についてはコピーを配付します。

35272

## 「歴史・思想」基礎演習 C

担当教員：松本 あづさ

2 単位 後期

## サブタイトル

日本史の史料と研究の世界

## 授業のねらい

歴史学の基本である「史料をもとに考える」ということについて理解を深めることを目的とします。今年度は、『歴史をよむ』をテキストとして、多様な史料をもとに明らかにされる歴史像について学びます。

## 到達目標

1. 日本史研究における史料の重要性・多様性について理解を深める。
2. 高校までの日本史の学習と大学での日本史研究との違いに慣れ親しむ。
3. レジュメおよびレポート作成のために必要な作業を習得する。

## 授業方法

- ・受講者による発表をもとに進行しますが、最初の数回は講義形式で発表のために必要な知識や情報の共有をはかります。
- ・発表はテキスト所収の論考から、受講者各自が選択した1編にもとづいて行ないます。
- ・毎回の授業について、事前にテキストを読むこと（30分程度）、授業後に受講者の発表から得た知見について復習すること（30分程度）が求められます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 「日本史」という学問のはじまり  
 第3回 史料とは何か(1)：文字史料  
 第4回 史料とは何か(2)：非文字資料  
 第5回 日本史研究と時代区分論  
 第6回 図書館でのガイダンス（日本史関連の辞書・図書の確認、文献の検索方法）  
 第7回 受講者による発表(1)  
 第8回 受講者による発表(2)  
 第9回 受講者による発表(3)  
 第10回 受講者による発表(4)  
 第11回 受講者による発表(5)  
 第12回 受講者による発表(6)  
 第13回 受講者による発表(7)  
 第14回 受講者による発表(8)  
 第15回 レポート作成の基礎

## 成績評価の方法

授業時の発表内容（40%）、期末レポート（30%）、授業への参加状況（30%）により評価します。

## 教科書

歴史科学協議会『歴史を読む』（東京大学出版会、2004、ISBN：978-4585221821）

## 教科書・参考書に関する備考

授業で使用する箇所についてはコピーを配付します。



35281

## 「歴史・思想」基礎演習 D

担当教員：松村 良祐

2 単位 前期

### サブタイトル

大学での学び方を学ぶ：「哲学」への誘い

### 授業のねらい

哲学とは、人間がその日常生活において抱く身近な問いをもとに、それをどこまでも深く追求しようとする学問であり、西洋において長い歴史を持っている。こうした哲学という知的な営みは、或る事柄に対して個々人の持つ考え方や価値観をときにその根底から問い直そうとするものである。例えば、人間や動物と同様に、植物に権利を認めるか否かといったアメリカの哲学者トム・レーガンを嚆矢とする現代の議論はその一例であるのかもしれない。しかし、その種の問いかけは、人間がこの社会において生きる上での地盤を築く作業であると共に、グローバル化の進展により従来の価値観が揺らぐ今日において、自己を形作る上で重要な役割を持つものでもある。

本演習では、熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2006年）の各章を読み解くことで、こうした西洋哲学史に関する基本的な理解を得ることを目的とする。その際、毎回の演習は次のような形式で行う。第1回目の授業において、毎回2名のレポーター担当者を決定する。2名のレポーターは、前もって担当教員とも相談し、演習での討論のための幾つかのポイントを明らかにして提起できるように準備する。そして、毎回の授業では、それを踏まえて全員で討論を行う。

### 到達目標

- ・資料を適切に収集し、綿密に分析できる。
- ・論理的で分かりやすい文章を書き、明晰な発表や質問ができる。
- ・他者の発言によく耳を傾け、共に実り豊かな討論を行うことができる。
- ・物事を多面的・多角的に考えることができる。
- ・現代の切実な諸問題を「哲学的な視点」で見ることができる。
- ・西洋哲学史に関する標準的な知識を身に付けることができる。

### 授業方法

- ・熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2006年）の各章を読み解いていく。
- ・第4回から第13回にかけての演習は次のような形式で行う。第3回目の授業において、毎回2名のレポーター担当者を決定する。2名のレポーターは、前もって担当教員とも相談し、演習での討論のための幾つかのポイントを明らかにして提起できるように準備する。
- ・第4回から第13回にかけての演習では、レポーターによる発表をもとに全員で討論を行う。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：授業の方法と計画の説明
- 第2回 文献や書籍の探し方：大学図書館の利用とその応用
- 第3回 レジュメの書き方、ゼミ発表や討論の仕方
- 第4回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第1、2章）：発表と討論
- 第5回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第3、4章）：発表と討論
- 第6回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第5、6章）：発表と討論
- 第7回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第7、8章）：発表と討論
- 第8回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第9、10章）：発表と討論
- 第9回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第11、12章）：発表と討論
- 第10回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第13、14章）：発表と討論

- 第11回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第15章）：発表と討論
- 第12回 『西洋哲学史：近代から現代へ』を読み解く（第1、2章）：発表と討論
- 第13回 『西洋哲学史：近代から現代へ』を読み解く（第3、4章）：発表と討論
- 第14回 レポート作成の方法と作成上のマナー
- 第15回 授業全体の概括と今後の展望

### 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

テキストの指定された箇所を事前に熟読し、その内容を可能な限り理解しておくこと。

### 教科書

- 熊野純彦『西洋哲学史：古代から中世へ』（岩波新書、2006年、978-4004310075）
- 熊野純彦『西洋哲学史：近代から現代へ』（岩波新書、2006年、978-4004310082）

### 教科書・参考書に関する備考

本演習において使用するテキストは、事前に購入しておくこと。

### 参考書

- 戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK出版、2012年、ISBN：978-4140911945）
- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN：978-4766409697）
- ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』（慶應義塾大学出版会、2012年、ISBN：978-4766419771）

## サブタイトル

大学での学び方を学ぶ：「哲学」への誘い

## 授業のねらい

哲学とは、人間がその日常生活において抱く身近な問いをもとに、それをどこまでも深く追求しようとする学問であり、西洋において長い歴史を持っている。こうした哲学という知的な営みは、或る事柄に対して個々人の持つ考え方や価値観をときにその根底から問い直そうとするものである。例えば、人間や動物と同様に、植物に権利を認めるか否かといったアメリカの哲学者トム・レーガンを嚆矢とする現代の議論はその一例であるのかもしれない。しかし、その種の問いかけは、人間がこの社会において生きる上での地盤を築く作業であると共に、グローバル化の進展により従来の価値観が揺らぐ今日において、自己を形作る上で重要な役割を持つものでもある。

本演習では、熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2006年）の各章を読み解くことで、こうした西洋哲学史に関する基本的な理解を得ることを目的とする。その際、毎回の演習は次のような形式で行う。第1回目の授業において、毎回2名のレポーター担当者を決定する。2名のレポーターは、前もって担当教員とも相談し、演習での討論のための幾つかのポイントを明らかにして提起できるように準備する。そして、毎回の授業では、それを踏まえて全員で討論を行う。

## 到達目標

- ・資料を適切に収集し、綿密に分析できる。
- ・論理的で分かりやすい文章を書き、明晰な発表や質問ができる。
- ・他者の発言によく耳を傾け、共に実り豊かな討論を行うことができる。
- ・物事を多面的・多角的に考えることができる。
- ・現代の切実な諸問題を「哲学的な視点」で見ることができる。
- ・西洋哲学史に関する標準的な知識を身に付けることができる。

## 授業方法

- ・熊野純彦『西洋哲学史』（岩波新書、2006年）の各章を読み解いていく。
- ・第4回から第13回にかけての演習は次のような形式で行う。第3回目の授業において、毎回2名のレポーター担当者を決定する。2名のレポーターは、前もって担当教員とも相談し、演習での討論のための幾つかのポイントを明らかにして提起できるように準備する。
- ・第4回から第13回にかけての演習では、レポーターによる発表をもとに全員で討論を行う。

## 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン：授業の方法と計画の説明  
 第2回 文献や書籍の探し方：大学図書館の利用とその応用  
 第3回 レジュメの書き方、ゼミ発表や討論の仕方  
 第4回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第1、2章）：発表と討論  
 第5回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第3、4章）：発表と討論  
 第6回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第5、6章）：発表と討論  
 第7回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第7、8章）：発表と討論  
 第8回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第9、10章）：発表と討論  
 第9回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第11、12章）：発表と討論  
 第10回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第13、14章）：発表と討論

- 第11回 『西洋哲学史：古代から中世へ』を読み解く（第15章）：発表と討論  
 第12回 『西洋哲学史：近代から現代へ』を読み解く（第1、2章）：発表と討論  
 第13回 『西洋哲学史：近代から現代へ』を読み解く（第3、4章）：発表と討論  
 第14回 レポート作成の方法と作成上のマナー  
 第15回 授業全体の概括と今後の展望

## 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

テキストの指定された箇所を事前に熟読し、その内容を可能な限り理解しておくこと。

## 教科書

熊野純彦『西洋哲学史：古代から中世へ』（岩波新書、2006年、978-4004310075）  
 熊野純彦『西洋哲学史：近代から現代へ』（岩波新書、2006年、978-4004310082）

## 教科書・参考書に関する備考

本演習において使用するテキストは、事前に購入しておくこと。

## 参考書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK出版、2012年、ISBN：978-4140911945）  
 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN：978-4766409697）  
 ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』（慶應義塾大学出版会、2012年、ISBN：978-4766419771）



35291

## 「歴史・思想」基礎演習 E

担当教員：勝西 良典

2 単位 前期

## サブタイトル

「考える」ための基礎訓練

## 授業のねらい

身近なテーマを題材に、先人のさまざまな観点からの考察を受け継ぎつつ、自分の考えや判断を付け加える練習をする。併せて、レジュメの作り方、レポートの書き方、図書館の利用の仕方を身に付けることにより、大学で哲学などの思想系の科目を履修するために必要な思考力と表現力を養う。

## 到達目標

1. 物事をさまざまな観点から捉えることができるようになる。
2. 自分の考えを明確に理解できるように話したり、文章にまとめたりできるようになる。
3. 図書館を有効に活用し、必要な資料を収集できるようになる。
4. レジュメを作れるようになる。

## 授業方法

- ・第3回は、講義形式で行う。
- ・第4回～第10回は、前半でそれぞれのテーマにかんする必要な知識や代表的な考え方を紹介した後、そうした考え方をめぐってディスカッションを行う。そして次の回の授業でディスカッションの内容をまとめた上で自分のコメントを付したものを提出してもらう。また、これらのテーマのうち1つを選んで、中間レポートを作成してもらう。
- ・第11回～第14回は、受講者がグループでテキスト(『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』)の内容報告とコメントを行った後、全員でディスカッションを行う。そして学期末にレポートを提出してもらう。

## 【事前学習】(90～120分)

- ・第1回～第7回：プラトン『ソクラテスの弁明』、デカルト『方法序説』、カント『啓蒙とは何か』を読み、後半のテキストとしてどれを選ぶか決める。
- ・第4回～第10回：各テーマにかんして検討すべき論点を挙げた上で、自分なりの考えを整理しておく。
- ・第11回～第14回：テキストを読み込み、重要な論点やわからない点、疑問点を整理しておく。
- ・第15回：期末レポートのテーマに即して疑問点や確認したいことを整理しておく。

## 【事後学習】(60～90分)

- ・第1回～第2回：自分の興味関心に応じて、思想関連科目において取るべき科目をシミュレートする。
- ・第3回：①中間レポートや期末レポートの準備を行う。②第11回～第14回のうち自分の担当箇所のレジュメを作成する。③レポートのための参考文献を収集する。
- ・第4回～第10回：中間レポートを書く想定で、授業での議論を踏まえながら自分の考えを整理する。
- ・第11回～第15回：期末レポートのテーマを絞りながら、これに即してテキストの論点を整理して理解する。

【フィードバック】：未入れたレポートの返却ないし必要に応じた面談などによって行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング1  
 第2回 オリエンテーリング2  
 第3回 レポートの書き方、レジュメの作り方、図書館の利用の仕方  
 第4回 どのようにすれば合理的に考えたことになるのか？(内容が変更になる場合もある)  
 第5回 故意にしたことと不可抗力でやったことや知らずにやったことを区別するのは正しいのか？(内容が変更になる場合もある)

- 第6回 反省して自分の判断を訂正したり、悔い改めたりできるのはなぜか？(内容が変更になる場合もある)  
 第7回 信じることは学問において避けねばならないことか？(内容が変更になる場合もある)  
 第8回 「かわいい」とはどういうことか？(内容が変更になる場合もある)  
 第9回 いつでもどこでも例外なく通用する絶対的なルールは存在するのか？(内容が変更になる場合もある)  
 第10回 利己主義はいけないことなのか？(内容が変更になる場合もある)  
 第11回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(1)  
 第12回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(2)  
 第13回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(3)  
 第14回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(4)  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

中間レポート試験(30%)、期末レポート試験(40%)、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー(30%)  
 レポートを1本しか出さなかった場合は、たとえ満点でも単位は認定しない。

## 履修にあたっての注意

受講者が一定人数を超える場合、前期・後期の変更があり得る。共通科目の教養科目として前期に開講されている「哲学」ないし「倫理学」、並びに、文化総合学科の専門科目として後期に開講されている「哲学入門」ないし「倫理学入門」を合わせて受講すること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

下記以外の読むべき文献や参考書については、適宜指示する。

## 参考書

プラトン『ソクラテスの弁明』(光文社(光文社古典新訳文庫)、2012、ISBN: 978-4334752569)  
 ルネ・デカルト『方法序説』(筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2010、ISBN: 978-4480093066)  
 カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他3編』(光文社(光文社古典新訳文庫)、2006、ISBN: 978-4334751081)  
 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002、ISBN: 978-4766409697)

## サブタイトル

「考える」ための基礎訓練

## 授業のねらい

身近なテーマを題材に、先人のさまざまな観点からの考察を受け継ぎつつ、自分の考えや判断を付け加える練習をする。併せて、レジュメの作り方、レポートの書き方、図書館の利用の仕方を身に付けることにより、大学で哲学などの思想系の科目を履修するために必要な思考力と表現力を養う。

## 到達目標

1. 物事をさまざまな観点から捉えることができるようになる。
2. 自分の考えを明確に理解できるように話したり、文章にまとめたりできるようになる。
3. 図書館を有効に活用し、必要な資料を収集できるようになる。
4. レジュメを作れるようになる。

## 授業方法

- ・第3回は、講義形式で行う。
- ・第4回～第10回は、前半でそれぞれのテーマにかんする必要な知識や代表的な考え方を紹介した後、そうした考え方をめぐってディスカッションを行う。そして次の回の授業でディスカッションの内容をまとめた上で自分のコメントを付したものを提出してもらう。また、これらのテーマのうち1つを選んで、中間レポートを作成してもらう。
- ・第11回～第14回は、受講者がグループでテキスト（『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』）の内容報告とコメントを行った後、全員でディスカッションを行う。そして学期末にレポートを提出してもらう。

## 【事前学習】(90～120分)

- ・第1回～第7回：プラトン『ソクラテスの弁明』、デカルト『方法序説』、カント『啓蒙とは何か』を読み、後半のテキストとしてどれを選ぶか決める。
- ・第4回～第10回：各テーマにかんして検討すべき論点を挙げた上で、自分なりの考えを整理しておく。
- ・第11回～第14回：テキストを読み込み、重要な論点やわからない点、疑問点を整理しておく。
- ・第15回：期末レポートのテーマに即して疑問点や確認したいことを整理しておく。

## 【事後学習】(60～90分)

- ・第1回～第2回：自分の興味関心に応じて、思想関連科目において取るべき科目をシミュレートする。
- ・第3回：①中間レポートや期末レポートの準備を行う。②第11回～第14回のうち自分の担当箇所のレジュメを作成する。③レポートのための参考文献を収集する。
- ・第4回～第10回：中間レポートを書く想定で、授業での議論を踏まえながら自分の考えを整理する。
- ・第11回～第15回：期末レポートのテーマを絞りながら、これに即してテキストの論点を整理して理解する。

【フィードバック】：未入れたレポートの返却ないし必要に応じた面談などによって行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング1  
 第2回 オリエンテーリング2  
 第3回 レポートの書き方、レジュメの作り方、図書館の利用の仕方  
 第4回 どのようにすれば合理的に考えたことになるのか？（内容が変更になる場合もある）  
 第5回 故意にしたことと不可抗力でやったことや知らずにやったことを区別するのは正しいのか？（内容が変更になる場合もある）

- 第6回 反省して自分の判断を訂正したり、悔い改めたりできるのはなぜか？（内容が変更になる場合もある）  
 第7回 信じることは学問において避けねばならないことか？（内容が変更になる場合もある）  
 第8回 「かわいい」とはどういうことか？（内容が変更になる場合もある）  
 第9回 いつでもどこでも例外なく通用する絶対的なルールは存在するのか？（内容が変更になる場合もある）  
 第10回 利己主義はいけないことなのか？（内容が変更になる場合もある）  
 第11回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(1)  
 第12回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(2)  
 第13回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(3)  
 第14回 『ソクラテスの弁明』あるいは『方法序説』あるいは『啓蒙とは何か』にかんする受講生によるグループ発表とディスカッション(4)  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

中間レポート試験（30%）、期末レポート試験（40%）、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー（30%）レポートを1本しか出さなかった場合は、たとえ満点でも単位は認定しない。

## 履修にあたっての注意

受講者が一定人数を超える場合、前期・後期の変更があり得る。共通科目の教養科目として前期に開講されている「哲学」ないし「倫理学」、並びに、文化総合学科の専門科目として後期に開講されている「哲学入門」ないし「倫理学入門」を合わせて受講すること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

下記以外の読むべき文献や参考書については、適宜指示する。

## 参考書

プラトン『ソクラテスの弁明』（光文社（光文社古典新訳文庫）、2012、ISBN：978-4334752569）  
 ルネ・デカルト『方法序説』（筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2010、ISBN：978-4480093066）  
 カント『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他3編』（光文社（光文社古典新訳文庫）、2006、ISBN：978-4334751081）  
 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』（慶應義塾大学出版会、2002、ISBN：978-4766409697）

35401

## 文化人類学入門

担当教員：野手 修

2 単位 後期

### サブタイトル

文化理論の形成と変容 2

### 授業のねらい

西洋社会が直面した異文化理解における諸問題を中心に、文化人類学に関する基礎的な導入を目的とする。社会人類学及び文化人類学にまたがる領域をカバーし、具体的な事例をふまえて、社会科学としての文化人類学が取り組む課題について理解をめざす。

### 到達目標

文化にかかわる学術領域としての文化人類学がたどってきた系譜を論理的に説明できる。

### 授業方法

文化人類学における主要な理論について、民俗誌をふまえて講義します。各週の内容につき、参考図書による予習、復習を前提とします。

### 授業計画

20 世紀後半における機能主義への反発とその影響について概説します。

- 第 1 回 マンチェスター学派と儀礼
- 第 2 回 南アフリカの風土と気候
- 第 3 回 ターナー：ンデンプ社会の構造
- 第 4 回 ソーシャルドラマ 1
- 第 5 回 ソーシャルドラマ 2
- 第 6 回 儀礼とシンボル 1
- 第 7 回 儀礼とシンボル 2
- 第 8 回 チェワの仮面と葬送儀礼
- 第 9 回 分類と象徴 1
- 第 10 回 分類と象徴 2
- 第 11 回 アメリカの文化人類学 1
- 第 12 回 アメリカの文化人類学 2
- 第 13 回 歴史と構造：ハワイ島とキャプテン・クック 1
- 第 14 回 歴史と構造：ハワイ島とキャプテン・クック 2
- 第 15 回 まとめ

### 成績評価の方法

レポートと試験による。評価の点数配分は、授業への参加状況 25%、期末テスト 75%とする。

### 履修にあたっての注意

視覚教材等を多用するので、欠席は出来るだけ控えること。下記のアカウントにアクセスし、各週のレジュメをダウンロードし事前に授業内容を確認しておくこと。質問等はアカウントに書き入れること。

### 教科書

なし

### 参考書

ギアツ『文化の解釈学』（岩波現代選書、1987）  
ダグラス『汚穢と禁忌』（ちくま学芸文庫、2009）

### 参考ホームページ

<http://aporetic.dyndns.org/moodle>

35411

# 異文化コミュニケーション論入門

担当教員：伊藤 明美

2単位 後期

## サブタイトル

異文化コミュニケーションにおける平等について

## 授業のねらい

- ・異文化への移動で生じるカルチャーショックや異文化感受性の発達などを理解する
- ・ジェンダー(男女)間コミュニケーションをテーマに、パワーバランスとコミュニケーションの関係を理解する

## 到達目標

- ・多文化社会における異文化コミュニケーションとパワーバランスに関わる理論と概念を理解する
- ・コミュニケーションの平等・公正について説得的に説明できる

## 授業方法

- ・テーマに関わる資料を講義の前後に読み、内容理解を深めることを期待する。
- ・講義が中心だが、ペア・小グループでの話し合いも含まれる。
- ・毎時間前半の15分～20分程度は、リアクションペーパーを利用した前回講義の復習をする。

## 授業計画

- |      |   |  |
|------|---|--|
| 第1回  | 1 | オリエンテーション  |
|      | 2 | 多文化社会アメリカにおける異文化コミュニケーションの実際：サンフランシスコを中心に            |
| 第2回  |   | 前期講義「異文化コミュニケーション」でカバーした重要理論、概念などの復習                 |
| 第3回  |   | カルチャーショックとは何か  |
| 第4回  |   | 異文化感性発達モデルについて：理論とモデルの意義                             |
| 第5回  |   | ステレオタイプの形成と維持、異文化コミュニケーションにおける問題点などについて              |
| 第6回  |   | 偏見・差別の構造   |
| 第7回  |   | コミュニケーションにおける関係性について                                 |
| 第8回  |   | コミュニケーションをめぐる共文化集団と主流文化集団の関係 その1：異文化としてのジェンダー        |
| 第9回  |   | コミュニケーションをめぐる共文化集団と主流文化集団の関係 その2：ジェンダーコミュニケーションの諸相   |
| 第10回 |   | コミュニケーションをめぐる共文化集団と主流文化集団の関係 その3：ジェンダーコミュニケーションとメディア |
| 第11回 |   | コミュニケーションをめぐる共文化集団と主流文化集団の関係 その4：メディア・リテラシーを考える      |
| 第12回 |   | 「多文化社会 日本」における異文化コミュニケーションと共生について                    |
| 第13回 |   | コミュニケーションスキルとしてのユーモアについて                             |
| 第14回 |   | 異文化トレーニング  |
| 第15回 |   | まとめ  |

## 成績評価の方法

定期試験 70%、授業への参加状況 30% (リアクションペーパーの内容)

## 履修にあたっての注意

- ・本講義は「異文化コミュニケーション」が履修済みであることが条件です
- ・学科を問わず ACE プログラム受講者は、1年次に履修することが望ましい
- ・欠席あるいはそれと同等の行為は1回につき総合点から3点を減点する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

資料(有料)を配布します。

## 参考書

古田暁 監修『異文化コミュニケーション』(有斐閣)  
J. コンドン『異文化間コミュニケーション』(サイマル出版会)  
K. S. シタラム『異文化間コミュニケーション』(東京創元社)  
ホフステード『多文化世界』(有斐閣)  
E. ホール『沈黙のことば』(南雲堂)  
E. ホール『文化を超えて』(TBSブリタニカ)  
南雅彦『言語と文化』(くろしお出版)  
石井、久米他『異文化コミュニケーション事典』(春風社)



## サブタイトル

（国際）政治学から読み解く現代日本

## 授業のねらい

本授業は、現代日本の課題と特に関連する論点を中心に、政治学と国際政治学の知見についての講義を行う。日頃のニュースで一般的に用いられる言葉（政党、官僚、福祉、デモクラシー……）が私たちの社会の中でどのような役割を果たしているのか、そしてどのような意義を持つものなのかを、政治学および国際政治学という学問的見地から説明していく。

民主社会である現代日本において、政治とは、私たち全員の生活全般に影響を及ぼす事象であるのみならず、私たち全員が影響力を行使することができる（しなければならない）事象でもある。〈私たちの生き方を規定する制度・ルールは、私たちの政治的な生き方・態度によって形成される〉この点を意識しながら、本授業では、私たちの政治的な生き方・態度に役立つ一つの学問としての政治学と国際政治学について、学習する機会を提供していきたい。

## 到達目標

- (1)政治学および国際政治学における基本的な用語や標準的な議論についての知識を獲得することができる。
- (2)現代の政治的課題とそれにまつわる意見の相違について理解し、説明することができる。
- (3)政治学および国際政治学の知識を参照することで、政治的課題に対して自らの見解を説得的に提示していくための力が身につけられる。

## 授業方法

授業は講義形式で行う。定期的リアクションペーパーを提出してもらい、次の講義回にてコメントする。中間課題として、現代の政治的課題について学生各自の興味関心に沿ってレポート作成（2000字程度）をしてもらい、その総評を第14回にて行う。

予習：各回で取り上げるテーマやそれに関連した実際の問題について、(1)日々のニュースや官公庁の発表について目を通しておく。(2)そうした問題について、自身がどのような見解を抱いていると言えるのかを熟考してみる。(3)下記の参考書をはじめとした政治学の教科書などを読み進め、政治学による標準的な説明や知識についてある程度理解を進めておく。（目安1-2時間）

復習：各回で取り上げたテーマについて、(1)そこで示した複数の説明や主張に対して、自らがどのように受け止めたのかを振り返って考える作業を行う。(2)それらの説明や主張に対して批判的に検討していけるよう、関連する教科書の記述や政治学の専門書（授業の中で適宜紹介する）を読み進めてみる。（目安1-2時間）

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——政治とは何か？ それを私たちが学ぶ意義とは何か？
- 第2回 権力・国内社会・国際社会——権力概念と国内外の政治
- 第3回 現代日本の政治——戦後政治史と現代の国際社会から見た日本政治
- 第4回 政党と政党制——政党の質と数の違いは何を意味するのか
- 第5回 選挙制度——代表を選ぶ仕組みはどうして重要なのか
- 第6回 官僚制(1)——政策形成過程における官僚の役割
- 第7回 官僚制(2)——市民や政治家はどのように行政組織と関わっているのか
- 第8回 利益団体——利益団体や民間企業はどのように政治に関与するのか
- 第9回 市民の政治参加——社会運動のあり方と投票行動につ

- 第10回 いて  
デモクラシーの二つの見方——熟議デモクラシーとは何か
- 第11回 福祉政治——グローバル化した現代における社会保障の課題は何だろうか
- 第12回 市場と国家——国家の役割と格差をめぐる（国際）政治理論
- 第13回 国内／国際政治——国内政治と国際政治との相互作用の重要性
- 第14回 現代政治の重要論点——学生のレポートへのフィードバックと論点の共有、検討
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定として、定期配布のリアクションペーパーの記述（10%）。到達目標(2)の測定として、レポート提出（30%）。到達目標(3)の測定を主として、定期試験（60%）。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業ではプリントを毎回配布し、それに沿って講義を行っている。参考書については、以下の文献をはじめとした政治学の標準的な教科書（記載した文献以外にも多数ある）のいずれか一冊を購入しておくことを、強く推奨する。

## 参考書

- 川出良枝 他（編）『政治学』（東京大学出版会、2012、ISBN：978-4130322195）  
 久米郁男 他（編）『政治学 補訂版』（有斐閣、2011、ISBN：978-4641053779）  
 建林正彦 他（編）『比較政治制度論』（有斐閣、2008、ISBN：978-4641123649）  
 砂原庸介 他（編）『政治学の第一歩』（有斐閣、2015、ISBN：978-4641150256）

## サブタイトル

現代世界の政治とグローバル正義論

## 授業のねらい

本授業では、国際関係論（国際政治学）の知見にもとづく説明を通じて、現代世界がどうなっているのか、その諸問題は何であるのかを学んでいく。それとともに、近年、欧米圏をはじめ世界的に研究の盛んな、グローバル正義論の基本的な知見を通じて、現代世界がどうあるべきか（どうであってはならないのか）を考えていく。

あらためて言うまでもなく、ヒトやモノ、資金、情報の越境的な移動の迅速化による世界の一体化——グローバル化——は、今を生きる私たちがすでに直面し、これからそれぞれへの対応が迫られる事象である。そうした中で、国境を越えた他者との相互交流の機会はますます増大し、一国社会では解決困難な様々な諸問題も生じている。以上を踏まえて、本授業では、私たちと国境を越えた他者との共生のあり方や、共に取り組まなければならないグローバルな課題についての理解を深めるべく、学術的な知見を活かした能動的な学習をはじめめるためのきっかけとなる機会を提供していきたい。

## 到達目標

- (1) グローバル化した現代世界の諸問題についての基本的な知識を獲得し、自らと異なる他者とともに抱えている共通の課題についての理解を深めることができる。
- (2) 国境を越えた他者との関係について論じてきた学問的な探求の仕方を学ぶことで、そうした関係性をめぐる思考力を養うことができる。
- (3) 自分の問題関心や見解を説得的に伝達するための、学術的な手法を身につけることができる。

## 授業方法

授業は講義形式にて行う。定期的にリアクションペーパーを配布し、そこでの疑問点や感想についてのコメントを次回の講義にて行う。

授業で扱うテーマや文献に関するレポート（4000字程度）を期末試験として課す。その前段階として、提出予定のレポートのプロポーザル（レポート計画書）を各自に準備してもらい、第14回目の授業時間やオフィスアワーの時間を用いて、学生個別の面談の機会を設ける。その中で、各自のプロポーザルを検討し、そのままレポート執筆を進めて良いかどうかのチェックを行う。その際、必要に応じて計画の修正や、プロポーザルの再提出を要求する場合がある。

予習：各回で取り上げるテーマやそれに関連した実際の問題について、(1)日々のニュースや官公庁の発表について目を通しておく。(2)そうした問題について、自身がどのような見解を抱いていると言えるのかを熟考してみる。(3)下記の参考書をはじめとした国際関係論の教科書や入門書を読み進め、この分野における標準的な説明や知識についてある程度理解を進めておく。(目安1-2時間)

復習：各回で取り上げたテーマについて、(1)そこで示した説明や主張に対して、自らがどのように受け止めたのかを振り返って考える作業を行う。(2)それらの説明や主張に対して批判的に検討していけるよう、関連する教科書の記述や国際関係論の専門書（授業の中で適宜紹介する）を読み進めてみる。また、取り上げたオリジナルの文献についても、自らの興味関心に沿って講読してみる。(目安1-2時間)

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——今の私たちが国際関係論、グローバル正義論を学ぶことの意義
- 第2回 現代世界と日本——今の世界の現状と、日本の国際的な取り組み
- 第3回 国際的な対立と平和的な共存(1)——国際政治学にお

- 第4回 国際的な対立と平和的な共存(2)——国際政治学におけるリベラリズムによる説明
- 第5回 平和と戦争について考える——日本の平和主義と安全保障
- 第6回 理想の社会と政治理論——グローバル正義論の予備作業としての社会正義論
- 第7回 J・ロールズの『万民の法』(1)——リベラルでない社会への寛容論と民主的平和論
- 第8回 J・ロールズの『万民の法』(2)——援助の義務、戦争や介入に関する正義
- 第9回 ロールズの国際正義への反論(1)——国際援助だけで十分なのか
- 第10回 ロールズの国際正義への反論(2)——遠く離れた見知らぬ人への道徳的義務
- 第11回 基本的人権と人間の安全保障——国際関係における人権の意義
- 第12回 私は世界の中でどう行為すべきなのか？——功利主義的な倫理学とグローバル社会
- 第13回 国を分かつ境界線をどう考えるべきか？——移民や国境をめぐる基本的問題
- 第14回 レポート作成に向けた学生提出のプロポーザルの検討
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定にあたる定期配布のリアクションペーパーの記述(20%)。到達目標(2)と(3)の測定にあたる期末レポート(80%)。

## 履修にあたっての注意

「政治学（国際政治学）入門」も履修することが望ましい。本講義は、「国際関係論」や「国際関係論特講 A」の履修に向けた入門的な科目として位置づけられている。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業では毎回プリントを配布し、それに沿って講義を行う。下記の参考書（記載したもの以外にも多数ある）をはじめとした、授業に関連する教科書、入門書のいずれかを少なくとも一冊は手元に置いておくこと。

## 参考書

- 村田晃嗣 他(編)『国際政治学をつかむ 新版』(有斐閣、2015、ISBN: 978-4641177222)  
 山田高敬 大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論 新版』(有斐閣、2011、ISBN: 978-4641049888)  
 田村哲樹 他(編)『ここから始める政治理論』(有斐閣、2017、ISBN: 978-4641150423)  
 押村高『国際正義の論理』(講談社、2008、ISBN: 978-4062879613)  
 馬淵浩二『貧困の倫理学』(平凡社、2015、ISBN: 978-4582857702)



35421

**基礎法学 A (憲法)**

担当教員：真鶴 俊喜

2 単位 後期

**サブタイトル**

法学の基礎概念と基礎理論

**授業のねらい**

法とはなにかについて、基本的な捉え方をおさえながら、法学全般の基本となる理念、歴史を中心に学ぶ。

**到達目標**

「法」に対する専門的かつ包括的なイメージを取得する。

**授業方法**

当授業は講義形式で進める。

**授業計画**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法とはなにか
- 第3回 法の概念と種類(1)－法の強制力
- 第4回 法の概念と種類(2)－法源による分類(1)
- 第5回 法の概念と種類(3)－法源による分類(2)
- 第6回 法の歴史(1)－法の誕生
- 第7回 法の歴史(2)－東西の法
- 第8回 法の歴史(3)－現代の法
- 第9回 大陸法と英米法
- 第10回 公法と私法(1)－総論
- 第11回 公法と私法(2)－判例研究
- 第12回 諸法をめぐる現代的な諸問題(1)－裁判と法
- 第13回 諸法をめぐる現代的な諸問題(2)－メディアと法
- 第14回 諸法をめぐる現代的な諸問題(3)－その他
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

授業の内容や進度に応じて、適宜課題を課すことがある。この課題は、授業で学んだ基礎知識の理解度を問う、いわゆる「小テスト」形式のものや、授業で扱う諸問題やテーマについての各自の意見や感想を問う形式のものなどを予定している。これらの課題を平常点(20%程度)とし、期末に行う考査の成績(80%程度)に加味して総合的に評価する。

**履修にあたっての注意**

講義形式であるが、受け身で臨まないこと。法学に関しては初学者の人が多いと思うが、必要以上に難しく考える姿勢を廃し、まず、講義内容を素直に聞き取ることを心がけるとよい。その上での批判や質問は歓迎する。

**教科書**

なし。

**参考書**

なし。

**参考ホームページ**

なし。

32721

**基礎法学 B-a (民法)**

担当教員：上机 美穂

2 単位 前期

**サブタイトル**

民法を学ぶ(民法の基本・権利の主体・親族・相続)

**授業のねらい**

民法は、日常生活の中の「財産行為」「身分(家族)行為」について規定する、わたくしたちの日常生活と直結する法です。民法の規定する事柄は多岐に渉るため、全項目を詳細に学ぶには時間的な制約もあります。

そこでこの授業では、まず民法の基本構造、基本原則などを学びます。そのうえで、「法律行為」「財産行為」「身分行為」の基本を現代的な問題をまじえながら学んでいきます。

**到達目標**

民法の基礎知識を身につけるとともに、具体的な事例などを考えることによって、法的観点から、日常生活における課題を解決する能力を養い、現在そして将来の生活に役立てることを目標とします。

**授業方法**

民法の基礎知識、および重要な論点を中心に、講義形式により説明します。民法は、一見すると皆さんからは遠い存在かもしれませんが、実はとても身近な法です。そこで、現代的な問題を紹介するなかで、皆さんの意見なども取り入れながら、講義を進行したいと思います。

**授業計画**

- 第1回 ガイダンス(民法とは?)
- 第2回 民法の基本原則と構造 他の法との関係
- 第3回 権利と義務 権利の主体(1)～民法における「人」とは?
- 第4回 権利の主体(2)～未成年者・成年後見
- 第5回 民法が関係する諸問題と現代的課題①不法行為
- 第6回 不法行為(1)損害賠償
- 第7回 不法行為(2)慰謝料
- 第8回 民法が関係する諸問題と現代的課題②夫婦関係 家族とは
- 第9回 夫婦(1)婚姻と内縁関係
- 第10回 夫婦(2)離婚
- 第11回 民法が関係する諸問題と現代的課題③親子関係 親子関係(1)実子と養子
- 第12回 親子関係(2)親権
- 第13回 民法が関係する諸問題と現代的課題④相続 相続とは何か
- 第14回 相続(1)相続人・法定相続・相続の効力
- 第15回 相続(2)遺言

**成績評価の方法**

期末試験(70%)、授業への参加状況(30%)により評価します。

**履修にあたっての注意**

この科目を履修する方は、後期開講予定の基礎法学 B-b も同時に履修することが望ましい。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書は、初回開講時に指示します。必要に応じプリント(レジュメ・参考資料)を配布します。

できれば六法(セレクト六法・ポケット六法など)を準備することを希望します。

参考書は、適宜紹介します。

32741

## 基礎法学 C-a (国際関係法)

担当教員：小林 友彦

2 単位 前期

### サブタイトル

グローバル化に伴って、私たちの生活に国際ルールがどのように影響するのか

### 授業のねらい

疎遠に感じられるかもしれませんが、国際法は私たちの生活や職業にさまざまな形で関わってきています。その基本的性質と現代的課題をバランス良く把握できるようにすることが本授業のねらいです。

### 到達目標

法学に初めて触れる方が大半であることを想定して、以下の3点を目標とします。

1. 国際法に関する基本的な用語の意味を把握することができる。
2. 国際法に関わる現代的な論点について、バランスのとれた把握ができる。
3. グローバル化する社会において国際法が果たす役割（とその限界）について、平易な言葉で説明することができる。

### 授業方法

取り上げる具体的なテーマは、履修者の興味関心に応じて決定します。それぞれのテーマについて、担当教員が概説したのち、履修者同士でグループワークしたりディベートしたりすること等を通して、理解を深めます。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：国際法を学ぶことにどのような意義があるのか
- 第2回 国際法は国内の法制度・文化・歴史とどのように関係するのか
- 第3回 国際法の基本原則
- 第4回 国際法に関わる現代的な課題の概観：環境保護・経済統合・人権保障・安全保障など
- 第5回 具体的テーマ1 [国家とは何か] (仮) (\*実際には履修者の希望に応じて決定します。以下同じ。):(1)総論[国家の成立要件の確認]
- 第6回 具体的テーマ1 :(2)各論[国家はどのような権利と義務を持つのか]
- 第7回 具体的テーマ1 :(3)現代的課題の検討[「イスラム国」の法的地位]
- 第8回 中間テスト (授業の進捗や履修者の希望等に応じてレポートや研究発表に変更の可能性あり)
- 第9回 中間テストの正答確認と振り返り
- 第10回 具体的テーマ2 [「気候変動」に対して何ができるか]:(1)総論[全世界的な課題について国際ルールを定めるにはどのような手続が必要か]
- 第11回 具体的テーマ2 :(2)各論[パリ協定は何を定めているのか]
- 第12回 具体的テーマ2 :(3)現代的課題の検討[米国脱退後のパリ協定にどのような実効的な効果があるのか]
- 第13回 国際法の作り方：国際ルール形成における「交渉」の機能
- 第14回 特論 (その時点で世間の注目を集めている話題についての解説) (または希望する学生による自主発表)
- 第15回 総括的な討論：これまでに扱った論点についての振り返り

### 成績評価の方法

試験 (70%) (\* 中間試験を行う場合は中間試験 (20%) と最終試験 (50%)) 及び授業時間中の能動的貢献 (\* 能動的貢献とは、授業時間中の質問・発言・グループワークなどへの参加を指します)

### 履修にあたっての注意

法学に大学で初めて触れる方が大半であるものと想定していません。事前知識がなくても支障ありません。ご自身の感じたことを発言・質問などの形で表現すると参加点がつきますので、解説を聞くだけでなく、積極的に発信することを奨励します。

### 教科書

森川幸一他『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く 32講』(岩波書店、2016、ISBN: 978-4000229555)

### 教科書・参考書に関する備考

履修確定前に購入する必要はありません。

### 参考書

林誠司編『カリンと学ぶ法学入門』(法律文化社、2015、ISBN: 978-4589036568)

### 参考ホームページ

小林友彦 (小樽商科大学ウェブサイト)  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/~kobayashi/> (参考用です)

35431

## 経済学入門（国際経済学を含む）

担当教員：神山 義治

2単位 後期

### サブタイトル

「経済」からみる人間と社会

### 授業のねらい

現代の経済は、金融化・情報化をはじめとする急速な変貌を遂げ、私たちはその膨大な影響のもとで生きている。開発と環境、企業と生活、国際経済と地域経済といった社会の実践的な問題群は、すべて経済のこうした急激な成長がもたらしたものである。経済の基本的な運動法則に沿ってこうした諸問題を解明することは、私たちの生活の向上と社会の発展にとって欠かせない。現代経済の基礎的なしくみとその成り立ちと展開を理解することによって、現代社会の諸問題に対して関心をもち、その解決策を提起するために必要な知識を身につけてもらうことを目標とする。

### 到達目標

1. 景気変動、市場、企業、金融市場、金融政策などの経済学の基礎的な用語を説明することができる。
2. 経済学の基礎的知識を身につけ、それを応用して、世界経済や日本経済のしくみを説明することができる。

### 授業方法

講義形式で行う。前半（第7回まで）は、経済の基本的なしくみと日本経済の全体像を解説することとその練習問題、後半（第8回以降）は、国際経済の現状とその課題の解説、練習問題に当てる。

毎回の授業では、受講者に予習・復習のための課題（2～4問、所要時間20～40分程度）を提供する。

### 授業計画

- 第1回 経済主体と経済の循環
- 第2回 景気変動と財政の役割
- 第3回 現代の市場経済 寡占企業の行動と消費者の権利
- 第4回 企業の巨大化と国際化 大企業と中小企業
- 第5回 経済成長と環境保全
- 第6回 金融市場と金融政策
- 第7回 産業構造の変化 工業と農業
- 第8回 経済のグローバリゼーション
- 第9回 地域統合と国際経済
- 第10回 南北問題と国際協力
- 第11回 世界の労働問題
- 第12回 世界の資源とエネルギー
- 第13回 経済の国際化と地球環境問題
- 第14回 技術革新と経済の変化
- 第15回 経済成長と人権・民主主義の発展

### 成績評価の方法

到達目標1および2を測定するための試験（70%）、授業への参加状況（30%）により評価する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義時にプリントを使用。  
参考書については、必要に応じて随時提示する。

35441

# 社会学入門

担当教員：櫻井 義秀

2単位 後期

## サブタイトル

社会学で考える現代日本

## 授業のねらい

現代社会で起こるさまざまな出来事 of 背景を読み解くために社会学の知識や視角は有益です。社会学の基本をテキストを用いながら、基礎・応用・発展の三段階で解説していきます。

## 到達目標

アクティブ・ラーニングのやり方で、学生の事前学習、グループ・ディスカッション、意見のまとめ方・伝え方の総合的な力を付けることを目指します。特に、グループごとの学習を重視し、プレゼンテーションの練習を行います。

## 授業方法

最初の15分を時事問題の解説として、新聞・雑誌記事を用いてみなさんからの意見も聞きます。

- 1) 学生自身に事前に読んできたテキストの1章をまとめてパワーポイントで説明してもらいます。考えてみよう含む。グループごと。
- 2) 教員が解説を加え、他のグループから質問等を受け、内容をディスカッションします。
- 3) 適宜、社会学の論文を事前に配付し、その講読を入れます。

## 授業計画

- |      |    |   |
|------|----|---|
| 第1回  | 1  | 社会学のあゆみ 1 社会とは何か 2 社会学の発想と方法 3 社会学のあゆみ 4 社会学に何ができるか                     |
| 第2回  | 2  | 社会調査法 1 社会調査とは何か？なぜ学ぶのか？ 2 社会調査の種類とプロセス 3 相関関係と因果関係                     |
| 第3回  | 3  | 家族 1 家族とは 2 家族の定義—幸福(well-being)が意味するものは何か 3 現代家族—課題と包摂の可能性             |
| 第4回  | 4  | 教育 1 なぜ学校はあるのだろうか 2 文化的再生産 3 「平等」と教育                                    |
| 第5回  | 5  | 政治・社会運動—社会運動とはどのようなものか 1 誰が、なぜ運動を起こすのか？ 2 社会運動研究の歴史 3 社会運動のいろいろ         |
| 第6回  | 6  | メディアの現在—現代社会を生き抜くための思考法 1 メディアとは何か 2 これからメディアとどう向き合うべきか 3 メディアで読み解く現代社会 |
| 第7回  | 7  | 地域社会とコミュニティ 1 地域コミュニティの必要性和可能性 2 まちづくりから住民自治へ 3 ライフスタイルの変革と循環型コミュニティ    |
| 第8回  | 8  | 労働 1 雇用労働の成立と生き方の変容 2 職場で経験する労働の諸側面 3 産業構造転換とグローバル化の中の労働                |
| 第9回  | 9  | 社会階層—格差と社会的排除 1 人間社会の歴史と身分・階級・階層 2 日本の社会階層 3 貧困と社会的公正                   |
| 第10回 | 10 | 福祉と社会保障—支え合う社会をどのように実現するか 1 福祉国家の成立 2 福祉国家の危機 3 福祉多元主義へ—さまざま            |
| 第11回 | 11 | グローバル化 1 グローバリゼーションと国民国家 2 グローバリゼーションと社会変容—経済・政治・文化 3 グローバル化時代を生き抜くために  |
| 第12回 | 12 | 少子高齢社会 1 少子高齢社会の実像 2 少子高齢化と保健・医療・福祉 3 これからの地域戦略                         |
| 第13回 | 13 | 地域社会とソーシャル・キャピタル—ソーシ  |

- ル・キャピタルは地域社会をどのように支えているのか 1 「ソーシャル・キャピタル」というアイデア 2 ソーシャル・キャピタルの可能性 3 コミュニティとソーシャル・キャピタル
- 第14回 14 ジェンダー・セクシュアリティ 1 ジェンダー、セクシュアリティのはたらき 2 社会生活の維持と再生産—ケアとリプロダクション
- 第15回 15 災害とコミュニティ 1 災害と社会 2 防災コミュニティの形成 3 復興とコミュニティ

## 成績評価の方法

授業参加とプレゼンテーション・ディスカッションへの参加 40% + 60%  
平常点が重視されるので、欠席の多い人、グループでの発表をしない人の点数はありません。発表順などは都合に合わせて調整します。

## 履修にあたっての注意

授業前にテキスト該当箇所の熟読。発表準備。

## 教科書

櫻井義秀他編『アンビシャス社会学』（北海道大学出版会、2014）

## 参考ホームページ

櫻井義秀研究室 <https://sakurai.cambria.ac/>

2018年度入学生  
専文化総合  
門科学  
目科



35451

## 心理学入門

担当教員：水野 君平

2 単位 後期

### サブタイトル

心の仕組みを科学的に捉える姿勢を身につける

### 授業のねらい

心理学において「心の仕組みを考える」というのは、日常生活で私たちが何気なく行っていることと、どのように違うのだろうか。

この問いにあたるため、心理学研究の様々な知見を紹介する。内容は個人内過程（3週～9週）から対人関係や集団内における心のはたらき（9週～11週）まで、多岐にわたるが、幅広い種類の研究知見を知ることによって受講者が人の心を多角的に把握する能力を得ることを目指す。また各テーマにおける心理学の視点や研究方法について取り上げ、心理学研究の意義について理解を促したい。

### 到達目標

心理学の基礎知識を身につけること、また得られた知識を基にして、さらに自ら考察する力を養うこと。

### 授業方法

授業は講義形式で行うが、適宜意見を求めることもある。講義中、簡単な課題（ショートレポートなど）を課すこともある。

予習は特に必要ないが、関心のある内容については積極的に資料等に当たっておくと良い。

事後は、講義中に得た知見を整理しておくこと。講義の初めに前回の復習課題を出す。

講義に関する質問は必要に応じて授業中で共有し、回答する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、心理学の視点
- 第2回 心理学研究法
- 第3回 感覚／知覚：環境を取り込む仕組み
- 第4回 記憶1：「人はビデオカメラではない」、覚え方／忘れ方のクセ
- 第5回 記憶2：様々な記憶の様式
- 第6回 学習：知識や行動様式獲得の道すじ
- 第7回 思考：高次レベルの情報処理
- 第8回 動機づけ：私たちを行動へ駆り立てるもの
- 第9回 感情：喜怒哀楽の実態と機能
- 第10回 自己：自分についての知識、評価、記憶
- 第11回 対人認知：他者を知る仕組み
- 第12回 対人行動：人と人との間での振る舞い
- 第13回 集団1：集団が個人へ与える影響
- 第14回 集団2：集団間認知
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

ショートレポートなどの課題(20%)と期末の筆記テスト(70%)に、参加状況を含めた授業態度(10%)を加味して評価する。  
※課題の多寡に応じて割合が変化することがある。

### 履修にあたっての注意

「心理学」を受講済みのこと  
真摯な授業態度が求められる。  
授業態度が著しく悪い場合は退室させるので、注意すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：適宜資料を配布。

参考書：その他、各単元に応じて適宜関連文献を紹介。

### 参考書

鹿取廣人 杉本敏夫 鳥居修晃（編）『心理学 第5版』（東京大学出版会、2015、ISBN：978-4-13-012109-5）

長谷川寿一 東條正城 大島尚 丹野義彦 廣中直行（共著）『はじめて出会う心理学 改訂版』（有斐閣アルマ、2008、ISBN：978-4-641-12345-8）

京都大学心理学連合（編）『心理学概論』（ナカニシヤ出版、2011、ISBN：978-4779503993）

35461

## 統計学入門（確率論を含む）

担当教員：小糸 健太郎

2 単位 前期

### サブタイトル

統計データをより正確に解釈できるようになる

### 授業のねらい

統計用語の意味と統計的な手法の限界について理解し、統計の数値をより正確に数値を解釈することができるようになること、適切な集計方法を選ぶことができるようになることを目指す。

### 到達目標

統計用語の意味、統計データの集計方法、基本的な統計の考え方を理解し、統計データをより正確に解釈することができる。

### 授業方法

原則的には講義形式である。実際に電卓を使って計算をすることで、基本的な統計の考え方を理解する。

事前学習：講義の最後に次回の内容を指示するので、教科書を予習のこと（所要時間 45 分程度）。

事後学習は、講義中の内容および演習問題を復習のこと（所要時間 45 分程度）。

小テストは、採点后に返却する。

### 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス：統計学を学ぶ意義について講義する。
- 第 2 回 統計データの整理：データの整理方法（各種グラフ、度数分布表、ヒストグラム、散布図）について講義する。また、表や図を利用する際に重要な資料の標記についても説明する。
- 第 3 回 標本分布の値の中心を示す特性値：平均値、中央値、最頻値について講義する。
- 第 4 回 標本分布の値のばらつきを示す特性値：分散、標準偏差、変動係数について講義する。
- 第 5 回 第 1 回小テスト（ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差など）  
二次元データの特徴を示す特性値：共分散と相関係数の意味とその解釈について講義する。
- 第 6 回 確率の基礎と確率分布(1)：先験的確率と統計的確率の概念、確率の計算について講義する。
- 第 7 回 第 2 回小テスト（分散、標準偏差、共分散、相関係数）  
確率の基礎と確率分布(2)：二項分布について講義する。
- 第 8 回 確率変数の期待値と分散：確率変数の期待値と分散の計算方法について講義する。
- 第 9 回 正規分布(1)：標準正規分布について講義する。
- 第 10 回 第 3 回小テスト（確率の計算、二項分布の期待値、分散）  
正規分布(2)：標準化と標準正規分布表について講義する。
- 第 11 回 標本平均の分布：標本平均の期待値と標準誤差、中心極限定理について講義する。
- 第 12 回 標本平均の推定の考え方：点推定、区間推定の考え方について講義する。
- 第 13 回 第 4 回小テスト（正規分布、区間推定）  
標本調査の考え方：標本調査における推定値と標本誤差について講義する。
- 第 14 回 仮説検定の考え方：仮説検定の概念について講義する。
- 第 15 回 まとめ：半期の内容のまとめ、および、M.S.Excel による分析ツールについても、簡単に説明する。

### 成績評価の方法

試験（50%）、小テスト（20%）、授業への参加状況（30%）により評価する。

授業への参加状況は、「到達目標」の「統計用語の意味、統計データの集計方法、基本的な統計の考え方」を理解するため、授業

中に電卓を使って演習問題を解くが、その積極的な姿勢を評価する。

小テストは、主に「到達目標」の「統計用語の意味、統計データの集計方法、基本的な統計の考え方」の理解度を測定する。定期試験は、「統計用語の意味、統計データの集計方法、基本的な統計の考え方」および「統計データの解釈」について測定する。

### 履修にあたっての注意

平方根（ルート）が計算できる電卓（通信が出来ないもの）を持参してください。

### 教科書

酪農学園大学統計学教育研究会『らくらく統計学』（ムイスリ出版、2006、ISBN：978-4896411300）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は、統計学の基本的な考え方について説明がある。ただし、講義では理解しやすいように応用例や補足、数値例を用いるため、プリントも使用します。

### 参考書

宮川公男『統計学でリスクと向き合う（新版）』（東洋経済新報社、2007、ISBN：978-4492470787）

青木繁伸『統計数字を読み解くセンス』（化学同人、2009、ISBN：978-4759813272）

向後千春、冨永敦子『統計学がわかる』（技術評論社、2007、ISBN：978-4774131900）



35631

## English for Global Competency a

担当教員：松根 マーク

2単位 前期

### サブタイトル

Communication Strategies I

### 授業のねらい

The general theme of this course is to introduce students to the values and attitudes of other cultures, with particular attention on Canadian society, as well as their own. The main focus of this course is to offer students an opportunity to develop their listening and speaking skills for the purpose of communication.

### 到達目標

Students will engage in listening and speaking activities including discussions and presentations related to various intercultural topics. ALL INSTRUCTION, COMMUNICATION AND ACTIVITIES WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH!!!

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Communication Forum. ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, etc.

Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and textbook-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 Course Outline, Course Survey, Mark's Classroom Moodle Account Explanation, Communication Forum
- 第2回 Vocabulary Building Homework Explanation, Introductory Speaking, Unit 1: Getting to know you
- 第3回 Unit 1: Appearance
- 第4回 Unit 2: Actions
- 第5回 Unit 2: Feelings and gestures
- 第6回 Unit 3: At the market
- 第7回 Unit 3: Let's go shopping! Non-verbal Communication, Presentation Topics, Word List Test (Stage 2)
- 第8回 Unit 4: Weather
- 第9回 Unit 4: Traveling
- 第10回 Unit 5: Pioneers
- 第11回 Unit 5: Personal heroes
- 第12回 Unit 6: Memory
- 第13回 Presentation Day 1
- 第14回 Presentation Day 2
- 第15回 Unit 6: Sleep, Word List Test (Stage 3)

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Vocabulary Building (Online Word List Activities): 10%, Weekly Online Communication Forum: 15%, Assignments: 40%, Vocabulary Quizzes: 10%, Exams, Projects: 25%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to

successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, *WORLD LINK 1 (3rd edition)* (センゲージラーニング株式会社, 2016, ISBN : 978-1305650787)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom

<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)

35641

## English for Global Competency b

担当教員：松根 マーク

2 単位 後期

### サブタイトル

Communication Strategies II

### 授業のねらい

The general theme of this course is to introduce students to the values and attitudes of other cultures, with particular attention on Canadian society, as well as their own. The main focus of this course is to offer students an opportunity to develop their listening and speaking skills for the purpose of communication.

### 到達目標

Students will engage in listening and speaking activities including discussions and presentations related to various intercultural topics. ALL INSTRUCTION, COMMUNICATION AND ACTIVITIES WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH!!!

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Communication Forum. ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, etc.

Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and textbook-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 2 nd Semester Course Outline, Mark's Classroom Moodle Account Update, Communication Forum, Summer Holiday Discussion
- 第2回 Unit 7: My neighborhood, Canada Overview
- 第3回 Unit 7: Big cities, Canadian Geography and Government
- 第4回 Unit 8: Sports
- 第5回 Unit 8: Personality, 2 nd Semester Presentation Instructions
- 第6回 Unit 9: Habits, 2 nd Semester Presentation Preliminary Outline, Word List Test (Stage 4)
- 第7回 Unit 9: Goals, Canadian Climate and Nature
- 第8回 Unit 10: The body, Canadian Prairies
- 第9回 Unit 10: Stress, Canadian Media
- 第10回 Unit 11: Talented people, Canadian Sports and Recreation
- 第11回 Unit 11: Risk
- 第12回 Presentation Day 1
- 第13回 Presentation Day 2
- 第14回 Year in Review Discussion
- 第15回 Word List Test (Stage 5), Course Survey

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Vocabulary Building (Online Word List Activities): 10%, Weekly Online Communication Forum: 15%, Assignments: 40%, Vocabulary Quizzes: 10%, Exams, Projects: 25%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, *WORLD LINK 1 (3rd edition)* (センゲージ ラーニング株式会社, 2016, ISBN : 978-1305650787)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom

<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)

35731

## 西洋史入門

担当教員：本間 俊行

2単位 後期

## サブタイトル

「古典古代」の形成と継承

## 授業のねらい

古代ギリシアと古代ローマは、西洋文化にとって模範とされる「古典古代」とみなされてきました。そして、明治以来の日本でも西洋の古典文化から大きな影響を受けてきました。この授業では、古代ギリシア・ローマで西洋の「古典文化」が形成され、それらが中世以降のヨーロッパに継承されていく過程を概観することを通して、西洋の歴史や文化に対する理解を深めてもらいます。

## 到達目標

1. 「古典古代」の特徴を理解すること
2. 「古典古代」の継承を通じて、西洋史を理解すること

## 授業方法

毎回配布するプリントをもとに、講義形式で進めます。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 神話と文学
- 第3回 政治制度——民主政、共和政、帝政
- 第4回 都市と美術
- 第5回 哲学と修辞学——古代の学問
- 第6回 古代宗教と東方系諸祭儀
- 第7回 キリスト教と古代教養
- 第8回 中世ヨーロッパの形成——カロリング・ルネサンス（8～10世紀）
- 第9回 中世ヨーロッパの発展——12世紀ルネサンス（11世紀～13世紀）
- 第10回 イタリア都市と地中海世界——ルネサンス（14世紀～15世紀）
- 第11回 主権国家体制の形成に向けて——北方ルネサンスと宗教改革（16世紀）
- 第12回 17世紀の危機と「新しい」時代（17世紀）
- 第13回 市民革命——啓蒙思想と古典主義（18世紀）
- 第14回 歴史のなかの「古典古代」——ナショナリズムと帝国主義（19世紀）
- 第15回 まとめ——現代における「古典古代」

## 成績評価の方法

期末試験（70%）と授業への参加状況（30%）により評価します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用しません。授業内容の概略を記したプリントを毎回配布します。

## 参考書

中井義明・佐藤専次・渋谷聡・加藤克夫・小澤卓也『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房、2007、ISBN：978-4623049097）  
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』（ちくま学芸文庫、2012、ISBN：978-4480094957）

35741

## 日本史入門 A（概論）

担当教員：石田 晴男

2単位 後期

## サブタイトル

日本中世史を概観する

## 授業のねらい

日本中世史の展開をいくつかのポイントから確認することで特徴を理解する。

## 到達目標

日本中世の流れを理解することができる。

## 授業方法

講義を主とする。

## 授業計画

- 第1回 院政
- 第2回 鎌倉幕府の展開
- 第3回 蒙古襲来と北条時宗
- 第4回 建武政権
- 第5回 足利氏と室町幕府
- 第6回 足利義満
- 第7回 足利義教の政治
- 第8回 嘉吉の乱と管領政治
- 第9回 足利義政と応仁の乱
- 第10回 明応二年の政変
- 第11回 一揆の世
- 第12回 「堺公方府」論
- 第13回 戦国の秩序
- 第14回 太閤検地論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート（20%）、試験（80%）。

## 履修にあたっての注意

歴史は暗記すれば点が取れるので、楽勝と思っている人は後悔します。

## 教科書

五味文彦『大学の日本史2』（東京大学出版会、2016）

35751

## 日本史入門 B (概論)

担当教員：松本 あづさ

2 単位 後期

## サブタイトル

日本近世史研究の世界

## 授業のねらい

教養科目「日本史 B」では近世の大まかな流れを確認しました。その基礎知識をふまえ、「日本史入門 B」では、近世の「政治」・「対外関係」・「社会と文化」に関わる主な論点について概説します。その際、ただ単に歴史的事件を暗記するのではなく、主要な学説とそれを形成した史料を確認しながら、専門的な日本史研究の方法を学んでいきます。出来るだけ多くの史料に触れながら、暗記科目とは異なる日本史研究の世界に慣れ親しんでいくことを目指します。

## 到達目標

1. 近世の政治・対外関係・社会と文化に関わる基本的な知識を身につける。
2. 近世の政治・対外関係・社会と文化の展開について理解を深める。
3. 史料をもとに考える日本史研究の方法に理解を深める。

## 授業方法

- ・配付資料とパワーポイントをもとに、講義形式で進めます。
- ・受講者からの質問・コメントについては、次週の配付資料で回答します。
- ・授業後、取り扱った分野に関する文献をもとに復習することが求められます(30分程度)。文献は配付資料に掲示し、授業でも指示します。

## 授業計画

- 第1回 時代区分論と「近世」
- 第2回 近世の政治(1)―江戸幕府の政治機構
- 第3回 近世の政治(2)―幕府と藩をめぐる研究
- 第4回 近世の政治(3)―改革政治をめぐる研究
- 第5回 近世の政治(4)―幕末の政治と天皇
- 第6回 近世の対外関係(1)―幕府のキリシタン政策
- 第7回 近世の対外関係(2)―「鎖国」をめぐる研究
- 第8回 近世の対外関係(3)―蝦夷地と琉球国
- 第9回 近世の対外関係(4)―幕末の外交交渉
- 第10回 近世の社会と文化(1)―大開発の時代と村落社会
- 第11回 近世の社会と文化(2)―民衆運動と百姓一揆
- 第12回 近世の社会と文化(3)―都市の時代としての近世
- 第13回 近世の社会と文化(4)―近世の学問と文字社会の広がり
- 第14回 近世の社会と文化(5)―近世史料のなかの女性と子ども
- 第15回 近世の社会と文化(6)―長命化社会の到来とライフサイクル

## 成績評価の方法

学期末の試験(50%)、小テスト(20%)、授業への参加状況(30%)により評価します。

## 教科書

深谷克己『江戸時代』(岩波書店、2000、ISBN:978-4005003365)  
 荒野泰典ほか『日本の時代史14~20』(吉川弘文館、2003)  
 藤井譲治・伊藤之雄編著『日本の歴史 近世・近現代編』(ミネルヴァ書房、2010、ISBN:978-4623055913)  
 藤井譲治ほか『日本近世の歴史1~6』(吉川弘文館、2011~2013)  
 藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史①~⑤』(岩波書店、2015)

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献については、配付資料にも記載します。

33591

## 東洋史入門 b

担当教員：川口 琢司

2 単位 後期

## サブタイトル

中央ユーラシア史概説

## 授業のねらい

ユーラシア大陸のほぼ中央部に位置した中央ユーラシアという歴史世界をとりあげます。具体的には、中国北部(華北)、モンゴル高原、中央アジア、ロシア南部等における草原遊牧民やオアシス定住民の活動に注目し、かれらがユーラシアの政治、外交、軍事、経済、文化に大きな影響をあたえてきた点を解説していきます。従来中国、インド、イラン、ロシア等の歴史を相対化することもねらいの一つです。

## 到達目標

1. 中央ユーラシアの歴史について基礎的な知識を身につけ、中央ユーラシアが一つの歴史世界であることを理解する。
2. 中央ユーラシアに隣接する中国、インド、イラン、ロシア等の歴史の多様性を理解する。

## 授業方法

配布資料を使いながら、講義形式で進めていきます。毎回、異なる民族や国家をとりあげ、関係する歴史上の人物に注目します。毎回、授業後にリアクションペーパー(授業内容についての感想・質問)を提出してもらいます。また、映像資料を用いた授業を1~2回予定しており、小レポートを提出してもらいます。小レポートは採点して返却します。事後学習としては、自筆ノートと配布資料を読み直し、授業中に指摘したポイントを復習すること。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 匈奴
- 第3回 北匈奴・エフタル・フン
- 第4回 月氏と貴霜(クシャーン)
- 第5回 柔然と突厥(テュルク)
- 第6回 突厥第二可汗国
- 第7回 ソグド
- 第8回 ソグド系突厥
- 第9回 ウイグル
- 第10回 カラ=ハン朝
- 第11回 大モンゴル国(モンゴル帝国)
- 第12回 元と西方諸ウルス
- 第13回 ティムール帝国
- 第14回 北元とオイラト・タタル
- 第15回 ジュンガルとロシア・清両帝国

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測定するための期末試験(70%)、授業への参加状況(20%)、映像授業をもとに課す小レポート(10%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

高校世界史の教科書、歴史地図帳、世界史図説などを併用し、とくに、高校世界史教科書の該当箇所を目を通したうえで授業に出席することが望ましい。なお、遅刻、無許可の早退、私語、居眠り、内職などを控えること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書はとくに使用しません。  
 参考書については、授業中に適宜紹介します。

33581

## 東洋史入門 a

担当教員：宮崎 聖明

2単位 後期

### サブタイトル

中国史概説

### 授業のねらい

本授業では、秦による中国統一から中華人民共和国建国までの中国の歴史を扱う。授業を通じて、中国という社会の特質とその変化を知り、中国社会の歴史的展開を追うことで中国に対する理解を深めることを目的とする。

### 到達目標

- (1)中国史の展開に関する基本的な知識を得ること。
- (2)上記の知識をもとに、中国社会の特質と変化について、各受講生が自分の考えを交えて理解すること。

### 授業方法

中国の歴史を通時的に扱う。各王朝・時代の特徴的な事象・テーマに焦点を絞って、講義形式で授業を行う。  
参考文献を活用し、事前に基礎事項に関する知識を得たうえで授業に臨むとともに、関連事項について授業後に復習を行うこと(予習・復習あわせて1時間程度)。また、毎回の授業後に、授業内容についての感想・質問を提出してもらう。感想・質問については、次回の講義冒頭において回答・コメントを行う。期末試験の評価については、本学ポータルサイトの「講義連絡」等を通じて問い合わせに応じる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：概念・用語の説明
- 第2回 秦：始皇帝の天下統一
- 第3回 前漢：漢王朝と匈奴
- 第4回 後漢～三国：豪族・外戚・宦官
- 第5回 南朝：貴族と南朝文化
- 第6回 北朝：「胡」と「漢」
- 第7回 隋唐：世界帝国の様相
- 第8回 唐後期～五代：分裂と変革
- 第9回 宋：士大夫の時代
- 第10回 宋・遼・金：東アジアの国際関係
- 第11回 元：モンゴル帝国のなかの中国
- 第12回 明：「北虜南倭」
- 第13回 清：「中華」の拡大
- 第14回 清末～民初：西洋の進出と中国の変化
- 第15回 民国期：「抗日戦争」の時代

### 成績評価の方法

到達目標(1)(2)を測定する期末試験(60%)と、授業への参加状況(40%)により評価する。授業への参加状況は、毎回提出する感想・質問により判断する。なお、講義出席回数が講義回数の3分の2以上に達しない者は試験の受験を認めない。

### 履修にあたっての注意

高校世界史の教科書に目を通し、中国史に関する基礎知識を確認した上で出席することが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用しない。参考書は、全体に関するものは下記「参考書」の項目を参照のこと。加えて専門的内容に関するものについては授業時に適宜指示する。

### 参考書

- 松丸道雄他 編『世界歴史大系 中国史 1～5』(山川出版社、1996-2002)  
平凡社 編『アジア歴史事典(新装復刊版、全12冊)』(平凡社、1984、ISBN:4582108008)  
尾形勇他 編『歴史学事典(全16冊)』(弘文堂、1994-2009)



30821

## 地理学基礎論（自然地理学を含む）

担当教員：上野 莉紗

2 単位 後期

### サブタイトル

日本の自然環境と人々の暮らし

### 授業のねらい

地理学的視点から、地域で起きている自然現象・人文現象を総合的に考える姿勢を養う。

他地域との比較を通して、自地域の特徴を考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 日本の自然環境の特徴を理解する。
2. 日本各地で起きている現象について、自然現象・人文現象の両面に着目して考えられるようになる。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進めます。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地理学とは何か？
- 第3回 日本の地形環境
- 第4回 日本の気候環境
- 第5回 日本の自然の恵み
- 第6回 日本の自然の災害
- 第7回 日本の都市
- 第8回 日本の農村
- 第9回 日本の文化
- 第10回 日本の交通の発達と生活の変化
- 第11回 国際社会と日本
- 第12回 日本の地域振興
- 第13回 日本の環境保全
- 第14回 日本の防災
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度（20%）
- ・毎回の授業で行うミニレポート（40%）
- ・最終講義終了後のレポート（40%）

### 履修にあたっての注意

中学校社会科および高等学校地理歴史科の地理学関係免許対応科目で「概論・概説」に対応する。

### 教科書

教科書は使用せずに、講義用の資料を配布します。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。地域や地名の参照のため、高等学校で使用した地図帳を持参してください。

### 参考書

地理教育研究会著『人の暮らしと動きが見えてくる！知るほど面白くなる日本地理』（日本実業出版社、2016）  
 吉田 英嗣著『はじめての自然地理学』（古今書院、2017）  
 山村順次編『新・日本地理』（原書房、2008）

30831

## 人文地理学

担当教員：上野 莉紗

2 単位 前期

### サブタイトル

日本の地域変容

### 授業のねらい

地図から地域変容を読み解く視点を養う。

他地域との比較を通して、自地域の特徴を考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 地図の基本的な読み解き方を理解する。
2. 全国の主要都市について、それぞれの地域がどのように変化してきたのか理解する。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進める予定ですが、受講人数が少なければゼミ形式に切り替える可能性があります。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人文地理学とは何か？
- 第3回 日本の自然環境
- 第4回 日本の自然の恵みと災害
- 第5回 日本の都市と農村
- 第6回 日本の地域誌(1) 北海道
- 第7回 日本の地域誌(2) 東北
- 第8回 日本の地域誌(3) 関東
- 第9回 日本の地域誌(4) 中部
- 第10回 日本の地域誌(5) 北陸
- 第11回 日本の地域誌(6) 近畿
- 第12回 日本の地域誌(7) 中国
- 第13回 日本の地域誌(8) 四国
- 第14回 日本の地域誌(9) 九州
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度（20%）
- ・毎回の授業で行うミニレポート（40%）
- ・最終講義終了後のレポート（40%）

### 教科書

平岡昭利編『読みたくなる「地図」東日本編』（海星社、2017）  
 平岡昭利編『読みたくなる「地図」西日本編』（海星社、2017）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。地域や地名の参照のため、高等学校で使用した地図帳を持参してください。

### 参考書

人文地理学会編『人文地理学辞典』（丸善出版、2013）

30841

## 地誌学

担当教員：上野 莉紗

2 単位 後期

### サブタイトル

北海道の地誌

### 授業のねらい

北海道の地域的特徴について理解を深める。

地理学的視点から、各地域で起きている自然現象・人文現象を総合的に考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 北海道の地域的特徴について理解する。
2. 各地域で起きている現象について、自然現象・人文現象の両面に着目して考えられるようになる。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進めます。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地誌学とは何か？
- 第3回 北海道の自然環境
- 第4回 北海道の歴史
- 第5回 北海道の地域誌(1) 札幌
- 第6回 北海道の地域誌(2) 小樽
- 第7回 北海道の地域誌(3) 三笠
- 第8回 北海道の地域誌(4) 函館
- 第9回 北海道の地域誌(5) 松前
- 第10回 北海道の地域誌(6) 洞爺湖・有珠山
- 第11回 北海道の地域誌(7) 稚内
- 第12回 北海道の地域誌(8) 帯広
- 第13回 北海道の地域誌(9) 北見
- 第14回 北海道の地域誌(10) 根室
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度 (20%)
- ・毎回の授業で行うミニレポート (40%)
- ・最終講義終了後のレポート (40%)

### 履修にあたっての注意

中学校社会科および高等学校地理歴史科の地理学関係免許対応科目で「概論・概説」に対応する。

### 教科書

教科書は使用せずに、講義用の資料を配布します。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。

### 参考書

平岡昭利編『北海道 地図で読む百年』(古今書院、2001)  
山下克彦・平川一臣編『日本の地誌3 北海道』(朝倉書店、2011)

35761

## 哲学入門

担当教員：松村 良祐

2単位 後期

### サブタイトル

人間的営みとしての哲学

### 授業のねらい

哲学は、私たちが日常において発する素朴な問いを発端とする学問である。私たちが普段口にする諸概念や世界の在り方、生や死、人間が行う種々様々な営みといったものについて、人々は数千年前から思考を巡らし、今日においてもなお色褪せぬような深い洞察をときに残している。こうした哲学という、様々な論理的可能性も考慮しつつ、理性を用いて問題を考える知的な営みは、物事に対する考え方を養うものであると共に、自己反省や他者との対話といった私たちの実生活でも十分に役立つものである。

本授業では、西洋哲学史の外観を辿りながら、言葉や世界、人間、倫理、社会、美といったテーマに焦点を当てる。その際、そのテーマについて論じた特定の哲学者の考えを紹介し、その考えが後世においてどのように理解され、また受容されていったのかを、テーマごとに二回の授業に亘って見ていく。そして、こうしたテーマをもとに古代から現代に至るまでの主要な哲学者たちの考えを紹介することで、哲学という営みの基本的な思考法や見方を学ぶことを目指す。

### 到達目標

- ・哲学という学問の概略と意義を説明できる。
- ・哲学の基本問題を把握した上で、西洋哲学においてその問題を取り扱った哲学者の標準的な議論を説明できる。
- ・論理的・批判的思考法を身に付けることで、自己反省・他者との対話などの実践的場面に、より堅実かつ柔軟な態度で臨めるようになる。

### 授業方法

- ・西洋哲学史の外観を辿りながら、言葉や世界、人間、倫理、社会、美といったテーマに焦点を当てる。
- ・個々のテーマについて論じた特定の哲学者の考えを紹介し、その考えが後世においてどのように理解され、また受容されていったのかを、テーマごとに二回の授業に亘って見ていく。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学とは何か？
- 第2回 哲学と哲学史：哲学史を学ぶ意義
- 第3回 哲学と言葉：哲学のオルガノン（道具）としての論理学
- 第4回 哲学と言葉：ベーコンと偏見・先入観としてのイドラ
- 第5回 哲学と世界の成り立ち：イオニアの自然哲学者たちと真実在としてのアイデア
- 第6回 哲学と世界の成り立ち：アリストテレスと質料・形相
- 第7回 哲学と人間：心の所在（脳と心臓）
- 第8回 哲学と人間：心身問題とその継承者たち
- 第9回 哲学と宗教：神と神秘体験
- 第10回 哲学と宗教：神の存在論証とその系譜
- 第11回 哲学と社会：近代理性と近代批判
- 第12回 哲学と社会：アーレントとアイヒマン裁判
- 第13回 哲学と美：ミーメーシス（模倣）としての芸術
- 第14回 哲学と美：天才と独創性
- 第15回 講義全体の概括と展望：今日において哲学が持つ意義

### 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

### 教科書・参考書に関する備考

本講義において使用するテキストは、コピーやプリントを配布する。

### 参考書

伊勢田哲司『哲学思考トレーニング』（ちくま新書、2005、ISBN：978-4480062451）

今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫、1987、ISBN：978-4061587878）

木田元『反哲学史』（講談社学術文庫、2000、ISBN：978-4061594241）

35771

## 倫理学入門

担当教員：勝西 良典

2単位 後期

### サブタイトル

西洋倫理学の基礎概念を学ぶ

### 授業のねらい

自由、責任、規範、目的、人格、権利、正しさ、善さ、幸福などといった言葉は、私たちの社会生活を導く大切な言葉であるが、その正確な意味を問われれば、途方に暮れる人も多いであろう。こうした言葉を駆使しながら私たちの生をよりよい方向に導くことを目指す学問が倫理学である。本講義では先の言葉などで示される倫理学の基本概念をできるだけ徹底して検討することにより、倫理的に生きるとはどのようなことか自分の力で考え、さまざまな価値観を持つ他者との間で信頼関係を構築できるようになるための基盤をつくることをめざす。

### 到達目標

1. 倫理学の基礎概念を理解する。
2. 自分の倫理的価値観を構築すると同時に、さまざまな価値観を理解し、他者との信頼関係を醸成するための努力ができる人間になる。

### 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】(60～90分)

- ・事前に資料が配られた場合は、よく読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。
- ・各テーマにかんして検討すべき論点を挙げた上で、自分の考えを整理しておく。

【事後学習】：期末レポートを書く想定で、授業での議論を踏まえながら自分の考えを整理する。(90～120分)

【フィードバック】：前回授業のリアクションペーパーへの回答、朱入れしたレポートの返却、ないし希望者に対する面談等によって行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング：倫理学とは何か
- 第2回 行為主体としての人間(1)：身体的動作と行為
- 第3回 行為主体としての人間(2)：欲求・意志・理性
- 第4回 行為主体としての人間(3)：幸福追求と善の追求
- 第5回 行為主体としての人間(4)：幸福と目的
- 第6回 自由と帰責(1)：自由 VS 自然法則（ピュシス）／自由 VS 人為の法律（ノモス）
- 第7回 自由と帰責(2)：意志の弱さ・実践理性の無知・悪魔的意志
- 第8回 徳(1)：徳とは何か
- 第9回 徳(2)：行為の習慣づけと人格形成
- 第10回 正義(1)：正しさと規範
- 第11回 正義(2)：正しさの社会性と個人
- 第12回 愛(1)：盲目的愛と合理的愛／利己的愛と利他的愛
- 第13回 愛(2)：愛された経験と開かれた愛
- 第14回 行為の評価
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート（70%）、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー（30%）

### 履修にあたっての注意

共通科目の教養科目として前期に開講されている「倫理学」を合わせて受講すること（本科目は「倫理学」の知識を前提とする）。

授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書に代わるものとして、授業中に適宜プリントを配布する。下記以外の参考書については、初回にある程度まとまった量を、その後は適宜紹介する。

### 参考書

宇都宮芳明、熊野純彦編『倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1994、ISBN：978-4790705239）

35781

## ラテン語 I -a

担当教員：小原 琢

2 単位 前期

### サブタイトル

ラテン語初級文法（前期）

### 授業のねらい

ラテン語の第一印象は難しい。ちんぷんかんぷん…。でも学びは始めると、その印象が変わります。意外に簡単、英語理解に役立つ…そんなラテン語の世界を散歩してみませんか。散歩道は五里霧中。しかし観光ガイドの私が丁寧な文法解説を行い、簡単な暗記法を教えます。だから心配ありません。

### 到達目標

受講生はラテン語の基礎知識を習得し、平易なラテン語文を訳すことができるようになります。

### 授業方法

1. 教科書の順序に従って文法事項を解説し、練習問題を解きながらラテン語の学習を深めてゆきます。授業計画に従って授業を進める予定ですが、受講生の理解度をみて調整します。
2. 毎回の授業終了時に次回の学習箇所を示します。予習は教科書や資料に目を通してください（所要時間 30 分程度）。復習は当日の学習箇所を教科書や資料にて確認してください（所要時間 60 分程度）。
3. 定期的に簡単な復習テストを行って、受講生の習熟度を確認します。復習テストは採点后に返却し、解答を配布します。

### 授業計画

- 第1回 アルファベットと発音
- 第2回 動詞(1)：直説法能動態現在
- 第3回 動詞(2)：sum 直説法現在
- 第4回 名詞(1)：第1変化
- 第5回 名詞(2)：第2変化
- 第6回 前置詞
- 第7回 形容詞(1)：第1・第2変化
- 第8回 名詞(3)：第3変化・子音幹
- 第9回 名詞(4)：第3変化・i幹
- 第10回 形容詞(2)：第3変化・3語尾・2語尾
- 第11回 形容詞(3)：第3変化・1語尾
- 第12回 形容詞(4)：代名詞型
- 第13回 分詞：現在分詞
- 第14回 動詞(3)：直説法受動態現在・活用
- 第15回 動詞(4)：直説法受動態現在・能動文から受動文へ

### 成績評価の方法

復習テストの成績（60%）と授業への取り組み（40%）によって評価します。学期末試験は行いません。

### 履修にあたっての注意

教科書と辞典を購入して、毎回持参し、授業中に終えることのできなかった練習問題を自宅で行って次回の授業に備えてください。教養を深めるためにラテン語を楽しく学びましょう。

### 教科書

土岐健治・井坂民子『楽しいラテン語』（教文館、2002、ISBN：978-4764272156）  
水谷智洋『羅和辞典＜改訂版＞』（研究社、2009、ISBN：978-4767490250）



35791

## ラテン語 I -b

担当教員：小原 琢

2単位 後期

### サブタイトル

ラテン語初級文法（後期）

### 教科書・参考書に関する備考

前期「ラテン語 I -a」で使用している教科書を継続して用いる。

### 授業のねらい

ラテン語の散歩道を歩いていると、道端に可憐な草花が咲いていることに気づきます。たまには休んで、草花を眺めてみましょう。草花をとおしてキリスト教の思想や西洋人の知恵が見えてくるかもしれません。少しずつ羅和辞典に慣れて、語源から単語の意味を考えたり、英単語への関連にも気を配りましょう。

### 到達目標

前期「ラテン語 I -a」に引き続き、受講生はラテン語の基礎知識を習得し、平易なラテン語文を訳すことができますようになります。

### 授業方法

1. 前期終了後の学習箇所から教科書の順序に従って文法事項を解説し、練習問題を解きながらラテン語の学習を深めてゆきます。授業計画に従って授業を進める予定ですが、受講生の理解度をみて調整します。
2. 毎回の授業終了時に次回の学習箇所を示します。予習は教科書や資料に目を通してください（所要時間 30 分程度）。復習は当時の学習箇所を教科書や資料にて確認してください（所要時間 60 分程度）。
3. 定期的に簡単な復習テストを行って、受講生の習熟度を確認します。復習テストは採点后に返却し、解答を配布しません。

### 授業計画

- 第1回 名詞(1)：第4変化
- 第2回 名詞(2)：第5変化
- 第3回 代名詞(1)：人称・再帰
- 第4回 代名詞(2)：指示
- 第5回 代名詞(3)：疑問
- 第6回 代名詞(4)：関係
- 第7回 形容詞(1)：比較級
- 第8回 形容詞(2)：最上級
- 第9回 動詞(1)：直説法未完了過去
- 第10回 動詞(2)：直説法未来
- 第11回 動詞(3)：直説法完了・過去完了
- 第12回 分詞(1)：完了分詞・未来分詞
- 第13回 分詞(2)：分詞構文・絶対奪格
- 第14回 動詞(4)：命令法
- 第15回 動詞(5)：デポネンティア・欠如動詞

### 成績評価の方法

復習テストの成績（60％）と授業への取り組み（40％）によって評価します。学期末試験は行いません。

### 履修にあたっての注意

毎回、教科書と辞典を持参し、授業中に終えることのできなかつた練習問題を自宅で行って次回の授業に備えてください。前期に引き続き、教養を深めるためにラテン語を楽しく学びましょう。

### 教科書

土岐健治・井坂民子『楽しいラテン語』（教文館、2002、ISBN：978-4764272156）

水谷智洋『羅和辞典＜改訂版＞』（研究社、2009、ISBN：978-4767490250）

36061

## 古代・中世哲学史

担当教員：三浦 洋

2 単位 後期

### サブタイトル

哲学の原型を学ぶ

### 授業のねらい

この授業では、古代と中世における主要な哲学思想を概観し、そのことを通じて哲学という学問の成り立ちが理解できるよう進めてゆきます。個々の哲学者が思考した内容をできるだけ具体的にとらえ、なぜそのような思想が生まれたかを見ていきますが、より大きなねらいは、哲学独特の問題の立て方や探究方法を把握してもらうことにあり、現代哲学に引き継がれた問題の原型を確認します。

### 到達目標

1. 授業の各回で取り上げる哲学者たちの思想内容を精密に理解し、正確な言葉を用いて明確に表すことができる。
2. 学んだ思想を論理的にとらえ、それらを活用して自らの思考についても論理的に組み立て、表現することができる。

### 授業方法

講義形式で、古代と中世の哲学史を時代順に説明してゆきます。受講者には、前回の内容を復習して授業に臨むことが求められます（復習に要する時間は30分～1時間程度）。

### 授業計画

- 第1回 哲学のはじまり
- 第2回 ミレトスの自然哲学
- 第3回 ヘラクレイトスの思想
- 第4回 ピタゴラス派
- 第5回 エレア派
- 第6回 機械論と目的論
- 第7回 ソフィストとソクラテス
- 第8回 プラトンの対話篇
- 第9回 アリストテレスの思想
- 第10回 古代哲学のまとめ
- 第11回 中世哲学の概観
- 第12回 アウグスティヌスと教父哲学
- 第13回 12世紀ルネサンスの思想
- 第14回 トマス・アクィナスとスコラ哲学
- 第15回 中世哲学のまとめ

### 成績評価の方法

授業内に行う小テスト（50%）と定期試験の成績（50%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

教科書として使う『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』を早めに入手してください。

### 教科書

岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』（有斐閣、1993、ISBN：978-4641059559）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書はとくにありませんが、授業内容に関連する書籍は、その都度紹介します。

34251

## 文総特殊講義 a

担当教員：平藤 喜久子

2 単位 集中

### サブタイトル

世界の神話を学ぶ

### 授業のねらい

さまざまな地域の神話について、その背景にある宗教文化とともに知り、神話学の基本的な方法を学ぶ。現代の国際社会に通用する宗教文化への理解を深める。

### 到達目標

神話学の研究方法を理解し、神話の比較の意義について理解する。神話と現代との関わりについても考える。

### 授業方法

前半では、各地域の神話についての基礎知識と代表的な物語について知識を得て、後半では具体的に神話の比較を行なっていく。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：神話学入門
- 第2回 日本神話
- 第3回 オリエントの神話
- 第4回 エジプトの神話
- 第5回 ギリシャ・ローマ神話(1)
- 第6回 ギリシャ・ローマ神話(2)
- 第7回 ギリシャ・ローマ神話(3)
- 第8回 北欧神話
- 第9回 北欧神話
- 第10回 インド神話
- 第11回 世界のはじまりの神話(1)
- 第12回 世界のはじまりの神話(2)
- 第13回 英雄神話(1)
- 第14回 英雄神話(2)
- 第15回 試験（机上レポート）

### 成績評価の方法

試験（レポート形式）70%  
授業への参加状況 30%

### 履修にあたっての注意

特になし

### 教科書

なし

### 参考書

平藤喜久子、松村一男、山田仁史『神の文化史事典』（白水社、2013）



# 履修の手引き





## 1. 大学共通科目

大学共通科目の必修科目及び単位数は次のとおりである

科目名	単位数
キリスト教学	2単位
聖書学	2単位
女性とキャリア	1単位
	合計3科目 5単位

## 2. 外国語科目

〈2015年度以降入学生〉

外国語科目

- a、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語は、各外国語の初級 AI・AII・BI・BII の4科目を履修しなければその中級を履修することはできない。
- b、英語の場合は、科目を自由に組み合わせてよい。ただし、プレイスメントテストを受けて、Academic Communication A または Academic Communication B を履修することが望ましい。
- c、受講者が多い場合は、人数制限をすることがある。その場合には、調整結果を掲示により連絡するので、確認してから履修登録をすること。

### 英語文化学科

初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	このうち1外国語8単位以上選択必修
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

### 日本語・日本文学科

Academic Communication AI・AII・BI・BII、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち1外国語8単位以上または2外国語各4単位以上合計8単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

※2外国語を卒業要件として履修する場合、英語以外の外国語の組み合わせは、原則として初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、初級フランス語 AI・AII・BI・BII、初級中国語 AI・AII・BI・BII、初級韓国語 AI・AII・BI・BII の、いずれかで履修しなければならない。

## 文化総合学科

Academic Communication AI・AII・BI・BII、Essential Vocabulary & Grammar、Practical English A・B・C・D、Interactive English A・B・C・D、Academic Listening & Note-taking、Academic Speaking & Discussion、Academic Reading AI・AII・BI・BII、English for Global Communication A・B、CLIL English A・B	このうち1外国語8単位以上選択必修
初級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、中級ドイツ語 AI・AII・BI・BII、上級ドイツ語 I・II	
初級フランス語 AI・AII・BI・BII、中級フランス語 AI・AII・BI・BII、上級フランス語 I・II	
初級中国語 AI・AII・BI・BII、中級中国語 AI・AII・BI・BII、上級中国語 I・II、中国語実践演習 A・B、中国語文献解読演習 A・B	
初級韓国語 AI・AII・BI・BII、中級韓国語 AI・AII・BI・BII、上級韓国語 I・II、韓国語実践演習 A・B、韓国語文献解読演習 A・B	

- ◇ 3学科とも、上記の卒業要件以上に外国語を修得した場合は、自由選択単位として算入される。
- ◇ 教職免許状を取得する場合は、卒業要件を満たすと同時に、教職課程履修要項で外国語コミュニケーションの科目として指定されている科目の中から、2単位を履修しなければならない。

### 3. 他学科からの選択必修

3学科とも所属学科以外に開かれている科目（クラスター基礎科目）を4単位以上選択必修として履修しなければならない。クラスター基礎科目については『クラスター履修ガイド』を参照すること。尚、この4単位は1・2年次までに履修することが望ましい。

## 4. 英語文化学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

英語文化学科のカリキュラムは、「学科基礎科目」と「卒業研究関連科目」は必修科目ですが、それ以外の科目は選択必修科目あるいは選択科目です。ですから自分が興味を持ってそうな科目ばかりを集中的に履修することもできますし、さらに他学科の科目も含めて様々な領域の科目を興味・関心に沿って幅広く履修することも可能です。しかし、このカリキュラムでは最終的に4年次の卒業研究（卒業論文）に結実することを目標として編成されているので、なるべく早い時期に自分が関心を持てる領域を見つけることが大事なのはいまでもありません。

そのために4つの「系」、すなわち「文学系」「英語学系」「コミュニケーション系」「総合研究系」が用意されています。「系」は「コース」とは違って、強い拘束力を持つものではありません。「コース」のように入り口によって進む道が違ってくるというのではなく、入り口は一つですが、ゴールが複数用意されているものと考えて下さい。これは皆さんが卒業研究に向けて4年間勉強してゆくための道標のようなものなのです。ですから、ある一つの系を選んだ後でも別の系の科目を履修することも自由ですし、また、途中で系を変更することも可能なのです。

ところが、英語文化学科に所属して勉強してゆくうちに、この学科本来の領域を越えた卒業研究のテーマに出会うことがあったり、あるいは、どうしても自分の好みに合った分野、つまり系がここで

は見つからない、むしろ他学科に用意されている学問分野に興味を覚える、ということが起こるかもしれません。その時には、4つの系を選ばずに、学科を横断して設定された科目群である「クラスター」を選んで卒業研究に向けて勉強してゆくことも可能です。詳しくはクラスター履修に関する説明を参照して下さい。

## 2 4つの系の紹介

### (1) 文学系

現在は英米の文学を扱った科目が主流となっていますが、原則として英語で書かれたものであれば世界中のどの国の作品でも研究対象となります。この系を選ぶには、日ごろから英語に限らずいろいろな文学作品に親しんでいることが大事なのは言うまでもありませんが、「文学とは何か」「文学は何のためにあるのか」などが分からないと感じている学生も、この系の中で答えを見つけることができるかもしれません。

### (2) 英語学系

この系は単なる語学学習を越えて、英語そのものに興味を抱いてもっと深く研究してみたいと思う人のための系です。音韻論、統語論、形態論、意味論、文体論など、英語学の下位区分は多種多様です。また、英米以外にもオーストラリアやカナダなどを始めとして世界の様々な地域で英語が話されているのですから、その地域特有の英語の特徴を研究することも出来るでしょう。アプローチの方法は無限にあります。

### (3) コミュニケーション系

コミュニケーションができるということはどういうことでしょうか？ それは言語の文法構造や単語を知っているだけではなく、言語・非言語情報の伝達を通して、円滑な人間関係を築くことが出来るということです。そこには、コミュニケーションの主体となる人間が属する社会や文化への理解も必要となります。この系では、私たちのコミュニケーション活動がどのように営まれているのかを学問的に見つめ直すことによって、その仕組みや問題点などについて学んでいきます。

### (4) 総合研究系

文学や語学のことを考えているつもりが、気がつくと歴史や思想、そしてもっと広い文化領域のほうに踏み出てしまっている、あるいはいつのまにか英米文化と日本文化の狭間に身を置いてものごとを考えている、ということがあるでしょう。もちろん初めからある地域についての文化研究や二つの文化の比較研究に関心を持っている人もいるでしょう。この系はそのような横断的な学生のために用意されています。

## 3 科目の区分と履修上の注意

英語文化学科のカリキュラムはいくつかの区分に分類されています。そして区分ごとに必修単位や選択必修単位が設定されています。以下、それぞれの区分について簡単に説明しながら、履修上大切なポイントを挙げてゆきます。

### (1) 学科基礎科目

本学科で研究してゆくための基礎的な英語力を養う科目群です。すべて1、2年次に開設される少

人数クラスの科目ばかりです。どれも必修科目ですので、取りこぼしのないように気をつけて下さい。3年に進級する時には1年次の学科基礎科目10単位すべて取得しておくことが条件です。1、2年次で履修漏れがあると、3、4年次に再履修しなければなりません。その時に3、4年次開設科目と時間割上ぶつかってしまい、取りたい科目が自由に取れないばかりか、場合によっては4年間で卒業できないという事態も生じますので十分注意して下さい。

学科基礎科目は1講の授業を2分割したり、大部分の科目をネイティブの教員が担当するなど、開講形態に工夫を凝らして、科目間で互いに連動した総合的な授業が展開されます。詳しくはオリエンテーションで説明されますが、その時配布される資料や時間割をよく参照して、間違いのないように受講して下さい。

## (2) 講読科目

英語文化の研究は基本的に読むことを通して行なうべきとの考えから、このカリキュラムでは「学科基礎科目」の「Reading I」「Reading II」に加えて「講読科目」を複数用意してあります。「基礎講読科目」（1、2年次）と「専門講読科目」（2、3年次）に分かれています。いくつかのジャンルから自分が興味を持てる内容の科目を選んで、「基礎」と「専門」からそれぞれ2科目2単位ずつ、合計4科目4単位以上を卒業までに忘れず履修するようにして下さい。

## (3) 基礎演習科目

1、2年次用の演習科目という名目ですが、事実上、3、4年次の本格的な演習に至るための演習入門的な性格を持った科目です。そしてまた、最初の2年間で関心を持てる系を見つけるための大切な科目でもあります。2年間で2科目4単位だけ履修すればよいことになっていますが、できれば異なる系の演習を3科目程度履修してみるのがよいかもしれません。ただし2年間で4科目を越えて履修しないようにして下さい。（少人数クラスを実現するためです。）

※少人数クラスを実現するために、受講生は25名以下に制限されますので、注意して下さい。

## (4) 文学系講義科目、総合研究系講義科目、英語学系・コミュニケーション系講義科目

系別に分類された講義科目です。これらの科目も系を選択する際に重要な材料になるはずです。

1年次に開講している文学史や概論の科目は、前期と後期の両科目を履修することが効果的です。その他の科目はそれぞれの分野の基礎・専門科目が多く設定されています。

自分の選んだ系の講義科目からは多めに履修しなければいけないので、注意が必要です。1、2年次に各系の講義科目で定められた学科選択必修分を履修して（3区分で合わせて8単位、もちろんそれ以上修得することが望ましい）、系が決まった3、4年次に自分の系の科目をさらに上乘せして履修する（系で定められた選択必修単位数を充足させる）というのがよい履修方法でしょう。

## (5) 実践英語科目

実践英語科目には、学科基礎科目で培った英語力をさらに発展させるために効果的な科目が用意されています。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの4技能を向上させたり、さらには翻訳や通訳の技能を学んだりすることが出来ます。そうすることで、就職先で英語を活用するため、あるいは留学や、卒業後に海外の大学院に進学するための準備にもなります。すべて選択科目です。ぜひチャレンジしてみてください。

## (6) 演習科目



卒業研究につながる大事な、そして本格的な演習科目です。3、4年次開講となっていますが、実質的に4年間で一番勉強に専念できる3年生が主体となります。3年のうちに2科目8単位修得するのがよいでしょう。文学系、英語学系、コミュニケーション系は同一系の演習科目から8単位、総合研究系は総合研究演習AまたはBを含めて8単位を修得して下さい。

※少人数クラスを実現するために、受講生は25名以下に制限されますので、注意して下さい。

#### (7) 卒業研究関連科目

「Academic Writing I」と「Academic Writing II」は3年次の必修科目です。4年次で卒業論文を書くための準備として欠かせない授業です。「卒業研究演習」は4年次の必修の演習科目です。内容的にも自分が選んだ卒業研究（論文）のテーマと関連した演習となります。

#### (8) 他学科の科目

文学部では、所属する学科とは無関係に自由に他学科の科目を履修することができます。担当教員の許可が必要な場合もありますが、原則として自由に履修できます。例えば、コミュニケーション系で勉強したいと思う学生には文化総合学科の「異文化コミュニケーション系列」の科目群が役に立つでしょうし、総合研究系の学生の場合は同じく文化総合学科の思想、歴史関連の科目を履修する必要があるかもしれません。文学や英語学に関心がある学生は日本語・日本文学科のカリキュラムに魅力的な科目を見つけることができるでしょう。そうして、学科横断の「クラスター」を選んで卒業研究に進むこともできます。

### 4 卒業研究について

英語文化学科を卒業するためには、4つの系の中から一つ選んで、4年次に「卒業研究」を修得する必要があります。「卒業研究」は最終的に卒業論文を提出します。

卒業論文は、5,000語以上の長さの英文で書かなくてはなりません。自分の考えを、論旨を組み立てて正確に表現する力はもちろんのこと、かなり高度な英作文の力も求められます。

提出期限は4年次の12月15日正午（厳守）です。詳しくは『学生便覧』の「英語文化学科卒業研究規程」を参照して下さい。

※卒業論文の仮題目（テーマ）は3年次の1月31日までに提出しなければなりません。しかし、実は3年次4月の段階で演習科目を選択するわけですから、その時までには少なくとも系の選択が実質的になされていなければなりません。つまり、それまでの1、2年次の勉強がとても大事になってくるのです。繰り返しになりますが、1、2年次の基礎演習科目や講義科目を通して関心の持てる分野を見つけ出せるように、最初の2年間から有意義な学生生活を送るよう心がけて下さい。

### 5 英語文化学科の教員と専門分野

本学科所属の教員と専門分野は次の通りです。

井筒美津子 准教授	言語学（語用論、談話分析、認知言語学、社会言語学）
大桃 陶子 准教授	イギリス文学、イギリス文化
岡本 晃幸 講師	アメリカ文学、アメリカ文化



木村 信一 教授	アメリカ文学、アメリカ文化
工藤 雅之 准教授	英語教育、教育工学、応用言語学
對馬 康博 講師	認知言語学（認知文法、構文文法）、英語学
英 美由紀 准教授	イギリス文学、イギリス文化
Mueller, Charles 准教授	第二言語習得、英語教育
山木戸浩子 准教授	言語学（特に形態論、役割語研究）
Redlich, Jeremy 准教授	ドイツ文学、イギリス文学

## 6 4年間の履修の一例

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
一 年	外国語 (4) キリスト教学 (2) 聖書学 (2) Grammar I, II (1) Writing I, II (1) Oral English I, II (4) Reading I, II (2) Voice & Articulation I, II (1) Listening I, II (1) 女性とキャリア (1)  計 19 単位	基礎講読科目 (2 程度) 基礎演習 (4 程度) 講義課目 (4・6 程度) 他学科開講科目 (クラ スター基礎科目) (4)	Skills for the TOEFL Skills for the TOEIC 他学科開講科目 など	適切に系を選択するた めになるべく多くの講 義課目を履修するこ と。  基礎演習は5科目を上 限とする。
	計 32 単位以上			
二 年	外国語 (4) The Art of Writing I, II (2) Oral English III, IV (2) Reading III, IV (2)  計 10 単位	専門講読科目 (2 程度) 基礎演習 (2 程度) 講義課目 (4・6 程度) English Discussion I (1)	Skills for the TOEFL Skills for the TOEIC 児童英語 児童英語活動 I 特殊講義 a テーマ研究科目 他学科開講科目 など	
	計 32 単位以上			
三 年	Academic Writing I (1)、 Academic Writing II (1)	講読科目 (2 程度) 演習科目 (8 程度) 講義科目 (8 程度) 実践英語科目の中で選 択必修となっている科 目 (2 程度)	Advanced Reading English Discussion Public Speaking 児童英語 児童英語活動 II 通訳ワークショップ 英語学研究 コミュニケーション研究 英米文化研究 特殊講義 b テーマ研究 他学科開講科目 など	3 年次中に演習科目を なるべく2科目8単位 修得すること。 また、実践科目の英語 科目を2科目2単位履 修すること。
	計 32 単位以上			
四 年	卒業研究演習 (4) 卒業研究 (4)	講読科目 (2 程度) 講義科目 (4 程度) 実践英語科目の中で選 択必修となっている科 目 (2 程度)	Advanced Writing 英語学研究 コミュニケーション研究 英米文化研究 特殊講義 c テーマ研究 他学科開講科目 など	これまでの総単位数を チェックして履修する こと。
	計 28 単位以上			
4 年間で計 124 単位以上				

( ) 内は単位数。

各学年の単位数はあくまで目安の数字です。実際には与えられた数字よりも多めに履修するように心がけて下さい。

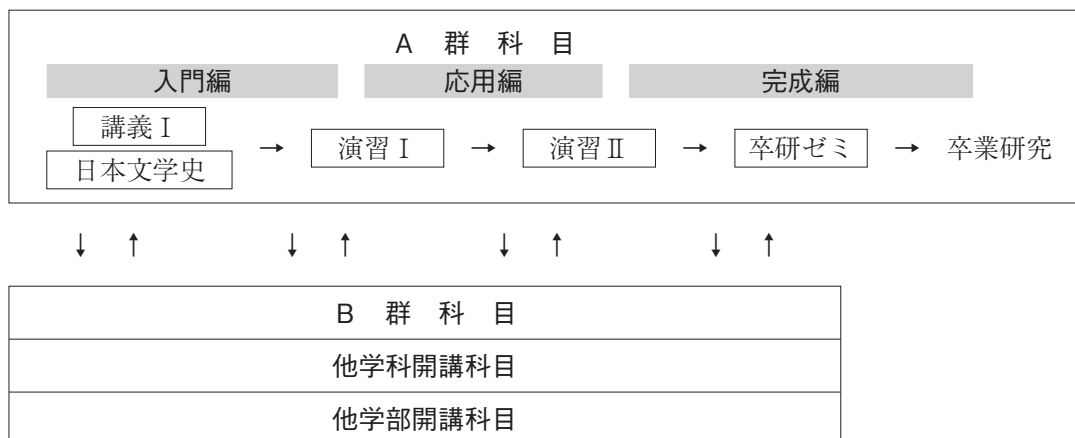
## 5. 日本語・日本文学科専門科目

日本語・日本文学科のカリキュラムは、皆さんが自主的にテーマを模索、探求し、そしてそれを表現する力を身につけることを支援する目的で作られています。

【表1】 日本語・日本文学科カリキュラム

	科目区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
A群科目	講義Ⅰ	選択必修	選択必修			
	日本文学史	選択必修	選択必修			
	演習Ⅰ		選択必修	選択		2年次に2コマを履修すること 専任教員全員で担当
	演習Ⅱ			選択必修	選択	一学年2コマまで履修可 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅠ			選択		一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究ゼミⅡ				必修	一学年1コマ 専任教員全員で担当
	卒業研究(卒業論文)				必修	
B群科目	特殊講義		選択	選択	選択	
	日本文化論	選択	選択	選択	選択	
	講義Ⅱ		選択	選択	選択	
	日本思想史		選択	選択	選択	
	日本語学概論 日本文学概論		選択	選択	選択	
	書道	書道Ⅰ・Ⅱ	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	書道Ⅲ・Ⅳ	書道Ⅳ	
	古文読解	選択	選択			
	日本語表現法	選択				
	他学科開講科目					クラスター基礎科目 (選択必修)を含む
	他学部開講科目					

【図1】 日本語・日本文学科カリキュラムの理念

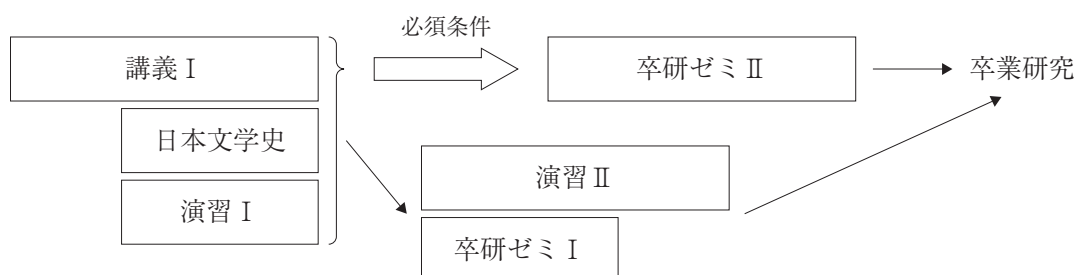


## ■カリキュラムの柱 — A 群科目 —

表現力を育て、四年間の学問的活動を最終的に「卒業研究」に仕上げるまでの基本的なプロセスは、表1および図1の「A 群科目」に示されています。

「A 群科目」には「講義Ⅰ」「日本文学史」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒研ゼミ」「卒業研究」の6種類の科目が含まれます。「講義Ⅰ」「日本文学史」は、各研究領域、ジャンルのいわば入門編に当たるもので、《基礎》となる知識や方法論を学ぶ場となります。「演習Ⅰ」は、具体的な課題に取り組みながら、「講義Ⅰ」で学んだ基礎を《研究》に生かしてゆくための訓練をする場となります。「演習Ⅱ」は、参加者が各自の課題を設定して自力で調査研究し、その成果を他の参加者に対して《発表》する場、つまり、問題意識や方法論の訓練と同時に構想力や表現力の鍛錬を行う場ともなるはずです。研究内容も「演習Ⅰ」よりさらに高いレベルのものが求められてきます。「卒研ゼミ」は、各自が「卒業研究」に直結するテーマを、これまでに培った知識と方法論とを傾けて可能な限り掘り下げてゆきながら、同時にそれを他の人々に対して十分な説得力を持つ形に（要するに「論文」のスタイルに）まとめ上げるための、より高度な《技術》を磨く場になるでしょう。こうして「卒研ゼミ」をクリアした暁には（理想的にゆけば）、「卒業研究」がほぼ完成しているということになるわけです。

【図2】 A 群科目の流れ



ではどのように「卒業研究」に結びつく関心領域を見つけてゆけばよいのでしょうか。自分自身の関心領域については、できれば1・2年次のうちにおおよそのところを絞り込んでおくのが望ましいでしょう。1・2年次中に「講義Ⅰ」3分野・各2単位（計6単位）、「日本文学史」4単位を、2年次に「演習Ⅰ」4単位をそれぞれ必修として課しているのは、その絞り込みの目安にしてほしいという意図からです。1・2年次に少なくとも3分野（日本語学・古典文学・近現代文学）の「講義Ⅰ」科目を選択履修することは、自分の可能性と興味関心のありかを見極めるチャンスになるはずです。（早い学年のうちになるべく多くの領域にわたる講義に触れておくことが、その後の方向選択を容易かつ余裕あるものにしてくれるでしょう）。そして2年次には「演習Ⅰ」を二つ選んで、自分のその関心が本物なのかどうか、今後その研究領域で研究を進めて行けるのかどうかを確認してみたいのです（もしここで自分の選択が誤っていたことに気づいたとしても、その後の研究の方向修正は、卒業までの2年間で充分可能なはず。もちろんなるべくはそのようなことにならないよう、慎重に慎重を重ねてベストの選択をしてほしいと思います）。そうすれば3年次には、1・2年次で絞り込んだ関心領域に合わせて「演習Ⅱ」を選び、さらに知識を深めて行くことができるようになるはずです。

なお、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」の単位は、上に記したように卒業のための必修の単位になっているとい

うこと以外に、「卒研ゼミ」履修のための必須条件となっているという点でもたいへん重要です。「卒研ゼミ」は3年次から受講できますが（3年次は「卒研ゼミⅠ」）、この「卒研ゼミ」を受講するためには（「卒研ゼミⅠ」「卒研ゼミⅡ」いずれの場合にも）、「講義Ⅰ」3分野（計6単位）および「演習Ⅰ」1科目（4単位）をそれぞれあらかじめ単位取得しておかなくてはなりません。3年次終了時に、「講義Ⅰ」「演習Ⅰ」のどちらか一方でも単位取得していない場合には、受講資格を満たしていないわけですから、4年次必修の「卒研ゼミⅡ」が受講できないこととなります。つまりその段階で留年が確定してしまうことになるのです（図2参照）。この点は十分に注意して下さい。この条件を満たした上で、4年次には、いずれかの「卒研ゼミⅡ」に所属し、「卒業研究」をまとめることとなります。

### ■多様な関心を見つけるカリキュラム — B群科目・他学科開講科目 —

上記の「A群科目」のプロセスをより実り豊かにするためには、幅広い視野と関心を持つことも重要です。そのために日本語・日本文学科で用意したカリキュラムが表1および図1の「B群科目」の部分に当たります。

ここには「日本語学概論」「日本文学概論」「講義Ⅱ」「日本文化論」「特殊講義」「日本思想史」などが含まれます。「日本語学概論」「日本文学概論」は「講義Ⅰ」や「日本文学史」の基礎を確認しつつ、その分野を俯瞰する意味をもち、「講義Ⅱ」は主に日本語・日本文学に関する分野についての、「日本文化論」はその他の関連する様々な周辺領域についての、教員本人による研究の成果やそれぞれの分野の先端知識などのホットな話題が、いわゆる「講義」形式で提供される形の授業が中心になります。俯瞰的であると同時に批評的な観点を得るために「日本思想史」も必要です。「特殊講義」は、学外から様々な分野の研究者を講師に招き、一週間に限って集中的に講義をしていただく、いわゆる集中講義の形で行われる授業です。毎年、各分野の第一線で活躍中の気鋭の講師をお迎えしますので、自分自身の知識を広めたり、学習・研究を進めるヒントを得たり、様々な点でまたと無いたいへん有意義な機会になるでしょう。

これらの多彩な科目群を利用して、他領域に横断する知識や多様な研究スタイルを身につけて下さい。自分の中に多様な選択肢があってはじめて、自由に自分のテーマをかため追究する「A群科目」のプロセスが生きてくるはずです。

なお、A群科目、B群科目のほかに「古文読解」「日本語表現法」という主に1年次に向けて開講されている基礎的な事項が学べる授業があります。古典文法といった古文を読むうえでの基礎知識、また日本語の文章の書き方、論述の仕方といった初歩的なことを学習しますので、大学で学ぶことに不安を感じる人は積極的にこの科目を受けましょう。

また文学部では、他学科で開講される様々な科目も、学科の垣根をこえて可能な限り自由に選択履修できる態勢を整えました。これはいわゆる「一般教養」科目とは異なり、各学科が学科としての専門教育を目的として開く講義ですから、それぞれの分野を専門とする担当教員による最先端の知見と独自の метод論を傾けた講義内容を吸収することができるのです。こうしたバラエティ豊かな他学科開講科目を通じて、多くの分野にまたがる知識や様々な問題意識を身につけて下さい。



## ■卒業単位構成

以上の「A 群科目」「B 群科目・他学科開講科目」についての説明をもとに一人一人が独自のカリキュラムを設計して下さい。それによって取得した単位数が、最終的に下の表に示した卒業要件を満たすようになっていけばよいのです。

【表 2】 日本語・日本文学科 必要単位数

講義 I	6 単位以上	選択必修	A 群
日本文学史	4 単位以上	選択必修	
演習 I	4 単位以上	選択必修	
演習 II	4 単位以上	選択必修	
卒業研究ゼミ II	4 単位	必修	
卒業研究	4 単位	必修	
それ以外の学科科目	20 単位以上	選択	
共通科目	5 単位	必修	
外国語	8 単位以上	選択必修	
クラスター基礎科目	4 単位以上	選択必修	
自由選択	61 単位以上	選択	A 群または B 群 または他学科開講科目 ※ 2
合計	124 単位以上		

※ 1 ただし、書道 I～IV を除く。

※ 2 教職に関する科目（指定された科目のうち 8 単位まで）も含まれます。  
他学部開講科目（指定された科目のうち 12 単位まで）も加わります。

## ■セメスター制について

本学科の講義 I はセメスター制に基づく科目です。セメスター制では、前期と後期が同じ授業内容になりますので、前期か後期のどちらかしか受講できません（講義 I は 1 科目 2 単位です）。講義 I をできるだけ多く履修できるようにこのような講義形式になっているのです。なお講義 I については、日本語学分野から 2 単位以上、古典文学分野から 2 単位以上、近現代文学分野から 2 単位以上、計 6 単位以上を 2 年次終了時まで取得しておく必要がありますので気をつけてください（詳しくは教育課程表の講義 I の備考欄を見てください）。

## ■クラスター制について

本学部においては、クラスター制で卒業論文（「卒業研究」）を書くことが可能です。クラスター制を利用すれば他学科の教員のもとで卒業論文を書くこともできます。詳しくはクラスター制履修要項を参照してください。

## 6. 文化総合学科専門科目

### 1 カリキュラムの概要

文化総合学科のカリキュラムは、「現代文化の交流と社会」「現代社会の文化の基層」の2つの領域からなり、さらにこれらはそれぞれ、「異文化コミュニケーション」「社会と制度」「歴史」「思想」の4つの系列に分類されています。これらの領域や系列は「コース」ではないので、これら領域・系列にまたがって、自分の履修したい科目を選ぶことができます。文化総合学科の領域・系列はあくまでも学問分野で分類されているグループで、各領域や系列で特定の分野を極めるか、それぞれに広くまたがって領域を越えたテーマを研究するかはみなさんの自由です。

ただし、卒業研究（卒業論文）を仕上げるためには、さまざまな科目を履修していく過程で自らが研究したいテーマをなるべく早く見つける必要があります。その際、研究のいっそうの充実のために、オープンカリキュラム制を利用して、他学科科目を履修することもできます。

### 2 2つの領域と4つの系列について

#### I 「現代文化の交流と社会」領域

この領域には、「異文化コミュニケーション」と「社会と制度」の2つの系列があります。

##### (1) 「異文化コミュニケーション」

この系列ではさまざまな国や民族の文化や文化間のコミュニケーションのあり様について研究します。そのためには相応の語学力が必要となりますから、語学学習もしっかりおこないます。また、「異文化コミュニケーション」という分野の性質からして、特定の言語の習得とその言語を用いる国や民族の文化研究をセットにした履修が奨められます。このほか、言語以外の表現（芸術表現や映像による表現など）も研究対象とします。

##### (2) 「社会と制度」

この系列では、現代を中心とした社会のシステムを研究対象とします。中心となるのは高校でいえば「政経」の内容に当たる政治学・法学・経済学・社会学・心理学などの社会科学系の分野です。

#### II 「現代社会の文化の基層」領域

この領域には、「歴史」と「思想」の2つの系列があります。

##### (1) 歴史

この系列は高校の「世界史」「日本史」に対応する「西洋史」「日本史」「東洋史」などの科目からなっています。歴史に興味のある人はこの系列を重点的に履修するのもよいでしょう。なお、この系列では文化史や宗教史など、特定の事柄を中心とした科目もあります。

##### (2) 「思想」

この系列は高校の「倫理社会」の内容に当たる「思想」「宗教」に関する科目から構成されています。具体的には、西洋の哲学、倫理学、思想、宗教を中心として、日本・中国の哲学、思想、宗教を含む古今東西の思想についての科目も用意されています。思想や宗教について、深く研究したい人はこの系列を中心に履修すればよいでしょう。他の学問分野を扱いたいと考えている人も、思想や宗教はそ

これらの学問分野の基本的部分に関わってくることが多いですから、必要に応じて選択する場合もあるでしょう。

### 3 科目の区分と履修の心構え

文化総合学科の科目は授業の形態やレベルに応じて、以下のように区分されます。

#### (1) 入門科目

入門科目は各専門分野の入門的な内容を扱う講義形式の授業で、各専門分野に入るに当たって必要な基本的知識や考え方を学びます。これらの科目はどのような専門分野に進むにしても基礎として役に立ちます。その多くは1、2年次に開講されているので、何を研究するかが決まっていなかった人や迷っている人はなるべく多くの入門科目を履修してみるとよいでしょう。

#### (2) 特講科目

特講科目は、一般的で基礎的な内容の入門科目に比べて、より専門的で特殊化された内容を扱います。したがって、入門科目を多く履修してある程度自分の研究したいテーマが絞られてきたら、そのテーマに関連した特講科目を履修するというのが理想的です。これらの科目の多くは2、3年次に開講されています。

#### (3) 基礎演習

基礎演習は文化総合学科の1年生を対象とした科目です。この科目は大学における学問研究の入り口として、どのように研究テーマを選んでゆけばよいか、どのように学んでゆけばよいかを身につけることを目的とします。必要な資料や文献の探し方、レポート作成や研究報告の仕方を、担当教員が具体的個別的に指導します。教材は、原則として各担当教員の専門分野に関連したものが用いられます。基礎演習は大学での勉強の仕方を学ぶ科目ですから、将来の研究テーマにこだわらず、どの基礎演習を選んでよいでしょう。

#### (4) 演習科目

演習科目は2、3年次に開講されている科目です。基礎演習と異なって、各専門分野の担当教員指導のもと、より専門的な内容が扱われます。卒業研究へとつながるテーマを見つけるためには2年次と3年次で連続して同じ専門分野の演習を履修することが望ましいとされています。ただし、2年次の段階で自分の研究テーマを絞りきれない人は、複数の演習を履修しておくのがよいでしょう。

#### (5) 卒研演習

卒研演習は自分がこれまで学んできた成果を卒業論文にまとめるための科目です。指導を受けたい教員の卒研演習を履修するためには、少なくとも3年次にその教員の演習を履修しておく必要があります。

#### (6) 卒業研究（卒業論文）

卒業研究は研究の成果を論文にまとめあげてを指します。指導教員と学科の評価を受けて単位が認められます。

#### (7) 他学科の科目およびクラスター制

文学部では、原則として所属学科以外の学科専門科目を自由に履修することができます。ただし、なかには受け入れが予定されていない科目や担当教員の許可が必要な科目もありますので、シラバス

や当該学科の履修の手引きを参照してください。

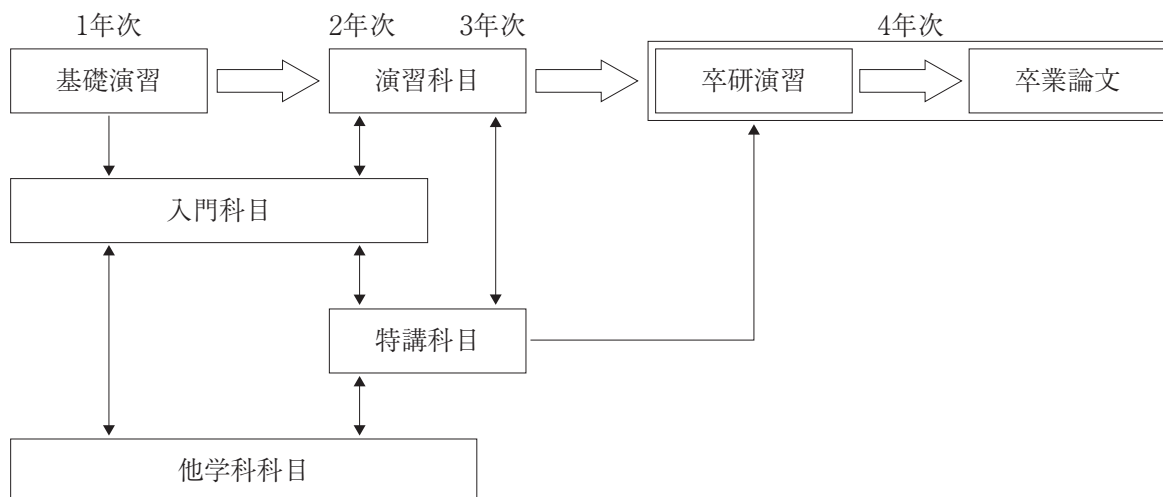
また、クラスター制を利用して他学科教員のもとで卒業論文を書くこともできます。

詳しくはクラスター履修ガイドを参照してください。

#### 4 科目の区分と構成・履修の流れ

上記の説明を図にして、履修に当たっての留意点をまとめておきます。

【図1】



- ① 基礎演習は文化総合学科1年生の必修科目です。前期・後期の半期科目で、それぞれの担当教員ごとに「基礎演習 A」(前期)と「基礎演習 B」(後期)があります。自分の関心にあわせて前期と後期で別々の教員の科目を履修することになっています。
- ② 演習科目は2、3年次に開講されており、それぞれの内容は異なるように構成されています。連続して履修すれば、その専門分野についてより深く学べるようになっていきます。専門分野によっては2年次の演習を履修していることが3年次の演習をとるための条件とされる場合があります。3年次の演習はどの卒研演習を履修するか(どの教員のもとで卒業論文を書くか)に関わってくるので、そのような場合には2年次演習を選択する際にある程度卒研のテーマを想定しておく必要があります。(ただし、教員によっては3年次演習のみの履修であっても、卒研演習の履修を認める場合があります。必ず2年次の演習選択時にシラバス等で確認してください。)
- ③ 学科が定める卒業のために必要な単位については、文学部の授業科目履修要項で確認してください。

#### 5 文化総合学科の専任教員

文化総合学科所属の専任教員は以下のとおりです。

石井佑可子 准教授 社会心理学(対人距離化、メタ認知)  
石田 晴男 教授 室町・戦国時代の政治社会史の研究

伊藤 明美 教授	異文化コミュニケーション論、英語教育論
上原 賢司 講師	政治学、グローバル正義論
大矢 一人 教授	占領期の地方教育改革史研究
勝西 良典 講師	近代哲学における諸研究
中田 貢 教授	社会科教育法
野手 修 教授	文化人類学、南アジアの社会変動
平井 孝典 講師	図書館情報学、19世紀フィンランドにおける情報アクセス環境構築の実務
松村 良祐 准教授	中世哲学(トマス・アクィナス、ボナヴェントゥラ)、キリスト教思想
松本あづさ 准教授	近世松前・蝦夷地に関する研究
真鶴 俊喜 教授	立憲主義をめぐる現代日本の諸問題
渡邊 浩 教授	ヨーロッパ中世史、キリスト教史

## 6 4年間の履修モデル

	必修科目	選択必修科目	選択科目	履修上のヒント
1年次	キリスト教学 聖書学 女性とキャリア	外国語 基礎演習 ※1 入門科目 ※2 クラスター基礎科目	入門科目 他学科科目 テーマ研究など	1、2年次中になるべく基礎的な科目(一般に入門科目)を多く履修して以後の方針の助けとすることが望ましい。  ※1 各分野の基礎演習はそれぞれA(前期)、B(後期)に分かれている。前期と後期で別の担当教員のものをとること。  ※2 入門科目のうち、各系列から2科目(4単位分)ずつ、計16単位と、それ以外にクラスターの基礎科目1~2科目4単位をとらなくてはならない。 但し、これらの単位は1、2年次のうちに修得しておくのが望ましい。
2年次	なし	外国語	演習科目 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究など	
3年次	なし	演習科目 特講科目	演習科目 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究など	
4年次	卒業研究(卒業論文) 卒研演習		演習科目 入門科目 特講科目 他学科科目 テーマ研究など	





# シラバス

[2017年度以前入学生]



# 大学共通科目

2017年度以前入学生対象：大学共通科目読み替え科目一覧

2017年度以前入学生が2018年度開講科目を履修する場合は以下の表を参考にして下さい。

2017年度以前入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名		2018年度以降入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
科目 No.	科目名	科目 No.	科目名
00011	キリスト教学	→ 00901	キリスト教概論
00012	キリスト教学	→ 00902	キリスト教概論
00013	キリスト教学	→ 00903	キリスト教概論
08251	女性とキャリア	→ 08281	女性とキャリア I
08252	女性とキャリア	→ 08282	女性とキャリア I
08253	女性とキャリア	→ 08283	女性とキャリア I
08041～6	情報処理		開講なし
08121	生物科学A		開講なし
08131	生物科学B		開講なし
08141	環境科学A	→ 03021	環境科学
08151	環境科学B		開講なし
00021	聖書学		
00022	聖書学	→ 00951	聖書概論
00023	聖書学		
08161	生命科学A	→ 03041	生命科学
08171	生命科学B		開講なし
08201	身体科学A (健康の科学)	→ 07011	健康の科学
08211	身体科学B (運動の科学)	→ 07021	運動の科学

08261～08263

## 運動の実践 A

担当教員：中川 喜直

1 単位 前期

## 授業のねらい

長寿社会において生涯に亘って「心の健康」と「体の健康」を保持増進することは、極めて重要である。また、心と体のバランスを維持することは活力のある人生を過ごすためにも大切であり、それらの保持増進は人間に関わる生活と健康に多大な影響を与えることが疫学的研究によって明らかになっている。

運動の実践では適度な運動習慣を身につけ、生涯に亘り心身の健康保持増進ができるように運動と健康スポーツを理解し、生活に必要な知識を修得することを目的とする。

## 到達目標

心と体の健康を理解し、正しい運動習慣を身につけ生涯スポーツとして適度な運動を楽しみながら生活に取り入れることを目標とする。

## 授業方法

体育館等において実技授業を実施する。毎回、怪我予防のために準備運動と体ほぐしの健康体操を取り入れる。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス：授業内容の説明、運動の基本：ウォーキング・ノルディックウォーキングと健康の保持増進の理解と実践、軽スポーツを実施する
- 第2回 運動に慣れる：軽スポーツ（ソフトバレーボール）
- 第3回 バドミントン1：基礎知識、基本的なストローク(1)ハイクリア・ドライブ
- 第4回 バドミントン2：基本ストローク(2)スマッシュ・サーブ・ルールの理解
- 第5回 バドミントン3：基本ストローク(3)ヘアピン・ドロップ・ハーフコートゲーム
- 第6回 バドミントン4：基本ストローク(4)審判・ミニゲーム
- 第7回 バドミントン5：ダブルスリーグ戦(1)
- 第8回 バドミントン6：ダブルスリーグ戦(2)
- 第9回 バドミントン7：シングルスリーグ戦
- 第10回 ゴルフ1：基礎知識、服装、マナー、基本スイング、グリップ、ショット練習：クォーター・ハーフショット
- 第11回 ゴルフ2：ショット練習：ショートアイアン、ミドルアイアン・アプローチ、フルショット、パター練習
- 第12回 ゴルフ3：ロングアイアン・バンカーショット、ユーティリティ、ウッド・目標を狙う
- 第13回 バスケットボール：パス、ドリブル、シュート、ゲーム
- 第14回 ドッジボール：キャッチボール、ボール体操、ゲーム
- 第15回 軽スポーツ：各種スポーツを選択し、レジャースポーツとして継続できる運動を実践する

## 成績評価の方法

授業への参加状況（50%）、学習意欲（20%）、技術習得（20%）、試験（10%）

## 履修にあたっての注意

運動に相応しい服装（ジャージ）、スポーツシューズを持参

## 教科書

必要に応じ各種スポーツに関する資料を配布する

## 教科書・参考書に関する備考

特になし

## 参考書

岡野五郎『体を動かすと心が変わる』（ストーク、2015）  
ウィリアム・ジェイムズ『心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる』

08271～08273

## 運動の実践 B

担当教員：中川 喜直

1 単位 後期

## 授業のねらい

長寿社会において生涯に亘って「心の健康」と「体の健康」を保持増進することは、極めて重要である。また、心と体のバランスを維持することは活力のある人生を過ごすためにも大切であり、それらの保持増進は人間に関わる生活と健康に多大な影響を与えることが疫学的研究によって明らかになっている。

運動の実践では適度な運動習慣を身につけ、生涯に亘り心身の健康保持増進ができるように運動と健康スポーツを理解し、生活に必要な知識を修得することを目的とする。

## 到達目標

心と体の健康を理解し、正しい運動習慣を身につけ生涯スポーツとして適度な運動を楽しみながら生活に取り入れることを目標とする。

## 授業方法

体育館等において実技授業を実施する。毎回、怪我予防のために準備運動と体ほぐしの健康体操を取り入れる。

## 授業計画

- 第1回 運動の基本：冬のウォーキング・ストックウォーキングと健康保持増進
- 第2回 ソフトバレーボール：パス、スパイク、レシーブ、サーブ、ゲーム
- 第3回 バレーボール1（6人制）：基礎知識、基本練習(1)オーバーハンドパス、アンダーハンドパス
- 第4回 バレーボール2：基本練習(2)スパイク、レシーブ
- 第5回 バレーボール3：基本練習(3)審判、リーグ戦(1)
- 第6回 バレーボール4：基本練習(4)リーグ戦(2)
- 第7回 卓球1：基礎知識、基本練習(1)シェークハンド・ペンホルダー
- 第8回 卓球2：基本練習(2)フォアハンド、バックハンド、ドライブ、つつつき（カット）
- 第9回 卓球3：基本練習(3)サーブ、審判、ルール、ミニゲーム、ダブルスリーグ戦
- 第10回 卓球4：基本練習(4)サーブ、審判、ルールシングルスリーグ戦
- 第11回 フットサル1：基礎知識、基本練習(1)パス、シュート、ドリブル
- 第12回 フットサル2：基本練習(2)戦術、ミニゲーム
- 第13回 フットサル3：基本練習(3)戦術、ミニゲーム、リーグ戦(1)
- 第14回 フットサル4：基本練習(4)戦術、ミニゲーム、リーグ戦(2)
- 第15回 軽スポーツ：各種スポーツを選択し、レジャースポーツとして継続できる運動を実践する

## 成績評価の方法

授業への参加状況（50%）、学習意欲（20%）、技術習得（20%）、試験（10%）

## 履修にあたっての注意

運動に相応しい服装（ジャージ）、スポーツシューズを持参

## 教科書

必要に応じ各種スポーツに関する資料を配布する

## 参考書

岡野五郎『体を動かすと心が変わる』（ストーク、2015）  
ウィリアム・ジェイムズ『心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる』

07501・07502

## 文章表現

担当教員：田代 早矢人

2単位 前期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていく。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていく。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができる。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる。
2. 論理的な文章を要約することができる。

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開する。原則として、講義に加え演習の時間を設ける。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明
- 第2回 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法
- 第3回 レポート・論文の文章表現①
- 第4回 レポート・論文の文章表現②
- 第5回 パラグラフの作り方
- 第6回 文章構成の基本
- 第7回 レポートの構成
- 第8回 事実と意見、引用のルール
- 第9回 文献検索の方法、出典の示し方
- 第10回 要約の基本：要約とは何か
- 第11回 要約の実践
- 第12回 批判的読解とテーマの決定
- 第13回 アウトラインの作り方
- 第14回 推敲と校正
- 第15回 総まとめ

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価する。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とする。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでほしい。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業で配布するプリントで対応する。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN:9784766409697)

07503・07504

## 文章表現

担当教員：高木 維

2単位 前期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていきます。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていきます。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができます。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる
2. 論理的な文章を要約することができる

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開します。原則として、講義に加え演習の時間を設けます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明
- 第2回 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法
- 第3回 レポート・論文の文章表現①
- 第4回 レポート・論文の文章表現②
- 第5回 パラグラフの作り方
- 第6回 文章構成の基本
- 第7回 レポートの構成
- 第8回 事実と意見、引用のルール
- 第9回 文献検索の方法、出典の示し方
- 第10回 要約の基本：要約とは何か
- 第11回 要約の実践
- 第12回 批判的読解とテーマの決定
- 第13回 アウトラインの作り方
- 第14回 推敲と校正
- 第15回 総まとめ

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価します。出席回数が授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は放棄とします。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでください。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがあります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

なし。授業で配布するプリントで対応します。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会、2002)



07505・07506

## 文章表現

担当教員：田代 早矢人

2単位 後期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていく。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていく。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができる。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる。
2. 論理的な文章を要約することができる。

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開する。原則として、講義に加え演習の時間を設ける。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明 |
| 第2回  | 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法   |
| 第3回  | レポート・論文の文章表現①         |
| 第4回  | レポート・論文の文章表現②         |
| 第5回  | パラグラフの作り方             |
| 第6回  | 文章構成の基本               |
| 第7回  | レポートの構成               |
| 第8回  | 事実と意見、引用のルール          |
| 第9回  | 文献検索の方法、出典の示し方        |
| 第10回 | 要約の基本：要約とは何か          |
| 第11回 | 要約の実践                 |
| 第12回 | 批判的読解とテーマの決定          |
| 第13回 | アウトラインの作り方            |
| 第14回 | 推敲と校正                 |
| 第15回 | 総まとめ                  |

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価する。出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は放棄とする。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでほしい。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業で配布するプリントで対応する。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002年、ISBN:9784766409697)

07507・07508

## 文章表現

担当教員：高木 維

2単位 後期

## 授業のねらい

本講では、講義と実践を通して、適切な日本語で文章を書く力(表現力)、論理的な文章を的確に読解しまとめる力(要約力)、それに対する自分の考えを第三者に対して効果的に伝える力(論理的思考力、構成力)を総合的に高めていきます。さらに、文献を引用する際のルールや、書誌情報の書き方など、レポート・論文を作成するうえで必要な知識を身につけていきます。この講義によって、学生生活において必須となるレポートを作成するための考え方を理解することができます。

## 到達目標

1. レポート作成のルールを守って、論理的な文章を書くことができる
2. 論理的な文章を要約することができる

## 授業方法

文章作成の基本的なルール、文章の構成法、要約、レポートの作成という順序で講義を展開します。原則として、講義に加え演習の時間を設けます。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス：講義の目的と履修上の注意の説明 |
| 第2回  | 原稿用紙の使い方、記号の使用法、表記法   |
| 第3回  | レポート・論文の文章表現①         |
| 第4回  | レポート・論文の文章表現②         |
| 第5回  | パラグラフの作り方             |
| 第6回  | 文章構成の基本               |
| 第7回  | レポートの構成               |
| 第8回  | 事実と意見、引用のルール          |
| 第9回  | 文献検索の方法、出典の示し方        |
| 第10回 | 要約の基本：要約とは何か          |
| 第11回 | 要約の実践                 |
| 第12回 | 批判的読解とテーマの決定          |
| 第13回 | アウトラインの作り方            |
| 第14回 | 推敲と校正                 |
| 第15回 | 総まとめ                  |

## 成績評価の方法

各種演習の提出状況(50%)、期末のレポート(50%)により評価します。出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は放棄とします。

## 履修にあたっての注意

説明を聞くだけでなく実際に文章を書く時間が長くなるので、能動的に授業に参加し、すべての課題に取り組んでください。なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行うことがあります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

なし。授業で配布するプリントで対応します。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』(慶應義塾大学出版会、2002)

08021～08024

## 情報リテラシー A

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 前期

### 授業のねらい

情報を的確に選択し利用するための情報アクセス能力を高めることがねらいです。そのために、①情報検索の考え方を学び実習します。②情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学び実習します。③各自のテーマでプレゼンテーションとレポート作成をすることで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎を身につけていきましょう。コンピュータについては全くの初心者であることを想定しています。

### 到達目標

- ・各自のテーマに対する情報の探索や収集の能力を高めること
- ・レポート作成において情報の活用能力を高めること
- ・プログラム言語の一つは用いてプレゼンテーションデータを作成できるようになること。

### 授業方法

授業は各自テーマを設定し、以下の授業計画をもとに作業を進めます。習得した技術を活用しプレゼンテーションを行い、レポートも提出します。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。

### 授業計画

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 情報活用のための基礎(1)：メールやストレージの使い方 フォルダの作成  |
| 第2回  | 情報活用のための基礎(2)：html で自己紹介文 ネットワークの利用  |
| 第3回  | インターネット法と無体財産権                       |
| 第4回  | 情報アクセス 検索エンジンの利用方法                   |
| 第5回  | 情報アクセス 主題別分類による情報整理の考え方と図書などの利用方法    |
| 第6回  | 情報アクセス 出所別分類による情報整理の考え方と貴重資料などの利用方法  |
| 第7回  | 情報アクセス インターネット上の情報活用の練習              |
| 第8回  | レポート作成法(1)Excel などによる情報表現（表計算とグラフ作成） |
| 第9回  | レポート作成法(2)文章作成の基本                    |
| 第10回 | プレゼンテーション準備(1)                       |
| 第11回 | プレゼンテーション準備(2)                       |
| 第12回 | プレゼンテーション準備(3)                       |
| 第13回 | プレゼンテーション(1)                         |
| 第14回 | プレゼンテーション(2)                         |
| 第15回 | プレゼンテーション(3)                         |

### 成績評価の方法

授業参加状況（30％）を重視します。加えて、授業時に行う演習課題（30％）とレポート及びプレゼンデータ・報告（40％）により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。学んだことを図書館の書籍などあらゆる情報アクセスのツールを用い、積極的に活用してください。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

### 教科書

なし

08025・08026

## 情報リテラシー A

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 後期

### 授業のねらい

情報を的確に選択し利用するための情報アクセス能力を高めることがねらいです。そのために、①情報検索の考え方を学び実習します。②情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学び実習します。③各自のテーマでプレゼンテーションとレポート作成をすることで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎を身につけていきましょう。コンピュータについては全くの初心者であることを想定しています。

### 到達目標

- ・各自のテーマに対する情報の探索や収集の能力を高めること
- ・レポート作成において情報の活用能力を高めること
- ・プログラム言語の一つは用いてプレゼンテーションデータを作成できるようになること。

### 授業方法

授業は各自テーマを設定し、以下の授業計画をもとに作業を進めます。習得した技術を活用しプレゼンテーションを行い、レポートも提出します。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。

### 授業計画

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 情報活用のための基礎(1)：メールやストレージの使い方 フォルダの作成  |
| 第2回  | 情報活用のための基礎(2)：html で自己紹介文 ネットワークの利用  |
| 第3回  | インターネット法と無体財産権                       |
| 第4回  | 情報アクセス 検索エンジンの利用方法                   |
| 第5回  | 情報アクセス 主題別分類による情報整理の考え方と図書などの利用方法    |
| 第6回  | 情報アクセス 出所別分類による情報整理の考え方と貴重資料などの利用方法  |
| 第7回  | 情報アクセス インターネット上の情報活用の練習              |
| 第8回  | レポート作成法(1)Excel などによる情報表現（表計算とグラフ作成） |
| 第9回  | レポート作成法(2)文章作成の基本                    |
| 第10回 | プレゼンテーション準備(1)                       |
| 第11回 | プレゼンテーション準備(2)                       |
| 第12回 | プレゼンテーション準備(3)                       |
| 第13回 | プレゼンテーション(1)                         |
| 第14回 | プレゼンテーション(2)                         |
| 第15回 | プレゼンテーション(3)                         |

### 成績評価の方法

授業参加状況（30％）を重視します。加えて、授業時に行う演習課題（30％）とレポート及びプレゼンデータ・報告（40％）により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。学んだことを図書館の書籍などあらゆる情報アクセスのツールを用い、積極的に活用してください。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

### 教科書

なし

08031・08032

## 情報リテラシー B

担当教員：平井 孝典・谷川 靖郎

2単位 後期

## 授業のねらい

情報リテラシー A 受講済みの学生を対象とした科目です。住所録のような簡易なデータベースを実際に作成することで、データベースの仕組みを学びます。コンピュータについては、全くの初心者であることを想定しています。情報を的確に選択し効果的に利用するための情報アクセス能力を高めることを目標とします。そのために、①プロトコルの使い方などネットワークの活用を練習します。②MySQL(図書館・会社でよく使用されているSQL)を用いた検索の仕組みを学びます。③PHP言語も加え検索を作成します。受講者の状況によっては④統計ソフトRなど他のプログラムとの組み合わせ方法も勉強します。授業の最後には⑤受講者の作成した検索を相互に評価しあいます。情報の整理方法や情報の整理に使われるコンピューターの言語やソフトを学ぶことで、情報に関わる技術の理解を深めます。全授業の課題をこなしていくことで、レポートや卒業論文などの作成に必要な情報リテラシーの基礎をさらに身につけていきましょう。

## 到達目標

各自の情報の整理能力や活用能力を高めることです

## 授業方法

リレーショナルデータベースをゼロから学んでいきます。最終的には各自でデータベースを作成しそれを評価の対象とします。担当教員が各自の状況に応じ個別に指導していきます。事前学習事後学習の方法は適宜お伝えいたします。出席をすることで勉強をしていくことが可能です。積極的に受講してください。

## 授業計画

- 第1回 クラウド引用管理ソフトウェアの活用
- 第2回 学術情報データベースの利用
- 第3回 プロトコルと「送信可能化権」
- 第4回 メタデータ
- 第5回 MySQLを用いてのSQL構文の理解と体験①
- 第6回 MySQLを用いてのSQL構文の理解と体験②
- 第7回 one source multi use とデータの変換活用
- 第8回 文書を記述するための軽量マークアップ言語の利用
- 第9回 データベースの設計
- 第10回 データベースの作成(1)
- 第11回 データベースの作成(2)
- 第12回 データベースの作成(3)
- 第13回 データベースの作成(4)
- 第14回 データベースの作成(5)
- 第15回 成果発表と相互評価

## 成績評価の方法

授業参加状況(30%)を重視します。加えて、授業時に行う演習課題(30%)とレポート及びプレゼンデータ・報告(40%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席することが基本です。なお、授業内容について履修者の状況を見て変更することもあります。

## 教科書

なし

08321

## テーマ研究 A-b

担当教員：名畑 嘉則・水口 幹記

2単位 前期

## サブタイトル

古代・中世の東アジア世界

## 授業のねらい

東アジア世界にあって歴史的に中心であり続けてきた中国と、日本をはじめとする周辺領域との、学術・宗教・文化等における関わりについて、特に日本の国家・社会・文化が形成されてゆく時期に当たる、古代から中世にかけての時代に焦点を当てて考察します。授業を通じ、東アジア世界において共有される歴史や文化について、認識と理解を深めることを目指します。

## 到達目標

1. 日本を含む東アジア世界を複合的に捉えることができる。
2. 授業で取り上げる各トピックについて適切に説明し、自己の考えを述べるができる。
3. 各トピックについての考察を通じて東アジア世界への関心を深める。

## 授業方法

基本的には講義形式で行います。映像作品を鑑賞・考察する機会を設け、その時代や人物等についての知識や関心を深め、親しみが持てるように配慮します(授業計画に記載した作品名等は予定です)。

また、授業中のリアクションペーパー記入や、映画感想文の提出などを求めることもあります。

レポートについては、朱書きでコメントを入れた後に返却します。

毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること(所要時間30分~60分程度)。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 魏から晋、南北朝へ—ドラマ『三国志』95話
- 第3回 魏晋の志怪と「怪を語る伝統」
- 第4回 『日本霊異記』と日本の説話
- 第5回 映像で見る志怪の世界—映画『画皮 あやかしの恋』(陳嘉上監督)
- 第6回 唐の成立と国際都市・長安
- 第7回 鑑真来日
- 第8回 映像で見る唐西域のイメージ—映画『西遊記 孫悟空 vs 白骨夫人』(鄭保瑞監督)
- 第9回 唐の学芸と詩
- 第10回 遣唐使たちの時代
- 第11回 映像で見る唐の最盛期—映画『楊貴妃 レディ・オブ・ザ・ダイナスティ』(張芸謀監督)
- 第12回 唐の文学—ロマンとしての伝奇
- 第13回 『遊仙窟』と日本への影響
- 第14回 映像で見る伝奇の世界—映画『黒衣の刺客』(侯孝賢監督)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート80%。授業への参加状況(提出物の状況を含む)20%。

## 履修にあたっての注意

2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。くれぐれも注意してください。

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布します。また、読むべき本、映像作品なども授業において紹介します。

08351

## テーマ研究 B-b

担当教員：大桃 陶子・英 美由紀・  
伊藤 明美・野手 修

2 単位 後期

### サブタイトル

「他者」を多角的に理解する

### 授業のねらい

「他者」とはだれか？我々は言語、文化、性別、種を違える他者とのような交わりを交わすことができるのか、それともできないのか？他者の存在とその言葉は、そもそもどのようにして捉えられるものなのか？そして、そのような他者を理解することは可能なのか？本授業では「他者」という同一のテーマを「異文化コミュニケーション」と「翻訳」という社会的アプローチと、「ジェンダー理論」と「アニマルスタディーズ」をベースとした文学的アプローチを経て、多角的に理解することを試みる。「他者」について考察することに加え、異なる学問分野による手法の違いを比較することを目的とする。

### 到達目標

1. 「他者」に関するアカデミックな理解を深め、自分なりの考察を行うことができるようになる。
2. 専門分野によって同一のテーマがどのように異なった展開をするのか、比較を行うことができるようになる。
3. 授業内容を理解し、それを自分の言葉でまとめることができるようになる。

### 授業方法

授業はオムニバス形式です。4人の担当教員がそれぞれ3回ずつ講義を担当します。最終試験は各教員の講義内容に基づく問題が出題されますので、受講者はすべての回に出席すること。

### 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 異文化コミュニケーションにおける「他者」（伊藤）
- 第3回 他者化する日本人と、他者化される日本人
- 第4回 多文化共生のための異文化コミュニケーションのヒント
- 第5回 『他者の欲望を欲望する』？ (1)はじめに (英)
- 第6回 『他者の欲望を欲望する』？ (2)現代英語圏の表象から
- 第7回 『他者の欲望を欲望する』？ (3)現代日本の表象から
- 第8回 翻訳の実践から見る他者 (野手)
- 第9回 「行為する」発話をめぐって
- 第10回 映画リメイクに見る翻訳された他者
- 第11回 「動物」のことば J. M. クッツェー (大桃)
- 第12回 到達不可能な「動物」？ 古川日出夫
- 第13回 「動物」と小説の技法 町田康
- 第14回 まとめ
- 第15回 最終試験

### 成績評価の方法

最終試験70%、通常点30%で評価します。欠席および居眠りなどの講義への事実上の不参加が認められる行為は、一回につき最終評価から5点の減点処分とする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

『文化人類学と言語学』 E. サビア、B. J. ウォーフ 1970 弘文堂  
『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』 ガイ・ドイッチャー 2012 インターシフト

How to Do Things with Words. J.L. Austin, 1975 Harvard Univ. Press.

『動物のいのち』 J.M. クッツェー 2003 大月書店

『ベルカ、吠えないのか？』 古川日出夫 2005 文藝春秋

『聖家族』 古川日出夫 2008 集英社

『スピニング日記』 町田康 2011 講談社

『スピニング合財帖』 町田康 2012 講談社

『スピニングの壺』 町田康 2015 講談社

『スピニングの笑顔』 町田康 2017 講談社

### 参考書

青木 保『文化の否定性』（中央公論社、1988）

荒巻重人他編『外国人の子ども白書——権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から』（明石書店、2017）

石井 敏・久米昭元他編『異文化コミュニケーション事典』（春風社、2013）

石井 敏・久米昭元『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』（有斐閣選書、2013）

井上 俊他『他者・関係・コミュニケーション』（岩波書店、1995）

尾島 明『ニューカマーの子どもと学校文化』（勁草書房、2006）

田中 宏『在日外国人 第3版—法の壁、心の溝』（岩波新書、2013）

サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』（集英社、1999）

宮島 喬・鈴木江里子『外国人労働者受け入れを問う』（岩波ブックレット、2014）

河野一郎『翻訳のおきて』（DHC、1999）

# 外国語科目



2017 年度以前入学生対象：外国語科目読み替え科目一覧

2017 年度以前入学生が 2018 年度開講科目を履修する場合は以下の表を参考にして下さい。

2017 年度以前入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
------------------------------------	--

科目 No.	科目名
06001・2	Academic Communication A I
06021・2	Academic Communication B I
06011・2	Academic Communication A II
06031・2	Academic Communication B II

2018 年度以降入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
------------------------------------	--

科目 No.	科目名
06041~4	Academic Communication I
06051~4	Academic Communication II

※科目 No. は、プレイスメントテストのクラス分けによる。



06441

## 中級ドイツ語 A I

担当教員：岡崎 朝美

1 単位 前期

## 授業のねらい

この授業では、基礎文法を「文法がわかった」ということだけで終わらせず、会話や読解につなげていきます。ドイツ語資格、また、ドイツ語圏への短期語学留学を目指す場合に役立つ表現を扱います。旅に関連した表現を練習し、地域文化に関する読物を読みます。

## 到達目標

ドイツ語圏の文化についての知識が増え、視野が広がる。自分の興味や日々のこと、旅の出来事などをドイツ語で表現できる。語学資格試験への可能性が広がる。

## 授業方法

発音の練習、文法問題を解くこと、作文、小さな会話練習、エッセイや説明書を読むこと、CDを聴くこと、映像を見ることをとおして、表現の幅を広げていく授業です。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス・発音
- 第2回 Lektion 3～Lektion 6 名詞の復習
- 第3回 Lektion 3～Lektion 6 動詞の復習
- 第4回 Lektion 7 休暇の後で/現在完了形の作り方
- 第5回 Lektion 7 出来事/さまざまな現在完了形
- 第6回 Lektion 8 住まい/さまざまな名詞
- 第7回 復習とまとめ/自分の日常をドイツ語で表現する
- 第8回 中間テスト/まとめ/ドイツ語圏の映像 (DVD)
- 第9回 Lektion 8 部屋/疑問詞・前置詞
- 第10回 Lektion 8 部屋を借りる/前置詞
- 第11回 Lektion 8 前置詞
- 第12回 復習とまとめ/メールを書く (その1)
- 第13回 文法まとめ/ドイツ語圏の街 (映像：DVD)
- 第14回 復習とまとめ/エッセイ・詩を読む/ウィーン少年合唱団 (CD)
- 第15回 復習とまとめ/メールを書く (その2) /資格試験問題

## 成績評価の方法

授業での発音練習などへの取り組み (40%)・定期試験 (40%)・中間の発音テスト (20%)

## 履修にあたっての注意

独和辞典を持参してください。

## 教科書

佐藤・下田・岡崎・Oldehaver・Arnold・Heinemann『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 heute aktuell』(三修社、2017、ISBN：978-4-384-12292-3)

06451

## 中級ドイツ語 A II

担当教員：岡崎 朝美

1 単位 後期

## 授業のねらい

この授業では、基礎文法を「文法がわかった」ということだけで終わらせず、会話や読解につなげていきます。ドイツ語資格、また、ドイツ語圏への短期語学留学を目指す場合に役立つ表現を扱います。旅に関連した表現を練習し、地域文化に関する読物を読みます。

## 到達目標

ドイツ語圏の文化についての知識が増え、視野が広がる。自分の興味や日々のこと、旅の出来事などをドイツ語で表現できる。語学資格試験への可能性が広がる。

## 授業方法

発音の練習、文法問題を解くこと、作文、小さな会話練習、エッセイや説明書を読むこと、CDを聴くこと、映像を見ることをとおして、表現の幅を広げていく授業です。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス・発音
- 第2回 Lektion 9 時間/数字の復習・時刻の言い方
- 第3回 Lektion 9 曜日・月名・日付の言い方
- 第4回 Lektion10 街のなかで/道のきき方の表現
- 第5回 Lektion10 ドイツの大学/前置詞
- 第6回 Lektion10 大学生活/プレゼンテーション文
- 第7回 復習とまとめ (大学生活をドイツ語で表現する)
- 第8回 中間テスト/まとめ/ドイツ語圏の自然 (映像)
- 第9回 Lektion11 休暇の前に/前置詞
- 第10回 Lektion11 休暇の予定/話法の助動詞
- 第11回 復習とまとめ (物語を読む) /ドイツのクリスマス
- 第12回 復習とまとめ (長文のなかの重要表現)
- 第13回 Lektion12 どこへ行ったか/過去形
- 第14回 Lektion12 旅で何を発見したか・旅の表現
- 第15回 復習とまとめ (メール文や手紙を書く)

## 成績評価の方法

授業での発音練習などへの取り組み (40%)・定期試験 (40%)・中間の発音テスト (20%)

## 履修にあたっての注意

独和辞典を持参してください。

## 教科書

佐藤・下田・岡崎・Oldehaver・Arnold・Heinemann『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語 heute aktuell』(三修社、2017、ISBN：978-4-384-12292-3)

06461

## 中級ドイツ語 B I

担当教員：荻原 達夫

1 単位 前期

### 授業のねらい

ドイツ語の基礎的な文法を確実にものにし、やや高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定(独検)3～2級程度の文法知識をカバーする予定です。おりにふれてドイツの文化や風俗についても紹介します。

### 到達目標

基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。  
独検3～2級程度の文法知識を身につける。  
ドイツ語圏の文化について知見を広める。

### 授業方法

まず、学習する内容についてできるだけわかりやすく、ゆっくりと説明します。それから練習問題をやってもらい、理解できたかどうかを確認します。授業中に何度も当てて確認しますので、おいてきぼりになることはないでしょう。なお、授業の冒頭には必ず前回までのおさらいをします。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、発音のおさらい
- 第2回 既習事項のおさらい(1)  
動詞の変化
- 第3回 既習事項のおさらい(2)  
冠詞と名詞の変化
- 第4回 既習事項のおさらい(3)  
人称代名詞と前置詞
- 第5回 既習事項のおさらい(4)  
話法の助動詞
- 第6回 既習事項のおさらい(5)  
分離動詞と副文  
zu 不定詞
- 第7回 形容詞の格変化(1)  
強変化、弱変化、混合変化
- 第8回 形容詞の格変化(2)  
形容詞の名詞化  
序数
- 第9回 動詞の3基本形(1)  
規則動詞  
不規則動詞  
動詞の過去人称変化
- 第10回 動詞の3基本形(2)  
分離動詞  
非分離動詞  
-ieren 動詞
- 第11回 現在完了(1)  
haben 支配  
sein 支配
- 第12回 現在完了(2)  
話法の助動詞  
過去完了
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 非人称動詞  
形容詞の比較変化  
時刻表現
- 第15回 既習事項のまとめ

### 成績評価の方法

中間テスト(30%)、期末テスト(50%)、授業への取り組み方(20%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

教科書、辞書は毎回使用します。必ず持参してください。  
教科書は1年次のものを継続使用します。お持ちでない方は購入してください。

### 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010、ISBN: 978-4-384-11271-9)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はある程度の語彙数をもつものがのぞましい。たとえば『アポロン独和辞典』(同学社)など。

### 参考書

根本道也ほか『アポロン独和辞典』(同学社、2010、ISBN: 978-4-8102-0006-5)

06471

## 中級ドイツ語 B II

担当教員：荻原 達夫

1 単位 後期

### 授業のねらい

ドイツ語の基礎的な文法を確実にものにし、やや高度な表現にも対応できるようにします。最終的にはドイツ語検定(独検)3～2級程度の文法知識をカバーする予定です。おりにふれてドイツの文化や風俗についても紹介します。

### 到達目標

基礎的な文法を確実に習得し、応用することができる。  
独検3～2級程度の文法知識を身につける。  
ドイツ語圏の文化について知見を広める。

### 授業方法

まず、学習する内容についてできるだけわかりやすく、ゆっくりと説明します。それから練習問題をやってもらい、理解できたかどうかを確認します。授業中に何度も当てて確認しますので、おいてきぼりになることはないでしょう。なお、授業の冒頭には必ず前回までのおさらいをします。

### 授業計画

- 第1回 既習事項のおさらい
- 第2回 関係代名詞(1)  
定関係代名詞
- 第3回 関係代名詞(2)  
不定関係代名詞  
関係副詞
- 第4回 受動態(1)  
受動態の基本
- 第5回 受動態(2)  
受動態の時制  
状態受動
- 第6回 接続法(1)  
接続法の基本
- 第7回 接続法(2)  
接続法の形態  
接続法の時制
- 第8回 接続法(3)  
接続法第1式の用法
- 第9回 接続法(4)  
接続法第2式の用法
- 第10回 読解のための知識(1)  
熟語  
前つづりの認識  
ihr の識別
- 第11回 読解のための知識(2)  
ドイツ語的語順  
枠構造の感覚
- 第12回 読解のための知識(3)  
離れた語句の関連づけ～相関語句
- 第13回 読解のための知識(4)  
否定の諸形式
- 第14回 読解のための知識(5)  
直訳不能な語句～心態詞
- 第15回 既習事項のまとめ

### 成績評価の方法

中間テスト (30%)、期末テスト (50%)、授業への取り組み方 (20%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

教科書、辞書は毎回使用します。必ず持参してください。  
教科書は1年次のものを継続使用します。お持ちでない方は購入してください。

### 教科書

橋本政義、橋本淑恵『楽しく学ぶドイツ語 改訂版』(三修社、2010、ISBN: 978-4-384-11271-9)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はある程度の語彙数をもつものがのぞましい。たとえば『アポロン独和辞典』(同学社)など。

### 参考書

根本道也ほか『アポロン独和辞典』(同学社、2010、ISBN: 978-4-8102-0006-5)

06481

## 上級ドイツ語 I

担当教員：清水 誠

1 単位 前期

### 授業のねらい

この授業では、少なくとも2年間、ドイツ語をすでに学んだ人を対象として、より進んだドイツ語の能力を身につけるための発展的な訓練を行います。基礎的な文法事項を復習しながら、複雑な文章に親しみ、表現力の養成に力点を置きます。発音指導もできるだけ行います。比較的少人数の授業になることが予想されますので、効率よくドイツ語力をアップさせることができますでしょう。

### 到達目標

この授業を受講すれば、ドイツ語の知識はこれからの皆さんの人生でかならず生き続けるはずです。ヨーロッパの言語・歴史・文学・文化をより深く知りたい人は、ぜひ受講してください。

### 授業方法

下記の初中級者向けの総合教材を使用します。初級文法事項を確認しながら、ややむずかしい内容に移行していきます。前期は会話表現を中心に、日常的なトピックを扱います。

教室ではCDによる録音教材を利用しながら、授業を進めていきます。皆さんの教科書にもCDがついていますので、家庭学習で活用してください。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 Willkommen in Leipzig 規則動詞、語順、疑問文
- 第3回 Willkommen an der Uni Leipzig 名詞の性、冠詞、格
- 第4回 Essen 複数形、不規則動詞、否定冠詞
- 第5回 Familie 所有冠詞、前置詞
- 第6回 Thomaskirche 語法の助動詞、人称代名詞、命令文
- 第7回 Was hast du gestern gemacht? 3基本形、完了形、過去形、分離・非分離動詞
- 第8回 Einkaufen 非人称の表現、形容詞
- 第9回 Einkaufen 再帰代名詞
- 第10回 Weihnachten 指示代名詞、関係代名詞
- 第11回 Weihnachten 不定詞、zu-不定詞
- 第12回 Ausflug 受動態
- 第13回 Ausflug 序数詞
- 第14回 Abschied 接続法(1)
- 第15回 Abschied 接続法(2)

### 成績評価の方法

授業への参加態度(80%)とごく簡単な試験(20%)で評価します。予習して授業に参加していれば、まったく心配する必要はありません。

### 履修にあたっての注意

もっとドイツ語をやってみよう!という気持ちさえあれば、十分です。

### 教科書

田原憲和 他『ドイツ語プラスアルファ コミュニケーション』(郁文堂、2018、ISBN:9784261012682)

06491

## 上級ドイツ語 II

担当教員：清水 誠

1 単位 後期

### 授業のねらい

この授業では、少なくとも2年間、ドイツ語をすでに学んだ人を対象として、より進んだドイツ語の能力を身につけるための発展的な訓練を行います。基礎的な文法事項を復習しながら、複雑な文章に親しみ、表現力の養成に力点を置きます。発音指導もできるだけ行います。比較的少人数の授業になることが予想されますので、効率よくドイツ語力をアップさせることができますでしょう。

### 到達目標

この授業を受講すれば、ドイツ語の知識はこれからの皆さんの人生でかならず生き続けるはずです。ヨーロッパの言語・歴史・文学・社会をより深く知りたい人は、ぜひ受講してください。

### 授業方法

下記の初中級者向けの総合教材を使用します。初級文法事項を確認しながら、ややむずかしい内容に移行していきます。後期は文章表現を中心に、文化的なトピックを扱います。

教室ではCDによる録音教材を利用しながら、授業を進めていきます。皆さんの教科書にもCDがついていますので、家庭学習で活用してください。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 地理と気候
- 第3回 食べ物と飲み物
- 第4回 ドイツ語という言語
- 第5回 ドイツの大学
- 第6回 休暇と趣味
- 第7回 治安
- 第8回 教育システム
- 第9回 政治システム
- 第10回 歴史
- 第11回 音楽
- 第12回 宗教
- 第13回 ドイツの分割
- 第14回 EUとヨーロッパ
- 第15回 外国人、難民、移民

### 成績評価の方法

授業への参加態度(80%)とごく簡単な試験(20%)で評価します。予習して授業に参加していれば、まったく心配する必要はありません。

### 履修にあたっての注意

もっとドイツ語をやってみよう!という気持ちさえあれば、十分です。

### 教科書

斎藤太郎 他『知りたいドイツ語』(朝日出版社、2018、ISBN:9784255254036)

06541

## 中級フランス語 A I

担当教員：尾形 弘人

1 単位 前期

### 授業のねらい

1 年間学習したフランス語とはいえ、まだまだ間違えるのはあたりまえ。大いに間違いながら、しかしポイントは確実に身に着けつつ、さらにフランス語の世界を広げましょう。  
皆さんの頑張りが、3、4 年次の「上級フランス語」の履修につながることを、期待します。

### 到達目標

1 年次に学んだ事項を復習しつつ、それを土台に、さらに複雑な文法を理解し、中級程度のフランス語を「聞き、話し、読み、書く」ことができる。  
フランス語検定テスト 4 級合格程度のレベルを目指す。

### 授業方法

教科書は「文法の説明」、「文法問題」、「会話」、「聞き取り問題」、「復習問題」からなります。各課のテーマと文法事項は以下の通りで、各課を 2 回程度の授業で消化していく予定です。また、教科書には予習・復習用の「オリジナル・ノート」が付属していますので、大いに役立ててください。

### 授業計画

- 第 1 回 1 年の復習(1)
- 第 2 回 1 年の復習(2)
- 第 3 回 第 1 課：フランコフォニー（世界の中のフランス語）
- 第 4 回 第 2 課：どこで習いましたか？（過去のことを話す）(1)  
代名動詞、複合過去（～した、～したことがある）
- 第 5 回 第 2 課：どこで習いましたか？（過去のことを話す）(2)  
代名動詞、複合過去（～した、～したことがある）
- 第 6 回 第 3 課：僕はね、東京に住んでいたんだ（過去の状態・習慣を話す）(1)  
半過去（～だった、～していた、～したものだった）、数量表現
- 第 7 回 第 3 課：僕はね、東京に住んでいたんだ（過去の状態・習慣を話す）(2)  
半過去（～だった、～していた、～したものだった）、数量表現
- 第 8 回 復習
- 第 9 回 第 4 課：まだ時間があるよ（未来を語る）(1)  
未来形、天気・気候の表現
- 第 10 回 第 4 課：まだ時間があるよ（未来を語る）(2)  
未来形、天気・気候の表現
- 第 11 回 第 5 課：どうしてそれを知っているの（相談する）(1)  
現在分詞、曜日名・月名
- 第 12 回 第 5 課：どうしてそれを知っているの（相談する）(2)  
現在分詞、曜日名・月名
- 第 13 回 第 6 課：砂糖をいれてもいいの？（仮定する）(1)  
条件法（英語の仮定法）
- 第 14 回 第 6 課：砂糖をいれてもいいの？（仮定する）(2)  
条件法（英語の仮定法）
- 第 15 回 復習

### 成績評価の方法

語学は平時の積み重ねが大切ですので、「予習、出席、復習」という、当たり前のことを重視します。したがって、平常点（出席、予習状況、遅刻、小テスト、課題提出等）6 割、定期試験 4 割を目安に評価します。

### 履修にあたっての注意

フランス語は発音できなければ楽しくありません。少しくらい間違ってもかまわないので、授業ではとにかく声を出しましょう。また、予習・復習の際には、発音の練習も怠らないでくだ

さい。CD をよく聞いて真似をすることが、上達の早道です

### 教科書

太原孝英他『新ケンとジュリー 2』（駿河台出版社、2016、ISBN：978-4-411-00832-9）

### 教科書・参考書に関する備考

辞書等については追って指示する。



06551

## 中級フランス語 A II

担当教員：尾形 弘人

1 単位 後期

### 授業のねらい

1 年半学習したフランス語とはいえ、まだまだ間違えるのはあたりまえ。大いに間違いながら、しかしポイントは確実に身に着けつつ、さらにフランス語の世界を広げましょう。

皆さんの頑張りが、3、4 年次の「上級フランス語」の履修につながることを、期待します。

### 到達目標

前期に引き続き、既習事項を復習しつつ、それを土台に、さらに複雑な文法を理解し、中級程度のフランス語を「聞き、話し、読み、書く」ことができる。

フランス語検定テスト 4 級合格程度のレベルを目指す。

### 授業方法

教科書は「文法の説明」、「文法問題」、「会話」、「聞き取り問題」、「復習問題」からなります。各課のテーマと文法事項は以下の通りで、各課を 2 回程度の授業で消化していく予定です。また、教科書には予習・復習用の「オリジナル・ノート」が付属していますので、大いに役立ててください。

### 授業計画

- 第 1 回 復習
- 第 2 回 第 7 課：なんて愛されているんだ（受け身表現）(1)  
受動態、強調構文、時刻の表し方
- 第 3 回 第 7 課：なんて愛されているんだ（受け身表現）(2)  
受動態、強調構文、時刻の表し方
- 第 4 回 第 8 課：昨日はとても楽しかったね（形容詞）(1)  
代名動詞の複合過去、形容詞の変化
- 第 5 回 第 8 課：昨日はとても楽しかったね（形容詞）(2)  
代名動詞の複合過去、形容詞の変化
- 第 6 回 第 9 課：フランスで一番高いの？（比較する）(1)  
比較表現、否定表現
- 第 7 回 第 9 課：フランスで一番高いの？（比較する）(2)  
比較表現、否定表現
- 第 8 回 復習
- 第 9 回 第 10 課：フランス語検定 4 級受験のために（傾向と対策）(1)
- 第 10 回 第 10 課：フランス語検定 4 級受験のために（傾向と対策）(2)
- 第 11 回 第 11 課：メリー・クリスマス&新年おめでとう(1)  
関係代名詞
- 第 12 回 第 11 課：メリー・クリスマス&新年おめでとう(2)  
関係代名詞
- 第 13 回 第 12 課：ジュリーが一緒に嬉しい（自分の感情を表現する）(1)  
接続法
- 第 14 回 第 12 課：ジュリーが一緒に嬉しい（自分の感情を表現する）(2)  
接続法
- 第 15 回 復習

### 成績評価の方法

語学は平時の積み重ねが大切ですので、「予習、出席、復習」という、当たり前のことを重視します。したがって、平常点（出席、予習状況、遅刻、小テスト、課題等）6 割、定期試験 4 割を目安に評価します。

### 履修にあたっての注意

フランス語は発音できなければ楽しくありません。少くく間違っててもかまわないので、授業ではとにかく声を出しましょう。また、予習・復習の際には、発音の練習も怠らないください。CD をよく聞いて真似をすることが、上達の早道です。

### 教科書

太原孝英他『新ケンとジュリー 2』（駿河台出版社、2016、ISBN：978-4-411-00832-9）

### 教科書・参考書に関する備考

辞書等については追って指示する。



06561

## 中級フランス語 B I

担当教員：竹内 修一

1 単位 前期

## 授業のねらい

◎映画を題材とする教科書を通して、フランス語を学ぶ

この授業の目的は、映画を通して、学生の皆さんにフランス語を学習してもらうことですが、さらにフランス文化に継続的な興味をもってもらうことも期待しています。

教科書として採用するのは、映画『シェルブールの雨傘』のシナリオであり、各登場人物の台詞を通じて、日常的な話し言葉を学習することができます。そうした話し言葉には、電話での対話、お店での注文、恋人たちの愛の言葉、親子の会話、仕事の同僚の会話などがあり、さまざまな場面で、どのような言葉を使えばよいのか、学習していただくことが可能であると考えています。

## 到達目標

教科書を最後まで終えることが目標です。

## 授業方法

まず映画を見た後、教科書を通してフランス語を学習していく。

学生の皆さんには、各登場人物の台詞を発話したあと、日本語に訳していただく。

前期・後期の最終回に、重要な箇所の台詞に関して、暗唱の小テストを行う予定です。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション 映画「シェルブールの雨傘」の紹介
- 第2回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(1)
- 第3回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(2)
- 第4回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(3)
- 第5回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(4)
- 第6回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(5)
- 第7回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(6)
- 第8回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(7)
- 第9回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(8)
- 第10回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(9)
- 第11回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(10)
- 第12回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(11)
- 第13回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(12)
- 第14回 暗唱のテスト+まとめ
- 第15回 筆記試験+まとめ

## 成績評価の方法

筆記試験(50%)、授業への参加状況(30%)、暗唱のテスト(20%)により評価する。

余りに欠席が多い場合は、成績評価の対象としない。

## 教科書

窪川英水(編)『シェルブールの雨傘』(白水社)

06571

## 中級フランス語 B II

担当教員：竹内 修一

1 単位 後期

## 授業のねらい

◎映画を題材とする教科書を通して、フランス語を学ぶ

この授業の目的は、映画を通して、学生の皆さんにフランス語を学習してもらうことですが、さらにフランス文化に継続的な興味をもってもらうことも期待しています。

教科書として採用するのは、映画『シェルブールの雨傘』のシナリオであり、各登場人物の台詞を通じて、日常的な話し言葉を学習することができます。そうした話し言葉には、電話での対話、お店での注文、恋人たちの愛の言葉、親子の会話、仕事の同僚の会話などがあり、さまざまな場面で、どのような言葉を使えばよいのか、学習していただくことが可能であると考えています。

## 到達目標

教科書を最後まで終えることが目標です。

## 授業方法

まず映画を見た後、教科書を通してフランス語を学習していく。

学生の皆さんには、各登場人物の台詞を発話したあと、日本語に訳していただく。

前期・後期の最終回に、重要な箇所の台詞に関して、暗唱の小テストを行う予定です。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション 映画「シェルブールの雨傘」の紹介
- 第2回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(1)
- 第3回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(2)
- 第4回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(3)
- 第5回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(4)
- 第6回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(5)
- 第7回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(6)
- 第8回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(7)
- 第9回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(8)
- 第10回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(9)
- 第11回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(10)
- 第12回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(11)
- 第13回 教科書「シェルブールの雨傘」の講読(12)
- 第14回 暗唱のテスト+まとめ
- 第15回 筆記試験+まとめ

## 成績評価の方法

筆記試験(50%)、授業への参加状況(30%)、暗唱のテスト(20%)により評価する。

余りに欠席が多い場合は、成績評価の対象としない。

## 教科書

窪川英水(編)『シェルブールの雨傘』(白水社)

## 授業のねらい

すでにフランス語を最低2年間学んだ学生を対象に、フランス語の読解力と会話力を高めることをめざします。フランスの歴史・地理・経済・社会・教育等に関する時事的なトピックを紹介する中級教科書をメインに副教材として会話参考書を併用して、初・中級レベルの知識（仏検3級までに相当）の復習をし、その定着もめざします。

フランス語そのものを実際に使っていくことが、その背景にあるフランス（語圏）についての知識を豊かにすることにつながれば幸いです。

## 到達目標

1. 日常会話の基本的な決まり文句や定型表現がすぐ口について出るようにする。
2. 基礎的な文法事項（仏検5～4級程度）の復習を含む各種練習問題を自力で解くことができる。
3. 自分で辞書を引いて、フランスの時事的なテーマを扱ったテキストを読解することができる。

## 授業方法

毎回の授業は演習形式による2部構成です。第1部では市販の会話参考書を使って、あいさつやお礼・お詫びなどコミュニケーションの基本表現と、欲求や依頼・勧誘・申し出といった意志を伝えるための表現パターンを学びます。I「基本会話編」の途中までを毎回1課ずつ進めます。授業では主に会話の発話練習と学生どうしによるロールプレイをおこないます。予習の段階で付属CD-ROMを活用した基本的な発話練習を済ませ、各課の解説やワンポイントアドバイスを熟読しておくことが求められます（授業中により多くの時間を個別の発音指導にあてるため）。第2部は時事フランス語の読解で、受講生が事前に決めた分担にしたがって教科書を輪読形式で訳読していきます。教科書前半からの計7課を、1課につき2回程度の授業で読み進めていく予定ですが、受講生の理解度と反応をみて柔軟に調整します。復習のために簡単な小テストを数回おこない、答えは採点して次の回に返却します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス、イントロダクション  
 第2回 会話(1): こんにちは／さようなら、読解(1): フランスのスタートアップス [経済]  
 第3回 会話(2): 私は～です、読解(2): 前回のつづき  
 第4回 会話(3): ありがとう、読解(3): フランスの学費 [教育]  
 第5回 会話(4): ごめんなさい、読解(4): 前回のつづき  
 第6回 会話(5): すみませんが／えっ?、読解(5): フランスの就活 [経済]  
 第7回 会話(6): ～ですか?、読解(6): 前回のつづき  
 第8回 会話(7): ～が欲しいのですが、読解(7): ニースとカンヌ [歴史/地理]  
 第9回 会話(8): ～してください、読解(8): 前回のつづき  
 第10回 会話(9): ～はいかがですか?、読解(9): ドルドーニュ地方のイギリス人 [社会]  
 第11回 会話(10): ～しましょうか?、読解(10): 前回のつづき  
 第12回 会話(11): ～してもいいですか?、読解(11): ルルド [歴史/地理]  
 第13回 会話(12): ～しなければなりません、読解(12): 前回のつづき  
 第14回 会話(13): 身元や特徴・様態などを尋ねる、読解(13): ヴォルテールと寛容 [歴史/思想]  
 第15回 会話(14): 好き嫌いを述べる、読解(14): 前回のつづき

## 成績評価の方法

授業への参加状況と小テスト(計3回程度)を含む平常点(80%)および定期試験(筆記と実技)の成績(20%)による総合評価とします。

平常点重視ですが、必要な予習をしたうえで授業に参加しているかぎり心配無用です(必要な予習をしていないことが明らかなる場合を除き、間違えたからといって平常点を減点するようなことはありません)。

就活関連のやむを得ない欠席については、事前連絡があった場合には考慮します。

2018年度春季(6月中旬)の仏検3級(以上)の合格者には、その得点に応じて最終的な成績評価の際に加点します。

## 履修にあたっての注意

「上級」の授業ですが使用教材は初・中級レベルです。「もっとフランス語を勉強したい」という意欲のある方たちの受講を歓迎します。比較的少人数の授業になることが予想されますが、みんなで楽しく(リラックスしつつ適度な緊張感も持って)やってみましょう。時事フランス語の訳読担当者は、付属CDを活用して読みの練習もしておくように(テキストの朗読も平常点に反映されます)。仏検3級以上の既修得者は、初回ガイダンス時に申し出てください。

## 教科書

倉方秀憲『今すぐ話せる!いちばんはじめのフランス語会話』(ナガセ(東進ブックス)、2017、ISBN:9784890857135)  
 加藤晴久/ミシェル・サガズ『時事フランス語 2018年度版』(朝日出版社、2018、ISBN:9784255352817)

## 教科書・参考書に関する備考

いずれの教科書もCD付きなので予習・復習に大いに活用してください。仏和辞典(電子辞書または有料アプリ可)は必ず用意して毎回持参してください。参考書は授業の中で適宜紹介します。

## 参考ホームページ

学内巡礼の旅 第2回 [http://www.fujijoshi.ac.jp/pilgrim/index2014\\_01/](http://www.fujijoshi.ac.jp/pilgrim/index2014_01/)(藤女子のルルド)

06591

## 上級フランス語Ⅱ

担当教員：小澤 卓哉

1単位 後期

### 授業のねらい

すでにフランス語を最低2年間学んだ学生を対象に、フランス語の読解力と会話力を高めることをめざします。フランスの歴史・政治・社会・文化・日仏関係等に関する時事的なトピックを紹介する中級教科書をメインに副教材として会話参考書を併用して、初・中級レベルの知識（仏検3級までに相当）の復習をし、その定着もめざします。

フランス語そのものを実際に使っていくことが、その背景にあるフランス（語圏）についての知識を豊かにすることにつながれば幸いです。

### 到達目標

1. フランス旅行の実際の場合で役立つ表現や語句を使いこなせるようにする。
2. 基礎的な文法事項（仏検4～3級程度）の復習を含む各種練習問題を自力で解くことができる。
3. 自分で辞書を引いて、フランスの時事的なテーマを扱ったテキストを読解することができる。

### 授業方法

毎回の授業は演習形式による2部構成です。第1部は市販の会話参考書を使って、フランス旅行でのさまざまな場面で使われる表現や語彙を覚えて、会話の幅を広げていきます。Iの終わりから始めてII「実践会話編」の最後まで毎回1課ずつ進めます。授業では主に会話の発話練習と学生どうしによるロールプレイをします。予習の段階で付属CD-ROMを活用した基本的な発話練習を終え、各課の解説やワンポイントアドバイスを熟読しておくことが求められます（授業中により多くの時間を個別の発音指導にあてるため）。第2部は時事フランス語の読解で、受講生が事前に決めた分担にしたがって輪読形式で訳読していきます。教科書後半からの計7課を、1課につき2回程程度の授業で消化していく予定ですが、受講生の理解度と反応をみて柔軟に調整します。最終回ではマクロン大統領就任演説の読解にも挑戦する予定です。復習のために簡単な小テストを数回おこない、答えは採点して次の回に返却します。

### 授業計画

- 第1回 (ミニ・ガイドンス)  
会話(1)：意見や判断を述べる、読解(1)：ジャン・モネ [歴史/政治]
- 第2回 会話(2)：さまざまな場面での挨拶、読解(2)：前回のつづき
- 第3回 会話(3)：ホテルのフロントで、読解(3)：移民危機 [EU/政治]
- 第4回 会話(4)：ルームサービス、読解(4)：前回のつづき
- 第5回 会話(5)：地下鉄に乗る、読解(5)：フランスにおける歴史責任問題 [歴史/政治]
- 第6回 会話(6)：道を尋ねる、読解(6)：前回のつづき
- 第7回 会話(7)：美術館を見学する、読解(7)：警察と憲兵隊 [制度]
- 第8回 会話(8)：レストランで(1)、読解(8)：前回のつづき
- 第9回 会話(9)：レストランで(2)、読解(9)：ライドシェア [社会]
- 第10回 会話(10)：ブティックで、読解(10)：前回のつづき
- 第11回 会話(11)：バッグをなくす、読解(11)：神学校生 [宗教]
- 第12回 会話(12)：病気、読解(12)：前回のつづき
- 第13回 会話(13)：ホテルのチェックアウト、読解(13)：バンド・デシネ [文化/フランス・日本]
- 第14回 会話(14)：搭乗手続き、読解(14)：前回のつづき
- 第15回 読解(15)：マクロン大統領就任演説 [特別資料]

### 成績評価の方法

授業への参加状況と小テスト（計3回程度）を含む平常点（80%）および定期試験（筆記と実技）の成績（20%）による総合評価

とします。平常点重視ですが、必要な予習をしたうえで授業に参加しているかぎり心配無用です（必要な予習をしていないことが明らかなる場合を除き、間違えたからといって平常点を減点するようなことはありません）。

就活関連のやむを得ない欠席については、事前連絡があった場合には考慮します。

2018年度秋季（11月中旬）の仏検3級（以上）の合格者には、その得点に応じて最終的な成績評価の際に加点します。

### 履修にあたっての注意

時事フランス語の訳読担当者は、付属CDを活用して読みの練習もしておくように（テキストの朗読も平常点に反映されます）。とくに厳冬の遅刻で小テストの未受験が重ならないよう気をつけましょう。

### 教科書

倉方秀憲『今すぐ話せる！いちばんはじめのフランス語会話』（ナガセ（東進ブックス）、2017、ISBN：9784890857135）

加藤晴久/ミシェル・サガズ『時事フランス語 2018年度版』（朝日出版社、2018、ISBN：9784255352817）

### 教科書・参考書に関する備考

最終回の特別資料については教員が別途配布します。仏和辞典（電子辞書または有料アプリ可）は必ず用意して毎回持参してください。参考書は授業の中で適宜紹介します。



06641

## 中級中国語 A I

担当教員：森若 裕子

1 単位 前期

### 授業のねらい

初級で学んだ基本文型が、実際の会話でどのように展開するかを学んで、自ら中国語で発信する能力を身につけることを目的とする。同時に日本語と中国語の構造及び発想の違いを認識し、語学的関心を高めてもらう。

### 到達目標

1. 基本文型を理解し、それらを聞き取り、さらに中国語から日本語、日本語から中国語への訳ができる。
2. 単語を聞き取り、ピンインを正しく書き、正確に発音できる。
3. 文字を見ないで簡単な会話ができる。

### 授業方法

原則として、1 課を 2 回の授業で学ぶ。1 回目は新たな文法事項を学び、会話の内容を把握する。2 回目は教科書の「トレーニング」を中心とした応用練習及びロールプレイをペアで行う。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 初級の復習、教室でよく使う言葉
- 第3回 教科書第1課：助動詞“可以”、“要”、主述述語文、目的語が主述句の文型
- 第4回 教科書第1課：応用練習
- 第5回 教科書第2課：“的”の用法、「原因・理由」を表す表現、文末助詞
- 第6回 教科書第2課：応用練習
- 第7回 教科書第3課：連動文、“是～的”構文、疑問詞
- 第8回 教科書第3課：応用練習
- 第9回 教科書第4課：“了”の3つの用法、副詞“就”
- 第10回 教科書第4課：応用練習
- 第11回 教科書第5課：様態補語、「可能性の予測」を表す“会”、「仮定」を表す“要是”
- 第12回 教科書第5課：応用練習
- 第13回 教科書第6課：結果補語、副詞
- 第14回 教科書第6課：応用練習
- 第15回 教科書第1～6課の復習

### 成績評価の方法

到達目標1「基本文型を理解し、それらを聞き取り、さらに中国語から日本語、日本語から中国語への訳ができる」の達成度を測定する期末試験（60%）、到達目標2「単語を聞き取り、ピンインを正しく書き、正確に発音できるようにする」の達成度を測定する小テスト（20%）、授業への参加状況から到達目標3「文字を見ないで簡単な会話ができる。」の達成度を測定すること（20%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

小テストを通じて、随時自分の弱点を認識し、必要学習事項を確認すること。教科書の新出単語と本文を定着させるために、授業の事後に日本語から中国語の訳とピンインを書くこと。毎日シャドウイングすることを習慣にすること。

### 教科書

尹景春・竹島毅『中国語つぎへの一步』（白水社、2016、ISBN：9784560069233）

### 参考書

札幌中国語工房『中国語で PERAPER A 北海道』（北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528）

06642

## 中級中国語 A I

担当教員：云 肖梅

1 単位 前期

### 授業のねらい

中国語のより多様な表現を学ぶ授業である。一年次開講の初級中国語を基礎として、複文などの新しい表現を加え、中国語の表現能力をさらに発展させることを目指す。実際の生活場面を設定し、「聞く・話す」に重点を置きながら、発音・聞き取り・会話練習を通して、より豊かな表現力を身につけ、中国語の応用能力を高める。

### 到達目標

1. 中国語で日常会話のやりとりが出来る。
2. 中国語でよく使う複文の文型を応用することができる。

### 授業方法

原則として、テキストの一课につき、授業二回にわたって進行します。一回目は基本文型を習得し、二回目は応用会話や練習問題を取り組みます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
ピンインと基本文型の復習
- 第2回 第一課 中国人の朝食 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 方向補語 2. 連動文
- 第3回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第4回 第二課 タクシーに乗る 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 結果補語 2. 仮定の表現
- 第5回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第6回 第三課 高価な映画券 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 兼語文 2. 越来越～
- 第7回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第8回 中間テスト
- 第9回 第四課 AA 製と AB 製 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 受け身の表現 2. 禁止を表す語
- 第10回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第11回 第五課 病気 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 「是……的」構文 2. 様態補語
- 第12回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第13回 第六課 ネットショッピング 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 不定の表現 2. 「把」構文
- 第14回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第15回 総合復習

### 成績評価の方法

中間テスト（40%）、期末試験（40%）、授業への参加（20%）、により評価する。  
「授業への参加状況」とは、単なる出席状況ではなく、発音や会話練習への参加状況をも加味します。なお、中国文化や情勢に関心を持つことをも評価する。

### 履修にあたっての注意

積極的に授業参加や発言が望ましい。

### 教科書

内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』（金星堂、2014、ISBN：978-4-7647-0690-3）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書などの資料は随時配布。

06643

中級中国語 A I  
担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 前期

## 授業のねらい

「初級中国語」で学習した内容を復習しつつ、新たな表現を学んでいく。「読む、話す、書く、聴く」の総合的能力を向上させるためのトレーニングに力を入れる。

## 到達目標

準中級程度の文章を読んで理解することができる。  
日常的な場面設定で平易な内容について聴いたり話したりすることができる。

## 授業方法

教科書の各課を2回の授業で学び終える。1回目の授業では本文を中心に学習する。文法内容を確認したうえで、本文の話題に基づいて問答をする。2回目は本文を離れ、日常生活で頻繁に出現する語彙と表現を用いて、1回目ですんだ文法についてトレーニングをする。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | 第1課「中国に行こう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答    |
| 第2回  | 第1課「中国に行こう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1     |
| 第3回  | 第2課「ウーロン茶を飲もう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答 |
| 第4回  | 第2課「ウーロン茶を飲もう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング2  |
| 第5回  | 第3課「友だちを作ろう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の内容に基づく問答   |
| 第6回  | 第3課「友だちを作ろう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング3    |
| 第7回  | 第1課～第3課の復習                                |
| 第8回  | 中間試験                                      |
| 第9回  | 第4課「長城に登ろう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の内容に基づく問答    |
| 第10回 | 第4課「長城に登ろう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング4     |
| 第11回 | 第5課「漢字を覚えよう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の内容に基づく問答   |
| 第12回 | 第5課「漢字を覚えよう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング5    |
| 第13回 | 第6課「街を歩こう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の内容に基づく問答     |
| 第14回 | 第6課「街を歩こう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング6      |
| 第15回 | 第5課～第6課の復習                                |

## 成績評価の方法

小テスト 40%、中間試験 30%、期末試験 30%

## 履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発音すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

## 教科書

伊景春『中国語さらなる一歩』(白水社、2002年、ISBN: 4-569-06910-7)

06644

中級中国語 A I  
担当教員：楊 志剛

1 単位 前期

## 授業のねらい

既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、現代中国さまざまな現実を触れながら、初級なしに中級レベルの文法や語彙の取得。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指します。

## 到達目標

1. 中国語検定試験3級に合格あるいはそれに準ずるに必要な言語能力を取得する。やや高度な文法事項をりかかする。
2. 中国語の児童文学程度の文章を読める。日本の社会・文化について中国語で簡単に紹介できる。

## 授業方法

基本的に教科書に沿って進んでいくが、教科書に触れていない文法項目や日常用語など必要に応じ補充教材やビデオなどで紹介する場合もある。授業中で話題ごとに積極的な発問したり、答えたりすることによって、会話能力の向上を目指していく。さらに観光客などに会話を話かける宿題、Youtubeなどで自学した中国語歌の発表する宿題を出す予定です。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | 復習やガイダンス                                 |
| 第2回  | 第1課 自我介绍                                 |
| 第3回  | 第1課 文法：1前置詞「对」、2名詞の前の「的」                 |
| 第4回  | 第2課 我的家庭                                 |
| 第5回  | 第2課 文法：1動詞形容詞の前の「地」 2.比較用法               |
| 第6回  | 第3課 互联网                                  |
| 第7回  | 第3課 文法：1疑問詞の呼応表現 2.「一点儿也不/没」             |
| 第8回  | 復習とテスト                                   |
| 第9回  | 第4課 约会                                   |
| 第10回 | 第4課 文法： 1.持続を表す「着」 2.複合方向補語 3.動詞の重ね型の完了形 |
| 第11回 | 第5課 温泉旅行                                 |
| 第12回 | 第5課 文法：1結果補語 2.存現文                       |
| 第13回 | 第6課 我的爱好                                 |
| 第14回 | 第6課 文法：1可能補語 2..一…就…                     |
| 第15回 | 復習と試験                                    |

## 成績評価の方法

到達目標1に測定する試験(50%)、到達目標2を測定する小テスト授業への参加状況及び態度・姿勢・意欲・積極的に発話する(30%)で評価する。

## 履修にあたっての注意

履修者は積極的な準備及び復習が必要である。小テスト含め、事前準備の必要な内容や課題などについては、教員から随時に指示する。粘り強く取り込むことが大事である。40人を目途に履修者の調整を行う場合がある。外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかりと行うよう心がけてください。

## 教科書

劉穎 柴森 小澤 正人『2冊めの中国語 購読クラス』(白水社、2017、ISBN: 978-4-560-06927-1)

## 教科書・参考書に関する備考

新し教科書なので、履修者全員が購入する必要がある。辞書は特に指定しませんが、スマホなどの関連APPをお勧めします。

06651

中級中国語 A II

担当教員：森若 裕子

1 単位 後期

授業のねらい

初級で学んだ基本文型が、実際の会話でどのように展開するかを学んで、自ら発信する能力を身に着けることを目的とする。同時に日本語と中国語の構造と発想の違いを認識し、語学的関心を高めてもらう。

到達目標

1. 基本文型を理解し、それらを聞き取り、さらに中国語から日本語、日本語から中国語への訳ができる。
2. 単語を聞き取り、ピンインを正しく書き、正確に発音できる。
3. 文字を見ないで簡単な会話ができる。

授業方法

原則として、1 課を 2 回の授業で学ぶ。1 回目は新たな文法事項を学び、会話の内容を把握する。2 回目は教科書の「トレーニング」を中心とした応用練習及びロールプレイをペアで行う。

授業計画

- 第 1 回 教科書第 7 課：存現文、主語がフレーズの文型、“～了～了”の用法
- 第 2 回 教科書第 7 課：応用練習
- 第 3 回 教科書第 8 課：「状態の持続」を表す表現、副詞“再”、疑問詞の不定用法
- 第 4 回 教科書第 8 課：応用練習
- 第 5 回 教科書第 9 課：方向補語、「使役」表現
- 第 6 回 教科書第 9 課：応用練習
- 第 7 回 教科書第 10 課：可能補語、強調表現
- 第 8 回 教科書第 10 課：応用練習
- 第 9 回 教科書第 11 課：結果補語、「受身」を表す“被”
- 第 10 回 教科書第 11 課：応用練習
- 第 11 回 教科書第 12 課：“快～了”の用法、“把”構文
- 第 12 回 教科書第 12 課：応用練習
- 第 13 回 教科書：メールの書き方
- 第 14 回 教科書本文のロールプレイ
- 第 15 回 教科書第 1～12 課の復習

成績評価の方法

到達目標 1「基本文型を理解し、それらを聞き取り、さらに中国語から日本語、日本語から中国語への訳ができる」の達成程度を測定する期末試験（60%）、到達目標 2「単語を聞き取り、ピンインを正しく書き、正確に発音できるようにする」の達成程度を測定する小テスト（20%）、授業への参加状況から到達目標 3「文字を見ないで簡単な会話ができる」の達成程度を測定すること（20%）により評価する。

履修にあたっての注意

小テストを通じて、随時自分の弱点を認識し、必要学習事項を確認すること。教科書の新出単語と本文を定着させるために、授業の事後に日本語から中国語の訳とピンインを書くこと。毎日シャドウイングすることを習慣にすること。

教科書

尹景春・竹島毅『中国語つぎへの一步』（白水社、2016、ISBN：9784560069233）

参考書

札幌中国語工房『中国語で PERAPER A 北海道』（北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528）

06652

中級中国語 A II

担当教員：云 肖梅

1 単位 後期

授業のねらい

中国語のより多様な表現を学ぶ授業である。一年次開講の初級中国語を基礎として、複文などの新しい表現を加え、中国語の表現能力をさらに発展させることを目指す。実際の生活場面を設定し、「聞く・話す」に重点を置きながら、発音・聞き取り・会話練習を通して、より豊かな表現力を身につけ、中国語の応用能力を高める。

到達目標

1. 中国語で日常会話のやりとりが出来る。
2. 中国語でよく使う複文の文型を応用することができる。

授業方法

原則として、テキストの一课につき、授業二回にわたって進行します。一回目は基本文型を習得し、二回目は応用会話や練習問題を取り組みます。

授業計画

- 第 1 回 第七課 剩男剩女 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 「才」の表現 2. 状態の持続を表す「着」
- 第 2 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 3 回 第八課 大学生は学習に集中すべきだ 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 「一……就……」 2. 後置される前置詞
- 第 4 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 5 回 第九課 感謝を表す習慣 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 「再」と「又」 2. 二重目的語
- 第 6 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 7 回 総合復習
- 第 8 回 中間テスト
- 第 9 回 第十課 若者の就職意識 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 「倍」の言い方 2. 存現文
- 第 10 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 11 回 第十一課 月光族 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. 可能補語 2. 「只要……就……」
- 第 12 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 13 回 第十二課 海外での奇遇 会話部分 口頭練習  
学習要点 1. いろいろな前置詞 2. 文による目的語
- 第 14 回 短文部分 要点解説 翻訳練習
- 第 15 回 総合復習

成績評価の方法

中間テスト（40%）、期末試験（40%）、授業への参加（20%）、により評価する。「授業への参加状況」とは、単なる出席状況ではなく、発音や会話練習への参加状況をも加味します。なお、中国文化や情勢に関心を持つことをも評価する。

履修にあたっての注意

積極的に授業参加や発言が望ましい。

教科書

内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』（金星堂、2014、ISBN：978-4-7647-0690-3）

教科書・参考書に関する備考

参考書などの資料は随時配布。



06653

## 中級中国語 A II

担当教員：ケイ 玉芝

1 単位 後期

## 授業のねらい

単文から複文へと、もう少し複雑な表現を学んでいく。「読む、話す、書く、聴く」の総合的能力を向上させるためのトレーニングを続ける。

## 到達目標

中級程度の文章を読んで理解することができる。  
日常的な場面設定で平易な内容について聴いたり話したりすることができる。

## 授業方法

教科書の各課を2回の授業で学び終える。1回目の授業では本文を中心に学習する。文法内容を確認したうえで、本文の話題に基づいて問答をする。2回目は本文を離れ、日常生活で頻繁に出現する語彙と表現を用いて、1回目で学んだ文法についてトレーニングをする。

## 授業計画

第1回	第7課「中国映画を見よう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第2回	第7課「中国映画を見よう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第3回	第8課「シルクを買おう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第4回	第8課「シルクを買おう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第5回	第9課「中華を食べよう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第6回	第9課「中華を食べよう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第7回	第7課～第9課の復習
第8回	中間試験
第9回	第10課「太極拳を習おう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第10回	第10課「太極拳を習おう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第11回	第11課「水滸伝を楽しもう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第12回	第11課「水滸伝を楽しもう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第13回	第12課「春節を過ごそう」①文法の説明②本文の意味の確認③本文の話題に基づく問答
第14回	第12課「春節を過ごそう」①前回の復習②会話、作文、リスニングのトレーニング1
第15回	第10課～第12課の復習

## 成績評価の方法

小テスト 40%、中間試験 30%、期末試験 30%

## 履修にあたっての注意

とにかく出席して、大きな声を出して発音すること。やむを得ない理由で欠席し、結果として不足してしまった学習内容については、必ずクラスメートや教員の助けを借りるなどして早めに補填しておくこと

## 教科書

伊景春『中国語さらなる一歩』(白水社、2002、ISBN：4-569-06910-7)

06654

## 中級中国語 A II

担当教員：楊 志剛

1 単位 後期

## 授業のねらい

既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、現代中国さまざまな現実を触れながら、初級なしに中級レベルの文法や語彙の取得。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指します。

## 到達目標

1. 中国語検定試験3級に合格あるいはそれに準ずるに必要な言語能力を取得する。やや高度な文法事項をりかかする。
2. 中国語の児童文学程度の文章を読める。日本の社会・文化について中国語で簡単に紹介できる。

## 授業方法

基本的に教科書に沿って進んでいくが、教科書に触れていない文法項目や日常用語など必要に応じ補充教材やビデオなどで紹介する場合もある。授業中で話題ごとに積極的な発問したり、答えたりすることによって、会話能力の向上を目指していく。さらに観光客などに会話を話かける宿題、Youtubeなどで自学した中国語歌の発表する宿題を出す予定です。

## 授業計画

第1回	前期内容の復習
第2回	第7課 交朋友
第3回	第7課 文法：1「是...的」、2様態補語
第4回	第8課 聚餐
第5回	第8課 文法：1疑問視の不定用法 2.可能補語
第6回	第9課 鬧鐘
第7回	第9課 文法：1受け身文 2.動詞の後の「給」
第8回	復習とテスト
第9回	第10課 打工
第10回	第10課 文法：1.動量補語 2.離合詞
第11回	第11課 寒假
第12回	第11課 文法：1「有」の兼語文 2.使役動詞「让」
第13回	第12課 留学
第14回	第12課 文法：「有」の連動文 2..「把」の文
第15回	復習と試験

## 成績評価の方法

到達目標1に測定する試験(50%)、到達目標2を測定する小テスト授業への参加状況及び態度・姿勢・意欲・積極的に発話する(30%)で評価する。

## 履修にあたっての注意

履修者は積極的な準備及び復習が必要である。小テスト含め、事前準備の必要な内容や課題などについては、教員から随時に指示する。粘り強く取り込むことが大事である。40人を目途に履修者の調整を行う場合がある。外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかりと行うよう心がけてください。

## 教科書

劉穎 柴森 小澤 正人『2冊めの中国語 購読クラス』(白水社、2017、ISBN：978-4-560-06927-1)

## 教科書・参考書に関する備考

新し教科書なので、履修者全員が購入する必要がある。辞書は特に指定しませんが、スマホなどの関連APPをお勧めします。

06661

中級中国語 B I

担当教員：胡 耀光

1 単位 前期

授業のねらい

一年次学んだ中国語を基礎として、更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に教えて、中国語の読む、聴く、会話の能力を総合的に高めることを目指す。

到達目標

1. 正確で自然な発音と中級レベルの語彙および文法を身に付けること。
2. 旅とおもてなしに役に立つ中国語を覚えて、中国語で簡単な日常会話ができるようになること。
3. 中国語検定3級レベルに達すること。

授業方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき二回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習をする。
- ・講義やDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

授業計画

- 第1回 ①ガイダンス ②第1-2課  
 第2回 第3課 自己紹介 (1)様態補語 (2)助動詞「要」1  
 第3回 自己紹介 練習問題  
 第4回 会話発表 (自己紹介)  
 第5回 第4課 関心事・趣味 (1)結果補語 (2)助動詞「要」2  
 第6回 関心事・趣味 練習問題  
 第7回 第5課 私の家 (1)副詞「都」(2)複合方向補語  
 第8回 私の家 練習問題  
 第9回 応用会話練習  
 第10回 第6課 学校に行く (1)助動詞「得」(2)数量補語  
 第11回 学校に行く 練習問題  
 第12回 第7課 買い物をする (1)「又～又～」(2)使役の表現  
 第13回 買い物をする 練習問題  
 第14回 応用会話練習  
 第15回 DVDで中国文化の紹介

成績評価の方法

- ・平常点：10% (出席状況+学習態度)
- ・小テスト：30%
- ・期末テスト：60%

履修にあたっての注意

- ・出席を重視すること。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

教科書

宮本 大輔・温 琳 著『話そう！実践中国語』(朝日出版社、2011、ISBN：978-4-255-45208-1)

参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社、1996、ISBN：4-8102-0034-5)

06662

中級中国語 B I

担当教員：大沼 尚子

1 単位 前期

授業のねらい

1年次学んだ中国語を基礎として、更に語彙と文型を増やすことで、中国語の読む、聴く、会話の能力を高めることを目指す。特に、日常会話の能力は、実際の生活場面を作りながら、楽しい雰囲気の中で身に付けさせる。ときには、ビデオ、雑誌、音楽などによって中国の歴史や文化、中国の社会の現状を紹介し、学生の中国への理解と関心を深める。

到達目標

本授業の目標は1年次に習得した中国語能力をさらに伸ばし、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能の向上を図ることにある。ただし、学習者それぞれのニーズは自ずと異なることから、授業では最低限度必要な知識を教え、今後学生が自分で目標を立てて中国語能力を高めていけるための基礎訓練に力を入れている。また学生個々のニーズによって自主的に学習目標を立ててくれることを期待している。

授業方法

授業の時に毎回何名かの学生に発音させたり、練習問題を書かせたりする。さらに2回の授業で1課を終える進度でテキストを学んでいく。授業中に音読やコントにより中国語を楽しく身につけさせる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス 音節の復習  
 第2回 第1課 旅行の計画 (1)“都”について (2)兼語文  
 第3回 ドリルと会話練習(1)  
 第4回 第2課 航空券を予約する (1)前置詞“把” (2)動詞+“一下”  
 第5回 ドリルと会話練習(2)  
 第6回 第3課 上海浦東空港にて (1)連用修飾語“地” (2)会～的  
 第7回 ドリルと会話練習(3)  
 第8回 中間テスト(1)  
 第9回 第4課 昆明飛行場の出口にて (1)アスペクト“着”(2)使役表現  
 第10回 ドリルと会話練習(4)  
 第11回 第5課 眼鏡を修理する (1)越～越～ (2)可(副詞)～  
 第12回 ドリルと会話練習(5)  
 第13回 第6課 乗り換え (1)呼応関係 (2)多+形容詞、多+動詞文  
 第14回 ドリルと会話練習(6)  
 第15回 総復習と応用会話練習(1)

成績評価の方法

期末試験は70%、平常点は20%、会話テスト10%により総合的評価する。

履修にあたっての注意

中国では「熟能生巧」(習うより慣れよ)という諺があります。中国語をたくさん読み、聴き、話し、書くことによって高度な会話ができるようになるということを意識しつつ授業に参加して欲しい。予習、復習して、積極的に授業に取り込むこと。

教科書

奈良行博・伊冬岩・劉軍・大沼尚子『体感中国 初級からのステップアップ』(同学社、2013、ISBN：9784810207705)

参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社)

06663

## 中級中国語 B I

担当教員：胡 耀光

1 単位 前期

## 授業のねらい

一年次学んだ中国語を基礎として、更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に教えて、中国語の読む、聴く、会話の能力を総合的に高めることを目指す。

## 到達目標

1. 正確で自然な発音と中級レベルの語彙および文法を身に付けること。
2. 旅とおもてなしに役に立つ中国語を覚えて、中国語で簡単な日常会話ができるようになること。
3. 中国語検定3級レベルに達すること。

## 授業方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき2回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習をする。
- ・講義やDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

## 授業計画

- 第1回 ①ガイダンス ②第1-2課  
 第2回 第3課 自己紹介 (1)様態補語 (2)助動詞「要」1  
 第3回 自己紹介 練習問題  
 第4回 会話発表 (自己紹介)  
 第5回 第4課 関心事・趣味 (1)結果補語 (2)助動詞「要」2  
 第6回 関心事・趣味 練習問題  
 第7回 第5課 私の家 (1)副詞「都」(2)複合方向補語  
 第8回 私の家 練習問題  
 第9回 応用会話練習  
 第10回 第6課 学校に行く (1)助動詞「得」(2)数量補語  
 第11回 学校に行く 練習問題  
 第12回 第7課 買い物をする (1)「又～又～」(2)使役の表現  
 第13回 買い物をする 練習問題  
 第14回 応用会話練習  
 第15回 DVDで中国文化の紹介

## 成績評価の方法

- ・平常点：10% (出席状況+学習態度)
- ・小テスト：30%
- ・期末テスト：60%

## 履修にあたっての注意

- ・出席を重視すること。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

## 教科書

宮本 大輔・温 琳 著『話そう！実践中国語』（朝日出版社、2011、ISBN：978-4-255-45208-1）

## 参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社、1996、ISBN：4-8102-0034-5）

06664

## 中級中国語 B I

担当教員：楊 志剛

1 単位 前期

## 授業のねらい

既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、現代中国さまざまな現実を触れながら、初級なしに中級レベルの文法や語彙の取得。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指します。

## 到達目標

1. 中国語検定試験3級に合格あるいはそれに準ずるに必要な言語能力を取得する。やや高度な文法事項をりかいする。
2. 中国語の児童文学程度の文章を読める。日本の社会・文化について中国語で簡単に紹介できる。

## 授業方法

基本的に教科書に沿って進んでいくが、教科書に触れていない文法項目や日常用語など必要に応じ補充教材やビデオなどで紹介する場合もある。授業中で話題ごとに積極的な発問したり、答えたりすることによって、会話能力の向上を目指していく。さらに観光客などに会話を話かける宿題、Youtubeなどで自学した中国語歌の発表する宿題を出す予定です。

## 授業計画

- 第1回 復習やガイダンス  
 第2回 第一課 家電商店  
 第3回 第一課文法 1.助動詞「想」、「会」 2.「是…的」構文  
 第4回 第二課 在电车上  
 第5回 第二課文法 1.動態助詞「了」 2.前置詞「给」  
 第6回 第三課 迪斯尼乐园  
 第7回 第三課文法 1.複文  
 第8回 復習とテスト  
 第9回 第四課 在餐厅  
 第10回 第四課文法 1.疑問詞の呼応用法 1.動態助詞「着」  
 第11回 第五課 北京再会  
 第12回 第五課文法 1.動作の進行を表す「正在…呢」 複合方向補語「～下来」  
 第13回 第六課 在海关  
 第14回 第六課文法 1.様態補語 2.使役文  
 第15回 復習と試験

## 成績評価の方法

到達目標1に測定する試験(50%)、到達目標2を測定する小テスト授業への参加状況及び態度・姿勢・意欲・積極的に発話する(30%)で評価する。

## 履修にあたっての注意

履修者は積極的な準備及び復習が必要である。小テスト含め、事前準備の必要な内容や課題などについては、教員から随時に指示する。粘り強く取り込むことが大事である。

## 教科書

矢嶋 美都子 徐送迎『使える!! 大学生的中国語』（同学社、2018、ISBN：978-4-8102-0787-3）

## 教科書・参考書に関する備考

新し教科書なので、履修者全員が購入する必要がある。辞書は特に指定しませんが、スマホなどの関連APPをお勧めします。



06671

## 中級中国語 B II

担当教員：胡 耀光

1 単位 後期

### 授業のねらい

「中級中国語 B I」の引き続き一年次学んだ中国語を基礎として、更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に教えて、中国語の読む、聴く、会話の能力を総合的に高めることを目指す。

### 到達目標

1. 正確で自然な発音と中級レベルの語彙および文法を身に付けること。
2. 旅とおもてなしに役に立つ中国語を覚えて、中国語で簡単な日常会話ができるようになること。
3. 中国語検定3級レベルに達すること。

### 授業方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき二回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習をする。
- ・講義やDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

### 授業計画

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 第1回  | 第8課：料理を注文する (1)動詞「需要」(2)程度補語      |
| 第2回  | 料理を注文する 練習問題                      |
| 第3回  | 第9課：道を尋ねる (1)「把」構文 (2)前置詞「往」      |
| 第4回  | 道を尋ねる 練習問題                        |
| 第5回  | 第10課：電話を掛ける (1)副詞「正好」(2)副詞「剛/剛剛」  |
| 第6回  | 電話を掛ける 練習問題                       |
| 第7回  | 中間テスト                             |
| 第8回  | 第11課：大学祭 (1)前置詞「為」(2)助動詞「会」       |
| 第9回  | 大学祭 練習問題                          |
| 第10回 | 第12課：私の夢 (1)「越～越～」(2)「只有～才～」      |
| 第11回 | 私の夢 練習問題                          |
| 第12回 | 第13課：早く春休みになれ (1)「与其～不如～」(2)副詞「可」 |
| 第13回 | 早く春休みになれ 練習問題                     |
| 第14回 | 応用会話練習と総復習                        |
| 第15回 | DVDで中国文化の紹介                       |

### 成績評価の方法

- ・平常点：10% (出席状況+学習態度)
- ・平常点：10% (小テスト+レポート)
- ・中間テスト：40%
- ・期末テスト：40%

### 履修にあたっての注意

- ・出席を重視すること。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと

### 教科書

宮本 大輔・温 琳 著『話そう! 実践中国語』(朝日出版社、2011、ISBN：978-4-255-45208-1)

### 参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社、1996、ISBN：4-8102-0034-5)

06672

## 中級中国語 B II

担当教員：大沼 尚子

1 単位 後期

### 授業のねらい

1年次学んだ中国語を基礎として、更に語彙と文型を増やすことで、中国語の読む、聴く、会話の能力を高めることを目指す。特に、日常会話の能力は、実際の生活場面を作りながら、楽しい雰囲気の中で身に付けさせる。ときには、ビデオ、雑誌、音楽などによって中国の歴史や文化、中国の社会の現状を紹介し、学生の中国への理解と関心を深める。

### 到達目標

本授業の目標は1年次に習得した中国語能力をさらに伸ばし、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能の向上を図ることにある。ただし、学習者それぞれのニーズは自ずと異なることから、授業では最低限度必要な知識を教え、今後学生が自分で目標を立てて中国語能力を高めていけるための基礎訓練に力を入れている。また学生個々のニーズによって自主的に学習目標を立ててくれることを期待している。

### 授業方法

授業の時に毎回何名かの学生に発音させたり、練習問題を書かせたりする。さらに2回の授業で1課を終える進捗でテキストを学んでいく。授業中に音読やコントにより中国語を楽しく身につけさせる。

### 授業計画

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 第1回  | 前期授業の復習                              |
| 第2回  | 第7課 買い物 (1)「才」+数量/時量 (2)「尽管～但是～」     |
| 第3回  | ドリルと会話練習(7)                          |
| 第4回  | 第8課 病気を見てもらう (1)「最好～」(2)「只要～就～」      |
| 第5回  | ドリルと会話練習(8)                          |
| 第6回  | 第9課 道に迷った (1)比較の表現 (2)継続を表す「了」       |
| 第7回  | ドリルと会話練習(9)                          |
| 第8回  | 中間テスト                                |
| 第9回  | 第10課 旧友と再会 (1)可能補語 (2)「好像～一樣/似的」     |
| 第10回 | ドリルと会話練習(10)                         |
| 第11回 | 第11課 同僚にプレゼントする (1)「不～不～」(2)受身の表現    |
| 第12回 | ドリルと会話練習(11)                         |
| 第13回 | 第12課 中国観光客に偶然出会った (1)程度補語 (2)「即使～也～」 |
| 第14回 | ドリルと会話練習(12)                         |
| 第15回 | 総復習と応用会話練習                           |

### 成績評価の方法

期末試験は70%、平常点は20%、会話テスト10%により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

中国では「熟能生巧」(習うより慣れよ)という諺があります。中国語をたくさん読み、聴き、話し、書くことによって初めて高度な会話ができるようになるということを意識しつつ授業に参加して欲しい。予習、復習して、積極的に授業に取り込むこと。

### 教科書

奈良行博・イ冬岩・劉軍・大沼尚子『体感中国 初級からのステップアップ』(同学社、2013、ISBN：9784810207705)

### 参考書

相原茂・石田知子・戸沼市子『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社)

06673

**中級中国語 B II**  
担当教員：胡 耀光

1 単位 後期

**授業のねらい**

「中級中国語 B I」の引き続き 一年次学んだ中国語を基礎として、更に中級レベルの語彙と文型を丁寧に教えて、中国語の読む、聴く、会話の能力を総合的に高めることを目指す。

**到達目標**

1. 正確で自然な発音と中級レベルの語彙および文法を身に付けること。
2. 旅とおもてなしに役に立つ中国語を覚えて、中国語で簡単な日常会話ができるようになること。
3. 中国語検定 3 級レベルに達すること。

**授業方法**

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1 課につき二回で学ぶ。
- ・一回目は単語、本文の発音と説明の後、文法の学習。二回目は残りの文法、練習問題と会話練習をする。
- ・講義や DVD を通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めてもらう。

**授業計画**

- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 第 1 回  | 第 8 課：料理を注文する (1)動詞「需要」 (2)程度補語      |
| 第 2 回  | 料理を注文する 練習問題                         |
| 第 3 回  | 第 9 課：道を尋ねる (1)「把」構文 (2)前置詞「往」       |
| 第 4 回  | 道を尋ねる 練習問題                           |
| 第 5 回  | 第 10 課：電話を掛ける (1)副詞「正好」 (2)副詞「剛/剛剛」  |
| 第 6 回  | 電話を掛ける 練習問題                          |
| 第 7 回  | 中間テスト                                |
| 第 8 回  | 第 11 課：大学祭 (1)前置詞「為」 (2)助動詞「会」       |
| 第 9 回  | 大学祭 練習問題                             |
| 第 10 回 | 第 12 課：私の夢 (1)「越～越～」 (2)「只有～才～」      |
| 第 11 回 | 私の夢 練習問題                             |
| 第 12 回 | 第 13 課：早く春休みになれ (1)「与其～不如～」 (2)副詞「可」 |
| 第 13 回 | 早く春休みになれ 練習問題                        |
| 第 14 回 | 応用会話練習と総復習                           |
| 第 15 回 | DVD で中国文化の紹介                         |

**成績評価の方法**

- ・平常点：10% (出席状況 + 学習態度)
- ・平常点：10% (小テスト + レポート)
- ・中間テスト：40%
- ・期末テスト：40%

**履修にあたっての注意**

- ・出席を重視すること。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと

**教科書**

宮本 大輔・温 琳 著『話そう！実践中国語』(朝日出版社、2011、ISBN：978-4-255-45208-1)

**参考書**

相原茂・石田知子・戸沼市子『why? にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社、1996、ISBN：4-8102-0034-5)

06674

**中級中国語 B II**  
担当教員：楊 志剛

1 単位 後期

**授業のねらい**

既に中国語初級で勉強した経験を持つものを対象とし、現代中国さまざまな現実を触れながら、初級なしに中級レベルの文法や語彙の取得。初級中国語で学んだ基礎知識を、特に日本語人が間違いやすい発音と文法項目の確認、会話練習によって、より正しい文法を使った発話能力の向上を目指します。

**到達目標**

1. 中国語検定試験 3 級に合格あるいはそれに準ずるに必要な言語能力を取得する。やや高度な文法事項をりかいする。
2. 中国語の児童文学程度の文章を読める。日本の社会・文化について中国語で簡単に紹介できる。

**授業方法**

基本的に教科書に沿って進んでいくが、教科書に触れていない文法項目や日常用語など必要に応じ補充教材やビデオなどで紹介する場合もある。授業中で話題ごとに積極的な発問したり、答えたりすることによって、会話能力の向上を目指していく。さらに観光客などに会話を話かける宿題、Youtubeなどで自学した中国語歌の発表する宿題を出す予定です。

**授業計画**

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 第 1 回  | 復習やガイダンス                       |
| 第 2 回  | 第七課 办入学手续                      |
| 第 3 回  | 第七課文法 1. 前置詞「从」 2. 「把」構文       |
| 第 4 回  | 第八課 美发厅                        |
| 第 5 回  | 第八課文法 1. 比較文 2. 助動詞「要」(1)      |
| 第 6 回  | 第九課 做家教                        |
| 第 7 回  | 第九課文法 1. 副詞「再」と「又」 2. 動態助詞「过」  |
| 第 8 回  | 復習とテスト                         |
| 第 9 回  | 第十課 留学生宿舍                      |
| 第 10 回 | 第十課文法 1. 時量補語 2. 反問表現「不是…吗」    |
| 第 11 回 | 第十一課 图书馆                       |
| 第 12 回 | 第十一課文法 1. 可能補語の否定形 2. 受け身文     |
| 第 13 回 | 第十二課 逛市场                       |
| 第 14 回 | 第十二課文法 1. 構造助詞「地」 2. 助動詞「要」(2) |
| 第 15 回 | 復習と試験                          |

**成績評価の方法**

到達目標 1 に測定する試験 (50%)、到達目標 2 を測定する小テスト授業への参加状況及び態度・姿勢・意欲・積極的に発話する (30%) で評価する。

**履修にあたっての注意**

履修者は積極的な準備及び復習が必要である。小テスト含め、事前準備の必要な内容や課題などについては、教員から随時に指示する。粘り強く取り込むことが大事である。

**教科書**

矢嶋 美都子 徐送迎『使える!! 大学生的中国語』(同学社、2018、ISBN：978-4-8102-0787-3)

**教科書・参考書に関する備考**

新し教科書なので、履修者全員が購入する必要がある。辞書は特に指定しませんが、スマホなどの関連 APP をお勧めします。

06681

上級中国語 I

担当教員：胡 慧君

1 単位 前期

授業のねらい

この授業は、今の中国社会で何が話題となっているかを知りたいと希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中国語の文章を読む力がつき、リスニング力を高め、会話内容をもっと深めることをねらいとしている。

到達目標

1. より複雑な文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
2. 中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3. 中国社会を理解できるようになる。

授業方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が分担して解読し、意見を述べ合う。リスニング力をつけるために、授業の最初には、補助的に DVD、CD、テープの教材も取り入れる。定期的に会話、リスニングの小テストを行い、中国語による表現力を確認する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、アンケート実施
- 第2回 第1課 教育的公平(教育の公平) (1)“因(为)～(而)…” (2)動詞+“不起” (3)“由” (4)兼語文(5)“什么”
- 第3回 第1課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第4回 第2課 就业难(就職難) (1)“在～方面” (2)“而” (3)“把”構文(4)“宁愿～也…” (5)“既～又…”
- 第5回 第2課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第6回 第3課 年轻人婚恋观的变化(若者の結婚恋愛観の変化) (1)“在～上” (2)“不仅～还…” (3)“除了～(以外)” (4)“虽然～但…” (5)“并不～”
- 第7回 第3課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第8回 第4課 房奴(ローン奴隷) (1)“～下去” (2)“～起来” (3)“要” (4)進行形(5)“来”+動詞(句)
- 第9回 第4課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第10回 第5課 众多的股民(多くの個人投資家) (1)“才” (2)“即使～也…” (3)“一～就…” (4)“连～也(都)…” (5)“好像～(似的)”
- 第11回 第5課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第12回 第6課 城市里的消费热(都市の消費ブーム) (1)様態補語(2)“…、以～” (3)“只要～(就)…” (4)“令人”
- 第13回 第6課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第14回 第1～6課 総復習
- 第15回 口述テスト

成績評価の方法

定期テスト 50%、小テスト 30%、口述テスト 20%

履修にあたっての注意

授業中に行う解読をスムーズに進行するため、文法、語彙などの予習をしてください。

教科書

孟広学 本間史『变化する中国』(白水社、2016年3月、ISBN: 978-4-560-06922-6)

06691

上級中国語 II

担当教員：胡 慧君

1 単位 後期

授業のねらい

この授業は、前期に続き、今の中国社会で何が話題となっているかを知りたいと希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中国語の文章を読む力がつき、リスニング力、会話内容をもっと深めることをねらいとしている。

到達目標

1. より複雑な文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
2. 中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3. 中国社会を理解できるようになる。

授業方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が分担して解読し、意見を述べ合う。リスニング力をつけるために、授業の最初には、補助的に DVD、CD の教材も取り入れる。定期的に会話、リスニングの小テストを行い、中国語による表現力を確認する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 第7課 考碗族(考碗族) (1)持続を表わす“着” (2)“不但～而且…” (3)“就”
- 第3回 第7課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第4回 第8課 保姆(家政婦) (1)“是～的” (2)可能補語(3)“因为～” (4)“A比B～”
- 第5回 第8課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第6回 第9課 民以食为天(民は食をもって天となす) (1)“只是” (2)“不再” (3)連動文(4)“会”
- 第7回 第9課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第8回 第10課 “80后”与“养儿防老”(「80後」と「子供を育てて老後に備える」) (1)“到～为止” (2)“以～为…” (3)“或～或…” (4)“被”
- 第9回 第10課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第10回 第11課 养老危机(老後の危機) (1)“将” (2)“可能” (3)“如果～的话” (4)前の動詞が“有/没有”である連動文(5)“愿意”
- 第11回 第11課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第12回 第12課 公益活动在中国(中国におけるボランティア活動) (1)“像” (2)“当～时” (3)“之所以” (4)“直到～才…”
- 第13回 第12課の練習問題、文章内容の確認、発展
- 第14回 第7～12課 総復習
- 第15回 口述テスト

成績評価の方法

定期テスト 50%、小テスト 30%、口述テスト 20%

履修にあたっての注意

授業中に行う解読をスムーズに進行するため、文法、語彙などの予習をしてください。

教科書

孟広学 本間史『变化する中国』(白水社、2016年3月、ISBN: 978-4-560-06922-6)



06701

## 中国語実践演習 A

担当教員：森若 裕子

2 単位 前期

### 授業のねらい

場面に即して中国語を繰り出す力を身につけることを目的とする。

そのために、文法知識を学び中国語の構造を理解したうえで、をクイックレスポンス能力を養う。

### 到達目標

1. アルバイトなどで必要とされる定番の中国語表現を学び、使えるようにする。
2. 基本会話に必要な中国語を自分で組み立てられるようにする。
3. 中国語の運用に必要な基本的文法知識、リスニング、リーディング、スピーキング力を身につける。

### 授業方法

教科書の2課～4課分を一まとまりとして2回の授業で学習していく。1回目は文法事項を確認し、基本フレーズを学ぶ。2回目は場面設定に基づき、定番フレーズが実際の会話でどう使われるかを学び、ロールプレイを行う。

後半（第8回以降）に、前半で学んだ内容に基づき、事後課題として作文（5往復程度の会話）の提出を課する。添削した後、参考例と共に返却する。

### 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | ガイダンス、教科書第1～3課：おもてなし、数字、支払い・免税手続き<br>文法：助動詞「可能、不可能の表現」  |
| 第2回  | 教科書第1～3課：応用練習<br>会話：デパートでの買物                            |
| 第3回  | 教科書第4～7課：依頼・注意、衣料品店、靴店、コンビニ・スーパー<br>文法：命令文（命令、要求、禁止、勧告） |
| 第4回  | 教科書第4～7課：応用練習<br>会話：コンビニでの買物                            |
| 第5回  | 教科書第8～10課：レストラン、注文を受ける、居酒屋<br>文法：使役表現                   |
| 第6回  | 教科書第8～10課：応用練習<br>会話：居酒屋での注文                            |
| 第7回  | 教科書第11～13課：空港での出迎え、乗り物に乗る、日程と注意事項<br>文法：結果補語            |
| 第8回  | 教科書第11～13課：応用練習<br>会話：空港での出迎え                           |
| 第9回  | 教科書第14～15課：声かけ、集合時間の確認・道案内<br>文法：仮定表現                   |
| 第10回 | 教科書第14～15課：応用練習<br>会話：友達を買物に連れていく                       |
| 第11回 | 教科書第16～18課：食事、買い物、病気・けが・災害<br>文法：比較                     |
| 第12回 | 教科書第16～18課：応用練習<br>会話：バイキングを食べに行く                       |
| 第13回 | 教科書第19～20課：ホテル、見送り<br>文法：様態補語                           |
| 第14回 | 教科書第19～20課）、応用練習<br>会話：チェックイン（ホテル）                      |
| 第15回 | 復習（教科書第1～20課）   |

### 成績評価の方法

到達目標1は会話能力を測定する毎回の授業で行うロールプレイ（20%）、到達目標2は作文能力を測定する中国語作文及びそれを使った実演（20%）、到達目標3は総合力を測定する期末試験（60%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

教科書本文のシャドウイングを毎日10分以上行うのを習慣とすること。

### 教科書

札幌中国語工房『中国語でPERAPER 北海道』（北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528）

06711

## 中国語実践演習 B

担当教員：森若 裕子

2 単位 後期

### 授業のねらい

場面に即して中国語を繰り出す力と、何かを説明する力を身につけることを目的とする。

そのために、文法知識を学び中国語の構造を理解し、さらに定番表現に慣れることで、クイックレスポンス能力を養う。

### 到達目標

1. アルバイトなどで必要とされる定番の中国語表現を学び、使えるようにする。
2. 基本会話に必要な中国語を自分で組み立てられるようにする。
3. 中国語の運用に必要な基本的文法知識、リスニング、リーディング、スピーキング力を身につける。

### 授業方法

教科書の2課を一まとまりとして2回の授業で学習していく。1回目は文法事項を確認し、基本フレーズを学ぶ。2回目は場面設定に基づき、定番フレーズが実際の会話でどう使われるかを学び、ロールプレイを行う。

後半（第8回以降）に、前半で学んだ内容に基づき、事後課題として作文（5往復程度の会話）の提出を課する。添削した後、参考例と共に返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、教科書第21～22課：お土産ハンティング、100円ショップ探検  
文法：逆説の呼応表現
- 第2回 教科書第21～22課：応用練習  
会話：お土産を買う
- 第3回 教科書第23～24課：ドラッグストアで宝探し、家電量販店攻略法  
文法：処置文
- 第4回 教科書第23～24課：応用練習  
会話：ドラッグストアで日用品を買う
- 第5回 教科書第25～26課：場外市場でカニ定め、デパ地下パトロール  
文法：可能補語
- 第6回 教科書第25～26課：応用練習  
会話：デパ地下で買物
- 第7回 教科書第27～28課：回転寿司パラダイス、ラーメン極みの一杯  
文法：関連副詞
- 第8回 教科書第27～28課：応用練習  
会話：ラーメン横丁でラーメンを食べる
- 第9回 教科書第29～30課：ビールはやっぱり北海道、まだまだあるある北海道の美味  
文法：状態の持続を表すアスペクト助詞
- 第10回 教科書第29～30課：応用練習  
会話：ビール園でジンギスカン
- 第11回 教科書第31～32課：北海道の地理・歴史、アイヌ民族  
文法：結果補語
- 第12回 教科書第31～32課：応用練習  
会話：北海道を紹介する
- 第13回 教科書第33～34課：札幌、小樽  
文法：定番フレーズ
- 第14回 教科書第33～34課：応用練習  
会話：札幌を案内する
- 第15回 復習（教科書第21～34課）

### 成績評価の方法

到達目標1は会話能力を測定する毎回の授業で行うロールプレイ（20%）、到達目標2は作文能力を測定する中国語作文及びそれを使った実演（20%）、到達目標3は総合力を測定する期末試験（60%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

教科書本文のシャドウイングを毎日10分以上行うのを習慣とすること。

### 教科書

札幌中国語工房『中国語でPERAPERA 北海道』（北海道新聞社、2017、ISBN：9784894538528）

06721

中国語文献読解演習 A

担当教員：胡 慧君

2 単位 前期

授業のねらい

この授業は、中国の最新のニュースを知りたい、また中国の重要都市、社会世態、歴史遺産、歴史人物、成語、中日交流歴史などを通じて、総合的に「中国」という地域に対する深い理解しよう并希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中級程度の中国語読解力養成と、中国の文化や社会に対する教養、知識を深めることをねらいとする。

到達目標

1. 中国語のまとまった文章を精読することによって読解力を養い、中国に対する理解を深めることができる。
2. 中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3. 中国の最新事情、中国の文化や歴史などを知ることができる。

授業方法

授業の最初に、中国の最新ニュースを選んで読み、参加者同士の意見や質問を述べ合って進行する。原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が分担して解読し、意見を述べ合う。リスニング力をつけるために、補助的にDVD、CD、テープの教材も取り入れる。中国語による表現力をつけるために、小作文の作成練習もする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、アンケート実施
- 第2回 第1課 北京
- 第3回 第2課 上海
- 第4回 第3課 西安
- 第5回 第4課 広州
- 第6回 第5課 让一部分人先富起来（一部の人に先に豊になってもらう）
- 第7回 第6課 骄傲的 GDP 的背后（誇りとした GDP の陰で）
- 第8回 第7課 互联网在改变中国（インターネットが中国を変える）
- 第9回 第8課 房奴、车奴和卡奴（家の奴隷、車の奴隷とカードの奴隷）
- 第10回 第9課 万里の長城
- 第11回 第10課 泰山
- 第12回 第11課 秦の始皇帝陵と兵馬俑坑
- 第13回 第12課 客家と「福建土楼」建築群
- 第14回 中国語による小作文の作成
- 第15回 小作文の発表

成績評価の方法

中国語による小作文（約 400 字）の提出、発表および普段の学習態度を総合して評価する。

教科書

村松恵子・前田光子・董紅俊『新版・中国の窓——真実の隣国を知ろう』（白帝社、2017、ISBN：978-4-86398-28-0）

06731

中国語文献読解演習 B

担当教員：胡 慧君

2 単位 後期

授業のねらい

この授業は、前期に続き、中国の最新のニュースを知りたい、また中国の重要都市、社会世態、歴史遺産、歴史人物、成語、中日交流歴史などを通じて、総合的に「中国」という地域に対する深い理解しよう并希望する人を対象に、初～中級の授業を通じて身につけた中国語の文法や語彙の知識をさらに深め、中級程度の中国語読解力養成と、中国の文化や社会に対する教養、知識を深めることをねらいとする。

到達目標

1. 中国語のまとまった文章を精読することによって読解力を養い、中国に対する理解を深めることができる。
2. 中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
3. 中国の最新事情、中国の文化や歴史などを知ることができる。

授業方法

授業の最初に、中国の最新ニュースを選んで読み、参加者同士の意見や質問を述べ合って進行する。原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が分担して解読し、意見を述べ合う。リスニング力をつけるために、補助的にDVD、CD、テープの教材も取り入れる。中国語による表現力をつけるために、小作文の作成練習もする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 第13課 孔子
- 第3回 第14課 屈原
- 第4回 第15課 秦檜
- 第5回 第16課 魯迅
- 第6回 第17課 臥薪嘗胆
- 第7回 第18課 破釜沈舟
- 第8回 第19課 班門弄斧
- 第9回 第20課 塞翁失馬
- 第10回 第21課 遣隋使と遣唐使
- 第11回 第22課 鑑真和尚と栄叡、普照
- 第12回 第23課 清朝末期から民国期の来日中国人留学生
- 第13回 第24課 1972年の日中国交正常化
- 第14回 中国語による小作文の作成
- 第15回 小作文の発表

成績評価の方法

中国語による小作文（約 400 字）の提出、発表、および普段の学習態度を総合して評価する。

教科書

村松恵子・前田光子・董紅俊『新版・中国の窓——真実の隣国を知ろう』（白帝社、2017、ISBN：978-4-86398-268-0）

06781

## 中級韓国語 A I

担当教員：芳賀 恵

1 単位 前期

### 授業のねらい

1 年間、韓国語の基礎を学んだ学生向けの授業。これまでの学習内容を土台に、読む・書く・聞く・話すを総合的に学習する。手紙やメール、日記を題材にしたテキストを用いてコミュニケーションに役立つ多様な表現を身につける。並行して時事問題も取り入れ、韓国社会や文化への理解を深める。

### 到達目標

- (1) 学習した表現を使いこなし、相手とコミュニケーションすることができる。
- (2) 自分の考えや身の回りの出来事について韓国語で書き、話すことができる。
- (3) 韓国の社会・文化への理解を深める。

### 授業方法

教科書に沿って進める。初回の授業の最初に、1 年目に学んだ範囲のテストを行うが、これは個々の習熟度を確認するためのもので、成績には反映しない。

最初の数回は基礎固めの復習を行う。前年度に学んだ教科書を持参すること。

ひとつの課を終えた次の授業時に、理解度を確認する小テストを実施する。小テストは採点后に授業内で正答を解説する。学習内容を確実に身につけるため、60～90 分程度の予習および復習が必須。

授業では韓国社会・文化への理解を深めるため、テレビニュースや新聞記事、映画や歌、写真などの資料を活用する。

授業の進度は状況に応じて変更することがある。

期末テストは採点后に正答票とともに返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
習熟度確認テスト
- 第2回 復習1 (ハムニダ体、漢数詞・固有数詞)
- 第3回 復習2 (ヘヨ体)  
自己紹介文の作成
- 第4回 復習3 (過去形)  
自己紹介文の発表
- 第5回 第1課「学校生活」(1)
- 第6回 第1課「学校生活」(2)  
第2課「アルバイト」(1)
- 第7回 第1課の小テスト  
第2課「アルバイト」(2)
- 第8回 第2課の小テスト  
第3課「私の一日」(1)
- 第9回 第3課「私の一日」(2)  
第4課「プレゼント」(1)
- 第10回 第3課の小テスト  
第4課「プレゼント」(2)
- 第11回 第4課の小テスト  
第5課「風邪」(1)
- 第12回 第5課「風邪」(2)  
第6課「休日」(1)
- 第13回 第5課の小テスト  
第6課「休日」(2)
- 第14回 第6課の小テスト  
韓国映画① 聞き取り練習
- 第15回 前期のまとめ  
韓国映画② 聞き取り練習

### 成績評価の方法

授業への参加状況 (25%)、定期試験 (50%)、小テスト・発表・課題 (25%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

新しい表現が数多く出てきますので、毎回の予習・復習は必須です。

発表や発言の機会にはできるだけ多く設けますが、普段から会話練習やアクティビティには積極的に参加してください。

### 教科書

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』(白水社、2018、ISBN : 978-4-560-01793-7)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はほかの韓日・日韓辞典、電子辞書でも構いません。

### 参考書

油谷幸利ほか(編)『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』(小学館、2013、ISBN : 9784095061429)

06782

# 中級韓国語 A I

担当教員：金 昌九

1 単位 前期

## 授業のねらい

『中級韓国語』は、『初級韓国語 I・II』を修了、あるいは韓国語を1年間(90分授業を30+a回程度)学んだ学生向けの授業です。この授業では初級韓国語を通して身につけた韓国語能力を、言語の4機能(話す・聞く・書く・読む)の面においてより発展させることを目標とします。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようになることを目指します。

## 到達目標

1. 日常生活に関する事柄や個人的な関心事(趣味、学校生活、旅行等)について、ある程度準備をすれば韓国語でやり取りすることができる。
2. 身近な話題について書かれた、平易で短い韓国語文章を読み取ることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣に関するより深い知識を持っている。

## 授業方法

授業は教科書に沿って行います。授業の前半では簡単な文法事項の説明、文型練習を中心に行い、授業の後半ではその日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で進めます(一部日本語)。

## 授業計画

- 第1回 ①ガイダンス  
②初級内容の復習1
- 第2回 初級内容の復習2
- 第3回 小テスト1(初級内容の語彙・文法等)  
Unit 12. 交通①  
・語彙:「交通手段」「交通手段の利用」「乗り場」  
・文法・文型:「～で(手段・道具)」「～から～まで」  
・文化:「韓国人がよく利用する交通手段」
- 第4回 Unit 12. 交通②
- 第5回 Unit 12. 交通③  
Unit 13. 韓国語学習①  
・語彙:「学習関連表現」「授業によく使われる命令表現」「比較」  
・文法・文型:「ヨ不規則動詞・形容詞」「否定表現」  
・文化:「韓国語学習に関するアンケート」
- 第6回 小テスト2(Unit12の語彙・文法等)  
Unit 13. 韓国語学習②
- 第7回 Unit 13. 韓国語学習③
- 第8回 小テスト3(Unit13の語彙・文法等)  
Unit 14. 約束①  
・語彙:「約束関連表現」「同意・断りの表現」  
・文法・文型:「～ませんか」「～たいです」  
・文化:「韓国人の待ち合わせに遅れたときの言い訳ベスト5」
- 第9回 Unit 14. 約束②
- 第10回 Unit 14. 約束③  
Unit 15. 買い物①  
・語彙:「ファッションに関する表現」「色」  
・文法・文型:「こ・そ・あ」「いくらですか」  
・文化:「韓国の大学生が特別な日にもらいたいプレゼント」
- 第11回 小テスト4(Unit14の語彙・文法等)  
Unit 15. 買い物②
- 第12回 Unit 15. 買い物③
- 第13回 小テスト5(Unit15の語彙・文法等)  
Unit 16. 季節と天気①  
・語彙:「季節」「自然災害」  
・文法・文型:「～て」「～けど」  
・文化:「今日の韓国の天気」
- 第14回 Unit 16. 季節と天気②
- 第15回 ①期末テスト  
②フィードバック

## 成績評価の方法

「到達目標」の1、2の達成度を測る試験の結果(40%)、小テストの結果(50%)、授業への参加状況(10%)、により評価を行います。

## 履修にあたっての注意

会話が中心となる授業ですので、積極的に声を出して参加することが要求されます。テキストなどの指定箇所を必ず予習・復習(それぞれ1時間程度)した上で、授業に臨んでください。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』(駿河台出版、2018、ISBN: 978-4-411-03117-4)

## 参考書

カン・ヒョンハ他『韓国語教育文法』(ハングルパーク、2016、ISBN: 978-89-5518-389-4-03710)

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>(語彙練習サイト)



06791

## 中級韓国語 A II

担当教員：芳賀 恵

1 単位 後期

### 授業のねらい

1 年半にわたり韓国語を学んだ学生向けの授業。これまでの学習内容を土台に、読む・書く・聞く・話すを総合的に学習する。手紙やメール、日記を題材にしたテキストを用いてコミュニケーションに役立つ多様な表現を身につける。並行して時事問題も取り入れ、韓国社会や文化への理解を深める。

### 到達目標

- (1)さまざまな韓国語の文章を読み、聞く力を身につける。
- (2)自分の考えや身の回りの出来事について、より多様な表現を用いて韓国語で書き、話すことができる。
- (3)韓国の社会・文化への理解を深める。

### 授業方法

教科書に沿って進める。ひとつの課を終えた次の授業時に、理解度を確認する小テストを実施する。小テストは採点後に授業内で正答を解説する。

学習内容を確実に身につけるため、60～90分程度の予習および復習が必要である。

授業では韓国社会・文化への理解を深めるため、テレビニュースや新聞記事、映画や歌、写真などの資料を活用する。同時に聞き取り能力も養う。

授業の進度は状況に応じて変更することがある。

期末テストは採点後に正答票とともに返却する。

### 授業計画

- |      |                                |
|------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス<br>さまざまな表現の復習            |
| 第2回  | 第7課「夏休み」(1)                    |
| 第3回  | 第7課「夏休み」(2)<br>第8課「趣味」(1)      |
| 第4回  | 第7課の小テスト<br>第8課「趣味」(2)         |
| 第5回  | 第8課の小テスト<br>第9課「大学祭」(1)        |
| 第6回  | 第9課「大学祭」(2)                    |
| 第7回  | 第9課の小テスト<br>第10課「仕事」(1)        |
| 第8回  | 第10課「仕事」(2)                    |
| 第9回  | 第10課の小テスト<br>第11課「日記」(1)       |
| 第10回 | 第11課「日記」(2)<br>第12課「外国語の勉強」(1) |
| 第11回 | 第11課の小テスト<br>第12課「外国語の勉強」(2)   |
| 第12回 | 第12課の小テスト<br>第13課「天気」(1)       |
| 第13回 | 第13課「天気」(2)<br>第14課「人生相談」(1)   |
| 第14回 | 第14課「人生相談」(2)<br>韓国映画① 聞き取り練習  |
| 第15回 | まとめと復習<br>韓国映画② 聞き取り練習         |

### 成績評価の方法

授業への参加状況 (25%)、定期試験 (50%)、小テスト・発表・課題 (25%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

新しい表現が数多く出てきますので、毎回の予習・復習は必須です。

発表や発言の機会はできるだけ多く設けますが、普段から会話練習やアクティビティには積極的に参加してください。

### 教科書

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』(白水社、2018、ISBN : 978-4-560-01793-7)

### 教科書・参考書に関する備考

辞書はほかの韓日・日韓辞典、電子辞書でも構いません。

### 参考書

油谷幸利ほか(編)『ポケットプログレッシブ 韓日・日韓辞典』(小学館、2013、ISBN : 9784095061429)

06792

## 中級韓国語 A II

担当教員：金 昌九

1 単位 後期

### 授業のねらい

『中級韓国語 II』は、『中級韓国語 I』を修了あるいは60分授業を60回程度受講した学生向けの授業です。この授業ではこれまでの韓国語授業を通して身につけた韓国語能力を、言語の4機能（話す・聞く・書く・読む）の面においてより発展させることを目標とします。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようにすることを目指します。

### 到達目標

1. 身近な話題（習慣、出来事等）について、平易な韓国語を用いて情報や意見を交換することができる。
2. 身近な話題に関して書かれた平易で短い韓国語文章を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣に関するより深い知識を持っている。

### 授業方法

授業は教科書に沿って行います。授業の前半では簡単な文法事項の説明、句型練習を中心に行い、授業の後半ではその日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で進めます（一部日本語）。

### 授業計画

- 第1回 ①ガイダンス  
②事前学習内容の確認
- 第2回 Unit 17. 体と健康①  
・語彙：「身体部位」「病気と症状」「治療」  
・文法・句型：「敬語」「どこが具合悪いですか」  
・文化：「健康な食習慣のための必要なこと」
- 第3回 Unit 17. 体と健康②
- 第4回 Unit 17. 体と健康③
- 第5回 小テスト1（Unit 17の語彙と文法等）  
Unit 18. 恋愛と結婚①  
・語彙：「人生と出会い」「性格」「外見」  
・文法・句型：「連体形（現在）」  
・文化：「恋愛・結婚に関する韓国人の意識調査の結果」
- 第6回 Unit 18. 恋愛と結婚②
- 第7回 Unit 18. 恋愛と結婚③
- 第8回 確認テストとフィードバック
- 第9回 楽しい読み物①
- 第10回 楽しい読み物②
- 第11回 小テスト2（「楽しい読み物①～②」）  
楽しい読み物③
- 第12回 楽しい読み物④
- 第13回 小テスト3（「楽しい読み物③～④」）  
楽しい読み物⑤
- 第14回 楽しい読み物⑥
- 第15回 学習内容のまとめ  
期末テスト

### 成績評価の方法

「到達目標」の1、2の達成度を測る試験の結果（60%）、小テストの結果（20%）、授業への参加状況（20%）、により評価を行います。

### 履修にあたっての注意

会話が中心となる授業ですので、積極的に声を出して参加することが要求されます。  
テキストなどの指定箇所を必ず予習・復習（それぞれ1時間程度）した上で、授業に臨んでください。

### 教科書

なし

### 参考書

カン・ヒョンハ他『韓国語教育文法』（ハンゲルパーク、2016、ISBN：978-89-5518-389-4-03710）

### 参考ホームページ

金先生の韓国語 <https://quizlet.com/class/4429424/>（語彙練習サイト）

06801

## 中級韓国語 B I

担当教員：金 昌九

## 1 単位 前期

## 授業のねらい

『中級韓国語』は、『初級韓国語 I・II』を修了、あるいは韓国語を1年間(90分授業を30+a回)学んだ学生向けの授業です。この授業では初級韓国語を通して身に着けた韓国語能力を、言語の4機能(話す・聞く・書く・読む)の面においてより発展させることを目標とします。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようになることを目指します。

## 到達目標

1. 日常生活に関する事柄や個人的な関心事(趣味、学校生活、旅行等)について、ある程度準備をすれば韓国語でやり取りすることができる。
2. 身近な話題について書かれた、平易で短い韓国語文章を読み取ることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣に関するより深い知識を持っている。

## 授業方法

授業は教科書に沿って行います。授業の前半では簡単な文法事項の説明、文型練習を中心に行い、授業の後半ではその日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で進めます(一部日本語)。

## 授業計画

- 第1回 ①ガイダンス  
②初級内容の復習1
- 第2回 初級内容の復習2
- 第3回 小テスト1(初級内容の語彙・文法等)  
Unit 12. 交通①  
・語彙:「交通手段」「交通手段の利用」「乗り場」  
・文法・文型:「～で(手段・道具)」「～から～まで」  
・文化:「韓国人がよく利用する交通手段」
- 第4回 Unit 12. 交通②
- 第5回 Unit 12. 交通③  
Unit 13. 韓国語学習①  
・語彙:「学習関連表現」「授業によく使われる命令表現」「比較」  
・文法・文型:「ㄹ 불규칙 동詞・形容詞」「否定表現」  
・文化:「韓国語学習に関するアンケート」
- 第6回 小テスト2(Unit12の語彙・文法等)  
Unit 13. 韓国語学習②
- 第7回 Unit 13. 韓国語学習③
- 第8回 小テスト3(Unit13の語彙・文法等)  
Unit 14. 約束①  
・語彙:「約束関連表現」「同意・断りの表現」  
・文法・文型:「～ませんか」「～たいです」  
・文化:「韓国人の待ち合わせに遅れたときの言い訳ベスト5」
- 第9回 Unit 14. 約束②
- 第10回 Unit 14. 約束③  
Unit 15. 買い物①  
・語彙:「ファッションに関する表現」「色」  
・文法・文型:「こ・そ・あ」「いくらですか」  
・文化:「韓国の大学生が特別な日にもらいたいプレゼント」
- 第11回 小テスト4(Unit14の語彙・文法等)  
Unit 15. 買い物②
- 第12回 Unit 15. 買い物③
- 第13回 小テスト5(Unit15の語彙・文法等)  
Unit 16. 季節と天気①  
・語彙:「季節」「自然災害」  
・文法・文型:「～て」「～けど」  
・文化:「今日の韓国の天気」
- 第14回 Unit 16. 季節と天気②
- 第15回 ①期末テスト  
②フィードバック

## 成績評価の方法

「到達目標」の1、2の達成度を測る試験の結果(40%)、小テストの結果(50%)、授業への参加状況(10%)、により評価を行います。

## 履修にあたっての注意

会話が中心となる授業ですので、積極的に声を出して参加することが要求されます。  
テキストなどの指定箇所を必ず予習・復習(それぞれ1時間程度)した上で、授業に臨んでください。

## 教科書

金昌九『テーマで学ぶ韓国語』(駿河台出版、2018、ISBN: 978-4-411-03117-4)

## 参考書

カン・ヒョンハ他『韓国語教育文法』(ハングルパーク、2016、ISBN: 978-89-5518-389-4-03710)

## 参考ホームページ

金先生の韓国語\_初級 <https://quizlet.com/class/4429424/>(語彙練習サイト)

06802

## 中級韓国語 B I

担当教員：金 京愛

1 単位 前期

### 授業のねらい

この授業は初級韓国語を学んだ学習者を対象に、中級韓国語文法を修得・定着させることを目標とする。そのためこの授業では毎回新しい文法を学び、その文法を用いた作文・会話の練習を行い、授業中に当該の文法事項を修得できるようにする。

### 到達目標

- ・韓国語の様々な文末形式および接続形式の機能について理解し、修得する。
- ・部分部分として毎回の授業で学んだ文法事項について、文全体として（例えば、節と節の関係や文と文の関係、または長文の中での役割など）理解し、文を組み立てていけるようになる。
- ・会話練習および作文の時間をできるだけ多く設け、自然な韓国語に近づけることを目指す。

### 授業方法

この授業は、1年かけてしっかり韓国語の基礎文法を身につけ、その文法事項を用いた会話練習を行うことで韓国語を定着させていく時間に行いたいと思います。その週に学習した内容はその週に覚えるようにしたいので、毎回練習用のプリントを配ります。また新しい文法を学んだ次の時間には小テストを行います。

### 授業計画

- 第1回 ・オリエンテーション：文法事項の整理および既習事項の確認
- 第2回 ・文法事項の整理：用言を中心に(1)
- 第3回 ・文法事項の整理：用言を中心に(2)  
・助詞のまとめ
- 第4回 ・第2課：進行の意味を表す表現  
・文形の練習
- 第5回 ・第2課：理由・原因の意味を表す表現(1)  
・文形の練習
- 第6回 ・第3課：変則用言 <1>  
・変則活用の練習  
到達目標：「変則用言の活用ができる」
- 第7回 ・第3課：理由・原因の意味を表す表現(2)  
・文形の練習  
到達目標：「節と節の関係を正しく理解し正しい接続表現を用いることができる」
- 第8回 ・中間試験  
・韓国の文化・社会・歴史、または K-pop に関するトピックを取り上げ紹介します。
- 第9回 ・意志・予定の意味を表す表現  
・推測・予想を表す表現  
・文型の練習  
到達目標：「場面に応じて正しく文末表現を用いることができる」
- 第10回 ・文形復習
- 第11回 ・第5課：変則用言 <2>  
・変則活用の練習  
到達目標：「変則用言の活用ができる」
- 第12回 ・逆接の意味を表す表現  
・文型の練習
- 第13回 ・第6課：連体形  
・文型の練習  
到達目標：「用言によって連体形が異なることを正しく理解できる」
- 第14回 ・連体形の練習  
・既習文法の整理・まとめ  
到達目標：「節と節、または文と文の関係を正しく理解し、正しい接続表現を用いることができる」、「文全体が表す意味を把握し正しい文末表現を用いることができる」など
- 第15回 ・口頭試験（質疑応答のテスト）・まとめ

### 成績評価の方法

中間試験・期末試験・口頭試験（60%）、平常点（課題提出・授業参加度・小テストなど）（40%）を基準に総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

質問をするということは自分だけではなく、ほかの学生や先生自身のためにもなるので、授業中や、宿題などで疑問があれば躊躇せずにどんどん質問して下さい。

外国語の上達には継続的な学習が不可欠です。必ず十分な予習をした上で毎回の授業にのぞみ、授業後も与えられた課題を含む復習をしっかりと行うよう心がけてください。

### 教科書

李 昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語中級 I 講義ノート』（白帝社、2017、ISBN：978-4863981577）

### 教科書・参考書に関する備考

辞書は、指定のものでなくてかまいませんが、韓日・日韓が両方ひけるような辞書を用意してください。テストの時には辞書を持ち込み可とします。

### 参考書

油谷幸利ほか（編）『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版』（小学館、2013、ISBN：978-4095061429）

06811

## 中級韓国語 B II

担当教員：金 昌九

1 単位 後期

## 授業のねらい

『中級韓国語 II』は、『中級韓国語 I』を修了あるいは60分授業を60回程度受講した学生向けの授業です。この授業ではこれまでの韓国語授業を通して身につけた韓国語能力を、言語の4機能（話す・聞く・書く・読む）の面においてより発展させることを目標とします。新しく学習する様々な語彙と文法、表現を用い、自分の考えや言いたいことを韓国語でさらに表現できるようにすることを目指します。

## 到達目標

1. 身近な話題（習慣、出来事等）について、平易な韓国語を用いて情報や意見を交換することができる。
2. 身近な話題に関して書かれた平易で短い韓国語文章を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣に関するより深い知識を持っている。

## 授業方法

授業は教科書に沿って行います。授業の前半では簡単な文法事項の説明、句型練習を中心に行い、授業の後半ではその日のテーマと場面に沿ったペアワークや小グループ活動を中心に行います。授業は主に韓国語で進めます（一部日本語）。

## 授業計画

- 第1回 ①ガイダンス  
②事前学習内容の確認
- 第2回 Unit 17. 体と健康①  
・語彙：「身体部位」「病気と症状」「治療」  
・文法・句型：「敬語」「どこが具合悪いですか」  
・文化：「健康な食習慣のための必要なこと」
- 第3回 Unit 17. 体と健康②
- 第4回 Unit 17. 体と健康③
- 第5回 小テスト1（Unit 17の語彙と文法等）  
Unit 18. 恋愛と結婚①  
・語彙：「人生と出会い」「性格」「外見」  
・文法・句型：「連体形（現在）」  
・文化：「恋愛・結婚に関する韓国人の意識調査の結果」
- 第6回 Unit 18. 恋愛と結婚②
- 第7回 Unit 18. 恋愛と結婚③
- 第8回 確認テストとフィードバック
- 第9回 楽しい読み物①
- 第10回 楽しい読み物②
- 第11回 小テスト2（「楽しい読み物①～②」）  
楽しい読み物③
- 第12回 楽しい読み物④
- 第13回 小テスト3（「楽しい読み物③～④」）  
楽しい読み物⑤
- 第14回 楽しい読み物⑥
- 第15回 学習内容のまとめ  
期末テスト

## 成績評価の方法

「到達目標」の1、2の達成度を測る試験の結果（60%）、小テストの結果（20%）、授業への参加状況（20%）、により評価を行います。

## 履修にあたっての注意

会話が中心となる授業ですので、積極的に声を出して参加することが要求されます。  
テキストなどの指定箇所を必ず予習・復習（それぞれ1時間程度）した上で、授業に臨んでください。

## 教科書

なし

## 参考書

イ・ヒジャ『韓国語文法語尾・助詞辞典』（スリーエー、2010、ISBN：978-4-88319-519-0）



## 授業のねらい

この授業では前期と同様、中級韓国語の文法事項にどんどんチャレンジしてもらい、全 15 回の授業でできるだけ多く韓国語の文法を身につけてもらうことを目標とします。

## 到達目標

- ・韓国語の様々な文末形式および接続形式の機能について理解し、修得する。
- ・部分部分として毎回の授業で学んだ文法事項について、文全体として（例えば、節と節の関係や文と文の関係、または長文の中での役割など）理解し、文を組み立てていけるようになる。
- ・会話練習および作文の時間をできるだけ多く設け、自然な韓国語に近づけることを目指す。

## 授業方法

- ・前期と同様にその週に学習した内容に関して毎回練習用のプリントを配布する予定ですが、長文の翻訳（日韓および韓日）にもチャレンジしてもらいます。
- ・第 8 回目以降は引き続き教科書では取り上げることができなかった新しい文法をどんどん取り上げていくと同時に、日本語の直訳としての韓国語ではなくより自然な韓国語に触れる時間を設けたいと思います。そのため視聴覚資料（韓国語映画、ドラマ など）を用い、より実践的に授業を進める予定です。

## 授業計画

- 第 1 回 ・前期（中級韓国語 I）の復習
- 第 2 回 ・第 6 課：話し手の意志表明、約束を表す表現  
・文型練習
- 第 3 回 ・第 7 課：変則用言 < 3 >  
・変則活用の練習
- 第 4 回 ・第 7 課：話し手の意図、予定の意味を表す表現  
・話し手の意志、意図を表す表現  
・文型練習
- 第 5 回 ・文形の復習  
・第 9 課：授受の意味を表す表現  
・文型練習  
到達目標：「節と節、または文と文の関係を正しく理解し、適切な場面で意図、意志などの表現を使えるようになる」
- 第 6 回 ・第 9 課：可能・不可能の意味を表す表現  
・文型練習
- 第 7 回 ・中間試験  
・韓国の文化や社会事情に触れることができる映像などを見る。
- 第 8 回 ・謙譲表現など  
・文型練習  
・第 10 課：仮定などの条件の意味を表す表現
- 第 9 回 ・前の行為や状態が終わってから後続の行為が起こることを表す表現  
・理由や原因を表す表現  
・文型練習  
到達目標：「話し手と聞き手の関係や文の内容に応じて正しく接続表現を用いることができる。」
- 第 10 回 ・第 11 課：変則用言 < 4 >  
・変則活用の練習  
到達目標：「用言による変則パターンを理解し、正しく変則用言の活用ができる」
- 第 11 回 ・話し手の判断や推測の意味を表す表現（動詞の場合）  
・話し手の判断や推測の意味を表す表現（形容詞の場合）  
・文型練習
- 第 12 回 ・文形復習  
・動作の進行中である意味を表す表現

- 第 13 回 ・第 13 課：状態や結果の持続を表す表現  
・文形の練習  
到達目標：「「-ている」の意味や使い方の違いを理解できる」
- 第 14 回 ・韓国の映画を鑑賞する。  
・個別の口頭試験を行う。
- 第 15 回 ・既習文法の整理・まとめ  
到達目標：「節と節の関係や文と文の関係、または長文の中での役割などを正しく理解し、文を組み立てていけるようになる」

## 成績評価の方法

中間試験・期末試験・口頭試験（60%）、平常点（課題提出・授業参加度・小テストなど）（40%）を基準に総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

ただ覚えるのではなくその仕組みを理解し、修得した文法事項をまた新たな文法にどんどん生かしていくようにしてください。他言語を学ぶということは母国語をよりよく知る機会にもなるので、日本語からも面白い点を見つけられるようにしてください。諦めず、焦らないで、楽しく学んでいってください。

## 教科書

李 昌圭『やさしく仕組みがわかる韓国語中級 I 講義ノート』（白帝社、2017、ISBN：978-4863981577）

## 教科書・参考書に関する備考

辞書は、指定のものでなくてもかまいませんが、韓日・日韓が両方ひけるような辞書を用意してください（初級韓国語 I で使用したものを引き続き使用できます）。テストの時には辞書を持ち込み可とします。

## 参考書

油谷幸利ほか（編）『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版』（小学館、2013、ISBN：9784095061429）

06821

上級韓国語Ⅰ

担当教員：金 昌九

1 単位 前期

授業のねらい

この授業では、韓国語の基本文法や語彙について十分な知識（2年間の韓国語授業を着実にやってきた程度）があることが前提となっています。お互いの考えや気持ちなどを韓国語を使って伝え合うコミュニケーション能力を養うことが目的で、特に「読む」「話す」能力を伸ばすことに重点を置きます（旧韓国語能力試験3-4級水準を目指します）。

到達目標

1. 身近な話題・知的な話題について、平易な韓国語で情報交換や意見交換、プレゼンテーションをすることができる。
2. 身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料等の要旨を理解し、必要な情報を読み取ることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣について深い知識を持っている。

授業方法

この授業は基本的にすべて韓国語で行います。授業は基本的に指定テキスト（ハンドアウト）のテーマに沿って進めますが、テーマによっては新聞記事や映像資料も用います。授業の前半では語彙と文法を簡単に確認した上でテキストの読解を中心に、後半ではペアワークや小グループ活動、およびプレゼンテーションを主に行います。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 第1課 余暇と娯楽①
- 第3回 第1課 余暇と娯楽②
- 第4回 第2課 季節と自然環境①
- 第5回 第2課 季節と自然環境②
- 第6回 第3課 ファッションと買い物①
- 第7回 第3課 ファッションと買い物②
- 第8回 確認テストおよびフィードバック
- 第9回 第4課 身体と健康①
- 第10回 第4課 身体と健康②
- 第11回 第5課 旅行と観光地①
- 第12回 第5課 旅行と観光地②
- 第13回 第6課 食べ物と飲料①
- 第14回 第6課 食べ物と飲料②
- 第15回 復習およびプレゼンテーション

成績評価の方法

「到達目標」1、2の到達度を計る試験の結果（50%）、授業への参加状況（50%）、により評価を行います。

履修にあたっての注意

- ・会話と読解を中心に行う授業です。授業への積極的な参加が要求されます。
- ・テキスト等の指定箇所を、必ず予習・復習（それぞれ1時間程度）した上で授業に臨んでください。
- ・授業計画は、第1回授業の結果によっては変更する可能性があります。

教科書

なし

参考書

カン・ヒョンハ他『韓国語教育文法』（ハングルパーク、2016、ISBN：978-89-5518-389-4-03710）

06831

上級韓国語Ⅱ

担当教員：金 昌九

1 単位 後期

授業のねらい

上級レベルの学習者にふさわしい日常的・社会的テーマを取り上げ、それぞれのテーマで使用される典型的な表現を習得します。多様なテーマについて韓国語でコミュニケーションをとる能力を養うことを目標とします。特に「読む」「話す」能力を伸ばすことに重点をおきます（旧韓国語能力試験3級~4級を目指します）。

到達目標

1. 日常的な話題、社会問題や時事問題について読み、必要な情報を取り出すことができる。
2. 社会問題や時事問題について意見交換や議論、プレゼンテーションをすることができる。
3. 韓国の社会・文化・生活習慣について深い知識を持っている。

授業方法

この授業は基本的にすべて韓国語で行います。授業は基本的に指定テキスト（ハンドアウト）のテーマに沿って進めますが、テーマによっては新聞記事や映像資料も用います。授業の前半では語彙と文法を簡単に確認した上でテキストの読解を中心に、後半ではペアワークや小グループ活動、およびプレゼンテーションを主に行います。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 第7課 学校と教育①
- 第3回 第7課 学校と教育②
- 第4回 第8課 仕事と職業①
- 第5回 第8課 仕事と職業②
- 第6回 第9課 住居環境①
- 第7回 第9課 住居環境②
- 第8回 復習および確認テスト
- 第9回 第10課 コンピューターと通信①
- 第10回 第10課 コンピューターと通信②
- 第11回 第11課 気分と感情①
- 第12回 第11課 気分と感情②
- 第13回 12課 他人との関係①
- 第14回 12課 他人との関係②
- 第15回 期末テスト・まとめ

成績評価の方法

「到達目標」1、2の到達度を計る試験の結果（50%）、授業への参加状況（50%）、により評価を行います。

履修にあたっての注意

- ・会話と読解を中心に行う授業です。授業への積極的な参加が要求されます。
- ・テキスト等の指定箇所を、必ず予習・復習（それぞれ1時間程度）した上で授業に臨んでください。

教科書

なし

参考書

カン・ヒョンハ『韓国語教育文法』（ハングルパーク、2016、ISBN：978-89-5518-389-4-03710）

06841

## 韓国語実践演習 A

担当教員：宋 美蘭

2 単位 前期

## 授業のねらい

1 年生の時に基礎韓国語を履修した学生、および同程度の韓国語の学習能力を持つ学生を対象とします。「書く・読む・聞く・話す」という4技能を総合的に学習し、それを通して自分の意志を確実に伝える韓国語コミュニケーション能力を目指します。また、様々な日常生活場面において、自然な会話表現ができるようにし、実践的な能力を身に付けていきます。

## 到達目標

1. 「読む・聞く・話す・書く」といった総合的な技能を高めることを目標とする。
2. 様々な場面に応じたコミュニケーション能力を身に付ける。
3. 実践的な韓国語能力を習得する。

## 授業方法

- ・基本的には指定のテキストに従って授業を行うが、必要に応じて補足資料を配布する。
- ・毎回、2人ないしは、2以上のグループワークによる授業を取り入れる。
- ・実践的な会話を習得する場面を多く実施することにする。
- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回学ぶ学習内容を予習することを前提とする。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 韓国語初級レベルの復習（初級文法、発音、表現）  
 第3回 自己紹介（その1）。印象的でわかりやすい自己紹介文を作り、発表する。  
 第4回 第1課 空港に出迎え～再会のあいさつ（指定テキスト p 8～）  
 第5回 第2課 部屋探し～状況をよりわかりやすく表現する（指定テキスト p14～）  
 第6回 第3課 自己紹介（その2）～自分のことを話す（指定テキスト p20）  
 第7回 一日の日課に関する作文練習  
 第8回 一日の日課に関する口頭発表  
 第9回 第4課 ソンミンの家で～目上の人への話しかた、尊敬の表現（指定テキスト p26～）  
 第10回 第5課 帰り道～様子から推測、判断する（指定テキスト p32～）  
 第11回 まとめ～第1課から第5課まで  
 第12回 中間テスト  
 第13回 作文及び発表  
 第14回 第6課 百日記念日～素直な気持ちを表明する（指定テキスト p40～）  
 第15回 第7課 引っ越しパーティの日～注意や指示をする（指定テキスト p46～）

## 成績評価の方法

授業参加態度及び授業への参加状況 20%、定期期末テスト 80% による総合評価

## 履修にあたっての注意

- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回に学ぶ学習内容を予習することを前提とする。
- ・受講する学生のレベルや授業進度によっては、授業計画通りに行わない可能性がある。

## 教科書

金順玉・阪堂千津子『もっとチャレンジ！韓国語』（白水社、2009、ISBN：978-4-560-01780-7）

06851

## 韓国語実践演習 B

担当教員：宋 美蘭

2 単位 後期

## 授業のねらい

1 年生の時に基礎韓国語を履修した学生、および同程度の韓国語の学習能力を持つ学生を対象とします。「書く・読む・聞く・話す」という4技能を総合的に学習し、それを通して自分の意志を確実に伝える韓国語コミュニケーション能力を目指します。また、様々な日常生活場面、において、自然な会話表現ができるようにし、実践的な能力を身に付けていきます。

## 到達目標

1. 「読む・聞く・話す・書く」といった総合的な技能を高めることを目標とする。
2. 様々な場面に応じたコミュニケーション能力を身に付ける。
3. 文章表現のポイントを学び、正しく相手に伝えることのできる文章作成法を学ぶ。

## 授業方法

- ・基本的には指定のテキストに従って授業を行うが、必要に応じて補足資料を配布する。
- ・毎回、2人ないしは、2以上のグループワークによる授業を取り入れる。
- ・実践的な会話を習得する場面を多く実施することにする。
- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回学ぶ学習内容を予習することを前提とする。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 第8課 汽車に乗って出かけ～やりもらいの表現（指定テキスト p52～）  
 第3回 第9課 村の風景～説明や描写（指定テキスト p58～）  
 第4回 第10課 ソンミンさんをお訪ね～忠告やアドバイス（指定テキスト p64～）  
 第5回 まとめ～第6課から第10課まで  
 第6回 作文（その1）：一週間の予定  
 第7回 第11課 下宿に帰って～他人の話を伝える（指定テキスト p72～）  
 第8回 第12課 診察を受ける～許可と禁止（指定テキスト p78～）  
 第9回 中間テスト  
 第10回 映画鑑賞  
 第11回 K-pop（韓国語で歌う）  
 第12回 作文（その2）：自由テーマ  
 第13回 第13課 和解～友だちことばで楽しくなる（指定テキスト p84～）  
 第14回 第14課 悲しみよ、さようなら～コミュニケーションの幅を広げる（指定テキスト p90～）  
 第15回 作文（その3）：将来の夢

## 成績評価の方法

授業参加態度及び授業への参加状況 20%、定期期末テスト 80% による総合評価

## 履修にあたっての注意

- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回に学ぶ学習内容を予習することを前提とする。
- ・受講する学生のレベルや授業進度によっては、授業計画通りに行わない可能性がある。

## 教科書

金順玉・阪堂千津子『もっとチャレンジ！韓国語』（白水社、2009、ISBN：978-4-560-01780-7）

06861

## 韓国語文献読解演習 A

担当教員：宋 美蘭

2単位 前期

### 授業のねらい

韓国社会全般に渡る興味や関心を喚起すると同時に、韓国社会を学び理解することを狙いとしています。長文や文献を読むことを通して読解力・語彙力・表現力を身につけていきます。

### 到達目標

1. 韓国社会や韓国事情に関する理解を深める。
2. 韓国語の独特な表現や話題を接することを通して、生きた表現を学ぶと同時に、中級レベルのコミュニケーション能力を身に付けることができる。

### 授業方法

- ・基本的には指定のテキストに従って授業を行うが、必要に応じて補足資料を配布する。
- ・毎回声を出して読む練習を行う。トピックスに対して自分の意見を表現する。
- ・グループディスカッションを行う。
- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回学ぶ学習内容を予習することを前提とする。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 第1課 韓国の概要 (指定テキスト)  
 第3回 第1課 韓国の概要 (指定テキストと補足資料)  
 第4回 第2課 韓国の歴史 (指定テキスト)  
 第5回 第4課 韓国の物価 (指定テキストと補足資料)  
 第6回 第6課 インターネット文化 (指定テキスト)  
 第7回 日本の文化と社会を韓国語で作文練習  
 第8回 日本の文化と社会を韓国語で作文したものを発表  
 第9回 第7課 ハングルについて (指定テキスト)  
 第10回 第8課 韓国人の性について (指定テキスト)  
 第11回 第10課 韓国人の生活と経済 (指定テキストと補足資料) 1  
 第12回 第10課 韓国人の生活と経済 (指定テキストと補足資料) 2  
 第13回 第11課 教育制度と大学入試 (指定テキストと補足資料) 1  
 第14回 第11課 教育制度と大学入試 (指定テキストと補足資料) 2  
 第15回 期末テスト・まとめ

### 成績評価の方法

授業参加態度及び授業への参加状況 20%、定期期末テスト 80%による総合評価

### 履修にあたっての注意

- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回に学ぶ学習内容を予習することを前提とする。
- ・受講する学生のレベルや授業進度によっては、授業計画通りに行わない可能性がある。

### 教科書

曹美庚、林炫情、金眞 (著)『韓国社会を読む』(朝日出版社、2010年)

06871

## 韓国語文献読解演習 B

担当教員：宋 美蘭

2単位 後期

### 授業のねらい

韓国文化全般に渡る興味や関心を喚起すると同時に、韓国文化を学び理解することを狙いとしています。長文や文献を読むことを通して読解力・語彙力・表現力を身につけていきます。

### 到達目標

1. 韓国文化や韓国事情に関する理解を深めることができる。
2. 韓国語の独特な表現や話題を接することを通して、生きた表現を学ぶと同時に、中級レベルのコミュニケーション能力を身に付けることができる。

### 授業方法

- ・基本的には指定のテキストに従って授業を行うが、必要に応じて補足資料を配布する。
- ・毎回声を出して読む練習を行う。トピックスに対して自分の意見を表現する。
- ・グループディスカッションを行う。
- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回学ぶ学習内容を予習することを前提とする。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
 第2回 第1課 韓国料理の特徴 (指定テキストと補足資料)  
 第3回 第2課 食事作法 (指定テキスト)  
 第4回 第3課 住宅事情 (指定テキスト)  
 第5回 第4課 誕生日と記念行事 (指定テキスト)  
 第6回 思い出に残る「誕生日・記念行事」の出来事を作文  
 第7回 思い出に残る「誕生日・記念行事」の出来事を作文発表  
 第8回 第5課 キャンパスライフ (指定テキスト)  
 第9回 第9課 秋夕とお正月 (指定テキスト)  
 第10回 第10課 韓国の伝統遊び (指定テキスト)  
 第11回 第11課 伝統衣装の韓服 (指定テキスト)  
 第12回 新聞記事 (補足資料配布)  
 第12課 韓国の結婚式 (指定テキスト)  
 第14回 第13課 韓国人の感情表現 (指定テキスト)  
 第15回 期末テスト・まとめ

### 成績評価の方法

授業参加態度及び授業への参加状況 20%、定期期末テスト 80%による総合評価

### 履修にあたっての注意

- ・この授業は、前回学んだことの復習と次回に学ぶ学習内容を予習することを前提とする。
- ・受講する学生のレベルや授業進度によっては、授業計画通りに行わない可能性がある。

### 教科書

曹美庚、林炫情、金眞 (著)『韓国文化を読む』(朝日出版社、2010)

英語文化學科 專門科目



2017 年度以前入学生対象：学科専門科目読み替え科目一覧 英文化学科

2017 年度以前入学生が 2018 年度開講科目を履修する場合は以下の表を参考にして下さい。

2017 年度以前入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
科目 No.	科目名
13031～4	Oral English I
13041～4	Oral English II

2018 年度以降入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
科目 No.	科目名
11131～8 11141～8	Oral English I a+Oral English I b
11151～8 11161～8	Oral English II a+Oral English II b

→

→

15001～15004

## The Art of Writing I

担当教員：The Art of Writing I 担当者  
1 単位 前期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の2年生は必修である。

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。受講者は4つのクラスに分かれ、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

レポートや論文を英語で書けるようになるために訓練する授業である。パラグラフをどう発展させながら、長いエッセイを書いていくかを学び、学期の終わりに1000 wordsのエッセイを書く。Active Skills for Reading というテキスト (Reading III の授業でも使う) の writing のセクションを使って英文で書く力をつける。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to Class/ Short in class paper assignment
- 第2回 Unit 1 The Idol Life
- 第3回 Unit 2 Computer Culture
- 第4回 Unit 3 Travel Adventures
- 第5回 Topics for Final Writing assignment Due; students begin final papers
- 第6回 Unit 4 Haunted by the Past
- 第7回 Unit 5 A Good Read
- 第8回 Unit 6 A New Generation of Thinking
- 第9回 Special class for Final Writing Assignment
- 第10回 Unit 7 It's Dinner Time!
- 第11回 Unit 8 Beyond Planet Earth
- 第12回 Unit 9 Energy for Life
- 第13回 Students work on Final Papers
- 第14回 Unit 10 Language and Life
- 第15回 Final Papers Due

### 成績評価の方法

課題として出されるエッセイに対する評価 (100%)  
但し、授業への参加状況が最終成績に影響することがある。

### 教科書

Anderson, Neil J., *Active Skills for Reading Book 4 (3rd ed.)* (Cengage Learning, 2011, ISBN : 9781133308096)

15011～15014

## The Art of Writing II

担当教員：The Art of Writing II 担当者  
1 単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の2年生は必修である。

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。受講者は4つのクラスに分かれ、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。ネイティブ・スピーカーの教員が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

レポートや論文を英語で書けるようになるために訓練する授業である。  
この授業の最終目的は1月に、2000 words の research paper (あるトピックに関してリサーチをし、それを考察し、まとめた論文) を書いて提出することである。Active Skills for Reading というテキスト (Reading III の授業でも使う) の writing のセクションを使って英文で書く力をつける。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class/ Short in-class paper
- 第2回 Chapter 1 Frida Kahlo
- 第3回 Chapter 2 How a Building Changed a City
- 第4回 Chapter 3 Hygiene
- 第5回 Chapter 4 Groups, Organizations and Societies
- 第6回 Topics for Final Writing Assignment Due/ begin writing final papers
- 第7回 Chapter 5 Psychology
- 第8回 Chapter 6 Gender
- 第9回 Chapter 7 Nutrition
- 第10回 Time for Final Writing Assignment/ students continue writing their papers
- 第11回 Chapter 8 Issues for Debate
- 第12回 Time for Final Writing Assignment
- 第13回 Chapter 9 Readings from Literature
- 第14回 Students finish Final Writing Assignments
- 第15回 Final Writing Assignment Due

### 成績評価の方法

課題として出されるエッセイに対する評価 (100%)  
但し、授業への参加状況が最終成績に影響することがある。

### 教科書

Neil J. Anderson, *Active Skills for Reading Book 4, 3rd Ed.* (Cengage Learning, 2013, ISBN : 9781133308096)

### 教科書・参考書に関する備考

2年次科目の Reading IV と同じテキスト

15021~15024

## Oral English Ⅲ

担当教員：Oral English Ⅲ担当

1単位 前期

### 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

### 到達目標

Students will be able to participate actively in routine and non-routine formal discussions. They will be able to follow the discussion on matters related to their field of interests and understand in detail the points given prominence by the speaker.

They will be able to contribute actively to a conversation, account for opinions, evaluate alternative proposals and make and respond to hypothetical situations.

### 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete exercises targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will then complete speaking tasks in pairs or groups.

### 授業計画

- 第1回 Overview of class and introduction to Unit 1 (Discussing one's identity)
- 第2回 Unit 1 (Describing one's identity and talking about languages)
- 第3回 Unit 1 (Discussing differences)
- 第4回 Unit 1 (Describing the self and sounding polite)
- 第5回 Unit 1 (Interviewing)
- 第6回 Unit 1 (Interviewing)
- 第7回 Unit 3 (Describing the future)
- 第8回 Unit 3 (Describing plans)
- 第9回 Unit 3 (Rapid speech)
- 第10回 Unit 3 (Making predictions)
- 第11回 Unit 3 (Dealing with misunderstandings)
- 第12回 Unit 3 (Linking in connected speech and describing solutions)
- 第13回 Unit 5 (Using comparatives and superlatives and using question tags)
- 第14回 Assessment (interviews)
- 第15回 Assessment (interviews)

### 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end of semester evaluation (20%).

### 教科書

Clare & Wilson, *Speak Out, Intermediate (2nd ed.)* (Pearson, 2015, ISBN : 9781292115948)

15031~15034

## Oral English IV

担当教員：Oral English IV担当

1単位 後期

### 授業のねらい

- 1) ある程度の長さの英文を（特に専門的知識を必要とするものでなければ）、和訳を介さずに英語で理解し、その内容などについて議論できる。
- 2) あるトピックについての英文を読んで、それについて自分の考えを述べる、相手の意見を聞く、議論をする、などといった活動ができる。
- 3) 授業中に、教師と学習者、学習者同士のインタラクションは英語で行うことができる。

### 到達目標

Students will be able to participate actively in routine and non-routine formal discussions on a diverse range of topics. They will be able to follow the discussion on matters related to various topics. They will be able to contribute actively to a conversation, provide and evaluate solutions, deal with misunderstandings, and use some formal language associated with typical situations. They will be able to talk about some basic academic topics such as historical facts and culture, and will be able to discuss basic job qualifications.

### 授業方法

Students will complete listening and reading exercises that provide exposure to useful models for spoken discourse. In addition, students will complete exercises targeting key grammatical patterns and lexical items commonly associated with specific speaking tasks. Students will then complete speaking tasks in pairs or groups.

### 授業計画

- 第1回 Unit 5 (Making polite requests)
- 第2回 Unit 5 (Talking about problems and solutions)
- 第3回 Unit 5 (Solving problems and talking about technical problems)
- 第4回 Unit 7 (Discussing achievements)
- 第5回 Unit 7 (Using present perfect)
- 第6回 Unit 7 (Talking about present and past abilities)
- 第7回 Unit 7 (Stating opinions)
- 第8回 Unit 7 (Discussing qualifications)
- 第9回 Unit 7 (Talking about jobs)
- 第10回 Unit 9 (Discussing history)
- 第11回 Unit 9 (Describing imagined past scenarios and outcomes)
- 第12回 Unit 9 (Using active and passive)
- 第13回 Unit 9 (Expressing uncertainty)
- 第14回 Unit 9 (Describing famous people in history)
- 第15回 Unit 9 (Talking about other cultures) and review

### 成績評価の方法

The final grade will be based on attendance and active participation (10%), performance on in-class work and homework assignments (70%), and an end of semester evaluation (20%).

### 教科書

Clare & Wilson, *Speak Out, Intermediate (2nd ed.)* (Pearson, 2015)

15061～15064

## Reading Ⅲ

担当教員：Reading Ⅲ担当者

1 単位 前期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の2年生は必修である。

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を4つのクラスに分けて、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。「Grammar」「Voice & Articulation」以外のすべての科目は、クラス毎に同一の外国人教師が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は全クラスではほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

Active Skills for Reading というテキストを使い、あるテーマに関する英文を読み、その内容を批判的に検証したり、Reading のテクニックを学んだり、文法を確認したり、語彙を増やしたりしながら、Reading の力をつけていく授業である。原則的にはテキストを順に追って授業が進められていくが、授業担当者の定期的な検討会で、授業の詳細が随時決められ実施される。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class
- 第2回 Unit 1 The Idol Life
- 第3回 Unit 1 The Idol Life: Part II
- 第4回 Unit 2 Computer Culture
- 第5回 Unit 2 Computer Culture: Part II
- 第6回 Pleasure Reading Discussions
- 第7回 Unit 3 Travel Adventures
- 第8回 Unit 3 Travel Adventures: Part II
- 第9回 Pleasure Reading Discussions
- 第10回 Unit 4 Haunted by the Past
- 第11回 Unit 4 Haunted by the Past: Part II
- 第12回 Pleasure Reading Discussions
- 第13回 Unit 5 A Good Read
- 第14回 Unit 5 A Good Read: Part II
- 第15回 Make-up class/ Exam review

### 成績評価の方法

授業中の活動に対する評価 (40%)、定期試験の評価 (60%)

### 教科書

Anderson, Neil J., *Active Skills for Reading Book 4 (3rd ed.)* (Cengage Learning, 2011, ISBN : 9781133308096)

### 教科書・参考書に関する備考

2年次科目の The Art of Writing I と同じテキスト

15071～15074

## Reading IV

担当教員：Reading IV担当者

1 単位 後期

### 授業のねらい

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の2年生は必修である。

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を4つのクラスに分けて、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。「Grammar」「Voice & Articulation」以外のすべての科目は、クラス毎に同一の外国人教師が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は全クラスではほぼ同じで、試験は共通問題で実施される。

### 到達目標

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

### 授業方法

Active Skills for Reading というテキストを使い、あるテーマに関する英文を読み、その内容を批判的に検証したり、Reading のテクニックを学んだり、文法を確認したり、語彙を増やしたりしながら、Reading の力をつけていく授業である。原則的にはテキストを順に追って授業が進められていくが、授業担当者の定期的な検討会で、授業の詳細が随時決められ実施される。

### 授業計画

- 第1回 Introduction to class
- 第2回 Unit 6 A New Generation of Thinking
- 第3回 Unit 6 A New Generation of Thinking: Part II
- 第4回 Pleasure Reading Discussions
- 第5回 Unit 7 It's Dinner Time!
- 第6回 Unit 7 It's Dinner Time: Part II
- 第7回 Unit 8 Beyond Planet Earth
- 第8回 Unit 8 Beyond Planet Earth: Part II
- 第9回 Pleasure Reading Discussions
- 第10回 Unit 9 Unearthing the Past
- 第11回 Unit 9 Unearthing the Past: Part II
- 第12回 Unit 10 Language and Life
- 第13回 Unit 10 Language and Life: Part II
- 第14回 Pleasure Reading Discussions
- 第15回 Review for Final Exam

### 成績評価の方法

授業中の活動に対する評価 (40%)、定期試験の評価 (60%)

### 教科書

Neil J. Anderson, *Active Skills for Reading Book 4, 3rd ed.* (Cengage Learning, 2013, ISBN : 9781133308096)

### 教科書・参考書に関する備考

2年次科目の The Art of Writing II と同じテキスト

**18181****Listening I**

担当教員：新井 良夫

0.5 単位 前期

**授業のねらい**

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

1年次の「学科基礎科目」:

「Writing I」「Writing II」「Grammar I」「Grammar II」「Oral English I」「Oral English II」「Reading I」「Reading II」「Voice & Articulation」「Listening」

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を4つのクラスに分けて、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。文法と Voice & Articulation 以外のすべての科目は、クラス毎に同一の外国人教師が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は4クラスとも同じで、試験は共通問題で実施される。

**到達目標**

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

**授業方法**

World In Focus というテキストを使用する。DVD 教材を使い、会話のやり取りや短いスピーチの内容を理解したり、その話題について考える授業。原則的にはテキストを順に追って授業が進められていくが、授業担当者の定期的な検討会で、授業の詳細が随時決められ実施される。

**授業計画**

- 第1回 Introduction to class and textbook
- 第2回 Unit 1 A Taste of Mexico
- 第3回 Finish Unit 1
- 第4回 Unit 2 Lightning
- 第5回 Finish Unit 2
- 第6回 Unit 3 Penguins In Trouble
- 第7回 Finish Unit 3
- 第8回 Midterm Test Units 1-3
- 第9回 Unit 4 Parasomnia
- 第10回 Finish Unit 4
- 第11回 Unit 5 Maasai Teacher
- 第12回 Finish Unit 5
- 第13回 Unit 6 Living in Venice
- 第14回 Finish Unit 6
- 第15回 Prepare for Final Test

**成績評価の方法**

授業中の活動に対する評価 (40%)、定期試験の評価 (60%)

**教科書**

Moller, *World In Focus* (Cengage, 2013, ISBN : 978-1-285-19751-7)

**18191****Listening II**

担当教員：新井 良夫

0.5 単位 後期

**授業のねらい**

この科目は英語文化学科の「学科基礎科目」の1つで、英語文化学科の1年生は必修である。

1年次の「学科基礎科目」:

「Writing I」「Writing II」「Grammar I」「Grammar II」「Oral English I」「Oral English II」「Reading I」「Reading II」「Voice & Articulation」「Listening」

2年次の「学科基礎科目」:

「The Art of Writing I」「The Art of Writing II」「Oral English III」「Oral English IV」「Reading III」「Reading IV」

「学科基礎科目」は、授業展開の方法が他の科目と異なる。

「学科基礎科目」の科目間には、内容に関してゆるい関連性がある。科目ごとに受講者を4つのクラスに分けて、4人の教員が同じ時間帯に同時展開する。文法と Voice & Articulation 以外のすべての科目は、クラス毎に同一の外国人教師が担当し、授業はすべて英語のみで進行する。これにより、各自の英語力をしっかり把握して指導してもらえるようになっている。使用するテキストと授業の進度は4クラスとも同じで、試験は共通問題で実施される。

**到達目標**

「学科基礎科目」の基本方針は、English for Academic Purposes (学問のための英語) の習得である。3、4年の専門課程への準備として、英語で文献を読んだり、英語で論文を書いたり、英語で議論することができるようになることを目標にしている。

**授業方法**

World In Focus というテキストを使用する。DVD 教材を使い、会話のやり取りや短いスピーチの内容を理解したり、その話題について考える授業。原則的にはテキストを順に追って授業が進められていくが、授業担当者の定期的な検討会で、授業の詳細が随時決められ実施される。

**授業計画**

- 第1回 Unit 7 Tornado Chase
- 第2回 Finish Unit 7
- 第3回 Unit 8 Treasures in Old San Juan
- 第4回 Finish Unit 8
- 第5回 Unit 9 Bee Therapy
- 第6回 Finish Unit 9
- 第7回 Midterm test
- 第8回 Unit 10 Inca Mummy
- 第9回 Finish Unit 10
- 第10回 Unit 11 Global Warming
- 第11回 Finish Unit 11
- 第12回 Unit 12 More Water for India
- 第13回 Finish Unit 12
- 第14回 Unit 13 Tsunami: Killer Wave
- 第15回 Finish Unit 13, prepare for Final Test

**成績評価の方法**

授業中の活動に対する評価 (40%)、定期試験の評価 (60%)

**教科書**

Moller, *World In Focus* (Cengage, 2013, ISBN : 978-1-285-19751-7)



15101

## 基礎講読 A-a

担当教員：沢辺 裕子

1 単位 前期

## サブタイトル

イギリス小説で英語 1

## 授業のねらい

イギリスの作家による小説を読むことを通して、英語読解力と想像力を伸ばし、文学にも親しむ。

## 到達目標

文学作品の英語を読めるようになること。登場人物の言動の裏にある心理を想像できるようになること。わからない単語があっても、物語の面白さに惹かれて読み進める習慣を身につけること。この授業をきっかけとして、英語で書かれた文学作品に自分でも挑戦してみることに。

## 授業方法

Jane Austen 作『高慢と偏見 (Pride and Prejudice)』と E. M. Forster 作『眺めのいい部屋 (A Room with a View)』から抜粋を読む。授業では原文を音読し、日本語に翻訳する。授業で読めない部分は映画を観て補い、物語の流れをつかむ。試験は返却しないが、結果について質問がある場合にはオフィスアワーで対応します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス (授業の進め方や評価の仕方)  
『高慢と偏見』 (1) ネザーフィールド屋敷の新しい住人  
第2回 『高慢と偏見』 (2) 舞踏会とダーシー氏  
第3回 『高慢と偏見』 (3) 軍人ウィッカム氏  
第4回 『高慢と偏見』 (4) 牧師コリンズ氏  
第5回 『高慢と偏見』 (5) プロポーズ、手紙  
第6回 『高慢と偏見』 (6) ペンバリー屋敷、妹の駆け落ち  
第7回 『高慢と偏見』 (7) 伯爵夫人との対決  
第8回 『眺めのいい部屋』 (1) ホテル・ベルトリニー  
第9回 『眺めのいい部屋』 (2) アルノ川  
第10回 『眺めのいい部屋』 (3) フィレンツェを見晴らす丘  
第11回 『眺めのいい部屋』 (4) 聖なる湖  
第12回 『眺めのいい部屋』 (5) ロンドン  
第13回 『眺めのいい部屋』 (6) ウィンディー・コーナーの庭  
第14回 『眺めのいい部屋』 (7) みんなへの嘘  
第15回 『眺めのいい部屋』 (8) 牧師館

## 成績評価の方法

授業への参加状況・発表 (30%)、定期試験 (70%) を合わせて評価する。

## 履修にあたっての注意

第1週の授業から出席をカウントする。遅刻せず、毎回出席することが大切。  
前週に指示する章を読み内容を理解した上で出席すること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

テキストはハンドアウト配布。辞書必携。参考文献は授業で紹介いたします。

Jane Austen, *Pride and Prejudice* 『高慢と偏見』  
E. M. Forster, *A Room with a View* 『眺めのいい部屋』

15111

## 基礎講読 A-b

担当教員：沢辺 裕子

1 単位 後期

## サブタイトル

イギリス小説で英語 2

## 授業のねらい

イギリスの作家による小説を読むことを通して、英語読解力と想像力を伸ばし、文学にも親しむ。

## 到達目標

文学作品の英語を読めるようになること。登場人物の言動の裏にある心理を想像できるようになること。わからない単語があっても、物語の面白さに惹かれて読み進める習慣を身につけること。この授業をきっかけとして、英語で書かれた文学作品に自分でも挑戦してみることに。

## 授業方法

Ian McEwan 作『贖罪 (Atonement)』と A. S. Byatt 作『抱擁 (Possession)』から抜粋を読む。授業では原文を音読し、日本語に翻訳する。授業で読めない部分は映画を観て補い、物語の流れをつかむ。試験は返却しないが、結果について質問がある場合にはオフィスアワーで対応します。

## 授業計画

- 第1回 『贖罪』 (1) タリス家の庭 (シシリア)  
第2回 『贖罪』 (2) タリス家の庭 (プライオニー)  
第3回 『贖罪』 (3) 手紙  
第4回 『贖罪』 (4) 逮捕  
第5回 『贖罪』 (5) フランスの戦場  
第6回 『贖罪』 (6) 結婚式  
第7回 『贖罪』 (7) 小説  
第8回 『抱擁』 (1) ロンドン図書館  
第9回 『抱擁』 (2) リンカーン大学  
第10回 『抱擁』 (3) シール・コート屋敷  
第11回 『抱擁』 (4) ヨークシャーへの旅  
第12回 『抱擁』 (5) プリタニーへの旅  
第13回 『抱擁』 (6) 妻の回想  
第14回 『抱擁』 (7) 手紙と写真  
第15回 『抱擁』 (8) 草原

## 成績評価の方法

授業への参加状況・発表 (30%)、定期試験 (70%) を合わせて評価する。

## 履修にあたっての注意

第1週の授業から出席をカウントする。遅刻せず、毎回出席することが大切。  
前週に指示する章を読み内容を理解した上で出席すること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

テキストはハンドアウト配布。辞書必携。参考文献は授業で紹介いたします。

Ian McEwan, *Atonement* (『贖罪』)  
A. S. Byatt, *Possession* (『抱擁』)

15121

## 基礎講読 B-a

担当教員：宮下 雅年

1 単位 前期

## サブタイトル

速読のトレーニング

## 授業のねらい

使用語彙や文法事項を適度に制限して平明に書かれた短い物語（合計語数 50,000）を教材にし、読んですぐに理解する力をつける。

## 到達目標

1. 速読の技法---①「かたまり」で読む、②想像力を働かせ、場面をイメージしながら読む、③集中して読む、などが身につく。
2. とりわけ凝った文章でないかぎり、1分間に110語程度の速さで読むことができる。
3. 語彙力が増す。
4. 基本的な動詞を活用できる。

## 授業方法

1. 授業の冒頭で宿題の確認をする。毎回の宿題を完成するのに45分程度の時間を要する。
2. 毎回500語から2,000語のtaleを3編配布するので、制限時間に読み、その後、担当教員による内容確認の質問に口頭で答える。
3. 授業後半の15分で、その回のテキストの語彙、語句に関するクイズに答える。

## 授業計画

- 第1回 速読の技法に関する一般論  
 第2回 物語教材 1-3  
 第3回 同 4-6  
 第4回 同 7-9  
 第5回 同 10-12  
 第6回 同 13-15  
 第7回 前半の復習：phrase reading がどの程度できるか？ 未知の語句の意味を前後関係から推測できるか？ 基本動詞を用いた2語動詞を使えるか？ これらに関する復習テストを行う。  
 第8回 物語教材 16-18  
 第9回 同 19-21  
 第10回 同 22-24  
 第11回 同 25-27  
 第12回 同 28-30  
 第13回 同 31-33  
 第14回 同 34-36  
 第15回 後半の復習：1分間に110語のスピードで読み、内容を正確に理解できているか？ 語彙力が増しているか？ これらに関する復習テストを行う。

## 成績評価の方法

宿題（15%）、毎回の語彙に関するクイズの成績（15%）、復習試験（70%）により評価する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教材は教員が用意する。

15131

## 基礎講読 B-b

担当教員：宮下 雅年

1 単位 後期

## サブタイトル

速く、正確に読む

## 授業のねらい

使用語彙や文法事項を適度に制限して平明に書き直した物語を素材にして、その文化的・社会的な背景にも留意しながらストーリーを楽しみ、できるだけ速く、正確に読む力をつける。

## 到達目標

1. 速読の技法---①「かたまり」で読む、②想像力を働かせ、場面をイメージしながら読む、③集中して読む、などが身につく。
2. とりわけ凝った文章でないかぎり、1分間に120語程度の速さで読むことができる。
3. 語彙力が増す。

## 授業方法

1. 毎回冒頭に内容理解のチェックシートが配布されるので、履修生は隣席の者とペアで解答を考え、その後6名程度のグループに分かれて発表する。担当教員が適宜助言する。
2. 授業後半の15分で、その回のテキストの語彙、語句に関するクイズに答える。
3. 教材は前半と後半で語彙、構文、描写等が徐々に複雑なものになる。

## 授業計画

- 第1回 (1)速読の技法に関する一般論：phrase reading  
 (2)当該物語の社会的背景の解説：「アメリカの夢／悪夢」、移民社会  
 第2回 An American Tragedy, pp. 1-3  
 第3回 ---, pp. 4-6  
 第4回 ---, pp. 7-9  
 第5回 ---, pp. 10-12  
 第6回 ---, pp. 13-15  
 第7回 ---, pp. 16-19  
 第8回 前半の復習：物語のあらすじを言えるか？ 状況の記述から登場人物の心理を推測できるか？ 語彙力が増したか？ これらに関する復習テストを行う。  
 第9回 Rear Window, pp. 7-12  
 第10回 ---, pp. 12-17  
 第11回 ---, pp. 18-28  
 第12回 ---, pp. 28-38  
 第13回 ---, pp. 39-46  
 第14回 ---, pp. 47-56  
 第15回 後半の復習：物語のあらすじを言えるか？ 状況の記述から登場人物の心理を推測できるか？ 語彙力が増したか？ 1分120語のスピードで文章を読めるか？ これらに関する復習テストを行う。

## 成績評価の方法

毎回の語彙に関するクイズの成績を30点に換算し、復習試験（70点満点）の成績と合わせて評価する。

## 履修にあたっての注意

事前学習は必須である。履修生は、テキストの指定された部分を通読し、ストーリーの展開をだいたい理解した上で授業に参加すること。所要時間は45分。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教材は教員が用意する。

15201

## 小説講読 A-a

担当教員：鎌田 禎子

1 単位 前期

### サブタイトル

アメリカの短編小説を読む

### 授業のねらい

20世紀のアメリカ作家の作品に触れ、さまざまな特徴を概観することも目標とするが、いちばんのねらいは作品と直接向き合い、自分の読みを形成することである。精読によって読解力を伸ばし、各種の方法や理論を学び、討論によってさまざまな観点を養い、作品の理解を深めていく。

### 到達目標

1. 英文を正確に読み取り、作品の内容を深く理解する能力を身につける。
2. 作品に対する自分の意見を論理的に組み立て、分かりやすく表現する。

### 授業方法

- ・ 輪読形式による精読と、作品に対する意見発表・討論によって進める。できるだけ毎回全員が発表する。
- ・ 毎回の授業について、該当範囲を予習して内容を理解し、発表できるように準備する（所要時間 60-90 分程度）。
- ・ 作品を読み終わるごとに、各自コメントを提出し、授業内で討論する。その他、テーマ毎にコメント提出を求める場合がある（所要時間 20 分程度）。
- ・ 提出コメントについては配布資料を作成し、授業内で参照して討論する。

### 授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Ernest Hemingway, "Indian Camp" (1) 前半部
- 第3回 Ernest Hemingway, "Indian Camp" (2) 後半部・討論
- 第4回 O. Henry, "The Gift of the Magi" (1) 前半部
- 第5回 O. Henry, "The Gift of the Magi" (2) 中間部
- 第6回 O. Henry, "The Gift of the Magi" (3) 後半部・討論
- 第7回 Erskine Caldwell, "The Strawberry Season" (1) 前半部
- 第8回 Erskine Caldwell, "The Strawberry Season" (2) 後半部・討論
- 第9回 Carson McCullers, "A Tree, A Rock, A Cloud" (1) 前半部
- 第10回 Carson McCullers, "A Tree, A Rock, A Cloud" (2) 中間部
- 第11回 Carson McCullers, "A Tree, A Rock, A Cloud" (3) 後半部
- 第12回 Carson McCullers, "A Tree, A Rock, A Cloud" (4) 討論
- 第13回 Kurt Vonnegut, "Adam" (1) 前半部
- 第14回 Kurt Vonnegut, "Adam" (2) 中間部
- 第15回 Kurt Vonnegut, "Adam" (3) 後半部・討論

### 成績評価の方法

発表・課題提出等を総合した授業への参加状況により、到達目標 1、2 を測定 (50%)。定期試験により、主として到達目標 1 を測定 (50%)。

### 履修にあたっての注意

- ・ 必ず予習をして授業に臨むこと。
- ・ 興味のある作家については、積極的に自分でも他の作品を読み進めてほしい。

### 教科書

岩元巖他 編注『American Stories of Love and Live 『愛の珠玉短編集』』（朝日出版社、1986、ISBN：978-4-255-10101-9）およびプリント配布

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：授業中に随時紹介する。

15211

## 小説講読 A-b

担当教員：鎌田 禎子

1 単位 後期

### サブタイトル

アメリカの短編小説を読む

### 授業のねらい

20 世紀のアメリカ作家の作品に触れ、さまざまな特徴を概観することも目標とするが、いちばんのねらいは作品と直接向き合い、自分の読みを形成することである。精読によって読解力を伸ばし、各種の方法や理論を学び、討論によってさまざまな観点を養い、作品の理解を深めていく。

### 到達目標

1. 英文を正確に読み取り、作品の内容を深く理解する能力を身につける。
2. 作品に対する自分の意見を論理的に組み立て、分かりやすく表現する。

### 授業方法

- ・ 輪読形式による精読と、作品に対する意見発表・討論によって進める。できるだけ毎回全員が発表する。
- ・ 毎回の授業について、該当範囲を予習して内容を理解し、発表できるように準備する。(所要時間 60-90 分程度)
- ・ 作品を読み終わるごとに、各自コメントを提出し、授業内で討論する。その他、テーマ毎にコメント提出を求める場合がある (所要時間 20 分程度)。
- ・ 提出コメントについては配布資料を作成し、授業内で参照して討論する。

### 授業計画

- 第1回 Introduction  
 第2回 Ernest Hemingway, "The End of Something" (1) 前半部  
 第3回 Ernest Hemingway, "The End of Something" (2) 後半部・討論  
 第4回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (1) 前半部  
 第5回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (2) 中間部  
 第6回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (3) 後半部  
 第7回 William Faulkner, "A Rose for Emily" (4) 討論  
 第8回 Bernard Malamud, "The First Seven Years" (1) 前半部  
 第9回 Bernard Malamud, "The First Seven Years" (2) 中間部  
 第10回 Bernard Malamud, "The First Seven Years" (3) 後半部  
 第11回 Bernard Malamud, "The First Seven Years" (4) 討論  
 第12回 Irwin Shaw, "The Girls in Their Summer Dresses" (1) 前半部  
 第13回 Irwin Shaw, "The Girls in Their Summer Dresses" (2) 中間部  
 第14回 Irwin Shaw, "The Girls in Their Summer Dresses" (3) 後半部  
 第15回 Irwin Shaw, "The Girls in Their Summer Dresses" (4) 討論

### 成績評価の方法

発表・課題提出等を総合した授業への参加状況により、到達目標 1、2 を測定 (50%)。定期試験により、主として到達目標 1 を測定 (50%)。

### 履修にあたっての注意

- ・ 必ず予習をして授業に臨むこと。
- ・ 興味のある作家については、積極的に自分でも他の作品を読

み進めてほしい。

### 教科書

岩元巖他 編注『American Stories of Love and Live『愛の珠玉短編集』』(朝日出版社、1986、ISBN: 978-4-255-10101-9) およびプリント配布

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：授業中に随時紹介する。

15221

## 小説講読 B-a

担当教員：皆川 治恵

1 単位 前期

### サブタイトル

父親と息子、母親と娘の関係を扱った短編作品を中心に

### 授業のねらい

上記のテーマに関する短編作品を読み、親と子供の関係について考える。

作品を理解する上でそれぞれの作品の歴史、社会的背景について考える。

### 到達目標

英文で短編を読み、理解することができる。

作品を通して人としての生き方について考えることができる。

「本と私」のトピックで自分が強い印象を受けた文学作品（作家の人生を含む）をクラスで紹介し、発表する。

英語の作品が望ましい。

### 授業方法

作品を少しずつ読み進める。それぞれの作品を読み終えた後に感想を交換する。その後コメントを書く。

### 授業計画

- 第1回 “Badness within Him” by Susan Hills
  - 第2回 “Badness within Him” by Susan Hills
  - 第3回 “Badness within Him” by Susan Hills
  - 第4回 “Korea” by John McGahem
  - 第5回 “Korea” by John McGahem
  - 第6回 “Korea” by John McGahem
  - 第7回 “Korea” by John McGahem
  - 第8回 「本と私」発表1
  - 第9回 「本と私」発表2
  - 第10回 “The Twins” by Amy Tan
  - 第11回 “The Twins” by Amy Tan
  - 第12回 “The Twins” by Amy Tan
  - 第13回 “Everyday Use” by Alice Walker
  - 第14回 “Everyday Use” by Alice Walker
  - 第15回 “Everyday Use” by Alice Walker
- Achievement Test

### 成績評価の方法

筆記試験（50%）、授業態度（20%）、発表（30%）

### 履修にあたっての注意

事前の予習をして授業にのぞむこと。積極的な授業への参加を希望する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリント配布

15231

## 小説講読 B-b

担当教員：皆川 治恵

1 単位 後期

### サブタイトル

キャサリン・マンスフィールドの短編を読む

### 授業のねらい

キャサリン・マンスフィールドの短編を読み、作品の意味について考える。

英語力を高めるとともに、人生について考える力を養う。

### 到達目標

英語の作品を原文で読み、理解することができる。

それぞれの作品の背景に込められた意図を推察し、解釈することができる。

### 授業方法

作品を少しずつ読み進めてゆく。読み終えた後に意見の交換を行う。その後コメントを書く。

「本と私」というトピックで強い印象を受けた作品及び作家について発表する。

### 授業計画

- 第1回 “The Garden Party”
- 第2回 “The Garden Party”
- 第3回 “The Garden Party”
- 第4回 “The Garden Party”
- 第5回 “The Fly”
- 第6回 “The Fly”
- 第7回 “The Fly”
- 第8回 “Bliss”
- 第9回 “Bliss”
- 第10回 “Bliss”
- 第11回 「本と私」発表1
- 第12回 「本当私」発表2
- 第13回 “The Doll's House”
- 第14回 “The Doll's House”
- 第15回 “The Doll's House”

### 成績評価の方法

筆記試験（50%）、授業態度（20%）、発表（30%）

### 履修にあたっての注意

事前の予習をして授業にのぞむこと。積極的な参加を希望する。

### 教科書

Katherine Mansfield, *The Garden-Party & Other Stories* (南雲堂, ISBN : 03603-6 C-M3 014700)

### 教科書・参考書に関する備考

プリント配布



15241

## 詩講読 a

担当教員：本堂 知彦

1 単位 前期

### サブタイトル

イギリスの詩と音楽（中世からルネッサンスまで）

### 授業のねらい

イギリスの詩を、文学だけではなく、音楽などの他の芸術ジャンルとの関連において捉え、イギリスの文化史の大きな流れを理解します。

### 到達目標

1. 中世からルネッサンスまでのイギリス文化の歴史的流れを理解する。
2. 文学史上の主要な詩人の作品に触れる。
3. イギリス音楽に親しみ、「イギリス的」なるものの特徴を理解する。
4. 詩を原文のまま読めるだけの英語力を身につける。

### 授業方法

詩を読みながら、同時代の音楽や絵画等も併せて鑑賞し、総合的な文化史のなかで詩の魅力について考えます。テキストを配付しますので、毎回それをしっかりと読んでくれることが求められます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 イギリス文化史の流れ
- 第3回 中世の叙情詩
- 第4回 民謡の世界
- 第5回 ヘンリー八世の時代
- 第6回 カトリックから国教会へ
- 第7回 ソネットの魅力
- 第8回 シェイクスピアの韻律
- 第9回 シェイクスピアと音楽
- 第10回 マドリガルの楽しみ
- 第11回 ソングの世界（トマス・キャンピオン）
- 第12回 ソングの世界（ジョン・ダウランド）
- 第13回 新大陸発見が導く新しい時代
- 第14回 形而上詩の不思議な魅力
- 第15回 まとめとテスト

### 成績評価の方法

期末試験（70%）と平常点（30%）を総合して評価を行います。とくに到達目標の1と4を試験では重視します。

### 履修にあたっての注意

毎回必ず辞書を持ってくること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、配付する資料に基づき授業を進めます。参考書は、授業のなかで適宜紹介します。

15251

## 詩講読 b

担当教員：本堂 知彦

1 単位 後期

### サブタイトル

イギリスの詩と音楽（古典主義の時代から現代へ）

### 授業のねらい

イギリスの詩を、文学だけではなく、音楽などの他の芸術ジャンルとの関連において捉え、イギリスの文化史の大きな流れを理解します。

### 到達目標

1. 古典主義の時代から現代までのイギリス文化の歴史的流れを理解する。
2. 文学史上の主要な詩人の作品に触れる。
3. イギリス音楽に親しみ、「イギリス的」なるものの特徴を理解する。
4. 詩を原文のまま読めるだけの英語力を身につける。

### 授業方法

詩を読みながら、同時代の音楽や絵画等も併せて鑑賞し、総合的な文化史のなかで詩の魅力について考えます。テキストを配付しますので、それをしっかりと読んでくれることが求められます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 イギリス文化史の流れ
- 第3回 王政復古とヘンリー・パーセル
- 第4回 イギリスで活躍したヘンデル
- 第5回 第二の国歌『ルール・ブリタニア』とハイドンのイギリス訪問
- 第6回 ロマン主義のきざし
- 第7回 ブレイクの詩と絵画
- 第8回 ワーズワースとコールリッジ
- 第9回 シェリーとバイロン
- 第10回 夭折の天才キーツ
- 第11回 ヴィクトリア朝とテニスン
- 第12回 ラファエル前派の詩と絵画
- 第13回 第一次世界大戦とハウスマン
- 第14回 現代の詩と音楽
- 第15回 まとめとテスト

### 成績評価の方法

期末試験（70%）と平常点（30%）を総合して評価を行います。試験に置いてはとくに到達目標の1と4を重視します。

### 履修にあたっての注意

毎回必ず辞書を持ってくること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、配付する資料に基づき授業を進めます。参考書は授業のなかで適宜紹介します。

15261

## 批評講読 a

担当教員：本堂 知彦

1 単位 前期

## サブタイトル

小説を読む方法 その理論と実践（理論編）

## 授業のねらい

文学作品、とくに小説を読む方法について、アメリカの著名な批評家ロバート・スコールズが書いた入門書を読みます。これによって、小説をいかに読むかということについての技術を身につけ、それを実際の作品に応用することを学びます。この批評講読 a では、その理論編として、小説の読み方を学びます。また、高度な英文を読みこなすことができる読解力をつけることも、この授業の重要な目標です。

## 到達目標

1. 文学作品を読む方法が身についている。
2. 高度な英文を読みこなすことができる。

## 授業方法

講読の形式をとり、細部までこだわりながら精読します。したがって、毎回の予習が何よりも大切です。読解力は予習のなかでこそ身につくと考えて下さい。授業で予習の成果を確認する、という姿勢で授業に臨んで下さい。その際、ただ日本語に置き換えるのではなく、筆者の意図を汲み取りながら読む姿勢が大切です。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 事実と虚構
- 第3回 経験と分析
- 第4回 フィクションのスペクトル
- 第5回 リアリズムとロマンスの関係
- 第6回 マスタープロット
- 第7回 フィクションの6パターン
- 第8回 プロット
- 第9回 登場人物
- 第10回 意味
- 第11回 視点
- 第12回 語調
- 第13回 比喩
- 第14回 構想
- 第15回 まとめと試験

## 成績評価の方法

期末試験（70%）と平常点（30%）を総合して評価を行います。

## 履修にあたっての注意

毎回必ず辞書を持ってきて下さい。

## 教科書

Robert Scholes, *Elements of Fiction* (英宝社, 1994, ISBN : 4-269-23062-2)

## 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業のなかで適宜紹介します。

15271

## 批評講読 b

担当教員：本堂 知彦

1 単位 後期

## サブタイトル

小説を読む方法 その理論と実践（実践編）

## 授業のねらい

文学作品、とくに小説を読む方法について、アメリカの著名な批評家ロバート・スコールズが書いた入門書を読みます。これによって、小説をいかに読むかということについての技術を身につけ、それを実際の作品に応用することを学びます。この批評講読 b はその実践編として、批評講読 a で学んだ知識を、実際の読書に応用する方法を学びます。また、この入門書を読むことを通じて英語の読解力を身につけることも、この授業の重要な目標です。

## 到達目標

1. 文学作品を読む方法を身につけ、それを実際の読書に応用できる。
2. 卒業論文で文学作品を扱う際に役立てることができる。
3. 高度な英文を読みこなすことができる。

## 授業方法

講読の形式をとり、細部までこだわりながら精読します。批評講読 a と同様に、丁寧な予習が何よりも求められます。今回は2つの作品を具体例として取り上げるので、批評講読 a で身につけた知識を確認しながら読むことが大切です。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 批評講読 a の振り返り
- 第3回 モーバッサンの「月明かり」を読む～マリニャン神父の女性観～
- 第4回 モーバッサンの「月明かり」を読む～姪の恋～
- 第5回 モーバッサンの「月明かり」を読む～月光の下で～
- 第6回 「月明かり」の分析～語り手の視点～
- 第7回 「月明かり」の分析～登場人物の変化～
- 第8回 ジョイスの「土」を読む～ダブリンの洗濯屋～
- 第9回 ジョイスの「土」を読む～ジョーの家へ～
- 第10回 ジョイスの「土」を読む～小さな事件～
- 第11回 ジョイスの「土」を読む～間違えた歌詞～
- 第12回 「土」の分析～視点と文体～
- 第13回 「土」の分析～歌われなかった歌詞～
- 第14回 「土」の分析～主人公の人物像～
- 第15回 まとめとテスト

## 成績評価の方法

試験（70%）と平常点（30%）を総合して評価を行います。

## 履修にあたっての注意

毎回必ず辞書を持ってきて下さい。

## 教科書

Robert Scholes, *Elements of Fiction* (英宝社, 1994, ISBN : 4-269-23062-2)

## 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業のなかで適宜紹介します。

15281

## 時事英語講読 A-a

担当教員：皆川 治恵

1 単位 前期

## サブタイトル

時事英語に慣れ親しむ

## 授業のねらい

英字新聞を読むことを通して異文化理解を深めることを目的とする。

英語力を高めるとともにメディア・リテラシーの力を付けてゆきたい。

## 到達目標

英字新聞記事を読む習慣を身につける。

語彙力を高める。

批判的な目で読むことも学ぶ。

## 授業方法

英文新聞記事を読み、わからない単語の意味を推測する。その後辞書で意味の確認を行う。

いくつかの練習問題を行い、意味の確認をする。

## 授業計画

- 第1回 Educators work to close language gap
- 第2回 Chinese students make mark
- 第3回 Takeda to require 730 TOEIC scores of new hires
- 第4回 Rolling out the welcome mat
- 第5回 Multilingual signs announce smoking ban
- 第6回 Lower language barrier for caregivers from overseas
- 第7回 Draemon: robot for the ages
- 第8回 The mixing of cultures behind a European version of the hina doll
- 第9回 Japanese food wins over foreign epicures
- 第10回 Koyasan gains from heritage, Michelin status
- 第11回 Jesse's legacy: an almost open sport
- 第12回 Actor plays 2 roles in S. Korea
- 第13回 China seeks to stake its claim/files for bullet-train patents in Japan, 4 other countries
- 第14回 Feasibility Key for revamped N-safety scheme
- 第15回 Revitalizing Japan - building a disaster-resistant nation

## 成績評価の方法

オピニオン・エッセイを含む試験（50%）、出席を含む授業態度（20%）、語彙小テスト（30%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

事前の予習をして授業にのぞむこと。授業への積極的な参加を希望する。

## 教科書

河原俊昭他, *Cross-Cultural Understanding through the Daily Yomiuri* (英宝社, 2013, ISBN : 978-4-269-5 C1082)

## 教科書・参考書に関する備考

The Japan Times, CNN English Express

## 参考書

CNN English Express

## 参考ホームページ

NHK World Radio Japan の Podcast  
NHK World ウェブニュース  
NHK News Web

15291

## 時事英語講読 A-b

担当教員：皆川 治恵

1 単位 後期

## サブタイトル

時事英語に慣れ親しむ

## 授業のねらい

ヴァラエティに富んだトピックに関する英字新聞の記事を読み、総合的な英語力を高める。

トピックに応じて可能な場合はディスカッションを行う。

オピニオンエッセイを書くことを求める。

## 到達目標

英字新聞の記事を読み、内容を理解し、その問題について英語で話し合うことができる。

それぞれの記事について自分の意見を英語で説明することができる。

## 授業方法

テキストに沿って練習問題を行う。本文テキストは予習を前提に授業を行う。

## 授業計画

- 第1回 Bao Bao to Return to China
- 第2回 Coat Designer
- 第3回 Robot Revolution
- 第4回 Mother Meets the Recipients of her Son's Organs
- 第5回 Day Without Immigrants
- 第6回 911: Fatal Flaws
- 第7回 Rising costs of Trump Family Travel
- 第8回 13-year-old on a Game Show
- 第9回 Virtual Kidnapping
- 第10回 Reunion: Airman and Little Girl He Saved
- 第11回 Report on the Republican Health Care Plan
- 第12回 A Rare Ride Inside an F-16
- 第13回 Presentation 1
- 第14回 Presentation 2
- 第15回 Achievement Test

## 成績評価の方法

オピニオン・エッセイを含む筆記試験（50%）、授業態度（20%）、語彙小テスト（30%）

## 履修にあたっての注意

予習をして授業にのぞむこと。授業への積極的な参加を希望する。

## 教科書

山根繁他, *ABC WORLD NEWS 20* (金星堂, 2018, ISBN : 978-4-7647-4051-8)

## 教科書・参考書に関する備考

The Japan Times, CNN News Express

## 参考書

CNN News Express

## 参考ホームページ

NHK World Radio Japan の Podcast  
NHK World のウェブニュース  
NHK News Web (日本語ニュース)

15301

## 時事英語講読 B-a

担当教員：宮下 雅年

1 単位 前期

### サブタイトル

新聞記事で英語力を養う

### 授業のねらい

最近報じられた国内外のさまざまな分野のニュース記事(500語程度)を素材に、読み、聞き、話し、書くの練習をし、それによって英語の運用能力を高める。

### 到達目標

1. 英字新聞の記事に慣れ親しむ。
2. 各種の exercises を通じて英語の基礎力が身につく。
3. トピックに関連した語彙をより多く習得できる。
4. 当該の記事を簡単な言葉で要約できる。

### 授業方法

毎回の手順は次のとおりである。

1. 記事を通読する。
2. 大事な語句を説明し、理解を深める。
3. 音声で確認する。
4. 理解度をチェックする。
5. 要約を完成し、発表する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：新聞記事のづくり  
 第2回 教育1：Teaching Web-Savvy Students  
 第3回 社会1：Japan's Population  
 第4回 文化1：the Popularity of Jananese Anime Film 'Your Name'  
 第5回 政治1：How to Stop Populism's Carnage  
 第6回 教育2：'Parachute Kids' Enrolled in US High Schools  
 第7回 社会2：E-Cigarette Use among Young People in US  
 第8回 政治2：Trump Has New Fans in China  
 第9回 前半の復習：語彙の総復習および各種形式による小テスト  
 第10回 経済1：Zimbabwe's Economy  
 第11回 経済2：Robots are Winning the Race for Jobs  
 第12回 教育3：Canada Beckons Foreign Students  
 第13回 社会3：Bangladesh's Creeping Islamism  
 第14回 科学1：Growing Tranplantable Organs for People in Animals  
 第15回 後半の復習：語彙の総復習および各種問題による小テスト

### 成績評価の方法

各回の要約完成（30%）と前後半の復習小テスト（70%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

予習して授業に臨むこと。所要時間は45～60分。

### 教科書

Takahashi, et al, *English through the News Media: 2018 Edition* (Asahi Press, 2018, ISBN : 978-4-255-15624-8 C1082)

### 参考ホームページ

<http://text.asahipress.com/free/english/>(教科書掲載の記事の音声無料配信)

15311

## 時事英語講読 B-b

担当教員：宮下 雅年

1 単位 後期

### サブタイトル

新聞記事でさらに英語力をつける

### 授業のねらい

最近報じられた国内外のさまざまな分野のニュース記事(500語程度)を素材に、読み、聞き、話し、書くの練習を通じて英語の運用能力を高める。

### 到達目標

1. 英字新聞に慣れ親しむ。
2. 各種の exercises を通じて英語の基礎力が高まる。
3. トピックに関連した語彙をより多く習得できる。
4. 記事を簡単な言葉で要約できる。

### 授業方法

毎回の授業の手順は次のとおりである。

1. 記事を通読する。
2. 大事な語句を説明し、理解を深める。
3. 音声で確認する。
4. 理解度をチェックする。
5. 要約を完成し、発表する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：最近の新聞記事から  
 第2回 スポーツ1：Sumo  
 第3回 政治1：How to Listen to Trump Every Day  
 第4回 政治2：Cuba  
 第5回 文化1：Nobel Prize  
 第6回 政治3：Brexit  
 第7回 前半の復習：語彙の総復習および各種形式による小テスト  
 第8回 社会1：the Chaebol of South Korea  
 第9回 政治4：Why 'Sorry' Is So Hard to Say  
 第10回 政治5：EU  
 第11回 社会2：Migrants and Refugees  
 第12回 社会3：Religions and Foods  
 第13回 科学1：the Potential of Ailien Life  
 第14回 スポーツ2：Mao Asada  
 第15回 後半の復習：語彙の総復習および各種形式による小テスト

### 成績評価の方法

各回の要約完成（30%）と前後半の復習小テスト（70%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

予習して授業に臨むこと。その所要時間は45～60分程度。

### 教科書

Takahashi, et al, *English through the News Media: 2018 Edition* (Asahi Press, 2018, ISBN : 978-4-255-15624-8)

### 教科書・参考書に関する備考

後期のみ履修しようとしている方も4月中に上記教科書を購入しておくことを勧めます。

### 参考ホームページ

<http://text.asahipress.com/free/english/>(教科書掲載の記事の音声無料配信)



15321

## 英語学講読 a

担当教員：大野 公裕

1 単位 前期

### サブタイトル

動物のことばと思考を探る

### 授業のねらい

記述や論説を主体とした文章を読み、書かれてある内容をできるだけ正確に理解する練習を通じて、読解力を高めることがねらいです。文章が長く、複雑になってくると文法の知識が大事になってきますので、(慣れるまでは) 文法を意識しながら読むことが必要です。

### 到達目標

英文の内容を正確に読み取ることができる。

### 授業方法

授業は、テキストの中でポイントとなる箇所をピック・アップし、正しく理解しているかを確認しながら進めます。リーディングのかなめとなる語彙に関しては、英和辞典での記述が不十分、不正確な箇所について、英英辞典における記述を随時紹介し、正しい理解を促します。

また、2 回の授業に 1 回くらいの割合で、語彙とテキストの内容に関する「まとめの課題」を提出してもらいます。

### 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 Can Amimals Think?(1)--Introduction
- 第 3 回 Can Amimals Think?(2)--動物のことばと人間のことば
- 第 4 回 Can Amimals Think?(3)--動物の言語実験の歴史
- 第 5 回 Can Amimals Think?(4)--カンジ登場
- 第 6 回 Can Amimals Think?(5)--カンジの言語能力
- 第 7 回 Can Amimals Think?(6)--カンジとアリアの言語実験
- 第 8 回 Can Amimals Think?(7)--イルカと人のコミュニケーション
- 第 9 回 Can Amimals Think?(8)--イルカの認知能力
- 第10回 Can Amimals Think?(9)--オオムは本当に話しているのか？
- 第11回 Can Amimals Think?(10)--アシカの論理的思考
- 第12回 Can Amimals Think?(11)--道具の使用と知能の関係
- 第13回 Can Amimals Think?(12)--知能の進化
- 第14回 Can Amimals Think?(13)--ヒトはなぜことばを持ったか？
- 第15回 Can Amimals Think?(14)--動物と人間の今後

### 成績評価の方法

授業での発表 (10%)、「まとめの課題」(40%) および期末テスト (50%) の結果を総合して判断します。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリント使用

15331

## 英語学講読 b

担当教員：大野 公裕

1 単位 後期

### サブタイトル

ことばの不思議

### 授業のねらい

記述や論説を主体とした文章を読み、書かれてある内容をできるだけ正確に理解する練習を通じて、読解力を高めることがねらいです。文章が長く、複雑になってくると文法の知識が大事になってきますので、(慣れるまでは) 文法を意識しながら読むことが必要です。

### 到達目標

英文の内容を正確に読み取ることができる。

### 授業方法

授業は、テキストの中でポイントとなる箇所をピック・アップし、正しく理解しているかを確認しながら進めます。リーディングのかなめとなる語彙に関しては、英和辞典での記述が不十分、不正確な箇所について、英英辞典における記述を随時紹介し、正しい理解を促します。

また、2 回の授業に 1 回くらいの割合で、語彙とテキストの内容に関する「まとめの課題」を提出してもらいます。

### 授業計画

- 第 1 回 Chimp Talk Debate: Is It Really Language? (1)
- 第 2 回 Chimp Talk Debate: Is It Really Language? (2)
- 第 3 回 Chimp Talk Debate: Is It Really Language? (3)
- 第 4 回 Chimp Talk Debate: Is It Really Language? (4)
- 第 5 回 Chimp Talk Debate: Is It Really Language? (5)
- 第 6 回 Linguists Debate Study Classifying Lnguage as Innate Human Skill (1)
- 第 7 回 Linguists Debate Study Classifying Lnguage as Innate Human Skill (2)
- 第 8 回 Linguists Debate Study Classifying Lnguage as Innate Human Skill (3)
- 第 9 回 Linguists Debate Study Classifying Lnguage as Innate Human Skill (4)
- 第10回 Babies Learn Sounds of Language by Six Months (1)
- 第11回 Babies Learn Sounds of Language by Six Months (2)
- 第12回 Babies Learn Sounds of Language by Six Months (3)
- 第13回 Researchers Say Gene Is Linked to Language (1)
- 第14回 Researchers Say Gene Is Linked to Language (2)
- 第15回 Researchers Say Gene Is Linked to Language (3)

### 成績評価の方法

授業での発表 (10%)、「まとめの課題」(40%) および期末テスト (50%) の結果を総合して判断します。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリント使用



15341

## コミュニケーション講読 a

担当教員：高橋 博

1 単位 前期

## サブタイトル

Intercultural Communication 入門 ～異文化間コミュニケーションを学問しよう

## 授業のねらい

この授業では、intercultural communication に関するテキストを読み進めながら、文化的背景の異なる人々の間で起こるコミュニケーション上の様々な問題を考え、自分自身の経験に照らし合わせて、さらに一般的な意味でのより良い対人コミュニケーションとはどのようなものかを、文化人類学など学問的な知見からヒントを得ながら考察していきます。

## 到達目標

1. よりアカデミックなリーディングへの橋渡しとして、肩の凝らない文体で書かれた一般向けのテキストを大意を掴みながら的確に読めるようになる。
2. テキストの内容や主張を鵜呑みにせず、適切な根拠や裏付けがあるかどうかを問いかけながら考える「批判的リーディング (critical reading)」の基礎を身につけることができる。
3. テキストで学んだ概念や考え方を、自分自身の経験や知識と関連付けて理解し応用できる。
4. テキストで理解した内容を、自分の言葉で要約し、簡潔に順序立てて他の人に効果的に説明できるようになる。
5. 自分で考えたインタビューの質問への回答を分析し、テキストで学んだことを基に独自の発見をすることができる。

## 授業方法

- ・基本的に2回の授業で1ユニットを読み進めていきます。
- ・扱うユニットの内容について予め事前に要約してもらい、授業内で内容の骨子を共有し理解を深め、扱われている概念や考え方についてのそれぞれの意見や見方を述べながらディスカッションしたり、関連するマテリアル(映画、ドラマ、トーク、ニュース記事などを含む)を通して、多角的な視点からテキストの内容を見直す(revisit, re-vision)作業を行います。
- ・事前課題として課題となるユニットの main ideas の要約を行い、クラスでのディスカッションを経て、事後課題として感想を簡単な英文(1パラグラフ程度)で提出してもらいます。
- ・テキストの応用として、実際に海外から来た人へのインタビューを行う「フィールドワーク」を実施します。グループ毎にインタビューの結果をまとめ、最後に回答データから得られた発見(findings)についてグループ・プレゼンテーションとして発表します。
- ・期末課題では、リーディングから学んだ概念を応用して日常的な場面での異文化体験を分析したレポート(200~400 words)を英文で提出してもらいます。  
<課題へのフィードバック>
- ・小クイズ・テストについては、授業時間中の自己採点と質疑応答が主となります。
- ・提出してもらう英文の感想には簡単なコメントをオンラインで閲覧できるようにします。
- ・レポート等の提出物に対しては、提出後2週間以内にコメントを添えて返却します。

## 授業計画

- 第1回 Introduction, meeting classmates, explanation of syllabus and class system, ice-breaking activities
- 第2回 Unit 1: Intercultural Communication in Today's World (1)
- 第3回 Unit 1: Intercultural Communication in Today's World (2)
- 第4回 Unit 2: English for Intercultural Communication (1)

- 第5回 Unit 2: English for Intercultural Communication (2)
- 第6回 Unit 3: Important Features of Human Communication (1)
- 第7回 Unit 3: Important Features of Human Communication (2)
- 第8回 Unit 4: The Concept of Culture (1)
- 第9回 Unit 4: The Concept of Culture (2)
- 第10回 Intercultural Communication Fieldwork (1) - Forming Groups, Brainstorming
- 第11回 Intercultural Communication Fieldwork (2) - Formulating Questions, Discussing Possible Results
- 第12回 Intercultural Communication Fieldwork (3) - Conducting Actual Interviews
- 第13回 Intercultural Communication Fieldwork (4) - Debriefing & Preparing for Group Presentations
- 第14回 Intercultural Communication Fieldwork (5) - Group Presentations (1)
- 第15回 Intercultural Communication Fieldwork (6) - Group Presentations (2)  
Final Review

## 成績評価の方法

毎回の要約・発表・感想(20%)、小課題・クイズ(15%)、Intercultural Communication Fieldwork(20%)、Group Presentation(20%)、Final Assignment(20%)、Self-Assessment and Reflection(5%)

## 履修にあたっての注意

- ・学生の能動的な参加を前提とした student-centered な授業です。
- ・テキストの内容に縛られることなく、広い視野で自分自身の経験や身の回りの出来事をクリエイティブにとらえ直す姿勢を期待します。
- ・クラスメートと協力し合い、お互いの理解や考察を深め、互いに学び合う姿勢を重視します。
- ・Never underestimate the importance of having fun while learning!

## 教科書

Troy McConachy, 古家聡、櫻井千佳子, *Intercultural Communication for English Language Learners in Japan* (南雲堂, 2016, ISBN: 978-4-523-17846-0)

## 教科書・参考書に関する備考

補助教材を適宜配布します。

15351

## コミュニケーション講読 b

担当教員：新井 良夫

1 単位 後期

### サブタイトル

異文化間コミュニケーションの諸相

### 授業のねらい

この授業は、異文化間コミュニケーションにおける重要概念を学びとることを目的とします。英語や外国語を勉強していると、異なる文化背景を持つ人たちの行動パターンや考え方や日本文化で育った自分との違いに気付くことがあります。その背景を探っていきます。

### 到達目標

英語の読解スキルを高めて、アカデミックなリーディングへの対策にもなるような英語力を養成します。テキストの内容や主張を鵜呑みにせず、適切な根拠や裏付けがあるかを問いかけながら考える「批判的リーディング (critical reading)」の基礎を身につけます。

### 授業方法

授業のテーマとなるテキストを事前に十分に読み込んだ上で、授業に出席することが前提です。主にグループで内容の確認を行います。そのあとに、ディスカッションで、問題点を掘り下げてゆき、概念の把握をめざします。

少なくとも1時間以上の事前学習が必要です。事後学習は、参考書などにあたり自分の意見をまとめて小レポートとして提出してもらいます。

### 授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 Culture and Identity
- 第3回 Hidden Culture
- 第4回 Stereotypes
- 第5回 Words, Words, Words
- 第6回 Communication Without Words
- 第7回 Diversity
- 第8回 Perception
- 第9回 Communication Styles: directness
- 第10回 Communication Styles: use of silence
- 第11回 Communication Styles: high/low context culture
- 第12回 Values
- 第13回 Deep Culture (Beliefs and Values)
- 第14回 Culture Shock
- 第15回 Review

### 成績評価の方法

毎回の小レポート：50%、最終レポート：30%、授業への参加状況：20%により評価します。

### 教科書

初回に指示します。

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は初回に指示します。  
参考書は随時指示します。

15401

## 文学基礎演習 A-a

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 前期

### サブタイトル

文学・文化研究を始めよう

### 授業のねらい

アメリカ文学の短編を読みながら、英語力を鍛え、文学と文化を研究するための基礎的な方法を学んでいきます。外国文学を読む以上、語学力の向上は必須ですが、さらにその国の文化や歴史を知る必要があります。でも知識は知っているだけではなく、どう使うかが大切です。ある知識があると物語の読み方がどう変わるのでしょうか？作品を取り巻く様々な歴史的文化的背景に目を向けながら作品を読んでいきましょう。また作品について積極的にディスカッションをすることで、人前でも緊張せずにしゃべる練習をしましょう。

### 到達目標

1. 英語で書かれた原書を読むことができる。
2. 文学・文化研究をするうえで基本的な方法を学び、理解し、実際に使うことができる。
3. 英語の注釈を参考にできる。
4. 自分の研究内容を言葉で表現し、他人と議論することができる。
5. 自分の読みにもとづいた解釈を、形式に従ってレポートにすることが出来る。

### 授業方法

授業前には必ず辞書を使いながら予定箇所を読んでおいてください。また自分で気になった箇所に関してはメモをとっておくこと。授業では予習をしているという前提で以下のように進めていきます。

1. 細かな意味を確認するため訳読で進めていきます。
2. 予習は1回の授業につき1～2時間程度かかることを想定していますが、人によってはそれ以上かかることも十分にあり得ます。
3. 英語の意味が確認できた後、議論します。
4. 文学・文化研究の基本的なアプローチなどを適時説明します。
5. 学期に読んだ作品に関するレポートを複数回提出してもらいます。レポートはコメントをつけて返却し、場合によってはリライトし再提出してもらいます。

### 授業計画

- |      |                         |                          |
|------|-------------------------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | 授業の進め方、辞書の使い方            |
| 第2回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 1 |
| 第3回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 2 |
| 第4回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 3 |
| 第5回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 4 |
| 第6回  |                         | レポートの書き方、研究倫理            |
| 第7回  | 黒人奴隷制について、映画『それでも夜は明ける』 | 1                        |
| 第8回  | 映画『それでも夜は明ける』           | 2                        |
| 第9回  | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 1       |
| 第10回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 2       |
| 第11回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 3       |
| 第12回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 4       |
| 第13回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 5       |
| 第14回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 6       |
| 第15回 |                         | まとめ                      |

### 成績評価の方法

1. 到達目標1、2、3、4を測定する平常評価 30%
2. 到達目標5を測定するレポート 70%

### 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性があります。
- ・履修希望者は初回授業に出席してください。
- ・初回を含め毎回辞書を持参してください。
- ・英語は難しいかもしれませんが、必ず予定の範囲を読んで授業に出席してください。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合があります。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席を求めます。やむを得ず欠席する場合は事前事後に連絡すること。
- ・一回のレポートは日本語 1000～3000 字程度の予定です。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処します。

### 教科書

なし

2017年度以前入学生  
専攻 英語  
専攻 文学  
専攻 化学  
専攻 物理  
専攻 生物  
専攻 地学  
専攻 工学  
専攻 農学  
専攻 医学  
専攻 法学  
専攻 経済学  
専攻 社会学  
専攻 心理学  
専攻 教育学  
専攻 芸術学  
専攻 国際学  
専攻 環境学  
専攻 健康学  
専攻 福祉学  
専攻 情報学  
専攻 工学  
専攻 農学  
専攻 医学  
専攻 法学  
専攻 経済学  
専攻 社会学  
専攻 心理学  
専攻 教育学  
専攻 芸術学  
専攻 国際学  
専攻 環境学  
専攻 健康学  
専攻 福祉学  
専攻 情報学

15411

## 文学基礎演習 A-b

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 後期

### サブタイトル

文学・文化研究を始めよう

### 授業のねらい

アメリカ文学の短編を読みながら、英語力を鍛え、文学と文化を研究するための基礎的な方法を学んでいきます。外国文学を読む以上、語学力の向上は必須ですが、さらにその国の文化や歴史を知る必要があります。でも知識は知っているだけではなく、どう使うかが大切です。ある知識があると物語の読み方がどう変わるのでしょうか？作品を取り巻く様々な歴史的文化的背景に目を向けながら作品を読んでいきましょう。また作品について積極的にディスカッションをすることで、人前でも緊張せずにしゃべる練習をしましょう。

### 到達目標

1. 英語で書かれた原書を読むことができる。
2. 文学・文化研究をするうえで基本的な方法を学び、理解し、実際に使うことができる。
3. 英語の注釈を参考にできる。
4. 自分の研究内容を言葉で表現し、他人と議論することができる。
5. 自分の読みにもとづいた解釈を、形式に従ってレポートにすることが出来る。

### 授業方法

授業前には必ず辞書を使いながら予定箇所を読んでおいてください。また自分で気になった箇所に関してはメモをとっておくこと。授業では予習をしているという前提で以下のように進めていきます。

1. 細かな意味を確認するため訳読で進めていきます。
2. 予習は1回の授業につき1～2時間程度かかることを想定していますが、人によってはそれ以上かかることも十分にあり得ます。
3. 英語の意味が確認できた後、議論します。
4. 文学・文化研究の基本的なアプローチなどを適時説明します。
5. 学期に読んだ作品に関するレポートを複数回提出してもらいます。レポートはコメントをつけて返却し、場合によってはライトし再提出してもらいます。

### 授業計画

- |      |                         |                          |
|------|-------------------------|--------------------------|
| 第1回  | イントロダクション               | 授業の進め方、辞書の使い方            |
| 第2回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 1 |
| 第3回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 2 |
| 第4回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 3 |
| 第5回  | Kate Chopin             | “The Story of an Hour” 4 |
| 第6回  |                         | レポートの書き方、研究倫理            |
| 第7回  | 黒人奴隷制について、映画『それでも夜は明ける』 | 1                        |
| 第8回  | 映画『それでも夜は明ける』           | 2                        |
| 第9回  | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 1       |
| 第10回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 2       |
| 第11回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 3       |
| 第12回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 4       |
| 第13回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 5       |
| 第14回 | Kate Chopin             | “Desirée's Baby” 6       |
| 第15回 |                         | まとめ                      |

### 成績評価の方法

1. 到達目標1、2、3、4を測定する平常評価 30%
2. 到達目標5を測定するレポート 70%

### 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性があります。
- ・履修希望者は初回授業に出席してください。
- ・初回を含め毎回辞書を持参してください。
- ・英語は難しいかもしれませんが、必ず予定の範囲を読んで授業に出席してください。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合があります。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席を求めます。やむを得ず欠席する場合は事前事後に連絡すること。
- ・一回のレポートは日本語 1000～3000 字程度の予定です。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処します。

### 教科書

なし



15441

## 文学基礎演習 C-a

担当教員：木村 信一

2 単位 前期

## サブタイトル

レイモンド・カーヴァーの「大聖堂」を中心に読む。

## 授業のねらい

1970年代、80年代のアメリカを代表する短編小説家であるレイモンド・カーヴァーの作品を、「大聖堂」を中心に読みます。村上春樹が全作品を翻訳して以来、日本でも読まれるようになりましたが、カーヴァーの日本における知名度は高くありません。中流の人びとの日常が淡々と描かれますが、生活のなかで起きるちょっとした出来事に関わって、個としてのあり方をめぐる倫理的な問いが等身大で語られてゆきます。

英文読解のスキルを身につけると同時に、小説にたいするアプローチの基本を学ぶ機会とします。

## 到達目標

- 1 構文理解、文脈把握の基本的なスキルを修得します。
- 2 小説技法についてのベシクなスキルを身につけると同時に、小説の読み方、論じ方について考えます。

## 授業方法

カーヴァーの代表作である「大聖堂」を中心に読みます。「大聖堂」は、生まれて初めて盲人を自宅に迎え入れ、盲人と一晚を過ごすことになった語り手＝主人公の大いなる戸惑いから始まって、両者の間に意想外の交流が生まれる過程が、人とその人自身の身体との私的な関係に沿って、綿密に語られてゆきます。

演習の中間部では、テーマが関連するカーヴァーの他の短編のテキストを拾い読みしながら、ディスカッションをします。

訳読を中心に、その都度、疑問の点について意見交換を交えながら、進めます。

受講前には、必ず、英語テキストの該当箇所を読み込むことが求められます。

## 授業計画

- 第1回 はじめに—授業計画について（研究倫理についての指導を含む）
- 第2回 レイモンド・カーヴァーについて
- 第3回 「大聖堂」1
- 第4回 「大聖堂」2
- 第5回 「大聖堂」3
- 第6回 「大聖堂」4
- 第7回 「大聖堂」5
- 第8回 「大聖堂」6
- 第9回 「大聖堂」7
- 第10回 「大聖堂」8
- 第11回 ディスカッション（関連作品を読む）1
- 第12回 ディスカッション（関連作品を読む）2
- 第13回 ディスカッション（関連作品を読む）3
- 第14回 ディスカッション（関連作品を読む）4
- 第15回 まとめ（レポート課題）

## 成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を8割、ディスカッション等の授業への貢献度を2割で評価します。

## 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。

## 教科書

Raymond Carver, *Where I'm Calling From* (Vintage, 1989, ISBN: 0-679-75531-9)

15451

## 文学基礎演習 C-b

担当教員：木村 信一

2 単位 後期

## サブタイトル

レイモンド・カーヴァーの「大聖堂」を中心に読む。

## 授業のねらい

1970年代、80年代のアメリカを代表する短編小説家であるレイモンド・カーヴァーの作品を、「大聖堂」を中心に読みます。村上春樹が全作品を翻訳して以来、日本でも読まれるようになりましたが、カーヴァーの日本における知名度は高くありません。中流の人びとの日常が淡々と描かれますが、生活のなかで起きるちょっとした出来事に関わって、個としてのあり方をめぐる倫理的な問いが等身大で語られてゆきます。

英文読解のスキルを身につけると同時に、小説にたいするアプローチの基本を学ぶ機会とします。

## 到達目標

- 1 構文理解、文脈把握の基本的なスキルを修得します。
- 2 小説技法についてのベシクなスキルを身につけると同時に、小説の読み方、論じ方について考えます。

## 授業方法

カーヴァーの代表作である「大聖堂」を中心に読みます。「大聖堂」は、生まれて初めて盲人を自宅に迎え入れ、盲人と一晚を過ごすことになった語り手＝主人公の大いなる戸惑いから始まって、両者の間に意想外の交流が生まれる過程が、人とその人自身の身体との私的な関係に沿って、綿密に語られてゆきます。

演習の中間部では、テーマが関連するカーヴァーの他の短編のテキストを拾い読みしながら、ディスカッションをします。

訳読を中心に、その都度、疑問の点について意見交換を交えながら、進めます。

受講前には、必ず、英語テキストの該当箇所を読み込むことが求められます。

## 授業計画

- 第1回 はじめに—授業計画について（研究倫理についての指導を含む）
- 第2回 レイモンド・カーヴァーについて
- 第3回 「大聖堂」1
- 第4回 「大聖堂」2
- 第5回 「大聖堂」3
- 第6回 「大聖堂」4
- 第7回 「大聖堂」5
- 第8回 「大聖堂」6
- 第9回 「大聖堂」7
- 第10回 「大聖堂」8
- 第11回 ディスカッション（関連作品を読む）1
- 第12回 ディスカッション（関連作品を読む）2
- 第13回 ディスカッション（関連作品を読む）3
- 第14回 ディスカッション（関連作品を読む）4
- 第15回 まとめ（レポート課題）

## 成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を8割、ディスカッション等の授業への貢献度を2割で評価します。

## 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。  
文学基礎演習 C-a をすでに受講した人は、この授業 (C-b) を受講することはできません。

## 教科書

Raymond Carver, *Where I'm Calling From* (Vintage, 1989, ISBN: 0-679-75531-9)



15601

## 文学基礎演習 D-a

担当教員：Redlich, Jeremy

2 単位 前期

### サブタイトル

Crime, guilt and justice in post-war European literature and film

### 授業のねらい

This course explores some key issues represented in European literary and cultural production of the post-war period, such as: coming to terms with the trauma of war and genocide, the generational conflict between parents and children after the war, and the significance of legal trials and justice for understanding the holocaust. This course will focus primarily on the political, cultural and social post-war development of central Europe, and consider how literature and film engage with the past in order to better understand the present. We will look at the novel 'The Reader' by Bernhard Schlink and its film adaptation, the drama 'The Visit' by Friedrich Dürrenmatt, as well as essays by Primo Levi and Theodor Adorno, to better understand how issues of justice and 'coming to terms with the past' were confronted in post-war Europe.

### 到達目標

By the end of the course, students should:

(1) Have a survey knowledge of how some post-war European literature and film dealt with key issues facing several European societies, such as guilt, justice and responsibility, (2) Have practice discussing and writing in English on the texts and film dealt with in class

### 授業方法

This course is designed to provide students the opportunity to analytically discuss and write about (in English) texts and film that represent an attempt in post-war cultural production to engage and deal with the trauma of the Second World War, questions of guilt and memory, and the generational conflict that developed in post-war years. The instructor will (1) provide some of the necessary background for gaining a deeper and broader insight into the literature and film, (2) serve as a facilitator for the partner and group discussions which take place during each class. At the end of the semester, students will have a better grasp of some of the literary and cultural production of the period and the context of their creation, and they will also have more confidence in communicating their thoughts and opinions on these topics from our in-class discussions.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to post-war Germany: Politics, Culture, Society  
Read Theodor Adorno's "What does coming to terms with the past mean?"
- 第2回 Discussing "Coming to terms with the past": Guilt, responsibility and collectivity. Read the assigned excerpt from Schlink's 'The Reader'
- 第3回 Guilt, Crime and Justice in post-war Germany: Schlink's 'The Reader'. Read the assigned passage from 'The Reader'
- 第4回 Guilt, Crime and Justice in post-war Germany: Schlink's 'The Reader'. Read the assigned passage from The Reader and write a response paper
- 第5回 Discussion of response papers
- 第6回 Wrap up of 'The Reader' novel and film. Read the assigned passage from Primo Levi's "The Grey Zone"
- 第7回 Examining the border between perpetrator and

- 第8回 victim: Primo Levi's "The Grey Zone"  
Final Discussion of Primo Levi's "The Grey Zone".  
Review for mid-term examination
- 第9回 Mid-term examination. Read assigned passage from Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'
- 第10回 Justice or vengeance? Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'. Read assigned passage from 'The Visit'
- 第11回 Justice or vengeance? Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'. Write reflection paper for next class
- 第12回 Discussion on reflection papers and final discussion of 'The Visit'. Read assigned passage from 'The investigation' by Peter Weiss
- 第13回 Literature on trial: Peter Weiss' docu-drama 'The Investigation'. Read assigned passage of 'The Investigation'
- 第14回 Literature on trial: Peter Weiss' docu-drama 'The Investigation'. Read assigned passage of 'The Investigation'
- 第15回 Wrap-up and review of course themes, texts and discussions

### 成績評価の方法

Students will be evaluated for their participation and preparation (40%), short written reflections (15%), a mid-term exam (20%) and a final examination (25%)

### 履修にあたっての注意

The course lectures, readings and discussions will all be conducted in English. Students are strongly encouraged to use English as much as possible during pair and small group discussions.

### 教科書

Bernhard Schlink, *The Reader* (Weidenfeld &, 2017, ISBN : 978-1474603430)

### 参考書

Friedrich Dürrenmatt, *The Visit* (Grove Press, 2010, ISBN : 978-0802144263)

## サブタイトル

Crime, guilt and justice in post-war European literature and film

## 授業のねらい

This course explores some key issues represented in European literary and cultural production of the post-war period, such as: coming to terms with the trauma of war and genocide, the generational conflict between parents and children after the war, and the significance of legal trials and justice for understanding the holocaust. This course will focus primarily on the political, cultural and social post-war development of central Europe, and consider how literature and film engage with the past in order to better understand the present. We will look at the novel 'The Reader' by Bernhard Schlink and its film adaptation, the drama 'The Visit' by Friedrich Dürrenmatt, as well as essays by Primo Levi and Theodor Adorno, to better understand how issues of justice and 'coming to terms with the past' were confronted in post-war Europe.

## 到達目標

By the end of the course, students should:

(1) Have a survey knowledge of how some post-war European literature and film dealt with key issues facing several European societies, such as guilt, justice and responsibility, (2) Have practice discussing and writing in English on the texts and film dealt with in class

## 授業方法

This course is designed to provide students the opportunity to analytically discuss and write about (in English) texts and film that represent an attempt in post-war cultural production to engage and deal with the trauma of the Second World War, questions of guilt and memory, and the generational conflict that developed in post-war years. The instructor will (1) provide some of the necessary background for gaining a deeper and broader insight into the literature and film, (2) serve as a facilitator for the partner and group discussions which take place during each class. At the end of the semester, students will have a better grasp of some of the literary and cultural production of the period and the context of their creation, and they will also have more confidence in communicating their thoughts and opinions on these topics from our in-class discussions.

## 授業計画

- 第1回 Introduction to post-war Germany: Politics, Culture, Society  
Read Theodor Adorno's "What does coming to terms with the past mean?"
- 第2回 Discussing "Coming to terms with the past": Guilt, responsibility and collectivity. Read the assigned excerpt from Schlink's 'The Reader'
- 第3回 Guilt, Crime and Justice in post-war Germany: Schlink's 'The Reader'. Read the assigned passage from 'The Reader'
- 第4回 Guilt, Crime and Justice in post-war Germany: Schlink's 'The Reader'. Read the assigned passage from The Reader and write a response paper
- 第5回 Discussion of response papers
- 第6回 Wrap up of 'The Reader' novel and film. Read the assigned passage from Primo Levi's "The Grey Zone"
- 第7回 Examining the border between perpetrator and

- victim: Primo Levi's "The Grey Zone"
- 第8回 Final Discussion of Primo Levi's "The Grey Zone". Review for mid-term examination
- 第9回 Mid-term examination. Read assigned passage from Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'
- 第10回 Justice or vengeance? Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'. Read assigned passage from 'The Visit'
- 第11回 Justice or vengeance? Friedrich Dürrenmatt's 'The Visit'. Write reflection paper for next class
- 第12回 Discussion on reflection papers and final discussion of 'The Visit'. Read assigned passage from 'The investigation' by Peter Weiss
- 第13回 Literature on trial: Peter Weiss' docu-drama 'The Investigation'. Read assigned passage of 'The Investigation'
- 第14回 Literature on trial: Peter Weiss' docu-drama 'The Investigation'. Read assigned passage of 'The Investigation'
- 第15回 Wrap-up and review of course themes, texts and discussions

## 成績評価の方法

Students will be evaluated for their participation and preparation (40%), short written reflections (15%), a mid-term exam (20%) and a final examination (25%)

## 履修にあたっての注意

The course lectures, readings and discussions will all be conducted in English. Students are strongly encouraged to use English as much as possible during pair and small group discussions.

## 教科書

Bernhard Schlink, *The Reader* (Weidenfeld &, 2017, ISBN : 978-1474603430)

## 参考書

Friedrich Dürrenmatt, *The Visit* (Grove Press, 2010, ISBN : 978-0802144263)

15461

## 英語学基礎演習 A-a

担当教員：對馬 康博

2 単位 前期

## サブタイトル

認知言語学への招待 2018

## 授業のねらい

人間の知覚現象（認識）は人間が用いる言語現象（言葉）と深く結びついている。この授業では、こうした言語観を基本理念として掲げる「認知言語学（Cognitive Linguistics）」という言語理論のうち、「認知意味論（Cognitive Semantics）」という分野から、比喩（メタファー（隠喩）やメトニミー（換喩））に焦点を当てて、思考と言語の関係性について考察を深めていく。具体的な素材として、メタファーをテーマとして扱った古典的作品

Lakoff and Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. の日本語訳付き版の中から数章を取り上げる。この作品では、メタファーは文学的レトリック（言葉の綾）のためだけに存在するのではなく、人間のあらゆる思考体系と結びついており、我々の日常生活で用いる言葉の中にあふれていることが示されている。

## 到達目標

1. 認知言語学（Cognitive Linguistics）の基本理念の理解。
2. 言語学の基本文献の解釈法（客観的読解 + 批判的思考）の習得。
3. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力の涵養。

## 授業方法

演習による。ただし、一部、講師の解説による。

受講者による主体的なプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションを中心とする。受講者には、クラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求される。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して1.5～2時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えようよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内で、もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

第1回 オリエンテーション

なお、第2回以降のChapterはテキストの章番号に対応する。

第2回 Chapter 1 Concepts We Live By (1)

第3回 Chapter 1 Concepts We Live By (2)

第4回 Chapter 2 The Systematicity of Metaphorical Concepts

第5回 Chapter 3 Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding

第6回 Chapter 4 Orientational Metaphors (1)

第7回 Chapter 4 Orientational Metaphors (2)

第8回 Chapter 4 Orientational Metaphors (3)

第9回 Chapter 6 Ontological Metaphors (1)

第10回 Chapter 6 Ontological Metaphors (2)

第11回 Chapter 6 Ontological Metaphors (3)

第12回 Chapter 7 Personification

第13回 Chapter 8 Metonymy (1)

第14回 Chapter 8 Metonymy (2)

第15回 Chapter 8 Metonymy (3)+レヴュー

## 成績評価の方法

- ・平常点（授業への参加状況）60%
- ・レポート40%

なお、提出された課題に剽窃（Plagiarism）が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。さらに、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。また、この授業では、受講者にクラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求されるので、受動的な参加者には単位が付与されない。

## 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・この授業の履修によって単位を取得した者は後期開講の「英語学基礎演習 A-b」を履修することはできない。

## 教科書

Lakoff, George and Mark Johnson 『Metaphors We Live By (メタファーに満ちた日常世界)』(松柏社、2013、ISBN: 9784881986790)

## 教科書・参考書に関する備考

その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

辻幸夫（編）『新編 認知言語学キーワード事典』（研究社、2013、ISBN: 9784767434766）

佐藤信夫『レトリック感覚』（講談社、1992、ISBN: 9784061590298）

佐藤信夫『レトリックの記号論』（講談社、1993、ISBN: 9784061590984）

佐藤信夫『レトリック認識』（講談社、1992、ISBN: 9784061590434）

佐藤信夫『レトリックの意味論—意味の弾性』（講談社、1996、ISBN: 9784061592285）

瀬戸賢一『よくわかるメタファー』（筑摩書房、2017、ISBN: 9784480098054）

瀬戸賢一『メタファー思考』（講談社、1995、ISBN: 9784061492479）

瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知意味論』（大修館書店、2017、ISBN: 9784469213638）

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』（ひつじ書房、2006、ISBN: 9784894762824）

吉村公宏『はじめての認知言語学』（研究社、2004、ISBN: 9784327421656）

15471

## 英語学基礎演習 A-b

担当教員：對馬 康博

2 単位 後期

## サブタイトル

認知言語学への招待 2018

## 授業のねらい

人間の知覚現象（認識）は人間が用いる言語現象（言葉）と深く結びついている。この授業では、こうした言語観を基本理念として掲げる「認知言語学（Cognitive Linguistics）」という言語理論のうち、「認知意味論（Cognitive Semantics）」という分野から、比喩（メタファー（隠喩）やメトニミー（換喩））に焦点を当てて、思考と言語の関係性について考察を深めていく。具体的な素材として、メタファーをテーマとして扱った古典的作品

Lakoff and Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. の日本語訳付き版の中から数章を取り上げる。この作品では、メタファーは文学的レトリック（言葉の綾）のためだけに存在するのではなく、人間のあらゆる思考体系と結びついており、我々の日常生活で用いる言葉の中にあふれていることが示されている。

## 到達目標

1. 認知言語学（Cognitive Linguistics）の基本理念の理解。
2. 言語学の基本文献の解釈法（客観的読解 + 批判的思考）の習得。
3. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力の涵養。

## 授業方法

演習による。ただし、一部、講師の解説による。

受講者による主体的なプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションを中心とする。受講者には、クラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求される。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して1.5～2時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えようよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内で、もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

第1回 オリエンテーション

なお、第2回以降のChapterはテキストの章番号に対応する。

第2回 Chapter 1 Concepts We Live By (1)

第3回 Chapter 1 Concepts We Live By (2)

第4回 Chapter 2 The Systematicity of Metaphorical Concepts

第5回 Chapter 3 Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding

第6回 Chapter 4 Orientational Metaphors (1)

第7回 Chapter 4 Orientational Metaphors (2)

第8回 Chapter 4 Orientational Metaphors (3)

第9回 Chapter 6 Ontological Metaphors (1)

第10回 Chapter 6 Ontological Metaphors (2)

第11回 Chapter 6 Ontological Metaphors (3)

第12回 Chapter 7 Personification

第13回 Chapter 8 Metonymy (1)

第14回 Chapter 8 Metonymy (2)

第15回 Chapter 8 Metonymy (3)+レヴュー

## 成績評価の方法

- ・平常点（授業への参加状況）60%
- ・レポート40%

なお、提出された課題に剽窃（Plagiarism）が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。さらに、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。また、この授業では、受講者にクラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求されるので、受動的な参加者には単位が付与されない。

## 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・前期開講の「英語学基礎演習 A-a」の履修によって単位を取得した者はこの授業を履修することはできない。

## 教科書

Lakoff, George and Mark Johnson 『Metaphors We Live By (メタファーに満ちた日常世界)』(松柏社、2013、ISBN: 9784881986790)

## 教科書・参考書に関する備考

その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

辻幸夫（編）『新編 認知言語学キーワード事典』(研究社、2013、ISBN: 9784767434766)

佐藤信夫『レトリック感覚』(講談社、1992、ISBN: 9784061590298)

佐藤信夫『レトリックの記号論』(講談社、1993、ISBN: 9784061590984)

佐藤信夫『レトリック認識』(講談社、1992、ISBN: 9784061590434)

佐藤信夫『レトリックの意味論—意味の弾性』(講談社、1996、ISBN: 9784061592285)

瀬戸賢一『よくわかるメタファー』(筑摩書房、2017、ISBN: 9784480098054)

瀬戸賢一『メタファー思考』(講談社、1995、ISBN: 9784061492479)

瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知意味論』(大修館書店、2017、ISBN: 9784469213638)

谷口一美『学びのエクササイズ 認知言語学』(ひつじ書房、2006、ISBN: 9784894762824)

吉村公宏『はじめての認知言語学』(研究社、2004、ISBN: 9784327421656)



15501

## 言語学基礎演習 a

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 前期

### サブタイトル

ことばについて考える

### 授業のねらい

ことばに関する様々な問題について皆で考え、話し合い、その答えを探っていきます。授業は学期を通して大きく三つの部分に分かれます。

- ・第一部：ことばに関する一般的な問題について考える（例：人間の赤ちゃんはどのようにことばを身につけるのか。人間のことばは動物の使う「ことば」とどのように違っているのか。外国語を学ぶとき、母語の知識がどのように影響を及ぼすのか。）
- ・第二部：語（word）の構造・形成について考える（世界の言語のデータ分析が中心）
- ・第三部：英語から日本語への翻訳について考える（翻訳の理論と実践の基礎について学ぶ）

### 到達目標

ことばについての関心を高める。ことばの面白い現象について説明ができるようになる。

### 授業方法

第一部では、ことばに関するトピックを扱った読み物についてディスカッションを行いながら、理解を深めていく。

第二部では、言語のデータ分析が中心となり、学生は授業内で発表を担当する予定。

第三部では、翻訳の理論の概要を学んだ後、アメリカの映画・テレビドラマから題材を1つ選び、受講者全員で日本語字幕について考える。

大学の授業でのノートの取り方や言語学のレポートの書き方について基本的な指導も行う。

毎回の授業を受けるにあたり、reading、データ分析の問題等の宿題が課される（事前事後準備時間 60 分程度）。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学の授業でのノートの取り方、身のまわりのことば
- 第3回 子どもの母語獲得、動物の「コミュニケーション」
- 第4回 日本語について考える、第二言語習得
- 第5回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(1)
- 第6回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(2)
- 第7回 世界の言語のデータ分析（初級）
- 第8回 世界の言語のデータ分析（中級）
- 第9回 翻訳理論について学ぶ
- 第10回 役割語(1)
- 第11回 役割語(2)
- 第12回 翻訳の実践(1)
- 第13回 翻訳の実践(2)
- 第14回 翻訳の実践(3)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、課題（40%）、期末試験（30%）

### 履修にあたっての注意

- (1) 全員が活発に参加できる少人数でのゼミを目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
- (2) 欠席は3回までとする。遅刻は2回につき1回の欠席とする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布予定

### 参考書

大津由紀雄『ことばに魅せられて 対話篇』（ひつじ書房、2008、ISBN：978-4894763777）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999、ISBN：978-4327376741）



15511

## 言語学基礎演習 b

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 後期

### サブタイトル

ことばについて考える

### 授業のねらい

ことばに関する様々な問題について皆で考え、話し合い、その答えを探っていきます。授業は学期を通して大きく三つの部分に分かれます。

- ・第一部：ことばに関する一般的な問題について考える（例：人間の赤ちゃんはどのようにことばを身につけるのか。人間のことばは動物の使う「ことば」とどのように違っているのか。外国語を学ぶとき、母語の知識がどのように影響を及ぼすのか。）
- ・第二部：語（word）の構造・形成について考える（世界の言語のデータ分析が中心）
- ・第三部：英語から日本語への翻訳について考える（翻訳の理論と実践の基礎について学ぶ）

### 到達目標

ことばについての関心を高める。ことばの面白い現象について説明ができるようになる。

### 授業方法

第一部では、ことばに関するトピックを扱った読み物についてディスカッションを行いながら、理解を深めていく。

第二部では、言語のデータ分析が中心となり、学生は授業内で発表を担当する予定。

第三部では、翻訳の理論の概要を学んだ後、アメリカの映画・テレビドラマから題材を1つ選び、受講者全員で日本語字幕について考える。

大学の授業でのノートの取り方や言語学のレポートの書き方について基本的な指導も行う。

毎回の授業を受けるにあたり、reading、データ分析の問題等の宿題が課される（事前事後準備時間 60 分程度）。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大学の授業でのノートの取り方、身のまわりのことば
- 第3回 子どもの母語獲得、動物の「コミュニケーション」
- 第4回 日本語について考える、第二言語習得
- 第5回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(1)
- 第6回 語の構造・形成に関する基礎知識について学ぶ(2)
- 第7回 世界の言語のデータ分析（初級）
- 第8回 世界の言語のデータ分析（中級）
- 第9回 翻訳理論について学ぶ
- 第10回 役割語(1)
- 第11回 役割語(2)
- 第12回 翻訳の実践(1)
- 第13回 翻訳の実践(2)
- 第14回 翻訳の実践(3)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、課題（40%）、期末試験（30%）

### 履修にあたっての注意

- (1) 全員が活発に参加できる少人数でのゼミを目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
- (2) 欠席は3回までとする。遅刻は2回につき1回の欠席とする。
- (3) 「言語学基礎演習 a」を履修済みの方は、履修登録することができません。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布予定

### 参考書

大津由紀雄『ことばに魅せられて 対話篇』（ひつじ書房、2008、ISBN：978-4894763777）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999、ISBN：978-4327376741）

2017年度以前入学生  
専 門 文 化 学 科  
英 語 学 科 目 録

15521

## コミュニケーション基礎演習 A-a

担当教員：Mueller, Charles

2単位 前期

### サブタイトル

第二言語習得論

### 授業のねらい

The course will introduce key concepts in SLA related to (1) the role of input, output, and interaction, (2) the typical sequences and character of second language learning, (3) key individual differences such as age and motivation, (4) key psychological mechanisms such as working memory and attention and pedagogical techniques (i. e., Focus on Form) designed to take advantage of these mechanisms, and (5) vocabulary learning.

### 到達目標

By the end of the course, students should understand the role of the four skills (reading, writing, listening and speaking) in second language learning and appreciate the unique contribution that interaction makes to learning. They should understand some key factors that make some language features more difficult to learn and be able to provide examples of acquisition sequences. They should be familiar with key individual differences that make some students more successful learners. They should also understand the role of working memory and attention, and understand some of the key pedagogical implications. Finally, they should be familiar with key issues related to lexical acquisition.

### 授業方法

Following lectures and discussion, students will work individually and in groups as they relate theoretical positions to actual learning and teaching situations. Students should study at least two hours outside of class in preparation for each classroom hour of instruction. Students will receive individual feedback on submitted assignments.

### 授業計画

- 第1回 Overview of SLA
- 第2回 Input
- 第3回 Output
- 第4回 Interaction
- 第5回 Natural orders in second language learning
- 第6回 The Accessibility Hierarchy
- 第7回 The Aspect Hypothesis
- 第8回 Interlanguage
- 第9回 Individual differences related to age
- 第10回 Individual differences related to motivation
- 第11回 Working memory
- 第12回 Attention
- 第13回 Implicit and explicit learning and knowledge
- 第14回 Learning words
- 第15回 Focus on form

### 成績評価の方法

Grading will be based on participation (10% of grade), weekly homework, quizzes, and short projects that target the five learning outcomes (40%), and the final test (50% of grade) covering all course topics. The final exam will assess students' ability to demonstrate the learning outcomes in terms of both theoretical knowledge and integrated and practical real-world problems.

### 教科書

村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』（大修館書店、2006、ISBN：978-4-469-24513-4）

### 参考ホームページ

Course notes <http://secondlanguageacquisition.org/sla.pdf>  
(All lecture notes and explanation of course assignments will be available on the course website.)

15531

## コミュニケーション基礎演習 A-b

担当教員：Mueller, Charles

2単位 後期

### サブタイトル

第二言語習得論

### 授業のねらい

The course will introduce key concepts in SLA related to (1) the role of input, output, and interaction, (2) the typical sequences and character of second language learning, (3) key individual differences such as age and motivation, (4) key psychological mechanisms such as working memory and attention and pedagogical techniques (i. e., Focus on Form) designed to take advantage of these mechanisms, and (5) vocabulary learning.

### 到達目標

By the end of the course, students should understand the role of the four skills (reading, writing, listening and speaking) in second language learning and appreciate the unique contribution that interaction makes to learning. They should understand some key factors that make some language features more difficult to learn and be able to provide examples of acquisition sequences. They should be familiar with key individual differences that make some students more successful learners. They should also understand the role of working memory and attention, and understand some of the key pedagogical implications. Finally, they should be familiar with key issues related to lexical acquisition.

### 授業方法

Following lectures and discussion, students will work individually and in groups as they relate theoretical positions to actual learning and teaching situations. Students should study at least two hours outside of class in preparation for each classroom hour of instruction. Students will receive individual feedback on submitted assignments.

### 授業計画

- 第1回 Overview of SLA
- 第2回 Input
- 第3回 Output
- 第4回 Interaction
- 第5回 Natural orders in second language learning
- 第6回 The Accessibility Hierarchy
- 第7回 The Aspect Hypothesis
- 第8回 Interlanguage
- 第9回 Individual differences related to age
- 第10回 Individual differences related to motivation
- 第11回 Working memory
- 第12回 Attention
- 第13回 Implicit and explicit learning and knowledge
- 第14回 Learning words
- 第15回 Focus on form

### 成績評価の方法

Grading will be based on participation (10% of grade), weekly homework, quizzes, and short projects that target the five learning outcomes (40%), and the final test (50% of grade) covering all course topics. The final exam will assess students' ability to demonstrate the learning outcomes in terms of both theoretical knowledge and integrated and practical real-world problems.

### 教科書

村野井仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』(大修館書店、2006、ISBN : 978-4-469-24513-4)

### 参考ホームページ

Course notes <http://secondlanguageacquisition.org/sla.pdf>  
(All lecture notes and explanation of course assignments will be available on the course website.)

15541

## コミュニケーション基礎演習 B-a

担当教員：井筒 美津子

2 単位 前期

## サブタイトル

語用論・会話分析の基本概念を学ぶ

## 授業のねらい

円滑なコミュニケーションはどのように行われているのだろうか。この授業では、我々は日常生活において伝達手段としての言語をどのように用いているのかについて考える語用論 (pragmatics)・会話分析 (conversation analysis) という言語学の分野について学ぶ。

また、授業で学ぶ基本概念について、発表者はあらかじめ書物を調べ、ハンドアウト作りを行うことを通して、図書館利用の仕方や資料のまとめ方なども併せて学ぶ。

## 到達目標

1. 語用論・会話分析に関する専門知識を身につける。
2. 適切に文献調査を行い、その内容をハンドアウトなどを用いて分かりやすく伝えることが出来る。
3. 言語学に関する専門的な英語のテキストを文法的に正しく読める。
4. 英語の構文に関する基本的な知識を身につける。

## 授業方法

原則として、2週毎に新しい概念を学ぶ。1週目は学生による発表、2週目はその内容についてのテキスト講読を行う。担当者は指定された基本概念について調べ、まとめたものをハンドアウトとして作成し、授業で発表する。英語テキストは、The Study of Language (George Yule) の 12 章・13 章、Discourse (Guy Cook) の 4 章を読む予定。授業の中で、英語テキストを読むのに必要な構文に関する小テストを実施する。

毎回の授業では、英語テキストの予習と構文テストの準備のため事前学習 (1時間程度) が必要である。また、これに加えて、発表の際にはさらに発表のための事前準備 (5～6時間程度) も必要である (各学期一人一回)。質問等には、授業内外問わず、随時応じます。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (「語用論」とは?)
- 第2回 テキスト講読 (invisible meaning)
- 第3回 発表 (コンテキスト、直示)
- 第4回 テキスト講読 (context, deixis)
- 第5回 発表 (指示、照応)
- 第6回 テキスト講読 (reference, anaphora)
- 第7回 発表 (言語行為)
- 第8回 テキスト講読 (speech act)
- 第9回 発表 (ポライトネス)
- 第10回 テキスト講読 (politeness)
- 第11回 発表 (協調の原理)
- 第12回 テキスト講読 (the co-operative principle)
- 第13回 発表 (会話分析、話者交替)
- 第14回 テキスト講読 (Conversation analysis, Turn-taking)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する試験 (50%)、到達目標 2 と 3 を測定する発表点 (20%)、到達目標 4 を測定する小テスト (20%)、授業への参加度 (10%) により評価する。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

・事前学習を必ず行うこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

初回授業時に配布するハンドアウトを参照のこと。

15551

## コミュニケーション基礎演習 B-b

担当教員：井筒 美津子

2 単位 後期

## サブタイトル

語用論・会話分析の基本概念を学ぶ

## 授業のねらい

円滑なコミュニケーションはどのように行われているのだろうか。この授業では、我々は日常生活において伝達手段としての言語をどのように用いているのかについて考える語用論 (pragmatics)・会話分析 (conversation analysis) という言語学の分野について学ぶ。

また、授業で学ぶ基本概念について、発表者はあらかじめ書物を調べ、ハンドアウト作りを行うことを通して、図書館利用の仕方や資料のまとめ方なども併せて学ぶ。

## 到達目標

1. 語用論・会話分析に関する専門知識を身につける。
2. 適切に文献調査を行い、その内容をハンドアウトなどを用いて分かりやすく伝えることが出来る。
3. 言語学に関する専門的な英語のテキストを文法的に正しく読める。
4. 英語の構文に関する基本的な知識を身につける。

## 授業方法

原則として、2週毎に新しい概念を学ぶ。1週目は学生による発表、2週目はその内容についてのテキスト講読を行う。担当者は指定された基本概念について調べ、まとめたものをハンドアウトとして作成し、授業で発表する。英語テキストは、The Study of Language (George Yule) の 12 章・13 章、Discourse (Guy Cook) の 4 章を読む予定。授業の中で、英語テキストを読むのに必要な構文に関する小テストを実施する。

毎回の授業では、英語テキストの予習と構文テストの準備のため事前学習 (1時間程度) が必要である。また、これに加えて、発表の際にはさらに発表のための事前準備 (5～6時間程度) も必要である (各学期一人一回)。質問等には、授業内外問わず、随時応じます。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (「語用論」とは?)
- 第2回 テキスト講読 (invisible meaning)
- 第3回 発表 (コンテキスト、直示)
- 第4回 テキスト講読 (context, deixis)
- 第5回 発表 (指示、照応)
- 第6回 テキスト講読 (reference, anaphora)
- 第7回 発表 (言語行為)
- 第8回 テキスト講読 (speech act)
- 第9回 発表 (ポライトネス)
- 第10回 テキスト講読 (politeness)
- 第11回 発表 (協調の原理)
- 第12回 テキスト講読 (the co-operative principle)
- 第13回 発表 (会話分析、話者交替)
- 第14回 テキスト講読 (Conversation analysis, Turn-taking)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する試験 (50%)、到達目標 2 と 3 を測定する発表点 (20%)、到達目標 4 を測定する小テスト (20%)、授業への参加度 (10%) により評価する。3分の1以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

・事前学習を必ず行うこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

初回授業時に配布するハンドアウトを参照のこと。

15561

## 地域文化基礎演習 A-a

担当教員：大桃 陶子

2 単位 前期

## サブタイトル

「ダウントン・アビー」におけるイギリス階級社会の諸相

## 授業のねらい

1900年代のエドワード朝の英国では、家事奉公は最大規模の職業であり、たとえば女性労働者400万人のうち150万人は使用人であった。このように使用人が労働人口の大多数を占めていたにもかかわらず、彼らの記録はたいてい不明で、その暮らしが詳細に描写されることはほとんどなかった。この「見えない存在」としての使用人に注目し、彼らの姿に新たにスポットライトを当てた画期的作品が、2010年から2015年までイギリスをはじめ世界各国で放映され、注目を浴びたドラマ「ダウントン・アビー」である。このドラマでは、ヨークシャーのグランサム伯爵ロバート・クロウリーの邸宅ダウントン・アビーに住まう貴族(階上)の生活と、彼らに雇用されている使用人(階下)の生活とが決して分断されることなく、相互に絡み合いながら展開していく。本授業ではここに見られる英国独特の階級意識に焦点を当てるとともに、第一次世界大戦前夜の英国における社会状況にも注目していく。

## 到達目標

1. イギリスの階級社会についての知識を習得する
2. エドワード朝のイギリスの社会史的知識を習得する
3. ドラマのスク립トを原文で読み理解できる読解力を身につける

## 授業方法

ドラマ「ダウントン・アビー」の特にSeason 1を鑑賞する。重要と思われる事件や社会的な運動、思想に関しては資料を用意して解説する。脚本の中から一部を抜粋し、課題として配布するので訳読を行ってから授業にのぞむこと。授業参加のための準備にはおおよそ1時間半かかるとと思われる。最終レポートについては、採点後答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

## 授業計画

第1回	イントロダクション	
第2回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	使用人たち
第3回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	限嗣相続 同性愛
第4回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	ミドル・クラス
第5回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	狩猟
第6回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	職業婦人
第7回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	オリエンタリズム
第8回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	女性参政権運動
第9回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	新しい女
第10回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	結婚について
第11回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	再び使用人について
第12回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	女性の権利拡大運動
第13回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	第一次世界大戦にいたる過程①
第14回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	第一次世界大戦にいたる過程②
第15回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	まとめ

## 成績評価の方法

最終レポート(60%)、授業への参加状況(40%)で評価する。

## 教科書

なし

## 参考書

武藤浩史、川端康雄 遠藤不比人、大田信良、木下誠『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』(慶應義塾大学出版社、2007、ISBN: 9784766413281)  
 セリーナ・トッド『ザ・ピープル: イギリス労働者階級の盛衰』(みすず書房、2016、ISBN: 9784622085140)  
 新井潤美『執事とメイドの裏表: イギリス文化における使用人のイメージ』(白水社、2011、ISBN: 9784560081792)  
 ルーシー・レスブリッジ『使用人が見た英国の二〇世紀』(原書房、2014、ISBN: 9784562050864)  
 シャーン・エヴァンズ『メイドと執事の文化誌: 英国家事使用人たちの日常: 図説』(原書房、2012、ISBN: 9784562048557)



15571

## 地域文化基礎演習 A-b

担当教員：大桃 陶子

2 単位 後期

## サブタイトル

「ダウントン・アビー」におけるイギリス階級社会の諸相

## 授業のねらい

1900年代のエドワード朝の英国では、家事奉公は最大規模の職業であり、たとえば女性労働者400万人のうち150万人は使用人であった。このように使用人が労働人口の大多数を占めていたにもかかわらず、彼らの記録はたいてい不明で、その暮らしが詳細に描写されることはほとんどなかった。この「見えない存在」としての使用人に注目し、彼らの姿に新たにスポットライトを当てた画期的作品が、2010年から2015年までイギリスをはじめ世界各国で放映され、注目を浴びたドラマ「ダウントン・アビー」である。このドラマでは、ヨークシャーのグランサム伯爵ロバート・クロウリーの邸宅ダウントン・アビーに住まう貴族(階上)の生活と、彼らに雇用されている使用人(階下)の生活とが決して分断されることなく、相互に絡み合いながら展開していく。本授業ではここに見られる英国独特の階級意識に焦点を当てるとともに、第一次世界大戦前夜の英国における社会状況にも注目していく。

## 到達目標

1. イギリスの階級社会についての知識を習得する
2. エドワード朝のイギリスの社会史的知識を習得する
3. ドラマのスク립トを原文で読み理解できる読解力を身につける

## 授業方法

ドラマ「ダウントン・アビー」の特にSeason 1を鑑賞する。重要と思われる事件や社会的な運動、思想に関しては資料を用意して解説する。脚本の中から一部を抜粋し、課題として配布するので訳読を行ってから授業にのぞむこと。授業参加のための準備にはおおよそ1時間半かかるとと思われる。最終レポートについては、採点後答案を返却し、解答例・解説資料を配布する。

## 授業計画

第1回	イントロダクション	
第2回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	使用人たち
第3回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 1	限嗣相続 同性愛
第4回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	ミドル・クラス
第5回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 2	狩猟
第6回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	職業婦人
第7回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 3	オリエンタリズム
第8回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	女性参政権運動
第9回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 4	新しい女
第10回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	結婚について
第11回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 5	再び使用人について
第12回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	女性の権利拡大運動
第13回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 6	第一次世界大戦にいたる過程①
第14回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	第一次世界大戦にいたる過程②
第15回	「ダウントン・アビー」Season 1 Episode 7	まとめ

## 成績評価の方法

最終レポート(60%)、授業への参加状況(40%)で評価する。

## 教科書

なし

## 参考書

武藤浩史、川端康雄 遠藤不比人、大田信良、木下誠『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』(慶應義塾大学出版社、2007、ISBN: 9784766413281)  
 セリーナ・トッド『ザ・ピープル: イギリス労働者階級の盛衰』(みすず書房、2016、ISBN: 9784622085140)  
 新井潤美『執事とメイドの裏表: イギリス文化における使用人のイメージ』(白水社、2011、ISBN: 9784560081792)  
 ルーシー・レスブリッジ『使用人が見た英国の二〇世紀』(原書房、2014、ISBN: 9784562050864)  
 シャーン・エヴァンズ『メイドと執事の文化誌: 英国家事使用人たちの日常: 図説』(原書房、2012、ISBN: 9784562048557)

15581

## 地域文化基礎演習 B-a

担当教員：英 美由紀

2 単位 前期

## サブタイトル

映像化された英文学作品を観る・読む

## 授業のねらい

イギリスの小説、戯曲を原作とする映画を通し、様々な文学作品に触れる。また作品の一部を原文で読む。

## 到達目標

1. 文学テキストを精読し、その内容を正確に把握する読解力を身につける。その際、文化的な背景にも注意を払う。
2. 英文学研究のための基礎的な用語を学ぶ。
3. 関連資料の検索・利用方法を知り、レポート作成に役立てる。
4. グループ発表を行い、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学ぶ。

## 授業方法

テキストの講読とグループ発表を組み合わせることで進めていきます。

テキストについては授業時に理解度を確認しますので、入念に準備したうえで授業にのぞむようにしてください。事前事後学習に要する時間の目安は、週2時間程度です。グループ発表に際しては、あらかじめ内容の打ち合わせ等の準備が必要となりますので、4～5時間を予定してください。

授業時の疑問や小テスト等については、その都度フィードバックを行います。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション                                       |
| 第2回  | 1. Romeo and Juliet                             |
| 第3回  | 2. Gulliver's Travels                           |
| 第4回  | 3. Pride and Prejudice                          |
| 第5回  | 4. Jane Eyre                                    |
| 第6回  | 5. Wuthering Heights                            |
| 第7回  | 6. Great Expectations                           |
| 第8回  | 7. Tess of the d'Urbervilles                    |
| 第9回  | 8. "A Scandal in Bohemia"                       |
| 第10回 | 9. Pygmalion                                    |
| 第11回 | 10. Rain  |
| 第12回 | 11. A Passage to India                          |
| 第13回 | 12. Lady Chatterley's Lover                     |
| 第14回 | レポート作成についての説明、及び関連資料（和文）の検索・利用についての説明（図書館ガイダンス） |
| 第15回 | 小テスト、及びその解説                                     |

## 成績評価の方法

到達目標1、2については予習の有無を含む授業への取り組み（40%）と小テスト（40%）、3についてはレポート（10%）、4についてはグループによる発表とディスカッション（10%）により、総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

単位の修得には一定の出席率を要します。（欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします。）尚、履修者は一定数までとしますので、履修希望者は必ず初週の授業に出席するようにしてください。

## 教科書

行方昭夫、河島弘美『映画化された英米文学24』（鶴見書店、2016、ISBN：978-4-7553-0376-0）

15591

## 地域文化基礎演習 B-b

担当教員：英 美由紀

2 単位 後期

## サブタイトル

映像化された英文学作品を観る・読む

## 授業のねらい

イギリスの小説、戯曲を原作とする映画を通し、様々な文学作品に触れる。また作品の一部を原文で読む。

## 到達目標

1. 文学テキストを精読し、その内容を正確に把握する読解力を身につける。その際、文化的な背景にも注意を払う。
2. 英文学研究のための基礎的な用語を学ぶ。
3. 関連資料の検索・利用方法を知り、レポート作成に役立てる。
4. グループ発表を行い、プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学ぶ。

## 授業方法

テキストの講読とグループ発表を組み合わせることで進めていきます。

テキストについては授業時に理解度を確認しますので、入念に準備したうえで授業にのぞむようにしてください。事前事後学習に要する時間の目安は、週2時間程度です。グループ発表に際しては、あらかじめ内容の打ち合わせ等の準備が必要となりますので、4～5時間を予定してください。

授業時の疑問や小テスト等については、その都度フィードバックを行います。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション                              |
| 第2回  | 1. Romeo and Juliet                    |
| 第3回  | 2. Gulliver's Travels                  |
| 第4回  | 3. Pride and Prejudice                 |
| 第5回  | 4. Jane Eyre                           |
| 第6回  | 5. Wuthering Heights                   |
| 第7回  | 6. Great Expectations                  |
| 第8回  | 7. Tess of the d'Urbervilles           |
| 第9回  | 8. "A Scandal in Bohemia"              |
| 第10回 | 9. Pygmalion                           |
| 第11回 | 10. Rain                               |
| 第12回 | 11. A Passage to India                 |
| 第13回 | 12. Lady Chatterley's Lover            |
| 第14回 | 小テスト、及び関連資料（和文）の検索・利用についての説明（図書館ガイダンス） |
| 第15回 | 小テスト、及びその解説                            |

## 成績評価の方法

到達目標1、2については予習の有無を含む授業への取り組み（40%）と小テスト（40%）、3についてはレポート（10%）、4についてはグループによる発表とディスカッション（10%）により、総合的に評価します。

## 履修にあたっての注意

単位の修得には一定の出席率を要します。（欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします。）尚、履修者は一定数までとしますので、履修希望者は必ず初週の授業に出席するようにしてください。

## 教科書

行方昭夫、河島弘美『映画化された英米文学24』（鶴見書店、2016、ISBN：978-4-7553-0376-0）

15651

## 英文学史 a

担当教員：大桃 陶子

2 単位 前期

## サブタイトル

18 世紀にいたるまでの英文学の諸相を概観する

## 授業のねらい

文学作品とは、一人の作家の個性や天才性のみによって成立するものではなく、過去の文学様式や時代の社会環境とも深く関わるものである。よって、本授業では BBC 制作の DVD『サイモン・シャーマの英国史』を参照しつつ、特に重要と思われる作品に焦点を合わせるにより、8 世紀から 18 世紀に至るまでの社会の流れを大まかにとらえることを目的とする。数世紀にわたる英文学を半年で概観するという授業の性質上、取り扱う作品に偏りが出ることには避けられないが、学生が身に着けるべき重要な作品を、時系列に沿って可能な限り網羅した資料を用意する予定なので、興味のある学生は積極的に他の作品にもチャレンジしてほしい。

## 到達目標

1. 英語圏の文化を学ぶうえで、必要最低限の文学的教養を身につける。
2. 文学作品を生んだ時代背景についての理解を深める。

## 授業方法

教科書を中心に、時代背景、主要作家およびその主要作品について紹介します。毎回教科書の指定された範囲をおよそ 30 分かけて事前に目とおしておくこと。プリントを配布して、テキストの抜粋を読むこともあります。その際は、各自辞書を用いて予習してくるよう。最終レポートについては、添削の後、答案を返却する。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 ベーオウルフ
- 第 3 回 ジェフリー・チャーサー、トマス・マロリー
- 第 4 回 「サイモン・シャーマの英国史 宗教改革：Burning Convictions」
- 第 5 回 トマス・モア、エドモンド・スペンサー
- 第 6 回 「サイモン・シャーマの英国史 二人の女王：The Body of the Queen」
- 第 7 回 ウィリアム・シェイクスピア①
- 第 8 回 ウィリアム・シェイクスピア②
- 第 9 回 「サイモン・シャーマの英国史 内乱勃発：The British Wars」
- 第 10 回 ジョン・ダン、ベン・ジョンソン
- 第 11 回 「サイモン・シャーマの英国史 清教徒革命と名誉革命：Revolutions」
- 第 12 回 「サイモン・シャーマの英国史 連合王国の成立：Britannia Incorporated」
- 第 13 回 ジョン・ミルトン、ジョン・ドライデン
- 第 14 回 ダニエル・デフォー、ジョナサン・スウィフト
- 第 15 回 ヘンリー・フィールディング、ローレンス・スターン

## 成績評価の方法

期末筆記試験（20%）、期末レポート（50%）、授業への参加状況（30%）で評価する。

## 履修にあたっての注意

プリント管理については、受講者側が責任を持って行うこと。

## 教科書

石塚久郎（編・著）『イギリス文学入門』（三修社、2014、ISBN：978-4384057492）

15661

## 英文学史 b

担当教員：大桃 陶子

2 単位 後期

## サブタイトル

19～20 世紀および現代にいたるまでの英文学の諸相を概観する

## 授業のねらい

文学作品とは、一人の作家の個性や天才性のみによって成立するものではなく、過去の文学様式や時代の社会環境とも深く関わるものである。よって、本授業では BBC 制作の DVD『サイモン・シャーマの英国史』を参照しつつ、特に重要と思われる作品に焦点を合わせるにより、19 世紀から現在に至るまでの社会の流れを大まかにとらえることを目的とする。200 年以上にわたる英文学を半年で概観するという授業の性質上、取り扱う作品に偏りが出ることには避けられないが、学生が身に着けるべき重要な作品を、時系列に沿って可能な限り網羅した資料を用意する予定なので、興味のある学生は積極的に他の作品にもチャレンジしてほしい。

## 到達目標

1. 英語圏の文化を学ぶうえで、必要最低限の文学的教養を身につける。
2. 文学作品を生んだ時代背景についての理解を深める。

## 授業方法

教科書を中心に、時代背景、主要作家およびその主要作品について紹介します。毎回教科書の指定された範囲をおよそ 30 分かけて事前に目とおしておくこと。プリントを配布して、テキストの抜粋を読むこともあります。その際は、各自辞書を用いて予習してくるよう。最終レポートについては、添削の後、答案を返却する。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 「サイモン・シャーマの英国史 ロマン主義：Forces of Nature」
- 第 3 回 ロマン派の詩人たち
- 第 4 回 18 世紀末～19 世紀初頭のイギリス小説：スコット、オースティン、ゴシック小説
- 第 5 回 「サイモン・シャーマの英国史 産業革命：Victoria and Her Sisters」
- 第 6 回 ヴィクトリア朝の小説：ディケンズ、サッカレー
- 第 7 回 ヴィクトリア朝の小説：ブロンテ姉妹、ギャスケル
- 第 8 回 「サイモン・シャーマの英国史 善意の帝国：The Empire of Good Intentions」
- 第 9 回 帝国主義：キプリング、コンラッド、アーサー・コナン・ドイル
- 第 10 回 進化論：ダーウィン、ハーディ、H.G. ウェルズ
- 第 11 回 「サイモン・シャーマの英国史 第一次大戦、第二次大戦：The Two Winstons」
- 第 12 回 モダニズム：ヴァージニア・ウルフ、ジェイムズ・ジョイス
- 第 13 回 モダニズム：D.H. ロレンス、E.M. フォースター
- 第 14 回 第二次大戦および戦後：ジョージ・オーウェル
- 第 15 回 第二次大戦および戦後：サルマン・ラシュディ、J. M. クッツェー

## 成績評価の方法

期末筆記試験（20%）、期末レポート（50%）、授業への参加状況（30%）で評価する。

## 履修にあたっての注意

プリント管理については、受講者側が責任を持って行うこと。

## 教科書

石塚久郎（編・著）『イギリス文学入門』（三修社、2014、ISBN：978-4384057492）

15671

# 米文学史 a

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 前期

## サブタイトル

新大陸到達～アメリカン・ルネッサンス

## 授業のねらい

有名な作家と作品を取り上げながらアメリカ文学の歴史を講義する。前期は新大陸到達から南北戦争前のアメリカン・ルネッサンス期までを講義する。基本的に時代順で進めていくが、関連性や対比を考慮し時代が前後する場合もある。単に作家の名前と作品を紹介するだけでなく、時代背景や文学用語、あるいは有名な研究書なども適時説明する。教科書も使用するが、ハンドアウトなどで作品の原文を実際に読む時間も確保する。

## 到達目標

- 1) 南北戦争までのアメリカ文学の代表的な作品を理解する。
- 2) 南北戦争までのアメリカの歴史の基本的な知識を習得する。
- 3) 文学で使われている英語を理解する。

## 授業方法

基本的に講義形式で授業する。教科書も使用するが作品からの引用をのせたハンドアウトを配布する。予習・復習をかした場合は必ずこなすこと。人数にもよるができるだけ口頭やペーパーなどで作品や授業内容についてコメントしてもらう予定である。コメントや質問にはできるだけ授業中にレスポンスする。また小テストやレポートをかす場合がある。

## 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 ビューリタンたちの理想
- 第3回 セルフメイド・マンの革命——Benjamin Franklin
- 第4回 西へ向けて——アンテベラム期のアメリカ
- 第5回 アメリカ文学の「誕生」——Charles Brockden Brown、Washington Irving
- 第6回 荒野の神話——James Fenimore Cooper
- 第7回 自己への信頼——Ralph Waldo Emerson
- 第8回 森の生活——Henry David Thoreau
- 第9回 僕は僕の歌を歌う——Walt Whitman
- 第10回 動機なき殺人——Edgar Allan Poe
- 第11回 闇の力——Nathaniel Hawthorne
- 第12回 世界としての鯨——Herman Melville
- 第13回 短編小説の世界
- 第14回 南北戦争への道
- 第15回 まとめと試験

## 成績評価の方法

- 1) 到達目標 1～3 を測定するための平常点 30%
- 2) 到達目標 1～3 を測定するための試験 70%

## 履修にあたっての注意

- ・履修者希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・取り扱う作品や順序は変更する可能性がある。
- ・予習を課した場合には必ず準備をして出席すること。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・授業では様々な文学作品に言及する予定である。授業で取り上げる作品、研究書はほとんど翻訳がある。全てが授業の成績に結びつくわけではないが、できるだけ自分でそれらを読むことをすすめる。

## 教科書

諏訪部浩一 責任編集『アメリカ文学入門』（三修社、2013、ISBN：978-4384057485）

## 参考書

杉野健太郎 編集『アメリカ文化入門』（三修社、2010）  
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）  
別府恵子、渡辺和子 編著『新版 アメリカ文学史 コロニア  
ルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房、2000）



15681

## 米文学史 b

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 後期

### サブタイトル

南北戦争以後～現代

### 授業のねらい

前期に引き続き有名な作家と作品を取り上げながらアメリカ文学の歴史を講義する。後期は南北戦争以後から現代までを講義する。基本的に時代順で進めていくが、関連性や対比を考慮し時代が前後する場合もある。単に作家の名前と作品を紹介するだけでなく、時代背景や文学用語、あるいは有名な研究書なども適時説明する。教科書も使用するが、ハンドアウトなどで作品の原文を実際に読む時間も確保する。

### 到達目標

- 1) 南北戦争以降のアメリカ文学の代表的な作品を理解する。
- 2) 南北戦争以降のアメリカの歴史の基本的な知識を習得する。
- 3) 文学で使われている英語を理解する。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業する。教科書も使用するが作品からの引用をのせたハンドアウトを配布する。予習・復習をかした場合は必ずこなすこと。人数にもよるができるだけ口頭やペーパーなどで作品や授業内容についてコメントしてもらう予定である。コメントや質問にはできるだけ授業中にレスポンスする。また小テストやレポートをかす場合がある。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 様々なリアリズム——Mark Twain, Henry James
- 第3回 自然主義——Stephan Crane, Theodore Dreiser, Frank Norris
- 第4回 失われた世代——第二次世界大戦までのアメリカ
- 第5回 氷山の下にあるもの——Ernest Hemingway
- 第6回 アメリカの夢——F. Scott Fitzgerald
- 第7回 罪深けれど南部を愛している——William Faulkner
- 第8回 大恐慌時代の人々——John Steinbeck
- 第9回 冷戦の時代——第二次世界大戦後のアメリカ
- 第10回 大人なんてインチキだ——J. D. Salinger, Jack Kerouac, Allen Ginsberg
- 第11回 見えない人間たち——Richard Wright, Ralph Ellison
- 第12回 ポストモダンの到来——John Barth, Thomas Pynchon, Paul Auster
- 第13回 「黒人」で「女性」であること——Alice Walker, Toni Morrison
- 第14回 マイノリティの文学
- 第15回 まとめと試験

### 成績評価の方法

- 1) 到達目標 1～3 を測定するための平常点 30%
- 2) 到達目標 1～3 を測定するための試験 70%

### 履修にあたっての注意

- ・履修者希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ・取り扱う作品や順序は変更する可能性がある。
- ・予習を課した場合には必ず準備をして出席すること。授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・授業では様々な文学作品に言及する予定である。授業で取り上げる作品、研究書はほとんど翻訳がある。全てが授業の成績に結びつくわけではないが、できるだけ自分でそれらを読むことをすすめる。

### 教科書

諏訪部浩一 責任編集『アメリカ文学入門』（三修社、2013、ISBN：978-4384057485）

### 参考書

杉野健太郎 編集『アメリカ文化入門』（三修社、2010）  
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）  
別府恵子、渡辺和子 編著『新版 アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房、2000）



15691

## 英米文学概論 a

担当教員：大桃 陶子

2 単位 前期

## サブタイトル

イギリスとその影響をうけた文化圏の文学に関する基礎的な知識を身につける

## 授業のねらい

前期の授業ではイギリスとその影響下にある英語圏文学について講義する。前半ではイギリスにおける主要なテーマとそれに関連する文学作品および文化的背景を紹介していく。後半はイギリスの植民地政策の文学・文化に対する影響関係に着目し、大英帝国が生んだ「英語圏文学」を宗主国イギリスの「正統な」英語文学を相対化する装置として捉えていく。最終的には英領インドで生まれた制度としての英語文学について考察し、全体のまとめとしたい。

## 到達目標

- 1) イギリスとその周辺の文学と文化の多様性を理解する。
- 2) イギリスとその周辺の代表的な作品を理解する。
- 3) 文学作品において使用される様々な英語表現を理解する。

## 授業方法

授業は講義形式によって行われる。必要によっては、英語で書かれたテキストを扱うため、受講者は辞書を携帯すること。訳読の課題が出された場合は、きちんと予習を行うこと。授業内容を整理するために、毎授業後一時間程度の復習を行うことが望ましい。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 イギリス文学における演劇
- 第3回 イギリス文学における恋愛・結婚1—19世紀
- 第4回 イギリス文学における恋愛・結婚2—19世紀末以降
- 第5回 イギリス文学における階級1—ヴィクトリア朝時代
- 第6回 イギリス文学における階級2—20世紀
- 第7回 イギリス文学における児童文学
- 第8回 イギリス文学における地域性
- 第9回 イギリス文学における植民地
- 第10回 旧イギリス植民地における英語文学1—インド
- 第11回 旧イギリス植民地における英語文学2—アフリカ
- 第12回 旧イギリス植民地における英語文学3—西インド諸島
- 第13回 旧イギリス植民地における英語文学4—オーストラリア
- 第14回 「英語文学」という制度
- 第15回 まとめと試験

## 成績評価の方法

試験70%、平常点30%で評価する。

## 教科書

なし

## 参考書

石塚久郎編集『イギリス文学入門』（三修社、2014）  
ビル・アッシュクロフト／ガレス・グリフィス／ヘレン・ティフィン 木村公一編訳『ポストコロニアル事典』（南雲堂、2008）

15701

## 英米文学概論 b

担当教員：岡本 晃幸

2 単位 後期

## サブタイトル

北米の英語圏文学

## 授業のねらい

前期に引き続き、後期は北米とその周辺の英語圏文学について講義する。主にアメリカ文学における主要な作品とテーマを概観した後、カナダの英語文学について講義し、隣接する英語圏の国家の文学においてどのような共通点と差異が見いだせるのかを考える。学期の最後には国家単位を超えた英語文学のテーマについて講義する。作品や作家の紹介だけでなく、ハンドアウトなどで多くの作品の原文を実際に読む時間を確保する予定である。

## 到達目標

- 1) 北米とその周辺の文学と文化の多様性を理解する。
- 2) 北米とその周辺の文学の代表的な作品とテーマを理解する。
- 3) 文学において使用される様々な英語表現を理解する。

## 授業方法

引用などをまとめたハンドアウトにそって講義形式ですすめる。予習・復習をかした場合は必ずやってくる。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 アメリカ文学と宗教
- 第3回 アメリカ文学と自然1—19世紀
- 第4回 アメリカ文学と自然2—20世紀
- 第5回 アメリカ文学と夢1—19世紀
- 第6回 アメリカ文学と夢—20世紀
- 第7回 アメリカ文学と人種1—19世紀
- 第8回 アメリカ文学と人種2—20世紀
- 第9回 アメリカ文学と性
- 第10回 アメリカ文学と自我
- 第11回 カナダの英語文学
- 第12回 カナダ文学と女性
- 第13回 国境を超える英語文学1—環境
- 第14回 国境を超える英語文学2—移民
- 第15回 まとめと試験

## 成績評価の方法

- 1) 到達目標1～3を測定するための平常点 30%
- 2) 到達目標1～3を測定するための試験 70%

## 履修にあたっての注意

- ・予定は変更する可能性がある。
- ・履修希望者は初回授業に出席すること。
- ・初回を含め毎回辞書を持参すること。
- ・英語は難しいかもしれませんが、予習・復習をかした場合は必ずこなすこと。
- ・単位取得のためには一定回数以上の出席すること。
- ・授業に出席しても予習状況や学習態度が芳しくない場合減点、もしくは欠席扱いにする場合がある。
- ・小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処する。

## 教科書

なし

## 参考書

杉野健太郎 編集『アメリカ文化入門』（三修社、2010）  
諏訪部浩一 編集『アメリカ文学入門』（三修社、2013）  
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）  
別府恵子、渡辺和子 編著『新版 アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』（ミネルヴァ書房、2000）  
コーラル・アン・ハウエルズ、エヴァ＝マリー・クローラー 編集『ケンブリッジ版 カナダ文学史』（彩流社、2016）

15731

## 文学講義 A

担当教員：英 美由紀

2 単位 前期

### サブタイトル

英米小説研究入門

### 授業のねらい

小説を研究対象とする際に検討の対象となり得る事項を概観する。その際、具体例として、英米でよく知られている小説テキストの一部を参照することで、様々な作品に触れるきっかけとなるようにする。また、2、3の作品については、全体を読んだうえで考察する。

### 到達目標

1. 小説を論じる際、ストーリー以外にどのような事柄に目を向けることができるかを学ぶ。
2. (短編)小説2、3点に焦点を当て、それを1.との関連において考察する。
3. 英米の作家や作品を幅広く知り、2.の他にも関心を広げる。

### 授業方法

小説で用いられる技法とその例を中心に、以下の予定にそって講義を行います。

事前事後学習に要する時間の目安は週1時間未満ですが、コメント・シート提出時はその作成に4～5時間以上を要します。代表的なコメントは授業時に紹介し、フィードバックを行います。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小説の歴史
- 第3回 リアリズム、モダニズム、ポストモダニズム
- 第4回 小説のサブジャンル
- 第5回 タイトル、書き出し
- 第6回 構成
- 第7回 登場人物、名前
- 第8回 語り(1)
- 第9回 語り(2)
- 第10回 視点
- 第11回 イメージ・シンボル
- 第12回 結末、テーマ
- 第13回 アダプテーション
- 第14回 批評的なアプローチ
- 第15回 コメントの紹介とフィードバック、及び小テスト

### 成績評価の方法

到達目標1については通常の授業への取り組みと小テストの結果(70%)、2、3についてはコメント・シートの提出(2、3回、30%)により、総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

単位の修得には一定以上の出席率を要します。(欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします。)

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

毎週プリントを配布します。

### 参考書

Jeremy Hawthorn, *Studying the Novel (7th ed.)* (Bloomsbury, 2016, ISBN : 978-1472575111)

15741

## 文学講義 B

担当教員：沢辺 裕子

2 単位 後期

### サブタイトル

シェイクスピアを知る

### 授業のねらい

シェイクスピアの作品をテキストと映像で鑑賞し、言葉の美しさや修辞上の工夫に触れるとともに、自分ならば作品をどう演出するかという想像もしてもらいたい。

### 到達目標

シェイクスピア作品のジャンルと代表作を知る。名場面、名台詞を人に伝えられるようになる。シェイクスピアがその後の言語、文学、文化に及ぼした影響を考える。興味を持った作品は全編を自分で読んでみる。

### 授業方法

時代と作家の生涯を紹介する。ソネット詩、史劇、喜劇、悲劇、ロマンス劇の各ジャンルから代表作を取り上げ、原文と翻訳を対照しながらテキストを読む。可能な限り、舞台作品や映画を鑑賞する。試験は返却しないが、結果について質問がある場合にはオフィスアワーで対応します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（授業の進め方、評価の仕方）  
時代と生涯、ジャンル、ソネット詩
- 第2回 史劇～『ヘンリー五世』
- 第3回 史劇～『リチャード三世』
- 第4回 若き日の喜劇～『夏の夜の夢』
- 第5回 円熟期の喜劇～『お気に召すまま』
- 第6回 円熟期の喜劇～『十二夜』
- 第7回 四大悲劇～『ハムレット』(1)
- 第8回 四大悲劇～『ハムレット』(2)
- 第9回 四大悲劇～『オセロー』
- 第10回 四大悲劇～『リア王』
- 第11回 四大悲劇～『マクベス』
- 第12回 若き日の悲劇～『ロミオとジュリエット』(1)
- 第13回 若き日の悲劇～『ロミオとジュリエット』(2)
- 第14回 晩年のロマンス劇～『冬物語』
- 第15回 晩年のロマンス劇～『テンペスト』

### 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、定期試験（70%）を合わせて評価する。

### 履修にあたっての注意

イギリス文学史の流れを知っておくことにより理解が深まる。  
第1週の出席からカウントする。毎週、出席することが大切。  
前週に指示するハンドアウトに目を通し、作品を理解してから出席すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

ハンドアウト配布  
参考書は授業でも紹介します。

### 参考書

河合祥一郎・小林章夫『シェイクスピア ハンドブック』（三省堂、2010、ISBN：9784385410647）

河合祥一郎『あらすじで読むシェイクスピア全作品』（祥伝社、2013、ISBN：9784396113490）  
河合祥一郎『シェイクスピア 人生劇場の達人』（中公新書、2016、ISBN：9784121023827）  
河合祥一郎『シェイクスピアの正体』（新潮文庫、2016、ISBN：9784101204765）  
松岡和子『深読みシェイクスピア』（新潮文庫、2016、ISBN：9784101204710）  
スタンリー・ウェルズ『シェイクスピア大図鑑』（三省堂、2016、ISBN：9784385162294）  
河合祥一郎『100分de名著 シェイクスピア「ハムレット」』（NHK出版、2014、ISBN：9784142230457）

15751

## 文学講義 C

担当教員：鎌田 禎子

2単位 後期

## サブタイトル

アメリカン・ゴシック

## 授業のねらい

アメリカ文学における「ゴシック」の要素について考える。18世紀イギリスで誕生したゴシック小説は、アメリカに持ち込まれて独自の発展を遂げた。その結果、アメリカ文学において主要な位置を占める作品は、ほとんどがゴシックの特徴をそなえているとさえ言える。18世紀末から現代に至るアメリカン・ゴシック作品の特徴と魅力について、具体的な作品の読解を踏まえつつ、多角的な視点から検討する。

## 到達目標

1. ゴシック文学の歴史的な成立過程を理解し、説明することができる。
2. アメリカ文学においてゴシックの要素が果たす役割を把握し、関連する主要な作家や作品について、その特徴や意義を説明することができる。
3. 作品のいくつかを読み、作品に対する自分の意見を論理的に組み立て、分かりやすく表現する。

## 授業方法

- ・講義形式により行う。まず、イギリスにおける「ゴシック小説」の成り立ちと、その影響、主要な作品等について概観する（第3回まで）。その後アメリカの主要な作家を中心として、各テーマにつき1～2回ずつ論ずる。詩、SFやサブカルチャーを含む現代のゴシックなどについても取り上げていく予定である。
- ・テーマ毎に、参照する作品を配布する。事前に読み、簡単に口頭でコメントできるように準備すること（所要時間60分程度）。
- ・作品やトピック毎にコメント、その他必要に応じて課題の提出を求める。学習内容については各自まとめ、定着をはかること（所要時間30分程度）。
- ・提出コメントについては配布資料を作成し、随時授業内で参照して討論する。

## 授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 ゴシック文学の成立 Strawberry Hill の奇城
- 第3回 ゴシック文学の特徴
- 第4回 Charles Brockden Brown 新大陸のゴシック
- 第5回 Washington Irving 迷信と合理主義
- 第6回 James Fenimore Cooper 荒野の恐怖
- 第7回 Edgar Allan Poe (1) 自分の中の他者
- 第8回 Edgar Allan Poe (2) 暗黒の力
- 第9回 Nathaniel Hawthorne 罪深い魂
- 第10回 Henry James 回転の果て
- 第11回 William Faulkner サザン・ゴシック(1)
- 第12回 Truman Capote サザン・ゴシック(2)
- 第13回 女性とゴシック文学
- 第14回 Thomas Pynchon ゴシックの広がり
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

定期試験により、到達目標1-3を測定(60%)。発表・課題提出等を総合した授業への参加状況により、主に到達目標3を測定(40%)。

## 履修にあたっての注意

指定された資料については予習すること。興味のある関連事項等については、積極的な調査・質問を期待します。

## 教科書

なし。プリントを配布する。

## 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業中に随時紹介する。

15841

## 英米文化論 a

担当教員：宮下 雅年

2 単位 前期

## サブタイトル

名前のポリティクス

## 授業のねらい

他者とコミュニケーションを行なう力の養成は相手をよく知ることから始まる。知ること、仮にある点では鋭く対立しているようにも、決裂を回避するいとぐちを発見できる。この授業ではアメリカ合衆国と他の英語圏社会を比べながら、その文化の基層にあると思われる特有の信条、価値観、宗教観、倫理観について考察する。特に、移民がどのように「文化的距離」を乗り越え、自己像を保持しつつ変容するかを「名前」という観点から考察する。さらに、他のマイノリティ集団との共通点と相違点を抽出することによって、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。

## 到達目標

履修生は、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科目の授業に資する知見を身に付けることができる。すなわち、個々の文化的事象を考察するに当たって、その背景となる大きな見取り図を描くことができると同時に、これを座標軸として事象の変化・変容を認識したり、時代の特異性を顧慮したり、文化の多様性を主体的に省察できる。

## 授業方法

各回、授業の開始時に理解度確認のクイズ（小テスト）を配布するので、履修生は講義を聞きながら解答し、終了時に提出する。履修生は指定されたテキストや映画作品を前もって読んだり観たりしてから出席することを求められる。

## 授業計画

- 第1回 移民と名前(1)―「アメリカ人になる」ということ；Louis Adamic, *What's Your Name?* (1942) の先見性
- 第2回 移民と名前(2)―英語を学ぶということ；Leonard Q. Ross, "Mr. K\*A\*P\*L\*A\*N and Vocabulary" (1937) を読む
- 第3回 移民と名前(3)―日系アメリカ人の経験 1；Alan Parker (dr.), *Come See the Paradise* (1991)
- 第4回 移民と名前(4)―日系アメリカ人の経験 2；Kayo Hatta (dr.), *Picture Bride* (1995)
- 第5回 名前のポリティクス―誰が誰を何と名付けるか？ 課題レポートに関する説明
- 第6回 女性と名前(1)―Ursula K. Le Guin, "She Unnames Them." (1985) を読む
- 第7回 女性と名前(2)―二人の Bertha 1；Charlotte Brontë, *Jane Eyre* (1847)
- 第8回 女性と名前(3)―二人の Bertha 2；Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (1966)
- 第9回 女性と名前(4)―Jane とは誰か？；Charlotte Perkins Gilman, "The Yellow Wall-Paper" (1892)
- 第10回 マイノリティと名前(1)―アフリカ系アメリカ人の経験；Angelica Gibbs, "The Test" (1940) を読む
- 第11回 マイノリティと名前(2)―Ralph Emerson と Ralph Ellison；Ralph Ellison, *Invisible Man* (1952)
- 第12回 マイノリティと名前(3)―Malcolm X あるいは<名無し>でいること
- 第13回 マイノリティと名前(4)―外国人労働者；William E. Barrett, "Señor Payroll" (1944) を読む
- 第14回 課題レポート講評：多様な文化的背景をもった人びととの交流あるいは文化の多様性及び異文化交流の意義について、特に名前の観点から履修生が体験をレポートする。(提出締め切り厳守のこと。) このレポートについて担当教員がコメントする。
- 第15回 総復習―名乗りあるいは改名の願望；変わるものと変わらぬもの

## 成績評価の方法

毎回の授業理解度確認クイズの成績 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。

## 履修にあたっての注意

各回の授業理解度確認クイズの提出は当の授業終了時のみとする。また、課題レポートは第 12 回授業冒頭へのみ受付ける。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

下記以外の参考資料は担当教員がその都度用意する。

## 参考書

伊藤章『エトノスとトポスで読むアメリカ文学』（英宝社、2012、ISBN：978-4-269-74025-9）



15851

## 英米文化論 b

担当教員：宮下 雅年

2 単位 後期

### サブタイトル

becoming への執着

### 授業のねらい

他者とコミュニケーションを行なう力の養成は相手をよく知ることから始まる。知ること、仮にある点では鋭く対立してしまうようとも、決裂を回避するいとぐちを発見できる。この授業ではアメリカ合衆国と他の英語圏社会を比べながら、その文化の基層にあると思われる特有の信条、価値観、宗教観、倫理観について考察する。アメリカ社会に見られる信条、例えば、〈新しさ〉や〈若々しさ〉に執着したり、すでに何かくであるよりもこれから何かくになることを重視したりする、そのような社会の気風について、他の英語圏社会と比較しながら、その宗教的な基層（回心あるいは再生の願い）に立ち返って出どころを考察する。これによって、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について、その多様性を含めて基本的な内容を理解できる。

### 到達目標

履修生は、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科目の授業に資する知見を身に付けることができる。すなわち、個々の文化的事象を考察するに当たって、その背景となる大きな見取り図を描くことができ、これを座標軸として事象の変化・変容を認識したり、時代の特殊性を顧慮したり、文化の多様性を主体的に省察できる。

### 授業方法

各回、授業の開始時に理解度確認のクイズ（小テスト）を配布するので、履修生は講義を聞きながら解答し、終了時に提出する。

### 授業計画

- 第1回 聖書に基づく世界認識（予型論）：“Puritan”とは何者か？
- 第2回 “A rolling stone gathers no moss.” の意味合い
- 第3回 conversion narrative（我は如何にキリスト者となりしや？）
- 第4回 型への執着と臨機応変：Tom Sawyer と Huckleberry Finn
- 第5回 森の中で年齢を脱ぎ捨てる：Ralph Waldo Emerson の思想 1
- 第6回 奇形になる：Ralph Waldo Emerson の思想 2 課題レポートに関する説明
- 第7回 “becoming” の重視：完璧な身体の礼賛—Edgar Allan Poe, “The Man That Was Used Up” (1839)
- 第8回 “becoming” の重視：完璧な身体への憧憬—Nathaniel Hawthorne, “The Birthmark” (1843)
- 第9回 “becoming” へのためらい：身体の不安—Mary Shelley, Frankenstein; or, The Modern Prometheus (1818)
- 第10回 成功物語：身体の美化—Horatio Alger, Ragged Dick (1867)
- 第11回 不成功物語：身体解体—Nathanael West, A Cool Million (1934)
- 第12回 美容整形の受容
- 第13回 課題レポート講評；多様な文化的背景をもった人びととの交流あるいは文化の多様性及び異文化交流の意義について、特に身体観から履修生が体験をレポートする。そのレポートについて担当教員がコメントする。
- 第14回 個人と共同体：帰郷物語 1—William Saroyan, “Going Home” (1936)
- 第15回 個人と共同体：帰郷物語 2—Ernest Hemingway, “Soldier's Home” (1925)

### 成績評価の方法

毎回の授業理解確認クイズの成績 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。

### 履修にあたっての注意

各回の授業理解度確認クイズの提出は当の授業終了時のみとする。また、課題レポートの提出は第 11 回授業の冒頭のみ受付ける。

### 教科書

なし

### 参考書

高木美也子『人間パズル』（かんき出版、2002、ISBN：4761260017）

15861

## 英米文化研究 a

担当教員：大森 一輝

2 単位 前期

## サブタイトル

アメリカ女性史

## 授業のねらい

アメリカ合衆国における女性の地位の変遷を歴史的に辿ること、英米文化をジェンダーの側面から理解することを目的とする。

## 到達目標

1. アメリカ女性史の基本的な知識を身につける。
2. 関連する情報を英語文献から読み取れるようになる。
3. 外国の事例を参考に、自分の社会についても批判的に考えられるようになる。

## 授業方法

基本的に、講義形式で行う。第3回、第10回は映像を見てもらうが、その翌週には、各人が文章化してきた感想・質問をもとにディスカッションを行う。第6～9回は、英語文献を読むので、丁寧な（各回2時間程度の）予習が必要。第12回には、参考文献の一部を配布する。それを翌週までに読み、ディスカッションを行う。感想・質問については、ディスカッションで取り上げるとともに、授業内で口頭で回答する。最終レポートは、授業に関連するテーマを受講者各人が設定し、2000字程度にまとめる。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション—女性の歴史、ジェンダー関係の歴史  
第2回 初期アメリカにおける女性の地位と「領域」  
第3回 映画「スカーレット・レター」  
第4回 [ディスカッション] 女性が「自由」であるためには  
第5回 女性参政権運動の展開  
第6回 Rightfully Ours 第9章(1)  
第7回 Rightfully Ours 第9章(2)  
第8回 Rightfully Ours 第9章(3)  
第9回 Rightfully Ours 第10章  
第10回 映画「Iron Jawed Angels」  
第11回 [ディスカッション] 女性が政治に参加するとは  
第12回 女性「問題」の現状  
第13回 [ディスカッション] 性という檻、性という絆  
第14回 性差別の日米比較  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標1の測定は授業（特にディスカッション）への参加状況（30%）で評価し、それに、到達目標2を測定する英語文献に関する小テスト（20%）、および、到達目標3を測定する学期末のレポート（50%）を加えて、成績を付ける。

## 履修にあたっての注意

私語・居眠り、携帯電話の使用などの授業妨害行為を繰り返す者には、単位を認定しない。

## 教科書

Kerrie Logan Hollihan, *Rightfully Ours: How Women Won the Vote* (Chicago Review Press, 2012, 978-1883052898)

## 教科書・参考書に関する備考

英語文献を読む回以外は、独自に作成したプリントを使用（授業時に配布）する。

## 参考書

兼子歩・貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017、ISBN：978-4779122927）

15871

## 英米文化研究 b

担当教員：大森 一輝

2 単位 後期

## サブタイトル

格差社会アメリカ

## 授業のねらい

アメリカ合衆国におけるマイノリティの境遇を歴史的に辿ること、英米文化を差別とその克服という側面から理解することを目的とする。

## 到達目標

1. アメリカの移民史・先住民史・黒人史の基本的な知識を身につける。
2. 外国の事例を参考に、自分の社会についても批判的に考えられるようになる。

## 授業方法

基本的に、講義形式で行う。途中、何度か映像を見てもらい、感想・質問の提出を求める。また、長めの映像の場合（第7回、第11回）は、翌週ディスカッションを行う。感想・質問については、ディスカッションで取り上げるとともに、授業内で口頭で回答する。最終レポートは、授業に関連するテーマを受講者各人が設定し、2000字程度にまとめる。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション—差別社会アメリカの歴史を学ぶことの意義  
第2回 アメリカは誰が作ったのか？  
第3回 移民史—るつぼからサラダボウルへ  
第4回 移民「問題」の推移  
第5回 先住民史—「文明」と「野蛮」  
第6回 先住民「問題」の現状  
第7回 黒人史1—アメリカと奴隷制（映画「ルーツ」）  
第8回 [ディスカッション]「奴隷」とはどのようなことか  
第9回 黒人史2—人種差別制度と公民権運動  
第10回 黒人「問題」の現状  
第11回 差別の実態（映画「フルートベール駅で」）  
第12回 [ディスカッション] アメリカで「黒人」とはどのようなことか  
第13回 多文化主義の生成と展開  
第14回 多文化主義の深化と反発  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標1の測定は授業（特にディスカッション）への参加状況（30%）で評価し、それに、到達目標2を測定する学期末のレポート（70%）を加えて、成績を付ける。

## 履修にあたっての注意

私語・居眠り、携帯電話の使用などの授業妨害行為を繰り返す者には、単位を認定しない。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

独自に作成したプリントを使用（授業時に配布）する。参考書は、必要に応じて、適宜指示する。

15881

## 地域文化講義 A

担当教員：木村 信一

2 単位 前期

## サブタイトル

アメリカ発見とアングロ・アメリカの形成

## 授業のねらい

「アメリカの発見」の世界史的な意味、アングロ・アメリカの成立の経緯を顧みながら、その時代局面において編まれたテキストを取り上げ、文化の基層にあるもの、世界観、国家観、宗教観、倫理観などについて考える。

## 到達目標

今日のさまざまな文化事象を考える際して、個々の時代や地域社会の枠のなかに身をおきながら、同時に大局的な視点を模索することの重要性について、理解することができる。

## 授業方法

授業は講義形式でおこなうが、それぞれの時代のテキスト(英語)を読むことを通して、その時代や社会がもつ特殊性に思いをいたし、「彼ら」と「我ら」を結ぶものを探しながら、異文化理解にまつわる諸課題についての認識を深める。

毎回講義メモを配布するが、受講前には、必ず、前回の講義メモや自筆ノートを読み返し、講義の流れを再確認してほしい。必要に応じて、リアクションペーパーを配布・回収し、リスpondする。

## 授業計画

- 第1回 はじめに一講義計画について(研究倫理についての指導を含む)
- 第2回 「コロンブス書簡」とアメリカの発見の1—レコンキスタの展開
- 第3回 「コロンブス書簡」とアメリカの発見の2—「書簡」解題(東方貿易の終焉)
- 第4回 「コロンブス書簡」とアメリカの発見の3—「書簡」解題(ヨーロッパ中心主義)
- 第5回 「楽園」の物語とヴァージニア入植の1—アングロ・アメリカ誕生前夜
- 第6回 「楽園」の物語とヴァージニア入植の2—「楽園」としてのアメリカ
- 第7回 「楽園」の物語とヴァージニア入植の3—「南部」の形成と奴隷制度
- 第8回 ピューリタニズムとニューイングランド入植の1—「宗教改革」
- 第9回 ピューリタニズムとニューイングランド入植の2—「荒野」としてのアメリカ
- 第10回 ピューリタニズムとニューイングランド入植の3—ピューリタニズム
- 第11回 ピューリタニズムとニューイングランド入植の4—アメリカン・ミレニアリズム
- 第12回 膨張と分裂の1—膨張主義と奴隷制度
- 第13回 膨張と分裂の2—『ヴァージニア覚書』
- 第14回 膨張と分裂の3—「明白な天命」(「テキサス併合反対の議論について」)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

学期末の定期試験の成績によって評価する。

## 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなす。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回の授業時に講義メモと資料を配布する。  
参考書：『地図で読むアメリカ—歴史と現在—』(雄山閣出版)、Early American Writings (Penguin Classics)

15891

## 地域文化講義 B

担当教員：英 美由紀

2 単位 後期

## サブタイトル

映画に見る「働く女性」たち

## 授業のねらい

現在までの半世紀間に進んだ女性の社会進出とそれにとまないう生じた諸問題を、映画を題材として議論する。

## 到達目標

- 1960年代以降のアメリカ社会における(働く)女性を取り巻く状況と、その変化を概観する。
- 授業で取り上げる映画に1がどのように描かれているのかを考察する。

## 授業方法

アメリカを舞台とする映画を10点程取り上げます。予め映画を視聴し、質問事項に答えるかたちでコメントを作成し、3回(以上)提出してください。

授業では映画に解説を加え、議論に有用と考えられる概念、データ、文献等を示します。それをもとに、また各自関連資料にもあたりながら、レポートを作成してください。

コメント・シートについては、代表的な意見を授業で取り上げ、フィードバックを行います。レポートの評価については、「講義連絡」等のシステムを利用し、フィードバックを行います。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「働く女性」をめぐる—時代と社会(1)1960~70年代
- 第3回 「働く女性」をめぐる—時代と社会(2)1980年代以降
- 第4回 「性別役割分業」
- 第5回 「家庭」から「職場」へ
- 第6回 「連帯」のかたち
- 第7回 「成功のはしご」と「ロマンチック・ラブ・イデオロギー」(1)
- 第8回 「成功のはしご」と「ロマンチック・ラブ・イデオロギー」(2)
- 第9回 ジェンダー「と」人種の問題
- 第10回 「自由」というジレンマ
- 第11回 「ワーク・ライフ・バランス」(1)家事をめぐる議論
- 第12回 「ワーク・ライフ・バランス」(2)ケアをめぐる議論
- 第13回 「育メン」の登場
- 第14回 専業主「夫」の可能性?—「戦略的役割交換」
- 第15回 まとめ、及びレポート作成についての説明

## 成績評価の方法

到達目標1、2ともに、コメント・シートの提出(3回以上)を含む授業への取り組み(70%)とレポート(30%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

単位の修得には一定以上の出席率を要します(欠席は3回以下であることが望ましい。また遅刻2回で欠席1回とみなします)

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎週プリントを配布します。

15901

## 地域文化講義 C

担当教員：浜井 祐三子

2 単位 後期

### サブタイトル

多文化・多民族社会としてのイギリス

### 授業のねらい

イギリスは歴史的にも複数の民族によって国の基盤が作られ、また宗教的・政治的迫害を受けた難民を受け入れてきたことで知られる。その「多文化・多民族」性がさらに高まったきっかけは、第二次世界大戦後の旧植民地からの移民流入によると言われている。この授業では、その歴史的前提、また移民の流入によるイギリス社会の変容について広く、様々な角度から学ぶ。

### 到達目標

多文化・多民族社会としてのイギリスの成り立ち、現状について学ぶことで、現代イギリス社会に関する基本的な理解を身につける

### 授業方法

教員の講義が中心となるが、授業中に英語の資料を一緒に読むなど、学生が参加できる要素も取り入れていきたい。受講者は指定された資料に目を通して出席し、各講義後にはフィードバックシートを提出する（次回授業で、教員からその内容に関してコメントを行う）。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 <イントロダクション>多文化・多民族社会としてのイギリス(1): 歴史的前提
- 第3回 <イントロダクション>多文化・多民族社会としてのイギリス(2): 現在の状況
- 第4回 エンパイア・ウィンドラッシュ号と1948年国籍法
- 第5回 移民制限法の成立～締め出される「有色」移民(1): 制限の開始まで
- 第6回 移民制限法の成立～締め出される「有色」移民(2): 制限の強化
- 第7回 人種関係法の成立～人種差別禁止の法制化(1): 取り組みの始まり
- 第8回 人種関係法の成立～人種差別禁止の法制化(2): 取り組みの強化
- 第9回 教育における多文化主義・反人種主義の発展(1): 取り組みの始まり
- 第10回 教育における多文化主義・反人種主義の発展(2): 発展と評価
- 第11回 メディアと多文化・多民族社会イギリス(1): 報道と偏向
- 第12回 メディアと多文化・多民族社会イギリス(2): マイノリティの活躍
- 第13回 ラッシュディ事件とブリティッシュ・ムスリム
- 第14回 スティーブン・ローレンス事件と制度的人種主義
- 第15回 期末テスト

### 成績評価の方法

受講者が各講義の後提出するフィードバックシートにより、授業への参加度を評価し、平常点（評価の30%）とする。また、最終週に授業全体の理解度を確認する期末テストを行う（評価の70%）。

### 履修にあたっての注意

授業にはテーマに関心を持って、積極的に参加してください。他の受講者の妨げとなるような行為は慎んでください。また、格段の理由なく欠席回数が多い受講者には単位を認定できません。

### 教科書

なし

### 参考書

浜井祐三子『イギリスにおけるマイノリティの表象』（三元社、2004）  
木畑洋一編『イギリス帝国と20世紀第5巻』（ミネルヴァ書房、2007）  
木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史』（ミネルヴァ書房、2011）  
パニコス・パナイー著（浜井祐三子・溝上宏美訳）『近現代イギリス移民の歴史』（人文書院、2016）  
川成洋編著『イギリスの歴史を知るための50章』（明石書店、2016）



15951

## 英語学概論 a

担当教員：對馬 康博

2 単位 前期

### サブタイトル

英語学概論 2018 前編

### 授業のねらい

この講義では、英語学 (English Linguistics) という学問領域の各分野について体系的な視点から概観することを目的とする。対象言語は英語とし、対照のために日本語を据える。なお、後期開講の「英語学概論 b」とセットで英語学の全分野を見渡すことになる。

### 到達目標

1. 英語学の各分野 (世界の中の英語・国際共通語としての英語、英語の歴史の変遷、音声学・音韻論 (音の仕組み)、形態論) に関して、自ら体系的に説明できるようになること。
2. 英語の現象について、日本語と比較して、自ら説明できるようになること。

### 授業方法

講師による講義による。また、以下の通り、授業外でもアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

テキストやハンドアウトの指定された範囲について綿密に予習・調査することが要求される。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関するフィードバックは、適宜、授業内で行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 英語学とはどういう学問領域か?
- 第 3 回 世界の中の「英語 (Englishes)」・国際共通語としての英語
- 第 4 回 英語の歴史(1)  
英語外面史 - 古英語 → 中英語 -
- 第 5 回 英語の歴史(2)  
英語外面史 - 中英語 → 近代英語 -
- 第 6 回 英語の歴史(3)  
古英語
- 第 7 回 英語の歴史(4)  
中英語
- 第 8 回 英語の歴史(5)  
近代英語
- 第 9 回 音韻論・音声学(1)  
音韻論・音声学とは何か?・発声法
- 第 10 回 音韻論・音声学(2)  
母音と子音
- 第 11 回 音韻論・音声学(3)  
音素とその関連
- 第 12 回 形態論(1)  
形態論とは何か?・形態素
- 第 13 回 形態論(2)  
接辞
- 第 14 回 形態論(3)  
語形成
- 第 15 回 レビュー & 総合試験

### 成績評価の方法

- ・総合試験 80%
- ・平常点 (授業への参加状況) 20%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・後期開講「英語学概論 b」(對馬担当) を継続受講することを強く薦める。

### 教科書

對馬康博 (編著), *The Overview of English Linguistics Vol. 1*

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

### 参考書

René Dirven and Marjolijn Verspoor, *Cognitive Exploration of Language and Linguistics. (Second revised edition.)* (John Benjamins, 2004, ISBN : 9781588114860)

Ingo Plag et al., *Introduction to English Linguistics. (3rd revised edition)* (Mouton de Gruyter, 2015, ISBN : 9783110376180)

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language. (3rd edition)* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 9780521736503)

影山太郎 (他) 『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版、2003、ISBN : 9784874242773)



15961

## 英語学概論 b

担当教員：對馬 康博

2 単位 後期

### サブタイトル

英語学概論 2018 後編

### 授業のねらい

この講義では、英語学 (English Linguistics) という学問領域の各分野について体系的な視点から概観することを目的とする。対象言語は英語とし、対照のために日本語を据える。なお、前期開講の「英語学概論 a」とセットで英語学の全分野を見渡すことになる。

### 到達目標

1. 英語学の各分野 (英語の文法としての統語論・意味論・構文論、語用論、言語獲得論・言語習得論) に関して、自ら体系的に説明できるようになること。
2. 英語の現象について、日本語と比較して、自ら説明できるようになること。

### 授業方法

講師による講義による。また、以下の通り、授業外でもアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

テキストやハンドアウトの指定された範囲について綿密に予習・調査することが要求される。

<事後学習>

授業内容を整理し、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関するフィードバックは、適宜、授業内で行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 統語論(1)  
統語論とは何か?・伝統文法の文の分析と (アメリカ) 構造主義言語学
- 第 3 回 統語論(2)  
変形生成文法 - 句構造規則と変形規則 -
- 第 4 回 統語論(3)  
生成文法 - 移動と X バー理論 -
- 第 5 回 統語論(4)  
生成文法 - ミニマリスト・プログラム -
- 第 6 回 意味論(1)  
言葉の意味とは何か?
- 第 7 回 意味論(2)  
古典的意味論
- 第 8 回 意味論(3)  
認知意味論
- 第 9 回 構文論(1)  
認知文法 - 文法関係 -
- 第 10 回 構文論(2)  
認知文法 - 認知構文論 -
- 第 11 回 構文論(3)  
構文文法
- 第 12 回 語用論(1)  
語用論とは何か?
- 第 13 回 語用論(2)  
古典的語用論
- 第 14 回 言語獲得論・言語習得論
- 第 15 回 レビュー & 総合試験

### 成績評価の方法

・総合試験 80%

・平常点 (授業への参加状況) 20%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・前期開講「英語学概論 a」(對馬担当) で学んだ概念を「前提」とするので、英語文化学科の学生は継続受講者を対象とする。

### 教科書

對馬康博 (編著), *The Overview of English Linguistics Vol. 2*

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

### 参考書

René Dirven and Marjolijn Verspoor, *Cognitive Exploration of Language and Linguistics. (Second revised edition.)* (John Benjamins, 2004, ISBN : 9781588114860)

Ingo Plag et al., *Introduction to English Linguistics. (3rd revised edition)* (Mouton de Gruyter, 2015, ISBN : 9783110376180)

David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language. (3rd edition)* (Cambridge University Press, 2010, ISBN : 9780521736503)

影山太郎 (他) 『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版、2003、ISBN : 9784874242773)

2017年度以前入学生  
専 門 学 科  
英 語 文 化 学 科  
英 語 学 概 論

15971

## 言語学概論 a

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 前期

## サブタイトル

世界の言語の音・語・文の構造を科学的に分析する基礎力を身に付ける

## 授業のねらい

日本語や英語にはどのような音が含まれているのか（子音・母音の種類など）、そして日本語や英語の単語一語一語はこれらの音のいくつかが結びついてできているが、その結びつきの際にはどのような規則があるのか、またこれらの単語はどのように形成されているのか、さらに、これらの語がまとまって文を形成する際にはどのような規則が関わっているのか—など、日本語や英語をはじめ、世界で話されている言語の音声や音韻・語・文の構造のパターンを理解する。

## 到達目標

1. 言語学の考え方が理解できる。
2. 言語学の基本的な知識や理論を使って、世界の言語のさまざまな音・語・文のデータが分析できる。

## 授業方法

講義形式である。原則として、約3～4回の授業で言語学の1分野について学ぶ。1分野終わるごとに、試験を行う。取り扱う分野は、音声学・音韻論、形態論、統語論である。基本的には教科書に沿って進めていくが、毎回プリントを配布し、日本語・英語を含む世界の言語のデータを分析するトレーニングを行う。毎回授業を受けるにあたり、reading や problem sets などの宿題が課される（事前事後準備時間1時間程度）。

problem sets の宿題や学期中に行われる試験については、採点後に返却し、授業内で解説を行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：「言語学」とは？
- 第2回 音声学(1)：日本語と英語の音の調音
- 第3回 音声学(2)：世界の言語の音の調音
- 第4回 音韻論(1)：音節とモーラ、アクセント
- 第5回 音韻論(2)：音素分析(1)
- 第6回 音韻論(3)：音素分析(2)、音韻過程
- 第7回 テスト1 (Ch. 1：音声学・音韻論)
- 第8回 形態論(1)：語、形態素
- 第9回 形態論(2)：語形成のタイプ
- 第10回 形態論(3)：形態素分析の練習問題
- 第11回 形態論(4)：複合語、形態の特徴から見た言語の類型
- 第12回 テスト2 (Ch. 2：形態論)
- 第13回 統語論(1)：文法性、統語範疇、樹形図
- 第14回 統語論(2)：文法範疇(1)
- 第15回 統語論(3)：文法範疇(2)

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測るためのテスト1、2 (25%×2 = 50%)、期末テスト (35%)、授業への参加状況 (宿題を含む) (15%)

## 履修にあたっての注意

1. 全員が参加できる比較的少人数での授業を目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。1回目の授業に必ず出席のこと。
2. 遅刻は2回につき1回の欠席とする。
3. テストは学期中に2回、期末試験期間中に1回行う。それぞれのテストの追試は、教務課で公認欠席が認められた場合のみ受けられる。

## 教科書

齊藤純男『言語学入門』（三省堂、2010、ISBN：978-4-385-36421-6）

15981

## 言語学概論 b

担当教員：山木戸 浩子

2 単位 後期

## サブタイトル

世界の言語の歴史、社会との関わり、文字体系等を考察する

## 授業のねらい

（「言語学概論 a」の続きである。）第4回までは、言語における語・句・文の「意味」について学ぶ。残りの回では、言語が時代の流れと共にどのように変化してきたか、地域や社会の違いによって言語はどのように異なるのか、世界にはどのような文字体系があるのか、などについて学ぶ。

## 到達目標

1. 言語学の考え方が理解できる。
2. 授業で学んだ音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論の知識を総合的に使って、世界の言語のデータが分析できるようになる。

## 授業方法

原則として、2～4回の授業で言語学の1分野を学ぶ。1～3分野終わるごとに、試験を行う。取り扱う分野は、意味論・歴史言語学・比較言語学・言語地理学・社会言語学・文字論である。基本的には教科書に沿って進めていくが、毎回プリントを配布し、日本語・英語を含む世界の言語のデータを分析するトレーニングを行う。毎回授業を受けるにあたり、reading や problem sets などの宿題が課される（事前事後準備時間1時間程度）。

problem sets の宿題や学期中に行われる試験については、採点後に返却し、授業内で解説を行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：前期の復習
- 第2回 意味論(1)：言語の恣意性、語や句・文の意味構造
- 第3回 意味論(2)：意味役割、成分分析
- 第4回 意味論(3)：認知意味論
- 第5回 テスト1 (Ch. 5：意味論)
- 第6回 歴史言語学(1)：音変化
- 第7回 歴史言語学(2)：形態・統語・意味変化
- 第8回 比較言語学
- 第9回 言語地理学
- 第10回 テスト2 (Ch. 7, 8, 9：歴史言語学・比較言語学・言語地理学)
- 第11回 社会言語学(1)：方言
- 第12回 社会言語学(2)：使用域
- 第13回 文字論(1)：writing の役割；世界の文字のタイプ
- 第14回 文字論(2)：世界の文字の解読(1)
- 第15回 文字論(3)：世界の文字の解読(2)

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測るためのテスト1、2 (25%×2 = 50%)、期末テスト (35%)、授業への参加状況 (15%)

## 履修にあたっての注意

1. 前期の「言語学概論 a」を履修していること。（1回目の授業に必ず出席のこと。）
2. 遅刻は2回につき1回の欠席とする。
3. テストは学期中に2回、期末試験期間中に1回行う。それぞれのテストの追試は、教務課で公認欠席が認められた場合のみ受けられる。

## 教科書

齊藤純男『言語学入門』（三省堂、2010、ISBN：978-4-385-36421-6）

15991

## 英語史 a

担当教員：上野 誠治

2 単位 前期

## サブタイトル

英語の歴史を学ぶ 1

## 授業のねらい

テーマ「英語の歴史の変遷を通して、今日に至るまでの語彙や文法の変化を辿る」

今から約 2000 年前、シーザーがブリテン島に上陸した頃、英語はまだ言葉として存在していなかったが、その後様々な歴史の変遷を経て、今日の地球語としての地位を獲得するに至っている。授業では、古英語、中英語、近代英語と発達してきた英語の変遷を言語学の観点から学んでいく。

## 到達目標

1. インド・ヨーロッパ祖語からゲルマン祖語に至る言語変遷を理解することが出来る。
2. 古英語の特徴・語彙・文法および現代英語に至る歴史の変遷を理解することが出来る。

## 授業方法

講義形式で、英語の歴史の変遷を辿る。前期は古英語を中心に考察する。また、前期の途中から、毎回、講義と平行して、古英語で書かれた詩を講読する。

試験の結果は後期の初回授業または担当教員のクラウド上で解説する。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス、インド・ヨーロッパ祖語の再建、ゲルマン語
- 第 2 回 比較言語学の誕生、グリムの法則
- 第 3 回 ヴェルネルの法則、英語のルーツ
- 第 4 回 古英語(1)：外面史、アングロ・サクソン民族
- 第 5 回 古英語(2)：方言、語彙、頭韻、ケニング、借用
- 第 6 回 古英語(3)：二重語、父称、ルーン文字
- 第 7 回 古英語(4)：文字、発音
- 第 8 回 古英語(5)：名詞の語形変化、複数形の変遷
- 第 9 回 古英語(6)：語順、格の用法
- 第 10 回 古英語(7)：形容詞の語形変化
- 第 11 回 古英語(8)：動詞の語形変化
- 第 12 回 古英語(9)：人称代名詞、指示代名詞の語形変化
- 第 13 回 古英語(10)：数詞、副詞、疑問詞の語形変化
- 第 14 回 古英語(11)：ベオウルフ
- 第 15 回 まとめ

## 成績評価の方法

学期末試験（80%）と授業への参加状況（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・特別な理由がない限り、初回講義から出席すること。
- ・「英語」という言語の歴史を言語学的な観点から学び、現代英語との関連を考察する。
- ・英語で書かれた資料を使うことがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

独自に作成したプリントを使用する。担当教員のクラウドから、PDF 形式の資料を配布する。講義前に各自プリントアウトしたものを持参すること（ただし、初回講義は必要なし）。

## 参考書

- 渡部昇一『英語の歴史』（大修館書店）  
橋本 功『英語史入門』（慶應義塾大学出版会）  
寺澤 盾『英語の歴史』（中公新書）

16001

## 英語史 b

担当教員：上野 誠治

2 単位 後期

## サブタイトル

英語の歴史を学ぶ 2

## 授業のねらい

テーマ「英語の歴史の変遷を通して、今日に至るまでの語彙や文法の変化を辿る」

今から約 2000 年前、シーザーがブリテン島に上陸した頃、英語はまだ言葉として存在していなかったが、その後様々な歴史の変遷を経て、今日の地球語としての地位を獲得するに至っている。授業では、古英語、中英語、近代英語と発達してきた英語の変遷を言語学の観点から学んでいく。

## 到達目標

1. 中英語および近代英語の特徴・語彙・文法および現代英語に至る歴史の変遷を理解することが出来る。
2. 言語変化を言語学的に説明することが出来る。

## 授業方法

講義形式で、英語の歴史の変遷を辿る。後期は、中英語や近代英語を中心に考察する。また、前期から引き続き、古英語で書かれた詩も講義と平行して講読する。

試験の結果は担当教員のクラウド上で解説する。

## 授業計画

- 第 1 回 中英語(1)：外面史、ノルマン人
- 第 2 回 中英語(2)：発音とつづり
- 第 3 回 中英語(3)：方言、語彙
- 第 4 回 中英語(4)：文法
- 第 5 回 中英語(5)：フランス語やラテン語からの借用
- 第 6 回 中英語(6)：カンタベリー物語
- 第 7 回 近代英語(1)：外面史
- 第 8 回 近代英語(2)：大母音推移、語源的綴り字
- 第 9 回 近代英語(3)：文法
- 第 10 回 近代英語(4)：英語の標準化、辞書の編纂
- 第 11 回 近代英語(5)：キャクストンの苦悩、egg の話
- 第 12 回 近代英語(6)：綴り字の改革
- 第 13 回 イギリス英語の現状
- 第 14 回 世界の英語：アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド
- 第 15 回 まとめ

## 成績評価の方法

学期末試験（80%）と授業への参加状況（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・特別な理由がない限り、初回講義から出席すること。
- ・「英語」という言語の歴史を言語学的な観点から学び、現代英語との関連を考察する。
- ・英語で書かれた資料を使うことがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

独自に作成したプリントを使用する。担当教員のクラウドから、PDF 形式の資料を配布する。講義前に各自プリントアウトしたものを持参すること（ただし、初回講義は必要なし）。

## 参考書

- 渡部昇一『英語の歴史』（大修館書店）  
橋本 功『英語史入門』（慶應義塾大学出版会）  
寺澤 盾『英語の歴史』（中公新書）



16011

## 英語学研究 a

担当教員：對馬 康博

2 単位 前期

### サブタイトル

認知構文論 2018a

### 授業のねらい

この講義では、「認知構文論」として、様々な英語基本構文(言語現象)を人間の認知能力・認知プロセスの視点から切り込み、検証する。さらに自身で研究する力を養成する。また、英語構文を対応する日本語構文と対照することで、日英語の認知メカニズムの相違が言語現象に反映されていることを体得する。

特に、前期開講の「英語学研究 a」では、認知文法の「理論的前提」と英語の「文型・構文」「文法関係」「自動詞構文と他動詞構文」などの「文法的前提」を学ぶ。

なお、後期開講「英語学研究 b」では、認知文法の「理論的実践」として英語の「基本構文」の現象を分析するので、これとセットで認知構文論の全貌を見渡すことになる。

### 到達目標

1. 「認知文法 (Cognitive Grammar)」に基づく「理論的前提」の獲得
2. 英語の「文型・構文」「文法関係」「自動詞構文と他動詞構文」などの「文法的前提」の理解

### 授業方法

講義による。

ただし、適宜、問題演習や課題に取り組んだり、発表する機会がある。

なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

各講、テキストのテーマに沿って講義を展開するので、予め綿密に予習して授業に臨むことが求められる。

<事後学習>

クラス内で扱った事項について、参考文献を読むなど、理解を深めて次の回の授業に臨むこと。また、適宜、課される課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関わるフィードバックは、適宜、授業内で行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション・認知文法と生成文法の理念
- 第 2 回 認知構文論の概念
  - 認知能力と構文 -
- 第 3 回 文型論(1)
  - 伝統文法に基づくアプローチ -
- 第 4 回 文型論(2)
  - 文型論の展開 (構造型と機能型) と問題点 -
- 第 5 回 文型論(3)
  - ネクサスとジャンクションから捉え直す文型 -
- 第 6 回 認知文法の基本概念(1)
  - 意味と文法・概念内容と認知ドメイン -
- 第 7 回 認知文法の基本概念(2)
  - 特定化・際立ち・スコープ・パースペクティブ・参照点構造 -
- 第 8 回 認知文法の基本概念(3)
  - 次元モデル・外界直接認知と外界間接認知・シミュレーション -
- 第 9 回 認知文法の基本概念(4)
  - カテゴリー化とネットワークモデル・合成構造・成分構造・統合構造 -
- 第10回 文法関係(1)
  - 主語 (参与者主語・セッティング主語) とトラジェクター・目的語とランドマークの概念 -
- 第11回 文法関係(2)
  - 述語と力・補語/修飾語と場所の概念 -

- 第12回 文型再考
  - 認知文法からのアプローチ -
- 第13回 自動詞構文と他動詞構文(1)
  - 自動詞構文のネットワーク (非対格動詞と非能格動詞) -
- 第14回 自動詞構文と他動詞構文(2)
  - 他動性 -
- 第15回 レビュー&総合試験

### 成績評価の方法

- ・ 総合試験 70%
  - ・ 平常点 (授業への参加状況) 30%
- なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

- ・ 初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・ 受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・ 適宜、小テストの実施や課題を与えることがある。
- ・ 正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・ 後期開講「英語学研究 b」(對馬担当)を継続受講することを強く薦める。

### 教科書

對馬康博 (編著), *Special Lecture on English Linguistics*

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。後期開講「英語学研究 b」(對馬担当)と共通。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

### 参考書

- 辻幸夫 (編)『新編 認知言語学キーワード事典』(研究社、2013、ISBN : 9784767434766)
- ロナルド・W・ラネカー (Ronald W. Langacker)『認知文法論序説』(研究社、2011、ISBN : 9784327401580)
- ジョン・R・テイラー (John R. Taylor) / 瀬戸賢一『認知文法のエッセンス』(大修館書店、2008、ISBN : 9784469213225)
- 山梨正明『認知構文論』(大修館書店、2009、ISBN : 9784469213249)
- 山梨正明『認知言語学原理』(くろしお出版、2000、ISBN : 9784874241899)
- 山梨正明 (編) / 尾谷昌則・二枝美津子『構文ネットワークと文法』(研究社、2011、ISBN : 9784327237028)
- 早瀬尚子・堀田優子『認知文法の新展開』(研究社、2005、ISBN : 9784327257194)
- 野村益寛『ファンダメンタル認知言語学』(ひつじ書房、2014、ISBN : 9784894766082)
- 瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知構文論』(大修館書店、2017、ISBN : 9784469213645)
- 野矢茂樹・西村義樹『言語学の教室 哲学者と学ぶ認知言語学』(中央公論新社、2013、ISBN : 9784121022202)

## サブタイトル

認知構文論 2018b

## 授業のねらい

この講義では、「認知構文論」として、様々な英語基本構文(言語現象)を人間の認知能力・認知プロセスの視点から切り込み、検証する。さらに自身で研究する力を養成する。また、英語構文を対応する日本語構文と対照することで、日英語の認知メカニズムの相違が言語現象に反映されていることを体得する。

特に、後期開講の「英語学研究 b」では、認知文法の「理論的実践」として英語の「基本構文」の現象を分析する。

なお、前期開講の「英語学研究 a」では、認知文法の「理論的前提」と英語の「文型・構文」「文法関係」「自動詞構文と他動詞構文」などの「文法的前提」を学ぶので、これとセットで認知構文論の全貌を見渡すことになる。

## 到達目標

1. 「認知文法 (Cognitive Grammar)」に基づく「理論的実践」による研究法の獲得
2. 英語の「基本構文」の現象の分析法の獲得

## 授業方法

講義による。

ただし、適宜、問題演習や課題に取り組んだり、発表する機会がある。

なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 1.5~2 時間前後である。

<事前学習>

各講、テキストのテーマに沿って講義を展開するので、予め綿密に予習して授業に臨むことが求められる。

<事後学習>

クラス内で扱った事項について、参考文献を読むなど、理解を深めて次の回の授業に臨むこと。また、適宜、課される課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等や試験に関するフィードバックは、適宜、授業内で行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・認知構文論の考え方
- 第2回 there 構文
- 第3回 受動構文
- 第4回 中間構文
- 第5回 二重目的語構文
- 第6回 移動構文
- 第7回 結果構文
- 第8回 無生物主語構文
- 第9回 軽動詞構文
- 第10回 構文の創発
- 第11回 構文の拡張と連続性
- 第12回 構文ネットワーク
- 第13回 認知構文論の新展開
- 第14回 認知構文論の課題と一般的展望
- 第15回 レビュー&総合試験

## 成績評価の方法

・総合試験 70%

・平常点 (授業への参加状況) 30%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。

## 履修にあたっての注意

・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数

を調整することがありうる。

- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。
- ・前期開講「英語学研究 a」(對馬担当)で学んだ概念を「前提」とするので、英語文化学科の学生は継続受講者を対象とする。

## 教科書

對馬康博 (編著), *Special Lecture on English Linguistics*

## 教科書・参考書に関する備考

教科書はオリジナル教材による。入手方法は初回で指示する。前期開講「英語学研究 a」(對馬担当)と共通。その他、必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

- 辻幸夫 (編)『新編 認知言語学キーワード事典』(研究社、2013、ISBN : 9784767434766)
- ロナルド・W・ラネカー (Ronald W. Langacker)『認知文法論序説』(研究社、2011、ISBN : 9784327401580)
- ジョン・R・テイラー (John R. Taylor) / 瀬戸賢一『認知文法のエッセンス』(大修館書店、2008、ISBN : 9784469213225)
- 山梨正明『認知構文論』(大修館書店、2009、ISBN : 9784469213249)
- 山梨正明『認知言語学原理』(くろしお出版、2000、ISBN : 9784874241899)
- 山梨正明 (編) / 尾谷昌則・二枝美津子『構文ネットワークと文法』(研究社、2011、ISBN : 9784327237028)
- 早瀬尚子・堀田優子『認知文法の新展開』(研究社、2005、ISBN : 9784327257194)
- 野村益寛『ファンダメンタル認知言語学』(ひつじ書房、2014、ISBN : 9784894766082)
- 瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望『解いて学ぶ認知構文論』(大修館書店、2017、ISBN : 9784469213645)
- 野矢茂樹・西村義樹『言語学の教室 哲学者と学ぶ認知言語学』(中央公論新社、2013、ISBN : 9784121022202)



16031

## コミュニケーション概論 a

担当教員：井筒 美津子

2 単位 前期

## サブタイトル

語用論・談話分析入門

## 授業のねらい

この授業では、言語学の諸分野の中でも、特に語用論 (pragmatics)・談話分析 (discourse analysis) について概観する。語用論は、会話に携わる話し手や聞き手の立場から発話というものを考察し、発話を生み出す原理や動機を探索する分野である。談話分析は、話し手や書き手によって生み出された談話 (会話やテキスト) の構造や表現のあり方を考察する分野である。共に「文」の単位を超えた言語に関する様々な現象を扱うことから、二つの分野の区別はしばしば曖昧になることがあるが、本授業では、これら二つの言語学の分野を学ぶことを通して、コミュニケーションの一側面を探索していく。

## 到達目標

1. 言語学の視点からコミュニケーションを理解する。
2. 語用論・談話分析に関する基礎的な知識を身につける。

## 授業方法

講義形式により行うが、内容理解の確認や問題演習の際は発言や発表などが求められる。従って、積極的な授業への参加を期待する。毎回、授業で紹介される専門知識を理解するために必要な事前・事後学習 (30 分程度) が必要である。

小テストのフィードバックを次回の授業で行います。

## 授業計画

- 第1回 Introduction
- 第2回 What is pragmatics? (語用論とは何か?)
- 第3回 Deixis and other referring expressions (直示とその他の指示表現) (1)
- 第4回 Deixis and other referring expressions (直示とその他の指示表現) (2)
- 第5回 Presuppositions and implicatures (前提と含意)
- 第6回 Speech Acts (言語行為) (1)
- 第7回 Speech Acts (発話行為) (2)
- 第8回 Politeness (ポライトネス) (1)
- 第9回 Politeness (ポライトネス) (2)
- 第10回 Conversational Analysis (会話分析) (1)
- 第11回 Conversational Analysis (会話分析) (2)
- 第12回 Cohesion (結束性) と Coherence (一貫性)
- 第13回 Informaion Structure (情報構造)
- 第14回 Critical Discourse Analysis (批判的談話分析)
- 第15回 Summary

## 成績評価の方法

到達目標 1 と 2 を測定するための定期試験 (50%) と毎回の小テスト (40%)、及び、授業への参加度 (10%) で評価する。

## 履修にあたっての注意

学生参加型の講義を予定しているため、人数が多い場合は人数制限をすることがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、ハンドアウトを配布する。参考文献はハンドアウトを参照のこと。

16041

## コミュニケーション概論 b

担当教員：井筒 美津子

2 単位 後期

## サブタイトル

「誤伝達 (miscommunication)」について考える

## 授業のねらい

我々は、普段のコミュニケーションがあまりに当たり前に行われているため、人とコミュニケーションを取ることが非常に簡単な行為であるかのように考えがちである。この一見、容易に見えるコミュニケーション行為が実はとても複雑で、問題が多いということに気付くのは、相手との「誤伝達」が生じたときである。

この授業では、日常生活で起こる「誤伝達」について言語学的に考えていく。「誤伝達」がどのような場合に起こるのか、そのメカニズムは何か、そしてどう克服したらよいかなどを学んでいきたい。

## 到達目標

1. 誤伝達に関わる言語学的な知識を身につける。
2. 普段の生活で何気なく起こっている「誤伝達」が起こる仕組みについて、言語学的に分析することが出来る。

## 授業方法

講義形式により行う。原則として、毎回授業の最後に、内容理解を確認するための小テストを行う。毎回、授業で紹介される専門知識を理解するために必要な事前・事後学習 (30 分程度) が必要である。

小テストのフィードバックを次回の授業で行います。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「誤伝達」とは何か
- 第3回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第4回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第5回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(3)
- 第6回 異文化間コミュニケーションにおける「誤伝達」(4)
- 第7回 異方言間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第8回 異方言間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第9回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第10回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第11回 異性間コミュニケーションにおける「誤伝達」(3)
- 第12回 レポートテーマ発表・レポートの書き方について
- 第13回 異世代間コミュニケーションにおける「誤伝達」(1)
- 第14回 異世代間コミュニケーションにおける「誤伝達」(2)
- 第15回 「誤伝達」のメカニズム

## 成績評価の方法

到達目標 1 と 2 を測定する期末レポート (50%)、到達目標 1 を測定する毎回の小テスト (40%)、授業態度 (10%) により評価する。3 分の 1 以上欠席した者には単位を認めない。

## 履修にあたっての注意

- ・前期の「コミュニケーション概論 a」を受講していることが望ましい。
- ・学生参加型の講義を予定しているため、人数が多い場合は人数制限をすることがある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、ハンドアウトを配布します。参考文献はハンドアウト参照のこと。

16051

## コミュニケーション研究 a

担当教員：Holst, Mark

2 単位 前期

### サブタイトル

Comparative Study of Cultures

### 授業のねらい

- \* To consider how individual, social and national identity influence and are influenced by culture by examining a number of cultural theories and looking at cultural practices in a number of countries.
- \* To develop academic English skills through essay writing, class presentations and class discussions.

### 到達目標

- \* To understand the fundamentals of cultural theory
- \* To understand cultural differences between countries in a number of areas (e.g. education, politics, religion, work, art).
- \* To be able to present evidence based research in a clear and logical way in academic English in written form (homework reports) and spoken form (class presentations).

### 授業方法

- \* Before class: Web-based reading and video assignments to prepare for class.
- \* In class: (20-30 minute) presentation by teacher or students => small group discussions => feedback to class.
- \* Outside class: Three writing assignments (800-1,000 words) on theoretical and practical aspects of culture.
- \* Group project: Teams of 3-4 students research a cultural aspect of one country => each team presents their findings in class (weeks 7~14) => teams write a joint report of their presentation by the final class.

### 授業計画

- 第1回 Cultural Values - Cultural relativism and ethnocentrism
- 第2回 Individual Identity and Dimensions of Culture - Who am I?
- 第3回 Social Identity and Power Distance - What is my group?
- 第4回 National Identity - Where do I call home?
- 第5回 Individualism and Collectivism - 'We' or 'I'?
- 第6回 Gender and Culture - Masculinity and femininity.
- 第7回 Nations and National Groups - Multiculturalism, centralization and diversity.
- 第8回 Political Systems - How do we govern ourselves?
- 第9回 Education Systems - Passing on knowledge and cultural values to the next generation.
- 第10回 Religion - How do belief systems influence our culture values?
- 第11回 Family Structure - What do marriage, family and gender roles tell us about our cultural values?
- 第12回 Food Culture - What do our food choices and dietary taboos tell us about our ethical and cultural values?
- 第13回 Drink, Drugs and the Law - How do prohibitions reflect cultural values?
- 第14回 Art and Culture - How does art reflect the way we see the world?
- 第15回 Intercultural Encounters - How does culture affect the way we communicate with each other?

### 成績評価の方法

3 Written Assignments - 50%; Presentations - 35%; Presentation reports - 15%

### 履修にあたっての注意

This class is conducted mainly in English, but some materials will be in Japanese. Students should do their best to use English for class activities and discussions at their own level.

### 教科書

Geert Hofstede, Gert Jan Hofstede, Michael Minkov, *Cultures and Organizations: Software of the Mind, Third Edition* (McGraw-Hill Education, 2010, ISBN : 978-0071664189)

### 教科書・参考書に関する備考

Class materials will be prepared and uploaded by the teacher each week.

### 参考書

G. ホフステード (著)、G. J. ホフステード (著)、M. ミンコフ (著)、岩井 八『多文化世界 -- 違いを学び未来への道を探る原書第3版』(有斐閣、2013、ISBN : 978-4641173897)  
Porter, Richard E. & Larry A. Samovar, *Communication Between Cultures 7th Edition* (Wadsworth Pub Co, 2009, ISBN : 978-0495567448)

### 参考ホームページ

Gapminder <http://www.gapminder.org/>  
The Hofstede Centre <http://geert-hofstede.com/national-culture.html>  
World Values Survey <http://www.worldvaluessurvey.org/WVSContents.jsp>

16061

## コミュニケーション研究 b

担当教員：Holst, Mark

2 単位 後期

## サブタイトル

English Communication and Advertising

## 授業のねらい

This course aims to improve your English communication skills through

- ・ Examining English language advertisements
- ・ Learning about and practicing presentation skills in class
- ・ Writing essays on class topics
- ・ Group projects - Original Advertising Campaign

## 到達目標

- ・ Learn English vocabulary connected with advertising and marketing
- ・ Improve English communication skills through discussions, presentations
- ・ Develop critical thinking skills through persuasive and rhetorical strategies
- ・ Improve English writing skills through weekly assignments

## 授業方法

- ・ Discussions, presentations, developing persuasion and advertising strategies
- ・ Weekly writing assignments
- ・ Group Project - investigate and analyse a professional advertising campaign; design an original advertising campaign including TV and print advert and give a 20 minute presentation of your campaign

## 授業計画

- 第1回 Introduction to Advertising
- 第2回 Defining and positioning your message
- 第3回 Designing your Advertising Campaign
- 第4回 Print Advertising
- 第5回 Persuasive writing / Collateral Advertising / Censorship
- 第6回 Left & Right Brain / Presentation Preparation
- 第7回 Presentation 1 - Analysing an advertising campaign
- 第8回 TV Advertisements 1 - How to make a 1 minute advert.
- 第9回 TV Advertisements 2 - Phobias
- 第10回 TV Advertisements 3 - Age Demographics
- 第11回 Market Segments - Gender Demographics
- 第12回 Discussion - Voting Age
- 第13回 Voting and Elections 1
- 第14回 Voting and Elections 2 / Presentation preparation
- 第15回 Presentation 2 - Explaining your Advertising Campaign

## 成績評価の方法

- ・ Presentation 1 & Report 30%
- ・ Presentation 2 & Report 40%
- ・ Weekly writing assignments: 30%

## 履修にあたっての注意

You are expected to attend class, participate fully and use only English. This class requires preparation time outside class every week to do written homework and project work.

## 教科書

N/A

## 教科書・参考書に関する備考

Students will be provided with weekly handouts for class use in class. Video and Internet based materials will also be used for listening, speaking and writing activities.

16071

## 英語学講義 A

担当教員：野村 益寛

2 単位 後期

## サブタイトル

英文法の世界

## 授業のねらい

自分が伝えたい「思い」をすべて一語で表現することはできない。記憶できる語の数には限界があるからである。そのため、私たちは語を組み合わせることによってなんとか思いを伝えようとする。そこで必要となるのが文法である。ということは、文法は思いを表し、伝えるために必要なものということになる。「思い」を「意味」と言い換えてみると、文法は意味を表すための仕組みと言える。このような認知言語学的立場から、本講義では、高校までの英語の授業で機械的に暗記したり、日本語の訳語を通して理解したような気分になっていたかもしれない英文法の諸事項が表す意味を探り、英語をよりよく理解できるようになることを目指す。

## 到達目標

文法、語法に敏感に注意しながら、日頃から英語を観察し、自分の英語力向上に生かせるようにする。

## 授業方法

毎回、補助教材のプリントを用いて英文法のトピックについて講義した後、解説した文法事項がコンテキストの中でどのように用いられているかをスヌーピーの漫画を使ってグループ・ディスカッションを通して考えてもらう。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 可算・不可算名詞
- 第3回 冠詞
- 第4回 時制・アスペクト 1：現在形、現在進行形
- 第5回 時制・アスペクト 2：過去形、現在完了形
- 第6回 時制・アスペクト 3：未来を表す諸表現
- 第7回 法助動詞
- 第8回 仮定法
- 第9回 使役
- 第10回 受身・情報構造
- 第11回 前置詞
- 第12回 句動詞
- 第13回 ディスカース・マーカー
- 第14回 関係代名詞
- 第15回 まとめ/試験

## 成績評価の方法

授業への参加度/小テスト (50%)、期末試験 (50%)

## 教科書

マーク・ピーターセン『日本人が誤解する英語』(光文社、2010、ISBN: 4334785603)

## 参考書

田中茂範『表現英文法 増補改訂版』(コスモピア、2015)  
大西泰斗、ポール・マクベイ『一億人の英文法』(一億人の英文法、2011)

16081

**英語学講義 B**

担当教員：上田 雅信

2 単位 前期

**サブタイトル**

形態論の基礎を学ぶ

**授業のねらい**

この授業では、まず、人間の言語の特徴についてわかりやすく説明します。次に、この授業の理論的な枠組みとなっている言語研究（生成文法）の基本的な考え方と研究方法について丁寧に説明します。その後で、英語と日本語の形態論（語の構造について研究する分野）の基礎を学ぶことを目的とします。普段は気づかずに使っている英語や日本語の語の背後にある形や意味の隠れた規則性を学びます。

**到達目標**

英語や日本語を学んだり、教えたりする時に役立つ、英語と日本語の語の基本的な構造についての知識と分析方法を学びます。同時に英語と日本語の語の構造に多くの類似性があることも学びます。

**授業方法**

この授業では、英語の例を中心に、日本語の例を適宜加えながら、その具体的な分析を紹介することによってどのようなテーマについてわかりやすく丁寧に説明します。理解を確認するために毎回授業中に簡単なトピックについてグループに分かれて議論して授業の内容を確認しながら授業を進めます。毎回の授業で質問用紙を配布して、その回の授業で解らなかったことや気づいたことなどを自由に書いてもらい、次の回の授業のはじめに補足説明を行います。

**授業計画**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人間の言語の特徴 (1): 動物の言語とどう違うのか?
- 第3回 人間の言語の特徴 (2): 言語の普遍的性質
- 第4回 言語研究の方法 (1): 認知革命
- 第5回 言語研究の方法 (2): 生成文法の方法
- 第6回 形態論の基礎概念
- 第7回 心的辞書とは何か?
- 第8回 語とは何か?
- 第9回 派生形態論 (語彙素の形成) (1): 基礎概念
- 第10回 派生形態論 (語彙素の形成) (2): 派生語
- 第11回 派生形態論 (語彙素の形成) (3): 複合語
- 第12回 派生形態論 (語彙素の形成) (4): 生産性
- 第13回 さまざまな語形成
- 第14回 屈折形態論
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

期末試験 (90%) と平常点/授業への参加状況 (10%) を総合して評価します。

**履修にあたっての注意**

英語学の基礎的な知識は特に必要としません。授業では議論に積極的に参加し、十分に理解できない点については授業時に質問するか、あるいは質問用紙に質問を書くようにしてください。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

プリントを配布します。下に参考書を何冊か紹介しますが、教科書ではありませんので、必ずしも購入する必要はありません。

授業時に適宜必要な参考文献を指示します。

**参考書**

伊藤たかね・杉岡洋子『語の仕組みと語形成』（研究社、2002、ISBN：4-327-25716-8）  
Lieber, Rochelle, *Introducing Morphology* (Cambridge University Press, 2010, ISBN：978-0-521-71979-7)



16101

## 言語学講義 A

担当教員：上田 雅信

2 単位 後期

### サブタイトル

日本語と英語の語の分析を通して形態論（語形成）を実践的に学ぶ

### 授業のねらい

日本語と英語を中心とした語の構造の具体的な分析を学ぶことによって、形態論（語形成）のさまざまなテーマと研究方法を実践的に学びます。

### 到達目標

形態論（語形成）の理論的な知識や方法を使って、実際に日本語や英語の語を分析する実践的な能力を習得すること。

### 授業方法

この授業では、まず、言語研究（生成文法）の方法とその中での形態論（語形成）の位置づけについてわかりやすく丁寧に説明します。次に、日本語と英語の音韻構造についての基礎概念を説明します。その後で、適宜英語の例にも言及しながら主として日本語の例を用いて、語形成にかかわるテーマを毎回1ずつ取り上げて説明します。毎回その回の授業にかかわる日本語の語の分析をグループに分かれて議論することによって講義の内容を実践的に学ぶ機会を設けます。

毎回質問・コメント用紙を配布して、その回の授業で解らなかったことや気づいたことなどを自由に書いてもらい、次の回の授業のはじめに補足説明を行います。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 言語研究の方法と語形成の位置づけ
- 第3回 日本語と英語の音韻構造の基礎 (1) 分節素の特徴
- 第4回 日本語と英語の音韻構造の基礎 (2) 音節とモーラ
- 第5回 オノマトペ
- 第6回 音象徴
- 第7回 合成語と句
- 第8回 所有格複合語
- 第9回 複合語と右側主要部の規則
- 第10回 主要部に基づく複合語の分類
- 第11回 派生語と接辞の種類
- 第12回 派生語と右側主要部の規則
- 第13回 連濁
- 第14回 複合語とアクセント
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

期末試験（90%）と平常点/授業への参加状況（10%）を総合して評価します。

### 履修にあたっての注意

日本語と英語の語形成についての予備知識は必要ありません。授業では議論に積極的に参加し、十分に理解できない点については授業時に質問するか、あるいは質問用紙に質問を書くようにしてください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布します。下に参考書を何冊か紹介しますが、教科書ではありませんので、必ずしも購入する必要はありません。授業時に適宜必要な参考文献を指示します。

### 参考書

影山太郎『形態論と意味』（くろしお出版、1999、ISBN：978-4874241745）

川原繁人『音とことばの不思議な世界』（岩波書店、2015、ISBN：978-4-00-029644-1）

川原繁人『「あ」は「い」より大きい!?』（ひつじ書房、2017、ISBN：978-4-89476-886-4）

窪蘭晴夫『語形成と音韻構造』（くろしお出版、1995、ISBN：4-87424-099-2 C3081）

窪蘭晴夫『アクセントの法則』（岩波書店、2006、ISBN：4-00-007458-X）



16111

## 言語学講義 B

担当教員：大野 公裕

2 単位 後期

## サブタイトル

ことばの仕組みを探る

## 授業のねらい

言語学は「ことばとはどのようなものなのか」を研究する学問です。私たちは普段何気なくことばを使っていますが、このことばを使う能力は、私たちの認識作用の一つであり、私たち一人ひとりの頭の中に備わっている一つの「仕組み」だと考えることができます。そうすると、言語学とは、この私たちの頭の中に備わっている仕組みを研究する学問であることになりま。この授業では、日本語や英語を例にして、この「ことばの仕組み」(特に、「統語論」と呼ばれる文などの言語表現における規則性)が実際どのようなものなのかを探っていきます。

## 到達目標

「ことばの仕組み」を研究する学問である「生成文法」の基礎を学び、その主要な概念や原理を理解し、実際の言語現象を説明することができる。

## 授業方法

「ことばの仕組み」の基本的な部分をゼロからスタートして考えていきます。授業は講義形式で行いますが、毎回「出席カード」を配りますので、質問やコメントがあればそれに書いてもらい、次の授業で質問・コメントに対する回答や解説を加えながら進めていきます。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：ことばの仕組み
- 第2回 語、品詞、句(1)－品詞の必要性
- 第3回 語、品詞、句(2)－句の必要性
- 第4回 語、品詞、句(3)－修飾と句構造
- 第5回 言語獲得(1)－言語知識はどこから来るか？
- 第6回 言語獲得(2)－普遍文法と言語獲得の関係
- 第7回 統語構造(1)－句の存在
- 第8回 統語構造(2)－句の主要部
- 第9回 統語構造(3)－動詞句の存在：英語
- 第10回 統語構造(4)－動詞句の存在：日本語
- 第11回 統語構造(5)－文法の構造
- 第12回 項構造(1)－自動詞と他動詞
- 第13回 項構造(2)－受動態
- 第14回 項構造(3)－2種類の自動詞
- 第15回 項構造(4)－項構造のまとめ

## 成績評価の方法

授業への参加状況(20%)および期末テスト(80%)の成績を総合して判断します。

## 履修にあたっての注意

この授業ではことばを「自然科学」と同じやり方(数学は使いませんが)で研究していくので、最初は戸惑う人がいるかも知れません。しかし、ことばを理解する上で科学的な思考法を応用してみることもこの授業のねらいの一つです。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

テキストは使用せず、プリントを適宜配布し授業を進めるが、以下の参考書が授業の予習・復習に役立つ。

## 参考書

岸本秀樹『ベーシック生成文法』(ひつじ書房、2009、ISBN：978-4-89476-426-2)

16151・16161・16171

## 特殊講義 a. b. c

担当教員：田代 尚路

2 単位 集中

## サブタイトル

アルフレッド・テニスと近代日本文学

## 授業のねらい

アルフレッド・テニス(1809-92)は、哀歌『イン・メモリアム』やアーサー王伝説に典拠を置く「シャロットの乙女」、『王の牧歌』などにより知られる英詩人である。その文学的創造性、さらにはヴィクトリア女王の桂冠詩人という社会的地位がもたらしたのは、英語文学のみならず近代日本文学にまでおよぶ強大かつ広範な影響であった。本授業では、テニスの詩をいくつか精読しつつ、それらが『新体詩抄』や夏目漱石の『菫露行』などにどのように影響を与えたのかを考察したい。一人の英詩人に着目する作業を通じて、文学上の日英交流の軌跡を明らかにしていければと思う。

## 到達目標

1. テニスの詩を原文で読解することができるようになる。英詩を読む上で必要な約束事も理解することができるようになる。
2. テニスと近代日本文学の関係性を把握することができるようになる。その上で、『新体詩抄』や夏目漱石の『菫露行』などにひそむテニスの影響のあとを明らかにすることができるようになる。

## 授業方法

講義形式で行う。5日間連続の集中講義という授業形態をとるため、一日ごとに事前・事後課題を課し(所要時間30分～60分程度)、小テストを一日一回実施する。最終段階の課題においては、各自授業で学んだ知識をもとに2000～4000字程度のレポートを書くことが求められる。

## 授業計画

- 第1回 はじめに－アルフレッド・テニスとは？
- 第2回 英詩の読み方入門
- 第3回 『新体詩抄』(1)－「テニソン氏軽騎隊進撃の詩」
- 第4回 『新体詩抄』(2)－「テニソン氏船将の詩」
- 第5回 ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)のテニソン講義
- 第6回 夏目漱石(1)－テニソンを読む漱石
- 第7回 夏目漱石(2)－『菫露行』読解
- 第8回 夏目漱石(3)－『菫露行』と「シャロットの乙女」
- 第9回 夏目漱石(4)－『菫露行』と『王の牧歌』
- 第10回 石川啄木－テニソンを読む啄木
- 第11回 村岡花子－村岡訳『赤毛のアン』第28章「たゆとう小舟の白ゆり姫」
- 第12回 教科書向きの物語(1)－『イノック・アーデン』読解
- 第13回 教科書向きの物語(2)－『イノック・アーデン』の諸訳検討
- 第14回 ダンテ・ゲイブリエル・ロッセティの日本文学への影響(テニソンと比較しつつ)
- 第15回 近代日本文学を超えて－テニソンが与えた影響のさまざまなかたち

## 成績評価の方法

小テスト(30%)およびレポート(70%)により評価する。

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は用いず、資料は授業内で適宜配布する。

16221

## 通訳ワークショップ a

担当教員：加藤 和代

2単位 通年

## 授業のねらい

実践的な通訳訓練を通して通訳に求められる事柄を理解し、日英両言語による基礎的な通訳技術を習得します。

単語のクイックレスポンス、短文リポート、シャドウイングなど様々な通訳トレーニングを通して英語運用能力の向上を図るとともに、日本語の表現力をみがき、通訳者に必要な人前で話す力をつけることを目指します。

## 到達目標

平易な英語と適切な日本語を用いて事前に準備した内容について前期は身近なテーマを、後期は社会問題や国際交流における挨拶などを人前で通訳者に求められる声と態度で英語から日本語、日本語から英語へ通訳できる。

## 授業方法

テキストに沿って単語のクイックレスポンス、短文リポート、オーバーラッピング、シャドウイングなど様々な実践的通訳訓練を行います。課題ごとにテープを使った個人練習、ペアでの複数文通訳練習、および前にでて通訳練習を行います。

毎回、課題がですので自宅での学習が必要です。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方、評価の仕方など)  
通訳とは? その特性
- 第2回 Unit 1 「自己紹介」英日通訳練習  
ノートテイキングの基本
- 第3回 Unit 2 「家族」日英通訳練習、プリント「自己紹介」  
英日通訳練習  
ノートテイキング練習
- 第4回 プリント 「家族」英日通訳練習  
ノートテイキング練習
- 第5回 Unit 3 「大学生活」英日通訳練習
- 第6回 パブリックスピーキングー発声練習 1
- 第7回 Unit 4 「留学」日英通訳練習  
パブリックスピーキングー発声練習 2
- 第8回 小テスト  
パブリックスピーキングー発声練習 3
- 第9回 プリント 「大学生活」英日通訳練習  
パブリックスピーキングー調音
- 第10回 プリント 「大学生活」日英通訳練習
- 第11回 プリント 「留学」日英通訳練習
- 第12回 Unit 5 「ファッション」英日通訳練習
- 第13回 プリント 「アメリカン フットボール」英日通訳練習
- 第14回 プリント 「テニスサークル」日英通訳練習  
英日通訳筆記試験
- 第15回 英日・日英通訳実技試験
- 第16回 前期の成績  
Unit 6 「メタボリック症候群」英日通訳練習
- 第17回 Unit 7 「日本文化 (アニメ)」英日通訳練習
- 第18回 Unit 9 「長寿社会」英日通訳練習
- 第19回 プリント 「長寿社会」日英通訳練習
- 第20回 挨拶に類出する英語表現
- 第21回 小テスト  
Unit 10 「国際交流 I」英日通訳練習
- 第22回 Unit 10 「国際交流 I」日英通訳練習
- 第23回 プリント 「国際交流ー市長挨拶」日英通訳練習
- 第24回 プリント 「国際交流ー代表挨拶」英日通訳練習
- 第25回 プリント 「国際交流ー知事挨拶」日英通訳練習
- 第26回 プリント 「国際交流ー大使挨拶」英日通訳練習
- 第27回 Unit 13 「国際交流 II」英日通訳練習
- 第28回 Unit 13 「国際交流 II」日英短文通訳練習
- 第29回 Unit 13 「国際交流 II」日英複数文通訳練習  
英日通訳筆記試験
- 第30回 英日・日英通訳実技試験

## 成績評価の方法

授業参加と小テスト (50%)、学期末の実技・筆記試験 (50%)

## 履修にあたっての注意

毎回の授業出席と課題への積極的取り組み、自宅学習が重要です。

## 教科書

越智美江『TOEIC150点アップを目指す通訳訓練法』(大阪教育図書、2015、ISBN: 978-4-271-11326-3C3082)

16731

## 児童英語 a

担当教員：石谷 佳子・柴野 しおり

1 単位 集中

### サブタイトル

児童英語指導実践

### 授業のねらい

児童英語入門、活動Ⅰ、活動Ⅱで学習した基礎知識を用いて授業案を作成し、児童を対象に実際に授業を行う経験をする。児童英語指導者の資質を養う。

### 到達目標

1. 児童の年齢に応じた指導案作成と適切な教材選択ができる力を養う。
2. 課題に基づき、まとまった時間の授業案を一貫性を持って作成することができる。
3. 作成した授業案に基づき、英語で授業を行う体験を通して、指導者の役割を理解する。

### 授業方法

- ・集中（4日間）講義で児童英語の実践について学習・体験する。
- ・授業案の立て方について学んだ後、グループワークで課題の決定、授業案の作成、教材研究、授業実践を行う。
- ・全体で振り返りを行い、自らの課題をみつける。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス・授業案の立て方
- 第2回 授業案作成（課題・指導内容の決定）
- 第3回 教材研究（教材・教具作成）
- 第4回 実技演習
- 第5回 授業実技リハーサル①
- 第6回 授業実技リハーサル②
- 第7回 授業実技リハーサル③
- 第8回 授業実技リハーサル④
- 第9回 授業実習Ⅰ準備①
- 第10回 授業実習Ⅰ本番
- 第11回 授業実習ⅠFB
- 第12回 授業実習Ⅱ準備①
- 第13回 授業実習Ⅱ準備②
- 第14回 授業実習Ⅱ本番
- 第15回 授業実習ⅡFB

### 成績評価の方法

到達目標1、2及び3の到達度を測定するレポート、演示により評価する。評価の割合は以下のとおり。  
授業への取り組み状況（40%）、指導案（20%）、授業実技（20%）、レポート（20%）

### 履修にあたっての注意

実際に児童を大学に集めて授業を行うことを通して学習・体験することになるので、必ず全期間出席することが必要とされる。児童英語入門、児童英語活動Ⅰまたは児童英語活動Ⅱを履修済または履修中の学生を対象とする。

### 教科書

中本幹子『実践家からの児童英語教育法解説編』（apricot、2003、ISBN：978-489991-0473）  
中本幹子『実践家からの児童英語教育法 AB』（apricot、2003、ISBN：9784899910473）

### 教科書・参考書に関する備考

児童英語活動Ⅰ、Ⅱで使用している教科書を併用します。授業案作成にあたり参考になるその他の本は下記に上げておきます。

### 参考書

松香 洋子他、*Songs and Chants with pictures* (mpi, 2011, ISBN：978-4-89643-017-2)

16711

## 児童英語活動 I

担当教員：山木戸 浩子・柴野 しおり

2単位 通年

### サブタイトル

児童英語指導法

### 授業のねらい

<前期>

児童を対象にした英語教授法の基本的な理論と実践を学ぶ。

<後期>

実践的に児童英語指導の基本を習得する。

### 到達目標

<前期>

1. 子どものことばの学びについて理解する。
2. 児童を対象とした英語教授法の基本的な理論を理解する。
3. 児童を対象とした英語指導における基本的な活動の目的を理解し、また活動をいくつか体験的に学ぶ。

<後期>

児童英語教師になるための基本的な知識と指導技術を身につける。  
学習した指導法に基づき、指導案を作成し、英語で授業を実施する。

### 授業方法

<前期>

前半（児童英語の理論）は講義形式である。  
後半（児童英語の実践）は、受講生が実際に体験し、指導技術を身につけていく。

<後期>

児童英語教育の理論と実践を学ぶ。受講生が児童役、先生役となり、模擬授業を行い、英語授業を体験する。  
一つの題材について、幼児、小学校低学年、中学年、高学年それぞれの指導法の違いを学ぶ。  
受講生同士が授業についてのアイデアを出し合い、授業を組み立て実施してみる。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション，子どものことばの学びについて①
- 第2回 子どものことばの学びについて②（第二言語習得理論の基礎）
- 第3回 子どものことばの学びについて③（発達心理学の基礎）
- 第4回 多重知能理論を活用する指導法
- 第5回 英語の音声の基本的な知識
- 第6回 英語の語彙・文法の基本的な知識
- 第7回 ことばへの気づきをもたらす指導法①
- 第8回 ことばへの気づきをもたらす指導法②
- 第9回 英語の基本的な語彙や表現に慣れ親しませる指導法
- 第10回 歌，マザーグース，チャンツの指導①
- 第11回 歌，マザーグース，チャンツの指導②
- 第12回 絵本，読み聞かせの指導①
- 第13回 絵本，読み聞かせの指導②
- 第14回 アクティビティの紹介
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 児童英語の目的と方法
- 第17回 小学校英語教育の変遷  
小中の連携と小学校の役割
- 第18回 異文化理解
- 第19回 コミュニケーションの目的と指導法①
- 第20回 コミュニケーションの目的と指導法②
- 第21回 コミュニケーションの目的と指導法③
- 第22回 TTによる指導の在り方①
- 第23回 TTによる指導の在り方②

- 第24回 TTによる指導の在り方③
- 第25回 活動型リスニング、スピーキングの指導①
- 第26回 活動型リスニング、スピーキングの指導②
- 第27回 Classroom English と Teacher Talk の指導
- 第28回 児童の発話の促し方①
- 第29回 児童の発話の促し方②
- 第30回 後期まとめ

### 成績評価の方法

<前期>

授業へ参加状況(50%)，授業内でのテスト(25%)，レポート(25%)

<後期>

到達目標達成度を測定するレポート・演示により評価する。評価の割合は以下の通り。  
授業への取り組み状況(60%)，授業内でのテスト(10%)，課題レポート(10%)，英語指導に必要な総合的な力(20%)

◎最終的な評価は、前期の評価と後期の評価の平均点とする。

### 履修にあたっての注意

人数が多い場合は人数制限をする。その際、「児童英語プログラム」の「小学校英語指導者」資格の取得を希望する者を優先する。1回目の授業に必ず出席のこと。  
グループ活動、体験を通しての授業が中心となるので、積極的に参加し、協力し合って授業を作り上げていくこととなります。欠席は極力避けてください。

### 教科書

大津由紀雄・窪園晴夫『ことばの力を育む』（慶應義塾大学出版会、2008、ISBN：978-4-7664-1471-4）  
小川隆夫、東仁美『小学校英語はじめる教科書』（mpi、2017、ISBN：9784896435849）  
中本幹子『実践家からの児童英語教育法解説編』（apricot、2003、ISBN：978-489991-0473）  
中本幹子『実践家からの児童英語教育法 AB』（apricot、2003、ISBN：978-489991-0480）

### 参考書

松香洋子『子どもと英語』（mpi、2011、ISBN：9784896434248）



## サブタイトル

外国語科・外国語活動指導者養成のために

## 授業のねらい

児童英語活動Ⅰ、児童英語で習得した基礎スキルを用いて、小学校外国語活動型・教科型それぞれに適したより専門的な指導法を学び、指導者として実践・応用できること。

## 到達目標

1. 小学校英語の活動型・教科型に適した英語を使用できる。
2. 小学校英語（活動型・教科型）に適した指導案が作成できる。
3. 小学校英語（活動型・教科型）に適した評価表を作成できる。
4. 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の適切な指導ができる。

## 授業方法

新指導要領のカリキュラムの理念・指導法・評価法をテキストに基づき、グループディスカッションを通して、個人が具体化し T/T の授業計画を作成し実践を体験する。

## 授業計画

- 第1回 新学習指導要領に見る外国語活動と外国語
- 第2回 小・中の連携と小学校の役割（中学年外国語活動から高学年外国語科への接続）
- 第3回 児童や学校の多様性への対応  
言語使用を通じた援護習得・音声によるインプット
- 第4回 コミュニケーションの目的や場面状況等を明確にした言語活動
- 第5回 音声から文字へ  
国語教育との連携
- 第6回 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk
- 第7回 英語によるやり取りの仕方  
児童の発話の引き出し方
- 第8回 ことばへの気づきをもたらす指導  
語彙や表現に慣れ親しませる方法
- 第9回 発表活動の指導法  
ICT の活用
- 第10回 学習状況の評価  
外国語活動の評価
- 第11回 学級担任と外部指導者とのチームティーチング
- 第12回 中学年に適した様々な活動・教材
- 第13回 学習到達目標・指導計画  
学習指導案の作り方
- 第14回 中学年指導案の作成と演習①
- 第15回 中学年指導案の作成と演習②
- 第16回 小学校英語教育の変遷
- 第17回 第二言語習得に関する基本的な知識
- 第18回 英語の音声
- 第19回 発音と綴りの関係
- 第20回 英語の語彙・分構造・文法
- 第21回 児童文学  
異文化理解
- 第22回 英語の書き方
- 第23回 英語コミュニケーション（聞くこと）
- 第24回 英語コミュニケーション（読むこと）
- 第25回 英語コミュニケーション（話すこと）
- 第26回 英語コミュニケーション（書くこと）
- 第27回 英語コミュニケーション（領域統合型の言語活動）
- 第28回 高学年授業案の演習①
- 第29回 高学年授業案の演習②
- 第30回 高学年授業案の演習③

## 成績評価の方法

到達目標1-4につき到達度を測定するレポート・演示により評価する。評価の割合は以下の通り。  
授業へのとりくみ状況（60%）、レポート（20%）、英語指導に必要な総合的な力（20%）

## 履修にあたっての注意

グループディスカッション、体験を通しての授業が中心となるので、積極的に参加し、協力し合って授業を作り上げていくことになります。欠席は極力さけてください。  
児童英語活動Ⅰを履修済みの学生のみ受講可。  
「小学校英語指導者資格」(J-SHINE)取得希望の人は、6回以上の欠席で資格取得不可となります。  
希望者多数の場合は人数制限を行うことがあります。初回の授業に必ず出席し、説明を聞いてください。  
小学校での実習日との兼ね合いにより、授業計画の回数が入れ替えになることがあります。

## 教科書

吉田健作『小学校英語教科化への対応と実践プラン』（教育開発研究所、2017、ISBN：978-4-86560-718-5）  
小川孝雄・東仁美『小学校英語はじめる教科書』（mpi、2017、ISBN：978-4-89643-584-9）  
山下桂世子『はじめてのジョリーフォニックス』（東京書籍、2017、ISBN：978-4-487-81031-4）

## 教科書・参考書に関する備考

必要に応じて紹介します。

## 参考書

湯浅美紀他『ワーキングメモリと英語入門』（北大路書房、2017、ISBN：978-4-76282-987-1）



16241

## English Discussion I -a

担当教員：Potter, Richard G.

1 単位 前期

## 授業のねらい

This class will apply conversation skills to allow you to discuss a variety of topics. In this class students will learn how to organize and express their opinion over a wide variety of topics. Students will be taught some refutation skills.

## 到達目標

Students should be able to state their opinion in English on various topics and engage in an exchange of opinions in the form of opinions which might disagree or agree with each other.

## 授業方法

Students will be encouraged to be able to express opinions over a variety of topics and offer differing opinions in exchanges with other students in an informal, friendly atmosphere.

## 授業計画

- 第1回 Unit 1 The Guy with Green Hair
- 第2回 Unit 2 The Shoplifter
- 第3回 Unit 3 I'm not Addicted
- 第4回 Unit 4 Beauty Contest
- 第5回 Unit 5 Who Pays?
- 第6回 Unit 6 Saying "I Love You"
- 第7回 Unit 7 Family Values
- 第8回 Unit 8 Cyber Love
- 第9回 Unit 9 A Letter from Grandma
- 第10回 Unit 10 Fan Worship
- 第11回 Outside topics will be introduced for further classes
- 第12回 Outside topics
- 第13回 Outside topics
- 第14回 Interview test (1)
- 第15回 Interview test (2)

## 成績評価の方法

Students grades will be based 40% on interviews and 60% on class participation and performance.

## 履修にあたっての注意

The main requirements of this course is an interest and effort to master some basic discussion skills and enjoy applying those skills while engaging in interesting discussions over a wide variety of topics.

## 教科書

Richard R. Day, *Impact Issues* (Person Longman, ISBN : 978-962-01-9930-1)

16251

## English Discussion I -b

担当教員：Potter, Richard G.

1 単位 後期

## 授業のねらい

This class will apply conversation skills to allow you to discuss a variety of topics. Students would learn how to give an opinion, reason and supports, as well as refutations in an open, informal discussion setting that will help you communicate your ideas and respond to other people's opinions. The second semester will deepen your discussion skills, in speaking, listening, and formulating an opinion on new topics.

## 到達目標

Students should be able to state their opinion in English on socially controversial topics and engage in an exchange of opinions in the form of refutations.

## 授業方法

Topics in the textbook will be used tentatively as follows. As the class develops, however, students will be free to suggest their own topics for discussion. Basically the class will be very open to students' suggestions for topics together with me. The same text will be used throughout the year. I will bring some additional articles.

## 授業計画

- 第1回 Unit 11 Pet Peeve
- 第2回 Unit 12 Close Your Eyes and See
- 第3回 Unit 13 Will Children Save the Earth?
- 第4回 Unit 14 Get a Job!
- 第5回 Unit 15 To Tell or Not To Tell
- 第6回 Unit 16 The Dream
- 第7回 Unit 17 To Have or Have Not
- 第8回 Unit 18 Are Humans Smart?
- 第9回 Unit 19 Cloning Cyndi
- 第10回 Unit 20 Why Learn English?
- 第11回 Outside sources
- 第12回 Outside sources
- 第13回 Outside sources
- 第14回 Interview test (1)
- 第15回 Interview test (2)

## 成績評価の方法

Students grades will be based 60% on interviews and 40% on class participation and performance.

## 履修にあたっての注意

The main requirements of this course is an interest and effort to master some basic debate skills and enjoy applying those skills while engaging in interesting discussions over a wide variety of topics.

## 教科書

Richard R. Day, *Impact Issues* (Person Longman, ISBN : 978-962-01-9930-1)

## 教科書・参考書に関する備考

Important notice! Please note students who took the first term do not need to buy the textbook. Students who enter the class the second semester will have to buy a textbook. There might be a few students entering the class the second semester who will need textbooks.

16261

## English Discussion I -c

担当教員：Bossaer, Alan

1 単位 前期

### 授業のねらい

In this course students will improve their English speaking and listening skills through discussion. Students will practice exchanging opinions, learn how to give (logical) reasons for their opinions, and provide various types of support for their opinions. Through discussion, it is hoped that students will be able to converse in English at a deeper level, which will increase self-confidence with English, improve fluency, and spark interest in discussing a multitude of topics/subjects in English.

### 到達目標

In this course students will improve their speaking and listening ability in English; improve fluency; learn how to give well-thought-out opinions with strong reasons and support, and improve their ability to ask and answer questions in English. Students will also learn how to agree and disagree with opinions.

### 授業方法

In this course, students will apply a range of communication strategies outlined in the handouts for participating in one-on-one discussions, two-on-two discussions, and reporting. There will be in-class time allotted for brainstorming and writing out opinions, reasons, and support throughout the course. There will be practice time given for oral discussions, conversational questioning technique sessions and turn-taking techniques.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to discussion (What is a strong opinion? What is a weak opinion?)
- 第2回 Topic # 1 Social Networking Sites - Pages 1 - 4 (descriptive adjectives)
- 第3回 Topic # 1 Social Networking Sites - Pages 5 - 8 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第4回 Topic # 2 Big City versus Small Country Town - Pages 9-12 (descriptive adjectives)
- 第5回 Topic # 2 Big City versus Small Country Town- Pages 13-16 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第6回 Topic # 3 Pets: Advantages and Disadvantages - Pages 17-20 (descriptive adjectives)
- 第7回 Topic # 3 Pets: Advantages and Disadvantages - Pages 21-24 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第8回 Topic # 4 Game Center on Campus - Pages 25-28 (descriptive adjectives)
- 第9回 Topic # 4 Game Center on Campus - Pages 29-32 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第10回 Topic # 5 School Uniforms - Pages 33-36 (descriptive adjectives)
- 第11回 Topic # 5 School Uniforms - Pages 37-40 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第12回 Topic # 6 Online Shopping - Pages 41-44 (descriptive adjectives)
- 第13回 Topic # 6 Online Shopping - Pages 45-48 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)
- 第14回 Topic # 7 English in Elementary School in Japan - Pages 49-52 (descriptive adjectives)
- 第15回 Topic # 7 English in Elementary School in Japan - Pages 53-56 (Applying descriptive adjectives and support for a discussion)

### 成績評価の方法

Grading will be as follow:

- 1) In-class preparation (assignments and reports) - 40%
- 2) Discussion role plays and debates - 40%
- 3) Examinations (Final Test) - 20%

### 教科書

N/A

### 教科書・参考書に関する備考

Teacher Handouts

\*Students must have a binder/folder for all handouts and a notebook.

16271

# English Discussion I -d

担当教員：Bossaer, Alan

1 単位 後期

## 授業のねらい

In this course students will improve their English speaking and listening skills through discussion. Students will practice exchanging opinions, learn how to give (logical) reasons for their opinions, and provide various types of support for their opinions. Through discussion, it is hoped that students will be able to converse in English at a deeper level, which will increase self-confidence with English, improve fluency, and spark interest in discussing a multitude of topics/subjects in English.

## 到達目標

In this course students will improve their speaking and listening ability in English; improve fluency; learn how to give well-thought-out opinions with strong reasons and support; learn basic debate skills, and improve their ability to ask and answer questions in English. Students will also learn how to refute opinions.

## 授業方法

In this course, students will apply a range of communication strategies outlined in the textbook for participating in one-on-one discussions, two-on-two discussions, and basic (formal) debating. There will be in-class time allotted for brainstorming and writing out opinions, reasons, and support throughout the course. There will be practice time given for oral discussions, conversational questioning technique sessions and turn-taking techniques.

## 授業計画

- 第1回 Topic # 1 Cell Phones for Junior High School Students - Pages 1 - 4 [Descriptive adjectives]
- 第2回 Topic # 1 Cell Phones for Junior High School Students - Pages 5 - 8 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第3回 Topic # 2 Clubs and Circles in University - Pages 9 -12 [Descriptive adjectives]
- 第4回 Topic # 2 Clubs and Circles in University - Pages 13-16 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第5回 Topic # 3 eLearning Versus Traditional English Classroom - Pages 17-20 [Descriptive adjectives]
- 第6回 Topic # 3 eLearning Versus Traditional English Classroom - Pages 21-24 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第7回 Topic # 4 Co-ed School versus Same-gender school - Pages 25-28 [Descriptive adjectives]
- 第8回 Topic # 4 Co-ed School versus Same-gender school - Pages 29-32 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第9回 Topic # 5 Part-time jobs for HS or College students - Pages 33-36 [Descriptive adjectives]
- 第10回 Topic # 5 Part-time jobs for HS or College students - Pages 37-40 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第11回 Topic # 6 Married Life or Single Life - Pages 41-44 [Descriptive adjectives]
- 第12回 Topic # 6 Married Life or Single Life - Pages 45-48 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]
- 第13回 Topic # 7 Japanese Ryokan or Western-style Hotel - Pages 49-52 [Descriptive adjectives]
- 第14回 Topic # 7 Japanese Ryokan or Western-style Hotel - Pages 53-56 [Applying descriptive adjectives and support in a discussion]

第15回 Topic # 8 New Year's Resolutions (Group Discussion)

## 成績評価の方法

Grading will be as follow:

- 1) In-class preparation (assignments and reports) - 40%
- 2) Discussion role plays and debates - 40%
- 3) Examinations (Final Test) - 20%

## 教科書

N/A

## 教科書・参考書に関する備考

\*Students must have a binder/folder for all handouts and a notebook.

16281

## English Discussion II -a

担当教員：Greig, Stephen A.

1 単位 前期

### 授業のねらい

There are two main aims to this course. The first is to teach students to make logical and convincing arguments which will be applied to classroom debating, and to discussions. The second is to teach students to write logical arguments to enable them to express their ideas clearly.

### 到達目標

To improve oral skills for discussion and debating.

To help students gain confidence when expressing their ideas and opinions.

To help students to develop critical-thinking which will be applied to both written and oral skills.

### 授業方法

Students will work in pairs and small groups.

Students will work, learn and speak together.

### 授業計画

- 第1回 Orientation. Class out-line, goals and expectations.
- 第2回 Opinions 1 - Asking for and giving opinions.  
Useful expressions and phrases.
- 第3回 Opinions 2 - Agreeing and disagreeing.  
Strategies for writing arguments and debates for beginners. Set writing assignment.
- 第4回 Opinions 3 - Class discussion.
- 第5回 Research strategies and information gathering.
- 第6回 Developing oral skills for debate - Devil's advocate.
- 第7回 Choosing appropriate topics and brain-storming ideas.
- 第8回 Discussion/debate practice.
- 第9回 Classroom debate.
- 第10回 Research practice - Information gathering.
- 第11回 Debate practice.
- 第12回 Debate practice continued.  
Hand in written assignment.
- 第13回 Classroom debate.
- 第14回 Debate practice.
- 第15回 Preview final discussion/debate.

### 成績評価の方法

Class participation 50%, final debate 30% & written assignment 20%

### 履修にあたっての注意

Please note: the above time scale may change depending on the speed of class progress and chosen topics.

### 教科書

none

### 教科書・参考書に関する備考

Lecturer will provide handouts.

Students will be required to research chosen topic.

16291

## English Discussion II -b

担当教員：Greig, Stephen A.

1 単位 後期

### 授業のねらい

There are two main aims to this course. The first is to teach students to make logical and convincing arguments which will be applied to classroom debating, and to discussions. The second is to teach students to write logical arguments to enable them to express their ideas clearly.

### 到達目標

To improve oral skills for discussion and debating.

To help students gain confidence when expressing their ideas and opinions.

To help students to develop critical-thinking which will be applied to both written and oral skills.

### 授業方法

Students will work in pairs and small groups.

Students will work, learn and speak together.

### 授業計画

- 第1回 Orientation. Class out-line, goals and expectations.
- 第2回 Debate tennis - Opinions.  
Intermediate strategies for writing arguments and debates. Set written assignment.
- 第3回 Discussion practice - Devil's advocate 1.
- 第4回 Discussion practice - Devil's advocate 2.
- 第5回 An introduction to Syllogism & Fallacies.  
How syllogism & fallacies can help an argument / discussion / debate.
- 第6回 Further development of oral skills for debate.  
What is critical-thinking?
- 第7回 Research practice and strategies.
- 第8回 Choosing appropriate topics and brain-storming ideas. More in depth topics.
- 第9回 Debate practice.
- 第10回 Debate practice continued.
- 第11回 Research practice. Gathering information for discussion/debate.
- 第12回 Debate practice.  
Hand in final assignments.
- 第13回 Debate practice continued.
- 第14回 Classroom debate.
- 第15回 Preview final discussion/debate.

### 成績評価の方法

Class participation 50%, final debate 30% & written assignment 20%

### 履修にあたっての注意

Please note: the above time scale may change depending on the speed of class progress and chosen topics.

### 教科書

none

### 教科書・参考書に関する備考

Lecturer will provide handouts.

Students will be required to research chosen topics.

**16301****English Discussion II -c**

担当教員：Flenner, David

1 単位 前期

**授業のねらい**

There are two main aims to this course. The first is to teach students to make logical and convincing arguments which will be applied to classroom debating, and to discussions. The second is to teach students to write logical arguments to enable them to express their ideas clearly.

**到達目標**

To improve oral skills for discussion and debating.

To help students gain confidence when expressing their ideas and opinions.

To train students to develop critical-thinking which will be applied to both written and oral skills.

**授業方法**

Students will learn to master the art of conversation and discussion by being involved in debates about a variety of subjects. The aim is simply to learn by experience with continued practice from week to week. Students should be prepared to research topics they feel strongly about in order to present and discuss the class.

**授業計画**

- 第1回 Orientation
- 第2回 Strategies for writing arguments and debates for beginners.
- 第3回 Developing oral skills for debate.
- 第4回 What is critical-thinking? part one
- 第5回 Choosing appropriate topics and brain-storming ideas. part one
- 第6回 Debate practice 1
- 第7回 Live classroom debate (group work) part one
- 第8回 Mid-term test; assessed debate
- 第9回 Strategies for writing 2; choosing topics for final essay.
- 第10回 Debate practice 2
- 第11回 Live classroom debate (group work) part two
- 第12回 What is critical thinking? part two
- 第13回 Final test; assessed debate
- 第14回 Hand in final essays
- 第15回 Review

**成績評価の方法**

Class participation 20%, attitude and performance 20% , writing and presentation 40%, attendance 20%

**教科書**

なし

**16311****English Discussion II -d**

担当教員：Flenner, David

1 単位 後期

**授業のねらい**

There are two main aims to this course. The first is to teach students to make logical and convincing arguments which will be applied to classroom debating, and to discussions. The second is to teach students to write logical arguments to enable them to express their ideas clearly.

**到達目標**

To improve oral skills for discussion and debating.

To help students gain confidence when expressing their ideas and opinions.

To train students to develop critical-thinking which will be applied to both written and oral skills.

**授業方法**

Students will learn to master the art of conversation and discussion by being involved in debates about a variety of subjects. The aim is simply to learn by experience with continued practice from week to week. Students should be prepared to research topics they feel strongly about in order to present and discuss the class.

**授業計画**

- 第1回 Orientation and Review
- 第2回 Intermediate strategies for writing arguments and debates.
- 第3回 Further development of oral skills for debate.
- 第4回 What is critical-thinking? part three
- 第5回 Choosing appropriate topics and brain-storming ideas. part two
- 第6回 Debate practice 1
- 第7回 Live classroom debate (group work) part one
- 第8回 Mid-term test; assessed debate
- 第9回 Advanced strategies for writing; choosing topics for final essay.
- 第10回 Debate practice 2
- 第11回 Live classroom debate (group work) part two
- 第12回 What is critical thinking? part four
- 第13回 Final test; assessed debate
- 第14回 Hand in final essays
- 第15回 Review

Please note: the above time scale may change depending on the speed of class progress.

**成績評価の方法**

Class participation 20%, performance and attitude 20%, writing and presentation 40%, attendance 20%

**教科書**

なし



**16501****Public Speaking a**

担当教員：Alan Mallock

1 単位 前期

**授業のねらい**

The purpose of this course is to improve students' oral persuasion techniques by understanding the appropriate public speaking skills. Students need to understand that how they say something and how they physically present themselves are just as important as what they say. By understanding the dynamics involved in effective persuasive speaking, students will improve their overall confidence in communicating.

**到達目標**

Students will be able to:

- 1) Demonstrate the appropriate public speaking and listening skills (e. g., body language, articulation, listening to be able to identify specific examples of the speaker's coordination of talking and action) that would be necessary to influence or change someone's mind or way of thinking about a topic.
- 2) Develop methods to analyze other students' speeches.
- 3) Understand outlining main ideas.
- 4) Create a persuasive speech.

**授業方法**

The class will be taught using a student centered instructional methodology.

**授業計画**

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | Introduction to the class                      |
| 第2回  | Sharing ideas for the class                    |
| 第3回  | Preparation for project                        |
| 第4回  | Student / Teacher created Speaking Project 1-1 |
| 第5回  | Student / Teacher created Speaking Project 1-2 |
| 第6回  | Student / Teacher created Speaking Project 1-3 |
| 第7回  | Student / Teacher created Speaking Project 2-1 |
| 第8回  | Student / Teacher created Speaking Project 2-2 |
| 第9回  | Student / Teacher created Speaking Project 2-3 |
| 第10回 | Student / Teacher created Speaking Project 2-4 |
| 第11回 | Student / Teacher created Speaking Project 3-1 |
| 第12回 | Student / Teacher created Speaking Project 3-2 |
| 第13回 | Student / Teacher created Speaking Project 3-3 |
| 第14回 | Student / Teacher created Speaking Project 3-4 |
| 第15回 | Student Evaluation                             |
- This plan will be modified to suit the needs of the students.

**成績評価の方法**

Students will be graded on preparation and presentation of their speeches as well as homework, participation and attitude.

Speeches: 80%  
Classroom: 20%

**16511****Public Speaking b**

担当教員：Alan Mallock

1 単位 後期

**授業のねらい**

This is a continuation of Public Speaking a. The purpose of this course is to improve students' oral persuasion techniques by understanding the appropriate public speaking skills. Students need to understand that how they say something and how they physically present themselves are just as important as what they say. By understanding the dynamics involved in effective persuasive speaking, students will improve their overall confidence in communicating.

**到達目標**

Students will be able to:

- 1) Demonstrate the appropriate public speaking and listening skills (e. g., body language, articulation, listening to be able to identify specific examples of the speaker's coordination of talking and action) that would be necessary to influence or change someone's mind or way of thinking about a topic.
- 2) Develop methods to analyze other students' speeches.
- 3) Understand outlining main ideas.
- 4) Create a persuasive speech.

**授業方法**

The class will be taught using a student centered instructional methodology.

**授業計画**

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | Student / Teacher created Multimedia Project 1-1 |
| 第2回  | Student / Teacher created Multimedia Project 1-2 |
| 第3回  | Student / Teacher created Multimedia Project 1-3 |
| 第4回  | Student / Teacher created Multimedia Project 1-4 |
| 第5回  | Student / Teacher created Multimedia Project 2-1 |
| 第6回  | Student / Teacher created Multimedia Project 2-2 |
| 第7回  | Student / Teacher created Multimedia Project 2-3 |
| 第8回  | Student / Teacher created Multimedia Project 2-4 |
| 第9回  | Student / Teacher created Multimedia Project 2-5 |
| 第10回 | Student / Teacher created Multimedia Project 3-1 |
| 第11回 | Student / Teacher created Multimedia Project 3-2 |
| 第12回 | Student / Teacher created Multimedia Project 3-3 |
| 第13回 | Student / Teacher created Multimedia Project 3-4 |
| 第14回 | Student / Teacher created Multimedia Project 3-5 |
| 第15回 | Student Evaluation                               |
- This plan will be modified to suit the needs of the students.

**成績評価の方法**

Students will be graded on preparation and presentation of their speeches as well as homework, participation and attitude.

Speeches: 80%  
Classroom: 20%

16521

## Public Speaking c

担当教員：Hampton, Dane Arthur

1 単位 前期

## 授業のねらい

This course will introduce students to the basics of making speeches and giving presentations in English, covering the three aspects of public speaking: the physical message, the visual message and the story message. The physical message refers to the body language of posture, eye contact and gestures. The visual message means the charts, diagrams or other visual aids that accompany a speech. The story message is the words of the speech itself. Students will learn how to organize a speech to make it easy for listeners to understand and then how to deliver it in an effective way. In the semester, the focus will be on the physical message.

## 到達目標

In this class, students will learn to plan, prepare and give presentations in English using Power Point slides. After completing this course, students should have the confidence to give speeches and presentations in English on a variety of subjects in front of an audience. They will also improve their English, especially their pronunciation and intonation.

## 授業方法

Students will do about half of their speech preparation as homework and half in class under the guidance of the teacher. They will be expected to spend an hour or two each week outside of class preparing for class. Students will use Power Point to give their presentations, and a computer will be available in the classroom at all times. The teacher will check all students' English closely and critique their Power Point slides in front of the entire class.

## 授業計画

- 第1回 Students will give a total of three speeches over the course of the semester.  
Introduction to Public Speaking
- 第2回 The Physical Message
- 第3回 Posture and Eye Contact
- 第4回 Speech # 1: Informative Speech
- 第5回 Gestures
- 第6回 The Layout Speech
- 第7回 Speech Preparation
- 第8回 Speech # 2: Layout Speech (1)
- 第9回 Speech # 2: Layout Speech (2)
- 第10回 Voice Inflection
- 第11回 The Demonstration Speech
- 第12回 Speech Preparation
- 第13回 Speech Preparation, cont.
- 第14回 Speech # 3: Demonstration Speech (1)
- 第15回 Speech # 3: Demonstration Speech (2)

## 成績評価の方法

The first two speeches will count for 25% each and the final speech for 50% of the grade. Students will be graded not only on the performance of the speech itself but on the preparation leading up to the speech as well, with half of each grade being based on preparation and half on performance.

## 教科書

N/A

## 教科書・参考書に関する備考

materials to be provided by teacher

16531

## Public Speaking d

担当教員：Hampton, Dane Arthur

1 単位 後期

## 授業のねらい

This course will introduce students to the basics of making speeches and giving presentations in English, covering the three aspects of public speaking: the physical message, the visual message and the story message. The physical message refers to the body language of posture, eye contact and gestures. The visual message means the charts, diagrams or other visual aids that accompany a speech. The story message is the words of the speech itself. Students will learn how to organize a speech to make it easy for listeners to understand and then how to deliver it in an effective way. In the semester, the focus will be on the visual message and the story message.

## 到達目標

In this class, students will learn to plan, prepare and give presentations in English using Power Point slides. After completing this course, students should have the confidence to give speeches and presentations in English on a variety of subjects in front of an audience. They will also improve their English, especially their pronunciation and intonation.

## 授業方法

Students will do about half of their speech preparation as homework and half in class under the guidance of the teacher. They will be expected to spend an hour or two each week outside of class preparing for class. Students will use Power Point to give their presentations, and a computer will be available in the classroom at all times. The teacher will check all students' English closely and critique their Power Point slides in front of the entire class.

## 授業計画

- 第1回 Students will spend most of the second semester preparing a long speech for their final presentation.  
They will perform each part of the speech—introduction, body and conclusion—first separately and then again combined into one long speech.  
The Visual Message
- 第2回 Comparison Charts
- 第3回 Country Comparison Speech: Preparation
- 第4回 Country Comparison Speech: Presentation
- 第5回 The Story Message
- 第6回 Product Comparison Speech
- 第7回 The Introduction: Preparation
- 第8回 The Introduction: Presentation
- 第9回 The Body
- 第10回 The Body: Preparation
- 第11回 The Body: Presentation
- 第12回 The Conclusion: Preparation
- 第13回 The Conclusion: Presentation
- 第14回 Final Presentation: Product Comparison Speech (1)
- 第15回 Final Presentation: Product Comparison Speech (2)

## 成績評価の方法

The first two speeches will count for 25% each and the final speech for 50% of the grade. Students will be graded not only on the performance of the speech itself but on the preparation leading up to the speech as well, with half of each grade being based on preparation and half on performance.

## 教科書

N/A

## 教科書・参考書に関する備考

materials to be provided by teacher

16621

## Writing Workshop a

担当教員：Fortunato, Helena

1 単位 前期

### サブタイトル

Writing Workshop a

### 授業のねらい

This writing course focuses on developing general writing skills. Students should learn how to create analytic and well-supported written pieces. We will use different appropriate styles and language used in the diverse forms of written communication (business, letter, report, short CV, email). Proposal writing as well as elements of presentation techniques will be learnt.

### 到達目標

- 1 - Write a Business Proposal 500 words long.
- 2 - Prepare daily homework under the form of short paragraphs, grammar exercises, and assigned text readings.
- 3 - In-class reading, text analyses, and writing exercises.
- 4 - Prepare an e-mail and a cover letter for a job application.
- 5 - Presentation and discussion of Proposals.

### 授業方法

- Students are expected to produce several short pieces of writing using different styles. Revision is a key part of the writing process.
- Students will work in group to develop their writing skills. Readings cover a variety of different topics appropriate for the course.
- Students will be given daily home work: writing assignments (letters, emails, outlines) as well as reading assignments (book and appropriate journal texts).
- Students are expected to work a minimum of 1 - 2 hours per week to review the concepts studied in class and prepare home work.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to the course - Course Goals and Policy
- 第2回 Elements of General Writing (1) - Formatting and Outlines
- 第3回 Elements of General Writing (2) - Introduction and Conclusion
- 第4回 Elements of General Writing (3) - Body Paragraphs
- 第5回 Elements of General Writing (4) - Paragraph Development, Evidence and Detail
- 第6回 Elements of Technical Writing (1) - Numbers, Units of Measurement, Equations
- 第7回 Elements of Technical Writing (2) - Abbreviations, Hyphens
- 第8回 Elements of Technical Writing (3) - Common Mistakes and Misuse of Words
- 第9回 Dealing with Citations, Bibliography, and Copywriting
- 第10回 Revising Texts
- 第11回 Revising Texts
- 第12回 Emphasis in Cover Letters and Emails
- 第13回 Preparing a Business Proposal 1
- 第14回 Preparing a Business Proposal 2
- 第15回 Conclusion of the course - Presenting your Proposal

### 成績評価の方法

Proposal writing for the achievement of objective 1 (30%), in-class and homework assignments for the achievement of objectives 2, 3, and 4 (50%), presentation and discussion of Proposals for the achievement of objective 5 (20%).

### 教科書

Dorothy E. Zemach and Carlos Islam, *Writing Paragraphs: from sentence to paragraph* (Macmillan Education, 2011, ISBN : 978-0-230-41593-5)

### 教科書・参考書に関する備考

Students will be given handouts and texts appropriate to the course goals and level to read and analyze

16631

## Writing Workshop b

担当教員：Fortunato, Helena

1 単位 後期

### サブタイトル

Writing Workshop b

### 授業のねらい

This writing course focuses on developing their writing skills in general. Students should learn how to create analytic and well-supported written pieces. We will use different appropriate styles and language used in the diverse forms of written communication (business, letter, report, short CV, email). Job application packages and presentation will also be learnt.

### 到達目標

- 1 - Write one Essay 700 words long.
- 2 - Prepare daily homework under the form of short paragraphs, grammar exercises, and assigned text readings.
- 3 - In-class reading, text analyses, and writing exercises.
- 4 - Prepare a short and an extended CV.
- 5 - Prepare a Job application (including CV, cover letter, email, presentation outline).
- 6 - Give a Job Application Presentation.

### 授業方法

- Students are expected to produce several short pieces of writing using different styles. Revision is a key part of the writing process.
- Students will work in group to develop their writing skills. Readings cover a variety of different topics appropriate for the course.
- Students will be given daily home work: writing assignments (letters, emails, outlines) as well as reading assignments (book and appropriate journal texts).
- Students are expected to work a minimum of 1 - 2 hours per week to review the concepts studied in class and prepare home work

### 授業計画

- 第1回 Introduction to the course - Course Goals and Policy
- 第2回 Elements of General Writing - Review of main components 1
- 第3回 Elements of General Writing - Review of main components 2
- 第4回 Short Essay 1 - Preparatory Activities - Topic and Outline - brainstorming activities
- 第5回 Short Essay 1 - Discussion
- 第6回 Short Essay 1 - Revision
- 第7回 Presentation skills 1
- 第8回 Presentation skills 2
- 第9回 Building a short and extended CV 1
- 第10回 Building a short and extended CV 2
- 第11回 Putting all together - Preparing a Job Application
- 第12回 Putting all together - A Job Application (Revision and Discussion) 1
- 第13回 Putting all together - A Job Application (Revision and Discussion) 2
- 第14回 Conclusion of the course - Giving a Job Application Presentation 1
- 第15回 Conclusion of the course - Giving a Job Application Interview (role play)

### 成績評価の方法

Essay writing for the achievement of objective 1 (25%), in-class and homework assignments for the achievement of objectives 2, 3, and 4 (35%), final presentations for the

achievement of objective 5 and 6 (40%).

### 教科書

Dorothy E. Zemach and Carlos Islam, *Writing Paragraphs: from sentence to paragraph* (Macmillan Education, 2011, ISBN : 978-0-230-41593-5)

### 教科書・参考書に関する備考

Students will be given handouts and texts appropriate to the course goals and level to read and analyze.

16541～16544

## Advanced Writing a

担当教員：Advanced Writing a 担当者

1 単位 前期

### 授業のねらい

Advanced Writing is designed to assist students as they write their graduation theses. In the course, students will work on generating a unique research question that is of theoretical and/or practical interest and that can be answered within their graduate thesis. They will develop or select an appropriate methodological and theoretical approach to solving their research question, and will then follow this approach.

### 到達目標

Students will master the basic conventions of research writing and will learn to think critically and deeply to answer a research problem. They will develop awareness of writing mechanics and key elements of academic writing associated with words, grammar, and punctuation. They will learn to write coherent and cohesive paragraphs as write initial drafts of their thesis.

### 授業方法

In-class workshops will be held to help students hone their English writing skills. Class discussions will be held regarding the conceptualization of the thesis and practical steps to help organize research.

### 授業計画

- 第1回 Each instructor will determine his or her own schedule. A rough guide is provided below:  
Introduction to thesis writing
- 第2回 Organization and development activity focused on conceptualizing a research question
- 第3回 Discussion of reading research and discussing others ideas
- 第4回 Individual conferences to discuss students' research question and literature review
- 第5回 Writing skills activity focused on paragraph development and transitions
- 第6回 Finding and evaluating sources
- 第7回 Citations and research ethics, including a discussion of what constitutes plagiarism
- 第8回 Direct and indirect quotes and summarization
- 第9回 Writing longer sentences
- 第10回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第11回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第12回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第13回 Individual conferences to discuss drafts of students' second chapter and plans for research during the summer break
- 第14回 Individual conferences to discuss drafts of students' second chapter and plans for research during the summer break
- 第15回 Class discussion of plans for research during the summer break

### 成績評価の方法

The exact breakdown is left up to individual instructors. A recommended guideline is 40% for thesis drafts, 30% for weekly exercises, and 30% for participation and attendance

### 履修にあたっての注意

Academic integrity is taken very seriously. Plagiarism includes

using the words of ideas from another source (even if that source is one's own previous writing) without acknowledging where the words or ideas come from. Plagiarism may result in a failing grade.

### 教科書

担当者による

### 教科書・参考書に関する備考

The textbooks (if used) will be selected by each instructor.

### 参考ホームページ

Purdue OWL <https://owl.english.purdue.edu/owl/>



16551~16554

## Advanced Writing b

担当教員：Advanced Writing b 担当者

1 単位 後期

### 授業のねらい

Advanced Writing aims to help students as they write their senior theses. During the second semester of this course, students will write the final sections of their thesis and then go back and revise their initial drafts to produce a convincing piece of research.

### 到達目標

Students will complete their thesis, creating an answer to their research question that takes into account previous research and provides a carefully crafted and rigorous discussion.

### 授業方法

During the second semester, the course will involve short workshops and one-on-one conferences that focus on individual theses. Specific course requirements will be determined by individual instructors, but they may include (1) submission and review of initial thesis drafts, (2) exercises to improve writing skills, and (3) regular participation and attendance, including individual conferences.

### 授業計画

- 第1回 Each instructor will determine her/his own schedule.  
A sample session plan is provided below:  
Class discussion of students' research conducted over the summer
- 第2回 Individual conference to review the first two chapters
- 第3回 Individual conference to review the first two chapters
- 第4回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第5回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第6回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第7回 Individual conference to review chapter 3
- 第8回 Individual conference to review chapter 3
- 第9回 Individual conference to review final chapters
- 第10回 Individual conference to review final chapters
- 第11回 Individual conference to review final chapters
- 第12回 Check of final revisions
- 第13回 Check of final revisions
- 第14回 Post-thesis reflections and preparation for thesis defense
- 第15回 Post-thesis reflections and meetings with students who did not pass

### 成績評価の方法

The exact breakdown of grades is left up to the individual instructor. A recommended guideline is 60% for thesis drafts, 10% for weekly exercises, and 30% for participation and attendance.

### 履修にあたっての注意

Academic integrity is taken very seriously. All students should ensure that they engage in ethical research practices.

### 教科書

担当者による

### 教科書・参考書に関する備考

Textbook selection is up to the individual instructors.

### 参考ホームページ

Purdue OWL <https://owl.english.purdue.edu/owl/>

16561～16564

## Advanced Writing c

担当教員：Advanced Writing c 担当者

1 単位 前期

### 授業のねらい

Advanced Writing is designed to assist students as they write their graduation theses. In the course, students will work on generating a unique research question that is of theoretical and/or practical interest and that can be answered within their graduate thesis. They will develop or select an appropriate methodological and theoretical approach to solving their research question, and will then follow this approach.

### 到達目標

Students will master the basic conventions of research writing and will learn to think critically and deeply to answer a research problem. They will develop awareness of writing mechanics and key elements of academic writing associated with words, grammar, and punctuation. They will learn to write coherent and cohesive paragraphs as write initial drafts of their thesis.

### 授業方法

Students will master the basic conventions of research writing and will learn to think critically and deeply to answer a research problem. They will develop awareness of writing mechanics and key elements of academic writing associated with words, grammar, and punctuation. They will learn to write coherent and cohesive paragraphs as write initial drafts of their thesis.

### 授業計画

- 第1回 Each instructor will determine his or her own schedule. A rough guide is provided below:  
Introduction to thesis writing
- 第2回 Organization and development activity focused on conceptualizing a research question
- 第3回 Discussion of reading research and discussing others ideas
- 第4回 Individual conferences to discuss students' research question and literature review
- 第5回 Writing skills activity focused on paragraph development and transitions
- 第6回 Finding and evaluating sources
- 第7回 Citations and research ethics
- 第8回 Direct and indirect quotes and summarization
- 第9回 Writing longer sentences
- 第10回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第11回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第12回 Individual conferences to discuss drafts of students' initial chapter
- 第13回 Individual conferences to discuss drafts of students' second chapter and plans for research during the summer break
- 第14回 Individual conferences to discuss drafts of students' second chapter and plans for research during the summer break
- 第15回 Class discussion of plans for research during the summer break

### 成績評価の方法

The exact breakdown is left up to individual instructors. A recommended guideline is 40% for thesis drafts, 30% for weekly exercises, and 30% for participation and attendance

### 履修にあたっての注意

Academic integrity is taken very seriously. Plagiarism includes using the words of ideas from another source (even if that source is one's own previous writing) without acknowledging where the words or ideas come from. Plagiarism may result in a failing grade.

### 教科書

担当者による

16571～16574

## Advanced Writing d

担当教員：Advanced Writing d 担当者

1 単位 後期

### 授業のねらい

Advanced Writing aims to help students as they write their senior theses. During the second semester of this course, students will write the final sections of their thesis and then go back and revise their initial drafts to produce a convincing piece of research.

### 到達目標

Students will complete their thesis, creating an answer to their research question that takes into account previous research and provides a carefully crafted and rigorous discussion.

### 授業方法

During the second semester, the course will involve short workshops and one-on-one conferences that focus on individual theses. Specific course requirements will be determined by individual instructors, but they may include (1) submission and review of initial thesis drafts, (2) exercises to improve writing skills, and (3) regular participation and attendance, including individual conferences.

### 授業計画

- 第1回 Each instructor will determine her/his own schedule.  
A sample session plan is provided below:  
Class discussion of students' research conducted over the summer
- 第2回 Individual conference to review the first two chapters
- 第3回 Individual conference to review the first two chapters
- 第4回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第5回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第6回 Individual conference to review chapter 3 drafts
- 第7回 Individual conference to review chapter 3
- 第8回 Individual conference to review chapter 3
- 第9回 Individual conference to review final chapters
- 第10回 Individual conference to review final chapters
- 第11回 Individual conference to review final chapters
- 第12回 Check of final revisions
- 第13回 Check of final revisions
- 第14回 Post-thesis reflections and preparation for thesis defense
- 第15回 Post-thesis reflections and meetings with students who did not pass

### 成績評価の方法

The exact breakdown of grades is left up to the individual instructor. A recommended guideline is 60% for thesis drafts, 10% for weekly exercises, and 30% for participation and attendance.

### 履修にあたっての注意

Academic integrity is taken very seriously. All students should ensure that they engage in ethical research practices.

### 教科書

担当者による

**授業のねらい**

In this course, students will focus on reading English texts on a variety of topics and then practice discussing the topics in pairs and groups. Although reading is an important aspect of this course, students will also have a chance to hone their listening, speaking, and writing skills. There will be many opportunities for students to improve critical thinking skills as well, through expression of opinions. The reading texts will center on these six topic areas: Education, Travel and Culture, Health and Environment, Society, Relationships, and Media and Technology. In addition to in-class reading, students will be expected to read material out of class for some of the units.

**到達目標**

1. Students will be able to demonstrate comprehension of reading texts through discussion, presentations, and writing assignments.
2. Students will demonstrate understanding of key vocabulary.
3. Students will hone their discussion skills and be able to express a clear opinion.
4. Students will demonstrate critical thinking strategies.
5. Students will improve their presentation skills

**授業方法**

This course will include lectures, pairwork, groupwork, vocabulary quizzes, and short opinion papers

Each unit will start with a reading text, followed by comprehension-style questions by the teacher. Students will then break into pairs or groups and discuss the topic. After a discussion of the topic, students will express their opinions. Students will then write a paragraph expressing their opinion on the topic or give a presentation.

\*\* Students should have a dictionary (either electronic or paperback) for this class as well as a notebook.

**授業計画**

- 第1回 Introduction to the course. Short reading assignment to demonstrate reading and discussion
- 第2回 Unit 1 - Learning with a Purpose  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第3回 Unit 1 - Vocabulary quiz/Lecture and practice writing a short opinion paper on the topic
- 第4回 Unit 2 - Speaking up in class  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第5回 Unit 2 - Vocabulary quiz/Writing a short opinion paper on the topic
- 第6回 Unit 3 - Becoming information literate  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第7回 Unit 3 - Vocabulary quiz/Writing a short opinion paper on the topic
- 第8回 Unit 5 - Living in a new culture  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第9回 Unit 5 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic
- 第10回 Unit 6 - Cultural stereotypes  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第11回 Unit 6 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic
- 第12回 Unit 7 - You are what you eat  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第13回 Unit 7 - Vocabulary quiz/Writing a short opinion paper on the topic
- 第14回 Unit 8 - Living with water  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]

第15回 Unit 8 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic

**成績評価の方法**

Presentations (X 3): 15%  
Vocabulary Quizzes (X 7): 35%  
Opinion Papers (X 3): 30%  
Final Test: 20%

**履修にあたっての注意**

It's important to come to every class because it will be difficult to do assignments if you were absent.

\*Students must have a B 5 notebook!

**教科書**

Richard McMahon, *Presenting Different Opinions* (Nan'un-do, 2003, ISBN : 9784523174134)

**教科書・参考書に関する備考**

There will be some additional readings supplied by the teacher.

16591

## Advanced Reading b

担当教員：Alan Bossaer

1 単位 後期

### 授業のねらい

In this course, students will focus on reading English texts on a variety of topics and then practice discussing the topics in pairs and groups. Although reading is an important aspect of this course, students will also have a chance to hone their listening, speaking, and writing skills. There will be many opportunities for students to improve critical thinking skills as well, through expression of opinions. The reading texts will center on these six topic areas: Education, Travel and Culture, Health and Environment, Society, Relationships, and Media and Technology. In addition to in-class reading, students will be expected to read material out of class for some of the units.

### 到達目標

1. Students will be able to demonstrate comprehension of reading texts through discussion, presentations, and writing assignments.
2. Students will demonstrate understanding of key vocabulary.
3. Students will hone their discussion skills and be able to express a clear opinion.
4. Students will demonstrate critical thinking strategies.
5. Students will improve their presentation skills

### 授業方法

This course will include lectures, pairwork, groupwork, vocabulary quizzes, and short opinion papers

Each unit will start with a reading text, followed by comprehension-style questions by the teacher. Students will then break into pairs or groups and discuss the topic. After a discussion of the topic, students will express their opinions. Students will then write a paragraph expressing their opinion on the topic or give a presentation.

\*\* Students should have a dictionary (either electronic or paperback) for this class as well as a notebook.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to the course. Short reading assignment to demonstrate reading and discussion
- 第2回 Unit 9 - Problems and hope  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第3回 Unit 9 - Vocabulary quiz/Lecture and practice writing a short opinion paper on the topic
- 第4回 Unit 10 - Women's Rights [Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第5回 Unit 10 - Vocabulary quiz/Writing a short opinion paper on the topic
- 第6回 Unit 11 - Buy this, buy that!  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第7回 Unit 11 - Vocabulary quiz/Writing a short opinion paper on the topic
- 第8回 Unit 12 - On the job  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第9回 Unit 12 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic
- 第10回 Unit 13- No strings attached  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第11回 Unit 13 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic
- 第12回 Unit 17 - Is television good for you?  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]
- 第13回 Unit 17 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic
- 第14回 Unit 18 - Taking access for granted  
[Reading/Comprehension questions/Discussion]

第15回 Unit 18 - Vocabulary quiz/Giving a short presentation on the topic

### 成績評価の方法

Presentations (X 3): 15%  
Vocabulary Quizzes (X 7): 35%  
Opinion Papers (X 3): 30%  
Final Test: 20%

### 履修にあたっての注意

It's important to come to every class because it will be difficult to do assignments if you were absent.

\*Students must have a B 5 notebook!

### 教科書

Richard McMahon, *Presenting Different Opinions* (Nan'un-do, 2003, ISBN : 9784523174134)

### 教科書・参考書に関する備考

There will be some additional readings supplied by the teacher.



16361

## Skills for the TOEFL e

担当教員：中津川 雅宣

1 単位 前期

## 授業のねらい

本講義では、基礎的な文法、語彙、リーディング、リスニングを日常の科学的な事象を通して学ぶことを目的とする。また、本講義では、TOEFL のスコアを上げるためだけでなく、あらゆる日常の科学を通し、大学の学修に必要な批判的な思考力を養う。

## 到達目標

本講義を通し、基本的な科学関係の読み物を英語で読めることができる。

TOEFL の基礎を学び、文法、読解、リスニングのスコアを高めることができる。

## 授業方法

講義一方的な講義形式と異なり、グループで学修を行うことを中心とする。毎回の授業では、文法や語彙のインターネット上で簡単な小テストを実施する。そのための予習を必ず行うこと。(所要時間 30 分程度) また、5 回の宿題を予定している。(所要時間 60 分程度) 毎回の小テストは、自動採点にて点数を各自公表し、宿題は朱書きで訂正し、返却する予定である。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス－ TOEFL 試験について
- 第 2 回 Why do people have eyelashes?
- 第 3 回 Why does pepper make you sneeze?
- 第 4 回 Why do we fall in love?
- 第 5 回 Why can't we cure a cold?
- 第 6 回 Why does our hair turn gray?
- 第 7 回 Why is the sea salty
- 第 8 回 中間試験
- 第 9 回 Why do women live longer than men?
- 第10回 Why do some species become extinct?
- 第11回 Why does the wind blow?
- 第12回 Why are spider webs so strong?
- 第13回 Why do we cry when we cut an onion?
- 第14回 Why Do Bugs Fly into Lights?
- 第15回 Why Is the Sky Blue?

## 成績評価の方法

毎回の授業での活動の様子 (30%)、授業の始めに課すクイズ (30%)、宿題 (20%)、試験 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業は日本語と英語を併用する。積極的な授業参加が必須である。

## 教科書

Clankie, S., & 中津川 雅宣, *Asking Why?: The Science of Everyday Life*. (金星堂, 2011, ISBN : 978-4-7647-3945-1)

16371

## Skills for the TOEFL f

担当教員：中津川 雅宣

1 単位 後期

## 授業のねらい

本講義では、TOEFLiBT で必要な語彙、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングを学んでいくことを目的とする。

## 到達目標

本講義を通し、TOEFL に必要な、語彙、読解、リスニングの能力を高めることができる。

英語で様々な講義を聞き、英語でそのまとめを書いたり、話したりすることができる。

## 授業方法

講義一方的な講義形式と異なり、グループで学修を行うことを中心とする。毎回の授業では、インターネット上で語彙の簡単な小テストを実施する。そのための予習を必ず行うこと。(所要時間 30 分程度) また、5 回の宿題を予定している。(所要時間 60 分程度) 毎回の小テストは、自動採点にて点数を各自公表し、宿題は朱書きで訂正し、返却する予定である。

## 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス－ TOEFL 試験について
- 第 2 回 Reading 1
- 第 3 回 Listening 1
- 第 4 回 Reading 2
- 第 5 回 Listening 2
- 第 6 回 Writing 1
- 第 7 回 Speaking
- 第 8 回 中間試験
- 第 9 回 Listening-Speaking 1
- 第10回 Reading-Writing 1
- 第11回 Listening-Speaking 2
- 第12回 Reading-Writing 2
- 第13回 Listening-Speaking 3
- 第14回 Reading-Writing 3
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

毎回の授業での活動の様子 (30%)、授業の始めに課すクイズ (30%)、宿題 (20%)、試験 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業は日本語と英語を併用する。積極的な授業参加が必須である。

## 教科書・参考書に関する備考

教材は、独自で作成したプリントを使用する。授業時に配布するので、紛失しないよう専用のファイルを準備すること。

16421

# Skills for the TOEIC e

担当教員：柳澤 将志

1 単位 前期

## 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 730 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

## 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）  
英語の構造（文型）
- 第2回 英語の構造(1) - 品詞と修飾
- 第3回 英語の構造(2) - 受身と第1～3回までのまとめ
- 第4回 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞、接続副詞
- 第5回 英語の構造(4) - 節の見極め
- 第6回 英語の構造(5) - 関係代名詞・隠れた関係代名詞（関係代名詞と分詞の変換）
- 第7回 英語の構造(6) - 準動詞の見極め
- 第8回 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第9回 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について
- 第10回 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第11回 リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析
- 第12回 リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）
- 第13回 リスニング(3) - 総まとめ
- 第14回 ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説・時制問題・ロジックの循環性
- 第15回 ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説

## 成績評価の方法

- 到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 730 点 (60%)
- 毎回の授業で課する小テスト (15%)
- 宿題の提出 (15%)
- 授業への参加状況 (10%)  
により評価する

## 履修にあたっての注意

ある程度基礎ができていることが前提となる（英検2級・準2級程度）。授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループ

ワークも行い、発表してもらうこともある。復習をしっかりとやる事。Starter コースよりも問題を解く量が増える。

## 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）  
TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

## 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。  
授業時に配布する。  
参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

## 参考書

祥伝社『TOEIC LISTENING AND READING TEST 千本ノック! 新形式対策 難問・ひっかけ・トリック問題編』（祥伝社、2016、ISBN：978-4396317041）  
ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM 付】TOEIC (R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）

2017年度以前入学生  
専攻 英語  
科目 化学  
科目

16431

# Skills for the TOEIC f

担当教員：柳澤 将志

1 単位 後期

## 授業のねらい

基礎項目（英語の構造・文法・単語）から始め、短い文章から少し長めの文章まで、なんとなくの訳ではなく、きちんと精読できる能力を身につける。

そのために TOEIC Listening & Reading TEST をたたき台とし、英語素材から必要な情報を抜き出して収集し、日本語で理解する技能を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 辞書を素早く正確にひくことができる
2. 品詞や文型といった、英語の構造をしっかりと理解できる
3. TOEIC Listening & Reading TEST 730 点の取得  
(そのために必要な単語を身につける)

## 授業方法

講義形式で行う。第1～7回までは、TOEIC 対策というよりも、一般英語として最低限必要な文法知識をおさらいする。8回目以降は、先に学んだ文法項目をどのように短文・長文の中で活用・使いこなすか（文法と読解をシンクロさせる作業）に重点を置きながら講義を進める。読解がある程度進んだところで、リスニングについての指導も行う。最終段階ではミニ模試を行う。

毎回の授業では、①文法や単語の小テスト（前回の復習） ②講義 ③問題演習 を行う

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（TOEIC Listening & Reading TEST について）  
英語の構造（文型）
- 第2回 英語の構造(1) - 品詞と修飾
- 第3回 英語の構造(2) - 受身と第1～3回までのまとめ
- 第4回 英語の構造(3) - 接続詞と前置詞、接続副詞
- 第5回 英語の構造(4) - 節の見極め
- 第6回 英語の構造(5) - 関係代名詞・隠れた関係代名詞（関係代名詞と分詞の変換）
- 第7回 英語の構造(6) - 準動詞の見極め
- 第8回 読解(1) - 訳出練習 1回～7回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第9回 読解(2) - 使役の本質。使役動詞以外の使役表現について
- 第10回 読解(3) - 訳出練習 1回～9回までで使った知識を長文読解にどう生かすか・使いこなすか
- 第11回 リスニング(1) リスニングの学習ガイダンスと問題分析
- 第12回 リスニング(2) - 意図問題（グラフィックなど）
- 第13回 リスニング(3) - 総まとめ
- 第14回 ミニ模試(1) - タイムマネジメントについて・ほか、文章選択問題・文章位置選択問題の解説・時制問題・ロジックの循環性
- 第15回 ミニ模試(2) - トリプルパッセージ問題の解き方解説

## 成績評価の方法

- 到達目標 3. を測定する TOEIC Listening & Reading TEST 730 点 (60%)
- 毎回の授業で課する小テスト (15%)
- 宿題の提出 (15%)
- 授業への参加状況 (10%)  
により評価する

## 履修にあたっての注意

ある程度基礎ができていることが前提となる（英検2級・準2級程度）。授業は基本的には講義形式で行うが、ペアワークやグループ

ワークも行い、発表してもらうこともある。復習をしっかりとやる事。Starter コースよりも問題を解く量が増える。

## 教科書

Educational Testing Service『公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3』（国際ビジネスコミュニケーション協会、2017、ISBN：978-4906033539）  
TEX 加藤『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ（TOEIC TEST 特急シリーズ）』（朝日新聞出版、2017、ISBN：978-4023315686）

## 教科書・参考書に関する備考

問題集や単語集以外で使う他教科書は、独自に作成したプリントを使用。  
授業時に配布する。  
参考書については、必要に応じて随時指示する。最新のモノが発売されれば変更もありうるので、急いで購入する必要はない。他、英和辞典（もしくは電子辞書）を用意する事。新規購入の学生については、ジーニアス英和辞典が入っていれば可

## 参考書

祥伝社『TOEIC LISTENING AND READING TEST 千本ノック! 新形式対策 難問・ひっかけ・トリック問題編』（祥伝社、2016、ISBN：978-4396317041）  
ヒロ前田・テッド寺倉・ロス タロック『【新形式問題対応/CD-ROM 付】TOEIC (R) L&R テスト 至高の模試 600 問』（アルク、2017、ISBN：978-4757428997）

2017年度以前入学生  
専 門 文 学  
英 語 文 学  
科 目 目 録

13851

## 文学演習 A-a

担当教員：英 美由紀

4 単位 通年

### サブタイトル

現代アメリカの女性作家による戯曲

### 授業のねらい

Eve Ensler の戯曲を読み、そこで取り上げられている身体のテーマを、第二波フェミニズム、及びその後の文脈において考察・議論する。

### 到達目標

1. 1960年代以降、現在までのフェミニズムの動向を踏まえたうえで、そこで焦点化された身体の議論を概観する。
2. 身体を主題とする文学作品や映画を取り上げ、特に Ensler のテキストを1の観点から考察する。またそれを口頭、レポートのかたちで発表する。

### 授業方法

テキストは担当箇所を決めて読み進めていきます。文意のレベルにとどまらず、その背景も含めて調べ、授業にのぞむようにしてください。事前事後学習に必要な時間の目安は、週2時間程度です。

担当者の発表に続き、ディスカッションをします。また作品全体を読み終えたら、先行研究にもあたりながら、レポートを作成してください。レポートの評価については、「講義連絡」等のシステムを利用し、フィードバックを行います。

後期には卒業研究に向けたガイダンスも行います。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 "Second Wave Feminism" (1)
- 第3回 "Second Wave Feminism" (2)
- 第4回 "Postfeminism" (1)
- 第5回 "Postfeminism" (2)
- 第6回 "Feminism and the Body" (1)
- 第7回 "Feminism and the Body" (2)
- 第8回 Eve Ensler - 作家と作品
- 第9回 The Good Body (1)
- 第10回 The Good Body (2)
- 第11回 The Good Body (3)
- 第12回 The Good Body (4)
- 第13回 The Good Body (5)
- 第14回 The Good Body (6)
- 第15回 小テスト、及び映像鑑賞
- 第16回 関連資料の検索と利用 (図書館ガイダンス)、及びレポート作成についての説明
- 第17回 先行研究 (1)
- 第18回 先行研究 (2)
- 第19回 卒業研究に向けて (ガイダンス)
- 第20回 The Vagina Monologue (1)
- 第21回 The Vagina Monologue (2)
- 第22回 The Vagina Monologue (3)
- 第23回 The Vagina Monologue (4)
- 第24回 The Vagina Monologue (5)
- 第25回 The Vagina Monologue (6)
- 第26回 The Vagina Monologue (7)
- 第27回 The Vagina Monologue (8)
- 第28回 先行研究 (1)
- 第29回 先行研究 (2)
- 第30回 まとめ、及び映像鑑賞

### 成績評価の方法

到達目標1、2ともに予習を含む授業への取り組み(40%)、小テスト(20%)、テキストの担当箇所の発表(20%)、レポート(20%)により、総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

履修者数や授業の進度により、後期に予定しているテキストを、女性身体の外見を主題とする映画3点程度に変更する可能性もあります。

単位の修得には一定以上の出席率を要します。(欠席は各学期3回以下であることが望ましい。遅刻2回で欠席1回とみなします。)

尚、履修者は一定数までとしますので、履修希望者は必ず初週の授業に出席するようにしてください。

### 教科書

Eve Ensler, *The Good Body* (Dramatist's Play Service, 2010, ISBN : 978-0822224471)

### 参考書

吉原令子『アメリカの第二波フェミニズム——一九六〇年代から現在まで』(ドメス出版、2013、ISBN : 978-4-8107-0797-7)

Sarah Gamble, *The Routledge Companion to Feminism and Postfeminism, 2nd ed.* (Routledge, 2001, ISBN : 978-0415243100)

Rosalind Gill, *Aesthetic Labour: Rethinking Beauty Politics in Neoliberalism* (Palgrave Macmillan, 2017, ISBN : 978-1137477644)

Eve Ensler, *The Vagina Monologue* (Virago Press Ltd, 2001, ISBN : 978-1860499265)



13871

## 文学演習 B-a

担当教員：木村 信一

4 単位 通年

### サブタイトル

ナサニエル・ホーソーンの『緋文字』を読む。

### 授業のねらい

ナサニエル・ホーソン(1804 - 64)の代表作『緋文字』を取り上げます。1635年から42年のボストン植民地を舞台に繰り広げられる歴史小説です。人妻ヘスタ・プリンと青年牧師アーサー・ディムズデルの道ならぬ恋に端を発する物語ですが、個人と社会、欲望と法、家族関係、ジェンダーなど、近代が抱える諸課題が複雑に織り込まれたテキストです。各人が自分の身に引き付けて考え、話し合う糸口を探します。

### 到達目標

- 1 英語のテキストを、構文に注意を払いながら、正確に読むことができる。
- 2 17世紀のニューイングランド植民地に関する基本的な知識を得ることができる。
- 3 19世紀のアメリカ文学の動向についての基本的な知識を得ることができる。
- 4 虚構の物語に託して、近代の言語文化の基層にある諸課題について理解を深める。

### 授業方法

『緋文字』では、ヘスタとディムズデルに加え、二人の間に生まれた不義の子パールとヘスタの法的な夫ロジャー・チリングワースの4人が、それぞれに独自の物語を紡ぎ出してゆきますが、この演習では、これをヒロインであるヘスタの物語として読むことに主眼をおき、重要な章を取り上げ、原文を拾い読みしながら、適宜、プレゼンテーション、ディスカッションを交えて進めてゆきます。

### 授業計画

- 第1回 はじめに一授業計画について（研究倫理についての指導を含む）
- 第2回 ホーソンとその時代
- 第3回 第2章と第3章(1)
- 第4回 第2章と第3章(2)
- 第5回 第2章と第3章(3)
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション(1)
- 第7回 第5章(1)
- 第8回 第5章(2)
- 第9回 第5章(3)
- 第10回 第5章(4)
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション(2)
- 第12回 第13章(1)
- 第13回 第13章(2)
- 第14回 第13章(3)
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション(3)
- 第16回 第6章(1)
- 第17回 第6章(2)
- 第18回 第15章
- 第19回 プレゼンテーションとディスカッション(4)
- 第20回 第17章
- 第21回 第18章(1)
- 第22回 第18章(2)
- 第23回 第18章(3)
- 第24回 第19章
- 第25回 プレゼンテーションとディスカッション(5)
- 第26回 プレゼンテーションとディスカッション(6)
- 第27回 第23章
- 第28回 第24章
- 第29回 プレゼンテーションとディスカッション(7)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

前期、後期の定期試験とレポートの成績7割、プレゼンテーション等、授業への貢献度3割を目安とします。

### 履修にあたっての注意

遅刻2回につき、1回の欠席とみなします。

### 教科書

ナサニエル・ホーソン『詳注緋文字』（南雲堂、2008、ISBN：4-523-29037-7）



13911

## 文学演習 D-a

担当教員：岡本 晃幸

4 単位 通年

## サブタイトル

Toni Morrison の Home (2012) を読む

## 授業のねらい

アメリカ文学の女性作家 Toni Morrison の Home (2012) を読みます。Morrison は 1993 年にアメリカのアフリカ系アメリカ人として初めてノーベル文学賞を受賞し、数々の優れた作品を発表してきた現代のアメリカ文学を代表する作家のひとりです。Home はアメリカの「忘れられた戦争」である朝鮮戦争に従軍し、心に傷を負ったアフリカ系アメリカ人男性とその妹の物語です。短いながらも戦争、人種差別、トラウマ、記憶、語りなど多様な視点から読むことができる作品です。作品の精読を通して文学・文化の研究方法を学びましょう。

また卒業研究に向けてプレゼンテーションの仕方、専門の論文や研究書の探し方と読み方、そして論文形式のレポートの作成法などを練習することも授業のねらいです。

## 到達目標

1. 中長編小説のストーリーを理解する。
2. 文学作品の英語を理解する。
3. 文化的背景など自分で調べることができるようになる。
4. 英語の註釈を参考できるようになる。
5. 文学作品の解釈ができるようになる。
6. 文学作品に関して発表とディスカッションができるようになる。
7. 先行研究を踏まえ自分自身の論を展開できる。
8. 形式に沿ったレポートが作成できる。

## 授業方法

- ・ 普段の授業は担当者 (1~3 人) を決め、一人 15 分~30 程度で発表してもらいます。内容はストーリー、英語、背景等の説明をした後、自分なりの解釈や内容に関する疑問点の提示です。その後クラス全体でディスカッションしていきます。担当に当たっていない時もしっかり作品を読み込み、内容を理解して自分なりの解釈やコメントを準備してきてください。
- ・ 前期と後期の最後にレポートを提出してもらいます。1 回のレポートは日本語 4000~6000 字程度、もしくは英語 1500~2000 words 程度の分量の予定です。またいずれの場合も 300~500 words 程度の英語の abstract をつけてもらいます。レポートはコメントをつけて返却し、場合によってはリライトし再提出してもらいます。

## 授業計画

- |        |            |                                  |
|--------|------------|----------------------------------|
| 第 1 回  | イントロダクション  | 授業の進め方、時代背景 1                    |
| 第 2 回  | 時代背景 2     |                                  |
| 第 3 回  | 時代背景 3     |                                  |
| 第 4 回  | Home 1     |                                  |
| 第 5 回  | Home 2     |                                  |
| 第 6 回  | Home 3     |                                  |
| 第 7 回  | Home 4     |                                  |
| 第 8 回  | Home 5     |                                  |
| 第 9 回  | Home 6     |                                  |
| 第 10 回 | レポートの書き方 1 | academic essay の構造、abstract、研究倫理 |
| 第 11 回 | レポートの書き方 2 |                                  |
| 第 12 回 | Home 7     |                                  |
| 第 13 回 | Home 8     |                                  |
| 第 14 回 | Home 9     |                                  |
| 第 15 回 | Home 10    |                                  |
| 第 16 回 | 前期の復習      |                                  |
| 第 17 回 | Home 11    |                                  |
| 第 18 回 | Home 12    |                                  |
| 第 19 回 | Home 13    |                                  |

- |        |          |
|--------|----------|
| 第 20 回 | Home 14  |
| 第 21 回 | Home 15  |
| 第 22 回 | Home 16  |
| 第 23 回 | Home 17  |
| 第 24 回 | Home 18  |
| 第 25 回 | Home 19  |
| 第 26 回 | Home 20  |
| 第 27 回 | Home 21  |
| 第 28 回 | Home 22  |
| 第 29 回 | 図書館ガイダンス |
| 第 30 回 | 卒論発表会    |

## 成績評価の方法

1. 到達目標 1~6 を測定する平常評価 30%
2. 到達目標 5~8 を測定するレポート 70%

## 履修にあたっての注意

- ・ 履修希望者は初回授業に出席すること。
- ・ 初回を含め毎回辞書を持参すること。
- ・ 授業の予定は変更する可能性があります。
- ・ 作品の英語は難しいかもしれませんが、必ず毎回作品の原文を読んで出席して下さい。
- ・ 単位修得のためには一定回数以上の出席を求めます。やむを得ない場合は授業前授業後に連絡をすること。
- ・ 授業の準備を全くしない、授業にも参加しない (出席してもなにも発言しない) など、学習意欲が芳しくない場合欠席・減点する場合があります。
- ・ 小テスト、レポートの不正に関しては厳正に対処します。
- ・ 希望者がいれば授業の前後のコマで作品に関連する論文などを読む勉強会を行う予定です。
- ・ 最初に時代背景の授業をしますが、ある程度のアメリカ史、アメリカ文学史の知識が必要になります。米文学史、英米文学概論などを未履修の学生はできるだけ履修してください。

## 教科書

Toni Morrison, *Home* (Vintage, 2013, ISBN : 978-0-099-55594-0)

## 教科書・参考書に関する備考

他の版もありますが、授業で使う版は統一しますので、上記の版を購入して下さい。

## 参考書

上杉忍『アメリカ黒人の歴史：奴隷貿易からオバマ大統領まで』(中央公論新社、2013)  
 ジェームズ・M・バーダマン『アメリカ黒人の歴史』(NHK 出版、2011)  
 山田史郎『アメリカ史のなかの人種』(山川出版社、2006)

## サブタイトル

認知文法論・英語の現象 2018

## 授業のねらい

この演習では、人間の認知能力や知覚という認知プロセスの観点から言語へのアプローチを試みる「認知言語学 (Cognitive Linguistics)」、特に「認知文法 (Cognitive Grammar)」と呼ばれる分野において、英語を中心とした言語研究を行う。具体的には、様々な英語の現象を「意味」や「機能」の観点から検証し、同時に言語を対照するために、日本語を据える。具体的には、つぎのテーマに沿った演習を展開する。

[前期] 認知文法論の基本文献演習 + 英語学研究法

[後期] 認知文法論の文献演習 + 論文のロジック & 批判的思考 + 個人ないしグループ研究発表

なお、個人ないしグループ研究発表は、最終的レポートとして提出し、推敲を重ねた後に論集へ投稿を行い、ゼミ論集 Fuji Journal of Cognitive Linguistics (FJCL) を刊行する。

## 到達目標

1. 認知文法に基づく言語研究・分析能力の習得。
2. 意味・機能に基づく英語（及び対照言語としての日本語）の現象の検証法の獲得。
3. 特に、言語学的に言語を見る目としての「言語観」の養成。
4. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力の涵養。

## 授業方法

演習による。

受講者による主体的なプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションを中心とする。受講者には、クラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求される。

[前期] 認知文法論に関する基本文献を読み、この理論分野からの言語アプローチの理解を深める。具体的には、英語の現象に関する基本文献を読み、意味・機能の観点から検証する。同時に言語を対照するために、日本語を据える。また、英語学研究法としてコーパスの使用法を学ぶ。

[後期] 認知文法論に関する文献を読み、この理論分野からの言語アプローチの理解をさらに深める。また、論文のロジックを知り、客観的に読み進め、同時に批判的に思考する方法を学ぶ。さらに、個人ないしグループ研究発表（プレゼンテーション及びディスカッション）を行う。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して 2.5 時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えようよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

クラス内で扱った事項について、参考文献を読むなど、理解を深めて次の回の授業に臨むこと。また、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出される課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内で、もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション + 研究の倫理教育  
第 2 回 認知文法論の基本文献演習(1)  
第 3 回 認知文法論の基本文献演習(2)

- 第 4 回 認知文法論の基本文献演習(3)  
第 5 回 認知文法論の基本文献演習(4)  
第 6 回 認知文法論の基本文献演習(5)  
第 7 回 認知文法論の基本文献演習(6)  
第 8 回 認知文法論の基本文献演習(7)  
第 9 回 認知文法論の基本文献演習(8)  
第 10 回 認知文法論の基本文献演習(9)  
第 11 回 英語学研究法(1)  
- 内省調査法とコーパス調査法の利点・欠点 -  
第 12 回 英語学研究法(2)  
- コーパス調査法(1) -  
第 13 回 英語学研究法(3)  
- コーパス調査法(2) -  
第 14 回 英語学研究法(4)  
- コーパス調査法(3) -  
第 15 回 レビュー(1) + 中間レポートの提出  
第 16 回 レビュー(2)  
第 17 回 認知文法論の文献演習(1) + 論文のロジック & 批判的思考(1)  
第 18 回 認知文法論の文献演習(2) + 論文のロジック & 批判的思考(2)  
第 19 回 認知文法論の文献演習(3) + 論文のロジック & 批判的思考(3)  
第 20 回 個人ないしグループ研究発表(1)  
第 21 回 認知文法論の文献演習(4) + 論文のロジック & 批判的思考(4)  
第 22 回 認知文法論の文献演習(5) + 論文のロジック & 批判的思考(5)  
第 23 回 認知文法論の文献演習(6) + 論文のロジック & 批判的思考(6)  
第 24 回 個人ないしグループ研究発表(2)  
第 25 回 認知文法論の文献演習(7) + 論文のロジック & 批判的思考(7)  
第 26 回 認知文法論の文献演習(8) + 論文のロジック & 批判的思考(8)  
第 27 回 認知文法論の文献演習(9) + 論文のロジック & 批判的思考(9)  
第 28 回 個人ないしグループ研究発表(3)  
第 29 回 ゼミ論集 FJCL への投稿にむけて  
第 30 回 ファイナルレビュー + 最終レポート（ゼミ論集 FJCL 用原稿）の提出

## 成績評価の方法

- ・平常点（授業への参加状況）60%
- ・レポート 40%

なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。さらに、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。また、この授業では、受講者にクラスに「積極的に」参加（綿密な予習・調査・準備、発表（プレゼンテーション・ディスカッション）に参加、課題への取り組みなど）することが要求されるので、受動的な参加者には単位が付与されない。

## 履修にあたっての注意

- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。受講者数を調整することがありうる。
- ・英語文化学科の学生は對馬担当の「英語学研究 a」(前期) 及び「英語学研究 b」(後期) を履修済みか同時に履修すること。
- ・扱う文献は 2017 年度 (前年度) 開講「英語学演習 A-b」と重複するものがある。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要な資料はハンドアウトで配布する。

## 参考書

- 辻幸夫(編)『新編 認知言語学キーワード事典』(研究社、2013、ISBN: 9784767434766)  
ロナルド・W・ラネカー (Ronald W. Langacker) 『認知文法論序説』(研究社、2011、ISBN: 9784327401580)  
ジョン・R・テイラー (John R. Taylor) / 瀬戸賢一 『認知文法のエッセンス』(大修館書店、2008、ISBN: 9784469213225)  
山梨正明 『認知言語学原理』(くろしお出版、2000、ISBN: 9784874241899)  
野矢茂樹・西村義樹 『言語学の教室 哲学者と学ぶ認知言語学』(中央公論新社、2013、ISBN: 9784121022202)  
影山太郎(編) 『日英対照 動詞の意味と構文』(大修館書店、2001、ISBN: 9784469244595)  
影山太郎(編) 『日英対照 形容詞・副詞の意味と構文』(大修館書店、2009、ISBN: 9784469245417)  
影山太郎(編) 『日英対照 名詞の意味と構文』(大修館書店、2011、ISBN: 9784469245684)  
池上嘉彦 『「英文法」を考える』(筑摩書房、1995、ISBN: 9784480082305)  
葛西清蔵 『英語学演義』(現代工学社、2006、ISBN: 9784874721964)

## サブタイトル

生成文法の枠組みで日本語や英語の音韻や形態を分析する

## 授業のねらい

私たちは脳内にある日本語母語話者としての「日本語の知識」をどのように獲得したのだろうか、またそれは具体的に一体どのようなものなのか、そしてそれは例えば英語母語話者の脳内にある「英語の知識」とどのような点で似ていて、どのような点で異なっているのか等の質問を出発点に、「生成文法 (Generative Grammar)」と呼ばれる言語学の枠組みで、日本語や英語の音韻や形態について学ぶ。授業で扱う分野は、音声学・音韻論・形態論・第一言語習得論などである。

## 到達目標

1. 日本語の音韻・形態に関するさまざまなトピックについて書かれた文献を読み、関連する理論を理解し、データの分析ができるようになる。
2. 母語である日本語の音韻・形態などに関するレポートが書けるようになる。(自らテーマを見つけ、データを収集し、分析する。)

## 授業方法

ゼミ形式で行う。日本語の音声、音韻、形態について英語で書かれた文献を読む。原則として、1回の授業につき1～2つのトピックを扱い、ディスカッションをしながら進めていく。毎回の授業を受けるにあたり、受講者は reading と problem sets の課題をやらなければならない(事前事後準備時間2時間程度)。

後期の第17回・第18回・第20回・第21回の授業において、受講者はディスカッション・リーダーを担当する。また、後期には、授業と並行して、受講者は各自選んだトピックについてレポートを書く。1月の授業では、それぞれ自分のレポートについて発表をする。

problem sets の課題については、採点後に(必要に応じて)授業で解説する。レポートは個人面談を行い、トピック選びや内容等についての指導を行う。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション  |
| 第2回  | 生成文法とは?(1): 町田(1999) Q 3 & Q 7; Tsujimura (2014) Ch. 1 |
| 第3回  | 生成文法とは?(2): Tsujimura (2014) Ch. 1                     |
| 第4回  | 生成文法とは?(3): Larson (2010) Unit 1; 北川&上山(2004) 1.1-1.3  |
| 第5回  | 音声学(1): 世界の言語の音、調音のメカニズム                               |
| 第6回  | 音声学(2): 日本語と英語の音声 (Tsujimura (2014) 2. 1)              |
| 第7回  | 音声学(3): 母語しての日本語の音声の習得 (Tsujimura (2014) 2.2)          |
| 第8回  | 音韻論(1): 日本語における音韻規則 (Tsujimura (2014) 3.1)             |
| 第9回  | 音韻論(2): 連濁 (Tsujimura (2014) 3.2)                      |
| 第10回 | 音韻論(3): 音節とモーラ、スピーチ・エラー (Tsujimura (2014) 3.3)         |
| 第11回 | 音韻論(4): 日本語における短縮語の最小性制約 (Tsujimura (2014) 3.4)        |
| 第12回 | 音韻論(5): 日本語の外来語 (Tsujimura (2014) 3.5)                 |
| 第13回 | 音韻論(6): 日本語のオノマトペ (Tsujimura (2014) 3.7)               |
| 第14回 | 音韻論(7): 母語しての日本語の音韻規則の習得 (Tsujimura (2014) 3.8)        |
| 第15回 | 前期まとめ  |
| 第16回 | 前期の復習: 形態論(1): 語、形態素、語形成                               |
| 第17回 | 形態論(2): 日本語の品詞(1) (Tsujimura (2014) 4.1)               |

- |      |   |
|------|---|
| 第18回 | 形態論(3): 日本語の品詞(2) (Tsujimura (2014) 4.1)  |
| 第19回 | 形態論(4): 日本語における形態素のタイプ (Tsujimura (2014) 4.2)                                       |
| 第20回 | 形態論(5): 日本語における語形成(1) (Tsujimura (2014) 4.3)  |
| 第21回 | 形態論(6): 日本語における語形成(2) (Tsujimura (2014) 4.3)  |
| 第22回 | レポートについて  |
| 第23回 | 形態論(7): 語形成と生産性(1) (Haspelmath & Sims (2010) Ch. 6; Aronoff & Fudeman (2010) Ch. 8) |
| 第24回 | 形態論(8): 語形成と生産性(2) (Haspelmath & Sims (2010) Ch. 6; Aronoff & Fudeman (2010) Ch. 8) |
| 第25回 | 形態論(9): 語形成と生産性(3) Problem sets   |
| 第26回 | 形態論(10): 日本語の自動詞・他動詞(1) (Tsujimura (2014) 4.4)                                      |
| 第27回 | 形態論(11): 日本語の自動詞・他動詞(2) (Tsujimura (2014) 4.4)                                      |
| 第28回 | 形態論(12): 母語しての日本語の形態の習得 (Tsujimura (2014) 4.7)                                      |
| 第29回 | レポートの発表(1)  |
| 第30回 | レポートの発表(2)  |

## 成績評価の方法

到達目標1を測定する前期試験(30%)、到達目標2を測定する後期レポート(30%)、授業への参加・発表・課題(40%)

## 履修にあたっての注意

1. 「言語学基礎演習 a, b」か「言語学概論 a, b」のどちらかを履修していること。(どちらも履修していることが望ましい。)どちらも履修していない受講希望者は、今年度「言語学概論 a, b」を履修してください。
2. 全員が活発に参加できる少人数でのゼミを目指しているため、人数が多い場合は人数制限をする。その際には、(1)に挙げた授業への参加を考慮する。1回目の授業に必ず出席のこと。

## 教科書

Tsujimura, Natsuko, *An Introduction to Japanese Linguistics (3rd ed.)* (Blackwell, 2014, ISBN : 978-1444337730)

## 教科書・参考書に関する備考

部分的にコピーを使うので、購入する必要はない。

## 参考書

Larson, Richard K., *Grammar as Science* (MIT Press, 2010, ISBN : 978-0262513036)  
 Aronoff, Mark & Fudeman, Kirsten, *What Is Morphology?* (2nd ed.) (Wiley-Blackwell, 2010, ISBN : 978-1405194679)  
 Haspelmath, Martin & Sims, Andrea, *Understanding Morphology (2nd ed.)* (Routledge, 2010, ISBN : 978-0340950012)  
 町田健『言語学が好きになる本』(研究社、1999、ISBN : 978-4327376741)  
 北川善久、上山あゆみ『生成文法の考え方』(研究社、2004、ISBN : 978-4327257026)



16901

## コミュニケーション演習 A-a

担当教員：Mueller, Charles

4単位 通年

### サブタイトル

認知言語学

### 授業のねらい

Students will learn how Cognitive Linguistics and related theoretical approaches have attempted to provide more realistic accounts of how language interacts with context and how language is acquired as human beings form mental categories.

### 到達目標

During the first semester, students will gain familiarity with key Cognitive Linguistic theories related to (1) construal, (2) frames, (3) scripts, and (4) constructions. During the second semester, students will learn (4) key theoretical frameworks for understanding force dynamics and (5) figurative language.

### 授業方法

Students will listen to lectures and will apply key concepts as they analyze linguistic data. Students will also give presentations of research projects related to scripts, frames, force dynamics and figurative language. For each hour in of classroom instruction, students are expected to spend at least two hours of preparation.

### 授業計画

- 第1回 Cognitive operations
- 第2回 Prototypes
- 第3回 Primacy of the basic level and family resemblance
- 第4回 Image schemas and metaphor
- 第5回 Frames
- 第6回 Event frames
- 第7回 Language-specific framing: Slobin's conceptualization of "thinking for speaking"
- 第8回 Construction grammar: Introduction
- 第9回 Construction grammar: the CAUSE TO RECEIVE construction
- 第10回 Pedagogical implications of the Cognitive Linguistic approach
- 第11回 Conducting research in Cognitive Linguistics
- 第12回 Student presentations on basic elements of the Cognitive Linguistic approach
- 第13回 Student presentation on categorization
- 第14回 Student presentations on metaphor and framing
- 第15回 Student presentations on the usage-based model
- 第16回 Force dynamics: The English modals
- 第17回 Force dynamics: Talmy's system
- 第18回 Force dynamics: Pedagogical approach to verbs
- 第19回 Force dynamics: Other research on pedagogical approaches
- 第20回 Metaphor: mapping, experiential and primary metaphors
- 第21回 Metaphor: inheritance, complexity, and metaphor families
- 第22回 Mental spaces and blending
- 第23回 Metonymy
- 第24回 Grammatical constructions and figurative meaning
- 第25回 Grammatical constructions and figurative meaning
- 第26回 Crosslinguistic study of metaphor
- 第27回 Figurative language in discourse
- 第28回 Student presentations of research
- 第29回 Student presentations of research
- 第30回 Student presentations of research

### 成績評価の方法

Grades will be based on participation (10%), in-class quizzes (10%), student's first-semester presentation on textbook chapters (20%), the first semester final exam (20%), student second-semester research projects (20%), and the second semester final exam (20%).

### 教科書

初山 洋介『認知言語学入門』(研究社、2010、ISBN: 13: 978-4327378196)

### 参考ホームページ

Cognitive Linguistics (class webpage) <http://secondlanguageacquisition.org/cl.pdf> (The webpage will contain class notes, references to further readings, and explanations of assignments.)



16921

## コミュニケーション演習 B-a

担当教員：井筒 美津子

4 単位 通年

### サブタイトル

言語についての「通説」を考える

### 授業のねらい

ことばについて、しばしば語られる「通説」(language myth)がある。この授業では、コミュニケーションに関わる通説を扱った英語論文を読むことを通して、コミュニケーションを批判的かつ多角的に考察する。

本授業では、英語で論文を読むことにより、英語論文を読むための読解力や文法力を養う。さらに、学術論文を通して、データの収集方法や分析方法、英語論文の書き方など言語学研究の進め方を併せて学んでいく。

### 到達目標

1. 語用論 (pragmatics) や談話分析 (discourse analysis) に関する知識を深める。
2. 英語で書かれた学術論文を読む力を身につける。
3. 卒業論文執筆に必要な言語学研究の進め方を学ぶ。

### 授業方法

学生による発表を中心として行う。

授業では、以下の英語論文を読む予定である。(論文の内容や順序は変更することもある。)

前期 'Women talk more than men,' Abby Kaplan (2016) Language Myth, Ch. 8.

後期 'Texting makes you illiterate,' Abby Kaplan (2016) Language Myth, Ch. 9.

毎回、担当者を決め、論文の指定された箇所について発表する。発表者は、他の学生の質問に答えられるよう熟読し、関連文献を調べ、必要であればハンドアウトを作成すること。

\* 発表者以外の学生も指定された場所を事前に必ず読み、疑問点 (英語が分からなかった点・内容的に疑問を感じた点) をコメントカードにまとめ、毎回必ず提出する。従って、発表者かどうかに関わらず、毎回必ず予習 (事前学習 1 時間程度) が必要となる。

毎週提出したコメントカードには、次回の授業で可能な限り、取り上げる。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(1)
- 第3回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(2)
- 第4回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(3)
- 第5回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(4)
- 第6回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(5)
- 第7回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(6)
- 第8回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(7)
- 第9回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(8)
- 第10回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(9)
- 第11回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(10)
- 第12回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(11)
- 第13回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(12)
- 第14回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(13)
- 第15回 Kaplan (2016) Ch. 8 を読む(14)、レポートについて
- 第16回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(1)
- 第17回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(2)
- 第18回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(3)
- 第19回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(4)
- 第20回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(5)
- 第21回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(6)
- 第22回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(7)
- 第23回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(8)
- 第24回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(9)
- 第25回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(10)

- 第26回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(11)
- 第27回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(12)
- 第28回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(13)
- 第29回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(14)
- 第30回 Kaplan (2016) Ch. 9 を読む(15)

### 成績評価の方法

到達目標 1、2、3 を測定するためのレポート (50%)、到達目標 1、2 を測定するための発表 (20%)・コメントカードの提出 (30%) により評価する。3 分の 1 以上欠席した者には単位を認めない。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業時に配布する。

16961

## 総合研究演習 A-a

担当教員：Redlich, Jeremy

4単位 通年

### サブタイトル

Literary Theory: An introduction to analyzing texts

### 授業のねらい

While 'literary theory' has significantly changed how we read and understand literature, language, identity and society, it is often criticized for being unnecessarily confusing, complex and abstract. This course aims to introduce the fundamental concepts and schools of thought in literary theory, and to ultimately make literary theory more accessible and enjoyable for students to use in analyzing texts. This course will help students grasp key concepts in literary theory, such as deconstruction, Marxist criticism, (post)-structuralism and postcolonial theory. Overall this course is designed to help students understand and apply literary theories to analyzing texts, which will hopefully enhance students' interest and enjoyment of literature.

### 到達目標

After completing this course students will have (1) a deeper understanding of the broad development of literary theory from the early 20th century until the present, (2) an understanding of some of the key concepts in theory (such as deconstruction and structuralism) and the major schools of theory (such as Russian Formalism and New Criticism), (3) practice in discussing and applying literary theories to literature that they already enjoy.

### 授業方法

The instructor will provide background information, context and explanation of the key trends and developments in literary theory during the 20th century until today. The instructor will facilitate discussion in-class, as either pair or small-group discussion, in order to provide students the opportunity to practice communicating their ideas on the content, and ask questions when needed. The instructor will also provide guidance and models for applying literary theory to analyzing texts, and provide feedback on student written responses and literary analyses.

### 授業計画

- 第1回 Introduction to literary theory: Approaches to literature - Literary Criticism vs. Literary Theory
- 第2回 Introduction to literary theory: Approaches to literature - Literary Criticism vs. Literary Theory
- 第3回 Russian Formalism and the New Criticism: Reading like a formalist - Victor Shklovsky
- 第4回 Russian Formalism and the New Criticism: Reading like a new critic
- 第5回 Reader Response Theory: The reader as producer
- 第6回 Reader Response Theory: Hermeneutics and Phenomenology
- 第7回 Reader Response, Hermeneutics and Phenomenology: Presentation
- 第8回 Structuralism: What is structure? Structure of language and literature
- 第9回 Structuralism: Reading like a structuralist
- 第10回 Structuralism: Presentation
- 第11回 Post-structuralism: After Structuralism
- 第12回 Post-structuralism: Derrida - deconstruction
- 第13回 Post-structuralism: Presentation
- 第14回 Review of key concepts
- 第15回 Midterm Examination
- 第16回 Psychoanalysis and literature: Foundations, Freud,

- and reading like a Freudian
- 第17回 Psychoanalysis and literature: Jacques Lacan and reading like a Lacanian
- 第18回 Psychoanalysis and literature: Presentation
- 第19回 Feminist literary theories: politics and literature
- 第20回 Feminist literary theories: Gender, language and performativity
- 第21回 Feminist literary theories: Presentation
- 第22回 Marxist literary theories: Dialectics and Marxism
- 第23回 Marxist literary theories: Ideology and reading like a Marxist critic
- 第24回 Marxist literary theories: Presentation
- 第25回 Postcolonial literary theory: colonialism/postcolonialism, colonizer/colonized
- 第26回 Postcolonial literary theory: Reading like a postcolonial critic
- 第27回 Postcolonial literary theory: Presentation
- 第28回 Literary theory now
- 第29回 Practice applying theory to literary analysis
- 第30回 Practice applying theory to literary analysis

### 成績評価の方法

Students will be assessed on preparation and participation in each class (20%), six written response/reflections during the course of the year (25%), a presentation (15%), a mid-term exam (15%) and a final examination (25%)

### 教科書

Jonathan Culler, *Literary Theory: A very short introduction* (Oxford University Press, 2011, ISBN : 978-0199691340)

### 参考書

Terry Eagleton, *Literary Theory: An introduction* (U of Minnesota Press, 2008, ISBN : 978-0-8166-5447-5)

16981

## 総合研究演習 B-a 担当教員：大桃 陶子

4 単位 通年

### サブタイトル

第一次世界大戦を扱った小説をテーマとしたレポートを書く

### 授業のねらい

本授業では、第一次世界大戦を扱った D.H. ロレンスの短編小説についての論文を日本語で書き上げることを目的とする。まず最初にこの歴史的世界戦争の始まりから終結まで、BBC 制作のドキュメンタリーを参考に基本的な知識を習得する。そしてセバスチャン・フォークス、シュテファン・ツヴァイク、シーグフリート・サスン、ウィルフレッド・オーウェンによる作品を鑑賞した後、ロレンスとの比較を図る。その後第一次世界大戦に関する論文を読み、要約する作業を課す。

### 到達目標

1. 第一次世界大戦の経緯についての知識を身につける。
2. 日本語による論文の書き方を学び、それを実践する。
3. 指定の短編小説について、授業内での討論を通じ、自分なりの解釈を行う。

### 授業方法

前期は第一次世界大戦に関する基本的な知識を習得し、その後関連論文を読んでいく。学生には日本語で書かれた論文の要約を行うことが求められる。学生は用意した要約を授業内で発表し、その後教員による添削を受けることになる。また、論文作法なども指導していく。前期は授業内容を整理するために毎授業後1時間は復習を行うこと。論文を要約する際はおよそ3時間かかるものとする。最終レポートについては、添削の後、答案を返却する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「1914-18」 EPISODE 1 EXPLOSION
- 第3回 「1914-18」 EPISODE 2 STALEMATE
- 第4回 「1914-18」 EPISODE 3 TOTAL WAR
- 第5回 「1914-18」 EPISODE 4 SLAUGHTER
- 第6回 「1914-18」 EPISODE 5 MUTINY
- 第7回 「1914-18」 EPISODE 6 COLLAPSE
- 第8回 「1914-18」 EPISODE 7 LEGACY
- 第9回 セバスチャン・フォークス
- 第10回 シーグフリート・サスン
- 第11回 ウィルフレッド・オーウェン
- 第12回 D.H. ロレンス 「指ぬき」
- 第13回 D.H. ロレンス 「盲目の男」
- 第14回 D.H. ロレンス 「チャタレー夫人の恋人」
- 第15回 D.H. ロレンス 「英国、わが英国」
- 第16回 関連論文の要約、発表① 研究倫理について
- 第17回 関連論文の要約、発表②
- 第18回 関連論文の要約、発表③、論文作法
- 第19回 関連論文の要約、発表④
- 第20回 中間発表
- 第21回 関連論文の要約、発表⑤
- 第22回 関連論文の要約、発表⑥
- 第23回 関連論文の要約、発表⑦
- 第24回 関連論文の要約、発表⑧
- 第25回 関連論文の要約、発表⑨
- 第26回 関連論文の要約、発表⑩
- 第27回 関連論文の要約、発表⑪
- 第28回 関連論文の要約、発表⑫
- 第29回 関連論文の要約、発表⑬
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

論文 (60%)、授業への参加状況 (40%) で評価する。

### 履修にあたっての注意

英語で卒業論文を書くための基本的な知識を身につけることを意識するように。

### 教科書

なし

### 参考書

清水一嘉、鈴木俊次編『第一次大戦とイギリス文学』（世界思想社、2006、ISBN：978-4790711780）  
 山室信一、岡田暁生、小関隆、藤原辰史編『世界戦争』（岩波書店、2014、ISBN：978-4000287111）  
 山室信一、岡田暁生、小関隆、藤原辰史編『総力戦』（岩波書店、2014、ISBN：978-4000287128）  
 山室信一、岡田暁生、小関隆、藤原辰史編『精神の変容』（岩波書店、2014、ISBN：978-4000287135）  
 山室信一、岡田暁生、小関隆、藤原辰史編『遺産』（岩波書店、2014、ISBN：978-4000287142）  
 D.H. ロレンス、井上義夫訳『ロレンス短篇集』（ちくま文庫、2010、ISBN：978-4480427748）  
 井上義夫『ロレンス遊歴』（みすず書房、2013、ISBN：978-4622077473）

2017年度以前入学生  
専攻 英語文化  
科目 化学  
目録

## サブタイトル

アダムとエバへの憧憬：西洋中世の系譜学

## 授業のねらい

『旧約聖書』冒頭に収められている「アダムとエバの原罪」の物語は、西洋の文学や絵画、建築など様々な領域におけるインスピレーションの源泉として重要な役割を果たしてきた。ミケランジェロによるシステーナ礼拝堂の天上画やミルトンの『失楽園』など、その例は枚挙に暇がない。そして、アダムとエバの物語に対する関心は中世の神学者らにおいても同様であり、彼らはアダムとエバの犯した罪や原罪による人間本性の腐敗といった事柄を考察することで人間という存在を見定めようとすると共に、人間が原罪を持つに至る以前の「無垢な人間の状態」を彼らの内に見ようとしている。

本年度のキリスト教学演習では、そうした「アダムとエバの原罪」をテーマとし、中世のキリスト教神学者らが原罪という罪や原罪を犯す以前のアダムとエバの状態に関してどのような視線を向け、人間の理想的状態についてどのように考えていたのかを見ていく。特に、アウグスティヌスとボナヴェントゥラという二人の神学者に焦点を当てる予定であるが、時間に余裕があれば、トマス・アキナスの『神学大全』（1、pp.94-97）もあわせて見ていく。

## 到達目標

- ・キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- ・テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- ・討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- ・卒業論文に繋がる自身の研究課題を見つけること。

## 授業方法

前期・後期の授業をそれぞれ前半部と後半部に分け、前半部において共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。また、後半部においては、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のあるテーマを選択した上で、研究発表を行う。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：授業の方法と計画の説明、研究倫理について
- 第2回 アダムとエバへの憧憬：アウグスティヌスと『創世記』への絶えざる関心
- 第3回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の全体構造の確認、および講読と討論（XI, C. 1-5）
- 第4回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 6-11）
- 第5回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 12-18）
- 第6回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 19-23）
- 第7回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 24-28）
- 第8回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 29-33）
- 第9回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 34-38）
- 第10回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI, C. 39-42）
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)例：ボナヴェントゥラ『大伝記』におけるフランシスコ
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)例：ヨナスにおけるホロコーストと神義論
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)例：イスラームにおける機械的原因論

- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)例：イグナティウス・ロヨラ『霊操』とキリスト教的霊性
- 第15回 授業全体の概括と今後の展望
- 第16回 イントロダクション：アウグスティヌスからボナヴェントゥラへ
- 第17回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』の全体構造の確認、および講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第18回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 4-6）
- 第19回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第20回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-12）
- 第21回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 3, C. 4-6）
- 第22回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第23回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 10-11）
- 第24回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第25回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第26回 受講生による研究発表と討論(1)例：ゴシック建築における光の神性
- 第27回 受講生による研究発表と討論(2)例：アンセルムスと神の存在論証
- 第28回 受講生による研究発表と討論(3)例：イエスとラビのたとえの比較的思考
- 第29回 受講生による研究発表と討論(4)例：スペインのインディアス占領とその正当化
- 第30回 授業全体の概括と今後の展望

## 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、原典テキスト（ギリシア語・ラテン語）やその近代語訳を参照する。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する場合がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。
- ・一回の授業につき、一度以上の主体的な発言（質問・意見など）をすることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

本講義において使用するテキストは、コピーやプリントを配布する

## 参考書

- アウグスティヌス『創世記逐語注解』（九州大学出版会、1995年、ISBN：87378-423-9）
- ボナヴェントゥラ『神学綱要』（エンデルレ書店、1991年、ISBN：4-7544-0239-1）
- 内山勝利（編）『西洋哲学史[古代・中世編]』（ミネルヴァ書房、1996年、ISBN：4-623-02663-9）
- 戸田山和久『論文の教室－レポートから卒論まで－』（日本放送出版協会、2002年、ISBN：978-4-14-091194-5）
- 山内志朗『ざりざり合格への論文マニュアル』（平凡社、2001年、ISBN：978-4582851038）



17161~17165

## Academic Writing I

担当教員：Academic Writing I 担当者

1 単位 前期

### サブタイトル

Introduction to Academic Writing

### 授業のねらい

This writing course focuses on the creation of complex, analytic, well-supported essays. We will learn the basics of essay writing: formulating original academic arguments, presenting appropriate evidence to support those arguments, crafting well-structured essays with metadiscourse devices, and developing a clear and precise prose style.

### 到達目標

1. To learn the conventions of academic writing and critical thinking
2. To develop an awareness of various rhetorical approaches
3. To write expository essays that demonstrate the understanding of such conventions and approaches, in preparation for Academic Writing II

### 授業方法

The course is intended to be writing-intensive. You will be expected to produce a large amount of polished prose. Revision is a key part of the writing process.

Students work closely with their peers to develop their written prose. Readings cover a variety of different genres and academic disciplines.

### 授業計画

- 第1回 The exact schedule will be determined by the individual instructor, but a generic sample is provided below:  
Introduction to Academic Writing
- 第2回 Elements of Academic Writing (1) - Introduction, Body Paragraphs, Conclusion
- 第3回 Elements of Academic Writing (2) - Paragraph Development, Evidence and Detail
- 第4回 Essay # 1
- 第5回 Preparatory Activities
- 第6回 Revision Activities
- 第7回 Conference / Presentation
- 第8回 Essay # 2
- 第9回 Preparatory Activities
- 第10回 Revision Activities
- 第11回 Conference / Presentation
- 第12回 Essay # 3
- 第13回 Preparatory Activities
- 第14回 Revision Activities
- 第15回 Conclusion (Essay # 4, Exam, etc., as determined by the instructor)

### 成績評価の方法

The exact grading breakdown is to be determined by the instructor, but in general, attendance and participation take up about 20% ("Learning Outcomes" 1), in-class assignments and activities 20% (2), and formal essays 60% (3).

### 履修にあたっての注意

Because there are many activities that take place in the classroom, attendance is crucial; students will benefit greatly from attending as many classes as possible. Some of the writing exercises may be conducted in class. Over the course of the year (Academic Writing I and II combined), students should

produce polished papers that would amount to roughly 5,000 words total.

### 教科書

担当者より指示します

### 教科書・参考書に関する備考

Each instructor will choose a text for his or her section.

### 参考書

ポール・ロシター, *First Moves: an Introduction to Academic Writing* (Tokyo University, 2004, ISBN : 978-4-13-082121-6)  
Cheryl Glenn, *The Writer's Harbrace Handbook* (Cengage Learning, 2012, ISBN : 978-1111838171)

### 参考ホームページ

Purdue Online Writing Lab [https://owl.english.purdue.edu/owl/\(writing resource\)](https://owl.english.purdue.edu/owl/(writing resource))



17171~17175

## Academic Writing II

担当教員：Academic Writing II 担当者

1 単位 後期

### サブタイトル

Academic Argumentation

### 授業のねらい

This course focuses on examining and employing effective academic argumentation. Academic argumentation here refers to the presentation, explanation, and assessment of claims through written reasoning that utilizes appropriate evidence and writing conventions. The course also provides a basic introduction to the incorporation of research into student writing, for use in a range of future academic contexts.

### 到達目標

1. To build on and refine academic writing and critical thinking skills from Academic Writing I, in preparation for the senior thesis.
2. At least one of the papers you will write for this course will involve significant research.

### 授業方法

The course is intended to be writing-intensive. You will be expected to produce a large amount of polished prose. Revision is a key part of the writing process.

Students work closely with their peers to develop their written prose. Readings cover a variety of different genres and academic disciplines.

### 授業計画

- 第1回 The exact schedule will be determined by the individual instructor, but a generic sample is provided below:  
Introduction - Academic Argumentation
- 第2回 Structure and Theories of Argument
- 第3回 Elements of Good Writing
- 第4回 Essay # 1
- 第5回 Preparatory Activities
- 第6回 Revision Activities
- 第7回 Conference / Presentation
- 第8回 Essay # 2
- 第9回 Preparatory Activities
- 第10回 Revision Activities
- 第11回 Conference / Presentation
- 第12回 Essay # 3
- 第13回 Preparatory Activities
- 第14回 Revision Activities
- 第15回 Conclusion (Essay # 4, Exam, etc., as determined by the instructor)

### 成績評価の方法

The exact grading breakdown is to be determined by the instructor, but in general, attendance and participation and in-class assignments and activities take up about 20% respectively ("Learning Outcomes" 1) and formal essays 60% (2).

### 履修にあたっての注意

Because there are many activities that take place in the classroom, attendance is crucial; students will benefit greatly from attending as many classes as possible. Some of the writing exercises may be conducted in class. Over the course of the year (Academic Writing I and II combined), students should produce polished papers that would amount to roughly 5,000

words total.

### 教科書

担当者より指示します

### 教科書・参考書に関する備考

Each instructor will choose a text for his or her section.

### 参考書

ポール・ロシター, *First Moves: an Introduction to Academic Writing* (Tokyo University, 2004, ISBN : 978-4-13-082121-6)  
Cheryl Glenn, *The Writer's Harbrace Handbook* (Cengage Learning, 2012, ISBN : 978-1111838171)  
Andrea A. Lunsford, *Everything's an Argument* (Bedford/St. Martin's, 2012, ISBN : 978-1457606069)

### 参考ホームページ

Purdue Online Writing Lab [https://owl.english.purdue.edu/owl/\(writing resource\)](https://owl.english.purdue.edu/owl/(writing resource))

14301

**卒業研究演習**

担当教員：岡本 晃幸

4 単位 通年

**サブタイトル**

卒業論文を書こう

**授業のねらい**

年度末の卒業論文提出に向け準備を進めていくクラスです。卒業論文は大学で学んできた様々な知識やスキルを用いて完成させる、4年間の集大成です。当然一朝一夕で書けるものではありません。テーマの設定、詳細なリサーチ、論文全体の構成を考えるなど入念な準備をしたうえで、自分の主張を相手に伝え説得できる文章を書かなければなりません。さらに論文は先行研究を継承しつつも、オリジナルな主張を含んでいなければなりません。授業ではまず文献の探し方から論文の形式の確認などを行い、実際の論文を読むことで、論文の書き方を実践的に学んでいきます。また適時途中経過の発表を行うことで、他者と意見を交換し、自分の意見を客観的に見つめ直す機会を設けます。さらに近年大きな問題になっている研究不正に関しても学び、一人の研究者として当たり前の倫理観を身につけることも授業のねらいです。

**到達目標**

1. 形式と主張を理解しながら先行研究に当たることが出来る。
2. 形式にもとづいた論文を書くことが出来る。
3. 先行研究のリサーチができる。
4. 自分の主張を英語で表現できる。
5. 自分の主張をプレゼンテーションすることが出来る。
6. 他人のプレゼンテーションに対して質問やコメントをすることができる。

**授業方法**

- ・全体で集まる回には論文を書く手順や注意点を学んだり、他者に主張を伝える、意見をもらう、質問に答える練習を行ったりします。卒論テーマの発表、プレゼンテーション、卒論の draft 提出の後にはその内容に基づいた個別の指導を行います。卒論提出後は卒論発表会を行います。
- ・経過報告、卒業論文発表などのプレゼンテーションは一人15～20分程度です。
- ・提出物、発表内容に関しては授業中や面談中にコメントします。

**授業計画**

- 第1回 イントロダクション 仮テーマの設定、研究倫理の確認
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 論文の書き方1
- 第4回 論文の書き方2
- 第5回 論文の書き方3
- 第6回 卒論テーマの発表
- 第7回 個別指導
- 第8回 個別指導
- 第9回 個別指導
- 第10回 経過報告のプレゼンテーション1
- 第11回 経過報告のプレゼンテーション2
- 第12回 個別指導
- 第13回 個別指導
- 第14回 個別指導
- 第15回 卒論アウトライン(日本語)の提出と夏季休暇の課題、研究倫理の確認2
- 第16回 経過報告のプレゼンテーション3
- 第17回 卒論作成
- 第18回 卒論作成
- 第19回 経過報告のプレゼンテーション4
- 第20回 経過報告のプレゼンテーション5
- 第21回 卒論作成

- 第22回 卒論作成
- 第23回 卒論作成
- 第24回 Introduction と Conclusion のプレゼンテーション
- 第25回 卒論作成
- 第26回 卒論作成
- 第27回 提出に向けて確認
- 第28回 提出後の反省
- 第29回 卒業研究発表1
- 第30回 卒業研究発表2

**成績評価の方法**

1. 到達目標1、3、5、6を測定するための平常評価 40%
2. 到達目標2～4を測定するための卒業論文の draft 60%

**履修にあたっての注意**

- ・予定は変更する場合があります。
- ・初回に各自の仮テーマを報告してもらいます。仮テーマですので後で修正しても構いませんが、卒論で扱おうとしている研究について5分程度で説明できるように準備しておいてください。文学作品を卒論の対象にしたい場合は履修前に読んでおくことが望ましい。
- ・個別指導以外の回は全員で集まって授業をします。全体で集まる回には自分の研究の進捗状況に関わらず必ず出席すること。無断欠席は減点の対象となる場合があります。
- ・卒業論文の執筆に向けて真摯な態度で臨むこと。論文作成で悩むことがあれば自主的に教員に相談すること。
- ・研究不正などに対しては厳正に対処します。

**教科書**

なし

14302

## 卒業研究演習

担当教員：英 美由紀

4単位 通年

### サブタイトル

イギリス文学・文化研究、ジェンダー表象研究

### 授業のねらい

イギリス文学・文化研究、ジェンダー表象をテーマとする卒業研究について、テーマ設定から執筆、完成までのプロセスを段階を追って進めていく。

### 到達目標

各自が設定したテーマについてリサーチを行い、考察を深め、英語論文の形式にのっとった卒業研究を完成させる。

### 授業方法

履修者全体での活動と個別指導をおりまぜながら進めます。個別指導に際しては、それまでに終えた研究の成果報告や草稿の提示ができるよう準備してください。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：卒業論文執筆に向けて
- 第2回 テーマと方法の設定
- 第3回 個別指導(1)
- 第4回 個別指導(2)
- 第5回 個別指導(3)
- 第6回 先行研究の利用（研究倫理を含む）
- 第7回 個別指導(1)
- 第8回 個別指導(2)
- 第9回 個別指導(3)
- 第10回 アウトラインの作成、及び Introduction
- 第11回 個別指導(1)
- 第12回 個別指導(2)
- 第13回 個別指導(3)
- 第14回 中間発表
- 第15回 Body(1)
- 第16回 個別指導(1)
- 第17回 個別指導(2)
- 第18回 個別指導(3)
- 第19回 Body(2)
- 第20回 個別指導(1)
- 第21回 個別指導(2)
- 第22回 個別指導(3)
- 第23回 Body(3)
- 第24回 個別指導(1)
- 第25回 個別指導(2)
- 第26回 個別指導(3)
- 第27回 Conclusion、及び Bibliography
- 第28回 最終報告
- 第29回 口頭試問準備(1)
- 第30回 口頭試問準備(2)

### 成績評価の方法

論文完成までの各段階の準備、執筆状況（80%）、中間発表（10%）、最終報告（10%）を総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

単位の修得には一定以上の出席率を要します。

### 教科書

なし

14303

## 卒業研究演習

担当教員：木村 信一

4単位 通年

### サブタイトル

卒業論文の作成

### 授業のねらい

卒業論文の作成を支援することを狙いとする。受講者主体の授業形態を取り、各自の研究テーマについての発表とディスカッションを軸に、知的関心、構想力、思考力、理解力、表現力を養う。

### 到達目標

各自が選んだ研究テーマについて、卒業論文を完成する。

### 授業方法

この授業は、各自が選んだ研究テーマについての卒業論文の経過報告やプレゼンテーション、それに伴う個人指導を軸に展開します。

経過報告やプレゼンテーションに先立って、あらかじめ、必要な時間を使い、十全の準備を整えることを求めます。

提出物は、コメントを付けて返却します。

### 授業計画

- 第1回 はじめに（研究倫理について）
- 第2回 図書館ガイダンス
- 第3回 卒論テーマ紹介の1
- 第4回 卒論テーマ紹介の2
- 第5回 卒論テーマ紹介の3
- 第6回 個別指導の1
- 第7回 個別指導の2
- 第8回 個別指導の3
- 第9回 経過報告と意見交換の1
- 第10回 経過報告と意見交換の2
- 第11回 経過報告と意見交換の3
- 第12回 個別指導の4
- 第13回 個別指導の5
- 第14回 個別指導の6
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 経過報告と意見交換の4
- 第17回 経過報告と意見交換の5
- 第18回 経過報告と意見交換の6
- 第19回 個別指導の7
- 第20回 プレゼンテーションの1
- 第21回 プレゼンテーションの2
- 第22回 プレゼンテーションの3
- 第23回 プレゼンテーションの4
- 第24回 個別指導の8
- 第25回 個別指導の9
- 第26回 個別指導の10
- 第27回 プレゼンテーションの5
- 第28回 プレゼンテーションの6
- 第29回 プレゼンテーションの7
- 第30回 プレゼンテーションの8

### 成績評価の方法

プレゼンテーション5割、授業にたいする貢献度5割で評価します。

### 履修にあたっての注意

お互いの信頼関係が大切になります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業時に適宜配布します。

14304

**卒業研究演習**

担当教員：大桃 陶子

4 単位 通年

**サブタイトル**

卒業論文執筆に向けて

**授業のねらい**

卒業論文を執筆する学生のサポートを目的とする。

前期は各々の研究テーマについての調査期間となる。したがって、受講者は毎回、リサーチの成果を担当教員に報告することが求められる。報告は日本語によるもので構わない。前期は論文を一本書きあげるために必要なりサーチを行う時期なので、真剣に取り組んでもらいたい。

後期からはいよいよ英語による論文執筆に取り掛かる。文献表の書き方、引用の仕方など、論文の作法は後期に入ってから指導する予定である。授業時間では論文の進捗状況を報告することが求められる。

**到達目標**

1. 綿密な調査を行い、自分の研究分野について一角の知見を得る。
2. 論文の書き方を学び、それを実践する。
3. 卒業論文を英語で書き、完成させる。

**授業方法**

前期は受講者が各々のテーマについてリサーチを行い、その成果を随時報告してもらいます。たとえば、論文の要約、研究書の中から自分にとって必要と思われる章の要約を A4 一・二枚程度にまとめ、授業開始時に教員に渡してください。単に教員が一方的に指導を行うだけでなく、研究成果をゼミ生全員で共有・検討し、さらに研究をすすめるための意見を募ります。ちなみに前期の時点で、英語で論文を書きはじめる必要はありません。

後期からは、英語による論文執筆にとりかかります。各人の進み具合に応じて指導を行います。

発表内容、提出物については毎回の授業でフィードバックを行います。

**授業計画**

- 第1回 論文執筆とは何か、および研究倫理について
- 第2回 テーマ発表
- 第3回 図書館ガイダンス
- 第4回 進捗状況の報告、および個人指導(1)
- 第5回 進捗状況の報告、および個人指導(2)
- 第6回 進捗状況の報告、および個人指導(3)
- 第7回 進捗状況の報告、および個人指導(4)
- 第8回 進捗状況の報告、および個人指導(5)
- 第9回 進捗状況の報告、および個人指導(6)
- 第10回 進捗状況の報告、および個人指導(7)
- 第11回 進捗状況の報告、および個人指導(8)
- 第12回 進捗状況の報告、および個人指導(9)
- 第13回 進捗状況の報告、および個人指導(10)
- 第14回 進捗状況の報告、および個人指導(11)
- 第15回 中間報告
- 第16回 夏季休暇終了後の中間報告
- 第17回 文献表の作成法について
- 第18回 進捗状況の報告、および個人指導(12)
- 第19回 進捗状況の報告、および個人指導(13)
- 第20回 進捗状況の報告、および個人指導(14)
- 第21回 進捗状況の報告、および個人指導(15)
- 第22回 進捗状況の報告、および個人指導(16)
- 第23回 進捗状況の報告、および個人指導(17)
- 第24回 進捗状況の報告、および個人指導(18)
- 第25回 進捗状況の報告、および個人指導(19)
- 第26回 進捗状況の報告、および個人指導(20)
- 第27回 進捗状況の報告、および個人指導(21)
- 第28回 進捗状況の報告、および個人指導(22)

第29回 口頭試験についての指導

第30回 まとめ

**成績評価の方法**

卒業論文 (50%)、授業への参加状況 (50%) により評価する。時期的に毎回の出席が難しいことは確かだが、欠席する場合は必ず事前に指導教員の了解を得ること。

**教科書**

なし

14305

## 卒業研究演習

担当教員：山木戸 浩子

4単位 通年

### サブタイトル

卒業論文を執筆する

### 授業のねらい

英語で言語学の論文が書けるようになる。

### 到達目標

受講者各自が選んだ言語学のトピックについて、卒業論文を書き上げる。

### 授業方法

<前期>

- ・言語学の論文の書き方について学ぶ。いくつか論文を読みながら、日本語・英語の両方の言語で短いレポートを書くトレーニングを行う。
- ・受講者は各自、卒業論文の経過報告（1章）を行う。
- ・学期の終わりまでに、イントロダクションと1章を書く。
- ・これらと並行して、間違えやすい文法事項（冠詞・関係節・前置詞など）の復習を行う。

<後期>

- ・担当教員との個人面談が中心。
- ・受講者は各自、卒業論文の経過報告（2章・3章）を行う。
- ・学期末には、受講者は一人ずつ自分の卒業論文について発表する。

課題や卒業論文各章の draft は添削をした後に返却し、面談の後、必要に応じて再提出してもらう。

### 授業計画

- 第1回 前期オリエンテーション
- 第2回 先行研究の調査法および研究倫理について；Referencesの書き方
- 第3回 言語学の論文の書き方（日本語）(1)
- 第4回 言語学の論文の書き方（日本語）(2)
- 第5回 言語学の論文の書き方（日本語）(3)
- 第6回 卒業論文のフォーマットについて；英語の論文でよく使われる表現
- 第7回 言語学の論文の書き方（英語）(1)
- 第8回 言語学の論文の書き方（英語）(2)
- 第9回 言語学の論文の書き方（英語）(3)
- 第10回 卒業論文の構成；Introductionについて
- 第11回 言語学の論文の書き方（英語）(4)
- 第12回 言語学の論文の書き方（英語）(5)
- 第13回 1章の発表(1)
- 第14回 1章の発表(2)
- 第15回 1章の発表(3)
- 第16回 後期オリエンテーション
- 第17回 個人指導(1)
- 第18回 個人指導(2)
- 第19回 2章の発表(1)
- 第20回 2章の発表(2)
- 第21回 2章の発表(3)
- 第22回 個人指導(3)
- 第23回 個人指導(4)
- 第24回 3章の発表(1)
- 第25回 3章の発表(2)
- 第26回 3章の発表(3)
- 第27回 Conclusionについて
- 第28回 卒業論文の発表(1)
- 第29回 卒業論文の発表(2)
- 第30回 卒業論文口述試験の対策

### 成績評価の方法

卒業論文（50%）、授業への参加・発表・課題（50%）

### 履修にあたっての注意

1. 山木戸が卒業論文の指導教員であること
2. 「言語学演習」を履修済みであること

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要に応じてハンドアウトを配布予定



## サブタイトル

英語学研究の手法と論文執筆のロジック 2018

## 授業のねらい

この演習では、英語学で卒業論文を執筆しようという者を対象に、英語学研究の手法と論文執筆のロジックを学び、実践する。

〔前期〕 英語学研究の手法と論文執筆のロジックをテーマ毎に解説し、実践的に演習する。

〔後期〕 各自の個人研究（テーマに沿った先行研究の調査・報告及びテーマ研究の進捗状況の報告）を発表し、さらに、クラス内ディスカッションを行う。また、担当教員との個別ディスカッションを通じて論文指導を行う。

## 到達目標

1. 英語学研究の手法と論文執筆のロジックを学び、論文執筆を実践する力を涵養する。
2. 基本的なプレゼンテーションの技法とディスカッション能力を養成する。

## 授業方法

演習による。ただし、一部、講師の解説による。

〔前期〕は、講師が英語学研究の手法と論文執筆のロジックをテーマ毎に解説し、受講者が実践的に演習する。また、個人研究の中間報告を行う。

〔後期〕は、受講者が個人研究発表にて、各自のテーマに沿った先行研究の調査・報告及びテーマ研究の進捗状況の報告を行う。さらに、クラス内ディスカッションを通じて、テーマを発展させ、研究の客観性を高める。同時に、担当教員との個別ディスカッションを通じて論文指導を行う。

また、以下の通り、授業外でも個人もしくはグループ単位でアクティビティがあるので積極的に取り組むことが望まれる。なお、事前学習・事後学習に関わる学習時間は平均して2時間前後である。

<事前学習>

発表者は発表箇所を相応の時間をかけ綿密に分析し、発表の準備をすること。その他の参加者もディスカッションに耐えるよう事前に予習を行い、授業に臨むこと。また、事前に配布されるハンドアウトなどに沿って、課題に取り組んだ上で授業に参加すること。

<事後学習>

クラス内で扱った事項について、参考文献を読むなど、理解を深めて次の回の授業に臨むこと。また、適宜、与えられる課題に取り組むことが要求される。

また、提出された課題等に関するフィードバックは、適宜、授業内もしくは添削指導により行う。

## 授業計画

- |     |   |
|-----|---|
| 第1回 | オリエンテーション+研究の倫理教育                         |
| 第2回 | 論文執筆のロジック(1)<br>- 文献検索法 -                 |
| 第3回 | 論文執筆のロジック(2)<br>- 文献検索の実践 -               |
| 第4回 | 論文執筆のロジック(3)<br>- 図書館情報の利用法 -             |
| 第5回 | 論文執筆のロジック(4)<br>- 参考文献の書き方 -              |
| 第6回 | 論文執筆のロジック(5)<br>- 英語学論文のためのワードプロセッサの設定法 - |
| 第7回 | 論文執筆のロジック(6)<br>- 引用の方法 -                 |
| 第8回 | 論文執筆のロジック(7)<br>- 論文の構成の技法 -              |
| 第9回 | 英語学研究の手法(1)                               |

- |      |   |
|------|---|
|      | - 研究調査の方法：内省調査法 -                       |
| 第10回 | 英語学研究の手法(2)<br>- 研究調査の方法：コーパス調査法(1) -   |
| 第11回 | 英語学研究の手法(3)<br>- 研究調査の方法：コーパス調査法(2) -   |
| 第12回 | 英語学研究の手法(4)<br>- 研究調査の方法：コーパス調査法(3) -   |
| 第13回 | 英語学研究の手法(5)<br>- 先行研究の調査法：先行研究の問題点の発見 - |
| 第14回 | 個人研究の中間報告(1)                            |
| 第15回 | 個人研究の中間報告(2)+ レビュー(1)                   |
| 第16回 | レビュー(2)                                 |
| 第17回 | 個人研究発表・ディスカッション(1)、ないし論文指導(1)           |
| 第18回 | 個人研究発表・ディスカッション(2)、ないし論文指導(2)           |
| 第19回 | 個人研究発表・ディスカッション(3)、ないし論文指導(3)           |
| 第20回 | 個人研究発表・ディスカッション(4)、ないし論文指導(4)           |
| 第21回 | 個人研究発表・ディスカッション(5)、ないし論文指導(5)           |
| 第22回 | 個人研究発表・ディスカッション(6)、ないし論文指導(6)           |
| 第23回 | 個人研究発表・ディスカッション(7)、ないし論文指導(7)           |
| 第24回 | 個人研究発表・ディスカッション(8)、ないし論文指導(8)           |
| 第25回 | 個人研究発表・ディスカッション(9)、ないし論文指導(9)           |
| 第26回 | 個人研究発表・ディスカッション(10)、ないし論文指導(10)         |
| 第27回 | 個人研究発表・ディスカッション(11)、ないし論文指導(11)         |
| 第28回 | 個人研究発表・ディスカッション(12)、ないし論文指導(12)         |
| 第29回 | 個人研究の最終報告(1)                            |
| 第30回 | 個人研究の最終報告(2)+ ファイナルレビュー                 |

## 成績評価の方法

- ・平常点 100%
  - <内 訳>
  - ・授業・面談への参加状況 50%
  - ・レポート及び課題の提出状況 50%
- なお、提出された課題に剽窃 (Plagiarism) が含まれているものは受理せず、同時に単位を認定しない。また、理由の如何を問わず、授業への欠席が多い者、面談に応じない者、提出物を期限まで提出しない者の単位取得を認めない。

## 履修にあたっての注意

- ・授業担当者（對馬）の専門分野は英語学、認知言語学（特に、認知文法・構文文法）である。
- ・初回のオリエンテーションには必ず出席すること。
- ・受講者のレベルや人数に応じて、各講、進度・テーマを変更することがありうる。
- ・適宜、小テストの実施や課題を与えることがありうる。
- ・正当な理由がない限り、授業開始後の遅刻は認められない。欠席として扱われる。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要な資料はハンドアウトで配布する。

**14308****卒業研究演習**

担当教員：Redlich, Jeremy

4 単位 通年

**サブタイトル**

Developing a research thesis paper

**授業のねらい**

This course will provide in-depth instruction on research paper composition. Weekly instruction will examine the unique features that characterize good research writing, methods for assessing sources, techniques for applying literary and cultural theory to analyzing texts, and the typical structure of academic papers. The course will also reflect on academic vocabulary and style. Specifically, the course will involve analysis of a model literature review, criterion for a good research question, methods of locating and evaluating academic sources, principles of thesis organization, analysis of introductions based on Swales' Creating a Research Space model, describing methodological and theoretical approach, techniques applying a variety of theoretical approaches to critically analyzing texts, organization of concluding sections of a paper, and principles of oral presentations to academic and professional audiences.

**到達目標**

Students will (1) gain an understanding of the major structures within an academic research paper and (2) will, furthermore, understand how these parts are woven together in successful research-based writing

**授業方法**

Students will listen to lectures on the features and structures associated with research writing and will be shown models taken from published research. They will also analyze research so as to identify these features. In addition, they will produce drafts of their research and receive feedback. Students will need to spend at least two hour of preparation outside of class for each hour spent in class

**授業計画**

- 第1回 Introduction to developing a research project
- 第2回 General features of academic writing
- 第3回 Text organization and cue words
- 第4回 Audience
- 第5回 Purpose and strategy
- 第6回 Evaluating Sources
- 第7回 Reviewing other's ideas (1)
- 第8回 Reviewing other's ideas (2)
- 第9回 Summarization and Paraphrase
- 第10回 Citations
- 第11回 The CARS model of introductions (1)
- 第12回 The CARS model of introductions (2)
- 第13回 Literary theory and methods of analysis (1)
- 第14回 Literary theory and methods of analysis (2)
- 第15回 Literary theory and methods of analysis (3)
- 第16回 Literary theory and methods of analysis (4)
- 第17回 Appropriate use of research/evidence
- 第18回 Concluding a paper (1)
- 第19回 Concluding a paper (2)
- 第20回 Academic language and style (1)
- 第21回 Academic language and style (2)
- 第22回 Corpus techniques for revising language
- 第23回 Linking ideas within texts (1)
- 第24回 Linking ideas within texts (2)
- 第25回 Multimedia presentation
- 第26回 Multimedia presentation
- 第27回 Refining arguments

- 第28回 Peer-reviewing drafts
- 第29回 Peer-reviewing drafts
- 第30回 Wrap-up

**成績評価の方法**

- Analysis of a literature review
- Development of a research question
- Locating of at least six academic sources and justification of choices
- Development of a thesis outline
- Analysis of introductions based on Swales' CARS model
- Creation and justification of methodological and theoretical approach
- Completion of an project plan
- Development of a plan for the conclusion of thesis
- Oral presentation of completed research

14309

## 卒業研究演習

担当教員：Mueller, Charles

4 単位 通年

## サブタイトル

Adding one's voice to the academic discussion

## 授業のねらい

This course will provide in-depth instruction on research paper composition. Weekly instruction will examine the unique features that characterize good research writing, methods for assessing sources, techniques for discussing both qualitative and quantitative findings, and the typical structure of academic papers. The course will also reflect on academic vocabulary and style. Specifically, the course will involve analysis of a model literature review, criterion for a good research question, methods of locating and evaluating academic sources, principles of thesis organization, analysis of introductions based on Swales' Creating a Research Space model, organization of section describing methodological and theoretical approach, techniques for describing quantitative and qualitative findings, organization of concluding sections of a paper, and principles of oral presentations to academic and professional audiences. Throughout the course, principles of research ethics will be reviewed.

## 到達目標

Students will (1) gain an understanding of the major structures within an academic research paper and (2) will, furthermore, understand how these parts are woven together in successful evidence-based writing. They will (3) demonstrate the ability to conduct original research on a topic through formation of a research question, analysis of previous research on the topics, development of a suitable approach and methodology, presentation of findings, and discussion of the relevance of the findings.

## 授業方法

Students will listen to lectures on the features and structures associated with research writing and will be shown models taken from published research. They will also analyze research so as to identify these features. In addition, they will produce drafts of their research and receive feedback. Students will need to spend at least two hour of preparation outside of class for each hour spent in class.

## 授業計画

- 第1回 Overcoming writer's block
- 第2回 General features of academic writing
- 第3回 Text organization and cue words
- 第4回 Audience
- 第5回 Purpose and strategy
- 第6回 Exigency
- 第7回 Evaluating sources
- 第8回 Reviewing other's ideas: Introduction
- 第9回 Reviewing other's ideas: Reflections on an example text
- 第10回 Summarization
- 第11回 Paraphrase
- 第12回 Citations and research ethics
- 第13回 Definitions
- 第14回 The CARS model of introductions: Introduction
- 第15回 The CARS model of introductions: Analysis of examples
- 第16回 Theory and methods
- 第17回 Qualifying and hedging one's statements
- 第18回 Discussing quantitative data
- 第19回 Using graphs, charts, and tables

- 第20回 Discussing qualitative data
- 第21回 Appropriate use of evidence
- 第22回 Conclusions: Key parts
- 第23回 Conclusions: Analysis of examples
- 第24回 Academic language and style
- 第25回 Corpus techniques for revising language
- 第26回 Linking ideas within texts using transitional words
- 第27回 Linking ideas within texts using transitional phrases and shell words
- 第28回 Linking paragraphs and developing sensitivity to information flow within paragraphs
- 第29回 Elements of academic arguments
- 第30回 Multimedia presentations

## 成績評価の方法

Regarding the EAP course, participation will count as 10% of the grade. The other 90% of the grade will be based on the following 9 tasks, which will each count as 10% of the grade:

- Analysis of a literature review
- Development of a research question
- Locating of at least six academic sources and justification of choices
- Development of a thesis outline
- Analysis of introductions based on Swales' CARS model
- Creation and justification of methodological and theoretical approach
- Completion of a worksheet on describing data
- Development of a plan for the conclusion of thesis
- Oral presentation of completed research

## 教科書

N/A

## 参考ホームページ

Class website <http://secondlanguageacquisition.org/thesis.pdf> (Class notes and assignments will be available on the class website.)

1430a

## 卒業研究演習

担当教員：井筒 美津子

4単位 通年

### サブタイトル

卒業論文の進め方

### 授業のねらい

この授業では、言語学・英語学の諸分野に関する研究の進め方・論文執筆の仕方を学ぶ。授業では、各自が選んだ研究テーマの途中経過（卒業論文の研究経過や卒業課題研究に関連する文献調査）について発表する。自らの研究を発表し、他の人から質問や批判を受けるというプロセスを通して、研究内容を具体化・客観化していく。

### 到達目標

1. 英語論文を正しく理解し、その内容について批判的に考えることが出来る。
2. 英語で言語学・英語学に関する論文が書ける。

### 授業方法

前期は、決められた担当者が卒論の進捗状況について発表する。後期は、卒論の内容、構成、書き方について学ぶ。授業の性質上、毎回の授業に必要な事前・事後学習時間は特に指定できないが、前期中に大方のデータ分析を終了し、卒業論文構成の目途を立てられるようにする。そのためには、毎週、相当な時間数を卒論準備に費やす必要がある。

卒論の相談には、授業内外問わず、随時応じる。また、卒論原稿にはコメントをつけて返却する。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発表(1)
- 第3回 発表(2)
- 第4回 発表(3)
- 第5回 発表(4)
- 第6回 発表(5)
- 第7回 発表(6)
- 第8回 発表(7)
- 第9回 発表(8)
- 第10回 発表(9)
- 第11回 発表(10)
- 第12回 発表(11)
- 第13回 発表(12)
- 第14回 ・卒業論文の構成について  
・先行研究の調査法および研究倫理について
- 第15回 1章のアウトラインについて
- 第16回 卒論中間発表(1)
- 第17回 卒論中間発表(2)
- 第18回 卒論中間発表(3)
- 第19回 卒論チュートリアル(1)
- 第20回 卒論チュートリアル(2)
- 第21回 卒論チュートリアル(3)
- 第22回 卒論チュートリアル(4)
- 第23回 卒論チュートリアル(5)
- 第24回 卒論チュートリアル(6)
- 第25回 卒論チュートリアル(7)
- 第26回 卒論チュートリアル(8)
- 第27回 卒論チュートリアル(9)
- 第28回 卒論チュートリアル(10)
- 第29回 口述試験チュートリアル
- 第30回 総括

### 成績評価の方法

到達目標1と2を測定するための授業での発表(80%)、授業への貢献度(20%)により評価する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業時に適宜配布する。

c9111

## 卒業研究演習・卒業研究ゼミⅡ

担当教員：松村 良祐

4単位 通年

### サブタイトル

キリスト教思想・文化の諸問題

### 授業のねらい

「キリスト教演習」では、キリスト教に関する思想や文化を主要なテーマとし、それを研究するに当たって必要となる基本的な能力や方法を身に付けることを目的とした。「卒業研究演習」では、そうして養われた基本的な知識や研究方法をもとに、キリスト教思想や文化に関する更に深い専門的理解を獲得することを狙いとする。その際、テキスト読解と受講生による発表を中心とした演習形式の授業を通じて、個々の受講生が自分の研究課題を設定し、その課題に対する理解を深化させていくことで、大学での勉学の総仕上げとしての卒業論文の作成に繋げていく。

### 到達目標

- (1)キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- (2)テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- (3)討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- (4)卒業論文の研究課題を設定し、その作成にあたること。

### 授業方法

共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。また、それと平行して、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のある卒業論文のテーマを深化させ、文献表の作り方などを学ぶと共に、卒業論文のテーマにもとづいた発表と討論も行う。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：卒論執筆と研究倫理
- 第2回 テキスト読解と討論(1)
- 第3回 テキスト読解と討論(2)
- 第4回 テキスト読解と討論(3)
- 第5回 テキスト読解と討論(4)
- 第6回 テキスト読解と討論(5)
- 第7回 テキスト読解と討論(6)
- 第8回 テキスト読解と討論(7)
- 第9回 テキスト読解と討論(8)
- 第10回 テキスト読解と討論(9)
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)
- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)
- 第15回 授業全体の概括
- 第16回 イントロダクション
- 第17回 テキスト読解と討論(10)
- 第18回 テキスト読解と討論(11)
- 第19回 テキスト読解と討論(12)
- 第20回 テキスト読解と討論(13)
- 第21回 テキスト読解と討論(14)
- 第22回 テキスト読解と討論(15)
- 第23回 テキスト読解と討論(16)
- 第24回 テキスト読解と討論(17)
- 第25回 テキスト読解と討論(18)
- 第26回 受講生による研究発表と討論(5)
- 第27回 受講生による研究発表と討論(6)
- 第28回 受講生による研究発表と討論(7)
- 第29回 受講生による研究発表と討論(8)
- 第30回 授業全体の概括

### 成績評価の方法

授業への積極的参加と発表(50%)、レポート試験(50%)を総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、必要に応じて、原典テキスト(ギリシア語・ラテン語)やその近代語訳を参照する必要がある。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する必要がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。

### 教科書

なし

### 参考書

内山勝利(編)『西洋哲学史[古代・中世編]』(ミネルヴァ書房、1996年、ISBN:4-623-02663-9)  
 戸田山和久『論文の教室－レポートから卒論まで－』(日本放送出版協会、2002年、ISBN:978-4-14-091194-5)  
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社、2001年、ISBN:978-4582851038)





# 日本語・日本文学科 専門科目

日本語・日本文学科  
専門科目  
2017年度以前入学生

2017年度以前入学生対象：学科専門科目読み替え科目一覧 日本語・日本文学学科  
 2017年度以前入学生が2018年度開講科目を履修する場合は以下の表を参考にして下さい。

2017年度以前入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名			2018年度以降入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
科目 No.	科目名		科目 No.	科目名
23001	日本語学講義 I A-a	→	24461	日本語学 A-a
23011	日本語学講義 I A-b	→	24471	日本語学 A-b
23021	日本語学講義 I B	→	24481	日本語学 B
23022			24482	
23031	日本語学講義 I C	→	24491	日本語学 C
23032			24492	
23041	日本文学講義 I A	→	24561	日本文化 A (本年度休講)
23042			24562	日本文化 A
23051	日本文学講義 I B	→	24501	古典文学 A (本年度休講)
23052			24502	古典文学 A
23061	日本文学講義 I C	→	24511	古典文学 B (本年度休講)
23062			24512	古典文学 B
23071	日本文学講義 I D	→	24521	古典文学 C (本年度休講)
23072			24522	古典文学 C (本年度休講)
23081	日本文学講義 I E	→	24531	近現代文学 A
23082			24532	近現代文学 A (本年度休講)
23091	日本文学講義 I F	→	24541	近現代文学 B
23092			24542	
23101	日本文学講義 I G	→	24571	日本文化 B
23102			24572	日本文化 B (本年度休講)
23111	日本文学講義 I H	→	24581	日本文化 C
23112			24582	
23121	日本文学講義 I I	→		開講なし
23122				
23131	漢文学講義 I -a	→	24611	漢文学 a
23141	漢文学講義 I -b	→	24621	漢文学 b
23361	日本語表現法 A-a	→	23361	日本語表現法 A-a
23371	日本語表現法 A-b	→	23371	日本語表現法 A-b
23381	日本語表現法 B-a	→	23381	日本語表現法 B-a
23391	日本語表現法 B-b	→	23391	日本語表現法 B-b

2017年度以前入学生  
 日本語・日本文学  
 専門科目

23301

## 日本文学史 A

担当教員：平田 英夫

2単位 前期

### サブタイトル

中世文学史 - 院政期と武家政権の時代を中心に

### 授業のねらい

主に院政期から室町期にかけての文学史を取り扱う。高校生から日本文学という専門学科に進むさいに必要な古典文学史の基本的な知識やその特徴を学んでいきたい。

### 到達目標

2年次以降の専門性が高くなる古典系の講義や演習を不安なく受講するために、文学史の基礎的事項や知識を身につける。またその時代の文学が持つ特徴や研究課題が理解できるようになる。半期科目なので、取り扱う時代や作品に限界があるが、その点は、各自、ほかの講義などを受講して補っていただければと思う。

### 授業方法

長い期間の文学史を取り扱うので、各時代、時期を象徴する作品を中心に講義は進めていく。日本文学史の年表でもよいので、文学史の基本的事項については、ある程度、事前に予習として学んでおいて欲しい。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 院政期の和歌文学史 — 『後拾遺和歌集』から『詞花和歌集』まで
  - 第3回 『将門記』と『陸奥話記』
  - 第4回 『今昔物語集』の世界
  - 第5回 『今昔物語集』を読む
  - 第6回 『千載和歌集』とその周辺
  - 第7回 『梁塵秘抄』と後白河院
  - 第8回 『六百番歌合』と新古今歌人の登場
  - 第9回 『新古今和歌集』と藤原定家・後鳥羽院
  - 第10回 源実朝と鎌倉の文学
  - 第11回 軍記物語史
  - 第12回 『とはずがたり』と中世巡礼文学
  - 第13回 室町物語を読む — 『小男の草紙』
  - 第14回 謡曲『西行桜』と『江口』
  - 第15回 まとめ
- 以上は、予定であり、多少の変更は有り得る。

### 成績評価の方法

試験 (80%)、授業への参加状況・課題 (20%)

### 履修にあたっての注意

- ・1回目の時に授業を受けるうえでの諸注意や授業計画を説明するので出席すること。
- ・日本古典文学史の年表に記載されている程度の知識は学習しておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

こちらでプリントを用意して、配布する。

23311

## 日本文学史 B

担当教員：平田 英夫

2単位 前期

### サブタイトル

中世文学史 - 院政期と武家政権の時代を中心に

### 授業のねらい

主に院政期から室町期にかけての文学史を取り扱う。高校生から日本文学という専門学科に進むさいに必要な古典文学史の基本的な知識やその特徴を学んでいきたい。

### 到達目標

2年次以降の専門性が高くなる古典系の講義や演習を不安なく受講するために、文学史の基礎的事項や知識を身につける。またその時代の文学が持つ特徴や研究課題が理解できるようになる。半期科目なので、取り扱う時代や作品に限界があるが、その点は、各自、ほかの講義などを受講して補っていただければと思う。

### 授業方法

長い期間の文学史を取り扱うので、各時代、時期を象徴する作品を中心に講義は進めていく。日本文学史の年表でもよいので、文学史の基本的事項については、ある程度、事前に予習として学んでおいて欲しい。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 院政期の和歌文学史 — 『後拾遺和歌集』から『詞花和歌集』まで
  - 第3回 『将門記』と『陸奥話記』
  - 第4回 『今昔物語集』の世界
  - 第5回 『今昔物語集』を読む
  - 第6回 『千載和歌集』とその周辺
  - 第7回 『梁塵秘抄』と後白河院
  - 第8回 『六百番歌合』と新古今歌人の登場
  - 第9回 『新古今和歌集』と藤原定家・後鳥羽院
  - 第10回 源実朝と鎌倉の文学
  - 第11回 軍記物語史
  - 第12回 『とはずがたり』と中世巡礼文学
  - 第13回 室町物語を読む — 『小男の草紙』
  - 第14回 謡曲『西行桜』と『江口』
  - 第15回 まとめ
- 以上は、予定であり、多少の変更は有り得る。

### 成績評価の方法

試験 (80%)、授業への参加状況・課題 (20%)

### 履修にあたっての注意

- ・1回目の時に授業を受けるうえでの諸注意や授業計画を説明するので出席すること。
- ・日本古典文学史の年表に記載されている程度の知識は学習しておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

こちらでプリントを用意して、配布する。

23321

## 日本文学史 C

担当教員：宮崎 靖士

2 単位 後期

### サブタイトル

近代文学史（明治期）の重要事項に関する知識と理解を深める

### 授業のねらい

この講義では、明治 20 年代から明治末までの期間に生じた、「日本近代文学」をめぐる以下の重要事項をとりあげ、解説する。その作業を通じて、受講生一人ひとりが「日本近代文学」の成り立ちや展開に関する基礎的な知識を習得するとともに、個々の作家や作品における試みを「日本近代文学」をめぐる時代の流れの中に位置づけ、価値評価するための視点や感覚を培うことが、この講義の目的となる。

### 到達目標

そのような講義を通じて、受講生各人が、各時代の代表的な作家や作品名、あるいは新たな文芸思潮や創刊雑誌名の列挙には止まらない、「文学史」という領域の可能性を理解するとともに、その理解を、各人が個別の作家や作品を対象にしたレポートや卒論を作成する（＝「文学研究」を行う）際に、その対象が置かれていた歴史的・文学的な位置づけを把握する座標軸として活用できるようになることまでを、この講義では目指している。

### 授業方法

この講義では、以下に参考書として紹介する『近代日本の批評』（柄谷行人編）で検討されている事柄を基礎とした解説を行う。ただし、この講義の主眼は、近代日本における批評の歴史を中心に論じるのではなく、「近代日本の知性の歴史を「批評」の観点から見直す最初の企てとして」編集されたこの書物を手がかりとして、「日本近代文学」の展開を「文学」の外にある（と考えられがちな）哲学・政治思想史・経済史・社会学・マスメディア研究などの領域（で論じられる事柄）との緊張関係から生み出された試みの連続として理解しようとする点にある。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「言文一致」をめぐる（その1）
- 第3回 「言文一致」をめぐる（その2）
- 第4回 「言文一致」をめぐる（その3）
- 第5回 「言文一致」をめぐる（その4）
- 第6回 日清・日露戦争とメディア、読者層の形成（その1）
- 第7回 日清・日露戦争とメディア、読者層の形成（その2）
- 第8回 日清・日露戦争とメディア、読者層の形成（その3）
- 第9回 日清・日露戦争とメディア、読者層の形成（その4）
- 第10回 「自然主義」文学と、「近代小説」の「語り」（その1）
- 第11回 「自然主義」文学と、「近代小説」の「語り」（その2）
- 第12回 「自然主義」文学と、「近代小説」の「語り」（その3）
- 第13回 「自然主義」文学と、「近代小説」の「語り」（その4）
- 第14回 「自然主義」文学と、「近代小説」の「語り」（その5）
- 第15回 講義のまとめ、及び「期間外試験」の実施

### 成績評価の方法

学期の中間に作成するレポート(30%)と、学期末の試験(45%)。及び、講義期間内の提出物等による授業参加度と平常点(25%)。

### 履修にあたっての注意

授業内容の復習に加え、下記の参考書、及び授業で紹介する文学テキストの予習・復習をして講義にのぞむこと。  
なお、登録受講生が 80 名以上の場合、座席指定を行う可能性がある。  
また、授業の進度によっては、試験を定期試験期間内に行う可能性もある。

### 教科書

(参考書)

### 教科書・参考書に関する備考

参考書の扱い方については、第 1 回目の講義で解説する。

### 参考書

柄谷行人『近代日本の批評 3 明治・大正篇』（講談社文芸文庫）



23401

## 古文読解

担当教員：小山 清文

2単位 前期

### サブタイトル

古典文法を基礎から学び直す

### 授業のねらい

古典文学に興味はありながら、文語文法を十分に理解していないために、現代語訳に頼りきり、自力で古文そのものを読解することが苦手な人、もう一度高校の古典（文法）の授業を基礎から受け直したい、復習したいという人のための、古文読解上の基礎力を養うことを目的とする補習的な授業です。

### 到達目標

用言の活用や助動詞に関する基礎的知識をしっかりと身につけることができる。

### 授業方法

- ・プリントの例題や例文を用いて、用言や助動詞の基礎的事項を中心に学び直していきます。
  - ・基礎的な文法事項や宿題として課す練習問題等（30～60分程度）の解説を中心に授業を進めていきます。
- 時折実施する小テスト等の解答についても授業やプリント等を通して解説します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスおよび動詞の活用について（四段活用と二段活用）
- 第2回 動詞の活用の学習(1)：活用形と活用の種類の見分け方
- 第3回 動詞の活用の学習(2)：活用表をつくる
- 第4回 形容詞・形容動詞の活用と係り結びの学習
- 第5回 用言の活用の復習および小テスト
- 第6回 助動詞の学習(1)：過去の助動詞
- 第7回 助動詞の学習(2)：完了の助動詞
- 第8回 助動詞の学習(3)：過去・完了の助動詞の復習
- 第9回 助動詞の学習(4)：推量の助動詞（む・らむ・けむ）
- 第10回 助動詞の学習(5)：推量の助動詞（べし）
- 第11回 助動詞の学習(6)：過去・完了・推量の助動詞の復習および小テスト
- 第12回 助動詞の学習(7)：その他の助動詞
- 第13回 助動詞および助詞の学習：さまざまな表現法
- 第14回 敬語法の学習(1)：尊敬語・謙譲語・丁寧語
- 第15回 敬語法の学習(2)：特殊な用法

### 成績評価の方法

理解度の測定と復習をかねて行なう複数回的小テスト（30%）、到達目標を測定する期末試験（70%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

基本的な文語文法の知識について理解している人は受講する必要はありません。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意します。

23451

## 日本語学概論 a

担当教員：吉見 孝夫

2単位 前期

### サブタイトル

日本語を考える方法

### 授業のねらい

日本語に関わるさまざまな問題を考える場合、主観的な印象論では説得力をもたない。考えるためには知識と方法への理解が必要である。この授業は、音声・音韻、語彙・意味、文字・表記、方言に関する基本的な知識、方法の習得を目的とする。

### 到達目標

1. 音声学・音韻論、語彙論・意味論、文字論、方言学に関する基本的な概念を理解できる。
2. 音声学・音韻論、語彙論・意味論、文字論、方言学に関する方法を理解し、応用することができる。

### 授業方法

原則として講義形式で行うが、1、2回調査レポートを課す。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 言語研究
- 第3回 音声学
- 第4回 音節・モーラ
- 第5回 音韻論
- 第6回 アクセント
- 第7回 漢字
- 第8回 仮名
- 第9回 現代の表記法
- 第10回 語彙
- 第11回 語種
- 第12回 意味
- 第13回 方言
- 第14回 方言研究の方法
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験（60%）、調査レポート（20%）、授業への参加状況（20%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

課題提出は必須。提出のない場合、単位は認定されない。

### 教科書

月本雅幸『日本語概説』（放送大学教育振興会、2015、ISBN：9784595315411）

23461

## 日本語学概論 b

担当教員：吉見 孝夫

2 単位 後期

## サブタイトル

日本語はどのように移り変わってきたか

## 授業のねらい

私たちが日常使っている日本語は長い時間を経てここに至った歴史的産物である。だから現代の日本語の問題を考える場合、日本語史の知見を得ることによって、一層深い考察が可能となる。例えばいわゆる「ら抜き言葉」、あるいは仮名遣いをどうするかといった問題。自己の感情・感覚に頼って述べ立てるならば説得力を持たない。このとき、日本語がどう変化してきたのかを理解したならば、客観的、分析的な論を展開することができる。この段階にまで到達するのは難しいが、この授業は、日本語の諸問題を自分の頭で考える手がかりの一つとなることをめざす。

## 到達目標

1. 日本語がどのように変化してきたかを概括的に説明することができる。
2. 日本語史の方法、専門用語を理解することができる。

## 授業方法

基本的に講義形式で行うが、1、2回調査レポートを課す。

## 授業計画

- |      |               |
|------|---------------|
| 第1回  | ガイダンス         |
| 第2回  | 言語の変化         |
| 第3回  | 時代区分          |
| 第4回  | 奈良時代以前の日本語(1) |
| 第5回  | 奈良時代以前の日本語(2) |
| 第6回  | 奈良時代以前の日本語(3) |
| 第7回  | 平安時代の日本語(1)   |
| 第8回  | 平安時代の日本語(2)   |
| 第9回  | 鎌倉時代の日本語(1)   |
| 第10回 | 鎌倉時代の日本語(2)   |
| 第11回 | 室町時代の日本語(1)   |
| 第12回 | 室町時代の日本語(2)   |
| 第13回 | 江戸時代の日本語(1)   |
| 第14回 | 江戸時代の日本語(2)   |
| 第15回 | まとめ           |

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験(60%)、調査レポート(20%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

日本史、古典文法を復習しておくこと。  
課題提出は必須。提出のない場合、単位は認定されない。

## 教科書

なし

## 参考書

- 沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』(ベレ出版、2010、ISBN: 9784860642556)  
 沖森卓也『日本語史概説』(朝倉書店、2010、ISBN: 9784254515220)  
 木田章義『国語史を学ぶ人のために』(世界思想社、2013、ISBN: 9784790715962)  
 大木一夫『ガイドブック日本語史』(ひつじ書房、2013、ISBN: 9784894766150)  
 今野真二『日本語の歴史』(河出書房新社、2015、ISBN: 9784309762371)  
 沖森卓也『日本語全史』(筑摩書房、2017、ISBN: 9784480069573)

23471

## 日本文学概論 a

担当教員：水口 幹記

2 単位 前期

## サブタイトル

文学生成の場

## 授業のねらい

本授業では、前近代に登場したいわゆる古典文学の作品を対象とします。ただし、単純に文学史をなぞることはせず、文学作品(説話・歌など)が生まれた背景や生成過程を、歴史や中国の文学作品との関わりなどを視野に入れて述べていきます。また、文学作品を支える工具類(類書や目録)にも注目し、その編纂過程や作品との関連についても述べ、広く「古典文学」について考えてみたいと思います。

## 到達目標

1. 「文学」とは何かを考えるきっかけを得ることができる。
2. 幅広い知識が身につく。
3. 日本文学が東アジア世界の中の「文学」であることを知ることができる。

## 授業方法

講義形式で行います。また、数回授業中にリアクションペーパーを記入してもらうこともあります。レポートについては、朱を入れ訂正後に返却致します。

毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること(所要時間30分~60分程度)。

## 授業計画

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | ガイダンス                      |
| 第2回  | 紙以外に書く(1)―『論語』木簡から釈奠詩へ     |
| 第3回  | 紙以外に書く(2)―歌木簡をめぐって         |
| 第4回  | 政治と文学の関係―柿本人麻呂の歌           |
| 第5回  | 類書の編纂(1)―類書の歴史             |
| 第6回  | 類書の編纂(2)―日本初の類書『秘府略』       |
| 第7回  | 目録の編纂(1)―四部分類の成立           |
| 第8回  | 目録の編纂(2)―『日本国見在書目録』        |
| 第9回  | 漢籍の影響(1)―『日本書紀』所載崇仏論争をめぐって |
| 第10回 | 漢籍の影響(2)―白居易               |
| 第11回 | 漢籍の影響(3)―白蛇伝               |
| 第12回 | 日本紀竟宴和歌の世界―生みだされる神話        |
| 第13回 | 説話の形成―『日本霊異記』下巻第十九縁を例に     |
| 第14回 | 縁起の形成―『大雲寺縁起』を例に           |
| 第15回 | まとめ                        |

## 成績評価の方法

最終レポート80%。授業への参加状況20%。

## 履修にあたっての注意

2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。くれぐれも注意してください。

## 教科書

なし

23481

## 日本文学概論 b

担当教員：関谷 博

2 単位 後期

## サブタイトル

「近世」から「近代」へ

## 授業のねらい

近代化のなかで「文学」はいかに位置づけられ変容したかを考える。

## 到達目標

1. 近世～近代において、文学の概念はどのような質的変遷を経験したかを知る。
2. 近代の日本文学の流れを展望したうえで、特定の個別の文学作品や文学的事象について、その意義や位置づけに関する自分の考えを述べるができる。

## 授業方法

講義形式。あらかじめ配布されたプリントの指定箇所をよく読んでおくこと。

プリント読解(予習)に小1時間、講義ノートの整理(復習)に30分程度要する。

テストはコメントをつけて返却する。

## 授業計画

- 第1回 文学概念について。
- 第2回 江戸時代とはなにか(1)
- 第3回 江戸時代とはなにか(2)
- 第4回 近代化とナショナリズム(1)－国語という考え方－
- 第5回 近代化とナショナリズム(2)－逍遙と二葉亭－
- 第6回 近代化とナショナリズム(3)－二葉亭と露伴－
- 第7回 知の制度化－人格概念について(1)
- 第8回 知の制度化－人格概念について(2)
- 第9回 西欧と日本－永井荷風(1)
- 第10回 西欧と日本－永井荷風(2)
- 第11回 西欧と日本－高村光太郎(1)
- 第12回 西欧と日本－高村光太郎(2)
- 第13回 西欧と日本－金子光晴(1)
- 第14回 西欧と日本－金子光晴(2)
- 第15回 現代と文学－総括－

## 成績評価の方法

試験～2題の設問のうち第1問で達成目標1を、第2問で達成目標2を測定し、それに基づき評価する(80%)、授業への参加状況(20%)

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要に応じてプリントを配布します。

23501

## 日本語学講義Ⅱ A-a

担当教員：漆崎 正人

2 単位 前期

## サブタイトル

『なぞだて(謎立)』が開く中世日本語の世界－謎解きは講義の中で

## 授業のねらい

『なぞだて』(別称『後奈良院御撰何曾』)(1516年成立)は、中世において、貴族の中で盛んであった言葉遊びの一種、「なぞなぞ」の撰集です。「なぞなぞ」は、表現の多義性、類義性、同音異義性などを利用して作られます。競い合いとしての「なぞなぞ」は、それら日本語表現の特性の幅や奥行きなどの可能性を確かめる場という意味を持ちます。この講義では、個々の「なぞなぞ」の成立の拠り所となっている、表現のそのような仕掛けを探り、解析を目指します。

## 到達目標

- ・講義で取り上げた、「なぞなぞ」の表現の多義性、類義性、同音異義性などを把握し、それぞれの「なぞなぞ」の成立及び完成度について説明できる。

## 授業方法

講義形式で行います。『なぞだて』の編者とされているのが後奈良院であることから推測できるように、個々の作者は、言語、文学、文化、風俗などの知識を駆使しながら、完成度の高い「なぞなぞ」の作成を試みているので、授業では、それらを押さえつつ「なぞなぞ」の1題1題を丁寧に解析します。事前にその日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。期末レポートは採点後に希望者にはコメントを付して返却します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資料の日本語史的概説
- 第3回 室町期の音韻と表記の關係の解説
- 第4回 『なぞだて』の解析(1): 1～5題程度
- 第5回 『なぞだて』の解析(2): 1～5題程度 (\*1の続き)
- 第6回 『なぞだて』の解析(3): 1～5題程度 (\*2の続き)
- 第7回 『なぞだて』の解析(4): 1～5題程度 (\*3の続き)
- 第8回 『なぞだて』の解析(5): 1～5題程度 (\*4の続き)
- 第9回 『なぞだて』の解析(6): 1～5題程度 (\*5の続き)
- 第10回 『なぞだて』の解析(7): 1～5題程度 (\*6の続き)
- 第11回 『なぞだて』の解析(8): 1～5題程度 (\*7の続き)
- 第12回 『なぞだて』の解析(9): 1～5題程度 (\*8の続き)
- 第13回 『なぞだて』の解析(10): 1～5題程度 (\*9の続き)
- 第14回 『なぞだて』の解析(11): 1～5題程度 (\*10の続き)
- 第15回 『なぞだて』の解析(12): 1～5題程度 (\*11の続き)

## 成績評価の方法

評価は、期末のレポート(80%)と、授業への参加状況(20%)によります。欠席時(回)数が総授業時(回)数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

## 履修にあたっての注意

わかりにくい点は質問などを積極的にすること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：最初に配布します。

参考書：適宜指示します。



23511

## 日本語学講義Ⅱ A-b

担当教員：漆崎 正人

2単位 後期

## サブタイトル

『なぞだて（謎立）』が開く中世日本語の世界－謎解きは講義の中で

## 授業のねらい

『なぞだて』（別称『後奈良院御撰何首』（1516年成立）は、中世において、貴族の中で盛んであった言葉遊びの一種、「なぞなぞ」の撰集です。「なぞなぞ」は、表現の多義性、類義性、同音異義性などを利用して作られます。競い合いとしての「なぞなぞ」は、それら日本語表現の特性の幅や奥行きなどの可能性を確かめる場という意味を持ちます。この講義では、個々の「なぞなぞ」の成立の拠り所となっている、表現のそのような仕掛けを探り、解析を目指します。

## 到達目標

・講義で取り上げた、「なぞなぞ」の表現の多義性、類義性、同音異義性などを把握し、それぞれの「なぞなぞ」の成立及び完成度について説明できる。

## 授業方法

講義形式で行います。『なぞだて』の編者とされているのが後奈良院であることから推測できるように、個々の作者は、言語、文学、文化、風俗などの知識を駆使しながら、完成度の高い「なぞなぞ」の作成を試みているので、授業では、それらをpushして「なぞなぞ」の1題1題を丁寧に解析します。事前にその日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。期末レポートは採点后に希望者にはコメントを付して返却します。

## 授業計画

第1回 ガイダンス  
 第2回 資料の日本語史的概説  
 第3回 室町期の音韻と表記の関係の解説  
 第4回 『なぞだて』の解析(13)：1～5題程度（\*12の続き）  
 第5回 『なぞだて』の解析(14)：1～5題程度（\*13の続き）  
 第6回 『なぞだて』の解析(15)：1～5題程度（\*14の続き）  
 第7回 『なぞだて』の解析(16)：1～5題程度（\*15の続き）  
 第8回 『なぞだて』の解析(17)：1～5題程度（\*16の続き）  
 第9回 『なぞだて』の解析(18)：1～5題程度（\*17の続き）  
 第10回 『なぞだて』の解析(19)：1～5題程度（\*18の続き）  
 第11回 『なぞだて』の解析(20)：1～5題程度（\*19の続き）  
 第12回 『なぞだて』の解析(21)：1～5題程度（\*20の続き）  
 第13回 『なぞだて』の解析(22)：1～5題程度（\*21の続き）  
 第14回 『なぞだて』の解析(23)：1～5題程度（\*22の続き）  
 第15回 『なぞだて』の解析(24)：1～5題程度（\*23の続き）

## 成績評価の方法

評価は、期末のレポート（80%）と、授業への参加状況（20%）によります。欠席時（回）数が総授業時（回）数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

## 履修にあたっての注意

わかりにくい点は質問などを積極的にすること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：最初に配布します。  
 参考書：適宜指示します。

23521

## 日本語学講義Ⅱ B-a

担当教員：揚妻 祐樹

2単位 前期

## サブタイトル

近現代の日本語概観—語彙と文法

## 授業のねらい

言語の観察は大きく分けて時系列にそって言語が変化する様相（通時態）と、静止的な構造として言語を捉えたときの様相（共時態）という二つの面からとらえることができる。日本語は通時態から見ても様々な変遷を経て今日に至るし、共時態、特に現代語の共時態から見ての多くの変異（バリエーション）がある。「日本語学講義Ⅱ B」では、通時態、共時態（特に）の両面から日本語の特徴的な姿を捉えることを目指す。

このうち「日本語学講義Ⅱ B-a」では、「文法」と「語彙」について取り上げる。文法については、膠着語である日本語の特性に加え、活用の変遷、助詞の変異など、語彙については「基本語彙・普通語」の問題、和語・漢語・外来語、辞書論など、いずれも日本語を理解するうえでの基本事項を取り上げる。

## 到達目標

1. 語彙・文法の面から近現代日本語の歩みについての基本的知識を習得する。
2. 近現代日本語の語彙・文法について、自身で計画を立て研究を実践する能力を習得する。

## 授業方法

基本的には講義形式で行う（75～80分程度）。授業の最後に授業に対するコメントを書く時間を設ける（10～15分程度）。次回の授業でフォードバックする。また、近・現代語について理解を深めるための図書を読み要約をする課題、及び明治期の資料調査をする課（60分程度）。

## 授業計画

第1回 ガイダンス  
 第2回 文法(1) 規範文法と記述文法  
 第3回 文法(2) 書生ことば  
 第4回 文法(3) 時制表現の変遷  
 第5回 文法(4) 助詞の変遷  
 第6回 文法(5) 活用の変遷  
 第7回 文法(6) 学校文法について  
 第8回 語彙(1) 国語辞典の役割  
 第9回 語彙(2) 基本語彙  
 第10回 語彙(3) 近代の漢語  
 第11回 語彙(4) 近代の外来語  
 第12回 語彙(5) 位相差から見た近代語  
 第13回 語彙(6) 地域差から見た近代語  
 第14回 語彙(7) 標準語運動  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する授業に対するコメント（10%）及び授業で課す課題（30%）と、主に到達目標2を測定する期末レポート（60%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

出席が3分の2以上であることが単位取得の条件である（ガイダンス期間の授業も含む）。授業態度に問題のある学生（私語、スマホなどの内職など）は履修継続を認めない。

## 教科書

なし

23531

## 日本語学講義Ⅱ B-b

担当教員：揚妻 祐樹

2単位 後期

## サブタイトル

近現代の日本語概観—音声・文字・文章—

## 授業のねらい

言語の観察は大きく分けて時系列にそって言語が変化する様相（通時態）と、静止的な構造として言語を捉えたときの様相（共時態）という二つの面からとらえることができる。日本語は通時態から見ても様々な変遷を経て今日に至るし、共時態、特に現代語の共時態から見ての多くの変異（バリエーション）がある。「日本語学講義Ⅱ B-b」では、通時態、共時態（特に）の両面から日本語の特徴的な姿を捉えることを目指す。

このうち「日本語学講義Ⅱ b」では、「音声」「文字」「文章」について取り上げる。「音声」については、音声言語と書記言語の違い、シラブルとモーラ、母音と子音、アクセントなど、文字については、表意文字と表音文字、漢字の諸問題（音訓、漢字制理論と漢字尊重論）、仮名の成立など、言文一致体いずれも日本語を理解するうえでの基本事項を取り上げる。

## 到達目標

1. 近現代日本語の文字、音声、文章についての基本的知識を習得する。
2. 近現代日本語の文字、音声、文章について自身で計画を立てて研究を実践する能力を習得する。

## 授業方法

講義形式で行う（75～80分）。授業の最後に授業に対するコメントを書く時間を設ける（10～15分程度）。これは次回の授業でフィードバックする。授業で紹介した資料に基づき調査をする課題を課す（60分程度）。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 音声言語と書記言語
- 第3回 音節と音素
- 第4回 子音と母音
- 第5回 アクセント
- 第6回 イントネーション、ポーズ、プロミネンス
- 第7回 レスポンスに答えて
- 第8回 日本語の表記の特徴
- 第9回 仮名の成立と仮名遣い
- 第10回 漢字音
- 第11回 漢字の訓
- 第12回 表音主義運動
- 第13回 言文一致体運動(1)わかりやすい日本語を求めて
- 第14回 言文一致体運動(2)心の中を描写する
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する授業に対するコメント（10%）及び授業内で課す課題（30%）と、主に到達目標2を測定する期末レポート（60%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

出席が3分の2以上であることが単位取得の条件である（ガイダンス期間の授業も含む）。授業態度に問題のある学生（私語、スマホなどの内職など）は履修継続を認めない。

## 教科書

なし

23541

## 日本語学講義Ⅱ C-a

担当教員：吉見 孝夫

2単位 前期

## サブタイトル

狂言詞章を中心にみた室町時代語

## 授業のねらい

古代語から近代語への変化の容相を示す室町時代は、外国資料・抄物など日本語史の資料が豊富にある時代でもある。その資料群の一つに狂言台本がある。狂言には、大名・冠者・尼・山伏・百姓など男女いろいろな階層の人々が登場するし、当時の口語の様相が写し出されている。この講義では狂言台本を読み解くことで、古代語から近代語への変化を把握することをねらいとする。

## 到達目標

1. 狂言台本を読解することができる。
2. 室町時代の種々の言語事象を日本語史のなかに位置づけることができる。

## 授業方法

原則として講義形式で行うが、何回か課題、発表を課す。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 室町時代語の資料
- 第3回 室町時代の音韻
- 第4回 室町時代の文法・語彙
- 第5回 狂言台本概説
- 第6回 狂言読解(1)虎寛本
- 第7回 狂言読解(2)虎寛本
- 第8回 狂言読解(3)虎明本
- 第9回 狂言読解(4)虎明本
- 第10回 狂言読解(5)虎明本
- 第11回 狂言読解(6)狂言六義
- 第12回 狂言読解(7)狂言六義
- 第13回 狂言読解(8)狂言記
- 第14回 台本間の比較
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験（50%）、課題（30%）、授業への参加状況（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

課題の提出・発表は必須。提出・発表のない場合、単位は認定されない。

## 教科書

なし

## 参考書

- 古川久編『狂言古本二種』（わんや書店、1964）  
池田廣司・北原保雄『大蔵虎明本狂言集の研究 上・中・下』（表現社、1972）  
北原保雄・小林賢次『狂言六義全注』（勉誠社、1991、ISBN：4585030034）  
北川忠彦他『天理本狂言六義 上・下』（三弥井書店、1994、ISBN：4838210205）  
橋本朝生・土井洋一校注『狂言記』（岩波書店、1996、ISBN：4002400581）  
北原保雄・大倉浩『狂言記新注』（武蔵野書院、1992、ISBN：4838606346）



23551

## 日本語学講義Ⅱ C-b

担当教員：吉見 孝夫

2単位 後期

### サブタイトル

伊曾保から伊蘇普へ

### 授業のねらい

近世初期の仮名草子『伊曾保物語』は、江戸期を通していろいろな形で伝えられる。また幕末から明治初期にかけて、イソップ寓話が英語から翻訳されている。その代表が渡辺温の『通俗伊蘇普物語』である。この講義は『伊曾保物語』から『通俗伊蘇普物語』へ至るイソップ寓話の受容過程を通して、近世の日本語、文体、表記のありようを理解することをねらいとする。

### 到達目標

1. 近世の諸種の資料を読解することができる。
2. 近世の文体、表記を理解したうえで、それを専門用語を用いて他に対して説明することができる。

### 授業方法

原則として講義形式で行うが、何回か課題、発表を課す。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世の出版物の概要
- 第3回 『伊曾保物語』の読解(1)
- 第4回 『伊曾保物語』の読解(2)
- 第5回 『伊曾保物語』の読解(3)
- 第6回 『伊曾保物語』の諸版
- 第7回 『伊曾保物語』の引用・改作
- 第8回 『絵入教訓近道』
- 第9回 イソップ寓話集の英書
- 第10回 『童蒙教草』『訓蒙話草』
- 第11回 『通俗伊蘇普物語』の読解(1)
- 第12回 『通俗伊蘇普物語』の読解(2)
- 第13回 『通俗伊蘇普物語』の読解(3)
- 第14回 新聞に載ったイソップ寓話
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する試験(50%)、課題(30%)、授業への参加状況(20%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

課題の提出・発表は必須。提出・発表のない場合、単位は認定されない。

### 教科書

なし

### 参考書

- 森田武他校注『仮名草子集』(岩波書店、1965)  
大塚光信『キリシタン版エソポのハプラス私注』(臨川書店、1983、ISBN: 4653008302)  
遠藤潤一『伊曾保物語第二種本の翻刻と本文研究』(風間書房、1993、ISBN: 475990851x)  
武藤禎夫校注『万治絵入伊曾保物語』(岩波書店、2000、ISBN: 4003027612)  
渡部温訳『通俗伊蘇普物語』(平凡社、2001、ISBN: 4582806937)

23561

## 日本語学講義Ⅱ D-a

担当教員：池田 証壽

2単位 前期

### サブタイトル

日本語の文字表記

### 授業のねらい

日本語の文字表記を学ぶ。漢字を中心に、仮名、ローマ字、補助符号、表記法に関して主として歴史的観点からどのような問題があるかを概論する。日本語学、日本文学、日本史など、古い日本の文献を扱って研究しようとする人を主たる対象として、基礎事項を身につけることを目的とする。

### 到達目標

漢字を中心に、仮名、ローマ字、補助符号、表記法に関する正しい知識を身につける。歴史的観点から文字表記の問題を考えることが、現代の文字表記の問題を検討する際に、重要な手がかりになることを理解する。

### 授業方法

講義形式で行う。授業時間内に確認の小テストまたは講義内容に対するコメント・質問を求める。教科書に不足する図版は、PPTで提示する。

### 授業計画

- 第1回 導入：  
記号と文字の違いはなんだろう。
- 第2回 総説：  
文字を分類してみよう。アルファベットと漢字の違い。
- 第3回 漢字（起源と展開、書体・字体）：  
19世紀末、竜骨という薬用の骨に刻まれた文字が発見された。
- 第4回 漢字（漢字の構成、字音）：  
ほとんどの漢字は、意味を表す部分と発音を表す部分に分けることができる。
- 第5回 漢字（訓、国字・国訓、当て字）：  
日本の鮎は「あゆ」、中国では「なまず」だった。
- 第6回 仮名（万葉仮名）：  
なぞなぞです。「山上復有山」と書いてどう読むのでしょうか。
- 第7回 仮名（平仮名・片仮名）：  
文学作品を生み出した平仮名、学問世界で発達した片仮名。
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 ローマ字：  
「新聞（しんぶん）」をヘボン式ローマ字で書いてみよう。
- 第10回 補助符号（訓点、濁点、句読点）：  
中国、朝鮮半島で使われていた各種符号に日本に伝来。
- 第11回 補助符号（さまざまな符号・記号）：  
長音符（伸ばし棒の「ー」）は誰がいつ発明したのか。
- 第12回 表記法（仮名遣、送り仮名等）：  
「こんにちは」と「こんにちは」、どっちが正しいの？
- 第13回 文字と社会（印刷史、書道）：  
校正おそるべし。
- 第14回 文字と社会（文字遊び）：  
「竹藪焼けた」、回文の話など。
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況・受講態度・授業中の課題：20%、期末試験：80%。

### 履修にあたっての注意

教科書の順に講義するので、事前には内容を読んでおくこと。例文には難しいものもあるので、読み方や意味を調べておくこと。

### 教科書

沖森卓也・笹原宏之・常盤貴子・山本真吾『図解日本の文字』（三省堂、2011、ISBN：9784385364803）

23571

## 日本語学講義Ⅱ D-b

担当教員：池田 証壽

2単位 後期

### サブタイトル

日本辞書史の研究

### 授業のねらい

日本語の語彙の史的研究の観点から、古辞書の種類・内容等を考察する。特に奈良時代から室町時代までに成立した古辞書を中心に上げて、その編者、成立、組織、価値、後世への影響などを解説する。特に日本語学、日本文学、日本史学などで、日本語の歴史的な文献を使用して研究しようとする人を主たる対象とする。

### 到達目標

日本語研究資料として古辞書を利用できるようにすることを最終的な目標とする。そのために、特に奈良時代から室町時代までに成立した古辞書を中心にして、その編者、成立、組織、価値、後世への影響などを理解した上で、それらを利用して日本語の歴史を考察する手法を身につける。

### 授業方法

講義形式で行う。古辞書の原文を読むので、事前に読み方の難しい漢字等はよく調べておくことが求められる。

### 授業計画

- 第1回 導入：  
日本語史研究の中での古辞書研究の位置付け
- 第2回 中国辞書史と日本辞書史：  
『切韻』と『玉篇』
- 第3回 上代の辞書—奈良時代の辞書・音義・注釈書：  
漢字をどのように学習したか
- 第4回 中古の辞書—『篆隸万象名義』：  
弘法大師空海の編纂した日本最古の辞書
- 第5回 中古の辞書—『新撰字鏡』：  
日本最古の漢和辞典
- 第6回 中古の辞書—『倭名類聚抄』：  
本文を権威とする学問世界で生れた百科辞典
- 第7回 中古の辞書—『類聚名義抄』：  
本格的な漢和辞典のはじまり
- 第8回 中古の辞書—『色葉字類抄』：  
日本最古の国語辞典
- 第9回 中世の辞書—『字鏡』と『和玉篇』：  
漢和辞典の継承
- 第10回 中世の辞書—『字鏡抄』と『字鏡集』：  
漢和辞典の展開
- 第11回 中世の辞書—『下学集』と『節用集』：  
国語辞典の発達
- 第12回 近世の辞書：  
さまざまな辞書の編纂
- 第13回 近代の辞書：  
国語施策との関連、古辞書の利用の実態
- 第14回 現代の辞書  
『日本国語大辞典』と『大漢和辞典』における古辞書の利用
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

出席・授業への参加度合い・提出物 20%、期末試験 80%

### 履修にあたっての注意

教科書は、プリントを使用する。古辞書の原文を読むので、事前に読み方の難しい漢字等はよく調べておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は、プリントを使用する。

### 参考書

高橋忠彦、高橋久子『日本の古辞書：序文・跋文を読む』（大修館書店、2006、ISBN：4469221775）  
西崎亨『日本古辞書を学ぶ人のために』（世界思想社、1995、ISBN：4790705552）

### 参考ホームページ

平安時代漢字字書総合データベース <http://hdic.jp>（データ公開、参考文献、有益サイト紹介等。）

23581

## 日本語学講義Ⅱ E-a

担当教員：菅 泰雄

2単位 前期

### サブタイトル

日本語の構造（文法と表現）

### 授業のねらい

現代語を中心とした日本語学の研究をしようと考えている学生、「日本語教育」や「国語教育」に携わろうと考えている学生を主な対象として、日本語文法（形態論・構文論）に関わる基礎的な概念、方法論、および最近の研究動向について学ぶ。

他の言語との対照言語学的知見を取り入れることによって、日本語を相対化して理解を深める。

以上を通して、人間と言語のあり方について考える機会を与える。

### 到達目標

1. 日本語の文法的構造について、形態論・構文論の主要項目に関する基礎的な知識と分析力を身につける。
2. 対照言語学の基礎知識を身につける。

### 授業方法

講義形式で、主要項目について解説を行う。毎回の授業ごとに、取り上げるテーマに関わる項目をクイズ形式で提示するので、予め自分なりの答えを準備して授業に臨むこと。また、事後課題として、関連した言語データの分析を行ってもらう。

### 授業計画

- 第1回 文法と文法論
- 第2回 形態論と構文論
- 第3回 語と句の連続性
- 第4回 品詞の連続性
- 第5回 名詞の特性
- 第6回 動詞の特性
- 第7回 形容詞の特性
- 第8回 副詞の特性
- 第9回 助詞の特性
- 第10回 述語に現れる文法カテゴリー
- 第11回 ボイス
- 第12回 アスペクト
- 第13回 テンス
- 第14回 モダリティ
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

毎回の授業ごとに課する事前・事後課題等の提出物（30%）、学期末試験（70%）による。

### 履修にあたっての注意

授業は基本的には講義形式で行うが、随時学生に発言を求めないので、積極的に授業に参加する態度が必要である。また、疑問点・不明点についても、授業中に遠慮なくしてほしい。授業で使用するプリントには必ず目を通し、予習・復習を確実にを行い、疑問点・不明点を整理しておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

下記の他、必要に応じて授業時に言及する。

### 参考書

森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』（ひつじ書房、2000）  
山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版、2004）

松岡 弘『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク、2000）  
白川博之『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク、2001）

23591

## 日本語学講義Ⅱ E-b

担当教員：菅 泰雄

2単位 後期

## サブタイトル

現代日本語の諸相

## 授業のねらい

日本語の構造や意味、用法についての知識や考え方を確実に身につけ、多角的、論理的に分析できるようにする。

## 到達目標

1. 日本語の形態論の基礎を理解することができる。
2. 意味分析、談話分析、構文解析など、言語研究の基本的知識を身につけることができる。
3. 日本語の多様性についての認識を深める。

## 授業方法

テキストを使い、グループごとに検討を進め、レジュメを作り、発表する。その後、全員による質疑応答を行い、最終的にレポートにまとめる。

## 授業計画

- |      |                      |
|------|----------------------|
| 第1回  | ガイダンス（授業の進め方、グループ割り） |
| 第2回  | 語の構造                 |
| 第3回  | 類義語                  |
| 第4回  | 多義語                  |
| 第5回  | 言語の単位                |
| 第6回  | 属性とことば               |
| 第7回  | 語彙論                  |
| 第8回  | 会話分析                 |
| 第9回  | 正書法                  |
| 第10回 | 文体論                  |
| 第11回 | あいまい文の構造             |
| 第12回 | 副言語と非言語              |
| 第13回 | オノマトペ                |
| 第14回 | ことばの地域差              |
| 第15回 | 日本語の多様性              |

## 成績評価の方法

授業時の発言・レジュメの完成度・発表のパフォーマンス（50%）、レポート（20%）、達成度測定試験（学期末試験）（30%）。

## 履修にあたっての注意

グループワークを行うので、遅刻・欠席をすると他の学生に迷惑をかけることになる。  
十分な予習を行うとともに、授業後は発展的課題に取り組むことが必要である。  
前期の授業（日本語学講義Ⅱ E-a）を受講していることが望ましい。また、「日本語学概論」に相当する授業を履修していることが望ましい。未履修の場合は、任意のテキストを利用し独習しておくこと。

## 教科書

野田尚史他『日本語を分析するレッスン』（大修館書店、2017、ISBN：978-4-469-21362-1）

## 教科書・参考書に関する備考

授業時に随時指示する。

23601

## 日本文学講義Ⅱ A-a

担当教員：水口 幹記

2単位 前期

## サブタイトル

古代日本文学と夢

## 授業のねらい

『日本書紀』・『古事記』をはじめとする古代の文学作品には、非常に多くの夢に関する記述が存在しています。本講義では、それらの中で描かれた「夢」記事を読み解くことにより、古代人にとって「夢」とは何か、現在の私たちとはどこが異なるのかなどの問題を検討していきます。その検討を通して、現在の我々と古代社会との共通点・相違点を認識し、異文化について考えていく契機を得られるようにしたいと思います。

## 到達目標

1. 「文学」とは何かを考えるきっかけを得ることができる。
2. 現代と古代の人々の感覚の違いを知ることができる。
3. 幅広い知識が身につけることができる。
4. 日本文学が東アジア世界の中の「文学」であることを知ることができる。

## 授業方法

講義形式で行います。  
また、数回授業中にリアクションペーパーを記入してもらうこともあります。  
レポートについては、朱を入れ訂正後に返却致します。  
毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること（所要時間30分～60分程度）。

## 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1回  | ガイダンス                 |
| 第2回  | みなさんの夢と胡蝶の夢           |
| 第3回  | 成尋の見た夢                |
| 第4回  | 王の見る夢—『古事記』『日本書紀』の夢   |
| 第5回  | 仏教と夢—『日本霊異記』の夢記事(1)   |
| 第6回  | 景戒の見た夢—『日本霊異記』の夢記事(2) |
| 第7回  | 『風土記』の夢記事             |
| 第8回  | 初瀬（長谷）と夢              |
| 第9回  | 夢を語る人びと—夢語り共同体(1)     |
| 第10回 | 夢合わせ、描かれた夢—夢語り共同体(2)  |
| 第11回 | 「夢記」とは？               |
| 第12回 | 成尋の「夢記」               |
| 第13回 | 明恵の「夢記」               |
| 第14回 | 東アジア文学の夢記事            |
| 第15回 | まとめ                   |

## 成績評価の方法

レポート80%。授業への参加状況20%。

## 履修にあたっての注意

2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。くれぐれも注意してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布します。また、読むべき本なども授業において紹介します。



23611

## 日本文学講義Ⅱ A-b

担当教員：水口 幹記

2単位 後期

## サブタイトル

古代日本文学と時間

## 授業のねらい

現在私たちは当然のように各自が時計を持ち、秒刻みで時間を一人一人が知ることができます。しかし、古代においては、各自が時計を持ち時間を知ることができませんでした。本講義では、古代の人たちはどのようにして時間を知ることができたのかを確認し、また、彼らが知り得た時間がどのように文学作品に反映されているかを確認していきたいと思います。その際、東アジア世界に留意し、作品を読み解いていきます。

## 到達目標

- 1、現在の私たちと古代人との時間認識の差異を知ることができる。
- 2、その差異が生み出した文学の存在を知ることができる。
- 3、東アジア世界における文化の共通性と非共通性を知ることができる。

## 授業方法

講義形式で行います。

また、数回授業中にリアクションペーパーを記入してもらうこともあります。

レポートについては、朱を入れ訂正後に返却致します。

毎回の授業後、授業の内容を各自復習し、ノートに要点をまとめること（所要時間30分～60分程度）。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古代の時間・暦・天
- 第3回 夢見る時間—景戒の夢・成尋の夢
- 第4回 時間をめぐる二つの文化圏(1)—古代の時間制度
- 第5回 時間をめぐる二つの文化圏(2)—奈良時代の時間記載
- 第6回 時間をめぐる二つの文化圏(3)—鼓鐘音文化圏
- 第7回 時間をめぐる二つの文化圏(4)—鐘音文化圏
- 第8回 大津皇子詩と陳後主詩(1)—問題点の指摘
- 第9回 大津皇子詩と陳後主詩(2)—中国の時間制度
- 第10回 大津皇子詩と陳後主詩(3)—詩の東アジア
- 第11回 景戒の時間意識と叙述(1)—六時記載
- 第12回 景戒の時間意識と叙述(2)—辰刻記載
- 第13回 陰陽道祭祀と時間
- 第14回 「夜」化の問題—平安文学と時間
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート80%。授業への参加状況20%。

## 履修にあたっての注意

2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。くれぐれも注意してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜プリントを配布します。また、読むべき本なども授業において紹介します。

23641

## 日本文学講義Ⅱ C-a

担当教員：平田 英夫

2単位 前期

## サブタイトル

『平家物語』と中世文学の諸相

## 授業のねらい

中世文学が抱える諸問題について講義する。文学研究のみならず、宗教学・民俗学・芸能史・絵画史・歴史学といった様々な要素と絡めながら説かれる近年の中世文学研究の動向を踏まえたうえで、その魅力と可能性を具体的なテキストを通して学んでいく。本年度は、延慶本、覚一本、『源平盛衰記』など、各諸本群への目配りをしながら、『平家物語』を中心に読んでいくと思う。

## 到達目標

- ・複雑な日本の文化体系の中で中世文学が果たし得た役割について理解できる。
- ・軍記物語といった中世文学の主流の一つであった分野を深く知ることができる。
- ・文字量が多く、難解な語彙が多用される場合もある古典作品を読み解くことによって、様々な諸作品に苦手意識なく積極的に取り組めるようになる。

## 授業方法

諸本比較、関連資料などを参考にしながら、『平家物語』を講読するが、他文献や絵巻や映像資料なども少なからず取り上げる予定である。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 平家物語の基礎(1)
  - 第3回 平家物語の基礎(2)
  - 第4回 平宗盛の描写をめぐって
  - 第5回 平忠度関連章立の生成と展開(1)
  - 第6回 平忠度関連章立の生成と展開(2)
  - 第7回 平敦盛の章段を読む
  - 第8回 平忠盛の人物描写をめぐって—平清盛前史
  - 第9回 平清盛とその栄花をめぐる描写について
  - 第10回 源頼政と以仁王の乱の描写をめぐって(1)
  - 第11回 源頼政と以仁王の乱の描写をめぐって(2)
  - 第12回 南都炎上
  - 第13回 天変地異をめぐる文学(1)
  - 第14回 天変地異をめぐる文学(2)
  - 第15回 まとめ
- 以上は、現時点での予定なので、多少の変更はあり得る。

## 成績評価の方法

レポート80%  
受講態度・授業参加状況20%

## 履修にあたっての注意

- ・講義に関心をもって参加できる学生でなければついていけない。
- ・資料については受講者で分担して読む場合がある。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意する。なお参考書の詳細については講義にて指示する。

## 参考書

『平家物語(上・下)(新日本古典文学大系)』(岩波書店)  
『源平盛衰記(中世の文学)』(三弥井書店)

23651

## 日本文学講義Ⅱ C-b

担当教員：平田 英夫

2単位 後期

### サブタイトル

『平家物語』と中世文学の諸相

### 授業のねらい

中世文学が抱える諸問題について講義する。文学研究のみならず、宗教学・民俗学・芸能史・絵画史・歴史学といった様々な要素と絡めながら説かれる近年の中世文学研究の動向を踏まえたうえで、その魅力と可能性を具体的なテキストを通して学んでいく。後期は、前期に続き『平家物語』を、その多様な諸本群や周辺史料等に目配りしながら読んでいく。後期は、特に宗教的な場との関連や、平家滅亡に至る過程の描写に重点を置く。

### 到達目標

- ・複雑な日本の文化体系の中で中世文学が果たし得た役割について理解できる。
- ・文字量が多く、難解な場合も多い古典作品を読み解くことによって、難解で複雑な文献等にも苦手意識なく積極的に取り組めるようになる。
- ・新たな日本語の表現の仕方や、価値観に触れることができる。
- ・『平家物語』を通して、さまざまな日本的観念や宗教観と出会い、問い直し、探求することができる。

### 授業方法

諸本比較、関連資料などを参考にしながら、『平家物語』を講読する。他文献、絵巻や参詣曼荼羅など、画像資料についても触れる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス～後期の授業計画とその意図～
  - 第2回 『平家物語』と熊野信仰(1)
  - 第3回 『平家物語』と熊野信仰(2)
  - 第4回 巖島社を参詣する人々
  - 第5回 『曾我物語』より—源頼朝の物語をめぐって
  - 第6回 『曾我物語』より—伊豆・箱根・三島社という場をめぐって
  - 第7回 祇王の章段を読む—今様と白拍子をめぐる文学について
  - 第8回 平清盛の最期とその描写をめぐって
  - 第9回 木曾義仲関連章段—俱利伽羅峠の戦いとその周辺
  - 第10回 木曾義仲関連章段—巴御前をめぐって
  - 第11回 壇ノ浦の章段を読む
  - 第12回 安徳天皇の入水と阿弥陀寺
  - 第13回 平家滅亡後の世界(1)
  - 第14回 平家滅亡後の世界(2)
  - 第15回 まとめ
- 以上は、現時点での予定なので、多少の変更はあり得る。

### 成績評価の方法

レポート 80%  
受講態度・授業参加状況 20%

### 履修にあたっての注意

- ・講義に関心をもって参加できる学生でなければいけない。
- ・資料については受講者で分担して読む場合がある。
- ・前期を履修していることが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意する。なお参考書の詳細については講義にて指示する。

### 参考書

『平家物語（上・下）（新日本古典文学大系）』（岩波書店）  
『源平盛衰記（中世の文学）』（三弥井書店）

23681

## 日本文学講義Ⅱ E-a

担当教員：関谷 博

2単位 前期

### サブタイトル

男女のしかた－近代家族の成立と展開－

### 授業のねらい

近世から近代への転換期において〈家族〉の在り方は大いに変わった。現代消費文化の下で、それは更に予測しがたく変容しつつある。それぞれの時代において、〈家族〉、その中核をなすカップル（男女だけとはかぎらない）を、文学はどのようにとらえたのかを考える。

### 到達目標

- 1 時代の変化と文学の関係を理解することができる。
- 2 作品分析に、他領域の知見を応用することができる。

### 授業方法

講義形式。

毎回、扱う作品を必ず読み、自己の疑問や見解を用意しておくこと（所要時間60～120分）。その前提で講義を行うので、かなり早い進行になる。

### 授業計画

- 第1回 導入～近代文学とはなにか。
- 第2回 フェニズム批評の検証(1)～社会生物学から。
- 第3回 フェニズム批評の検証(2)～ジェンダーとセクシュアリティ。
- 第4回 フェニズム批評の検証(3)～近代家族の誕生をめぐって。
- 第5回 近代社会とジェンダー(1)～前近代の風景。
- 第6回 近代社会とジェンダー(2)～“外国人”の目から。
- 第7回 近代社会とジェンダー(3)～円地文子「女坂」
- 第8回 近代社会とジェンダー(4)～樋口一葉「にぎりえ」の1
- 第9回 近代社会とジェンダー(5)～樋口一葉「にぎりえ」の2
- 第10回 近代社会とジェンダー(6)～樋口一葉「にぎりえ」の3
- 第11回 現代家族の問題(1)～社会学から。
- 第12回 現代家族の問題(2)～村上春樹の主題とは何か。
- 第13回 現代家族の問題(3)～吉本ばなな「キッチン」
- 第14回 現代家族の問題(4)～津島佑子の主題
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

2つの設問のうち、第1問で達成目標の1を、第2問で達成目標の2を測定する試験（80%）、授業への参加状況（20%）。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布します。

23691

## 日本文学講義Ⅱ E-b

担当教員：関谷 博

2単位 後期

### サブタイトル

男女のしかた－さまざまなかたち－

### 授業のねらい

近世から近代への転換期において〈家族〉の在り方は大いに変わった。現代消費文化の下で、それは更に予測しがたく変容しつつある。それぞれの時代において、〈家族〉、その中核をなすカップル（男女だけとはかぎらない）を、文学はどのようにとらえたのかを考える。

### 到達目標

- 1 時代の変化と文学の関係を理解することができる。
- 2 作品の特性にふさわしい分析方法を見つけることができる。

### 授業方法

講義形式。

毎回、扱う作品を必ず読み、自己の疑問や見解を用意しておくこと（所要時間60～120分）。その前提で講義を行うので、かなり早い進行になる。

### 授業計画

- 第1回 岡本かの子(1)～プロフィール
- 第2回 岡本かの子(2)～岡本一平の存在。
- 第3回 岡本かの子(3)～「雛妓」を読む。
- 第4回 谷崎潤一郎(1)～プロフィール
- 第5回 谷崎潤一郎(2)～「春琴抄」を読む。
- 第6回 谷崎潤一郎(3)～「鍵」を読む。
- 第7回 有島武郎(1)～プロフィール
- 第8回 有島武郎(2)～「骨」の1・ホモセクシュアル
- 第9回 有島武郎(3)～「骨」の2・アナキズム
- 第10回 中勘助(1)～プロフィール・兄と嫂
- 第11回 中勘助(2)～「郊外」・少女愛
- 第12回 中勘助(3)～「犬」・愛欲のかたち
- 第13回 高野文子・「るきさん」まで／「るきさん」から
- 第14回 高野文子と尾崎翠
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

作品選択式の問題で達成目標の1、2を測定する試験（80%）、授業への参加状況（20%）。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布します。

23701

## 日本文学講義Ⅱ F-a

担当教員：種田 和加子

2単位 前期

### サブタイトル

◎都市・祝祭・周縁－文化史のなかで読むテキスト 2018

### 授業のねらい

近現代社会と文学テキストとの関係を、複数の指標のもとに考察する。この講義では狭義の文学テキストにとどまらず、広く「表象」されたもの（映像、絵画、モード）を扱う。これまでのテーマと重複するものもあるが、その理由あってのことである。

### 到達目標

近代社会の成立が我々の価値観や感性のありかたをいかに規定していったか、アラン・コルバンの社会史の方法などに学びつつ、「近代」を相対化する視点を得、それを広げ、深めることができる。

### 授業方法

基本的に講義形式で行うが、そのつどのテーマについて認識や、使用するテキストやレジュメについて質問、応答の関係を重視する。

授業で扱うテキストを事前に配布するので、読んでおき、疑問点などを明らかにしておくこと。

レポートを書くにあたっての研究倫理についてははじめに説明する。新しい作品を取り上げる際には2-3時間の予習を要し、復習に1時間程度必要。

### 授業計画

- 第1回 前提 近代化と日本<万国博覧会、内国勸業博覧会>について考える
- 第2回 テーマ：オリエンタリズム再考、デザイン・模様・ジャポニスム、アール・ヌーヴォー
- 第3回 博覧会とジャポニスム、ジャポニスムを巻き起こしたウイーン万博、「美術」概念の生成過程を考察 ニュルンベルク金工万国博覧会の波及するもの
- 第4回 プッチーニ、オペラ「マダム・バタフライ」、「トゥーランドット」における、日本、中国表象、ピエール・ロティ「お菊さん」、エミール・ガレまでを含む「蝶の表象」の広がりについて
- 第5回 映画「羊たちの沈黙」を見る。
- 第6回 テーマ：明治期の<貧困>はいかに描かれたか。松原岩五郎「再暗黒の東京」明治26年11月
- 第7回 「悲惨小説」「深刻小説」、前田曙山「蝗うり」明治28年4月
- 第8回 「にぎりえ」樋口一葉、明治28年9月
- 第9回 映画「にぎりえ」（今井正、1953年）を見る。
- 第10回 テーマ：新聞小説と読者層 明治30年代から大正期へ
- 第11回 「金色夜叉」尾崎紅葉、明治30年～35年「読売新聞」
- 第12回 「魔風恋風」小杉天外、明治36年～37年「読売新聞」
- 第13回 「痴人の愛」谷崎潤一郎、大正13年「大阪毎日新聞」
- 第14回 補足、まとめ(1)
- 第15回 補足、まとめ(2)

### 成績評価の方法

レポート 80%、授業への参加状況 20%  
レポートは2000字程度、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

現代社会への違和感などなんらかの問題意識をもち、それのよってきたるところを歴史的、社会的に見ようとする姿勢があることが望ましい。

### 教科書

樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』（新潮文庫）  
尾崎紅葉『金色夜叉』（新潮文庫）

### 教科書・参考書に関する備考

プリント等使用、講義の性格上、作品をすべて精読することはできないが、テキストは各自で全部読むこと。

### 参考書

Edward W. Said, *Orientalism* (邦訳平凡社, 1978)  
吉見俊哉『博覧会の政治学』（講談社学術文庫、2010）

23711

## 日本文学講義Ⅱ F-b

担当教員：種田 和加子

2単位 後期

### サブタイトル

◎都市・祝祭・周縁－文化史のなかで読むテキスト 2018

### 授業のねらい

近現代社会と文学テキストとの関係を、複数の指標のもとに考察する。この講義では狭義の文学テキストにとどまらず、広く「表象」されたもの（映像、絵画、モード）を扱う。これまでのテーマと重複するものもあるが、その理由あってのことである。

### 到達目標

近代社会の成立が我々の価値観や感性のありかたをいかに規定していったか、アラン・コルバンの社会史の方法などに学びつつ、「近代」を相対化する視点を得、それを広げ、深めることができる。

### 授業方法

基本的に講義形式であるが、扱うテーマや、配布資料についての認識を深めるために、質問、応答の形を重視したい。事前に配布するプリントを読んで疑問点などを授業に反映させる。配布するプリントを読むのに個人差はあるが2-3時間の予習を要し、1時間程度の復習が必要。

### 授業計画

- 第1回 テーマ：近代文学と「子供」－問題の所在－ 孤児文学と近代家庭小説  
レポートを書く際の研究理理にふれておく。
- 第2回 明治20年代「少女」小説の萌芽 若松賤子「着物の生る木」（明治28年）「おもひで」明治29年
- 第3回 泉鏡花「蓑谷」明治29年
- 第4回 永井荷風「狐」明治42年
- 第5回 震災後文学のなかの子供  
川上弘美「神様、神様2011」講談社、多和田葉子「献灯使」、「群像」2014年8月
- 第6回 テーマ：日本映画について サイレントからトーキーへ  
映画の記録性、ワルター・ベンヤミン「写真論小史」
- 第7回 小津安二郎論の現在：「長屋紳士録」（1947年）のなかの戦後
- 第8回 「東京物語」（1953年）を見る
- 第9回 「東京物語」の方法、意義
- 第10回 テーマ：沖縄文学を読む－目取真俊と崎山多美
- 第11回 「水滴」1997年を読む①
- 第12回 同②考察
- 第13回 崎山多美「くりかえしがえし」1994年を読む①
- 第14回 同②考察
- 第15回 まとめ、補足

### 成績評価の方法

レポート80%、授業への参加状況20%  
レポートは2000字程度、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

現代社会への違和感などなんらかの問題意識をもち、それのよってきたるところを歴史的、社会的に見ようとする姿勢があることが望ましい。

### 教科書

川上弘美『神様・神様2011』（講談社、2011）  
多和田葉子『献灯使』（講談社、2014）

### 教科書・参考書に関する備考

テキストは、プリント等使用、長編は抜粋する。講義の性格上、作品をすべて精読することはできないが、テキストは基本的に文庫で入手できるので、各自で購入し、読むこと。

### 参考書

吉田喜重『小津安二郎の反映画』（岩波書店、1998）  
ヴァルター・ベンヤミン『図説写真小史』（ちくま学芸文庫、1998）  
「帝国の亡霊『丸川哲史』（青土社、2004）



23731

## 日本文学講義Ⅱ G-b

担当教員：菅本 康之

2単位 後期

### サブタイトル

1950年代の思想の可能性/限界

### 授業のねらい

1950年代は、実際はアメリカニズムの影響を色濃く刻印したままだが、ともあれGHQの占領から、国家の主権を回復し、国際社会に復帰した一方で、その終わりには「安保闘争」という日本近代史上最大の社会運動を経験しつつ、同時に「高度経済成長」に飲み込まれていった時代である。

こうした特異な時代において思想家・芸術家は、ラディカルな実践を繰り返していき、今日忘却されかかっているそうした実践をこの21世紀において再考してみたい。

### 到達目標

- ・1950年代がどのような時代であったかを知ることができる。
- ・特異な時代において思想家・芸術家のラディカルな実践とヴィジョンを知ることができる。
- ・歴史を再考することで、未来のヴィジョンを構想する手がかりを得ることができる。

### 授業方法

原則としては、レジュメを配布し、PowerPointを使用しながら講義形式で授業を展開するが、必要に応じてグループワークをしてもらうことがある。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
・履修予定者は、必ず出席をすること。
- 第2回 「1950年代」という時代。
- 第3回 花田清輝  
・「夜の会」の結成
- 第4回 花田清輝  
・『アヴァンギャルド芸術』
- 第5回 花田清輝  
・花田・吉本論争
- 第6回 長谷川四郎  
『シベリヤ物語』、『鶴』  
・シベリア抑留者として
- 第7回 翻訳家としての長谷川四郎  
・様々な翻訳
- 第8回 杉浦明平  
・『ノリソダ騒動記』/ルポルタージュ文学
- 第9回 杉浦明平  
・「地域から世界へ」
- 第10回 鶴見俊輔  
・『思想の科学』の創刊/『共同研究 転向』
- 第11回 鶴見俊輔  
・サークル運動へのまなざし
- 第12回 鶴見俊輔  
・「左翼知識人」との対峙
- 第13回 安部公房  
・永遠の故郷喪失者
- 第14回 安部公房  
・「変身」小説
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

試験(70%)、グループワーク(20%)、授業への関わり(10%)

### 履修にあたっての注意

- ・授業には、能動的に臨むこと。
- ・指示された予習は必ずやってくること。

### 教科書

上野俊哉『思想の不良たち』(岩波書店、2013、ISBN: 978-4-00-025891-3)

### 教科書・参考書に関する備考

参考文献は下記のもの以外は適宜紹介する。

### 参考書

鳥羽耕史『1950年代——「記録」の時代』(河出ブックス、2010、ISBN: 978-4309624235)  
宇野田尚哉編『「サークルの時代」を読む：戦後文化運動研究への招待』(影書房、2016、ISBN: 978-4877144678)  
道場親信『下丸子文化集団とその時代——一九五〇年代サークル文化運動の光芒』(みすず書房、2016、ISBN: 978-4622085591)  
テッサ・モーリス・スズキ編『ひとびとの精神史 第2巻 朝鮮戦争』(岩波書店、2015、ISBN: 978-4000288026)

23741

## 日本文学講義Ⅱ H-a

担当教員：押野 武志

2単位 前期

## サブタイトル

宮沢賢治の詩を読む

## 授業のねらい

本講義は、宮沢賢治の創作活動のうち、詩を中心的に取り上げる。同時代の文化や文学との関連性を踏まえつつ、賢治詩の詳細な読解を通して、賢治研究のみならず日本近代文学研究の課題と方法を学ぶ。さらに、「雨ニモマケズ」受容を例に、作家のイメージ形成を探り、文化研究の方法も学ぶ。

## 到達目標

作品を精読する方法を学びながら、作品と時代との関係、作品と他ジャンルとの横断的關係を理解し、文学テキストの多義性と多様な研究方法を身につける。

## 授業方法

宮沢賢治の主たる創作時期にあたる1920年代という時代状況との関連性で作品を読解していく。同時代の文学、思想、科学、政治、文化といった多様な同時代言説と賢治作品との相互葛藤的な関係を明らかにする。20年代は多様なメディアが発達した時期でもあり、活字メディアのみならず、視覚メディア・聴覚メディアも取り上げながら、授業を行う。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 宮沢賢治の伝記
- 第3回 宮沢賢治と1920年代の文学
- 第4回 心象スケッチの方法1
- 第5回 心象スケッチの方法2
- 第6回 詩集『春と修羅』の特質1
- 第7回 詩集『春と修羅』の特質2
- 第8回 詩集『春と修羅』の特質3
- 第9回 ナンセンス詩の可能性
- 第10回 挽歌群の読解1
- 第11回 挽歌群の読解2
- 第12回 口語自由詩から文語詩へ
- 第13回 「雨ニモマケズ」受容
- 第14回 ポピュラー音楽の中の賢治
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

期末レポート（80%）と授業への参加状況（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業で取り上げる予定の文献を事前に指定するので、読んで臨むこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜授業中に紹介する。

## 参考書

- 押野武志『宮沢賢治の美学』（翰林書房、2000年、ISBN：9784877371012）
- 押野武志『童貞としての宮沢賢治』（筑摩書房、2003年、ISBN：9784480061096）
- 押野武志『文学の権能—漱石・賢治・安吾の系譜』（翰林書房、2009年、ISBN：9784877372880）

23751

## 日本文学講義Ⅱ H-b

担当教員：押野 武志

2単位 後期

## サブタイトル

宮沢賢治の童話を読む

## 授業のねらい

本講義は、宮沢賢治の創作活動のうち、童話を中心に取り上げる。同時代の文化や文学との関連性を踏まえつつ、賢治童話の詳細な読解を行うと同時に、今日に至るまでの賢治受容史も扱いながら、賢治研究に留まらない、日本近代文学研究の課題と方法を学ぶ。

## 到達目標

作品を精読する方法を学びながら、作品と時代との関係、作品と他ジャンルとの横断的關係を理解し、文学テキストの多義性と多様な研究方法を身につける。

## 授業方法

宮沢賢治の主たる創作時期にあたる1920年代という時代状況との関連性で作品を読解していく。同時代の文学、思想、科学、政治、文化といった多様な同時代言説と賢治作品との相互葛藤的な関係を明らかにする。また、生前無名の賢治がどのように受容され、現在の大衆的な人気を得たのかを様々なメディアミックスの実例などから検証する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 宮沢賢治の伝記
- 第3回 宮沢賢治と1920年代の文学
- 第4回 イーハトーブ童話集の方法
- 第5回 童話集『注文の多い料理店』の特質1
- 第6回 童話集『注文の多い料理店』の特質2
- 第7回 「銀河鉄道の夜」の読解1
- 第8回 「銀河鉄道の夜」の読解2
- 第9回 「風の又三郎」の読解1
- 第10回 「風の又三郎」の読解2
- 第11回 長編童話の特質
- 第12回 宮沢賢治の受容史
- 第13回 宮沢賢治とサブカルチャー1
- 第14回 宮沢賢治とサブカルチャー2
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

期末レポート（80%）と授業への参加状況（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

授業で取り上げる予定の文献を事前に指定するので、読んで臨むこと。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

適宜授業中に紹介する。

## 参考書

- 押野武志『宮沢賢治の美学』（翰林書房、2000年、ISBN：9784877371012）
- 押野武志『童貞としての宮沢賢治』（筑摩書房、2003年、ISBN：9784480061096）
- 押野武志『文学の権能—漱石・賢治・安吾の系譜』（翰林書房、2009年、ISBN：9784877372880）

23761

## 日本文学講義Ⅱ I-a

担当教員：後藤 康文

2単位 前期

## サブタイトル

『伊勢物語』を読む 18-1

## 授業のねらい

日本古典文学史上の傑作『伊勢物語』を、①解釈の方法上の誤り、②現存本文自体の誤り、のいずれかにおいて今日なお問題を孕んでいる章段に的を絞って、疑問視される箇所ごとに従来の諸説と私見を紹介したあとで、各自の主體的判断により「正解」と考えられる説を選択させる。本授業のねらいはすなわち、その過程で必要となる柔軟かつ合理的な思考力の涵養にほかならない。

## 到達目標

1. わが国の代表的な古典に触れることによって、日本人として身につけるべき教養を深められる。
2. 社会人として、さまざまな局面で各自の判断・決断を迫られたときのいわば「訓練」となり、主體的・合理的結論が下せるようになる。

## 授業方法

講義形式で行う。まず、問題を孕む章段を一読して疑問点を認識させたあと、資料プリントを配布して従来の諸説や私見を紹介し、学生各自の意見も聴取しつつ進める。なお、授業時間と同等（計90分程度）の予習・復習が望まれる。

## 授業計画

- 第1回 『伊勢物語』の概説と授業方針の説明
- 第2回 『伊勢物語』初段を読む（その1）
- 第3回 『伊勢物語』初段を読む（その2）
- 第4回 『伊勢物語』初段を読む（その3）
- 第5回 『伊勢物語』第二段を読む（その1）
- 第6回 『伊勢物語』第二段を読む（その2）
- 第7回 『伊勢物語』第四段を読む（その1）
- 第8回 『伊勢物語』第四段を読む（その2）
- 第9回 『伊勢物語』第五段を読む（その1）
- 第10回 『伊勢物語』第五段を読む（その2）
- 第11回 『伊勢物語』第十一段を読む
- 第12回 『伊勢物語』第十四段を読む（その1）
- 第13回 『伊勢物語』第十四段を読む（その2）
- 第14回 『伊勢物語』第十五段を読む（その1）
- 第15回 『伊勢物語』第十五段を読む（その2）

## 成績評価の方法

期末レポート（70%）、授業への取り組み方（30%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

次回範囲の予習と授業内容の復習。

## 教科書

小林茂美『新典社影印校注叢書 6 伊勢物語』（新典社、昭和50年初版、ISBN：4-7879-0206- C3393）

23771

## 日本文学講義Ⅱ I-b

担当教員：後藤 康文

2単位 後期

## サブタイトル

『伊勢物語』を読む 18-2

## 授業のねらい

日本古典文学史上の傑作『伊勢物語』を、①解釈の方法上の誤り、②現存本文自体の誤り、のいずれかにおいて今日なお問題を孕んでいる章段に的を絞って、疑問視される箇所ごとに従来の諸説と私見を紹介したあとで、各自の主體的判断により「正解」と考えられる説を選択させる。本授業のねらいはすなわち、その過程で必要となる柔軟かつ合理的な思考力の涵養にほかならない。

## 到達目標

1. わが国の代表的な古典に触れることによって、日本人として身につけるべき教養を深められる。
2. 社会人として、さまざまな局面で各自の判断・決断を迫られたときのいわば「訓練」となり、主體的・合理的結論が下せるようになる。

## 授業方法

講義形式で行う。まず、問題を孕む章段を一読して疑問点を認識させたあと、資料プリントを配布して従来の諸説や私見を紹介し、学生各自の意見も聴取しつつ進める。なお、授業時間と同等（計90分程度）の予習・復習が望まれる。

## 授業計画

- 第1回 『伊勢物語』の概説と授業方針の説明
- 第2回 『伊勢物語』第二十段を読む
- 第3回 『伊勢物語』第二十四段を読む（その1）
- 第4回 『伊勢物語』第二十四段を読む（その2）
- 第5回 『伊勢物語』第二十七段・第百八段を読む（その1）
- 第6回 『伊勢物語』第二十七段・第百八段を読む（その2）
- 第7回 『伊勢物語』第二十九段を読む（その1）
- 第8回 『伊勢物語』第二十九段を読む（その2）
- 第9回 『伊勢物語』第四十一段を読む（その1）
- 第10回 『伊勢物語』第四十一段を読む（その2）
- 第11回 『伊勢物語』第四十六段を読む（その1）
- 第12回 『伊勢物語』第四十六段を読む（その2）
- 第13回 『伊勢物語』第四十五段を読む（その1）
- 第14回 『伊勢物語』第四十五段を読む（その2）
- 第15回 『伊勢物語』第八十八段・第二百二十四段・第二百五段を味わう（進度調整日）

## 成績評価の方法

期末レポート（70%）、授業への取り組み方（30%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

次回範囲の予習と授業内容の復習。なお、前期履修者は、初回授業には参加しなくともよい。

## 教科書

小林茂美『新典社影印校注叢書 6 伊勢物語』（新典社、昭和50年初版、ISBN：4-7879-0206- C3393）

23781

## 日本文学講義Ⅱ J-a

担当教員：野本 東生

2単位 前期

## サブタイトル

中世説話の世界

## 授業のねらい

説話集にあらわれる説話は、ほかの古典の文章に比べて内容をつかむことはそれほど難しいことではない。けれども、その中身をどういふ話と捉えるのか、どういふ切り口で考え直すのか、これは私たち読み手自身の関心の問題として返ってくる。説話は多様な切り口を開いて、読み手をひいては書き手までも待ちかまえている。本授業では、説話の素材がいかなる領域と切り結びながら、生成していき、展開していくのかを考えていく。中世文学に関わるテーマから、『古今著聞集』を軸にして話を拾い読みしていく。同じように見える話が本当に同じなのか、背景の世界はどこまで広がっているのか、些末な表現と文学史の大きなうねりなどが複雑に交わるのが説話世界である。切り口の多さ、語られ方といった説話の多様な面白さを伝えていくと同時に、受講者自身が主体的に見出していけるように努めたい。

## 到達目標

1. 説話の原文に向き合って考えることができる。
2. 説話に対する多面的な理解を志向できる。
3. 説話に関わるテーマについて簡単な説明ができる。

## 授業方法

講義形式。授業後に骨子のまとめ直しをしてみることを勧める。

## 授業計画

- 第1回 説話とは何か
- 第2回 口承と書承
- 第3回 偽悪と遁世
- 第4回 狂惑と好色
- 第5回 紫式部の亡霊
- 第6回 狂言綺語観
- 第7回 注釈と説話①
- 第8回 注釈と説話②
- 第9回 縁起と絵巻
- 第10回 中世神話
- 第11回 音楽と説話
- 第12回 和歌と説話
- 第13回 歌徳説話
- 第14回 興言利口
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

期末の試験（70%）、課題（10%）、授業への参加状況（20%）によって評価する。

## 履修にあたっての注意

進行によってテーマが前後することがある。

## 教科書

なし

## 参考書

『説話の講座1～6』（勉誠社）  
『古今著聞集』（岩波書店）

23791

## 日本文学講義Ⅱ J-b

担当教員：野本 東生

2単位 後期

## サブタイトル

中世日記の世界

## 授業のねらい

日本古典文学には数多くの日記が知られており、またどの時代を見渡しても何かしらの日記が残されている。日記を残すその行為は、書き手である個人こそ変わっても、延々と途切れることなく続けられてきた。これほどたくさん日記が書かれ、そして残ったということは、特記すべきことであろう。古典文学、特に中世で日記といえば、思い当たるものは少ないかもしれないが、日記は中世に入って書き手の性質からその内容にわたって多岐にわたる展開を遂げた。中世日記テキストの読解から、方法、普遍性と独自性の考察を通して、日記に託したものを文学的に読み解いていきたい。

## 到達目標

1. 原文に向き合って考えることができる。
2. 日記に関わるテーマや術語に関する説明ができる。
3. 古典と現代とを比較して捉えることができる。

## 授業方法

講義形式。授業後に骨子のまとめ直しをしてみることを勧める。

## 授業計画

- 第1回 日記とは何か
- 第2回 失恋と日記①
- 第3回 失恋と日記②
- 第4回 源氏物語の享受
- 第5回 愛欲と日記①
- 第6回 愛欲と日記②
- 第7回 倒錯と日記
- 第8回 出家と旅
- 第9回 葬送と日記
- 第10回 死を見つめる
- 第11回 死後の日記
- 第12回 男の仮名日記
- 第13回 宮廷行事
- 第14回 連歌と日記
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

期末のテスト（70%）、課題（10%）、授業への参加状況（20%）によって評価する。

## 履修にあたっての注意

進行によってテーマが前後する事がある。

## 教科書

なし

## 参考書

『日記文学事典』（勉誠出版、2000）  
『中世日記紀行集』（小学館、1994）  
『建礼門院右京大夫集 とはずがたり』（小学館、1999）  
『中世日記紀行文学全評釈集成1～7』（勉誠出版）  
『とはずがたり たまきはる』（岩波書店）



23801

## 日本文学講義Ⅱ K-a

担当教員：阿部 嘉昭

2単位 前期

## サブタイトル

私自身の表現

## 授業のねらい

ネット上のブログやSNSの蔓延によって、「私自身」を対象になにかを表現することが多くなってきました。ただし他人とちがう私を見せようとする差異化が、他人とおなじ私にしか帰着しない平準化に陥ってしまうことが多いと見受けられます。そこでこの授業では、詩、短歌、写真集、マンガ、アフォリズム、評論など、いろんなジャンルから、すぐれた「私自身の表現」をピックアップし、それを考察してゆくことにします。私は「ある形式」と「ある独自性」と「ある抑制」によってしか表現されえないのではないかと。それを探ることで、受講者にとっての「私自身の表現」を促します。

## 到達目標

- (1)現代の「私表現」が承認願望などによっていかに病んでいるかが論理的に語れるようになる。
- (2)多様な表現ジャンルを区別なく批評できるようになる。
- (3)私小説が流行した時代とちがう、現在のセルフ・ドキュメンタリーのすばらしさを伝えられるようになる。
- (4)日本的な「私表現」とはちがう西洋の表現につづるようになる。

## 授業方法

文字資料の場合はプリントを配布、そこから解説をおこないます。写真集、マンガの場合はスクリーン投影をして、こまかくテキスト細部を見てゆきます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス（西中行久「週日レッスン」など）
- 第2回 三角みづ紀『オウバアキル』
- 第3回 岡井隆の自画像短歌
- 第4回 高島裕『薄明薄暮集』
- 第5回 横山未来子『樹下のひとりの眠りのために』
- 第6回 荒木経惟『センチメンタルな旅／冬の旅』・上
- 第7回 同・下
- 第8回 つげ義春『無能の人』・上
- 第9回 同・下
- 第10回 吾妻ひでお『失踪日記』
- 第11回 フランツ・カフカ「アフォリズム」・上
- 第12回 同・下
- 第13回 ロラン・バルト『彼自身によるロラン・バルト』・上
- 第14回 同・中
- 第15回 同・下

## 成績評価の方法

期末レポート（80%）、授業への参加状況（20%）により評価する

## 履修にあたっての注意

現代文化と照合せながら、取り扱い対象の理解を進めます。気軽に履修していただければ幸いです。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

プリント等を授業時に配布します。参考書は適宜授業内で紹介します

## 参考ホームページ

ENGINE EYE 阿部嘉昭のブログ  
<http://abecasio.blog108.fc2.com>（教員の批評が順次掲載されています）

23811

## 日本文学講義Ⅱ K-b

担当教員：阿部 嘉昭

2単位 後期

## サブタイトル

2010年以降の日本映画

## 授業のねらい

現在の日本映画は、東宝一本かぶり、製作委員会方式で、ヒット法則を平準化し、大量にTV露出を図った作品だけがヒットするといわれています。「泣ける」「笑えた」「ウルウルきた」など単純に要約できるものだけが話題になる傾向もつよい。一方で作家的な意欲に富んだインディ系が覇気を失ってきました。そういった状況のなかで、「真に批評的評価にふさわしい作品とはなにか」を多様な系列の作品から探ってゆきます。

## 到達目標

- (1)映画特有の構造（カット、話法、演技、ジャンル、ルック）に注視できるようになる。
- (2)日本映画の現在の状況が語れるようになる。
- (3)映画評論特有の用語が身につくようになる。

## 授業方法

投映機をもちいて、対象の映画を微視的に分析していきます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス+大根仁監督『バクマン。』
- 第2回 赤堀雅秋監督『その夜の侍』・上
- 第3回 同・下
- 第4回 黒沢清監督『クリーピー・偽りの隣人』・上
- 第5回 同・下
- 第6回 武正晴監督『百円の恋』・上
- 第7回 同・下
- 第8回 石川寛監督『ベタル ダンス』・上
- 第9回 同・下
- 第10回 岩井俊二監督『リップヴァンウィンクルの花嫁』・上
- 第11回 同・下
- 第12回 真利子哲也監督『ディストラクション・ベイビーズ』・上
- 第13回 同・下
- 第14回 大根仁監督『SCOOP!』・上
- 第15回 同・下

## 成績評価の方法

期末レポート（80%）、授業への参加状況（20%）により評価する

## 履修にあたっての注意

授業内で薦める映画を観ると、より視野が広がるはずなので、教員の出す固有名詞に注意してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

投映する作品のデータについては簡単なプリントを授業時に配布します。参考書については適宜、授業内で紹介します。

## 参考ホームページ

ENGINE EYE 阿部嘉昭のブログ  
<http://abecasio.blog108.fc2.com>（教員の批評が順次掲載されています）



23821

## 漢文学講義Ⅱ-a

担当教員：福田 忍

2単位 前期

## サブタイトル

中国古典小説史

## 授業のねらい

中国の古典的小説は、長い歴史の中で様々に展開し、時代ごとに多彩な作品が生み出された。この授業では時代を追いながらこれらの作品を講読し、その内容を味わうとともに、その文学史および思想史上の意味を探っていく。また、中国の古典小説は日本の文化や文学に強い影響を与えている。それらについても考察していく。

## 到達目標

- ・中国の古典小説を講読し、その内容を理解する。
- ・各作品の特徴と、その文学・思想上の意味を理解する。
- ・中国の古典小説と日本の文化・文学との関わりを理解する。

## 授業方法

講義形式で行う。講読する作品の原文および書き下しを事前に配布するので、事前に内容を確認し、授業後には理解した内容をまとめておくこと（各30分程度）。授業中には随時指名して現代語訳や理解した内容を確認する。

## 授業計画

- |      |             |                  |
|------|-------------|------------------|
| 第1回  | ガイダンス       | 伝統的小説観           |
| 第2回  | 神話の世界       | 『山海経』『穆天子伝』『楚辞』  |
| 第3回  | 諸子百家の中の「小説」 |                  |
| 第4回  | 前漢          | 『史記』の中の「小説」      |
| 第5回  | 前漢の説話文学     | 『説苑』『新序』         |
| 第6回  | 前漢の説話文学     | 『列女伝』            |
| 第7回  | 前漢から後漢      | 神秘思想の台頭 『列仙伝』、讖緯 |
| 第8回  | 六朝時代の志怪小説   | 『搜神記』 魔物と妖怪      |
| 第9回  | 六朝時代の志怪小説   | 『搜神記』 神仙         |
| 第10回 | 六朝時代の志怪小説   | 『搜神記』 官僚的冥界観     |
| 第11回 | 六朝時代の志怪小説   | 『搜神記』 日本の伝説との関わり |
| 第12回 | 六朝時代の志人小説   | 『世説新語』 魏晋の名士たち 1 |
| 第13回 | 六朝時代の志人小説   | 『世説新語』 魏晋の名士たち 2 |
| 第14回 | 六朝時代の志人小説   | 『世説新語』 清談の思想     |
| 第15回 | 六朝時代の志人小説   | 『世説新語』 日本文学との関わり |

## 成績評価の方法

到達目標を確認するための試験（90%）、授業への参加状況（10%）により評価する。

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリントを配布する。  
参考書：授業の中で随時紹介する。なお、漢和辞典を用意することが望ましい（電子辞書も可）。新たに購入する場合は三省堂『全訳漢字海』を推奨する（iOS版あり）。

23831

## 漢文学講義Ⅱ-b

担当教員：福田 忍

2単位 後期

## サブタイトル

中国古典小説史

## 授業のねらい

中国の古典的小説は、長い歴史の中で様々に展開し、時代ごとに多彩な作品が生み出された。この授業では時代を追いながらこれらの作品を講読し、その内容を味わうとともに、その文学史および思想史上の意味を探っていく。また、中国の古典小説は日本の文化や文学に強い影響を与えている。それらについても考察していく。

## 到達目標

- ・中国の古典小説を講読し、その内容を理解する。
- ・各作品の特徴と、その文学・思想上の意味を理解する。
- ・中国の古典小説と日本の文化・文学との関わりを理解する。

## 授業方法

講義形式で行う。講読する作品の原文および書き下しを事前に配布するので、事前に内容を確認し、授業後には理解した内容をまとめておくこと（各30分程度）。授業中には随時指名して現代語訳や理解した内容を確認する。

## 授業計画

- |      |               |                  |
|------|---------------|------------------|
| 第1回  | ガイダンス         | 漢～六朝の小説          |
| 第2回  | 唐宋伝奇          | 葉限伝              |
| 第3回  | 唐宋伝奇          | 紅綫伝              |
| 第4回  | 唐宋伝奇          | 李娃伝              |
| 第5回  | 唐宋伝奇          | 鶯鶯伝              |
| 第6回  | 唐宋伝奇と日本文学の関わり |                  |
| 第7回  | 宋代～           | 筆記小説             |
| 第8回  | 宋から明へ         | 白話小説の発達          |
| 第9回  | 明代            | 『三国演義』 曹操の悪役化    |
| 第10回 | 明代            | 『三国演義』 劉備の善玉化    |
| 第11回 | 明代            | 『三国演義』 諸葛亮と関羽    |
| 第12回 | 清代            | 唐代伝奇の復活 『聊齋志異』 1 |
| 第13回 | 清代            | 唐代伝奇の復活 『聊齋志異』 2 |
| 第14回 | 清代            | 志怪小説の復活 『閻微草堂筆記』 |
| 第15回 | 清代            | 志怪小説の復活 『子不語』    |

## 成績評価の方法

到達目標を確認するための試験（90%）、授業への参加状況（10%）により評価する。

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリントを配布する。  
参考書：授業の中で随時紹介する。なお、漢和辞典を用意することが望ましい（電子辞書も可）。新たに購入する場合は三省堂『全訳漢字海』を推奨する（iOS版あり）。

23861

## 日本思想史 I

担当教員：菅本 康之

2 単位 前期

## サブタイトル

「戦時下日本の精神史」

## 授業のねらい

「天皇制軍事ファシズム」支配下における日本の知識人の軌跡を通して、その抵抗と挫折、すなわち「革命運動」と「転向」の事実の意味を問い直し、それが日本精神史を貫く「文化的鎖国性」という特質と通底することをあらためて再考する。

## 到達目標

「満州事変」(1931)以降からいわゆる「太平洋戦争」の敗戦までの期間を、「15年戦争」と名づけたのは鶴見俊輔だが、まさにその「戦時下の精神史」を、彼のテキスト(教科書)にそって講義を展開し、時にそのテキストをも批判的に吟味しながら考察していくので、歴史・文化・思想をみる新しい視座を習得することができる。

## 授業方法

講義形式によって、1931年-45年の「戦時期の精神史」を紹介、解説しながら、時に批評を加えるので、今日的観点からのあらたな「精神史」を学ぶ。  
教科書による予習を求める。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1931年から1945年にかけての日本への接近
- 第3回 「徴兵制」について
- 第4回 「転向」について その1  
・「転向」とその歴史的背景
- 第5回 「転向」について その2  
・「転向」の条件
- 第6回 「治安維持法」について
- 第7回 「鎖国」
- 第8回 「国体」について
- 第9回 大アジア
- 第10回 日本の中の朝鮮
- 第11回 「玉碎」の思想
- 第12回 戦時下の日常生活
- 第13回 原爆の犠牲者として
- 第14回 戦争の終わり
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

試験(80%)、授業時の小レポート(10%)、授業参加状況(10%)。なお、出席は、授業回数の3分の2が単位取得最低条件である。

## 履修にあたっての注意

「思想」とは、自分の「日常」を根本から見直すことだから。学ぶ意欲のない学生の履修は認めない。  
指定された文献は、必ず精読してくること。

## 教科書

鶴見俊輔『戦時期日本の精神史—1931-1945』(岩波現代文庫、2001、ISBN:4006000502)

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献は適宜紹介する。

23901

## 日本文化論 A-a

担当教員：乾 淑子

2 単位 前期

## サブタイトル

日本文化の諸相、特に近代の衣服と女子教育について、さまざまな「もの」を媒介に考える。

## 授業のねらい

日本の服装の実際に関する即物的な知識を身につけることを目的とする。古代(上古、中古)の問題もさることながら、近代の着物についても現在では理解することが困難になってしまっている。それはすべての日本人が基本的には常に着物を着用していた時から数十年しか経っておらず、ある程度の知識があることが当然だと思われていたために、着物に関する知識を特に求めなかったからであると考えられる。結果として、ごく普通であった細かな事柄についての無知と誤解がテキストクリティークをも困難なものにしてしまったのである。

## 到達目標

特別に難しいことではなく、普通の着物の構造、名称、材質、着用者の社会的ステイタス、着用のTPOなどを学ぶこととする。

## 授業方法

通常の講義であるが、着物類の実物を示すことが多いので、積極的に見る・手に取る心構えで参加して下さい。  
パワーポイントで示す図像と同様に、実物のみが持つ質感等を大切に考えます。

## 授業計画

- 第1回 着物の構造について 室町時代から明治時代までの変遷
- 第2回 帯の形 室町時代から明治時代までの変遷
- 第3回 下着の形 室町時代から明治時代までの変遷
- 第4回 継ぎ接ぎの意味について 節約と宗教性から意匠化まで
- 第5回 韓国の継ぎ接ぎ ポジャギという誤解と普遍化
- 第6回 明治期以降の手芸の歴史と継ぎ接ぎ、パッチワーク
- 第7回 着物の素材 絹、紬、銘仙などの名称について
- 第8回 着物の素材 更紗としての木綿の輸入、国内生産と緋の展開
- 第9回 着物の素材 メリンス、モスリン、セル、ウールなどの名称について
- 第10回 着物の素材 麻、芭蕉布、藤布など
- 第11回 ファッションブックとしての雁金屋図案帳から、江戸期の図案
- 第12回 西洋のファッションドール、ファッションプレート、婦人雑誌
- 第13回 中国と日本の吉祥柄、その意匠の変遷、展開
- 第14回 唐草文様の伝播、エジプトから日本へ、そしてギリシャから西ヨーロッパまで
- 第15回 インド、インドネシア、ペルシア、ヨーロッパの更紗の日本への輸入と小紋の誕生

## 成績評価の方法

期末試験(70%)を第十五回目に行う。また、講義中の質問への対応等(30%)も加味して総合評価とする。

## 履修にあたっての注意

このクラスは実物(着物、羽織、襦袢、帯等)を用いるために、取り扱いに留意する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

講義の中で配布するプリント類が多いので、なくさないようにファイリングすること。

23911

## 日本文化論 A-b

担当教員：乾 淑子

2 単位 後期

### サブタイトル

着物を通じて知る日本文化

### 授業のねらい

日本文化、特に近代の日本文学を知る上ではそこに描かれた時代の風俗への理解が不可欠である。これは当然すぎるほど当然なことであるが、従来はないがしろにされることが多かった。理由は簡単で、現在の教員の学生時代の恩師たちの子供時代には、それはごくありふれた知識であり、わざわざ学校で学ぶほどのことではなかった。だからそのようなカリキュラムが存在しなかったのである。しかし 21 世紀の現代においては、意識的に学ばない限りは非常に得難い知識となってしまったために、当時の服飾などと学ぶ必要が生じたのである。しかも、近代は服飾によって、階層、職業、思想などが簡単に表示されていた社会であったから、風俗研究はごく基本的なものなのであり、その入門がこの講義である。

### 到達目標

ごくごく基本的な着物の形態、機能、素材などについて学び、それが具体的にどのように作品中で表現されているのかを知り、さらにそれを個人個人で発展させていく機縁をすることである。

### 授業方法

各回の講義で、講師の着用する着物の実際を学ぶ。裕、単衣、薄物の違い、長着、羽織、道行など、名古屋帯と袋帯などの現代に用いられる着物にまず触れ、そこから昭和初期、大正、明治に遡って、考察する。

### 授業計画

- 第1回 着物の概略。裕と名古屋帯。  
夏目漱石の作中の着物について、「虞美人草」から。
- 第2回 大島紬の概略。お対、またはアンサンブルについて。  
「虞美人草」から、第二回目。
- 第3回 新しい大島紬。道中着または東コート。  
「虞美人草」から、第三回目。
- 第4回 訪問着。  
「虞美人草」から
- 第5回 更紗の紬。羽織。  
谷崎潤一郎の作中の着物から。実際の谷崎家の着物。
- 第6回 更紗2回目。インドネシアとの関わり。  
「痴人の愛」から、第二回目。
- 第7回 小紋の着物。羽織。  
「痴人の愛」から、第3回目。
- 第8回 色無地の着物。作り帯。  
「痴人の愛」から、第四回目
- 第9回 小紋、青海波のバリエーション。  
幸田文の作中の着物について、「きもの」から。
- 第10回 単衣の着物。襦袢について。  
「きもの」から、第二回目。
- 第11回 単衣の着物。襦袢について第二回目。  
「きもの」から第三回目。
- 第12回 単衣の着物。夏の素材。  
「きもの」から第四回目。
- 第13回 銘仙と戦後の着物。  
学生からの希望テーマを語る第一回目。
- 第14回 薄物、紹の着物と襦袢。  
紅葉、鏡花の着物。
- 第15回 薄物、紗の着物と襦袢。  
学生からの希望テーマを語る第二回目。

### 成績評価の方法

講義の中での受講態度 30%。最後の試験の成果 70%。

### 履修にあたっての注意

具体物への留意を怠らないこと。配布した資料は毎回持参すること。

### 教科書

なし

23941

## 日本文化論 C-a

担当教員：奥田 統己

2 単位 前期

### サブタイトル

アイヌの文学と文化

### 授業のねらい

日本列島の先住民民族であるアイヌは、多様性に満ちた口頭文芸の世界を築き上げてきた。この授業では、最先端の研究成果を踏まえながら、アイヌの口頭文芸について学んで行く。またその背景にある文化についても、従来の研究成果を批判的に検討しながら紹介する。

### 到達目標

以上をとおして、諸君の目の前に提示されているさまざまな「アイヌ文化」を鵜呑みせず、「事実を追う力」「考える力」を養うことを目標とする。

### 授業方法

講義形式で進める。ただし毎回の講義の際に「講義のまとめと質問」提出を求め、その内容に関するプリントを次回の授業で配布することで、毎回の復習および受講生との双方向的な意思疎通を行う。

### 授業計画

- 第1回 アイヌ民族の歴史と現状、本講義の位置づけ
- 第2回 アイヌ文学の概観(1)
- 第3回 アイヌ文学の概観(2)
- 第4回 衣服・住居に見る時代的変遷と地域差(1)
- 第5回 衣服・住居に見る時代的変遷と地域差(2)
- 第6回 散文説話とその背景にある文化(1)
- 第7回 散文説話とその背景にある文化(2)
- 第8回 散文説話とその背景にある文化(3)
- 第9回 アイヌ語地名とその語源研究の問題点(1)
- 第10回 アイヌ語地名とその語源研究の問題点(2)
- 第11回 中川裕による「散文説話と事実」論の批判的再検討(1)
- 第12回 中川裕による「散文説話と事実」論の批判的再検討(2)
- 第13回 中川裕による「散文説話と事実」論の批判的再検討(3)
- 第14回 泉靖一による「領域・生活の場としてのIWOR」の批判的再検討(1)
- 第15回 泉靖一による「領域・生活の場としてのIWOR」の批判的再検討(2)

### 成績評価の方法

毎回の「講義のまとめと質問」の提出状況と内容を平常点評価の材料とする。定期試験を実施する。平常点 50%、試験 50%とする。ただし受講生の状況によって相談しながら変更する可能性がある。

### 履修にあたっての注意

ただ聞くだけではなく、講義が提示する論点を主体的に検討し、その内容を「講義のまとめと質問」をとおして表明するよう、努めること。

### 教科書

中川裕『アイヌの物語世界』（平凡社ライブラリー、1996）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：979円

その他参考文献は講義中に随時指示する。以下のWWWサイトも参照すること。

### 参考ホームページ

アイヌ語学習者のための アイヌ語基本文献・音声資料リスト  
<http://jinbunweb.sgu.ac.jp/~ainu/biblio/japanese.html>  
AA 研アイヌ語資料公開プロジェクト <http://ainugo.aa-ken.jp/>  
アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ <http://ainugo.ainu-museum.or.jp/>

23951

## 日本文化論 C-b

担当教員：奥田 統己

2単位 後期

### サブタイトル

アイヌの文学と文化

### 授業のねらい

日本列島の先住民族であるアイヌは、多様性に満ちた口頭文芸の世界を築き上げてきた。この授業では、最先端の研究結果を踏まえながら、アイヌの口頭文芸について学んで行く。またその背景にある文化についても、従来の研究成果を批判的に検討しながら紹介する。

### 到達目標

以上をとおして、諸君の目の前に提示されているさまざまな「アイヌ文化」を鵜呑みせず、「事実を追う力」「考える力」を養うことを目標とする。

### 授業方法

講義形式で進める。ただし毎回の講義の際に「講義のまとめと質問」提出を求め、その内容に関するプリントを次回の授業で配布することで、毎回の復習および受講生との双方向的な意思疎通を行う。

### 授業計画

- 第1回 前期の内容の確認
- 第2回 神謡とその背景にある信仰(1)
- 第3回 神謡とその背景にある信仰(2)
- 第4回 神謡とその背景にある信仰(3)
- 第5回 渡辺仁による「熊送り文化複合体」の批判的再検討(1)
- 第6回 渡辺仁による「熊送り文化複合体」の批判的再検討(2)
- 第7回 神謡の多様性について(1)
- 第8回 神謡の多様性について(2)
- 第9回 山田孝子による『アイヌの世界観』の批判的再検討(1)
- 第10回 山田孝子による『アイヌの世界観』の批判的再検討(2)
- 第11回 英雄叙事詩とその地域性(1)
- 第12回 英雄叙事詩とその地域性(2)
- 第13回 英雄叙事詩とその地域性(3)
- 第14回 知里真志保による「擦文人 vs オホーツク人の民族的葛藤」の批判的再検討(1)
- 第15回 知里真志保による「擦文人 vs オホーツク人の民族的葛藤」の批判的再検討(2)

### 成績評価の方法

毎回の「講義のまとめと質問」の提出状況と内容を平常点評価の材料とする。定期試験を実施する。平常点 50%、試験 50%とする。ただし受講生の状況によって相談しながら変更する可能性がある。

### 履修にあたっての注意

ただ聞くだけではなく、講義が提示する論点を主体的に検討し、その内容を「講義のまとめと質問」をとおして表明するよう、努めること。

### 教科書

中川裕『アイヌの物語世界』（平凡社ライブラリー、1996）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：979円

その他参考文献は講義中に随時指示する。以下のWWWサイトも参照すること。

### 参考ホームページ

アイヌ語学習者のためのアイヌ語基本文献・音声資料リスト  
<http://jinbunweb.sgu.ac.jp/~ainu/biblio/japanese.html>  
AA 研アイヌ語資料公開プロジェクト <http://ainugo.aa-ken.jp/>  
アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ <http://ainugo.ainu-museum.or.jp/>



23961

## 日本文化論 D-a

担当教員：武田 雅哉

2 単位 前期

### サブタイトル

京劇入門

### 授業のねらい

中国の演劇「京劇」を鑑賞するための基礎的な知識を身につけながら、映像を鑑賞し、中国の文化、中国人の思考様式、風俗習慣などについての理解を深めることを目的とする。

### 到達目標

中国の演劇「京劇」を鑑賞するための基礎的な知識を身につけ、そこに描かれた物語と世界観を理解することができる。

### 授業方法

京劇鑑賞の基礎知識を理解したうえで、毎時間、ひとつの作品の映像を鑑賞する。

授業終了後、教科書の事項に関する感想文とともに、京劇に関する小レポート（感想文、800字以上）を書き、メールで提出してもらう。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスーまずは「三岔口」を見よ！
- 第2回 初心者サル芝居からー「孫悟空大鬧天宮」
- 第3回 京劇の基礎と楽屋裏ー上海京劇パラダイス
- 第4回 肉食系戦闘美少女の世界 Aー「辛安駅」「花田錯」など
- 第5回 肉食系戦闘美少女の世界 Bー「拾玉鐲」「鉄弓縁」など
- 第6回 京劇の中の京劇ー「霸王別姫」
- 第7回 ダメ女だって主人公にー「朱買臣休妻」（崑劇・張継青の絶技）
- 第8回 三国志の世界ー「赤壁」男だらけの芝居
- 第9回 三国志の世界ー「空城計」「臘粉計」まだまだつづく孔明と司馬懿の戦い
- 第10回 包公戯ー「奇冤報」「劊判官」鉄面無私の裁判官のなし
- 第11回 鬼戯（幽霊芝居）ー「目連戯～女吊・男吊」（お盆の由来）
- 第12回 ミッション・シンボッシブル？ー「清官冊」「打金磚」
- 第13回 革命現代京劇の世界ー凄すぎて笑うしかない！文化大革命時期の京劇
- 第14回 京劇でどう遊ぶかーパロディ、コント、バラエティショー、カラオケ
- 第15回 京劇の周縁ーお正月番組、交響楽など

### 成績評価の方法

小レポート（50%）と期末レポート（50%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

映像の鑑賞が主となるので、最低限のマナーには留意すべし。

### 教科書

武田・加部・田村編著『中国文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2016）

### 教科書・参考書に関する備考

作品の粗筋などの資料はメールで配信する。  
指定した教科書は、中国の文化、思考様式を理解するうえで通読しておいてほしい。

23971

## 日本文化論 D-b

担当教員：武田 雅哉

2 単位 後期

### サブタイトル

中国奇譚漫遊－異文化解読のレッスン

### 授業のねらい

中国という異文化を理解するために、さまざまなケースを分析しながら、これを読み解けるようにする。

中国の奇譚や図像を鑑賞し、その背後にある宇宙観を解読できる感性を養う。

### 到達目標

中国という異文化を楽しみ、理解しようとする〈おとな〉に成長する。

### 授業方法

文字や図像の資料を、教科書の事例とともに読み解きながら、その背後にある宇宙を考えてみたい。

毎回、800字以上の小レポート（授業および教科書へのコメント）を、帰宅後に書き、メールで提出する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゴウを思えー想像のレッスン
- 第3回 しあわせ変換法ー中国の絵はどうしてこんなにメタタイのか
- 第4回 子供の遊ぶ絵と春画ー風俗画の世界
- 第5回 中国のおしゃべりとお笑いー小説と演芸
- 第6回 蒼頡たちの宴ー漢字を嫌悪した中国人
- 第7回 走れ！ テレメンテイコーー洒落本と黄表紙のなかの中国
- 第8回 猪八戒の大冒険ーものいうブタの怪物誌
- 第9回 中国のマンガー〈連環画〉の世界
- 第10回 ビリッ！ときた日ー中国感電文化史
- 第11回 万里の長城は宇宙から見えるの？ー驚異譚のつくりかた
- 第12回 楊貴妃になりたかった男たちー中国女装文学誌
- 第13回 ゆれるおっぱい・ふくらむおっぱいー中国乳房文化論
- 第14回 〈鬼子〉たちの肖像ー悪魔としての日本人
- 第15回 渾沌のテーマー総括

### 成績評価の方法

小レポート（50%）および学期末レポート（50%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業では、教科書に書かれていないことを詳細に話すので、教科書は早い時期に通読して、自分なりに面白いと思うことを発見してほしい。

また、中国の文学・芸術等の研究をこころざしている学生は、積極的に相談されたい。

### 教科書

武田・加部・田村編著『中国文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2016）

### 教科書・参考書に関する備考

レジュメは随時メールで配信する。

参考書は絶版のものが多いので、読みたければ図書館等で探すこと。

### 参考書

武田雅哉『蒼頡たちの宴－漢字の神話とユートピア』（筑摩書房、1994）

武田雅哉『猪八戒の大冒険－ものいうブタの怪物誌』（三省堂、1995）

武田雅哉『星への筏－黄河幻視行』（角川春樹事務所、1997）

武田雅哉『新千年図像晩会』（作品社、2001）

武田雅哉『〈鬼子〉たちの肖像－中国人が描いた日本人』（中央公論新社、2003）

武田雅哉『楊貴妃になりたかった男たち－〈衣服の妖怪〉の文化史』（講談社、2007）

武田雅哉『中国乙類図像漫遊記』（大修館書店、2009）

武田雅哉『万里の長城は月から見えるの？』（講談社、2011）

武田雅哉『中国のマンガ〈連環画〉の世界』（平凡社、2017）

武田雅哉『中国飛翔文学誌』（人文書院、2017）

23981

## 日本文化論 E-a

担当教員：高橋 靖以

2 単位 前期

## サブタイトル

アイヌ語へのアプローチ 1

## 授業のねらい

現在、アイヌの言語文化には国際的に大きな関心が寄せられています。この講義ではアイヌ語の基礎を学びます。さらに、アイヌ語による会話表現の練習や、アイヌ語で語られた文学作品の読解をおこないます。これらの作業を通じて、アイヌの言語文化について基本的な知識を修得することを目標とします。また、日本語や英語とは構造の異なる言語を学習することで、人間言語の仕組みについて理解を深めることも講義の目標の一つです。

## 到達目標

1. アイヌ語の仕組みを理解し、簡単な表現が組み立てられるようになる。
2. 日本語とも英語とも異なる言語の仕組みについて理解を深める。さらに、人文学の基礎的な方法論である言語学の考え方を修得する。

## 授業方法

前期の講義では、アイヌ語の発音について解説と練習をおこないます。その後、アイヌ語の基本的な文の組み立て、品詞の種類、人称表現などについて、日本語や英語などと対比しながら解説をおこないます。

講義では毎回、基礎的な学習事項に関する事前・事後課題（5問程度、所要時間 20～30 分程度）の提出を求めます。課題の結果については講義内で随時コメントします。

## 授業計画

- 第1回 アイヌ語の概要
- 第2回 発音と表記
- 第3回 基本的な文の組み立て
- 第4回 否定と疑問の表現
- 第5回 日常会話表現の練習
- 第6回 品詞の種類
- 第7回 動詞の組み立て
- 第8回 人称の表現：主格の人称
- 第9回 人称の表現：目的格の人称
- 第10回 人称表現の練習
- 第11回 数の数え方
- 第12回 名詞の組み立て
- 第13回 所有の表現
- 第14回 アイヌ語からみたアイヌ文化
- 第15回 前期のまとめ

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する課題（50%）、主に到達目標 2 を測定する定期試験（50%）により評価します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献は講義中に指示します。

## 参考書

亀井孝他編『日本列島の言語』（三省堂、1997、ISBN：4385152071）  
佐藤知己『アイヌ語文法の基礎』（大学書林、2008、ISBN：9784475018838）

23991

## 日本文化論 E-b

担当教員：高橋 靖以

2 単位 後期

## サブタイトル

アイヌ語へのアプローチ 2

## 授業のねらい

現在、アイヌの言語文化には国際的に大きな関心が寄せられています。この講義ではアイヌ語の基礎を学びます。さらに、アイヌ語による会話表現の練習や、アイヌ語で語られた文学作品の読解をおこないます。これらの作業を通じて、アイヌの言語文化について基本的な知識を修得することを目標とします。また、日本語や英語とは構造の異なる言語を学習することで、人間言語の仕組みについて理解を深めることも講義の目標の一つです。

## 到達目標

1. アイヌ文学の作品をアイヌ語で読解することにより、アイヌの文学的伝統について理解を深める。
2. 口承文学の研究手法、および人文学の基礎的な方法論である言語学の考え方を理解する。

## 授業方法

後期の講義では、音声資料や映像資料を随時提示しながら、アイヌ語で語られた様々な文学作品の読解をおこないます。

講義では毎回、基礎的な学習事項に関する事前・事後課題（2～3問程度、所要時間 20～30分程度）の提出を求めます。課題の結果については講義内で随時コメントします。

## 授業計画

- 第1回 アイヌ文学の概要
- 第2回 アイヌ語による呪文
- 第3回 アイヌ語による謎々
- 第4回 アイヌ語による祈り言葉
- 第5回 アイヌ語による子守歌
- 第6回 アイヌ語による叙情歌
- 第7回 アイヌの物語文学 1：神謡の概要
- 第8回 アイヌの物語文学 2：神謡の読解
- 第9回 アイヌの物語文学 3：散文説話の概要
- 第10回 アイヌの物語文学 4：散文説話の読解
- 第11回 アイヌの物語文学 5：事実談
- 第12回 アイヌの物語文学 6：英雄叙事詩の概要
- 第13回 アイヌの物語文学 7：英雄叙事詩の読解
- 第14回 アイヌ文学と近代：アイヌ語による短歌
- 第15回 後期のまとめ

## 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する課題（50%）、主に到達目標 2 を測定する定期試験（50%）により評価します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献は講義中に指示します。

## 参考書

久保寺逸彦『アイヌ民族の文学と生活』（草風館、2004、ISBN：4883231399）

24001

## 日本文化論 F-a

担当教員：矢野 敏文

2 単位 前期

### サブタイトル

中国の書（文字資料）の書体や書美の変遷を探る

### 授業のねらい

中国の文字資料、及び書について興味、関心を持ち、書体や書風の変遷、時代背景、人物、書法等を理解し、それぞれの価値を総合的に評価できることをめざします。書道史の専門性を高めるとともに、初めて書道にふれる人でも習得できる授業方法をします。

### 到達目標

1. 資料を読み、漢字の書体・書風の変遷、時代背景、人物、書法等の内容を理解できる。
2. 筆ペンなどの試書経験を通して、書法や書美の特徴を感受できる。
3. 理解、感受したことの価値判断を短文にまとめることができる。

### 授業方法

講義形式により、配付資料の説明をする。適宜、スライド、ビデオ等の鑑賞資料を用いる。毎時間、理解度の確認や感想を小レポートで提出（必須）する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス。殷時代の甲骨文字について。
- 第2回 甲骨文字の研究史、内容、書風等について。
- 第3回 甲骨文字と金文について。
- 第4回 秦時代の文字統一、石刻、竹簡について。
- 第5回 秦時代の文字統一、石刻、竹簡について。
- 第6回 前漢時代の木簡について。後漢の石碑と木簡について。
- 第7回 後漢時代の石碑と木簡について。
- 第8回 三国時代、晋時代の書跡について。東晋時代の書について。
- 第9回 東晋時代（王羲之ほか）の書について。
- 第10回 北魏時代の書について。
- 第11回 隋・唐時代の書について
- 第12回 隋・唐時代の書について
- 第13回 中唐時代の書について。
- 第14回 宋・元時代の書について。
- 第15回 明・清時代の書について。

### 成績評価の方法

到達目標1、2、3、に対応して毎授業の小レポート（70%）、予習・復習の課題（20%）、授業への取り組み状況（10%）

### 履修にあたっての注意

特に、予習に努める。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業資料を配付する。

### 参考書

随時紹介する。

24011

## 日本文化論 F-b

担当教員：矢野 敏文

2 単位 後期

### サブタイトル

日本の書の歴史における、漢字の受容と日本の書美の成立を探る

### 授業のねらい

中国から漢字、および漢字書の受容、また仮名成立の歴史等に興味、関心を持ち、文字資料や書の持つ時代背景、人物、書流等を理解し、それぞれの価値を総合的に評価できるようになる。書道の専門性を高めるとともに、初めて書道にふれる人も習得可能な授業方法をします。

### 到達目標

1. 資料を読み、漢字の受容、仮名の成立、書流や書美等の内容を理解できる。
2. 筆ペンなどの試書経験を通して、漢字や仮名の書美の特徴を感受できる。
3. 理解、感受したことの価値判断を短文にまとめることができる。

### 授業方法

講義形式により、配付資料の説明をする。適宜、スライド、ビデオ等の鑑賞資料を用いる。毎時間、理解度の確認や感想を小レポート（必須）で提出する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス。漢字の伝来、大和時代について。
- 第2回 大和時代の文字資料について。
- 第3回 奈良時代の書（聖武天皇、光明皇后、写経）について。
- 第4回 奈良時代の書（聖武天皇、光明皇后、写経）について。
- 第5回 平安時代初期の書（三筆等）について。
- 第6回 平安時代初期の書（三筆等）について。平安時代中期の書（三蹟、仮名等）について。
- 第7回 平安時代中期の書（三蹟、仮名等）について。平安時代後期の書（仮名と料紙の美）について。
- 第8回 平安時代後期の書（仮名と料紙の美）について。
- 第9回 鎌倉時代の書（墨蹟等）について。
- 第10回 室町、安土桃山時代の書について。
- 第11回 室町、安土桃山時代の書について。
- 第12回 江戸初期（寛永の三筆等）について。
- 第13回 江戸中期から後期の書（白隠、良寛、幕末の三筆等）について。
- 第14回 明治、大正、昭和初期の書について。
- 第15回 現代の文化と書について。

### 成績評価の方法

到達目標1、2、3に対応した毎授業の小レポート（70%）、予習、復習の課題（20%）、授業への取り組み況（10%）

### 履修にあたっての注意

特に、予習に努める。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

随時、授業資料を配付する。

### 参考書

随時紹介する。



24021

## 日本文化論 G-a

担当教員：押上 万希子

2 単位 前期

## サブタイトル

「書は人なり」とは……

## 授業のねらい

・書の実在価値を考へる  
人類が文字を用いるようになると、美を求める心は文字に向けられました。記録する喜び、人への伝達も神秘性を深めて行き交い、ながい歴史のなかで様々な「書」が誕生したのです。書とは何か、如何にあるべきかを問い続けてきた先人達の世界を探ります。

## 到達目標

古今の名跡を鑑賞し、その多様な書美への関心を高め、理解することができる。

## 授業方法

毎回の授業で事後課題（所要時間 30～40 分程度）の提出を課します。  
毎回の課題については授業内で発表・交流し、採点後に返却します。  
事前に授業範囲に該当するテキストのページを通覧しておいてください。  
事後学習として、配布したプリントを読むことと、専門用語の確認をしてください。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 書の表現とは何か
- 第3回 書作品の見方
- 第4回 鑑賞に出かけましょう①北海道書道展
- 第5回 書を読みとくために－古典から探る
- 第6回 鑑賞に出かけましょう②北海道創玄展
- 第7回 重力空間を知ろう－重力線の見方、紙面での変化
- 第8回 文字の構造－支え方－古典から探る
- 第9回 運筆・力の働きを見よう
- 第10回 筆脈を追ってみよう
- 第11回 運筆の深度・速度・角度を見る。
- 第12回 起筆・送筆・収筆との関係  
点の書きぶり、はね、はらい、転折から見えるもの
- 第13回 書表現を支える世界を見よう
- 第14回 「身近な書について」発表・前半
- 第15回 「身近な書について」発表・後半

## 成績評価の方法

発表（50%）及び課題（50%）で評価します。

## 履修にあたっての注意

日本文化論 F-a.b を履修した上で受講することが望ましいです。  
教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、4 回以上の欠席は評価を不認定とします。

## 教科書

全国大学書道学会編『書の古典と理論』

## 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。

24031

## 日本文化論 G-b

担当教員：押上 万希子

2 単位 後期

## サブタイトル

書論から探る

## 授業のねらい

中国の悠久の歴史に刻まれた様々な「書」、各時代を生きた人々の声も、幾多の「書論」の中で縷々と語り継がれてきました。一方わが国には秘伝の書「入木道」として守り、営まれてきた「書」があります。こうした職務上の書、又、日常的な手紙や日記も、19 世紀に至るまでは手書きされるもので、そこに価値を見い出してきました。「書」の価値を、「書論」から明らかにしていきます。今年度は『広芸舟双集』を取り上げます。

## 到達目標

その時代を生きる書論の筆者が言わんとすることを、根拠を明確にして理解することができる。

## 授業方法

毎回の担当者を決め、書論を読み、書を鑑賞し、意見を発表するという展開で進めていきます。  
本文を受講者で割るため、一人 1 回もしくは 2 回の発表になります。受講人数によっては、第 3 回と第 15 回も発表になることがあります。  
事前事後には、発表資料を読み込み、テキストと照らし合わせて書道史と関連付けて理解するよう努めてください。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本と中国の代表的な書論について  
発表形式の確認と担当順決定
- 第3回 発表準備  
個別指導
- 第4回 発表①
- 第5回 発表②
- 第6回 発表③
- 第7回 発表④
- 第8回 発表⑤
- 第9回 発表⑥
- 第10回 発表⑦
- 第11回 発表⑧
- 第12回 発表⑨
- 第13回 発表⑩
- 第14回 発表⑪
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

発表（50%）及び授業への取組（50%）で評価します。

## 履修にあたっての注意

日本文化論 F-a.b を履修してから受講することが望ましいです。  
教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、前期で 4 回以上の欠席は評価を不認定とします。

## 教科書

全国大学書道学会編『書の古典と理論』  
漢和辞典（電子辞書可）

## 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。



24041

## 特殊講義

担当教員：井上 泰至

2単位 集中

### サブタイトル

サムライの文学—近世から近代へ

### 授業のねらい

東アジアの中でも、日本にのみあったサムライによる支配体制。士分以外の階層の人々も、武士の世界観を理解し尊敬していました。近代になってからは、日本人の自意識や、外国人から見た日本像にも、サムライの文化は重要な位置を占めます。サムライ達を書いた、あるいはサムライ達を描いた文学の多様な展開を紹介しながら、その緊張感のある倫理と美の世界を考えていきます。

### 到達目標

サムライの文学の多様な内容と展開について、把握・理解する。

### 授業方法

武士の文学の代表的な事例を、毎回完結する形で紹介し、学生諸君と討議しながら、理解を深めていきます。

### 授業計画

- 第1回 武士の文学の全体像—江戸の社会のしくみとの関係
- 第2回 井原西鶴の武家物(1)—生死をかけた決断
- 第3回 井原西鶴の武家物(2)—平時の武士の矛盾
- 第4回 サムライの自伝(1)—武士はどのように育つのか？
- 第5回 サムライの自伝(2)—自己の主人としての記録
- 第6回 禅とサムライの文学—旅・自然・遊芸
- 第7回 赤穂事件とその文学(1)—敵討ちの倫理
- 第8回 赤穂事件とその文学(2)—犠牲死のカタルシス
- 第9回 前期読本の中のサムライ—男色か友情か？
- 第10回 後期読本の中のサムライ—侠気と連帯
- 第11回 軍記と絵画—サムライのイメージ
- 第12回 志士の文学、近代のサムライ表象—ナショナリズム
- 第13回 正岡子規の俳句革新—その内なる江戸と土魂の文学
- 第14回 まとめ 1
- 第15回 まとめ 2

### 成績評価の方法

毎回提出のリアクションペーパー 70%、積極的授業参加 30% (含む授業への参加状況)。

### 履修にあたっての注意

特に前提となる必要な知識はありません。リアクションペーパーは、即日メールで提出が基本。指名されたら、必ず質問か意見か感想を述べること。1日1回は指名されます。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

毎回、プリント配布。

### 参考書

- 井上泰至『雨月物語論』(笠間書院、1999、ISBN:978-4305701978)
- 井上泰至『サムライの書斎』(ぺりかん社、2007、ISBN:978-4831511812)
- 井上泰至『雨月物語の世界』(角川選書、2009、ISBN:978-4047034440)
- 井上泰至・金時徳『秀吉の対外戦争』(笠間書院、2011、ISBN:

- 978-4305705518)
- 井上泰至『子規の内なる江戸』(角川学芸出版、2011、ISBN:978-4046523891)
- 井上泰至『江戸の発禁本』(角川選書、2013、ISBN:978-4047035294)
- 井上泰至『近世刊行軍書論』(笠間書院、2014、ISBN:978-4305707390)
- 井上泰至・堀新『秀吉の虚像と実像』(笠間書院、2016、ISBN:978-4305708144)
- 井上泰至『近世日本の歴史叙述と対外意識』(勉誠出版、2016、ISBN:978-4585221524)
- 井上泰至『関ヶ原はいかに語られたか』(勉誠出版、2017、ISBN:978-4585226789)

24101

# 日本語学演習 I A

担当教員：漆崎 正人

4 単位 通年

## サブタイトル

近世笑話本の表現研究

## 授業のねらい

近世初期(1614~24年頃)成立の噺本『きのふはけふの物語』を、研究対象として取り上げ、近世初期の日本語の語彙の用法を手掛かりにして、当時の「笑い」を、表現の問題として考えます。

## 到達目標

- ・近世初期の日本語の表現を、テキストの違い、類話の違い、さらに、当時のヨーロッパ人の編纂した辞書の積義や現在刊行されている辞書同士の積義の比較・吟味によって、読解する方法を学ぶことで、古典語の解析の方法を身につけることができる。

## 授業方法

受講者による発表という授業形式で行いますので、ほぼ毎回(ただし第1~3回は、ガイダンス、資料概説、発表のしかたの説明とその例)誰かが担当し、発表することになります。なお、発表担当者は、次のようなことを報告します。

- (1)資料(「大東急記念文庫本」)の翻字／(2)異本(「大英図書館本」)との、表記、表現の比較／(3)資料中の語の用法(現在刊行されている辞書<『日本国語大辞典(第2版)』や古語大辞典>、当時の『日葡辞書』を参照)／(4)資料の通釈／(5)笑いのポイント／(6)類話(『醒睡笑』『戯言養気集』など)との、表現、内容の比較

自分が発表の担当でない時もその日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。

課題レポートは採点後に希望者にはコメントを付して返却します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資料の日本語史的概説
- 第3回 発表のしかたの説明とその具体例
- 第4回 上巻第2話
- 第5回 上巻第8話
- 第6回 上巻第9話
- 第7回 上巻第10話
- 第8回 上巻第11話
- 第9回 上巻第12話
- 第10回 上巻第13話
- 第11回 上巻第14話
- 第12回 上巻第15話
- 第13回 上巻第16話
- 第14回 上巻第17話
- 第15回 上巻第19話
- 第16回 上巻第20話
- 第17回 上巻第22話
- 第18回 上巻第23話
- 第19回 上巻第24話
- 第20回 上巻第26話
- 第21回 上巻第27話
- 第22回 上巻第29話
- 第23回 上巻第30話
- 第24回 上巻第31話
- 第25回 上巻第32話
- 第26回 上巻第33話
- 第27回 上巻第36話
- 第28回 上巻第37話
- 第29回 上巻第38話
- 第30回 上巻第39話

## 成績評価の方法

評価は、発表(50%)と、レポート(40%)と、授業への参加状況(10%)によります。欠席時(回)数が総授業時(回)数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

## 履修にあたっての注意

わかりにくい点は質問などを積極的にすること。初回の授業で、発表の順番について相談するので、必ず出席すること。どうしても出席できない場合は、予め漆崎に連絡すること。卒業研究で日本語の歴史的研究を扱うことも考えている人は、できるだけ履修してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：最初に配布します。

参考書：適宜指示します。

2017年度以前入学生  
日本語・日本文学  
専門科目

24111

## 日本語学演習 I B

担当教員：揚妻 祐樹

4単位 通年

### サブタイトル

明治語の資料と言語研究の実践

### 授業のねらい

明治期の日本語研究に必要な、資料に関する知識を習得し、それを扱った研究を行う。授業で扱う資料は主に辞書類、外国人の会話集や小説の会話文（口語資料として）、啓蒙書や小説の地の文（文章資料として）、教科書などである。

### 到達目標

- 1 明治期の資料についての知識を習得する。
- 2 明治期の資料を扱って研究する能力を習得する。
- 3 議論の中で相互に学ぶスキルを習得する。

### 授業方法

始めの3回は教員による説明だが、それ以降は前後期ともに学生の発表と質疑応答（90分程度）である。発表のための準備（90分程度）、および発表後の宿題（60分程度）が必要になる。

前期は、各資料の紹介を行う。

後期は自身の研究テーマを設定して、調査報告を行う。最後に後期発表のテーマを完成させたレポートを提出する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス この授業のねらい
- 第2回 先行研究の調査法および研究倫理について
- 第3回 明治期の資料概観
- 第4回 前期学生発表(1)ヘボン『和英語林集成』
- 第5回 前期学生発表(2)大槻文彦『言海』
- 第6回 前期学生発表(3)坂名垣魯文『安愚楽鍋』
- 第7回 前期学生発表(4)坪内逍遙『当世書生気質』
- 第8回 前期学生発表(5)二葉亭四迷『浮雲』
- 第9回 前期学生発表(6)三遊亭円朝『怪談牡丹燈籠』
- 第10回 前期学生発表(7)国定『尋常小学読本』
- 第11回 前期学生発表(8)サトー『会話篇』
- 第12回 前期学生発表(9)演説資料
- 第13回 前期学生発表(10)植木枝盛『民権自由論』
- 第14回 前期学生発表(11)勝海舟『海舟座談』
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 後期発表のためのガイダンス
- 第17回 後期学生発表(1)
- 第18回 後期学生発表(2)
- 第19回 後期学生発表(3)
- 第20回 後期学生発表(4)
- 第21回 後期学生発表(5)
- 第22回 後期学生発表(6)
- 第23回 後期学生発表(7)
- 第24回 後期学生発表(8)
- 第25回 後期学生発表(9)
- 第26回 後期学生発表(10)
- 第27回 後期学生発表(11)
- 第28回 後期学生発表(12)
- 第29回 後期学生発表(13)
- 第30回 後期まとめ

### 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する前期発表・事前準備と宿題（20%）、到達目標2を測定する後期発表・事前準備と宿題（20%）及び期末レポート（40%）、到達目標3を測定する質疑応答（20%）より評価する。

### 履修にあたっての注意

3分の2以上の出席が単位取得の条件である（ガイダンス期間も含む）。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜紹介します。

24121

# 日本文学演習 I A

担当教員：水口 幹記

4単位 通年

## サブタイトル

記紀神話を読む

## 授業のねらい

一般に「記紀神話」とまとめられる『古事記』と『日本書紀』の神話。しかしながら、両者は分量・内容ともに、決して同じものではありません。本演習では、『日本書紀』の神代巻及び神武紀と『古事記』の神話部分及び神武天皇段とを比較しながら読み進めていきます。それにより、日本古代に編まれた二つの書物の違いと特徴を知り、古代社会の複雑さ・奥深さを学んでいきます。

## 到達目標

- 1、記紀神話の読解を通して、「古代」「神話」が決して一つでないことを知ることができる。
- 2、自分で調べ解釈する力をつけることができる。
- 3、他の人の意見に対し、共感や疑問を持てるようになる。

## 授業方法

基本的に受講者各自による報告を行ってもらいます。受講者数によりませんが、年に最低二回の報告が課せられます。

各回の報告の対象となる箇所は各自必ず事前に読んでおくこと。

最終レポートについては、朱を入れ訂正した後に返却致します。

毎回の授業のテーマとなる部分について読み、意味を取ること（所要時間 30分～60分程度）。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レポートの方法・レポート順の決定。  
「研究倫理」について。
- 第3回 『日本書紀』と『古事記』についての概説。  
図書館における文献調査、見学。
- 第4回 受講者によるレポート(1)
- 第5回 受講者によるレポート(2)
- 第6回 受講者によるレポート(3)
- 第7回 受講者によるレポート(4)
- 第8回 受講者によるレポート(5)
- 第9回 受講者によるレポート(6)
- 第10回 受講者によるレポート(7)
- 第11回 受講者によるレポート(8)
- 第12回 受講者によるレポート(9)
- 第13回 受講者によるレポート(10)
- 第14回 受講者によるレポート(11)
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 受講者によるレポート(12)
- 第17回 受講者によるレポート(13)
- 第18回 受講者によるレポート(14)
- 第19回 受講者によるレポート(15)
- 第20回 受講者によるレポート(16)
- 第21回 受講者によるレポート(17)
- 第22回 受講者によるレポート(18)
- 第23回 受講者によるレポート(19)
- 第24回 受講者によるレポート(20)
- 第25回 受講者によるレポート(21)
- 第26回 受講者によるレポート(22)
- 第27回 受講者によるレポート(23)
- 第28回 受講者によるレポート(24)
- 第29回 受講者によるレポート(25)
- 第30回 まとめ

## 成績評価の方法

授業でのレポート（口頭報告）40%、最終レポート（文章）40%、授業への参加状況 20%。

ただし、2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。

## 履修にあたっての注意

授業第二回にレポートの順番を決めます。第一回のガイダンスとあわせて必ず出席してください。

## 教科書

坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀（一）』（岩波文庫）

倉野憲司校注『古事記』（岩波文庫）

## 教科書・参考書に関する備考

適宜、読むべき本などは授業において紹介します。

2017年度以前入学生  
日本語・日本文学  
専門科目

24131

# 日本文学演習 I B

担当教員：小山 清文

4単位 通年

## サブタイトル

平安時代の物語・日記文学を読む

## 授業のねらい

平安時代の日記文学や物語文学を読みながら、それらに潜む解釈上の問題や内容上の問題意識、志向性について探り出し、考察することを目的とします。

## 到達目標

1. それぞれの作品について各自なりの問題意識を持つことができる。
2. 他人の意見を理解したうえで、自分の意見を述べるができる。

## 授業方法

- ・はじめのうちは伊勢物語、その後は蜻蛉日記や堤中納言物語などを対象にし、受講者の調査・読解及び考察・発表・討論を軸にして進めていきます。
- ・発表担当は原則として前後期各1回ずつの予定。(但し、受講者数によっては授業形式に変動あり)
- ・発表に際して事前に指導を行ないます。
- ・受講者は、最低限、その日に取り上げるテキストの範囲を熟読のうえ、授業に臨むこと。

毎回の授業前(または後)には学修範囲についての事前レポートの提出を課し(事前・事後学習時間の目安は60分程度か)、それに対し適宜授業内でコメントします。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 参考文献説明、先行研究の調査法および研究倫理について  
発表スケジュール決め
- 第3回 伊勢物語 初段
- 第4回 伊勢物語 6段
- 第5回 伊勢物語 24段
- 第6回 伊勢物語 60段
- 第7回 蜻蛉日記概説および序文
- 第8回 蜻蛉日記(1)兼家の求婚
- 第9回 蜻蛉日記(2)兼家との結婚の前後
- 第10回 蜻蛉日記(3)父の陸奥赴任
- 第11回 蜻蛉日記(4)道綱誕生と町の小路の女の出現
- 第12回 蜻蛉日記(5)兼家の夜離れ(時姫とのやりとり・町の小路の女の出産)
- 第13回 蜻蛉日記(6)町の小路の女の失墜・長歌のやりとり
- 第14回 蜻蛉日記(7)母の死
- 第15回 蜻蛉日記(8)兼家の病
- 第16回 前期の復習
- 第17回 蜻蛉日記(9)御代替りをめぐる動静
- 第18回 蜻蛉日記(10)初瀬詣で・跋文
- 第19回 堤中納言物語概説・参考文献等説明
- 第20回 堤中納言物語(1)花桜折る少将
- 第21回 堤中納言物語(2)このついで
- 第22回 堤中納言物語(3)虫めづる姫君
- 第23回 堤中納言物語(4)ほとほどの懸想
- 第24回 堤中納言物語(5)逢坂越えぬ権中納言
- 第25回 堤中納言物語(6)貝合
- 第26回 堤中納言物語(7)思はぬ方にとまりする少将
- 第27回 堤中納言物語(8)はなだの女御
- 第28回 堤中納言物語(9)はいずみ
- 第29回 堤中納言物語(10)よしなしごと
- 第30回 総括

\*以上は一応の目安であり、変更することもあります。

## 成績評価の方法

到達目標1を測定する前期レポート(30%)及び後期レポート(30%)、到達目標2を測定する発表・発言などの授業への取り組み方(40%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

第2回目の授業の際に、発表スケジュール等を決めますので、受講予定者は特に1回目・2回目の授業を欠席しないように注意してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：テキストはプリントを用意する予定です。

他は、基本的にレポーターが用意するプリントに基づいて進めることになります。

参考書：前期の初め、または必要に応じて授業中に紹介・説明します。

2017年度以前入学生  
専門・日本文学  
科目



24141

## 日本文学演習 I C

担当教員：平田 英夫

4単位 通年

### サブタイトル

中世期の歌合を読む—定家と西行

### 授業のねらい

中世期の和歌文学を取り上げる。本年度は、『新古今和歌集』を代表する歌人である藤原定家と西行に注目したい。テキストとしては、定家と西行が、自ら選んだ『定家卿百番自歌合』、『両宮自歌合』（『御裳濯河歌合』『宮河歌合』）を予定している。歌合は、作品間の優劣を競い、勝敗をあえて付けることによって、作歌技量をあげ、作品のレベルを高め、価値観を共有していこうとする文芸的競技で、演習発表者も、歌人の立場にたつて、その歌のどのような点が評価できるのか、その作品の背景にはどのような美的観念が形成されているのかなど、様々な視点からアピールしてもらおう。そして、そのような作業を通して、和歌に用いられる特異な日本語表現とその思想、価値観などを学んでいきたい。

### 到達目標

- ・ 作品を丹念に読み、テーマを見つけ、調査、考察することによって、自分自身で問題点を見つけ出し、それに対応していく力を身につけることができる。
- ・ ゼミでの発表を通して、自分の考えを他者に対して伝える力を得る。
- ・ 新しい価値観や美的概念と出会うことによって、自分自身のアイデンティティを形成する一助とすることができる。
- ・ 卒業論文を書くうえで、基礎的能力を身につけることができる。

### 授業方法

- ・ 人数にもよるが、各番ごとに1～2名の担当者を決めて、事前に教員との相談のうえ、各自、調査してもらい、レジュメをつくり、授業にて発表してもらう。（発表回数は演習に参加する人数を見て決める）
- ・ レポーターの発表を受けて、演習参加者は、担当者と質疑応答を行い、作品の読みを討議の中で深めていく。
- ・ 授業の最後には感想カードを配布し、各自の作品の読みや意見などを記載してもらう。
- ・ 事前指導を行い、予め、どのような手順や段取りで発表を行うのかを教員と相談する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「和歌」とは何か
- 第3回 和歌文学の基本
- 第4回 『定家卿百番自歌合』と藤原定家について
- 第5回 演習の準備と発表方法
- 第6回 和歌を読んでみよう(1) 『古今和歌集』の作品より
- 第7回 和歌を読んでみよう(2) 『千載和歌集』の作品より
- 第8回 和歌を読んでみよう(3) 『新古今和歌集』の作品より
- 第9回 担当者の発表(1) 『定家卿百番自歌合』より
- 第10回 担当者の発表(2) 『定家卿百番自歌合』より
- 第11回 担当者の発表(3) 『定家卿百番自歌合』より
- 第12回 担当者の発表(4) 『定家卿百番自歌合』より
- 第13回 担当者の発表(5) 『定家卿百番自歌合』より
- 第14回 担当者の発表(6) 『定家卿百番自歌合』より
- 第15回 担当者の発表(7) 『定家卿百番自歌合』より
- 第16回 担当者の発表(8) 『定家卿百番自歌合』より
- 第17回 担当者の発表(9) 『定家卿百番自歌合』より
- 第18回 担当者の発表(10) 『定家卿百番自歌合』より
- 第19回 担当者の発表(11) 『定家卿百番自歌合』より
- 第20回 担当者の発表(12) 『定家卿百番自歌合』より
- 第21回 総評とまとめ
- 第22回 『両宮自歌合』と西行について
- 第23回 担当者の発表(1) 『両宮自歌合』

- 第24回 担当者の発表(2) 『両宮自歌合』
- 第25回 担当者の発表(3) 『両宮自歌合』
- 第26回 担当者の発表(4) 『両宮自歌合』
- 第27回 担当者の発表(5) 『両宮自歌合』
- 第28回 担当者の発表(6) 『両宮自歌合』
- 第29回 担当者の発表(7) 『両宮自歌合』
- 第30回 総評と全体のまとめ

### 成績評価の方法

積極性・授業参加状況 20%  
発表 80%（2回×40%）

### 履修にあたっての注意

- ・ 演習発表前に事前の打ち合わせを行う。
- ・ 参加者は、発表に対して各自の見解を述べることが要求される。
- ・ 詳細は最初のガイダンスにて説明するので必ず出席するように。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意する。

### 参考書

『中世和歌集 鎌倉編（新日本古典文学大系）』（岩波書店）

24161

## 日本文学演習 I E

担当教員：関谷 博

4単位 通年

### サブタイトル

児童文学というジャンル

### 授業のねらい

近代化の過程において、〈国民〉の生成がなされるわけだが、では、そこで文学はどのような役割を担っているのか。特に児童文学というジャンルに着目して、この問題について考えてみたい。

### 到達目標

1. 社会の近代化について理解が深まる。
2. 文学の社会的機能を知る。
3. 〈子ども〉をめぐる問題の多様性についての感性が磨かれる。

### 授業方法

レポーターによる調査・読解・発表と討議。発表はかならずひとりで行う。加えて、発表に対するコメンテーターを毎回3名程度決めておき、司会進行および質問や疑義提出の用意をしてもらう。その他の受講者は各自作品をあらかじめ読み、自己の見解を用意する（所要時間 45～90分程度）。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス(1)－テーマと研究史の整理・「研究倫理」について
- 第2回 ガイダンス(2)－児童文学史概論
- 第3回 泉鏡花「金時計」
- 第4回 国木田独歩「山の力」
- 第5回 有島武郎「一房の葡萄」
- 第6回 佐藤春夫「蝗の大旅行」
- 第7回 芥川龍之介「杜子春」
- 第8回 宇野浩二「露の下の神様」
- 第9回 室生犀星「白雲石」
- 第10回 小川未明(1)「赤い蠟燭と人魚」
- 第11回 小川未明(2)「酒屋のワン公」
- 第12回 杉みき子「雪小屋の屋根」
- 第13回 金子みすずの詩六編
- 第14回 坪田譲治「小川の葦」
- 第15回 浜田広介「泣いた赤鬼」
- 第16回 千葉省三(1)「拾った神様」
- 第17回 千葉省三(2)「欄間のほりもの」
- 第18回 宮澤賢治(1)「猫の事務所」
- 第19回 宮澤賢治(2)「やまなし」
- 第20回 新美南吉(1)「川」
- 第21回 新美南吉(2)「鹿の仔」
- 第22回 国分一太郎「機械になったこども」
- 第23回 阪田寛夫「桃次郎」
- 第24回 小沢正「一つが二つ」
- 第25回 神沢利子「くまの子ウーフ」
- 第26回 岡野薫子「贈りもの」
- 第27回 庄野英二「アルファベット群島」
- 第28回 大井三重子「ある水たまりの一生」
- 第29回 斎藤隆介「モチモチの木」
- 第30回 佐藤さとる「わすれんぼの話」

### 成績評価の方法

発表内容（60%）、コメンテーターとしての内容およびその他の授業への参加状況（40%）をもとに達成目標1、2、3を測定し、評価する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意します。

24171

# 日本文学演習 I F

担当教員：種田 和加子

4 単位 通年

## サブタイトル

谷崎潤一郎の作品を読む 2018

## 授業のねらい

1998年にフランスの世界文学叢書に日本人作家としてはじめて谷崎潤一郎の作品が2巻で刊行された。古典文学から近代文学の研究者を集めての国際会議も開催され、ますます研究が盛んである。犯罪小説や映画などに深い関心を示し、「源氏物語」の口語訳など旺盛な表現意欲をみせた「大谷崎」文学を具体的な作品分析を通じて解明していく。

## 到達目標

谷崎作品を綿密に読み、先行研究を批判的に継承し、谷崎の表現戦略に迫ることができる。

雑誌、新聞など可能なかぎり初出にもとづき、現在の全集との異同を把握し、さらに同時代評を分析するなど研究の基本的な姿勢を身に付けることができる。

## 授業方法

演習形式で行う。学生が主体的に問題点を見出し、発表する。ただしいかにして「演習」になるようにするかは講義形式ではじめに行う。複数ないし、一人でレポーターにあたってもらう。長編は1週間以上、短編は2時間前後みて読むのが予習。授業のあとで1時間程度当日のゼミを振り返り疑問点など整理する。

## 授業計画

- 第1回 演習の目的の確認と、その意味  
レポートを書くにあたっての研究倫理について。
- 第2回 谷崎研究の現在（講義）
- 第3回 谷崎の評伝、演習のための図書館ガイダンス
- 第4回 「刺青」明治43年第二次「新思潮」①、研究史、同時代評など
- 第5回 同②考察
- 第6回 同③考察
- 第7回 「人面疽」①研究史、同時代評など 全集第5巻所収
- 第8回 同②考察
- 第9回 同③考察
- 第10回 「途上」大正9年「改造」①研究史、同時代評など 全集第7巻所収 「谷崎潤一郎犯罪小説集」（集英社文庫）所収、
- 第11回 同②考察
- 第12回 同③考察
- 第13回 「痴人の愛」大正13年、「大阪毎日新聞」、「女性」①研究史、同時代評など
- 第14回 同②考察
- 第15回 同③考察
- 第16回 後期への展望
- 第17回 「春琴抄」昭和8年「中央公論」①研究史、同時代評など
- 第18回 同②考察
- 第19回 同③考察
- 第20回 「猫と庄三と二人のおんな」「改造」昭和11年①研究史、同時代評など
- 第21回 同②考察
- 第22回 同③考察
- 第23回 「細雪」上 中 下、昭和19年～21年①研究史、同時代評など
- 第24回 同考察②
- 第25回 同考察③
- 第26回 同考察④
- 第27回 「細雪」映画鑑賞
- 第28回 「台所太平記」昭和38年「サンデー毎日」考察①
- 第29回 同考察②

第30回 まとめ、補足②

## 成績評価の方法

レポーターとしてのとりくみかた40%、前期、後期のレポート50%、授業への参加状況10%  
レポートは2000字程度とし、コメントをつけて返却する。

## 履修にあたっての注意

レポーターの責任をきちんとはたすこと。かならず作品を読んで出席すること。

## 教科書

谷崎潤一郎『刺青・秘密』（新潮文庫）  
同『痴人の愛』（同）  
同『春琴抄 猫と庄三と二人のをんな』（同）  
同『台所太平記』（中公文庫）  
同『細雪上・中・下』（新潮文庫）

## 教科書・参考書に関する備考

テキストはおもに文庫本を使用、一括注文する。参考書など開講時に示す。

## 参考書

野崎敏『異国の言語』（人文書院、2003）  
松田修『刺青・性・死』（講談社学術文庫、2016）  
高橋世織『感覚のモダン』（せりか書房、2003）

2017年度以前入学生  
日本語・日本文学  
専門科目

24181

## 日本文学演習 I G

担当教員：菅本 康之

4単位 通年

### サブタイトル

占領空間の文学 — 「戦後文学/戦後の文学」を読む

### 授業のねらい

本演習は、「戦後文学」/戦後の文学をテキストとして使いながら、文学テキストの「読解」の方法、議論の仕方、資料の取り扱い方などの演習の基礎能力を養成する。

### 到達目標

正確な定義からすれば、「戦後文学」と戦後の文学は、異なるものである。そこには、どういう違いがあるのか理解することから、本演習ははじめる。その後、いずれの「文学」もGHQの占領空間にあり、最終的には、検閲制度、「アジア太平洋戦争」が文学、ひいては人びとのあり方にどのような深甚な影響を与えたかを理解する。

### 授業方法

- ・本演習は、主としてレポーター制によって作品の分析を発表を軸に展開する。
- ・発表者の調査・読解および考察・発表をもとに受講生全員で討議していく。
- ・前期のはじめは、教員が調査・読解および考察の基礎を指導する。
- ・発表の担当は原則2回の予定。
- ・発表に際しては事前に指導を行う。
- ・テキストは事前に精読しておくこと。

### 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス
  - ・「研究と倫理」について — 「藤女子大学研究倫理基準」の内容を知ろう。
- 第2回 「占領」と「戦後文学」 その1
  - ・敗戦
- 第3回 「占領」と「戦後文学」 その2
  - ・検閲と文学
- 第4回 『近代文学』の発刊 と「新日本文学会」結成
- 第5回 「政治と文学論争」
- 第6回 志賀直哉「灰色の月」
- 第7回 宮本百合子「風知草」
- 第8回 野間宏「暗い絵」
- 第9回 横溝正史『本陣殺人事件』
- 第10回 坂口安吾「白痴」
- 第11回 梅崎春生「桜島」
- 第12回 石川淳「焼け跡のイエス」
- 第13回 中野重治「五勺の酒」
- 第14回 竹山道雄『ビルマの豎琴』
- 第15回 原民喜「夏の花」
- 第16回 太宰治『人間失格』
- 第17回 椎名隣三『永遠なる序章』
- 第18回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第19回 川端康成「山の音」
- 第20回 島尾敏雄「出孤島記」
- 第21回 円地文子『女坂』
- 第22回 井上光晴「書かれざる一章」
- 第23回 井伏鱒二「遙拝隊長」
- 第24回 安部公房「壁」
- 第25回 大岡昇平『野火』
- 第26回 安岡章太郎「ガラスの靴」
- 第27回 吉行淳之介「原色の街」
- 第28回 松本清張「或る『小倉日記』伝」
- 第29回 小島信夫「アメリカン・スクール」
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

1. 前期・後期のレポート (60%)
2. ゼミ (演習) での発表 (20%)
3. ゼミへの関わり方 (20%)

### 履修にあたっての注意

テキストを読む量は多くなるが、それを事前にきちんと準備できること。

### 教科書

コピー印刷されたもの

### 参考書

本多秋五『物語戦後文学史 上・中・下』(岩波現代文庫)  
日高昭二『占領空間のなかの文学——痕跡・寓意・差異』(岩波現代選書、2015、ISBN: 4000291521)



## サブタイトル

『資治通鑑』と『三国志』を読み比べてみよう

## 授業のねらい

これまでに学んだ漢文読解に関する知識、文献調査法に関する知識・技能をより確実なものにするとともに、中国史に対する理解を深め、あわせて歴史家が史書の編纂に当たりどのような資料を踏まえ、どのように資料の取捨選択をしているのかといったことを検証し追体験することを目的とする。

本年度は、中国の編年体の史書の代表格である『資治通鑑』の中で、後漢から三国にかけての時代に当たる巻 64～65 を取り上げ、その記事を解説しつつ、合わせて『資治通鑑』が参照した根拠資料である正史『三国志』（およびその注）の関連記事を読むことにより、『資治通鑑』の筆者がどのような意図をもってどのように資料を取捨選択して記事を作成しているのかを探っていく。

## 到達目標

1. 工具書やインターネット資源等を利用して『資治通鑑』の記事に関連する『三国志』の記事を調べ出し、両者の関係を把握することができる。
2. 中国古代史の知識を深め、記事の内容を正しく理解し訳することができる。
3. 記事の内容や調査考察の結果を、他の参加者に対してわかりやすく伝えることができる。
4. 漢文訓読法に習熟する。

## 授業方法

授業の第3回まではガイダンスおよび基礎的な事項についての講義を行うが、それ以降の回は、担当者が分担箇所についての解説・調査の結果を発表し、参加者が意見や質問を述べ合うというゼミ形式によって進行する。

担当者は、発表に先立って、(1)担当する『資治通鑑』の記事について『三国志』から元資料・関連資料を調べ出し、(2)各資料を解説して訳を作成し、(3)資料の間の記述の相違や矛盾等の検証を踏まえて資料の取捨選択に関する『資治通鑑』編者の意図を解明し、(4)以上をまとめて発表用の資料（レジュメ）を作成する。担当回の授業においては、(5)上記の調査の結果を資料に基づいて発表する。また、発表後には、(6)分担部分に関する訳および注釈・解説をまとめてレポートの形で提出する、という一連の作業を行う。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス                                    |
| 第2回  | 中国の歴史書について（講義）、受講者確認、担当順・担当部分決定          |
| 第3回  | 後漢・三国期の中国について、文献調査の実例（講義）                |
| 第4回  | 担当者による発表(1)―『通鑑』巻 64-1 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第5回  | 担当者による発表(2)―『通鑑』巻 64-2 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第6回  | 担当者による発表(3)―『通鑑』巻 64-3 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第7回  | 担当者による発表(4)―『通鑑』巻 64-4 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第8回  | 担当者による発表(5)―『通鑑』巻 64-5 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第9回  | 担当者による発表(6)―『通鑑』巻 64-6 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第10回 | 担当者による発表(7)―『通鑑』巻 64-7 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第11回 | 担当者による発表(8)―『通鑑』巻 64-8 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第12回 | 担当者による発表(9)―『通鑑』巻 64-9 頁および関連する『三国志』記事   |
| 第13回 | 担当者による発表(10)―『通鑑』巻 64-10 頁および関連する『三国志』記事 |
| 第14回 | 担当者による発表(11)―『通鑑』巻 64-11 頁および関連          |

- |      |   |
|------|---|
| 第15回 | する『三国志』記事<br>担当者による発表(12)―『通鑑』巻 64-12 頁および関連する『三国志』記事 |
| 第16回 | 担当者による発表(13)―『通鑑』巻 64-13 頁および関連する『三国志』記事              |
| 第17回 | 担当者による発表(14)―『通鑑』巻 65-1 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第18回 | 担当者による発表(15)―『通鑑』巻 65-2 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第19回 | 担当者による発表(16)―『通鑑』巻 65-3 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第20回 | 担当者による発表(17)―『通鑑』巻 65-4 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第21回 | 担当者による発表(18)―『通鑑』巻 65-5 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第22回 | 担当者による発表(19)―『通鑑』巻 65-6 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第23回 | 担当者による発表(20)―『通鑑』巻 65-7 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第24回 | 担当者による発表(21)―『通鑑』巻 65-8 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第25回 | 担当者による発表(22)―『通鑑』巻 65-9 頁および関連する『三国志』記事               |
| 第26回 | 担当者による発表(23)―『通鑑』巻 65-10 頁および関連する『三国志』記事              |
| 第27回 | 担当者による発表(24)―『通鑑』巻 65-11 頁および関連する『三国志』記事              |
| 第28回 | 担当者による発表(25)―『通鑑』巻 65-12 頁および関連する『三国志』記事              |
| 第29回 | 担当者による発表(26)―『通鑑』巻 65-13 頁および関連する『三国志』記事              |
| 第30回 | 本年度のまとめ。レポートに関する指示等。                                  |

## 成績評価の方法

発表資料作成の状況―到達目標 1・2・4― (30%)、発表の状況―到達目標 3― (30%)、およびレポート―到達目標 1・2・4― (40%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

「漢文学講義 I -a, b」を履修済みであることが望ましい。また、毎回、発表者以外の参加者にも自分の考えを述べることを求めるので、それなりの準備をして来ること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、原典（中華書局本『資治通鑑』）の該当部分、および参考資料（『続国訳漢文大成』所収『資治通鑑』訓読文）をコピーしたプリントを配布する。

参考書：授業時に随時指示する。他に、各自漢和辞典を1冊用意すること。（手持ちの電子辞書に漢和辞典が搭載されている場合はそれで可。）持っていない人は購入することが望ましい。新規購入については文法事項の解説にすぐれる「三省堂・全訳漢辞海」を推薦する。この辞書はスマホアプリ版も発売されており、携帯に便利である。

## 参考ホームページ

Wikisource <https://zh.wikisource.org/wiki/%E8%B3%87%E6%B2%BB%E9%80%9A%E9%91%91>（原文テキストデータ）  
中国哲学書電子化計画 <http://ctext.org/wiki.pl?if=gb&res=745983>（原文テキストデータ）



## サブタイトル

キリシタン資料の日本語学的研究

## 授業のねらい

この演習は、我々が日々出会う日本語のことばを解析し、把握する方法を習得することを目的とします。具体的には、室町末期に来日したカトリックの宣教師たちが、日本語学習のために作った教科書の表現を読み、その表現行為を追体験し、理解します。テキストとしては、『イソップ物語』の、日本での最初の翻訳である『天草版伊曾保物語』（1593年刊）を使用します。

## 到達目標

・当時の古辞書などの国内文献やキリシタン語学書などのキリシタン資料を活用することで、当時のキリシタンの表現行為を追体験し、その表現について適切に説明することができる。

## 授業方法

受講者による発表という授業形式で行いますので、ほぼ毎回（ただし第1～4回は、ガイダンス、資料概説、発表のしかたの説明とその例）誰かが担当し、発表することになります。なお、発表担当者は、担当箇所から数語を取り上げ、次のようなことを吟味報告します。

(1)テキスト及び他のキリシタン資料（『日葡辞書』『ロドリゲス日本大文典』『落葉集』『パレト注解』『ことばの和らげ』『字集』など）における参考材料／(2)当時の日本の古辞書（『節用集』『下学集』『和玉篇』『運歩色葉集』『温故知新書』他）等における参考材料／(3)現在刊行されている辞書類＜『日本国語大辞典（第2版）』『時代別国語大辞典室町時代篇』『小学館古語大辞典』など＞の記述／(4)日本人研究者の先行研究の記述／(5)文脈の妥当性／(6)意味・用法の特徴

自分が発表の担当でない時も、その日の分の資料を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げたところを1時間程度を目安に復習して理解することを課します。

課題レポートは採点後に希望者にはコメントを付して返却します。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
 第2回 資料概説(1)：キリシタン語学書などのキリシタン資料  
 第3回 資料概説(2)：古辞書などの国内文献  
 第4回 発表のしかたの説明とその具体例  
 第5回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(1)：3行程度  
 第6回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(2)：3行程度 (\*1)の続き  
 第7回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(3)：3行程度 (\*2)の続き  
 第8回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(4)：3行程度 (\*3)の続き  
 第9回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(5)：3行程度 (\*4)の続き  
 第10回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(6)：3行程度 (\*5)の続き  
 第11回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(7)：3行程度 (\*6)の続き  
 第12回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(8)：3行程度 (\*7)の続き  
 第13回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(9)：3行程度 (\*8)の続き  
 第14回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(10)：3行程度 (\*9)の続き  
 第15回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(11)：3行程度 (\*10)の続き  
 第16回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(12)：

- 3行程度 (\*11)の続き  
 第17回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(13)：3行程度 (\*12)の続き  
 第18回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(14)：3行程度 (\*13)の続き  
 第19回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(15)：3行程度 (\*14)の続き  
 第20回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(16)：3行程度 (\*15)の続き  
 第21回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(17)：3行程度 (\*16)の続き  
 第22回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(18)：3行程度 (\*17)の続き  
 第23回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(19)：3行程度 (\*18)の続き  
 第24回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(20)：3行程度 (\*19)の続き  
 第25回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(21)：3行程度 (\*20)の続き  
 第26回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(22)：3行程度 (\*21)の続き  
 第27回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(23)：3行程度 (\*22)の続き  
 第28回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(24)：3行程度 (\*23)の続き  
 第29回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(25)：3行程度 (\*24)の続き  
 第30回 『天草版伊曾保物語』の「エソボが生涯の物語略」(26)：3行程度 (\*25)の続き

## 成績評価の方法

評価は、発表（50％）と、レポート（40％）と、授業への参加状況（10％）によります。欠席時（回）数が総授業時（回）数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

## 履修にあたっての注意

初回の授業で、発表の順番について相談するので、必ず出席すること。どうしても出席できない場合は、予め漆崎に連絡すること。卒業研究の指導教員に漆崎を希望する人は、3年次に、この演習か「卒業研究ゼミⅠ（漆崎担当）」の少なくとも一方を履修するようにしてください。また卒業研究でキリシタン資料を扱う人は、4年次でもこの授業を履修してください。この演習と「卒研ゼミ」との合同ゼミ合宿があります。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：最初に配布します。  
 参考書：最初に配布します。その他、必要に応じて適宜指示します。

24261

## 日本語学演習Ⅱ B

担当教員：揚妻 祐樹

4単位 通年

### サブタイトル

明治語資料としての三遊亭円朝

### 授業のねらい

明治期に活躍した落語家、三遊亭円朝の速記資料は、生き生きとした描写が文字化されたものとして言文一致体の先駆けとなった。この意味で明治語研究の重要な資料ではあるが、一方で、その言語的意味付けが難しい。描かれている世界は江戸時代の世界が多いが、実際に語っているのは明治の観客である。この演習では、円朝の速記本の言語の江戸語的性格、及び明治語的性格の両面について考察し、資料の価値づけを行う。また舞台言語としての落語についてもあわせて考察する。

### 到達目標

1. 円朝速記本の資料についての基本的知識を習得する。
2. 円朝速記本を用い自ら計画を立て研究を実践する能力を習得する。
3. 議論の中で相互に学ぶスキルを習得する。

### 授業方法

ガイダンスを除き学生による発表、及び質疑応答（90分程度）。発表の準備（90分程度）。課題図書の要約や発表後に課せられる宿題（60分）。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 先行研究の調査法及び研究倫理について
- 第3回 資料概説(1)落語速記本
- 第4回 資料概説(2)言文一致体小説
- 第5回 資料概説(3)円朝以外の落語速記資料
- 第6回 資料概説(4)チェンバレンの文法書
- 第7回 前期学生発表(1)『怪談牡丹燈籠』の会話文
- 第8回 前期学生発表(2)『怪談牡丹燈籠』の地の文
- 第9回 前期学生発表(3)『真景累ヶ淵』の会話文
- 第10回 前期学生発表(4)『真景累ヶ淵』の地の文
- 第11回 前期学生発表(5)『塩原多助一代記』の会話文
- 第12回 前期学生発表(6)『塩原多助一代記』の地の文
- 第13回 前期学生発表(7)『英国孝子ジョージスミス之伝』の会話文
- 第14回 前期学生発表(8)『英国孝子ジョージスミス之伝』の地の文
- 第15回 研究計画書作成のためのガイダンス
- 第16回 後期学生発表(1)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第17回 後期学生発表(2)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第18回 後期学生発表(3)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第19回 後期学生発表(4)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第20回 後期学生発表(5)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第21回 後期学生発表(6)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第22回 後期学生発表(7)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第23回 後期学生発表(8)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第24回 後期学生発表(9)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第25回 後期学生発表(10)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第26回 後期学生発表(11)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―

- 第27回 後期学生発表(12)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第28回 後期学生発表(13)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第29回 後期学生発表(14)―円朝速記本を資料とした研究の中間報告―
- 第30回 後期まとめ

### 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する前期発表（10%）宿題（10%）、主に到達目標2を測定する前期レポート（10%）後期発表（20%）期末レポート（40%）、主に到達目標3を測定する質疑応答（10%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

3分の2以上の出席が単位取得の条件である（ガイダンス期間の授業も含む）。

### 教科書

なし

24271

## 日本文学演習Ⅱ A

担当教員：水口 幹記

4単位 通年

### サブタイトル

『日本霊異記』上巻を読む

### 授業のねらい

九世紀初頭、奈良薬師寺の僧である景戒によってまとめられた日本最初の説話集『日本国現報善悪霊異記』（『日本霊異記』）。本書は、全三巻（上・中・下）で構成され、平安初期までの古代における不思議な話、特に、仏教と関わる不思議な話が多く納められています。本演習では、上巻を対象に、古代の人々の生活や仏教に対する考えなどを読み解くことにより、古代社会における仏教・生活・文化について考察を深めていきます。その際、中国など東アジア世界の書物の影響にも留意していきたいと思います。

### 到達目標

1. 東アジア文学との関わりを知ることができる。
2. 仏教と文学作品との関係を知ることができる。
3. 日本古代の社会・文化を知ることができる。
4. 自分で調べ解釈する力をつけることができる。
5. 他の人の意見に対し、共感や疑問を持てるようになる。

### 授業方法

基本的に受講者各自による報告を行ってもらいます。受講者数によりませんが、年に最低二回の報告が課せられます。

各回の報告の対象となる説話は、各自必ず事前に読んでおくこと。最終レポートは朱を入れ訂正した後に返却致します。

毎回の授業のテーマとなる説話を読み、意味をとること（所要時間 30分～60分程度）。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レポートの方法・レポート順序決定  
「研究倫理」について
- 第3回 『日本霊異記』とは
- 第4回 受講者によるレポート(1)
- 第5回 受講者によるレポート(2)
- 第6回 受講者によるレポート(3)
- 第7回 受講者によるレポート(4)
- 第8回 受講者によるレポート(5)
- 第9回 受講者によるレポート(6)
- 第10回 受講者によるレポート(7)
- 第11回 受講者によるレポート(8)
- 第12回 受講者によるレポート(9)
- 第13回 受講者によるレポート(10)
- 第14回 受講者によるレポート(11)
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 受講者によるレポート(12)
- 第17回 受講者によるレポート(13)
- 第18回 受講者によるレポート(14)
- 第19回 受講者によるレポート(15)
- 第20回 受講者によるレポート(16)
- 第21回 受講者によるレポート(17)
- 第22回 受講者によるレポート(18)
- 第23回 受講者によるレポート(19)
- 第24回 受講者によるレポート(20)
- 第25回 受講者によるレポート(21)
- 第26回 受講者によるレポート(22)
- 第27回 受講者によるレポート(23)
- 第28回 受講者によるレポート(24)
- 第29回 受講者によるレポート(25)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

授業でのレポート（口頭報告）50%、最終レポート（文章）30%、授業への参加状況（質疑応答・議論への参加）20%。

ただし、2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。

### 履修にあたっての注意

授業第二回にレポートの順番を決めます。第一回のガイダンスと共に必ず出席してください。

### 教科書

中田祝夫『日本霊異記（上）全訳注』（講談社学術文庫）

### 教科書・参考書に関する備考

適宜読むべき本などは授業において紹介します。

## サブタイトル

源氏物語を読む

## 授業のねらい

この授業は、『源氏物語』を実際に読みながら、その表現世界にひそむ問題意識について探ります。

また、どう考え、どう読むか、その根拠や意義を明らかにし、諸注釈書・論考や他人の意見なども参考にして、互いに批評し合うなかで、自分の読みをより論理的に確かなものにし、理解を深め、それをわかりやすく表現していく力を養うことをめざします。

## 到達目標

1. 『源氏物語』に対して自分なりの新たな興味や問題意識を持つことができる。
2. 作品を読み解き、その読みを他人に対し正確に表現することができる。

## 授業方法

- ・今年度は、『源氏物語』について、光源氏と紫の上の物語の始発、須磨・明石流離を経て政界復帰後の光源氏及びその周辺の人々の動静をめぐり、桐壺・若紫・滯標・薄雲・朝顔等の巻々を読んでいきます。
- ・いずれもレポーターによる調査・問題提起・読みに基づき、皆で検討を加えながら考察していきます。
- ・発表担当は、原則として前後期各1回ずつの予定。(但し、受講者数によっては授業形式に変動あり)
- ・発表に際して事前に指導を行いません。
- ・受講者は、最低限、その日に取り上げるテキストの範囲を熟読のうえ、授業に臨むこと。

毎回の授業前(または後)には学修範囲についての事前レポートの提出を課し(事前・事後学習時間の目安は60分程度か)、それに対し適宜授業内でコメントします。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
第2回 参考文献説明、先行研究の調査法および研究倫理について  
発表スケジュール決め  
第3回 作品概説  
第4回 桐壺(1): 桐壺帝の更衣寵愛、皇子誕生  
第5回 桐壺(2): 桐壺更衣の死去  
第6回 桐壺(3): 勅使(靱負命婦)の甲問  
第7回 桐壺(4): 桐壺帝の更衣哀傷  
第8回 桐壺(5): 高麗人の観相、藤壺の入内  
第9回 桐壺(6): 源氏元服、葵の上と結婚  
第10回 若紫(1): 源氏の北山訪問から若紫垣間見へ  
第11回 若紫(2): 若紫垣間見、思慕  
第12回 若紫(3): 源氏、北山の尼君や僧都とやりとり  
第13回 若紫(4): 源氏帰京、葵の上を訪問  
第14回 若紫(5): 源氏と藤壺の密会、藤壺懐妊  
第15回 若紫(6): 北山の尼君死去、若紫を慰問  
第16回 若紫(7): 源氏、若紫を略奪  
第17回 若紫(8): 二条院での源氏と若紫  
第18回 滯標(1)光源氏の政界復帰と御代替り  
第19回 滯標(2)源氏、明石の姫君に乳母を派遣  
第20回 滯標(3)政界の変動と源氏・明石の君それぞれの住吉参詣  
第21回 滯標(4)源氏と明石の君のやりとり、六条御息所を慰問  
第22回 滯標(5)六条御息所死後の娘前斎宮への対応  
第23回 薄雲(1)明石姫君養女計画をめぐる紫の上と明石の君  
第24回 薄雲(2)明石姫君の二条院移転  
第25回 薄雲(3)藤壺の崩御  
第26回 薄雲(4)出生の秘事の告知に煩悶する冷泉帝

- 第27回 薄雲(5)源氏の斎宮女御(秋好)への恋情  
第28回 朝顔(1)源氏、桃園の故宮邸を慰問  
第29回 朝顔(2)源氏、朝顔の姫君に求愛  
第30回 朝顔(3)雪の夜の源氏と紫の上

## 成績評価の方法

到達目標1・2を測定する前期レポート(30%)及び後期レポート(30%)、到達目標2を測定する発表・発言などの授業への取り組み方(40%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

第2回目の授業の際に、発表スケジュールを決めますので、受講予定者は特に1回目・2回目の授業を欠席しないように注意してください。

## 教科書

中野幸一編『常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、1995、ISBN: 4838603835)

## 教科書・参考書に関する備考

『源氏物語』のテキストはプリントを用意します。他は、基本的にレポーターが用意するプリントに基づいて進めることになります。

参考書: 授業中に紹介・説明します。



24291

## 日本文学演習Ⅱ C

担当教員：平田 英夫

4単位 通年

### サブタイトル

文明本『西行物語』を読む

### 授業のねらい

中世期に成立した「西行」にまつわる作品を丹念に読み解いていきたい。中世の「西行」が包摂する、多彩で複雑な文学の諸相について学び、柔軟な視野を養い、それを通して、日本の価値観や創造力に対する理解を深めたい。諸本の比較や、現代語訳、語釈、西行和歌の詳細な検証にとどまらず、各自の問題意識に基づいて、作品から浮かび上がるテーマを見つけ出し、それに対する調査・考察を加えて、発表者の見解を提示してもらい、その後、教員も交えて、議論していきたいと思う。

### 到達目標

- ・自分自身で問題点を設定でき、多角的な調査方法を見出し、情報を収集・分析する能力を持てるようになる。またそれで得た自身の考えを発表するための論理力や資料をつくる能力を高める。
- ・新しい価値観や日本語表現の仕方、美的観念を知ることで、自身の物の見方や想像力を高めることができる。
- ・卒業論文へ向けて、必要な力を身につける。

### 授業方法

- ・発表回数は、参加人数によって決める。
- ・1回目の発表前には事前相談・指導を行う。
- ・各回、担当者を決めて、担当作品や担当歌について、調査、発表するが、演習Ⅰよりも、各自の問題意識に基づいたテーマ研究を重視する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 「西行」概説
  - 第3回 演習の手順について
  - 第4回 『西行物語』概説
  - 第5回 西行の和歌を読む(1)
  - 第6回 担当者の発表(1)
  - 第7回 担当者の発表(2)
  - 第8回 担当者の発表(3)
  - 第9回 担当者の発表(4)
  - 第10回 担当者の発表(5)
  - 第11回 担当者の発表(6)
  - 第12回 担当者の発表(7)
  - 第13回 担当者の発表(8)
  - 第14回 担当者の発表(9)
  - 第15回 まとめ(1)
  - 第16回 『撰集抄』を読む
  - 第17回 西行伝承の展開とその意味について
  - 第18回 西行の和歌を読む(2)
  - 第19回 担当者の発表(10)
  - 第20回 担当者の発表(11)
  - 第21回 担当者の発表(12)
  - 第22回 担当者の発表(13)
  - 第23回 担当者の発表(14)
  - 第24回 担当者の発表(15)
  - 第25回 担当者の発表(16)
  - 第26回 担当者の発表(17)
  - 第27回 担当者の発表(18)
  - 第28回 担当者の発表(19)
  - 第29回 担当者の発表(20)
  - 第30回 まとめ(2)
- 以上は予定であり、多少の変更は有り得る。

### 成績評価の方法

発表 80% (40% × 2回) 受講態度、積極性 20%

### 履修にあたっての注意

- 参加者は、発表に対して各自の見解を述べることが要求される。
- 演習Ⅰより積極性が求められる。
- 最初のガイダンスに出席すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを用意する。なお推薦書・参考論文は授業にて提示する。

### 参考書

桑原博史校注『西行物語 全訳注』（講談社学術文庫）



24311

## 日本文学演習Ⅱ E

担当教員：関谷 博

4単位 通年

### サブタイトル

明治後期および大正時代の文学と社会

### 授業のねらい

明治後期から大正にかけての文学、とくに小説というジャンルは、当時の社会を知るうえで、奇妙な重要性を持っていると思われる。それは世界をありのままにとらえようとする透明性をめざしつつ、それゆえにゆがみ、ゆがんだ映像の面白さの発見を経て、自己の精神を現実から隔離・隠蔽する巧妙な道具の役割をひきうけていった……。この時期の小説の様々な様態を、鳥瞰的かつ虫瞰的に、とらえてみたい。

### 到達目標

- 1 現代小説とは異なる、様々な過去の小説に興味をもてるようになる。
- 2 ひとつの作品への興味を、他の作品への興味へ広げることができるようになる。
- 3 みずからテーマを見つけ、卒論への道筋をさぐることができるようになる。

### 授業方法

ひとり1作品について、先行研究を調べ、それをふまえた独自の見解をまとめ発表する。ほかにコメンテーターとしてレポーターに対する質問や疑義提出をおこなう。それ以外の者も、毎回の作品についての見解を用意して（所要時間60～120分程度）、積極的に発言すること

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス(1)～先行研究の調査方法、および研究倫理について。
- 第2回 ガイダンス(2)～文学史について概説。
- 第3回 夏目漱石(1)「倫敦塔」
- 第4回 夏目漱石(2)「琴のそら音」
- 第5回 寺田寅彦「困栗」
- 第6回 大塚楠緒子「上下」
- 第7回 正宗白鳥「塵埃」
- 第8回 田山花袋「一兵卒」
- 第9回 徳田秋声「二老婆」
- 第10回 小栗風葉「世間師」
- 第11回 永井荷風「深川の唄」
- 第12回 中村星湖「村の西郷」
- 第13回 近松秋江「雪の日」
- 第14回 志賀直哉「剃刀」
- 第15回 小川未明「薔薇と巫女」
- 第16回 水上竜太郎「山の手の子」
- 第17回 長田幹彦「滯」
- 第18回 上司小剣「鱧の皮」
- 第19回 佐藤春夫「西班牙犬の家」
- 第20回 里見弴「銀二郎の片腕」
- 第21回 広津和郎「師崎行」
- 第22回 有島武郎「小さき者へ」
- 第23回 久米正雄「虎」
- 第24回 芥川龍之介「奉教人の死」
- 第25回 宇野浩二「屋根裏の法学士」
- 第26回 内田百閒「花火」
- 第27回 菊池寛「入れ札」
- 第28回 川端康成「葬式の名人」
- 第29回 葛西善蔵「権の若葉」
- 第30回 葉山嘉樹「淫売婦」

### 成績評価の方法

発表(50%)、コメンテーターとしての内容(30パーセント)、授業への参加状況(20%)で、達成目標1、2、3を測定し、評価する。

### 教科書

千葉俊二 他編『日本近代短編小説選 大正編』(岩波文庫、2012、ISBN:9784003119136)  
千葉俊二 他編『日本近代短編小説選 明治編2』(岩波文庫、2013、ISBN:9784003119129)

24321

## 日本文学演習Ⅱ F

担当教員：種田 和加子

4単位 通年

### サブタイトル

◎硯友社文学と泉鏡花 2018年

### 授業のねらい

鏡花作品の出発期と関係の深い硯友社文学をあわせ読むことで、明治20年代の文学状況を立体的に浮かび上がらせ、ひきつづきその大正期の鏡花作品の特性を考察する。(昨年と重複する作品もあるがその理由あってのことである。)

### 到達目標

尾崎紅葉、川上眉山、広津柳浪、江見水蔭らの作品と発表媒体を考察し、鏡花が作家として出発する以前、以後の同時代性をつかむことができる。さらに大正期の鏡花作品の特質、方法、文体、同時代との関連性などについて多面的に理解が深まる。

「注釈」を参照しつつ読む経験によって、「注釈」そのものの批評ができるようになる。

### 授業方法

演習形式で、複数ないし、一人で以下にとりあげる作品について報告する。

予習としてはとりあげる作品を読んで自分なりの意見をまとめ、授業後には当日のレジュメを再読し、理解を深め復習とする。作品を読む速度は個人差があるが、おおよそ2、3時間の予習と1時間程度の復習が必要。

### 授業計画

- 第1回 前提講義 硯友社文学と鏡花。研究倫理について。
- 第2回 硯友社文学と鏡花 その3
- 以後一人ないし複数で分担し、レポーターにあたってもらう
- 第3回 尾崎紅葉、「不言不語」「読売新聞」①明治28年1月～3月  
研究史、同時代評など
- 第4回 同、②考察
- 第5回 同、③考察
- 第6回 広津柳浪「黒蜥蜴」、「文芸倶楽部」明治28年①  
研究史、同時代評など
- 第7回 同、②考察
- 第8回 同、③考察
- 第9回 川上眉山「うらおもて」、「国民之友」明治29年①  
研究史、同時代評など
- 第10回 同、②考察
- 第11回 同、③考察
- 第12回 江見水蔭 「女房殺し」「文藝倶楽部」明治28年10月①  
研究史、同時代評など
- 第13回 同、②考察
- 第14回 同、③考察
- 第15回 補足、まとめ
- 第16回 「陽炎座」大正2年「新小説」①  
研究史、同時代評など
- 第17回 同、②考察
- 第18回 同、③考察
- 第19回 「芍薬の歌」大正7年 「やまと新聞」大正7年  
研究史、同時代評など
- 第20回 同、②考察
- 第21回 同、③考察
- 第22回 「壳色鴨南蛮」大正9年「人間」  
研究史、同時代評など
- 第23回 同、②考察
- 第24回 同、③考察
- 第25回 「眉かくしの霊」大正13年 「苦楽」①  
研究史、同時代評など
- 第26回 同、②考察
- 第27回 同、③考察

第28回 「絵本の春」大正15年「文芸春秋」  
研究史、同時代評など

第29回 同②考察

第30回 同③考察

### 成績評価の方法

レポーターとしてのとりくみかた40%、前期、後期のレポート50%、授業への参加状況10%  
前期・後期のレポートは2000字程度、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

シラバスにあげた作品について読んでいなくてもよいが、履修を決めたら必ず読んで臨むこと。

「注釈」のあるテキストをかなり使うので、言語への不安は必要ない。明治期の泉鏡花作品を何か一つでも読んでおくと導入としてはよい。

### 教科書

広津柳郎『河内屋・黒蜥蜴』（岩波文庫）

### 教科書・参考書に関する備考

テキストはおもに新日本古典文学大系「硯友社文学集」、  
「明治文学全集」よりプリント使用、「鏡花全集」、「新編鏡花集」  
などよりプリント使用  
参考書は開講時に指示

### 参考書

平凡社編『別冊太陽 泉鏡花』（平凡社、2010年）  
種田和加子『泉鏡花論－到来する魔』（立教大学出版会、2012年）

24331

## 日本文学演習Ⅱ G

担当教員：菅本 康之

4単位 通年

## サブタイトル

「世界文学」のために

## 授業のねらい

本演習は、大江健三郎と村上春樹、多和田葉子のテキストを「読解」し、「世界文学」について考察する。

大江健三郎は、1994年に「ノーベル文学賞」を獲得した世界的作家であり、村上春樹は「永遠のノーベル賞候補者」にとどまるかもしれないが、間違いなく日本の作家で現在世界で最も読まれている。多和田葉子は、ドイツに在住し2言語以上で文学活動をしている次の「ノーベル文学賞」候補者ともいわれている。

3名の世界的作家のテキストを、言い換えれば「世界文学」を「母語」で読むことのできる幸福を享受する。

最後に、2017年度「ノーベル文学賞作家」ではある日系英国人カズオイシグロを取り上げ、「世界文学」についてあらためて理解を深めるものとする。

## 到達目標

- ・現代の文学テキストの「読解」が可能になる。
- ・「先行研究」を理解し、要約し、解説、批評する力がつく。
- ・「世界文学」とは何かを理解することができる。
- ・文学による想像力や社会的コミットメントのあり方について自分なりの考えを持てるようになる。

## 授業方法

- ・本演習は、主としてレポーター制によって作品の分析を発表軸に展開する。
- ・発表者の調査・読解および考察・発表をもとに受講生全員で討議していく。
- ・前期のはじめは、教員が調査・読解および考察の基礎を指導する。
- ・発表の担当は前期、後期1回ずつの原則2回の予定。
- ・発表に際しては事前に指導を行う。
- ・事前にテキストは精読しておく。

## 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス  
第2回 ・「研究と倫理」について――「藤女子大学研究倫理基準」の内容を知ろう。  
役割分担  
第3回 大江健三郎「死者の奢り」  
第4回 大江健三郎「飼育」  
第5回 大江健三郎『われらの時代』その1  
第6回 大江健三郎『われらの時代』その1  
第7回 大江健三郎『同時代ゲーム』その1  
第8回 大江健三郎『同時代ゲーム』その2  
第9回 大江健三郎『M/Tと森のフシギな物語』その1  
第10回 大江健三郎『M/Tと森のフシギな物語』その2  
第11回 大江健三郎『取り替え子』その1  
第12回 大江健三郎『取り替え子』その2  
第13回 村上春樹『1973のピンボール』  
第14回 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』その1  
第15回 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』その2  
第16回 村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』その1  
第17回 村上春樹『神の子どもたちはみな踊る』その2  
第18回 村上春樹『海辺のカフカ』その1  
第19回 村上春樹『海辺のカフカ』その2  
第20回 村上春樹『騎士団長殺し』第1部  
第21回 村上春樹『騎士団長殺し』第2部  
第22回 多和田葉子『かかとを失くして』  
第23回 多和田葉子『聖女伝説』その1  
第24回 多和田葉子『聖女伝説』その2  
第25回 多和田葉子『百年の散歩』その1

- 第26回 多和田葉子『百年の散歩』その1  
第27回 カズオイシグロ『日の名残り』その1  
第28回 カズオイシグロ『日の名残り』その2  
第29回 カズオイシグロ『わたしを離さないで』その1  
第30回 カズオイシグロ『わたしを離さないで』その2

## 成績評価の方法

1. レポート (60%)、2. 発表 (20%)、3. 演習への関わり方 (20%)。

## 履修にあたっての注意

「世界文学」を読むので、テキストは「精読」すること。

## 教科書

大江健三郎『死者の奢り』（新潮文庫ほか）  
村上春樹『1973のピンボール』（講談社文庫ほか）  
多和田葉子『かかとを失くして』（講談社学術文庫ほか）  
カズオイシグロ『日の名残り』（ハヤカワ epi 文庫）ほか

## 教科書・参考書に関する備考

教科書＝テキストが多いので早めに古本市場で購めること。  
(Amazon マーケットプレイスなど)

## 参考書

デイヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何は?』（国書刊行会、2011、ISBN：978-4-336-05362-6）  
フランコ・モレッティ『遠読』（みすず書房、2016、ISBN：978-4-622-07972-9）

## サブタイトル

江戸の随筆を読む

## 授業のねらい

日本の江戸期に書かれた随筆を読み解くことを通じて、江戸期の人々の学問観・教養観等について理解を深めつつ、漢文読解・調査の知識と技能を磨き、併せて中国古典から日本漢学に至る幅広い「漢文世界」への視野を獲得することを目的とする。

題材として本年度は西島蘭溪『坤斎日抄』（1828年序）を取り上げる。西島蘭溪（1781-1853）は江戸後期の儒学者。学問を林述斎および養父・西島柳谷に学び、朱子学を主としながらも、群書を博渉し、特に校勘の学をよくした。『坤斎日抄』にはおびただしい書が引用され、その博覧ぶりが発揮されているうえ、風俗資料としても価値があるとされており（『朝日日本歴史人物事典』）、江戸期の儒学者の学問観・教養観などを探る材料としては恰好のものと言える。

## 到達目標

1. 底本の返り点付き漢文を解説し、当時の学問観等を踏まえながら論旨を把握することができる。
2. 引用文献について調査・解説したうえで著者の引用意図を正しく把握することができる。
3. 調査・解説の結果を、他の受講者に向けてわかりやすく提示し、明確な言葉で説明することができる。
4. 中国語文の読解力を高め、漢文訓読法に習熟する。

## 授業方法

授業の第1～3回はガイダンスおよび基礎的な事項についての講義を行うが、それ以降の回は演習形式で進行する。具体的には、毎回の担当者を決め、順番に『坤斎日抄』の原文（底本1頁分程度）を分担して輪読する形式を進める。ゼミの毎回の担当者は、事前の準備作業として、(1)分担部分の解説、(2)引用資料等についての調査、(3)内容に関わる諸問題の検討を行い、その上で、(4)発表用資料を作成、配布し、(5)発表を行う。また発表後の作業として、発表時には未解明だった点や指摘を受けた点などを補足修正し、資料の完成版を作成してレポートとして提出することを求める。

提出されたレポートは名畑がとりまとめ、コメント等を付した上で参加者全員で共有できるようにする予定。

また、担当者以外の参加者も事前学習として資料の読解（1時間程度）に取り組むこと。

なお『坤斎日抄』の底本としては『日本儒林叢書』所収本を用い、参照用テキストに『影印日本随筆集成・第10輯』所収本を用いる。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス                                      |
| 第2回  | 随筆というジャンルの成立と展開（講義）、受講者確認および分担範囲・発表順の決定    |
| 第3回  | 西島蘭溪について、和本の体裁と取り扱い方について（講義）               |
| 第4回  | 担当者による発表(1)―1頁前半（毎回の読解の進捗は底本の0.5頁程度を目安とする） |
| 第5回  | 担当者による発表(2)―1頁後半                           |
| 第6回  | 担当者による発表(3)―2頁前半                           |
| 第7回  | 担当者による発表(4)―2頁後半                           |
| 第8回  | 担当者による発表(5)―3頁前半                           |
| 第9回  | 担当者による発表(6)―3頁後半                           |
| 第10回 | 担当者による発表(7)―4頁前半                           |
| 第11回 | 担当者による発表(8)―4頁後半                           |
| 第12回 | 担当者による発表(9)―5頁前半                           |
| 第13回 | 担当者による発表(10)―5頁後半                          |
| 第14回 | 担当者による発表(11)―6頁前半                          |
| 第15回 | 担当者による発表(12)―6頁後半                          |

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 第16回 | 前期のまとめ、後期の担当の確認    |
| 第17回 | 担当者による発表(13)―7頁前半  |
| 第18回 | 担当者による発表(14)―7頁後半  |
| 第19回 | 担当者による発表(15)―8頁前半  |
| 第20回 | 担当者による発表(16)―8頁後半  |
| 第21回 | 担当者による発表(17)―9頁前半  |
| 第22回 | 担当者による発表(18)―9頁後半  |
| 第23回 | 担当者による発表(19)―10頁前半 |
| 第24回 | 担当者による発表(20)―10頁後半 |
| 第25回 | 担当者による発表(21)―11頁前半 |
| 第26回 | 担当者による発表(22)―11頁後半 |
| 第27回 | 担当者による発表(23)―12頁前半 |
| 第28回 | 担当者による発表(24)―12頁後半 |
| 第29回 | 担当者による発表(25)―13頁前半 |
| 第30回 | 担当者による発表(26)―13頁後半 |

## 成績評価の方法

発表資料の作成の状況（到達目標1・2・4）（30%）、発表の状況（到達目標3）（30%）、およびレポート（到達目標1～4）（40%）によって評価する。

## 履修にあたっての注意

底本は漢文で書かれているため（句読点と返り点は付いている）、「漢文学講義I-a、b」を履修済みであることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：底本および参照用テキストをコピーしたプリントを配布する。他に、各自下記URLより『日本儒林叢書』所収本のPDFファイルをダウンロードして入手し、資料作成の際に活用してもらう。

参考書：随時指示する。他に、各自漢和辞典を1冊用意すること。（手持ちの電子辞書に漢和辞典が搭載されている場合はそれで可。）持っていない人は購入することが望ましい。新規購入については文法事項の解説にすぐれる「三省堂・全訳漢辞海」を推薦する。この辞書はスマホアプリ版も発売されており、携帯にも便利である。

## 参考ホームページ

日本儒林叢書テキストデータベース・所収著作一覧 [http://www2.sal.tohoku.ac.jp/jurin/database\\_finished.cgi?data=6952i55U3444P1P0&print=500&and=page&data=6952%6955%7538621%4501%500](http://www2.sal.tohoku.ac.jp/jurin/database_finished.cgi?data=6952i55U3444P1P0&print=500&and=page&data=6952%6955%7538621%4501%500)（「日本儒林叢書」版『坤斎日抄』のPDFが利用できる。）



## サブタイトル

アダムとエバへの憧憬：西洋中世の系譜学

## 授業のねらい

『旧約聖書』冒頭に収められている「アダムとエバの原罪」の物語は、西洋の文学や絵画、建築など様々な領域におけるインスピレーションの源泉として重要な役割を果たしてきた。ミケランジェロによるシステーナ礼拝堂の天上画やミルトンの『失樂園』など、その例は枚挙に暇がない。そして、アダムとエバの物語に対する関心は中世の神学者らにおいても同様であり、彼らはアダムとエバの犯した罪や原罪による人間本性の腐敗といった事柄を考察することで人間という存在を見定めようとすると共に、人間が原罪を持つに至る以前の「無垢な人間の状態」を彼らの内に見ようとしている。

本年度のキリスト教学演習では、そうした「アダムとエバの原罪」をテーマとし、中世のキリスト教神学者らが原罪という罪や原罪を犯す以前のアダムとエバの状態においてどのような視線を向け、人間の理想的状態についてどのように考えていたのかを見ていく。特に、アウグスティヌスとボナヴェントゥラという二人の神学者に焦点を当てる予定であるが、時間に余裕があれば、トマス・アクィナスの『神学大全』（1、qq.94-97）もあわせて見ていく。

## 到達目標

- ・キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- ・テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- ・討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- ・卒業論文に繋がる自身の研究課題を見つけること。

## 授業方法

前期・後期の授業をそれぞれ前半部と後半部に分け、前半部において共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。また、後半部においては、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のあるテーマを選択した上で、研究発表を行う。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：授業の方法と計画の説明、研究倫理について
- 第2回 アダムとエバへの憧憬：アウグスティヌスと『創世記』への絶えざる関心
- 第3回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の全体構造の確認、および講読と討論（XI、C. 1-5）
- 第4回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 6-11）
- 第5回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 12-18）
- 第6回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 19-23）
- 第7回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 24-28）
- 第8回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 29-33）
- 第9回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 34-38）
- 第10回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 39-42）
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)例：ボナヴェントゥラ『大伝記』におけるフランシスコ
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)例：ヨナスにおけるホロコーストと神義論
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)例：イスラームにおける機械的原因論
- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)例：イグナティウス・

ロヨラ『霊操』とキリスト教的霊性

- 第15回 授業全体の概括と今後の展望
- 第16回 イントロダクション：アウグスティヌスからボナヴェントゥラへ
- 第17回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』の全体構造の確認、および講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第18回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 4-6）
- 第19回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第20回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-12）
- 第21回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 3, C. 4-6）
- 第22回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第23回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 10-11）
- 第24回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第25回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第26回 受講生による研究発表と討論(1)例：ゴシック建築における光の神性
- 第27回 受講生による研究発表と討論(2)例：アンセルムスと神の存在論証
- 第28回 受講生による研究発表と討論(3)例：イエスとラビのたとえの比較的考察
- 第29回 受講生による研究発表と討論(4)例：スペインのインディアス占領とその正当化
- 第30回 授業全体の概括と今後の展望

## 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、原典テキスト（ギリシア語・ラテン語）やその近代語訳を参照する。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する場合がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。
- ・一回の授業につき、一度以上の主体的な発言（質問・意見など）をすることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

本講義において使用するテキストは、コピーやプリントを配布する

## 参考書

アウグスティヌス『創世記逐語注解』（九州大学出版会、1995年、ISBN：87378-423-9）  
 ボナヴェントゥラ『神学綱要』（エンデルレ書店、1991年、ISBN：4-7544-0239-1）  
 内山勝利（編）『西洋哲学史[古代・中世編]』（ミネルヴァ書房、1996年、ISBN：4-623-02663-9）  
 戸田山和久『論文の教室－レポートから卒論まで－』（日本放送出版協会、2002年、ISBN：978-4-14-091194-5）  
 山内志朗『ざりざり合格への論文マニュアル』（平凡社、2001年、ISBN：978-4582851038）



24400

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：漆崎 正人

4 単位 通年

### サブタイトル

日本語史研究論文の読み方と書き方

### 授業のねらい

この授業は、4年次において、卒業研究を作成するための、日本語史関係の研究論文の作成の方法を理解し、身につけ、実践に役立てることを目的とします。日本語史のいくつかの分野から、研究論文を取り上げ、批判、評価をし、また、それぞれの関心のあるテーマについての、研究発表をします。

### 到達目標

・日本語史関係の研究論文の評価ができ、卒業研究の作成の方法を学び、卒業研究のテーマを絞り込むことができる。

### 授業方法

受講者による発表という授業形式になりますので、ほぼ毎回（ただし第1～2回は、ガイダンス、発表のしかたの説明とその例）誰かが担当し、発表することになります。およそ次のような流れです。

- (1)日本語史研究論文の読解：各自が取り上げた論文を、皆で検討します。
- (2)各自の研究テーマでの発表：それぞれの関心のあるテーマをめぐって発表し、それについて皆で吟味します。

自分が発表を担当しない時も、その日の分の論文を1時間程度を目安に予習しておくこと、事後にその日取り上げた論文の内容を1時間程度を目安に復習し評価することを課します。

課題レポートは採点後に希望者にはコメントを付して返却します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漆崎による具体的な研究論文の批判の具体例および研究倫理について
- 第3回 4年生の発表(1)
- 第4回 4年生の発表(2)
- 第5回 4年生の発表(3)
- 第6回 4年生の発表(4)
- 第7回 4年生の発表(5)
- 第8回 4年生の発表(6)
- 第9回 4年生の発表(7)
- 第10回 4年生の発表(8)
- 第11回 4年生の発表(9)
- 第12回 4年生の発表(10)
- 第13回 4年生の発表(11)
- 第14回 4年生の発表(12)
- 第15回 4年生の発表(13)
- 第16回 4年生の発表(14)
- 第17回 3年生の発表(1)
- 第18回 3年生の発表(2)
- 第19回 3年生の発表(3)
- 第20回 3年生の発表(4)
- 第21回 3年生の発表(5)
- 第22回 3年生の発表(6)
- 第23回 3年生の発表(7)
- 第24回 3年生の発表(8)
- 第25回 3年生の発表(9)
- 第26回 3年生の発表(10)
- 第27回 3年生の発表(11)
- 第28回 3年生の発表(12)
- 第29回 3年生の発表(13)
- 第30回 3年生の発表(14)

### 成績評価の方法

評価は、発表（50%）と、レポート（40%）と、授業への参加状況（10%）によります。欠席時（回）数が総授業時（回）数の1/3を超えた受講者は、単位を認めません。

### 履修にあたっての注意

卒業研究の指導教員に漆崎を希望する人は、3年次に、漆崎担当の「卒業研究ゼミ I」か「日本語学演習 II A」の少なくとも一方は履修するようにしてください。卒業研究でキリシタン資料を扱う人は、4年次にも「日本語学演習 II A」を履修してください。「卒研ゼミ」と「日本語学演習 II」との合同ゼミ合宿があります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：その都度配布します。

参考書：必要に応じて適宜指示します。

24401

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：揚妻 祐樹

4単位 通年

### サブタイトル

近現代日本語の卒論のためのゼミ

### 授業のねらい

近・現代日本語を対象として卒業論文を書くための発表と質疑応答。(90分)。発表のための準備(90分程度)、発表後の宿題(60分程度)を課す。

### 到達目標

- 1 4年生に向けて近現代日本語を対象とした研究ができる能力を習得する。
- 2 議論の中で相互に学ぶスキルを習得する。

### 授業方法

学生による発表。

### 授業計画

- 第1回 1年間の概要(研究計画書、ミニ卒論、研究倫理についての説明)
- 第2回 先行研究の調査法及び研究倫理について
- 第3回 資料・論文検索法
- 第4回 論文執筆の手順
- 第5回 ミニ卒論構想発表—近・現代日本語文法研究—
- 第6回 ミニ卒論構想発表—方言・新方言の研究—
- 第7回 ミニ卒論構想発表—言語接触の問題(pidgin、Creole、外来語、翻訳語)—
- 第8回 ミニ卒論構想発表—近・現代を中心とした言語変化—
- 第9回 ミニ卒論構想発表—言語政策(国語教育・日本語教育・国語国字問題など)—
- 第10回 ミニ卒論構想発表—談話分析・現代日本語の語用論—
- 第11回 ミニ卒論構想発表—言葉における性差—
- 第12回 ミニ卒論構想発表—待遇表現—
- 第13回 ミニ卒論構想発表—アクセント—
- 第14回 ミニ卒論構想発表—近・現代日本語の資料研究(辞書、文法書など)—
- 第15回 研究計画書について
- 第16回 前期の発表を進展させ、中間報告を行い、ミニ卒論に向けて準備する。  
研究計画書の発展のさせ方
- 第17回 ミニ卒論中間報告—近・現代日本語文法研究—
- 第18回 ミニ卒論中間報告—方言・新方言の研究—
- 第19回 ミニ卒論中間報告—言語接触の問題(pidgin、Creole、外来語、翻訳語)—
- 第20回 ミニ卒論中間報告—近・現代を中心とした言語変化—
- 第21回 ミニ卒論中間報告—言語政策(国語教育・日本語教育・国語国字問題など)—
- 第22回 ミニ卒論中間報告—談話分析・現代日本語の語用論—
- 第23回 ミニ卒論中間報告—言葉における性差—
- 第24回 ミニ卒論中間報告—待遇表現—
- 第25回 ミニ卒論中間報告—アクセント—
- 第26回 ミニ卒論中間報告—近・現代日本語の資料研究(辞書、文法書など)—
- 第27回 四年生の卒業研究発表を聞く(1)—卒論の概要—
- 第28回 四年生の卒業研究発表を聞く(2)—卒論執筆の反省—
- 第29回 後期のまとめ(1)
- 第30回 後期のまとめ(2)

### 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する発表およびそれにかかわる事前準備と宿題(20%)及び期末レポート(70%)と、主に到達目標2を測定する質疑応答(10%)より評価する。

### 履修にあたっての注意

授業回数数の3分の2以上の出席が単位認定の必要条件である(ガイダンス期間を含む)。

### 教科書

なし

24402

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：水口 幹記

4 単位 通年

### サブタイトル

古代文学・文化・歴史

### 授業のねらい

広く「古代」に関わる文章を対象とします。すなわち、散文（文学作品・歴史書・説話集など）・韻文（漢詩・和歌）といった文章形態や、文学・文化・歴史・思想・哲学など既存の学問分類、日本・東アジア（中国・台湾・朝鮮半島・ベトナム）など地域、文章の書かれた時代（たとえば、たとえ近世に書かれていたとしても受講者が「古代」に関わると判断した場合は、「古代」とみなします）といった違いにこだわらず、受講者各自が選んだ「古代」に関わる文章を取り上げ、参加者全員で討論をしていきます。

四年生は最終的に卒業研究になるようにブラッシュアップしていき、三年生は卒業研究へ向けての対象・問題意識の明確化を目指します。

### 到達目標

1. 卒業研究で取り組むテーマを見つけることができる。
2. 問題意識を明確化することができる。
3. 成果を論文としてまとめることができる。

### 授業方法

受講者が、広く「古代」に関わる文章に関してレポートし、それをめぐって受講者全員が討論し、問題点をあぶり出していきます。受講者の人数によりますが、前期は、四年生が中心にレポートし、後期は、三年生が中心となります。ただし、後期の最初には四年生に卒研中間発表をしてもらいます。

提出したレポート（8000字）は、朱を入れ訂正した後、返却致します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レポート報告予定決め・年間スケジュール  
「研究倫理」について一先行研究の調査方法と利用の  
注意点
- 第3回 レポートの方法
- 第4回 受講者レポート（四年生中心）(1)
- 第5回 受講者レポート（四年生中心）(2)
- 第6回 受講者レポート（四年生中心）(3)
- 第7回 受講者レポート（四年生中心）(4)
- 第8回 論文精読(1)
- 第9回 論文精読(2)
- 第10回 論文精読(3)
- 第11回 論文精読(4)
- 第12回 受講者レポート（三年生中心）(5)
- 第13回 受講者レポート（三年生中心）(6)
- 第14回 受講者レポート（三年生中心）(7)
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(1)
- 第17回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(2)
- 第18回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(3)
- 第19回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(4)
- 第20回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(5)
- 第21回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(6)
- 第22回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(7)
- 第23回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(8)
- 第24回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(9)
- 第25回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(10)
- 第26回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(11)
- 第27回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(12)
- 第28回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(13)
- 第29回 受講者レポート（卒研完成発表・四年生）(14)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

授業でのレポート（口頭発表）40%、最終レポート（文章）40%、授業への参加状況 20%。

ただし、2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。

### 履修にあたっての注意

授業第二回にレポートの順番を決めます。第一回のガイダンス・第二回には必ず出席してください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜授業中に提示します。

24403

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：小山 清文

4単位 通年

### サブタイトル

平安文学の研究

### 授業のねらい

この授業は、他の受講者と相互批評を行なう場を有効に活用し、平安文学に関する関心領域を拡げ、理解を深め、卒業研究を視野に入れて更に問題意識を高め、それらの成果を論文としてまとめることをめざします。

### 到達目標

1. 卒業研究で取り組むテーマを見つけ、或いは、そのテーマについて考察を深め、その成果を論文としてまとめることができる。
2. 自己の問題意識に基づき、他者の研究発表に対する確かな質問や意見を述べるができる。

### 授業方法

- ・卒業研究を意識した、受講者各自による自由テーマでの研究発表を軸にして進めていきます。
  - ・4年生（必修）は、前期中に卒研に関するテーマでの発表、さらに9～10月にも卒研中間発表を予定している。
  - ・3年生（選択）は、原則として、後期に各自の自由テーマ発表を予定している。
- なお、自由テーマ発表に向けて前期中に具体的な研究テーマを定め、指導を受け、後期の発表予定課題について前期分の小レポートとして提出する。
- ・発表に際して事前に指導を行ないます。
  - ・発表担当者以外は、レポーターの発表予告を踏まえ、準備して授業にのぞむこと。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
第2回 発表スケジュール決め  
参考文献説明、先行研究の調査法および研究倫理について  
第3回 卒業研究に向けての諸注意  
第4回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(1)  
第5回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(2)  
第6回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(3)  
第7回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(4)  
第8回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(5)  
第9回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(6)  
第10回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(7)  
第11回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(8)  
第12回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(9)  
第13回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(10)  
第14回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(11)  
第15回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(12)  
第16回 後期のはじめに  
第17回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(1)  
第18回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(2)  
第19回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(3)

- 第20回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(4)  
第21回 3年生の自由テーマ発表に向けて  
第22回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(1)  
第23回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(2)  
第24回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(3)  
第25回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(4)  
第26回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(5)  
第27回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(6)  
第28回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(7)  
第29回 4年生の卒研報告  
第30回 総括  
＊4～15、17～20、22～28について  
受講者数によって回数に変動が生じる場合があります、卒業研究全体指導や作品輪読等を増減して調整します。

### 成績評価の方法

到達目標1を測定する学年末のレポート（50%）及び授業時における研究発表やそれへの取り組み（40%）、到達目標2を測定するその他の授業時における発言・取り組み方（10%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

第2回目の授業の際に、発表スケジュールを決めますので、受講予定者は特に1回目・2回目の授業を欠席しないように注意してください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

この授業は、基本的にレポーターが用意するプリントに基づいて進めることになります。  
参考書：必要に応じて授業中に紹介・説明します。

24404

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：平田 英夫

4単位 通年

### サブタイトル

中世文学研究・和歌文学研究

### 授業のねらい

中世期に記された、和歌や説話、軍記物語といった諸テキスト群を研究の対象とする。各自の研究テーマに関わる文献を探し出し、読解していく能力を身につけ、問題意識をもって卒業論文に積極的に関わっていく環境を養っていく。これまで講義や演習で培ってきた力を、着実に卒業論文へと結びつけることができるよう指導したい。またそのような基礎的な能力を踏まえて、自分独自の視点や考え方を展開できるようにしたい。

### 到達目標

問題意識を持ち、テーマを定め、具体化し、それに基づいての論文や用例・データの収集・分析、また論の組み立てなど、4年次の卒業研究に移行する上で不可欠なスキルを身につける。論文を執筆するうえで重要な日本語の表現の仕方や語彙力なども高めていきたい。

### 授業方法

- ・3年生は、後期に研究発表を行ってもらう予定であるが、人数次第では発表回数は2回になる場合もあり得る。
- ・なお詳細は第1回目のガイダンスの時に説明するので関心がある人は出席すること。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス・研究倫理について
- 第2回 中世文学の範疇
- 第3回 中世文学作品の講読とその研究方法(1)
- 第4回 中世文学作品の講読とその研究方法(2)
- 第5回 中世文学作品の講読とその研究方法(3)
- 第6回 4年生の研究発表(1)
- 第7回 4年生の研究発表(2)
- 第8回 4年生の研究発表(3)
- 第9回 4年生の研究発表(4)
- 第10回 4年生の研究発表(5)
- 第11回 4年生の研究発表(6)
- 第12回 4年生の研究発表(7)
- 第13回 4年生の研究発表(8)
- 第14回 4年生の研究発表(9)
- 第15回 まとめ(1)
- 第16回 4年生の論文構成の計画書発表(1)
- 第17回 4年生の論文構成の計画書発表(2)
- 第18回 4年生の論文構成の計画書発表(3)
- 第19回 4年生の論文構成の計画書発表(4)
- 第20回 4年生の論文構成の計画書発表(5)
- 第21回 4年生の論文構成の計画書発表(6)
- 第22回 4年生の論文構成の計画書発表(7)
- 第23回 4年生の論文構成の計画書発表(8)
- 第24回 3年生の研究発表(1)
- 第25回 3年生の研究発表(2)
- 第26回 3年生の研究発表(3)
- 第27回 3年生の研究発表(4)
- 第28回 3年生の研究発表(5)
- 第29回 3年生の研究発表(6)
- 第30回 まとめ(2)

なお以上のスケジュールは、受講者数次第では多少の変更が有り得る。

### 成績評価の方法

発表 35% 前期レポート 20% 後期レポート 35%  
授業への取り組み 10%

### 履修にあたっての注意

- ・1回目のガイダンスに出席すること
- ・発表前に事前の相談を行う

### 教科書

なし



24406

# 卒業研究ゼミ I

担当教員：関谷 博

4単位 通年

## サブタイトル

テキストの鼓動にふれる

## 授業のねらい

或るジャンル・或るテキストに接近するには、それにふさわしい“ふるまい方”がある。

参加者の関心のありかを探り、それを具体化するテキストの特定や、そのテキストの属するジャンルを扱うのに必要な基本的訓練を行い、テキストを理解するためにはどのような準備をしておかねばならないか、を明らかにしたい。

## 到達目標

・卒業研究で取り組むテーマを見つけることができる

## 授業方法

前期は、4年生を中心に、予定しているテキストの分析・発表をおこなうと共に、必要に応じて分析対象にふさわしいアプローチの仕方を学ぶ目的で、関連するジャンルの代表的な評論や研究書等を一緒に読む。

後期は、主に3年生が、関心のあるテキストを持ち寄り、それぞれ発表・討議をする。

## 授業計画

<前期>テキスト：自由選択

第1回 ガイダンス(1)・研究倫理について

第2回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(1)

第3回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(2)

第4回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(3)

第5回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(4)

第6回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(5)

第7回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(6)

第8回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(7)

第9回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(8)

第10回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(9)

第11回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(10)

第12回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(11)

第13回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(12)

第14回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(13)

第15回 まとめ(1)

<後期>テキスト：自由選択

第16回 ガイダンス(2)

第17回 学生による発表(1)

第18回 学生による発表(2)

第19回 学生による発表(3)

第20回 学生による発表(4)

第21回 学生による発表(5)

第22回 学生による発表(6)

第23回 学生による発表(7)

第24回 学生による発表(8)

第25回 学生による発表(9)

第26回 学生による発表(10)

第27回 学生による発表(11)

第28回 学生による発表(12)

第29回 学生による発表(13)

第30回 まとめ(2)

## 成績評価の方法

討論における積極性などの平常点(50%)、および発表内容(発表の機会がなかった場合レポート、50%)で達成目標を測定し、評価する。

## 教科書

なし

2017年度以前入学生  
日本語・日本文学  
専門科目

24407

# 卒業研究ゼミ I

担当教員：種田 和加子

4 単位 通年

## サブタイトル

卒論の枠組みをいかに作るか 2018

## 授業のねらい

これまでの蓄積をもとに「卒論」にしていくための枠組みを作っていくことを目的とする。3年生は4年生の発表を聞きながら、自らの問題意識を深めることを目的とする。4年生はすでに決まっている対象やテーマをいかに展開させるか、方法論を意識してとりくむ。

## 到達目標

3年生はここで卒論のイントロダクションの部分が書けるようになる。4年生は卒論についての実践の場であるため、研究論文とはどういうものかが理解できるようになる。

## 授業方法

前期は4年生が主体となって発表し、自分の卒論の内容を固める。後期は3年生が自分の卒論の対象となるような作品やテーマについて発表する。人数によって発表する回数は違うが、複数回担当する際、関連する論文を全員で読むのでその報告もおこなう。前期のはじめに「卒論」で何を行うのかについては講義する。つねに自分の担当以外の学生のテーマ・論文はかならず読んでのぞむ。事前に配布される論文やテキストを読むのに2時間、授業後にレジメなどを読み返し検討するのに1時間程度の復習を要する。

## 授業計画

- 第1回 前提講義 ガイダンス。論文執筆するさいの研究倫理について。  
卒研ゼミで目指すことについて。
- 第2回 注釈、同時代評、語りの問題、社会史の観点、フェミニズム批評など、文学研究のありかたについて考察する。  
4年生が主体となり、発表を行う。卒論を意識した参考文献のリストはできているものとし、発表では必ず先行研究をふまえていることを条件とする。質疑などで問題意識を深める。各自に割り当てる。人数によって発表は何回になるかはわからない。また、4年生の卒論中間発表を後期に組み入れる場合もある。
- 第3回 発表(1)
- 第4回 発表(2)
- 第5回 発表(3)
- 第6回 発表(4)
- 第7回 発表(5)
- 第8回 発表(6)
- 第9回 発表(7)
- 第10回 発表(8)
- 第11回 発表(9)
- 第12回 発表(10)
- 第13回 発表(11)
- 第14回 発表(12)
- 第15回 発表(13)
- 第16回 3年生が発表する。卒論でとりあげたいテーマや作品を選び、論点をしぼり、発表する。卒論のために個人のテーマがどのようなアプローチを必要とするのか、参考文献や先行研究の扱い方をしっかり学んでおく。  
前期通り、各自のテーマに沿って発表する(1)
- 第17回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(2)
- 第18回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(3)
- 第19回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(4)
- 第20回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(5)
- 第21回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(6)
- 第22回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(7)

- 第23回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(8)
- 第24回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(9)
- 第25回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(10)
- 第26回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(11)
- 第27回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(12)
- 第28回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(13)
- 第29回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(14)
- 第30回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(15)

## 成績評価の方法

レポーターとしての取り組み方 40%、前期、後期のレポート 50%、授業への参加状況 10%  
レポートは、3000字程度とし、コメントをつけて返却する。

## 履修にあたっての注意

3年生は前期中から自分の発表の準備をしておくこと。3、4年生はともに他人の発表にコメントするべく努力してほしい。自分の発表だけ済ませて翌週欠席という態度は認めません。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

開講時に提示

## 参考書

大橋洋一『新文学入門』（岩波書店、1995）  
T・イーグルトン『文学とは何か上・下』（岩波文庫、2014）  
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫、2009）  
坂口周『意思薄弱の文学史』（慶応大学出版会、2016）

2017年度以前入学生  
専門・日本文学  
科目

24408

## 卒業研究ゼミ I

担当教員：菅本 康之

4単位 通年

### サブタイトル

批評理論とテキストの分析

### 授業のねらい

批評理論は、テキストを「作者」の「意図」にしたがって読解すること以外の可能性を提示してくれているが、本演習では、テキストを「作者」の「意図」以上のものに関してゆくことを目指す。

「卒業研究」執筆にあたって、本演習では、4年生はすでに決定しているテーマや分析の対象を「論文」としてどのように考察するか、批評理論を参照しつつ、「修辞学」を含めての「書く技術」を習得する。3年生は4年生の「卒業研究」中間発表」を聞きながら、ともに問題意識を共有しつつ、自分のテーマを模索する。

### 到達目標

口頭発表と書く行為の違いを理解し、自分が現在いる当面の「限界」を突破する「視座」と「技術」を習得する。

- ・4年生は、「卒業研究」の完成。
- ・3年生は、「卒業研究」のテーマの決定。

### 授業方法

前期は、「基礎的学力をつけるために「物語の構造分析」について討議する。4年生の「卒業研究」の「中間発表」を中心にする一方で、3年生には批評理論を読む課題をこなす。

後期は、3年生が「要約」、「解説」、「批評」するを意識して、「卒業研究」の予備発表をし、全体で討議する。他方、4年生は「卒業研究」の完成を目指す。

### 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス
- 第2回 ・「研究と倫理」についてー「藤女子大学研究倫理基準」の内容を知ろう。
- 第3回 ロシア・フルマリズムの遺産  
・その1
- 第4回 ロシア・フルマリズムの遺産  
・その2
- 第5回 ソシユール言語学について
- 第6回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・「物語の言語（ラング）」
- 第7回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・機能
- 第8回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・行為
- 第9回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・物語行為（ナラシオン）
- 第10回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・物語の体系
- 第11回 4年生の「中間発表」その1、3年生は理論的な基礎学習(1)
- 第12回 4年生の「中間発表」その2、3年生は理論的な基礎学習(2)
- 第13回 4年生の「中間発表」その3、3年生は理論的な基礎学習(3)
- 第14回 ロラン・バルト「作者の死」
- 第15回 ロランバルト「作品からテキストへ」
- 第16回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その1
- 第17回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その2
- 第18回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その3
- 第19回 「物語論」から政治的批評へ
- 第20回 3年生の「予備発表」(1)
- 第21回 3年生の「予備発表」(2)
- 第22回 3年生の「予備発表」(3)
- 第23回 卒業論文提出にあたっての諸注意。

- 第24回 3年生の「予備発表」(4)
- 第25回 3年生の「予備発表」(5)
- 第26回 3年生の「予備発表」(6)
- 第27回 3年生の「予備発表」(7)
- 第28回 3年生の「予備発表」(8)
- 第29回 3年生の「予備発表」(9)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

レポーターとしての取り組み方 20%、前期、後期のレポート 60%、授業への参加状況 20%

### 履修にあたっての注意

テキストとして理論書・批評書を読むことになるので、まず「読解力」が必要になる。「書く」ことの前に「読む」ことの力を鍛錬することになる。そして、その先に「書く」ことがあることを留意すること。

### 教科書

ロラン・バルト『物語の構造分析』（みすず書房、1979、ISBN：4-622-00481-X）  
大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006、ISBN：4-403-25087-4）

### 参考書

フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』（平凡社ライブラリー、2010、ISBN：978-4582766981）  
テリー・イーグルトン『文学とは何か 上下』（岩波文庫、2014、ISBN：978-4-00-372042-4、978-4-00-372）

## サブタイトル

漢文資料研究

## 授業のねらい

卒業研究において、提出者各自に要請されるのは、(1)取り扱う分野についての研究史を踏まえた上でテーマを設定する、(2)必要となる資料を収集する、(3)各資料を誤り無く解説する、(4)資料の解説を通じて得られた情報を整理分析する、(5)分析結果を総合して結論を導き出す、(6)考察過程と結論を他の人々に向けて論理的に説得力をもつ形で提示する、という一連の作業である。この授業は、漢文文献または中国に関わるテーマを扱って卒業研究を行うことを希望する3年次学生に対して、上記(1)～(6)の過程を一通り体験する機会を提供し、((6)については限定的であるが)、それにより各自が自身の問題点・弱点がどこに在るのかをはっきりと自覚できるようにすることを目的とする。

## 到達目標

1. 関心分野についての研究資料を入手し、研究史を整理することができる。
2. 関心分野についての基礎的な事項を他者に正確に説明することができる。
3. 卒業研究完成に必要な知識や技能のうち、自分に不足している点を認識し、改善策を立てることができる。

## 授業方法

授業は演習形式で進行する。前期は主として、事例を基にした研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際についての講習、および具体的文献を設定した読解・分析の訓練を行う。

後期の研究発表においては、受講者は、教員が各自の関心領域等を踏まえた上で設定する課題について、関連する資料や研究文献等の収集と読解作業を行い、その後、読解結果についての検討と整理分析を行った成果をまとめて発表報告を行う。

学期末には、発表時に受けた指摘や、事後の面談による指導等を踏まえて研究の方向性を定め、それに沿った中間の成果報告をレポートにまとめて（自己の今後の課題についての整理を含む）提出する。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | ガイダンス   |
| 第2回  | テーマと研究史の整理について（サンプル事例による指導）、研究倫理について―「藤女子大学研究倫理規準」の内容を知ろう―、各参加者へのアンケート（関心領域の調査） |
| 第3回  | 資料調査法（事例指導）（第3回は図書館ガイダンスとして実施する予定。）   |
| 第4回  | 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際について理解を深める。）(1)                                    |
| 第5回  | 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際について理解を深める。）(2)                                    |
| 第6回  | 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際について理解を深める。）(3)                                    |
| 第7回  | 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際について理解を深める。）(4)                                    |
| 第8回  | 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際について理解を深める。）(5)                                    |
| 第9回  | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(1)                                      |
| 第10回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(2)                                      |
| 第11回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(3)                                      |
| 第12回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(4)                                      |
| 第13回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文  |

- |      |   |
|------|---|
| 第14回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(5)  |
| 第15回 | 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(6)  |
| 第16回 | 後期ガイダンス                                     |
| 第17回 | 参加者による発表（資料の読解や分析等の実際について理解を深める。）(1)        |
| 第18回 | 参加者による発表（資料の読解や分析等の実際について理解を深める。）(2)        |
| 第19回 | 参加者による発表（資料の読解や分析等の実際について理解を深める。）(3)        |
| 第20回 | 参加者による発表（資料の読解や分析等の実際について理解を深める。）(4)        |
| 第21回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(1) |
| 第22回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(2) |
| 第23回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(3) |
| 第24回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(4) |
| 第25回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(5) |
| 第26回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(6) |
| 第27回 | 参加者による発表（特定のテーマについて、資料収集から発表までの過程を体験する。）(7) |
| 第28回 | 本年度の成果のまとめ(1)                               |
| 第29回 | 本年度の成果のまとめ(2)                               |
| 第30回 | 本年度の成果のまとめ(3)                               |

## 成績評価の方法

テーマへの取り組みや発表の状況―到達目標1・2―（50%）、およびレポート―到達目標1・3―（50%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

「漢文学講義 I -a, b」および「漢文学演習 I」を履修済みであることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：基本的に各発表担当者が用意するプリントに従って進める。事例指導や文献読解については必要に応じてプリント等を配布する。

参考書：必要に応じて授業時に随時指示する。



24410

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：漆崎 正人

4単位 通年

### サブタイトル

日本語史研究論文の読み方と書き方

### 授業のねらい

この授業は、4年次において、卒業研究を作成するための、日本語史関係の研究論文の作成の方法を理解し、身につけ、実践に役立てることを目的とします。日本語史のいくつかの分野から、研究論文を取り上げ、批判、評価をし、また、それぞれの関心のあるテーマについての、研究発表をします。

### 到達目標

・日本語史関係の研究論文の評価ができ、卒業研究の作成の方法を修得し、実践することができる。

### 授業方法

受講者による発表という授業形式になりますので、ほぼ毎回(ただし第1～2回は、ガイダンス、発表のしかたの説明とその例)誰かが担当し、発表することになります。およそ次のような流れです。

(1)日本語史研究論文の読解：各自が取り上げた論文を、皆で検討します。

(2)各自の研究テーマでの発表：それぞれの関心のあるテーマをめぐって発表し、それについて皆で吟味します。

自分が発表を担当しない時も、その日の分の論文を予習しておくこと、事後にその日取り上げた論文の内容を復習して評価することを課します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 漆崎による具体的な研究論文の批判の具体例および研究倫理について
- 第3回 4年生の発表(1)
- 第4回 4年生の発表(2)
- 第5回 4年生の発表(3)
- 第6回 4年生の発表(4)
- 第7回 4年生の発表(5)
- 第8回 4年生の発表(6)
- 第9回 4年生の発表(7)
- 第10回 4年生の発表(8)
- 第11回 4年生の発表(9)
- 第12回 4年生の発表(10)
- 第13回 4年生の発表(11)
- 第14回 4年生の発表(12)
- 第15回 4年生の発表(13)
- 第16回 4年生の発表(14)
- 第17回 3年生の発表(1)
- 第18回 3年生の発表(2)
- 第19回 3年生の発表(3)
- 第20回 3年生の発表(4)
- 第21回 3年生の発表(5)
- 第22回 3年生の発表(6)
- 第23回 3年生の発表(7)
- 第24回 3年生の発表(8)
- 第25回 3年生の発表(9)
- 第26回 3年生の発表(10)
- 第27回 3年生の発表(11)
- 第28回 3年生の発表(12)
- 第29回 3年生の発表(13)
- 第30回 3年生の発表(14)

### 成績評価の方法

評価は、発表(50%)と、レポート(40%)と、授業への参加状況(10%)によります。欠席時(回)数が総授業時(回)数の1

/3を超えた受講者は、単位を認めません。

### 履修にあたっての注意

卒業研究でキリシタン資料を扱う人は、4年次に「日本語学演習ⅡA」を履修すること。「卒研ゼミ」と「日本語学演習ⅡA」との合同ゼミ合宿があります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：その都度配布します。  
参考書：必要に応じて適宜指示します。



24411

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：揚妻 祐樹

4単位 通年

### サブタイトル

近現代日本語の卒論のためのゼミ

### 授業のねらい

卒業論文を書くまでの過程と達成を通して、近・現代日本語を対象として卒業論文を書くための知識と能力を養成する。

### 到達目標

- 1 近現代日本語を対象とした卒論を書く能力を習得する。
- 2 議論を通して相互に学ぶスキルを習得する。

### 授業方法

学生による発表と質疑応答（90分）。発表のための事前の準備（90分程度）と発表後の宿題（60分程度）を課す

### 授業計画

- 第1回 1年間の概要（研究計画、中間報告、提出、口頭試問、研究倫理についての説明）
- 第2回 本ゼミの卒業論文執筆概要
- 第3回 先行研究及び研究倫理について
- 第4回 論文執筆の手順
- 第5回 卒論構想発表—近・現代日本語文法研究—
- 第6回 卒論構想発表—方言・新方言の研究—
- 第7回 卒論構想発表—言語接触の問題（pidgin、Creole、外来語、翻訳語）—
- 第8回 卒論構想発表—近・現代を中心とした言語変化—
- 第9回 卒論構想発表—言語政策（国語教育・日本語教育・国語国字問題など）—
- 第10回 卒論構想発表—談話分析・現代日本語の語用論—
- 第11回 卒論構想発表—言葉における性差—
- 第12回 卒論構想発表—待遇表現—
- 第13回 卒論構想発表—アクセント—
- 第14回 卒論構想発表—近・現代日本語の資料研究（辞書、文法書など）—
- 第15回 前期の発表を発展させ、中間報告を行い、ミニ卒論に向けて準備する。  
前期まとめ
- 第16回 卒論進行状況の確認
- 第17回 卒論中間報告—近・現代日本語文法研究—
- 第18回 卒論中間報告—方言・新方言の研究—
- 第19回 卒論中間報告—言語接触の問題（pidgin、Creole、外来語、翻訳語）—
- 第20回 卒論中間報告—近・現代を中心とした言語変化—
- 第21回 卒論中間報告—言語政策（国語教育・日本語教育・国語国字問題など）—
- 第22回 卒論中間報告—談話分析・現代日本語の語用論—
- 第23回 卒論中間報告—言葉における性差—
- 第24回 卒論中間報告—待遇表現—
- 第25回 卒論中間報告—アクセント—
- 第26回 卒論中間報告—近・現代日本語の資料研究（辞書、文法書など）—
- 第27回 四年生の卒業研究発表(1)—卒論の概要—
- 第28回 四年生の卒業研究発表(2)—卒論執筆の反省—
- 第29回 後期のまとめ(1)
- 第30回 後期のまとめ(2)

### 成績評価の方法

主に到達目標1を測定する発表・事前準備・発表後の宿題(70%)と、主に到達目標2を測定する質疑応答(30%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の必要条件である（ガイダンス期間を含む）。

### 教科書

なし

24412

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：水口 幹記

4単位 通年

### サブタイトル

古代文学・文化・歴史

### 授業のねらい

広く「古代」に関わる文章を対象とします。すなわち、散文（文学作品・歴史書・説話集など）・韻文（漢詩・和歌）といった文章形態や、文学・文化・歴史・思想・哲学など既存の学問分類、日本・東アジア（中国・台湾・朝鮮半島・ベトナム）など地域、文章の書かれた時代（たとえば、たとえ近世に書かれていたとしても受講者が「古代」に関わると判断した場合は、「古代」とみなします）といった違いにこだわらず、受講者各自が選んだ「古代」に関わる文章を取り上げ、参加者全員で討論をしていきます。

四年生は最終的に卒業研究になるようにブラッシュアップしていき、三年生は卒業研究へ向けての対象・問題意識の明確化を目指します。

### 到達目標

1. 卒業研究で取り組むテーマを見つけることができる。
2. 問題意識を明確化することができる。
3. 成果を論文としてまとめることができる。

### 授業方法

受講者が、広く「古代」に関わる文章に関してレポートし、それをめぐって受講者全員が討論し、問題点をあぶり出していきます。受講者の人数によりますが、前期は、四年生が中心にレポートし、後期は、三年生が中心となります。ただし、後期の最初には四年生に卒研中間発表をしてもらいます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 レポート報告予定決め・年間スケジュール  
「研究倫理」について一先行研究の調査方法と利用の  
注意点
- 第3回 レポートの方法
- 第4回 受講者レポート（四年生中心）(1)
- 第5回 受講者レポート（四年生中心）(2)
- 第6回 受講者レポート（四年生中心）(3)
- 第7回 受講者レポート（四年生中心）(4)
- 第8回 論文精読(1)
- 第9回 論文精読(2)
- 第10回 論文精読(3)
- 第11回 論文精読(4)
- 第12回 受講者レポート（三年生中心）(5)
- 第13回 受講者レポート（三年生中心）(6)
- 第14回 受講者レポート（三年生中心）(7)
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(1)
- 第17回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(2)
- 第18回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(3)
- 第19回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(4)
- 第20回 受講者レポート（卒研中間発表・四年生）(5)
- 第21回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(6)
- 第22回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(7)
- 第23回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(8)
- 第24回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(9)
- 第25回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(10)
- 第26回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(11)
- 第27回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(12)
- 第28回 受講者レポート（卒研中間発表・三年生中心）(13)
- 第29回 受講者レポート（卒研完成発表・四年生）(14)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

授業でのレポート（口頭発表）50%、最終レポート（文章）30%。授業への参加状況 20%。

ただし、2/3以上の出席をしていることが成績評価の最低条件となります。

### 履修にあたっての注意

授業第二回にレポートの順番を決めます。第一回のガイダンス・第二回には必ず出席してください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜授業中に提示します。

## サブタイトル

平安文学の研究

## 授業のねらい

この授業は、他の受講者と相互批評を行なう場を有効に活用し、平安文学に関する関心領域を拡げ、理解を深め、卒業研究を視野に入れて更に問題意識を高め、それらの成果を論文としてまとめることをめざします。

## 到達目標

1. 卒業研究で取り組むテーマを見つけ、或いは、そのテーマについて考察を深め、その成果を論文としてまとめることができる。
2. 自己の問題意識に基づき、他者の研究発表に対する確かな質問や意見を述べるができる。

## 授業方法

- ・卒業研究を意識した、受講者各自による自由テーマでの研究発表を軸にして進めていきます。
  - ・4年生（必修）は、前期中に卒研に関するテーマでの発表、さらに9～10月にも卒研中間発表を予定している。
  - ・3年生（選択）は、原則として、後期に各自の自由テーマ発表を予定している。
- なお、自由テーマ発表に向けて前期中に具体的な研究テーマを定め、指導を受け、後期の発表予定課題について前期分の小レポートとして提出する。
- ・発表に際して事前に指導を行ないます。
  - ・発表担当者以外は、レポーターの発表予告を踏まえ、準備して授業にのぞむこと。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス  
第2回 発表スケジュール決め  
参考文献説明、先行研究の調査法および研究倫理について  
第3回 卒業研究に向けての諸注意  
第4回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(1)  
第5回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(2)  
第6回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(3)  
第7回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(4)  
第8回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(5)  
第9回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(6)  
第10回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(7)  
第11回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(8)  
第12回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(9)  
第13回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(10)  
第14回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(11)  
第15回 4年生の卒研中間発表Ⅰ＊（1回につき1名ごとで行なう）(12)  
第16回 後期のはじめに  
第17回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(1)  
第18回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(2)  
第19回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(3)

- 第20回 4年生の卒研中間発表Ⅱ＊(4)  
第21回 3年生の自由テーマ発表に向けて  
第22回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(1)  
第23回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(2)  
第24回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(3)  
第25回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(4)  
第26回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(5)  
第27回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(6)  
第28回 3年生の自由テーマ発表＊（1回につき1名ごとで行なう）(7)  
第29回 4年生の卒研報告  
第30回 総括  
＊4～15、17～20、22～28について  
受講者数によって回数に変動が生じる場合があります、卒業研究全体指導や作品輪読等を増減して調整します。

## 成績評価の方法

到達目標1を測定する学年末のレポート（50%）及び授業時における研究発表やそれへの取り組み（40%）、到達目標2を測定するその他の授業時における発言・取り組み方（10%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

第2回目の授業の際に、発表スケジュールを決めますので、受講予定者は特に1回目・2回目の授業を欠席しないように注意してください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

この授業は、基本的にレポーターが用意するプリントに基づいて進めることになります。  
参考書：必要に応じて授業中に紹介・説明します。

24414

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：平田 英夫

4単位 通年

### サブタイトル

中世文学研究・和歌文学研究

### 授業のねらい

和歌・軍記物語・説話といった分野のうち、中世期を中心に記された諸テキスト群を研究の対象とする。各自の研究テーマを具体化し、関連文献を探し出し、それを的確に読解していく能力を身につけ、問題意識、批判意識をもって卒業論文に積極的に関わっていく環境を養っていく。特に前期は、自分の研究テーマを具体化していく作業に焦点を絞り、自分が一体何をやりたいのか、どのような卒論を書きたいのか、それを成し遂げるにはどのような方法があるのか、といった基本的な事項を再度、見直して、着実に卒論執筆への足がかりとなるように指導したい。

### 到達目標

卒業研究（卒業論文）を完成させる力を身につける。

### 授業方法

自分自身で研究テーマを見だし、そのテーマに関する情報や文献を集めて、論を構成し、研究発表を行う。詳細は第1回目のガイダンスの時に説明する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中世文学の範疇
- 第3回 中世文学作品の講読とその研究方法(1)
- 第4回 中世文学作品の講読とその研究方法(2)
- 第5回 中世文学作品の講読とその研究方法(3)
- 第6回 4年生の研究発表(1)
- 第7回 4年生の研究発表(2)
- 第8回 4年生の研究発表(3)
- 第9回 4年生の研究発表(4)
- 第10回 4年生の研究発表(5)
- 第11回 4年生の研究発表(6)
- 第12回 4年生の研究発表(7)
- 第13回 4年生の研究発表(8)
- 第14回 4年生の研究発表(9)
- 第15回 まとめ(1)
- 第16回 4年生の論文構成の計画書発表(1)
- 第17回 4年生の論文構成の計画書発表(2)
- 第18回 4年生の論文構成の計画書発表(3)
- 第19回 4年生の論文構成の計画書発表(4)
- 第20回 4年生の論文構成の計画書発表(5)
- 第21回 4年生の論文構成の計画書発表(6)
- 第22回 4年生の論文構成の計画書発表(7)
- 第23回 4年生の論文構成の計画書発表(8)
- 第24回 3年生の研究発表(1)
- 第25回 3年生の研究発表(2)
- 第26回 3年生の研究発表(3)
- 第27回 3年生の研究発表(4)
- 第28回 3年生の研究発表(5)
- 第29回 3年生の研究発表(6)
- 第30回 まとめ(2)

なお以上のスケジュールは、授業登録者数次第で多少の変更が有り得る。

### 成績評価の方法

発表前期 30% 後期発表 20% 前期レポート 30%  
授業への取り組み 20%

### 履修にあたっての注意

- 1回目のガイダンスに出席すること。
- 発表前に事前の相談を行う。

### 教科書

なし

24416

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：関谷 博

4単位 通年

### サブタイトル

テキストの鼓動にふれる

### 授業のねらい

或るジャンル・或るテキストに接近するには、それにふさわしい“ふるまい方”がある。

参加者の関心のありかを探り、それを具体化するテキストの特定や、そのテキストの属するジャンルを扱うのに必要な訓練を行いつつ、具体的にテキスト分析を積み重ねることによって卒業研究をかたちにしてゆく。

### 到達目標

1. 卒業研究テーマが確定する
2. 卒業研究を完成させることができる

### 授業方法

前期は、4年生を中心に、予定しているテキストの分析・発表をおこなうと共に、必要に応じて分析対象にふさわしいアプローチの仕方を学ぶ目的で、関連するジャンルの代表的な評論や研究書等を一緒に読む。

後期は、それぞれの研究テーマにそくした調査や制作実践に入る。そのプロセスで発生するさまざまな問題に対して、個別指導がおこなわれる。

### 授業計画

<前期>テキスト：自由選択

- 第1回 ガイダンス(1)・研究倫理について
- 第2回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(1)
- 第3回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(2)
- 第4回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(3)
- 第5回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(4)
- 第6回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(5)
- 第7回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(6)
- 第8回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(7)
- 第9回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(8)
- 第10回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(9)
- 第11回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(10)
- 第12回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(11)
- 第13回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(12)
- 第14回 学生による発表（必要に応じてテキストを指定することもある）(13)
- 第15回 まとめ(1)

<後期>テキスト：自由選択

- 第16回 ガイダンス(2)
- 第17回 学生による発表(1)
- 第18回 学生による発表(2)
- 第19回 学生による発表(3)
- 第20回 学生による発表(4)
- 第21回 学生による発表(5)
- 第22回 学生による発表(6)
- 第23回 学生による発表(7)
- 第24回 学生による発表(8)

- 第25回 学生による発表(9)
- 第26回 学生による発表(10)
- 第27回 学生による発表(11)
- 第28回 学生による発表(12)
- 第29回 学生による発表(13)
- 第30回 まとめ(2)

### 成績評価の方法

討論における積極性などの平常点（20%）、および発表内容（30%）をもとに達成目標1を測定、個別指導の過程（50%）で達成目標2を測定し、評価する。

### 教科書

なし



24417

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：種田 和加子

4単位 通年

### サブタイトル

卒論の枠組みをいかに作るか 2018

### 授業のねらい

これまでの蓄積をもとに「卒論」にしていくための枠組みを作っていくことを目的とする。3年生は4年生の発表を聞きながら、自らの問題意識を深めることを目的とする。

4年生はすでに決まっている対象やテーマをいかに展開させるか、方法論を意識してとりくむ。

### 到達目標

3年生はここで卒論のイントロダクションの部分が書けるようになる。4年生は卒論についての実践の場であるため、研究論文とはどういうものかが理解できるようになる。

### 授業方法

前期は4年生が主体となって発表し、自分の卒論の内容を固める。後期は3年生が自分の卒論の対象となるような作品やテーマについて発表する。人数によって発表する回数は違うが、複数回担当する際、関連する論文を全員で読むのでその報告もおこなう。前期のはじめに「卒論」で何を行うのかについては講義する。つねに自分の担当以外の学生のテーマ・論文はかならず読んでのぞむ。事前に配布される論文やテキストを読むのに2時間、授業後にレジメなどを読み返し検討するのに1時間程度の復習を要する。

### 授業計画

- 第1回 前提講義 ガイダンス。論文執筆するさいの研究倫理について。  
卒研ゼミで目指すことについて。
- 第2回 注釈、同時代評、語りの問題、社会史の観点、フェミニズム批評など、文学研究のありかたについて考察する。  
4年生が主体となり、発表を行う。卒論を意識した参考文献のリストはできているものとし、発表では必ず先行研究をふまえていることを条件とする。質疑などで問題意識を深める。各自に割り当てる。人数によって発表は何回になるかはわからない。また、4年生の卒論中間発表を後期に組み入れる場合もある。
- 第3回 発表(1)
- 第4回 発表(2)
- 第5回 発表(3)
- 第6回 発表(4)
- 第7回 発表(5)
- 第8回 発表(6)
- 第9回 発表(7)
- 第10回 発表(8)
- 第11回 発表(9)
- 第12回 発表(10)
- 第13回 発表(11)
- 第14回 発表(12)
- 第15回 発表(13)
- 第16回 3年生が発表する。卒論でとりあげたいテーマや作品を選び、論点をしぼり、発表する。卒論のために個人がテーマがどのようなアプローチを必要とするのか、参考文献や先行研究の扱い方をしっかり学んでおく。  
前期通り、各自のテーマに沿って発表する(1)
- 第17回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(2)
- 第18回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(3)
- 第19回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(4)
- 第20回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(5)
- 第21回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(6)
- 第22回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(7)

- 第23回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(8)
- 第24回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(9)
- 第25回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(10)
- 第26回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(11)
- 第27回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(12)
- 第28回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(13)
- 第29回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(14)
- 第30回 前期通り、各自のテーマに沿って発表する(15)

### 成績評価の方法

レポーターとしての取り組み方 40%、前期、後期のレポート 50%、授業への参加状況 10%  
レポートは、3000字程度とし、コメントをつけて返却する。

### 履修にあたっての注意

3年生は前期中から自分の発表の準備をしておくこと。3、4年生はともに他人の発表にコメントするべく努力してほしい。自分の発表だけ済ませて翌週欠席という態度は認めません。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

開講時に提示

### 参考書

大橋洋一『新文学入門』（岩波書店、1995）  
T・イーグルトン『文学とは何か上・下』（岩波文庫、2014）  
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫、2009）

24418

## 卒業研究ゼミⅡ

担当教員：菅本 康之

4単位 通年

### サブタイトル

批評理論とテキストの分析

### 授業のねらい

批評理論は、テキストを「作者」の「意図」にしたがって読解すること以外の可能性を提示してくれているが、本演習では、テキストを「作者」の「意図」以上のものに関してゆくことを目指す。

「卒業研究」執筆にあたって、本演習では、4年生はすでに決定しているテーマや分析の対象を「論文」としてどのように考察するか、批評理論を参照しつつ、「修辞学」を含めての「書く技術」を習得する。3年生は4年生の「卒業研究」中間発表」を聞きながら、ともに問題意識を共有しつつ、自分のテーマを模索する。

### 到達目標

口頭発表と書く行為の違いを理解し、自分が現在いる当面の「限界」を突破する「視座」と「技術」を習得する。

- ・4年生は、「卒業研究」の完成。
- ・3年生は、「卒業研究」のテーマの決定。

### 授業方法

前期は、「基礎的学力をつけるために「物語の構造分析」について討議する。4年生の「卒業研究」の「中間発表」を中心にする一方で、3年生には批評理論を読む課題をこなす。

後期は、3年生が「要約」、「解説」、「批評」するを意識して、「卒業研究」の予備発表をし、全体で討議する。他方、4年生は「卒業研究」の完成を目指す。

### 授業計画

- 第1回 ・ガイダンス
- 第2回 ・「研究と倫理」についてー「藤女子大学研究倫理基準」の内容を知ろう。
- 第3回 ロシア・フルマリズムの遺産  
・その1
- 第4回 ロシア・フルマリズムの遺産  
・その2
- 第5回 ソシユール言語学について
- 第6回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・「物語の言語（ラング）」
- 第7回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・機能
- 第8回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・行為
- 第9回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・物語行為（ナラシオン）
- 第10回 ロラン・バルト「物語の構造分析序説」  
・物語の体系
- 第11回 4年生の「中間発表」その1、3年生は理論的な基礎学習(1)
- 第12回 4年生の「中間発表」その2、3年生は理論的な基礎学習(2)
- 第13回 4年生の「中間発表」その3、3年生は理論的な基礎学習(3)
- 第14回 ロラン・バルト「作者の死」
- 第15回 ロランバルト「作品からテキストへ」
- 第16回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その1
- 第17回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その2
- 第18回 4年生の「卒業研究概要」の発表 その3
- 第19回 「物語論」から政治的批評へ
- 第20回 3年生の「予備発表」(1)
- 第21回 3年生の「予備発表」(2)
- 第22回 3年生の「予備発表」(3)
- 第23回 卒業論文提出にあたっての諸注意。

- 第24回 3年生の「予備発表」(4)
- 第25回 3年生の「予備発表」(5)
- 第26回 3年生の「予備発表」(6)
- 第27回 3年生の「予備発表」(7)
- 第28回 3年生の「予備発表」(8)
- 第29回 3年生の「予備発表」(9)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

レポーターとしての取り組み方 20%、前期、後期のレポート 60%、授業への参加状況 20%

### 履修にあたっての注意

テキストとして理論書・批評書を読むことになるので、まず「読解力」が必要になる。「書く」ことの前に「読む」ことの力を鍛錬することになる。そして、その先に「書く」ことがあることを留意すること。

### 教科書

ロラン・バルト『物語の構造分析』（みすず書房、1979、ISBN：4-622-00481-X）  
大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006、ISBN：4-403-25087-4）

### 参考書

フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』（平凡社ライブラリー、2010、ISBN：978-4582766981）  
テリー・イーグルトン『文学とは何か 上下』（岩波文庫、2014、ISBN：978-4-00-372042-4、978-4-00-372）

## サブタイトル

漢文資料研究

## 授業のねらい

卒業研究において、提出者各自に要請されるのは、(1)取り扱う分野についての研究史を踏まえた上でテーマを設定する、(2)必要となる資料を収集する、(3)各資料を誤り無く解読する、(4)資料の解読を通じて得られた情報を整理分析する、(5)分析結果を総合して結論を導き出す、(6)考察過程と結論を他の人々に向けて論理的に説得力をもつ形で提示する、という一連の作業である。この授業は、漢文文献または中国に関わるテーマを扱って卒業研究を行う4年次の受講者に対して、3年次の「テーマ選定」の段階から一歩進んで、実際の卒業研究に直結する上記(1)~(6)の作業を随時確認しながら進行する場を提供することを目的とする。

## 到達目標

1. 関連分野の研究史を整理した上で、独自性を持ったテーマを設定することができる。
2. 各資料を誤り無く解読し、分析することができる。
3. 各資料を分析して得られた情報を総合して結論を導き出し、説得力を持つ形で提示することができる。
4. 自己の論がもつ問題点等を自ら分析し、補足・修正等の適切な対応をとることができる。

## 授業方法

授業は演習形式で進行する。前期は、事例を基にした研究史整理・テーマ選定・資料収集等の実際についての講義、および具体的文献を設定した読解・分析の訓練を行うほか、受講者各自が設定した分野について資料を収集して研究史を整理し、具体的テーマを設定した上で、問題解決への手順・方法や見通しについての発表を行う。前期末~後期には各自が設定したテーマに沿って進行する資料分析についての中間報告を随時行う。

学期末には、提出した卒業研究について、自身が不足を感じる点や面接試問において指摘された問題点等を踏まえて、補論の形でレポートにまとめ提出する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス、各参加者へのアンケート（関心領域の調査）
- 第2回 テーマと研究史の整理について（サンプル事例による指導）、研究倫理について—「藤女子大学研究倫理規準」の内容を知ろう—
- 第3回 資料調査法（事例指導）（第3回は図書館ガイダンスとして実施する予定。）
- 第4回 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の現状報告。）(1)
- 第5回 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の現状報告。）(2)
- 第6回 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の現状報告。）(3)
- 第7回 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の現状報告。）(4)
- 第8回 参加者による発表（研究史整理・テーマ選定・資料収集等の現状報告。）(5)
- 第9回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(1)
- 第10回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(2)
- 第11回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(3)
- 第12回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(4)
- 第13回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文

- 献について、読解訓練を行う。）(5)
- 第14回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(6)
- 第15回 文献読解演習（担当者が設定したテーマに関連する文献について、読解訓練を行う。）(7)
- 第16回 後期ガイダンス
- 第17回 参加者による発表（資料の解読や分析等の成果を含む卒業研究の中間報告。）(1)
- 第18回 参加者による発表（資料の解読や分析等の成果を含む卒業研究の中間報告。）(2)
- 第19回 参加者による発表（資料の解読や分析等の成果を含む卒業研究の中間報告。）(3)
- 第20回 参加者による発表（資料の解読や分析等の成果を含む卒業研究の中間報告。）(4)
- 第21回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(1)
- 第22回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(2)
- 第23回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(3)
- 第24回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(4)
- 第25回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(5)
- 第26回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(6)
- 第27回 参加者による発表（研究史整理や資料解読等の成果を含む卒業研究の予行演習。）(7)
- 第28回 本年度の成果のまとめ(1)
- 第29回 本年度の成果のまとめ(2)
- 第30回 本年度の成果のまとめ(3)

## 成績評価の方法

テーマへの取り組みや発表の状況（到達目標1~3）(50%)、およびレポート（到達目標4）(50%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

「漢文学講義Ⅰ-a、b」および「漢文学演習Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：基本的に各発表担当者が用意するプリントに従って進める。事例指導や文献読解については必要に応じてプリント等を配布する。

参考書：必要に応じて授業時に随時指示する。

c9111

## 卒業研究演習・卒業研究ゼミⅡ

担当教員：松村 良祐

4単位 通年

### サブタイトル

キリスト教思想・文化の諸問題

### 授業のねらい

「キリスト教演習」では、キリスト教に関する思想や文化を主要なテーマとし、それを研究するに当たって必要となる基本的な能力や方法を身に付けることを目的とした。「卒業研究演習」では、そうして養われた基本的な知識や研究方法をもとに、キリスト教思想や文化に関する更に深い専門的理解を獲得することを狙いとする。その際、テキスト読解と受講生による発表を中心とした演習形式の授業を通じて、個々の受講生が自分の研究課題を設定し、その課題に対する理解を深化させていくことで、大学での勉学の総仕上げとしての卒業論文の作成に繋げていく。

### 到達目標

- (1)キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- (2)テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- (3)討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- (4)卒業論文の研究課題を設定し、その作成にあたること。

### 授業方法

共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。また、それと平行して、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のある卒業論文のテーマを深化させ、文献表の作り方などを学ぶと共に、卒業論文のテーマにもとづいた発表と討論も行う。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン：卒論執筆と研究倫理
- 第2回 テキスト読解と討論(1)
- 第3回 テキスト読解と討論(2)
- 第4回 テキスト読解と討論(3)
- 第5回 テキスト読解と討論(4)
- 第6回 テキスト読解と討論(5)
- 第7回 テキスト読解と討論(6)
- 第8回 テキスト読解と討論(7)
- 第9回 テキスト読解と討論(8)
- 第10回 テキスト読解と討論(9)
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)
- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)
- 第15回 授業全体の概括
- 第16回 インTRODクシヨン
- 第17回 テキスト読解と討論(10)
- 第18回 テキスト読解と討論(11)
- 第19回 テキスト読解と討論(12)
- 第20回 テキスト読解と討論(13)
- 第21回 テキスト読解と討論(14)
- 第22回 テキスト読解と討論(15)
- 第23回 テキスト読解と討論(16)
- 第24回 テキスト読解と討論(17)
- 第25回 テキスト読解と討論(18)
- 第26回 受講生による研究発表と討論(5)
- 第27回 受講生による研究発表と討論(6)
- 第28回 受講生による研究発表と討論(7)
- 第29回 受講生による研究発表と討論(8)
- 第30回 授業全体の概括

### 成績評価の方法

授業への積極的参加と発表(50%)、レポート試験(50%)を総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、必要に応じて、原典テキスト(ギリシア語・ラテン語)やその近代語訳を参照する必要がある。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する必要がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。

### 教科書

なし

### 参考書

内山勝利(編)『西洋哲学史[古代・中世編]』(ミネルヴァ書房、1996年、ISBN:4-623-02663-9)  
 戸田山和久『論文の教室-レポートから卒論まで-』(日本放送出版協会、2002年、ISBN:978-4-14-091194-5)  
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社、2001年、ISBN:978-4582851038)

2017年度以前入学生  
 専門・日本文学  
 科目目録



20901

## 書道 I

担当教員：押上 万希子

2 単位 通年

### サブタイトル

「かな」文字の美を求めて

### 授業のねらい

「書は人なり」という言葉を、あなたはどうか受けとめますか。近年の情報化社会、様々な機器の普及にともない、文字を用いた意志の伝達の方法も、大変革の時代を迎えています。千年来、文字を「書く」ということには、その人の人となりや写し出ると、多くの人が留意してきたことも、消えてゆくのでしょうか。書道 I では、日本の美しい文化の原点ともいえるわが国固有の「かな」文字を学習します。先人達が書芸術にまで高めていったその心映えを、今に生きる私達の目で、手で確認していきます。

### 到達目標

かな文字を正しく美しく「書く」技術を身につけることができる。

### 授業方法

例年教室いっぱいの学生が受講をしています。教室の広さから完全な机間巡視や立ち歩いているの添削をすることが難しいため、「講義の後半に課題の説明、練習、提出」→「次講義までに教員による添削、評価」→「次講義の前半に添削を受けて清書」というのを基本的な流れとします。

清書した作品は、評価後、掲示し保管。第 30 回時に返却します。

事前事後には、配布したプリントの読み込みをすることで、変体仮名と連綿の理解に努めてください。

### 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス(1)
- 第 2 回 基本的な筆使い
- 第 3 回 かなへの変遷 (いろは歌) (1): い～を
- 第 4 回 かなへの変遷 (いろは歌) (2): わ～う
- 第 5 回 かなへの変遷 (いろは歌) (3): ん～あ
- 第 6 回 かなへの変遷 (いろは歌) (4): さ～す・ん
- 第 7 回 連綿の練習(1): ひらがなのみ
- 第 8 回 変体仮名の単体(1)
- 第 9 回 変体仮名の単体(2)
- 第 10 回 変体仮名の単体(3)
- 第 11 回 変体仮名の単体(4)
- 第 12 回 連綿の練習(2): 変体仮名を含む
- 第 13 回 短冊の書式(1): 古筆から学ぶ、練習
- 第 14 回 短冊の書式(2): 清書
- 第 15 回 古筆の臨書・蓬萊切
- 第 16 回 古筆の臨書・高野切第三種①
- 第 17 回 古筆の臨書・高野切第三種②原寸臨書することから墨継ぎを学ぶ
- 第 18 回 古筆の臨書・粘葉本和漢朗詠集
- 第 19 回 古筆の臨書・関戸本古今和歌集①
- 第 20 回 古筆の臨書・関戸本古今和歌集②原寸臨書することから行間を学ぶ
- 第 21 回 古筆の臨書・高野切第一種
- 第 22 回 古筆の臨書・伊勢集
- 第 23 回 古筆の臨書・中務集
- 第 24 回 古筆の臨書・十五番歌合せ
- 第 25 回 古筆の臨書・元永本古今和歌集
- 第 26 回 実用の書・年賀状①
- 第 27 回 実用の書・年賀状②
- 第 28 回 古筆の臨書・三色紙①練習
- 第 29 回 古筆の臨書・三色紙②清書
- 第 30 回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方 (20%) と課題提出 (30%) と提出課題の技術や表現 (50%) によって評価する。

教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、前期で 4 回以上の欠席は評価を不認定とします。また全期で 7 回以上の欠席も評価を不認定とします。

### 履修にあたっての注意

初回時に出席のこと。定員 40 名のため、受講者が多数の場合は抽選をします。

毎回の課題提出があります。真剣に取り組む学生の受講を望みます。

各自で用意してもらう道具について、初回時に説明をします。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。随時プリントを配布します。



20911

## 書道Ⅱ

担当教員：矢野 敏文

2単位 通年

### サブタイトル

日本、中国の漢字書を中心とした表現と鑑賞

### 授業のねらい

この授業は、中国の漢字書、日本の奈良・平安時代の漢字書の中から名跡を取り上げ、時代背景や書美の要素を学ぶとともに、主に半紙書きにより表現技能を高めようとする内容です。また、評価力、鑑賞力を高めることをねらいとします。書道の専門性の向上とともに、初心者であっても段階を踏んで習得ができます。

### 到達目標

1. 各時代の名跡（文字資料）の時代背景や書美を、資料をもとに理解し要点をまとめることができる。
2. 名跡の特徴や用筆法を理解し、表現技能を高めることができる。
3. 積極的に相互評価や鑑賞を通して、感性を高めることができる。

### 授業方法

毎回、講義・実習形式により、時代背景、名跡の成立、書美要素等の資料を読み理解を進めます。また、用筆法、運筆法等を体験的に学び向上を図るとともに、鑑賞などを通して交流します。毎回、作品を提出し、また随時学習カード（感想など）を提出してもらいます。資料の予習や調べ学習なども取り入れます。

### 授業計画

- 第1回 授業計画とガイダンス。資料配付。中国の書道概観。
- 第2回 書体の学習～甲骨文字から楷書、行書まで。半紙練習。
- 第3回 甲骨文字の内容と用筆法。半紙練習。
- 第4回 甲骨文字の用筆法の習熟。半紙練習、鑑賞。
- 第5回 秦時代の小篆。氏名を篆書で書こう。半紙練習。
- 第6回 秦時代の小篆。半紙練習。
- 第7回 秦時代の竹簡。半紙練習。
- 第8回 漢時代の隷書。石碑、半紙練習。
- 第9回 漢時代の隷書。石碑、半紙練習。
- 第10回 漢時代の隷書。石碑、半紙練習。
- 第11回 東晋時代の行、草書、王羲之の人と書を知る。半紙練習。
- 第12回 蘭亭序の成立と内容。半紙練習。
- 第13回 蘭亭序の用筆、半紙練習。
- 第14回 蘭亭序の用筆と運筆。半紙練習。
- 第15回 王羲之の書風から創作へ。半紙作品制作と鑑賞。
- 第16回 初唐の楷書の用筆と整齊美。半紙練習。
- 第17回 楷書の学習。半紙練習。
- 第18回 楷書の学習。半紙練習。
- 第19回 楷書の練習。半紙練習。
- 第20回 日本の書美～聖武天皇と光明皇后の人と書について
- 第21回 聖武天皇の筆跡、半紙練習。
- 第22回 光明皇后の書、半紙練習。
- 第23回 光明皇后の書、半紙練習。
- 第24回 光明皇后の書。半紙練習。
- 第25回 楷書の創作作品制作。
- 第26回 平安時代の書。最澄と空海、人と書を知る。半紙練習。
- 第27回 平安時代の書。最澄と空海。半紙練習。
- 第28回 平安時代の書。最澄と空海。半紙練習。
- 第29回 平安時代の書。最澄と空海。応用創作。
- 第30回 学習のまとめ。鑑賞交流。

### 成績評価の方法

到達目標1、2を測定する、提出作品、学習カード（60%）、到達目標3を測定する課題（20%）、授業への取り組み状況（20%）

### 履修にあたっての注意

書道セット（半紙、墨、大小筆、硯）、作品入れの新聞紙を用意して下さい。資料は随時配布します。

### 教科書

なし

20921

## 書道Ⅲ

担当教員：押上 万希子

2単位 通年

### サブタイトル

漢字かな交じりの書を習う

### 授業のねらい

「書道Ⅲ」では私達の心の中、日頃口に出している「生きた言葉」を書表現していきたい。そのためには、基本的な古典臨書が必要です。

中国に生まれた書道は、四世紀のころ漢字や漢詩とともに日本に伝えられ、やがてわが国の風土に根ざした独自の「かな」文字を創りました。

日本人の詩情を表現する和歌が栄えたのもその頃です。

こうした「かな」書きの美しい習慣は、さらに日記に物語りと華麗な女流文学の開花を見るに至ったのです。

### 到達目標

「漢字」と「かな」を見事に調和させた先人達の英知を探りつつ創作へと展開していくことができる。

協力して修了展を実施することができる。

### 授業方法

前期は日本の古筆を取り上げます。漢字との調和美を観察し、手習いします。

後期は中国の古典を習い、その書体とかなの調和を考えます。毎回、一点提出。評価後、掲示し保管。第30回時に返却します。

事前事後には、配布したプリントを読むことと、課題に適した和歌・短歌・詩を探し、制作ノートとして書き溜めてください。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 粘葉本和漢朗詠集(1)：春の歌
- 第3回 粘葉本和漢朗詠集(2)：夏の歌
- 第4回 粘葉本和漢朗詠集(3)：秋の歌
- 第5回 粘葉本和漢朗詠集(4)：冬の歌
- 第6回 関戸本古今集(1)：春の歌
- 第7回 関戸本古今集(2)：恋の歌
- 第8回 藍紙本万葉集(1)：万葉仮名
- 第9回 藍紙本万葉集(2)：かな
- 第10回 藍紙本万葉集(3)：漢字
- 第11回 元永本古今集(1)：漢字
- 第12回 元永本古今集(2)：行間を見る
- 第13回 手紙の書式
- 第14回 お礼状を書く(1)：草稿作り
- 第15回 お礼状を書く(2)：巻紙に書く
- 第16回 ガイダンス(2)
- 第17回 木簡(1)：臨書
- 第18回 木簡(2)：応用し交じり書
- 第19回 張遷碑(1)：臨書
- 第20回 張遷碑(2)：応用し交じり書
- 第21回 魏霊藏(1)：臨書
- 第22回 魏霊藏(2)：応用し交じり書
- 第23回 九成宮(1)：臨書
- 第24回 九成宮(2)：応用し交じり書
- 第25回 争坐位稿(1)：臨書
- 第26回 争坐位稿(2)：応用し交じり書
- 第27回 詩文の鑑賞
- 第28回 修了展の作品制作
- 第29回 修了展の準備、展示
- 第30回 修了展の撤去、1年間のまとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方(20%)と課題提出(30%)と提出課題の技術・表現(50%)によって評価する。

### 履修にあたっての注意

書道免許を取得する学生は、是非履修してください。  
教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、前期で4回以上の欠席は評価を不認定とします。また全期で7回以上の欠席も評価を不認定とします。

### 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。

随時プリントを配布します。

書道Ⅰ、書道Ⅱで使用した筆や墨を使います。

20931

## 書道Ⅳ

担当教員：押上 万希子

2 単位 通年

### サブタイトル

書という美を求めて

### 授業のねらい

今また、多様な美を有する古典を静思しましょう。表現の分析、技法の練磨をする中で神妙な力が感受され、作品を創る意気が高められます。

そして書き上げた作品を表装し展示することによって、自らの姿勢を確認するとともに反省の質ともなるのです。

将来教壇に立った場合の作品発表やクラブ活動の指導に備える過程を学びます。

### 到達目標

1. これまでの集大成として、卒業作品を作り上げることが出来る。出品作は、最低3作品で、かな原寸臨書と漢字または漢字・仮名交じりの書、共同作品とする。
2. 出品者の一員として、展覧会の成功へ向け協力することができる。

### 授業方法

各時間毎に記す「制作ノート」により取り組む様子を確認し合い、目標にむかう。

篆刻と漢字・漢字仮名交じりの書の仕上げ時には、特別講師を迎える。

事前事後には、各自の課題と進捗状況を必ず確認してください。特に、仮名の原寸臨書は積文をもとに読み込んでください。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 かな原寸臨書  
古筆を決定し、下敷きを作成する。数行書いてみる
- 第3回 かな原寸臨書  
半紙1～2枚程度書いてみる
- 第4回 漢字  
半切に制作
- 第5回 かな原寸臨書  
書き進める～連綿に気をつけて
- 第6回 かな原寸臨書  
書き進める～墨継ぎに気を付けて
- 第7回 漢字仮名交じりの書  
半切に制作
- 第8回 かな原寸臨書  
全体の4分の1を書き終え、全員で確認する
- 第9回 漢字  
全紙に制作
- 第10回 かな原寸臨書  
書き進める～線質に気を付けて
- 第11回 かな原寸臨書  
書き進める～余白に気を付けて
- 第12回 漢字仮名交じりの書  
全紙に制作
- 第13回 共同作品について確認  
短冊と扇面
- 第14回 合宿について、後期の日程等確認
- 第15回 合宿
- 第16回 かな原寸臨書  
全体の2分の1を書き終え、全員で確認する
- 第17回 漢字または漢字仮名交じりの書  
出品したいものを2～3点に絞り制作
- 第18回 かな原寸臨書  
書き進める～全体を見通して
- 第19回 共同作品  
短冊
- 第20回 篆刻実習、小印  
特別講義

- 第21回 漢字または漢字仮名交じりの書  
出品したいものを2～3点に絞り制作、特別講義の前に書き溜める
- 第22回 篆刻実習、大印  
特別講義
- 第23回 かな原寸臨書  
全体の4分の3を書き終え、全員で確認する
- 第24回 漢字・漢字仮名交じりの書  
特別講義、作品選別、実技指導
- 第25回 漢字・漢字仮名交じりの書  
特別講義、清書、出品作決定
- 第26回 合宿  
かな原寸臨書  
料紙の書き味を確かめる
- 第27回 かな原寸臨書の清書
- 第28回 かな原寸臨書の清書  
案内状・目録・作成
- 第29回 共同作品の清書
- 第30回 展示

### 成績評価の方法

卒業作品（50％）と完成に至る過程（50％）を評価します。

### 履修にあたっての注意

2月の卒業制作展出品が目標になりますので4年生の受講にします。

書道免許を取得する学生は、履修するべきです。制作ノートを作成します。

### 教科書・参考書に関する備考

初講時に説明します。

制作ノートとして、B4ポケットファイルを用意してください。



# 文化総合学科 専門科目



2017年度以前入学生対象：学科専門科目読み替え科目一覧 文化総合学科

2017年度以前入学生が2018年度開講科目を履修する場合は以下の表を参考にして下さい。

※印は2018年度カリキュラム「大学共通科目(1)教養科目」を参照

2017年度以前入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名			2018年度以降入学生の カリキュラムの科目 No.・科目名	
科目 No.	科目名		科目 No.	科目名
32001	「異文化コミュニケーション」基礎演習 A	→	35201	「現代社会」基礎演習 A
32061	「異文化コミュニケーション」基礎演習 B	→	35202	「現代社会」基礎演習 A
32002	「異文化コミュニケーション」基礎演習 A	→	35211	「現代社会」基礎演習 B
32062	「異文化コミュニケーション」基礎演習 B	→	35212	「現代社会」基礎演習 B
32011	「社会と制度」基礎演習 A	→	35221	「現代社会」基礎演習 C
32071	「社会と制度」基礎演習 B	→	35222	「現代社会」基礎演習 C
32012	「社会と制度」基礎演習 A	→	35231	「現代社会」基礎演習 D
32072	「社会と制度」基礎演習 B	→	35232	「現代社会」基礎演習 D
32013	「社会と制度」基礎演習 A (2018年度休講)	→	35241	「現代社会」基礎演習 E
32073	「社会と制度」基礎演習 B (2018年度休講)	→	35242	「現代社会」基礎演習 E
32021	「歴史」基礎演習 A	→	35251	「歴史・思想」基礎演習 A
32081	「歴史」基礎演習 B	→	35252	「歴史・思想」基礎演習 A
32022	「歴史」基礎演習 A	→	35261	「歴史・思想」基礎演習 B
32082	「歴史」基礎演習 B	→	35262	「歴史・思想」基礎演習 B
32023	「歴史」基礎演習 A	→	35271	「歴史・思想」基礎演習 C
32083	「歴史」基礎演習 B	→	35272	「歴史・思想」基礎演習 C
32031	「思想」基礎演習 A	→	35281	「歴史・思想」基礎演習 D
32091	「思想」基礎演習 B	→	35282	「歴史・思想」基礎演習 D
32032	「思想」基礎演習 A	→	35291	「歴史・思想」基礎演習 E
32092	「思想」基礎演習 B	→	35292	「歴史・思想」基礎演習 E
32151	文化人類学 a	→	02411	文化人類学※
32161	文化人類学 b	→	35401	文化人類学入門
32171	異文化コミュニケーション論 a	→	02421	異文化コミュニケーション※
32181	異文化コミュニケーション論 b	→	35411	異文化コミュニケーション論入門
32701	基礎法学 A-a (憲法)	→	02131	日本国憲法※
32711	基礎法学 A-b (憲法)	→	35421	基礎法学 A (憲法)
32991	心理学入門 a	→	02141	心理学※
33001	心理学入門 b	→	35451	心理学入門
33091	統計学 (確率論を含む)	→	35461	統計学入門 (確率論を含む)
33151	西洋史入門 a	→	02611	西洋史※
33161	西洋史入門 b	→	35731	西洋史入門
33361	日本史入門 A-a (概説)	→	02711	日本史 A ※
33371	日本史入門 A-b (概説)	→	35741	日本史入門 A (概論)
33381	日本史入門 B-a (学説史)	→	02721	日本史 B ※
33391	日本史入門 B-b (学説史)	→	35751	日本史入門 B (概論)
33771	西洋思想史 A-a	→	36061	古代・中世哲学史
33851	哲学入門 a	→	02851	哲学※
33861	哲学入門 b	→	35761	哲学入門
33991	倫理学入門 a	→	02861	倫理学※
34001	倫理学入門 b	→	35771	倫理学入門
34091	古典語 A-I	→	35781	ラテン語 I-a
			35791	ラテン語 I-a

2017年度以前入学生  
文化総合学科  
専門科目

30021

# イギリス文化論 I

担当教員：田村 理

2 単位 前期

## サブタイトル

ブリテン諸島の社会と文化

## 授業のねらい

イギリスおよびアイルランドの文化的特質をその歴史的形成過程に留意しつつ理解する。またそのことを、早く正確な英文読解を通じて遂行できるようにする。

## 到達目標

イギリスの社会や文化にまつわる通俗的イメージにとらわれず、それらの歴史的形成過程を考察する手がかりを得る。またそれをもとに、グローバル化に直面する現代日本の私たちが何を考えどう行動すべきかということ、特に社会や政治をより良きものにする方策を探求できるようにする。

## 授業方法

事前に指定された英文テキストの該当箇所を読み、予習課題に取り組んでおく。受講生は、そこで取り扱われるテーマをもとにグループ・ディスカッションやプレゼンテーション等を行う。担当者は補足説明を適宜行う。

## 授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 風光明媚なるイングランド/誰がイングランド人か/イングランドの都市訪問
- 第3回 イングランドのアウトドア/フットボールからテニスまで/イングランドの郷土料理
- 第4回 唯一無二の国スコットランド/スコットランドの過去/スコットランドの都市訪問
- 第5回 スコットランド人の余暇/スコットランドの五大偉人/スコットランドの郷土料理
- 第6回 アイルランドの多面性/ケルトの起源/聖パトリック・教会・ヴァイキング
- 第7回 アイルランド独立闘争/ザ・トラブルズ/アイルランドの都市訪問
- 第8回 'For the love of Inglis lede'/英語の歴史
- 第9回 'Thx 4 ur msg. How r u?'/英語の多様化
- 第10回 はじめに/イギリス帝国とは何か
- 第11回 赤く塗りつぶされた地図/イギリス帝国の領域
- 第12回 「黒人を白くする石鹸」とは/イギリス帝国の特質
- 第13回 大砲・鉄道・蒸気船/イギリス帝国の武器
- 第14回 クロムウェルからマクミランまで/イギリス帝国の興亡
- 第15回 おわりに/イギリス帝国の遺産

## 成績評価の方法

平常点（予習・発表等）50% + 最終レポート 50%

## 教科書

Jackson, A, *The British Empire: a Very Short Introduction* (Oxford University Press, 2013, ISBN : 9780199605415)

## 参考書

Escott, J, *England* (Oxford University Press, 2008, ISBN : 9780194233804)

Flinders, S, *Scotland* (Oxford University Press, 2010, ISBN : 9780194236232)

Vicary, T, *Ireland* (Oxford University Press, 2008, ISBN : 9780194233859)

Viney, B, *The History of the English Language* (Oxford University Press, 2008, ISBN : 9780194233972)

30031

## イギリス文化論Ⅱ

担当教員：David Flenner

2単位 後期

### サブタイトル

近代イギリス文化と社会学

### 授業のねらい

イギリス文化論Ⅱの授業では近代イギリス文化と背景についての様々なテーマを取り上げて学び、近代イギリスの文化と背景は何かという原点から詳しく理解が出来るようになる。イギリス留学に挑戦する大学生が増える中、地域、言語、王室、教育、政治、文学、福祉、生活、留学、映画、放送、遺産、スポーツ、伝統という複数テーマについて学ぶことが役に立つと思われる。

### 到達目標

近代イギリスの文化と背景は何か。イギリス文化論Ⅱの授業では20世紀から現代までのイギリス社会と文化の変容を比較して学ぶ。地域、言語、王室、教育、政治、文学、福祉、生活、留学、映画、放送、遺産、スポーツ、伝統などの様々なテーマを取り上げて学び、近代イギリスの文化と背景は何かという原点から、詳しく理解が出来るようになる。

### 授業方法

近代イギリスの文化と社会をテーマとし、多様な資料とメディアを利用して授業を行う。質問がある場合にはオフィスアワーで対応します。

### 授業計画

- 第1回 イギリスとは イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド、風土と文化
- 第2回 英語について 現代の英語表現と階級の話し方
- 第3回 イギリス王室 二十世紀と現代 退位、即位、戴冠式、治世、結婚式、お葬式
- 第4回 イギリスの学校教育と社会階層 GCSE、A レベルとは何か、大学の教育と文化
- 第5回 イギリスの政治と二大政党主義、女性首相、国民投票とEU離脱
- 第6回 イギリス文学と階級制度 平和賞小説家イングロ カズオ 「日の名残り」
- 第7回 イギリスの福祉国家と高齢社会、児童福祉、福祉給付、福祉と移民、社会正義と犯罪
- 第8回 イギリス人の日常生活、食生活と文化、イギリスの紅茶文化、イギリスのパブ文化
- 第9回 イギリスに留学、住宅事情、医療、銀行と金融、買い物、治安と安全
- 第10回 映画で理解するイギリスの文化 「日の名残り」1993年イギリスの映画
- 第11回 イギリスと音楽 社会史とイギリス音楽文化
- 第12回 イギリスの英国放送局 BBC ラジオとテレビ、芸能文化
- 第13回 イギリスの文化遺産
- 第14回 イギリス人とスポーツ文化
- 第15回 伝統的イギリス、古さと大切さ、自然保護、博物館、美術館、動物愛護

### 成績評価の方法

レポート 40%、定期試験 60%

### 履修にあたっての注意

特になし

### 教科書

なし

### 参考書

宇野 毅『現代イギリスの社会と文化「増補版」ゆとりと思いやりの国』（彩流社、2015、ISBN：9784779121876）  
 編集責任 下楠昌哉『イギリス文化入門』（三修社、2010、ISBN：9784384055665）  
 西川吉光『イギリス学入門 訪ね、知り、楽しもうジェントルマンの国』（萌書房、2012、ISBN：9784860650674）  
 木下卓、久守和子、窪田憲子『イギリス文化 55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2009、ISBN：9784623054367）  
 板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』（松柏社、2008、ISBN：9784775401385）

### 参考ホームページ

Learn About UK Culture  
<http://learnenglish.britishcouncil.org/en/uk-culture> (English Language Website)

30041

## アメリカ文化論Ⅰ

担当教員：村田 勝幸

2単位 前期

## サブタイトル

アメリカ文化史

## 授業のねらい

一般的なアメリカ通史を対象に、多くのアメリカ人がどのような物語で自らの来歴やアイデンティティの特異性を集合的に共有し説明するのかについて理解することを通じ、アメリカ文化を学ぶ。

## 到達目標

アメリカ文化を歴史的に考察することで、グローバルな観点から比較史的に文化を考察する技術と姿勢を身に付ける。

## 授業方法

本授業は、アメリカ通史の講義によって構成されている。なお、必要に応じて随時映像資料を使用する予定である。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクションーアメリカ文化を歴史的な文脈で理解するために
- 第2回 独立革命への途
- 第3回 独立直後の国内状況と国際状況
- 第4回 ジャクソニアン・デモクラシーと領土の拡張
- 第5回 高まる南北間の緊張
- 第6回 南北戦争の争点と戦後の課題
- 第7回 統一国家の誕生と挫折した「再建」
- 第8回 「新移民」の流入と西漸運動
- 第9回 革新主義時代のアメリカ社会
- 第10回 孤立主義・大衆消費社会・大恐慌
- 第11回 ニューディールからパクス・アメリカーナへ
- 第12回 「戦後」世界における国内の諸矛盾
- 第13回 21世紀転換期のアメリカ
- 第14回 歴史のなかのアメリカ文化
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

中間レポート（40%）、期末試験（60%）

## 履修にあたっての注意

アメリカ史・アメリカ文化に通じている必要はありませんが、積極的に学ぶ姿勢があること

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要な資料等は授業時に配布する予定です。教科書は特に設定しませんが、以下の参考図書以外にも有用な図書は随時授業時に紹介します。

## 参考書

有賀貞ほか『世界歴史大系・アメリカ史1』（山川出版社、1994、ISBN：4634460408）  
有賀貞ほか『世界歴史大系・アメリカ史2』（山川出版社、1993、ISBN：4634460505）

30051

## アメリカ文化論Ⅱ

担当教員：村田 勝幸

2単位 集中

## サブタイトル

アメリカ文化論

## 授業のねらい

アメリカ文化のなかでも本授業では「人種」に注目する。「人種」とは「社会的な構築物（a social construct）」であるという人文・社会科学のコンセンサスを、アメリカ文化を対象にして検証することを目指す。

## 到達目標

人種がアメリカ文化に歴史的に与えてきた影響を学ぶことを通じて、グローバルな観点から比較的に文化がもつダイナミズムを理解する。

## 授業方法

本授業は、いくつかの大きな論点・テーマ毎に構成されている、通史的な講義である。メディアの影響に特に注目するため、映像資料を多く用いる。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクションーアメリカ文化と「人種」
- 第2回 歴史のなかの「人種」①ーアメリカ人とは誰か
- 第3回 歴史のなかの「人種」②ー南北戦争前後
- 第4回 歴史のなかの「人種」③ー「人種」と科学
- 第5回 「人種」、ポリティクス、パワー①ー公民権運動前史
- 第6回 「人種」、ポリティクス、パワー②ー公民権運動の展開
- 第7回 「人種」、ポリティクス、パワー③ーロサンゼルス暴動（1992年）の背景
- 第8回 「人種」、ポリティクス、パワー④ー「多人種・多民族暴動」の実態
- 第9回 「人種」の表象①ーロサンゼルス暴動の表象
- 第10回 「人種」の表象②ー黒人性の創造／想像と消費
- 第11回 「人種」の表象③ー『国民の創造』（1915年）の衝撃
- 第12回 「人種」の表象④ー現代ロサンゼルス表象
- 第13回 「人種」の表象⑤ー衝突から交流へ
- 第14回 「人種」からみたアメリカ文化
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

期末試験（100%）

## 履修にあたっての注意

アメリカ文化・アメリカ史に通じている必要はありませんが、積極的に学ぶ姿勢があること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は特に指定しません。必要な資料は適宜授業時に配布します。

## 参考書

なし

32211

## 英語特講 I

担当教員：松根 マーク

2 単位 前期

### サブタイトル

Communication Strategies I

### 授業のねらい

The general theme of this course is to introduce students to the values and attitudes of other cultures, with particular attention on Canadian society, as well as their own. The main focus of this course is to offer students an opportunity to develop their listening and speaking skills for the purpose of communication.

### 到達目標

Students will engage in listening and speaking activities including discussions and presentations related to various intercultural topics. ALL INSTRUCTION, COMMUNICATION AND ACTIVITIES WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH!!!

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Communication Forum. ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, etc.

Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and textbook-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 Course Outline, Course Survey, Mark's Classroom Moodle Account Explanation, Communication Forum
- 第2回 Vocabulary Building Homework Explanation, Introductory Speaking, Unit 1: Getting to know you
- 第3回 Unit 1: Appearance
- 第4回 Unit 2: Actions
- 第5回 Unit 2: Feelings and gestures
- 第6回 Unit 3: At the market
- 第7回 Unit 3: Let's go shopping!  
Non-verbal Communication, Presentation Topics, Word List Test (Stage 2)
- 第8回 Unit 4: Weather
- 第9回 Unit 4: Traveling
- 第10回 Unit 5: Pioneers
- 第11回 Unit 5: Personal heroes
- 第12回 Unit 6: Memory
- 第13回 Presentation Day 1
- 第14回 Presentation Day 2
- 第15回 Unit 6: Sleep, Word List Test (Stage 3)

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Vocabulary Building (Online Word List Activities): 10%, Weekly Online Communication Forum: 15%, Assignments: 40%, Vocabulary Quizzes: 10%, Exams, Projects: 25%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to

successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, *WORLD LINK 1 (3rd edition)* (センゲージラーニング株式会社, 2016, ISBN : 978-1305-650787)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom

<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)



32221

## 英語特講Ⅱ

担当教員：松根 マーク

2単位 後期

### サブタイトル

Communication Strategies II

### 授業のねらい

The general theme of this course is to introduce students to the values and attitudes of other cultures, with particular attention on Canadian society, as well as their own. The main focus of this course is to offer students an opportunity to develop their listening and speaking skills for the purpose of communication.

### 到達目標

Students will engage in listening and speaking activities including discussions and presentations related to various intercultural topics. ALL INSTRUCTION, COMMUNICATION AND ACTIVITIES WILL BE CONDUCTED IN ENGLISH!!!

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Communication Forum. ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, etc.

Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and textbook-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 2nd Semester Course Outline, Mark's Classroom Moodle Account Update, Communication Forum, Summer Holiday Discussion
- 第2回 Unit 7: My neighborhood, Canada Overview
- 第3回 Unit 7: Big cities, Canadian Geography and Government
- 第4回 Unit 8: Sports
- 第5回 Unit 8: Personality, 2nd Semester Presentation Instructions
- 第6回 Unit 9: Habits, 2nd Semester Presentation Preliminary Outline, Word List Test (Stage 4)
- 第7回 Unit 9: Goals, Canadian Climate and Nature
- 第8回 Unit 10: The body, Canadian Prairies
- 第9回 Unit 10: Stress, Canadian Media
- 第10回 Unit 11: Talented people, Canadian Sports and Recreation
- 第11回 Unit 11: Risk
- 第12回 Presentation Day 1
- 第13回 Presentation Day 2
- 第14回 Year in Review Discussion
- 第15回 Word List Test (Stage 5), Course Survey

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Vocabulary Building (Online Word List Activities): 10%, Weekly Online Communication Forum: 15%, Assignments: 40%, Vocabulary Quizzes: 10%, Exams, Projects: 25%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, *WORLD LINK 1 (3rd edition)* (センゲージラーニング株式会社, 2016, ISBN : 978-1305650787)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom  
<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)

32231

## 英語特講Ⅲ

担当教員：松根 マーク

2 単位 前期

### サブタイトル

Communication Strategies Ⅲ

### 授業のねらい

Students will engage in challenging interactive discussions in settings ranging from intercultural and current events topics to simple business and research situations. In addition, this course will offer students an opportunity to learn basic presentation skills in English.

### 到達目標

This course will offer students an opportunity to continue developing their listening and speaking skills for the purpose of communication, discussion and presentations.

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Discussion Skills Forum ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, and presentation skills practice

In-class group discussion and listening activities will be each week. Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and text-book-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 Course Outline, Course Survey, Mark's Classroom Moodle Account Explanation, Online Discussion Skills Forum
- 第2回 Vocabulary Building Homework Explanation, Topic: Happiness, English for Presentations: Introductions Activities 1-3
- 第3回 Topic: Technology, English for Presentations: Introductions Activities 4-7
- 第4回 Topic: Money, English for Presentations: Introductions Activities 8-11
- 第5回 Topic: Children's Animation, English for Presentations: Introductions Activities 12-15
- 第6回 Topic: Ecology, English for Presentations: Introductions Quiz
- 第7回 Topic: Psychology, English for Presentations: Body Language, Signposting Activities 1-4
- 第8回 Topic: Exercise, English for Presentations: Body Language, Signposting Activities 5-9
- 第9回 Topic: Gender Issues in Business, English for Presentations: Body Language, Signposting Activities 10-14
- 第10回 Topic: Marketing, English for Presentations: Body Language, Signposting Quiz
- 第11回 Topic: Fashion, English for Presentations: Slide shows and Visuals Activities 1-4
- 第12回 Topic: Housing, English for Presentations: Slide shows and Visuals Activities 5-9
- 第13回 Presentation Day 1
- 第14回 Presentation Day 2, English for Presentations: Slide shows and Visuals Activities 10-14
- 第15回 English for Presentations: Slide shows and Visuals Quiz

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Class Participation and Assignments: 45%, Online Discussion Forum: 15%, English for Presentations Tests: 15%, Presentation Projects: 25%  
\*\*\*BONUS CHANCE: Vocabulary Building: 5%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

M. Grussendorf, *English for Presentations* (ford University Press, 2015, ISBN : 978-0194579360)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom  
<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)

32241

## 英語特講Ⅳ

担当教員：松根 マーク

2単位 後期

### サブタイトル

Communication Strategies IV

### 授業のねらい

Students will engage in challenging interactive discussions in settings ranging from intercultural and current events topics to simple business and research situations. In addition, this course will offer students an opportunity to learn basic presentation skills in English.

### 到達目標

This course will offer students an opportunity to continue developing their listening and speaking skills for the purpose of communication, discussion and presentations.

\*\*\* Most lessons will include short group discussions on intercultural topics and discussions based on the online Discussion Skills Forum ALL LESSONS WILL REQUIRE ACTIVE PARTICIPATION BY ALL STUDENTS!!!

### 授業方法

Students will be required to take an active role in their learning. All four language skills will be integrated into the curriculum. The lessons will include intermediate level listening and speaking activities, in addition to structured discussion, problem-solving activities, and presentation skills practice

In-class group discussion and listening activities will be each week. Online homework assignments (Vocabulary Building, online listening and online discussion forum) and textbook-based homework will be assigned weekly.

### 授業計画

- 第1回 Course Outline, Update Marks Moodle Classroom, Online Discussion Skills Forum, Summer Holiday Discussion, English for Presentations: Data and Graphs Activities 1-4
- 第2回 Topic: Vegetarian Diet, English for Presentations: Data and Graphs Activities 5-9
- 第3回 Topic: Public Transportation, English for Presentations: Data and Graphs Activities 10-12
- 第4回 Topic: Equality, English for Presentations: Data and Graphs Activities 13-17
- 第5回 Topic: Management Jargon, English for Presentations: Data and Graphs Quiz
- 第6回 Topic: Unusual Fashion, English for Presentations: Concluding Presentations Activities 1-4, 2nd Semester Presentation Introduction and Outline Homework
- 第7回 Topic: Making Friends, English for Presentations: Concluding Presentations Activities 5-9
- 第8回 Topic: Management Jargon, English for Presentations: Concluding Presentations Activities 10-13
- 第9回 Topic: Education, English for Presentations: Concluding Presentations Quiz
- 第10回 Topic: Air Travel, English for Presentations: Q&A Sessions Activities 1-4
- 第11回 Topic: Technology Gadgets, English for Presentations: Q & A Sessions Activities 5-8
- 第12回 Topic: Luxury Goods, English for Presentations: Q & A Sessions Activities 9-12
- 第13回 Presentation Day 1
- 第14回 Presentation Day 2
- 第15回 Topic: Big News from last year and New Year's Predictions, English for Presentations: Q&A Sessions Quiz

### 成績評価の方法

Attendance (according to the official attendance policy of Fuji Women's University), Class Participation and Assignments: 45%, Online Discussion Forum: 15%, English for Presentations Tests: 15%, Presentation Projects: 25% \*\*\*BONUS CHANCE: Vocabulary Building: 5%

### 履修にあたっての注意

All students wanting to enroll in this course will be required to successfully complete an English placement test given during the first lesson. A maximum of 30 students will be accepted into each section (class) of this course.

### 教科書

M. Grussendorf, *English for Presentations* (Oxford University Press, 2015, ISBN : 978-0194579360)

### 参考ホームページ

Mark's Moodle Classroom  
<http://www.marksclassroom.org/moodle3/login/index.php>  
(Learning Management System)

30081

## フランス文化論Ⅰ

担当教員：江口 修

2単位 前期

## サブタイトル

ヨーロッパ文明の一中心としてのフランス文化

## 授業のねらい

フランスという国と文化の成立から今日までを概観し、イギリスおよびドイツと並んで近・現代ヨーロッパの基軸を成し、ヨーロッパ文化の多様性の一翼を担うその文化の概要を理解する。

## 到達目標

フランスがフランスらしさを見せ始めるのはいつかを歴史的に定位する。その後どのように展開しロマンス語文化圏の雄としてヨーロッパ近・現代をリードするようになったかを大まかに掴むことにより、フランス文化の歴史性とそれを支える諸特徴を認識する。

## 授業方法

パワーポイントファイルを用いて授業計画に沿ってアウトラインを説明しつつ、多様な資料媒体を利用して皆さんのフランス文化に関する認識を重層的なものにしてゆきます。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 西ローマ帝国崩壊までのヨーロッパ世界
- 第3回 中世カロリング朝
- 第4回 フランス語の成立と大聖堂建立運動(ゴシックの世界)
- 第5回 百年戦争と中世の終焉
- 第6回 フランス・ルネサンスの特徴
- 第7回 ルネサンスからバロックへ
- 第8回 絶対王政のその古典主義文化
- 第9回 近代の始まり
- 第10回 啓蒙主義とフランス革命
- 第11回 革命の混乱からナポレオンへ
- 第12回 十九世紀、ブルジョワ文化の発展
- 第13回 十九世紀、資本主義社会の矛盾の発現
- 第14回 二十世紀、二度の世界大戦のもたらしたものの
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート(60%)と授業への参加状況(40%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

無断欠席しないように。特に就職活動の場合はメールでもよいので連絡すること。  
メルアド：egu4321chi@docomo.ne.jp

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

パワーポイントで作成した教材を提示装置を使って見てもらうので、教科書はない。  
参考書は授業で紹介する。

## 参考書

佐藤彰一他『フランス史』(山川出版社、2001、ISBN：9784634414204)

30091

## フランス文化論Ⅱ

担当教員：江口 修

2単位 後期

## サブタイトル

モードの帝国フランスの誕生から今日まで

## 授業のねらい

19世紀市民社会の成熟から20世紀女性の社会進出に歩みを合わせてファッションあるいはモードが誕生するが、その優れた中心がパリであった。フランス文化を「ファッション」あるいは「モード」の面から捉えてみる。

## 到達目標

ブルボン朝フランスは宮廷文化のスタンダードであったが、現代ファッションでもその地位を築くことになった原因を、服飾文化の表層だけではなく、身体論やジェンダーの観点からも検討できるようにする。

## 授業方法

パワーポイントファイルを用いて、様々なメディアとして存在するモードの在り様を実感しながら分析してゆきます。皆さんへはクイズの形をとったりしながら随時質問をして理解度をチェックしたいと思っています。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「衣」の哲学、なぜ人は衣で身を包むのか?
- 第3回 「古(いにしえ)」のファッション、宮廷文化の成立と衣装
- 第4回 フランス大革命と「衣」、新しい都市文化の誕生と「衣」
- 第5回 都市市民と「女性」
- 第6回 世紀末、ベルエポックのモード
- 第7回 ウォルト(あるいはワース)登場
- 第8回 ポワレ来たり! 女性解放か?
- 第9回 第一次世界大戦まで ベルエポックの残照
- 第10回 第一次世界大戦がもたらしたもの 働く女性
- 第11回 大戦間文化、ココ・シャネルの黄金期
- 第12回 第二次世界大戦
- 第13回 大戦後、怒濤のファッション、モードの革命
- 第14回 68年以降とモード、日本のデザイナーたちの活躍
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

レポート(60%)と授業への参加状況(40%)により評価する。

## 履修にあたっての注意

無断欠席のないように。特に就職活動による欠席についてはメールでもよいので連絡すること。  
メルアド：egu4321chi@docomo.ne.jp

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

パワー・ポイントで作成した教材を提示装置を使って見てもらう。  
参考書は授業で指示する。

## 参考書

鷲田清一『ひとはなぜ服を着るのか』(NHK出版、1998、ISBN：414084096X)  
海野弘『ココ・シャネルの星座』(中公文庫、1992、ISBN：4122019575)  
山田登世子『晶子とシャネル』(勁草書房、2006、ISBN：978-4326653133)

32251

## フランス語特講 I

担当教員：江口 修

2 単位 前期

### サブタイトル

詩を通じて日仏の交流をたどってみよう

### 授業のねらい

フランス語へのアプローチのひとつに、リズムやメロディーによるものがある。詩はそれぞれの言語の華であるから、このアプローチに最適であり、歴史をたどりながらフランス語で暗唱できるものを持つようにする。それを明治以降の日本の詩人たちのフランスとの格闘を検証しながら行ってみよう。

### 到達目標

好きな詩人を見つけて、一篇でも多く暗誦できるようになること。また詩論の系譜にも目を配り、自分の好きな詩人がどのような位置づけにあるかをも理解できるようにする。

### 授業方法

教科書をフル活用する方法を皆さんに考えてもらうことを主眼に、楽しくフランス語をおさらいしたいと思います。詩を声に出して読むことで、自分のリズム感をはっきりと意識すれば、日本語能力も確実にアップできるでしょう。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 成立期のフランス語から中世
- 第3回 中世末期からルネサンス
- 第4回 ルネサンスの詩
- 第5回 古典主義の時代と詩
- 第6回 ロマン主義（前期）
- 第7回 ロマン主義（後期）
- 第8回 ロマン主義のあとに来る詩人達
- 第9回 世紀末と象徴主義詩人達  
上田敏『海潮音』から永井荷風『珊瑚集』まで（第一回）
- 第10回 第一次世界大戦がもたらしたもの  
同上第二回
- 第11回 大戦間の詩人達、反逆そして革命  
同上第三回
- 第12回 第二次世界大戦に向かう詩人達  
同上第四回
- 第13回 戦後の詩人たち、現代詩の地平
- 第14回 戦後詩論への案内
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

試験（実技つまり暗誦で随時実施、50%）と授業への参加状況（50%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

無断欠席はしないように。特に就職活動による欠席についてはメールでもよいので連絡するように。  
メールアドレス：egu4321chi@docomo.ne.jp

### 教科書

安藤元雄ほか編『フランス名詩選』（岩波文庫、1998、ISBN：978-4003750117）

### 教科書・参考書に関する備考

『フランス名詩選』（岩波文庫）を教科書に用います。参考書は授業やホームページで紹介します。

### 参考書

阿部公彦『詩的思考のめざめ』（東京大学出版会、2014、ISBN：978-4130830645）

### 参考ホームページ

古典籍総合データベース <http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>（早稲田大学図書館が公開しているデータベース日本近代詩のPDF資料が豊富）



32261

## フランス語特講Ⅱ

担当教員：江口 修

2単位 後期

### サブタイトル

日本の詩がどのようにフランスに受容されたのか見てみよう

### 授業のねらい

フランス語特講Ⅰで体得したフランス語詩のリズムとメロディーをさらに発展させるために、日本の詩のフランス語訳を味読しながら元の日本語の詩を見つけ出してゆく。詩の翻訳の元詩は容易にたどれそうだが、意外と難しい場合が多い。元の詩を記していない場合がほとんどであるから、俳句や短歌などになると結構同定が困難になる。推理力そしてなにより日本詩の教養を身につけながら、フランス語訳について吟味してみよう。

### 到達目標

日本語詩のフランス訳、逆もまたそうだが、ほとんど創作に近い力業が必要のようである。結局は翻訳不可能だとして、原語での鑑賞を勧める向きも多いが、このクラスではあえて言語間のギャップを楽しんでやろうという姿勢で立ち向かうことにより、「自分なりのフランス語」を獲得することを目指す。少人数になるのは必至なので、ディベート力の向上も視野に入れる。

### 授業方法

フランス語に翻訳された日本のさまざまなタイプの詩をまずは音読、そして元の詩を確認するという作業の繰り返しだが、先にも述べたとおり簡単ではないことが多い。ネットも含め自宅や時間外での探索が必須となる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 フランスにおける日本詩の受容について
- 第3回 和歌の翻訳について
- 第4回 江戸、明治すなわち日本近代の短詩系の翻訳：芭蕉、蕪村、一茶
- 第5回 子規と子規以降
- 第6回 明治以降、新体詩系の翻訳『海潮音』、『珊瑚集』以降
- 第7回 明治期『蜻蛉集』のフランスでの成立について
- 第8回 大正期島崎藤村はなぜフランスに滞在したのか？
- 第9回 昭和初期松尾邦之助とオーベルランの日本文学紹介
- 第10回 大戦まで川路柳虹の活躍
- 第11回 大戦と戦後の空白を超えて
- 第12回 宮沢賢治の翻訳
- 第13回 現代詩への接近
- 第14回 なぜ詩を翻訳するのか？
- 第15回 まとめ、そして好きな日本詩人へのオマージュを一人ずつ。

### 成績評価の方法

授業への参加状況（40％）とレポートの出来具合（60％）により評価する。

### 履修にあたっての注意

無断欠席はしないように。特に就職活動による欠席についてはメールでもよいので連絡するように。  
メールアドレス：egu4321chi@docomo.ne.jp

### 教科書

安藤元雄ほか編『フランス名詩選』（岩波文庫、1998、ISBN：978-4003750117）

### 教科書・参考書に関する備考

前期で使用した『フランス名詩選』（岩波文庫）を引き続き参考にします。その他適宜プリントを配布。

### 参考書

阿部公彦『モダンの近似値』（松柏社、2001、ISBN：978-488189494）

30111

## ドイツ文化論Ⅰ

担当教員：梅津 真

2単位 前期

### サブタイトル

ドイツ文化の諸相 - 古代から中世まで -

### 授業のねらい

ヨーロッパ世界が成立する前、その文化のルーツとなるものがどのようにして生まれて来たかを、大きな歴史の中で理解します。

### 到達目標

ドイツ文化を生み出したものの多様性、奥深さに触れることにより、現在のドイツを理解する力をつけます。

### 授業方法

テーマ毎に資料を配布し、関連する映像などを活用しながら具体的な人間の営みに迫っていきます。

### 授業計画

- 第1回 ドイツについて
- 第2回 地中海世界とトロイア戦争
- 第3回 古代ギリシャ文化とシュリーマンの挑戦
- 第4回 謎の民ケルト
- 第5回 ガリアの英雄ウェルキンゲトリクス
- 第6回 アレシアの戦いの顛末
- 第7回 カエサルとローマ帝国
- 第8回 ポンペイの悲劇
- 第9回 修道院文化とヨーロッパ世界の形成
- 第10回 中世の文学(1) ニーベルンゲンの歌
- 第11回 中世の文学(2) パルジファル
- 第12回 ルネサンスと宗教改革
- 第13回 三十年戦争とバロック
- 第14回 バイエルンの町と芸術 - リーメンシュナイダーの彫刻 -
- 第15回 前期のまとめ

### 成績評価の方法

試験(30%)と宿題の提出(70%)で評価します。

### 履修にあたっての注意

授業への参加状況を重視します。遅刻と途中退室は厳に慎むこと。

### 教科書

なし

### 参考書

- B・カンリフ『図説 ケルト文化誌』(原書房、1998、ISBN：4-562-03145-x)
- G・ヘルム『ケルト人』(河出書房新社、1979、ISBN：4-309-22340-0)
- 弓削達『ローマはなぜ滅んだか』(講談社、1989、ISBN：4-06-148968-2)

30121

## ドイツ文化論Ⅱ

担当教員：梅津 真

2単位 後期

### サブタイトル

ドイツ文化の諸相 - 中世から現代まで -

### 授業のねらい

ヨーロッパ世界が形成される中でドイツ固有の文化がどのようにして生成・発展してきたかを大きな歴史の中で理解します。

### 到達目標

ドイツ文化の理解を通してヨーロッパや世界を見る目を深めていきます。

### 授業方法

テーマ毎に資料を配布し、関連する映像などを活用しながら具体的な人間の営みに迫っていきます。

### 授業計画

- 第1回 シュトゥルム・ウント・ドラングから古典主義へ
- 第2回 ゲーテの『ファウスト』
- 第3回 ゲーテとデューラー - イタリアへの旅 -
- 第4回 ロマン主義の時代
- 第5回 ニーチェの思想とヴァーグナーの音楽
- 第6回 ハプスブルク帝国における多文化共存
- 第7回 カフカの文学と言語危機
- 第8回 表現主義映画『カリガリ博士』
- 第9回 ヴァイマル文化の光と影
- 第10回 ヒトラーと反ユダヤ主義
- 第11回 白バラ抵抗運動
- 第12回 戦後のドイツ文学 - ブレヒトの演劇など -
- 第13回 ヨーロッパ・ピクニック計画(1)
- 第14回 ヨーロッパ・ピクニック計画(2)
- 第15回 後期のまとめ

### 成績評価の方法

試験(30%)と宿題の提出(70%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業への参加状況を重視します。遅刻や途中退室は厳に慎むこと。

### 教科書

なし

### 参考書

- ゲーテ『イタリア紀行(上)』(岩波書店、2007、ISBN：4-00-324059-6)
- 高橋義人『ドイツ人のこころ』(岩波書店、1993、ISBN：4-00-430262-5)
- 堀米庸三ほか『西欧精神の探究 上』(NHK ライブラリー、2001、ISBN：4-14-084135-4)
- 堀米庸三ほか『西欧精神の探究 下』(NHK ライブラリー、2001、ISBN：4-14-084136-2)

32271

## ドイツ語特講Ⅰ

担当教員：梅津 真

2単位 前期

### サブタイトル

ドイツ語の読解力、作文力、会話力の養成を目指します。

### 授業のねらい

ドイツ語の基本的文法事項を復習しながら応用力をつけていきます。

### 到達目標

ドイツ語の総合的運用能力を高めながらドイツ語検定試験三級合格レベルを目指します。

### 授業方法

視覚教材やプリントを活用しながらドイツ語の楽しさを追求していきます。

### 授業計画

- 第1回 二年次まで学んだことの復習
- 第2回 自己紹介の仕方
- 第3回 練習問題1
- 第4回 知人を訪ねる
- 第5回 練習問題2
- 第6回 住宅共同体での語らい、市場での買い物
- 第7回 練習問題3
- 第8回 駅で切符を買う
- 第9回 練習問題4
- 第10回 ドイツ・アラカルト1
- 第11回 練習問題5
- 第12回 ドイツの学生生活
- 第13回 練習問題6
- 第14回 サッカーの試合を見に行く
- 第15回 練習問題7

### 成績評価の方法

試験（30％）と授業への取り組み（70％）により評価します。

### 履修にあたっての注意

主体的な取り組みを期待します。

### 教科書

なし

32281

## ドイツ語特講Ⅱ

担当教員：梅津 真

2単位 後期

### サブタイトル

ドイツ語の読解力、作文力、会話力の養成を目指します。

### 授業のねらい

ドイツ語の基本的文法事項を復習しながら応用力をつけていきます。

### 到達目標

ドイツ語の総合的運用能力を高めながらドイツ語検定試験三級合格レベルを目指します。

### 授業方法

視覚教材やプリントを活用しながらドイツ語の楽しさを追求していきます。

### 授業計画

- 第1回 前期の復習
- 第2回 街でのショッピング
- 第3回 練習問題8
- 第4回 週末のドライブ
- 第5回 練習問題9
- 第6回 ベルリンについての会話
- 第7回 練習問題10
- 第8回 ドイツ・アラカルト2
- 第9回 ドイツ博物館を訪ねる
- 第10回 練習問題11
- 第11回 観光名所を訪ねる
- 第12回 練習問題12
- 第13回 お別れ
- 第14回 練習問題13
- 第15回 後期のまとめ

### 成績評価の方法

試験（30％）と授業への取り組み（70％）により評価します。

### 履修にあたっての注意

主体的な取り組みを期待します。

### 教科書

なし

30141

## 中国文化論Ⅰ

担当教員：武田 雅哉

2単位 前期

## サブタイトル

中国児童文化研究Ⅰ - 『黒猫警長』を読む

## 授業のねらい

中国の文化を研究しようとするならば、まずは中国語が正確に読めなければ、おはなしにならない。

この授業では、現代中国語の基礎的な文法事項を復習し、中国語の読解力を強化するとともに、中国文化を研究するための基礎的な知識を身につける。

## 到達目標

1. 平易な現代中国語で書かれた文章を読む力を身につける。
2. 現代中国語の基礎文法を理解する。

## 授業方法

全中国のよいこたちを震撼させた人気アニメ『黒猫警長』（黒猫デカ）の原作を、中国語の絵本で読む。

平易な現代中国語のテキスト（ピンインつき）を用い、文法、語彙、文化的背景、また、登場動物の心情にも留意しながら読む。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンスー『黒猫警長』の世界と中国の児童文学
- 第2回 アニメーション鑑賞
- 第3回 文章の読解(1)
- 第4回 文章の読解(2)
- 第5回 文章の読解(3)
- 第6回 文章の読解(4)
- 第7回 文章の読解(5)
- 第8回 文章の読解(6)
- 第9回 文章の読解(7)
- 第10回 文章の読解(8)
- 第11回 文章の読解(9)
- 第12回 文章の読解(10)
- 第13回 文章の読解(11)
- 第14回 文章の読解(12)
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

授業への参加状況（80%）、期末試験（20%）により評価する。

## 履修にあたっての注意

初級中国語を履修し、発音、語彙、文法の基礎をマスターしていることが条件。

過去に使用した教科書および辞書を必ず持参すること。

受講生は全員、ノートに訳注を用意してくること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

比較的大型の中日辞典を持参すること。

意欲のある学生には、中国で出ている辞書『新華字典』をお勧めする。

30151

## 中国文化論Ⅱ

担当教員：武田 雅哉

2単位 後期

## サブタイトル

中国児童文化研究Ⅱ - 中国の〈よいこの歌〉

## 授業のねらい

1. 中国のこどもたちの歌を中心に聞き、中国語の歌詞の読解をとおして、中国における児童文化の諸相を理解する。
2. 現代中国語の基礎的な文法事項を復習し、中国語の読解力を強化するとともに、中国文化を研究するための基礎的な知識を身につける。同時に学んだ歌はうたえるようにする。

## 到達目標

1. 中国語の歌をうたう能力、および歌詞を理解する能力を獲得する。
2. 現代中国のこどもの歌が作られた歴史的背景を理解する。

## 授業方法

主として中華人民共和国建国後（1949～）に作られた「よいこの歌」の歌詞の読解を進めながら、その時代背景を考察し、かつ歌えるようにする。

予定している作品は、中国の児童歌曲や、日本曲のカバーなど。映画の主題歌やアニメソングが多いので、あわせて鑑賞することもある。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教材の読解(1)
- 第3回 教材の読解(2)
- 第4回 教材の読解(3)
- 第5回 教材の読解(4)
- 第6回 教材の読解(5)
- 第7回 教材の読解(6)
- 第8回 教材の読解(7)
- 第9回 教材の読解(8)
- 第10回 教材の読解(9)
- 第11回 教材の読解(10)
- 第12回 教材の読解(11)
- 第13回 教材の読解(12)
- 第14回 教材の読解(13)
- 第15回 カラオケ大会（試験）

## 成績評価の方法

授業への参加状況（80%）、カラオケの歌唱（20%）などにより判断する。

なおカラオケ大会では、課題曲および自由曲を歌ってもらう。

## 履修にあたっての注意

中級レベルの中国語を履修し、文法の基礎をマスターしていること。

前期の「中国文化論Ⅰ」で学んだ内容をマスターしていることが条件。

過去に使用した教科書および辞書を持参すること。受講生は全員、毎回ノートに訳注を用意してくること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

テキスト、資料等は配付する。

学習にあたっては、中国で出ている辞書『新華字典』を使いこなせるようにすること。

## 参考書

武田雅哉『よいこの文化大革命』（廣済堂出版、2003）

32411

## 中国語特講Ⅰ

担当教員：倉 雅晨

2単位 前期

中国語の生活会話

### 授業のねらい

これから、中国へ留学したいと思う人、バイト先で中国語で接客したいと思う人、そして中国語を使う仕事に携わりたいと希望する人を対象として、複雑な文法の解説を最小限にし、実際に使える中国語を身につけてもらうことを目的とする。

### 到達目標

1. さまざまな場面に応じて、「通じる中国語」の表現を習得することを目標とする。
2. 言語表現を通じて文化の違いを理解することを目標とする。

### 授業方法

毎回の授業の前半は基礎的な文法事項の解説と練習問題、後半は会話の実践訓練（関連表現を用いて、会話文を作るなど）に当てる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス&基礎文型の復習
- 第2回 話のきっかけをつくる（自己紹介をする）
- 第3回 人の輪をひろげる（連絡方法の聞き方）
- 第4回 一言挨拶する（さまざまな挨拶）
- 第5回 乗り物を使いこなす
- 第6回 ショッピングに行く
- 第7回 医者にかかる
- 第8回 電話でたずねる
- 第9回 個人宅を訪問する
- 第10回 宴会にでる
- 第11回 市内観光をする
- 第12回 旅の手配をする
- 第13回 ホテルで快適に過ごす
- 第14回 期末発表向けの練習
- 第15回 期末発表会（ペアで会話）

### 成績評価の方法

授業への参加状況（10%）、事前・事後課題（30%）、期末発表（60%）

### 履修にあたっての注意

授業中に、関連表現を用いて作文してもらうので、事前テキストの内容についてしっかりと学習したうえで授業に参加すること。

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布する

32421

## 中国語特講Ⅱ

担当教員：倉 雅晨

2単位 後期

### サブタイトル

アニメで覚える中国語

### 授業のねらい

この授業では、中国語のアニメ『黒猫警部』を教材に、実用的な中国語表現を学習する。

### 到達目標

中国人の日常会話によく使われる表現を取り入れ、リスニング力と理解力を身につけることを目標とする。

### 授業方法

事前にアニメの台詞（中国語）資料を配布する。担当者を決め、中国語の台詞を日本語に翻訳する。授業では、アニメ映像を見ながら、翻訳の結果を発表し、討論する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『黒猫警部』 第1話(1)
- 第3回 『黒猫警部』 第1話(2)
- 第4回 『黒猫警部』 第1話(3)
- 第5回 『黒猫警部』 第2話(1)
- 第6回 『黒猫警部』 第2話(2)
- 第7回 『黒猫警部』 第2話(3)
- 第8回 『黒猫警部』 第3話(1)
- 第9回 『黒猫警部』 第3話(2)
- 第10回 『黒猫警部』 第3話(3)
- 第11回 『黒猫警部』 第4話(1)
- 第12回 『黒猫警部』 第4話(2)
- 第13回 『黒猫警部』 第4話(3)
- 第14回 『黒猫警部』 第4話(4)
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

テスト（50%）、発表（30%）、授業への参加状況（20%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

中日辞典を持参すること。

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布する



30171

## 韓国文化論Ⅰ

担当教員：辻 弘範

2単位 前期

## サブタイトル

韓国の伝統文化の基礎を学ぶ

## 授業のねらい

韓国語を学ぶにあたっては、韓国の現代社会に大きな影響を与えている伝統文化に関心を持ち、それらに関する教養を身につけることが必須である。この授業では、知的関心や研究の対象として韓国を眺める際に必要な基本知識を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 韓国の伝統文化に関する基本事項を学ぶ。
2. 韓国語を学ぶにあたって必要な、韓国の社会や文化に対する視点を身につける。

## 授業方法

講義方式で行うが、DVD教材やインターネット動画資料を使用することがある。授業中に扱った内容で特に印象に残った点について、簡単な感想をきく課題を課すことがある。

## 授業計画

- 第1回 導入：「韓国文化」とは何か
- 第2回 朝鮮半島の自然環境と地理
- 第3回 朝鮮半島の世界遺産
- 第4回 韓国文化の基層(1) 仏教文化
- 第5回 韓国文化の基層(2) 儒教文化
- 第6回 韓国文化の基層(3) キリスト教の伝来と受容
- 第7回 韓国文化の基層(4) さまざまな文化的要素の混合
- 第8回 韓国文化の基層(5) 日本統治と「近代」
- 第9回 韓国文化の昔と今(1) 衣食住
- 第10回 韓国文化の昔と今(2) 冠婚葬祭
- 第11回 韓国文化の昔と今(3) 年中行事
- 第12回 在日韓国・朝鮮人の歴史
- 第13回 学生発表(1)
- 第14回 学生発表(2)
- 第15回 フィードバックと総括

## 成績評価の方法

期末レポート 70%、課題 20%、授業態度 10%

## 履修にあたっての注意

この授業の履修者には、韓国語の1年次科目修了程度の語学力を要求する。未修者の受講も妨げないが、韓国語の語学力を前提とした説明をするため、同時履修を強く勧める。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

各回の授業開始時に、扱う内容についてまとめたプリント(A3版1～2枚程度)を配布する。

30181

## 韓国文化論Ⅱ

担当教員：辻 弘範

2単位 後期

## サブタイトル

韓国の現代社会の基礎を学ぶ

## 授業のねらい

韓国語を学ぶにあたっては、独特の伝統文化から大きな影響を受けている韓国の現代社会に関心を持ち、それらに関する教養を身につけることが必須である。この授業では、知的関心や研究の対象として韓国を眺める際に必要な基本知識を身につけることを目的とする。

## 到達目標

1. 韓国の現代社会に関する基本事項を学ぶ。
2. 韓国語を学ぶにあたって必要な、韓国の社会や文化に対する視点を身につける。

## 授業方法

講義方式で行うが、DVD教材やインターネット動画資料を使用することがある。授業中に扱った内容で特に印象に残った点について、簡単な感想をきく課題を課すことがある。

## 授業計画

- 第1回 導入：「韓国文化」の過去と現在
- 第2回 南北分断と対立の歴史
- 第3回 韓国の兵役制度
- 第4回 韓国の若者
- 第5回 韓国社会における女性
- 第6回 韓国の労働問題
- 第7回 韓国の教育問題
- 第8回 韓国の政治風土
- 第9回 韓国の社会的・経済的格差
- 第10回 韓国社会のマイノリティ
- 第11回 韓国の今を探る(1) マスメディアについて
- 第12回 韓国の今を探る(2) ネットメディアについて
- 第13回 学生発表(1)
- 第14回 学生発表(2)
- 第15回 フィードバックと総括

## 成績評価の方法

期末レポート 70%、課題 20%、授業態度 10%

## 履修にあたっての注意

この授業の履修者には、韓国語の1年次科目修了程度の語学力を要求する。未修者の受講も妨げないが、韓国語の語学力を前提とした説明をするため、同時理由を強く勧める。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

各回の授業開始時に、扱う内容についてまとめたプリント(A3版1～2枚程度)を配布する。

32431

## コリア語特講 I

担当教員：辻 弘範

2 単位 前期

### サブタイトル

韓国語で発信される情報を読みとく・I

### 授業のねらい

朝鮮半島でいま起きている事件や社会問題を知るためには、現地から発信されるニュースなどの文章を読みとく能力が不可欠である。この授業では、新聞社などが韓国語で発信する記事を講読しながら、時事用語や漢字語などの習得を目指す。

### 到達目標

1. 韓国語で発信されるニュース記事を読む能力を身につける。
2. 朝鮮半島でいま起きている事件や社会問題を知る。

### 授業方法

配布資料を講読するが、1回の授業で読み進む分量はおおむね A 4 版 1 枚程度とする。資料は事前に自分で翻訳してから、授業に参加すること（所要時間 90 分～2 時間程度）。

### 授業計画

- 第 1 回 導入：朝鮮半島のいまを知ること
- 第 2 回 新聞(1) 社会欄…事故と事件
- 第 3 回 新聞(2) 社会欄…天気予報と交通情報
- 第 4 回 新聞(3) 文化・芸能欄
- 第 5 回 新聞(4) 経済欄
- 第 6 回 新聞(5) 政治欄
- 第 7 回 新聞(6) 社説とコラム
- 第 8 回 新聞(7) 4 コマ漫画を読みとく
- 第 9 回 雑誌(1) 社会欄
- 第 10 回 雑誌(2) 文化・芸能欄
- 第 11 回 雑誌(3) 経済欄
- 第 12 回 雑誌(4) 政治欄
- 第 13 回 雑誌(5) コラム
- 第 14 回 雑誌(6) 広告
- 第 15 回 フィードバックと総括

### 成績評価の方法

最終試験 50%、読解力 30%、授業態度 20%

### 履修にあたっての注意

この授業の履修者には、韓国語の 2 年次科目修了程度の語学力を要求する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリントを配布する。

### 参考書

油谷幸利ほか編『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版』（小学館、2013、ISBN：978-4095061429）  
小学館・金星出版社編『朝鮮語辞典』（小学館、1992、ISBN：978-4095157016）

32441

## コリア語特講 II

担当教員：辻 弘範

2 単位 後期

### サブタイトル

韓国語で発信される情報を読みとく・II

### 授業のねらい

朝鮮半島のさまざまな分野について理解を深めるためには、現地で刊行された図書を読みとく能力が不可欠である。この授業では、韓国のさまざまな問題について扱った図書を講読しながら、各分野の専門用語などの習得を目指す。

### 到達目標

1. 韓国語の専門用語や高度な文章表現を理解する能力を身につける。
2. 朝鮮半島のさまざまな分野について探究し、理解を深める。

### 授業方法

配布した資料を講読するが、1回の授業で読み進む分量は A 4 版 2～3 枚程度とする。資料は事前に自分で翻訳してから、授業に参加すること（所要時間 2 時間程度）。

### 授業計画

- 第 1 回 導入と講読テキストの選択 【以下は実施例】
- 第 2 回 セウォル号(1) 大韓民国という船
- 第 3 回 セウォル号(2) 偽りの夢
- 第 4 回 セウォル号(3) 幽霊船が行きかう国
- 第 5 回 セウォル号(4) 次世代に託したい未来
- 第 6 回 チェ・スンシル(1) 軍事独裁と新宗教
- 第 7 回 チェ・スンシル(2) 政財界の掌握
- 第 8 回 チェ・スンシル(3) 「秘線実勢」
- 第 9 回 チェ・スンシル(4) ロウソク革命
- 第 10 回 韓国の男性(1) 近代転換期の男性性
- 第 11 回 韓国の男性(2) 身体の発明
- 第 12 回 韓国の男性(3) 政治と男性性
- 第 13 回 韓国の男性(4) 女性における男性性
- 第 14 回 韓国の男性(5) トランスジェンダー
- 第 15 回 フィードバックと総括

### 成績評価の方法

最終試験 50%、読解力 30%、授業態度 20%

### 履修にあたっての注意

この授業の履修者には、韓国語の 2 年次科目修了程度の語学力を要求する。

### 教科書

なし

### 参考書

油谷幸利ほか編『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館、2013、ISBN：978-4095061429）  
小学館・金星出版社編『朝鮮語辞典』（小学館、1992、ISBN：978-4095157016）

32331

## 異文化コミュニケーション特講 A-c

担当教員：野手 修

2単位 前期

### サブタイトル

文化と国家の関係について

### 授業のねらい

人類学、カルチュラル・スタディーズ、コミュニケーション論などの見地から、国民国家を文化的現象としてとらえ、その問題点や現代における意義を考えます。

### 到達目標

多角的な視点からの「文化」に重点をおき、近代の社会科学でなされた文化の定義、理論を踏襲しながら、文化の変容が近代社会の構成といかにかかわるかを理解する。

### 授業方法

文化の歴史的变化を近代国家の形成とのかかわりでとらえ、20世紀後半に広がったグローバル化の意義を考えていきます。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 文化概念の形成
- 第3回 国民国家の形成とその問題点 その1
- 第4回 国民国家の形成とその問題点 その2
- 第5回 国家と文化：言語その1
- 第6回 国家と文化：言語その2
- 第7回 国家と文化：文学その1
- 第8回 国家と文化：文学その2
- 第9回 国家と文化：伝統
- 第10回 国家と文化：芸術
- 第11回 国家と文化：映画 その1
- 第12回 国家と文化：映画 その2
- 第13回 グローバル化 その1
- 第14回 グローバル化 その2
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

課題、およびレポートを参考にする。レポート（75%）、授業への参加状況（25%）。

### 教科書

なし

### 参考書

アンダーソン『想像の共同体』（NTT出版、2001）  
ホブズボウム『創られた伝統』（紀伊国屋書店、2003）

### 参考ホームページ

[aporetic.dyndns.org/moodle](http://aporetic.dyndns.org/moodle)

32341

## 異文化コミュニケーション特講 A-d

担当教員：野手 修

2単位 後期

### サブタイトル

グローバル化と文化

### 授業のねらい

人類学、カルチュラル・スタディーズ、コミュニケーション論などの見地からグローバル化とその影響について多文化主義を中心に議論します。

### 到達目標

社会科学で形成された文化理論を踏まえ、グローバル化によって生じる多文化社会の特徴を理解する。

### 授業方法

多文化社会に関する文献を参考に、国家主義以降の文化とその影響を個人レベルの体験としてとらえるため、文学やその他の文化的表象に注目する。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 文化と人権(1)
- 第3回 文化と人権(2)
- 第4回 グローバル化の諸相(1)
- 第5回 グローバル化の諸相(2)
- 第6回 文化のローケーション(1)
- 第7回 文化のローケーション(2)
- 第8回 小説の言葉
- 第9回 ポストコロニアル小説(1)
- 第10回 ポストコロニアル小説(2)
- 第11回 多文化社会と文化の政治学(1)
- 第12回 多文化社会と文化の政治学(2)
- 第13回 多文化社会とメディア(1)
- 第14回 多文化社会とメディア(2)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

課題、およびレポートを参考にする。レポート（75%）、授業への参加状況（25%）。

### 教科書

なし

### 参考書

テイラー『マルチカルチュラルリズム』（岩波書店、1996）  
アッシュクロフト『ポストコロニアルの文学』（青土者、1998）

### 参考ホームページ

[aporetic.dyndns.org/moodle](http://aporetic.dyndns.org/moodle)

32351

## 異文化コミュニケーション特講 B-a

担当教員：伊藤 明美

2 単位 前期

### サブタイトル

多文化社会における異文化コミュニケーションの課題と展望

### 授業のねらい

多文化社会における課題を理解し、多文化共生のための知識と態度を獲得する

### 到達目標

1. グローバリゼーション、文化的アイデンティティ、文化変容など、多文化社会における異文化コミュニケーション学の重要事項について理解し、説明ができる。
2. 多文化共生に関わる対人コミュニケーションの基礎的態度について説明ができ、実践にむけた努力ができる。

### 授業方法

- ・講義、学生による調査と発表など
- \* テーマに関わる文献を読み、事前に自らの考えをまとめておくことが求められる。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 異文化コミュニケーション学の重要理論・概念の復習
- 第3回 グローバリゼーションと文化について ①
- 第4回 グローバリゼーションと文化について ②
- 第5回 グローバリゼーションと文化について ③
- 第6回 カルチュラル・アイデンティティについて ①
- 第7回 カルチュラル・アイデンティティについて ②
- 第8回 カルチュラル・アイデンティティについて ③
- 第9回 移民と受入れ社会について ①
- 第10回 移民と受入れ社会について ②
- 第11回 移民と受入れ社会について ③
- 第12回 コミュニケーションの平等について：「国際共通語としての英語」視点から
- 第13回 プレゼンテーション ①
- 第14回 プレゼンテーション ②
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況（含ディスカッションへの参加と発表）40%
- ・レポート 60%

### 履修にあたっての注意

- ・異文化コミュニケーション論 a ならびに b を履修済であること。未履修の場合はそれらの講義と本科目との同時履修が必要。
- ・欠席は1回につき3点の減点とする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要な資料はその都度配布する。

### 参考書

多文化関係学会『多文化社会日本の課題』（明石書店、2011）  
石井敏他『異文化コミュニケーション事典』（春風社、2013）  
駒井洋編『グローバル化時代の日本型多文化共生社会』（明石書店、2006）

戴 エイカ『多文化主義とディアスポラ』（明石書店、1999）  
岩淵功一『多文化社会の「文化」を問う』（青弓社、2010）  
関口知子『在日日系ブラジル人の子供たち』（明石書店、2003）  
Samovar & Porter, *Intercultural Communication* (Wadsworth, 2000)

32361

## 異文化コミュニケーション特講 B-b

担当教員：伊藤 明美

2 単位 後期

## サブタイトル

異文化コミュニケーションとリーダーシップ

## 授業のねらい

- ・異文化コミュニケーション学との関連でリーダーシップを理解し、実践のためのスキルを高める。

## 到達目標

- ・グローバル社会におけるリーダーシップとチームについて理解を深める。
- ・グローバル社会におけるリーダーシップ（グローバルリーダーシップ）を理解する。
- ・グローバル社会におけるコミュニケーション実践力を身につける。

## 授業方法

- ・講義とディスカッションおよびグループ発表

## 授業計画

- 第1回 ・オリエンテーション  
・効果的な自己呈示
- 第2回 多様性について ①
- 第3回 多様性について ②
- 第4回 リーダーシップについて ①
- 第5回 リーダーシップについて ②
- 第6回 文化とリーダーシップについて ①
- 第7回 文化とリーダーシップについて ②
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 チームについて
- 第10回 チームワークについて
- 第11回 グローバルコミュニケーションのためのスキル ①  
(話し方)
- 第12回 グローバルコミュニケーションのためのスキル ②  
(聞き方)
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 コミュニケーション倫理について
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

授業への参加状況（含発表とディスカッション）40%  
試験（レポート）60%

## 履修にあたっての注意

- ・異文化コミュニケーション論 a ならびに b を履修済であること。未履修の場合はそれらの講義と本科目との同時履修が必要。
- ・欠席は1回につき3点の減点とする。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要な資料は都度配布する。

30441

## 情報文化論

担当教員：谷川 靖郎

2 単位 前期

## サブタイトル

情報と社会

## 授業のねらい

情報技術と深く関わる現代社会の中での人々の思考・行動様式を読み解きます。日々進歩する技術の歴史や新たに形成されてきた倫理観、理想や問題点についても考察します。特に知的生産や表現の手段としての情報技術のあり方に焦点を当てていきます。

## 到達目標

情報技術との関わりにおける現代社会の制度や文化の特徴を理解すること、また、さまざまなツールやネットワークを扱うことの意味や問題点を把握し、情報スキルの基礎となるマインドを身に付けることを目指します。

## 授業方法

毎回それぞれテーマを設定して講義を行います。  
紙資料と投影資料を用います。  
毎回、次回の講義のキーワードを提示するので、同時に与えるヒントを参考に、予習を行って下さい。(30~60分)  
有用なクラウドサービスやコラボレーション・ツールも紹介していきますので、利用できる情報機器（PC やスマートフォン）から積極的に活用して下さい（難しい場合はサポートします）。  
課題や質問・意見への応答、アイデアの共有なども、それらのツールを用いて行う予定です。

## 授業計画

- 第1回 ゴーストとリビングデッド：情報化社会の物語
- 第2回 Life Hack (1)：情報機器と仕事術
- 第3回 Life Hack (2)：情報技術と文房具
- 第4回 文書作成システム (1)：粘土板から DTP まで
- 第5回 文書作成システム (2)：LML、Pandoc、Git
- 第6回 Unicode と古代文字
- 第7回 知の集積 (1)：書庫と図書館
- 第8回 知の集積 (2)：ストレージとデジタルアーカイブ
- 第9回 ハッカーと魔法使い
- 第10回 UNIX の歴史と哲学
- 第11回 ソフトウェアの自由とオープンソース運動
- 第12回 インターネットと青鉛筆
- 第13回 通信の秘密と暗号化技術
- 第14回 匿名性と創造性
- 第15回 情報スキルとマインド

## 成績評価の方法

評価の内訳は参加状況(20%)、課題×2(50%)、レポート(30%)とします。

## 履修にあたっての注意

資料データの配布などに学内ネットワークを用いるため、PC など情報機器の基本的な操作ができることが望ましい。  
講義内容に関してはコンピュータの知識を前提としておりません。  
2017 年度以前入学生までを対象とした科目です。一年生(2018 年度入学生)の単位取得はできませんので注意して下さい。

## 教科書・参考書に関する備考

講義には投影資料および紙資料を用意します。  
各回のテーマに関連する参考文献は講義中に紹介します。



30451

## 身体表現論

担当教員：井上 淳生

2単位 後期

### サブタイトル

身体表現の歴史と身体感覚の記述

### 授業のねらい

この講義では、これまでに人間が身体を使ってどのような表現をしてきたのかを扱います。「身体を使った表現」と聞くと、ダンスや演劇が思い浮かびますが、他にも獅子舞や神楽などの民俗芸能も含まれます。さらには、音楽の演奏や日常の中での身ぶりやしぐさなども身体表現の一つと言えます。

では、こういった身体表現はそれぞれどのような背景で現在のよう形になってきたのでしょうか。私たちより先に生きた人達は、身体を通して得られる感覚とどのように向き合ってきたのでしょうか。それらの感覚をどのように表現してきたのでしょうか。そして、これらの身体感覚・表現が作られる過程は、現在を生きる私たちとどのように関係しているのでしょうか。

本講義ではこのような問いを扱います。身体表現に関する様々な事例に触れることを通して、自分自身の身体を複数の角度からとらえ直すことをこの講義では目指します。

### 到達目標

1. 身体表現にはどのようなトピックがあるのかを説明することができる。
2. 日常的な動きから特定のジャンルの表現に至るまで、自分自身が関わる身体表現について、その歴史的背景や身体感覚を自分の言葉で説明することができる。

### 授業方法

教科書は指定しません。毎回スライドやプリント、映像等を使用して身体表現の歴史的背景や論点などについて説明します。基本的に、毎回の授業中にその日のテーマに沿ったミニレポートを課します。参考図書として随時、文献を紹介するので、予習・復習に役立てることを望みます。

### 授業計画

- 第1回 はじめに：身体表現を見る視点
- 第2回 身ぶりとしぐさ
- 第3回 近代化と日本人の身体①：オリンピック
- 第4回 近代化と日本人の身体②：体育と運動会
- 第5回 参加性と作品性：盆踊りとバレエ
- 第6回 儀礼の中の踊り：神楽
- 第7回 踊りとアイデンティティ：先住民アイヌの古式舞踊
- 第8回 2つの身体の融合(1)：社交ダンス
- 第9回 2つの身体の融合(2)：コンタクト・インプロヴィゼーション
- 第10回 拡大する舞台：コミュニティダンス
- 第11回 踊りが規制される時
- 第12回 採点競技としての身体表現：フィギュアスケート・新体操・ダンススポーツ
- 第13回 身体表現の商業化：パフォーマー・スポーツ選手・プロデューサー
- 第14回 身体表現を記録すること
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

平常点(授業への参加状況、授業時間内のミニレポート等)50%、  
期末レポート 50%。

### 教科書

なし

### 参考書

- 三浦雅士『身体の零度－何が近代を成立させたか』(講談社、1994、ISBN：978-4062580311)
- 常光徹『しぐさの民俗学－呪術的世界と心性』(ミネルヴァ書房、2006、ISBN：978-4623046096)
- 丸茂祐佳『おどりの譜－日本舞踊 古典技法の復活』(国書刊行会、2002、ISBN：978-4336044587)
- 芳賀直子『ビジュアル版 バレエ・ヒストリー－バレエ誕生からバレエ・リュスまで』(世界文化社、2014、ISBN：978-4418142170)
- 乗越たかお『ダンス・バイブル－コンテンポラリー・ダンス誕生の秘密を探る』(河出書房新社、2010、ISBN：978-4309272290)

30461

## 造形美術論

担当教員：小林 大

2 単位 後期

### サブタイトル

西洋絵画を通して学ぶ造形美術表現

### 授業のねらい

西洋絵画の鑑賞力と読み解く力を養い自己の独自性と感性を深めることをねらいとする。

### 到達目標

西洋絵画史におけるその時代の主題と画家の半生を学び絵画知識を高めて鑑賞力と観察力を身につける。それにより自分の1点を見つけてその作品と対峙し研究レポートを作成する。

### 授業方法

授業計画に基づきそれぞれのテーマの美術表現を資料と共に講義をする。実技はないが提出してもらう課題とレポートがある。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界三大名画 I 「モナ・リザ」
- 第3回 世界三大名画 II 「夜警」「ラス・メニーナス」
- 第4回 ギリシャ神話
- 第5回 キリスト教美術 I 「旧約聖書」
- 第6回 キリスト教美術 II 「新約聖書」
- 第7回 ブリュッゲルの絵画から見る中世
- 第8回 レンブラントの生涯
- 第9回 印象派の画家たち I 「マネとモネ」
- 第10回 印象派の画家たち II 「ゴッホとゴーギャン」
- 第11回 セザンヌの絵画と挑戦
- 第12回 好きな絵を見つけよう
- 第13回 西洋絵画美術史
- 第14回 視覚要素の体系化
- 第15回 現代美術への道

### 成績評価の方法

到達目標を測定するレポート（50％）小課題の評点（20％）授業への取り組み方による総合的判断（30％）

### 履修にあたっての注意

授業計画は変更する場合がある。  
配布資料は授業に必須。各自クリアファイルを購入する。（A4サイズ、40ポケット、108円～）

### 教科書

なし

30471

## 映像表現論

担当教員：久保 俊哉

2 単位 前期

### サブタイトル

映像の本質的な表現とその受け止め方。映像言語／映像の文法／映像の仕組み／映画の見方

### 授業のねらい

映像の仕組み、映像の文法など普段意識しない構造から、その制作過程、その表現の受け手に与える印象効果などを実際の映像を通して理解し、映像言語や、その先にある製作者の意図や社会的な意味を学習する。

### 到達目標

毎回の授業の中では、映像表現などに関する自分なりの発見や気づきを発表（回答）出来る事と、最終的には、今まで何気なく見ていた映像の意味を理解し、その制作過程から、メディアリテラシー（映像をひもとく力）を獲得する。また、映像に対する感想意見、解釈などが発表できることを目標とする。（昨年、多くのレポートがインターネットから拾ってきた一般論を述べている事が多かったため、「自分の気づき・解釈」を重要視したい）

### 授業方法

- 授業の形態や進め方：教室入室時に出席カードを配布します。授業のはじめに、その日の授業内容を簡単に説明します。その後、参考例としての映像を見せ、学生にはその感想を述べてもらいます。基本的に質問を多く求めますので、挙手をお願いします。最後に、各自、出席カードの裏にその日の授業の感想を書いてもらいます。出席と同時にその授業をどのように受け止めていたかを確認する為です。
- 授業計画の概要：世の中にあふれる映像の世界を、メディアとは何か？歴史から仕組み、映像言語、メディアリテラシーやジャーナリズム、そして進化する映像の未来までを総合的に解説。最終的には映像表現を作る側からも鑑賞する側からも理解出来るようにします。
- それぞれの授業では、基本的に以下のような構成で行う予定です。
  - 1、今日の授業内容の説明
  - 2、映像鑑賞
  - 3、生徒への質問
  - 4、その日の授業への質疑／応答
  - 5、後解説
  - 6、出欠カードの提出（裏面に授業感想を書いてもらう）

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 映像メディアとは？
- 第3回 映画の歴史
- 第4回 映像の仕組み
- 第5回 映像理論（モニタージュ理論）
- 第6回 映像理論（撮影論）
- 第7回 映像理論（ドラマツルギー）
- 第8回 映像ジャーナリズム(1)
- 第9回 映像ジャーナリズム(2)
- 第10回 次世代映像論（ゲーム）
- 第11回 次世代映像論（インタラクティブ）
- 第12回 映像鑑賞批評(1)
- 第13回 映像鑑賞批評(2)
- 第14回 映像鑑賞批評(3)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

試験あるいはレポート（60%）と授業への参加状況（40%）によって評価します。

### 履修にあたっての注意

講義において指摘した参考文献を読み（もしくは映像を鑑賞し）、理解を深めてください。

また、各自の考えの発表・発言は重要ですので、相互（学生同士・対教師共）のコミュニケーションに努めてください。＜出席カードの裏面に授業感想・気づきなどを書きこんでもらう＞日頃から映像や様々なメディアに関心を持っている学生の受講を希望します。

尚、3分の1以上欠席した者は放棄したものと見なします。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：使用しません。必要に応じプリントを配布します。  
参考書：適宜指摘します。

## サブタイトル

（国際）政治学から読み解く現代日本

## 授業のねらい

本授業は、現代日本の課題と特に関連する論点を中心に、政治学と国際政治学の知見についての講義を行う。日頃のニュースで一般的に用いられる言葉（政党、官僚、福祉、デモクラシー……）が私たちの社会の中でどのような役割を果たしているのか、そしてどのような意義を持つものなのかを、政治学および国際政治学という学問的見地から説明していく。

民主社会である現代日本において、政治とは、私たち全員の生活全般に影響を及ぼす事象であるのみならず、私たち全員が影響力を行使することができる（しなければならない）事象でもある。〈私たちの生き方を規定する制度・ルールは、私たちの政治的な生き方・態度によって形成される〉この点を意識しながら、本授業では、私たちの政治的な生き方・態度に役立つ一つの学問としての政治学と国際政治学について、学習する機会を提供していきたい。

## 到達目標

- (1)政治学および国際政治学における基本的な用語や標準的な議論についての知識を獲得することができる。
- (2)現代の政治的課題とそれにまつわる意見の相違について理解し、説明することができる。
- (3)政治学および国際政治学の知識を参照することで、政治的課題に対して自らの見解を説得的に提示していくための力が身につけられる。

## 授業方法

授業は講義形式で行う。定期的リアクションペーパーを提出してもらい、次の講義回にてコメントする。中間課題として、現代の政治的課題について学生各自の興味関心に沿ってレポート作成（2000字程度）をしてもらい、その総評を第14回にて行う。

予習：各回で取り上げるテーマやそれに関連した実際の問題について、(1)日々のニュースや官公庁の発表について目を通しておく。(2)そうした問題について、自身がどのような見解を抱いていると言えるのかを熟考してみる。(3)下記の参考書をはじめとした政治学の教科書などを読み進め、政治学による標準的な説明や知識についてある程度理解を進めておく。(目安1-2時間)

復習：各回で取り上げたテーマについて、(1)そこで示した複数の説明や主張に対して、自らがどのように受け止めたのかを振り返って考える作業を行う。(2)それらの説明や主張に対して批判的に検討していけるよう、関連する教科書の記述や政治学の専門書（授業の中で適宜紹介する）を読み進めてみる。(目安1-2時間)

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——政治とは何か？ それを私たちが学ぶ意義とは何か？
- 第2回 権力・国内社会・国際社会——権力概念と国内外の政治
- 第3回 現代日本の政治——戦後政治史と現代の国際社会から見た日本政治
- 第4回 政党と政党制——政党の質と数の違いは何を意味するのか
- 第5回 選挙制度——代表を選ぶ仕組みはどうして重要なのか
- 第6回 官僚制(1)——政策形成過程における官僚の役割
- 第7回 官僚制(2)——市民や政治家はどのように行政組織と関わっているのか
- 第8回 利益団体——利益団体や民間企業はどのように政治に関与するのか
- 第9回 市民の政治参加——社会運動のあり方と投票行動につ

- 第10回 いて  
デモクラシーの二つの見方——熟議デモクラシーとは何か
- 第11回 福祉政治——グローバル化した現代における社会保障の課題は何だろうか
- 第12回 市場と国家——国家の役割と格差をめぐる（国際）政治理論
- 第13回 国内／国際政治——国内政治と国際政治との相互作用の重要性
- 第14回 現代政治の重要論点——学生のレポートへのフィードバックと論点の共有、検討
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定として、定期配布のリアクションペーパーの記述（10%）。到達目標(2)の測定として、レポート提出（30%）。到達目標(3)の測定を主として、定期試験（60%）。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業ではプリントを毎回配布し、それに沿って講義を行っている。参考書については、以下の文献をはじめとした政治学の標準的な教科書（記載した文献以外にも多数ある）のいずれか一冊を購入しておくことを、強く推奨する。

## 参考書

- 川出良枝 他（編）『政治学』（東京大学出版会、2012、ISBN：978-4130322195）  
 久米郁男 他（編）『政治学 補訂版』（有斐閣、2011、ISBN：978-4641053779）  
 建林正彦 他（編）『比較政治制度論』（有斐閣、2008、ISBN：978-4641123649）  
 砂原庸介 他（編）『政治学の第一歩』（有斐閣、2015、ISBN：978-4641150256）



## サブタイトル

現代世界の政治とグローバル正義論

## 授業のねらい

本授業では、国際関係論（国際政治学）の知見にもとづく説明を通じて、現代世界がどうなっているのか、その諸問題は何であるのかを学んでいく。それとともに、近年、欧米圏をはじめ世界的に研究の盛んな、グローバル正義論の基本的な知見を通じて、現代世界がどうあるべきか（どうであってはならないのか）を考えていく。

あらためて言うまでもなく、ヒトやモノ、資金、情報の越境的な移動の迅速化による世界の一体化——グローバル化——は、今を生きる私たちがすでに直面し、これからそれぞれへの対応が迫られる事象である。そうした中で、国境を越えた他者との相互交流の機会はますます増大し、一国社会では解決困難な様々な諸問題も生じている。以上を踏まえて、本授業では、私たちと国境を越えた他者との共生のあり方や、共に取り組まなければならないグローバルな課題についての理解を深めるべく、学術的な知見を活かした能動的な学習をはじめめるためのきっかけとなる機会を提供していきたい。

## 到達目標

- (1) グローバル化した現代世界の諸問題についての基本的な知識を獲得し、自らと異なる他者とともに抱えている共通の課題についての理解を深めることができる。
- (2) 国境を越えた他者との関係について論じてきた学問的な探求の仕方を学ぶことで、そうした関係性をめぐる思考力を養うことができる。
- (3) 自分の問題関心や見解を説得的に伝達するための、学術的な手法を身につけることができる。

## 授業方法

授業は講義形式にて行う。定期的にリアクションペーパーを配布し、そこでの疑問点や感想についてのコメントを次の講義にて行う。

授業で扱うテーマや文献に関するレポート（4000字程度）を期末試験として課す。その前段階として、提出予定のレポートのプロポーザル（レポート計画書）を各自に準備してもらい、第14回目の授業時間やオフィスアワーの時間を用いて、学生個別の面談の機会を設ける。その中で、各自のプロポーザルを検討し、そのままレポート執筆を進めて良いかどうかのチェックを行う。その際、必要に応じて計画の修正や、プロポーザルの再提出を要求する場合がある。

予習：各回で取り上げるテーマやそれに関連した実際の問題について、(1)日々のニュースや官公庁の発表について目を通しておく。(2)そうした問題について、自身がどのような見解を抱いていると言えるのかを熟考してみる。(3)下記の参考書をはじめとした国際関係論の教科書や入門書を読み進め、この分野における標準的な説明や知識についてある程度理解を進めておく。(目安1-2時間)

復習：各回で取り上げたテーマについて、(1)そこで示した説明や主張に対して、自らがどのように受け止めたのかを振り返って考える作業を行う。(2)それらの説明や主張に対して批判的に検討していけるよう、関連する教科書の記述や国際関係論の専門書（授業の中で適宜紹介する）を読み進めてみる。また、取り上げたオリジナルの文献についても、自らの興味関心に沿って講読してみる。(目安1-2時間)

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——今の私たちが国際関係論、グローバル正義論を学ぶことの意義
- 第2回 現代世界と日本——今の世界の現状と、日本の国際的な取り組み
- 第3回 国際的な対立と平和的な共存(1)——国際政治学にお

- 第4回 国際的な対立と平和的な共存(2)——国際政治学におけるリベラリズムによる説明
- 第5回 平和と戦争について考える——日本の平和主義と安全保障
- 第6回 理想の社会と政治理論——グローバル正義論の予備作業としての社会正義論
- 第7回 J・ロールズの『万民の法』(1)——リベラルでない社会への寛容論と民主的平和論
- 第8回 J・ロールズの『万民の法』(2)——援助の義務、戦争や介入に関する正義
- 第9回 ロールズの国際正義への反論(1)——国際援助だけで十分なのか
- 第10回 ロールズの国際正義への反論(2)——遠く離れた見知らぬ人への道徳的義務
- 第11回 基本的人権と人間の安全保障——国際関係における人権の意義
- 第12回 私は世界の中でどう行為すべきなのか？——功利主義的な倫理学とグローバル社会
- 第13回 国を分かつ境界線をどう考えるべきか？——移民や国境をめぐる基本的問題
- 第14回 レポート作成に向けた学生提出のプロポーザルの検討
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定にあたる定期配布のリアクションペーパーの記述(20%)。到達目標(2)と(3)の測定にあたる期末レポート(80%)。

## 履修にあたっての注意

「政治学（国際政治学）入門」も履修することが望ましい。本講義は、「国際関係論」や「国際関係論特講A」の履修に向けた入門的な科目として位置づけられている。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業では毎回プリントを配布し、それに沿って講義を行う。下記の参考書（記載したもの以外にも多数ある）をはじめとした、授業に関連する教科書、入門書のいずれかを少なくとも一冊は手元に置いておくこと。

## 参考書

- 村田晃嗣 他(編)『国際政治学をつかむ 新版』(有斐閣、2015、ISBN: 978-4641177222)
- 山田高敬 大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論 新版』(有斐閣、2011、ISBN: 978-4641049888)
- 田村哲樹 他(編)『ここから始める政治理論』(有斐閣、2017、ISBN: 978-4641150423)
- 押村高『国際正義の論理』(講談社、2008、ISBN: 978-4062879613)
- 馬淵浩二『貧困の倫理学』(平凡社、2015、ISBN: 978-4582857702)



## サブタイトル

コスモポリタニズムとナショナリズム

## 授業のねらい

本授業では、人びとの抱く「われわれ」意識と深く関連している二つの思想——コスモポリタニズムとナショナリズム——を取り上げ、その内容と現代世界との関連性について論じていく。特に、この二つの思想が、現実の国際政治や人びとの相互関係に対して、そしてグローバルな不平等に対してどういった含意を持っているのかを検討していく。

大まかに言って、コスモポリタニズムとは、世界の全人類を同胞とみなす考え方であるとみなすことができる。それに対してナショナリズムとは、同国人という同胞意識を重視する考え方であるといえる。グローバリゼーションの進んだ現代においては、一方で、コスモポリタニズム的な問題把握や行動様式の意義が強調されつつも、他方で、ナショナリズムを唱道する政治運動や政策が行われていることも見て取ることができる。本授業では、現代世界の国際関係や各国の異同を、この二つの政治思想の観点を手がかりとして検討していく。それによって、それぞれの思想の意義と限界とを見定める力を養い、それとともに、私たちの国家や世界への理解の従来の理解を反省的に眺めるための機会を提供していきたい。

## 到達目標

- (1)現代世界の二つの思想潮流——コスモポリタニズムとナショナリズム——の生成の歴史と内容について理解することができる。
- (2)コスモポリタニズムとナショナリズムそれぞれの意義と限界とを検討することで、複眼的に世界を考察することが可能となる。
- (3)現実世界の人びとの交流や経済格差について、二つの政治思想からどのような主張が導き出されるのかを批判的に検討することが可能となる。

## 授業方法

授業は講義形式にて行う。内容理解の確認とフォローアップを兼ねて、リアクションペーパーを定期的に提出してもらい、それへのコメントを次回の講義時に行う。

予習：各回のキーワードが何を意味するのかについて確認しておくとともに、それらについての自身の見解について簡単に整理しておく。(目安 0.5-1 時間) また、全般的な予習として、政治学の教科書等で、「コスモポリタニズム」や「ナショナリズム」の意味するものについて把握しておくこと。

復習：配布したプリントを読み直してみるとともに、関連する文献を自身で読み進めてみる。その際、そうした読解や授業の受講を踏まえて、自身の見解がどうであると説明できるのか、あらためて熟考してみる。(目安 3 時間)

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション——コスモポリタニズムとナショナリズムを学ぶ意義
- 第2回 コスモポリタニズムの歴史(1)——西欧思想の中のコスモポリタニズム
- 第3回 コスモポリタニズムの歴史(2)——カントの世界市民法と国際社会の平和
- 第4回 現代のコスモポリタニズム(1)——文化として理解するのか、政治として理解するのか
- 第5回 現代のコスモポリタニズム(2)——世界中の誰もが享受すべき財とは何か
- 第6回 現代のコスモポリタニズム(3)——グローバルな不平等への対抗
- 第7回 現代のコスモポリタニズム(4)——越境的なデモクラシーの可能性
- 第8回 中間考察——国際政治におけるコスモポリタニズムの

- 第9回 現代的意義と課題  
ナショナリズムの歴史(1)——国民国家とナショナリズム
- 第10回 ナショナリズムの歴史(2)——日本におけるナショナリズム
- 第11回 なぜナショナリズムが求められたのか
- 第12回 ナショナリズムと国内政治——リベラル・ナショナリズムという考え方
- 第13回 ナショナリズムと国際政治——多様性の尊重か個人の抑圧か
- 第14回 ナショナリズムとポピュリズム——現代政治におけるナショナリズムの意義と課題
- 第15回 授業のまとめと補足

## 成績評価の方法

到達目標(1)の測定を主として、定期配布のリアクションペーパーの記述(20%)。到達目標(2)と(3)の測定として、定期試験(80%)。

## 履修にあたっての注意

「政治学(国際政治学)入門」の履修をしておくことが望ましい。なお、本講義の履修は、「国際関係論入門」、「国際関係論」、その他の「国際関係論特講 A」の理解を進める上で有用となる。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

授業は毎回配布のプリントに沿って行う。下記の参考書については、いずれか一冊でも読了しておくこと、本講義の内容理解にとって極めて有用となる。自身の問題関心に沿って部分的に参照するだけでも、理解を大いに促進するだろう。

## 参考書

- 古賀敬太『コスモポリタニズムの挑戦』(風行社、2014、ISBN: 978-4938662745)  
 千葉真『連邦主義とコスモポリタニズム』(風行社、2014、ISBN: 978-4938662752)  
 塩川伸明『民族とネイション』(岩波書店、2008、ISBN: 978-4004311560)  
 デイヴィッド・ミラー『国際正義とは何か』(風行社、2011、ISBN: 978-4862580238)

32651

## 国際関係論特講 A-d

担当教員：上原 賢司

2 単位 後期

### サブタイトル

世界の貧困やジェンダー格差と私たちの関係性

### 授業のねらい

本授業では、〈開発途上国における貧困問題や人権問題、そしてジェンダーによる格差といった問題に対して、私たちはいかに向き合うべきなのか〉というテーマを設定し、この問いに特に取り組んできた国際関係論や政治理論の知見について解説していく。特に、自分たちとは別の国に生活している困窮者と、比較的豊かな暮らしを営んでいる私たちとが、どのような関係性で結ばれていると考えられるのかを検討する。

現在、絶対的貧困の根絶に向けたグローバルな取り組みはすでに進行中であるが、この目標達成の重要性についての日本における関心の共有は不十分である。また、ジェンダー格差の根深さは、開発途上国と日本とに共通している政治的課題でもある。本授業では、これら問題に対する学問的知見を手がかりとして、私たちの直面している課題についての認識を深めるとともに、自分たちと世界との関係性を顧みるための機会を提供していきたい。

### 到達目標

- (1) 開発途上国の貧困やジェンダー格差について扱っている、国際関係論や現代政治理論についての発展的な知識を獲得することができる。
- (2) 自らの日常生活のあり方を、国際関係の枠組みの中で捉えなおす視角を得ることができる。
- (3) 現代世界の人びとの交流や経済格差について、現状の理解に加えて、規範的観点から考察していく力を身につけることができる。

### 授業方法

授業は講義形式にて行う。内容理解の確認とフォローアップを兼ねて、リアクションペーパーを定期的に提出してもらい、それへのコメントを次回の講義時に行う。

予習：各回のテーマに沿って、関連するキーワードが何を意味するのかを確認しておく。加えて、政治学の標準的な教科書等を参照して、各テーマやそこで取り上げる問題がどのように論じられているのかを抑えておくこと。(目安1時間)

復習：配布したプリントや資料を読み直すとともに、下記の参考書や関連する文献を自らも読み進めてみる。授業や文献読解を踏まえて、自分の見解を見つめなおし、それを現実の時事問題と照らし合わせてみる。 (目安3時間)

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション——絶対的貧困とジェンダー格差に目を向ける意義
- 第2回 現状を確認する(1)——世界の貧困とジェンダー格差
- 第3回 現状を確認する(2)——様々なレベルでの取り組み
- 第4回 国際関係論の中のフェミニズム概論
- 第5回 開発とジェンダー格差
- 第6回 ケイパビリティ・アプローチとは何だろうか
- 第7回 同意しているのだからそれで良いのか?——順応的選好という問題
- 第8回 家族と国家の関係とは
- 第9回 ケイパビリティ・アプローチのグローバル正義論(1)——M・ヌスバウム
- 第10回 ケイパビリティ・アプローチのグローバル正義論(2)——A・セン
- 第11回 貧困はどこまで個人の自己責任なのか
- 第12回 社会構造の中でつながる私たち
- 第13回 越境的につながる私たち
- 第14回 私たちの問題として考える——国際社会と日本の責任
- 第15回 授業のまとめと補足

### 成績評価の方法

到達目標(1)の測定を主として、定期配布のリアクションペーパーの記述(20%)。到達目標(2)と(3)の測定を主として、定期試験(80%)。

### 履修にあたっての注意

「政治学(国際政治学)入門」と「国際関係論入門」の履修をしていることが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業は配布のプリントに沿って行う。

参考書について。No 1 と No 2 は、本講義でその内容を解説していくことになる重要文献である。可能な限り、学生各自でも同時並行的に読み進めてみてほしい。No 3 と No 4 は、本講義と関連する論考が載っている論文集であり、理解の促進に役立つだろう。

### 参考書

- アイリス・マリオン・ヤング『正義への責任』(岩波書店、2014、ISBN: 978-4000259637)
- マーサ・C・ヌスバウム『女性と人間開発』(岩波書店、2005、ISBN: 978-4000234153)
- 姜尚中 齋藤純一(編)『逆光の政治哲学』(法律文化社、2016、ISBN: 978-4589037619)
- 内藤正典 岡野八代(編)『グローバル・ジャスティス』(ミネルヴァ書房、2013、ISBN: 978-4623065974)

32681

## 国際関係論特講 B-c

担当教員：大場 崇代

2単位 前期

### サブタイトル

国際関係における紛争とその解決 1

### 授業のねらい

この講義は国際関係上のさまざまな紛争（対立）について学ぼうとするものです。

### 到達目標

国際関係上の紛争に関する基礎的な問題や理論について大まかに理解できます。

### 授業方法

講義形式で行い、原則として一回に一つのテーマをとりあげます。

### 授業計画

- 第1回 国際体系 1 近代まで
- 第2回 国際体系 2 19世紀以降
- 第3回 国際関係の構造 1 国家
- 第4回 国際関係の構造 2 国家権力
- 第5回 国際関係における対立 1 対立の契機
- 第6回 国際関係における対立 2 アナーキーな世界
- 第7回 国際的危機の管理 1 伝統的な危機管理
- 第8回 国際的危機の管理 2 予防外交
- 第9回 国際的危機の回避 1 戦争の限定
- 第10回 国際的危機の回避 2 キューバ危機を例として
- 第11回 国際的危機の回避 3 キューバ危機を例として
- 第12回 外交方針 同盟
- 第13回 国際紛争の原因 1
- 第14回 国際紛争の原因 2
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

定期試験（70%）、小テスト（20%）、講義への参加の態度など（10%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

講義中に予告なく小テストを行うので、ノートは常に整理しておくことが望ましいでしょう。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：講義中に適宜紹介します。

32691

## 国際関係論特講 B-d

担当教員：大場 崇代

2単位 後期

### サブタイトル

国際関係における紛争とその解決 2

### 授業のねらい

この講義は国際関係における紛争の解決について学ぼうとするものです。

### 到達目標

ヨーロッパを中心とした国際関係上の紛争およびその解決について、基礎的知識があり自分で考えることができます。

### 授業方法

講義形式で行い、原則として一回に一つのテーマを取り上げます。

### 授業計画

- 第1回 紛争の過程
- 第2回 戦争
- 第3回 武力衝突と軍事システム
- 第4回 外交と調整 ①外交
- 第5回 外交と調整 ②外交と経済 i 問題
- 第6回 外交と調整 ③外交と経済 ii 体制の変化
- 第7回 国際社会への適応
- 第8回 20世紀以降の平和論 ①集団安全保障
- 第9回 20世紀以降の平和論 ②冷戦後の安全保障
- 第10回 安全への脅威 ①民族紛争
- 第11回 安全への脅威 ②ジェンダー
- 第12回 安全保障への脅威 ③兵器の拡散
- 第13回 安全保障への脅威 ④テロリズム
- 第14回 国際紛争の今 解決策とは
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

定期試験（70%）、小テスト（20%）、講義への参加度など（10%）により総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

講義中に予告なく小テストを行いますので、ノートは常に整理しておくことが望ましいでしょう。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義中、適宜紹介します。

### 参考書

なし

32721

## 基礎法学 B-a (民法)

担当教員：上机 美穂

2 単位 前期

## サブタイトル

民法を学ぶ (民法の基本・権利の主体・親族・相続)

## 授業のねらい

民法は、日常生活の中の「財産行為」「身分(家族)行為」について規定する、わたくしたちの日常生活と直結する法です。民法の規定する事柄は多岐に渉るため、全項目を詳細に学ぶには時間的な制約もあります。

そこでこの授業では、まず民法の基本構造、基本原則などを学びます。そのうえで、「法律行為」「財産行為」「身分行為」の基本を現代的な問題をまじえながら学んでいきます。

## 到達目標

民法の基礎知識を身につけるとともに、具体的な事例などを考えることによって、法的観点から、日常生活における課題を解決する能力を養い、現在そして将来の生活に役立てることを目標とします。

## 授業方法

民法の基礎知識、および重要な論点を中心に、講義形式により説明します。民法は、一見すると皆さんからは遠い存在かもしれませんが、実はとても身近な法です。そこで、現代的な問題を紹介するなかで、皆さんの意見なども取り入れながら、講義を進行したいと思います。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス (民法とは?)
- 第2回 民法の基本原則と構造 他の法との関係
- 第3回 権利と義務 権利の主体(1)~民法における「人」とは?
- 第4回 権利の主体(2)~未成年者・成年後見
- 第5回 民法が関係する諸問題と現代的課題①不法行為
- 第6回 不法行為(1)損害賠償
- 第7回 不法行為(2)慰謝料
- 第8回 民法が関係する諸問題と現代的課題②夫婦関係 家族とは
- 第9回 夫婦(1)婚姻と内縁関係
- 第10回 夫婦(2)離婚
- 第11回 民法が関係する諸問題と現代的課題③親子関係 親子関係(1)実子と養子
- 第12回 親子関係(2)親権
- 第13回 民法が関係する諸問題と現代的課題④相続 相続とは何か
- 第14回 相続(1)相続人・法定相続・相続の効力
- 第15回 相続(2)遺言

## 成績評価の方法

期末試験 (70%)、授業への参加状況 (30%) により評価します。

## 履修にあたっての注意

この科目を履修する方は、後期開講予定の基礎法学 B-b も同時に履修することが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は、初回開講時に指示します。必要に応じてプリント (レジュメ・参考資料) を配布します。できれば六法 (セレクト六法・ポケット六法など) を準備することを希望します。参考書は、適宜紹介します。

32731

## 基礎法学 B-b (民法)

担当教員：上机 美穂

2 単位 後期

## サブタイトル

民法を学ぶ (財産、契約、消費者保護)

## 授業のねらい

わたくしたちの日常生活を規律する法は民法です。民法の内容としては、財産に関する分野と家族に関する分野があります。この授業では、主に財産法と不法行為法について講義します。はじめに、社会生活を送るうえで欠かせない、つまり、物を買ったり買ったり、部屋を貸したり借りたり、金銭を貸したり借りたり、といった関係を規律する契約法について学びます。つぎに、われわれが日常生活のなかで行う取引について、実際に生じた消費者問題、消費者相談事例等を紹介しながら消費者に関する法律について講義します。さらに、他者から不利益を被った場合の救済方法について学びます。

## 到達目標

この授業では、財産法と不法行為法に関する基礎知識を身につけるとともに、契約に関する具体的な事例や消費者に関する問題も考えることによって、日常生活におけるさまざまな課題を解決する能力を養い、職業人としてのルールを学ぶとともに、家族の財産を守る力を培います。

## 授業方法

民法の財産に関する分野のなかでも重要な論点を中心に、原則、講義形式により解説しますが、現代的な問題について考える授業も展開したいと思います。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス (日常生活と民法)
- 第2回 契約とは何か
- 第3回 契約の成立(1)成立過程と問題点
- 第4回 契約の成立(2)契約意思の不存在 (心裡留保・虚偽表示・錯誤)
- 第5回 契約の成立(3)契約意思への不当な関与 (詐欺・強迫)
- 第6回 契約の効力と契約違反 (解除・取消、損害賠償)
- 第7回 契約の種類(1)売買契約の構造
- 第8回 契約の種類(2)売買契約と瑕疵担保責任
- 第9回 契約の種類(3)借金 (金銭消費貸借) 契約・保証契約
- 第10回 契約の種類(4)賃貸借契約
- 第11回 消費者法と消費者保護
- 第12回 不法行為法(1) 現代的な問題から見る不法行為
- 第13回 不法行為法(2) 被害者の救済
- 第14回 不法行為法(3) 名誉毀損
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

期末試験 (70%) と授業への参加状況 (30%) により評価します。

## 履修にあたっての注意

基礎法学 B-a を履修することが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

【教科書】開講時に指示します。必要に応じてプリント (講義レジュメ・資料) を配付します。六法を用意することが望ましい (ポケット六法 (有斐閣) やセレクト六法 (岩波書店) 等で十分です)。その他、参考書等は、授業のなかで、適宜指示します。



32741

## 基礎法学 C-a (国際関係法)

担当教員：小林 友彦

2 単位 前期

### サブタイトル

グローバル化に伴って、私たちの生活に国際ルールがどのように影響するのか

### 授業のねらい

疎遠に感じられるかもしれませんが、国際法は私たちの生活や職業にさまざまな形で関わってきています。その基本的性質と現代的課題をバランス良く把握できるようにすることが本授業のねらいです。

### 到達目標

法学に初めて触れる方が大半であることを想定して、以下の3点を目標とします。

1. 国際法に関する基本的な用語の意味を把握することができる。
2. 国際法に関わる現代的な論点について、バランスのとれた把握ができる。
3. グローバル化する社会において国際法が果たす役割（とその限界）について、平易な言葉で説明することができる。

### 授業方法

取り上げる具体的なテーマは、履修者の興味関心に応じて決定します。それぞれのテーマについて、担当教員が概説したのち、履修者同士でグループワークしたりディベートしたりすること等を通して、理解を深めます。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：国際法を学ぶことにどのような意義があるのか
- 第2回 国際法は国内の法制度・文化・歴史とどのように関係するのか
- 第3回 国際法の基本原則
- 第4回 国際法に関わる現代的な課題の概観：環境保護・経済統合・人権保障・安全保障など
- 第5回 具体的テーマ1 [国家とは何か] (仮) (\*実際には履修者の希望に応じて決定します。以下同じ。):(1)総論[国家の成立要件の確認]
- 第6回 具体的テーマ1 :(2)各論[国家はどのような権利と義務を持つのか]
- 第7回 具体的テーマ1 :(3)現代的課題の検討[「イスラム国」の法的地位]
- 第8回 中間テスト (授業の進捗や履修者の希望等に応じてレポートや研究発表に変更の可能性あり)
- 第9回 中間テストの正答確認と振り返り
- 第10回 具体的テーマ2 [「気候変動」]に対して何が出来るか :(1)総論[全世界的な課題について国際ルールを定めるにはどのような手続が必要か]
- 第11回 具体的テーマ2 :(2)各論[パリ協定は何を定めているのか]
- 第12回 具体的テーマ2 :(3)現代的課題の検討[米国脱退後のパリ協定にどのような実効的な効果があるのか]
- 第13回 国際法の作り方：国際ルール形成における「交渉」の機能
- 第14回 特論 (その時点で世間の注目を集めている話題についての解説) (または希望する学生による自主発表)
- 第15回 総括的な討論：これまでに扱った論点についての振り返り

### 成績評価の方法

試験 (70%) (\* 中間試験を行う場合は中間試験 (20%) と最終試験 (50%)) 及び授業時間中の能動的貢献 (\* 能動的貢献とは、授業時間中の質問・発言・グループワークなどへの参加を指します)

### 履修にあたっての注意

法学に大学で初めて触れる方が大半であるものと想定していません。事前知識がなくても支障ありません。ご自身の感じたことを発言・質問などの形で表現すると参加点がつきますので、解説を聞くだけでなく、積極的に発信することを奨励します。

### 教科書

森川幸一他『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く 32講』(岩波書店、2016、ISBN : 978-4000229555)

### 教科書・参考書に関する備考

履修確定前に購入する必要はありません。

### 参考書

林誠司編『カリンと学ぶ法学入門』(法律文化社、2015、ISBN : 978-4589036568)

### 参考ホームページ

小林友彦 (小樽商科大学ウェブサイト)  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/~kobayashi/> (参考用です)



32751

## 基礎法学 C-b (国際関係法)

担当教員：小林 友彦

2単位 後期

### サブタイトル

グローバル化に伴って、私たちの生活に国際ルールがどのように影響するのか(各論)

### 授業のねらい

国際法は私たちの生活や職業にさまざまな形で関わっています。その基本的性質と現代的課題をバランス良く把握できるようにすることが本授業のねらいです。

### 到達目標

以下の3点を目標とします。

1. 国際法に関する基本的な用語の意味を把握することができる。
2. 国際法に関わる現代的な論点について、バランスのとれた把握ができる。
3. グローバル化する社会における現代的な国際法上の論点について、平易な言葉で説明することができる。

### 授業方法

取り上げる具体的テーマは、履修者の興味関心に応じて決定します。それぞれのテーマについて、担当教員が概説したのち、履修者同士でグループワークしたりディベートしたりすること等を通して、理解を深めます。

### 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | オリエンテーション：国際法は私たちの生活・職業・社会にどのように影響するのか                                    |
| 第2回  | 基本事項の確認(「国家」とは、国際法の法的性質、国際法の意義と限界など)                                      |
| 第3回  | 国際法が関わる現代的な課題の概観：環境保護・経済統合・人権保障・安全保障など                                    |
| 第4回  | 具体的テーマ1 [国際法の規律対象] (仮) (*実際には履修者の希望に応じて決定します。以下同じ。):(1)総論[国際法はなぜ拘束力を持つのか] |
| 第5回  | 具体的テーマ1:(2)各論[国際法の遵守確保の仕組み]   |
| 第6回  | 具体的テーマ1:(3)現代的課題の検討[日本が未承認の北朝鮮には、国際法を適用しなくてよいのか]                          |
| 第7回  | 中間試験(授業の進度や履修者の希望等に応じてレポートや研究発表に変更の可能性あり)                                 |
| 第8回  | 中間試験の正答確認と振り返り  |
| 第9回  | 具体的テーマ2 [領土問題を国際法で処理できるか]:(1)総論[領土の範囲の決め方]                                |
| 第10回 | 具体的テーマ2:(2)各論[これまでの領土問題の処理事例]   |
| 第11回 | 具体的テーマ2:(3)現代的課題の検討[共同経済活動はどのような効果を持つのか]                                  |
| 第12回 | 具体的テーマ3 [日本の経済統合]:(1)総論[「自由貿易」と「保護貿易」]                                    |
| 第13回 | 具体的テーマ3:(2)各論[経済連携協定/自由貿易協定(EPA/FTA)の適用に関わる諸問題]                           |
| 第14回 | 具体的テーマ3:(3)現代的課題の検討[現在交渉中の経済連携協定の課題]                                      |
| 第15回 | 総合的な討論：これまでに扱った論点についての振り返り  |

### 成績評価の方法

試験(70%)(\*中間試験を行う場合は中間試験(20%)と最終試験(50%))及び授業時間中の能動的貢献(\*能動的貢献とは、授業時間中の質問・発言・グループワークなどへの参加を指します)

### 履修にあたっての注意

国際法についての事前知識がなくても支障ありません。ご自身の感じたことを発言・質問などの形で表現すると参加点がつきましますので、解説を聞くだけでなく、積極的に発信することを奨励します。

### 教科書

森川幸一他『国際法で世界がわかる—ニュースを読み解く32講』(岩波書店、2016、ISBN:978-4000229555)

### 教科書・参考書に関する備考

履修確定前に購入する必要はありません。

### 参考書

小林友彦他『WTO・FTA 法入門：グローバル経済のルールを学ぶ』(法律文化社、2016、ISBN:978-4589037220)

### 参考ホームページ

小林友彦(小樽商科大学ウェブサイト)  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/~kobayashi/>(参考用です)

32761

## 法学特講 A-a (コミュニケーションと法)

担当教員：真鶴 俊喜

2単位 前期

### サブタイトル

情報伝達の自由の理論と現代的課題

### 授業のねらい

「情報」に関する法的、制度的な基礎知識とくに表現の自由についての必要な理解をふまえ、「情報」にまつわる現代の具体的な法問題を考えること。

### 到達目標

現代、日本国憲法下の日本における言論の自由の法理をおさえ、関連する様々な問題を考える力を身につける。

### 授業方法

当授業は講義形式で行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 言論の自由をめぐる憲法上の論点概説－主として規制根拠に着目して
- 第3回 表現の自由の価値
- 第4回 表現の自由と二重の基準論
- 第5回 表現の自由の現代的內容
- 第6回 プライバシーと表現の自由
- 第7回 報道の自由の法理
- 第8回 報道の自由の保障とマスメディア
- 第9回 青少年保護条例と表現の自由規制
- 第10回 情報公開と表現の自由
- 第11回 象徴的表現をその保障
- 第12回 集会・結社・デモ行進と表現の自由
- 第13回 表現の自由をめぐる現代的諸問題(1)－概説
- 第14回 表現の自由をめぐる現代的諸問題(2)－ネット社会における問題
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業の内容及び進度に応じて、適宜課題を課す。この課題は、授業で学んだ基礎知識の理解度を問う、いわゆる「小テスト」形式のもの、授業で扱う諸問題やテーマについての各自の意見や感想を問う形式のものなどを予定している。これらの課題を平常点(20%程度)とし、期末におこなう考査の成績(80%程度)に加味して総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

講義形式ではあるが、受け身で臨まないこと。法学に関しては初学者の人が多いと思うが、必要以上に難しく考える姿勢を廃し、まず、講義内容を素直に聞き取ることを心がけるとよい。その上での批判や質問を歓迎する。

### 教科書

なし。

32791

## 法学特講 B-b (比較政治制度)

担当教員：真鶴 俊喜

2単位 後期

### サブタイトル

法文化の比較分析

### 授業のねらい

現代の世界の法体系の基礎となっている西洋法と、わが国を含めた東洋の非制度的部分を縛っている東洋法の比較、関係の解明を行う。さらに、各国の憲法について、それぞれの基本理念、人権保障に対する基本姿勢などを基礎として押さえながら、各国の法制度とわが国の法制度の比較を行う。

### 到達目標

法文化を通して、現代のさまざまな法問題をみる力を身につける。

### 授業方法

講義形式で進める。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代日本と法—個人主義的法・政治制度の導入について
- 第3回 法文化圏の分類—東西法文化の形成概観
- 第4回 西洋法文化の構成要素
- 第5回 ギリシア・ローマの要素
- 第6回 アゴンの訴訟観と裁判
- 第7回 キリスト教的要素(1)—カトリック教会と法学
- 第8回 キリスト教的要素(2)—宗教改革と西洋法
- 第9回 合理主義と西洋法(1)
- 第10回 合理主義と西洋法(2)
- 第11回 ゲルマン法と西洋法、大陸法と英米法
- 第12回 西洋諸国の法・政治制度と日本の法・政治制度—統治機構
- 第13回 西洋諸国の法・政治制度と日本の法・政治制度—人権保障
- 第14回 西洋諸国の法・政治制度と日本の法・政治制度—現代的変容と諸問題
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業の内容及び進度に応じて、適宜課題を課す。この課題は、授業で学んだ基礎知識の理解度を問う、いわゆる「小テスト」形式のもの、授業で扱う諸問題やテーマについての各自の意見や感想を問う形式のものなどを予定している。これらの課題を平常点(20%程度)とし、期末におこなう考査の成績(80%程度)に加味して総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

講義形式ではあるが、受け身で臨まないこと。法学に関しては初学者の人が多いと思うが、必要以上に難しく考える姿勢を廃し、まず、講義内容を素直に聞き取ることを心がけるとよい。その上での批判や質問を歓迎する。

### 教科書

なし。

### 参考書

大木雅夫『比較法講義』(東京大学出版会、1992、ISBN: 978-4130320801)  
樋口陽一『比較憲法(全訂第3版)』(青林書院、1992、ISBN: 978-4417010753)

32801

## 法学特講 C-a (法女性学)

担当教員：尾崎 一郎

2 単位 前期

### サブタイトル

ジェンダー秩序と法制度

### 授業のねらい

性差と法の関わりを論じるフェミニズム法学の議論を概観することで、社会の形成において差異、権力、法などが持つ意味や果たす役割を理解することを目指します。社会の成り立ちの基層を覗き見る試みです。なお、フェミニズムの押し売りが目的ではありません。あくまでも社会を理解する1つの視角として考えます。

### 到達目標

受講生は社会に遍在する性別役割分業などのジェンダー秩序が具体的な法制度にどのように現れ、また克服されてきたか、具体的に理解できるようになります。

### 授業方法

講義形式で行います。随時質問を受け付けます。

### 授業計画

性、ジェンダー、セクシュアリティの差異に基づく差別と法の交錯を、それぞれの領域について確かめます。各テーマにつき1～2回の時間を割きます。

- 第1回 社会規範と法
- 第2回 家族(1)
- 第3回 家族(2)
- 第4回 雇用／労働(1)
- 第5回 雇用／労働(2)
- 第6回 生殖(1)
- 第7回 生殖(2)
- 第8回 セクシュアル・ハラスメント(1)
- 第9回 セクシュアル・ハラスメント(2)
- 第10回 ドメスティック・バイオレンス(1)
- 第11回 ドメスティック・バイオレンス(2)
- 第12回 売春
- 第13回 ポルノグラフィー
- 第14回 戦時性暴力／多文化主義
- 第15回 司法における性差別

これらのテーマを通じて社会にとって身体とはなにか（あるいは身体にとって社会とはなにか）、法は身体にいかに関わり得るかを考えます。「法により男女差別をなくす」ことの複雑さ、困難さが理解されるでしょう。

### 成績評価の方法

平常点（10%）、学期末の定期試験（90%）で行います。

### 履修にあたっての注意

法学についての予備知識は全くありません。  
授業中の私語、携帯電話、内職は厳禁です。

### 教科書

なし

### 参考書

金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣アルマ、2002）  
山下泰子他『法女性学への招待（新版）』（有斐閣選書、2000）  
大越愛子『フェミニズム入門』（ちくま新書、1996）  
浅倉むつ子ほか『フェミニズム法学』（明石書店、2004）

辻村みよ子『ジェンダーと法』（不磨書房、2005）  
三成美保ほか『ジェンダー法学入門』（法律文化社、2011）  
角田由紀子『性と法律 - 変わったこと、変えたいこと -』（岩浪新書、2013）  
辻村みよ子『概説 ジェンダーと法』（信山社、2013）

32811

## 法学特講 C-b (法女性学)

担当教員：尾崎 一郎

2 単位 後期

### サブタイトル

法の社会学的理論

### 授業のねらい

法という制度について社会学的に考察する学問である法社会学の基礎を概観します。法社会学の知識を得ることよりも、社会や制度について多面的な視点を得る基盤を獲得することが最大のねらいです。

### 到達目標

受講者は、社会の規範の一部であると同時に独自の自律性と制度化を果たしている法という規範について、鋭敏な感受性を獲得することになります。

### 授業方法

講義形式で行います。受講者数が一定数を下回る場合には、ゼミ形式で、フェミニズム法学についての文献講読を行う授業に変更します。実際、2012年度はアボラ・ロード『キレイならいいのか』、中村桃子『女ことばと日本語』を、2013年度は竹信三恵子『家事労働ハラスメント』、柘植あづみ『生殖技術』を、2014年度は荻野美穂『女のからだ』、法執行研究会『法はDV被害者を救えるか』、2015年度は小杉礼子＝宮本みち子（編）『下層化する女性たち』、中野円佳『「育休世代」のジレンマ』、2016年度は飯島裕子『ルポ 貧困女子』、スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』を、2017年度は榎原富士子＝池田清貴『親権と子ども』、井戸まさえ『日本の無戸籍者』、石原理『生殖医療の衝撃』を、講読しました。ジェンダーをめぐる社会規範と法との交錯が基本テーマとなります。

### 授業計画

法の社会学的理論を概観します。エールリッヒ、デュルケム、ヴェーバー、ハート、ルーマンといった理論家たちの理論を、一人につき2回ずつ、計11回程度にわたって、順に眺めていきます。その上で、望ましい社会の実現にとって法はいかなる役割を果たし得るのか、その限界は何かについて考えます。社会運動（フェミニズム運動と法）、司法制度改革、権力と法について、合計4回にわたって論じます。

- 第1回 社会学的に法を眺めることの意味
- 第2回 エールリッヒ(1)
- 第3回 エールリッヒ(2)
- 第4回 デュルケム(1)
- 第5回 デュルケム(2)
- 第6回 ヴェーバー(1)
- 第7回 ヴェーバー(2)
- 第8回 ハート(1)
- 第9回 ハート(2)
- 第10回 ルーマン(1)
- 第11回 ルーマン(2)
- 第12回 法と社会運動
- 第13回 司法制度改革
- 第14回 権力と法
- 第15回 ジェンダー秩序と法

これらのテーマを通じて社会にとって身体とはなにか（あるいは身体にとって社会とはなにか）、法は身体にいかに関わり得るかを考えます。「法により男女差別をなくす」ことの複雑さ、困難さが理解されるでしょう。

### 成績評価の方法

平常点 50%、学期末の定期試験（ゼミ形式の場合はレポート）50%で行います。

### 履修にあたっての注意

法律学についての予備知識は全くありません。授業中の私語、携帯電話、内職は厳禁です。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：講義中に指示します

32821

## 女性論 a

担当教員：李 妍淑

2 単位 前期

## サブタイトル

親密圏とジェンダー

## 授業のねらい

ジェンダー論が社会にもたらした意義を確認するとともに、平等な社会のあり方について考えます。

## 到達目標

親密圏に起きている女性問題を、具体的な事例を通じて把握し、現代社会のジェンダー秩序を捉え直し、様々な社会現象についてジェンダー・センシティブに考えることができるようになります。

## 授業方法

原則的に講義形式で行いますが、履修者人数等に応じてゼミ形式に変えることも考えられます。

## 授業計画

- 第1回 ジェンダー論の展開(1)——性別とは？  
 第2回 ジェンダー論の展開(2)——フェミニズム理論の歴史  
 第3回 ジェンダー論の展開(3)——フェミニズム理論が目指すもの  
 第4回 ジェンダー論の展開(4)——日本の女性史  
 第5回 家族と女性(1)——社会に潜む「家」的思想  
 第6回 家族と女性(2)——多様な家族の形成  
 第7回 ドメスティック・バイオレンス(1)——基礎と理論  
 第8回 ドメスティック・バイオレンス(2)——社会の実態  
 第9回 身体と女性(1)——基礎と理論  
 第10回 身体と女性(2)——ポルノグラフィ、売春の社会実態  
 第11回 女性の就業と育児(1)——働きやすい職場環境とは？  
 第12回 女性の就業と育児(2)——ワーク・ライフ・バランスとは？  
 第13回 ケア労働と女性(1)——家族モデルの変化と社会保障  
 第14回 ケア労働と女性(2)——家族と個人の狭間で  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

平常点 (50%)、学期末の定期試験またはレポート (50%) で評価します。

## 履修にあたっての注意

- ・無断欠席については、単位を認めません。
- ・授業には初回から出席すること。
- ・授業中の私語および他の履修者に迷惑になる行為は一切禁止します。

## 教科書

なし

## 参考書

授業中に指示します

32831

## 女性論 b

担当教員：李 妍淑

2 単位 後期

## サブタイトル

公的領域とジェンダー

## 授業のねらい

ジェンダー論が社会にもたらした意義を確認するとともに、平等な社会のあり方について考えます。

## 到達目標

公的領域における女性の社会進出状況を、具体的な事例を通じて把握し、現代社会のジェンダー秩序を捉え直し、様々な社会現象についてジェンダー・センシティブに考えることができます。

## 授業方法

原則的に講義形式で行いますが、履修者人数等に応じてゼミ形式に変えることも考えられます。

## 授業計画

- 第1回 公私二元論とジェンダー(1)——基礎と理論  
 第2回 公私二元論とジェンダー(2)——女性はどのように位置づけられてきたか  
 第3回 教育と女性(1)——隠れたカリキュラム  
 第4回 教育と女性(2)——教育の男女格差  
 第5回 労働と女性(1)——賃金格差から生じる女性の貧困  
 第6回 労働と女性(2)——職場におけるセクシュアル・ハラスメント  
 第7回 再生産労働のグローバル化と女性(1)——再生産労働者の国際移転  
 第8回 再生産労働のグローバル化と女性(2)——越境的ジェンダー分業がもたらしたもの  
 第9回 戦争と性暴力(1)——暴力装置としての国家  
 第10回 戦争と性暴力(2)——「従軍慰安婦」問題  
 第11回 政治参加と女性(1)——政治・行政領域における女性の参画状況  
 第12回 政治参加と女性(2)——積極的な格差是正措置とは？  
 第13回 法と女性(1)——法に潜むジェンダー・バイアス  
 第14回 法と女性(2)——ジェンダー平等のための法の役割  
 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

平常点 (50%)、学期末の定期試験またはレポート (50%) で評価します。

## 履修にあたっての注意

- ・無断欠席については、単位を認めない。
- ・授業は初回から参加すること。
- ・授業中の私語および他の履修者に迷惑になる行為は一切禁止する。

## 教科書

なし

## 参考書

授業中に指示します



32841

## 経済学入門 a

担当教員：神山 義治

2 単位 前期

## サブタイトル

現代経済のしくみと理論

## 授業のねらい

現代社会を生きる人間にとって、経済は重要な環境である。この環境は、人間が生み出しているとともに、この環境がまた、人を結び、物を動かし、貨幣を移動させ、地域社会をつくっている。経済を社会の基礎としてとらえ、経済の基本的なしくみと歴史的な成り立ちを理解することによって、現代社会を読み解くための知識を身につけてもらうことを目的とする。

## 到達目標

1. 経済学の基礎的な用語、生産、消費、市場、企業、などを説明することができる。
2. 経済学の基礎的な知識を身につけ、それを応用して、日本社会が直面する労働や生活の問題を考察できる。

## 授業方法

講義形式で行う。前半（第7回まで）は、経済の発展の歴史と経済学の歴史の解説、練習問題に、後半（第8回以降）は市場と商品、企業など基本的な経済用語の解説と練習問題に当てる。

毎回の授業では受講者に学習課題を与える。

## 授業計画

- |      |                 |                         |
|------|-----------------|-------------------------|
| 第1回  | ガイダンスー私たちの生活と経済 | 地球規模での問題群               |
| 第2回  | 経済の歴史(1)        | 経済の発展が歴史の基礎にある 生産と消費、分配 |
| 第3回  | 経済の歴史(2)        | 古代と中世 最初の経済思想           |
| 第4回  | 経済の歴史(3)        | 資本主義の誕生 古典派経済学          |
| 第5回  | 経済の歴史(4)        | 資本主義の発展                 |
| 第6回  | 日本経済の展開(1)      | 近代化と戦争                  |
| 第7回  | 日本経済の展開(2)      | 戦後の成長と社会の変容             |
| 第8回  | 市場と貨幣(1)        | 商品流通と近代社会               |
| 第9回  | 市場と貨幣(2)        | おカネの魔力                  |
| 第10回 | 企業と労働(1)        | 経済成長の時代                 |
| 第11回 | 企業と労働(2)        | 労働者の権利と労働法              |
| 第12回 | 企業と労働(3)        | 株式会社のしくみ                |
| 第13回 | 企業と労働(4)        | 現代日本の労働問題               |
| 第14回 | 経済と社会保障(1)      | なぜ社会保障か                 |
| 第15回 | 経済と社会保障(2)      | ジェンダーと経済                |

## 成績評価の方法

到達目標1と2を測定するための試験試験（70%）と授業への参加状況（30%）により評価する。

## 教科書

大谷禎之介『図解 社会経済学－資本主義とはどのような社会システムか』（桜井書店、2001年、ISBN：4-921190-08-9）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書については、必要に応じ随時指示する。

## 参考書

- 八木紀一郎『社会経済学－資本主義を知る』（名古屋大学出版会、2006年、ISBN：4815805393）  
 宮崎 勇・田谷 禎三『世界経済図説 第三版』（岩波書店、2012年、ISBN：4004313546）  
 J.K. ガルブレイス『ゆたかな社会 決定版』（岩波書店、2006年、ISBN：4006031378）  
 マーサ・C. ヌスバウム『経済成長がすべてか？—デモクラシーが人文学を必要とする理由』（岩波書店、2013年、ISBN：4000227939）  
 梅田徹『企業倫理をどう問うか—グローバル化時代のCSR』（日本放送出版協会、2006年、ISBN：4140910518）  
 井田徹治『環境負債—一次世代にこれ以上ツケを回さないために』（筑摩書房、2012年、ISBN：4480688811）

32851

## 経済学入門 b（国際経済学）

担当教員：神山 義治

2 単位 後期

## 授業のねらい

「経済」からみる人間と社会

## 到達目標

現代の経済は、金融化・情報化をはじめとする急速な変貌を遂げ、私たちはその膨大な影響のもとで生きている。開発と環境、企業と生活、国際経済と地域経済といった社会の実践的な問題群は、すべて経済のこうした急激な成長がもたらしたものである。経済の基本的な運動法則に沿ってこうした諸問題を解明することは、私たちの生活の向上と社会の発展にとって欠かせない。現代経済の基礎的なしくみとその成り立ちと展開を理解することによって、現代社会の諸問題に対して関心をもち、その解決策を提起するために必要な知識を身につけてもらうことを目標とする。

## 授業方法

1. 景気変動、市場、企業、金融市場、金融政策などの経済学の基礎的な用語を説明することができる。
2. 経済学の基礎的な知識を身につけ、それを応用して、世界経済や日本経済のしくみを説明することができる。

## 授業計画

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | 講義形式で行う。前半（第7回まで）は、経済の基本的なしくみと日本経済の全体像を解説することとその練習問題、後半（第8回以降）は、国際経済の現状とその課題の解説、練習問題に当てる。毎回の授業では、受講者に予習・復習のための課題（2～4問、所要時間20～40分程度）を提供する。 |
| 第2回  | 経済主体と経済の循環  |
| 第3回  | 景気変動と財政の役割  |
| 第4回  | 現代の市場経済 寡占企業の行動と消費者の権利  |
| 第5回  | 企業の巨大化と国際化 大企業と中小企業   |
| 第6回  | 経済成長と環境保全   |
| 第7回  | 金融市場と金融政策   |
| 第8回  | 産業構造の変化 工業と農業   |
| 第9回  | 経済のグローバルゼーション   |
| 第10回 | 地域統合と国際経済   |
| 第11回 | 南北問題と国際協力   |
| 第12回 | 世界の労働問題   |
| 第13回 | 世界の資源とエネルギー   |
| 第14回 | 経済の国際化と地球環境問題   |
| 第15回 | 技術革新と経済の変化  |
| 第16回 | 経済成長と人権・民主主義の発展   |

## 履修にあたっての注意

到達目標1および2を測定するための試験（70%）、授業への参加状況（30%）により評価する。

## 参考書

講義時にプリントを使用。<BR>参考書については、必要に応じて随時提示する。

32861

## 経済学特講 a

担当教員：成田 泰子

2 単位 前期

## サブタイトル

経済学の歴史をたどる

## 授業のねらい

本講義では経済学の歴史をたどります。経済学部の科目でいうと「経済思想史」あるいは「経済学史」といわれる分野に相当する内容です。「経済思想史」とは、経済学の歴史的足跡を理論・思想・政策などの全般にわたって包括的に検討する学問分野です。

アプローチの仕方は様々ありますが、本講義では各時代の代表的な経済学者の理論や学説、思想等について、それらが提唱された当時の時代状況（背景）と照らし合わせながら、その変遷をたどってゆきます。こうして経済学の形成過程をたどり、その全体像を概観してゆきます。そうすることによって、経済学とはいかなる学問なのか、その課題は何なのかを知ることを目指します。さらには複数の理論的・思想的潮流を考察することによって、物事を複眼的に眺める眼を養うことを目指します。

## 到達目標

1. 最低限、講義で取り上げたうちの3人の経済学者の考え方を正確に要約することができる。
2. 講義で取り上げた経済思想史上における有名な論争や論点について、正確に要約することができる。（上記1で取り上げる経済学者の考え方の中に、その論争・論点などを含めて要約してもよい。）

## 授業方法

毎回、講義開始時に「(今日の) 講義の概要・キーワード」を話します。また講義の流れをたどりやすいように「小見出し」をつけて、板書しながら説明してゆきます。

この講義では、今まで経済学という学問に触れてこなかった人たちにも分かりやすく説明することを心がけておりますので、予習（事前学習）よりも復習（事後学習）に重きを置いて下さい。具体的には、講義終了後、なるべくその日のうちに（内容を忘れないうちに）講義ノートを整理もしくは、読み返すことを実行して下さい。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス&経済学の歴史をたどる意義について
- 第2回 重商主義(1): 重商主義とは何か
- 第3回 重商主義(2): J. スチュアート『原理』解説
- 第4回 重農主義: ケネーと経済表
- 第5回 アダム・スミス(1): 『道徳感情論』解説
- 第6回 アダム・スミス(2): 『国富論』解説①
- 第7回 アダム・スミス(3): 『国富論』解説②
- 第8回 マルサスとリカード(1): 人口の原理
- 第9回 マルサスとリカード(2): 穀物法論争の解説①
- 第10回 マルサスとリカード(3): 穀物法論争の解説②
- 第11回 J.S. ミル: ミル経済学の特徴
- 第12回 マルクス(1): 唯物史観
- 第13回 マルクス(2): 『資本論』解説①
- 第14回 マルクス(3): 『資本論』解説②
- 第15回 マルクス(4): 『資本論』解説③

## 成績評価の方法

定期試験 (100%) [論述形式]

## 履修にあたっての注意

私語厳禁。板書の量が多めですが、適宜プリントを配布して負担軽減に努めます。遅刻3回で欠席1回とみなします。後期開講の「経済学特講 b」では、「経済学特講 a」の履修を前提として講義を進めますので、a と b 両方を履修することが望まれます。

## 教科書

なし

32871

## 経済学特講 b

担当教員：成田 泰子

2 単位 後期

## サブタイトル

経済学の歴史をたどる

## 授業のねらい

本講義では経済学の歴史をたどります。経済学部の科目でいうと「経済思想史」あるいは「経済学史」といわれる分野に相当する内容です。「経済思想史」とは、経済学の歴史的足跡を理論・思想・政策などの全般にわたって包括的に検討する学問分野です。

アプローチの仕方は様々ありますが、本講義では各時代の代表的な経済学者の理論や学説、思想等について、それらが提唱された当時の時代状況（背景）と照らし合わせながら、その変遷をたどってゆきます。こうして経済学の形成過程をたどり、その全体像を概観してゆきます。そうすることによって、経済学とはいかなる学問なのか、その課題は何なのかを知ることを目指します。さらには複数の理論的・思想的潮流を考察することによって、物事を複眼的に眺める眼を養うことを目指します。

## 到達目標

1. 最低限、講義で取り上げたうちの3人の経済学者の考え方を正確に要約することができる。
2. 講義で取り上げた経済思想史上における有名な論争や論点について、正確に要約することができる。（上記1で取り上げる経済学者の考え方の中に、その論争・論点などを含めて要約してもよい。）

## 授業方法

毎回、講義開始時に「(今日の) 講義の概要・キーワード」を話します。また講義の流れをたどりやすいように「小見出し」をつけて、板書しながら説明してゆきます。

この講義では、今まで経済学という学問に触れてこなかった人たちにも分かりやすく説明することを心がけておりますので、予習（事前学習）よりも復習（事後学習）に重きを置いて下さい。具体的には、講義終了後、なるべくその日のうちに（内容を忘れないうちに）講義ノートを整理もしくは、読み返すことを実行して下さい。

## 授業計画

- 第1回 ドイツ歴史学派(1): 先駆者および旧歴史学派
- 第2回 ドイツ歴史学派(2): 新歴史学派
- 第3回 ドイツ歴史学派(3): 新歴史学派における論争
- 第4回 ドイツ歴史学派(4): 最新歴史学派
- 第5回 限界革命(1): 限界革命とは何か
- 第6回 限界革命(2): 限界革命のトリオの効用価値論解説①
- 第7回 限界革命(3): 限界革命のトリオの効用価値論解説②
- 第8回 限界革命(4): 限界革命のトリオの効用価値論解説③
- 第9回 マーシャル(1): 分析方法
- 第10回 マーシャル(2): 4つの時間区分と供給曲線
- 第11回 シュムペーター(1): シュムペーターと資本主義①
- 第12回 シュムペーター(2): シュムペーターと資本主義②
- 第13回 ケインズ(1): 『一般理論』概説①
- 第14回 ケインズ(2): 『一般理論』概説②
- 第15回 ケインズ(3): 『一般理論』概説③

## 成績評価の方法

定期試験 (100%) [論述形式]

## 履修にあたっての注意

私語厳禁。板書の量が多めですが、適宜プリントを配布して負担軽減に努めます。遅刻3回で欠席1回とみなします。「経済学特講 b」では、「経済学特講 a」の履修を前提として講義を進めますので、a と b 両方を履修することが望まれます。

## 教科書

なし

32881

# 社会学入門 a

担当教員：櫻井 義秀

2 単位 前期

## サブタイトル

社会学で考える現代日本 1

## 授業のねらい

現代社会で起こるさまざまな出来事の背景を読み解くために社会学の知識や視角は有益です。社会学の基本をテキストを用いながら、基礎・応用・発展の三段階で解説していきます。

## 到達目標

アクティブ・ラーニングのやり方で、学生の事前学習、グループ・ディスカッション、意見のまとめ方・伝え方の総合的な力を付けることを目指します。

## 授業方法

最初の 15 分を時事問題の解説として、新聞・雑誌記事を用いてみなさんからの意見も聞きます。

次に、テキストに入ります。基礎・応用の部分に関して 30 分程度で解説をします。テキストについては毎回 1 章ずつ進めるので該当部分を事前に予習しておいてください。

残りの 30 分、グループ・ディスカッションを、テキストの考えてみようの問題について行います。

最後に、まとめます。

## 授業計画

- 第 1 回 1 社会学のあゆみ 1 社会とは何か 2 社会学の発想と方法 3 社会学のあゆみ 4 社会学に何ができるか
- 第 2 回 2 社会調査法 1 社会調査とは何か？なぜ学ぶのか？ 2 社会調査の種類とプロセス 3 相関関係と因果関係
- 第 3 回 3 家族 1 家族とは 2 家族の定義—幸福 (well-being) が意味するものは何か 3 現代家族—課題と包摂の可能性
- 第 4 回 4 教育 1 なぜ学校はあるのだろうか 2 文化的再生産 3 「平等」と教育
- 第 5 回 5 政治・社会運動—社会運動とはどのようなものか 1 誰が、なぜ運動を起こすのか？ 2 社会運動研究の歴史 3 社会運動のいろいろ
- 第 6 回 6 メディアの現在—現代社会を生き抜くための思考法 1 メディアとは何か 2 これからメディアとどう向き合うべきか 3 メディアで読み解く現代社会
- 第 7 回 7 地域社会とコミュニティ 1 地域コミュニティの必要性と可能性 2 まちづくりから住民自治へ 3 ライフスタイルの変革と循環型コミュニティ
- 第 8 回 8 労働 1 雇用労働の成立と生き方の変容 2 職場で経験する労働の諸側面 3 産業構造転換とグローバル化の中の労働
- 第 9 回 9 社会階層—格差と社会的排除 1 人間社会の歴史と身分・階級・階層 2 日本の社会階層 3 貧困と社会的公正
- 第 10 回 10 福祉と社会保障—支え合う社会をどのように実現するか 1 福祉国家の成立 2 福祉国家の危機 3 福祉多元主義へ—さまざま
- 第 11 回 11 グローバリゼーション 1 グローバリゼーションと国民国家 2 グローバリゼーションと社会変容—経済・政治・文化 3 グローバル化時代を生き抜くために
- 第 12 回 12 少子高齢社会 1 少子高齢社会の実像 2 少子高齢化と保健・医療・福祉 3 これからの地域戦略
- 第 13 回 13 地域社会とソーシャル・キャピタル—ソーシャル・キャピタルは地域社会をどのように支えているのか 1 「ソーシャル・キャピタル」というアイデア 2 ソーシャル・キャピタルの可能性 3 コミュニティとソーシャル・キャピタル

第14回 14

ジェンダー・セクシュアリティ 1 ジェンダー、セクシュアリティのはたらき 2 社会生活の維持と再生産—ケアとリプロダクション

第15回 15

災害とコミュニティ 1 災害と社会 2 防災コミュニティの形成 3 復興とコミュニティ

## 成績評価の方法

授業参加と記述式試験 40% + 60%

## 履修にあたっての注意

授業前にテキスト該当箇所の熟読。

## 教科書

櫻井義秀他編『アンビシャス社会学』（北海道大学出版会、2014）

## 参考ホームページ

櫻井義秀研究室 <https://sakurai.cambria.ac/>



32891

# 社会学入門 b

担当教員：櫻井 義秀

2 単位 後期

## サブタイトル

社会学で考える現代日本 2

## 授業のねらい

現代社会で起こるさまざまな出来事の背景を読み解くために社会学の知識や視角は有益です。社会学の基本をテキストを用いながら、基礎・応用・発展の三段階で解説していきます。

基本的に、社会学入門 a と同じ講義内容ですが、授業方法を変えます。授業方法をよく読んでください。

## 到達目標

アクティブ・ラーニングのやり方で、学生の事前学習、グループ・ディスカッション、意見のまとめ方・伝え方の総合的な力を付けることを目指します。特に、グループごとの学習を重視し、プレゼンテーションの練習を行います。

## 授業方法

最初の 15 分を時事問題の解説として、新聞・雑誌記事を用いてみなさんからの意見も聞きます。

- 1) 学生自身に事前に読んできたテキストの 1 章をまとめてパワーポイントで説明してもらいます。考えてみよう含む。グループごと。
- 2) 教員が解説を加え、他のグループから質問等を受け、内容をディスカッションします。
- 3) 適宜、社会学の論文を事前に配付し、その講読を入れます。

## 授業計画

- |        |    |                           |                    |                                    |                                 |              |
|--------|----|---------------------------|--------------------|------------------------------------|---------------------------------|--------------|
| 第 1 回  | 1  | 社会学のあゆみ                   | 1 社会とは何か           | 2 社会学の発想と方法                        | 3 社会学のあゆみ                       | 4 社会学に何ができるか |
| 第 2 回  | 2  | 社会調査法                     | 1 社会調査とは何か？なぜ学ぶのか？ | 2 社会調査の種類とプロセス                     | 3 相関関係と因果関係                     |              |
| 第 3 回  | 3  | 家族                        | 1 家族とは             | 2 家族の定義—幸福 (well-being) が意味するものは何か | 3 現代家族—課題と包摂の可能性                |              |
| 第 4 回  | 4  | 教育                        | 1 なぜ学校はあるのだろうか     | 2 文化的再生産                           | 3 「平等」と教育                       |              |
| 第 5 回  | 5  | 政治・社会運動—社会運動とはどのようなものか    | 1 誰が、なぜ運動を起こすのか？   | 2 社会運動研究の歴史                        | 3 社会運動のいろいろ                     |              |
| 第 6 回  | 6  | メディアの現在—現代社会を生き抜くための思考法   | 1 メディアとは何か         | 2 これからメディアとどう向き合うべきか               | 3 メディアで読み解く現代社会                 |              |
| 第 7 回  | 7  | 地域社会とコミュニティ               | 1 地域コミュニティの必要性和可能性 | 2 まちづくりから住民自治へ                     | 3 ライフスタイルの変革と循環型コミュニティ          |              |
| 第 8 回  | 8  | 労働                        | 1 雇用労働の成立と生き方の変容   | 2 職場で経験する労働の諸側面                    | 3 産業構造転換とグローバル化—グローバリゼーションの中の労働 |              |
| 第 9 回  | 9  | 社会階層—格差と社会的排除             | 1 人間社会の歴史と身分・階級・階層 | 2 日本の社会階層                          | 3 貧困と社会的公正                      |              |
| 第 10 回 | 10 | 福祉と社会保障—支え合う社会をどのように実現するか | 1 福祉国家の成立          | 2 福祉国家の危機                          | 3 福祉多元主義へ—さまざま                  |              |
| 第 11 回 | 11 | グローバル化—グローバリゼーションと国民国家    | 1 グローバリゼーションと国民国家  | 2 グローバリゼーションと社会変容—経済・政治・文化         | 3 グローバル化時代を生き抜くために              |              |
| 第 12 回 | 12 | 少子高齢社会                    | 1 少子高齢社会の実像        | 2 少子高齢化と保健・医療・福祉                   | 3 これからの地域戦                      |              |

- 略
- |        |    |  |                        |                           |                      |
|--------|----|--|------------------------|---------------------------|----------------------|
| 第 13 回 | 13 | 地域社会とソーシャル・キャピタル—ソーシャル・キャピタルは地域社会をどのように支えているのか | 1 「ソーシャル・キャピタル」というアイデア | 2 ソーシャル・キャピタルの可能性         | 3 コミュニティとソーシャル・キャピタル |
| 第 14 回 | 14 | ジェンダー・セクシュアリティ                                 | 1 ジェンダー、セクシュアリティのはたらき  | 2 社会生活の維持と再生産—ケアとリプロダクション |                      |
| 第 15 回 | 15 | 災害とコミュニティ                                      | 1 災害と社会                | 2 防災コミュニティの形成             | 3 復興とコミュニティ          |

## 成績評価の方法

授業参加とプレゼンテーション・ディスカッションへの参加 40% + 60%  
平常点が重視されるので、欠席の多い人、グループでの発表をしない人の点数はありません。発表順などは都合に合わせて調整します。

## 履修にあたっての注意

授業前にテキスト該当箇所の熟読。発表準備。

## 教科書

櫻井義秀他編『アンビシャス社会学』（北海道大学出版会、2014）

## 参考ホームページ

櫻井義秀研究室 <https://sakurai.cambria.ac/>

2017年度以前入学生  
専文化総科学  
門門総科学  
目科

32921

## 社会学特講 c

担当教員：櫻井 義秀

2 単位 前期

### サブタイトル

人口減少時代における社会的課題

### 授業のねらい

人口減少時代を迎えた現代日本の様々な課題を考察する。とりわけ、家族・地域社会・文化（宗教）の領域において、どのような問題が生じているのかを考える。

### 到達目標

テキストの読解力、レジュメなどの作成方法、ディスカッションへの参加方法などを学ぶ。

### 授業方法

テキストを事前にレポーターがレジュメで要点と論点をまとめ、疑問点と感想などに関して、全員で話す。

### 授業計画

- 第1回 人口構成の変動
- 第2回 生老病死に向き合う医療と宗教
- 第3回 神道と地域・国家－戦没者追悼の方法
- 第4回 日韓関係と従軍慰安婦問題－歴史認識とは何か
- 第5回 自己効力感の不足とナショナリズム－ヘイトスピーチを考える
- 第6回 占い・ヒーリング・疑似科学－スピリチュアリティ・ブーム
- 第7回 ペット葬と人の葬儀－ペットロストは何か
- 第8回 日本のカルト問題——オウム真理教
- 第9回 韓国の新宗教はなぜ日本に進出できたのか——統一教会
- 第10回 大学に潜むカルト－摂理
- 第11回 宗教と政治－日本は右傾化しているのか
- 第12回 原発事故被災と震災復興
- 第13回 東アジアの福祉レジームと宗教
- 第14回 予備 社会問題1
- 第15回 予備 社会問題2

### 成績評価の方法

授業参加とレポート 40%と60%

### 履修にあたっての注意

事前にテキストを読んでくるほか、レジュメなど、積極的な授業参加が求められる。

### 教科書

櫻井義秀『人口減少時代の宗教文化論』（北海道大学出版会、2017）

### 参考ホームページ

櫻井義秀研究室 <https://sakurai.cambria.ac/>

32931

## 社会学特講 d

担当教員：櫻井 義秀

2 単位 後期

### サブタイトル

現代におけるウェルビーイング（しあわせ）と日本社会

### 授業のねらい

現代日本の様々な課題を考察するうえで、人はどのようにしたらしあわせになるれるのだろうかという観点から、ウェルビーイングを可能にする諸要素（健康、社会関係、経済生活、生活態度）について考える。また、現代社会において、人々がしあわせになることを妨げる社会的問題についても考察する。テキストは、宗教とウェルビーイングに関するものであるが、広く、ウェルビーイングについて考える。

### 到達目標

テキストの読解力、レジュメなどの作成方法、ディスカッションへの参加方法などを学ぶ。

### 授業方法

テキストを事前にレポーターがレジュメで要点と論点をまとめ、疑問点と感想などに関して、全員で話す。

### 授業計画

- 第1回 現代日本社会の特徴－人口減少社会
- 第2回 ウェルビーイングの理論的構成
- 第3回 ウェルビーイングの国際比較－しあわせランキングとベター・ライフ・イニシアチブ
- 第4回 しあわせと神話－英雄神話のパターン
- 第5回 人口減少時代における協働－過疎地域における宗教施設の維持
- 第6回 地域おこしと文化的結集点－神社が果たす役割
- 第7回 長寿化社会としあわせ－尊厳死をめぐる諸問題
- 第8回 医療化された生と死－臓器移植と延命治療
- 第9回 宗教団体の説くしあわせはどれだけ妥当か－新宗教を例に
- 第10回 しあわせと絆－傾聴ボランティア
- 第11回 韓国の若者・社会的争点－セオル号事件を例に
- 第12回 「お一人様化」時代に求められる宗教－お寺に求められるもの
- 第13回 幸福感調査に関わるデータの検討
- 第14回 予備 社会問題1
- 第15回 予備 社会問題2

### 成績評価の方法

授業参加とレポート 40%と60%

### 履修にあたっての注意

事前にテキストを読んでくるほか、レジュメなど、積極的な授業参加が求められる。

### 教科書

櫻井義秀編『しあわせの宗教学－ウェルビーイングの視座から』（法蔵館、2018）

### 参考ホームページ

櫻井義秀研究室 <https://sakurai.cambria.ac/>

2017年度以前入学生  
専文化総合学  
門科  
目科



32941

## 音楽社会学 I -a

担当教員：小林 美貴子

2 単位 前期

## サブタイトル

音楽社会学の眼差し—社会との関わりでみる西洋芸術音楽史—

## 授業のねらい

音楽社会学は、音楽を人間社会との関連において考察しようとする学問領域です。音楽社会学では、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽を浮かび上がらせようとする姿勢、つまり、「社会の中の音楽文化」「音楽を通して社会をみる」という視点が重視されます。授業では、西洋芸術音楽の歴史を社会・文化との関わりの中で捉えることで、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽を浮かび上がらせようとする視点を身に付けることを目指します。

## 到達目標

1. 西洋芸術音楽史における事象や音楽の様式的特徴などを理解することができる。
2. 上記の音楽事象や様式的特徴を、社会・文化との関係を通して説明することができる。

## 授業方法

授業では、古代ギリシャから現代までの西洋芸術音楽の歴史を、音楽社会学的視点によってたどります。授業は、具体的事例として音楽の聴取を行い、耳で確認しつつ講義形式により進めます。

## 授業計画

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1回  | ガイダンス：音楽社会学的視点とは何か       |
| 第2回  | 古代ギリシャ                   |
| 第3回  | 中世(1)：グレゴリオ聖歌            |
| 第4回  | 中世(2)：単旋から多声へ            |
| 第5回  | ルネサンス(1)：アルス・ノヴァとフランドル楽派 |
| 第6回  | ルネサンス(2)：器楽と世俗音楽         |
| 第7回  | バロック(1)：バロックの思想          |
| 第8回  | バロック(2)：器楽とオペラへの試み       |
| 第9回  | 前古典派                     |
| 第10回 | 古典派                      |
| 第11回 | ロマン派(1)：ロマン主義思想と音楽       |
| 第12回 | ロマン派(2)：音楽における民族主義       |
| 第13回 | 20世紀(1)：複雑化への道           |
| 第14回 | 20世紀(2)：多様化の時代           |
| 第15回 | まとめ                      |

## 成績評価の方法

到達目標1を測定する小テストなどの各種課題(35%)、到達目標1・2を測定する期末定期試験(50%)、および授業への参加状況(15%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

音楽の聴取を含む授業なので、私語等の雑音を発する学生に対しては厳しく対処します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：なし。プリントを配布します。  
参考書：講義の中で適宜紹介します。

32951

## 音楽社会学 I -b

担当教員：小林 美貴子

2 単位 後期

## サブタイトル

音楽社会学の思考—音楽文化の変容と社会—

## 授業のねらい

音楽社会学は、音楽を人間社会との関連において考察しようとする学問領域です。音楽社会学では、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽を浮かび上がらせようとする姿勢、つまり、「社会の中の音楽文化」「音楽を通して社会をみる」という視点が重視されます。この授業では、このような音楽社会学的視点によって、日本音楽の歴史をたどるとともに、文学・美術・環境・テクノロジー・メディア等との関連で音楽にせまって行きます。

## 到達目標

1. 日本音楽史における事象や音楽の様式的特徴などを、社会・文化との関係を通して理解し、説明することができる。
2. 芸術諸分野、科学技術、メディア等と音楽との関連を理解し、多角的に音楽文化を捉えることができる。

## 授業方法

授業では、日本音楽の歴史を、音楽社会学的視点によってたどるとともに、芸術諸分野、科学技術、メディア等と音楽との関わり探っていきます。授業は、具体的事例として音楽の聴取を行い、耳で確認しつつ講義形式により進めます。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | ガイダンス：音楽と人間の関わりを見つめる～音楽社会学とは何か<br>日本音楽史のはじまり |
| 第2回  | 日本音楽史(1)：雅楽と声明                               |
| 第3回  | 日本音楽史(2)：能楽                                  |
| 第4回  | 日本音楽史(3)：近世の三味線文化1－歌舞伎・浄瑠璃の成立－               |
| 第5回  | 日本音楽史(4)：近世の三味線文化2－江戸文化の爛熟－                  |
| 第6回  | 日本音楽史(5)：箏曲と尺八音楽                             |
| 第7回  | 日本音楽史(6)：近代における変容1－幕末から明治中期－                 |
| 第8回  | 日本音楽史(7)：近代における変容2－伝統音楽の変化と交流－               |
| 第9回  | 日本音楽史(8)：近代における変容3－明治後期から大正・昭和前期－            |
| 第10回 | 音楽とテクノロジー(1)：メトロノーム                          |
| 第11回 | 音楽とテクノロジー(2)：楽器改良と音楽作品                       |
| 第12回 | 音楽とテクノロジー(3)：音楽の自動化と女性                       |
| 第13回 | 音楽とテクノロジー(4)：蓄音機                             |
| 第14回 | 音楽とテクノロジー(5)：映画と音楽                           |
| 第15回 | まとめ  |

## 成績評価の方法

到達目標1を測定する小テストなどの各種課題(35%)、到達目標1・2を測定する期末定期試験(50%)、および授業への参加状況(15%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

音楽の聴取を含む授業なので、私語等の雑音を発する学生に対しては厳しく対処します。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：なし。プリントを配布します。  
参考書：授業において適宜紹介します。

32961

## 音楽社会学Ⅱ-a

担当教員：岩澤 孝子

2単位 前期

### サブタイトル

自文化としての日本の芸能文化

### 授業のねらい

自文化理解および異文化理解に興味関心のある学生を対象に、自文化としての日本の芸能文化を理解し、異なるバックグラウンドをもつ人々と共有する力を身に付けることを目的とする。

### 到達目標

1. 日本の芸能文化に関する基礎的知識を学び、その知識や情報をもとに各文化形態に関するレポートを作成し、説明する力を身につける。
2. 現代社会における「自文化」という観点を理解した上で、自文化理解について他者と共有する力を身につける。

### 授業方法

主に講義形式で行う。授業期間中は講義内容の理解度を測るために毎回事後課題として小レポートの作成を課す（2回目～14回目の全13回）。小レポート課題については、授業中に口頭で解説する。さらに、期末課題として、講義中に扱った文化の形態から1つを選択し、その自文化としての意義についての考察を含んだレポートの作成を課題とする（1,000字程度）。期末課題については、採点后コメントを返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス 自文化と異文化理解
- 第2回 歌舞伎1－歴史
- 第3回 歌舞伎2－舞台
- 第4回 文楽
- 第5回 近世邦楽
- 第6回 現代邦楽
- 第7回 能1－歴史
- 第8回 能2－舞台
- 第9回 狂言
- 第10回 雅楽1－狭義の雅楽
- 第11回 雅楽2－広義の雅楽
- 第12回 神楽
- 第13回 各地の民俗芸能1－北海道および東北地方
- 第14回 各地の民俗芸能2－その他の地方
- 第15回 総括 自文化としての日本の伝統芸能

### 成績評価の方法

到達目標1を測定する小レポート（40%）、また、到達目標2を測定する期末レポート（50%）、授業への参加状況（10%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

事後課題（小レポート）の内容について、随時指名して発言を求めするので、しっかり事後学習をした上で参加すること。

### 教科書

なし

32971

## 音楽社会学Ⅱ-b

担当教員：岩澤 孝子

2単位 後期

### サブタイトル

アジア芸能文化と社会

### 授業のねらい

アジアの文化に興味関心のある学生を対象に、芸能文化の知識を基礎として文化と社会の関係についての理解力を深めることを目的とする。

### 到達目標

1. アジアの芸能文化に関する基礎的知識を学び、その知識や情報をもとに各文化形態に関するレポートを作成し、説明する力を身につける。
2. アジアの芸能文化に関する知識を基礎に、それを取り巻く社会との関係についての分析し、自らの考察を説明する力を身につける。

### 授業方法

主に講義形式で行う。授業期間中は講義内容の理解度を測るために毎回事後課題として小レポートの作成を課す（2回目～14回目の全13回）。小レポート課題については、授業中に口頭で解説する。さらに、期末課題として、講義内容の中から1つを選択し、文化と社会の関係に関する考察を含んだレポートの作成を課題とする（1,000字程度）。期末課題については、採点后コメントを返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス アジアの文化
- 第2回 東アジアの文化1－琉球
- 第3回 東アジアの文化2－朝鮮半島
- 第4回 東アジアの文化3－中国
- 第5回 東アジアの文化4－華僑
- 第6回 北方文化－アイヌ
- 第7回 東南アジアの文化1－タイ
- 第8回 東南アジアの文化2－インドネシア
- 第9回 東南アジアの文化3－ベトナム
- 第10回 東南アジアの文化4－ラオス・ミャンマー
- 第11回 南アジアの文化1－北インド
- 第12回 南アジアの文化2－南インド
- 第13回 西アジアの文化1－音楽
- 第14回 西アジアの文化2－舞踊
- 第15回 総括 アジアにおける日本

### 成績評価の方法

到達目標1を測定する小レポート（40%）、また、到達目標2を測定する期末レポート（50%）、授業への参加状況（10%）により評価する。

### 履修にあたっての注意

事後課題（小レポート）の内容について、随時指名して発言を求めするので、しっかり事後学習をした上で参加すること。

### 教科書

なし

30821

## 地理学基礎論（自然地理学を含む）

担当教員：上野 莉紗

2 単位 後期

### サブタイトル

日本の自然環境と人々の暮らし

### 授業のねらい

地理学的視点から、地域で起きている自然現象・人文現象を総合的に考える姿勢を養う。

他地域との比較を通して、自地域の特徴を考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 日本の自然環境の特徴を理解する。
2. 日本各地で起きている現象について、自然現象・人文現象の両面に着目して考えられるようになる。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進めます。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地理学とは何か？
- 第3回 日本の地形環境
- 第4回 日本の気候環境
- 第5回 日本の自然の恵み
- 第6回 日本の自然の災害
- 第7回 日本の都市
- 第8回 日本の農村
- 第9回 日本の文化
- 第10回 日本の交通の発達と生活の変化
- 第11回 国際社会と日本
- 第12回 日本の地域振興
- 第13回 日本の環境保全
- 第14回 日本の防災
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度（20%）
- ・毎回の授業で行うミニレポート（40%）
- ・最終講義終了後のレポート（40%）

### 履修にあたっての注意

中学校社会科および高等学校地理歴史科の地理学関係免許対応科目で「概論・概説」に対応する。

### 教科書

教科書は使用せずに、講義用の資料を配布します。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。地域や地名の参照のため、高等学校で使用した地図帳を持参してください。

### 参考書

地理教育研究会著『人の暮らしと動きが見えてくる！知るほど面白くなる日本地理』（日本実業出版社、2016）  
 吉田 英嗣著『はじめての自然地理学』（古今書院、2017）  
 山村順次編『新・日本地理』（原書房、2008）

30831

## 人文地理学

担当教員：上野 莉紗

2 単位 前期

### サブタイトル

日本の地域変容

### 授業のねらい

地図から地域変容を読み解く視点を養う。

他地域との比較を通して、自地域の特徴を考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 地図の基本的な読み解き方を理解する。
2. 全国の主要都市について、それぞれの地域がどのように変化してきたのか理解する。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進める予定ですが、受講人数が少なければゼミ形式に切り替える可能性があります。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人文地理学とは何か？
- 第3回 日本の自然環境
- 第4回 日本の自然の恵みと災害
- 第5回 日本の都市と農村
- 第6回 日本の地域誌(1) 北海道
- 第7回 日本の地域誌(2) 東北
- 第8回 日本の地域誌(3) 関東
- 第9回 日本の地域誌(4) 中部
- 第10回 日本の地域誌(5) 北陸
- 第11回 日本の地域誌(6) 近畿
- 第12回 日本の地域誌(7) 中国
- 第13回 日本の地域誌(8) 四国
- 第14回 日本の地域誌(9) 九州
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度（20%）
- ・毎回の授業で行うミニレポート（40%）
- ・最終講義終了後のレポート（40%）

### 教科書

平岡昭利編『読みたくなる「地図」東日本編』（海星社、2017）  
 平岡昭利編『読みたくなる「地図」西日本編』（海星社、2017）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。地域や地名の参照のため、高等学校で使用した地図帳を持参してください。

### 参考書

人文地理学会編『人文地理学辞典』（丸善出版、2013）

30841

## 地誌学

担当教員：上野 莉紗

2 単位 後期

### サブタイトル

北海道の地誌

### 授業のねらい

北海道の地域の特徴について理解を深める。

地理学的視点から、各地域で起きている自然現象・人文現象を総合的に考える姿勢を養う。

### 到達目標

1. 北海道の地域の特徴について理解する。
2. 各地域で起きている現象について、自然現象・人文現象の両面に着目して考えられるようになる。
3. 他地域との比較を通して、自地域の特徴に気づく。

### 授業方法

基本的に講義形式で授業を進めます。授業のなかでは作業を行い、他の人と共有する時間を多く設けます。作業を通じて何に気づいたか、積極的な発言を期待します。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地誌学とは何か？
- 第3回 北海道の自然環境
- 第4回 北海道の歴史
- 第5回 北海道の地域誌(1) 札幌
- 第6回 北海道の地域誌(2) 小樽
- 第7回 北海道の地域誌(3) 三笠
- 第8回 北海道の地域誌(4) 函館
- 第9回 北海道の地域誌(5) 松前
- 第10回 北海道の地域誌(6) 洞爺湖・有珠山
- 第11回 北海道の地域誌(7) 稚内
- 第12回 北海道の地域誌(8) 帯広
- 第13回 北海道の地域誌(9) 北見
- 第14回 北海道の地域誌(10) 根室
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

- ・授業への参加状況や受講態度 (20%)
- ・毎回の授業で行うミニレポート (40%)
- ・最終講義終了後のレポート (40%)

### 履修にあたっての注意

中学校社会科および高等学校地理歴史科の地理学関係免許対応科目で「概論・概説」に対応する。

### 教科書

教科書は使用せずに、講義用の資料を配布します。

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は授業時に都度紹介します。

### 参考書

平岡昭利編『北海道 地図で読む百年』（古今書院、2001）  
山下克彦・平川一臣編『日本の地誌3 北海道』（朝倉書店、2011）

33031

## 心理学特講 A-c

担当教員：川田 学

2 単位 前期

### サブタイトル

子どもの発達心理学入門

### 参考ホームページ

北海道大学大学院教育学研究院乳幼児発達論研究室 <https://hokudai-cdee.jimdo.com> (講義担当者の研究室 website です)

### 授業のねらい

この授業では、主に乳児期から幼児期までの子どもの心身の発達について学びます。発達心理学を中心に、教育学や歴史研究、保育園や幼稚園、子育て支援のような実践にも触れながら、現代社会を生きる子どもの理解を深めていきます。ちょっとしたワークをしたり、映像を通して実際の子どもの様子を知ることを取り入れます。

### 到達目標

- ・発達心理学における子ども研究の基本的な知識を習得する。
- ・心理学にとどまらず、広い視野で子どもを理解することの必要性を認識できるようになる。

### 授業方法

講義を中心としながら、一部に演習の要素を取り入れます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：この授業の目的、内容、導入
- 第2回 人間の「子ども」とは
- 第3回 乳児の世界(1)未熟な乳児
- 第4回 乳児の世界(2)乳児の認知機能
- 第5回 乳児の世界(3)乳児の社会的経験
- 第6回 乳児の世界(4)乳児の自己意識
- 第7回 子育てと保育の中の発達(1)歴史の中の乳児
- 第8回 子育てと保育の中の発達(2)家庭と保育施設
- 第9回 幼児の世界(1)不思議な2歳児
- 第10回 幼児の世界(2)不思議な3歳児
- 第11回 幼児の世界(3)不思議な4歳児
- 第12回 幼児の世界(4)不思議な5歳児
- 第13回 子どもの発達と文化(1)ところ変われば発達変わる
- 第14回 子どもの発達と文化(2)ところ変われば子育て変わる
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業中に実施する小課題 50%、期末試験 50%。

### 履修にあたっての注意

心理学の入門的な内容は知っていた方が理解が良いでしょう。授業中に考えや意見を求めたり、話し合ったりしてもらうことも多いので、そのつもりで受講してください。

### 教科書

坂上裕子他『問いからはじめる発達心理学』(有斐閣、2014、ISBN: 978-4641150133)

### 教科書・参考書に関する備考

その他必要な資料は適宜配布します。

### 参考書

松本博雄他『0123 発達と保育：年齢から読み解く子どもの世界』(ミネルヴァ書房、2012、ISBN: 978-4623063567)  
スレーター他『発達心理学・再入門』(新曜社、2017、ISBN: 978-4788515215)



33041

## 心理学特講 A-d

担当教員：加藤 弘通

2 単位 後期

### サブタイトル

子どもの発達と問題行動

### 授業のねらい

いじめや不登校・ひきこもり、虐待、発達障害といった教育上問題とされる現象に注目し、発達という視点からそれを理解することを目指します。

### 到達目標

1. 様々な子どもの問題についての基本的な知識を身につけること
2. 複数の視点から問題を考えられるようにすること

### 授業方法

基本的には講義形式ですが、様々な事例を小グループで話し合い、解決策を考えます。またそれについて、代表して意見聴取をする場合があります。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 問題の見方を変える意義を知る
- 第3回 見方を壊す
- 第4回 見方を作る
- 第5回 発達障害Ⅰ：自閉症
- 第6回 発達障害Ⅱ：ADHD
- 第7回 発達障害Ⅲ：学習障害
- 第8回 児童虐待
- 第9回 不登校・ひきこもり
- 第10回 いじめⅠ：子ども自身に注目して
- 第11回 いじめⅡ：状況要因に注目して
- 第12回 少年犯罪・非行
- 第13回 家族支援について
- 第14回 問題をとらえる視点
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

毎回の授業で課す小レポート（30%）、到達目標である子どもの問題についての基本的な知識を問う期末試験（70%）によって評価する

### 履修にあたっての注意

授業に関係のない私語をしないこと。議論には積極的に参加すること。マイクをあてられたときには意見をはっきりと述べる

### 教科書

なし

33071

## 心理学特講 B-c

担当教員：実平 奈美

2 単位 前期

### サブタイトル

青年期からのメンタルヘルス～仕事と家族の心理学～

### 授業のねらい

就職活動は大学生生活の成否を左右するほどの重要な課題ですが、就職はゴールではなく、新しい環境の始まりであり、これまでの生活では体験したことのない心理的経験が待っています。また同時に長い人生の中で家族役割の変化とともに大きな心理的課題にも向き合うことになっていきます。この講義では、職場や人生において実際に生じる心理的な諸問題について学び、自らのメンタルヘルスを良好に保ちながら人生を送るために必要な知識と心構えを持つことを目的とします。

### 到達目標

- (1)現代日本の労働環境の問題点と取り組みについて知識を身に付けること。
- (2)人生における心理的課題をメンタルヘルスの点から理解し、その改善策を提案できる能力が身につくこと。

### 授業方法

授業は講義形式で行います。講義期間内でテーマに即して考え、意見をレポートにまとめる機会を数回もちます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本の労働環境の問題
- 第3回 心理学における労働の研究
- 第4回 働くことと心の成長
- 第5回 職場におけるメンタルヘルス相談
- 第6回 仕事と生活のメンタルヘルス(1) 新入社員
- 第7回 仕事と生活のメンタルヘルス(2) 中年期
- 第8回 仕事と生活のメンタルヘルス(3) 仕事と家庭
- 第9回 仕事と生活のメンタルヘルス(4) 仕事と介護
- 第10回 看取り―再び子として―
- 第11回 老いることのメンタルヘルス
- 第12回 社会とのつながり―労働とコミュニティー―
- 第13回 多様化する家族のかたち―再構成家族、同性婚―
- 第14回 多様化する家族のかたち―養子縁組の意味―
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

到達目標(1)についての小レポート(10%)、到達目標(2)についての小レポート(20%)、期末レポート(30%)、および講義への参加状況(毎回の講義への質疑・コメント、40%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

無遅刻・無欠席を心がけること。欠席者は各自で講義 HP からプリントを入手し、自習すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

プリント(毎回)、動画(不定期)を使用します。

### 参考書

乾吉佑『働く人と組織のためのこころの支援～メンタルヘルス・カウンセリングの実際～』(遠見書房、2011、ISBN :

978-4904536285)

### 参考ホームページ

心理学特講(実平)受講者ページ <http://www.north-net.jp/sane-fuji/>(ユーザー名およびIDは受講者にお知らせします。)

33081

## 心理学特講 B-d

担当教員：実平 奈美

2 単位 後期

### サブタイトル

コミュニティの心理学～暮らしを支える新たな絆～

### 授業のねらい

私たちが生きていく上で不可欠なつながり。それは時代とともに大きく変化しています。かつての地域社会のつながりが薄れていくなかで、現代ならではの多種多様なつながりが生まれ、社会のなかで力を発揮しています。この講義では、私たちの社会が抱える様々な問題に対してコミュニティがどのように機能しているのか、その重要性に触れ、新たな可能性を考えることを目指します。

### 到達目標

- (1)子育て弱者について事例を取り上げ、その解決方法を提案できること。
- (2)社会的弱者について取り上げ、その解決方法を提案できること。

### 授業方法

講義形式で行う。講義に関連する資料（文書・動画等）を指示するので、各自で事前・事後学習すること。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コミュニティ心理学とは何か
- 第3回 基本的発想・歴史的背景
- 第4回 介入・援助とその評価
- 第5回 家庭・地域における実践(1)子育て支援
- 第6回 家庭・地域における実践(2)高齢者の地域ケア
- 第7回 家庭・地域における実践(3)女性・母親の地域ケア
- 第8回 家庭・地域における実践(4)社会的弱者・貧困の地域ケア
- 第9回 家庭・地域における実践(5)マイノリティ
- 第10回 学校・教育の場における実践(1)保育・特別支援教育
- 第11回 学校・教育の場における実践(2)オルタナティブ教育
- 第12回 産業・職場における実践
- 第13回 医療・保健・福祉における実践
- 第14回 インターネット・コミュニティ
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

到達目標(1)についての小レポート(10%)、到達目標(2)についての小レポート(20%)、期末レポート(30%)、および講義への参加状況(毎回の講義への質疑・コメント、40%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

講義の事前学習をした上で講義に出席すること。講義に関する事前・事後課題はwebを利用するので、利用環境を各自で整えること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義はプリントを配布して進行します。

### 参考書

植村勝彦・高島克子・箕口雅博・原裕視・久田満『よくわかる

コミュニティ心理学(第3版)』(ミネルヴァ書房、2017、ISBN: 978-4623080915)

### 参考ホームページ

心理学特講(実平)受講者ページ <http://www.north-net.jp/sane-fuji/>(ユーザー名およびIDは受講者にお知らせします。)

33191

## 西洋史特講 A-c

担当教員：渡邊 浩

2 単位 前期

### サブタイトル

ヨーロッパの歴史と修道院

### 授業のねらい

ヨーロッパの歴史には、教会史に限らず美術史や建築史においても、しばしば修道院が登場する。修道院は修道士たちの修行の場で、一般に外部の世界とは切り離された世界とも考えられる。確かに、そのような側面はあるが、修道院はそれが存在した時代の要請に応え、またそれを取り巻く社会のなかで多様な役割を果たした。この講義では、修道院（修道制）の歴史を、古代における出現から多様な展開を示した中世盛期にいたるまで、社会との関わりを念頭に置いてたどる。

### 到達目標

ヨーロッパの歴史・社会のなかで修道院が果たした役割を理解できる。

### 授業方法

- ・各回の内容についてレジユメを配布し、レジユメに即して講義形式で進める。
- ・参考文献の講読に毎回1時間程度の予習あるいは復習が必要。
- ・リアクションペーパー等によって、理解が深まるよう努める。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 キリスト教の成立
- 第3回 古代ローマ帝国とキリスト教
- 第4回 古代における修道制の出現
- 第5回 古代・中世の転換期におけるヨーロッパ世界
- 第6回 古代・中世の転換期における修道制の展開
- 第7回 中世キリスト教世界の成立
- 第8回 中世キリスト教世界とローマ教皇権
- 第9回 修道制の多様な展開 (1)クリュニー修道院
- 第10回 修道制の多様な展開 (2)シトー修道会
- 第11回 12世紀における異端運動
- 第12回 修道制の多様な展開 (3)托鉢修道会の出現
- 第13回 修道制の多様な展開 (4)托鉢修道会の発展
- 第14回 宗教改革の時代
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方 (30%)、試験あるいはレポート (70%)

### 履修にあたっての注意

授業を3分の1以上欠席した者は、放棄したものと見なします。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

シラバスに挙げた以外の参考書については、レジユメなどで適宜指摘します。

### 参考書

今野国雄『修道院』（近藤出版社、1971）  
今野国雄『修道 - 祈り・禁欲・労働の源流 -』（岩波書店、1981、ISBN：978-4004201519）  
朝倉文市『修道院 禁欲と観想の中世』（講談社、1995、ISBN：

978-4061492516）

朝倉文市『修道院にみるヨーロッパの心』（山川出版社、1996、ISBN：978-4634342101）

杉崎泰一郎『修道院の歴史 聖アントニオスからイエズス会まで』（創元社、2015、ISBN：978-4422203393）

33201

## 西洋史特講 A-d

担当教員：渡邊 浩

2 単位 後期

### サブタイトル

ヨーロッパの歴史と聖人崇敬

### 授業のねらい

聖ニコラウス（サンタクロース）や聖ヴァレントインは日本人にとってもなじみがある。ただし、多くの日本人は彼らを商業化した年中行事とのかかわりで知っているのであり、「聖人」として認識しているわけではない。聖人への崇敬は古代末期以来盛んとなったキリスト教信仰の一形態で、教会の建設、都市・地域アイデンティティの形成、視覚芸術のモチーフなど、キリスト教文化にも深く関わっている。この講義ではキリスト教とヨーロッパの歴史を、聖人崇敬という観点から振り返る。

### 到達目標

1. ヨーロッパの歴史におけるキリスト教と社会との関わりを理解できる。
2. キリスト教がヨーロッパ文化に及ぼした影響について、具体例をあげて説明することができる。

### 授業方法

- ・各回の内容についてレジュメを配布し、レジュメに即して講義形式で進める。
- ・参考文献の講読に毎回1時間程度の予習あるいは復習が必要。
- ・リアクションペーパー等によって、理解が深まるよう努める。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ローマ帝国によるキリスト教迫害と殉教者・聖人の出現
- 第3回 古代末期における聖人崇敬の様相 - 聖ステファノへの崇敬 -
- 第4回 西欧中世世界の成立と聖人崇敬
- 第5回 中世における聖人崇敬の諸相(1)-ヴェネツィアと聖マルコ-
- 第6回 中世における聖人崇敬の諸相(2)-聖マルシアルと神の平和-
- 第7回 中世における聖人崇敬の諸相(3)-サンチャゴ・デ・コンポステラ-
- 第8回 中世における聖人崇敬の諸相(4)-バーリと聖ニコラウス-
- 第9回 中世における聖人崇敬の諸相(5)-ペーメンと聖ヴェンセスラウス-
- 第10回 今日における列聖手続き（聖人認定手続き）
- 第11回 古代から中世初期における列聖手続き
- 第12回 ローマ教皇権による列聖のはじまり-列聖の権限はだれが持ったのか？-
- 第13回 中世における教皇権の確立と列聖手続き
- 第14回 列聖手続きと奇跡
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み（30%）、試験あるいはレポート（70%）

### 履修にあたっての注意

授業を3分の1以上欠席した者は、放棄したものと見なす。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

シラバスに挙げた以外の参考書については、レジュメなどで適宜指摘する。

### 参考書

植田重雄『守護聖者』（中央公論社、1991、ISBN:978-4121010476）  
青山吉信『聖遺物の世界』（山川出版社、1999、ISBN:978-4634645301）  
L. S. カニンガム（高柳俊一訳）『聖人崇拜』（教文館、2007、ISBN:978-4764218505）



33231

## 西洋史特講 B-c

担当教員：山本 文彦

2 単位 前期

### サブタイトル

ヨーロッパ中世・近世社会の諸問題. 1

### 授業のねらい

この授業は、12世紀から19世紀までの中世・近世のヨーロッパ社会を、さまざまな角度から取り上げ、中世・近世ヨーロッパ史の特質を考察することを目指します。人物名や事件名を覚える歴史ではなく、歴史の流れや特質を考えることに重点を置きます。

### 到達目標

中世・近世ヨーロッパ史の理解を通じて、現在の私たちの社会の特色や問題点などを考察するための歴史的な思考方法を身につけることができる。

### 授業方法

原則として、毎回テーマを設定して、その内容を講義形式で展開します。授業の内容を記したレジュメや参考資料を配付します。また授業の最後に確認テストを行う予定です。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 12世紀のヨーロッパ(1)：12世紀ルネサンス
- 第3回 12世紀のヨーロッパ(2)：農業の発展
- 第4回 12世紀のヨーロッパ(3)：中世都市の誕生
- 第5回 12世紀のヨーロッパ(4)：大学の成立
- 第6回 12世紀のヨーロッパ(5)：教会刷新運動
- 第7回 ヨーロッパ中世社会の特質(1)：中世の法と身分制社会
- 第8回 ヨーロッパ中世社会の特質(2)：裁判と平和
- 第9回 ヨーロッパ中世社会の特質(3)：都市の生活
- 第10回 14～15世紀のヨーロッパ(1)：時代概観
- 第11回 14～15世紀のヨーロッパ(2)：都市の変遷
- 第12回 14～15世紀のヨーロッパ(3)：革新の15世紀
- 第13回 14～15世紀のヨーロッパ(4)：フッガー家の時代
- 第14回 14～15世紀のヨーロッパ(5)：宗教改革前夜
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業時実施する確認テスト(80%)、授業への取り組み方(20%)

### 履修にあたっての注意

後期に開講する「西洋史特講 B-d」もあわせて受講すること。

### 教科書

なし

33241

## 西洋史特講 B-d

担当教員：山本 文彦

2 単位 後期

### サブタイトル

ヨーロッパ中世・近世社会の諸問題. 2

### 授業のねらい

この授業は、12世紀から19世紀までの中世・近世のヨーロッパ社会を、さまざまな角度から取り上げ、中世・近世ヨーロッパ史の特質を考察することを目指します。人物名や事件名を覚える歴史ではなく、歴史の流れや特質を考えることに重点を置きます。

### 到達目標

中世・近世ヨーロッパ史の理解を通じて、現在の私たちの社会の特色や問題点などを考察するための歴史的な思考方法を身につけることができる。

### 授業方法

原則として、毎回テーマを設定して、その内容を講義形式で展開します。授業の内容を記したレジュメと参考資料を配付します。また、授業の最後に確認テストを実施します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 宗教改革(1)：前史
- 第3回 宗教改革(2)：経過
- 第4回 宗教改革(3)：結果
- 第5回 16～18世紀のヨーロッパ社会(1)：絶対主義
- 第6回 16～18世紀のヨーロッパ社会(2)：啓蒙主義
- 第7回 16～18世紀のヨーロッパ社会(3)：産業革命
- 第8回 16～18世紀のヨーロッパ社会(4)：コミュニケーション革命
- 第9回 16～18世紀のヨーロッパ社会(5)：魔女狩り
- 第10回 16～18世紀のヨーロッパ社会(6)：科学革命
- 第11回 近世ヨーロッパの日常生活(1)：村と都市の生活
- 第12回 近世ヨーロッパの日常生活(2)：娯楽と祝祭
- 第13回 近世ヨーロッパの日常生活(3)：身分と名誉
- 第14回 近世ヨーロッパの日常生活(4)：信仰
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業時実施する確認テスト(80%)、授業への取り組み方(20%)

### 履修にあたっての注意

前期に開講する「西洋史特講 B-c」もあわせて受講すること。

### 教科書

なし

33271

## 西洋史特講 C-c

担当教員：田村 理

2 単位 前期

### サブタイトル

近代イギリスと人びとの歴史、1815～1914 年

### 授業のねらい

イギリス近代史（1815～1914 年）をグローバル・ヒストリーの視点から再解釈する。環境や経済にまつわる長期的・広域的な変動がいかに当該国家の社会や政治の変容に影響を与えたのか、またその中に生きる男と女は何を考えたか、どう行動したのか、ということをもとに、豊かな具体的な事例とともに明らかにする。

### 到達目標

イギリスの社会や文化にまつわる通俗的イメージにとらわれず、それらの歴史的形成過程を考察する手がかりを得る。またそれをもとに、グローバル化に直面する現代日本の私たちが何を考えたか、どう行動すべきかということ、特に社会や政治をより良きものにする方策を探究できるようになる。

### 授業方法

講義形式とする。毎回の授業でプリントを配布するとともに、適宜パワーポイントで関連する図表や写真等を紹介する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 構造Ⅰ：産業革命の起源と発生
- 第3回 構造Ⅱ：産業革命の展開と帰結
- 第4回 構造Ⅲ：ウィーン体制と国際政治
- 第5回 構造Ⅳ：イギリス自由主義的諸改革と民衆騒乱
- 第6回 人物Ⅰ：ジョージ・スティーヴンソン（1781～1848 年）
- 第7回 人物Ⅱ：ウィリアム・S・オプライエン（1803～64 年）
- 第8回 構造Ⅴ：欧米列強の世界進出
- 第9回 構造Ⅵ：パクス・ブリタニカとイギリス国民
- 第10回 構造Ⅶ：ベル・エポックと帝国主義
- 第11回 構造Ⅷ：イギリス社会帝国主義と労働者階級
- 第12回 人物Ⅲ：フローレンス・ナイティンゲール（1820～1910 年）
- 第13回 人物Ⅳ：ダダバーイ・ナオロジ（1825～1917 年）
- 第14回 人物Ⅴ：ジョセフィン・バトラ（1826～1906 年）
- 第15回 人物Ⅵ：ムハンマド・アフマド（1844～85 年）

### 成績評価の方法

ミニレポート 3 回（20 × 3 点満点）＋期末試験（40 点満点）。

### 履修にあたっての注意

私語厳禁。ミニレポート作成の際には他人の著作権を侵害しないこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業中に参考文献リストを配布する。

33281

## 西洋史特講 C-d

担当教員：田村 理

2 単位 後期

### サブタイトル

現代イギリスと人びとの歴史、1914 年～現在

### 授業のねらい

イギリス現代史（1914 年～現在）をグローバル・ヒストリーの視点から再解釈する。環境や経済にまつわる長期的・広域的な変動がいかに当該国家の社会や政治の変容に影響を与えたのか、またその中に生きる男と女は何を考えたか、どう行動したのか、ということをもとに、豊かな具体的な事例とともに明らかにする。

### 到達目標

イギリスの社会や文化にまつわる通俗的イメージにとらわれず、それらの歴史的形成過程を考察する手がかりを得る。またそれをもとに、グローバル化に直面する現代日本の私たちが何を考えたか、どう行動すべきかということ、特に社会や政治をより良きものにする方策を探究できるようになる。

### 授業方法

講義形式とする。毎回の授業でプリントを配布するとともに、適宜パワーポイントで関連する図表や写真等を紹介する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 構造Ⅰ：第一次世界大戦から恒久平和への途
- 第3回 構造Ⅱ：平等な社会を求めて
- 第4回 人物Ⅰ：エメリン・パンクハースト（1858～1928 年）
- 第5回 人物Ⅱ：ラムジ・マクドナルド（1866～1937 年）
- 第6回 構造Ⅲ：大恐慌から第二次世界大戦への途
- 第7回 構造Ⅳ：人びとの自由と戦争
- 第8回 人物Ⅲ：サー・ウィンストン・チャーチル（1874～1965 年）
- 第9回 人物Ⅳ：ジョン・M・ケインズ（1883～1946 年）
- 第10回 構造Ⅴ：冷戦と脱植民地化
- 第11回 構造Ⅵ：戦後復興と福祉国家
- 第12回 構造Ⅶ：グローバル化とネオリベリズム
- 第13回 構造Ⅷ：サッチャリズムから「大きな社会」まで
- 第14回 人物Ⅴ：ジョン・レノン（1940～80 年）
- 第15回 人物Ⅵ：ダイアナ（1961～97 年）

### 成績評価の方法

ミニレポート 3 回（20 × 3 点満点）＋期末試験（40 点満点）。

### 履修にあたっての注意

私語厳禁。ミニレポート作成の際には他人の著作権を侵害しないこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業中に参考文献リストを配布する。

33321

## 西洋史文献講読 c

担当教員：本間 俊行

2 単位 前期

## サブタイトル

英語文献を読む

## 授業のねらい

この授業では、古代ローマ史に関する英語文献を講読します。古代ローマに関する研究書を読むこととおして、古代ローマの政治・社会・文化の特質を理解するとともに、英語文献を講読するために必要な技術の習得をめざします。

## 到達目標

1. 古代ローマ史に関して基礎的な知識を習得すること。
2. 卒業論文を作成するうえで必要な英語文献の読解力を習得すること。
3. 英語文献に書かれた内容を要約する技術を身につけること。

## 授業方法

毎回アトランダムにテキスト各箇所を担当者を指名し、日本語に訳してもらいます。そのため、事前に配布されるテキストの指定範囲を必ず予習して授業に臨んでください。また、毎回の授業時間の最後に小テストを行ない、各回の理解度を確認します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 英語文献講読と小テスト(1)
- 第3回 英語文献講読と小テスト(2)
- 第4回 英語文献講読と小テスト(3)
- 第5回 英語文献講読と小テスト(4)
- 第6回 英語文献講読と小テスト(5)
- 第7回 英語文献講読と小テスト(6)
- 第8回 英語文献講読と小テスト(7)
- 第9回 英語文献講読と小テスト(8)
- 第10回 英語文献講読と小テスト(9)
- 第11回 英語文献講読と小テスト(10)
- 第12回 英語文献講読と小テスト(11)
- 第13回 英語文献講読と小テスト(12)
- 第14回 英語文献講読と小テスト(13)
- 第15回 英語文献講読と小テスト(14)

## 成績評価の方法

定期試験 (50%)、小テスト (25%)、授業への参加状況 (25%) で評価します。

## 履修にあたっての注意

第1回目の授業で講読するテキストを配布し、第2回目の授業から講読をはじめます。そのため、履修希望者は第1回目のオリエンテーションに必ず出席してください。

## 教科書

D. S. Potter, *A Companion to the Roman Empire* (Wiley Blackwell, 2010, ISBN : 978-0631226444)

## 教科書・参考書に関する備考

教科書に関しては、教員がコピーを用意します。

33331

## 西洋史文献講読 d

担当教員：渡邊 浩

2 単位 後期

## サブタイトル

英語文献によってヨーロッパ中世史を学ぶ

## 授業のねらい

英語文献の講読を通じて、ヨーロッパ中世史についての知識を身につけるとともに、論文のスタイルを学ぶ。

## 到達目標

卒業論文を作成する上で必要となる英語文献を独力で読み進むことができる。

## 授業方法

- ・毎回、受講者に当てて、訳してもらおう。
- ・従って、毎回2時間程度の子習が必要となる。
- ・内容的な説明、毎回の小テストについての解説は、必要に応じて行う。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講読と小テスト(1)
- 第3回 講読と小テスト(2)
- 第4回 講読と小テスト(3)
- 第5回 講読と小テスト(4)
- 第6回 講読と小テスト(5)
- 第7回 講読と小テスト(6)
- 第8回 講読と小テスト(7)
- 第9回 講読と小テスト(8)
- 第10回 講読と小テスト(9)
- 第11回 講読と小テスト(10)
- 第12回 講読と小テスト(11)
- 第13回 講読と小テスト(12)
- 第14回 講読と小テスト(13)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

定期試験 (50%) 小テスト (25%) 授業への取り組み方 (25%)

## 履修にあたっての注意

- ・毎回、受講者にアトランダムにあてて訳してもらいます。必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・西洋史文献講読 c とあわせて受講してください。
- ・西洋史特講 A-d とあわせて受講することをすすめます。

## 教科書

Thomas Head, Richard Landes (ed.), *The Peace of God: social violence and religious response in France around the year 1000* (Cornell University Press, 1992)

33341

## 考古学 a

担当教員：小野 裕子

2 単位 前期

### サブタイトル

考古学から辿る文化的存在としての人類

### 授業のねらい

人類の歴史において文字資料によりその実態を追求できる時間は僅か数千年足らずである。また、民族誌に知られるように「文字を持たない」文化も過去に幾多も存在した。文字記録の無い文化とその担い手を研究する考古学とはどのような学問か、その基本的な方法を学び、文化的存在であるヒトの出現とその発達を進化段階を辿りながら理解する。

### 到達目標

考古学の学史とその方法をまず学び(到達目標1)、次いで生物としてのヒトが文化を獲得し世界各地に分布するまでのプロセスを理解する(到達目標2)ことを目指す。

### 授業方法

パワーポイントを使用して講義を行う。必要な図・表等は配布資料とする。講義内容に従いミニレポートおよびグループ発表を課す。

### 授業計画

- 第1回 講義概要・考古学発達史(前期の講義概要、考古学史)
- 第2回 考古学の基礎的方法(考古学の定義と方法論概説、I. 層位学的方法)
- 第3回 II. 型式論的方法1(「型式」の時間的属性①)
- 第4回 II. 型式論的方法2(「型式」の時間的属性②)
- 第5回 II. 型式論的方法3(「型式」の空間的属性①)
- 第6回 II. 型式論的方法4(「型式」の空間的属性②)
- 第7回 II. 型式論的方法5(「型式」の機能・用途的属性、「分類」の実習)
- 第8回 III. 理化学的方法(理化学的方法による年代決定、産地同定など)
- 第9回 サルからヒトへ(類人猿から原人の出現まで)
- 第10回 ホモ属の出現と拡散(Out of Africa、その時期と地域)
- 第11回 古代型新人の出現と能力1(石器製技術からの検証)
- 第12回 古代型新人の能力2(狩猟行為・儀礼からの検証)
- 第13回 現代型新人の出現と能力1(古代型新人との比較—技術と言語能力)
- 第14回 現代型新人の能力2(古代型新人との比較—生活圏と社会ネットワーク)
- 第15回 現代型新人の世界各地への拡散と適応(拡散の経路と世界各地の集団の形成)

### 成績評価の方法

成績は、到達目標1および2の各々について、ミニレポート、グループ発表の合計(40%)と、学期末試験(60%)合計を総合し評価する。

### 履修にあたっての注意

講義は受講者の権利であることを常に意識して、意欲的に参加することが望まれる。また、授業中の飲食ならびに携帯電話・メールの授受は社会的なマナーに反するので自粛を求める。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要な資料を都度配付する

### 参考書

佐々木憲一・小杉康他『はじめて学ぶ考古学』(有斐閣アルマ、2011、ISBN:978-4641124349)  
吉野正敏・安田喜憲編『講座 文明と環境』(朝倉書店、2008、ISBN:978-4254106565)  
斎藤成也『核 DNA 解析でたどる 日本人の源流』(河出書房新社、2017、ISBN:978-4309253725)  
中尾 央・松木武彦・三中信宏『文化進化の考古学』(勁草書房、2017、ISBN:978-4326248452)



33351

## 考古学 b

担当教員：小野 裕子

2 単位 後期

### サブタイトル

考古学から繙く列島北部地域の人と文化

### 授業のねらい

日本国の少数民族の一つであるアイヌ民族の歴史と文化については、これまでに歴史学、民族学、民俗学、言語学などからの研究がなされてきているが、国民一般の認知度は高いとは言えない。本講では北海道に学ぶ機会を得た学生諸君が、考古学という物質文化を媒介とする学問からみたアイヌ民族の歴史と文化を繙くことで、日本の歩んできた歴史に対して広い視野を身をもつことを主眼とする。

### 到達目標

日本列島で人類の確実な活動の痕跡が確認される後期旧石器文化以降の諸文化の形成とその特色を辿り、その中からいかに列島北部地域の歴史的独自性が強まり、結果的にアイヌ文化が形成されるに至ったかを單元ごとに理解することを目指す。

### 授業方法

パワーポイントを使用して講義を行う。必要な図・表等は配布資料とする。講義内容に従い、單元ごとのミニレポートを課す。

### 授業計画

- 第1回 旧石器文化の誕生から北東アジアへの展開まで（講義概要と旧石器文化の北東アジアへの波及）
- 第2回 石の割れ方・石器の読み方（石と石器、剥片の見方）
- 第3回 日本列島へ波及した後期旧石器文化（日本列島への後期旧石器文化の到来と背景）
- 第4回 後期旧石器文化の様相1（石器群の特徴と変遷：AT降下以前～以降[前半]）
- 第5回 後期旧石器文化の様相2（石器群の特徴と変遷：AT降下以前～以降[後半]、生活と社会）
- 第6回 後氷期と縄文文化の始まり（後期旧石器終末の環境変化と縄文文化の形成）
- 第7回 縄文文化の経済と社会（縄文文化の生業・社会）
- 第8回 縄文土器の制作技術と土器から読み取れるもの（縄文原体の作成と施文法）
- 第9回 弥生文化の始まりと展開（弥生文化の形成と展開に関する問題）
- 第10回 弥生社会の変貌と列島北部地域の続縄文文化（弥生社会変貌の要因、続縄文文化の形成と特色）
- 第11回 古代国家の成立と北方地域（日本列島のヒトの遺伝学的形成と古代国家の影響）
- 第12回 列島北部地域の変容と擦文文化の形成（擦文文化形成の経緯と生業・社会の特色）
- 第13回 擦文文化の展開と地域差（擦文文化の時間的拡がり地域差）
- 第14回 オホーツク文化の出現と特徴（オホーツク文化の到来と在地文化への影響）
- 第15回 オホーツク文化の終末と擦文文化の関係、および擦文文化の終焉とアイヌ文化の形成（オホーツク文化の終末からアイヌ文化形成に至る複合プロセスを辿る）

### 成績評価の方法

成績は、各單元ごとのミニレポートの合計点（40%）および、学期末試験（60%）の合計を総合し評価する。

### 履修にあたっての注意

講義は受講者の権利であることを常に意識して、意欲的に参加することが望まれる。また、授業中の飲食ならびに携帯電話・メールの授受は社会的なマナーに反するので自粛を求める。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要な資料を都度配付する

### 参考書

- 天野哲也『古代の海洋民オホーツク人の世界－アイヌ文化をさかのぼる』（雄山閣、2008、ISBN：978-4639020615）
- 石川日出志『農耕社会の成立』（岩波新書、2010、ISBN：978-4004312710）
- 小林謙一・工藤雄一郎編『増補 縄文はいつから!?—地球環境の変動と縄文文化（歴博フォーラム）』（新泉社、2012、ISBN：978-4787712134）
- 松木武彦『人間はなぜ戦うのか—考古学からみた戦争』（中央公論新社、2017、ISBN：978-4122064584）



33401

## 日本史入門 C-a

担当教員：竹野 学

2単位 前期

### サブタイトル

大日本帝国の形成

### 授業のねらい

本講義は、高校の日本史よりも広く深い全体像として日本近現代史を捉えられるようになることを目的とします。そのために近代日本の成り立ちを理解する上で必須のテーマについて、基礎的な事実確認と歴史学界における様々な解釈や評価を紹介します。C-aでは明治維新により近代国家として成立した日本が政治・経済制度上の近代化を図りながら、日清・日露戦争を経て植民地帝国となるまでの期間を扱います。

### 到達目標

1. 日本近現代史に関する基礎知識について理解することができる。
2. 近現代の日本の発展を諸外国との関係の中で理解することができる。
3. 日本近現代史に関する諸学説や資料をもとに、日本近現代史について論理的に分析し、説明することができる。

### 授業方法

毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。毎回空欄補充型のレジュメを配布し、講義内の説明を聞いて適宜それを埋めていくことで理解を深めてもらいます。ポータルサイトの「講義連絡」を利用して、毎回の講義内容に関連する事前・事後の小課題（それぞれ所要時間60分前後）の提出と、それらへの講評・解説を行います。また講義時に提出されたリアクションペーパーへの回答も同様に「講義連絡」を利用して行います。

近現代史の長所としては写真・映像史料が多く残されていることがあります。学習の理解を助けるために、それらを多く用います。また近隣アジア諸国との関係を深く学ぶために、植民地史について特化した回も設けます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスー日本近現代史の見方
- 第2回 ペリー来航
- 第3回 明治維新
- 第4回 中央集権体制の確立
- 第5回 自由民権運動
- 第6回 憲法制定と条約改正
- 第7回 立憲制の確立
- 第8回 朝鮮への干渉ー【植民地篇①】
- 第9回 日清戦争と戦後のアジア
- 第10回 台湾征服戦争ー【植民地篇②】
- 第11回 日清戦後経営
- 第12回 日露戦争
- 第13回 日露戦争に関連する映像鑑賞
- 第14回 韓国併合ー【植民地篇③】
- 第15回 日露戦後経営と大正政変

### 成績評価の方法

毎回の講義への参加状況（15%）、到達目標1を測定する、講義内容に関連して教員から「講義連絡」を利用して提示される事前・事後の小課題（15%）、到達目標3を測定する中間レポート（30%）と、および到達目標1～3を測定する期末試験（40%）により評価します。中間レポートは講義で扱う期間に関する新書などを各自が自由に選び、内容要約と内容に関する議論を展開するというかたちで行います。期末試験は講義内容と各自の学習を踏まえた上で、設問に論述してもらうかたちで行います。

### 履修にあたっての注意

後期開講の日本史入門 C-b では本講義（C-a）の履修を前提と

して講義を進めますので、C-aとC-bを通じて履修することが望まれます。近現代史は扱う領域が政治・経済・国際環境など多岐にわたるため、どうしても前近代の講義よりも情報量は多くなります。それにめげずに学習に励んでください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：講義で用いる教科書はありません。毎回プリントを配布します。

参考書：C-aで扱う期間に関する手軽な概説書として、以下の参考文献を挙げておきます。また講義中には随時参考文献を紹介し、ブックリストを配布します。

### 参考書

- 石井寛治『大系日本の歴史 12 開国と維新』（小学館ライブラリー、1993、ISBN：978-4094610123）  
 坂野潤治『大系日本の歴史 13 近代日本の出発』（小学館ライブラリー、1993、ISBN：978-4094610130）  
 松本健一『日本の近代 1ー開国・維新』（中公文庫、2012、ISBN：978-4122056619）  
 坂本多加雄『日本の近代 2ー明治国家の建設』（中公文庫、2012、ISBN：978-4122057029）  
 御厨貴『日本の近代 3ー明治国家の完成』（中公文庫、2012、ISBN：978-4122057401）  
 有馬学『日本の近代 4ー「国際化」の中の帝国日本』（中公文庫、2013、ISBN：978-4122057760）  
 佐々木克『幕末史』（ちくま新書、2014、ISBN：978-4480068002）  
 坂野潤治『日本近代史』（ちくま新書、2012、ISBN：978-4480066428）  
 原朗『日清・日露戦争をどう見るかー近代日本と朝鮮半島・中国』（NHK出版新書、2014、ISBN：978-4140884447）  
 石井寛治『日本の産業革命ー日清・日露戦争から考える』（講談社学術文庫、2012、ISBN：978-4062921473）

2017年度以前入学生  
専文化総合学  
門科  
目録

33411

## 日本史入門 C-b

担当教員：竹野 学

2 単位 後期

## サブタイトル

二つの世界大戦と日本

## 授業のねらい

本講義は、高校の日本史よりも広く深い全体像として日本近現代史を捉えられるようになることを目的とします。そのために近代日本の成り立ちを理解する上で必須のテーマについて、基礎的な事実確認と歴史学界における様々な解釈や評価を紹介します。C-b では国内外の要因により政治・経済が大きく動揺する大正期から、利権をめぐる中国との軋轢がアジア・太平洋戦争に発展し、敗戦後、再び独立を達成するまでの期間を扱います。

## 到達目標

1. 日本近現代史に関する基礎知識について理解する。
2. 近現代の日本の発展を諸外国との関係の中で理解する。
3. 日本近現代史に関する諸学説や資料をもとに、日本近現代史について論理的に分析し、説明することができる。

## 授業方法

毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。毎回空欄補充型のレジュメを配布し、講義内の説明を聞いて適宜それを埋めていくことで理解を深めてもらいます。ポータルサイトの「講義連絡」を利用して、毎回の講義内容に関連する事前・事後の小課題（それぞれ所要時間 60 分前後）の提出と、それらへの講評・解説を行います。また講義時に提出されたリアクションペーパーへの回答も同様に「講義連絡」を利用して行います。

近現代史の長所としては写真・映像史料が多く残されていることがあります。学習の理解を助けるために、それらを多く用います。また近隣アジア諸国との関係を深く学ぶために、植民地史について特化した回も設けます。

## 授業計画

- 第1回 第一次世界大戦と日本
- 第2回 第一次世界大戦に関連する映像鑑賞
- 第3回 民本主義の展開
- 第4回 政党内閣期の政治と社会
- 第5回 満州事変と「満州国」―【植民地篇①】
- 第6回 満州農業移民―【植民地篇②】
- 第7回 政党政治の崩壊と軍部の台頭
- 第8回 日中全面戦争と第二次世界大戦の勃発
- 第9回 アジア・太平洋戦争の開戦
- 第10回 大日本帝国の崩壊
- 第11回 「大東亜共栄圏」の実態―【植民地篇③】
- 第12回 第二次世界大戦に関連する映像鑑賞
- 第13回 占領政策の開始
- 第14回 民主化の進展
- 第15回 講和条約の締結

## 成績評価の方法

毎回の講義への参加状況（15%）、到達目標 1 を測定する、講義内容に関連して教員から「講義連絡」を利用して提示される事前・事後の小課題（15%）、到達目標 3 を測定する中間レポート（30%）と、および到達目標 1～3 を測定する期末試験（40%）により評価します。中間レポートは講義で扱う期間に関する新書などを各自が自由に選び、内容要約と内容に関する議論を展開するというかたちで行います。期末試験は講義内容と各自の学習を踏まえた上で、設問に論述してもらうかたちで行います。

## 履修にあたっての注意

日本史入門 C-b では日本史入門 C-a の履修を前提として講義を進めますので、C-a と C-b を通じて履修することが望まれます。

す。近現代史は扱う領域が政治・経済・国際環境など多岐にわたるため、どうしても前近代の講義よりも情報量が多くなります。それにめげずに学習に励んでください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：講義で用いる教科書はありません。毎回プリントを配布します。

参考書：講義全体を通しての手軽な概説書として、以下の参考文献を挙げておきます。また講義中には随時参考文献を紹介し、ブックリストを配布します。

## 参考書

- 江口圭一『大系 日本の歴史 14 二つの大戦』（小学館ライブラリー、1993、ISBN：978-4094610147）  
 藤原彰『大系 日本の歴史 15 世界の中の日本』（小学館ライブラリー、1993、ISBN：978-4094610154）  
 有馬学『日本の近代 4―「国際化」の中の帝国日本』（中公文庫、2013、ISBN：978-4122057760）  
 北岡伸一『日本の近代 5―政党から軍部へ』（中公文庫、2013、ISBN：978-4122058071）  
 五百旗頭真『日本の近代 6―戦争・占領・講和』（中公文庫、2013、ISBN：978-4122058446）  
 坂野潤治『日本近代史』（ちくま新書、2012、ISBN：978-4480066428）  
 小林英夫『日本軍政下のアジア―「大東亜共栄圏」と軍票』（岩波新書、1993、ISBN：978-4004303114）  
 古川隆久『昭和史』（ちくま新書、2016、ISBN：978-4480068873）  
 福永文夫『日本占領史 1945-1952―東京・ワシントン・沖縄』（中公新書、2014、ISBN：978-4121022967）

33441

## 日本史特講 A-c

担当教員：石田 晴男

2 単位 前期

### サブタイトル

戦国期の畿内近国. 1

### 授業のねらい

応仁の乱前後の畿内近国の状況を細川右京兆家の動向から見ていくことにより、戦国初期の体制を理解する。

### 到達目標

高校の教科書では取り上げられなかった出来事と視点を提示することにより、戦国期初期の体制・動向を統一的に見ることができる。

### 授業方法

基本的に講義を中心とし、関連する史料も読んでいく。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 管領政治下の加賀富樫家の内紛(1)
- 第3回 管領政治下の加賀富樫家の内紛(2)
- 第4回 応仁の乱と畿内近国
- 第5回 応仁の乱後の畿内近国
- 第6回 山城国における畠山政長と畠山義就の争い(1)
- 第7回 山城国における畠山政長と畠山義就の争い(2)
- 第8回 山城国一揆の諸研究(1)
- 第9回 山城国一揆の諸研究(2)
- 第10回 明応二年の政変と日野富子・細川政元の動向
- 第11回 明応二年の政変と畿内近国・東国
- 第12回 明応二年の政変と山城の国一揆の解体
- 第13回 右京兆家の体制 細川政元と家臣団(1)
- 第14回 右京兆家の体制 細川政元と家臣団(2)
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート 40%、テスト 60%

### 履修にあたっての注意

高校の教科書には出てこない人物や事件が扱われるので、有名な人物や事件以外に関心の無い人むきではありません。

### 参考書

福島克彦『畿内近国の戦国合戦』（吉川弘文館、2008）

33451

## 日本史特講 A-d

担当教員：石田 晴男

2 単位 後期

### サブタイトル

戦国期の畿内近国. 2

### 授業のねらい

戦国期の畿内近国を室町幕府・細川右京兆家の動向から関連してみることによって、全体的に俯瞰する。

### 到達目標

難解な戦国期の状況を室町幕府・細川右京兆家の動向から関連して理解することができる。

### 授業方法

基本的に講義で、関係する史料も読んでいく

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 細川政元の暗殺と右京兆家の分裂(1)
- 第3回 細川政元の暗殺と右京兆家の分裂(2)
- 第4回 将軍の交替と畿内近国の動向(1) 足利義澄と足利義材
- 第5回 将軍の交替と畿内近国の動向(2) 足利義晴と足利義維
- 第6回 堺公方府の成立と崩壊
- 第7回 享禄の抗争の影響(1)
- 第8回 享禄の抗争の影響(2)
- 第9回 加賀の享禄の錯乱 2(1)
- 第10回 加賀の享禄の錯乱 2(2)
- 第11回 天文期の秩序(1)
- 第12回 天文期の秩序(2)
- 第13回 惣国一揆(1)
- 第14回 惣国一揆(2)
- 第15回 織田信長と甲賀郡中惣・伊賀惣国一揆

### 成績評価の方法

授業への参加度（40%）と試験（60%）

### 参考書

福島克彦『畿内近国の戦国合戦』（吉川弘文館、2008）

33481

## 日本史特講 B-c

担当教員：松本 あづさ

2 単位 前期

### サブタイトル

北方地域の前近代

### 授業のねらい

蝦夷地を中心とした、前近代の北方地域の歴史に理解を深めることを目的とします。また、北海道内に残された史料を確認しながら、身近にある史料から見える歴史像にも注目します。

もとは先住民アイヌの生活空間であり、のちに日本のなかの北海道となっていく蝦夷地の歴史を考えることは国家史を考えることにもつながります。北方地域の歴史に関する基礎的な知識を積み重ねながら、日本史についても新たな視角を得ることを目標とします。

### 到達目標

1. 前近代の蝦夷地と周辺地域で展開した歴史について、基礎的な知識を身につける。
2. 北方地域の歴史から国家史を考えられるようになる。
3. 前近代におけるアイヌと和人との関係について、先行研究や史料をもとに考える力を身につける。
4. 北海道を含む北方地域の歴史を調べるために必要な基本文献を把握する。

### 授業方法

- ・前期は、18世紀末までを対象とし、19世紀以降の歴史については後期の特講で取り扱います。
- ・配付資料とパワーポイントをもとに、講義形式で進めます。
- ・授業後、取り扱った分野に関する文献をもとに復習することが求められます(30分程度)。主な文献は配付資料に掲載し、授業でも指示します。
- ・授業の冒頭で、前回の内容に関する質問について回答します。

### 授業計画

- 第1回 「北海道」という名称
- 第2回 北海道史特有の時代区分論
- 第3回 文献に記されはじめた「エミシ」「エゾ」
- 第4回 「アイヌ文化」をめぐる考古学研究
- 第5回 コシヤマインの戦いと蠣崎氏
- 第6回 松前藩の成立
- 第7回 商場知行制の確立とシャクシャインの戦い
- 第8回 場所請負制の展開
- 第9回 近世蝦夷地における地震・津波・噴火
- 第10回 カラフトアイヌとサンタン交易
- 第11回 千島アイヌの交易世界と帝政ロシア
- 第12回 蝦夷地をめぐるロシア・幕府・知識人
- 第13回 クナシリ・メナシの戦いと「夷酋列像」
- 第14回 第一次蝦夷地幕領化
- 第15回 蝦夷地探検と「異国境」の民族誌

### 成績評価の方法

学期末の試験(60%)、授業への参加状況(40%)により評価します。

### 教科書

なし

### 参考書

- 榎森進編『アイヌの歴史と文化 I』(創童舎、2003、ISBN：978-4915587191)  
榎森進編『アイヌの歴史と文化 II』(創童舎、2004、ISBN：978-4915587238)  
桑原真人・川上淳『北海道の歴史がわかる本』(亜理西社、2008、

ISBN：978-4900541757)

長沼孝ほか『新版北海道の歴史 上』(北海道新聞社、2011、ISBN：978-4894536265)

関口明・田端宏ほか『アイヌ民族の歴史』(山川出版社、2015、ISBN：978-4634590793)

北海道史研究協議会編『北海道史事典』(北海道出版企画センター、2016、ISBN：978-4832816084)



33491

## 日本史特講 B-d

担当教員：松本 あづさ

2単位 後期

### サブタイトル

蝦夷地から北海道へ

### 授業のねらい

19世紀を中心とする北方地域の歴史を概説します。一般に、北海道の歴史は近代の「開拓」を起点として語られがちですが、それ以前からのつながりをふまえて考えていきます。

前期と同様、北方地域の歴史に関する基礎的な知識を積み重ねながら、国家史についても新たな視角を得ることを目標とします。

### 到達目標

1. 近世期に展開した歴史をふまえたうえで、近代以降の「北海道」の歴史を考える視点を持つ。
2. 近現代の北海道を中心とした北方地域の歴史に関する基礎的な知識を身につける。
3. 近代以降の「開拓」がアイヌ民族に与えた影響について考える力を身につける。
4. 北海道を含む北方地域の歴史を調べるために必要な基本文献を把握する。

### 授業方法

- ・前期は、18世紀末までを対象とし、19世紀以降の歴史については後期の特講で取り扱います。
- ・配付資料とパワーポイントをもとに、講義形式で進めます。
- ・授業後、取り扱った分野に関する文献をもとに復習することが求められます（30分程度）。文献は配付資料に掲示し、授業でも指示します。
- ・授業の冒頭で、前回の内容に関する質問について回答します。

### 授業計画

- 第1回 19世紀の紀行文に描かれた蝦夷地
- 第2回 箱館開港と第二次蝦夷地幕領化
- 第3回 箱館戦争
- 第4回 開拓使の政策とアイヌ民族
- 第5回 日露領土交渉の推移
- 第6回 開拓使の廃止と三県一局体制
- 第7回 北海道庁の設置
- 第8回 「北海道移民」の時代
- 第9回 19世紀後半の紀行文に描かれた蝦夷地
- 第10回 アイヌ政策の変転と北海道旧土人保護法(1)
- 第11回 アイヌ政策の変転と北海道旧土人保護法(2)
- 第12回 北海道におけるキリスト教宣教師の活動
- 第13回 ニシン漁業の発展と衰退
- 第14回 北海道における女子教育の展開
- 第15回 「アイヌ文化振興法」の制定

### 成績評価の方法

学期末の試験（60%）、授業への参加状況（40%）により評価します。

### 教科書

なし

### 参考書

- 田端宏ほか『県史1 北海道の歴史』（山川出版社、2000、ISBN：978-4634320116）  
関秀志ほか『新版北海道の歴史 下』（亜細亜社、2006、ISBN：978-4894533806）  
桑原真人・川上淳『北海道の歴史がわかる本』（北海道新聞社、2008、ISBN：978-4900541757）

関口明・田端宏ほか『アイヌ民族の歴史』（山川出版社、2015、ISBN：978-4634590793）  
北海道史研究協議会『北海道史事典』（北海道出版企画センター、2016、ISBN：978-4832816084）



33521

## 日本史特講 C-c

担当教員：一瀬 啓恵

2単位 前期

### サブタイトル

明治前期の災害対策

### 授業のねらい

倒幕を果たした明治新政府は、「富国強兵」や「文明開化」といった言葉に象徴されるような近代化政策を推し進め、立憲国家を形成していった。ではこのような近代国家の形成期に発生した災害に対し、明治政府はどのように対応したのだろうか。特にこの時期の「首都東京の近代化」を進めるにあたり、どのような災害対策が考えられたのだろうか。またいよいよ開会した帝国議会で、災害復興や防災についてどのような意見がだされ、どのような対策が話し合われたのか。講義では、明治前期の災害対策を明らかにすることで、近代日本とはどのような国家だったのかを考えていく。

### 到達目標

- 1、明治政府の災害対策を江戸幕府の災害対策と比較しつつ、理解することができる。
- 2、「近代都市の形成」において、どのような災害対策がとられたか理解することができる。
- 3、帝国議会における災害復興や防災に対する議論についての知識を得ることができる。
- 4、明治前期の災害対策を理解することで、近代日本の特徴を考察できる。

### 授業方法

講義形式で行う。毎回レジュメを配り、それをもとに講義をすすめる。

講義内容を理解するにあたって必要な日本史の基礎知識について、授業でもその都度解説を加えるが、受講者にも高校日本史の教科書などを読んで事前学習してもらおう。また講義に関係する史料などの分析にも事前に30分～1時間程度で取り組んでもらおう。

受講者は、毎回講義を受けたことにより理解できたこと、また考察したことについて論点を整理し、30分程度かけて200字程度のレポートを書く。レポートは次回の講義開始時に提出してもらい、第8回と最終回に採点して返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス～災害とは何か
- 第2回 災害史研究の現状
- 第3回 幕末の地震と復興
- 第4回 倒幕と災害
- 第5回 維新政府の災害対策(1)～凶作と水害
- 第6回 維新政府の災害対策(2)～文明開化と災害
- 第7回 明治10年代の災害対策(1)～都市計画と大火
- 第8回 明治10年代の災害対策(2)～衛生問題
- 第9回 気象観測の開始
- 第10回 巡幸と災害復興
- 第11回 義援金と災害復興
- 第12回 初期議会と災害対策(1)～法整備をめぐる
- 第13回 初期議会と災害対策(2)～水害対策をめぐる
- 第14回 初期議会と災害対策(3)～復興計画をめぐる
- 第15回 初期議会と災害対策(4)～防災をめぐる、まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1～3を測定するため、毎回の授業で課され次回講義時に提出するレポート(30%)、及び学期末のおもに到達目標4を測定するテスト(70%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業は基本的には講義形式で行うが、授業中に日本史の基礎知

識や事前に分析するよう指示した史料の内容などについて発言を求めることもあるので、事前学習はしっかりしておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書として独自に作成したプリントを使用。講義開始時に配付する。

参考書については必要に応じて随時指示する。

33531

## 日本史特講 C-d

担当教員：一瀬 啓恵

2単位 後期

### サブタイトル

近代日本の災害対策

### 授業のねらい

日清戦争、日露戦争に勝利して遂に韓国を併合し、第一次世界大戦を経て中国における権益拡大をめざし、さらなる戦争をくりひろげていった近代日本。しかし国内では地震津波や台風被害、水害や公害、都市では大火や伝染病の流行など、さまざまな災害が発生していた。社会問題への関心も高まったこの時期、人々は災害に対し、どのように対応しようとしていたのか。また政府の災害復興や防災への取り組み、帝国議会における議論なども分析し、明治後期から昭和戦前期の災害対策を検討することで、近代日本とはどのような国家だったのかを考えていく。

### 到達目標

- 1、明治後期から昭和戦前期にどのような災害が発生していたか、知識を得ることができる。
- 2、明治後期から昭和戦前期の防災対策や都市計画、災害復興のあり方についての知識を得ることができる。
- 3、明治後期から昭和戦前期の災害対策を理解することで、近代日本の特質を考察できる。

### 授業方法

講義形式で行う。毎回レジユメを配り、それをもとに講義をすすめる。

講義内容を理解するにあたって必要な日本史の基礎知識について、授業でもその都度解説を加えるが、受講者にも高校日本史の教科書などを読んで事前学習してもらう。また講義に関係する史料などの分析にも事前に30分～1時間程度で取り組んでもらう。

受講者は、毎回講義を受けたことにより理解できたこと、また考察したことについて論点を整理し、30分程度かけて200字程度のレポートを書く。レポートは次回の講義開始時に提出してもらい、第8回と最終回に採点して返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス～近代日本と災害
- 第2回 日清戦争期の都市と災害
- 第3回 明治三陸地震津波の復興政策
- 第4回 足尾銅山鉍毒事件と議会
- 第5回 日清戦争期の水害対策
- 第6回 日清戦後の災害対策と法整備
- 第7回 日露戦争期の都市と災害
- 第8回 日露戦後の防災(1)～関心の高まり
- 第9回 日露戦後の防災(2)～地震予知騒動
- 第10回 第1次大戦期の都市と災害
- 第11回 関東大震災と都市の防災(1)～復興計画
- 第12回 関東大震災と都市の防災(2)～防災への関心
- 第13回 昭和三陸地震津波の復興政策
- 第14回 函館大火と室戸台風
- 第15回 1940年代の災害政策、まとめ

### 成績評価の方法

到達目標1～2を測定するため、毎回の授業で課され次回講義時に提出するレポート(30%)、及び学期末のおもに到達目標3を測定するテスト(70%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

授業は基本的には講義形式で行うが、授業中に日本史の基礎知識や事前に分析するよう指示した史料の内容などについて発言を求められることもあるので、事前学習はしっかりしておくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書として独自に作成したプリントを使用。講義開始時に配付する。

参考書については必要に応じて随時指示する。

33561

## 日本史特講 D-c

担当教員：小倉 真紀子

2 単位 前期

## サブタイトル

日本古代史の諸問題

## 授業のねらい

日本古代史について、本講義で取り上げるさまざまなトピックスを手掛かりとして「研究の内容と目的は何か」「歴史像はどのように構築されるのか」という点を理解し、学術的な見地から問題を見出し考察することを目標とする。

## 到達目標

1. 日本古代史研究の概要を理解すると共に、現在の日本、及び現代という時代を、多様な視点から考えることができる。
2. 大学における研究の基礎となる学術レポートの書き方を身に付ける。

## 授業方法

講義形式で行うことを基本とするが、学期中に2回、授業内容に関する小レポートの提出を課す(分量はA4用紙1枚)。授業回数のうち2回は、受講者が提出した小レポートの内容に基づき、解説及び質疑応答を行う。

## 授業計画

- |      |                              |
|------|------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス — 「論文を書く」とは —          |
| 第2回  | 日本古代史と律令制(1) — 律令制研究の意義 —    |
| 第3回  | 日本古代史と律令制(2) — 文武天皇とその時代 —   |
| 第4回  | 日本古代史と律令制(3) — 国家統治の構造 —     |
| 第5回  | 問題の発見と考察(1) — レポート作成の基礎(1) — |
| 第6回  | 日本古代史の諸相(1) — 奈良時代の勤務評定 —    |
| 第7回  | 日本古代史の諸相(2) — 初期荘園の経営 —      |
| 第8回  | レポートの解説と質疑応答(1)              |
| 第9回  | 日本古代史の諸相(3) — 平安文人官僚の昇進 —    |
| 第10回 | 問題の発見と考察(2) — レポート作成の基礎(2) — |
| 第11回 | 日本古代の地方官(1) — 国司の不正と国家財政 —   |
| 第12回 | 日本古代の地方官(2) — 平安時代の良吏 —      |
| 第13回 | レポートの解説と質疑応答(2)              |
| 第14回 | 日本古代の地方官(3) — 悪政の告発と任官 —     |
| 第15回 | まとめ — 歴史を研究することの意義 —         |

## 成績評価の方法

期末レポート(80%)と、講義期間中に課す小レポート(20%)により評価する。それぞれのレポートでは、自ら考えた独自性のある問題が提起されているか、問題の解決に当たって学術レポートにふさわしい論拠が提示されているか、という点を重視する。

## 履修にあたっての注意

授業時間中に、教室内で携帯電話などの通信機器は使用しないこと(授業を聴くことに集中すること)。  
小レポートの作成には、ある程度の時間と労力を要する(参考文献として研究論文を1~2本読む場合もある)ので留意されたい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、資料を配布する。また、参考書は必ず読むこと。特に卒業論文執筆の際に役立つので、できれば入手しておくことが望ましい。

## 参考書

澤田昭夫『論文の書き方』(講談社、1977、ISBN:978-4061581531)

33571

## 日本史特講 D-d

担当教員：小倉 真紀子

2 単位 後期

## サブタイトル

奈良・平安時代の文書と社会

## 授業のねらい

延暦6年(787)3月20日五百井女王家寄進状・同7年(788)五百井女王家符案(東南院文書第3櫃第41卷所収:『平安遺文』2号・3号)を素材として、越中国須加庄の形成過程を探究することを目的とする。

## 到達目標

1. 日本古代の文書の読み方、解釈の方法を習得する。
2. 奈良時代から平安時代前期にかけて存在した初期荘園について、具体的な史料を通して実態を理解する。

## 授業方法

講義形式で行う。予習は不要であるが、復習として、配布資料を授業終了後に再度読み直すこと(わからない点があれば、放置せず質問すること)。期末レポートでは、講義で取り上げた史料を1点以上選び、それについて検証・考察し、自らの見解を論じてもらう(2,000字程度)。

## 授業計画

- |      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス — 日本古代の文書 —                     |
| 第2回  | テキストの検証                               |
| 第3回  | 史料群の検証 — 東南院文書について —                  |
| 第4回  | 古代文書研究の基礎(1) — 読み方を学ぶ(1) —            |
| 第5回  | 史料伝来の経緯(1) — 文書目録の検証 —                |
| 第6回  | 史料伝来の経緯(2) — 東南院文書第3櫃第41卷所収文書の概観(1) — |
| 第7回  | 史料伝来の経緯(3) — 東南院文書第3櫃第41卷所収文書の概観(2) — |
| 第8回  | 史料伝来の経緯(4) — 東南院文書第3櫃第41卷所収文書の概観(3) — |
| 第9回  | 古代文書研究の基礎(2) — 読み方を学ぶ(2) —            |
| 第10回 | 内容の考察(1) — 須加庄成立の背景(1) —              |
| 第11回 | 内容の考察(2) — 須加庄成立の背景(2) —              |
| 第12回 | 内容の考察(3) — 須加庄成立の背景(3) —              |
| 第13回 | 内容の考察(4) — 須加庄経営の実態(1) —              |
| 第14回 | 内容の考察(5) — 須加庄経営の実態(2) —              |
| 第15回 | 平安時代前期における王臣家と初期荘園                    |

## 成績評価の方法

学期末に課すレポートにより評価する。(100%)  
レポートでは、史料を的確に引用・読解しているか、自ら考えた独自性のある問題が提起されているか、問題の解決に当たって学術レポートにふさわしい論拠が提示されているか、という点を重視する。

## 履修にあたっての注意

授業中に、教室内で携帯電話などの通信機器は使用しないこと(授業を聴くことに集中すること)。  
扱う史料はすべて漢文であるため、事前に漢文の読み方の基礎は身に付けておくこと(漢文が読めなければレポートの作成ができないので注意すること)。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用せず、資料を配布する。配布した資料は授業期間中を通して使用するので、毎回持参すること。

33581

## 東洋史入門 a

担当教員：宮崎 聖明

2単位 後期

### サブタイトル

中国史概説

### 授業のねらい

本授業では、秦による中国統一から中華人民共和国建国までの中国の歴史を扱う。授業を通じて、中国という社会の特質とその変化を知り、中国社会の歴史的展開を追うことで中国に対する理解を深めることを目的とする。

### 到達目標

- (1)中国史の展開に関する基本的な知識を得ること。
- (2)上記の知識をもとに、中国社会の特質と変化について、各受講生が自分の考えを交えて理解すること。

### 授業方法

中国の歴史を通時的に扱う。各王朝・時代の特徴的な事象・テーマに焦点を絞って、講義形式で授業を行う。

参考文献を活用し、事前に基礎事項に関する知識を得たうえで授業に臨むとともに、関連事項について授業後に復習を行うこと(予習・復習あわせて1時間程度)。また、毎回の授業後に、授業内容についての感想・質問を提出してもらう。感想・質問については、次回の講義冒頭において回答・コメントを行う。期末試験の評価については、本学ポータルサイトの「講義連絡」等を通じて問い合わせに応じる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：概念・用語の説明
- 第2回 秦：始皇帝の天下統一
- 第3回 前漢：漢王朝と匈奴
- 第4回 後漢～三国：豪族・外戚・宦官
- 第5回 南朝：貴族と南朝文化
- 第6回 北朝：「胡」と「漢」
- 第7回 隋唐：世界帝国の様相
- 第8回 唐後期～五代：分裂と変革
- 第9回 宋：士大夫の時代
- 第10回 宋・遼・金：東アジアの国際関係
- 第11回 元：モンゴル帝国のなかの中国
- 第12回 明：「北虜南倭」
- 第13回 清：「中華」の拡大
- 第14回 清末～民初：西洋の進出と中国の変化
- 第15回 民国期：「抗日戦争」の時代

### 成績評価の方法

到達目標(1)(2)を測定する期末試験(60%)と、授業への参加状況(40%)により評価する。授業への参加状況は、毎回提出する感想・質問により判断する。なお、講義出席回数が講義回数の3分の2以上に達しない者は試験の受験を認めない。

### 履修にあたっての注意

高校世界史の教科書に目を通し、中国史に関する基礎知識を確認した上で出席することが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用しない。参考書は、全体に関するものは下記「参考書」の項目を参照のこと。加えて専門的内容に関するものについては授業時に適宜指示する。

### 参考書

- 松丸道雄他 編『世界歴史大系 中国史 1～5』(山川出版社、1996-2002)
- 平凡社 編『アジア歴史事典(新装復刊版、全12冊)』(平凡社、1984、ISBN:4582108008)
- 尾形勇他 編『歴史学事典(全16冊)』(弘文堂、1994-2009)



33591

## 東洋史入門 b

担当教員：川口 琢司

2 単位 後期

## サブタイトル

中央ユーラシア史概説

## 授業のねらい

ユーラシア大陸のほぼ中央部に位置した中央ユーラシアという歴史世界をとりあげます。具体的には、中国北部（華北）、モンゴル高原、中央アジア、ロシア南部等における草原遊牧民やオアシス定住民の活動に注目し、かれらがユーラシアの政治、外交、軍事、経済、文化に大きな影響をあたえてきた点を解説していきます。従来の中国、インド、イラン、ロシア等の歴史を相対化することもねらいの一つです。

## 到達目標

1. 中央ユーラシアの歴史について基礎的な知識を身につけ、中央ユーラシアが一つの歴史世界であることを理解する。
2. 中央ユーラシアに隣接する中国、インド、イラン、ロシア等の歴史の多様性を理解する。

## 授業方法

配布資料を使いながら、講義形式で進めていきます。毎回、異なる民族や国家をとりあげ、関係する歴史上の人物に注目します。毎回、授業後にリアクションペーパー（授業内容についての感想・質問）を提出してもらいます。また、映像資料を用いた授業を1～2回予定しており、小レポートを提出してもらいます。小レポートは採点して返却します。事後学習としては、自筆ノートと配布資料を読み直し、授業中に指摘したポイントを復習すること。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 匈奴
- 第3回 北匈奴・エフタル・フン
- 第4回 月氏と貴霜（クシャーン）
- 第5回 柔然と突厥（テュルク）
- 第6回 突厥第二可汗国
- 第7回 ソグド
- 第8回 ソグド系突厥
- 第9回 ウイグル
- 第10回 カラ=ハン朝
- 第11回 大モンゴル国（モンゴル帝国）
- 第12回 元と西方諸ウルス
- 第13回 ティムール帝国
- 第14回 北元とオイラト・タタル
- 第15回 ジュンガルとロシア・清両帝国

## 成績評価の方法

到達目標 1、2 を測定するための期末試験（70%）、授業への参加状況（20%）、映像授業をもとに課す小レポート（10%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

高校世界史の教科書、歴史地図帳、世界史図説などを併用し、とくに、高校世界史教科書の該当箇所を目を通したうえで授業に出席することが望ましい。なお、遅刻、無許可の早退、私語、居眠り、内職などを控えること。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書はとくに使用しません。  
参考書については、授業中に適宜紹介します。

33621

## 東洋史特講 c

担当教員：川口 琢司

2 単位 前期

## サブタイトル

トルコ人の西漸

## 授業のねらい

アジアの諸民族のうち、トルコ人は長い時間をかけてモンゴル高原から西方に移動し、ユーラシア各地に住み着きました。その過程で、かれらはイスラームと出会い、一千年にもおよぶトルコ=イスラーム諸王朝の歴史を開くこととなります。この授業では、世界史におけるトルコ人の活動の重要性について考えます。

## 到達目標

1. 基礎的な知識を修得しながら、アジア史の大きな流れをつかみ、個々の時代状況に対するイメージをもつことができる。
2. トルコ人の西漸という世界史上の重要テーマについて、正確な知識に裏づけされた考えや意見をもつことができる。

## 授業方法

配布資料を使いながら、講義形式で進めていきます。また、映像資料を用いた授業を1～2回予定しており、小レポートを提出してもらいます。小レポートは採点後に返却します。事後学習としては、自筆ノートや配布資料を読み直し、授業中に指摘したポイントを復習すること。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 突厥（テュルク）
- 第3回 ウイグル
- 第4回 中央アジアのトルコ化・イスラーム化
- 第5回 奴隸軍人の台頭
- 第6回 スルタンとカリフ
- 第7回 モンゴル時代
- 第8回 ティムール朝文化
- 第9回 オスマン帝国：オスマン集団の成立
- 第10回 オスマン帝国：バルカン進出
- 第11回 オスマン帝国：挫折と再建
- 第12回 オスマン帝国：コンスタンティノーブル陥落
- 第13回 オスマン帝国：帝国の危機と東方政策
- 第14回 オスマン帝国：全盛期
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

到達目標 1、2 を測定するための期末試験（80%）、映像授業をふまえた小レポート（20%）により評価します。

## 履修にあたっての注意

高校世界史の教科書、歴史地図帳、世界史図説などの併用をお勧めします。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

教科書はとくに使用しません。  
参考書については、授業中に適宜紹介します。



33631

## 東洋史特講 d

担当教員：宮崎 聖明

2単位 後期

### サブタイトル

前近代中国の対外政策と日中関係

### 授業のねらい

本授業では、前近代における日中関係の歴史について概観する。日本と中国の間では、過去から現在に至るまで、様々な様態の関係が見られてきた。両国を行き来した人・もの・情報などを通じて前近代における日中関係の実態について理解を深め、現在の日中関係を考える手掛かりにすることが本授業のねらいである。

### 到達目標

- (1)前近代中国の対外政策及び日中関係の展開に関する基本的な知識を得ること
- (2)上記の知識をもとに、中国側から見た日中関係について、各受講生が自分の考えを交えて理解すること。

### 授業方法

中国の各時代の対外政策を概観しつつ、当該期における日中関係について、講義形式で授業を行う。

参考文献を活用し、事前に基礎事項に関する知識を得たうえで授業に臨むとともに、関連事項について授業後に復習を行うこと(予習・復習あわせて1時間程度)。また、毎回の授業後に、授業内容についての感想・質問を提出してもらう。感想・質問については、次回の講義冒頭において回答・コメントを行う。期末試験の評価については、本学ポータルサイトの「講義連絡」等を通じて問い合わせに応じる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：概念・用語の説明
- 第2回 秦漢時代の中国と日本(1)：中華帝国の拡大と東アジア
- 第3回 秦漢時代の中国と日本(2)：「漢倭奴国王」
- 第4回 三国時代の中国と日本：「魏志倭人伝」
- 第5回 魏晋南北朝時代の中国と日本：「倭の五王」と東アジア
- 第6回 隋唐時代の中国と日本(1)：遣隋使・遣唐使の意義
- 第7回 隋唐時代の中国と日本(2)：遣唐使時代の貿易
- 第8回 宋代の中国と日本(1)：ポスト遣唐使時代
- 第9回 宋代の中国と日本(2)：日宋貿易
- 第10回 元代の中国と日本(1)：元寇
- 第11回 元代の中国と日本(2)：日元貿易
- 第12回 明代の中国と日本(1)：日明貿易
- 第13回 明代の中国と日本(2)：倭寇と東アジア
- 第14回 清代の中国と日本(1)：清朝の海禁と日本の「鎖国」
- 第15回 清代の中国と日本(2)：「西洋の衝撃」と日中関係

### 成績評価の方法

到達目標(1)(2)を測定する期末試験(60%)と、授業への参加状況(40%)により評価する。授業への参加状況は、毎回提出する感想・質問により判断する。なお、講義出席回数が講義回数の3分の2以上に達しない者は試験の受験を認めない。

### 履修にあたっての注意

高校世界史・日本史の教科書に目を通し、中国史及び日本史に関する基礎知識を確認した上で出席することが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用しない。参考書は、全体に関するものは下記「参考書」の項目を参照のこと。加えて専門的内容に関するものについては授業時に適宜指示する。

### 参考書

- 松丸道雄他 編『世界歴史大系 中国史1～5』(山川出版社、1996-2002)  
平凡社 編『アジア歴史事典(新装復刊版、全12冊)』(平凡社、1984、ISBN:4582108008)  
尾形勇他 編『歴史学事典(全16冊)』(弘文堂、1994-2009)

33661

## 東洋史文献講読 C

担当教員：川口 琢司

2 単位 前期

### サブタイトル

漢語文献から中央ユーラシアの歴史を学ぶ

### 授業のねらい

漢字・漢語で書かれた歴史文献の講読を通じて、漢文を読む力をつけるとともに、歴史を解釈する力を養う。

### 到達目標

1. 漢語文献の訓読・解釈に慣れる。
2. 史料を批判的に読む意識を高める。
3. 研究書・研究論文等を調査し、中央ユーラシア史上の問題点を抽出する。

### 授業方法

当番を決め、漢語文献のテキストを輪読します。担当者には事前に調べたことや疑問点なども発表してもらいます。テキストには、明の史官が歴代皇帝の事績を記録した『明実録』のうちから、永楽年間に完成した「太祖実録」を使用します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 明と中央ユーラシア
- 第3回 『明実録』の成立
- 第4回 『明実録』を読むための工具書と参考文献
- 第5回 「太祖実録」講読(1)
- 第6回 「太祖実録」講読(2)
- 第7回 「太祖実録」講読(3)
- 第8回 「太祖実録」講読(4)
- 第9回 「太祖実録」講読(5)
- 第10回 「太祖実録」講読(6)
- 第11回 「太祖実録」講読(7)
- 第12回 「太祖実録」講読(8)
- 第13回 「太祖実録」講読(9)
- 第14回 「太祖実録」講読(10)
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

授業への参加状況（100％）により評価します。

### 履修にあたっての注意

漢和辞典（電子辞書も可）を各自用意しておいてください。

### 教科書

京都大学文学部内陸アジア研究所『明代西域史料－明実録抄』（1974）

### 教科書・参考書に関する備考

漢語文献のテキストはこちらで用意します。  
参考書は下記のもの以外は授業の中で紹介します。

### 参考書

諸橋轍次『大漢和辞典』（大修館書店）

33671

## 東洋史文献講読 d

担当教員：宮崎 聖明

2 単位 後期

### サブタイトル

『太平広記』婦人之部を読む(1)

### 授業のねらい

本授業では、宋・李昉等編『太平広記』をテキストとして、漢文史料を読む力をつけるとともに、史料に関連する事項を調査する能力を養うことを目的とする。

### 到達目標

- (1)漢文訓読の基礎を習得すること。
- (2)史料に関連する事項を調査するスキルを身につけること。

### 授業方法

中国宋代に成立した小説集である『太平広記』の「婦人之部」を、当番制により輪読する。担当者には事前に担当部分について現代語訳を作成するとともに関連事項を調べてレジユメを作成してもらう。授業後に復習を行い、授業での検討をふまえたレジユメに修正を施したものを事後に提出してもらう（レジユメ作成・復習あわせて1時間程度）。期末レポートは添削の上で返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 時代背景・テキスト『太平広記』の概説
- 第3回 工具書・参考文献の説明／発表スケジュール打ち合わせ
- 第4回 漢文訓読の基礎
- 第5回 『太平広記』巻二七一・婦人部「賢婦」(1)
- 第6回 『太平広記』巻二七一・婦人部「賢婦」(2)
- 第7回 『太平広記』巻二七一・婦人部「賢婦」(3)
- 第8回 『太平広記』巻二七一・婦人部「賢婦」(4)
- 第9回 『太平広記』巻二七一・婦人部「賢婦」(5)
- 第10回 『太平広記』巻二七一・婦人部「才婦」(1)
- 第11回 『太平広記』巻二七一・婦人部「才婦」(2)
- 第12回 『太平広記』巻二七一・婦人部「才婦」(3)
- 第13回 『太平広記』巻二七一・婦人部「才婦」(4)
- 第14回 『太平広記』巻二七一・婦人部「才婦」(5)
- 第15回 総括

### 成績評価の方法

毎回のレジユメの内容で測定する「授業への参加状況」(60%)と、到達目標(1)(2)を測定する「期末レポート」(40%)で評価する。なお、出席回数が講義回数の3分の2以上に達しない者は試験の受験を認めない。

### 履修にあたっての注意

高校国語の教科書に目を通し、漢文訓読に関する基礎知識を確認した上で出席することが望ましい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は使用しない。テキストは授業で配布する。参考書については、漢和辞典を一冊用意すること（電子辞書も可）。また、全体に関するものは下記「参考書」の項目を参照のこと。加えて専門的内容に関するものについては授業時に適宜指示する。

### 参考書

加地伸行『漢文法基礎—本当にわかる漢文入門』（講談社、2010、ISBN：978-4062920186）  
多久弘一・瀬戸口武夫『新版漢文解釈辞典』（国書刊行会、1998、ISBN：978-4336040985）  
諸橋轍次『大漢和辞典』（大修館書店、2000、ISBN：978-4469031584）

33711

# インド思想史 a

担当教員：細田 典明

2 単位 前期

## サブタイトル

古代インドの聖典とその思想

## 授業のねらい

仏教が誕生するまでの古代インド思想について、はじめにバラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を原典の翻訳によって読解します。次に、バラモン教に対抗した沙門（しゃもん）と呼ばれる宗教者たちの思想を紹介し、ゴータマ・ブッダを開祖とする仏教について、従来の思想と比べてどのような点に独自性があるのかを講究します。

## 到達目標

1. バラモン教典とジャイナ教典・原始仏典について、それぞれの内容を理解することができる。
2. 原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握することができる。

## 授業方法

毎回、原典の翻訳と概要について資料を配付します。講義後、要点を講義ノートにまとめて下さい（所要時間 30～60 分）。

また、日本の文化へのインド思想の影響を DVD や CD の鑑賞によって紹介します。

興味のある問題と講義内容についての質問を毎回、出席カードに記入してもらいます。

## 授業計画

〔 〕内は講義の章題。（ ）内の頁は、参考書の該当ページ。】

第 1 回 ガイダンス

《 I. ヴェーダの宗教と思想》

第 2 回 I-1. ヴェーダ文献 (p.10, p.17)

4 ヴェーダの構成とヴェーダの 4 部門

第 3 回 I-2. 『リグ・ヴェーダ』の神々 (pp.11-13)

自然神とその他の神々

第 4 回 I-3. 『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 (pp.13-16)

「謎の歌」、「原人の歌」、「宇宙開闢の歌」

第 5 回 I-4. 『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 (pp.17-19)

「人体の構造を問う歌」、「スカンバ讃歌」

第 6 回 I-5. ブラーフマナの祭儀と神話 (pp.19-21, p.27)

祭式の構造と創造神話の定型化

第 7 回 I-6. ウパニシャッドの哲学思想 その 1 : a. シャー  
ンディリヤ (p.23), b. 五火・二道説 (p.26)

ブラーフマナからウパニシャッドへ

第 8 回 I-6. その 2 : c. ウッターラカ・アールニ (pp.24-25), d. ヤージュニャヴァルキヤ (p.25)

ウパニシャッドの 2 大思想

《 II. 沙門の思想と宗教》

第 9 回 II-1. 六師外道 (pp.27-32)

様々な要素説と懐疑論

第 10 回 II-2. ジャイナ教 (pp.32-36, pp.141-144)

7 つの真理による実践論

第 11 回 II-3. 原始仏教 a. 仏 (pp.36-39)

ブッダの生涯

第 12 回 II-3. 原始仏教 b. 法 (pp.39-46), c. 僧 (pp.46-48)

ブッダの教えと教団

第 13 回 II-3. 原始仏教 d. 結集と三蔵 (pp.48-51)

仏教聖典の編纂と内容

第 14 回 II-3. 原始仏教 e. 無我説 (p.41), f. 実践

仏教思想の人間論

第 15 回 II-3. 原始仏教 g. 禪定と世界観 (p.49)

仏教思想の世界論

## 成績評価の方法

毎回出席カードに記入された内容に基づく授業への参加状況 (30%)、および、学期末に行う、主として到達目標 1 を測定する試験 (70%) により評価します。

## 履修にあたっての注意

授業に出席して、講義ノートをしっかりとりとことと、全体の流れをよく理解することが重要です。私語には厳しく対処し、早退・遅刻・居眠りなどの受講態度も減点の対象となります。

## 教科書

なし

## 参考書

早鳥鏡正ほか著、インド思想史 (東京大学出版会、1982、ISBN : 978-4130120159)

33721

# インド思想史 b

担当教員：細田 典明

2 単位 後期

## サブタイトル

中世インドの聖典とその思想

## 授業のねらい

ヒンドゥー教と大乘仏教について概説し、思想の体系化と普遍性について講究します。また、大乘仏典やヒンドゥー聖典は、日本になじみの深い内容が多く含まれていますので、教理・教説に留まらず、映像や音楽などを積極的に紹介し、日本文化のルーツのひとつとしてインドの宗教・文化があることに新たな興味や問題意識を持つことを目的とします。

## 到達目標

1. ヒンドゥー聖典と大乘仏典について、それぞれの内容を理解することができる。
2. 仏教とインド正統派思想について中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握することができる。

## 授業方法

毎回、原典の翻訳と概要について資料を配付しますので、講義後、要点を講義ノートにまとめて下さい（所要時間 30～60 分）。

また、日本の文化へのインド思想の影響を DVD や CD の鑑賞によって紹介します。興味のある問題と講義内容についての質問を毎回、出席カードに記入してもらいます。

## 授業計画

《 》内は講義の章題。( )内の頁は、参考書の該当ページ。]:  
《Ⅲ-1. 統一国家と思想、Ⅲ-2. ヒンドゥー教と大乘仏教の出現》

- 第1回 Ⅲ-1. a. カウティリヤの『実利論』(pp.52-54)、b. 『マヌ法典』(pp.56-59)  
人生の三大目的
- 第2回 Ⅲ-1. c. アショーカ王 (pp.54-56)、d. 説一切有部の法体系 (pp.84-89)  
インドの統一と仏教思想の体系化
- 第3回 Ⅲ-2. a. 『マハーバーラタ』(pp.63-67)、b. 『ラーマーヤナ』(pp.65-67)  
インドの二大叙事詩
- 第4回 Ⅲ-2. c. 『バガヴァッド・ギーター』(pp.66-70)、d. プラーナの世界観 (pp.61-63, pp.70-71)  
信仰の道とヒンドゥー教の三神
- 第5回 Ⅲ-2. e. 大乘仏教の興起 (pp.71-81) その1：般若経類・華嚴経類  
空思想と実践の階梯
- 第6回 Ⅲ-2. e. 大乘仏教の興起 その2：法華経・浄土教経典類・その他の経典  
一乗思想と往生思想
- 《Ⅳ. 思想の体系化と諸学派の形成、1. 仏教 (pp.82-84)、2. インド正統派思想 (pp.108-140)》
- 第7回 Ⅳ-1. a. 中観思想 (pp.90-95)  
空思想の理論
- 第8回 Ⅳ-1. b. 唯識思想 (pp.95-102)  
潜在意識の理論
- 第9回 Ⅳ-1. c. 如来蔵思想 (pp.102-107)  
仏の理論
- 第10回 Ⅳ-1. d. 仏教論理学 (p.100, pp.157-159)  
仏教と論理学
- 第11回 Ⅳ-1. e. 密教 (pp.178-186)  
マンダラと仏世界
- 第12回 Ⅳ-2. a. サーンキヤ学派、b. ヨーガ学派  
世界展開の理論と実践
- 第13回 Ⅳ-2. c. ニヤーヤ学派、d. ヴァイシェーシカ学派  
論理学とカテゴリー論
- 第14回 Ⅳ-2. e. ミーマンサー学派、f. ヴェーダーンタ

学派

聖典言語とウパニシャッド思想の体系化

第15回 Ⅳ-2. g. 文法学派とその他の学派

言語哲学とヴィシュヌ派・シヴァ派の哲学

## 成績評価の方法

毎回出席カードに記入された内容に基づく授業への参加状況(30%)、および、学期末に行う到達目標1-2を測定する試験(70%)により評価します。

## 履修にあたっての注意

授業に出席して、講義ノートをしっかりとりとることと、全体の流れをよく理解することが重要です。私語には厳しく対処し、早退・遅刻・居眠りなどの受講態度も減点の対象となります。

## 教科書

なし

## 参考書

早島鏡正ほか著『インド思想史』(東京大学出版会、1982、ISBN: 978-4130120159)



33731

## 日本思想史 a

担当教員：追塩 千尋

2 単位 前期

### サブタイトル

神仏習合と日本思想

### 授業のねらい

神仏習合の歴史を通じて、日本思想・宗教の特質に迫る。

### 到達目標

神仏習合の様相を通じて日本人の思惟様式や日本宗教の特質を把握できること。

### 授業方法

講義形式

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本人の宗教観について
- 第3回 仏教伝来以前の日本思想
- 第4回 神話世界の神々とその特性
- 第5回 日本仏教の特質
- 第6回 日本仏教の展開
- 第7回 神仏習合の始まり（奈良時代）
- 第8回 神仏習合の展開（平安初期）
- 第9回 本地垂迹説の成立
- 第10回 本地垂迹における神の様相（平安期）
- 第11回 本地垂迹における神の様相（鎌倉期）
- 第12回 神祇勢力の自覚化
- 第13回 神道論の形成
- 第14回 神仏分離の様相
- 第15回 まとめと到達度チェック

### 成績評価の方法

試験（100パーセント、講義ノート・配布資料参照可）

### 履修にあたっての注意

日本史に関して高校日本史教科書程度の知識は身につけておくこと

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要に応じて参考書などを指示する

### 参考書

- 義江彰男『神仏習合』（岩波新書、1996年）
- 伊藤聡『神道とは何か』（中公新書、2012年）
- 佐藤弘夫編『概説日本思想史』（ミネルヴァ書房、2005年）
- 清水正之『日本思想全史』（ちくま新書、2014年）
- 阿満利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』（ちくま新書、1996年）

33741

## 日本思想史 b

担当教員：追塩 千尋

2 単位 後期

### サブタイトル

聖徳太子信仰と日本思想

### 授業のねらい

聖徳太子は死後崇拝の対象とされ、各時代の宗教・思想状況を反映しながら、様々な展開を見せる。その様相を探ることにより日本思想・宗教の特質に迫っていく。

### 到達目標

日本宗教・思想の展開の中で聖徳太子信仰の様相を理解できること。聖徳太子の実像ではなく、虚像とその時代的変遷の意味を理解しその宗教史的意義を見出せること。

### 授業方法

講義形式

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 聖徳太子と国民意識
- 第3回 聖徳太子と歴史教育（戦前を中心に）
- 第4回 太子信仰をめぐる留意点
- 第5回 日本書紀の中の太子説話
- 第6回 太子信仰の発生（奈良時代）
- 第7回 太子信仰の確立（聖徳太子伝暦の成立）
- 第8回 浄土教と太子信仰
- 第9回 為政者の太子信仰と未来記
- 第10回 鎌倉時代の太子信仰
- 第11回 鎌倉新仏教と太子信仰
- 第12回 鎌倉旧仏教と太子信仰
- 第13回 庶民の太子信仰
- 第14回 日本宗教と太子信仰
- 第15回 まとめと到達度チェック

### 成績評価の方法

試験（100パーセント、講義ノート・配布資料参照可）

### 履修にあたっての注意

高校の日本史教科書における文化史記述程度の知識を身につけておくこと

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要に応じて参考書を指示し、適宜プリントを配布する。

### 参考書

- 林幹弥『太子信仰』（評論社、1971年）
- 林幹弥『太子信仰の研究』（吉川弘文館、1981年）
- 蒲池勢至編『太子信仰』（雄山閣出版、1999年）

33751

## 中国思想史 a

担当教員：福田 忍

2 単位 前期

## サブタイトル

隠逸の中国思想史

## 授業のねらい

社会への参加を拒んで閉じこもる、いわゆる「ひきこもり」が、現在の日本で問題となっているが、日本とは比較にならないほど古くから社会や政治の体制が発達した中国においては、そうした体制に背を向ける人々もまた非常に早くから存在した。これらの人々を隠逸、あるいは逸民と称する。

こうした隠逸のあり方は、時には社会の思想や価値観と対立し、時にはそれを補い支えて、中国の思想と文化に豊かさを与えてきた。本講義では、こうした隠逸の思想と文化について考察し、中国思想・文化に対する理解を深めるとともに、われわれ自身が個人と社会との関係を考えてゆく手掛かりを得ることをねらいとする。

## 到達目標

隠逸を中心とするの中国の思想と文化の歴史を理解するとともに、漢文読解の基礎を理解することを目標とする。

## 授業方法

時代を追いながら、隠逸にまつわる中国の文献を、講義形式で講読し、解説する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス、古典解釈について
- 第2回 孔子の思想
- 第3回 孔子と隠逸 1
- 第4回 孔子と隠逸 2
- 第5回 老子の思想、老子と隠逸
- 第6回 荘子の思想
- 第7回 荘子と隠逸 1
- 第8回 荘子と隠逸 2
- 第9回 孟子の思想、孟子と隠逸
- 第10回 墨子の思想、墨子と隠逸
- 第11回 戦国時代の思想家達
- 第12回 春秋・戦国時代の隠逸たち
- 第13回 荀子の思想、荀子と隠逸
- 第14回 韓非子の思想
- 第15回 秦の天下統一と思想統制

## 成績評価の方法

期末試験 (80%)、授業への取り組み方 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

漢和辞典を用意するのが望ましい。電子辞書でもよいが、紙の辞書を新たに購入する場合は、佐藤進等編『全訳漢字海』(三省堂)を推奨する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、教員作成のプリントを配布する。参考書については随時紹介する。

33761

## 中国思想史 b

担当教員：福田 忍

2 単位 後期

## サブタイトル

隠逸の中国思想史

## 授業のねらい

社会への参加を拒んで閉じこもる、いわゆる「ひきこもり」が、現在の日本で問題となっているが、日本とは比較にならないほど古くから社会や政治の体制が発達した中国においては、そうした体制に背を向ける人々もまた非常に早くから存在した。これらの人々を隠逸、あるいは逸民と称する。

こうした隠逸のあり方は、時には社会の思想や価値観と対立し、時にはそれを補い支えて、中国の思想と文化に豊かさを与えてきた。本講義では、こうした隠逸の思想と文化について考察し、中国思想・文化に対する理解を深めるとともに、われわれ自身が個人と社会との関係を考えてゆく手掛かりを得ることをねらいとする。

## 到達目標

隠逸を中心とするの中国の思想と文化の歴史を理解するとともに、漢文読解の基礎を理解することを目標とする。

## 授業方法

時代を追いながら、隠逸にまつわる中国の文献を、講義形式で講読し、解説する。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス、秦による天下統一
- 第2回 秦から漢へ 神仙思想と黄老思想
- 第3回 司馬遷『史記』 隠逸の価値の高まり
- 第4回 班固『漢書』 朝隠というあり方
- 第5回 董仲舒の思想
- 第6回 劉向 前漢末の隠逸思想
- 第7回 前漢から後漢へ
- 第8回 『後漢書』 逸民伝
- 第9回 陳寿『三国志』 竹林の七賢と清談の流行
- 第10回 『世説新語』 魏晋の逸民思想 1
- 第11回 『世説新語』 魏晋の逸民思想 2
- 第12回 神仙思想 1
- 第13回 神仙思想 2
- 第14回 逸民の文学 1
- 第15回 逸民の文学 2

## 成績評価の方法

期末試験 (80%)、授業への取り組み方 (20%) により評価する。

## 履修にあたっての注意

漢和辞典を用意するのが望ましい。電子辞書でもよいが、紙の辞書を新たに購入する場合は、佐藤進等編『全訳漢字海』(三省堂)を推奨する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、教員作成のプリントを配布する。参考書については随時紹介する。

33771

## 西洋思想史 A-a

担当教員：三浦 洋

2 単位 後期

## サブタイトル

哲学の原型を学ぶ

## 授業のねらい

この授業では、古代と中世における主要な哲学思想を概観し、そのことを通じて哲学という学問の成り立ちが理解できるよう進めてゆきます。個々の哲学者が思考した内容をできるだけ具体的にとらえ、なぜそのような思想が生まれたかを見ていきますが、より大きなねらいは、哲学独特の問題の立て方や探究方法を把握してもらうことにあり、現代哲学に引き継がれた問題の原型を確認します。

## 到達目標

1. 授業の各回で取り上げる哲学者たちの思想内容を精密に理解し、正確な言葉を用いて明確に表すことができる。
2. 学んだ思想を論理的にとらえ、それらを活用して自らの思考についても論理的に組み立て、表現することができる。

## 授業方法

講義形式で、古代と中世の哲学史を時代順に説明してゆきます。受講者には、前回の内容を復習して授業に臨むことが求められます（復習に要する時間は30分～1時間程度）。

## 授業計画

- 第1回 哲学のはじまり
- 第2回 ミレトスの自然哲学
- 第3回 ヘラクレイトスの思想
- 第4回 ピタゴラス派
- 第5回 エレア派
- 第6回 機械論と目的論
- 第7回 ソフィストとソクラテス
- 第8回 プラトンの対話篇
- 第9回 アリストテレスの思想
- 第10回 古代哲学のまとめ
- 第11回 中世哲学の概観
- 第12回 アウグスティヌスと教父哲学
- 第13回 12世紀ルネサンスの思想
- 第14回 トマス・アクィナスとスコラ哲学
- 第15回 中世哲学のまとめ

## 成績評価の方法

授業内に行う小テスト（50％）と定期試験の成績（50％）により評価する。

## 履修にあたっての注意

教科書として使う『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』を早めに入手してください。

## 教科書

岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』（有斐閣、1993、ISBN：978-4641059559）

## 教科書・参考書に関する備考

参考書はとくにありませんが、授業内容に関連する書籍は、その都度紹介します。

33781

## 西洋思想史 A-b

担当教員：三浦 洋

2 単位 前期

## サブタイトル

西洋古代・中世の論理学を学ぶ

## 授業のねらい

この授業では、西洋古代・中世の論理学の展開について概説し、その基本的な成り立ちや特質について考えてゆきます。現代の論理哲学や分析哲学が誕生する遙か以前、どのような問題意識から論理に対する探究が開始されたのか、そのことを古代・中世の思想圏に位置づけて理解してもらうのがねらいです。

## 到達目標

1. 授業の各回で取り上げる思想家たちの思想内容を精密に理解し、正確な言葉を用いて明確に表すことができる。
2. 学んだ思想を論理的にとらえ、それらを活用して自らの思考についても論理的に組み立てることができる。

## 授業方法

授業は講義形式で進めます。必要に応じて、映像資料なども活用します。受講者には、前回の内容を復習して授業に臨むことが求められます（復習に要する時間は30分～1時間程度）。

## 授業計画

- 第1回 ガイダンス：普遍論争と『薔薇の名前』
- 第2回 普遍論争の発端
- 第3回 従来の普遍論争の理解
- 第4回 初期の唯名論
- 第5回 アベラールの唯名論
- 第6回 概念論と唯名論の違い
- 第7回 なぜアベラールは概念論者とされたか
- 第8回 「事態」の拡張
- 第9回 アベラール唯名論と実在論の違い
- 第10回 実在論とキリスト教
- 第11回 言葉の二つの働き
- 第12回 タイプとトークン
- 第13回 架空の存在の意味論
- 第14回 普遍論争と現代の意味論
- 第15回 総括

## 成績評価の方法

授業内に行う小テスト（50％）と定期試験の成績（50％）により評価する。

## 履修にあたっての注意

この科目は哲学の応用的な内容に当たります。そのため、先だって哲学史の基本知識を身につけておくことが望ましいです。

## 教科書

山内志朗『普遍論争』（平凡社、2008、ISBN：978-4582766301）

## 教科書・参考書に関する備考

なし

33791

## 西洋思想史 B-a

担当教員：宮野 晃一郎

2単位 前期

### サブタイトル

1300年から1900年までの西洋思想を学ぶ1

### 授業のねらい

西洋思想史Bでは、1300年から1900年までの西洋思想の中から大きな潮流となったものを取り上げ、その現代的な意義と併せて考えていく。その中で、近代の西洋思想が現在の私たちの考え方に大きな影響を与えていることを知ると同時に、その優れた点と問題点を明らかにする。併せて、自分自身の思考過程や理解内容を論理的に表現する力を養う。

### 到達目標

さまざまな思想家の考え方を知識として暗記するのではなく、今私たちが生きている世界とのかかわりに基づいて理解することにより、そうした考え方を自分が世界を見る窓の一つとして利用しながら、現代という時代の諸問題について自分なりの考えを持ち、解決策を提示できるようになることが目標。

### 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】：教科書の該当箇所を読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。(60～90分)

【事後学習】(そのまま試験対策になる。)(90～120分)

- ・哲学事典なども使いながら、授業中に紹介した専門用語の内容を自分で事典を作る要領で文章にまとめる。
- ・授業で紹介した思想家の対立点を整理する。
- ・そうした対立点を念頭に置きながら、自分の見解を温める。

【フィードバック】：前回授業のリアクションペーパーへの回答、「講義連絡」を用いた模範解答の周知、希望者に対する面談によって行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング：現代世界と思想／近代西洋思想の特徴
- 第2回 人文主義(1)
- 第3回 人文主義(2)
- 第4回 近代的革新
- 第5回 大陸合理論(1)
- 第6回 大陸合理論(2)
- 第7回 大陸合理論(3)
- 第8回 イギリス経験論(1)
- 第9回 イギリス経験論(2)
- 第10回 イギリス経験論(3)
- 第11回 フランス啓蒙思想(1)
- 第12回 フランス啓蒙思想(2)
- 第13回 フランス啓蒙思想(3)
- 第14回 スコットランド啓蒙思想
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方(30%)、試験(70%)

### 履修にあたっての注意

教科書を必ず購入し、予習・復習・試験勉強に活用すること。後期の「西洋思想史B-b」を併せて受講することを勧める。授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

今道友信『西洋哲学史』(講談社学術文庫、1987、ISBN：978-4061587878)

### 教科書・参考書に関する備考

上記・下記以外の読むべき文献や参考書については、適宜指示する。

### 参考書

量義治『西洋近世哲学史』(講談社学術文庫、2005、ISBN：978-4061597372)

熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』(岩波新書、2006、ISBN：978-4004310082)

野田又夫『西洋哲学史—ルネサンスから現代まで』(ちくま学芸文庫、2017、ISBN：978-4480097965)

33801

## 西洋思想史 B-b

担当教員：宮野 晃一郎

2 単位 後期

### サブタイトル

1300 年から 1900 年までの西洋思想を学ぶ 2

### 授業のねらい

西洋思想史 B では、1300 年から 1900 年までの西洋思想の中から大きな潮流となったものを取り上げ、その現代的な意義と併せて考えていく。その中で、近代の西洋思想が現在の私たちの考え方に大きな影響を与えていることを知ると同時に、その優れた点と問題点を明らかにする。併せて、自分自身の思考過程や理解内容を論理的に表現する力を養う。

### 到達目標

さまざまな思想家の考え方を知識として暗記するのではなく、今私たちが生きている世界とのかかわりに基づいて理解することにより、そうした考え方を自分が世界を見る窓の一つとして利用しながら、現代という時代の諸問題について自分なりの考えを持ち、解決策を提示できるようになることが目標。

### 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】：教科書の該当箇所を読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。(60～90 分)

【事後学習】(そのまま試験対策になる。)(90～120 分)

- ・哲学事典なども使いながら、授業中に紹介した専門用語の内容を自分で事典を作る要領で文章にまとめる。
- ・授業で紹介した思想家の対立点を整理する。
- ・そうした対立点を念頭に置きながら、自分の見解を温める。

【フィードバック】：前回授業のリアクションペーパーへの回答、「講義連絡」を用いた模範解答の周知、希望者に対する面談によって行う。

### 授業計画

- 第 1 回 オリエンテーリング：現代世界と思想／近代西洋思想の特徴
- 第 2 回 言語論
- 第 3 回 カント(1)
- 第 4 回 カント(2)
- 第 5 回 フィヒテ
- 第 6 回 シェリング
- 第 7 回 ヘーゲル
- 第 8 回 功利主義
- 第 9 回 パスカル
- 第 10 回 キルケゴール
- 第 11 回 ショーペンハウアー
- 第 12 回 ニーチェ
- 第 13 回 ヘーゲル左派、マルクス
- 第 14 回 新カント派
- 第 15 回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への取り組み方 (30%)、試験 (70%)

### 履修にあたっての注意

教科書を必ず購入し、予習・復習・試験勉強に活用すること。前期の「西洋思想史 B-a」を併せて受講することを勧める。授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

今道友信『西洋哲学史』（講談社学術文庫、1987、ISBN：978-4061587878）

### 教科書・参考書に関する備考

上記・下記以外の読むべき文献や参考書については、適宜指示する。

### 参考書

量義治『西洋近世哲学史』（講談社学術文庫、2005、ISBN：978-4061597372）

熊野純彦『西洋哲学史—近代から現代へ』（岩波新書、2006、ISBN：978-4004310082）

野田又夫『西洋哲学史—ルネサンスから現代まで』（ちくま学芸文庫、2017、ISBN：978-4480097965）



33831

## 西洋思想史 C-a

担当教員：杉内 峰彦

2 単位 前期

### サブタイトル

現代哲学入門 1

### 授業のねらい

20 世紀前半の哲学を学ぶ。

### 到達目標

現代哲学の手法が身に付く。

### 授業方法

質疑応答を交えた講義形式。

### 授業計画

- 第 1 回 はじめに
- 第 2 回 天動説と地動説
- 第 3 回 一人称視点と三人称視点
- 第 4 回 本質と実存
- 第 5 回 実存と存在
- 第 6 回 存在と言語
- 第 7 回 意味の客観性
- 第 8 回 語から文へ
- 第 9 回 指示対象の不在
- 第 10 回 記述理論
- 第 11 回 存在と量化
- 第 12 回 論理実証主義とホーリズム
- 第 13 回 ウィトゲンシュタイン
- 第 14 回 規則のパラドックス
- 第 15 回 まとめ

### 成績評価の方法

学期末のレポート (60%)、授業への参加状況 (40%) によって評価する。

### 履修にあたっての注意

受講者の積極的発言を望む。

### 教科書

青山 拓央『分析哲学講義』  
(ちくま新書、ISBN：978-4480066466)

### 教科書・参考書に関する備考

必ず購入すること。

33841

## 西洋思想史 C-b

担当教員：杉内 峰彦

2 単位 後期

### サブタイトル

現代哲学入門 2

### 授業のねらい

分析哲学の主要問題について考える。

### 到達目標

現代哲学の手法が身に付く。

### 授業方法

質疑応答を交えた講義形式。

### 授業計画

- 第 1 回 はじめに
- 第 2 回 可能性と必然性
- 第 3 回 可能世界意味論
- 第 4 回 固定指示子
- 第 5 回 心身問題
- 第 6 回 行動主義
- 第 7 回 心脳同一説と機能主義
- 第 8 回 クオリア問題
- 第 9 回 他我問題と人称性
- 第 10 回 随伴現象説
- 第 11 回 時間の形而上学
- 第 12 回 マクタガートとダメット
- 第 13 回 時間の矢
- 第 14 回 分岐問題
- 第 15 回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート (60%)、授業への参加状況 (40%) によって評価する。

### 履修にあたっての注意

受講者の積極的発言を望む。

### 教科書

青山 拓央『分析哲学講義』  
(ちくま新書、ISBN：978-4480066466)

### 教科書・参考書に関する備考

必ず購入すること。

33891

## 哲学特講 A-c

担当教員：杉内 峰彦

2単位 前期

### サブタイトル

形而上学入門1

### 授業のねらい

現代哲学の観点から哲学の古典的諸問題を考える。

### 到達目標

「哲学する」醍醐味が味わえる。

### 授業方法

質疑応答を交えた講義形式。

### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 「人生は無意味」と言いたい時
- 第3回 可能なこと
- 第4回 思いもよらないこと
- 第5回 昔の自分と今の自分
- 第6回 記憶の連続性と身体の連続性
- 第7回 忘れ去ったこと
- 第8回 言葉で表せないもの
- 第9回 現象と実在
- 第10回 知覚と言語
- 第11回 言葉の意味
- 第12回 誰もいない世界
- 第13回 体験と思考
- 第14回 死が奪うもの
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

学期末のレポート（60%）、授業への参加状況（40%）によって評価する。

### 履修にあたっての注意

受講者の積極的発言を望む。

### 教科書

野矢 茂樹『ここにはないもの－新哲学対話－』（中公文庫、ISBN：978-4122059436）

### 教科書・参考書に関する備考

必ず購入すること。

33901

## 哲学特講 A-d

担当教員：杉内 峰彦

2単位 後期

### サブタイトル

形而上学入門2

### 授業のねらい

現代哲学の観点から哲学の古典的諸問題を考える。

### 到達目標

「哲学する」醍醐味が味わえる。

### 授業方法

質疑応答を交えた講義形式。

### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 「超越」という問題
- 第3回 物と知覚
- 第4回 「他我問題
- 第5回 二元論批判
- 第6回 「心の作用」の否定
- 第7回 知覚と思い
- 第8回 世界そのものの立ち現われ
- 第9回 立ち現われの虚と実
- 第10回 想起と過去
- 第11回 無脳論と脳透視
- 第12回 他我の虚想とアニミズム
- 第13回 言語的制作の可能性
- 第14回 自我と他我
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート（60%）、授業への参加状況（40%）によって評価する。

### 履修にあたっての注意

受講者の積極的発言を望む。

### 教科書

野矢 茂樹『大森荘蔵－哲学の見本－』（講談社学術文庫、ISBN：978-4062923095）

### 教科書・参考書に関する備考

必ず購入すること。

33931

## 哲学特講 B-c

担当教員：三浦 洋

2 単位 前期

## サブタイトル

古代美学への入門

## 授業のねらい

古代に誕生したギリシャ悲劇は、アリストテレス『詩学』の理論を伴って後世に受け継がれ、現代に至るまで西洋芸術の基盤となりました。この授業では、『詩学』の美学的主張を理解すると同時に、主な悲劇作品の内容も学び、理論と作品の照らし合う関係を見てゆきます。また、映画の誕生までの芸術史を追い、ギリシャ悲劇の諸要素がどのように継承されてきたかを考えます。

## 到達目標

芸術の意義を哲学的な観点から理解し、古代から現代までの芸術史の主要な潮流を説明できるようになる。

## 授業方法

授業は講義形式で進めます。必要に応じて、映像資料なども活用します。受講者には、前回の内容を復習して授業に臨むことが求められます（復習に要する時間は30分～1時間程度）。

## 授業計画

- 第1回 古代ギリシャ文化の概要
- 第2回 ギリシャ悲劇の起源
- 第3回 アリストテレス『詩学』の主題
- 第4回 「悲劇の定義」の構造
- 第5回 『詩学』におけるソフォクレス『オイディプス王』
- 第6回 「再認」と「逆転」のストーリー構造の意味
- 第7回 『詩学』の「受難」規定
- 第8回 『詩学』におけるエウリピデス『タウリケのイフィゲネイア』
- 第9回 悲劇と「幸福な結末」をめぐる問題
- 第10回 モンテヴェルディのオペラの特徴
- 第11回 「三一一致の法則」と演劇理論
- 第12回 『詩学』が近代美学に与えた影響
- 第13回 近代オペラ、オラトリオ、バレエに対するギリシャ悲劇の影響
- 第14回 現代の総合芸術としての映画の誕生
- 第15回 まとめ——『詩学』と現代芸術

## 成績評価の方法

授業内に行う小テスト（50％）と定期試験の成績（50％）により評価する。

## 履修にあたっての注意

なし

## 教科書

アリストテレス『詩学』（光文社、2018）

## 教科書・参考書に関する備考

教科書とする書籍の発売時期が未定のため、授業の進行に間に合わない場合は、別の教科書を指示します。

33941

## 哲学特講 B-d

担当教員：三浦 洋

2 単位 後期

## サブタイトル

古代美学の展開

## 授業のねらい

アリストテレスの『詩学』は悲劇論がそのほとんどを占め、喜劇や叙事詩について述べた部分は多くありません。しかし、わずかとはいえ喜劇に言及した内容には美学的な思想が含まれるほか、叙事詩論は悲劇と喜劇の両方に関わる内容を持ちます。この授業では、それらの内容に着目し、『詩学』が全体としてどのような美学思想を提示しているかを考えます。

## 到達目標

芸術の意義を哲学的な観点から理解し、古代から現代へと継承された要素が何であったかを説明できるようになる。

## 授業方法

授業は講義形式で進めます。必要に応じて、映像資料なども活用します。受講者には、前回の内容を復習して授業に臨むことが求められます（復習に要する時間は30分～1時間程度）。

## 授業計画

- 第1回 喜劇と悲劇は何が異なるのか
- 第2回 ギリシャ喜劇の起源
- 第3回 アリストテレス『詩学』における喜劇の変遷
- 第4回 喜劇の三つの時代区分
- 第5回 『詩学』におけるアリストファネス喜劇
- 第6回 古喜劇から中期喜劇への展開
- 第7回 『詩学』と新喜劇
- 第8回 『詩学』とエーコ『薔薇の名前』
- 第9回 コフスラン論考の喜劇論
- 第10回 「喜劇のカタルシス」はありうるか
- 第11回 近代演劇の喜劇論と『詩学』
- 第12回 『詩学』の叙事詩論
- 第13回 現代演劇理論における叙事詩
- 第14回 叙事詩の喜劇性
- 第15回 まとめ——『詩学』の美学思想

## 成績評価の方法

授業内に行う小テスト（50％）と定期試験の成績（50％）により評価する。

## 履修にあたっての注意

なし

## 教科書

アリストテレス『詩学』（光文社、2018）

## 教科書・参考書に関する備考

教科書とする書籍の発売時期が未定のため、授業の進行に間に合わない場合は、別の教科書を指示します。

33971

## 哲学特講 C-c

担当教員：多田 圭介

2 単位 前期

## サブタイトル

法と政治の哲学—時事問題を中心に

## 授業のねらい

集团的自衛権、9条改正、こういった憲法や政治をめぐる問題に私たちはどういう立場をとればよいのでしょうか。こうした身近だけでも遠い問題に対して、筋道を立てて自ら批判的に考察することは簡単ではありません。本講義では、左右の対立的構図からは抜け落ちてしまうような、「見えにくいもの」、「聴こえにくいもの」に注意深く応答しつつ、時局的な問題をたんなる時局論に終わらせるのではなく原理的視座から哲学的に考察することを試みます。気楽に参加してください。

## 到達目標

- ・リベラリズムとは何かを説明できるようになる
- ・憲法、ことに9条改正について自分の意見を述べるができるようになる
- ・政治的な諸問題について筋道を立てて意見を述べるができるようになる
- ・自分の考えを明晰な言葉で述べるができるようになる

## 授業方法

講義形式ですが、なるべく議論に時間を割きたいと思います。

## 授業計画

- 第1回 正義論への準備
- 第2回 悪法問題、法の正義要求、集合的決定
- 第3回 戦争の正義の諸形式
- 第4回 集团的安全保障
- 第5回 九条と自衛権
- 第6回 護憲、改憲、護憲的改憲、保守的改憲
- 第7回 憲法「解釈」とは何か
- 第8回 原理主義と修正主義
- 第9回 公共政策の哲学的基礎①—功利主義
- 第10回 公共政策の哲学的基礎②—功利主義とリベラリズム
- 第11回 公共政策の哲学的基礎③—公衆衛生
- 第12回 公共政策の哲学的基礎④—介入の正当性
- 第13回 人間はどこまで合理的か
- 第14回 宗教なしの哲学・倫理学はありうるか
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法

平常点 40% (毎回のリアクションペーパーへの記入と議論への参加)、期末レポート 60%

## 履修にあたっての注意

倫理学入門を履修し、徳倫理、功利主義、義務論といった倫理学の思考形式を理解していることが好ましいが、初学者の参加も歓迎する。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

資料は教室でコピーを配布します。参考書は教室で随時紹介しますが、必ずしも購入する必要はありません。

## 参考書

なし

33981

## 哲学特講 C-d

担当教員：多田 圭介

2 単位 後期

## サブタイトル

法と政治の哲学史—共同体の哲学的基礎をめぐって

## 授業のねらい

人間はどういうわけか「理性」などという面倒くさいものを持っています。そのことによって、本能のままに、自由気ままに生きることができません。イヤイヤであっても社会の成員として法治国家に属さなくてははいけません。ですが、それによっではじめて本能的な自然の目的には還元することができない、人間固有の目的を語るができます。もちろん、そんな目的なんかいらないと思う人もいるかもしれませんがね。本講義では、主要な哲学者による共同体論を紹介しつつ、理想の共同体のあり方について、人生の目的や意味について自由にみなさんとお話したいと思います。専門知識は前提しませんので気楽に参加してください。意味も目的もいらないと思う人も大歓迎です。

## 到達目標

- ・なぜルールが存在するのか、なぜルールを守らなくてはいけないのかを説明することができるようになる
- ・社会の成員として生きるの意味を述べるができるようになる
- ・自分の考えを明晰な言葉で述べるができるようになる
- ・他者の意見の論理構造を理解できるようになる

## 授業方法

講義形式です。なるべく多くの時間を議論に割きたいと思います。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション—政治哲学への招待
- 第2回 アリストテレスの政治思想—プラトン国家論の批判
- 第3回 アリストテレスの政治思想—政治的正義の輪郭
- 第4回 アリストテレスの政治思想—法の適用における正と不正
- 第5回 アリストテレスの政治思想—理性と法
- 第6回 トマス・アクィナスの共同体論—共同体とベルソナ
- 第7回 トマス・アクィナスの共同体論—自然法と習慣
- 第8回 トマス・アクィナスの共同体論—究極目的と共同善
- 第9回 近代政治哲学の夜明け—ホブズ
- 第10回 ジョン・ロック—立法権としての主権
- 第11回 ヒュームの社会契約論批判
- 第12回 カントの法論—『人倫の形而上学』の背景
- 第13回 カントの法論—法論の形而上学的原理
- 第14回 カントの法論—法と定言命法、法と自由
- 第15回 カントの法論とまとめ—理性の公共的使用の論理

## 成績評価の方法

平常点 40% (毎回のリアクションペーパーへの記入と議論への参加)、期末レポート 60%

## 履修にあたっての注意

専門知識は前提しません。授業で紹介する哲学者のテキストを時間をかけて読んでください。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

資料は教室でコピーを配布します。参考書は教室で紹介しますが必ずしも購入する必要はありません。

34031

## 倫理学特講 C

担当教員：勝西 良典

2 単位 前期

### サブタイトル

戦争論

### 授業のねらい

人間社会において絶えることのなかった戦争について考えることにより、戦争を回避し平和を構築するための人間学的・倫理的基盤を築くとともに、現代の主要な政治思想を支えている概念を理解し批判検討しながら、平和のイメージを豊かにしつつ自分なりの意見を形成する。

### 到達目標

1. 戦争にかんする規制の考え方を理解する。
2. 法的・政治的・道徳的・宗教的諸規範が抱える問題点を理解する。
3. 経済活動と民主主義にも問題があることを理解する。
4. 理想的な平和主義であれ対抗武力の行使であれ、深刻な矛盾を宿していることを理解する。
5. こうした矛盾やジレンマを踏まえてなお、平和への道を求める続ける胆力を涵養する。

### 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】(60～90分)

- ・事前に資料が配られた場合は、よく読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。
- ・各テーマにかんして検討すべき論点を挙げた上で、自分の考えを整理しておく。

【事後学習】期末レポートを書く想定で、授業での議論を踏まえながら自分の考えを整理する。(90～120分)

【フィードバック】前回授業のリアクションペーパーへの回答、朱入れしたレポートの返却、ないし希望者に対する面談等によって行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング／オバマの大統領就任演説を読み解く
- 第2回 正しい戦争とは何か
- 第3回 個と共同体をめぐる社会思想
- 第4回 法概念の歴史の変遷
- 第5回 合法性の基盤としての政治
- 第6回 合法性の基盤としての道徳・宗教
- 第7回 戦争の経済
- 第8回 ビジネスの功利性と経済活動の根本
- 第9回 国際ビジネスは平和を導くのか
- 第10回 戦争の理由として持ち出されることもある民主主義と批判
- 第11回 民主主義自体が抱え持つ矛盾
- 第12回 絶対平和主義は理想的か
- 第13回 軍隊を持つことの意味
- 第14回 平和のための国際法とは
- 第15回 平和実現への道——まとめにかえて

### 成績評価の方法

レポート試験(70%)、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー(30%)

### 履修にあたっての注意

授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

テキストに代わるものとして、授業中に適宜プリントを配布する。  
下記以外の参考書・参考資料については、授業中に適宜紹介する。

### 参考書

マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』(風行社、2008、ISBN:978-4938662448)  
山内進編『「正しい戦争」という思想』(勁草書房、2006、ISBN:978-4326450787)  
ジェームズ・ボーマン／マティアス・ルッツ／バツハマン編『カントと永遠平和—世界市民という理念について』(未来社、2006、ISBN:978-4624011680)  
加藤尚武『戦争倫理学』(筑摩書房(ちくま新書)、2003、ISBN:978-4480059826)  
眞嶋俊造『正しい戦争はあるのか? : 戦争倫理学入門』(大隈書店、2016、ISBN:978-4905328155)



34041

## 倫理学特講 d

担当教員：勝西 良典

2単位 後期

### サブタイトル

規範的倫理理論を学び、現実の問題について考える

### 授業のねらい

主にアングロ・サクソン系の倫理学で用いられる規範的倫理理論のうち代表的なものを紹介し、現実にもみられるジレンマの解決に主体的に立ち向かう力を養う。

### 到達目標

1. 代表的な規範的倫理理論の考え方を理解する。
2. 安楽死や人工妊娠中絶などといった具体的な問題に対してどのように臨めば倫理的ないし道徳的と言えるのかについて自分なりの答えが出せるようになる。

### 授業方法

講義形式

ただし、授業中に周りの人とディスカッションしてもらったり、意見を求めたりすることもある。

【事前学習】(60～90分)

- ・事前に資料が配られた場合は、よく読んだ上で、よくわからないところを確認しておく。
- ・各テーマにかんして検討すべき論点を挙げた上で、自分の考えを整理しておく。

【事後学習】期末レポートを書く想定で、授業での議論を踏まえながら自分の考えを整理する。(90～120分)

【フィードバック】前回授業のリアクションペーパーへの回答、未入れしたレポートの返却、ないし希望者に対する面談等によって行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング：倫理的ジレンマとは何か／道徳とはどういうことか
- 第2回 文化的相対主義
- 第3回 倫理的主観主義
- 第4回 道徳と宗教
- 第5回 心理的利己主義
- 第6回 倫理的利己主義
- 第7回 功利主義(1)：功利性原理の特徴
- 第8回 功利主義(2)：その批判と擁護
- 第9回 カントの義務論(1)：絶対的規則はあるのか
- 第10回 カントの義務論(2)：人格の尊重
- 第11回 社会契約論
- 第12回 フェミニズムとケアの倫理
- 第13回 徳倫理
- 第14回 満足はいく道徳説とはいかなるものか
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート試験(70%)、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー(30%)

### 履修にあたっての注意

授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学－安楽死からフェミニズムまで』(晃洋書房、2003、ISBN：978-4771014398)

### 教科書・参考書に関する備考

テキストは旧版なので購入する必要はない。授業中に適宜解説プリントを配布する。

下記以外の参考書については適宜紹介する。

### 参考書

ジェームズ・レイチェルズ、スチュアート・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学－安楽死・中絶・フェミニズム・ケア』(晃洋書房、2017、ISBN：978-4771027619)

田中朋弘『文脈としての規範倫理学』(ナカニシヤ出版、2012、ISBN：978-4779506727)

浅見昇吾、盛永審一郎『教養としての応用倫理学』(丸善出版、2013、ISBN：978-4621086254)

34071

## 倫理学文献講読 C

担当教員：増淵 隆史

2単位 前期

### サブタイトル

環境倫理学入門

### 授業のねらい

環境倫理学の入門書を講読し、その概要を理解したうえで、今後の生活に生かすことができるようになることを狙いとす。

### 到達目標

1. 環境倫理の現状と問題点について理解し、説明できるようになる。
2. 人間中心主義、非人間中心主義について理解し、説明できるようになる。
3. 環境正義について理解し、説明できるようになる。
4. 上記について自己の見解を口頭や文章で論理的に表現できるようになる。特に文章では盗用などのない研究倫理に則った形で表現できるようになる。

### 授業方法

ゼミ形式で行う。受講者には教科書の担当部分を割り振るので、その部分について内容を要約したレジメを作成し(90分)、講義時に発表する。発表者以外の受講者も当該部分を予習しておくこと(60分)。講義では発表に対し、全員で質問やディスカッションを行い、内容の理解を深める。教科書の各章が読了したら、受講者には当該部分に関して振り返りのミニ・レポートを作成し(30分)、次回の講義時に提出する。期末レポートは学んだ内容のうち関心のある問題を受講者自身が選び、問題の内容やそれに対する自己の見解を2500字程度で作成する。期末レポートについては採点し講評とともに返却する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス 本文の全体像や意図の解説
- 第2回 環境問題の現状と倫理的問題点1 環境問題の現状
- 第3回 環境問題の現状と倫理的問題点2 近代人の社会倫理観
- 第4回 環境倫理思考の3つの典型
- 第5回 環境倫理学へ至る道
- 第6回 環境倫理学の見取り図1 環境倫理の特徴
- 第7回 環境倫理学の見取り図2 環境倫理の哲学的争点と目標
- 第8回 人間非中心主義1 ディープ・エコロジーと生物中心主義
- 第9回 人間非中心主義2 動物倫理学とエコ中心主義
- 第10回 人間中心主義1 自然の権利と強い人間主義
- 第11回 人間中心主義2 弱い人間中心主義とキリスト教人間中心主義
- 第12回 環境正義1 世代間倫理
- 第13回 環境正義2 社会派エコロジーとエコフェミニズム
- 第14回 環境正義3 南北格差と環境問題
- 第15回 まとめとレポート講評

### 成績評価の方法

到達目標1-3について発表レジメの作成と発表(20%)、各章ごとの振り返りミニレポート(10%)、および講義での質疑応答、発言等の積極的参加姿勢(10%)。到達目標4について期末レポート(60%)

### 履修にあたっての注意

発表者は担当部分を熟読・理解し、わかりやすいレジメの作成と発表を行うこと。また発表者以外も事前に熟読・理解し、質問等を用意し、講義に積極的に参加すること。

### 教科書

高橋広次『環境倫理学入門』(勁草書房、2011、ISBN: 978-432660237)

### 教科書・参考書に関する備考

学習の必要性に応じ、他の文献資料等を配布する。

34081

## 倫理学文献講読 d

担当教員：多田 圭介

2 単位 後期

### サブタイトル

環境倫理学への招待

### 授業のねらい

「環境倫理学」の基礎的な文献の購読と討論が中心です。テキストは様々な文献からの抜粋ですが、15回を通して環境倫理学の全体像が描けるように配慮します。平易なエッセイからはじめ、徐々に文献の学術的レベルを上げていきます。

今日、人間の営みによって自然環境は大きな変貌を被るに至りました。こうした事態に直面し、元来は対人倫理であった倫理学の射程は、対物、対動物、対自然にまで拡張を迫られています。他ならない人間の営みによってこうした課題が浮き彫りになったのですから、「環境倫理学」は、撃退しなければならない外部の敵を明らかにするのではなく、わたしたち自身の内部の欲望との格闘を要請します。自然保護、環境保護、サステイナビリティといった身近だけど遠い諸問題を自分自身の問題として受け止めることが求められます。本講義は、文献の購読を通してこうした問題に対する哲学的な洞察を深める場にしたしたいと思います。寛いで自由に議論しながら進めたいと思います。気楽に参加してください。

### 到達目標

- ・環境倫理学がなぜ必要なのかを自分の言葉で語るができるようになること
- ・学術的な文章の論理構造を理解できるようになること
- ・未解決の問題に向かい合うということの意味を理解すること
- ・自分の考えを正確に言語化することができるようになること

### 授業方法

環境倫理学の基礎的な文献を購読します。事前に配布した資料を読んできてもらいます。授業では内容の確認と内容についての討論を行います。詳細は初回にオリエンテーションで参加者の希望をきいて決めます。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境倫理と生命倫理の接点と差異
- 第3回 技術と人間①、行為射程の拡大
- 第4回 技術と人間②、対面倫理を超えた状況
- 第5回 欧米のディープエコロジー思想
- 第6回 エコ・ナショナリズムの誘惑
- 第7回 世界把握の枠組みとしての環境－世界論
- 第8回 環境世界論とエコロジー
- 第9回 環境破壊をめぐる言説の「現場」
- 第10回 「聴く」ということ－生の個別性
- 第11回 コミュニティの自治
- 第12回 つかの間この世にある私、人格と身体
- 第13回 生命操作の論理と倫理
- 第14回 死生観の哲学史
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

平常点（議論への参加）40%、期末レポート60%。平常点は、事前に配布された文献をしっかりと読んできたかどうかを重視します。レポートは期末一本です。

### 履修にあたっての注意

予備知識は必要としません。初学者も歓迎します。文献の事前読解が大切ですので毎回の予習復習に1～2時間はかけてください。期末レポートの作成に10～15時間程度を要すると思われます。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

特になし。購読文献は教室で配布します。希望者は購入しても結構ですが強制はしません。

### 参考書

- 森岡正博『生命観を問い直す－エコロジーから脳死まで』（ちくま新書 012、1994、ISBN：978-4480056122）  
 宇都宮芳明ほか『倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1994、ISBN：978-4790705239）  
 『岩波講座 哲学 08 生命/環境の哲学』（岩波書店、2009、ISBN：978-4000112680）  
 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』（丸善ライブラリー、1991、ISBN：978-4621070345）  
 J. v. ユクスキュル『動物と人間の環境世界への散歩』（新思索社、1995(1934)）  
 P. シンガー『実践の倫理』（昭和堂、1999(1993)、ISBN：978-4812299296）  
 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995、ISBN：978-4423730737）  
 中岡成文ほか『応用倫理学講義 I 生命』（岩波書店、2004、ISBN：978-4000267144）  
 戸谷洋志『ハンス・ヨナスを読む』（堀之内出版、2018、ISBN：978-4909237347）

34101

## 古典語 A-II

担当教員：小原 琢

4 単位 通年

### サブタイトル

ラテン語上級文法

### 授業のねらい

ラテン語の知識が増すと、ラテン語の著作を読みたくなります。ローマ時代の著作、ヴルガタ訳聖書、キリスト教思想家の著作…。そんなラテン語の著作に挑戦してみませんか。著作の講読は山あり谷あり…。しかし山岳ガイドの私が単語の分析を行い、文章の骨格を示します。だから心配ありません。

### 到達目標

受講生はラテン語の文法理解を深め、平易なラテン語の著作を読むことができるようになります。

### 授業方法

1. 前年度終了後の学習箇所から教科書の順序に従って文法事項を解説し、練習問題を解きながらラテン語の学習を深めてゆきます。教科書の学習を終えてから、ラテン語の著作を講読します。
2. 毎回の授業終了時に次回の学習箇所を示します。予習は教科書や資料に目を通してください（所要時間 30 分程度）。復習は当日の学習箇所を教科書や資料にて確認してください（所要時間 60 分程度）。
3. 教科書で文法事項を学習する前期は「復習テスト」によって習熟度を確認します。復習テストは採点後に返却し、解答を配布します。ラテン語の著作を講読する後期は「講読レポート」によって習熟度を確認します。「講読レポート」は採点後に返却し、解説します。

### 授業計画

- 第1回 動詞(1)：不定詞
- 第2回 動詞(2)：間接話法
- 第3回 動詞(3)：動名詞
- 第4回 動詞(4)：動形容詞
- 第5回 動詞(5)：不規則動詞 volo, nolo, malo, eo
- 第6回 動詞(6)：不規則動詞 fero, fio
- 第7回 動詞(7)：非人称動詞
- 第8回 接続法(1)：独立文
- 第9回 接続法(2)：間接疑問
- 第10回 接続法(3)：名詞節の目的、結果
- 第11回 接続法(4)：副詞節の目的、結果
- 第12回 接続法(5)：条件
- 第13回 接続法(6)：時間、理由
- 第14回 接続法(7)：譲歩、比較
- 第15回 数詞
- 第16回 訳読(1)：祈祷文(1)
- 第17回 訳読(2)：祈祷文(2)
- 第18回 訳読(3)：イソップ寓話(1)
- 第19回 訳読(4)：イソップ寓話(2)
- 第20回 訳読(5)：イソップ寓話(3)
- 第21回 訳読(6)：ネボス『英雄伝』(1)
- 第22回 訳読(7)：ネボス『英雄伝』(2)
- 第23回 訳読(8)：新約聖書『マタイ福音書』(1)
- 第24回 訳読(9)：新約聖書『マタイ福音書』(2)
- 第25回 訳読(10)：新約聖書『ルカ福音書』(1)
- 第26回 訳読(11)：新約聖書『ルカ福音書』(2)
- 第27回 訳読(12)：アウグスティヌス『告白』(1)
- 第28回 訳読(13)：アウグスティヌス『告白』(2)
- 第29回 訳読(14)：トマス・アキナス『神学大全』(1)
- 第30回 訳読(15)：トマス・アキナス『神学大全』(2)

### 成績評価の方法

復習テストの成績 (30%) と講読レポートの成績 (30%) と授業への取り組み (40%) によって評価します。学期末試験は行いません。

### 履修にあたっての注意

前年度に「古典語 A-I」を受講し、単位を修得済みの学生だけが履修できます。教科書を学び終えたら、ラテン語の著作を読みます。教科書と辞典を必ず持参してください。授業中に終えることのできなかった練習問題などを自宅で行って次回の授業に備えてください。教養を深めるために、楽しくラテン語を学びましょう。

### 教科書

土岐健治・井坂民子『楽しいラテン語』(教文館、2002、ISBN：978-4764272156)

水谷智洋『羅和辞典<改訂版>』(研究社、2009、ISBN：978-4767490250)

### 教科書・参考書に関する備考

随時プリントを配布します。

34111

## 古典語 B

担当教員：三浦 洋

4 単位 通年

### サブタイトル

ギリシア語の初級文法

### 授業のねらい

この授業では、西洋古典語の一つであるギリシア語（古代ギリシア語）の初級文法を基礎から学び、その文字や語彙に慣れ親しむことを目指します。あわせて、ギリシア語と深く関連するギリシア哲学、古代美術、ギリシア悲劇、新約聖書の内容に関心を持つこともねらいとしています。なお、現代ギリシア語は古代ギリシア語と似た部分もありますが、異なる面が非常に多くありますので、この授業は現代ギリシア語の習得に直接役立つ内容とはなっていません。

### 到達目標

1. 古典期アッティカ方言のギリシア語で書かれた平易な文章を読みこなすことができる。
2. 中級以上のギリシア語文法の学習を継続できるよう、古典語学の基本的な学習法を身につける。

### 授業方法

基本的には講義形式で行いますが、受講者に予習を課し、練習問題について解答を作成してきた内容を発表してもらいます。毎回、原則として教科書の1～2課分を進むので、1時間程度の予習が必要となります。ただし、受講者の理解度に応じて、進む速度を調節します。下記の授業計画は、最も進度を速めた場合の内容です。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方について
- 第2回 文字と発音、氣息記号、音節とアクセント
- 第3回 動詞の現在直説法能動相、名詞の第一活用その1 - η 語尾
- 第4回 名詞の第一活用その2 - 長い α 語尾、動詞の未完了過去直説法能動相
- 第5回 名詞の第一活用その3 - 短い α 語尾、動詞の未来直説法能動相
- 第6回 名詞の第二活用、形容詞の第一、第二活用
- 第7回 名詞の第一活用その4 - 特殊な場合、前置詞
- 第8回 省音、合成動詞、動詞のアオリスト直説法能動相
- 第9回 動詞の現在完了と過去完了直説法能動相
- 第10回 強意代名詞と指示代名詞、μ ι 動詞その1 - 規則的な活用
- 第11回 後倚辞のアクセント、名詞の第三活用その1 - 規則的な場合、その2 - 不規則的な場合
- 第12回 形容詞の第三活用その1 - 規則的な場合、動詞の現在、未来、過去完了の直説法中動相
- 第13回 動詞の未完了過去、アオリスト、過去完了の直説法中動相、第二アオリスト直説法能動相と中動相
- 第14回 動詞の直説法受動相、能相欠如動詞
- 第15回 中間総括、小テスト
- 第16回 人称代名詞、所有形容詞、再帰代名詞、相互代名詞、動詞の第三アオリスト
- 第17回 約音動詞の直説法
- 第18回 流音幹動詞の未来とアオリストの直説法能動相と中動相
- 第19回 形容詞の第三活用その2 - 不規則的な場合
- 第20回 疑問代名詞と不定代名詞、
- 第21回 不定詞
- 第22回 動詞の接続法、約音形容詞・名詞
- 第23回 約音動詞の接続法
- 第24回 動詞の希求法
- 第25回 約音動詞の希求法、関係代名詞
- 第26回 分詞、属格と対格の独立的用法
- 第27回 黙音幹動詞の中・受動相の完了形、形容詞と副詞の比較

- 第28回 数詞、動詞の命令法
- 第29回 間接話法、動形容詞、冠詞の用法、μ ι 動詞その2 - 不規則的な活用
- 第30回 総括

### 成績評価の方法

予習を含む授業への参加状況 (30%)、小テスト (30%)、定期試験 (40%) により評価する。

### 履修にあたっての注意

毎回、予習範囲を指定しますので必ず予習してきてください。欠席すると授業についていくのが難しくなりますから、積極的に出席してください。

### 教科書

田中利光『新ギリシヤ語入門』（大修館書店、1994、ISBN：978-4469211917）

### 教科書・参考書に関する備考

辞典や参考書は授業の中で紹介しますが、履修のために購入する必要はありません。

### 参考書

Smyth, *Greek grammar* (Harvard University Press, 1984, ISBN：0674362500)



34131

## 神話論 b

担当教員：平藤 喜久子

2単位 集中

### サブタイトル

世界の神話を学ぶ

### 授業のねらい

さまざまな地域の神話について、その背景にある宗教文化とともに知り、神話学の基本的な方法を学ぶ。

現代の国際社会に通用する宗教文化への理解を深める。

### 到達目標

神話学の研究方法を理解し、神話の比較の意義について理解する。

神話と現代との関わりについても考える。

### 授業方法

前半では、各地域の神話についての基礎知識と代表的な物語について知識を得て、後半では具体的に神話の比較を行っていく。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨN：神話学入門
- 第2回 日本神話
- 第3回 オリヱントの神話
- 第4回 エジプトの神話
- 第5回 ギリシヤ・ローマ神話(1)
- 第6回 ギリシヤ・ローマ神話(2)
- 第7回 ギリシヤ・ローマ神話(3)
- 第8回 北欧神話
- 第9回 北欧神話
- 第10回 インド神話
- 第11回 世界のはじまりの神話(1)
- 第12回 世界のはじまりの神話(2)
- 第13回 英雄神話(1)
- 第14回 英雄神話(2)
- 第15回 試験（机上レポート）

### 成績評価の方法

試験（レポート形式）70%

授業への参加状況 30%

### 履修にあたっての注意

特になし

### 教科書

なし

### 参考書

平藤喜久子、松村一男、山田仁史『神の文化史事典』（白水社、2013）

34141

## キリスト教文化論 a

担当教員：山我 哲雄

2 単位 前期

### サブタイトル

キリスト教の成立とその文化の発展

### 授業のねらい

新約聖書に基づき、ナザレのイエスの生涯と思想を通じて、宗教としてのキリスト教がユダヤ教から何を受け継ぎ、何を受け継がなかったのかの双方を明らかにし、また、パウロなどの使徒たちの活動を通じて、キリスト教が民族宗教であるユダヤ教とは性格を異にする世界宗教として異邦人世界に広がっていく経過を辿る。また、後にローマ＝カトリック教会とギリシア正教会に分かれる東西教会の宗教的、文化的伝統の違いの形成についても論じる。

### 到達目標

1. 宗教としてのキリスト教の基本的な思想、信仰内容、儀礼、信仰生活、倫理、宗教文化等について適切に理解し、説明できるようになる。
2. 成立時の原始キリスト教において、キリスト教の母体となったユダヤ教とキリスト教自体の歴史的、思想的、宗教的關係（連続性と相違、不連続性の双方）について正しく説明できるようになる。
3. 後のローマ＝カトリック教会とギリシア正教へとつながる東西両教会の異なる文化的伝統の形成についても、適切に理解し、説明できるようになる。

### 授業方法

講義形式で行う。視聴覚教材等を積極的に活用する。事前学習としては、シラバスに基づき、教科書の該当箇所を目を通しておく。事後学習としては、講義内容、配布されたプリント、板書などに基づき、ノートを整理する。(試験時には手書きのノートのみ持ち込みを認める。この授業に限らず、良いノートの整理を心がけることは重要である。) フィードバックとして、出席票に毎回質問を書かせ、次の授業の冒頭で、主要な質問に回答する。

### 授業計画

- 第1回 ユダヤ教とキリスト教。連続性と不連続性。
- 第2回 福音書と歴史的イエス。
- 第3回 イエスとユダヤ教。「律法(ノモス)」と「愛(アガペー)」を中心に。
- 第4回 イエスの宣教。「神の国」到来。
- 第5回 イエスの裁判と十字架上の死。
- 第6回 復活信仰の成立。本来の意味での「キリスト教」の成立。
- 第7回 エルサレム原始教会(1)。基本的な信仰内容の確立。教会指導者としてのペトロ。
- 第8回 エルサレム原始教会(2)。ヘブライオイとヘレニスタイ。二つの原始キリスト教の在り方。
- 第9回 パウロの思想と活動(1)。回心と信仰義認論。
- 第10回 パウロの思想と活動(2)。異邦人伝道とギリシア・ローマの教会の形成。
- 第11回 キリスト教徒ローマ帝国(1)。迫害と殉教。「ヨハネ黙示録」とキリスト教終末論。
- 第12回 キリスト教とローマ帝国(2)。帝国による公認と正統的教義の形成。
- 第13回 キリスト教とローマ帝国(3)。帝国の東西分離と東西両教会の成立。
- 第14回 修道院文化の成立と発展。
- 第15回 西方教会と東方教会。その異なる文化的発展。

### 成績評価の方法

定期試験を実施する。試験時には手書きのノートのみ、持ち込みを認める。評価の基準は、試験の答案内容が80%、授業参加

状況(出席、遅刻や中途退場の有無)20%とする。

### 履修にあたっての注意

私語、遅刻、内職、居眠りを慎み、授業に集中すること。ノートをよくとること。積極的な質問を歓迎する。

### 教科書

山我哲雄『キリスト教入門』(岩波書店、2014、ISBN: 978-4-00-500792-9)  
『聖書 新共同訳』(日本聖書協会)

### 教科書・参考書に関する備考

聖書は旧約・新約合本の新共同訳が望ましいが、新約聖書だけのものでもよい。新共同訳以外は不可。

### 参考ホームページ

教科書の紹介

<https://www.iwanami.co.jp/book/b223830.html>

34151

# キリスト教文化論b

担当教員：山我 哲雄

2単位 後期

## サブタイトル

キリスト教の諸教派。その信仰と文化

## 授業のねらい

キリスト教は、その2000年の歴史を通じて、大きく見て三つの流れに分かれてきた。まず、4世紀末のローマ帝国の東西分離に伴い、東方教会と西方教会に分かれ、後に前者がギリシア正教をはじめとする東方正教会となり、後者がローマ＝カトリック教会となった。さらに16世紀以降、宗教改革により西方教会でローマ＝カトリック教会からプロテスタント諸教会が分かれたが、後者は一枚岩にならず、ルター派、長老派（カルヴァン派）、聖公会、メソジスト、バプテスト、クエーカー派などさらに細かい諸教派に分かれた。これらの諸教派がなぜ分かれたのかを歴史的に解説し、その主要な思想的、文化的特色と違いを明らかにする。他方で、それらの諸教派がそのような違いにも拘わらず、キリスト教として共有するものと、実際に教派を越えて行われている協力活動についても説明する。さらに、キリスト教を自称する新宗教があるが、それらがいかなる点で、伝統的なキリスト教と異なるかについても明らかにする。

## 到達目標

1. 2000年の歴史を通じて形成されてきたキリスト教の数多い諸教派について、それぞれの基本的な思想的、文化的諸特質を適切に理解し、その主たる違いと共通性が説明できるようにする。
2. キリスト教が現代の世界で直面している諸課題について、適切に理解し、説明できるようにする。
3. キリスト教を自称する新宗教について、それが伝統的なキリスト教と異なるかについて適切に理解し、説明ができるようになる。

## 授業方法

講義方式で行う。視聴覚教材等を積極的に活用する。事前学習としては、シラバスに基づき、教科書の該当箇所に通しておく。事後学習としては、講義内容、配布されたプリント、板書などに基づき、ノートを整理する。（試験時には手書きのノートのみ持ち込みを認める。この授業に限らず、良いノートの整理を心がけることは重要である。）フィードバックとして、出席票に毎回質問を書かせ、次の授業の冒頭で、主要な質問に回答する。

## 授業計画

- 第1回 西方教会と東方教会。分離と異なる発展。
- 第2回 ローマ＝カトリック教会(1)。教会制度と信仰生活。
- 第3回 ローマ＝カトリック教会(2)。特徴的な教義と信仰内容。
- 第4回 西欧中世のカトリック文化の発展。
- 第5回 東方正教会(1)。教会制度と信仰生活。
- 第6回 東方正教会(2)。特徴的な教義と信仰内容。
- 第7回 宗教改革前夜。ローマ＝カトリック教会の動揺と批判。ルネサンス。
- 第8回 ルターとドイツの宗教改革。ルター派教会の成立。
- 第9回 カルヴァンと長老派教会の成立。
- 第10回 英国教会（聖公会）とピューリタン諸派。
- 第11回 メソジスト教会とその他の諸教派。
- 第12回 キリスト教と日本。
- 第13回 キリスト教原理主義（ファンダメンタリズム）の問題。
- 第14回 エキュメニズム（教会合同運動）と宗教間対話。
- 第15回 キリスト教系の新宗教（モルモン教、エホバの証人、統一協会）

## 成績評価の方法

定期試験を実施する。試験時には手書きのノートのみ、持ち込

みを認める。評価の基準は、試験の答案内容が80%、授業参加状況（出席、遅刻や中途退場の有無）20%とする。

## 履修にあたっての注意

私語、遅刻、内職、居眠りを慎み、授業に集中すること。ノートをよくとること。積極的な質問を歓迎する。

## 教科書

山我哲雄『キリスト教入門』（岩波書店、2014、ISBN：978-4005007929）

## 参考書

八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』（朝日新聞出版、2012、ISBN：978-4022617217）

今橋朗・徳善義和『よくわかるキリスト教の教派』（キリスト新聞社、1996、ISBN：978-4873954974）

## 参考ホームページ

教科書の紹介

<https://www.iwanami.co.jp/book/b223830.html>

34181

# イスラム文化論 a

担当教員：山我 哲雄

2 単位 前期

## サブタイトル

イスラム教の思想と文化

## 授業のねらい

念のために記すが、講師はムスリム（イスラム教徒）ではなく、イスラム（正しくはイスラーム）という宗教的・思想的・社会的現象に関心を持つ研究者である。ムスリムの数は現在世界で約 17 億人。全人類のほぼ 5 人に 1 人近くがムスリムということになる。しかも、アジアやいわゆる「中近東」だけでなく、アメリカやヨーロッパでも増加しており、世界的にますますその存在感と発言力を強めている。他方で特に最近ではイスラムに関連するテロ事件などが大きく報道され、あたかもイスラムが本質的に暴力的な宗教であるかのような誤解も生まれている。極く一部の過激なイスラム教徒の言動が、イスラム全体に対する偏見を生むようなことがあってはならない。世界がグローバル化し、異なる信仰や文化、価値観の人々が出会い、協力し合わねばならない機会はますます増えている。だからこそ、自分たちと異なる文明や価値観を理解することがますます重要になってくる。この講義では、イスラムについて基本的な知識と適切な理解を養うことを目的とする。なお前期 (a) が総論、後期 (b) が各論に当たるので、双方を連続して履修することが望ましい。

## 到達目標

1. イスラム教とその文化について基本的知識を身につけ、異文化として適切に理解することができる。
2. イスラム教に関わる現在のニュース（たとえば「イスラム国 (IS)」の台頭、スンニー派とシーア派の対立など）の背景が理解できる。
3. ユダヤ教、キリスト教とイスラム教の思想的、歴史的関係について正しく理解し、その共通性や相違について適切に説明することができる。

## 授業方法

- ・講義形式。できるだけ映像資料や音響資料も駆使する。
- ・イスラーム教に関連するニュースなど、同時進行的なテーマも積極的に取り上げる。
- ・1 度は近く（どこにあるか知っていますか？）のモスク（イスラーム礼拝所）を訪問する「遠足」ならぬ「近足」を行う。
- ・イスラム教関係のテレビや新聞のニュースに常に注意し、できればスクラップをすること。
- ・フィードバックとして、毎回出席票を兼ねて質問と感想を提出させ、次の授業の冒頭で主要な質問に回答する。

## 授業計画

- |       |  |
|-------|--|
| 第 1 回 | 今、なぜイスラームなのか？－現代世界とイスラーム教              |
| 第 2 回 | ユダヤ教、キリスト教、イスラーム－三つの「一神教」の関係           |
| 第 3 回 | ムハンマドの生涯とイスラームの成立(1)－「ヒジュラ」(622 年まで)   |
| 第 4 回 | ムハンマドの生涯とイスラームの成立(2)－「ヒジュラ」からムハンマドの死まで |
| 第 5 回 | 「六信」－イスラームの信仰                          |
| 第 6 回 | 「五行」－イスラームの宗教生活                        |
| 第 7 回 | スンニー派とシーア派                             |
| 第 8 回 | イスラム法（シャリーア）と戒律                        |
| 第 9 回 | イスラーム神秘主義（スーフィーズム）                     |
| 第10回  | 中東のイスラーム世界                             |
| 第11回  | トルコのイスラーム                              |
| 第12回  | アジアのイスラーム                              |
| 第13回  | ヨーロッパ・アメリカとイスラーム                       |
| 第14回  | いわゆる「イスラム原理主義」とテロリズム                   |
| 第15回  | モスク（札幌ジャーミー）訪問（回未定）                    |

(服装注意：ミニスカート、短パン禁止、スカーフか髪全部が隠れる帽子持参のこと)

## 成績評価の方法

授業への参加状況 20 点 + 試験 80 点で評価する。試験の出題内容は事前に授業内で公開するが、その分、正確で充実した記述を求める。

## 履修にあたっての注意

遅刻・無許可早退・私語・居眠り・内職を控えること。前記のように、「イスラム文化論 b」とセットで履修することが望ましい。

## 教科書

ライフサイエンス『知っておきたい イスラムのすべて』(三笠書房、2015、ISBN：978-4837983422)

## 参考書

中村廣治郎『イスラム教入門』(岩波書店、1998、ISBN：978-4004305385)  
 池上彰『池上彰が読む「イスラム」世界』(KADOKAWA、2014、ISBN：978-4047313842)  
 小杉泰『イスラームとは何か』(講談社、1994、ISBN：978-4061492103)

## 参考ホームページ

教科書の紹介 <http://www.mikasashobo.co.jp/c/books/?id=100834200>

2017年度以前入学生  
専文化総科学  
門科目

34191

## イスラム文化論 b

担当教員：川口 琢司

2 単位 後期

### サブタイトル

イスラームの歴史と文化

### 授業のねらい

現代のイスラーム社会で起こっている出来事を正しく理解するためには、イスラームの歴史や文化を理解することが不可欠です。ところが、現実にはしばしばイスラームに対する偏見や誤解が見られます。授業ではアラブ人イスラーム教徒の歴史と文化を中心に解説します。それにより、近代以前のイスラーム史の流れと広がりを理解することがねらいです。

### 到達目標

1. イスラームの歴史と文化について基礎的な知識を身につけ、日本人になじみの薄い異文化に対する理解を深める。
2. 1をふまえ、現代のイスラーム教徒が抱えるさまざまな問題に対して自分の意見をもってもらおう。

### 授業方法

配布資料を使いながら講義形式で進めていきます。また、映像資料を用いた授業を1～2回予定しており、小レポートを提出してもらいます。小レポートは採点后に返却します。事後学習としては、自筆ノートや配布資料を読み直し、授業中に指摘したポイントを復習しておくこと。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：ジャーヒリーヤ時代と預言者ムハンマド
- 第2回 正統カリフ時代
- 第3回 ウマイヤ朝とダマスカス
- 第4回 後ウマイヤ朝とコルドバ
- 第5回 アッバース朝とバグダード
- 第6回 『千夜一夜物語』（アラビアン＝ナイト）
- 第7回 知恵の館（バイト＝アルヒクマ）
- 第8回 ファーティマ朝とカイロ
- 第9回 十二イマーム派とブワイフ朝
- 第10回 イブン＝スィーナールとイブン＝ルシュド
- 第11回 アイユーブ朝と十字軍
- 第12回 マムルーク朝とカイロ
- 第13回 カーリミー商人の活躍
- 第14回 イブン＝ハルドゥーンの歴史理論
- 第15回 オスマン帝国のアラブ支配

### 成績評価の方法

到達目標1を測定するための期末試験（80%）、映像授業をふまえた小レポート（20%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

イスラム文化論 a とセットで履修することが望ましい。ノートをしっかり取ることが大事です。遅刻、無許可の早退、私語、居眠り、内職などを控えること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はとくに使用しません。  
参考書については、授業中に適宜紹介します。



## サブタイトル

異文化コミュニケーションにおける質的研究とその実際

## 授業のねらい

- 1 異文化コミュニケーションの諸問題を多様な視点から理解すると共に学術研究に対する態度と手法を学ぶ。
- 2 社会科学系研究論文の基礎的書き方を修得する。

## 到達目標

1. 予備的な文献リサーチをして、卒業論文につながりうるテーマを設定できる。
2. 自らのテーマに基づいた効果的な文献リサーチができる。
3. 先行研究をクリティカルに読んで課題を見出すことができる。
4. 先行研究を論理的に整理し、自分の議論の材料とできる。
5. 説得的な研究報告ができる。
6. 効果的なインタビューができる。

## 授業方法

講義と演習  
配布される資料等を活用して予習と復習をおこなうこと。  
(あわせて2時間程度)

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | オリエンテーション (含 発表日程)   |
| 第2回  | 既卒生の卒業論文検討 ①   |
| 第3回  | 既卒生の卒業論文検討 ②   |
| 第4回  | 研究テーマの仮設定と文献リサーチ ①   |
| 第5回  | 研究テーマの仮設定と文献リサーチ ②   |
| 第6回  | 文献リサーチに基づいたテーマの絞り込みと先行研究の整理  |
| 第7回  | 先行研究のレポートと面接調査における課題の設定 ①  |
| 第8回  | 先行研究のレポートと面接調査における課題の設定 ②  |
| 第9回  | 先行研究のレポートと面接調査における課題の設定 ③  |
| 第10回 | 面接調査の技法 ①  |
| 第11回 | 面接調査の技法 ②  |
| 第12回 | 面接調査の実践報告 ①  |
| 第13回 | 面接調査の実践報告 ②  |
| 第14回 | 面接調査の実践報告 ③  |
| 第15回 | 面接調査の実践報告 ④  |
| 第16回 | 学生による研究発表 ①<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。 |
| 第17回 | 学生による発表 ②<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。   |
| 第18回 | 学生による発表 ③<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。   |
| 第19回 | 学生による発表 ④<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。   |
| 第20回 | 学生による発表 ⑤<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。   |
| 第21回 | 学生による発表 ⑥  |

多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。

- |      |   |
|------|---|
| 第22回 | 学生による発表 ⑦<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第23回 | 学生による発表 ⑧<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第24回 | 学生による発表 ⑨<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第25回 | 学生による発表 ⑩<br>多文化社会または異文化コミュニケーションに関わるテーマを設定し、先行研究(3本以上)の整理と面接調査の結果と考察 |
| 第26回 | 学生による発表 ⑪<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第27回 | 学生による発表 ⑫<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第28回 | 学生による発表 ⑬<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第29回 | 学生による発表 ⑭<br>多文化社会における異文化間のコミュニケーションに関わるテーマを設定、面接調査を行い、その結果と考察をする。    |
| 第30回 | 総括  |

## 成績評価の方法

授業参加状況：30%  
研究発表：35%  
小論文：35%

## 履修にあたっての注意

異文化コミュニケーション論 a ならびに b を履修済であること。未履修の場合はそれらの講義を本演習と同時履修することが条件。  
後期に行う研究報告については、発表後、ただちに論文にまとめ、2週間後に提出してもらいます。  
3年生は夏季休暇中に行われる卒研の中間報告会に参加すること(参加しない場合は卒研ゼミへの登録をご遠慮いただくことがあります)。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

必要に応じて配布します。

30361

## 異文化コミュニケーション演習 B-b

担当教員：野手 修

4単位 通年

### サブタイトル

フィールド・ワーク：文化の実践へのアプローチ

### 授業のねらい

フィールド・ワークは、文化人類学やエスノ・メソドロジーなどの学問領域で文化を人々の実践の体験に則して描き出すための調査法として確立した。演習では、コミュニケーションや教育など、なぜフィールド・ワークがあらたな研究領域において脚光を浴びつつあるのかを関連の文献をとおして学ぶとともに、社会科学における質的調査の意義と目的を文化調査の実践をとおして把握することを目指す。

### 到達目標

フィールド・ワークがなぜ文化の理解に重要なかわかる。質的調査の考え方を理解し、卒論に応用できるようになる。

### 授業方法

フィールドワークの手引書を読み解きながら、実際に調査地をえらび、事前調査、文献購読、仮説を設定し、調査を実施します。その結果をまとめ、発表し、方法論としてのフィールドワークを実践をつうじて学びます。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 文化との「出会い」について：人類学者の一例から
- 第3回 理解と参与
- 第4回 文化をどうイメージするか：現場の摂理、その1
- 第5回 文化をどうイメージするか：現場の摂理、その2
- 第6回 イマジネーションから仮説へ、1
- 第7回 イマジネーションから仮説へ、2
- 第8回 フィールドの事前調査1
- 第9回 フィールドの事前調査2
- 第10回 フィールドの事前調査3
- 第11回 文献調査1
- 第12回 文献調査2
- 第13回 研究計画書の発表をする1
- 第14回 研究計画書の発表をする2
- 第15回 まとめ(1)
- 第16回 後期導入
- 第17回 報告・レポートの作成について1
- 第18回 報告・レポートの作成について2
- 第19回 卒論の分析1
- 第20回 卒論の分析2
- 第21回 卒論の分析3
- 第22回 卒論の分析4
- 第23回 卒論の分析5
- 第24回 調査報告1
- 第25回 調査報告2
- 第26回 調査報告3
- 第27回 調査報告4
- 第28回 調査報告5
- 第29回 論文・卒論へむけて
- 第30回 まとめ(2)

### 成績評価の方法

レポート、授業における討議などを参考にする。点数配分は、通常の予習、討議への参加(40%)、参加状況(20%)、レポート(20%)、発表(20%)とする。

### 履修にあたっての注意

指定された文献の予習などを怠らないこと。昨年度異文化コミュニケーション演習 B-a を履修した学生も受講できる。受講者数は、原則として20名以内とする。

### 教科書

好井 裕明『「あたりまえ」を疑う社会学』(光文社、2006、ISBN：978-4334033439)

佐藤 郁哉『フィールドワーク』(新曜社、2006、ISBN：978-4788510302)

### 教科書・参考書に関する備考

参考書は適宜指定。

### 参考ホームページ

<http://onote.dyndns.org/webdav/>

## サブタイトル

国際関係論として自分の問いを立てる

## 授業のねらい

卒業研究に向けて、学生各自の研究テーマと問いの設定を模索する。特に、自分の興味関心を国際関係論という学問的な枠組みの中で把握するための準備作業として、関連文献の収集や選定、読解のための知的訓練を行っていく。加えて、志を同じくする学生同士の議論を通じて、現代の国際社会をめぐる幅広い問題群についての理解を共有していきたい。

## 到達目標

- (1)卒業研究へ向けて、各自の課題を国際関係論の枠組みの中で設定し、それを学問的に検討していくための関連知識を獲得することができる。
- (2)妥当な先行研究を収集する調査力と、それを適切に理解し説明するための読解力とを身につけることができる。
- (3)自らの見解を学問的な作法に則って発信し、他者の研究に対しても積極的に発言できるようなコミュニケーション力が養われる。

## 授業方法

本演習では、学生各自の関心に沿って、国際関係論ないしは越境的な問題を扱った政治学の重要文献の読解や各自の研究結果の発表を行う。特に、2年生には基本となる文献の講読を中心に行ってもらい、3年生には専門的な著書や論文を扱ってもらうことを予定している。

発表の際は必ず、自身の読んだ文献に対する疑問点を提示してもらう。その上で、その点を軸にして参加者全員で討議を行う。

必要に応じて、担当教員が解説や補足説明を行うとともに、論点提示もする。

レポートでは、学生各自の問題関心に沿った文献のレビューをしてもらい、その上で、当該文献が自身の卒業研究の中でどのように位置づけられるのかの説明をしてもらう（分量は任意）。

予習：自らの担当回にあたっては、しっかりと文献を読み込んだ上で、発表資料作成のための準備が必要となる（目安 4 時間以上）。担当外の回でも、すでに講読箇所が指定されている際は目を通しておくこと（目安 1-2 時間）。

復習：担当回においては、自らの報告に向けられた疑問点やコメントについて振り返り、改善方法を模索してみる。また、卒業研究に向けて、自身の現段階の研究結果を整理しておくこと。担当外であっても、講読した文献の気になる点について読み返したり、論点をノートに記したりしておくこと（目安 2 時間）。

## 授業計画

- 第1回 演習オリエンテーション——文献の読解と報告に向けた学術的な作法（研究倫理）の共有
- 第2回 学生各自の関心テーマの掘り起こしと対象文献の選定（下記の参考書等を手がかりにする）
- 第3回 国際関係論の文献に関する研究と報告(1)
- 第4回 国際関係論の文献に関する研究と報告(2)
- 第5回 国際関係論の文献に関する研究と報告(3)
- 第6回 国際関係論の文献に関する研究と報告(4)
- 第7回 国際関係論の文献に関する研究と報告(5)
- 第8回 国際関係論の文献に関する研究と報告(6)
- 第9回 国際関係論の文献に関する研究と報告(7)
- 第10回 国際関係論の文献に関する研究と報告(8)
- 第11回 国際関係論の文献に関する研究と報告(9)
- 第12回 国際関係論の文献に関する研究と報告(10)
- 第13回 国際関係論の文献に関する研究と報告(11)
- 第14回 国際関係論の文献に関する研究と報告(12)

- 第15回 前期授業のまとめ
- 第16回 夏季休業中の研究進捗状況の確認と後期報告に向けた講読文献の選定
- 第17回 国際関係論の文献に関する研究と報告(13)
- 第18回 国際関係論の文献に関する研究と報告(14)
- 第19回 国際関係論の文献に関する研究と報告(15)
- 第20回 国際関係論の文献に関する研究と報告(16)
- 第21回 国際関係論の文献に関する研究と報告(17)
- 第22回 国際関係論の文献に関する研究と報告(18)
- 第23回 国際関係論の文献に関する研究と報告(19)
- 第24回 国際関係論の文献に関する研究と報告(20)
- 第25回 国際関係論の文献に関する研究と報告(21)
- 第26回 国際関係論の文献に関する研究と報告(22)
- 第27回 国際関係論の文献に関する研究と報告(23)
- 第28回 国際関係論の文献に関する研究と報告(24)
- 第29回 来学年に向けた各学生の研究テーマの確認と絞り込み
- 第30回 後期授業のまとめ

## 成績評価の方法

到達目標(3)の測定を主として、担当回の報告を含めた授業への積極的参加（50%）。到達目標(1)および(2)の測定を主として、レポートの提出（50%）

## 履修にあたっての注意

演習授業は、学生の主体的な参加があってはじめて成立する授業形式である。そのため、積極的に発言や参加をする学生を歓迎する。特に、自分の担当以外の回であってもしっかりと文献を読んで、授業に臨むことを求める。また、研究テーマの選定をはじめ研究での悩みについては、早いうちから相談に来てほしい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

演習では、各学生の興味関心に合わせて取り上げる文献や論文を決定していく。下記の参考書は、学生各自が研究テーマを定める際に手がかりとなる入門書となっている。

## 参考書

花井等 石井貫太郎（編）『名著に学ぶ国際関係論』（有斐閣、2009、ISBN：978-4641173651）  
土佐弘之（編）『グローバル政治理論』（人文書院、2011、ISBN：978-4409001042）

30721

## 法学演習 b

担当教員：真鶴 俊喜

4 単位 通年

### サブタイトル

法学諸分野の論文研究

### 授業のねらい

法学研究の基本的な方法を身につける

### 到達目標

1. 法学の専門の論文を読むことができる。
2. 論文の内容を正確に把握し、内容の説明と論点の提供ができる。

### 授業方法

#### (1)形式・方法

受講生各自が自らの関心に対応した法学分野、法学上のテーマを選び、これらに関連した法学文献を研究、毎時報告する。

基本的には、3年生は具体的な法学上のテーマについて書かれた論文を扱い、2年生は法学の基礎概念・理論について書かれた文献を扱う。

他の参加者は、この報告に対してコメント・質問等をしながら、討議する。

#### (2)事前学習

予め配布された論文を読んで、わからないところを確認し、授業の際の質問に生かすこと（60分）。

#### (3)事後学習

報告のポイントを確認する。

これをふまえて、更に関連する問題を探ってみる（60分）。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学生の報告・これに基づく討論(1)
- 第3回 学生の報告・これに基づく討論(2)
- 第4回 学生の報告・これに基づく討論(3)
- 第5回 学生の報告・これに基づく討論(4)
- 第6回 学生の報告・これに基づく討論(5)
- 第7回 学生の報告・これに基づく討論(6)
- 第8回 学生の報告・これに基づく討論(7)
- 第9回 学生の報告・これに基づく討論(8)
- 第10回 学生の報告・これに基づく討論(9)
- 第11回 学生の報告・これに基づく討論(10)
- 第12回 学生の報告・これに基づく討論(11)
- 第13回 学生の報告・これに基づく討論(12)
- 第14回 学生の報告・これに基づく討論(13)
- 第15回 学生の報告・これに基づく討論(14)
- 第16回 学生の報告・これに基づく討論(15)
- 第17回 学生の報告・これに基づく討論(16)
- 第18回 学生の報告・これに基づく討論(17)
- 第19回 学生の報告・これに基づく討論(18)
- 第20回 学生の報告・これに基づく討論(19)
- 第21回 学生の報告・これに基づく討論(20)
- 第22回 学生の報告・これに基づく討論(21)
- 第23回 学生の報告・これに基づく討論(22)
- 第24回 学生の報告・これに基づく討論(23)
- 第25回 学生の報告・これに基づく討論(24)
- 第26回 学生の報告・これに基づく討論(25)
- 第27回 学生の報告・これに基づく討論(26)
- 第28回 学生の報告・これに基づく討論(27)
- 第29回 学生の報告・これに基づく討論(28)
- 第30回 学生の報告・これに基づく討論(29)

### 成績評価の方法

自らに割り当てられた報告の内容、他の受講生の報告についての議論への参加の度合い、その他授業への関り方全般を90%、授業への参加状況を10%として総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

報告者だけの授業ではないとの認識で臨むこと。報告者は自らの選んだテーマについて、聞く側に理解されるよう工夫すること。聞く側は、事前の予習をすること。報告に含まれる問題点もある程度想定して報告を聞くこと。なお定員は、原則として20名以内とする。

### 教科書

なし



34391

## 心理学演習 b

担当教員：実平 奈美

4 単位 通年

### サブタイトル

心理学の研究方法について知り、体験する

### 授業のねらい

この演習は心理学研究の実践を通して、心理学研究に必要な調査・実験等のスキル（研究計画法、データ収集・分析法、論文執筆形式）の修得を目的とする。心理学の論文を読み、自ら興味・関心をもったテーマについて実験・調査などを実践しながら、科学としての心理学の研究姿勢について理解を深めることを期待したい。

### 到達目標

心理学研究に必要な手順と手法を知ること、研究計画の立案からデータ収集・分析と報告までの一連の実習を通して研究に必要なスキルを身に付けること。

### 授業方法

講義、受講者による発表、実習形式を交えて進行する。実習の各段階でデータ分析に各自がPCを使用する（分析方法については講義内で適宜説明する）。※履修人数および進行状況によってスケジュールの変更等が生じうる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、心理学研究法の紹介、発表分担振り分け
- 第2回 心理学研究法（研究計画法）
- 第3回 文献講読1（発表と議論）
- 第4回 文献講読2（発表と議論）
- 第5回 文献講読3（発表と議論）
- 第6回 文献講読4（発表と議論）
- 第7回 文献講読5（発表と議論）
- 第8回 文献講読6（発表と議論）
- 第9回 文献講読7（発表と議論）
- 第10回 実験法実習1（実習説明、実験準備）
- 第11回 実験法実習2（データ収集）
- 第12回 実験法実習3（データ整理・データ分析1）
- 第13回 実験法実習4（データ分析2）
- 第14回 実験法実習5（報告準備）
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 面接法ガイダンス
- 第17回 インタビュー法実習1（実習説明、テーマ設定）
- 第18回 インタビュー法実習2（データ収集）
- 第19回 インタビュー法実習3（データの整理、分析）
- 第20回 インタビュー法実習4（データ分析）
- 第21回 インタビュー法実習5（報告準備）
- 第22回 質問紙法ガイダンス
- 第23回 質問紙調査実習1（テーマ検討）
- 第24回 質問紙調査実習2（文献収集・精読）
- 第25回 質問紙調査実習3（研究計画書作成）
- 第26回 質問紙調査実習4（調査内容検討）
- 第27回 質問紙調査実習5（データ収集）
- 第28回 質問紙調査実習6（データ分析）
- 第29回 質問紙調査実習7（報告準備）
- 第30回 質問紙調査実習8（研究発表会）

### 成績評価の方法

各レポート（60%）、講義内での発表（40%）から評価する。

### 履修にあたっての注意

- ・受講人数は20名前後とする。
- ・心理学入門は必ず履修済みであること。未履修の者はこの講義と並行して履修すること。
- ・三年次において、これまでに心理学入門・心理学特講・心理

学演習のすべてが未履修の場合は履修を認めない。

- ・実習の中でグループワークを行うことがある為、履修放棄や無断欠席は認められない。
- ・実習でのデータ収集などは授業外の時間に行う必要が生じることもある。
- ・今後、心理学研究による卒業論文を執筆予定の人は履修すること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜資料を配布。

### 参考書

- 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一（編著）『人間科学研究法ハンドブック [第2版]』（ナカニシヤ出版、2011、ISBN：978-4-7795-0419-8）
- 鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤（編著）『心理学マニュアル質問紙法』（北大路書房、1998、ISBN：978-4-7628-2109-7）
- 保坂亨・中澤潤・大野木裕明（編著）『心理学マニュアル面接法』（北大路書房、2000、ISBN：978-4-7628-2170-5）
- 後藤宗理・大野木裕明・中澤潤（編著）『心理学マニュアル要因計画法』（北大路書房、2000、ISBN：978-4-7628-2196-7）
- 高野陽太郎・岡隆（編著）『心理学研究法 一心を見つめる科学のまなざしー[補訂版]』（有斐閣アルマ、2004、ISBN：978-4-641-22086-7）



34431

## 西洋史演習 b

担当教員：渡邊 浩

4単位 通年

### サブタイトル

西洋史をテーマに自分の課題を見つける

### 教科書

なし

### 授業のねらい

受講者が各自テーマを選んで報告を行なう。

### 到達目標

1. 卒業論文へとつながる自分の研究テーマを見つける。
2. 歴史学の研究方法を身につける。

### 授業方法

- ・受講者が順番に報告を行う。
- ・全員が前期と後期に最低1度ずつ報告する。受講者の数によっては授業回数が不足することも予想される。その場合は早朝、夏休み等に補講を行って対応することがある。
- ・報告内容は各自の研究テーマにかかわる研究文献の紹介からはじめる。
- ・文献の選定にあたっては必ず事前に相談すること。文献を選んだり、問題意識を深めるためには、多くの読書が必要となる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（授業の目的・方法）、研究の基礎（先行研究の検索、引用・脚注等について）
- 第2回 受講者による報告（1巡目）(1)
- 第3回 受講者による報告（1巡目）(2)
- 第4回 受講者による報告（1巡目）(3)
- 第5回 受講者による報告（1巡目）(4)
- 第6回 受講者による報告（1巡目）(5)
- 第7回 受講者による報告（1巡目）(6)
- 第8回 受講者による報告（1巡目）(7)
- 第9回 受講者による報告（1巡目）(8)
- 第10回 受講者による報告（1巡目）(9)
- 第11回 受講者による報告（1巡目）(10)
- 第12回 受講者による報告（1巡目）(11)
- 第13回 受講者による報告（1巡目）(12)
- 第14回 受講者による報告（1巡目）(13)
- 第15回 総括(1)
- 第16回 受講者による報告（2巡目）(1)
- 第17回 受講者による報告（2巡目）(2)
- 第18回 受講者による報告（2巡目）(3)
- 第19回 受講者による報告（2巡目）(4)
- 第20回 受講者による報告（2巡目）(5)
- 第21回 受講者による報告（2巡目）(6)
- 第22回 受講者による報告（2巡目）(7)
- 第23回 受講者による報告（2巡目）(8)
- 第24回 受講者による報告（2巡目）(9)
- 第25回 受講者による報告（2巡目）(10)
- 第26回 受講者による報告（2巡目）(11)
- 第27回 受講者による報告（2巡目）(12)
- 第28回 受講者による報告（2巡目）(13)
- 第29回 受講者による報告（2巡目）(14)
- 第30回 総括(2)

### 成績評価の方法

授業への参加状況（報告に対するコメント）(40%)とレポート(60%)によって評価する。

### 履修にあたっての注意

全員に報告を割り当てるために補講を行うことがある。

### 参考書

大下尚一他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』（ミネルヴァ書房、1988、ISBN：978-4623018406）  
山本茂他編『西洋の歴史 古代・中世編 [増補版]』（ミネルヴァ書房、1998、ISBN：978-4623028740）  
服部良久他『大学で学ぶ西洋史 古代・中世』（ミネルヴァ書房、2006、ISBN：978-4623045921）  
小山哲他『大学で学ぶ西洋史 近現代』（ミネルヴァ書房、2011、ISBN：978-4623059386）

31321

## 日本史演習 A-b

担当教員：石田 晴男

4単位 通年

### サブタイトル

中世史論文・日記を読む

### 授業のねらい

中世研究の代表的な論文を読み、読む力と基礎的な知識を身につける。

『玉葉』を読み、史料の読み方と基礎的な知識を身につける。

### 到達目標

1. 論文を読むにはどのようにしていけば良いかがわかる。
2. 中世史料の読み方が分かる。

### 授業方法

担当者を決めて発表し、議論を通じて、理解を深めていく。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス 中世史論文の読み方  
第2回 井原今朝雄 「中世の天皇・摂関・院」 初めに 1章  
第3回 井原今朝雄 「中世の天皇・摂関・院」 2章  
第4回 井原今朝雄 「中世の天皇・摂関・院」 3章 むすびにかえて  
第5回 青山幹也 「鎌倉幕府将軍権力試論」 はじめに 1章  
第6回 青山幹也 「鎌倉幕府将軍権力試論」 2章  
第7回 青山幹也 「鎌倉幕府将軍権力試論」 3章 むすびにかえて  
第8回 近藤誠一 「本領安堵と当知行安堵」 はじめに 1章  
第9回 近藤誠一 「本領安堵と当知行安堵」 2章 3章  
第10回 近藤誠一 「本領安堵と当知行安堵」 4章 おわりに  
第11回 設楽薫 「将軍足利義教の『御前沙汰』体制と管領」 はじめに 1章 2章  
第12回 設楽薫 「将軍足利義教の『御前沙汰』体制と管領」 3章 4章 5章  
第13回 設楽薫 「将軍足利義教の『御前沙汰』体制と管領」 6章 7章  
第14回 中世の研究史について  
第15回 まとめ  
第16回 ガイダンス 九条兼実と『玉葉』  
第17回 『玉葉』 寿永3年正月26・27日  
第18回 『玉葉』 寿永3年正月28日  
第19回 『玉葉』 寿永3年正月28日  
第20回 『玉葉』 寿永3年正月29日  
第21回 『玉葉』 寿永3年2月1日  
第22回 『玉葉』 寿永3年2月2日  
第23回 『玉葉』 寿永3年2月2日  
第24回 『玉葉』 寿永3年2月4・8日  
第25回 『玉葉』 寿永3年2月9日  
第26回 『玉葉』 寿永3年2月10日  
第27回 『玉葉』 寿永3年2月10・11日  
第28回 『玉葉』 寿永3年2月11日  
第29回 『玉葉』 寿永3年2月19日  
第30回 まとめ

### 成績評価の方法

発表40%、レポート60%

### 教科書

- 『展望日本歴史9』（東京堂出版、2001）  
『展望日本歴史10』（東京堂出版、2008）  
『展望日本歴史11』（東京堂出版、2008）  
『玉葉9』（明治書院、2015）

31341

## 日本史演習 B-b

担当教員：松本 あづさ

4単位 通年

### サブタイトル

近世史料と近世史研究の世界

### 授業のねらい

前期は、近世史料の文体を基礎から学びます。後期は、研究論文の検索方法と読み方を学びながら、先行研究の世界に理解を深めます。史料と論文は、日本史の論文を書くために欠かせない要素です。日本史で卒論を書こうとする方が、それぞれ興味のある分野で卒論を書けるよう準備をすることが、この演習の目的です。

### 到達目標

1. 近世史料の文体を習得すること。
2. 近世史研究に関する論文を読む力を身につけること。
3. 自らが興味を持つテーマに関する史料や論文を、独力で収集できるようになること。
4. 自らの発表テーマを論理的に発表し、他者の発表についても積極的に参加することで、新たな知見を得ようとする事。

### 授業方法

- ・前後期ともに受講者による発表形式で進めますが、最初の数回は講義形式で史料や論文を読むために必要な知識の共有をはかります。
- ・前後期ともに、3年生は卒論のテーマに関わる内容で発表します。前期は卒論に関わる史料、後期は卒論に関わる先行研究についてです。2年生は、こちらから指定した史料や論文について発表します。前期は蝦夷地関連史料、後期はいくつかの分野に関する先行研究についてです。ただし、後期の発表に用いる論文は、受講者の希望を汲みながら決定します。
- ・前後期ともに、事前にテキストを読み、授業後にテキストの内容について復習することが求められます（それぞれ1時間程度）。
- ・前後期の小テストおよびレポートは、添削したうえで返却します。

### 授業計画

- 第1回 歴史研究と史料について
- 第2回 近世史料の読み方(1)：異体字・変体仮名
- 第3回 近世史料の読み方(2)：候文
- 第4回 近世史料の読み方(3)：返読文字
- 第5回 3年生による発表(1)：卒論に関わる史料
- 第6回 3年生による発表(2)：卒論に関わる史料
- 第7回 3年生による発表(3)：卒論に関わる史料
- 第8回 3年生による発表(4)：卒論に関わる史料
- 第9回 3年生による発表(5)：卒論に関わる史料
- 第10回 2年生による発表(1)：蝦夷地関連の史料
- 第11回 2年生による発表(2)：蝦夷地関連の史料
- 第12回 2年生による発表(3)：蝦夷地関連の史料
- 第13回 2年生による発表(4)：蝦夷地関連の史料
- 第14回 2年生による発表(5)：蝦夷地関連の史料
- 第15回 札幌近郊の史跡を歩く
- 第16回 前期のレポートについて
- 第17回 図書館見学（主な学術雑誌の確認、論文の検索方法）
- 第18回 論文の基本構成について
- 第19回 札幌近郊の史跡を歩く
- 第20回 3年生による発表(1)：卒論に関わる先行研究
- 第21回 3年生による発表(2)：卒論に関わる先行研究
- 第22回 3年生による発表(3)：卒論に関わる先行研究
- 第23回 3年生による発表(4)：卒論に関わる先行研究
- 第24回 3年生による発表(5)：卒論に関わる先行研究
- 第25回 2年生による発表(1)：幕政史
- 第26回 2年生による発表(2)：藩政史
- 第27回 2年生による発表(3)：対外関係史

- 第28回 2年生による発表(4)：北方史
- 第29回 2年生による発表(5)：女性史
- 第30回 卒論に向けて

### 成績評価の方法

発表・発言を含めた授業への取り組み（50%）、前後期のレポート（40%）、前期の小テスト（10%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

前後期ともに、報告回以外にもテキストを読んで参加することが履修条件です。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

前後期ともに、史料や論文はコピーを配付します。

### 参考書

児玉幸多・佐々木潤之助編『新版 史料による日本の歩み 近世編』（吉川弘文館、1996、ISBN：978-4642011167）  
 歴史学研究会編『日本史史料[3] 近世』（岩波書店、2006、ISBN：978-4000261388）  
 木村茂光・樋口州男編『新編 史料でたどる日本史事典』（東京堂出版、2012、ISBN：978-4490108194）

2017年度以前入学生  
専文化総合学  
門科  
目  
目  
録

31621

## 哲学演習 A-b

担当教員：杉内 峰彦

4単位 通年

### サブタイトル

形而上学と論理

### 授業のねらい

「存在」と「私」について考える。

### 到達目標

哲学の根本問題が身近なものになる。

### 授業方法

初回と最終回以外は担当者のレポート発表を中心とするディスカッション形式。

### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 I ものとは何か？  
狭義の「もの」と広義の「もの」
- 第3回 「実体論」vs「束理論」伝統的ヴァージョン1
- 第4回 同 2
- 第5回 その今日的ヴァージョン1
- 第6回 同 2
- 第7回 同 3
- 第8回 思考の空間と「もの」の名前1
- 第9回 同 2
- 第10回 II 存在とは何か？  
非存在のパラドックス1
- 第11回 同 2
- 第12回 同 3
- 第13回 名前から存在へ1
- 第14回 同 2
- 第15回 同 3
- 第16回 復習と展望
- 第17回 第一階述語 vs 第二階述語1
- 第18回 同 2
- 第19回 同 3
- 第20回 III 同一性とは何か？  
同一性のパラドックス1
- 第21回 同 2
- 第22回 同 3
- 第23回 同一性と内包性1
- 第24回 同 2
- 第25回 IV 私が思考するとき、何が生じているのか？  
私は考える1
- 第26回 同 2
- 第27回 「私は……」1
- 第28回 同 2
- 第29回 同 3
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

レポート(50%)、授業への参加状況(50%)によって評価する。

### 履修にあたっての注意

担当者は、事前に担当箇所の要旨・疑問・異論についてのレポートを作成する。

### 教科書

三上真司『もの・言葉・思考－形而上学と論理－』（東信堂、2007、ISBN：978-4887137240）

### 教科書・参考書に関する備考

必ず購入すること。担当者が当たるべき参考文献はその都度指示する。

31641

## 哲学演習 B-b

担当教員：勝西 良典

4 単位 通年

### サブタイトル

戦争の倫理学

### 授業のねらい

「正しい戦争はあるのか」という問題について西洋思想においてどのような回答が試みられてきたのかを知り、現在でもどこかで行われている戦争についてどう対処すべきかを考える。基本的に原典の日本語訳をテキストとする。

### 到達目標

1. テキストを読んで理解する力を身につける。
2. 戦争にかんする倫理的分析ができるようになる。

### 授業方法

担当者がテキストの内容報告とコメントを行った後、全員でディスカッションを行う。

【事前学習】：テキストの意味内容を十分に検討し、わからないところや疑問点を挙げておく。(90~120分)

【事後学習】：中間レポートや期末レポートのテーマを絞りながら、これに即して各思想家の考えを整理して理解する。(60~90分)

【フィードバック】：朱入れたレポートの返却ないし必要に応じた面談等によって行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2回 プラトン(1)：『アルキピアデス I』、『ラケス』
- 第3回 プラトン(2)：『国家』、『法律』
- 第4回 アリストテレス(1)：『ニコマコス倫理学』
- 第5回 アリストテレス(2)：『政治学』、『弁論術』
- 第6回 アウグスティヌス(1)：しほしほ正しい戦争の理論を説く者
- 第7回 アウグスティヌス(2)：武力行使の基準／宗教に奉ずる武力
- 第8回 トマス・アキナス(1)：平和について
- 第9回 トマス・アキナス(2)：戦争について
- 第10回 トマス・アキナス(3)：闘争・内乱について／戦術(的思慮)／戦場での勇氣
- 第11回 トマス・アキナス(4)：私的な自己防衛／聖戦／暴君殺し
- 第12回 マキャヴェッリ
- 第13回 グロティウス(1)：『戦争と平和の法』プロレゴメナ～第1巻第1章
- 第14回 グロティウス(2)：『戦争と平和の法』第1巻第2章～第5章
- 第15回 グロティウス(3)：『戦争と平和の法』第2巻第1章、第20章
- 第16回 グロティウス(4)：『戦争と平和の法』第2巻第22章～第25章
- 第17回 グロティウス(5)：『戦争と平和の法』第2巻第26章、第3巻第1章、第3章
- 第18回 グロティウス(6)：『戦争と平和の法』第3巻第4章、第10章～第12章、第20章、第25章
- 第19回 ホッブズ
- 第20回 ロック
- 第21回 ルソー(1)：『戦争状態は社会状態から生まれるということ』
- 第22回 ルソー(2)：『サン=ピエール師の永久平和論抜粋』、『[サン=ピエール師の]永久平和論批判』
- 第23回 カント(1)：『永遠平和のために』
- 第24回 カント(2)：『人倫の形而上学』
- 第25回 ヘーゲル
- 第26回 クラウゼヴィッツ
- 第27回 ミル

- 第28回 アンスコム／ロールズ
- 第29回 ウォルツァー
- 第30回 ネーゲル

### 成績評価の方法

前期レポート 試験 (35%)、後期レポート 試験 (35%)、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー (30%)  
レポートを1本しか出さなかった場合は、たとえ満点でも単位は認定しない。

### 履修にあたっての注意

前期開講科目である「倫理学特講 c」を合わせて受講することを強く勧める。  
昨年度の「哲学演習 B-a」を受講した学生も履修し単位を取得することができる。  
授業計画はあくまで予定であり、受講生の理解等によって内容や進度などを変更する場合もある。

### 教科書

Gregory M. Reichberg, Henrik Syse, Endre Begby, *The Ethics of War: Classic and Contemporary Readings* (Blackwell Publishing, 2006, ISBN : 978-1405123785)

### 教科書・参考書に関する備考

テキストについては、上述の教科書を日本語に翻訳したものをプリントとして配布する。  
参考書にかんしては、最初にまとまった量を、その後は適宜紹介する。

2017年度以前入学生  
専文化  
門総  
科合  
学  
目科



## サブタイトル

アダムとエバへの憧憬：西洋中世の系譜学

## 授業のねらい

『旧約聖書』冒頭に収められている「アダムとエバの原罪」の物語は、西洋の文学や絵画、建築など様々な領域におけるインスピレーションの源泉として重要な役割を果たしてきた。ミケランジェロによるシステーナ礼拝堂の天上画やミルトンの『失樂園』など、その例は枚挙に暇がない。そして、アダムとエバの物語に対する関心は中世の神学者らにおいても同様であり、彼らはアダムとエバの犯した罪や原罪による人間本性の腐敗といった事柄を考察することで人間という存在を見定めようとすると共に、人間が原罪を持つに至る以前の「無垢な人間の状態」を彼らの内に見ようとしている。

本年度のキリスト教学演習では、そうした「アダムとエバの原罪」をテーマとし、中世のキリスト教神学者らが原罪という罪や原罪を犯す以前のアダムとエバの状態に関してどのような視線を向け、人間の理想的状態についてどのように考えていたのかを見ていく。特に、アウグスティヌスとボナヴェントゥラという二人の神学者に焦点を当てる予定であるが、時間に余裕があれば、トマス・アクィナスの『神学大全』（1、qq.94-97）もあわせて見ていく。

## 到達目標

- ・キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- ・テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- ・討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- ・卒業論文に繋がる自身の研究課題を見つけること。

## 授業方法

前期・後期の授業をそれぞれ前半部と後半部に分け、前半部において共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。また、後半部においては、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のあるテーマを選択した上で、研究発表を行う。

## 授業計画

- 第1回 イントロダクション：授業の方法と計画の説明、研究倫理について
- 第2回 アダムとエバへの憧憬：アウグスティヌスと『創世記』への絶えざる関心
- 第3回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の全体構造の確認、および講読と討論（XI、C. 1-5）
- 第4回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 6-11）
- 第5回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 12-18）
- 第6回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 19-23）
- 第7回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 24-28）
- 第8回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 29-33）
- 第9回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 34-38）
- 第10回 アウグスティヌス『創世記逐語注解』の講読と討論（XI、C. 39-42）
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)例：ボナヴェントゥラ『大伝記』におけるフランシスコ
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)例：ヨナスにおけるホロコーストと神義論
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)例：イスラームにおける機械的原因論
- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)例：イグナティウス・

ロヨラ『霊操』とキリスト教的霊性

- 第15回 授業全体の概括と今後の展望
- 第16回 イントロダクション：アウグスティヌスからボナヴェントゥラへ
- 第17回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』の全体構造の確認、および講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第18回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 4-6）
- 第19回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第20回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-12）
- 第21回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 3, C. 4-6）
- 第22回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 7-9）
- 第23回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 10-11）
- 第24回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第25回 ボナヴェントゥラ『神学綱要』講読と討論（p. 2, C. 1-3）
- 第26回 受講生による研究発表と討論(1)例：ゴシック建築における光の神性
- 第27回 受講生による研究発表と討論(2)例：アンセルムスと神の存在論証
- 第28回 受講生による研究発表と討論(3)例：イエスとラビのたとえの比較的考察
- 第29回 受講生による研究発表と討論(4)例：スペインのインディアス占領とその正当化
- 第30回 授業全体の概括と今後の展望

## 成績評価の方法

授業への積極的参加（50%）、レポート試験（50%）を総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、原典テキスト（ギリシア語・ラテン語）やその近代語訳を参照する。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する場合がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。
- ・一回の授業につき、一度以上の主体的な発言（質問・意見など）をすることが望ましい。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

本講義において使用するテキストは、コピーやプリントを配布する

## 参考書

アウグスティヌス『創世記逐語注解』（九州大学出版会、1995年、ISBN：87378-423-9）  
ボナヴェントゥラ『神学綱要』（エンデルレ書店、1991年、ISBN：4-7544-0239-1）  
内山勝利（編）『西洋哲学史[古代・中世編]』（ミネルヴァ書房、1996年、ISBN：4-623-02663-9）  
戸田山和久『論文の教室－レポートから卒論まで－』（日本放送出版協会、2002年、ISBN：978-4-14-091194-5）  
山内志朗『ざりざり合格への論文マニュアル』（平凡社、2001年、ISBN：978-4582851038）

35100

## 卒業研究演習

担当教員：伊藤 明美

4単位 通年

### サブタイトル

研究論文を書く

### 授業のねらい

専門領域（異文化コミュニケーション）に関わる十分な知識と卒業論文執筆のために必要とされるアカデミックライティングのスキルならびに説得的なプレゼンテーション能力を身につける

### 到達目標

1. 研究テーマの設定ならびに研究計画を立てることができる
2. 研究テーマに基づく先行研究を論理的に整理することができる
3. インタビューや質問紙調査のためのいくつかの分析手法を身につける。

### 授業方法

講義と学生による研究報告・ディスカッション

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス 研究倫理について  
 第2回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(1)  
 第3回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(2)  
 第4回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(3)  
 第5回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(4)  
 第6回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(5)  
 第7回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(6)  
 第8回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(7)  
 第9回 第2回～第11回までは先行研究の整理と報告(8)  
 第10回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(9)  
 第11回 第2回～第11回までは学生による先行研究の整理と報告(10)  
 第12回 インタビュー調査の方法  
 第13回 インタビュー調査の実際①  
 第14回 インタビュー調査の実際②  
 第15回 インタビュー調査の実際③  
 第16回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(1)  
 第17回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(2)  
 第18回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(3)  
 第19回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(4)  
 第20回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(5)

- 第21回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(6)  
 第22回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(7)  
 第23回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(8)  
 第24回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(9)  
 第25回 第16回～第25回は夏季休暇中に集中講義（中間報告会）でカバーする。  
 具体的には（インタビュー・アンケート）調査の結果と考察部分の発表(10)  
 第26回 要旨の書き方 ①  
 第27回 要旨の書き方 ②  
 第28回 口述試験準備①  
 第29回 口述試験準備②  
 第30回 総括

### 成績評価の方法

授業参加状況：30%  
研究報告内容の質：70%

### 履修にあたっての注意

- ・履修登録にあたっては、外国語と文化論の履修条件を満たしていること
- ・就職活動等による欠席は公欠ではないことを認識すること

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

必要な資料は直接授業で配布する。

35101

## 卒業研究演習

担当教員：野手 修

4単位 通年

### サブタイトル

卒業論文を書くために

### 授業のねらい

卒論研究の前提となる問題提起、仮説、先行研究研究、文献調査を個人個人のテーマにあわせすすめ、卒業論文を書き上げる。

### 到達目標

学術論文の意義を理解し、批判的に文献を読めるようになる。自らの研究を客観的な観点から分析し、評価ができるようになる。

### 授業方法

関心のあるテーマについて問題をしぼり、論文としての形を作り上げるために必要な作業をすすめます。

### 授業計画

- 第1回 導入
- 第2回 文献リストの作成1
- 第3回 文献リストの作成2
- 第4回 問題のたて方について：先行研究の検証
- 第5回 問題のたて方について：研究倫理とオリジナリティーについて
- 第6回 関連の文献調査1
- 第7回 関連の文献調査2
- 第8回 仮説をたてる1
- 第9回 仮説をたてる2
- 第10回 仮説をたてる3
- 第11回 卒論の骨子1
- 第12回 卒論の骨子2
- 第13回 仮説、研究計画1
- 第14回 仮説、研究計画2
- 第15回 仮説、研究計画3
- 第16回 打ち合わせ
- 第17回 調査結果の検証1
- 第18回 調査結果の検証2
- 第19回 論文の下書き1
- 第20回 論文の下書き2
- 第21回 論文の下書き3
- 第22回 論文の下書き4
- 第23回 書き上げ1
- 第24回 書き上げ2
- 第25回 書き上げ3
- 第26回 口頭諮問のための準備1
- 第27回 口頭諮問のための準備2
- 第28回 2・3年ゼミでの発表(1)
- 第29回 2・3年ゼミでの発表(2)
- 第30回 まとめ

### 成績評価の方法

発表およびレポートによる。点数配分はそれぞれ50%程度とする予定。

### 履修にあたっての注意

各自のプロジェクトについて自主的に考え調査すること。

### 教科書

安藤喜久雄『わかりやすい論文レポートの書き方』（実業之日本社、2008、ISBN：978-4408591261）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：適宜指示する。

### 参考ホームページ

<http://onote.dyndns.org/seminar>

35102

## 卒業研究演習

担当教員：上原 賢司

4単位 通年

### サブタイトル

卒業論文を完成させる

### 授業のねらい

学生各自の研究テーマに沿って、卒業論文の完成に向けた指導を行う。

### 到達目標

- (1)学術的な形式に則った卒業論文を完成させる。
- (2)他者に対して理解可能な報告を行い、問題提起を発信することで、生涯にかけて意義のあるコミュニケーション力を身につける。

### 授業方法

各回で学生の研究進捗状況を報告してもらい、はじめに学生同士での質疑応答を行い、残った時間で担当教員による研究指導を行う。各自の研究の進み具合に応じて、適宜、個別指導も行っていく。

原則一回の授業で一人の報告とするが、人数や研究進捗状況に応じて随時変更する。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション——各自の研究テーマの確認と研究計画の作成
- 第2回 卒業論文執筆に向けた研究倫理の再確認
- 第3回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(1)
- 第4回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(2)
- 第5回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(3)
- 第6回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(4)
- 第7回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(5)
- 第8回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(6)
- 第9回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(7)
- 第10回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(8)
- 第11回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(9)
- 第12回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(10)
- 第13回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(11)
- 第14回 各自の研究進捗状況の発表と質疑応答(12)
- 第15回 前期授業のまとめと補足
- 第16回 夏季休業中の研究進捗状況の全体的な確認と卒業論文完成に向けたスケジュールの最終確認
- 第17回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(1)
- 第18回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(2)
- 第19回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(3)
- 第20回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(4)
- 第21回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(5)
- 第22回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(6)
- 第23回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(7)
- 第24回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(8)
- 第25回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(9)
- 第26回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(10)
- 第27回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(11)
- 第28回 各自の卒業論文草稿の発表と質疑応答(12)
- 第29回 卒業論文発表会(1)
- 第30回 卒業論文発表会(2)

### 成績評価の方法

到達目標(2)の測定として、自らの研究の適切な発表と、他の学生の発表への疑問点の提示をはじめとした演習への積極的参加(20%)。到達目標(1)の測定として、学術論文の形式的な体裁を整え、先行研究を適切に位置づけ、関連文献を正確に読み込み、自らの立てた問いへの的確な答えを提示している、卒業論文の執筆(80%)。

### 履修にあたっての注意

卒業論文を完成させる主体はあくまで自分自身であるということを知覚して、演習に臨むこと。それと同時に、他者の研究の手助けとなるべく、積極的に演習に参加するよう心がけること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

論文執筆のための参考書は、以下のもの以外にも多く出版されている。いずれでも良いので、必ず一冊は手元に用意しておいてほしい。  
各学生の研究テーマに沿った参考となる文献については、各自に適宜紹介していく。

### 参考書

石黒圭『論文・レポートの基本』(日本実業出版社、2012、ISBN: 978-4534049278)

### 参考ホームページ

卒業論文の書き方 <https://www.meiji.ac.jp/bungaku/ballc/current/papers.html> (他大学のHP内の説明だが、卒業論文執筆のための要点が抑えられているので、参考に。)



35103

## 卒業研究演習

担当教員：真鶴 俊喜

4単位 通年

### サブタイトル

卒業研究の完成・卒業論文の執筆

### 授業のねらい

各自が選んだテーマについて必要な文献、資料にあたり、読み込むこと、それらをまとめ、表現するための手助けをする。

### 到達目標

卒業研究を仕上げ、論文を完成する。

### 授業方法

各自の研究を進めるための個別指導を中心とし、その他、適宜ゼミでの報告、質疑を進める。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション 研究倫理について
- 第2回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(1)  
(以下の回、随時、個別の研究方法の指導や添削指導として行うことがある。)
- 第3回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(2)
- 第4回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(3)
- 第5回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(4)
- 第6回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(5)
- 第7回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(6)
- 第8回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(7)
- 第9回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(8)
- 第10回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(9)
- 第11回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(10)
- 第12回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(11)
- 第13回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(12)
- 第14回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(13)
- 第15回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(14)
- 第16回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(15)
- 第17回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(16)
- 第18回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(17)
- 第19回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(18)
- 第20回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(19)
- 第21回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(20)
- 第22回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(21)
- 第23回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(22)
- 第24回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(23)
- 第25回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(24)
- 第26回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(25)
- 第27回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(26)
- 第28回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(27)
- 第29回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(28)
- 第30回 各自のテーマに応じた研究指導、報告(29)

### 成績評価の方法

研究を進めるに当たっての姿勢を評価の基本とした総合評価(100%)とする。

### 履修にあたっての注意

自己の研究の(内容・形式両面についての)完成度を高めることを心がけること。

### 教科書

なし。

35104

## 卒業研究演習

担当教員：渡邊 浩

4単位 通年

### サブタイトル

ヨーロッパ史をテーマに卒業論文を書く

### 授業のねらい

卒業論文の作成を通して、課題を発見し、その解決に取り組む能力を身につける。

### 到達目標

自分なりに納得のいく卒業論文を仕上げる。

### 授業方法

- ・受講者各自が計画を立て、報告とレポートを繰り返して(前期・後期あわせて7回の報告が必須)卒業論文に取り組む。
- ・毎回の報告に3~4時間の準備を要する。
- ・夏休み中に中間報告のゼミを行なう。
- ・卒業論文提出後の授業時間において、互いの卒論要旨に目を通し、修正点を指摘し合う。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス(授業の目的・方法)、研究の基礎(先行研究の検索、引用・脚注等、研究倫理について)
- 第2回 受講者による報告(1)
- 第3回 受講者による報告(2)
- 第4回 受講者による報告(3)
- 第5回 受講者による報告(4)
- 第6回 受講者による報告(5)
- 第7回 受講者による報告(6)
- 第8回 受講者による報告(7)
- 第9回 受講者による報告(8)
- 第10回 受講者による報告(9)
- 第11回 受講者による報告(10)
- 第12回 受講者による報告(11)
- 第13回 受講者による報告(12)
- 第14回 受講者による報告(13)
- 第15回 受講者による報告(14)
- 第16回 受講者による報告(15)
- 第17回 受講者による報告(16)
- 第18回 受講者による報告(17)
- 第19回 受講者による報告(18)
- 第20回 受講者による報告(19)
- 第21回 受講者による報告(20)
- 第22回 受講者による報告(21)
- 第23回 受講者による報告(22)
- 第24回 受講者による報告(23)
- 第25回 受講者による報告(24)
- 第26回 受講者による報告(25)
- 第27回 受講者による報告(26)
- 第28回 受講者による報告(27)
- 第29回 卒業論文発表会(1)
- 第30回 卒業論文発表会(2)

### 成績評価の方法

授業での報告(70%)と発言・質問等(30%)により評価する。

### 履修にあたっての注意

自分の研究発表に取り組むだけでなく、他の受講者の発表において積極的に質問すること。  
前期、後期とも3回以上の発表を行うこと。

### 教科書

なし

### 参考書

歴史科学協議会編『卒業論文を書く：テーマ設定と史料の扱い方』(山川出版社、1997、ISBN：978-4634604506)



35105

## 卒業研究演習

担当教員：石田 晴男

4単位 通年

### サブタイトル

卒論を書く

### 授業のねらい

段階を踏んで卒業論文を完成させていく。

### 到達目標

卒業論文を完成させる。

### 授業方法

各自の発表

### 授業計画

第1回	ガイダンス	卒業論文作成の手順
第2回	卒論のテーマと研究史	1回目
第3回	卒論のテーマと研究史	2回目
第4回	卒論のテーマと研究史	3回目
第5回	関連する先行論文を読む	1回目
第6回	関連する先行論文を読む	2回目
第7回	関連する先行論文を読む	3回目
第8回	関連する先行論文を読む	1回目
第9回	関連する先行論文を読む	2回目
第10回	関連する先行論文を読む	3回目
第11回	先行研究の整理	1回目
第12回	先行研究の整理	2回目
第13回	先行研究の整理	3回目
第14回	関係史料を探す	1回目
第15回	関係史料を探す	2回目
第16回	関係史料を探す	3回目
第17回	構想発表	1回目
第18回	構想発表	2回目
第19回	構想発表	3回目
第20回	構成を考える	1回目
第21回	構成を考える	2回目
第22回	構成を考える	3回目
第23回	史料を読む	1回目
第24回	史料を読む	2回目
第25回	史料を読む	3回目
第26回	論旨を整える	1回目
第27回	論旨を整える	2回目
第28回	論旨を整える	3回目
第29回	要旨を検討する	
第30回	卒論発表	

### 成績評価の方法

発表（70%）、発言・質問（30%）

### 履修にあたっての注意

就活にかこつけてサボらないこと。

### 教科書

文化総合学科『卒業研究論文・要旨集』（2016）

35106

## 卒業研究演習

担当教員：松本 あづさ

4単位 通年

### サブタイトル

日本近世史の論文を書く

### 授業のねらい

日本近世史で論文を書くために必要な知識（先行研究と史料の探し方、論文の書き方）を身につけながら、設定したテーマに関する考察を深め、研究論文の完成を目指します。

### 到達目標

1. 論文を書くために必要な調査方法を習得し、実践する。
2. 収集した史料・先行研究をもとに、選択したテーマに関する考察を深める。
3. 日本史の学術論文の形式にのっとり、自らの研究論文を完成させる。

### 授業方法

- ・前後期2回ずつレジュメ発表を行います。
- ・前期の発表は先行研究整理と主要な史料の内容について（各1回）、後期の発表は執筆している卒論の中間報告（2回）。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：論文の構成について
- 第2回 日本史で論文を書くために(1)：研究倫理の確認
- 第3回 日本史で論文を書くために(2)：先行研究の収集・整理
- 第4回 日本史で論文を書くために(3)：史料調査
- 第5回 先行研究整理とテーマ検討(1)
- 第6回 先行研究整理とテーマ検討(2)
- 第7回 先行研究整理とテーマ検討(3)
- 第8回 先行研究整理とテーマ検討(4)
- 第9回 先行研究整理とテーマ検討(5)
- 第10回 テーマに関する主要史料について(1)
- 第11回 テーマに関する主要史料について(2)
- 第12回 テーマに関する主要史料について(3)
- 第13回 テーマに関する主要史料について(4)
- 第14回 テーマに関する主要史料について(5)
- 第15回 夏休みの研究計画
- 第16回 夏休みの成果発表(1)
- 第17回 夏休みの成果発表(2)
- 第18回 夏休みの成果発表(3)
- 第19回 卒業論文の中間発表(1)
- 第20回 卒業論文の中間発表(2)
- 第21回 卒業論文の中間発表(3)
- 第22回 卒業論文の中間発表(4)
- 第23回 卒業論文の中間発表(5)
- 第24回 卒業論文の中間発表・2回目(1)
- 第25回 卒業論文の中間発表・2回目(2)
- 第26回 卒業論文の中間発表・2回目(3)
- 第27回 卒業論文の中間発表・2回目(4)
- 第28回 卒業論文の中間発表・2回目(5)
- 第29回 卒業論文発表会(1)
- 第30回 卒業論文発表会(2)

### 成績評価の方法

中間発表（70%）、授業への参加状況（30%）により評価します。中間発表の内容は、レジュメだけではなく、準備段階における文献調査の取り組みも加味したうえで判断します。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

『史学雑誌』の「回顧と展望」（例年5月号掲載）など、文献探索の一助となる資料については、前期3回目の授業で確認する。

35107

## 卒業研究演習

担当教員：杉内 峰彦

4単位 通年

### サブタイトル

卒論の作成

### 授業のねらい

4年間で学んだことと自分の最も関心のあるテーマとを有機的に結びつける。

### 到達目標

卒論を仕上げる。

### 授業方法

前期は、各自のテーマの関連文献を読んでの発表とディスカッション及び論文作成時のルールについて。

後期は、卒論草稿に基づく個別指導。

### 授業計画

- 第1回 論文作成時のルール1
- 第2回 各自のテーマに応じた発表1
- 第3回 各自のテーマに応じた発表2
- 第4回 各自のテーマに応じた発表3
- 第5回 各自のテーマに応じた発表4
- 第6回 各自のテーマに応じた発表5
- 第7回 各自のテーマに応じた発表6
- 第8回 各自のテーマに応じた発表7
- 第9回 各自のテーマに応じた発表8
- 第10回 各自のテーマに応じた発表9
- 第11回 各自のテーマに応じた発表10
- 第12回 各自のテーマに応じた発表11
- 第13回 各自のテーマに応じた発表12
- 第14回 論文作成時のルール2（研究倫理について1）
- 第15回 論文作成時のルール3（研究倫理について2）
- 第16回 個別指導1
- 第17回 個別指導2
- 第18回 個別指導3
- 第19回 個別指導4
- 第20回 個別指導5
- 第21回 個別指導6
- 第22回 個別指導7
- 第23回 個別指導8
- 第24回 個別指導9
- 第25回 個別指導10
- 第26回 個別指導11
- 第27回 個別指導12
- 第28回 個別指導13
- 第29回 個別指導14
- 第30回 個別指導15

### 成績評価の方法

ゼミでの発表（50%）、授業への参加状況（50%）によって評価する。

### 履修にあたっての注意

各自、指示された文献を必ず読んでおくこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

その都度指示する。

## サブタイトル

卒業研究論文の作成

## 授業のねらい

大学での学習・研究の集大成として卒業研究論文を書く。

## 到達目標

卒業研究論文の完成。

## 授業方法

前期：受講者が研究テーマに関連する文献について発表し、全員でディスカッションを行う。

後期：受講者の卒業研究論文の草稿とレジュメについて、全員で検討する。

【事前学習】(240分以上)

- ・前期：①文献を収集する。②文献を読み進める。③必要とあれば一部の文章を抜き書きした上で、自分の理解内容、疑問点や批判をノートにまとめる。④まとめたノートを下にして、論文の主要な問いを立てる。⑤その問いに答えるために必要となる議論の筋立て、すなわち論文の目次を考える。
- ・後期：①前期の①～③を引き続き行う。②目次に沿って実際に論文を書き進め、授業で検討する前に草稿を提出する。③論文を書き進めるなかで気づいたことを踏まえて、場合によっては目次を立て直す。④論文の進捗状況などを考慮して、場合によっては論文の主要な問いないし題目を変更する。
- ・論文提出後：①面接試問に向けて、自分の論文の内容を頭にたたき込み、身体にしみ込ませる。そのために、1日1回は論文本体と要旨を精読する。②論文で解決されたこととその新しさを明確にする。③論文で解決できなかった問題点を明確にする。④論文本体と要旨の誤植等を修正する。

【事後学習】(240分以上)

- ・前期：①授業での議論やアドバイスを踏まえて、自分の考えを練り直したり、新たな問題を検討する。②場合によっては論文の主要な問いを練り直す。③場合によっては目次を立て直す。
  - ・後期：草稿に入った朱や授業でのアドバイスを踏まえて、原稿を練り直す。
  - ・論文提出後：授業での議論やアドバイスを踏まえて、【事前学習】論文提出後の①～④を行う。
- ※形式的に【事前学習】と【事後学習】とに分けたが、本演習の場合は両者が有機的に結びついて展開されていくことに注意されたい。

【フィードバック】：必要に応じた面談、朱入れした原稿の返却によって行う。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーリング1：研究倫理について
- 第2回 受講生による発表とディスカッション(1)
- 第3回 受講生による発表とディスカッション(2)
- 第4回 受講生による発表とディスカッション(3)
- 第5回 受講生による発表とディスカッション(4)
- 第6回 受講生による発表とディスカッション(5)
- 第7回 受講生による発表とディスカッション(6)
- 第8回 受講生による発表とディスカッション(7)
- 第9回 受講生による発表とディスカッション(8)
- 第10回 受講生による発表とディスカッション(9)
- 第11回 受講生による発表とディスカッション(10)
- 第12回 受講生による発表とディスカッション(11)
- 第13回 受講生による発表とディスカッション(12)
- 第14回 受講生による発表とディスカッション(13)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 オリエンテーリング2
- 第17回 論文草稿の検討(1)
- 第18回 論文草稿の検討(2)

- 第19回 論文草稿の検討(3)
- 第20回 論文草稿の検討(4)
- 第21回 論文草稿の検討(5)
- 第22回 論文草稿の検討(6)
- 第23回 論文草稿の検討(7)
- 第24回 論文草稿の検討(8)
- 第25回 論文草稿の検討(9)
- 第26回 論文草稿の検討(10)
- 第27回 論文草稿の検討(11)
- 第28回 卒業研究論文発表会(1)
- 第29回 卒業研究論文発表会(2)
- 第30回 卒業研究論文発表会(3)

## 成績評価の方法

ゼミでの発表(50%)、授業への取り組み方(50%)によって評価。

## 履修にあたっての注意

一年間を通して計画的に論文作成活動をするとともに、各自指示された文献を必ず読んでおくこと。

## 教科書

戸田山和久『新版 論文の教室—レポートから卒論まで』(NHK出版、2012、ISBN：978-4140911945)

## 教科書・参考書に関する備考

上記・下記以外の読むべき文献や参考書については、適宜指示する。

## 参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』(慶應義塾大学出版会、2002、ISBN：978-4766409697)

35109

## 卒業研究演習

担当教員：実平 奈美

4単位 通年

### サブタイトル

心理学研究による卒業論文の作成

### 授業のねらい

先行研究文献のレビューやオリジナリティの高い問題提起、研究目的に応じたデータの収集・分析・考察について指導し、最終的に各自が心理学研究による卒業論文を執筆し、研究発表を行えるようになることを目的とする。

### 到達目標

文献講読、テーマおよび研究計画の設定、データの収集・分析、分析結果に基づいた考察といった一連の作業を通して、心理学領域の卒業論文を作成できること。

### 授業方法

各人が独自にテーマを設定し、論文作成を行うが、文献精読、研究計画の設定、考察等に関しては、演習時間内に担当制で発表をする形式をとり、互いの研究の完成度を高められるよう全員で議論を行う。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（スケジュールの確認、発表担当の振り分け、等）
- 第2回 テーマ検討
- 第3回 文献精読1（発表1）
- 第4回 文献精読1（発表2）
- 第5回 文献精読1（発表3）
- 第6回 文献精読2（発表1）
- 第7回 文献精読2（発表2）
- 第8回 文献精読2（発表3）
- 第9回 研究計画検討1
- 第10回 研究計画検討2
- 第11回 研究計画検討3
- 第12回 研究手法・内容検討1
- 第13回 研究手法・内容検討2
- 第14回 研究手法・内容検討3
- 第15回 進捗状況報告および今後の予定確認
- 第16回 収集データ検討1
- 第17回 収集データ検討2
- 第18回 収集データ検討3
- 第19回 分析結果・考察及び論文構成検討1
- 第20回 分析結果・考察及び論文構成検討2
- 第21回 分析結果・考察及び論文構成検討3
- 第22回 分析結果・考察及び論文構成検討4
- 第23回 論文構成検討1
- 第24回 論文構成検討2
- 第25回 論文構成検討3
- 第26回 論文構成検討4
- 第27回 論文発表会1
- 第28回 論文発表会2
- 第29回 論文発表会3
- 第30回 全体のまとめ

### 成績評価の方法

演習時間中の発表と議論（30%）、論文作成過程（30%）、完成した論文の成果（40%）によって行う。

### 履修にあたっての注意

- ・基本的に各自実証研究を行うこととする。
- ・論文を完成させるため各人が責任を持ち、授業時間外にも作業を進めること。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

各人の研究に応じて適宜資料を配布・紹介する。



c9111

## 卒業研究演習・卒業研究ゼミⅡ

担当教員：松村 良祐

4単位 通年

### サブタイトル

キリスト教思想・文化の諸問題

### 授業のねらい

「キリスト教演習」では、キリスト教に関する思想や文化を主要なテーマとし、それを研究するに当たって必要となる基本的な能力や方法を身に付けることを目的とした。「卒業研究演習」では、そうして養われた基本的な知識や研究方法をもとに、キリスト教思想や文化に関する更に深い専門的理解を獲得することを狙いとする。その際、テキスト読解と受講生による発表を中心とした演習形式の授業を通じて、個々の受講生が自分の研究課題を設定し、その課題に対する理解を深化させていくことで、大学での勉学の総仕上げとしての卒業論文の作成に繋げていく。

### 到達目標

- (1)キリスト教思想における個々の思想と論じ方の特徴を理解すること。
- (2)テキストを読解し、研究する方法を学ぶこと。
- (3)討論のマナーとプレゼンテーションの技法を身に付けること。
- (4)卒業論文の研究課題を設定し、その作成にあたること。

### 授業方法

共通のテキストを読解することで、キリスト教思想に関する知識や方法論の共有をはかる。また、それと平行して、受講生がキリスト教思想や文化において各自関心のある卒業論文のテーマを深化させ、文献表の作り方などを学ぶと共に、卒業論文のテーマにもとづいた発表と討論も行う。その際、事前学習として1～2時間ほどかけてじっくりと指定テキストを熟読しておくこと。

### 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨン：卒論執筆と研究倫理
- 第2回 テキスト読解と討論(1)
- 第3回 テキスト読解と討論(2)
- 第4回 テキスト読解と討論(3)
- 第5回 テキスト読解と討論(4)
- 第6回 テキスト読解と討論(5)
- 第7回 テキスト読解と討論(6)
- 第8回 テキスト読解と討論(7)
- 第9回 テキスト読解と討論(8)
- 第10回 テキスト読解と討論(9)
- 第11回 受講生による研究発表と討論(1)
- 第12回 受講生による研究発表と討論(2)
- 第13回 受講生による研究発表と討論(3)
- 第14回 受講生による研究発表と討論(4)
- 第15回 授業全体の概括
- 第16回 インTRODクシヨン
- 第17回 テキスト読解と討論(10)
- 第18回 テキスト読解と討論(11)
- 第19回 テキスト読解と討論(12)
- 第20回 テキスト読解と討論(13)
- 第21回 テキスト読解と討論(14)
- 第22回 テキスト読解と討論(15)
- 第23回 テキスト読解と討論(16)
- 第24回 テキスト読解と討論(17)
- 第25回 テキスト読解と討論(18)
- 第26回 受講生による研究発表と討論(5)
- 第27回 受講生による研究発表と討論(6)
- 第28回 受講生による研究発表と討論(7)
- 第29回 受講生による研究発表と討論(8)
- 第30回 授業全体の概括

### 成績評価の方法

授業への積極的参加と発表(50%)、レポート試験(50%)を総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

- ・キリスト教思想・文化という研究領域の性格上、必要に応じて、原典テキスト(ギリシア語・ラテン語)やその近代語訳を参照する必要がある。
- ・テキスト読解と研究発表の回数配分は、受講生の人数に応じて変更する必要がある。
- ・指定テキストを読み込んだ上で授業に参加することが望ましい。

### 教科書

なし

### 参考書

内山勝利(編)『西洋哲学史[古代・中世編]』(ミネルヴァ書房、1996年、ISBN:4-623-02663-9)  
 戸田山和久『論文の教室-レポートから卒論まで-』(日本放送出版協会、2002年、ISBN:978-4-14-091194-5)  
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社、2001年、ISBN:978-4582851038)

# 課程科目 履修の手引き



# 教職課程





## 教職課程（教職に関する科目など）

### 1 教育職員免許状を取得するためのカリキュラムの概要

教育職員免許状（教員免許と略すこととします）を取得するためには、学生便覧の「教職課程履修要項」に従って免許状取得に必要な単位を修得しなければなりません。ここでは、その概要を説明します。

教員免許を取得するために必要な科目は、大きく分けて4つに分かれます。

まず一つめは「施行規則 66 条の 6 に定める科目（省令科目）」と呼ばれるもので、免許の学校種・教科種に関わらず、修得しなければいけない科目です。免許法では4つに区分されており、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」となります。これに対応する科目が、大学共通科目や文化総合学科の科目として配置されています。

続いて「教科に関する科目」と呼ばれるもので、国語の教員になりたいければ国語の内容を学ばなければなりません。すなわち、学校種・教科種によってそれぞれ違いがあり、本学では各学科の「専門科目」の中に含まれています。

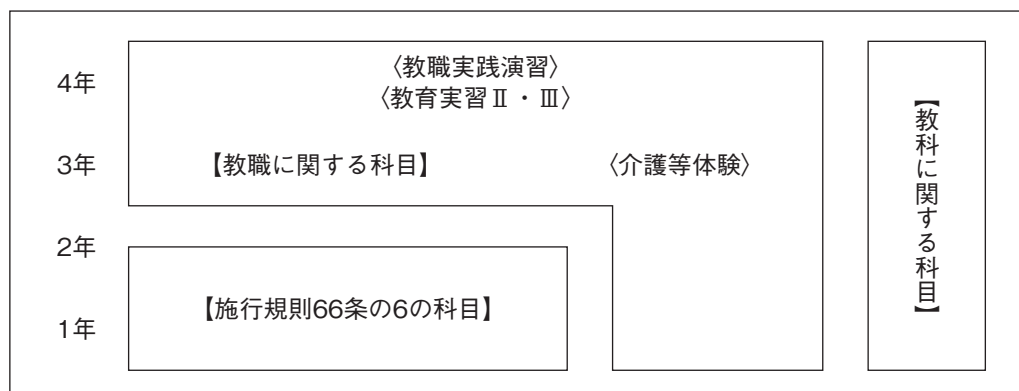
さらに「教職に関する科目」と呼ばれるものもあります。これも学校種・教科種によって若干の違いがあります。「教育とはどういうものか」「学校とはどういうものか」「児童生徒の心理はどういうものか」といった理論的な内容から、授業をどのように行えばよいかという「教科教育法」「道徳教育」、さらに、実際の学校で自らが授業を行う「教育実習」などの様々な授業があります。最終的に、4年後期にこれら大学生活で学んできたものを総括するために「教職実践演習」を修得することになります。

最後に「教科又は教職に関する科目」と呼ばれるものです。これは「教科に関する科目」と「教職に関する科目」と合わせたものとともに、「介護等体験」という科目が入ります。

また、2017年度以前入学の英語文化学科学生については、いくつかの科目がここに含まれます（それについては、『学生便覧』の「教職課程履修要項」をみて下さい）。

これら4種の科目を、1年次から4年次までに少しずつ積み上げて修得していく必要があるのです。それを図示したのが、図1となります。

【図1 教職課程 受講の流れ①】



## 2 文学部の「教科に関する科目」履修の流れ

### (1) 文学部で修得できる教育職員免許状

文学部で取得できる教育職員免許状の種類は学科ごとに違います。各学科で勉強する内容にもとづいて取得できる免許状は決まっているわけです。ですから、逆に言えば、自分の学科以外の免許状を取得することはできないということです。また、各学科で勉強する内容にもとづいているために、「教科に関する科目」は、各学科の専門科目に含みこまれる形で開講されています。よって、ここでは学科ごとに分けて説明します。

### (2) 英語文化学科

〈2018年度入学生に適用〉

英語文化学科で取得できる免許状は、中学校外国語（英語）、高等学校外国語（英語）の2種類です。中学校外国語（英語）と高等学校外国語（英語）の「教科に関する科目」はまったく同じです。従って、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。

以下の説明は2種類の免許状に共通したものです。

免許状のための科目区分は4つに分かれています。「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」です。それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこでまずその必修科目を修得しなければなりません。

以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する英語文化学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年と学期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大事です。

「英語学」は、「英語学概論 a、b」（1年～3年前・後期）です。

「英米文学」は、「英語圏文学概論 a、b」（1年～3年前・後期）です。

「英語コミュニケーション」は、「Grammar I、II」（1年前・後期）、「Oral English I a、I b、II a、II b」（2年前・後期）、「Voice & Articulation I、II」（1年前・後期）、「Strategies for Listening I、II」（2年前・後期）、「Vocabulary Building I、II」（1年前・後期）です。

「異文化理解」は、「英語圏文化概論 a、b」（1年～3年前・後期）です。

これを英語文化学科のカリキュラムからみてみます。「英語コミュニケーション」の必修科目はすべて学科必修科目です。加えて、残りの必修科目はすべて学科選択必修科目です。すなわち、免許状に必要な科目は、学科を卒業するために必要な科目でもあるのです。

これらをすべて修得すると20単位となります。「教科に関する科目」は、最低20単位以上を修得しなければならないのですが、必修科目だけで同じ数になります。必修科目以外にも選択科目が配置されています（選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）ので、積極的に履修することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて、最終的に59単位以上を修得することになります。

〈2017年度以前入学生に適用〉

英語文化学科で取得できる免許状は、中学校外国語（英語）、高等学校外国語（英語）の2種類です。中学校外国語（英語）と高等学校外国語（英語）の「教科に関する科目」はまったく同じです。従っ

て、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。

以下の説明は2種類の免許状に共通したものです。

免許状のための科目区分は4つに分かれています。「英語学」「英米文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」です。それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこでまずその必修科目を修得しなければなりません。

以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する英語文化学科の科目を書きます。科目名の後の( )内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・学期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大切です。

「英語学」は、「英語学概論 a、b」(1年～2年もしくは3年前・後期)です。

「英米文学」は、「英米文学概論 a、b」(2年～3年前・後期)、「Reading I、II」(1年前・後期)、「Reading III、IV」(2年前・後期)です。

「英語コミュニケーション」は、「Grammar I、II」「Writing I、II」(1年前・後期)、「The Art of Writing I、II」(2年前・後期)、「Oral English I、II」(1年前・後期)、「Oral English III、IV」(2年前・後期)、「Voice & Articulation I、II」(1年前・後期)、「Listening I、II」(1年前・後期)、「Academic Writing I、II」(3年前・後期)です。

「異文化理解」は、「英米文化論 a、b」(2年～4年前・後期)です。

これを英語文化学科のカリキュラムからみてみます。「英語コミュニケーション」の必修科目はすべて学科必修科目です。また、「英米文学」の必修科目の「Reading I、II」と「Reading III、IV」も学科必修科目です。さらに、残りの必修科目はすべて学科選択必修科目です。すなわち、免許状に必要な科目は、学科を卒業するために必要な科目でもあるのです。

これらをすべて修得すると30単位となります。「教科に関する科目」は最低20単位以上を修得しなければならないのですが、必修科目だけでそれを上回っています。必修科目以外にも多くの選択科目も配置されています(選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります)ので、積極的に履修することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

### (3) 日本語・日本文学科

〈2018年度入学生に適用〉

日本語・日本文学科で取得できる免許状は、中学校国語、高等学校国語、高等学校書道の3種類です。中学校国語と高等学校国語の「教科に関する科目」は重複しているものが多く、この場合、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。高等学校書道も、高等学校国語の「教科に関する科目」と重なっているものがありますが、その他に「書道」、「書道史」、「書論、書道鑑賞」をそれぞれ修得しなくてはなりません。

#### 1) 中学校国語および高等学校国語

中学校・高等学校国語は、免許を取得するための科目区分が「国語学」、「国文学」、「漢文学」に分かれており、中学校では更に「書道」があります。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。以下にそれぞれの科目区

分の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・学期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大事です。

「国語学」の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目は、「日本語学概論 a、b」（1年～2年前・後期）と「日本語表現法 A-a、b」（1年前・後期）です。

「国文学」では「日本文学概論 a、b」（1年～2年前・後期）、「漢文学」では「漢文学-a、b」（1年～2年前・後期）が、それぞれの該当必修開設授業になります。また中学校国語にのみ必修の「書道」は「書道 I」（1年～2年通年）がそれに当たります。

これらをすべて修得すると、高等学校で 16 単位、中学校で 18 単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低 20 単位以上を修得しなければならないので、高等学校の場合はあと 4 単位、中学校の場合はあと 2 単位を他の選択科目から修得しなければなりません（選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に 59 単位以上を修得することになります。

## 2) 高等学校書道

高等学校書道は、芸術という教科の中にある「書道 1、2、3」などの科目を教える免許です。免許を取得するための科目区分として、「書道」、「書道史」、「書論、書道鑑賞」、「国文学、漢文学」があります。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。繰り返しになりますが、大学の講義は開講学年・学期が決まっています。しかし、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大事です。

「書道」の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目は、「書道 I・II・III・IV」です。これらの科目については、学年進行に応じて修得してください。

「書道史」では「書道史 a、b」（1年～2年前・後期）、「書論、書道鑑賞」では「書論・鑑賞 a、b」（2年～3年前・後期）、「国文学、漢文学」では「日本文学概論 a、b」（1年～2年前・後期）または「漢文学-a、b」（1年～2年前・後期）のいずれかを、それぞれ修得しなくてはなりません。

これらをすべて修得すると 20 単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低 20 単位以上を修得しなければならないのですが、必修科目だけで同じ数になります。しかし必修科目以外にも選択科目が配置されています（選択科目の一覧は『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）ので、積極的に履習することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に 59 単位以上を修得することになります。

〈2017 年度以前入学生に適用〉

日本語・日本文学科で取得できる免許状は、中学校国語、高等学校国語、高等学校書道の 3 種類です。中学校国語と高等学校国語の「教科に関する科目」は重複しているものが多く、この場合、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。高等学校書道も、高等学校国語の「教科に関する科目」と重なっているものがありますが、その他に「書道」、「書道史」、「書論、書道鑑賞」をそれぞれ修得しなくてはなりません。



## 1) 中学校国語および高等学校国語

中学校・高等学校国語は、免許を取得するための科目区分が「国語学」、「国文学」、「漢文学」に分かれており、中学校では更に「書道」があります。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・学期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大事です。

「国語学」の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目は、「日本語学概論 a、b」（2年～4年前・後期）と「日本語表現法 A-a、b」（1年前・後期）です。

「国文学」では「日本文学概論 a、b」（2年～4年前・後期）、「漢文学」では「漢文学講義 I -a、b」（1年前・後期）が、それぞれの該当必修開設授業になります。また中学校国語にのみ必修の「書道」は「書道 I」（1年もしくは2年通年）がそれに当たります。

これらをすべて修得すると、高等学校で16単位、中学校で18単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないので、高等学校の場合はあと4単位、中学校の場合はあと2単位を他の選択科目から修得しなければなりません（選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

## 2) 高等学校書道

高等学校書道は、芸術という教科の中にある「書道1、2、3」などの科目を教える免許です。免許を取得するための科目区分として、「書道」、「書道史」、「書論、書道鑑賞」、「国文学、漢文学」があります。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。繰り返しになりますが、大学の講義は開講学年・学期が決まっています。しかし、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得することが大事です。

「書道」の必修科目に対応する日本語・日本文学科の科目は、「書道 I・II・III・IV」（1～3年もしくは2～4年通年）です。

「書道史」では「日本文化論 F-a、b」（1年～4年前・後期）、「書論、書道鑑賞」では「日本文化論 G-a、b」（1年～4年前・後期）、「国文学、漢文学」では「日本文学概論 a、b」（2年～4年前・後期）または「漢文学講義 I -a、b」（1年前・後期）のいずれかを、それぞれ修得しなくてはなりません。

これらをすべて修得すると20単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないのですが、必修科目だけで同じ数になります。しかし必修科目以外にも多くの選択科目も配置されています（選択科目の一覧は『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）ので、積極的に履修することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。



#### (4) 文化総合学科

〈2018年度入学生に適用〉

文化総合学科で取得できる免許状は、中学校社会、高等学校地歴、高等学校公民の3種類です。中学校社会と高等学校地歴の「教科に関する科目」は重複しているものが多く、また中学校社会と高等学校公民の「教科に関する科目」も同様です。この場合、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。高等学校地歴と高等学校公民の科目で重なっているものはありません。

##### 1) 中学校社会

中学校社会は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野という幅広い内容を含んでいます。そのため免許を取得するための科目区分が5つに分かれています。「日本史及び外国史」「地理学(地誌を含む)」「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、中学校社会の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の( )内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「日本史及び外国史」の必修科目に対応する文化総合学科の科目は、「日本史入門 A (概説)」「(1年後期)」、「西洋史入門」「(1年後期)」、「東洋史入門 a、b」「(1年後期)」です。「地理学(地誌を含む)」では「地理学基礎論(自然地理学を含む)」「(1年～2年後期)」、「地誌学」「(1年～3年後期)」となります。

「法律学、政治学」では「政治学(国際政治学)入門」「(1年前期)」と「国際関係論入門」「(1年後期)」を修得します。「社会学、経済学」では「社会学入門」「(1年後期)」もしくは「経済学入門」「(1年後期)」、「哲学、倫理学、宗教学」では「哲学入門」「(1年後期)」もしくは「倫理学入門」「(1年後期)」を修得すればよいこととなります。これを学年ごとにみると、ほとんどの科目は1年後期に開講されています。時間割の都合上、取得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で取得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると20単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないのですが、中学校社会の場合にはそれと同じ数になっています。しかしそれ以外に選択科目も配置されています(選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります)ので積極的に履修することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

##### 2) 高等学校地歴

高等学校地歴は、「日本史」「世界史」「地理」などの科目を教えるために必要な免許で、地理や歴史の内容を含んでいます。免許を取得するための科目区分は4つに分かれており、それは「日本史」「外国史」「人文地理学及び自然地理学」「地誌」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、高等学校地歴の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の( )内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「日本史」の必修科目に対応する文化総合学科の

科目は、「日本史入門 A (概説)」(1年後期)です。「外国史」では「西洋史入門」(1年後期)と、「東洋史入門 a、b」(1年前・後期)です。

「人文地理学及び自然地理学」では「人文地理学」(1年～2年前期)と「地理学基礎論(自然地理学を含む)」(1年～2年後期)で、「地誌」では「地誌学」(1年～3年後期)となります。

これを学年ごとにみてみます。ほとんどの科目、1年後期に開講されています。時間割の都合上、修得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で修得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると14単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないので、高等学校地歴の場合、あと6単位を選択科目の中から修得しなければなりません(選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります)。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

### 3) 高等学校公民

高等学校公民は、「政治・経済」「現代社会」「倫理」などの科目を教えるために必要な免許で、政治・経済・哲学など幅広い内容を含んでいます。免許を取得するための科目区分が3つに分かれており、それは「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学、心理学」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、高等学校公民の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の( )内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「法律学、政治学」の必修科目に対応する文化総合学科の科目は「政治学(国際政治学)入門」(1年前期)と「国際関係論入門」(1年後期)です。

「社会学、経済学」では「社会学入門」(1年後期)もしくは「経済学入門」(1年後期)、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」では「哲学入門」(1年後期)もしくは「倫理学入門」(1年後期)もしくは「心理学入門」(1年後期)を修得すればよいこととなります。これを学年ごとにみてみると、ほとんどの科目は1年後期に開講されています。時間割の都合上、修得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で修得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると8単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないのですが、高等学校公民の場合、あと12単位を選択科目の中から修得しなければなりません(選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります)。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

〈2017年度以前入学生に適用〉

文化総合学科で取得できる免許状は、中学校社会、高等学校地歴、高等学校公民の3種類です。中学校社会と高等学校地歴の「教科に関する科目」は重複しているものが多く、また中学校社会と高等学校公民の「教科に関する科目」も同様です。この場合、同一の科目を一度修得すれば、双方の免許に使うことができます。高等学校地歴と高等学校公民の科目で重なっているものではありません。

#### 1) 中学校社会

中学校社会は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野という幅広い内容を含んでいます。そのため免許を取得するための科目区分が5つに分かれています。「日本史及び外国史」「地理学(地誌を含む)」

「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、中学校社会の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「日本史及び外国史」の必修科目に対応する文化総合学科の科目は、「日本史入門 A-a、b (概説)」(1年前・後期)、「西洋史入門 a、b」(1年前・後期)、「東洋史入門 a、b」(1年前・後期)です。「地理学 (地誌を含む)」では「地理学基礎論 (自然地理学を含む)」(1年～2年後期)、「地誌学」(1年～3年後期)となります。

「法律学、政治学」では「政治学 (国際政治学) 入門」(1年前期)と「国際関係論入門」(1年後期)を修得します。「社会学、経済学」では「社会学入門 a、b」(1年前・後期)もしくは「経済学入門 a、b」(1年前・後期)、「哲学、倫理学、宗教学」では「哲学入門 a、b」(1年前・後期)もしくは「倫理学入門 a、b」(1年前・後期)を修得すればよいこととなります。「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学」の科目区分の選択必修では社会学入門 a、b もしくは経済学入門 a、b の同一科目どちらかを修得すればよいことに注意して下さい。

これを学年ごとにみてみます。ほとんどの科目、すなわち「地誌学」以外の科目は1年前・後期に開講されています。時間割の都合上、取得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で取得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると28単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないのですが、中学校社会の場合にはそれを上回っています。しかしそれ以外に選択科目も配置されています(選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります)ので積極的に履修することがのぞましいでしょう。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

## 2) 高等学校地歴

高等学校地歴は、「日本史」「世界史」「地理」などの科目を教えるために必要な免許で、地理や歴史の内容を含んでいます。免許を取得するための科目区分は4つに分かれており、それは「日本史」「外国史」「人文地理学及び自然地理学」「地誌」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、高等学校地歴の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「日本史」の必修科目に対応する文化総合学科の科目は、「日本史入門 A-a、b (概説)」(1年前・後期)です。「外国史」では「西洋史入門 a、b」(1年前・後期)と、「東洋史入門 a、b」(1年前・後期)です。

「人文地理学及び自然地理学」では「人文地理学」(1年～2年前期)と「地理学基礎論 (自然地理学を含む)」(1年～2年後期)で、「地誌」では「地誌学」(1年～3年後期)となります。

これを学年ごとにみてみます。ほとんどの科目、すなわち「地誌学」以外の科目は1年前・後期に

開講されています。時間割の都合上、修得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で修得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると18単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないので、高等学校地歴の場合、あと2単位を選択科目の中から修得しなければなりません（選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

### 3) 高等学校公民

高等学校公民は、「政治・経済」「現代社会」「倫理」などの科目を教えるために必要な免許で、政治・経済・哲学など幅広い内容を含んでいます。免許を取得するための科目区分が3つに分かれており、それは「法律学、政治学」「社会学、経済学」「哲学、倫理学、宗教学、心理学」です。

それぞれの科目区分には必ず取らなければならない必修科目があります。そこで、高等学校公民の免許を取得したいものは、まずその必修科目を修得しなければなりません。以下にそれぞれの科目区分の必修科目に対応する文化総合学科の科目を書きます。科目名の後の（ ）内は開講学年と開講学期です。大学の講義は開講学年・時期が決まっていますが、その上位の学年でも修得することができます。しかしなるべく早めに修得するが大事です。「法律学、政治学」の必修科目に対応する文化総合学科の科目は「政治学（国際政治学）入門」（1年前期）と「国際関係論入門」（1年後期）です。

「社会学、経済学」では「社会学入門 a、b」（1年前・後期）もしくは「経済学入門 a、b」（1年前・後期）、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」では「哲学入門 a、b」（1年前・後期）もしくは「倫理学入門 a、b」（1年前・後期）もしくは「心理学入門 a、b」（1年前・後期）を修得すればよいことになります。

これを学年ごとにみてみます。ほとんどの科目、すなわち「地誌学」以外の科目は1年前・後期に開講されています。時間割の都合上、修得できない場合をのぞき、なるべく当該学年で修得した方がよいでしょう。

これらをすべて修得すると12単位となります。「教科に関する科目」は免許ごとに最低20単位以上を修得しなければならないのですが、高等学校公民の場合、あと8単位を選択科目の中から修得しなければなりません（選択科目の一覧は、『学生便覧』の「教職課程履修要項」にあります）。そのうえで、「教職に関する科目」などとあわせて最終的に59単位以上を修得することになります。

## 3 文学部の「教職に関する科目」履修の流れ

続いて、文学部の「教職に関する科目」の1年次から4年次までの開設の配置状況をみてみます。これは、学生が履修していく流れ（モデル）ともなっています。

### （1年次）

前期の「教師論」が入門科目として配置されています。「教師とは」ということを中心に学びます。後期には「教育課程研究」があり、「学校で教えるとは」「カリキュラムとは何か」といった点について大まかに学びます。

### （2年次）

「教育原理」「教育制度論」「教育心理学Ⅰ・Ⅱ」といった理論系の科目が配置されています。1年



次よりも学問的に教育について考察します。また一方で、いくつかの教科（国語・社会）について教科教育法が置かれており、教科の意義や位置づけ、その教育方法について学びます。

### （3年次）

「道德教育」「特別活動」や、具体的な教育指導に関する「生徒指導」「教育相談」といった科目を学びます。いくつかの教科（英語、書道、地歴、公民）については、教科教育法が置かれています。また、前期に「教育方法論」が配置されており、教育実習事前指導の前段階の内容を学びます。後期には事前指導である「教育実習ⅠA」があります。中学校免許取得希望者は「介護等体験」を実施します。

### （4年次）

事前指導である「教育実習ⅠB」が通年で配置されています（ただしほとんどの授業は前期にあります）。多くの学生が5～6月に教育実習を行いますので、その直前の指導となります。また教育実習から帰ってきて以降は、事後指導の時間ともなります。後期には、教職課程の総仕上げとして「教職実践演習」があり、4年間の学習を振り返ることになります。

以上をまとめると次のような図2となります。



【図2 教職課程 受講の流れ②】

学年	開講時期	開講科目			
4年	後期		教職実践演習		
	前期	教育実習 I B			教育実習 II・III
3年	後期	教育相談	道徳教育	教育実習 I A	教科教育法
	前期	教育方法論	特別活動	生徒指導	
2年	後期	教育制度論	教育心理学 II		
	前期	教育原理	教育心理学 I		
1年	後期	教育課程研究			
	前期	教師論			

#### 4 卒業要件との関係

「教職に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」に含まれる「介護等体験」は、免許状取得のために開設されている科目のため、本来は卒業要件とは関係ありません。しかし、各学科には「自由選択単位」がありますので、以下の指定された科目のうち、8単位までは卒業要件単位に算入できます。

卒業要件として算入できる単位は、以下の科目のうち、8単位までです。

教師論	書道科教育法 II
教育原理	社会科系教育法 I
教育心理学 I	社会科系教育法 II
教育心理学 II	地歴科教育法
教育制度論	公民科教育法
教育課程研究	道徳教育
英語科教育法 I	特別活動
英語科教育法 II	教育方法論
国語科教育法	生徒指導
書道科教育法 I	教育相談

※ 教職実践演習、教育実習 I A・I B・II・III、介護等体験は認められない。



# 図書館情報学課程



## 図書館情報学課程

本学図書館情報学課程は、図書館情報学を学び図書館の専門的業務に従事する「司書」または「司書教諭」となる資格を取得するのに必要な単位を修得するために開設された課程です。

### 〈司書に関する科目について〉

#### 1. 資格の取得

司書に関する授業科目 25 単位以上を履修した学生には卒業時に図書館情報学課程の修了書が授与されます。

#### 2. 授業科目

- ・ 授業科目は、必修科目と選択科目に分かれています。
- ・ 必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・ 選択科目は「図書館に関する科目」の中から 2 科目 2 単位を必ず履修しなければなりません。更に「図書館に関する科目」、「コミュニケーションに関する科目」、「資料に関する科目」の中から、1 科目 1 単位以上を履修しなければなりません。

#### 3. 選択科目の読み替え科目について

学部、学科の専門科目で学ぶ知識を司書業務でも活用できるようにすること、また、履修単位の負担を軽減することを目的としています。(読み替え科目については、学生便覧に記載された図書館情報学課程の説明を参照してください。)

- ・ 学科科目のうち(1)資料や出版流通を扱うもの、(2)コミュニケーションに関わるものとして図書館情報学課程科目の内容にふさわしいものが読み替えられています。
- ・ 読み替え科目は、他学部（場合によっては他学科）の学生は履修できないものもありますので注意してください。
- ・ 読み替え科目は、図書館情報学課程の単位としても、また学科科目の単位としてもカウントされます。

#### 4. 単位を取り残した場合

この課程の履修資格は本学在学中に限ります。したがって卒業時に本課程の単位を修了できなかった者は履修資格を失いますので注意してください。ただし、留年者で本課程を修了していない受講者は履修の継続が可能です。なお、取得できなかった科目は本課程の当該科目又は他大学の相当科目の科目等履習によって単位取得が可能です。

### 〈司書教諭に関する科目について〉

#### 1. 資格の取得

司書教諭に関する授業科目 10 単位以上を履修した学生には卒業時に図書館情報学課程の修了書が



授与されます。

## 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目と履修可能な司書に関する科目に分かれています。
- ・必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・司書に関する科目はすべて任意に履修可能となっており、図書館に関する幅広い知識を得ることができます。

## 3. 単位を取り残した場合

この課程の履修資格は本学在学中に限ります。したがって卒業時に本課程の単位を修了できなかった者は履修資格を失いますので注意してください。ただし、留年者で本課程を修了していない受講者は履修の継続が可能です。なお、取得できなかった科目は本課程の当該科目又は他大学の相当科目の科目等履習によって単位取得が可能です。

### 〈学校司書に関する科目について〉

#### 1. 学校司書となるスキルの認定

「司書」または「司書教諭」となる資格を修得する予定の学生のみ、加えて学校司書に関する科目を受講し、課程修了時にスキルのあることの認定を受けられます。認定を受けるには学校司書に関する授業科目 20 単位を履修してください。

#### 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目のみです。
- ・別表に従い全て受講してください。

#### 3. 単位を取り残した場合

この課程科目の履修は本学在学中に限ります。したがって卒業時に本課程の単位を修了できなかった場合には認定を受けられませんので注意してください。

# 日本語教員養成課程



## 日本語教員養成課程

文学部日本語教員養成課程は、日本語を母語としない人たちに対して日本語を教えるために必要とされる内容の科目における単位修得をめざす課程です。

### 1. 修了書

日本語教員養成に関する授業科目 34 単位以上（必修 14 単位、選択必修 20 単位以上）を履修した学生には卒業時に日本語教員養成課程の修了書が授与されます。

### 2. 授業科目

- ・授業科目は、必修科目と選択科目に分かれています。
- ・必修科目はすべて履修しなければなりません。
- ・必修科目の日本語教授法 I を履修しなければ、日本語教授法 II、III および IV は履修できません。
- ・選択科目は、5 つにわけられた区分にある科目群から、指定された単位数を履修しなければなりません。

### 3. 選択科目の読み替え科目について

課程独自の科目を履修することが望ましいが、履修単位の負担を軽減するために、読み替え科目を設置しています。（読み替え科目については、学生便覧に記載された日本語教員養成課程の説明を参照してください。）

- ・学科科目のうち「言語」、「言語と社会」、「言語と心理」、「社会・文化・地域」、「言語と教育」に設置されているものは、日本語教員養成課程の内容にふさわしいと考えられるものが読み替えられています。
- ・読み替え科目は基本的に学科科目ですので、場合によって他学科の学生は履修できないものもありますので、ご注意下さい。
- ・読み替え科目は、日本語教員養成課程の単位としても、また学科科目の単位としてもカウントされます。





# 課程科目

## 教育課程表



教職に関する科目

科目No.	授 業 科 目		単位数		開講学年・週時数								担 当 者	シラバス ページ	備 考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
91011	※	教 師 論		2	2								大 矢 一 人	723	必修
91031	※	教 育 心 理 学 I		2			2						佐 藤 淳	724	必修
91041	※	教 育 心 理 学 II		2			2						佐 藤 淳	725	必修
91061	※	教 育 原 理		2			2						伊 井 義 人	726	必修
91071	※	教 育 制 度 論		2			2						伊 井 義 人	727	必修
91111	※	教 育 課 程 研 究		2		2							松 田 剛 史	728	必修
91121	※	英 語 科 教 育 法 I		2				2					工 藤 雅 之	729	高一種必修 該当教科の指 導法について 必修
91131	※	英 語 科 教 育 法 II		2					2				工 藤 雅 之	729	
91141	※	国 語 科 教 育 法	4			2	2						荒 木 奈 美	730	
91142						2	2						荒 木 奈 美	730	
91151	※	書 道 科 教 育 法 I		2				2					押 上 万 希 子	730	
91161	※	書 道 科 教 育 法 II		2					2				押 上 万 希 子	731	
91171	※	社 会 科 系 教 育 法 I		2			2						中 田 貢	732	
91181	※	社 会 科 系 教 育 法 II		2			2						中 田 貢	733	
91191	※	地 歴 科 教 育 法		2					2				中 田 貢	734	
91201	※	公 民 科 教 育 法		2				2					中 田 貢	734	
91211	※	道 徳 教 育		2					2				大 矢 一 人	735	中一種必修
91221	※	特 別 活 動		2				2					松 田 剛 史	736	必修
91231	※	教 育 方 法 論		2				2					大 矢 一 人	737	必修
91251	※	生 徒 指 導		2				2					中 田 貢	738	必修
91261	※	教 育 相 談		2					2				中 田 貢	738	必修
91351		教 育 実 習 I A		1					2				大 矢 一 人	739	必修 (事前指導)
91361		教 育 実 習 I B		1						2	○		大 矢 一 人	739	必修 (事後指導)
91371		教 育 実 習 II		2							○		中 田 貢	740	必修
91381		教 育 実 習 III		2							○		中 田 貢	740	中一種必修
91391		教 職 実 践 演 習 (中・高)		2								2	大 矢 一 人	741	必修
91411		介 護 等 体 験		1					○				大 矢 一 人	742	中一種必修
		合 計		51											

※印の教職に関する科目は、8単位まで自由選択単位として算入できる。

※「教職実践演習 (中・高)」は、2009年度以前に入学し文学部に在学する者の履修を認める。ただし、卒業要件には含まれない。

図書館情報学課程に関する開設科目

〈司書に関する科目〉

教育課程表

科目分野	科目No.	授業科目	単位数		開講学年・週時数						担当者	シラバスページ	備考	
			必修	選択	2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後				
必修科目	基礎科目	j0201	生涯学習概論	2		2						塚田 敏 信	745	
		j0211	図書館概論	2		2						平井 孝典	745	
		j0221	図書館制度・経営論	2			2					下田 尊久	746	
		j0231	図書館情報技術論	2			2					谷川 靖郎	746	
		j0232	図書館情報技術論	2			2					平井 孝典	747	
	図書館サービスに関する科目	j0241	図書館サービス概論	2				2				下田 尊久	749	
		j0251	児童サービス論	2				2				新田 裕子	749	
		j0031	情報サービス論	2					2			下田 尊久	753	
		j0261	情報サービス演習A	1					2			谷川 靖郎	753	
	図書館情報資源に関する科目	j0271	情報サービス演習B	1						2		平井 孝典	754	
		j0281	図書館情報資源概論	2		2						下田 尊久	747	
		j0291	情報資源組織論	2			2					平井 孝典	748	
		j0301	情報資源組織演習A	1				2				平井 孝典	750	
選択科目	図書館に関する科目	j0311	情報資源組織演習B	1				2				下田 尊久	750	
		j0401	図書館基礎特論		1			2	2			下田 尊久	751	2018年度開講(隔年開講)
		j0411	図書館サービス特論		1			2	2			下田 尊久		2019年度開講(隔年開講)人間生活学部
		j0412	図書館サービス特論		1			2	2			下田 尊久		2019年度開講(隔年開講)文学部
		j0421	図書館情報資源特論		1			2	2			蟹瀬 智弘	751	2018年度開講(隔年開講)
		j0431	図書・図書館史		1	2		2				前)下田尊久 後)平井孝典		2019年度開講(隔年開講)
		j0441	図書館施設論		1	2		2				下田 尊久	748	2018年度開講(隔年開講)人間生活学部
	j0442	図書館施設論		1		2		2			下田 尊久	748	2018年度開講(隔年開講)文学部	
	j0451	図書館総合演習		1			2	2			下田 尊久		2019年度開講(隔年開講)	
	コミュニケーションに関する科目	◎	コミュニケーション概論 a		2									
		◎	コミュニケーション概論 b		2									
		◎	法学特講A-a(コミュニケーションと法)		2									
		◎	法学特講A-b(コミュニケーションと法)		2									
◎		情報文化論		2										
☆		人間関係と心理		2										
☆		異文化間コミュニケーション		2										
資料に関する科目	j0461	アーカイブズ論		2			2	2			平井 孝典	752	文学部	
		j0462	アーカイブズ論		2			2	2		平井 孝典	752	人間生活学部	
	◎	日本語学演習 I A		4									「図書館に関する科目」2科目2単位を含む3単位以上選択必修	
	◎	日本語学演習 I B		4										
	◎	日本文学演習 I A		4										
	◎	日本文学演習 I B		4										
	◎	日本文学演習 I C		4										
	◎	日本文学演習 I D		4										
	◎	日本文学演習 I E		4										
	選択科目	資料に関する科目	◎	日本文学演習 I F		4								
			◎	日本文学演習 I G		4								
			◎	漢文学演習 I		4								
			◎	時事英語講読 A-a		1								
◎			時事英語講読 A-b		1									
◎			時事英語講読 B-a		1									
◎			時事英語講読 B-b		1									
◎			英語学演習 B-a		4									
◎			英語学演習 B-b		4									
◎			古典語 A-I		4									
◎			古典語 A-II		4									
◎			古典語 B		4									
☆			生活と宗教		2									
☆	科学英語 A		1											
☆	科学英語 B		1											
☆	子ども文化論		2											
☆	児童文学		2											
最低修得単位数			22	3単位以上	◎印は文学部学生対象読み替え科目 ☆印は人間生活学部学生対象読み替え科目									

※ 司書教諭選択科目としては、2012年度以降入学生が履修可能

〈司書教諭に関する科目〉

科目分野	科目No.	授業科目	単位数		開講学年・週時数						担当者	シラバスページ	備考
			必修	選択	2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後			
必修科目	L 0011	学校経営と学校図書館	2		2						新田 裕子	754	
	L 0021	読書と豊かな人間性	2				2			塚田 敏信	755		
	L 0031	情報メディアの活用	2					2		平井 孝典	755		
	L 0041	学校図書館メディアの構成	2				2			平井 孝典	756		
	L 0051	学習指導と学校図書館	2					2		塚田 敏信	756		
最低修得単位数			10	単位	司書に関する科目のうち、上記必修科目と重ならない科目はすべて選択科目として受講可能。								

〈学校図書館司書に関する科目〉

〈2017年度以降入学生に適用〉

科目分野	科目No.	授業科目	単位数		開講学年・週時数								担当者	シラバスページ	備考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
必修科目	L 0061	学校教育概論	2										塚田 敏信	757	
最低修得単位数															



日本語教員養成課程に関する科目

〈2018年度以降入学生に適用〉

日本語教員養成課程の授業科目は、次の教育課程表に示した必修科目及び選択必修科目に区分されます。日本語教員養成課程の修了要件は、学士の学位授与の認定要件を充たすと同時に、次の区分別に定められた必修14単位、選択必修20単位、合計34単位以上を修得しなければなりません。

教育課程表

区分	科目No.	授 業 科 目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
言語	N 0171	日 本 語 文 法 a	2		2		2						*課程	副田恵理子	767	8単位以上 選択必修
	N 0181	日 本 語 文 法 b	2			2		2					*課程	副田恵理子	767	
	N 0031	音 声 学	2			2		2					*課程	二村 年哉	761	
	N 0061	対 照 言 語 学		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	N 0071	日本語コミュニケーション技法		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	※	言 語 学 概 論 a		2									英文			
	※	言 語 学 概 論 b		2									英文			
	※	言 語 学 講 義 A		2									英文			
	※	言 語 学 講 義 B		2									英文			
	※	翻訳ワークショップA-a		1									英文			
	※	翻訳ワークショップA-b		1									英文			
	※	翻訳ワークショップB-a		1									英文			
	※	翻訳ワークショップB-b		1									英文			
	※	日 本 語 学 A - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 A - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 B		2									日文			
	※	日 本 語 学 C		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 A - a		2									日文		日本語表現法 A-a、A-bは国語教職 課程履修者の み履修可能	
	※	日 本 語 表 現 法 A - b		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 B - a		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 B - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 概 論 a		2									日文			
	※	日 本 語 学 概 論 b		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 A - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 A - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 B - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 B - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 C - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 C - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 D - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 D - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 研 究 E - a		2									日文			
※	日 本 語 学 研 究 E - b		2									日文				
※	日 本 文 化 と ア ジ ア C - a		2									日文				
※	日 本 文 化 と ア ジ ア C - b		2									日文				
※	日 本 語 学 演 習 I A		4									日文				
※	日 本 語 学 演 習 I B		4									日文				
言語と社会	N 0251	社 会 言 語 学 a	2	2		2						*課程	鄭 恵 先	771	6単位以上 選択必修	
	N 0261	社 会 言 語 学 b	2		2		2					*課程	鄭 恵 先	771		
	※	異文化コミュニケーション		2								教養				
	※	コミュニケーション概論a		2								英文				
	※	コミュニケーション概論b		2								英文				
	※	異文化コミュニケーション論入門		2								文化総合				
	※	異文化コミュニケーション論特講a		2								文化総合				
	※	異文化コミュニケーション論特講b		2								文化総合				
	※	異文化コミュニケーション論特講c		2								文化総合				
	※	異文化コミュニケーション論特講d		2								文化総合				
	※	法学特講A-a(コミュニケーションと法)		2								文化総合				
	※	法学特講A-b(コミュニケーションと法)		2								文化総合				

区分	科目 No.	授 業 科 目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考	
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
言語と心理	N 0081	第二言語習得概論		2				2		2				*課程	副田恵理子	763	6単位以上 選択必修
	※	心 理 学		2										教養			
	※	心 理 学 入 門		2										文化総合			
	※	心 理 学 特 講 A - a		2										文化総合			
	※	心 理 学 特 講 A - b		2										文化総合			
	※	心 理 学 特 講 A - c		2										文化総合			
	※	心 理 学 特 講 A - d		2										文化総合			
	※	心 理 学 特 講 B - a		2										文化総合			
社会・文化・地域	※	心 理 学 特 講 B - b		2										文化総合			
	※	文 化 人 類 学		2										教養			
	※	国 際 関 係 論		2										教養			
	※	国 際 理 解 教 育		2										教養			
	※	日 本 国 憲 法		2										教養			
	※	日 本 史 A		2										教養			
	※	日 本 史 B		2										教養			
	※	古 典 文 学 A		2										日文			
	※	古 典 文 学 B		2										日文			
	※	古 典 文 学 C		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 A		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 B		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 C		2										日文			
	※	日 本 文 化 A		2										日文			
	※	日 本 文 化 B		2										日文			
	※	日 本 文 化 C		2										日文			
	※	日 本 文 化 D		2										日文			
	※	日 本 文 化 E		2										日文			
	※	日 本 文 学 概 論 a		2										日文			
	※	日 本 文 学 概 論 b		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 A - a		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 A - b		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 B - a		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 B - b		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 C - a		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 C - b		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 D - a		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 D - b		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 E - a		2										日文			
	※	古 典 文 学 研 究 E - b		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 A - a		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 A - b		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 B - a		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 B - b		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 C - a		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 C - b		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 D - a		2										日文			
	※	近 現 代 文 学 研 究 D - b		2										日文			
	※	日 本 思 想 史 I		2										日文			
	※	日 本 思 想 史 II		2										日文			
※	日 本 文 化 論 A - a		2										日文				
※	日 本 文 化 論 A - b		2										日文				
※	日 本 文 化 論 B - a		2										日文				
※	日 本 文 化 論 B - b		2										日文				
※	日 本 文 化 論 C - a		2										日文				
※	日 本 文 化 論 C - b		2										日文				
※	日 本 文 化 論 D - a		2										日文				
※	日 本 文 化 論 D - b		2										日文				
※	日 本 文 化 論 E - a		2										日文				

区分	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
社会・文化・地域	※	日本文化論 E - b		2									日文			4 単位以上 選択必修
	※	日本文化論 F - a		2									日文			
	※	日本文化論 F - b		2									日文			
	※	書 道 史 a		2									日文			
	※	書 道 史 b		2									日文			
	※	書 論 ・ 鑑 賞 a		2									日文			
	※	書 論 ・ 鑑 賞 b		2									日文			
	※	文化人類学入門		2									文化総合			
	※	政治学(国際政治学)入門		2									文化総合			
	※	国際関係論入門		2									文化総合			
	※	基礎法学 A (憲法)		2									文化総合			
	※	基礎法学 B - a (民法)		2									文化総合			
	※	基礎法学 B - b (民法)		2									文化総合			
	※	基礎法学 C - a (国際関係法)		2									文化総合			
	※	基礎法学 C - b (国際関係法)		2									文化総合			
	※	国際関係論特講 A - a		2									文化総合			
	※	国際関係論特講 A - b		2									文化総合			
	※	国際関係論特講 A - c		2									文化総合			
	※	国際関係論特講 A - d		2									文化総合			
	※	法学特講 B - a (比較政治制度)		2									文化総合			
	※	法学特講 B - b (比較政治制度)		2									文化総合			
	※	日本史入門 A (概論)		2									文化総合			
※	日本史入門 B (概論)		2									文化総合				
言語と教育	N 0101	日本語教授法 I	2				2		2				*課程	副田恵理子	763	} 2 単位以上選択必修 II は海外実習、 4 年次履修不可
	N 0111	日本語教授法 II	2				2		2				*課程	副田恵理子	764	
	N 0121	日本語教育概論 I	2				2		2				*課程	副田恵理子	764	
	N 0131	日本語教育概論 II	2				2		2				*課程	副田恵理子	765	
	N 0231	日本語教育実習 I		2					3		3		*課程	平塚 真理	770	
	N 0241	日本語教育実習 II		2					○		○		*課程	副田恵理子	772	
	計		14	256												34 単位以上

注 1. 区分「言語と教育」の科目は、必修科目である「日本語文法 a」「日本語文法 b」「音声学」を含む 14 単位以上を充足していなければ履修できません。

注 2. 日本語教員養成課程独自に開設している科目は、卒業要件として加算されません。

(開設学科欄に\*課程と表示している科目)

※印は、開設学科の教育課程表を参照。

日本語教員養成課程に関する科目

〈2016・2017年度入学生に適用〉

日本語教員養成課程の授業科目は、次の教育課程表に示した必修科目及び選択必修科目に区分されます。日本語教員養成課程の修了要件は、学士の学位授与の認定要件を充たすと同時に、次の区分別に定められた必修14単位、選択必修20単位、合計34単位以上を修得しなければなりません。

区分	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバスページ	備考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
言語	N 0171	日 本 語 文 法 a	2		2		2						*課程	副田恵理子	767	8単位以上 選択必修
	N 0181	日 本 語 文 法 b	2			2		2					*課程	副田恵理子	767	
	N 0031	音 声 学	2			2		2					*課程	二村 年哉	761	
	N 0211	日 本 語 学 a		2	2		2						*課程	鄭 恵先	769	
	N 0221	日 本 語 学 b		2		2		2					*課程	鄭 恵先	769	
	N 0061	対 照 言 語 学		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	N 0071	日本語コミュニケーション技法		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	※	言 語 学 概 論 a		2									英文			
	※	言 語 学 概 論 b		2									英文			
	※	言 語 学 講 義 A		2									英文			
	※	言 語 学 講 義 B		2									英文			
	※	翻 訳 ワークショップ a		2									英文			
	※	翻 訳 ワークショップ b		2									英文			
	※	日 本 語 学 講 義 I A - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 I A - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 I B		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 I C		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 A - a		2									日文		日本語表現法 A-a、A-bは国語教職 課程履修者のみ履修可能	
	※	日 本 語 表 現 法 A - b		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 B - a		2									日文			
	※	日 本 語 表 現 法 B - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 概 論 a		2									日文			
	※	日 本 語 学 概 論 b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II A - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II A - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II B - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II B - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II C - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II C - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II D - a		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II D - b		2									日文			
	※	日 本 語 学 講 義 II E - a		2									日文			
※	日 本 語 学 講 義 II E - b		2									日文				
※	日 本 文 化 論 E - a		2									日文				
※	日 本 文 化 論 E - b		2									日文				
※	日 本 語 学 演 習 I A		8									日文				
※	日 本 語 学 演 習 I B		8									日文				
言語と社会	※	コミュニケーション概論a		2									英文		6単位以上 選択必修	
	※	コミュニケーション概論b		2									英文			
	※	コミュニケーション講義		2									英文			
	※	異文化コミュニケーション論a		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション論b		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション特講B-a		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション特講B-b		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション特講B-c		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション特講B-d		2									文化総合			
	※	法学特講A-a(コミュニケーションと法)		2									文化総合			
	※	法学特講A-b(コミュニケーションと法)		2									文化総合			
言語と心理	N 0081	第 二 言 語 習 得 概 論		2			2		2				*課程	副田恵理子	763	
	※	心 理 学 入 門 a		2									文化総合			
	※	心 理 学 入 門 b		2									文化総合			

教育課程表

区分	科目 No.	授 業 科 目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考	
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
社会・文化・地域	※	日本文学講義 I A		2										日文			4単位以上 選択必修
	※	日本文学講義 I B		2										日文			
	※	日本文学講義 I C		2										日文			
	※	日本文学講義 I D		2										日文			
	※	日本文学講義 I E		2										日文			
	※	日本文学講義 I F		2										日文			
	※	日本文学講義 I G		2										日文			
	※	日本文学講義 I H		2										日文			
	※	日本文学講義 I I		2										日文			
	※	日本文学史 A		2										日文			
	※	日本文学史 B		2										日文			
	※	日本文学史 C		2										日文			
	※	日本文学史 D		2										日文			
	※	日本文学概論 a		2										日文			
	※	日本文学概論 b		2										日文			
	※	日本文学講義 II A - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II A - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II B - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II B - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II C - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II C - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II D - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II D - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II E - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II E - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II F - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II F - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II G - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II G - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II H - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II H - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II I - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II I - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II J - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II J - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II K - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II K - b		2										日文			
	※	日本思想史 I		2										日文			
	※	日本思想史 II		2										日文			
	※	日本文化論 B - a		2										日文			
	※	日本文化論 B - b		2										日文			
	※	日本文化論 F - a		2										日文			
	※	日本文化論 F - b		2										日文			
	※	日本文化論 G - a		2										日文			
	※	日本文化論 G - b		2										日文			
※	文化人類学 a		2										文化総合				
※	文化人類学 b		2										文化総合				
※	政治学(国際政治学)入門		2										文化総合				
※	国際関係論入門		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - a		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - b		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - c		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - d		2										文化総合				
※	法学特講 B - a (比較政治制度)		2										文化総合				
※	法学特講 B - b (比較政治制度)		2										文化総合				
※	日本史入門 A - a (概説)		2										文化総合				
※	日本史入門 A - b (概説)		2										文化総合				
※	日本史入門 B - a (学説史)		2										文化総合				
※	日本史入門 B - b (学説史)		2										文化総合				
※	日本思想史 a		2										文化総合				
※	日本思想史 b		2										文化総合				



区分	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ペ ー ジ	備 考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
言語と教育	N 0101	日 本 語 教 授 法 I	2				2		2				*課程	副田恵理子	763	2単位以上選択必修 IVは海外実習、 4年次履修不可 (2016年度入学生に適用)  2単位以上選択必修 IIは海外実習、 4年次履修不可 (2017年度入学生に適用)
	N 0111	日 本 語 教 授 法 II	2				2		2				*課程	副田恵理子	764	
	N 0121	日 本 語 教 育 概 論 I	2				2		2				*課程	副田恵理子	764	
	N 0131	日 本 語 教 育 概 論 II	2				2		2				*課程	副田恵理子	765	
	N 0151	日 本 語 教 授 法 III		2			2		2				*課程	平塚 真理	766	
	N 0161	日 本 語 教 授 法 IV		2			○		○				*課程	副田恵理子	772	
	N 0231	日 本 語 教 育 実 習 I		2			3		3				*課程	平塚 真理	770	
	N 0241	日 本 語 教 育 実 習 II		2			○		○				*課程	副田恵理子	772	
		計	14	234												34 単位以上

注1. 区分「言語と教育」の科目は、必修科目である「日本語文法 a」「日本語文法 b」「音声学」を含む 14 単位以上を充足していなければ履修できません。

注2. 日本語教員養成課程独自に開設している科目は、卒業要件として加算されません。

(開設学科欄に\*課程と表示している科目)

※印は、開設学科の教育課程表を参照。

日本語教員養成課程に関する科目

〈2015年度以前入学生に適用〉

日本語教員養成課程の授業科目は、次の教育課程表に示した必修科目及び選択必修科目に区分されます。日本語教員養成課程の修了要件は、学士の学位授与の認定要件を充たすと同時に、次の区分別に定められた必修14単位、選択必修20単位、合計34単位以上を修得しなければなりません。

教育課程表

区分	科目No.	授業科目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバスページ	備考
			必修	選択	1年		2年		3年		4年					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
言語	N 0171	日本語文法 a	2		2		2						*課程	副田恵理子	767	8単位以上 選択必修
	N 0181	日本語文法 b	2			2		2					*課程	副田恵理子	767	
	N 0031	音声学	2			2		2					*課程	二村年哉	761	
	N 0191	日本語学概論 a		2	2		2						*課程	鄭恵先	768	
	N 0201	日本語学概論 b		2		2		2					*課程	鄭恵先	768	
	N 0061	対照言語学		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	N 0071	日本語コミュニケーション技法		2	2		2		2				*課程	副田恵理子	762	
	※	言語学概論 a		2									英文			
	※	言語学概論 b		2									英文			
	※	言語学講義 A		2									英文			
	※	言語学講義 B		2									英文			
	※	翻訳ワークショップ a		2									英文			
	※	翻訳ワークショップ b		2									英文			
	※	日本語学講義 I A - a		2									日文			
	※	日本語学講義 I A - b		2									日文			
	※	日本語学講義 I B		2									日文			
	※	日本語学講義 I C		2									日文			
	※	日本語表現法 A - a		2									日文			
	※	日本語表現法 A - b		2									日文			
	※	日本語表現法 B - a		2									日文			
	※	日本語表現法 B - b		2									日文			
	※	日本語学講義 II A - a		2									日文			
	※	日本語学講義 II A - b		2									日文			
	※	日本語学講義 II B - a		2									日文			
	※	日本語学講義 II B - b		2									日文			
	※	日本語学講義 II C - a		2									日文			
	※	日本語学講義 II C - b		2									日文			
	※	日本語学講義 II D - a		2									日文			
	※	日本語学講義 II D - b		2									日文			
	※	日本語学講義 II E - a		2									日文			
※	日本語学講義 II E - b		2									日文				
※	日本文化論 E - a		2									日文				
※	日本文化論 E - b		2									日文				
※	日本語学演習 I A		8									日文				
※	日本語学演習 I B		8									日文				
言語と社会	※	コミュニケーション概論 a		2									英文			6単位以上 選択必修
	※	コミュニケーション概論 b		2									英文			
	※	異文化コミュニケーション論 a		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション論 b		2									文化総合			
	※	異文化コミュニケーション特講 B - a		2									文化総合			
※	法学特講 A - a (コミュニケーションと法)		2									文化総合				
言語と心理	N 0081	第二言語習得概論		2			2		2				*課程	副田恵理子	763	
	※	心理学特講 A - a		2									文化総合			
	※	心理学特講 A - b		2									文化総合			

区分	科目 No.	授 業 科 目	単位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考	
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
社会・文化・地域	※	日本文学講義 I A		2										日文			4単位以上 選択必修
	※	日本文学講義 I B		2										日文			
	※	日本文学講義 I C		2										日文			
	※	日本文学講義 I D		2										日文			
	※	日本文学講義 I E		2										日文			
	※	日本文学講義 I F		2										日文			
	※	日本文学講義 I G		2										日文			
	※	日本文学講義 I H		2										日文			
	※	日本文学講義 I I		2										日文			
	※	日本文学史 A		2										日文			
	※	日本文学史 B		2										日文			
	※	日本文学史 C		2										日文			
	※	日本文学史 D		2										日文			
	※	日本文学講義 II A - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II A - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II B - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II B - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II C - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II C - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II D - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II D - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II E - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II E - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II F - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II F - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II G - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II G - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II H - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II H - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II I - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II I - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II J - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II J - b		2										日文			
	※	日本文学講義 II K - a		2										日文			
	※	日本文学講義 II K - b		2										日文			
	※	日本思想史 I		2										日文			
	※	日本思想史 II		2										日文			
	※	日本文化論 B - a		2										日文			
	※	日本文化論 B - b		2										日文			
	※	日本文化論 F - a		2										日文			
	※	日本文化論 F - b		2										日文			
	※	日本文化論 G - a		2										日文			
	※	日本文化論 G - b		2										日文			
	※	文化人類学 a		2										文化総合			
	※	文化人類学 b		2										文化総合			
※	政治学(国際政治学)入門		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - a		2										文化総合				
※	国際関係論特講 A - b		2										文化総合				
※	法学特講 B - a (比較政治制度)		2										文化総合				
※	日本史入門 A - a (概説)		2										文化総合				
※	日本史入門 A - b (概説)		2										文化総合				
※	日本史入門 B - a (学説史)		2										文化総合				
※	日本史入門 B - b (学説史)		2										文化総合				
※	日本思想史 a		2										文化総合				
※	日本思想史 b		2										文化総合				

区分	科目 No.	授 業 科 目	単 位		開講学年・週時数								開設学科	担当者	シラバス ページ	備 考	
			必修	選択	1年		2年		3年		4年						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
言語と教育	N 0101	日 本 語 教 授 法 I	2				2		2					*課程	副田恵理子	763	} 2単位以上選択必修 IVは海外実習、 4年次履修不可
	N 0111	日 本 語 教 授 法 II	2				2		2					*課程	副田恵理子	764	
	N 0121	日 本 語 教 育 概 論 I	2				2		2					*課程	副田恵理子	764	
	N 0131	日 本 語 教 育 概 論 II	2				2		2					*課程	副田恵理子	765	
	N 0151	日 本 語 教 授 法 III		2			2		2					*課程	平塚 真理	766	
	N 0161	日 本 語 教 授 法 IV		2			○		○					*課程	副田恵理子	772	
		計	14	208													34 単位以上

注1. 区分「言語と教育」の科目は、必修科目である「日本語文法 a」「日本語文法 b」「音声学」を含む 14 単位以上を充足していなければ履修できません。

注2. 日本語教員養成課程独自に開設している科目は、卒業要件として加算されません。

(開設学科欄に\*課程と表示している科目)

※印は、開設学科の教育課程表を参照。

# シラバス





教 職 課 程



91011

## 教師論

担当教員：大矢 一人

2 単位 前期

### 授業のねらい

今日、教師という職に実際に就くことは、非常に難しい。その難しい道を歩もうとしている学生に、教師とは何か、実際の教師はどのような仕事しているのか、学校ではどういうことが教えられているのか、教員の採用状況はどのようなものかなどを講義したい。

### 到達目標

教師をめざす学生に必要な教職の意義や教師の実際などを理解する。

### 授業方法

原則として、一回でひとまとまりの内容を行う。講義形式により、教師に関する歴史、もつべき資質、教師をとりまく環境(学級・学校)、採用と任命という順番で授業を進めていきます。事前事後には、配布したプリントの読みなど、復習を中心に学習をお願いします。

ミニレポート課題を2～3回提出してもらいますが、それについては翌週返却し、口頭で解説します。

期末テストについては、後期の「教育課程研究」の第1回目の授業で解説プリントを配布します。

### 授業計画

- 第1回 教職課程の意味と「教師論」のオリエンテーション
- 第2回 教師論の歴史
- 第3回 現代の教師に求められる資質
- 第4回 VTR「教師誕生」を視聴して
- 第5回 教師のもつべき専門性(1)～教える内容への理解
- 第6回 教師の持つべき専門性(2)～人間性は大事なのだが…
- 第7回 複眼的思考に立つとは？
- 第8回 教師の仕事
- 第9回 学校という制度
- 第10回 学級の編成
- 第11回 学校で何を教えるのか
- 第12回 教員の採用と任命
- 第13回 教師の人権意識－社会的弱者をみつめる目
- 第14回 障害児の学校とその教育内容
- 第15回 まとめ－さらなる教職課程授業へむけて

### 成績評価の方法

教職に関する科目であるため、出席を重視する。3回より多く欠席したものは不可とする。

欠席した場合にも講義中に課したミニレポートを全て提出することが前提となる。その上で、期末テスト(100点)(100%)を行う。

### 履修にあたっての注意

将来、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものである。すなわち、教員採用試験を受検することが原則である。生半かな態度で受講してもらっては困る。毎回必ず出席のこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリント(約50枚配布)を中心に行い、教科書は使用しない。

### 参考書

佐々木正治編著『新教育原理・教師論』(福村出版、2008年)  
佐々木正治編著『新中等教育原理』(福村出版、2010年)  
佐々木正治編『新初等教育原理』(福村出版、2014年)  
佐藤環編『日本の教育史』(あいら出版、2013年)

91031

## 教育心理学 I

担当教員：佐藤 淳

2 単位 前期

### 授業のねらい

教職に必要な教育心理学の内容として、とくに認識の発達過程と教授・学習過程を中心に講義します。すなわち、教室の学習者が、まず教えられる以前にどのような認識を形成しているのか、そして教えられた後に知識をどのように獲得し、使っているのかについて、心理学的な観点から解説します。さらに、そのような知識の形成、獲得と使用のプロセスの中で、なぜ学習者はつまずくのか、そのつまずきを改善するためにはどのような方法があるのかについて、従来の研究成果を踏まえながらお話しします。そして最後に、授業評価の方法と意義について触れます。このような講義の理解を通して、自らの免許教科における具体的な授業方略を構想できるようになることをめざします。

### 到達目標

1. 教授以前の学習者の認識のあり方について把握する。
2. 教授後の学習者の知識の獲得とその使用のあり方について把握する。
3. 学習のつまずきを改善する従来の方法について理解する。
4. 授業評価の方法と本来の意味について理解する。

### 授業方法

授業で用いるスライドを事前に配布して、講義形式で進めます。毎回の授業前には、概要を示したスライドに目を通してください。また毎回の授業の冒頭で、前回の授業のポイントを示しますので、それをもとに事後学習を行ってください。事前・事後学習に要する学習時間は1時間程度です。また、第5回、10回、15回の授業において、到達度の確認を行い（各30分程度、計3回）、授業の中で解説します。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンスと教育心理学の位置づけ
- 第2回 教育心理学の研究法：相関法、比較法、構成法
- 第3回 認識の発達(1)：学習者の推論過程とその不全
- 第4回 認識の発達(2)：誤った認識(誤ルール)の形成プロセス
- 第5回 まとめと到達度の確認1
- 第6回 知識の獲得と使用(1)：誤ルールの特質とその使用
- 第7回 知識の獲得と使用(2)：提示事例の個別学習
- 第8回 知識の獲得と使用(3)：学習スタイルについて
- 第9回 知識の獲得と使用(4)：操作的思考のすすめ
- 第10回 まとめと到達度の確認2
- 第11回 授業の方法(1)：事例提示法の概要
- 第12回 授業の方法(2)：対決型ストラテジーと懐柔型ストラテジーの有効性
- 第13回 授業の方法(3)：概念学習の異種定式化説について
- 第14回 授業の評価：教育評価のあり方と本来の意味
- 第15回 まとめと到達度の確認3

### 成績評価の方法

授業時間内で到達度の確認を行います（計3回、各30分程度）。目標1に対応する到達度の確認1（15%）、目標2に対応する確認2（15%）、目標3と4に対応する確認3（20%）、及び授業への参加状況（50%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

一見、難しそうな用語が多く用いられますが、授業内で丁寧に説明しますので、毎回出席していれば理解できるはずですが、わからないことは授業後に質問してください。とくに、授業の冒頭で示される前回のポイントをよくおさえておくことが重要です。なお、「遅刻」および「授業途中の退出」は、他の履修者の学習の妨げとなりますので、厳に慎んでください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書は設定せず、スライドと資料を中心に進めます。内容に興味のある方は、参考書を参照してください。

### 参考書

細谷純『教科学習の心理学』（東北大学出版会、2001、ISBN：4925085344）  
麻柄啓一『学習者の誤った知識をどう修正するか』（東北大学出版会、2006、ISBN：4861630339）  
佐藤淳『法則の適用を阻む「判断の不確定性」とその低減方略』（東北大学出版会、2009、ISBN：4861631238）



91041

## 教育心理学Ⅱ

担当教員：佐藤 淳

2単位 後期

### 授業のねらい

教育心理学Ⅰの内容を踏まえて、とくに教授方略に関する発展的な知見について討論します。教育心理学Ⅰで紹介された事例提示法は、学習者の抽象度操作を促す主要な方法ですが、これ以外にも、変数操作や関係操作を促す授業方法が提案されています。他方、授業で獲得される知識は、教育心理学Ⅰで主に題材とされた自然科学領域のみならず、社会科学や人文科学領域にまで及びます。それらの領域での学習のつまずきをどう改善するかについて、最新の研究成果を踏まえて紹介します。このような発展的な内容の理解を通して、自ら行う授業をよりいっそう具体的に構想できるようになることをめざします。

### 到達目標

1. 学習のつまずきを改善する新たな方法について理解する。
2. 社会科学領域の認識のあり方と授業方法に関する知見を理解する。
3. 人文科学領域の認識のあり方と授業方法に関する知見を理解する。

### 授業方法

スライドや資料、論文等を事前に配布して、演習形式で進めます。授業時には各人に発言を求め、ときには討論を行いますので、毎回の授業前には、配布資料に必ず目を通してきてください。また毎回の授業の冒頭で、前回の授業のポイントや学修成果をフィードバックしますので、それをもとに事後学習を行ってください。事前・事後学習に要する時間は1時間程度です。

### 授業計画

- 第1回 経済認識の誤り(1):「企業の活動目的」について
- 第2回 経済認識の誤り(2):「需要と供給の法則」について
- 第3回 誤ルールの同定に対する批判と新たな見解
- 第4回 学習者の不確かな判断傾向と「判断の不確定性」
- 第5回 「判断の不確定性」に対する事例提示法の効果(1):抽象度操作のみの場合
- 第6回 「判断の不確定性」に対する事例提示法の効果(2):関係操作を加味した場合
- 第7回 「判断の不確定性」に対する論理操作法の効果(1):マトリックス法の有効性
- 第8回 「判断の不確定性」に対する論理操作法の効果(2):マトリックス法の問題点
- 第9回 歴史認識の誤りとその修正(1):「大名行列の意味」象徴事例と代入例の比較
- 第10回 歴史認識の誤りとその修正(2):「江戸時代の政治」象徴事例の活用
- 第11回 文学作品の解釈の誤りとその修正(1):「走れメロス」主題の多様さ
- 第12回 文学作品の解釈の誤りとその修正(2):「ごんぎつね」主題把握の誤り
- 第13回 英語学習におけるつまずきとその修正(1):英会話におけるつまずき
- 第14回 英語学習におけるつまずきとその修正(2):英文和訳におけるつまずき
- 第15回 まとめと到達度の確認

### 成績評価の方法

到達目標1～3について、毎回の参加状況と受講態度(80%)、到達度の確認(20%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

教育心理学Ⅰに比べて、内容がより具体的に深化するため、授業の水準も高くなります。少人数の演習形式に変わることも考慮に入れて、履修の判断をしてください。授業のあり方に幅広い関心をお持ちの方のご参加をお待ちしています。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

スライドや資料を配布して授業を進めます。より詳しい情報を得たい方は、参考書を参照してください。

### 参考書

麻柄啓一・進藤聡彦『社会科領域における学習者の不十分な認識とその修正』(東北大学出版会、2008、ISBN:4861630880)  
佐藤淳『法則の適用を阻む「判断の不確定性」とその低減方略』(東北大学出版会、2009、ISBN:4861631238)

91061

## 教育原理

担当教員：伊井 義人

2 単位 前期

### 授業のねらい

「教育を受ける者」から「教育を提供する者」に、履修者自らのまなざしを転換し、「教育や学びとは何か?」という問いに一定の答えを提示することを目指す。

### 到達目標

1. 教育思想家が、現在の教育にどのような影響を及ぼしているのかを理解できる。
2. 教育において多様な個性をどのように活かすべきかを考えることができる。
3. 教育や学びに関わる書籍を、1冊は読む。
4. 今まで当たり前だと思っていた現在進行系の教育事象に対して、疑問を持つことができる。

### 授業方法

- ・担当教員による説明を主として、講義を進めていく。
  - ・講義中、いくつかの論点を担当教員が提示し、それについてグループごとに討議を行う。
- テーマは前週の講義内で提示するので履修者は下調べが必要となる。
- ・毎回、所定の用紙に、自分の意見を記述し、講義を終える。
  - ・用紙に書かれた内容は、次の講義でフィードバックを行う。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション（講義内容の説明）
- 第2回 教育の今を考える①：教育時事について
- 第3回 教育の今を考える②：数値データに見る日本の学校教育の現状と課題
- 第4回 教育の今を考える③：数値データに見る世界における日本の学校教育の位置づけ
- 第5回 教育の今を考える④：日本・海外諸国が抱える教育課題とは～学校での多様性の扱い方
- 第6回 教育・学校とは何かを考える①：語源から紐解く教育・学校の定義
- 第7回 教育・学校とは何かを考える②：人に「教育」はなぜ必要なのか
- 第8回 教育・学校とは何かを考える③：「教育」の目的とは何かを考えた人たち
- 第9回 教育・学校とは何かを考える④：「学校」の本当の目的とは何か
- 第10回 教育関連の書籍を通して見る、教育の理想と現実①（ポップ作成）
- 第11回 教育関連の書籍を通して見る、教育の理想と現実②（ポップ作成）
- 第12回 教育関連の書籍を通して見る、教育の理想と現実③（ポップのグループ発表）
- 第13回 教育関連の書籍を通して見る、教育の理想と現実④（ポップの代表発表）
- 第14回 教育・学校・学びとは何か（再考）
- 第15回 総復習と最終テスト

### 成績評価の方法

1. 毎回の小レポート（20%）
2. ポップ作りと発表（20%）
2. 最終テスト（60%）

### 履修にあたっての注意

教師論・教育課程研究を履修済みの学生を条件とする。  
また、将来的に教職に就くことを目標にしていることが履修の必須条件です。  
実習のことを想定し、他の講義より厳格に、原則三回の欠席で不合格となりますので、気をつけて下さい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義内で適宜提示します。

91071

## 教育制度論

担当教員：伊井 義人

2単位 後期

### 授業のねらい

- ・教育全般に関心を持ち続けるとともに、教育行政制度・教育法規の基礎知識を習得することを目指します。
- ・教員個人では解決できない教育課題があることを認識し、制度・組織としての教育の重要性を知る。

### 到達目標

1. 日本の学校教育の中の（隠された）目的を理解することができる。
2. 教員として知っておくべき法規を理解する。
3. 教員としてだけでなく、活動的な市民（保護者）としての技能・知識を習得する。
4. 海外の事例を通して、児童生徒の多様性をいかに肯定的に捉える実践が可能かを考えることができる。

### 授業方法

- ・担当教員による説明を主として、講義を進めていく。
- ・講義中、いくつかの論点を担当教員が提示し、それについてグループごとに討議を行う。
- ・テーマは前週の講義内で提示するので履修者は教科書などを活用した下調べが必要となる。
- ・毎回、所定の用紙に、自分の意見を記述し、講義を終える。
- ・用紙に書かれた内容は、次の講義でフィードバックを行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教育・学校制度の基礎知識
- 第3回 日本と海外の教育制度の比較①（才能児教育の実際）
- 第4回 日本と海外の教育制度の比較②（多様性に対応できる教員養成）
- 第5回 教育法規①～日本国憲法と教育基本法
- 第6回 教育法規②～教員にかかわる法規
- 第7回 教育法規③～子ども・保護者にかかわる法規
- 第8回 中間試験～教育制度と教育法規の復習
- 第9回 公正な学校制度とは何か？①：都市部と地方部の教育の違い
- 第10回 公正な学校制度とは何か？②：家族の所得・文化の違いが教育に及ぼす影響
- 第11回 教育行政①：文部科学省
- 第12回 教育行政②：教育委員会
- 第13回 学校を支える多様な人たち
- 第14回 現在の学校における教育課題とその解決策
- 第15回 現在の学校（大学）における教育課題とは何か

### 成績評価の方法

1. 毎回の小課題（20%）
2. 中間試験（60%）
3. 教育課題に関するプレゼンテーション（20%）

### 履修にあたっての注意

教育原理を履修済みの学生を条件とします。  
また、将来的に教職に就くことを目標にしていることが履修の必須条件です。  
教育実習のことを想定し、他の講義より厳格に、原則として3回の欠席で不合格となりますので、気をつけて下さい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考文献などは適宜提示します。

91111

## 教育課程研究

担当教員：松田 剛史

2 単位 後期

### 授業のねらい

- ・児童生徒が身に付けたい能力態度やその指導のあり方について、教育課程編成の観点から主体的に考える時間とする。
- ・自らが意見をもち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。

### 到達目標

1. 教育課程の意義について理解することができる。
2. 効果的な教育課程編成のあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。

### 授業方法

1. 授業では以下の場面を多く設定する。
  - ・受講者参加型ですすめる学習場面
  - ・自己で学びをふりかえり、相互に気づきや学びを共有する場面
  - ・学んだことを活かしてプログラムをつくる場面
  - ・新たな知識や経験をインプットする場面
2. 事前・事後の学習としては以下に対応する意識を高くもつこと
  - ・本時およびそれまでに学習した内容に関する情報の収集とまとめ
  - ・学習指導要領や資料の読み込みなど、次時の学習内容や活動に関する準備

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 わたしの「学校時代」をふりかえる
- 第3回 教育課程とは何か？① - 教育課程の定義 -
- 第4回 教育課程とは何か？② - 教育課程の目的 -
- 第5回 教育課程に関する法規
- 第6回 教育課程の歴史 - 学習指導要領の変遷 -
- 第7回 教育活動をデザインするということ① - 各学校種における教育課程 -
- 第8回 教育活動をデザインするということ② - 教科・領域からみた教育課程 -
- 第9回 教育課程の編成と評価
- 第10回 校種間連携と教育課程
- 第11回 学社連携と教育課程
- 第12回 諸外国の教育課程
- 第13回 教育課程をデザインする① - テーマに基づいた教育課程の編成 -
- 第14回 教育課程をデザインする② - 横断的なカリキュラムを構想する -
- 第15回 教育課程とは何か？③ - 学校教育活動と教育課程のかかわりについて考える -

### 成績評価の方法

- ・主体的に学習内容の理解に向けて取り組むパフォーマンス（認知度）(30%)・・・目標1に対応
- ・主体的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）(30%)・・・目標2に対応
- ・レポートや各種学習成果に関する提出物（学修度）(40%)・・・目標1.2.に対応（アドバンス）

### 履修にあたっての注意

- ・児童生徒に対して教育活動に当たることができる免許を取得することの意味をしっかりと意識した者が受講すること。
- ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
- ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して学習に臨むこと。

### 教科書

大津尚志、伊藤一雄、伊藤良高、中谷彪『教育課程フロンティア』（晃洋書房、2010年、978477102778）  
文部科学省『中学校学習指導要領解説総則編 平成29年3月』（東山書房、2018年、9784827815597）

### 教科書・参考書に関する備考

- ・上記2点の教科書は必須。参考書は必要に応じてよいので、購入はマストではない。
- ・学習指導要領解説特別活動編に関して、中学校以外の免許取得を希望する者は該当する学校種のものも手に入れておくことをおすすめする。（但し、中学校学習指導要領解説特別活動編は全員必須）
- ・その他の参考書については適宜情報提供する。
- ・未発刊の平成29年改訂学習指導要領解説編はweb上で公開されている。本取り扱いについては講義時間内に追って連絡する。

### 参考書

児島邦宏／佐野金吾『中学校新学習指導要領の展開総則編』（明治図書、2008年、ISBN：9784182575181）



91121

## 英語科教育法Ⅰ

担当教員：工藤 雅之

2単位 前期

## 授業のねらい

中等教育の外国語教員となるための基礎知識や指導技術を身につける。コミュニケーション能力の育成や実証研究を経た指導技術や教授法に関する知識を得ながら、学習者の学びに誠実に対応する教員の養成をねらいとする。教室内で利用価値の高いICTを利用した授業構成やオールイングリッシュでの教室運営などの新しいトレンドに関する理解も深める。加えて、学校で英語を教えることの意味や学校内での英語教員の立場などにも触れ、求められる教員像について考える。

## 到達目標

学習指導要領の目標や指導内容について、教員の講義、グループディスカッションなどで深い理解を獲得しながら、深いまなびに展開する。また、卒業生などを特別講師として招聘し外部のリソースも利用して、開かれた講義を目指す。

## 授業方法

講義形式+アクティブラーニングの形式を取るため、受講者の主体的な参加が必要です。各自が講義前に講義内容について情報収集(予習)を能動的に行っていることを前提に講義を展開します。また主体的な学習を促進するためにディスカッションを行いそれぞれのまなびを共有します。従って、クラスメートとのコミュニケーションを十分に深めることを期待します。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・英語を教えること
- 第2回 英語授業の実際：中学校以降の自らの英語授業を振り返る
- 第3回 実際の英語教員：OG教員の召集 教師としての心得、教育活動
- 第4回 英語の授業で教えるべきこと：学習指導要領について、オールイングリッシュの授業
- 第5回 学修共同体の構築：英語を学ぶ環境整備 チャレンジする雰囲気、協働、仲間意識
- 第6回 学習者の在りよう教材研究：カリキュラム・シラバス・レッスンプラン
- 第7回 授業の組み立て方、指導案の作成の基礎：授業の基本「導入、展開、まとめ」
- 第8回 授業案(高等学校)の作成と授業の進め方：Teaching Listening
- 第9回 授業案(高等学校)の作成と授業の進め方：Teaching Speaking
- 第10回 授業案(高等学校)の作成と授業の進め方：Teaching Reading
- 第11回 授業案(高等学校)の作成と授業の進め方：Teaching Writing
- 第12回 授業案(高等学校)の作成と授業の進め方：音声指導、語彙指導
- 第13回 4技能の統合とICT技術：学習メディア、SNS、MOOCなどの利用
- 第14回 評価とテスト：評価の種類、評価の見取り、実践
- 第15回 まとめと評価、地域との連携、外部リソースの利用

## 成績評価の方法

定期テストは実施しませんが、教員養成の科目なので、教員としての資質に関する項目について評価します。

学生に対する評価

知識力を問うレポート(4回) - 20%

応用力を問うレポート(2回) - 20%

グループの活動(6回) - 30%

個人の授業内での活動をベースとする授業に対する貢献度 - 15%、

教師としての心構えに対する理解 - 15%

開講授業数の3分の2を超える出席がなければ、失格とする。

## 教科書

岡田圭子、ブレンダ・ハヤシ、嶋林昭治、江原美明『基礎から学ぶ英語科教育法』(松柏社、2015)

文部科学省『高等学校学習指導要領 外国語』

91131

## 英語科教育法Ⅱ

担当教員：工藤 雅之

2単位 後期

## 授業のねらい

高等学校教育での実践の利用を踏まえて、英語コミュニケーション能力を中心に育成するための指導法を概論とマイクロティーチングなどの実践に近い活動を通して身につける。高等学校での実践の利用を踏まえて、模擬授業においては、学生は、電子黒板・デジタル教科書等を使用したICTによる授業展開を適宜行う。後半では、指導案作成とマイクロティーチング実践を行い、実践力を高める構成である。

## 到達目標

英語指導の実践としては、4技能を統合した授業展開と指導案の作成手法を学び、オールイングリッシュで指導案を履行し、模擬授業で展開することができるようになる。学生同士で模擬授業を披露しあい、自らの授業を振り返り、クラスメートの模擬授業をも評価することで、客観的な視点を獲得できるようになる。

## 授業方法

講義形式+アクティブラーニングの形式を取るため、受講者の主体的な参加が必要です。各自が講義前に講義内容について情報収集(予習)を能動的に行っていることを前提に講義を展開します。また主体的な学習を促進するためにディスカッションを行いそれぞれのまなびを共有します。従って、クラスメートとのコミュニケーションを十分に深めることを期待します。

事前に授業範囲に該当する指導要領・教科書のページを通覧しておいてください。

事後学習として、配布したプリントの読み込みや、模擬授業を元に指導案・ワークシートの手直しをしてください。

## 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・第二言語習得と教育心理
- 第2回 指導案の作成の基礎：インストラクショナルデザイン
- 第3回 言語習得理論
- 第4回 学習科学
- 第5回 第二言語教授法：教授法の歴史と変遷
- 第6回 教材研究/指導案：指導案の書き方、その実践
- 第7回 4技能の育成
- 第8回 音声・語彙・文法指導
- 第9回 授業の実際：OGの訪問、或いは実践授業の観察
- 第10回 文法に関するマイクロティーチング&合評
- 第11回 語法に関するマイクロティーチング&合評
- 第12回 コミュニケーション活動に関するマイクロティーチング&合評
- 第13回 協働活動に関するマイクロティーチング&合評
- 第14回 スタンドライズドテストを意識した授業
- 第15回 まとめ、開かれた学校教育、将来の展望

## 成績評価の方法

定期テストは実施しませんが、教員養成の科目なので、教員としての資質に関する項目について評価します。

学生に対する評価

知識力を問うレポート(4回) - 20%

応用力を問うレポート(2回) - 20%

グループの活動(6回) - 30%

個人の授業内での活動をベースとする授業に対する貢献度 - 15%、

教師としての心構えに対する理解 - 15%

開講授業数の3分の2を超える出席がなければ、失格とする。

## 教科書

岡田圭子、ブレンダ・ハヤシ、嶋林昭治、江原美明『基礎から学ぶ英語科教育法』(松柏社、2015)

文部科学省『高等学校学習指導要領 外国語』



91141・91142

## 国語科教育法

担当教員：荒木 奈美

4単位 通年

### 授業のねらい

国語科の授業を行うための実践的な技術や基礎知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力の向上や、幅広い価値観の構築をも目指し、教員を志すにあたっての総合的な力を育む。

### 到達目標

基礎知識・専門知識をもとに国語科の授業を計画し、状況に合った授業を展開することができるようになる。また、他者とのコミュニケーションを円滑にとり、積極的に意見交換をすることができるようになる。

### 授業方法

- ・学生による模擬授業を中心に展開する。ただし、前期ははじめの数は、担当教員による解説を行い、授業の実践例を示す。
- ・模擬授業担当者は、事前に指導案を担当教員と受講者全員に配布する。模擬授業は一人につき20分または50分（受講人数による）を行い、模擬授業後に受講者全員による質疑応答を行う。
- ・適宜、小テスト、レポートなどを課す。
- ・各時間で扱う資料等を、事前に必ず熟読して授業に臨むこと。
- ・事後には、模擬授業担当者は反省などを行い、生徒役であった者も自分の模擬授業などに活かすために「ふりかえり」を行うこと。

### 授業計画

第1回：ガイダンス 学習指導要領国語科の目標と改訂の要点

### 成績評価の方法

模擬授業（50%）、小テスト（30%）、提出物・レポート等（10%）、授業への参加状況（10%）

### 履修にあたっての注意

- ・初回から欠席・遅刻厳禁
- ・中高生に国語を教えられだけの基礎学力をつけてから受講すること。第1回の授業では、試験範囲指定なしで大学入試レベルの国語学力チェックテストを行うので準備しておくこと（年間で計6回行う）
- ・教員になるという自覚をしっかりと持ち、毎回積極的に授業に参加すること
- ・履修者は、日本語・日本文学科の学生のみとする。

### 教科書

財前 謙『現代文－高校中級用（発展30日完成【41】）』（日栄社、2004、ISBN：4816811419）  
 芦田川 康司『古文－高校中級用（発展30日完成【42】）』（日栄社、2004、ISBN：4816811427）  
 佐藤 雅一『漢文－高校中級用（発展30日完成【43】）』（日栄社、2005、ISBN：4816811435）

### 教科書・参考書に関する備考

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語』（平成29年版）  
『高等学校学習指導要領解説 国語』（平成22年版←最新版が出たらすぐに差し替える）pdf版を授業で配布します。

91151

## 書道科教育法 I

担当教員：押上 万希子

2単位 前期

### 授業のねらい

高校の芸術科書道は選択科目です。そのため、高校書道の免許は取得したいけれど、高校時代に書道の授業を受けたことがないという人もいるでしょう。書道 I では何を教えなければならないのか、どんな風に教えたらいのか、授業実践をしながら学んでいきます。

### 到達目標

- ①書道 I の内容を表現・鑑賞の両領域から理解し指導に活かすことができる。
- ②学習指導要領をふまえ、学習指導案の作成及び授業実践をすることができる。

### 授業方法

高等学校書道科 I の内容を中心に、講義・実習・模擬授業・研究協議を合わせて授業を進める。

### 授業計画

- 第1回 学習指導要領の内容、国語科における書写指導と芸術科書道の相違について
- 第2回 漢字の書（楷書）における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第3回 模擬授業・楷書①九成宮禮泉銘・孔子廟堂碑
- 第4回 模擬授業・楷書②雁塔聖教序・顔氏家廟碑
- 第5回 かなの書における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第6回 模擬授業・かな①単体・連綿
- 第7回 模擬授業・かな②高野切第三種
- 第8回 漢字の書（行書）と漢字仮名交じりの書における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第9回 模擬授業・行書 争座位稿
- 第10回 模擬授業・漢字仮名交じりの書 名筆に学ぶ、蘭亭序と争座位稿を掲げ所にして
- 第11回 漢字の書（篆書・隸書・草書）における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第12回 模擬授業・篆書 泰山刻石
- 第13回 模擬授業・隸書 曹全碑と居延漢簡
- 第14回 模擬授業・草書 書譜
- 第15回 篆刻における学習指導について、まとめ

### 成績評価の方法

授業での取組（40%）、実習課題（30%）、最終課題（30%）

### 履修にあたっての注意

一人一回は模擬授業ができるようにするため、受講人数によってはシラバスの変更があります。  
教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、4回以上の欠席は評価を不認定とします。

### 教科書

『高等学校指導要領解説 芸術』（文部科学省）  
『書道 I』（教育出版）

### 教科書・参考書に関する備考

初回に説明します。

### 参考書

『書の古典と倫理—全国大学書道学会編』（光村図書）

91161

## 書道科教育法Ⅱ

担当教員：押上 万希子

2単位 後期

### 授業のねらい

高校の芸術科書道は選択科目です。そのため、高校書道の免許は取得したいけれど、高校時代に書道の授業を受けたことがないという人もいるでしょう。書道Ⅱ・Ⅲでは何を教えなければならないのか、どんな風に教えたらいいいのか、授業実践をしながら学んでいきます。

### 到達目標

- ①書道Ⅱ・書道Ⅲの内容を表現・鑑賞の両領域から理解し指導に活かすことができる。
- ②学習指導要領をふまえ、学習指導案の作成及び授業実践をすることができる。

### 授業方法

高等学校書道科Ⅱ・Ⅲの内容を中心に、講義・実習・模擬授業・研究協議を合わせて授業を進める。

書道科教育法Ⅰ・Ⅱともに

事前に授業範囲に該当する指導要領・教科書のページを通覧しておいてください。

事後学習として、配布したプリントの読み込みや、模擬授業を元に指導案・ワークシートの手直しをしてください。

### 授業計画

- 第1回 現行学習指導要領と次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ
- 第2回 漢字の書（篆書）における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第3回 模擬授業・篆書 金石文・甲骨文
- 第4回 篆刻における学習指導について、学習指導計画の作成
- 第5回 篆刻実習 簡易的な方法で
- 第6回 かなの書における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第7回 模擬授業・かな①三色紙
- 第8回 模擬授業・かな②創作
- 第9回 漢字の書（隸・草・行・楷書）と漢字仮名交じりの書における学習指導について、学習指導計画の作成、実習
- 第10回 模擬授業・隸書
- 第11回 模擬授業・草書
- 第12回 模擬授業・行書
- 第13回 模擬授業・楷書
- 第14回 模擬授業・漢字仮名交じりの書
- 第15回 日常の書等の学習指導について、まとめ

### 成績評価の方法

授業での取組（40%）、実習課題（30%）、最終課題（30%）

### 履修にあたっての注意

書道科教育法Ⅰを履修してから受講してください。

一人一回は模擬授業ができるようにするため、受講人数によってはシラバスの変更があります。

教務課を通した「欠席届」のあるものは別として、4回以上の欠席は評価を不認定とします。

### 教科書

『高等学校指導要領解説 芸術』（文部科学省）

『書道Ⅱ』（教育出版）

『書道Ⅲ』（教育出版）

### 教科書・参考書に関する備考

初回に説明します。

### 参考書

『書の古典と倫理—全国大学書道学会編』（光村図書）

91171

## 社会科学系教育法 I

担当教員：中田 貢

2 単位 前期

### 授業のねらい

- ・ 中学校社会科免許のみを取得する学生、高校地歴科免許のみを取得する学生もしくはその両免許を取得する学生、さらに中学校社会科・高校地歴科・高校公民科のすべての免許を取得する学生を対象とする。
- ・ 中学校社会科免許、高校地歴科免許を取得する学生は必修となる。
- ・ 社会科学系の免許を取得する学生に対し、教科の目標及び内容について理解することができるよう目指す。

### 到達目標

- ・ 社会科学系の教科の免許を取得し、教職員をめざす学生が教育者として教科教育の基礎的な資質を身につけることができる。
- ・ 中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）を理解するとともに、高校地歴科との関連を考察することができる。

### 授業方法

- ・ 講義形式と学生による発表・模擬授業により、授業を展開する。
- ・ 講義形式の授業においては授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を行うこと。
- ・ 発表・模擬授業においては発表者などは事前に指導案の作成を行い、それ以外の者も事前学習を十分に行った上で授業に臨み、議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

### 授業計画

- 第1回 社会科学教育の変遷と今後の方向性
- 第2回 中学校社会科改訂の趣旨と要点
- 第3回 地理的分野の改訂の要点と目標
- 第4回 地理的分野の内容と内容の取扱い(1)：世界の様々な地域
- 第5回 地理的分野の内容と内容の取扱い(2)：日本の様々な地域
- 第6回 地理的分野の内容と内容の取扱い(3)：地理情報・地図の活用に関する技能
- 第7回 歴史的分野の改訂の要点と目標
- 第8回 歴史的分野の内容と内容の取扱い(1)：歴史のとらえ方・古代までの日本
- 第9回 歴史的分野の内容と内容の取扱い(2)：中世の日本・近代の日本
- 第10回 歴史的分野の内容と内容の取扱い(3)：近代・現代の日本と世界
- 第11回 学習指導案の作成：学習指導案の書き方
- 第12回 地理的分野の指導の実際(1)：日本の諸地域
- 第13回 地理的分野の指導の実際(2)：世界の諸地域
- 第14回 歴史的分野の指導の実際(1)：古代までの日本・中世の日本
- 第15回 歴史的分野の指導の実際(2)：近代・現代の日本と世界

### 成績評価の方法

定期試験（50％）、授業への取組状況（30％）、課題（20％）により評価する。  
3回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。  
履修者は文化総合学科の学生のみとする。

### 教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編 一部改訂』（日本文教出版、平成26年1月、ISBN：9784536590051）  
国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』（教育出版、平成23年、ISBN：9784316300450）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：別途指示

### 参考ホームページ

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所

91181

## 社会科学系教育法Ⅱ

担当教員：中田 貢

2単位 後期

### 授業のねらい

- ・ 中学校社会科免許のみを取得する学生、高校公民科免許のみを取得する学生もしくはその両免許を取得する学生、さらに中学校社会科・高校地歴科・高校公民科のすべての免許を取得する学生を対象とする。
- ・ 中学校社会科免許、高校公民科免許を取得する学生は必修となる。
- ・ 社会科学系の免許を取得する学生に対し、教科の目標及び内容について理解することができるよう目指す。

### 到達目標

- ・ 社会科学系の教科の免許を取得し、教職員をめざす学生が教育者として教科教育の基礎的な資質を身につけることができる。
- ・ 中学校社会科（公民的分野）の内容を理解するとともに、高校公民科との関連を考察することができる。

### 授業方法

- ・ 講義形式と学生による発表・模擬授業により、授業を展開する。
- ・ 講義形式の授業においては授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を行うこと。
- ・ 発表・模擬授業においては発表者などは事前に指導案の作成を行い、それ以外の者も事前学習を十分に行った上で授業に臨み、議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

### 授業計画

- 第1回 中学校社会科改訂の趣旨と要点
- 第2回 公民的分野の改訂の要点と目標
- 第3回 公民的分野の内容と内容の取扱い(1)：私たちと現代社会・私たちと経済
- 第4回 公民的分野の内容と内容の取扱い(2)：私たちと政治
- 第5回 公民的分野の内容と内容の取扱い(3)：私たちと国際社会の諸問題
- 第6回 中学校社会科の指導計画作成と配慮事項
- 第7回 中学校社会科における評価の在り方
- 第8回 指導方法の改善と工夫(1)：資料の収集・選択、読み取り・解釈
- 第9回 指導方法の改善と工夫(2)：観察、見学及び調査・研究
- 第10回 指導方法の改善と工夫(3)：発表・報告書
- 第11回 学習指導案の作成
- 第12回 教材開発の新しい視点(1)：地理的分野、歴史的分野との関連を図り、その学習の成果を生かす工夫
- 第13回 教材開発の新しい視点(2)：知識を活用し、説明したり意見をまとめさせたりして、思考力・判断力・表現力等を養うこと
- 第14回 教材開発の新しい視点(3)：身近な地域の生活や我が国の取組との関連性に着目させること
- 第15回 教材開発の新しい視点(4)：国際社会における文化や宗教の多様性についても触れること

### 成績評価の方法

定期試験（50％）、授業への取組状況（30％）、課題（20％）により評価する。  
3回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

### 履修にあたっての注意

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。  
履修者は文化総合学科の学生のみとする。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：別途指示

### 参考ホームページ

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所



91191

**地歴科教育法**

担当教員：中田 貢

2 単位 後期

**授業のねらい**

- ・高校地歴科免許のみを取得する学生、中学校社会科と高校地歴科の両免許を取得する学生、高校地歴科と高校公民科の両免許を取得する学生、さらに中学校社会科・高校地歴科・高校公民科のすべての免許を取得する学生を対象とする。
- ・高校地歴科免許を取得する学生は必修となる。
- ・社会科系教育法との関連や、学習指導要領の次期改訂の方向性との関連を図りながら考察する。

**到達目標**

- ・高校地歴科免許を取得するとともに、わかる授業を展開することをはじめとして、教育者としての基礎的な資質を身につけることができる。
- ・高校地歴科の内容と、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野との関連性について考察することができる。

**授業方法**

- ・講義形式と学生による発表・模擬授業により、授業を展開する。
- ・講義形式の授業においては授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を必ず行うこと。
- ・発表・模擬授業においては発表者などは事前に指導案の作成を行い、それ以外の者も事前学習を十分に行った上で授業に臨み、議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

**授業計画**

- 第1回 地歴科教育の変遷と今後の方向性
- 第2回 地歴科の目標と科目編成
- 第3回 地歴科各科目の目標と内容構成
- 第4回 「世界史 A」 内容とその取扱い
- 第5回 「世界史 B」(1)：内容とその取扱い
- 第6回 「世界史 B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項
- 第7回 「日本史 A」 内容とその取扱い
- 第8回 「日本史 B」(1)：内容とその取扱い
- 第9回 「日本史 B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項
- 第10回 「地理 A」 内容とその取扱い
- 第11回 「地理 B」(1)：内容とその取扱い
- 第12回 「地理 B」(2)：指導計画の作成と指導上の配慮事項
- 第13回 「模擬授業」(1)：世界史 B
- 第14回 「模擬授業」(2)：日本史 B
- 第15回 「模擬授業」(3)：地理 B

**成績評価の方法**

定期試験 (50%)、授業への取組状況 (30%)、課題 (20%) により評価する。  
3 回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

**履修にあたっての注意**

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。  
履修者は文化総合学科の学生のみとする。

**教科書**

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』(教育出版、平成 22 年)  
国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校地理歴史』(教育出版、平成 24 年)

**教科書・参考書に関する備考**

参考書：別途指示

**参考ホームページ**

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所

91201

**公民科教育法**

担当教員：中田 貢

2 単位 前期

**授業のねらい**

- ・高校公民科免許のみを取得する学生、中学校社会科と高校公民科の両免許を取得する学生、高校地歴科と高校公民科の両免許を取得する学生、さらに中学校社会科・高校公民科・高校地歴科のすべての免許を取得する学生を対象とする。
- ・高校公民科免許を取得する学生は必修となる。
- ・社会科系教育法との関連や学習指導要領の次期改訂の方向性との関連を図りながら考察する。

**到達目標**

- ・高校公民科免許を取得するとともに、わかる授業を展開することをはじめとして、教育者としての基礎的な資質を身につけることができる。
- ・高校公民科の内容と中学校社会科の公民的分野との関連性について考察することができる。

**授業方法**

- ・講義形式と学生による発表・模擬授業により、授業を展開する。
- ・講義形式の授業においては授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を必ず行うこと。
- ・発表・模擬授業においては発表者などは事前に指導案の作成を行い、それ以外の者も事前学習を十分に行った上で授業に臨み、議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

**授業計画**

- 第1回 公民科教育の変遷と今後の方向性
- 第2回 公民科の目標と科目編成
- 第3回 「現代社会」の目標と内容構成
- 第4回 「現代社会」の内容とその取扱い
- 第5回 「現代社会」の指導計画と指導事例
- 第6回 「倫理」の目標と内容構成
- 第7回 「倫理」の内容とその取扱い
- 第8回 「倫理」の指導計画と指導事例
- 第9回 「政治・経済」の目標と内容構成
- 第10回 「政治・経済」の内容とその取扱い(1)：現代の政治
- 第11回 「政治・経済」の内容とその取扱い(2)：現代の経済
- 第12回 「政治・経済」の指導計画と指導事例
- 第13回 公民科指導の実際(1)：現代社会 共に生きる社会を目指して
- 第14回 公民科指導の実際(2)：倫理 現代と倫理
- 第15回 公民科指導の実際(3)：政治・経済 現代社会の諸課題

**成績評価の方法**

定期試験 (50%)、授業への取組状況 (30%)、課題 (20%) により評価する。  
3 回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

**履修にあたっての注意**

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。  
履修者は文化総合学科の学生のみとする。

**教科書**

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』(教育出版、平成 22 年)  
国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校公民』(教育出版、平成 24 年)

**教科書・参考書に関する備考**

参考書：別途指示

**参考ホームページ**

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所



91211

## 道徳教育

担当教員：大矢 一人

2 単位 後期

### 授業のねらい

道徳教育とは、「正邪・善悪に関する意識を高め、道徳的に行動する力を形成するために行う教育」（下程勇吉編『教育学小事典』、法律文化社）といわれている。この定義づけでは、正邪をどのように判断するのかといった道徳に対する考え方が見え、また行動する力をどうやって形成すればよいのかという方法についても明らかでない。本講義では、このような状況の中で、実際の道徳教育はどのように行われていくのかを中心に考察する。その際には1990年代から変化してきたとされる日本の道徳教育の方法に留意し、VTR 視聴などを行う。

### 到達目標

道徳教育の歴史と実際について理解する。

### 授業方法

- ・ 授業を大きく4つに分ける。1つめが道徳などの概念（以下の第1回）、2つめが道徳教育の現状とその理由（第2～6回）、3つめが道徳教育の場面（第7～8回）、4つめが道徳教育の方法（第9～14回）であり、その後で総括（第15回）を行う。
- ・ 2については、道徳で用いられるテキストを解説していく形で講義を行う。
- ・ 4については、2人の道徳教育論を視点として、実際の道徳の授業を分析（ビデオ視聴や読み物教材分析）する。ミニ・レポート課題を課し、翌週返却するとともに、時々プリントを配布する。
- ・ 事前事後には、配布したプリントの読みなど、復習を中心に学習をお願いします。

### 授業計画

- 第1回 道徳とは何か。道徳教育とは何か。
- 第2回 道徳教育の現状
- 第3回 戦前日本の道徳教育
- 第4回 戦中・占領期の道徳教育
- 第5回 戦後日本の道徳教育
- 第6回 「道徳の時間」はなぜ活用されないのか
- 第7回 家庭における道徳教育－道徳性の発達
- 第8回 学校における道徳教育－学習指導要領における道徳
- 第9回 村井実の道徳教育論－「徳目」の存在根拠を問う－
- 第10回 宇佐美寛の道徳教育論－事実が不足する中で「気持ち」を問うな
- 第11回 現在の「道徳の授業」実践(1)－「1%のひらめき」(中学校1年)
- 第12回 現在の「道徳の授業」実践(2)－「農園の魔法」(小学校4、5、6年)
- 第13回 現在の「道徳の時間」実践(3)－「クリーンアップキャンペーンを終えて」(中学校3年)
- 第14回 現在の「道徳の時間」実践(4)－「かぎのかかった一りん車ごや」(小学校2年)
- 第15回 道徳教育の課題と展望

### 成績評価の方法

教職に関する科目であるため、出席点を重視する。3回より多く欠席したものは不可とする。欠席した場合にも講義中に課したミニレポートを全て提出することが前提となる。その上で、期末テスト(100点)(100%)を行う。

### 履修にあたっての注意

将来教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けた授業である。すなわち、教採試験を受検することを原則とする。生半可な態度で受講してもらっては困る。毎回必ず出席のこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリント(約50枚)を中心に行う。  
参考書：別途指示する。

91221

## 特別活動

担当教員：松田 剛史

2 単位 前期

### 授業のねらい

1. 特別活動を通して児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について主体的に考える時間とする。
2. 自らが意見を持ち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。

### 到達目標

1. 特別活動の意義と教育的効果について理解することができる。
2. 教育活動としての効果的なあり方を主体的かつ協働的に考えることができる。

### 授業方法

1. 授業では以下の場面を多く設定する。
  - ・受講者参加型ですすめる学習場面
  - ・自己で学びをふりかえり、相互に気づきや学びを共有する場面
  - ・学んだことを活かしてプログラムをつくる場面
  - ・新たな知識や経験をインプットする場面
2. 事前・事後の学習としては以下に対応する意識を高くもつこと
  - ・本時およびそれまでに学習した内容に関する情報の収集とまとめ
  - ・学習指導要領や資料の読み込みなど、次時の学習内容や活動に関する準備

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 わたしの特別活動をふりかえる
- 第3回 人間形成と特別活動の教育的意義
- 第4回 特別活動の歴史の変遷
- 第5回 特別活動の内容と目標
- 第6回 学級活動・ホームルーム活動の実践
- 第7回 生徒会活動の実践
- 第8回 学校行事の実践
- 第9回 人間形成を支える諸理論
- 第10回 特別活動の新たな展開
- 第11回 特別活動を進めるための指導計画① - 特別活動の指導計画を構想する -
- 第12回 特別活動を進めるための指導計画② - 特別活動の指導計画を作成する -
- 第13回 特別活動の評価
- 第14回 特別活動を進めるための指導計画③ - 特別活動の指導計画を共有する -
- 第15回 特別活動という教育活動とは何か? - 特別活動がもたらす学びをふりかえる -

### 成績評価の方法

- ・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）（30%）・・・目標1に対応
- ・能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）（30%）・・・目標2に対応
- ・レポートや各種学習成果に関する提出物（学修度）（40%）・・・目標1.2.に対応（アドバンス）

### 履修にあたっての注意

- ・児童生徒に対して教育活動に当たることができる免許を取得することの意味をしっかりと意識した者が受講すること。
- ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
- ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して学習に臨むこと。

### 教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年3月）』（東山書房、2018年、9784827815627）  
原田恵理子、高橋知己、森山賢一、加々美肇『基礎基本シリーズ③最新特別活動論』（大学教育出版、2016年、9784864294041）

### 教科書・参考書に関する備考

- ・上記2点の教科書は必須。参考書は必要に応じてよいので、購入はマストではない。
- ・学習指導要領解説特別活動編に関して、中学校以外の免許取得を希望する者は該当する学校種のものも手に入れておくことをおすすめする。（但し、中学校学習指導要領解説特別活動編は全員必須）
- ・その他の参考書については適宜情報提供する。
- ・未発刊の平成29年改訂学習指導要領解説編はweb上で公開されている。本取り扱いについては講義時間内に追って連絡する。

### 参考書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』（海文堂出版、2009年、ISBN：9784303126308）  
文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』（東洋館出版社、2008年、ISBN：9784491031903）  
天笠茂『中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』（明治図書、2008年、ISBN：9784188443156）

91231

## 教育方法論

担当教員：大矢 一人

2 単位 前期

### 授業のねらい

教育方法とは「教育目的を児童・生徒に効果的に伝える技術・手段」とされる。本講義では、授業方法に記した4つの観点と、学習指導案の作成について、授業を行う。

### 到達目標

教育の方法について、下記の4点との関係から理解する。  
学習指導案について、最低限、形式的な書き方を理解し、作成することができる。

### 授業方法

- ・原則として1回でひとまとまりの授業をおこない、その流れは次の4つの観点からなる。
- 1、教育者・学習者と方法の関係－「教授中心主義と学習中心主義」「教授＝学習過程」
- 2、教育評価－測定から評価へ、「結果」から「過程」の評価へ、生徒指導要録と通信簿
- 3、教育内容と方法の関係－「学習指導の原理と実際（導入・板書の意義）」「授業と学習指導案」
- 4、教育環境と方法の関係－「学級と一斉教授」「教育の個別化（オープンスクール、コンピュータ教授）」
- ・教育方法の授業であるので、プリントはもちろん、OHC・ビデオ・DVD・ブルーレイなどの視聴覚機器を用い、さらに電子黒板などの使い方についても指導する。
- ・事前事後には、配布したプリントの読みなど、復習を中心に学習をお願いします。
- ・第11～13回については指導案のミニレポートを提出してもらいます。翌週には解説プリントとともに返却します。

### 授業計画

- 第1回 講義「教育方法論」のオリエンテーション  
－教育における「方法」の位置づけ、「方法」をとらえる4つの視点
- 第2回 教授と学習の考え方－教授中心主義と学習中心主義
- 第3回 教授＝学習過程への統合－子どもの知的好奇心と向上心、「発見学習」の原理と実際
- 第4回 教育評価 7つの評価（基準と流れにおける評価）
- 第5回 学習指導の原理－学習指導原理の種類（自発性・経験・練習作業・個性化と社会化）
- 第6回 学習指導の実際－学習過程と指導の技術（導入・板書・発問・副教材・まとめ・全体の流れ）
- 第7回 学級教授の移り変わり  
－個人指導から一斉指導への展開、「学級で学ぶこと」の意味
- 第8回 オープンスクールとは何か－授業の個別化
- 第9回 個別学習の実際と学級の意味  
－プログラム学習とCAI（ビデオ視聴など）、ICTと電子黒板
- 第10回 学習指導案とは何か－指導案の意味（算数の授業をもとにして）
- 第11回 学習指導案の作成方法(1)（形式面）  
－「He is a good baseball player」の使い方（中学英語）の視聴と指導案の作成
- 第12回 学習指導案の作成方法(2)（形式面から内容面へ）  
－「家族会議と購入」（中学家庭）の視聴と指導案の作成
- 第13回 学習指導案の作成方法(3)（内容面）  
－「家族会議と購入」（中学家庭）の再視聴と指導案の書き方
- 第14回 「単元の評価基準」と「本時の計画における評価の方法」
- 第15回 講義「教育方法論」のまとめ、そして夏休み課題へ

### 成績評価の方法

教職に関する科目であるため、出席点を重視する。

3回より多く欠席したものは不可とする。欠席した場合にも講義中に課した指導案作成を全て提出することが前提となる。その上で、期末テスト（100点）（100%）を行う。

### 履修にあたっての注意

将来教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けた授業である。すなわち、教採試験を受検することが原則である。生半可な態度で受講してもらっては困る。毎回必ず出席のこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリントを約50枚程度配布する。

### 参考書

文部科学省『中学校学習指導要領』  
文部科学省『高等学校学習指導要領』

91251

**生徒指導**

担当教員：中田 貢

2 単位 前期

**授業のねらい**

生徒指導の意義と役割を理解し、具体的な個別の対応について考察する。

**到達目標**

生徒指導の基礎的な概念を理解するとともに、生徒指導が教育活動全体を通じて展開されるものであることを認識し、実践的な指導のあり方を身につけることができる。

**授業方法**

- ・講義形式と学生による発表・演習等により授業を展開する。
- ・講義形式の授業においては、授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を行うこと。
- ・発表・演習等においては、発表者などが事前に作成した資料等をもとに発表者以外の学生も事前学習を十分に行い議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

**授業計画**

- 第1回 オリエンテーション～生徒指導と児童生徒の成長～
- 第2回 生徒指導の意義と原理
- 第3回 教育課程と生徒指導
- 第4回 教科における生徒指導
- 第5回 児童生徒の心理と児童生徒理解
- 第6回 学校における生徒指導体制
- 第7回 生徒指導のための教員の研修
- 第8回 児童生徒全体への指導
- 第9回 学級担任・ホームルーム担任の指導
- 第10回 個別の課題を抱える児童生徒への対応
- 第11回 問題行動の早期発見と効果的な指導
- 第12回 生徒指導に関する法制度等
- 第13回 学校と家庭・地域・関係機関との連携
- 第14回 進路指導とキャリア教育
- 第15回 生徒指導とキャリア教育

**成績評価の方法**

レポート（60%）、授業への主体的な取組状況（40%）により評価する。

3回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

**履修にあたっての注意**

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。

**教科書**

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書、平成22年）

**教科書・参考書に関する備考**

参考書：別途指示

**参考ホームページ**

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所

91261

**教育相談**

担当教員：中田 貢

2 単位 後期

**授業のねらい**

教育相談は、一人一人の生徒の自己実現をめざし、本人または保護者などに、その望ましい在り方を助言することである。

**到達目標**

教師をめざす学生が教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論および方法を学ぶことにより、資質の向上を図ることができる。

**授業方法**

- ・講義形式と学生による発表・演習等により、授業を展開する。
- ・講義形式の授業においては授業で配付したプリントを復習教材として事後学習を行うこと。
- ・発表・演習等においては、発表者などが事前に作成した資料等をもとに発表者以外の学生も事前学習を十分に行い議論を通して主体的に取り組めるよう授業を展開する。

**授業計画**

- 第1回 学校における教育相談の特質
- 第2回 教育相談と生徒指導
- 第3回 教育相談の基本
- 第4回 教育相談と生徒理解
- 第5回 学級担任・ホームルーム担任が行う学校教育相談
- 第6回 授業者が行う学校教育相談
- 第7回 個別の課題に対応した教育相談(1)：学業相談
- 第8回 個別の課題に対応した教育相談(2)：いじめ
- 第9回 個別の課題に対応した教育相談(3)：不登校
- 第10回 個別の課題に対応した教育相談(4)：自殺
- 第11回 個別の課題に対応した教育相談(5)：高校中途退学
- 第12回 個別の課題に対応した教育相談(6)：その他の問題行動
- 第13回 個別の課題に対応した教育相談(7)：キャリア・カウンセリング
- 第14回 教師のための教育相談(1)：管理職・養護教諭等との連携
- 第15回 教師のための教育相談(2)：SC・SSW との連携

**成績評価の方法**

レポート（60%）、授業への取組状況（40%）により評価する。

3回を超える欠席者に対しては、単位を認定しない。

**履修にあたっての注意**

卒業後、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものであることから、教員採用試験を受検することを原則とする。

**教科書**

文部科学省『生徒指導提要』（教育図書、平成22年）

**教科書・参考書に関する備考**

参考書：別途指示

**参考ホームページ**

文部科学省、北海道教育委員会、北海道立教育研究所



91351

## 教育実習 I A

担当教員：大矢 一人

1 単位 後期

## 授業のねらい

- 教育本実習に向けて、以下の内容の講義・演習を行う。
- 1) 教育実習の意義・目的および教育実習の内容について
  - 2) 観察実習の方法について～VTR 視聴と記録の取り方
  - 3) 学習指導案の作成について～教材研究と指導案作成

## 到達目標

実習生としての態度、素養を身に付ける。

## 授業方法

- ・教育本実習へ向けて、総仕上げの意味をもつ授業である。
- ・その内容は、上記のねらいにあるとおり、3点ある。とくに「観察実習の方法」と「学習指導案の作成」が中心となる。前者については計7種の授業を視聴して、練習を行う。その「観察記録」は毎回提出してもらうが、翌週解説プリントとともに返却する。また後者については、教育方法論の夏休みの課題であった指導案と冬休み課題を通して、完全にマスターする。課題は第15回の授業で個人個人に解説をまじえながら返却し、さらに10枚以上の解説プリントを配布して説明する。
- ・事前事後には、配布したプリントの読みや添削した内容の確認など、復習を中心に学習をお願いします。

## 授業計画

- 第1回 教育実習へむけて
- 第2回 学習指導案の作成(1)～夏休みの指導案をもとに
- 第3回 学習指導案の作成(2)～「単元の評価基準」と「本時の計画における評価の方法」
- 第4回 教育実習の意義と目的
- 第5回 観察実習の実践(1)～「オツベルと象」(中学国語)
- 第6回 観察実習の実践(2)～「北海道の稲作農家」(中学社会)
- 第7回 観察実習の実践(3)～「ヘンリー・ムーア」(高校英語)
- 第8回 観察実習の実践(4)～「夏の日の歌」(高校国語)
- 第9回 観察実習の実践(5)～「フランス革命」(中学社会)
- 第10回 教材研究の方法～「ワクワク授業スペシャル-私の教え方」
- 第11回 観察実習の実践(6)～「動名詞の使い方」(中学英語)
- 第12回 観察実習の実践(7)(8)(9)～「Twice Bombed Twice Survived」(高校英語)「トロッコ」(中学国語)「ブツダの教え」(高校公民) 各学科に分かれて視聴・分析
- 第13回 研究授業・教育実習の反省と冬休み課題
- 第14回 教育実習先輩の話
- 第15回 冬休み課題の分析と教育本実習へ向けて

## 成績評価の方法

教職に関する科目であるため、出席を重視する。3回より多く欠席したものは不可とする。講義中に観察記録(7回)・学習指導案(1回)を提出する(100%)。観察記録・学習指導案をすべて提出した者で、それぞれB以上の成績の場合、単位を認定する。

## 履修にあたっての注意

将来、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものである。すなわち、教員採用選考検査を受検することが原則である。生半可な態度で受講してもらっては困る。毎回必ず出席すること。

## 教科書

北海道教職課程研究連絡協議会編『教育実習の手引き 第6版』(学術図書出版、2010年)

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：プリントを約60枚配布する。  
参考書：別途指示する。

91361

## 教育実習 I B

担当教員：大矢 一人

1 単位 通年

## 授業のねらい

教育本実習を直前にして、実習の事前・事後指導として、以下の内容の講義・演習を行う。

- 1) 教育実習日誌の書き方と学習指導案作成の確認、「実習課題」の設定方法
- 2) 観察実習の実践と教材研究のあり方の確認
- 3) 様々な学校における教育実習
- 4) 教育実習の反省およびさらなる課題へ向けて

## 到達目標

教壇にたつて授業を行うという、教師としての最低限の職務を果たすことができる。

自分の教育実習をふまえ、さらなる課題を見つけるための反省を行う。

## 授業方法

教育本実習前においては、日誌の書き方など事務的な内容を含めて、講義形式の確認の授業を行う。そのうえで、各自が本実習を行っている最中においては、大学にいる学生に対して、上記の2)～3)をVTR視聴などを通じて行う。さらに、本実習終了後において4)について、講義形式で授業を行う。

事前事後には、配布したプリントの読みや添削した内容の確認など、復習を中心に学習をお願いします。

## 授業計画

- 第1回 教育実習へ向けて -教育実習までの流れの再確認と調査書記入
- 第2回 教育実習日誌の書き方(1) -実習前に書いておくべきこと、事務的な内容
- 第3回 教育実習日誌の書き方(2) -観察記録・指導案の記入方法
- 第4回 教育実習課題の設定
- 第5回 教育実習中の活動 -教員への連絡・挨拶
- 第6回 教育実習事後の活動 -お礼状の書き方、実習課題レポートの作成の方法
- 第7回 観察実習の実践と教材研究のあり方(1) -教材研究の重要性(小学校・社会)
- 第8回 観察実習の実践と教材研究のあり方(2) -コミュニケーションの重要性(小学校・外国語活動)
- 第9回 様々な学校と教育実習(1) -小さい学校での教育実習
- 第10回 様々な学校と教育実習(2) -通信制高等学校の教育
- 第11回 様々な学校と教育実習(3) -小学校での食教育
- 第12回 教育実習の反省(1) -教科を教えるための力量(履修カルテも含めて)
- 第13回 教育実習の反省(2) -教職の教養(教採試験をふまえて)
- 第14回 教育実習の反省(3) -教える技術
- 第15回 教職へ向けて -教職実践演習へ向けて

## 成績評価の方法

教職に関する科目であるため、出席を重視する。3回より多く欠席した者は不可とする。講義中に観察記録(5回)を提出し、さらに「教職課程の4年間」の文書の一部作成する(100%)。これらを全て提出し、成績がB以上である場合に単位を認定する。また、教育実習を終えた者は「実習課題レポート」を提出する。

## 履修にあたっての注意

将来、教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものである。すなわち、教員採用選考検査を受検することが原則である。生半可な態度で受講してもらっては困る。毎回必ず出席すること。

## 教科書

北海道教職課程研究連絡協議会編『教育実習の手引き 第6版』(学術図書出版、2010年)

## 教科書・参考書に関する備考

教科書：それ以外に、プリントを約50枚配付する。



91371

## 教育実習Ⅱ

担当教員：中田 貢

2単位 通年

## 授業のねらい

「教育実習Ⅱ」はこれまで修得した理論や技術を中学校、高等学校の教育現場に応用し実践的な体験をとおして検証する実践的な研究である。

## 到達目標

教職員として教育実践の場に生かすことのできる指導技術を習得することとともに、生徒に直接触れる場をとおして教育実践への意欲や指導技術を高めるとともに、教育愛、生徒理解等、教師としての基本的な資質を身につける。

## 授業方法

ねらいにもあるように、教育実習Ⅱは、教育現場で実際の教育活動を行うものである。そのため、大学における授業は行わずに、すべて実習校での実践となる。ただし事後には「教育実習課題レポート」を課す。

## 授業計画

実習校での実践はおおよそ、下記のような流れとなる。

- 1 オリエンテーション（第1日目 それ以前に事前オリが行われる場合も多い）
- 2 観察実習（第2日目～ 指導教諭の授業を「観察」することをおして、「授業とは」「教育とは」を分析する実習である。学生は観察実習記録を書くこととなる）
- 3 参加実習（第2日目～ 上記の観察実習とは違い、授業中に「助手さん」的立場で、指導に当たる実習のことである。これについても、参加実習記録を書くこととなる）
- 4 授業実習（おおよそ2週間目～ 実際に教壇に立って、「教師」として授業を行う実習である。事前に「学習指導案」を作成し、それについて指導教諭の指導を受ける。また、事後にも反省を行い、次の授業実習に生かすこととなる）
- 5 研究授業（最終週の終わりあたり 実習校の先生・実習生及び大学教員の前で行う授業実習のこと。教育実習Ⅱの総仕上げとして、1時間の授業を行う。授業終了後には、反省会が開かれるのが普通である）

実習校によって日にちや観察・授業実習の回数は様々である。例えば、観察実習が中心で、授業実習があまり多くない学校がある。一方で、1週目より授業実習が始まり、観察実習はほとんど行わない学校もある。自分の希望と実習校の状況を勘案して、指導教諭と相談の上、上記の流れを決定する。なお、詳しい説明は、「教育実習ⅠA・B」で行う。

## 成績評価の方法

実習校から送付される「教育実習成績報告書」(40%)、教育実習Ⅰであらかじめテーマを定めた「教育実習課題レポート」(30%)、実習で使用した「教育実習日誌」(30%)で評価する。

## 履修にあたっての注意

『学生便覧』の「教職課程履修要項」の中の、特に「教育実習履修の要件・手続き」などを参照のこと。

## 教科書

なし

91381

## 教育実習Ⅲ

担当教員：中田 貢

2単位 通年

## 授業のねらい

「教育実習Ⅲ」はこれまで修得した理論や技術を中学校の教育現場に応用し実践的な体験をとおして検証する実践的な研究である。

## 到達目標

教職員として教育実践の場に生かすことのできる指導技術を習得することとともに、生徒に直接触れる場をとおして教育実践への意欲や指導技術を高めるとともに、教育愛、生徒理解等、教師としての基本的な資質を身につける。

## 授業方法

教育実習Ⅱと同様に、教育現場で実際の教育活動を行うものである。そのため、大学における授業は行わずに、すべて実習校での実践となる。ただし事後には「教育実習課題レポート」を課す。

## 授業計画

実習校での実践は、教育実習Ⅱと同様でおおよそ、下記のような流れとなる。

- 1 オリエンテーション（第1日目 それ以前に事前オリが行われる場合も多い）
- 2 観察実習（第2日目～ 指導教諭の授業を「観察」することをおして、「授業とは」「教育とは」を分析する実習である。学生は観察実習記録を書くこととなる）
- 3 参加実習（第2日目～ 上記の観察実習とは違い、授業中に「助手さん」的立場で、指導に当たる実習のことである。これについても、参加実習記録を書くこととなる）
- 4 授業実習（おおよそ2週間目～ 実際に教壇に立って、「教師」として授業を行う実習である。事前に「学習指導案」を作成し、それについて指導教諭の指導を受ける。また、事後にも反省を行い、次の授業実習に生かすこととなる）
- 5 研究授業（最終週の終わりあたり 実習校の先生・実習生及び大学教員の前で行う授業実習のこと。教育実習Ⅱの総仕上げとして、1時間の授業を行う。授業終了後には、反省会が開かれるのが普通である）

実習校によって日にちや、観察・授業実習の回数は様々であることは「教育実習Ⅱ」と同様である。

教育実習ⅡとⅢの違いは、取得免許の学校種による。中学校免許を取得する者は、「教育実習Ⅱ」及び「教育実習Ⅲ」を履修すること。高等学校免許のみを取得する者は、必ず「教育実習Ⅱ」を履修し、「教育実習Ⅲ」は選択となる。

よって、中学校免許・高等学校免許双方を取得する者は、「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」の双方を履修することになる。詳しいことは、「教育実習ⅠA」で説明する。

## 成績評価の方法

実習校から送付される「教育実習成績報告書」(40%)、教育実習Ⅰであらかじめテーマを定めた「教育実習課題レポート」(30%)、実習で使用した「教育実習日誌」(30%)で評価する。

## 履修にあたっての注意

『学生便覧』の「教職課程履修要項」の中の、特に「教育実習履修の要件・手続き」などを参照のこと。

## 教科書

なし

91391

## 教職実践演習（中・高）

担当教員：大矢 一人

2単位 後期

### 授業のねらい

1. 教職課程の総仕上げである教育本実習をふまえ、自分の反省を行う
2. 本授業は演習として開設し、学生の自主的・自律的な学習を重視する。

### 到達目標

上記の課題について分析および検討を行って発表を行い、自分自身の不足点を発見することができる。

### 授業方法

以下に見るように、本講義は演習であり、各個人で自分の反省点をみつけ、そのうえで個人もしくはグループごとに発表を行う。

事前には、個人もしくはグループで発表の準備を行うこと。また事後には自分自身の発表の反省とともに、他のグループの発表資料の読みなど、復習を中心に学習をお願いします。

### 授業計画

- 第1講 教職実践演習演習とは何か。  
(1)教職課程上の位置づけ  
(2)なぜ、反省が必要なのか
- 第2講 履修カルテを基にした各人の反省  
(1)教科を教えるための力量  
(2)教職の教養  
(3)教える技術
- 第3講 各グループ・個人ごとの反省課題の設定  
(1)「反省」とは何か  
(2)「分析」と「総合」の意味
- 第4～12講 反省課題に関する分析・検討－各グループ・個人による発表  
～その際には、「その反省課題を選択した理由」「反省課題の分析・検討の方法」「反省課題の分析・検討の内容」という様式のレジюмеを作成すること。  
～授業自体を行うという発表においても、上記の内容を含む簡単なレジюмеを用意すること。  
～コメンテーターが司会的な役割をする。発表を聞き、質疑応答を行った上で、他の受講者は発表に関する評価を行う。評価の際には特に、自分自身に引きつけて発表自体だけではなく、自分自身の反省も行う。  
～昨年度の発表例を以下に記す。なお、図書館に過去のレジюмеが全て保存されている。  
「アクティブ・ラーニングを取り入れた授業における生徒への働きかけの方法」  
「英語科におけるアクティブ・ラーニング」  
「主体的な学びを促す授業の工夫について」  
「コミュニケーション英語の教授法」  
「社会科における生徒の授業参加」  
「国語教材への興味・関心の持たせ方」  
「生徒の理解を深めるための授業実践」  
「国語（現代文）におけるアクティブ・ラーニング」
- 第13講 発表を終えて  
(1)「課題」探求と「反省」の難しさ  
(2)グループで行うということ
- 第14講 教職課程授業を終えて－藤女子大学の教職課程
- 第15講 「教職実践演習」のまとめ

### 成績評価の方法

発表の内容（50点）、「教職課程の4年間」の内容（50点）で評価する。また「実習課題レポート」が未提出であったものは必ず、提出すること。

### 履修にあたっての注意

将来教職に従事しようとする強い意志をもつ学生のために設けたものである。生半可な態度で受講してもらっては困る。『学生便覧』の「教職課程履修要項」を参照のこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

レジюмеを40～50枚、配付する。

91411

## 介護等体験

担当教員：大矢 一人

1単位 通年

### 授業のねらい

「介護等体験」とは、1998年4月に施行された「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教員職員免許法の特例等に関する法律」で行うことになった、学外での体験のことである。この法律によって、1998年度入学生から、小学校・中学校の教員免許を取得しようとする学生は、特別養護老人ホームなどの社会福祉施設と特別支援学校での介護等体験が義務づけられたのである。

### 到達目標

実際の体験を通じて、義務教育の現場で働く際に、人としての尊厳をお互いに尊重して社会連帯の意識を深める。

### 授業方法

介護等体験は、以下に見るように社会福祉施設と特別支援学校での体験である。よって、授業はオリエンテーションのみであり、ここでは講義とともにDVD視聴を行う。

事後において「介護等体験の記録」を書き、体験の総括を行う。

### 授業計画

介護等体験は、次の内容で構成される。

#### 1) 事前指導

4月上旬 介護等体験に関する説明会

(社会福祉施設での介護等体験の申し込みの仕方の説明など)

6月 特別支援学校での介護等体験のオリエンテーション

(全体のそれと各体験校についてのそれを2度に分けて行う)

7月下旬 社会福祉施設での介護等体験のオリエンテーション

2) 社会福祉施設での介護等体験(5日間)～夏休み・冬休みのいずれかに行う。

3) 特別支援学校での介護等体験(2日間)

事前指導は、時間割にのっておらず、教職課程の授業もしくは、空きコマを利用して行う。これに参加しないものは介護等体験を受けることはできない。社会福祉施設の事前指導は夏休み前に、特別支援学校の事前指導は、体験1ヶ月前頃に行われるのが通常である。

5日間の社会福祉施設での介護等体験は、4月に学生の希望を大学が取りまとめ、北海道社会福祉協議会が体験先・実施時期を決定する。本学での実施時期は原則として、夏休み・冬休みの時期となる。

2日間の特別支援学校での介護等体験は、大学が教育委員会に書類を提出し、体験校と時期が5月中旬以降に決定する。昨年度の場合、6月上旬から10月末にかけて、2つの特別支援学校において6つのグループにわかれて行われた。今年度の場合どうなるのかは今のところ、未定である。

### 成績評価の方法

終了後、「介護等体験証明書」および「介護体験の記録」を必ず提出する。「介護等体験証明書」の提出を前提にして、「記録」の内容によって成績を判断する(100%)。

### 履修にあたっての注意

本体験は、教員採用選考検査を受けることを原則として、中学校の教員免許状を取得しようとする学生のために設けたものである。対外活動であることを十分認識し、責任をもった体験をしてほしい。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：ともに図書館の指定図書に多数あります。

### 参考書

『介護等体験ガイドブック フィリア』(ジ アース教育新社、2014年)

『第4版 よくわかる社会福祉施設』(全国社会福祉協議会、2015年)

『フィリアⅡ ルールとマナー』(ジ アース教育新社、2014年)

# 圖書館情報學課程





j0201

## 生涯学習概論

担当教員：塚田 敏信

2単位 前期

### 授業のねらい

生涯学習および社会教育の本質と意義の理解を図り、関係する法律や国・地方自治体等の取り組み、学校教育・家庭教育との関連、並びに各種社会教育施設での実践に学びながら、専門的職員の役割や学習活動への支援の基本とその重要性を、具体的事例を通して理解する。

### 到達目標

なぜ生涯学習が必要なのか、そこで図書館はどのような役割を果たすことが出来るのかを自分の言葉で説明できるようになることをめざす。

### 授業方法

授業は講義形式を中心とし、随所で受講者の体験や考えを引き出し、ディスカッションをまじえながら進めていく。

### 授業計画

- 第1回 はじめに～図書館情報学と生涯学習概論
- 第2回 生涯学習の理念と生涯学習教育のあゆみ
- 第3回 現代社会における生涯教育の意義と役割
- 第4回 学校教育・社会教育・家庭教育
- 第5回 生涯学習の内容と方法
- 第6回 生涯学習関連施設の役割～公民館など
- 第7回 生涯学習関連施設の役割～図書館
- 第8回 生涯学習関連施設の役割～博物館など
- 第9回 生涯学習における学習情報の種類とその提供
- 第10回 地域社会と学習の場～学習への支援と学習成果の評価と活用
- 第11回 まちづくりと生涯学習～企画発表
- 第12回 地域に根ざした生涯学習の実践～企画発表
- 第13回 生涯学習社会におけるこれからの図書館サービスとその役割～企画発表
- 第14回 生涯学習における図書館員と図書館利用者～企画発表
- 第15回 まとめ～生涯学習社会に向けて

### 成績評価の方法

定期試験（50％）レポート等の提出物（30％）授業への参加状況（20％）により評価する。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書 とくに使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。  
参考書 講義の中で紹介する。

j0211

## 図書館概論

担当教員：平井 孝典

2単位 前期

### 授業のねらい

社会の中での図書館の役割・位置を考えます。図書館情報学課程の受講者が学んだことをどのように生かしていくことができるか各自で考えていただく機会とします。

### 到達目標

- ・社会の中で図書館がどのような役割を担っているのかを理解すること
- ・将来のキャリアと図書館情報学の知識活用方法を考える機会とすること

### 授業方法

講義形式です。受け身にならないように授業理解を促す課題を毎回課します。

### 授業計画

- 第1回 図書館とは
- 第2回 図書館の法的基盤と図書館行政
- 第3回 「児童の権利条約」と図書館
- 第4回 図書館の役割(1)国立国会図書館と公共図書館
- 第5回 図書館の役割(2)大学図書館と専門図書館
- 第6回 図書館の役割(3)学校図書館
- 第7回 フィンランドの図書館(1)国立図書館と大学図書館の違い
- 第8回 フィンランドの図書館(2)公共図書館が混雑している理由
- 第9回 図書館で用いられる技術(1)
- 第10回 図書館で用いられる技術(2)
- 第11回 図書館とアーカイブズ
- 第12回 図書館と博物館
- 第13回 図書館に勤務する専門職
- 第14回 図書館情報学の知識が活用される場
- 第15回 社会における図書館の重要性

### 成績評価の方法

授業参加状況（30％）を重視し、授業時に行う課題（30％）とレポート・試験（40％）などにより評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席してください。履修者の状況により授業内容の変更もあります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義には投影資料および紙資料を用意します。投影資料は学内ネットワークにおいてアクセスできます。

j0221

## 図書館制度・経営論

担当教員：下田 尊久

2 単位 後期

### 授業のねらい

図書館の設置の根拠となる法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説する。さらに読書活動、生涯学習支援、企業や起業家へのビジネス支援のほか、医療改革、司法改革などによる社会制度を実現するため、図書館の制度、経営、人材などの役割について検討する。また情報通信技術の発展と情報電子化の現状を理解し、図書館機能とその経営の意味を考える。

### 到達目標

現代における図書館制度及びその経営の全体についての理解を深める。

図書館についてその館種毎に自らテーマ研究を行って、その違いを論じあうことができる。

### 授業方法

授業の前半は以下の授業計画にあるテーマをもとに講義形式で行う。後半は館種別のグループ研究において、各自が関心を持つテーマをもとにグループ毎に研究課題を設定して、その成果を発表することで共有する。

### 授業計画

- 第1回 図書館の理念と社会的意義
- 第2回 社会の変化と図書館の変遷
- 第3回 ICTの進歩と図書館機能
- 第4回 図書館の経営と資格制度
- 第5回 都道府県立図書館とコミュニティ図書館
- 第6回 母体組織の図書館経営とサービス評価
- 第7回 図書館経営における指定管理者制度の導入
- 第8回 図書館を支える職能団体と学術団体
- 第9回 館種別の図書館機能の特性（グループ研究）(1)
- 第10回 館種別の図書館機能の特性（グループ研究）(2)
- 第11回 館種別の図書館機能の特性（グループ研究）(3)
- 第12回 館種別研究の課題発表（グループ研究）(1)
- 第13回 館種別研究の課題発表（グループ研究）(2)
- 第14回 館種別研究の課題発表（グループ研究）(3)
- 第15回 まとめ（グループ研究の相互評価）

### 成績評価の方法

授業の参加状況（30%）、定期試験（40%）及び提出物（30%）により総合的に評価する

### 履修にあたっての注意

グループ研究においては共同企画作業に積極的に協力・参加すること

### 教科書

今まど子・小山憲司『図書館情報学基礎資料』（樹村房、2016、ISBN：9784883672660）

### 教科書・参考書に関する備考

授業時に教科書及びプリントを配付する

### 参考ホームページ

講義の中で適宜紹介する

j0231

## 図書館情報技術論

担当教員：谷川 靖郎

2 単位 後期

### 授業のねらい

今現在の図書館員・図書館業務に必要とされる基礎的な情報技術を習得するため、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料などについて理解し体験します。

### 到達目標

図書館員として必要な情報技術の基礎を理解することが目標です。

### 授業方法

授業では、図書館で主に使用される最新技術、コンピュータ及び関連の知識を習得体験していきます。コンピュータの知識がほとんどないことを前提に、担当者が手伝いながらすすめていきます。

### 授業計画

- 第1回 コンピュータの作成・サーバの準備
- 第2回 ①メールやストレージの使い方 フォルダの作成  
②htmlで自己紹介を書く
- 第3回 図書館の最新技術(1) ①コンピュータのしくみ
- 第4回 図書館の最新技術(2) ②ネットワークのしくみ
- 第5回 図書館の最新技術(3) ③データベースのしくみ
- 第6回 データベースの作成(1) サーバのMySQLにアクセス
- 第7回 データベースの作成(2) サーバのMySQLで検索・データの転送・一括入力など
- 第8回 データベースの作成(3) サーバのMySQLでメタデータを入力・データ作成
- 第9回 データベースの作成(4) サーバのMySQLでオリジナル検索を実際に作成
- 第10回 刊行におけるプログラム利用(1) 電子出版
- 第11回 刊行におけるプログラム利用(2) J-stageなど
- 第12回 刊行におけるプログラム利用(3) 体験実習
- 第13回 デジタルアーカイブズの作成(1) 画像の整理と基本の理解
- 第14回 デジタルアーカイブズの作成(2) 各自のテーマで作成
- 第15回 デジタルアーカイブズの作成(3) 各自のテーマで作成

### 成績評価の方法

授業参加状況（50%）を重視し、授業時に行う課題（30%）とレポート（20%）により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席するようにしてください。授業内容は履修者の状況により変更する場合があります。授業以外でも情報機器を用い積極的な復習をこころがけてください。

### 教科書

なし

j0232

## 図書館情報技術論

担当教員：平井 孝典

2単位 後期

### 授業のねらい

今現在の図書館員・図書館業務に必要とされる基礎的な情報技術を習得するため、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料などについて理解し体験します。

### 到達目標

図書館員として必要な情報技術の基礎を理解することが目標です。

### 授業方法

授業では、図書館で主に使用される最新技術、コンピュータ及び関連の知識を習得体験していきます。コンピュータの知識がほとんどないことを前提に、担当者が手伝いながらすすめていきます。

### 授業計画

- 第1回 コンピュータの作成・サーバの準備
- 第2回 ①メールやストレージの使い方 フォルダの作成  
②html で自己紹介を書く
- 第3回 図書館の最新技術(1) コンピュータのしくみ
- 第4回 図書館の最新技術(2) ネットワークのしくみ
- 第5回 図書館の最新技術(3) データベースのしくみ
- 第6回 データベースの作成(1) サーバの MySQL にアクセス
- 第7回 データベースの作成(2) サーバの MySQL で検索・データの転送・一括入力など
- 第8回 データベースの作成(3) サーバの MySQL でメタデータを入力・データ作成
- 第9回 データベースの作成(4) サーバの MySQL でオリジナル検索を実際に作成
- 第10回 刊行におけるプログラム利用(1) 電子出版
- 第11回 刊行におけるプログラム利用(2) J-stage など
- 第12回 刊行におけるプログラム利用(3) 体験実習
- 第13回 デジタルアーカイブズの作成(1) 画像の整理と基本の理解
- 第14回 デジタルアーカイブズの作成(2) 各自のテーマで作成
- 第15回 デジタルアーカイブズの作成(3) 各自のテーマで作成

### 成績評価の方法

授業参加状況(50%)を重視し、授業時に行う課題(30%)とレポート(20%)により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席するようにしてください。授業内容は履修者の状況により変更する場合があります。授業以外でも情報機器を用い積極的な復習をこころがけてください。

### 教科書

なし

j0281

## 図書館情報資源概論

担当教員：下田 尊久

2単位 前期

### 授業のねらい

これまで図書館が扱う資料は、印刷資料に映像資料、マイクロ資料、電子資料など館内所蔵を前提にしたものであったが、20世紀後半からはインターネットが急速に発達しネットワーク情報資源の普及が加速している。こうした背景から、これまでの「図書館資料論」は「図書館情報資源概論」となった。ここでは、その類型と特質、選択・収集・保管、生産と流通などの基礎的な知識を学ぶことが狙いである。

### 到達目標

- ①図書館情報資源の類型を挙げ、それぞれの特徴を説明できる。
- ②コレクション構築とそのプロセスを理解し、選択・収集・保管において注意すべき点を挙げるができる。
- ③情報資源の生産と流通の仕組みを理解し説明できる。
- ④図書館が扱う情報資源が変化してきている現状を説明できる。

### 授業方法

指定テキストを用いて授業を進める

### 授業計画

- 第1回 図書館情報資源とは何か
- 第2回 図書館の類型と特質
- 第3回 図書館以外の印刷資料の類型と特質
- 第4回 非印刷資料の類型と特質
- 第5回 電子資料とネットワーク情報資源の類型と特質
- 第6回 政府刊行物と地域資料の類型と特質
- 第7回 専門分野の情報資源と特質
- 第8回 コレクション構築とそのプロセス
- 第9回 資料選択のプロセス
- 第10回 資料収集のプロセス
- 第11回 資料の蓄積・保管のプロセス
- 第12回 コレクションの評価・再編のプロセス
- 第13回 情報資源の生産と流通
- 第14回 情報資源の利活用
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業参加状況(30%)と都度指定する課題(30%)及び定期試験(40%)の総合評価とする。

### 履修にあたっての注意

事前・事後学習においては、指定された教科書や参考書に限らず、他の文献や資料も参考にすること。

### 教科書

高山正也『図書館情報資源概論』(樹村房、2012、ISBN: 9784883672080)

### 参考書

馬場俊明『図書館情報資源概論』(日本図書館協会、2012、ISBN: 9784820412175)

j0291

## 情報資源組織論

担当教員：平井 孝典

2 単位 後期

## 授業のねらい

情報アクセスを容易にするには情報資源組織化の標準化とその改善工夫が必要です。また対象資料に応じ組織化の方法論などの使い分けの必要も生じます。情報資源組織化の基本を考えます。

## 到達目標

実務での情報資源組織化の考え方の基本を理解します。情報サービス演習 AB など授業での実習の準備をすることになります。

## 授業方法

講義形式です。受け身にならないように内容理解を確認する課題を毎回課します。

## 授業計画

- 第 1 回 情報資源組織化の目的
- 第 2 回 情報アクセスと情報資源組織化
- 第 3 回 目録法の基本
- 第 4 回 日本目録規則 (NCR)
- 第 5 回 電子目録とメタデータ
- 第 6 回 主題組織法
- 第 7 回 分類法(1)図書の種類と分類法の種類
- 第 8 回 分類法(2)日本十進分類法 (NDC) の概要
- 第 9 回 自然語・シソーラス
- 第 10 回 件名標目表
- 第 11 回 書誌コントロール
- 第 12 回 アーカイブズの種類
- 第 13 回 アーカイブズの目録作成
- 第 14 回 アーカイブズの配架と出納
- 第 15 回 情報資源組織化の意義

## 成績評価の方法

授業への参加状況 (50%)、レポート (50%) などにより評価します。

## 履修にあたっての注意

履修に先立ち、日常生活における「資源」の組織化を考えてみましょう。例えば冷蔵庫内の管理では、どのような「組織化」をしているのでしょうか。どうして牛乳が誰でもすぐに取りだせるのでしょうか。考えてみましょう。

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

毎回、レジュメを配布する予定です。レジュメの扱い方は最初の授業でご説明します。

## 参考書

田窪直規『改訂 情報資源組織論』(樹村房、2016、ISBN : 9784883672592)

j0441・j0442

## 図書館施設論

担当教員：下田 尊久

1 単位 前期：人間生活学部  
後期：文学部

## 授業のねらい

図書館のサービスや活動の場となる施設について、その空間を含めた構成要素をビジュアルな形で考えることによって、これまで学んだ図書館システムの理解をさらに深める。

## 到達目標

図書館の施設について、その設計に反映できる構成要素を多面的に検証し、これまで学んだ図書館システムの理解を深めることをめざす。

## 授業方法

テーマを設定し、関心のある図書館あるいは類似の機能を持つ組織について、自ら設定したテーマに基づき訪問又は Web 上で調査し、その結果得られた成果を発表し共有する。

## 授業計画

- 第 1 回 はじめに (場としての図書館)
- 第 2 回 図書館機能と建築計画
- 第 3 回 構成要素(1)サービス網とサービス水準)
- 第 4 回 構成要素(2)建築規模と動線
- 第 5 回 構成要素(3)利用、業務と外部の環境
- 第 6 回 構成要素(4)閲覧・学習スペース
- 第 7 回 構成要素(5)家具とサイン
- 第 8 回 構成要素(6)書架・所蔵スペース
- 第 9 回 構成要素(7)インターネット環境
- 第 10 回 構成要素(8)危機管理 - 防災と犯罪防止 -
- 第 11 回 図書館建築事例の検証(1)
- 第 12 回 図書館建築事例の検証(2)
- 第 13 回 図書館建築に向けた提案(1)
- 第 14 回 図書館建築に向けた提案(2)
- 第 15 回 施設としての図書館 (総括)

## 成績評価の方法

授業参加状況(30%)を重視する。また都度指定する課題(30%)及び最終レポート又は定期試験(40%)を行いその総合評価とする

## 教科書

なし

## 教科書・参考書に関する備考

参考文献、参考 web サイトは授業の中で都度紹介する

## 参考書

植松貞夫『図書館施設論』(樹村房、2014、ISBN : 9784883672127)  
福本徹『図書館施設特論』(学文社、2012、ISBN : 9784762021992)



j0241

## 図書館サービス概論

担当教員：下田 尊久

2 単位 前期

### 授業のねらい

図書館サービスは、利用者を対象とする図書館の基本的な機能である。そのサービスを考えることは図書館の存在意義あるいは使命と目的を考えることから始まる。そこでこの授業では、各種図書館のサービス内容を概観し、それぞれのサービスの果たす役割を考察することで図書館の使命に対する理解を深める。

### 到達目標

図書館の使命とサービスを理解し、図書館サービスの基本的なあり方を自ら論じたり提案したりすることが出来る。

自ら問題設定をしてグループによるテーマ研究を行いその成果を発表する。

### 授業方法

「図書館制度・経営論」で共有したテーマ研究に基づいて各種図書館が地域社会においてどのような役割を果たしているのか考えていく。

さらに実際に情報提供サービスを検証し、情報マップの作成や各種団体と協働でサービスモデルを提案する。

### 授業計画

- 第1回 図書館の機能とサービス（グループ研究）
- 第2回 図書館サービスの制度と役割（グループ研究）
- 第3回 図書館の理念とサービス基準（グループ研究）
- 第4回 地域における図書館サービス（グループ研究）
- 第5回 公共経済学からみた図書館サービス
- 第6回 資料提供サービス(1)：意義と概要（グループ研究）
- 第7回 資料提供サービス(2)：種類と内容（グループ研究）
- 第8回 利用者サービス(1)：利用サービス空間の整備
- 第9回 利用者サービス(2)：利用対象者別のサービス
- 第10回 著作権と公共貸与権
- 第11回 利用記録とプライバシーの保護
- 第12回 情報提供サービス(1)：提供情報のマッピング
- 第13回 情報提供サービス(2)：提案内容の展示発表（学内）
- 第14回 情報提供サービス(3)：公開授業によるステークスホルダーへの提案（学外）
- 第15回 成果のまとめ

### 成績評価の方法

授業参加度（30%）レポート（30%）定期試験（40%）の総合評価とする

### 履修にあたっての注意

グループ研究の成果をもとに授業内の議論に積極的に参加すること

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

適宜プリント配布

### 参考書

- 宮部頼子編『図書館サービス概論』（樹村房、2012、ISBN：9784883672042）
- 小田光宏編著『図書館サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 / 3）』（日本図書館協会、2010、ISBN：9784820409175）

j0251

## 児童サービス論

担当教員：新田 裕子

2 単位 後期

### 授業のねらい

情報化社会の中で成長する現代の子どもたちにとって図書館はさまざまな本と出会う大切な場所であり、生涯にわたって学ぶ力を身につける場でもある。子どもたちの読書能力や発達状況に応じた児童サービスの役割や意義、方法、児童資料の特性などを学び、実践的な指導法を具体的に考える。

### 到達目標

- (1) 子どもの発達状況とに応じた読書の役割を理解し、児童サービスに対する知識を習得する。
- (2) 児童資料の種類と特性を理解し、子どもと本を結びつける方法を習得する。
- (3) 児童を取り巻く読書環境について学び、発達段階に応じたサービスの実践を通して多様な児童用図書に触れる。

### 授業方法

乳幼児、児童、ヤングアダルトを対象にした図書館サービスの理念、意義、方法、評価について具体的な事例を通して解説する。グループ別に演習を行う。教科書以外にも必要な資料を提示していく。

### 授業計画

- 第1回 児童図書館、児童サービスの概要
- 第2回 図書館の発展と子どもの読書活動の動向
- 第3回 児童サービスの資料①—絵本
- 第4回 児童サービスの資料②—フィクション・ノンフィクション
- 第5回 児童資料の形成と管理
- 第6回 児童資料の実際①—資料提供・情報サービス
- 第7回 児童資料の実際②—乳幼児サービス
- 第8回 児童資料の実際③—ヤング・アダルト
- 第9回 児童資料の実際④—特別支援の必要な子どもへのサービス
- 第10回 児童サービスの実際①—読み聞かせ・ストーリーテリング
- 第11回 児童サービスの実際②—ブックトーク他
- 第12回 児童サービスの実際③—書評・ブックリスト
- 第13回 児童サービスの実際④—学習支援としてのレファレンス・サービス
- 第14回 読書環境の整備—運営・施設設備・担当者の役割
- 第15回 読書活動の推進—公共図書館と学校・地域との連携、協力

### 成績評価の方法

到達目標 1.2.3 平常点（リアクションペーパー・小テスト）50%

到達目標 2 は主に演習（30%）

到達目標 3 は主にレポートと演習（20%）

### 履修にあたっての注意

子どもたちの読書意欲を喚起するにはどのような方法が効果的なのか、問題意識をもって、図書館や書店で事前観察しておくことが望ましい。

### 教科書

堀川照代 編著『『児童サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-6）』（日本図書館協会、2014）

### 教科書・参考書に関する備考

講義の中で随時紹介する。

### 参考書

赤星隆子・荒井督子 編著『児童図書館サービス論』（理想社、2012.4、ISBN：978-650-011111）



j0301

## 情報資源組織演習 A

担当教員：平井 孝典

1 単位 前期

### 授業のねらい

利用者が図書館において情報・資料に確実にアクセスできるような資料組織化の技術を学びます。主題分析の基礎を学び、日本十進分類法（NDC）を用いた分類演習を行います。

### 到達目標

図書主題を把握し、日本十進分類法（NDC）により補助表（固有・一般）を用いて分類記号を付与することができます。

### 授業方法

配付資料による説明と演習を繰り返し、資料組織化の実際を理解できるように進めます。

### 授業計画

- 第1回 分類作業の必要性
- 第2回 資料の主題決定
- 第3回 分類作業の実際
- 第4回 NDCの構造を理解する
- 第5回 分類規程の適用
- 第6回 決め方の単純な本の分類をする(1)
- 第7回 決め方の単純な本の分類をする(2)
- 第8回 言語に関する本の分類
- 第9回 地理・歴史に関する本の分類
- 第10回 文学に関する本の分類
- 第11回 複雑な形式をもった本の分類
- 第12回 伝記・作家研究・人物研究の本の分類
- 第13回 複雑な主題をもった本の分類
- 第14回 主題を持たない本の分類
- 第15回 習得内容の確認・試験

### 成績評価の方法

授業への参加状況（30%）、定期試験と提出物（70%）により総合的に評価します。

### 履修にあたっての注意

授業内容について状況（履修者の興味関心など）を見て予定を変更することはあります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

毎回、プリントを配付します。

j0311

## 情報資源組織演習 B

担当教員：下田 尊久

1 単位 後期

### 授業のねらい

21世紀に入り、情報記録の媒体とコミュニケーションツールは多様化し、情報量は膨張し続けている。この授業では図書館などの情報提供の場において利用者が確実かつ効率的に情報にアクセス出来る環境を構築する技術の基礎を学ぶ。図書館において用いられてきた目録規則による組織化の原理と目録作成演習による書誌コントロールの基礎的スキルを身につける。

### 到達目標

- ①前期の分類法の知識をもとに BSH 等を用いて件名標目を付与することができる。
- ②NCR 等を用いて情報資源の書誌的な把握を適切に行い、第2次水準（標準）のカタログ（目録）を作成することができる。
- ③NACSIS - CAT の目録情報の構成を理解し、項目ごとの情報内容を理解できる。
- ④web 上の情報源におけるメタデータの書誌的な理解ができる。

### 授業方法

教室内に常備された NCR および BSH を貸与し、演習のツールとして用いることで習熟をはかる。

web 上のマニュアルおよび配付資料により演習を繰り返し、組織化の実際を理解できるように進める。

### 授業計画

- 第1回 記述目録法の基礎(1) - 目録規則
- 第2回 記述目録法の基礎(2) - 記述の単位と順序
- 第3回 記述目録法の基礎(3) - 書誌的事項の記述の範囲と書誌階層
- 第4回 記述目録法の基礎(4) - 主題の取扱と目録作業の実際
- 第5回 記述目録の演習(1) - 書誌情報の書き方と書誌事項における区切り記号
- 第6回 記述目録の演習(2) - 書誌記述の情報源と記述の順序
- 第7回 記述目録の演習(3) - 資料種別による書誌記述の違い I
- 第8回 記述目録の演習(4) - 資料種別による書誌記述の違い II
- 第9回 記述目録の演習(5) - NII コーディングマニュアル I
- 第10回 記述目録の演習(6) - NII コーディングマニュアル II
- 第11回 記述目録の演習(7) - NII コーディングマニュアル III
- 第12回 記述目録の演習(8) - 件名標目とメタデータ
- 第13回 記述目録の演習(9) - 件名標目とメタデータ
- 第14回 記述目録の演習(10) - 現代における記述の意味
- 第15回 情報資源の組織化（総括）

### 成績評価の方法

授業参加状況（30%）と都度指定する課題（30%）及び定期試験（40%）の総合評価とする。

### 教科書

和中幹雄、山中秀夫、横谷弘美共著『情報資源組織演習 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 / 塩見昇 [ほか] 編集、10）（日本図書館協会、2016.3）

### 教科書・参考書に関する備考

教科書のほか教室常備の NCR と BSH 及び web 上にあるマニュアルやプリントを適宜配布し演習を行う。

### 参考書

『BSH 基本件名標目表 第4版』（日本図書館協会、1999、ISBN：4820499122）

『NCR 日本目録規則 1987 版 改訂三版』（日本図書館協会、2006、ISBN：4820406027）

j0401

## 図書館基礎特論

担当教員：下田 尊久

1 単位 前期

### 授業のねらい

これまでの学びから図書館サービスを提供する様々な館種、機関、団体における図書館機能および図書館員の役割について考える。また、情報社会における人々の情報収集行動や選択評価に必要な情報リテラシーとは何かを考える。図書館の課題と図書館員に求められる専門性や資質について多角的に考えていく。

### 到達目標

議論のなかで得られた自ら描く「これからの図書館像」を論理だてて明示することが出来る。

### 授業方法

授業は、始めにこれまで学んだ図書館の諸相から検討すべき課題を掘り起こし、選んだテーマごとに議論をしていく。

### 授業計画

- 第1回 現代社会における図書館の環境
- 第2回 図書館があつかう情報資源の多様性
- 第3回 学校教育と図書館
- 第4回 地域社会と図書館
- 第5回 研究活動と図書館
- 第6回 行政と図書館
- 第7回 行政資料の保存
- 第8回 医療サービスと図書館
- 第9回 生涯学習と図書館
- 第10回 裁判員制度と図書館
- 第11回 企業活動と図書館
- 第12回 成果の発表による問題提起と議論(1)
- 第13回 成果の発表による問題提起と議論(2)
- 第14回 成果の発表による問題提起と議論(3)
- 第15回 問題提起と議論の総括

### 成績評価の方法

授業への参加状況 (30%)、小レポートの提出 (30%)、最終課題 (40%) により総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意

事前に提供する情報資源に事前に目をとおして授業に臨むこと

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

毎回プリントを配布する。

j0421

## 図書館情報資源特論

担当教員：蟹瀬 智弘

1 単位 集中

### 授業のねらい

現行の目録規則である『日本目録規則 1987 年版改訂第 3 版』の改訂版として、『日本目録規則 2018 年版』が 2018 年 12 月に刊行される予定である。この授業では、目録規則が改訂されるに至った背景と、新しい目録規則によって書誌情報がどのように変わろうとしているのか、を考える。

### 到達目標

新しい目録規則の特徴を説明できる。  
新しい目録データの技術的基礎を理解する。

### 授業方法

おもに講義とし、随時演習も行う。演習後に解説する。  
適宜リアクションペーパーを配布し、質問には次回の授業で回答する。

なお、各回の内容は適宜変更することがあり得る。

### 授業計画

- 第1回 これまでの目録規則：『国際標準書誌記述 (ISBD)』、『英米目録規則 (AACR 2) 第 2 版』、『日本目録規則 (NCR) 1987 年版』
- 第2回 書誌データの記録：MARC21、CATP
- 第3回 概念モデル：『書誌レコードの機能要件 (FRBR)』
- 第4回 新しい目録規則：『資源の記述とアクセス (RDA)』、『日本目録規則 (NCR) 2018 年版』
- 第5回 図書資料の書誌データ
- 第6回 継続資料の書誌データ
- 第7回 和漢古書の書誌データ
- 第8回 音楽資料の書誌データ
- 第9回 映像資料の書誌データ
- 第10回 文書、博物資料の書誌データ
- 第11回 書誌データの記録：XML、RDF
- 第12回 つながるデータ：LOD
- 第13回 書誌データの記録：BIBFRAME
- 第14回 新しい概念モデル：IFLA LRM
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

リアクションペーパー (30%)、適宜実施する小テストとまとめの回でのテスト (70%)

### 履修にあたっての注意

あらかじめ参考書を読んでおくこと (5 時間程度)。理解できないところは授業中およびリアクションペーパーで質問を受け付ける。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

授業時にプリントを配布する。

### 参考書

上田修一・蟹瀬智弘『RDA 入門』(日本図書館協会、2014、ISBN：978-4-8204-1319-6)

j0461

## アーカイブズ論

担当教員：平井 孝典

2 単位 前期：文学部

### 授業のねらい

記録管理の理解はあらゆる活動の場で必要となります。アーカイブズは本来、記録管理の活動と密接に関わる単語です。授業ではアーカイブズの基本的な考え方を学び、情報アクセス全般の理解を目指します。主に人文社会科学分野の資料を学部生として、将来は図書館員として扱えるようになるだけでなく、日常生活における情報整理に必要とされる考え方の理解も目指します。

### 到達目標

- ・アーカイブズと図書館の違いを理解すること
- ・日常生活における整理技術の基本を理解すること
- ・情報の整理のされ方を学ぶことで情報アクセスのスキルを向上させること

### 授業方法

講義形式です。受け身にならないように授業理解を促す課題を毎回課します。

### 授業計画

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 第1回  | アーカイブズとは               |
| 第2回  | アーカイブズと図書館の違い          |
| 第3回  | 日常生活とアーカイブズ ファイリングの考え方 |
| 第4回  | カタログの考え方と電子目録          |
| 第5回  | 記録のライフサイクルと記録継続論       |
| 第6回  | 評価選別理論 「歴史的」資料とは       |
| 第7回  | スウェーデンのアーカイブズ          |
| 第8回  | フィンランドのアーカイブズ          |
| 第9回  | フィンランドの中世カトリック教会断簡資料   |
| 第10回 | アーカイブズ法制 情報公開法の考え方     |
| 第11回 | アーカイブズ法制 個人情報保護法の考え方   |
| 第12回 | アーカイブズ法制 公文書管理法の考え方    |
| 第13回 | 国立公文書館所蔵資料の利用          |
| 第14回 | 貴重資料の利用(1)             |
| 第15回 | 貴重資料の利用(2)             |

### 成績評価の方法

授業参加状況 (30%) を重視し、授業時に行う課題 (30%) とレポート・試験 (40%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席してください。履修者の状況により授業内容の変更もあります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義には投影資料および紙資料を用意します。投影資料は学内ネットワークにおいてアクセスできます。

j0462

## アーカイブズ論

担当教員：平井 孝典

2 単位 後期：人間生活学部

### 授業のねらい

記録管理の理解はあらゆる活動の場で必要となります。アーカイブズは本来、記録管理の活動と密接に関わる単語です。授業ではアーカイブズの基本的な考え方を学び、情報アクセス全般の理解を目指します。主に人文社会科学分野の資料を学部生として、将来は図書館員として扱えるようになるだけでなく、日常生活における情報整理に必要とされる考え方の理解も目指します。

### 到達目標

- ・アーカイブズと図書館の違いを理解すること
- ・日常生活における整理技術の基本を理解すること
- ・情報の整理のされ方を学ぶことで情報アクセスのスキルを向上させること

### 授業方法

講義形式です。受け身にならないように授業理解を促す課題を毎回課します。

### 授業計画

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 第1回  | アーカイブズとは               |
| 第2回  | アーカイブズと図書館の違い          |
| 第3回  | 日常生活とアーカイブズ ファイリングの考え方 |
| 第4回  | カタログの考え方と電子目録          |
| 第5回  | 記録のライフサイクルと記録継続論       |
| 第6回  | 評価選別理論 「歴史的」資料とは       |
| 第7回  | スウェーデンのアーカイブズ          |
| 第8回  | フィンランドのアーカイブズ          |
| 第9回  | フィンランドの中世カトリック教会断簡資料   |
| 第10回 | アーカイブズ法制 情報公開法の考え方     |
| 第11回 | アーカイブズ法制 個人情報保護法の考え方   |
| 第12回 | アーカイブズ法制 公文書管理法の考え方    |
| 第13回 | 国立公文書館所蔵資料の利用          |
| 第14回 | 貴重資料の利用(1)             |
| 第15回 | 貴重資料の利用(2)             |

### 成績評価の方法

授業参加状況 (30%) を重視し、授業時に行う課題 (30%) とレポート・試験 (40%) により評価します。

### 履修にあたっての注意

授業は休まずに出席してください。履修者の状況により授業内容の変更もあります。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

講義には投影資料および紙資料を用意します。投影資料は学内ネットワークにおいてアクセスできます。

**j0031****情報サービス論**

担当教員：下田 尊久

2 単位 後期

**授業のねらい**

情報化社会における図書館情報サービスのあり方という視点から今日の図書館を考える。情報探索行動や探索プロセスを踏まえ、レファレンスサービスや情報検索サービスなど伝統的な図書館サービスによる情報ニーズへの対応や現代の情報環境における新たな情報収集行動に対する情報発信サービスについてその有効性を探る。

**到達目標**

図書館情報学課程で学んできた現代社会における図書館が果たす役割を考える。図書館における情報サービスとは何かについて自分の考えを根拠を持って論じることができるようになること。

**授業方法**

授業は以下の授業計画にあるテーマをもとに主に講義形式で行うが、なるべく議論なども行えるように時間配分を工夫する。

**授業計画**

- 第1回 現代社会の情報サービスと図書館
- 第2回 図書館における情報サービスの理念
- 第3回 情報サービスの基礎(1)：レファレンスサービスと利用案内
- 第4回 情報サービスの基礎(2)：レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
- 第5回 情報サービスの基礎(3)：データベースサービス
- 第6回 情報サービスの展開(1)：利用者支援サービスの可能性
- 第7回 情報サービスの展開(2)：主題情報の専門性に関わるサービスの可能性
- 第8回 情報サービスの展開(3)：情報源の構築と評価
- 第9回 図書館サービスにおける新しい情報源(1)：電子メディア情報源の進化
- 第10回 図書館サービスにおける新しい情報源(2)：学術情報ポータルと機関リポジトリ
- 第11回 情報ニーズと情報検索：情報探索行動と情報検索プロセス
- 第12回 web 情報源(1)インターネット検索基礎
- 第13回 web 情報源(2)インターネット情報源の進化
- 第14回 図書館情報サービスの現状と課題
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

授業参加度 (30%)、中間レポート (30%) 及び定期試験または最終課題 (40%) の総合評価とする

**履修にあたっての注意**

授業で取り扱った理論などを紹介する文献についてなるべく多く目を通すように習慣づけてください

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

参考文献および web サイトは、授業のなかで適宜紹介する

**j0261****情報サービス演習 A**

担当教員：谷川 靖郎

1 単位 前期

**授業のねらい**

図書館が行う情報サービスに関する知識や技能を実践的に学びます。実際にさまざまな情報資源を活用しつつ、情報検索、事例データベースの作成、レファレンスツールの作成を行うことで、体験を通じて実務能力を高めます。あわせて、必要な情報技術や情報機器の扱い方についても学んでいきます。

**到達目標**

情報サービスの質を高めるための実践的な力や感覚を身に付けます。

情報機器や各種ツールを活用する力を身に付けます。

**授業方法**

主に PC 教室で実務演習をし、適宜、成果発表を行います。

**授業計画**

- 第1回 文献管理ツールの活用
- 第2回 学術情報データベース (1)
- 第3回 学術情報データベース (2)
- 第4回 図書情報の検索 (1)
- 第5回 図書情報の検索 (2)
- 第6回 多言語環境
- 第7回 辞書・文字情報
- 第8回 古典籍・古文書・古写本
- 第9回 歴史・人物
- 第10回 自然科学
- 第11回 地域情報
- 第12回 マルチメディア資料 (1)
- 第13回 マルチメディア資料 (2)
- 第14回 レファレンスツールの作成と相互評価 (1)
- 第15回 レファレンスツールの作成と相互評価 (2)

**成績評価の方法**

成果発表 (40%)、相互評価 (30%)、参加状況 (30%) によります。

**履修にあたっての注意**

これまでの図書館情報学課程で学んだ知識や技術を活用し、実際に図書館員になったつもりで実習に臨んでください。主に PC 教室で行いますが、私物パソコンの持ち込みも可能です。各回の内容に関しては、履修者の状況に応じて変更することもあります。

**教科書**

なし

**参考書**

原田智子『改訂 情報サービス演習』(樹村房、2016、ISBN：9784883672677)



j0271

## 情報サービス演習 B

担当教員：平井 孝典

1 単位 後期

## 授業のねらい

前期の内容を踏まえ、後期は、データベースの種類とその特徴を概観し、具体的なテーマ検索によって各々の検索エンジンやデータベースを扱います。図書館における情報提供サービスのために必要なスキルを高めます。

## 到達目標

後期は、自らの関心に基づき探索テーマの設定をすることが出来るようになること、情報収集に相応しい検索手段を選択し、効率よく使いこなすことが出来る能力を確実にすることをめざします。

## 授業方法

実習前には必要な説明を行い、繰り返し情報アクセスの練習をしていきます。インターネット環境および学内ネットワークサービスと学内図書館サービスを適宜利用し、その効果的利用法を修得します。必要があれば情報資源組織化の復習を適宜行い、情報アクセスの基本を確認します。

## 授業計画

- 第1回 図書館における情報サービス
- 第2回 情報検索の基礎(1)：情報検索の対象と検索タイプ
- 第3回 情報検索の基礎(2)：検索における基本的な考え方
- 第4回 情報発信(1)：Web上のデータの仕組み
- 第5回 情報発信(2)：Web上のデータの作成方法
- 第6回 データベース検索の基礎：Webサイトと検索エンジン
- 第7回 データベース検索の応用(1)：図書情報の特徴と利用法
- 第8回 データベース検索の応用(2)：雑誌文献データの検索①
- 第9回 データベース検索の応用(3)：雑誌文献データの検索②
- 第10回 データベース検索の応用(4)：図書情報の特徴と利用法
- 第11回 データベース検索の応用(5)：新聞記事データの特徴と検索①
- 第12回 データベース検索の応用(6)：新聞記事データの特徴と検索②
- 第13回 図書館間相互サービスと図書館全体の利用・保存の考え方
- 第14回 情報サービス実践(1)
- 第15回 情報サービス実践(2)

## 成績評価の方法

授業参加状況(30%)、授業での課題提出(30%)及びレポート2回(40%)の総合評価とします。

## 履修にあたっての注意

授業内容について状況を見て予定を変更することはあります。

## 教科書

なし

L0011

## 学校経営と学校図書館

担当教員：新田 裕子

2 単位 前期

## 授業のねらい

学校図書館は学校で実施されるすべての教育活動と関わりをもっている。学校教育における学校図書館の果たす役割、理念、教育的意義など、学校経営と学校図書館のかかわりに関する基本的事項を学ぶ。また、学校図書館が有効に機能するための専門職員制度、学校図書館を支える法律などについても学ぶ。

## 到達目標

- ①学校図書館の理念と教育的意義を理解している。
- ②教育行政と学校図書館の関係を理解している。
- ③司書教諭と司書の具体的な任務と職務を理解し説明することができる。
- ④学校図書館活動を理解し説明することができる。

## 授業方法

講義を中心に、適宜ディスカッションやグループトークなども取り入れる。

## 授業計画

- 第1回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第2回 学校図書館の歴史
- 第3回 学校図書館の現状と課題
- 第4回 教育行政と学校図書館
- 第5回 教育課程と学校図書館
- 第6回 校内体制の構築と教職員との協働
- 第7回 司書教諭・学校司書の任務と職務
- 第8回 学校図書館の経営
- 第9回 学校図書館の施設・設備
- 第10回 学校図書館のメディア・情報資源
- 第11回 図書館協力体制とネットワーク
- 第12回 学校図書館の活動・概論
- 第13回 学校図書館活動(小・中学校)
- 第14回 学校図書館活動(高等学校・特別支援)
- 第15回 学校図書館の課題と展望

## 成績評価の方法

授業の参加状況(30%) 平常点(リアクションペーパー・小テスト)(50%) 演習(30%)を総合的に評価する。

## 履修にあたっての注意

学校図書館に関わるニュースなどはチェックして情報収集しておくこと。

## 教科書

中村百合子 編著『学校経営と学校図書館(司書教諭テキストシリーズⅡ-1)』(樹村房、2015年、ISBN:978-4-88367-251-6)

## 参考書

野口武悟・前田稔 編著『改訂新版 学校経営と学校図書館』(放送大学教育振興会、2017年、ISBN:978-4-595-31753)  
塩見昇 編著『学校教育と学校図書館(学校図書館論1)新訂3版』(教育史料出版会、2016年、ISBN:978-4-87652-536-2)



**L0021****読書と豊かな人間性**

担当教員：塚田 敏信

2 単位 前期

**授業のねらい**

読書は豊かな人間性や世界観などを育む上で重要な役割を果たす。したがって書物などの読書を通して、その魅力にふれることは、社会人としての自己形成を図る上でかなり大きな意味をもつ。そこで本科目では読書活動の重要性や発達段階に応じた読書指導のあり方などを、さまざまな具体的事例を通して学ぶ。同時に読書資料の種類や特性などを理解し、学校図書館やその他の図書館が子どもの読書にはたす役割についても考える。

**到達目標**

読書の意義を理解し、読書資料や図書館の役割をふまえながら、読書につながる環境をどのように構築したらよいかを考えることができる。

**授業方法**

講義形式を主とし、各テーマにおよび内容に沿いながら、折にふれ意見交換や個人発表などを行う。

**授業計画**

- 第1回 講義のねらいと展開
- 第2回 読むということ
- 第3回 現代における読書状況
- 第4回 子どもの読書の現状とその背景
- 第5回 発達段階と読書
- 第6回 学校図書館メディアの種類と特性
- 第7回 読書資料の種類と特性
- 第8回 読書資料をめぐる今日的状況
- 第9回 学校図書館における読書活動の種類と特性
- 第10回 学校図書館における読書活動の可能性
- 第11回 読書指導の方法
- 第12回 家庭、地域、公共図書館その他との連携
- 第13回 生涯学習と図書館
- 第14回 司書教諭の役割
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

定期試験（50％）レポート等の提出物（30％）授業への取り組み方（20％）により評価する。

**履修にあたっての注意**

自身の読書歴（本・雑誌・新聞その他）およびこれまでにかかわった学校図書館や公共図書館などについての体験をふり返っておく。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書  
とくに使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。  
参考書  
講義の中で紹介する。

**L0031****情報メディアの活用**

担当教員：平井 孝典

2 単位 後期

**授業のねらい**

情報化が進む現代社会の中で、情報メディアが学校で果たす役割を中心に考えます。レファレンスサービスや情報検索サービスを活用した情報収集と情報発信についても学びます。

**到達目標**

情報メディアを活用した学校図書館の情報サービス機能と司書教諭の役割について理解し、情報活用能力を高めます。

**授業方法**

情報検索の練習など活用方法を体験しつつ学びます。

**授業計画**

- 第1回 学校図書館の情報化
- 第2回 司書教諭とメディア専門職
- 第3回 高度情報化社会における学校図書館
- 第4回 情報メディアの特性と選択
- 第5回 視聴覚メディアの活用
- 第6回 学校図書館における情報の検索(1)
  - ・レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
  - ・オンライン検索とオンディスク検索
- 第7回 学校図書館における情報の検索(2)
  - ・情報ニーズと情報探索行動
  - ・パスファインダー
- 第8回 データベースと情報検索(1)
  - ・情報探索と情報検索
- 第9回 データベースと情報検索(2)
  - ・情報検索の実際（NDL - OPAC、CiNii）
- 第10回 インターネットによる情報活用(1)
  - ・検索サイトの利用技術
- 第11回 インターネットによる情報活用(2)
  - ・インターネット利用の問題点
- 第12回 インターネットによる情報発信(1)
  - ・Webサイト上の利用技術
- 第13回 インターネットによる情報発信(2)
  - ・リンク集の作成
- 第14回 インターネットによる情報発信(3)
  - ・学校Webサイトの作成・公開
- 第15回 学校メディアと著作権

**成績評価の方法**

授業への参加状況（30％）、レポート・課題提出（70％）により総合的に評価します。

**履修にあたっての注意**

授業内容について状況（履修者の興味関心など）を見て予定を変更することはあります。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

毎回プリントを配布します。

**L0041****学校図書館メディアの構成**

担当教員：平井 孝典

2 単位 前期

**授業のねらい**

学校図書館は学校教育において積極的に機能する必要があります。学校図書館におけるメディアの種類やその特性、さらにメディアの組織化（目録、分類）、ファイリング・システムなど一点資料の整理方法・考え方についても学びます。

**到達目標**

児童・生徒への学習支援及び教職員へのサポートが可能となるように、学校図書館におけるメディアの構成の意味を理解し、活用する技術の基礎を理解します。

**授業方法**

主として配付資料による講義を展開します。分類については練習もします。

**授業計画**

- 第1回 情報化社会と学校図書館メディア
- 第2回 学校図書館メディアの種類
- 第3回 学校図書館メディアの構築
- 第4回 学校図書館メディアの組織化
- 第5回 分類法と分類作業(1)分類法の歴史と種類
- 第6回 分類法と分類作業(2)日本十進分類法（NDC）の概要
- 第7回 図書記号および別置記号
- 第8回 件名法と件名作業(1)件名法の歴史
- 第9回 件名法と件名作業(2)基本件名標目表（BSH）の概要
- 第10回 目録法および目録の作成 日本目録規則（NCR）の概要
- 第11回 オンライン蔵書目録 OPAC の考え方
- 第12回 フィンランドにおける学校図書館メディアの活用
- 第13回 ファイリング・システムなど一点資料の整理方法
- 第14回 一点資料の電子目録
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

授業への参加状況（30%）、試験・提出物（70%）などにより総合的に評価します。

**履修にあたっての注意**

授業内容について状況（履修者の興味関心など）を見て予定を変更することはあります。

**教科書**

なし

**L0051****学習指導と学校図書館**

担当教員：塚田 敏信

2 単位 後期

**授業のねらい**

現代社会においては、私たちのまわりを膨大な量と種類の情報がとびかう。そうした環境の中で、必要な課題を見出し、その解決のためにどういう情報をどのように入手、整理し、組み立てて行けばよいのだろうか。メディア活用能力は、まわりに振り回されず主体的に生きる上で、非常に重要な意味をもつ。調べ学習や総合学習などの指導に限らず、自分で調べ、その答えを自ら見出す力の育成は、学習指導の根幹部分につながるといえよう。学校図書館の司書教諭として、子どもたちに対してだけでなく、他の教員に対しても有効なサポートが行えるよう、理論にとどまらずさまざまな実践事例を通して学習する。

**到達目標**

自らテーマを設定し、その問題解決のために学校図書館メディアを活用することができる。その学習などを通して自分と社会との接点を認識することができる。

**授業方法**

内容に応じて、講義、演習、発表を織りまぜながら展開する。

**授業計画**

- 第1回 講義のねらいと展開～学習指導と学校図書館
- 第2回 メディアとは何か
- 第3回 メディア活用能力の意義
- 第4回 学校図書館メディアの種類と活用
- 第5回 レファレンスサービスの方法
- 第6回 レファレンスブックの活用
- 第7回 教科指導と学校図書館メディア
- 第8回 調べもの学習と総合学習
- 第9回 学校図書館と地域資料サポート
- 第10回 地域学習と生涯学習
- 第11回 レファレンス演習(1)課題の発見
- 第12回 レファレンス演習(2)情報・資料の活用
- 第13回 レファレンス演習(3)まとめと伝達・保存
- 第14回 レファレンス演習実践
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

定期試験（50%）、レポートなどの提出（30%）、授業への取り組み方（20%）により評価する。

**履修にあたっての注意**

自分が知りたいことは何か、それを調べるにはどのような方法があるのか、などについて折にふれて考えるようにする。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書  
とくに使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。  
参考書  
講義の中で紹介する。

L0061

## 学校教育概論

担当教員：塚田 敏信

2単位 後期

### 授業のねらい

教育は、家庭教育、学校教育、社会教育をはじめ、さまざまな分野・領域において行われている。その中で学校教育とはどのようなものなのか、多様な事例を通して学ぶ。また現代における学校およびそこでの教育において、学校図書館が担う役割と可能性を理解する。

### 到達目標

学校教育とはどのようなものかを理解する。そのうえで学校図書館はどのような位置づけにあるのかを考え、そこで学校司書が果たす役割について、講義や演習・課題等を通して理解する。

### 授業方法

講義形式を基本とし、内容項目に応じて演習、発表を織りまぜながら展開

### 授業計画

- 第1回 はじめに～学校教育とは
- 第2回 学校教育の意義と役割
- 第3回 家庭教育と社会教育
- 第4回 教育行政と学校教育
- 第5回 教育課程と学習指導要領
- 第6回 学校教育における学校図書館の意義と役割
- 第7回 教員を取り巻く状況と学校司書の意義と役割
- 第8回 各種指導への支援と学校図書館
- 第9回 学校教育と地域
- 第10回 学校教育と生涯学習
- 第11回 学校教育に関わる現代的諸課題と学校図書館
- 第12回 学校教育における学校図書館の取り組み～演習(1)
- 第13回 学校教育における学校図書館の取り組み～演習(2)
- 第14回 学校教育における学校図書館の取り組み～演習(3)
- 第15回 まとめ～学校図書館の可能性

### 成績評価の方法

授業参加状況(30%) 各種提出物(30%) 試験または課題レポート(40%)

### 履修にあたっての注意

自分の小・中・高校時代における学校および学校図書館をふり返る。

### 教科書・参考書に関する備考

教科書はとくに使用せず、必要に応じて資料を配布  
参考書は、講義のなかで紹介する



# 日本語教員養成課程





**N0031**

## 音声学

担当教員：二村 年哉

2 単位 後期

### 授業のねらい

ねらいの一つは、日本人にとってあたりまえの発音が、実はどのようなものであるのかを実例をふまえて考察し、自らの発音を客観的に理解し、把握することです。もう一つは、非日本語母語話者にとっての音声面での習得上の問題点を考え、日本語教育における音声指導に必要な知識を身につけていくことです。

### 到達目標

1. 身近にある音声を客観的に分析することができる。
2. 効果的な音声指導法を考える力を身につけることができる。
3. 「日本語教育能力検定試験」に対応できる力を身につける。

### 授業方法

講義内で随時、他言語母語話者の日本語発話上の問題点と指導法についても扱います。講義形式で行いますが、実際に発音練習をしながら音声のしくみを体感していきますので、授業中は積極的に声を出して練習に参加してください。予習は必要ありません。ただ、週1回の授業の中だけでなく、日常生活の中で見聞きする身近な例をとらえられるように、授業でやった内容をしっかり復習し、普段から常に感度のよいアンテナを張って考察できるようにしてください。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション、諸言語の音声、音声器官と発音
- 第2回 有声音と無声音、国際音声字母 (IPA)、母音 I (第1次基本母音1)
- 第3回 母音 II (第1次基本母音2、日本語の母音)
- 第4回 母音 III (第2次基本母音、その他の母音)
- 第5回 第1回小テスト、母音 IV (母音の無声化、母音のまとめ)
- 第6回 子音 I (子音の分類と調音点・調音法1)
- 第7回 子音 II (子音の分類と調音点・調音法2)
- 第8回 子音 III (子音の分類と調音点・調音法3)
- 第9回 子音 IV (子音の二次的調音)
- 第10回 子音 V (子音のまとめ)、音素と異音
- 第11回 第2回小テスト、日本語の音素体系
- 第12回 音節とモーラ (拍)、アクセント
- 第13回 日本語のアクセント I (アクセントのルールと名詞のアクセント)
- 第14回 日本語のアクセント II (複合語のアクセント、動詞のアクセント等)
- 第15回 第3回小テスト、日本語のイントネーション、プロミネンス

### 成績評価の方法

授業への参加状況(20%)、小テスト(30%)、期末レポート(50%) (3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となります。)

### 履修にあたっての注意

音声学という科目の性格上、実践的な発音練習をしていきます。したがって、欠席するとテキストを読むだけでは理解が難しく、ついていくのが大変になるので、できる限り欠席をしないこと。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

参考書については講義内でも随時紹介します。

### 参考書

斉藤純男『日本語音声学入門 改訂版』(三省堂、2006、ISBN: 9784385345888)

田中真一/窪園晴夫『日本語の発音教室 理論と練習』(くろしお出版、1999、ISBN: 9784874241769)

松崎寛/河野俊之『日本語教育能力検定試験に合格するための音声 23』(アルク、2010、ISBN: 9784757418325)

### 参考ホームページ

IPA 国際音声字母 <http://www.coelang.tufts.ac.jp/ipa/>(主な IPA の音声を聞くことができます)

OJAD - オンライン日本語アクセント辞書 <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>(日本語教師・学習者のためのオンライン日本語アクセント辞書)

WaveSurfer ガイド <http://www.f.waseda.jp/kikuchi/tips/wavesurfer.html> (音声分析フリーソフト WaveSurfer の解説)

**N0061****対照言語学**

担当教員：副田 恵理子

2単位 前期

**授業のねらい**

この授業では主に言語行動についての対照研究を扱う。前半は様々な調査論文を読むことで、言語間の言語行動の違いや特徴について理解する。後半は実際に調査を行いデータを収集・分析することにより、調査研究に必要な知識・能力を身につけることを目指す。

**到達目標**

1. 言語間の言語行動の違いについて理解する。
2. 調査研究に必要な知識・能力を身につけ、自ら対照研究が行えるようになる。

**授業方法**

授業方法：前半は各テーマについての調査論文を読みます。後半はその論文を参考にグループに分かれて実際に調査を行い、結果を発表・議論します。

事前事後学習：授業後に授業内で扱った論文の読み直しを課します(所要時間 60分程度)。また、後半は授業時間外に各自グループに分かれて、調査準備・調査・結果分析・発表準備を進めてもらいます。学期末には、調査結果を発表した際の議論・フィードバックを踏まえてレポートにまとめてもらいます。

フィードバックの方法：発表・レポートについて評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。

**授業計画**

- 第1回 対照言語学とは
- 第2回 発話行為の対照研究
- 第3回 誘い
- 第4回 依頼
- 第5回 断り
- 第6回 言い訳
- 第7回 ほめ
- 第8回 ほめことばへの返答
- 第9回 謝罪
- 第10回 不満表明
- 第11回 慰め
- 第12回 調査発表(1)
- 第13回 調査発表(2)
- 第14回 調査発表(3)
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

到達目標1を測定する授業への参加状況 20%、到達目標2を測定する発表 30%、期末レポート 50%、により評価する。(3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。)

**履修にあたっての注意**

常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：配布プリントを使用  
参考書：授業内で紹介する

**N0071****日本語コミュニケーション技法**

担当教員：副田 恵理子

2単位 前期

**授業のねらい**

この授業では「書く」コミュニケーションスキルについて扱う。読み手の視点から見て親切でわかりやすい日本語を書くためにはどうしたらよいか議論し、どのようなスキルが必要となるのかについて考える。そして、そのスキルを活用して適切に書けるようになることを、さらに、そのスキルを日本語学習者に指導できるようになることを目指す。

**到達目標**

1. 読み手の視点から見て親切でわかりやすい日本語を書くためにどのようなスキルが必要となるのかを知る。
2. その知識を日本語で書く際に役立てることができる。
3. また、その知識を日本語指導の際に役立てることができる。

**授業方法**

授業方法：グループディスカッションを中心とした授業を行います。まず、グループに分かれてテキストにある「問題」について意見を出し合います。次に、その意見をもとに「問題」で提示されている文章を個々に書き直します。最後に、各グループで出された意見や書き直したものを発表します。

事前事後学習：毎週、学習した内容をもとに行う事後課題(文章の問題点の洗い出し、書き直し)を課します(所要時間 60分程度)。期末レポートも同様の課題3問を課します。

フィードバックの方法：提出された課題はコメントを書き込み返却します。また授業内でも口頭で解説します。

**授業計画**

- 第1回 お知らせのメール
- 第2回 レストランのメニュー
- 第3回 問い合わせのメール
- 第4回 注意書きやサービス案内
- 第5回 お願いのメール
- 第6回 お店やイベントの広告
- 第7回 わかりやすいマニュアル
- 第8回 場所や交通の案内
- 第9回 企画や提案を出す
- 第10回 日本語弱者のことを考えて書く
- 第11回 アンケート用紙を作る
- 第12回 レポートや論文を書く
- 第13回 自己アピールをする
- 第14回 掲示板やメーリングリストを使う
- 第15回 ニュースレターを作る

**成績評価の方法**

到達目標1を測定する授業への参加状況(授業内での発表など) 30%、到達目標2・3を測定する課題 40%、期末レポート 30%、により評価する。(3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。)

**履修にあたっての注意**

常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

**教科書**

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング 第2版』(ひつじ書房、2014、ISBN：978-4-89476-177-3)

N0081

## 第二言語習得概論

担当教員：副田 恵理子

2単位 後期

### 授業のねらい

この授業は第二言語・外国語習得に関する様々な実証研究を考察することで、第二言語習得の基本的な理論、習得にかかわる様々な要因について知るとともに、言語習得のメカニズムを理解することを旨とする。また、後半は実際に調査を行いデータを収集・分析することにより、調査研究に必要な知識・能力を身につける。

### 到達目標

1. 第二言語習得にかかわる様々な要因について知り、言語習得のメカニズムを理解する。
2. 調査研究に必要な知識・能力を身につけ、自ら言語習得に関する調査研究ができるようになる。

### 授業方法

授業方法：前半は各テーマについての研究論文を読みます。後半はその論文を参考にグループに分かれて実際に調査を行い、結果を発表・議論します。

事前事後学習：授業後に授業内で扱った論文の読み直しを課します（所要時間 60 分程度）。また、後半は授業時間外に各自グループに分かれて、調査準備・調査・結果分析・発表準備を進めてもらいます。学期末には、調査結果を発表した際の議論・フィードバックを踏まえてレポートにまとめてもらいます。

フィードバックの方法：発表・レポートについて評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。

### 授業計画

- 第1回 第二言語習得研究とは
- 第2回 第二言語習得研究の歴史（対照研究）
- 第3回 第二言語習得研究の歴史（誤用分析）
- 第4回 第二言語習得研究の歴史（中間言語）
- 第5回 母語の影響
- 第6回 第二言語習得に関わる要因（年齢）
- 第7回 第二言語習得に関わる要因（言語適性）
- 第8回 第二言語習得に関わる要因（学習ストラテジー）
- 第9回 第二言語習得に関わる要因（言語学習ピリーフ）
- 第10回 第二言語習得に関わる要因（動機付け）
- 第11回 第二言語習得に関わる要因（学習スタイル）
- 第12回 習得研究の教育現場への応用
- 第13回 調査発表(1)
- 第14回 調査発表(2)
- 第15回 調査発表(3)

### 成績評価の方法

到達目標 1 を測定する授業への参加状況 20%、到達目標 2 を測定する発表 30%、期末レポート 50%、により評価する。（3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。）

### 履修にあたっての注意

常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：配布プリントを使用  
参考書：授業内で紹介する

N0101

## 日本語教授法 I

担当教員：副田 恵理子

2単位 前期

### 授業のねらい

前半は日本語の指導を行う前に実施しなければならないカリキュラムの立て方や教材選択の仕方について学習する。

後半は日本語の指導方法について具体的に考える。まず、日本語の授業の一番最初に扱う文字（ひらがな・カタカナ）の指導法を考える。第8回からは日本語教育の現場で最もよく使われている初級日本語テキスト『みんなの日本語1』を用い、各課の指導内容・指導方法について考え、発表する。

### 到達目標

日本語教師として一つのコースを任されたときに、コースコーディネーターから授業実施までが一人でできるよう、基礎知識を身につける。

### 授業方法

授業方法：前半はグループごとにディスカッションをしながら授業を進めます。後半は2～3人で1グループとなり、教科書の担当課について分析・発表を行います。

事前事後学習：教科書分析や指導案の作成等の課題を課すため、授業時間外にグループで作業することが求められます。また、自身の授業が入っていない時間帯に日本語授業の見学に行き、レポートをまとめてもらいます。

フィードバックの方法：レポートに対しては評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。発表に対しては、発表後に口頭でフィードバックを行います。

### 授業計画

- 第1回 コースデザイン(1)：コースデザインの流れ
- 第2回 コースデザイン(2)：ニーズ分析
- 第3回 教材分析(1)：シラバス
- 第4回 教材分析(2)：分析方法
- 第5回 教材分析(3)：教材選択の仕方
- 第6回 文字の指導法(1)：指導案検討・模擬授業
- 第7回 文字の指導法(2)：模擬授業へのフィードバック
- 第8回 初級テキスト『みんなの日本語1』の指導法(1)：指導内容
- 第9回 初級テキスト『みんなの日本語1』の指導法(2)：指導方法
- 第10回 発表(1)：『みんなの日本語1』L7～L9の分析
- 第11回 発表(2)：『みんなの日本語1』L10～L13の分析
- 第12回 発表(3)：『みんなの日本語1』L14～L17の分析
- 第13回 発表(4)：『みんなの日本語1』L18～L21の分析
- 第14回 発表(5)：『みんなの日本語1』L22～L25の分析
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況（20%）、教科書分析レポート（30%）、授業見学レポート（10%）、発表（40%）、により評価する。（出欠に関しては次の項目参照）

### 履修にあたっての注意

- ・開始5分～20分の間は遅刻。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。遅刻・欠席には厳しく対処します。
- ・欠席は3.5回まで。4回欠席した場合には再試験対象者となります。5回を超えて欠席した場合には自動的に放棄となります。
- ・常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

### 教科書

『みんなの日本語初級1 第2版 本冊』（スリーエーネットワーク、2012、ISBN：978-4-88319-603-6）

### 教科書・参考書に関する備考

参考書：授業内で紹介する



N0111

## 日本語教授法Ⅱ

担当教員：副田 恵理子

2単位 後期

### 授業のねらい

文法に加え、話す・聞く・読む・書くなどの個々の技能を、初級クラス・中上級クラスでどのように指導したらよいか、実際の教材を参照しながら学ぶと共に、自分達で教材作成・教室活動計画等を行う。

### 到達目標

実習に向けて、初級・中上級クラスで各技能を指導する際に必要となる知識を身につける。

### 授業方法

授業方法：グループに分かれ既存の教材についてディスカッションをしたり、自分たちで実際に教材を作成したりしながら授業を進めていく。

事前事後学習：授業後、教材（もしくは指導案）作成の課題を課す。

フィードバックの方法：提出された課題は評価・コメントを書き込み返却する。また、授業内でも口頭で解説をする。期末試験については、採点后評価を知らせる。

### 授業計画

- 第1回 文法の指導法
- 第2回 話す技能の指導法（初級学習者のための教室活動）
- 第3回 話す技能の指導法（中・上級学習者のための教室活動）
- 第4回 話す技能の指導法（評価）
- 第5回 発音の指導法
- 第6回 聞く技能の指導法（初級）
- 第7回 聞く技能の指導法（中・上級）
- 第8回 読む技能の指導法（初級）
- 第9回 読む技能の指導法（中・上級）
- 第10回 書く技能の指導法（初級）
- 第11回 書く技能の指導法（中・上級）
- 第12回 漢字の指導法
- 第13回 語彙の指導法
- 第14回 文化の指導法
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法

授業への参加状況 20%、課題 40%、期末試験 40%、で評価する。

（出欠に関しては次の項目参照）

### 履修にあたっての注意

- ・「日本語教授法Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
- ・開始5分～20分の間は遅刻。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。遅刻・欠席には厳しく対処します。
- ・欠席は3.5回まで。4回欠席した場合には再試験対象者となります。5回を超えて欠席した場合には自動的に放棄となります。
- ・常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：配布プリントを使用

参考書：授業内で紹介する

N0121

## 日本語教育概論Ⅰ

担当教員：副田 恵理子

2単位 前期

### 授業のねらい

日本語教育に関わる問題を取り上げ、グループで情報収集・意見交換を繰り返しながら、その解決策を導き出していく。この過程を通して言語教育に関わる理論・考え方を知り、それをどのように教育実践に結びつけ活用していけばいいのかを学ぶ。内容は「日本語教育の現状」「子供の第二言語習得」「効果的な外国語学習法」という3つのテーマを取り上げる。

### 到達目標

1. 日本語教育・言語習得に関する理論や考え方を知る。
2. その知識を教育実践の場や自らの言語教育で生かす力を身につける。

### 授業方法

授業方法：問題解決型の授業を行います。第1回・第6回・第11回の授業で課題を提示します。その課題についてグループで情報を収集し、その情報をもとに議論をくり返して答え（結論）を導き出してもらいます。さらに、その答え（結論）を発表し聴衆との意見交換を行ってください。そして、最終的にたどり着いた答え（結論）をレポートにまとめてもらいます。

事前事後学習：この授業では3つの発表と3つのレポートを課すため、授業時間外にもグループで集まり情報収集・議論・発表準備を進めることが求められます。また、発表後は各自レポートを作成する必要があります。

フィードバックの方法：発表・レポート共に評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。

### 授業計画

- 第1回 課題解決型授業とは？発表1（日本語教育の現状）のための情報収集
- 第2回 発表1の準備
- 第3回 発表1：欧米圏で日本語教師になるには？
- 第4回 発表1：アジアで日本語教師になるには？
- 第5回 発表1：日本で日本語教師になるには？
- 第6回 発表2（子供の第二言語習得）のための情報収集
- 第7回 発表2の準備
- 第8回 発表2：子供の方が言語習得が得意？
- 第9回 発表2：子供をバイリンガルに育てるには？
- 第10回 発表2：外国人児童への日本語教育
- 第11回 発表3（効果的な外国語学習法）のための情報収集
- 第12回 発表3の準備
- 第13回 発表3：効果的な単語記憶法とは？
- 第14回 発表3：効果的な外国語学習法とは？
- 第15回 発表3：効果的な外国語学習環境とは？

### 成績評価の方法

到達目標1を測定するコメントシート10%、到達目標1・2を測定するための発表30%（10%×3回）、レポート60%（20%×3回）、により評価する。

### 履修にあたっての注意

皆さんの自主的な活動をもとに進んでいく授業のため、自分の発表以外の時にも問題意識を持って意見を述べるなど積極的な参加を求めます。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

教科書：配布プリントを使用



**授業のねらい**

「日本語教育概論Ⅰ」と同様日本語教育に関わる問題を取り上げ、グループで情報収集・意見交換を繰り返しながら、その解決策を導き出していく。この過程を通して言語教育に関わる理論・考え方を知り、それをどのように教育実践に結びつけ生かしていけばいいのかを学ぶ。この授業では「様々な外国語教授法」「教師の学習者への対応」「指導内容」という3つのテーマを取り上げる。

**到達目標**

1. 日本語教育・言語習得に関する理論や考え方を知る。
2. その知識を教育実践の場や自らの言語教育で生かす力を身につける。

**授業方法**

授業方法：問題解決型の授業を行います。第1回・第6回・第11回の授業で課題を提示します。その課題についてグループで情報を収集し、その情報をもとに議論をくり返して答え(結論)を導き出してもらいます。さらに、その答え(結論)を発表し聴衆との意見交換を行ってください。そして、最終的にたどり着いた答え(結論)をレポートにまとめてもらいます。

事前事後学習：この授業では3つの発表と3つのレポートを課するため、授業時間外にもグループで集まり情報収集・議論・発表準備を進めることが求められます。また、発表後は各自レポートを作成する必要があります。

フィードバックの方法：発表・レポート共に評価・コメントを記載したフィードバックシートを返却します。

**授業計画**

- 第1回 様々な外国語教授法(1)－文法翻訳法からコミュニケーションタイプ・アプローチまで－
- 第2回 様々な外国語教授法(2)－認知学習論に基盤をおく様々な教授法－
- 第3回 発表1 (様々な外国語教授法) の情報収集・準備
- 第4回 発表1：様々な外国語教授法を授業でどのように活かせばいいのか？(1)
- 第5回 発表1：様々な外国語教授法を授業でどのように活かせばいいのか？(2)
- 第6回 発表2 (教師の学習者への対応) のための情報収集
- 第7回 発表2の準備
- 第8回 発表2：教師はどのように話せばいいのか？
- 第9回 発表2：クラス内のレベル差のある学習者にどのように対応すればいいのか？
- 第10回 発表2：学習者の誤りに教師はどのように対応すればいいのか？
- 第11回 発表3 (指導内容) のための情報収集
- 第12回 発表3の準備
- 第13回 発表3：コミュニケーション能力を身につけたい学習者に何を指導すればいいのか？
- 第14回 発表3：日本語に加え日本文化について学びたい学習者に何を指導すればいいのか？
- 第15回 発表3：日本語能力試験(JLPT)対策を希望する学習者に何を指導すればいいのか？

**成績評価の方法**

到達目標1を測定するコメントシート10%、到達目標1・2を測定するための発表30%(10%×3回)、レポート60%(20%×3回)、により評価する。

**履修にあたっての注意**

「日本語教育概論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。皆さんの自主的な活動をもとに進んでいく授業のため、自分の発表以外の時にも問題意識を持って意見を述べるなど積極的な参加を求めます。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：配布プリントを使用

N0151

## 日本語教授法Ⅲ

担当教員：平塚 真理

2 単位 後期

### 授業のねらい

この授業では、これまでに学んできた日本語教育の基礎知識をもとに国内で日本語授業の実習を行い、日本語を教えるための実践的な力を養う。

### 到達目標

- ・割り当てられた学習項目の効果的な指導法を考え、学習者の日本語力に応じた直接法の授業を組み立てることができる。
- ・留学生を学習者とした実習において、作成した教案を実践し完結した授業を行うことができる。
- ・実習授業を客観的に振り返り、教案・授業を改善することができる。

### 授業方法

- ・各学生が実習授業の教壇に立つ。
- ・実習の準備段階では、授業前半は講義形式で行い、後半は各班で教案等を作成・検討する作業を行う。  
毎回、教案作成のための課題を課し、翌週の提出を求める。  
提出された教案に対するフィードバックを授業時間内に行う。
- ・実習後、実習授業を振り返り、まとめを発表する。

### 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス  
実習までの流れと実習授業の概要を把握する。
- 第2回 担当項目の分担  
既習語彙・既習文型を把握する。  
担当課の内容を分析し、指導項目を理解する。  
学習目標を設定する。
- 第3回 教案作成(1)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(応用練習を中心に)
- 第4回 教案作成(2)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(文型練習を中心に)
- 第5回 教案作成(3)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(文法説明を中心に)
- 第6回 教案作成(4)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(導入を中心に)
- 第7回 教案作成(5)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。(全体の修正)
- 第8回 教材・教具作成(1)
- 第9回 教材・教具作成(2)
- 第10回 実習授業リハーサル(1)
- 第11回 実習授業リハーサル(2)
- 第12回 実習授業本番(1)  
留学生を学習者として迎え、全ての履修者が実習授業を行う。
- 第13回 実習授業本番(2)  
留学生を学習者として迎え、全ての履修者が実習授業を行う。
- 第14回 実習授業の振り返り(1)
- 第15回 実習授業の振り返り(2)
- 第16回 実習のまとめを全体で発表

### 成績評価の方法

教案 50% (教案内容だけでなく、授業内の活動や、班での教案

作成過程への参加状況を含む)

実習本番 30%

実習後レポート・発表 20%

(3分の1を超えて欠席した場合、自動的に放棄となる)

### 履修にあたっての注意

- ・「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を受講済みであること、もしくは同時履修していること。
  - ・実習では、実際に皆さんが「教師」として教壇に立ちます。そのため、皆さんの学生となる日本語学習者、及び受け入れ日本語教育機関に対して責任を負うものであることを十分に理解して受講してください。
  - ・実習準備はグループでの作業が中心となります。負担が偏ることのないよう、よくコミュニケーションを取り、協力して作業してください。班での準備活動に参加しない履修者、準備不足の履修者は、実習が許可されないことがあります。
  - ・教案はワードで作成しメール添付で提出です。履修前にパソコンのメール環境を整えておいてください。
- 以上をよく理解した上で、積極的かつ自発的に取り組んでください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

実習授業では「みんなの日本語 初級1本冊」(スリーエーネットワーク)のいずれかの課を扱う。

授業時に必ず本冊を持参すること。

**N0171****日本語文法 a**

担当教員：副田 恵理子

2 単位 前期

**授業のねらい**

この授業ではいわゆる学校文法とは異なる、日本語を教える上で必要とされる日本語文法の基礎知識を学ぶ。特に、初級学習者を指導する際に最も重要となる項目「品詞」「活用」「格助詞」について学習する。

**到達目標**

1. 普段無意識に使っている日本語のルールを意識化し、体系的に捉えられるようになる。
2. 文法規則をただ覚えるのではなく、様々な例文・内省をもとに自らルールを導き出す力を身につける。

**授業方法**

授業方法：毎回複数の課題に取り組んでもらい、その解説を中心に授業を進めていきます。授業の最後には学習内容が定着しているかどうか確認するためのタスクシートを行います。また、前半・後半に各1回ずつ復習を兼ねて、学習した文法項目の指導方法をグループで考え、模擬授業をしてもらいます。

事前事後学習：授業後、各自学習内容を復習し定着を図ってください。

フィードバックの方法：毎週行うタスクシートは次週コメントを書き込み返却します。また授業内でも口頭で解説します。期末試験は採点後答案を返却します。

**授業計画**

- 第1回 日本語を客観的に見る
- 第2回 日本語教育と文法
- 第3回 品詞1 (名詞・動詞・イ形容詞)
- 第4回 品詞2 (イ形容詞・ナ形容詞・名詞)
- 第5回 品詞3 (連体詞・接続詞・副詞)
- 第6回 活用1 (活用の種類)
- 第7回 活用2 (活用形)
- 第8回 活用3 (テ形・タ形)
- 第9回 教え方を考えてみよう1：品詞・活用
- 第10回 格助詞1 (格助詞とは)
- 第11回 格助詞2 (場所に付く助詞・人に付く助詞)
- 第12回 格助詞3 (その他の助詞)
- 第13回 「は」と「が」
- 第14回 教え方を考えてみよう2：助詞
- 第15回 指示語・まとめ

**成績評価の方法**

到達目標1・2を測定する授業への参加状況15%、タスクシート15%、期末試験70%、により評価する。  
(3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。)

**履修にあたっての注意**

常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：配布プリントを使用

**参考書**

野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版、1991、ISBN：978-4-87424-053-3)

**N0181****日本語文法 b**

担当教員：副田 恵理子

2 単位 後期

**授業のねらい**

この授業では日本語の文末に着目して、述語に現れる様々な表現形式について学ぶ。具体的には「ヴォイス」「テンス」「アスペクト」「モダリティ」等の文法カテゴリーについて学習する。

**到達目標**

文末表現の構造、似通った文末表現の違いを明確に理解することで、日本語学習者の日本語が不自然な場合に適切に修正し、わかりやすく説明できるようになる。

**授業方法**

授業方法：毎回複数の課題に取り組んでもらい、その解説を中心に授業を進めていきます。授業の最後には学習内容が定着しているかどうか確認するためのタスクシートを行います。また、前半・後半に各1回ずつ復習を兼ねて、学習した文法項目の指導方法をグループで考え、模擬授業をしてもらいます

事前事後学習：授業後、各自学習内容を復習し定着を図ってください。

フィードバックの方法：毎週行うタスクシートは次週コメントを書き込み返却します。また授業内でも口頭で解説します。期末試験は採点後答案を返却します。

**授業計画**

- 第1回 日本語の述部の構造を知る
- 第2回 ヴォイス1 (直接受身と間接受身)
- 第3回 ヴォイス2 (受身文の動作主の助詞)
- 第4回 ヴォイス3 (使役)
- 第5回 ヴォイス4 (自・他動詞)
- 第6回 授受表現
- 第7回 教え方を考えてみよう1：ヴォイス
- 第8回 テンス1 (主文のテンス)
- 第9回 テンス2 (従属節のテンス)
- 第10回 アスペクト
- 第11回 モダリティ1 (推量・説明)
- 第12回 モダリティ2 (当為・禁止・許可・その他)
- 第13回 教え方を考えてみよう2：テンス・アスペクト・モダリティ
- 第14回 連体修飾節
- 第15回 まとめ

**成績評価の方法**

授業への参加状況15%、タスクシート15%、期末試験70%、により評価する。  
(3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。)

**履修にあたっての注意**

「日本語文法 a」を履修済みであることが望ましい。  
常に問題意識を持って意見を述べ合うなど、授業への積極的な参加を求めます。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：配布プリントを使用

**参考書**

野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版、1991、ISBN：978-4-87424-053-3)

**N0191****日本語学概論 a**

担当教員：鄭 惠先

2 単位 前期

**授業のねらい**

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、属性とバリエーションの関係を中心に、これまで行われてきた関連研究を取りあげ、その方法と結論について議論する。

**到達目標**

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、一人一人の言語生活に注目して言語と属性の関連性を深く理解することができる。

**授業方法**

毎回、教員による講義内容にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

**授業計画**

- 第1回 社会言語学とは(1)
- 第2回 社会言語学とは(2)
- 第3回 言語のバリエーション(1)
- 第4回 言語のバリエーション(2)
- 第5回 階層と言語(1)
- 第6回 階層と言語(2)
- 第7回 地域と言語(1)
- 第8回 地域と言語(2)
- 第9回 ジェンダーと言語(1)
- 第10回 ジェンダーと言語(2)
- 第11回 年齢と言語(1)
- 第12回 年齢と言語(2)
- 第13回 ヴァーチャル日本語：役割語(1)
- 第14回 ヴァーチャル日本語：役割語(2)
- 第15回 全体の振り返り

**成績評価の方法**

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

**教科書**

なし

**参考書**

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 金水敏『役割語の地平』（くろしお出版、2007、ISBN：9784874243961）

**N0201****日本語学概論 b**

担当教員：鄭 惠先

2 単位 後期

**授業のねらい**

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、言語の選択の問題、言語とコンテクストの関係を中心に、世界の諸事情を観察するとともに、関連するコミュニケーション理論を概説する。

**到達目標**

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、日本のみならず世界の各社会が直面する言語的な状況に注目して現状を理解することができる。

**授業方法**

毎回、教員による講義にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

**授業計画**

- 第1回 多言語社会(1)
- 第2回 多言語社会(1)
- 第3回 言語の選択(1)
- 第4回 言語の選択(2)
- 第5回 コードスイッチング(1)
- 第6回 コードスイッチング(2)
- 第7回 バイリンガリズム(1)
- 第8回 バイリンガリズム(2)
- 第9回 言語の誕生と死(1)
- 第10回 言語の誕生と死(1)
- 第11回 言語とコンテクスト(1)
- 第12回 言語とコンテクスト(2)
- 第13回 ポライトネス・ストラテジー(1)
- 第14回 ポライトネス・ストラテジー(2)
- 第15回 全体の振り返り

**成績評価の方法**

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

**教科書**

なし

**参考書**

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 真田信治・庄司博史『事典日本の多言語社会』（岩波書店、2005、ISBN：9784000803052）
- 河原俊昭『世界の言語政策－多言語社会と日本』（くろしお出版、2002、ISBN：9784874242582）
- 河原俊昭・山本忠行『多文化社会がやってきた－世界の言語政策Q & A－』（くろしお出版、2004、ISBN：9784874243077）
- 多文化共生キーワード事典編集委員会『多文化共生キーワード事典【改訂版】』（明石書店、2010、ISBN：9784750331966）



**N0211****日本語学 a**

担当教員：鄭 恵先

2 単位 前期

**授業のねらい**

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、属性とバリエーションの関係を中心に、これまで行われてきた関連研究を取りあげ、その方法と結論について議論する。

**到達目標**

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、一人一人の言語生活に注目して言語と属性の関連性を深く理解することができる。

**授業方法**

毎回、教員による講義内容にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

**授業計画**

- 第1回 社会言語学とは(1)
- 第2回 社会言語学とは(2)
- 第3回 言語のバリエーション(1)
- 第4回 言語のバリエーション(2)
- 第5回 階層と言語(1)
- 第6回 階層と言語(2)
- 第7回 地域と言語(1)
- 第8回 地域と言語(2)
- 第9回 ジェンダーと言語(1)
- 第10回 ジェンダーと言語(2)
- 第11回 年齢と言語(1)
- 第12回 年齢と言語(2)
- 第13回 ヴァーチャル日本語：役割語(1)
- 第14回 ヴァーチャル日本語：役割語(2)
- 第15回 全体の振り返り

**成績評価の方法**

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

**教科書**

なし

**参考書**

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 金水敏『役割語の地平』（くろしお出版、2007、ISBN：9784874243961）

**N0221****日本語学 b**

担当教員：鄭 恵先

2 単位 後期

**授業のねらい**

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、言語の選択の問題、言語とコンテクストの関係を中心に、世界の諸事情を観察するとともに、関連するコミュニケーション理論を概説する。

**到達目標**

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、日本のみならず世界の各社会が直面する言語的な状況に注目して現状を理解することができる。

**授業方法**

毎回、教員による講義にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

**授業計画**

- 第1回 多言語社会(1)
- 第2回 多言語社会(1)
- 第3回 言語の選択(1)
- 第4回 言語の選択(2)
- 第5回 コードスイッチング(1)
- 第6回 コードスイッチング(2)
- 第7回 バイリンガリズム(1)
- 第8回 バイリンガリズム(2)
- 第9回 言語の誕生と死(1)
- 第10回 言語の誕生と死(1)
- 第11回 言語とコンテクスト(1)
- 第12回 言語とコンテクスト(2)
- 第13回 ポライトネス・ストラテジー(1)
- 第14回 ポライトネス・ストラテジー(2)
- 第15回 全体の振り返り

**成績評価の方法**

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

**教科書**

なし

**参考書**

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 真田信治・庄司博史『事典日本の多言語社会』（岩波書店、2005、ISBN：9784000803052）
- 河原俊昭『世界の言語政策－多言語社会と日本』（くろしお出版、2002、ISBN：9784874242582）
- 河原俊昭・山本忠行『多文化社会がやってきた－世界の言語政策Q & A－』（くろしお出版、2004、ISBN：9784874243077）
- 多文化共生キーワード事典編集委員会『多文化共生キーワード事典【改訂版】』（明石書店、2010、ISBN：9784750331966）



N0231

## 日本語教育実習 I

担当教員：平塚 真理

2 単位 後期

### 授業のねらい

この授業では、これまでに学んできた日本語教育の基礎知識をもとに国内で日本語授業の実習を行い、日本語を教えるための実践的な力を養う。

### 到達目標

- ・割り当てられた学習項目の効果的な指導法を考え、学習者の日本語力に応じた直接法の授業を組み立てることができる。
- ・留学生を学習者とした実習において、作成した教案を実践し完結した授業を行うことができる。
- ・実習授業を客観的に振り返り、教案・授業を改善することができる。

### 授業方法

- ・各学生が実習授業の教壇に立つ。
- ・実習の準備段階では、授業前半は講義形式で行い、後半は各班で教案等を作成・検討する作業を行う。  
毎回、教案作成のための課題を課し、翌週の提出を求める。  
提出された教案に対するフィードバックを授業時間内に行う。
- ・実習後、実習授業を振り返り、まとめを発表する。

### 授業計画

- 第1回 授業ガイダンス  
実習までの流れと実習授業の概要を把握する。
- 第2回 担当項目の分担  
既習語彙・既習文型を把握する。  
担当課の内容を分析し、指導項目を理解する。学習目標を設定する。
- 第3回 教案作成(1)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(応用練習を中心に)
- 第4回 教案作成(2)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(文型練習を中心に)
- 第5回 教案作成(3)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(文法説明を中心に)
- 第6回 教案作成(4)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(導入を中心に)
- 第7回 教案作成(5)  
担当項目の効果的な導入方法・練習方法を考え作成する。  
(全体の修正)  
教材・教具作成(1)
- 第8回 教材・教具作成(2)
- 第9回 実習授業リハーサル(1) (※1+2コマ)
- 第10回 実習授業リハーサル(2) (※1+2コマ)
- 第11回 実習授業本番(1) (※1+2コマ)  
留学生を学習者として迎え、全ての履修者が実習授業を行う。
- 第12回 実習授業本番(2) (※1+2コマ)  
留学生を学習者として迎え、全ての履修者が実習授業を行う。
- 第13回 実習授業の振り返り(1)
- 第14回 実習授業の振り返り(2)
- 第15回 実習のまとめを全体で発表

### 成績評価の方法

教案 50% (教案内容だけでなく、授業内の活動や、班での教案作成過程への参加状況を含む)

実習本番 30%

実習後レポート・発表 20%

(3分の1を超えて欠席した場合、自動的に放棄となる)

### 履修にあたっての注意

- ・「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を受講済みであること、もしくは同時履修していること。
- ・9回目から12回目は、授業時間が3コマになるので注意すること。(上記、授業計画を参照)
- ・実習では、実際に皆さんが「教師」として教壇に立ちます。そのため、皆さんの学生となる日本語学習者、及び受け入れ日本語教育機関に対して責任を負うものであることを十分に理解して受講してください。
- ・実習準備はグループでの作業が中心となります。負担が偏ることのないよう、よくコミュニケーションを取り、協力して作業してください。

班での準備活動に参加しない履修者、準備不足の履修者は、実習が許可されないことがあります。

- ・教案はワードで作成しメール添付で提出です。履修前にパソコンのメール環境を整えておいてください。

以上をよく理解した上で、積極的かつ自発的に取り組んでください。

### 教科書

なし

### 教科書・参考書に関する備考

実習授業では「みんなの日本語 初級1本冊」(スリーエーネットワーク)のいずれかの課を扱う。  
授業時に必ず本冊を持参すること。

N0251

## 社会言語学 a

担当教員：鄭 恵先

2 単位 前期

### 授業のねらい

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、属性とバリエーションの関係を中心に、これまで行われてきた関連研究を取りあげ、その方法と結論について議論する。

### 到達目標

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、一人一人の言語生活に注目して言語と属性の関連性を深く理解することができる。

### 授業方法

毎回、教員による講義内容にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

### 授業計画

- 第1回 社会言語学とは(1)
- 第2回 社会言語学とは(2)
- 第3回 言語のバリエーション(1)
- 第4回 言語のバリエーション(2)
- 第5回 階層と言語(1)
- 第6回 階層と言語(2)
- 第7回 地域と言語(1)
- 第8回 地域と言語(2)
- 第9回 ジェンダーと言語(1)
- 第10回 ジェンダーと言語(2)
- 第11回 年齢と言語(1)
- 第12回 年齢と言語(2)
- 第13回 ヴァーチャル日本語：役割語(1)
- 第14回 ヴァーチャル日本語：役割語(2)
- 第15回 全体の振り返り

### 成績評価の方法

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

### 教科書

なし

### 参考書

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 金水敏『役割語の地平』（くろしお出版、2007、ISBN：9784874243961）

N0261

## 社会言語学 b

担当教員：鄭 恵先

2 単位 後期

### 授業のねらい

社会言語学の観点から、言語のバリエーションを考察する。とりわけ、言語の選択の問題、言語とコンテクストの関係を中心に、世界の諸事情を観察するとともに、関連するコミュニケーション理論を概説する。

### 到達目標

ことばへの社会言語学的な観察を通して、われわれが普段無意識に使用している言語が、われわれの社会とどのように繋がっていて、どう影響し合っているかを、より意識的に、そして有機的に捉えることができる。

とりわけ、日本のみならず世界の各社会が直面する言語的な状況に注目して現状を理解することができる。

### 授業方法

毎回、教員による講義にもとづき、教員と学生、学生同士での話し合いを中心とした演習形式で授業を行う。

さらに、トピックごとに、講義の理解度を確認するためのクイズとふり返りレポートの提出を行う。

### 授業計画

- 第1回 多言語社会(1)
- 第2回 多言語社会(1)
- 第3回 言語の選択(1)
- 第4回 言語の選択(2)
- 第5回 コードスイッチング(1)
- 第6回 コードスイッチング(2)
- 第7回 バイリンガリズム(1)
- 第8回 バイリンガリズム(2)
- 第9回 言語の誕生と死(1)
- 第10回 言語の誕生と死(1)
- 第11回 言語とコンテクスト(1)
- 第12回 言語とコンテクスト(2)
- 第13回 ポライトネス・ストラテジー(1)
- 第14回 ポライトネス・ストラテジー(2)
- 第15回 全体の振り返り

### 成績評価の方法

平常点（議論への参加度＋出欠状況）30%、クイズ3～4回35%、ふり返りレポート3～4回35%

### 教科書

なし

### 参考書

- 田中春美・田中幸子『よくわかる社会言語学』（ミネルヴァ書房、2015、ISBN：9784623072699）
- 日比谷潤子『はじめて学ぶ社会言語学－ことばのバリエーションを考える14章－』（ミネルヴァ書房、2012、ISBN：9784623061402）
- 東照二『社会言語学入門（改訂版）－生きた言葉のおもしろさに迫る－』（研究社、2009、ISBN：9784327401573）
- 飯野公一・恩村由香子・杉田洋・森吉直子『新世代の言語学－社会・文化・人をつなぐもの－』（くろしお出版、2003、ISBN：9784874242742）
- 真田信治・庄司博史『事典日本の多言語社会』（岩波書店、2005、ISBN：9784000803052）
- 河原俊昭『世界の言語政策－多言語社会と日本』（くろしお出版、2002、ISBN：9784874242582）
- 河原俊昭・山本忠行『多文化社会がやってきた－世界の言語政策Q & A－』（くろしお出版、2004、ISBN：9784874243077）
- 多文化共生キーワード事典編集委員会『多文化共生キーワード事典【改訂版】』（明石書店、2010、ISBN：9784750331966）

**N0161****日本語教授法Ⅳ**

担当教員：副田 恵理子

2単位 集中

**授業のねらい**

この授業では、これまで学んできた日本語教育の基礎知識をもとに海外の日本語教育機関で実習を行うことで、日本語を教えるための実践的な技能の習得を目指す。

実習は3月に本学の協定校である台湾輔仁大学に一週間滞在して行う。現地では、実習に加えて、日本語の授業見学や日本語学習者との交流を通して海外で行われている日本語教育の現状を知るとともに、そのニーズに答えられる授業を実践する力を身につける。

**到達目標**

海外で日本語を学ぶ学習者のニーズを知り、海外で日本語教育に携わる際に適切な指導・サポートができるようになる。

**授業方法**

まず2月の指定した日時に大学内で実習の事前準備を行います。担当授業の教案・教材作成や実習のリハーサルを行います。また、実習先である台湾についての講義を受け、歴史・文化について学びます。

実習は3月初めに台北に一週間滞在して行います。現地では、実習に加え、実習授業の反省会（検討会）や日本語授業の見学を行います。

2月の事前準備活動では毎回教案・教材の提出を課します。提出された教案・教材はコメントを入れて返却します。

実習に対しては口頭とコメントシートを用いてフィードバックを行います。

**授業計画**

## ●事前準備活動（国内）

## (1)教案・教材作成

- ・指導内容を考え、目標を設定する。
- ・指導項目の効果的な導入方法・練習方法を考え、教案・教材を作成する。
- ・教案をもとに実習のリハーサルを行う。

## (2)台湾についての講義

- ・実習先である台湾の歴史・文化について学ぶ。

## ●実習（台湾輔仁大学）

## (3)実習

- ・輔仁大学日本語学科3年生の「会話クラス」、もしくは「ジャパニーズコーナー（文化的な内容を扱った日本語の授業）」で実習を行う。一コマ50分の授業を2人で担当。
- ・担当者以外の学生も必ず見学に入り、実習内容についてコメントする。
- ・輔仁大学日本語学科の先生、他の実習生からももらったコメントをもとに次の授業の教案を再検討する。

## (4)検討会

- ・実習授業を見てくださった輔仁大学日本語学科の先生方からコメントをもらう。
- ・各自実習を振り返り、良かった点・反省点などをまとめて発表。

**成績評価の方法**

教案・教材 40%、実習 50%、検討会での発表 10%  
（3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。）

**履修にあたっての注意**

- ・「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を受講済みであること。
- ・この授業では、皆さんが実際に「教師」として、大学で行われている正規の日本語授業の教壇に立ちます。そのため、学生である日本語学習者および受け入れ日本語教育機関に対して責任を負うものであることを十分に理解して受講してください。その上で、積極的かつ自発的に取り組むこと。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：授業内で指定

**N0241****日本語教育実習Ⅱ**

担当教員：副田 恵理子

2単位 集中

**授業のねらい**

この授業では、これまで学んできた日本語教育の基礎知識をもとに海外の日本語教育機関で実習を行うことで、日本語を教えるための実践的な技能の習得を目指す。

実習は3月に本学の協定校である台湾輔仁大学に一週間滞在して行う。現地では、実習に加えて、日本語の授業見学や日本語学習者との交流を通して海外で行われている日本語教育の現状を知るとともに、そのニーズに答えられる授業を実践する力を身につける。

**到達目標**

海外で日本語を学ぶ学習者のニーズを知り、海外で日本語教育に携わる際に適切な指導・サポートができるようになる。

**授業方法**

まず2月の指定した日時に大学内で実習の事前準備を行います。担当授業の教案・教材作成や実習のリハーサルを行います。また、実習先である台湾についての講義を受け、歴史・文化について学びます。

実習は3月初めに台北に一週間滞在して行います。現地では、実習に加え、実習授業の反省会（検討会）や日本語授業の見学を行います。

2月の事前準備活動では毎回教案・教材の提出を課します。提出された教案・教材はコメントを入れて返却します。

実習に対しては口頭とコメントシートを用いてフィードバックを行います。

**授業計画**

## ●事前準備活動（国内）

## (1)教案・教材作成

- ・指導内容を考え、目標を設定する。
- ・指導項目の効果的な導入方法・練習方法を考え、教案・教材を作成する。
- ・教案をもとに実習のリハーサルを行う。

## (2)台湾についての講義

- ・実習先である台湾の歴史・文化について学ぶ。

## ●実習（台湾輔仁大学）

## (3)実習

- ・輔仁大学日本語学科3年生の「会話クラス」、もしくは「ジャパニーズコーナー（文化的な内容を扱った日本語の授業）」で実習を行う。一コマ50分の授業を2人で担当。
- ・担当者以外の学生も必ず見学に入り、実習内容についてコメントする。
- ・輔仁大学日本語学科の先生、他の実習生からももらったコメントをもとに次の授業の教案を再検討する。

## (4)検討会

- ・実習授業を見てくださった輔仁大学日本語学科の先生方からコメントをもらう。
- ・各自実習を振り返り、良かった点・反省点などをまとめて発表。

**成績評価の方法**

教案・教材 40%、実習 50%、検討会での発表 10%  
（3分の1を超えて欠席した場合には、自動的に放棄となる。）

**履修にあたっての注意**

- ・「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を受講済みであること。
- ・この授業では、皆さんが実際に「教師」として、大学で行われている正規の日本語授業の教壇に立ちます。そのため、学生である日本語学習者および受け入れ日本語教育機関に対して責任を負うものであることを十分に理解して受講してください。その上で、積極的かつ自発的に取り組むこと。

**教科書**

なし

**教科書・参考書に関する備考**

教科書：授業内で指定

<https://portal.fujijoshi.ac.jp/campusweb/top.do>